

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (J) (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童学科			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として要約を課すので計画立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 William A. O'Donnell・芝垣哲夫著『Life across the Waves 楽しいアメリカ生活』成美堂、2016。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末考査(試験またはレポート)	30%		
	小テスト・課題など	40%		
	授業中の態度	30%		
12. 受講生へのメッセージ	言うまでもなく語学は継続が重要である。英語の知識を得ること、そして実際にその知識を活用することは様々な形で表現できる。特に今は IT 技術の普及により英語関連の情報は簡単に入手できるようになった。是非苦手な人でも壁を作らずに英語に触れる機会を作ってほしい。自分に合ったやり方で英語を学習できるようになると英語の力が飛躍的に向上するだろう。「継続は力なり」で頑張ってもらいたい。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	自分の英語学習について振り返りをして授業に臨むこと。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第2回	Chapter 1 Making Friends	事前学習	テキスト Chapter 1 (p.1) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第3回	Chapter 2 Renting an Apartment	事前学習	Chapter 2 (p.6) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第4回	Chapter 3 Setting up a Bank Account	事前学習	Chapter 3 (p.11) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第5回	Chapter 4 Phone and Internet Services	事前学習	Chapter 4 (p.16) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第6回	Chapter 5 Traveling in the United States	事前学習	Chapter 5 (p.21) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第7回	Chapter 6 Getting a Car	事前学習	Chapter 6 (p.26) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第8回	Chapter 8 Sports in the United States	事前学習	Chapter 8 (p.36) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第9回	Chapter 10 Ordering Pizza	事前学習	Chapter 10 (p.46) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第10回	Chapter 11 Holidays in the United States	事前学習	Chapter 11 (p.51) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第11回	Chapter 15 Volunteering	事前学習	Chapter 15 (p.71) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第12回	Chapter 16 College Towns	事前学習	Chapter 16 (p.76) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第13回	Chapter 17 American History	事前学習	Chapter 17 (p.81) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第14回	Chapter 18 Native Americans	事前学習	Chapter 18 (p.86) 語彙問題に取り組み、Reading のための背景知識を持つ。	
		事後学習	同 Chapter 内の文章を再度読み、定着問題に取り組む。	
第15回	総括	事前学習	既習事項を整理し、疑問点が出てきたら質問する準備をしておく。	
		事後学習	総復習をして、試験に備える。	
		期末試験		

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (P) (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	心理学科			
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言葉の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として要約を課すので計画を立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小林敏彦・Shawn M. Clankie『コンパクト版 アイ・オン・アメリカ 日本人から見たアメリカ人の不思議な行動パターン』三修社、2016。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末考査(試験またはレポート) 30% 小テスト・課題など 40% 授業中の積極的態度・参加 30%			
12. 受講生への メッセージ	言うまでもなく語学は継続が重要である。英語の知識を得ること、そして実際にその知識を活用することは様々な形で実現できる。特に今は IT 技術の普及により英語関連の情報は簡単に入手できるようになった。是非苦手な人でも壁を作らずに英語に触れる機会を作ってほしい。自分に合ったやり方で英語を学習できるようになると英語の力が飛躍的に向上するだろう。「継続は力なり」で頑張ってもらいたい。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	アメリカ文化についてこれまでの自分の経験を振り返る。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第2回	Unit 1 The GPA System: Study Hard or Leave	事前学習	テキスト Unit 1 (p.2) に取り組み、GPA について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第3回	Unit 2 Potluck Party: Bring What You Have	事前学習	Unit 2 (p.7) に取り組み、パーティーについて考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第4回	Unit 4 The Rules of Introductions	事前学習	Unit 4 (p.18) に取り組み、自己紹介について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第5回	Unit 6 Never Letting Anyone Cut in Line	事前学習	Unit 6 (p.28) に取り組み、行列でのマナーについて考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第6回	Review test 1	事前学習	これまでの学習を振り返り、復習テストの準備をする。	
		事後学習	復習テストの中で理解不十分な所を再度学び直す。	
第7回	Unit 7 Attitudes toward Smoking	事前学習	Unit 7 (p.34) に取り組み、喫煙マナーについて考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第8回	Unit 8 Intolerance of Drunks	事前学習	Unit 8 (p.39) に取り組み、飲酒マナーについて考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第9回	Unit 10 Impolite Store Clerks	事前学習	Unit 10 (p.50) に取り組み、接客態度について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第10回	Unit 11 The Troublesome Custom of Tipping	事前学習	Unit 11 (p.55) に取り組み、チップ制について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第11回	Review test 2	事前学習	これまでの学習を振り返り、復習テストの準備をする。	
		事後学習	復習テストの中で理解不十分な所を再度学び直す。	
第12回	Unit 13 Independent-minded Children	事前学習	Unit 13 (p.66) に取り組み、育児について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第13回	Unit 14 Husbands Controlling the Family Budget	事前学習	Unit 14 (p.71) に取り組み、金銭管理について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第14回	Unit 15 Protecting the Family with Guns	事前学習	Unit 15 (p.76) に取り組み、銃所有について考える。	
		事後学習	同 Unit 内の文章を復習し、重要表現を確認する。	
第15回	総括	事前学習	既習事項を整理し、疑問点が出てきたら質問する準備をしておく。	
		事後学習	総復習をして、試験に備える。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 主体的に学習を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として「授業で扱ったレッスンの 練習問題 2. Incomplete Sentences と 3. Composition に解答する」を課すので計画立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ジョージ・トラスコット他著『そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末考査(試験)	30%		
	小テスト	25%		
	課題	15%		
	授業中の態度	30%		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、英語の総合的運用能力の向上を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合にはその理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点 実力診断テスト	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	
		事後学習	実力診断テストで理解の不十分だった点について復習し、知識の定着を図る。	
第2回	Lesson 1 Physical Education Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第3回	Lesson2 Sports Clubs Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第4回	Lesson3 Cultural Differences Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第5回	Lesson4 Haircuts Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第6回	小テスト Lesson5 Music	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。	

	Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 7 回	Lesson6 Money Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 8 回	Lesson7 Safety Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 9 回	Lesson8 Life Expectancy Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 0 回	Lesson9 The Metric System Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 1 回	小テスト Lesson10 Police Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 2 回	Lesson11 Seasons Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 3 回	Lesson12 TV Sports Photograph, 1. Read (A) Match the Words (B) True or False (C) Words and Usage	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 4 回	DVD鑑賞 ディスカッション	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 1 5 回	DVD鑑賞 ディスカッション 総括	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品を参考にアメリカ文化についての理解を深める。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として映画「ローマの休日」を用いたリスニング養成課題を課すので計画立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ジョージ トラスコット 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末考査(試験またはレポート) 30% 小テスト・課題など 40% 授業中の態度・参加状況 30%			
12. 受講生への メッセージ	学生の皆さんがこの授業を通じて、楽しく積極的に学習経験を積むことができるよう願っている。この機会を活用してアメリカの文化についてできるだけたくさん学ぶことができるよう頑張ってもらいたい。それと同時に英語力も向上させていこう。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	Physical education	事前学習	体育の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.8-9)の練習問題を実施する。	
第2回	Sports Clubs	事前学習	スポーツクラブの日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(p.10)の文章を2回リライトする。	
第3回	Cultural Differences	事前学習	異文化についてどのくらい興味があるかについて考える。	
		事後学習	テキスト(p.14)の練習問題を実施する。	
第4回	Continue with the topic on Culture Differences	事前学習	テキスト(p.15)の練習問題を実施する。	
		事後学習	異文化についての意見を短い文章にして表現する。	
第5回	Haircuts	事前学習	ヘアカットの日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.17-18)の練習問題の答をもう一度確認する。	
第6回	Music	事前学習	音楽の日米比較について説明できるようにする。	
		事後学習	テキスト(p.20)の練習問題を実施する。	
第7回	Music	事前学習	好きな音楽について短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(pp.20-21)の練習問題を全て繰り返す。	
第8回	Money	事前学習	お金の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.23-24)の練習問題を確認する。	
第9回	Safety	事前学習	安全を確保できる手段について考える。	
		事後学習	テキスト(p.26)の練習問題を全て繰り返す。	
第10回	Safety	事前学習	安全についての意見を短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(p.27)の練習問題を実施する。	
第11回	Life Expectancy	事前学習	寿命の日米比較について考える。	
		事後学習	テキスト(pp.29-30)の練習問題を実施する。	
第12回	The metric system	事前学習	メートル法について知っていることを整理する。	
		事後学習	テキスト(pp.32-33)を読んで練習問題を実施する。	
第13回	Police	事前学習	警察の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.35-36)の練習問題をもう一度実施する。	
第14回	Seasons	事前学習	季節の日米比較について知っていることを、短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(pp.38-39)の練習問題を実施する。	
第15回	総括(学期中に扱った内容を全て復習する)	事前学習	既習の全ての文章を読んでおく。	
		事後学習	既習の全ての練習問題をもう一度する。	
期末試験(Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (小児保健を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1333 EDHE2317 GELA1312
2. 授業担当教員	栗原 久		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、乳・幼・小児の保育・教育にかかわる専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●小児の発達とリスク因子について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようにする。 2. 乳・幼・小児の健全な発達に寄与する方策が理解できる。 3. 生活習慣病とその予防につき、小児の段階における健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. マスメディア (テレビ、新聞、雑誌等) で頻繁に登場する疾患およびその治療方法の中から興味を持ったものを取り上げ、福祉の立場から関わりについて考察する (レポート)。 2. 様々な健康情報について、その是非・真偽について考察する (口頭発表)。 3. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業開始時に配布)。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 -医学一般』 第 3 版、中央法規出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：命と医学・医療	事前学習	「医学概論」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。
		事後学習	医学・医療の目的をまとめる。
第 2 回	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要、体液・血液、呼吸器系、循環器系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.26-34 を読んで、人体各部位の名称 (体幹・四肢) を覚えておく。
		事後学習	血液、呼吸・循環器系の機能と代表的な疾患をまとめる。
第 3 回	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.34-37 を読んで、消化器・泌尿器系の部位を覚えておく。
		事後学習	消化器・泌尿器系の機能と代表的な疾患をまとめる。
第 4 回	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.46-47 を読んで、運動系 (骨格系・筋系) の構造と機能の概略を覚えておく。
		事後学習	骨格系・筋系の代表的な疾患をまとめる。
第 5 回	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患	事前学習	pp.40-45 を読んで、神経系・内分泌系・生殖器系にかかわる器官を覚える。
		事後学習	身体機能の調節機構、感覚機能と脳機能についてまとめる。
第 6 回	疾病と障害①：生活習慣病 (がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム)	事前学習	pp.54-60 を読んで、生活習慣病の定義を理解しておく。
		事後学習	生活習慣病の原因と予防策をまとめる。
第 7 回	疾病と障害②：先天性疾患、周産期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害	事前学習	pp.110-113 を読んで、遺伝子、染色体と人体の形成・成長について理解しておく。
		事後学習	奇形のリスク因子、奇形防止の可否についてまとめる。
第 8 回	疾病と障害③：感染症	事前学習	pp.101-104 を読んで、過去の感染症蔓延の歴史を調べ

			しておく。
		事後学習	感染症流行の 3 原則と予防策についてまとめる。
第 9 回	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害	事前学習	pp.158-162 を読んで、精神障害、高次脳機能障害の分類について調べておく。
		事後学習	精神障害の原因、精神障害者に対する対応をまとめる。
第 10 回	疾病と障害⑤：知的障害・発達障害	事前学習	pp.142-147 を読んで、脳機能の発達と知能・学習能力について理解しておく。
		事後学習	知能障害・発達障害の原因と対策についてまとめる。
第 11 回	健康の概念とプライマリーヘルスケア	事前学習	pp.196-197 を読んで、健康とはどういうことなのか、把握しておく。
		事後学習	WHO の健康の概念について討論し、まとめる。
第 12 回	ストレス性疾患、免疫異常、難病	事前学習	事前配布の資料を読んで、ストレスとは何なのか把握しておく。
		事後学習	ストレス刺激とストレス性疾患についてまとめる。
第 13 回	日本の人口統計	事前学習	pp.198-204 を読んで、人口静態、人口動態について把握しておく。
		事後学習	出生率、疾病率、死亡率・死亡原因についてまとめ、健康寿命の延長についてまとめる
第 14 回	健康づくり対策	事前学習	pp.205-213 を読んで、健康増進の方策を調べておく。
		事後学習	疾病予防、健康寿命延長に有効な方策をまとめる。
第 15 回	最新の医学情報 まとめ	事前学習	マスメディアで紹介された最新の医学情報を調べる。
		事後学習	医学全般について、福祉と関連づけて総合的にまとめ、レポートにして提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療経営論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2130
2. 授業担当教員	保原 伸弘		
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	医療機関の運営に関する問題について、経営学の観点から学習を進める。医療機関は、その公共性から、利潤を追求することが第一義的な目的ではないため、ややもすると経営状態が悪化することが指摘されている。このため、医療機関の経営について、どのように公共性と利潤追求とのバランスをとりながら行っていくべきかについて学習することが重要である。昨今では、高齢化などから医療・福祉機関が増加していることも考えれば、その重要性は増している。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関の存立を支える立場としての経営学や経済学の重要性を認識する。 2. 現代の医療機関の運営に必要な公共性と利潤追求とのバランス感覚を養う。 3. 一般の企業、公共機関と医療機関の運営の相違点と類似点を把握する。 4. 現在、医療機関を運営を持続的に進めていく上で、問題となる点を認識する。 5. 高齢化などの社会の変化の中で、医療・福祉機関がどのように行われるべきかの考えを持てるようにする 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	15回の講義の中で、数回、医療・福祉機関の経営にかかわる問題に関わるアサインメント (宿題) を課す。また、最終レポートを課す。 レポート課題：現在医療業界で問題となっている事柄の一つあげ、まずその内容と対策を述べなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山内一信・藤田保健衛生大学医療経営情報学科編著『入門医療経営情報学』同友館。 【参考書】 今村知明・康永秀生・井出博生共著『医療経営学 (第2版) - 病院倒産時代を生き抜く知恵と戦略』医学書院。 柳野順三著『ひと目でわかる病院業界一激変時代の医療・病院事情がわかる』。 榊原清則著『経営学入門 上下』日経文庫、日本経済新聞社。		
11. 成績評価の方法	期末試験、レポート、アサインメント (宿題)、日常の授業態度 (質問、議論への参加等) で評価する。 期末試験 50% レポート・アサインメント 30% 日常の授業態度 (質問、議論への参加等) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せずに、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 3. 単に単位を取るための手段としてではなく、将来医療・福祉業務に携わる際に役立つ有効なセンスを磨いてやるという意気込みで講義に臨んでほしい。 		
13. オフィスアワー	別途、通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	日本医療の現状と課題	事前学習	日頃、病院経営で見聞することをまとめる
		事後学習	医療システムが直面する課題を整理する
第 2 回	医療と経営学	事前学習	自分が病院経営にあたった場合何を考えるか、まとめる。
		事後学習	経営学が医療問題の解決にどう役立つか考える。
第 3 回	病院の組織	事前学習	組織論が解く組織形態を整理する。
		事後学習	良質の医療サービスに相応しい組織は何かまとめる。
第 4 回	病院の医事管理	事前学習	医療経営者がすべき業務管理は何か考える。
		事後学習	医事管理の医療サービスへの影響をまとめる。
第 5 回	病院の人的資源管理	事前学習	看護師や勤務医の就業実態を調べる。
		事後学習	病院における良質の人的資源の確保は何か考える。
第 6 回	病院の施設および物品管理	事前学習	病院において管理の対象となる物品は何か考える。
		事後学習	効果的な施設利用や物品管理は何か調べる。
第 7 回	病院の財務・会計 (財務会計) と経営管理	事前学習	財務会計で学ぶ知識をまとめる。
		事後学習	財務会計がいかに病院運営に生かされるかまとめる。
第 8 回	病院の財務・会計 (管理会計) と経営管理	事前学習	管理会計で学ぶ知識をまとめる。
		事後学習	管理会計がいかに病院運営に生かされるかまとめる。
第 9 回	医療安全管理と医療経営	事前学習	医療事故訴訟数の推移を把握する。
		事後学習	効果的な医療安全管理は何か調べる。
第 10 回	医療保険制度と DPC	事前学習	DPC とは何か調べる。
		事後学習	DPC 導入が病院運営に与える影響は何かまとめる。
第 11 回	規制緩和と医療運営	事前学習	混合医療とは何か調べる。
		事後学習	規制緩和のメリットとデメリットを調べる。
第 12 回	医療の評価	事前学習	患者としてどういう病院を選択するか考える。
		事後学習	手術件数と医療成績との関係を把握する。
第 13 回	医師不足と医師のキャリア・パス	事前学習	日本の慣行キャリア・パスを調べる。
		事後学習	医療の供給と需要のミス・マッチを理解する。
第 14 回	医療の情報化と IDT システム	事前学習	IDT システムとは何か調べる。
		事後学習	医療の情報化のメリット・デメリットは何かまとめる。
第 15 回	最後のまとめ	事前学習	ここまで未消化であった事項を整理する。
		事後学習	医療経営に関し自分なりの知見がもてたか振り返る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療ソーシャルワーク実践論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3326 SNMP3326 SCMP3326 SBMP3326
2. 授業担当教員	中里 哲也		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1 ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修していることが望ましい。 2 将来、医療ソーシャルワーカーを目指している学生が望ましい。		
7. 講義概要	保健、医療の分野におけるソーシャルワーカーとして、疾患のある当事者や家族への心理社会的支援を行う過程で必要となる、専門的価値、知識、技術について学ぶことを目的とする。 本講義では、患者及びその家族支援、医療ソーシャルワーク実践の理論と技術を学ぶ。		
8. 学習目標	本科目では、保健医療ソーシャルワークに関する制度、サービスについて学ぶだけでなく、実際の臨床の場面で即戦力となるソーシャルワーカーを養成することを目的としている。 学習目標は以下の3項目とする。 1. 臨床ソーシャルワークを行う上で必要となる対人援助技術全般について学び、基本的技術を習得し応用出来るようになる。 2. 医療現場におけるソーシャルワーク実践に必要な価値、知識、技術を習得し、自分の言葉で人にわかりやすく伝えることができるようになる。 3. 具体的疾患や事例に沿ったソーシャルワーク実践の展開方法について学び、考察することで自らの意見をまとめ、論理的に説明出来るようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 保健医療分野のソーシャルワーカーの役割及び機能について、マイクロ/メゾ/マクロ、それぞれの視点から述べなさい (A4/3 枚) 2 チーム医療におけるソーシャルワーカーの果たすべき役割について述べなさい (A4/2 枚) 3 グループ毎に選別した疾患についてのソーシャルワーク実践をレポートにまとめる。 ※A4 とは1,200字 (30字×40行) /枚とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】【参考書】 授業中に別途通知する。 授業の中で配布プリント在り		
11. 成績評価の方法	授業態度 (授業参加状況も含む) 30% レポート 20% グループプレゼンテーション 30% 期末試験 20%		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、医療ソーシャルワーク実践における、技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。 1 授業中は、高い緊張感と、集中力を保って受講すること。また、積極的に参加することを望む。 2 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3 授業中は欠席、遅刻、早退をしないこと。正当な理由なき遅刻、欠席は認めない。 4 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。指導後も態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること 5 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作はしないこと。 6 予習・復習を行い、授業へ臨むこと。 教員は以下のことを実行する。 1 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って基本的に行う。変更がある場合には別途通知する。 2 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3 本科目ではディスカッションを積極的に導入し、双方向対話型の学習環境を作る。 4 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業中に別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーク実践の適応領域と対象分野	事前学習	医療ソーシャルワーク実践論の学習用ノートを準備する。講義を受けるうえで具体的に何を学びたいか具体的に考えて、意見をまとめてくること
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 3 回 第 4 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅰ 医療ソーシャルワーカーの役割と機能	事前学習	第一回の授業を受けて、保健医療分野において活動しているのか要点をまとめる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 5 回 第 6 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅱ 医療ソーシャルワーク実践に活用される制度の理解	事前学習	ソーシャルワーカーにおける「社会資源」の意味を調べ、学習用ノートにまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 7 回 第 8 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅲ 医療ソーシャルワーク実践における疾病の理解	事前学習	どんな疾病に対してソーシャルワーカーが関わっているか自己学習し、学習用ノートにまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 9 回	医療ソーシャルワーク概論Ⅳ	事前学習	「理論」の定義について自らの言葉で説明出来る様に学

第 10 回	医療ソーシャルワーク実践における主要理論の理解		習用ノートにまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。課題①の作成と提出
第 11 回 第 12 回	医療ソーシャルワーク実践 (面接技術Ⅰ)	事前学習	1 回～10 回までの概論について学習用ノートに要点をまとめてくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 13 回 第 14 回	医療ソーシャルワーク実践 (面接技術Ⅱ)	事前学習	第 11 回・12 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 15 回 第 16 回	医療ソーシャルワーク実践 (グループワーク技術Ⅰ)	事前学習	第 13 回・14 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 17 回 第 18 回	医療ソーシャルワーク実践 (グループワーク技術Ⅱ)	事前学習	第 15 回・16 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 19 回 第 20 回	医療ソーシャルワーク実践 (チーム医療及び組織の理解)	事前学習	第 17 回・18 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 21 回 第 22 回	医療ソーシャルワーク実践 医療ソーシャルワーク実践をソーシャルアクション (マクロ実践) に繋げる	事前学習	第 19 回・20 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。課題②の作成と提出
第 23 回 第 24 回	グループプレゼンテーション準備	事前学習	第 21 回・22 回の講義で学んだ学習要点を学習用ノートに整理してくる。
		事後学習	グループ毎にプレゼンテーションに向け継続的に準備を行う。
第 25 回 第 26 回	グループプレゼンテーション準備	事前学習	グループプレゼンテーションに向け準備を進めてくる。
		事後学習	グループ毎にプレゼンテーションに向け継続的に準備を行う。
第 27 回 第 28 回	グループプレゼンテーション	事前学習	プレゼンテーションが滞りなく実施出来る様準備を行う。
		事後学習	学んだこと、気づきを学習用ノートにまとめる。
第 29 回 第 30 回	振り返り／まとめ	事前学習	第 28 回までに学んだことを学習目標と照らし合わせ学習達成度について整理してくる。
		事後学習	医療ソーシャルワーク実践論での学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅳ、Ⅴに向けた自己課題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療的ケア実践論・演習 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP4171
2. 授業担当教員	山下 喜代美・北村 京子・吉岡 寛子・河内 智子		
4. 授業形態	講義 実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>医療的ケア実施のための基本研修となる科目である。 喀痰吸引と経管栄養についての手技を学び、実技を行う。 実技の回数は 喀痰吸引：口腔 5 回以上、鼻腔 5 回以上 気管カニューレ内部 5 回以上 経管栄養：胃瘻または腸瘻 5 回以上、経鼻経管栄養 5 回以上 また、器具器材の管理や取扱いについても学習し、実施する。 医療的ケアの実施後は、実技試験を実施します。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喀痰吸引を安全に実施できる 2. 経管栄養を安全に実施できる 3. 器具や器材を清潔に取り扱うことができる 4. 喀痰吸引に伴うケアについて説明できる 5. 経管栄養に伴うケアについて説明できる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアの手順と留意点のまとめ <ol style="list-style-type: none"> ① 喀痰吸引 (鼻腔 口腔 気管カニューレ) ② 経管栄養 (経鼻、胃ろう、腸ろう) <p>実技が確実に実施できるまで、繰り返し練習してください</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】武宮敏子監修『医療的ケア』ミネルヴァ書房、2013 年。 【参考書】久良木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』 服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』</p>		
11. 成績評価の方法	<p>技術修得評価 80% 課題 20% 喀痰吸引 (口腔、鼻腔、気管カニューレ内) 経管栄養 (経鼻、胃瘻・腸瘻) のすべての技術修得評価で合格 できなければ、単位を修得することはできません。 技術修得評価の時間内に、医療的ケア 5 項目の修得評価を受けてください。また、評価を受けない学生は、 繰り返し練習をして技術を修得してください。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。 医療的ケアは、生命に関わる技術です。授業には真剣に取り組み、確実に正確な技術を修得してください。 授業への取り組む姿勢によっては、科目の履修、単位の習得を認めないこともあります。</p>		
13. オフィスアワー	時間割確定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業概要の説明 必要物品の取扱いと諸注意	事前学習	喀痰吸引 経管栄養の必要性を復習しておく
		事後学習	呼吸器官 消化器官の構造を復習しておく
第 2 回	喀痰吸引の技術と留意点 (事前の説明と同意 観察 手技の手順 留意点 事後確認 記録 報告)	事前学習	器具の取り扱いを復習しておく
		事後学習	アサイメント 1-①
第 3 回	喀痰吸引の実践 (鼻腔 口腔)	事前学習	喀痰吸引実施時の説明をまとめておく
		事後学習	鼻腔内吸引 口腔内吸引の留意点をまとめておく
第 4 回	喀痰吸引の実践 (鼻腔 口腔)	事前学習	喀痰吸引の手順を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第 5 回	喀痰吸引の実践 (気管カニューレ内)	事前学習	気管カニューレの構造を復習しておく
		事後学習	気管カニューレ内の吸引の留意点をまとめておく
第 6 回	喀痰吸引の実践 (気管カニューレ内)	事前学習	無菌操作法を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第 7 回	喀痰吸引の実践 (鼻腔 口腔 気管カニューレ内)	事前学習	喀痰吸引の技術評価項目を確認しておく
		事後学習	実技を振り返り、自己評価する
第 8 回	喀痰吸引の実践 (鼻腔 口腔 気管カニューレ内) 喀痰吸引に伴うケア	事前学習	清潔区域 汚染区域を復習しておく
		事後学習	喀痰を出しやすくする工夫をまとめておく
第 9 回	経管栄養法の技術と留意点 (事前の説明と同意 観察 手技の手順 留意点 事後確認 記録 報告)	事前学習	経管栄養の必要物品を復習しておく
		事後学習	アサイメント 1-②
第 10 回	経管栄養の実践 (経鼻経管栄養法)	事前学習	経管栄養実施時の説明をまとめておく
		事後学習	経鼻経管栄養法の留意点をまとめる
第 11 回	経管栄養の実践 (経鼻経管栄養法)	事前学習	経鼻経管栄養法の技術評価項目を確認しておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第 12 回	経管栄養の実践 (胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養 (胃瘻・腸瘻) の手順を復習しておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第 13 回	経管栄養の実践 (胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養 (胃瘻・腸瘻) の技術評価項目を確認しておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第 14 回	経管栄養の実践 (経鼻経管栄養法 胃瘻 腸瘻)	事前学習	経管栄養の実施時の配慮をまとめておく
		事後学習	実技を振り返り自己評価する
第 15 回	経管栄養の実践 (経鼻経管栄養法 胃瘻 腸瘻) 経管栄養に伴うケア	事前学習	経管栄養のメリット・デメリットを復習しておく
		事後学習	経管栄養に伴うケアをまとめる
<p>16 回～30 回の授業の中で技術習得評価を実施する。 学生は、喀痰吸引 (口腔、鼻腔、気管カニューレ内) 経管栄養 (経鼻経管栄養法、胃瘻・腸瘻) の 5 行為それぞれの技術習得評価 を受ける。それぞれの行為について、評価項目の中で 1 つでもできないことがあった場合は、再評価を受けることとなる。 技術習得評価を受けていない学生は、技術を確実に修得できるよう繰り返し練習をして技術習得評価に臨むこと。</p>			

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法 I (4 単位)		3. 科目番号	EDEN3341
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。			
7. 講義概要	英語教育の理論と実践の両側面をバランス良く学びながら、中学校及び高等学校の英語の教員免許状の取得を希望する者にとって必要不可欠な基礎知識を身につけることを目標とする。具体的には、世界の言語、言語の習得、代表的な英語教授法、学習指導要領、英語教育に関する基本用語などについて学ぶ。実践的な側面としては、聞く、話す、読む、書くといった 4 技能に焦点を当てた指導技術を学び、より良い授業を展開するために必要な事柄を考察し、学習していく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高等学校における英語教育の指導目標について理解を深めることができる。 2. 代表的な英語教授法の特徴、長所、短所を学習し、英語科教育への適用を考察することができるようになる。 3. 教育現場で活用できるよう、英語の発音・語彙・文法と英語の 4 技能の指導技術の学びを深めることができる。 4. 言語テストと評価に関する理解を深め、学習者のニーズ・英語力・授業の効果を把握し、学習指導に生かす土台を形成することができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。 3. 英語を英語で授業できるようにすることがこれから益々求められるため、そのための英語力向上を目指した課題 (スピーチや音読等) を課す。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡秀夫 (編著) 『グローバル時代の英語教育-新しい英語科教育法』成美堂、2011 年。 【参考書】 各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度 20%、英会話テスト 20%、小試験 30%、最終試験 30%			
12. 受講生へのメッセージ	英語の学習者から指導者へとなるための橋渡しとなる大事な授業なので予習・復習を常にしよう心掛けてもらいたい。英語学習者としての今までの経験を振り返りながら、学習者からと指導者からの双方の視点で捉えられるようになることを期待する。また、積極的に英検や TOEIC の資格試験に挑戦しよう。英語力の向上は英語を教える者として常に意識すべきものである。併せてこれからは中学校でも英語で授業を行うことが求められるため、英語コミュニケーションの練習にも更なる力を入れて欲しい。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	英語教員の資質について自分なりに熟慮して授業に臨むこと。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第 2 回	英語科授業の DVD 視聴	事前学習	模範となる英語科の授業を観察するにあたり、見るべきポイントを設定しておく。	
		事後学習	観察した授業を見て学んだことを自分のことばで文章にしてまとめる。	
第 3 回	第 1 章 世界の中の英語 (1)	事前学習	テキスト第 1 章を読んで、世界的視野で英語を捉えられるようにしておく。	
		事後学習	現代社会における英語の位置付けを鑑みて、どのように教えるべきか自分なりに考えを発展させていく。	
第 4 回	第 1 章 世界の中の英語 (2)	事前学習	英語の捉え方について考えを更に発展させ、不明瞭な所があれば質問をする。	
		事後学習	自分が教員になった場合にどのように英語を教えるべきなのか考えを更に発展させる。	
第 5 回	小学校外国語活動の DVD 視聴	事前学習	小学校外国語活動についての情報を収集して、概要をつかむ。	
		事後学習	観察した授業から学んだことを整理する。	
第 6 回	小学校外国語活動の概要と指導法	事前学習	小学校での教育実習で外国語活動にどのように関わることになるか考える。	
		事後学習	小学校での教育実習の実施に向けて何をすべきか自分で計画立てる。	
第 7 回	第 2 章 第二言語習得 (1)	事前学習	第 2 章を読んで、外国語の習得プロセスについて自分の学習と重ね合わせて考えてみる。	
		事後学習	習得プロセスについて整理していく。	
第 8 回	第 2 章 第二言語習得 (2)	事前学習	テキストに基づきコミュニケーション能力について考えを深める。	
		事後学習	外国語を指導する立場としてどのようなことに気をつけるべきか自分で考えを発展させていく。	
第 9 回	第 3 章 外国語教授法 (1)	事前学習	第 3 章を読んで、主要な外国語教授法について知る。	
		事後学習	各教授法の長所・短所を整理する。	
第 10 回	第 3 章 外国語教授法 (2)	事前学習	各教授法をどのように活用すべきかについて考える。	

		事後学習	教える立場で、教授法の活用案を発展させていく。
第 1 1 回	第 4 章 学習指導要領 (1)	事前学習	第 4 章を読んで、小・中・高の各校種で英語がどのように指導されるべきかについて理解する。
		事後学習	学習指導要領で求められる事項について整理する。
第 1 2 回	第 4 章 学習指導要領 (2)	事前学習	観察した授業内容から学習指導要領がどのように反映されているか考える。
		事後学習	学習指導要領で求められていることを教える際にどのように反映させるか自分なりに考えを発展させる。
第 1 3 回	第 5 章 言語要素の指導 (1)	事前学習	第 5 章 (pp.46-53) を読んで、発音指導について概要を理解する。
		事後学習	母音・子音の発音練習をする。
第 1 4 回	第 5 章 言語要素の指導 (2)	事前学習	単語の発音記号を見て、発音できるように目指す。
		事後学習	単語を正しく発音できるよう練習する。
第 1 5 回	第 5 章 言語要素の指導 (3)	事前学習	単語の発音記号を見て、正しく発音できるよう練習する。
		事後学習	プロソディーについて整理して、発音練習をする。
第 1 6 回	第 5 章 言語要素の指導 (4)	事前学習	音声学の知識を基に、検定教科書の文章を音読できるよう目指す。
		事後学習	検定教科書の文章を正しく音読できるよう練習する。
第 1 7 回	第 5 章 言語要素の指導 (5)	事前学習	第 5 章 (pp.54-67) を読んで、語彙指導と文法指導の概要を理解する。
		事後学習	語彙と文法の指導についての大事な要素整理する。
第 1 8 回	これまでのまとめ (前半)	事前学習	これまでの既習事項を整理し、疑問点があれば質問する。
		事後学習	第 5 章までの既習事項を改めて整理する。
第 1 9 回	第 6 章 4 技能の活動 (1)	事前学習	第 6 章 (pp.68-76) を読んで、リスニングとスピーキングの指導法の概要について理解する。
		事後学習	指導方法とこれまでの自分の学習方法とを比較してみる。
第 2 0 回	第 6 章 4 技能の活動 (2)	事前学習	自分が中・高等学校で学んだ方法と比較してみる。
		事後学習	リスニングとスピーキングの指導法を基に、どのように教えるべきか考えを発展させる。
第 2 1 回	第 6 章 4 技能の活動 (3)	事前学習	第 6 章 (pp.76-84) を読んで、リーディングとライティングの指導法の概要について理解する。
		事後学習	指導方法と自分の学習方法とを比較してみる。
第 2 2 回	第 6 章 4 技能の活動 (4)	事前学習	自分が中・高等学校で学んだ方法と比較してみる。
		事後学習	リーディングとライティングの指導法を基に、どのように教えるべきか考えを発展させる。
第 2 3 回	第 9 章 評価とテスト (1)	事前学習	第 9 章を読んで、評価とテストについての概要を理解する。
		事後学習	自分の受験経験を思い返しなが、評価の考え方をより深く理解する。
第 2 4 回	第 9 章 評価とテスト (2)	事前学習	評価の重要性を改めて認識する。
		事後学習	日本で受験可能な言語テストについての情報を得て見聞を深める。
第 2 5 回	第 9 章 評価とテスト (3)	事前学習	第 9 章を再度読んで、評定と通知について更に深く理解する。
		事後学習	教える立場になって、どのような評価をすべきか考えを発展させる。
第 2 6 回	第 10 章 学習者 (1)	事前学習	第 10 章を読んで、学習者要因について概要を理解する。
		事後学習	自分の学習経験を省みて既習事項を捉える。
第 2 7 回	第 10 章 学習者 (2)	事前学習	効果的な学習方法について考える。
		事後学習	教える立場と学ぶ立場の双方から学習者要因について考えを深める。
第 2 8 回	これまでのまとめ (後半)	事前学習	第 6 章以降の既習事項を整理して、疑問点があれば質問する。
		事後学習	既習事項を改めて整理し直す。
第 2 9 回	第 11 章 教員養成と教員研修	事前学習	第 11 章を読んで、目指すべき教員像について考えておく。
		事後学習	目指すべき教員像を明確に持てるように志す。
第 3 0 回	総括	事前学習	テキスト全体で学んだことについて不明瞭な所があれば質問を準備しておく。
		事後学習	既習事項について総まとめをして、試験に備える。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習 I (文法・読解) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1301
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	英語の「読む力」や他の技能を向上させるには、英文法の基礎知識が不可欠である。本科目では英文法の基礎的な事項を改めて復習しながら様々な形態の練習問題をこなすことで、各自が持つ文法知識をより実践的に活用できるようになるよう目指す。特に英語の文構造を理解しながら意味を把握することで、英文をより正しく解釈するための基礎を培っていく。また文法力と同時に語彙力も必要であるため、継続的に語彙知識の増強を図っていく。		
8. 学習目標	1. 英文法の基礎をしっかりと固めて、自分の持つ文法知識をより体系的に捉えられるようになる。 2. 学習した英文法を英語の「読む力」や他の技能の養成へと実践的に活かせるようになる。 3. 英文読解や他の技能の養成に必要な語彙知識の量を効果的に増やせるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題を毎回課す。 2. 文法知識の理解を更に深めるために、長期休暇中の課題として英文法の問題演習を課す。 3. テキスト内だけでなく語彙知識増強のための課題も適宜課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 Robert Hickling・Misato Usukura 著『English Switch ストーリーで学ぶ大学基礎英語と TOEIC®テスト頻出語彙』金星堂、2016 年。 【参考書】 各自英和辞書を持参すること。詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度 30%、夏休み課題 20%、小試験 25%、最終試験 25%		
12. 受講生への メッセージ	英文法は「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の四技能を習得する際に不可欠な知識である。今まで習ってきたことを活かせるように英文法のような捉え方を取り扱うので、テキストの予習・復習を習慣付けるようにしてもらいたい。積極的な学習を期待するし、努力した者が報われるような評価をしますのでしっかりと学習に励んで欲しい。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	これまでの英語学習を振り返り、授業に臨むこと。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第 2 回	Unit 1 – Jobs & Careers (現在時制)	事前学習	Pre-Unit (pp.10-11) の演習問題に取り組み、英語の品詞と語順について押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 3 回	Unit 2 – Entertainment. (可算名詞 / 不可算名詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.20) を読んで演習問題に取り組み、名詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 4 回	Unit 3 – Work Schedule. (前置詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.26) を読んで演習問題に取り組み、前置詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 5 回	Unit 4 – Health & Fitness. (過去時制)	事前学習	Grammar Input & Output (p.32) を読んで演習問題に取り組み、過去時制についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 6 回	Unit 5 – Shopping. (進行形) Unit 6 – Business Meeting (代名詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.38) を読んで演習問題に取り組み、進行形についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 7 回	Unit 7 – Recruitment. (現在完了)	事前学習	Grammar Input & Output (p.50) を読んで演習問題に取り組み、現在完了についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 8 回	Unit 8 – Customer Needs (接続詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.56) を読んで演習問題に取り組み、接続詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 9 回	Unit 9 – Business Trip. (will / be going to)	事前学習	Grammar Input & Output (p.62) を読んで演習問題に取り組み、未来表現についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。

第 1 0 回	Unit 10 – Advertising (比較)	事前学習	Grammar Input & Output (p.68) を読んで演習問題に取り組み、比較についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 1 回	Unit 11 – Factory Tour (受動態)	事前学習	Grammar Input & Output (p.74) を読んで演習問題に取り組み、受動態についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 2 回	Unit 12 – Money Matters (動名詞／不定詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.80) を読んで演習問題に取り組み、動名詞と不定詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 3 回	Unit 13 – Leisure (助動詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.86) を読んで演習問題に取り組み、助動詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 4 回	Unit 14 – Environment (分詞)	事前学習	Grammar Input & Output (p.92) を読んで演習問題に取り組み、分詞についてポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 5 回	Unit 15 – Business Tie-Up (関係詞節) & 総括	事前学習	Grammar Input & Output (p.98) を読んで演習問題に取り組み、関係詞節についてポイントを押さえる。
		事後学習	総復習を行い、試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅲ (文法・作文) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN2301
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、演習、 ペア・グループ活動		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし。			
7. 講義概要	英文法事項の整理・確認と英作文の展開を融合させたテキストを用いる。英文法の基礎的な事項を復習し確認しながら英文を書く基礎を身につける。また、各課の重要事項を踏まえたうえで自ら相手に伝えたいことを英語で「書く」訓練も合わせて積んでいく。将来のパラグラフライティングへの橋渡しの授業となるよう目指す。			
8. 学習目標	1. 英文を書くために必要な英文法の基本的な事項の復習と確認を行い、実際に基礎的な英文が書けるようになる。 2. 自分で書いた英文の問題点を知り、より良い英文を書くことができるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題を毎回課す。 2. 「書く」ことを通じた表現能力を磨くため、夏期休暇中の課題としてライティングの問題演習を課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 船田秀佳・J.D.エリクソン著『Fundamentals of English Composition through Living Grammar - 文法から入る英作文基礎演習』英宝社、2012 年。 【参考書】 各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度 20%、ライティング課題 30%、小試験 20%、最終試験 30%			
12. 受講生への メッセージ	四技能のうち「書く」力をつけることは他の三技能と比べて困難さを伴うものである。特に「正確さ」が文法と語彙の両面において求められ、それを身につけることは一朝一夕にはいかない。日頃から、日記等を通じて英語を書く習慣をつけることで、間違いと訂正を繰り返しながら力をつけてみることを勧めたい。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	自分のライティング力について振り返り授業に臨むこと。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第 2 回	Unit 1 基本文型 (I) Unit 2 基本文型 (II)	事前学習	テキスト Unit 1&2 (pp. 3-4&9-10) を読み、演習問題を通じて文型のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 3 回	Unit 3 主語の明示化/命令文	事前学習	Unit 3 (pp. 14-15) を読み、演習問題を通じて主語の明示化のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 4 回	Unit 4 名詞/冠詞	事前学習	Unit 4 (pp. 19-20) を読み、演習問題を通じて名詞のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 5 回	Unit 5 助動詞	事前学習	Unit 5 (pp. 24-25) を読み、演習問題を通じて助動詞のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 6 回	Unit 6 疑問文	事前学習	Unit 6 (pp. 29-30) を読み、演習問題を通じて疑問文のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 7 回	Unit 7 比較	事前学習	Unit 7 (pp. 34-35) を読み、演習問題を通じて比較のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 8 回	Unit 8 進行形/未来形	事前学習	Unit 8 (pp. 39-40) を読み、演習問題を通じて進行形と未来形のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 9 回	Unit 9 完了形	事前学習	Unit 9 (pp. 44-45) を読み、演習問題を通じて完了形のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。	
第 10 回	Unit 10 不定詞/動名詞	事前学習	Unit 10 (pp. 49-50) を読み、演習問題を通じて不定詞と動名詞のポイントを押さえる。	
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項	

			項を定着させる。
第 1 1 回	Unit 11 受動態/"It"構文	事前学習	Unit 11 (pp. 54-55) を読み、演習問題を通じて受動態のポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 2 回	Unit 12 接続詞 (I)	事前学習	Unit 12 (pp. 59-60) を読み、演習問題を通じて接続詞 (情報付加と時間等) のポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 3 回	Unit 13 接続詞 (II)	事前学習	Unit 13 (pp. 64-65) を読み、演習問題を通じて接続詞 (理由、譲歩等) のポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 4 回	Unit 14 関係代名詞/関係副詞	事前学習	Unit 14 (pp. 69-70) を読み、演習問題を通じて関係詞節のポイントを押さえる。
		事後学習	同 Unit 内の演習問題の復習と残りの問題に取り組み、既習事項を定着させる。
第 1 5 回	Unit 15 仮定法 & 総括	事前学習	Unit 15 (pp. 74-75) を読み、演習問題を通じて仮定法のポイントを押さえる。
		事後学習	総復習を行い、試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読 I (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1311
2. 授業担当教員	日下 洋右		
4. 授業形態	講義 演習 グループディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、英語基礎演習で習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の構造と意味内容を正確に把握し、英文の読解力の向上をはかり、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなして、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身に着けるようになる。 2. 英文の読解力向上には、単語力の向上が必要である。そのため、英語の単語の増やし方や、知らない単語の意味を文の前後関係から推測する方法を学び、実際の英文講読に活用できるようになる。 3. 英文を読むこと、書くこと、聞くこと、話すことの 4 技能を統合した言語活動を通じて、英語力の向上に努めることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の基礎学力を確認するために、英語の実力テストを実施する。 2. 英語の長文を理解するために習熟していなければならない特殊構文(倒置構文、強調構文、省略構文など)の練習問題を課す。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Randall Wallace 『 <i>Braveheart</i> 』 南雲堂フェニックス。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% 受講態度・参加姿勢 25%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	基礎学力テスト、特殊構文問題練習、 <i>Braveheart</i> , pp. 1-2. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 2 回	特種構文問題練習、 <i>Braveheart</i> , pp. 3-4. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 3 回	<i>Braveheart</i> , pp. 5-7. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 4 回	<i>Braveheart</i> , pp. 9-10. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 5 回	<i>Braveheart</i> , pp. 11-13. 読解練習、小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 6 回	<i>Braveheart</i> , pp. 14-16. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 7 回	<i>Braveheart</i> , pp. 17-18. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 8 回	<i>Braveheart</i> , pp. 19-21. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 9 回	<i>Braveheart</i> , pp. 22-23. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する

			握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 0 回	<i>Braveheart</i> , pp. 25-26. 読解練習、 小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 1 回	<i>Braveheart</i> , pp. 28-29. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 2 回	<i>Braveheart</i> , pp. 30-32. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 3 回	<i>Braveheart</i> , pp. 33-34. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 4 回	<i>Braveheart</i> , pp. 36-38. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める
第 1 5 回	DVD 鑑賞、ディスカッション	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する
		事後学習	各自物語の人物像から自己の生き方を考えてみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	EDEN2311
2. 授業担当教員	日下 洋右			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「英語講読Ⅰ」、「英語講読Ⅱ」、「英語講読Ⅲ」を履修していること。			
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、多種多様な文学的英語テキストを読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、英語基礎演習で習得した知識を駆使して文学的英語テキストを読解することで、理論的知識の実践的な活用を図る。幅広いジャンルの英語テキストに触れることにより、多様な英語表現に親しむことが本科目のもう一つの眼目である。			
8. 学習目標	1: 学習辞典を適切に引くことができるようになる。 2: 多種多様な英語表現に親しみ、読解できるようになる。 3: 長文の英語テキストを、忍耐強く読み続けることができるようになる。 4: 英文法の知識を駆使しつつも、英語テキストをイメージ豊かに読み進めることができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 自己の基礎学力を確認するために、英語の実力テストを実施する。 2. 英語の長文を理解するために習熟しておかなければならない特殊構文 (倒置構文、強調構文、省略構文など) の練習問題を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 村田薫編注『レイモンド・カーヴァー短編集』音羽書房鶴見書店。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% 受講態度・参加姿勢 25%			
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	実力テスト、特殊構文問題練習、 “Preservation,” pp. 1-2. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 2 回	“Preservation,” pp. 3-5. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 3 回	“Preservation,” pp. 6-8. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 4 回	“Preservation,” pp. 9-11. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 5 回	“Preservation,” pp. 12-14. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 6 回	“Preservation,” pp. 15-16. 読解練習、 小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 7 回	“Preservation,” pp. 17-18. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味	

			内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 8 回	“The Compartment,” pp. 40-42. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 9 回	“The Compartment,” pp. 43-45. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 10 回	“The Compartment,” pp. 46-48. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 11 回	“The Compartment,” pp. 49-50. 読解練習、小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 12 回	“The Compartment,” pp. 51-52. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 13 回	“The Compartment,” pp. 53-54. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 14 回	“The Compartment,” pp. 55-57. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 15 回	ディスカッション及びまとめ	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する。
		事後学習	各自物語の人物像から自己の生き方を考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーション I (2 単位)		3. 科目番号	EDEN1321
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation, and Discussions		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	国際交流の手段・道具としての英語による、実践的なコミュニケーション能力を養う。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示・解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。文法力を養うため、TOEIC の教材を適宜使用する。			
8. 学習目標	Students will learn how to communicate properly in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will have confidence through actual communication in English. Students will be able to gain knowledge of pragmatics.			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and drills			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中正道『実践英語コミュニケーションの技法- Functional English for Communication -』英宝社。			
11. 成績評価の方法	Short tests 30% Oral tests 30% Finals 40%			
12. 受講生へのメッセージ	This course will prepare you for international communication			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction to the course	事前学習	The importance of learning English	
		事後学習	The importance of speaking English	
第 2 回	Identifying	事前学習	Think of words you need to identify	
		事後学習	Do the exercises on pages 3,5	
第 3 回	Reporting	事前学習	Read the conversations on pages 6,8	
		事後学習	Do the exercises on pages 7,9	
第 4 回	Correcting	事前学習	Read all the conversations in this unit.	
		事後学習	Make new sentences using the words and phrases	
第 5 回	Agreeing/disagreeing	事前学習	Read the conversations on pages 14,16	
		事後学習	Make new sentences using the words and phrases	
第 6 回	Expressing degrees of probability	事前学習	Read the conversations on pages 18,20	
		事後学習	Do the exercises on pages 19,21	
第 7 回	Expressing degrees of certainty	事前学習	Read the conversations on pages 22,24	
		事後学習	Do the exercises	
第 8 回	Summary Oral test	事前学習	Repeat at home all we did together	
		事後学習	Read all the material done in class	
第 9 回	Expressing that something is or not permitted	事前学習	Read the conversations pages 26,28	
		事後学習	Do the exercises	
第 10 回	Offering assistance	事前学習	Read the conversations pages 30,32	
		事後学習	Make new sentences using words and phrases	
第 11 回	Expressing wants and desires	事前学習	Read the conversations pages 34,36	
		事後学習	Write new sentences using key sentences	
第 12 回	Expressing preferences	事前学習	Read the conversations on pages 38,40	
		事後学習	Write new sentences using words and phrases	
第 13 回	Expressing please/happiness	事前学習	Read the conversations on pages 42,44	
		事後学習	Write new sentences using words and phrases	
第 14 回	Expressing displeasure and unhappiness	事前学習	Read the conversations on pages 46,48	
		事後学習	Do all the exercises	
第 15 回	Oral test	事前学習	Repeat all we did in class	
		事後学習	Repeat all we did in class	
期末試験 (Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅢ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2321
2. 授業担当教員	田村 エレナ		
4. 授業形態	Listening and Reading practice, Building vocabulary, Presentation and Discussion.	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1 年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながら高いレベルでのコミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate efficiently in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and weekly presentations		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 吉富昇著『Communication Builder (改訂版)』南雲堂。		
11. 成績評価の方法	Short tests 30% Oral tests 30% Finals 40%		
12. 受講生への メッセージ	This is to meet the needs and overcome the special difficulties of beginning-to-intermediate Japanese learners. It encourages students to take on a much more active role in the classroom than they are used to.		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Introduction to the course	事前学習	Think of the importance of learning English
		事後学習	Check the world Map and English speaking countries Free talk
第 2 回	Icebreaking	事前学習	Listen, take notes and practice dialogues
		事後学習	Do the exercises
第 3 回	Icebreaking	事前学習	Dialogues and role play
		事後学習	Create new dialogues
第 4 回	Describing people	事前学習	Listen, take note and practice the conversations
		事後学習	Role play .Talk about people
第 5 回	Describing people	事前学習	Create a new conversation
		事後学習	Do all the exercises
第 6 回	Character and appearance	事前学習	Describe the character of different people
		事後学習	Describe the appearance of different people
第 7 回	Preparation and short test	事前学習	Re-read all the material
		事後学習	Write the presentation
第 8 回	Giving Directions	事前学習	Read once again all the material
		事後学習	Answer once again the questions
第 9 回	Giving directions	事前学習	Answer the questions
		事後学習	Do the exercises
第 10 回	Complaining and Apologizing Introduction	事前学習	Why do people complain? Let's think together.
		事後学習	What complains do you have?
第 11 回	How do we apologize	事前学習	Tell your story
		事後学習	Prepare for discussion
第 12 回	Unique dialogues	事前学習	Present your own dialogues
		事後学習	Present your own dialogues
第 13 回	Review	事前学習	Review the exercises
		事後学習	Read all the paragraphs
第 14 回	Presentations	事前学習	Prepare for presentations
		事後学習	Write the presentations
第 15 回	Oral exam	事前学習	Repeat all we did in class
		事後学習	Repeat all we did in class
期末試験(Final exam)			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションV (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3321
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1・2 年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらさらに高いレベルで英語コミュニケーション能力向上を目指す。			
8. 学習目標	Students will communicate efficiently and fluently in English. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing. Students will be able to express their opinions clearly in English.			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and lots of drills			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 八木克正/Richard Hodson/井上亜依/Sebastian Fuller 著 『Express Yourself in English : A Fresh Start to Your College Life -英語で自己表現-大学英語のフレッシュスタート TOEIC 予想問題付き-』英宝社。			
11. 成績評価の方法	Short test 30% Oral test 30% Finals 40%			
12. 受講生への メッセージ	Lots of exercises to improve your capability of understanding and speaking in English			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間 (本館 1 階 非常勤講師室)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Introduction to the course	事前学習	Think of the importance of learning English	
		事後学習	Think of the importance of speaking in English	
第 2 回	Looking ahead	事前学習	Listening and Reading	
		事後学習	Practice the conversations	
第 3 回	Orientation and getting to class	事前学習	Listen and read	
		事後学習	Do all the exercises	
第 4 回	In the classroom	事前学習	Read the conversations and practice	
		事後学習	Do all the exercises Review grammar	
第 5 回	In the classroom	事前学習	Listen and read	
		事後学習	Short test	
第 6 回	In the cafeteria	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Do the exercises	
第 7 回	Continuation : In the cafeteria	事前学習	Read the conversations and practice	
		事後学習	Speaking activities Role play	
第 8 回	On the way to school	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Speaking activities	
第 9 回	On the way to school	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Answer to all the questions	
第 10 回	Getting to know each other	事前学習	Free talk on friends, Read the conversations	
		事後学習	Role play	
第 11 回	Working part-time	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Do the exercises	
第 12 回	Working part-time	事前学習	Write about your part-time job	
		事後学習	Role play	
第 13 回	Review of all the units	事前学習	Write about what movie you like	
		事後学習	Read all the conversations	
第 14 回	Review	事前学習	We do all the review in class	
		事後学習	Review	
第 15 回	Oral test	事前学習	Test listening	
		事後学習	Test speaking	
期末試験(Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	鈴木 路子		
4. 授業形態	講義を中心に、演習、実習等を導入する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	生態系としての人間の生活生存・発育及び人類が地球環境上で、健康生活を営むための専門基礎教養。免疫学・病原微生物学・母子保健・学校保健(学校環境衛生)・地域看護学等の教科に派生的構造をもって展開される。		
7. 講義概要	健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解するとともに、それらが健康に如何なる影響を及ぼすかを考え、併せて、子供のときからよい環境衛生条件を維持することが重要であることを認識することを主なねらいとして、人間生活における身近な問題としての環境衛生を理解する。よりよく「生きること」を「衛(護衛する)学問」衛生学は、①生きるための資源、②生きる場(生活の場)、③生きる様式(生活習慣)が、人類の存続、生活生存に影響することに視点を当てている。空気・水・光・土壌・植生・食品、住居・被服・学校・職場等の環境衛生学を核にして、人間生態系にまで視点を広げ、学校教育や就学前教育を支える保育士・養護教諭・保健科教師の専門性の基礎基盤を修得することを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の生きる力は、環境との相互作用の中で培われていくことを、環境適応能力の発達の視点から理解し、応用することが出来る。 環境の捉え方を包括することが出来る。 衛生学の目的とその意義、歴史的変遷と現代的課題について理解する。 空気、水、光、温熱・気象、食品、土壌、衛生害虫等、人の生活生存に関わる環境の要因を理解し、各種環境基準について実測する。 学校衛生、産業衛生、住居衛生等、生存の場の各種衛生学の具体的内容・基準・法律等の理解とその体系を構築する。 人間一環境系(主体環境系)について理解し、日常生活に活かすことが出来る。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>【アサイメント(宿題)】: 原稿用紙5枚以内。提出日は、授業時に指定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学校環境衛生の基準について説明せよ。 気象因子と人間の心身状態との関連を説明せよ。 建築基準法と建築物衛生管理基準について検討せよ。 各種職場環境の環境衛生の実態と労働者への健康影響について課題を発見し、解決の方法を模索せよ。 環境衛生から環境保健、主体一環境系へ、細胞・組織・器官のレベルから環境との関わりを検討せよ。 <p>【レポート課題】: 最終授業時に提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間一環境系について、環境衛生学の立場から論述せよ。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>鈴木路子・真野喜洋編著『教育健康学—教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。</p> <p>鈴木路子編著『人間環境・教育福祉論』光生館、2007年。</p>		
11. 成績評価の方法	期末試験 30%、レポート 30%、日常の授業態度(質疑応答、授業後の学習達成振り返り調査) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	人間の健康、心身状態・生命現象は、環境との相互作用の中で営まれること、多くのストレスへの身体内部の諸反応を含めた内部環境は、身近な生活環境から、地球環境レベルでの外部環境との相互作用の中で存続していることを実感するため、各種測定を行って共に考えてゆくひと時に使いたいと思います。人間(内部環境)は長い人類の歴史の中で外的環境への適応という形で存続していることを衛生学の理念として理解されたい。		
13. オフィスアワー	授業中に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	衛生学とは? 健康問題に関する衛生学及び公衆衛生学諸領域の基礎的事項について理解を深める	事前学習	教科書全体の内容構造を把握しておく。
		事後学習	自らの健康問題を解決するための基盤としての「衛生学」の理解を深める。(班別討論レポート)
第2回	人間生態系のとらえ方を基盤にした人間の生活生存のあり方を考える	事前学習	新聞記事等の情報を収集し、人間生態系の考え方を導入し、人類の生活生存の在り方を考える。
		事後学習	教科書①2部第2章 pp.191-195、配布資料を確認し、復習する。
第3回	自然環境と人の健康、生命、発育、人工環境化によって生じる健康上のゆがみに関する具体的健康現象 —生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応に視点をおいて—	事前学習	教科書 pp.24~29 を読み、人間の発育現象を知る。
		事後学習	授業時のプリント併用、人間の健康現象を適応の概念で理解する。プリント・グループ討論・教科書をまとめ、自らの健康観を確立する。
第4回	人類の進化過程から見た「個体発生と系統発生」: 人間の発育発達、生活生存の様相(心身の健康状態)	事前学習	教科書 pp.3-23 を読み、進化(適応)の概念を知る。キーワードを挙げ、人間の生命の流れを把握する。
		事後学習	「個体発生は系統発生を繰り返す」の衛生的意義を考え、児童生徒等の成長過程(発育発達)の理解を深める。
第5回	生体リズムの同調(獲得過程)と脱同調による健康障害(自律神経不安定症)、気象因子の心身状態へ	事前学習	教科書③による「生体リズム」について理解しておく。

	の影響（季節病・気象病）	事後学習	生体リズム・健康・気象因子の相互関連性を理解しておく。（教科書③参照）
第 6 回	音環境測定の実論と実践	事前学習	教科書 pp.191-228 の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	実測レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 7 回	光環境測定の実論と実践	事前学習	教科書 pp.191-228 の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	実測レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 8 回	空気環境測定の実論と実践	事前学習	教科書 pp.191-228 の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	実測レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 9 回	温熱環境測定の実論と実践その 1	事前学習	教科書 pp.191-228 の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	実測レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 10 回	温熱環境測定の実論と実践その 2	事前学習	教科書 pp.191-228 の該当箇所を読んでおく。
		事後学習	実測レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 11 回	環境と学校環境衛生、労働安全衛生	事前学習	学校環境衛生管理基準（配付）を読んでおく。
		事後学習	グループ討論課題レポートを作成し、次回提出できるようにしておく。
第 12 回	生活習慣と人の健康：生活習慣病について	事前学習	教科書 pp.21-23、pp.102-103 を読んでおく。
		事後学習	教科書・配布プリント、授業での討論の結果のレポート作成。
第 13 回	水と健康：水質汚濁と健康被害⇔水系感染症、環境汚染病（重金属による健康被害：水俣病ほか） 大気汚染と呼吸器系疾患	事前学習	教科書 pp.206-226 を読んでおく。
		事後学習	教科書・配布資料・授業内容の理解とまとめ。
第 14 回	学校環境衛生・建築物環境衛生基準（シックビル症候群等）及び・地域における環境課題	事前学習	学校保健法第 6 条、労働安全衛生法等における環境基準を整理する。新聞記事のチェック。
		事後学習	授業内容・教科書及び各種資料を総合して、人間の健康、疾病、発育を護るための環境基準を整理し、グループ討論結果をまとめる。
第 15 回	グループ研究発表と口頭試問	事前学習	課題の整理をグループごとに話し合う。発表資料の作成。
		事後学習	各班からの研究発表を総合した考察・学びをまとめ、口頭試問への資料提供とする。
期末試験：教科書・ノート・配布資料等持ち込み可で、試験を実施する			

1. 科目名 (単位数)	英文学 (作家・作品論) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3318
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	講義、発表、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「異文化理解」を履修すること。			
7. 講義概要	この授業では、イギリス文学の歴史的な主潮を概観し、イギリス文学の主要作家と作品を考察するとともに、各々の作家とその作品の時間的・空間的特徴および文化的背景をも明らかにして、今日の国際化社会で不可欠のグローバルな視野を広げることを目的とする。また、各主要作家の主要作品の名場面あるいは名文の一部を読んで、作品の真髄に触れ、名作や古典と呼ばれる所以を知ることができるようにする。文学の歴史的考察は、文化史的視点とも重なり合い、密接に関連しあう側面を有している。その意味では、「英文学(作家・作品論)」は「異文化理解」を補完し、深化させる役割をも果たしているといえる。			
8. 学習目標	イギリス文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表できるようになることに加え、自らの意見をレポートにまとめることもできるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるため、また主体的に授業に取り組む姿勢を養うため、発表形式を取り入れるので、発表の準備をすること。 2. 授業で扱う作品から一作品を選び、ブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成し提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを使用する 【参考書】 神山妙子編著『はじめて学ぶ イギリス文学史』ミネルヴァ書房。 相島倫嘉著『イギリス文学の流れ』南雲堂。 秋篠健一、金子益道〔他〕編『イギリス文学への招待』朝日出版社。 福田昇八著『イギリス・アメリカ文学史』南雲堂。 川口喬一著『イギリス小説入門』			
11. 成績評価の方法	レポート 30% 発表 30% 小テスト 20% 受講態度・参加姿勢 20%			
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、発表、ディスカッション、レポートの作成に重点を置いて、イギリス文学の修得を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業中は、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション イギリス文学の概観、発表の仕方とまとめ方	事前学習	英文学に関して知っていることを発表できるようにまとめておく。	
		事後学習	英文学の流れのポイント、発表の仕方とまとめ方を確認する。	
第2回	シェイクスピアの時代 (1) 第1期 習作時代 第2期 ひとり舞台の時代	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。	
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。	
第3回	シェイクスピアの時代 (2) 第3期 悲劇の時代 第4期 ロマンズ劇の時代	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。	
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。	
第4回	ミルトンの時代 ジョン・ミルトン	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。	
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。	
第5回	新古典主義の時代	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の	

	アレグザンダー・ポープ、サムエル・ジョンソン		意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 6 回	近代小説の時代 サムエル・リチャードソン、ジェーン・オースティン	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 7 回	ロマン主義の時代（前期） ウィリアム・ブレイク、ウィリアム・ワーズワース、サムエル・コールリッジ	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 8 回	ロマン主義の時代（後期） ゴードン・バイロン、パーシー・シェリー、ジョン・キーツ	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 9 回	ヴィクトリア時代（1） アルフレッド・テニソン、ロバート・ブラウニング	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 10 回	ヴィクトリア時代（2） チャールズ・ディケンズ、エミリ・ブロンテ	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 11 回	現代小説の発展の時代 トマス・ハーディ、オスカー・ワイルド	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 12 回	モダニズムの時代 ジェイムズ・ジョイス、T. S. エリオット	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 13 回	現代小説の時代（1） ヴァージニア・ウルフ、E. M. フォスター	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 14 回	現代小説の時代（2） D. H. ロレンス、アイリス・マードック	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 15 回	まとめ、レポートを書くための要点と諸注意	事前学習	プリントと参考書の必要な箇所を読み、レポートを書く準備をする。
		事後学習	レポートを書く要点と諸注意を確認して、レポートを書き進める。

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学演習 (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3314
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	この科目では、児童文学の名作といわれる作品を読み、英文の読解力を身につけるとともに、子どもたちの世界を描いた作品の世界を理解して、作品と時代との関わりや文化との関わりをも考察する。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。			
8. 学習目標	1. 英文の読解力が身に付く。 2. 児童文学の作品のテーマや文体の技法の特徴を理解できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 レポート課題：『トム・ソーヤーの冒険』に関するブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成すること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 朝日由紀子 編注『トム・ソーヤーの冒険』開文社出版。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 40% 小テスト 25% レポート課題 20% 授業中の態度 15%			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	はじめに 実力診断テスト		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	実力診断テストで理解が不十分だった点について再検討し、理解を深める。
第 2 回	Chapter 1 Tom at Work, pp.7~11 読解練習		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 3 回	Chapter 2 The New Girl, pp.12~16 読解練習		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 4 回	Chapter 3 Murder at Midnight, pp. 17~21 読解練習		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 5 回	Chapter 4 Running Away, pp.22~26 読解練習		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 6 回	Chapter 5 A Pirate's Life, pp.27~31 読解練習		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 7 回	小テスト 読解練習	Chapter 6 The Funeral, pp.32~36	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習し

			て理解を深める。
第 8 回	Chapter 7 Tom's Dream, pp.37~40 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 9 回	Chapter 8 Muff Potter's Trial, pp.41~45 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 10 回	Chapter 9 Buried Treasure, pp.46~51 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 11 回	Chapter 10 Lost!, pp.52~56 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 12 回	Chapter 11 Found!, pp.57~61 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 13 回	Chapter 12 Gold!, pp.62~67 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 14 回	DVD 鑑賞 ディスカッション	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する。
		事後学習	この授業で得た読書体験を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英米文学と映像 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2316
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	最近英米文学の作品を映像文化として見るのがきわめて多くなったので、映画やビデオや DVD などの映像を通して英米文学の作品を考察する。この授業では、ファンタジー『ハリー・ポッターと賢者の石』、人気コメディの劇場版『ピーン』、ヒロイン中毒の若者の生態を描いた『トレインスポッティング』、ジェイン・オースティンの作品『分別と多感』の映画版『いつか晴れた日に』と『エマ』の同名の映画版など、1990 年代から 2000 年代に至るイギリス映画を取り上げる。このような映画をとおして、イギリスの文学や文化に関する知識を深めるとともに、各々の作品の時間的・空間的な背景をも考察する。この授業を履修することによって得られたイギリス文化に関する様々な知識は、将来教育現場で児童・生徒に異文化理解教育を行う際に必ず役立つ。		
8. 学習目標	1. 映画やビデオやDVDなどの映像をとおしてイギリス文学の作品を考察し、イギリスの文学や文化に関する知識を深める。 2. 取り上げられる作家や作品の時間的・空間的・文化的な背景を理解する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 長期休暇レポート課題：指定されたDVDリストより、一作品を鑑賞して、「私はこう観る」という題で自分の考えを1600字程度で述べること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 J. E. Dougill・小寺里砂『映画に観るイギリス文化』英潮社フェニックス。		
11. 成績評価の方法	発表 50% レポート 25% 授業中の態度 25%		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、映像をとおしてイギリスの文化に関する知識を深めることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	はじめに	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	レポート作成のための計画を立てる。
第 2 回	Unit 1 <i>Harry Potter and the Philosopher's Stone</i> (2001) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 3 回	Unit 2 <i>Remains of the Day</i> (1993) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 4 回	Unit 3 <i>Billy Elliot</i> (2000) and <i>Brassed off</i> (1996) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 5 回	Unit 5 <i>Braveheart</i> (1995) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 6 回	Unit 6 <i>The Full Monty</i> (1997) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英

			文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 7 回	Unit 7 <i>Bean</i> (1997) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 8 回	Unit 8 <i>Elizabeth</i> (1998) and <i>Shakespeare in Love</i> (1998) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 9 回	Unit 9 <i>Sense and Sensibility</i> (1995) and <i>Emma</i> (1996) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 10 回	Unit 10 <i>Four Weddings and A Funeral</i> (1994) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 11 回	Unit 11 <i>Bridget Jones's Diary</i> (2001) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 12 回	Unit 12 <i>Notting Hill</i> (1999) and <i>Trainspotting</i> (1998) Pre-reading exercise, Reading text, Reading comprehension	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握し、練習問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点ならびに読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 13 回	DVD 鑑賞 ディスカッション	事前学習	鑑賞する映像作品についての章を復習し、内容を把握する。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 14 回	DVD 鑑賞 ディスカッション	事前学習	鑑賞する映像作品についての章を復習し、内容を把握する。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	課題レポートを元に発表の準備をする。
		事後学習	鑑賞した映像作品を参考にイギリス文化についての理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	栄養学 (食品学含む) (2 単位)		3. 科目番号	EDHE3331
2. 授業担当教員	勝矢 陽子			
4. 授業形態	講義、演習等	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>生体の生命活動と健康に影響を及ぼす栄養素の種類と機能性を理解し、食物の消化、吸収、代謝の過程を通して、栄養素が健康に及ぼす影響について理解を深めることを目標とする。生体の生命活動と健康に影響を及ぼす栄養を科学的な側面から講述し、生体内で生ずる種々の反応やその反応系に異常を来たして生じた疾患を生化学的・栄養学的に解説する。さらに各食品群の特色を理解することにより、健やかな発育と生涯にわたる健康の維持増進を目指した、のぞましい食品選択と栄養摂取のあり方を学習する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康増進のための一次予防の重要性を理解し、栄養の必要性を説明することができる。 五大栄養素の種類とはたらき、消化、吸収について説明することができる。 食事摂取基準の概要を理解し、学童期及び思春期に必要な栄養と、のぞましい食生活について説明することができる。 学童期及び思春期の「食育」の意義について理解を深め、実践できる能力を養うことができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメント：予習プリントを毎回配布する。そのうち、一週間の食事記録と考察については、授業開始時 (4 月) と終了時 (9 月) の 2 回行う。 レポート課題：理想的な食事の献立 3 日分の考察 【第 1 1 回授業時に提出】</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 飯塚美和子 他編『基礎栄養学』南山堂、2015 年。 授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 倉田忠男他編『基礎栄養学 第 2 版』東京化学同人、2011 年。 田地陽一編『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 改訂第 2 版』羊土社、2014 年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>試験 20%、 レポート 30%、 アサイメント 20%、 授業中の態度 (積極的な発表・発言、遅刻の回数) 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>普段何気なく口にしていてる食物に含まれている栄養素が、自身の体をつくる材料となっていること、健康を維持するためにさまざまな役割を果たしているということを具体的に学びましょう。生活習慣病などの疾病の発症と進行を防ぐために生活習慣の改善、とりわけ食生活の改善が重要であることを認識し、授業・アサイメント・レポート等を通して栄養学の基礎を身につけていきましょう。</p> <p>目標達成のため、受講生は以下のことを守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で臨んでください。 自ら進んで質問し、わからないことを放置しないでください。 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を、必ず書面で報告すること。遅刻が多数回の場合、減点対象とする。 明らかに授業態度が悪いと判断した場合には、厳格に指導し、指導後に改善が見られない場合は、たとえ皆出席でも F 評価になるので注意すること。 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作はしないこと。 			
13. オフィスアワー	授業前後の時間。詳細は授業時に発表。事前にアポイントメントを取ることが望ましい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	栄養、食事バランスガイド	事前学習	教科書を準備する。	
		事後学習	食事バランスガイドと六つの食品群にあてはめて一週間の食事記録をつけ、次回授業時に提出する。	
第 2 回	栄養と健康・疾患、食育	事前学習	一週間の食事記録から自己の食生活について、傾向・改善すべき点を配布プリントにまとめて提出する。 教科書 pp.1~13 を読み、配布した「栄養と健康・疾患、食育」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。	
		事後学習	「栄養と健康・疾患、食育」についての復習プリントにポイントをまとめて記入する。	
第 3 回	やせの問題、食物アレルギー	事前学習	配布資料を読み、「やせの問題、食物アレルギー」についての予習プリントを仕上げ、授業時に提出する。	
		事後学習	「やせの問題、食物アレルギー」についての復習プリントにまとめを記入する。	
第 4 回	糖質	事前学習	教科書 pp.15~26 を読み、「糖質」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。	
		事後学習	「糖質」についての復習プリントにまとめを記入する。	
第 5 回	脂質	事前学習	教科書 pp.26~35 を読み、「脂質」についての予習プリントを仕上げ、	

			疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「脂質」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 6 回	タンパク質	事前学習	教科書 pp.35～47 を読み、配布した「タンパク質」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「タンパク質」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 7 回	ミネラル	事前学習	教科書 pp.48～56 を読み、「ミネラル」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「ミネラル」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 8 回	脂溶性ビタミン	事前学習	教科書 pp.56～64 を読み、「脂溶性ビタミン」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「脂溶性ビタミン」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 9 回	水溶性ビタミン	事前学習	教科書 pp.64～73 を読み、「水溶性ビタミン」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「水溶性ビタミン」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 10 回	日本人の食事摂取基準と食品の選択	事前学習	教科書 pp.161～201 を読み、「日本人の食事摂取基準と食品の選択」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「日本人の食事摂取基準と食品の選択」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 11 回	水・電解質、摂食行動	事前学習	教科書 pp.73～82 を読み、「水・電解質、摂食行動」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。 レポートを仕上げ、授業時に提出する。
		事後学習	「水・電解質、摂食行動」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 12 回	消化と吸収	事前学習	教科書 pp.83～103 を読み、「消化と吸収」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「消化と吸収」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 13 回	栄養素の代謝	事前学習	教科書 pp.105～134 を読み、配布した「栄養素の代謝」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「栄養素の代謝」についての復習プリントにまとめを記入する。
第 14 回	エネルギー代謝	事前学習	教科書 pp.141～155 を読み、配布した「エネルギー代謝」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	学習ノートにまとめを記入する。食事バランスガイドと 6 つの食品群にあてはめて一週間の食事記録をつけ、第 15 回授業時に提出。
第 15 回	遺伝子発現と栄養、まとめ	事前学習	食事記録について今回と第 1 回授業時のものとを比較し、食生活がどのくらい改善されているか考察する。配布プリントに結果をまとめて、食事記録とともに授業時に提出する。 教科書 pp.134～139、pp.157～160 を読み、配布した「遺伝子発現と栄養、まとめ」についての予習プリントを仕上げ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	「遺伝子発現と栄養、まとめ」についての復習プリントにまとめを記入する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 / 音楽 (保育士) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1324 SJMP1140
2. 授業担当教員	田口 雅夫	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義及び演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	① 音楽力は個人差があるので、苦手な学生は出題された課題をよく練習しておくこと。 ② 子どもの歌のレパートリーを増やす。 ③ 音楽力の有る学生はその程度に合わせた課題を提示、意欲的に取り組むこと。 ④ 人前での演奏に慣れるために、意欲的に取り組む。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『実用こどものうた』カワイ出版 「教材」*各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mm ステレオジャック(先端が 3.5mm の場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	1. 評価内容 ①授業への積極的な態度。 ②学習意欲とピアノ・歌唱・弾き歌い実技の状況。 ③グループによる発表。 以上を総合的に評価する。 2. 評価配分 ①授業への積極的な態度 40% ②実技試験 30% ③グループ発表 30%		
12. 受講生への メッセージ	1. 音楽は、こつこつと練習を積み上げることが大切です。出来るか否かではなく努力することが必要です。 2. 音楽の技術的なことで(ピアノ・歌)不安や心配のある学生は遠慮なく申し出ること。心配は要りません。 3. 授業中に以下の事については厳しく注意します。 (Ⅰ) 音楽教室使用規則を守ること。(飲食・楽器の扱い方等) (Ⅱ) スマートフォン等を使用しない。 (Ⅲ) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。		
13. オフィスアワー	授業前後の時間を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介、音楽学習歴調査、音楽理論に対する知識調査、教則本についての説明。	事前学習	教科書に目を通して置く。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことを確認しておく。
第 2 回	ピアノと歌① 経験値に応じた課題曲演奏発表 子どもの歌についての指導法①	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	子どもの歌について授業で指導されたことを復習しておく。
第 3 回	ピアノと歌② ピアノの伴奏について 子どもの歌についての指導法②	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	授業で取り上げた歌の一番の歌詞は覚えておく。
第 4 回	ピアノと歌③ 伴奏を簡単にする方法 子どもの歌についての指導法③	事前学習	ピアノの発表に向けて曲を決めておく。
		事後学習	子どもの歌について授業で指導されたことを確認しておく。
第 5 回	課題曲演奏発表 子どもの歌のリズムについて④	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	子どもの歌のリズムについて復習しておく。
第 6 回	ピアノと歌④ アンサンブルについて① 合奏曲で使用する楽器の奏法	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	簡易楽器の奏法の確認をしておく。
第 7 回	ピアノと歌⑤ アンサンブルについて② 合奏曲の編曲について。	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	編曲する曲を選曲してみる。
第 8 回	ピアノと歌⑥ アンサンブルについて③ グループ研究。	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	編曲した曲を暗譜する。
第 9 回	ピアノと歌⑦	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。アンサンブルの

	アンサンブルについて④ グループ発表・講評		発表曲を練習しておく。
		事後学習	アンサンブルの反省点を理解しておく。
第 10 回	ピアノ課題曲演奏発表 ピアノの演奏に対する問題点 歌唱法についての問題点	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	現場に於けるピアノ・歌唱に関する問題点を理解しておく。
第 11 回	ピアノと歌⑧ 歌あそび① 歌あそびの意義	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	歌あそびの意義について理解しておく。
第 12 回	ピアノと歌⑨ 歌あそび② 歌あそびの創作①	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	各グループごとに創作過程を確認しておく。
第 13 回	ピアノと歌⑩ 歌あそびの創作②	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	各グループごとに創作過程を確認しておく。
第 14 回	ピアノと歌⑪ 歌あそびの創作③	事前学習	ピアノの課題曲を練習しておく。
		事後学習	各グループごとに創作過程を確認しておく。
第 15 回	ピアノ課題曲演奏発表・歌あそび発表 まとめ	事前学習	ピアノ課題曲演奏発表・歌あそびの発表の練習をしておく。
		事後学習	授業で指導されたことを確認する。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。 2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 【参考書】・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・全国大学音楽教育学会、中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう 保育士・幼稚園教諭養成テキスト』音楽之友社。 ・小林美実・井戸秀和『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 70%、楽典 30%		
12. 受講生へのメッセージ	ピアノ演奏や歌唱のような実技は、一夜漬けで習得できるようなものではなく毎日地道に練習を積み重ねていくことが重要です。必ず、短時間でも構わないので毎日ピアノに触れるよう心がけて下さい。短期間で基礎的な技術を身につけるためには、単調な指の訓練も必要となりますが、そうした練習は退屈なものに思われてしまいます。しかし、そうした練習も楽しんで弾くのが「音楽」であり、それを乗り越えた先に真に演奏することの楽しさがあると考えて下さい。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 楽典① (音符と休符①)	事前学習	音符と休符について事前学習しておくこと。
		事後学習	授業内容を復習し、学習した音符と休符を第 2 回までに暗記して
第 2 回	ピアノ演奏および弾き歌い① 楽典② (音符と休符②)	事前学習	音符の名称・記号を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	授業内容を復習し、新たに学習した音符と休符を第 3 回までに暗
第 3 回	ピアノ演奏および弾き歌い② 楽典③ (拍子①) 発声の基礎③	事前学習	音符と休符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解すること。課題曲の練習。
第 4 回	ピアノ演奏および弾き歌い③ 楽典④ (拍子②) 発声の基礎④	事前学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解してくること。課題曲の練習。
		事後学習	3/8、6/8 の拍子を理解すること。課題曲の練習。
第 5 回	ピアノ演奏および弾き歌い④ 楽典⑤ (音符と休符、拍子の復習)	事前学習	音符と休符、拍子を完全に理解してくること。課題曲の練習。
		事後学習	音符・休符・拍子の復習。課題曲の練習。
第 6 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑤ 楽典⑥ (音の幅)	事前学習	音の幅について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音の幅について理解しておくこと。課題曲の練習。
第 7 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑥ 楽典⑦ (反復記号①)	事前学習	反復記号について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 8 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑦ 楽典⑧ (反復記号②)	事前学習	反復記号の復習をし、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 9 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑧ 楽典⑨ (さまざまな記号)	事前学習	さまざまな記号や楽語について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語を暗記すること。課題曲の練習。
第 10 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑨ 楽典⑩ (音階)	事前学習	音階について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	長音階について理解すること。課題曲の練習。
第 11 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑩ 楽典⑪ (調号)	事前学習	調号について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	調号について理解すること。課題曲の練習。
第 12 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑪ 楽典⑫ (これまでの復習①)	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 13 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑫ 楽典⑬ (これまでの復習②)	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 14 回	ピアノ実技の発表	事前学習	バイエルの課題曲を発表できるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。
第 15 回	弾き歌い実技の発表	事前学習	弾き歌いの課題曲を発表出来るよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2305
2. 授業担当教員	下出 美智子		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業に向けて調べ学習を行う。学んだ内容をレポートとしてまとめる。ピアノ・リコーダーの練習。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法 改訂版 -小学校教員養成過程用-』音楽之友社、2009 年。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 この他に必要な資料は配付する。</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度(20%)、ピアノの弾き歌い・アンサンブルの発表(60%)、楽典 (20%) により評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では音楽とはいっても楽器演奏や歌唱に限らず、様々な素材による音楽表現を楽しみます。五感を澄まし自分の気持ちを確かめて、表現してみてください。そのような体験を通して、子どもにとって表現教育がどのような意味を持つのかを考えてみましょう。また、音楽技能の向上に向けて日々の練習に励んで下さい。		
13. オフィスアワー	別途、連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要、講義目標、授業の進め方、成績の付け方の説明) 遊びから始まる創造的な表現の実践①	事前学習	音楽Ⅱ用のファイルを準備し、講義に臨むこと。
		事後学習	創造的な表現の復習をする。
第 2 回	ピアノの演奏及び弾き歌い① 小学校共通教材の中から 1 曲を選び、ピアノ伴奏 (簡易伴奏やコード伴奏) を付けて歌う。また、そこに出てくる楽典 (音楽の基礎知識) の学習を行う。以後、次々新たな曲に取り組んでいくが、学習方法は同様のものとなる。 様々な素材による創造的な表現② ボール、風船、スカーフ、声、身体を素材として表現する。	事前学習	課題曲 (ピアノの弾き歌い、創造的な表現) の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。 音楽用語や記号を実際の曲と関連づけて演奏する。
第 3 回	ピアノの演奏及び弾き歌い② 様々な素材による創造的な表現③	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。創造的な表現についてノートにまとめる。
第 4 回	ピアノの演奏及び弾き歌い③ 様々な素材による創造的な表現④	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。創造的な表現についてノートにまとめる。
第 5 回	ピアノの演奏及び弾き歌い④ 個人レッスン	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	個人レッスンを基に課題曲の復習をする。
第 6 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑤ 様々な素材による創造的な表現⑤	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。創造的な表現についてノートにまとめる。
第 7 回	ピアノの弾き歌いの発表⑥	事前学習	発表会に向けて課題曲の練習をする。
		事後学習	発表会の成果を各自、プリントにまとめる。
第 8 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑦ 諸民族の楽器に触れる アフリカ、アジア、ヨーロッパの楽器や音具に触れて鳴らす。	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。諸外国の楽器についてノートにまとめる。
第 9 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑧	事前学習	課題曲の練習をする。

	打楽器の奏法と表現① リズム楽譜（カール・オルフの「リズムのロンド」等） を色々な打楽器で演奏する。	事後学習	課題曲の復習をする。
第 10 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑨ 打楽器の奏法と表現② 打楽器を使ってグループで「リズムのロンド」を演奏 する。	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。グループ作品について ノートにまとめる。
第 11 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑩ 個人レッスン	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	個人レッスンを基に課題曲の復習をする。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑪ 器楽アンサンブル① 小学校の教材から曲を選びアンサンブル用に編曲す る。	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。編曲の仕方についてノ ートにまとめる。
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑫ 器楽アンサンブル②	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	課題曲の復習をする。編曲した作品について ノートにまとめる。
第 14 回	音楽理論のまとめ ピアノの弾き歌いの発表	事前学習	課題曲の練習をする。音楽理論について教科 書（pp.242-245）を学習する。
		事後学習	発表会の成果を各自プリントにまとめる。音 楽理論のまとめのプリントを仕上げる。
第 15 回	器楽アンサンブルの発表③ これまでのまとめ	事前学習	課題曲の練習をする。
		事後学習	発表会の成果を各自プリントにまとめる。音 楽Ⅱの学びを振り返り自己課題をノートに まとめる。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2305 SJMP2140
2. 授業担当教員	二宮 紀子		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 表現の教育について考え議論ができる。 5. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノ実技：「弾き歌い」の課題曲を次週までによく練習しておく。 ②グループ活動：お互いに協力し合い、練習をして合奏の発表に臨むこと。 ③第4, 8, 11, 15回に「弾き歌い」の発表、第14回にグループ発表 (合奏) を行います。 ④音楽理論のまとめのテスト (筆記) を行います。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法 改訂版—小学校教員養成課程用—』音楽之友社、2011 年。 二宮紀子『歌って、弾いて、書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを 1 冊用意すること。</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノの弾き歌い 30% ②グループ・アンサンブルの発表 30% ③音楽理論の筆記テスト 20% ④平常点 (学習意欲/態度/進捗・提出物) 20% <p>※①～④を総合的に評価する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。</p>		
12. 受講生への メッセージ	小学校での音楽教育に必要な様々な音楽表現とその指導法を学びましょう。基礎技能としてのピアノの演奏は少しずつでも長く続けることが望ましいので、全授業内容に入っています。少しずつでも毎日練習しましょう。		
13. オフィスアワー	研究室扉に掲示。時間的に空いている場合はいつでも可。ただしメールにて事前連絡のこと。アドレスは研究室扉に記載。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要)、 音楽歴調査、課題曲提示	事前学習	教科書を予習しておく。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことを復習しておく。
第 2 回	ピアノの演奏及び弾き歌い① 音楽理論① I, IV, V, V7 のカデンツ とコードネーム	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	カデンツとコードネームについて授業で指導されたことを復習しておく。
第 3 回	ピアノの演奏及び弾き歌い② 音楽理論②和音の構造	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	和音の構造について授業で指導されたことを復習しておく。
第 4 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの発表 音楽理論③マイナーコード	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	マイナーコードについて授業で指導されたことを復習しておく。
第 5 回	ピアノの演奏及び弾き歌い③ 音楽理論④転調	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	転調について授業で指導されたことを復習しておく。
第 6 回	ピアノの演奏及び弾き歌い④ 音楽理論⑤借用和音	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	借用和音について授業で指導されたことを復習しておく。
第 7 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの発表 音楽理論のまとめ	事前学習	発表曲を練習しておく。音楽理論で学んだことの復習をしておく。
		事後学習	弾き歌いの発表について授指導されたこと、音楽理論を復習しておく。

第 8 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑤ 様々な音楽表現①(創造的な音楽づくり -ことばのアンサンブル)	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	創造的な音楽づくりについて授業で指導されたことを復習しておく。
第 9 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑥ 様々な音楽表現②(創造的な音楽づくり -ことばから楽器へ)	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	創造的な音楽づくりについて授業で指導されたことを復習しておく。
第 10 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑦ 様々な音楽表現③(創造的な音楽づくり -2と3のリズム)	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	創造的な音楽づくりについて授業で指導されたことを復習しておく。
第 11 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの発表 グループ活動に向けて	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	グループ活動に向けて授業で指導されたことを復習しておく。
第 12 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑧ テーマ別グループ活動①	事前学習	課題曲を練習しておく。グループ活動の準備
		事後学習	グループ活動の振り返り。
第 13 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑨ テーマ別グループ活動②	事前学習	課題曲を練習しておく。グループ活動の準備
		事後学習	グループ活動の振り返り。
第 14 回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑩ テーマ別グループ活動の発表と振り返り	事前学習	課題曲を練習しておく。グループ活動発表準備。
		事後学習	グループ発表についての振り返りシートの作成。
第 15 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの発表 まとめ(今後の学びについて)	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	弾き歌いの発表について授業で指導されたこと、今後の学びにそって復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140
2. 授業担当教員	岡村 弘		
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合っ弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回学生各個人の進度に応じたピアノ演奏課題を出す。 特に、保育士、幼稚園教諭など目標のある学生については、それらの資格に必要なレベルの課題を課す。 2. 第 5 回、第 10 回、第 15 回目の授業で、下記の“弾き歌い”実技課題を発表演奏。 就職後、各現場で子どもたちの前で演奏するという慣れのためと、課題を成し遂げるという目的のために実施する。 3. 器楽合奏および手作り楽器発表演奏。 現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習とする。 4. 実技課題について 『生活のうた』から 2 曲、『新しい歌』から 1 曲選択して演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活のうた <ol style="list-style-type: none"> ①ごあいさつ 小林純一作詞、信時潔作曲 ②おべんとう 天野 蝶作詞、一宮道子作曲 ③おかえりのうた 天野 蝶作詞、一宮道子作曲 ④おててをあらいましょう ⑤おはようのうた ・ 新しい歌 <ol style="list-style-type: none"> ①ともだちになるために 新沢としひこ作詞、中川ひろたか作曲 ②ハッピーチルドレン 新沢としひこ作詞、中川ひろたか作曲 ③みんな友達 中川ひろたか作詞・作曲 ④楽しいね 山内佳鶴子作詞、寺島尚彦作曲 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林美実監修『こどものうた 100』チャイルド本社。 他に必要な資料を配布する。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第一集』学事出版。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第二集』学事出版。</p> <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>“弾き歌い”課題の発表演奏 3 回、器楽合奏発表演奏、手作り楽器発表演奏・・・ 50 % 毎回の授業への取り組み態度およびアサイメントへの取り組み・・・ 50 %</p> <p>なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要である。従って、忌引や病気あるいは実習などやむを得ない事情以外の欠席は、1 欠席につき 10 点減点する。事情のある場合は必ず次週までにその旨届けること。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、特に音楽Ⅱを修了した皆さんが、さらに高度のテクニックを身に付けていくために、単に器楽を演奏するテクニックを向上させるのではなく、さらに進んでそれらのテクニックを応用して指導していく技術を学ぶことを目的としています。従って自主的で積極的な授業への参加を望んでいます。また、音楽Ⅱにおいて、十分に音楽的技術を習得できなかったと自覚する皆さんは、是非この授業で、ピアノの弾き歌いや指導法の技術を高めていってほしいと願っています。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日および金曜日以外の、授業および会議の無い時間はすべてオフィスアワーとする。 ただし、学会出張や研修会などで不在の場合があるので、研究室前の掲示板を参考にすること。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	弾き歌い課題提示それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。 新しい“子どもの歌”歌唱練習：最近、保育現場でよく歌われている曲を、子どもにとって正しい歌い方で歌う。その際、指揮法についても復習し、歌っている“子どもの歌”の指揮をする。	事前学習	一年次から使用している、『子どもの歌 100』の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。
		事後学習	第 1 回目に指導された事柄を復習して練習する。指揮法を練習しておく。
第 2 回	新しい歌の歌唱。 保育士および幼稚園教諭希望者のために、子どもにとって正しい歌い方を考えながら歌ってみる。	事前学習	第 1 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 2 回目に指導された事柄を復習して練習する。発声の仕方について、復習する。
第 3 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い① 個別レッスンを行い次回課題を課す。 特に、各学生が希望する現場でよく使われている曲を選びその中から順次やっていくよう指導する。	事前学習	第 2 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習する。
		事後学習	第 3 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 4 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い② 次回発表の課題について留意点などをポイントに練習する。	事前学習	第 3 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 4 回目に指導された事柄を復習して練習しておく。
第 5 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法① 簡易楽器の中で、幼児教育の現場で使われている旋律楽器を中心に演奏し、音の出し方や美しく出す方法、特別な技術などを指導する練習を行う。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
		事後学習	第 5 回目に指導された事柄を復習して練習する。特に、歌うという観点から、美しい発声、表現力あるいは美しい日本語での発声について復習しておく。
第 6 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い③ 新しい課題について練習する。 旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法② 小学校の実践映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションする。	事前学習	第 5 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 6 回目に指導された事柄を復習して練習する。鑑賞した実践教育の VTR について、感想や意見などをまとめておく。
第 7 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い④ 特に歌いながら伴奏をすることに重点を置く。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習。 グループ分けし、各グループごとのアンサンブルを行う。	事前学習	第 6 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 7 回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルで使う楽器についてその演奏の仕方を復習しておく。
第 8 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習。 各グループごとのアンサンブルを行うなかで、スコアを自分たちが演奏しやすいように工夫する。	事前学習	第 7 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 8 回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの記譜法について慣れる。
第 9 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 次回発表の課題を課し、指導された注意点に気を付けて練習する。 旋律を奏でられる楽器を主とした合奏発表と鑑賞。 グループごとの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表。	事前学習	第 8 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 9 回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第 10 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 グランドピアノを使用し、他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。特に美しく歌うことに重点を置いて学習することが求められる。
		事後学習	第 10 回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌いをしていて途中で止まってしまう箇所、などには特に留意して、歌うことに重きを置いて練習する。
第 11 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑦ 特に、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを今回も徹底する。 手作り楽器の作成① 手作り楽器のポイントを説明。各学生が与えられた素材	事前学習	第 10 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 11 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。止まらないよう、歌を中心にして、もしピアノが止まっても、歌を歌って続けて、入ってこられる部分から、ピア

	をどう工夫して音に出していくかを考える。		ノ伴奏ができるよう練習する。
第 1 2 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑧ 特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意する。 手作り楽器の作成と演奏、および指導法② 手作り楽器の中で、特に旋律を出せる楽器の制作を考える。そして、なぜ音が出るのか、なぜ旋律が出るのかなどを考えさせる指導法を学習する。</p>	事前学習	第 1 1 回目に練習した曲、または新しい曲を練習しておく。同じ曲を、完璧に弾けるようになるまですることよりも、ある程度弾ければ新しい曲に挑戦する気持ちを持つ。 手作り楽器のために必要な材料を準備しておく。
		事後学習	第 1 2 回目に指導された事柄を復習して練習する。特に弾き歌いに関しては、止まらない、美しく表現することを考えて歌う
第 1 3 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑨ 特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意することを徹底する。 手作り楽器での合奏練習と発表 それぞれが制作した楽器を使って、簡単な曲（チョウチョウ、チューリップなど）を合奏する。</p>	事前学習	第 1 2 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏のための曲ばかりを練習しないよう、できる限り多くのレパートリーが持てるようにしておく。
		事後学習	第 1 3 回目に指導された事柄を復習して練習する。手作り楽器の音の出る原理について復習しておく。
第 1 4 回	<p>最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心とした弾き歌い⑩ 次回発表する曲について、指導を受けた箇所を注意し、特に歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出しながら、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直さないことに留意しながら練習する。</p>	事前学習	第 1 3 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏の曲を決めて練習を始める。
		事後学習	第 1 4 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。特に第 1 5 回目に演奏する曲で留意する点を考えておく。
第 1 5 回	<p>弾き歌い発表 グランドピアノを使用し、実技課題から 1 曲を他の学生が歌えるようロールプレイのような形式で行う。 演奏発表していない学生が、子どもたちを演じうまく歌えるような演奏かどうかを評価し合う。 これからの音楽の学習、音楽と共にある人生について、学生へのメッセージを送る。 学生による授業評価</p>	事前学習	今までに学習してきた弾き歌いの曲で、最も良く弾ける曲を仕上げる。
		事後学習	第 1 5 回目に指導された事柄を復習して練習する。今後の練習について、授業がなくなっても続けていけるよう今後の学習計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4140
2. 授業担当教員	本野 洋子	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	演習、一電子ピアノによる個人レッスン、合奏及び手作り楽器製作、手遊び等におけるグループ学習、一斉学習における歌唱法の演習などを組み合わせて行う		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に乗って、保育・幼児教育、小学校教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏、手遊びの技術をさらに高めていく。また、“手作り楽器製作及び演奏”などを通して音楽表現の応用を学習するとともに、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正しい発声法、歌唱法を学習する。 発声法は、ピアノ演奏と同様一朝一夕に美しい声を出すことは難しいので、日々の努力が求められる。 2. 楽譜や鍵盤を見ないでピアノの弾き歌いができる技能を持つ。できる限り、子どもに向き合っ弾き歌いができるようになることが望ましい。 3. 保育・幼児教育現場、および小学校で用いられている楽器などを用いた合奏指導、あるいは手遊びの実践。 4. 手作り楽器の製作と演奏など、音や音楽を用いた活動の実践と演奏、また、それらを通じた指導法を学習する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② こどもの歌：レパートリーを増やす。 ③ こどもの歌の弾き歌い(コードネーム奏を含む)：練習を重ねて慣れる。 第2,5,8回に「弾き歌い」第11,15回にグループでの「アンサンブル」発表を行います。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 ・東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを用意すること。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①ピアノの弾き歌い 40% ②グループ・アンサンブルの発表 30% ③平常点(学習意欲/態度/進度・提出物) 30% ※①～③を総合的に判断する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生へのメッセージ	「音楽」「音楽Ⅱ」で学んだことを踏まえ、幼稚園、保育園の現場でしっかりピアノで演奏し、弾き歌いできるような演奏技能レベルの更なる向上を目指しましょう。ピアノ演奏技能の習得には少しずつでも毎日練習することが大事です。また手遊び歌、楽器遊び、アンサンブルなどを通じて幼稚園、保育園の現場で豊かな音楽活動が展開できるような力をつけていきましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明、授業概要) 課題曲解説	事前学習	今まで学んだこどもの歌の復習。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。
第2回	経験値に応じた課題曲演奏発表 グレードの決定。こどもの歌について解説	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。こどもの歌について授業で指導されたことの復習。
第3回	ピアノ演奏及び弾き歌い① 手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手遊び歌について復習。
第4回	ピアノ演奏及び弾き歌い② 年齢に応じた手遊び歌の実践①	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第5回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 年齢に応じた手遊び歌の実践②	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第6回	ピアノ演奏及び弾き歌い③ 年齢に応じた手遊び歌の実践③	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。年齢に応じた手遊び歌について復習。
第7回	ピアノ演奏及び弾き歌い④ わらべうたを用いた手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。わらべうたを用いた手遊び歌について復習。
第8回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 アンサンブルの実践①	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。ペアで行う手遊び歌について復習。

	ペアで行う手遊び歌の実践		
第 9 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑤ アンサンブルの実践② 集団で行う手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。集団で行う手遊び歌について復習。
第 10 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑥ アンサンブルの実践③ 集団で行う手遊び歌の実践	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。集団で行う手遊び歌について復習。
第 11 回	アンサンブルの発表 手作り楽器の説明	事前学習	アンサンブルの発表曲練習。
		事後学習	手作り楽器について復習。
第 12 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑦ アンサンブルの実践④ 手作り楽器の作成	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。手作り楽器を完成させる。
第 13 回	ピアノ演奏及び弾き歌い⑧ グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。グループごとにアンサンブル発表の練習。
第 14 回	ピアノ演奏及び弾き歌い課題曲発表 グループごとにアンサンブル発表の準備	事前学習	課題発表曲の練習。
		事後学習	課題発表曲の復習。
第 15 回	アンサンブルの発表 今後の学びについて	事前学習	グループごとに発表の練習。
		事後学習	今後の学びについて授業で指導されたことを実践する。

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP1109
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	介護福祉コースの以外学生は履修できない		
7. 講義概要	<p>本教科は「介護」の基盤となる。[介護を必要としている人]を生活の観点から捉え、その人の生き方、暮らし方、生活習慣など、その人らしさを大切にすることから、「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、明確にしていくことを目的とする。</p> <p>「人間と社会」の学習と関連付けながら、介護現場の事例や視聴覚教材を通して、「介護」についての考えを深めていけるよう授業を展開する。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の専門職を取り巻く状況を理解でき、介護の今日的課題を把握することができる。 2. 介護の専門職の役割と機能を支えるしくみが理解でき、実践できる能力を養うことができる。 3. 尊厳を支える介護が理解でき、要介護者への支援において常に把握できている。 4. 自立に向けた介護が理解でき、生活支援で活用することができる。 5. 介護を必要とする人が理解でき、要介護者主体の介護が展開できる。 6. 介護サービスが理解でき、利用する人々と介護のあり方を明確にすることができる。 7. 介護実践における連携が理解でき、チームアプローチの心構えを養うことができる。 8. 介護従事者の倫理の重要性が理解でき、人間性について考えることができる。 9. 介護における安全の確保とリスクマネジメントが理解でき、介護場面での具体的な手法を把握することができる。 10. 介護従事者の安全が理解でき、腰痛予防や手洗いなど健康管理を実践できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題</p> <p>第5回授業 : 事例から「尊厳を支える介護」について論述する。(A4/1枚)</p> <p>第9回授業 : 「介護の今日的課題」について論述する。(A4/1枚)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ』中央法規出版。</p> <p>『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1. レポート 40%</p> <p>2. 授業中の課題提出 40%</p> <p>2. 授業態度 20%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	「人間と社会」と関連付けながら学習してください。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>「介護概論」のねらいと、単元の解説</p> <p>テーマ「介護とは」</p> <p>介護とは何かを、歴史的な経過から介護が必要になった理由に触れながら、考えていく。</p>	事前学習	シラバスを読み、本教科の内容を理解する。学習用ノート、資料等を整理するファイルを用意する。「介護」とは何か考える。
		事後学習	「介護とは何か」を整理する。
第2回	<p>テーマ「生活の理解」</p> <p>年齢とともに変化する生活を理解し、各自の1日の生活をグループで比較し、さまざまな生活があることをより理解する。</p>	事前学習	自分の1日の生活をまとめる。
		事後学習	日常生活の特性を整理する。
第3回	<p>テーマ「介護を必要とする人の理解」</p> <p>生活史、価値観、生活習慣、生活様式の多様性から、その人らしさ、生活のニーズを理解する。</p>	事前学習	介護の基本Ⅰ p.107 の事例を読み、生活ニーズの個別性を考える。
		事後学習	「その人らしさ」「生活のニーズ」について整理する。
第4回	<p>テーマ「自立に向けた介護」</p> <p>自立と自律、自己決定と自己選択、自立支援について理解し、個別ケア、ICF の考え方など事例を通して「自立に向けた介護」を理解する。</p>	事前学習	施設での生活においてこの部分だけは尊重してほしいと思うことを挙げてみる。
		事後学習	「こころの自立」について整理する。
第5回	<p>テーマ「尊厳を支える介護」</p> <p>QOL、ノーマライゼーション、利用者主体の考え方を学習し、人間はどのような状況であろうとも、尊厳を支える介護の重要性を理解する。</p> <p>レポート課題：事例から「尊厳を支える介護」について論述する(A4/1枚)</p>	事前学習	介護の基本Ⅰ pp.163~164 の事例を読み、利用者の立場から考える。
		事後学習	「尊厳を支える介護」について整理し、レポートに活かす。
第6回	<p>テーマ「介護従事者の倫理」</p> <p>身体拘束や虐待、権利擁護やプライバシーの保護、個人情報の保護など、事例を通して、介護の現場で求められる倫理について理解する。</p>	事前学習	なぜ介護福祉士に倫理が必要なのか考える。
		事後学習	身体拘束がもたらす多くの弊害について整理する。
第7回	<p>テーマ「介護の専門性・独自性」</p>	事前学習	「お世話」と「介護」の違いを考える。

	介護に対する社会的承認や評価、それを基盤とする法制度、免許や業務などを学習し、介護の専門性、独自性について理解する。	事後学習	介護福祉士に求められる専門性について整理する。
第 8 回	テーマ「生活の場における介護」 介護を必要としている人が生活をしている在宅や施設での介護のあり方を理解する。	事前学習	介護が必要としている人の生活の場所を調べて、生活障害を考える。
		事後学習	生活の場における介護の在り方を整理する。
第 9 回	テーマ「介護福祉士を取り巻く状況」 介護の歴史や少子高齢化、介護問題の背景を学習し、介護の社会化など介護の今日的課題を考えていく。 レポート課題：「介護の今日的課題」について論述する (A4/1枚)	事前学習	介護の基本Ⅱ p.8 を読み、「求められる介護福祉士像」を考える。
		事後学習	「2015 年の高齢者介護」に向けたケアモデルの転換について整理し、レポートに活かす。
第 10 回	テーマ「介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ」 社会福祉士法及び介護福祉士法、専門的職能団体の活動を通し、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみを理解する。	事前学習	介護の基本Ⅱ p.11、pp.1~6 行を読み、介護の定義規定の変更を考える。
		事後学習	介護福祉士の役割について整理する。
第 11 回	テーマ「介護実践における連携」 保健、医療、福祉など多職種、地域のサービス、地域包括支援センターなどの機能と役割、連携を理解する。	事前学習	介護に関係する他職種を調べて、連携のあり方を考える。
		事後学習	地域連携にかかわる機関の機能と役割について整理する。
第 12 回	テーマ「介護における安全の確保」 介護における観察、的確な技術、予測と分析能力の重要性を理解する。施設や在宅で起こりやすい事故とその安全対策や災害対策を学習する。さらに感染予防の基礎知識、意義、管理を学習する。	事前学習	介護における安全安心を理解し、転倒した時の対応を考える。
		事後学習	介護場面における 1 ケア、1 手洗いの徹底について整理する。
第 13 回	テーマ「介護従事者の安全」 ストレスや燃え尽き症候群など心の健康対策、身体の健康管理として、感染対策、腰痛対策を学習し、介護従事者としての健康管理の必要性を理解する。さらに、労働基準法、労働衛生法を学習し、介護従事者としての安全と健康を理解する。	事前学習	自分の普段のストレスをどのように解消しているか考える。
		事後学習	介護従事者としての安全と健康について整理する。
第 14 回	確認試験と解説	事前学習	これまでの学習を振り返り、試験勉強を行う。
		事後学習	試験を振り返り、理解を深める。
第 15 回	テーマ「介護におけるリスクマネジメント」 介護における事故防止、安全確保のためのリスクマネジメントのあり方を理解する。	事前学習	誤薬を避けるためにはどのようなことが必要か考える。
		事後学習	リスクマネジメントに必要な要素を整理する。

1. 科目名 (単位数)	介護概論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2109
2. 授業担当教員	森 千佐子		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講座は、高齢者福祉論との関連において、介護が必要な高齢者に対する支援を中心に進めていく。 高齢者の特性と生活について理解を深めたうえで、生活支援の在り方を考え、介護の実践では、自立への支援、尊厳ある介護の理解を学習し、介護実践の基本を理解できるように授業を進めていく。特に根拠を持った介護実践が行えるように、介護過程と介護実技を学習して理解を深めていく。また、今後増加する認知症高齢者や精神的支援が必要な高齢者の介護についても授業を行なう。</p>		
8. 学習目標	<p>介護概論が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特性からくる生活障害や、介護が必要となる状況を理解でき、快適な生活環境を考えることができる。 2. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解し、介護の今日的課題について考えることができる。 3. 高齢者を支援する専門職の役割の理解と専門職間の連携の在り方を考えることができる。 4. 介護の概念、理念と対象について理解でき、社会福祉士など専門職としての役割と結び付けることができる。 5. 介護は介護過程に基づいて行われることを理解し、専門性について考えることができる。 6. 認知症及び精神的支援が必要な高齢者に対する介護について理解ができ、その応用力を身につけることができる。 7. 終末期の介護を理解し、終末期における尊厳の保持（人間観や倫理）について考えることができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>①「事例から考える『自立に向けた介護』と『尊厳を支える介護』」のテーマで、事例を読み学習内容を踏まえたうえで、自分の考えを記述する。(A4レポート用紙1枚程度) ②「事例から考える専門職間の連携」のテーマで、グループディスカッションでの学びから、専門職の役割及び連携の必要性や方法について記述する (A4レポート用紙2枚程度)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者への支援と介護保険制度 第5版』 中央法規出版、2016。授業中にプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度と小テスト、レポートにより評価する。 受講態度 (積極的な取り組み姿勢) : 20% 小テスト (5回目、10回目、15回目の授業で実施) : 50% レポート (①事例から考える「自立に向けた介護」と「尊厳を支える介護」 ②事例から考える専門職間の連携) : 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>講義・演習とも積極的に取り組み、提出物は必ず期限内に提出してください。 机上に携帯電話など教材以外のものを置くこと、私語や居眠り等は禁止します。 不明な点は質問し、解決できるようにしてください。 授業には、グループディスカッションを取り入れます。他者の意見をよく聴き、自分の意見をしっかりと述べてください。 「日常生活における介護実践」では、部分的に技術演習を行います。演習時は身だしなみを整えてください。 やむを得ず遅刻・早退・欠席をする場合は、必ずその理由を申し出てください。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の講義で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 本講義の説明 介護の概念、理念と対象	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	介護の概念、理念と対象について確認し、社会福祉士等の専門職が介護を理解する必要性を整理する。
第2回	超高齢社会における課題	事前学習	日本における高齢化の状況について、調べておく。
		事後学習	超高齢社会における課題を理解し、課題への対応について具体的に説明できるように整理する。
第3回	高齢者の特性① 加齢に伴う身体機能の変化と生活への影響	事前学習	身体の高齢現象について考えておく。
		事後学習	高齢者の身体的特徴について、整理する。
第4回	高齢者の特性② 加齢に伴う心理的・社会的機能の変化と生活への影響	事前学習	高齢者の心理や社会的役割について、考えておく。
		事後学習	高齢者の心理的特徴、社会的役割及び社会参加について整理する。
第5回	自立に向けた介護・尊厳を支える介護 (グループ ディスカッション)	事前学習	自立、尊厳について調べておく。
		事後学習	事例を読み、自立に向けた介護、尊厳を支える介護について、考えをまとめる。 次回の授業で提出。
第6回	高齢者を支える専門職の役割と連携① 専門職の種類とその役割	事前学習	高齢者を支える専門職について、調べておく。
		事後学習	専門職の役割について整理し、社会福祉士等、自分が目指している専門職との関わりを考える。
第7回	高齢者を支える専門職の役割と連携②	事前学習	事例を読み、専門職のかかわりについて考えておく。

	専門職間の連携（グループディスカッション）	事後学習	グループディスカッションからの学びをまとめる。次回の授業で提出。
第 8 回	介護過程の基礎的理解	事前学習	I C F について調べておく。
		事後学習	介護過程の必要性と展開について、整理する。
第 9 回	日常生活における介護実践① 身じたくの介護、睡眠の介護	事前学習	身じたく及び睡眠の必要性について確認しておく。
		事後学習	意義と介護上の留意点を整理する。
第 1 0 回	日常生活における介護実践② 移動の介護、住環境の整備（演習）	事前学習	自分にとって快適な住環境について考えておく。
		事後学習	ボディメカニクスと介護上の留意点を整理する。
第 1 1 回	日常生活における介護実践③ 食事・口腔衛生の介護（演習）	事前学習	食事・口腔衛生の必要性を確認しておく。
		事後学習	意義と介護上の留意点を整理する。
第 1 2 回	日常生活における介護実践④ 入浴・清潔の介護	事前学習	入浴・清潔の必要性を確認しておく。
		事後学習	意義と介護上の留意点を整理する。
第 1 3 回	日常生活における介護実践⑤ 排泄の介護（演習）	事前学習	排泄の必要性を確認しておく。
		事後学習	意義と介護上の留意点を整理する。
第 1 4 回	認知症高齢者に対する介護の基本 認知症の症状と対応の基本、家族支援	事前学習	認知症の症状について、調べておく。
		事後学習	認知症高齢者への対応および家族支援について整理する。
第 1 5 回	終末期の介護 終末期ケアとグリーフケア	事前学習	終末期の症状について、調べておく。
		事後学習	終末期ケアとグリーフケアについて、整理する。

1. 科目名 (単位数)	介護過程Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SNMP3122
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習・実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目においては、ADL、IADL のそれぞれの生活支援の場面について、生活支援技術を振り返りながら介護過程を理解する。その上で紙上事例を通して、生活全般における視点の中でアセスメントを行い、個々の課題・ニーズを導きだし、計画書の作成、カンファレンスや評価の方法を身につけることを目的とする。</p> <p>実技・演習を通して、ADL、IADL 等の生活支援の場面について、一つずつ活動の展開過程を行い、計画書を作成する。また、紙上事例を用いて、アセスメント、計画書の作成、カンファレンスの実施を行っている。</p> <p>介護実習Ⅱで実施した介護過程の展開について振り返り、自らの介護過程の実践の課題を明らかにし、今後の学習目標を明確にできるように進めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.ADL、IADLのそれぞれの生活支援の場面における活動過程を理解する。 2.認知症の症状や行動に対して支援過程の展開ができる。 3.生活支援全般における介護過程の展開を行うことができる。 4.紙上事例を通して、介護過程の展開を行うことができる。 5.カンファレンスを行うことができる。 6.自らの介護過程の実践の課題を明らかにし、今後の目標を明確にできる。 7.グループにおいて計画書の作成を行うことから、グループワークの方法と実際が行えるようにする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回とも授業の中でまとめて発表・レポート提出をする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】介護福祉士養成講座『介護過程』中央法規 *介護過程Ⅰで既に購入している学生は引き続き使用する。 「障害の理解Ⅰ」「心身機能と構造Ⅰ」で使用したテキストも使用する。</p> <p>【参考書】『ICFを取り入れた介護過程の展開』建帛社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への出席・積極性 40%</p> <p>レポート及び課題の提出 60%</p> <p>*欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>介護実習Ⅱに向けて、実践力が身につけられるように一回一回の授業を大切に授業に臨んで欲しい。また、授業ごとに展開が進んでいくために、一回の授業で学んだことを確実に身につけて欲しい。</p> <p>介護総合演習Ⅲの授業で行なわれる内容(すなわち実践)につなげていけるように学んで欲しい。</p> <p>グループワークへの積極的な参加とチームケアを意識したグループワークの実践が行えるように進めて欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「生活支援における介護過程の展開方法について①」 生活支援における介護過程の展開の方法(アセスメント、課題分析、課題・ニーズの把握、計画の立案、評価)について概略的に学習をする。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。介護過程の展開の具体的方法を考える。
		事後学習	介護過程の展開の方法を整理する。
第 2 回	テーマ「生活支援における介護過程の展開方法について②」 介護過程の展開を具体的にこなせるよう、グループ演習を行いながら理解を深めていく。	事前学習	介護過程の展開の具体的方法を考える。
		事後学習	介護過程の展開の具体的方法授業の内容を踏まえて整理する。
第 3 回	テーマ「起居動作における活動過程」① 生活活動の起居における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの起居動作を振り返る。
		事後学習	起居動作の活動展開を整理する。
第 4 回	テーマ「起居動作における活動過程」② 生活活動の起居における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	起居動作の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 5 回	テーマ「移乗・移動における活動過程」① 生活活動の移乗・移動における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの移乗・移動を振り返る。
		事後学習	移乗・移動の活動展開を整理する。
第 6 回	テーマ「移乗・移動における活動過程」② 生活活動の移乗・移動における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	移乗・移動の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 7 回	テーマ「着脱衣における活動過程」① 生活活動の着脱衣における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの着脱衣を振り返る。
		事後学習	着脱衣の活動展開を整理する。
第 8 回	テーマ「着脱衣における活動過程」② 生活活動の着脱衣における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	着脱衣の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。

	作成する。		
第 9 回	テーマ「排泄における活動過程」① 生活活動の排泄における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの排泄を振り返る。
		事後学習	排泄の活動展開を整理する。
第 10 回	テーマ「排泄における活動過程」② 生活活動の排泄における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	排泄の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 11 回	テーマ「入浴・清潔における活動過程」① 生活活動の入浴・清拭における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの入浴・清潔を振り返る。
		事後学習	入浴・清潔の活動展開を整理する。
第 12 回	テーマ「入浴・清潔における活動過程」② 生活活動の入浴・清拭における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	入浴・清潔の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 13 回	テーマ「食事(摂取)における活動過程」① 生活活動の食事(摂取)における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの「食事(摂取)を振り返る。
		事後学習	「食事(摂取)の活動展開を整理する。
第 14 回	テーマ「食事(摂取)における活動過程」② 生活活動の食事(摂取)における一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	「食事(摂取)の活動展開計画を考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 15 回	テーマ「整容・口腔ケアにおける活動過程」 生活活動の整容・口腔ケアにおける一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの整容・口腔ケアを振り返る。
		事後学習	整容・口腔ケアの活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 16 回	テーマ「食事に関わる活動過程」 生活活動の食事に関わる調理、片付け等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	生活支援技術Ⅱの食事を振り返る。
		事後学習	食事の活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 17 回	テーマ「衣・居に関わる活動過程」 生活活動の衣類の洗濯、掃除等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理し、グループで計画書を作成する。	事前学習	衣・居住環境について考える。
		事後学習	活動展開における生活活動の衣類の洗濯、掃除等の一連の活動(動作)について、実技・演習を通して活動過程を整理する。
第 18 回	テーマ「認知症に関わる支援過程」① 認知症の症状や活動(行動)に対して、実技・演習を通して支援過程を整理する。	事前学習	認知症の症状・特性について考える。
		事後学習	認知症の症状について整理する。
第 19 回	テーマ「認知症に関わる支援過程」② 認知症の症状や活動(行動)に対して、実技・演習を通して支援過程を整理した内容を基にグループで計画書を作成する。	事前学習	認知症の支援について考える。
		事後学習	計画書を作成し提出する。
第 20 回	テーマ「その他の支援過程」 その他、服薬、金銭管理、外出等の生活の場面における活動(動作)について、実技・演習を通して支援過程を整理し、計画書を作成する。	事前学習	IADL等の活動展開を考える。
		事後学習	IADL等の活動展開を整理して計画書を作成し提出する。
第 21 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して① 事例を読む、事例内容を確認する。	事前学習	事例を読み内容について考える。
		事後学習	事例の内容の整理を行う。
第 22 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して② アセスメントを行う。情報の収集・整理を行う。	事前学習	事例アセスメントについて考える。
		事後学習	事例のアセスメントの整理を行う。
第 23 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して③ 課題分析を行う。	事前学習	事例の課題分析について考える。
		事後学習	事例の課題分析の整理を行う。
第 24 回	テーマ「生活全般における介護過程の展開」紙上事例を通して④ 課題・ニーズの抽出・整理を行う。	事前学習	事例の課題・ニーズについて考える。
		事後学習	事例の課題ニーズの整理を行う。
第 25 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」① 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズの抽出・整理までを発表する。	事前学習	自らが実践した介護過程の展開の発表の準備。
		事後学習	授業内で検討したものを整理する。
第 26 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」② グループにおいて見直しの検討を行うと共に自分自身の課題を明らかにする。	事前学習	課題を明確にする。
		事後学習	授業内で検討した課題を整理する。
第 27 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」③ グループにおいて見直しの検討を行うと共に自分自身の課題を明らかにする。自分自身の目標も明らかにする。	事前学習	目標を考える。
		事後学習	授業内で検討した目標を整理する。
第 28 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」④ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズについて明確にし、修正を行なう。	事前学習	他学生の展開について考える。
		事後学習	授業内で検討した課題・ニーズを修正する。
第 29 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」⑤ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズから支援の方法を検討する。	事前学習	自らが実践した介護過程の支援の方法を考える。
		事後学習	授業内で検討した支援の方法を整理する。
第 30 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開振り返る」⑥ 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズから支援の方法を検討した内容を発表する。	事前学習	支援の方法について発表の準備。
		事後学習	発表した内容についての修正を行なう。

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習 I (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2163
2. 授業担当教員	荻野 基行			
4. 授業形態	講義 演習 (カンファレンス グループワーク ロールプレイング)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	介護実習 I の配属要件を満たしていること			
7. 講義概要	<p>実習の意義と目的を解説し、実習の目標を明確にすることで、主体的に実習に取り組めるように準備を進めていく。また実習に必要な記録の書き方、コミュニケーション、施設や職員、利用者等について学習する。カンファレンスについては、その進め方、司会・書記・メンバーの役割を学習し、テーマに沿った有意義なカンファレンスが行えるようにする。</p> <p>実習をイメージした実践的なコミュニケーションを身につけられるようにロールプレイング等を行い、コミュニケーション能力を高めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と重要性を理解し、説明することができる。 2. 実習 I の目的を理解する。 3. 実習 I の目標、実習内容を明確にする。 4. 実習施設の概要 (施設、職種、利用者) について理解する。 5. 実習記録の書き方を理解する。 6. 実践的なコミュニケーション能力を身につける。 7. カンファレンスの進め方、役割を理解する。 8. テーマに沿ったカンファレンスが実践できる。 9. 実習における個人情報保護について理解する。 10. 介護福祉士の倫理について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメント 模擬実習日誌・プロセスレコードの記入 レポート課題 (テーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「介護実習で何を学ぶか」 2. 「実習施設の概要」 3. 「他職種の概要」 <p>その他、実習課題のファイルに沿って、授業で指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『介護総合演習・介護実習』中央法規出版 「介護実習の手引き」 (授業で配付)</p> <p>【参考書】『介護総合演習』メジカルフレンド社</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 50%</p> <p>提出物・レポート 50%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>効果的な実習を行うために重要な科目である。授業には真剣にとりくむこと。授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止。わからないことはそのままにせず必ず質問をして理解すること。随時テーマにそった模擬カンファレンスを行う。授業中の態度や理解度、欠席状況によっては、実習の配属を見合わせることもある。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 介護総合演習の位置づけ・目的	事前学習	テキスト pp.2~11 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp.2~11 の重要語句をおぼえ、「介護総合演習の位置づけ・目的」についてまとめる。	
第 2 回	介護実習の意義と目的	事前学習	テキスト pp.14~21 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 14~21 の重要語句をおぼえ、「介護実習の意義と目的」についてまとめる。	
第 3 回	介護実習の種類	事前学習	テキスト pp.22~35 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 22~35 の重要語句をおぼえ、「介護実習の種類」についてまとめる。	
第 4 回	介護実習前に何を学ぶべきか 【レポート 1】	事前学習	テキスト pp.37~42 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 37~42 の重要語句をおぼえ、「介護実習前に何を学ぶべきこと」についてまとめる。	
第 5 回	事前学習の内容と方法	事前学習	テキスト pp.46~61 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 46~61 の重要語句をおぼえ、「事前学習の内容と方法」についてまとめる。	
第 6 回	実習記録や日誌のまとめ方① 【アサイメント 1】	事前学習	テキスト pp.62~64、「実習の手引き」 p.14 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 62~64 の重要語句をおぼえ、「実習記録や日誌のまとめ方」についてまとめる。	
第 7 回	実習記録や日誌のまとめ方②	事前学習	実習で使用する日誌を実際に記入する。	
		事後学習	実習日誌の書き方を整理する。	
第 8 回	利用者との出会い、その暮らしを知る介護実習	事前学習	テキスト pp.159~173 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 159~173 の重要語句をおぼえ、「利用者との出会い、その暮らしを知る介護実習」についてまとめる。	

第 9 回	介護技術の実践を軸にした介護実習	事前学習	テキスト pp.174～184 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 174～184 の重要語句をおぼえ、「介護技術の実践を軸にした介護実習」についてまとめる。
第 10 回	家族、近隣、地域にも目を向ける介護実習	事前学習	テキスト pp.185～198 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 185～198 の重要語句をおぼえ、「家族、近隣、地域にも目をむける介護実習」についてまとめる。
第 11 回	実習施設の概要の理解①	事前学習	テキスト pp.74～154 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	調べた内容をまとめる。
第 12 回	実習施設の概要の理解② 【レポート 2】	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	実習施設の特徴を整理する。
第 13 回	他職種の理解①	事前学習	職種についての資料を準備する。
		事後学習	調べた内容をまとめる。
第 14 回	他職種の理解② 【レポート 3】	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	職種の役割と連携について整理する。
第 15 回	個人情報保護・感染症予防・まとめ	事前学習	実習の手引き pp.28～49 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	介護総合演習 I の学びを整理する。

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SNMP3165
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「介護実習Ⅱ」の配属要件を満たしていること		
7. 講義概要	<p>介護実習Ⅱの目的を解説し、学生個々の実習目標、実習内容、実習計画を作成する。 実習課題であるアセスメントをスムーズに行うために、事例を基に、実習で使用するアセスメント用紙に記入し、アセスメントを具体的に理解する。 介護技術については、ロールプレイング等を行い、より実践的に準備を進めていく。 実習終了後は、実習での学びや経験を共有できるよう、グループワークやカンファレンスを行い、施設で生活する利用者についての理解を深める。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅱの目的（施設で生活する利用者を理解し、利用者を支える職種の役割と連携、基本的な介護技術を学ぶ）を理解し、説明することができる。 2. 介護実習Ⅱの実習目標を明確にする。 3. 実習で必要となる介護技術についての手順が言える。 4. アセスメント用紙に情報を整理できる。 5. 介護実習Ⅱの学びや経験を共有する。 6. 施設で生活する利用者について説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題の他職種の理解についての事前学習 2. アセスメント用紙の書き方①～⑥では、適宜提出を求める。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 介護実習の手引き 【参考書】 『ICF 国際生活機能分類』中央法規。		
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 提出物 50%		
12. 受講生への メッセージ	効果的な実習を行うために重要な科目です。授業には真剣に取り組んでください。 授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止します。 わからないことはそのままにせず、必ず質問をして、理解してください。 授業の理解度、参加態度、出席状況によっては、実習Ⅱの配属を見合わせる場合があります。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 授業概要の説明 介護実習Ⅱの概要、目的、目標の説明 実習目標、実習内容、実習計画の明確化 自分自身の実習目標、実習内容、実習計画を記入する アサイメント1	事前学習	実習の手引き pp.6～7 を読み、実習Ⅱの概要をつかんでおく
		事後学習	アサイメント1
第2回	他職種の理解 他職種（医師、看護師、栄養士、理学・作業療法士、言語聴覚士、生活相談員）について調べ、理解を深めたいことを明確にする。他職種の役割と連携と協働について学習する。	事前学習	他職種についての資料を準備
		事後学習	他職種役割を整理する
第3回	「介護技術の手順」の書き方 実習中に記載する介護技術の手順の書き方を学ぶ 実習施設の理解 施設の概要（法的根拠、設置目的、サービス内容、職員の配置、利用者の特性）	事前学習	実習施設のパンフレット等の準備
		事後学習	実習施設の概要を記載
第4回	アセスメント用紙の書き方① ICF をもとにしたアセスメント用紙について解説する。 アセスメント項目それぞれの内容と視点、関連について解説する	事前学習	アセスメントについて復習する
		事後学習	情報収集の留意点をまとめる
第5回	アセスメント用紙の書き方② 事例を基にして、実習で使用するアセスメント用紙に情報の整理を行う	事前学習	情報収集の枠組みを復習しておく
		事後学習	情報の内容を整理する
第6回	アセスメント用紙の書き方③ 事例を基にして、実習で使用するアセスメント用紙に情報の整理を行う	事前学習	アセスメントについて復習しておく
		事後学習	情報を整理する
第7回	アセスメント用紙の書き方④ 事例を基にして、実習で使用するアセスメント用紙に情報の分析を記入する	事前学習	分析方法を復習する
		事後学習	用紙の書き方のポイントをまとめる
第8回	アセスメント用紙の書き方⑤ 事例を基にして、実習で使用するアセスメント用紙に情報の分析を記入する	事前学習	分析方法を復習する
		事後学習	用紙の書き方のポイントをまとめる
第9回	アセスメント用紙の書き方⑥	事前学習	分析方法を復習する

	事例を基にして、実習で使用するアセスメント用紙に情報の分析を記入する	事後学習	用紙の書き方のポイントをまとめる
第 10 回	利用者の生活のニーズと課題の理解 生活のニーズと課題、優先順位の決定について解説し、実習で使用する「課題のリスト」に記入する。	事前学習	生活のニーズとは何か 復習しておく
		事後学習	課題のリストの書き方のポイントをまとめる
第 11 回	実習直前オリエンテーション 実習課題、実習の留意点、諸注意の確認 実習レポートの書き方を学ぶ	事前学習	実習の手引き pp.23～27 を読み、事前訪問について確認しておく
		事後学習	実習の手引き pp.47～48 を読み、介護福祉士の倫理について確認しておく
第 12 回	登校日 実習経過 実習内容についての確認と指導	事前学習	アセスメントを整理しておく
		事後学習	巡回教員からの指導内容を振り返る
第 13 回	介護実習Ⅱの振り返り① 介護実習Ⅱで感じたこと、考えたこと、学んだことを各自書き出し、グループでまとめ発表する。	事前学習	提出物の整理
		事後学習	発表を聞いて、感じ・考え・学んだことを整理する
第 14 回	カンファレンスの準備 カンファレンスの進行計画書と事前の資料の準備を行う	事前学習	実習の手引き pp.32～33 を読み、カンファレンスについて復習しておく
		事後学習	カンファレンスの資料の整理
第 15 回	カンファレンス テーマ：施設での利用者の生活について	事前学習	カンファレンスのテーマについて自分の考えをまとめておく
		事後学習	カンファレンスで感じ・考え・学んだことを整理する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習 V (2 単位)	3. 科目番号	SNMP4167
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	介護実習Ⅲをふまえて、介護過程の振り返りを行なう。また、全ての介護実習を終えて、介護福祉士としての介護実践の振り返りを行なう。また、介護福祉士の国家資格保有者として知識・技術についての習熟度について、各自振り返り、介護実践現場に出るための備えになるように授業を展開する。		
8. 学習目標	1.介護実習Ⅲを振り返り、介護過程の展開を確実に進めるようにする。 2.介護福祉士として理論と実践の確立を図ることができる。 3.介護福祉士として、実践の目的、根拠について文章で説明ができる。 4.介護福祉士の役割、倫理観等について、自ら説明ができる。 5.資格取得時の到達目標について自ら評価し、課題を克服し、目標達成できるようにする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	1.介護実習Ⅲの介護過程について発表できるようにレジメを作成。 2.介護実践の目的、根拠についてレポートにまとめる。 3.介護福祉士の役割、倫理等についてレポートにまとめる。 4.介護福祉士のあるべき姿と自分の課題についてレポートを作成する。 5.レジメの作成、発表のできるようにする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】使用しない。必要な資料は適宜配布する。 【参考書】東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	授業へ態度・発表・発言等 50% レポートの提出・評価 50% 欠席・遅刻・早退、レポートの提出の遅れについては減点する。		
12. 受講生への メッセージ	4年次の介護福祉コースの最後の科目であることから、大学卒業の介護福祉士として、卒後において高い評価が受けられる人材として、各自が総まとめを行なって欲しい。		
13. オフィスアワー	決まり次第通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業の概要説明を行なう。 介護実習Ⅲの介護過程について、発表レジメの作成を行なう。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	発表レジメを作成して、期日までに提出する。
第 2 回	「介護過程の展開について発表及び質疑応答①」 介護実習Ⅲで行なった介護過程について発表する。 質疑を受けながら、自らの実践の課題を明らかにする。また、今後の改善すべき事項について具体的に考えまとめて発表する。	事前学習	介護過程の実践について発表の準備を行なう。
		事後学習	発表、質疑応答後、自らの介護過程の実践を具体的に振り返る
第 3 回	「介護過程の展開について発表及び質疑応答②」 介護実習Ⅲで行なった介護過程について発表する。 質疑を受けながら、自らの実践の課題を明らかにする。また、今後の改善すべき事項について具体的に考えまとめて発表する。	事前学習	介護過程の実践について発表の準備を行なう。
		事後学習	発表、質疑応答後、自らの介護過程の実践を具体的に振り返る
第 4 回	「介護過程の展開について発表及び質疑応答③」 介護実習Ⅲで行なった介護過程について発表する。 質疑を受けながら、自らの実践の課題を明らかにする。また、今後の改善すべき事項について具体的に考えまとめて発表する。	事前学習	介護過程の実践について発表の準備を行なう。
		事後学習	発表、質疑応答後、自らの介護過程の実践を具体的に振り返る
第 5 回	「介護過程の展開について発表及び質疑応答④」 介護実習Ⅲで行なった介護過程について発表する。 質疑を受けながら、自らの実践の課題を明らかにする。また、今後の改善すべき事項について具体的に考えまとめて発表する。	事前学習	介護過程の実践について発表の準備を行なう。
		事後学習	発表、質疑応答後、自らの介護過程の実践を具体的に振り返る
第 6 回	「介護過程の展開について発表及び質疑応答⑤」 介護実習Ⅲで行なった介護過程について発表する。 質疑を受けながら、自らの実践の課題を明らかにする。また、今後の改善すべき事項について具体的に考えをまとめて発表する。	事前学習	介護過程の実践について発表の準備を行なう。
		事後学習	発表、質疑応答後、自らの介護過程の実践を具体的に振り返る
第 7 回	「介護福祉士の専門職としての振り返り①」 全ての介護実習を通して、自らの介護福祉士としての知識・技術を振り返る。振り返りシートを使用し、自らの介護福祉士の専門職としての自己点検・自己評価を行い、課題及び具体的な改善内容、実施すべき点を明らかにする。レポートにまとめて次回の授業時に提出する。	事前学習	全ての介護実習を通して専門性を考える。
		事後学習	レポート作成。
第 8 回	「介護福祉士の専門職としての振り返り②」 レポートの内容について、要約して発表する。1人4分以内	事前学習	発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護福祉士の専門性を振り返る。
第 9 回	「介護福祉士の専門職としての振り返り③」 課題及び具体的な改善内容、実施すべき点について、取り組みを	事前学習	発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護

	行う。		福祉士の専門性を振り返る。
第 10 回	「介護福祉士の専門職としての振り返り④」 課題及び具体的な改善内容、実施すべき点について、取り組みを行った結果について、まとめ発表する。	事前学習	発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護福祉士の専門性を振り返る。
第 11 回	「介護福祉士の役割、倫理観等について①」 これまで学んできた全てのことをふまえて、「介護福祉士とは、介護福祉士の役割、倫理等」について、グループ討議を行う。グループ毎に発表してもらおう。次回の授業時までにレポートにまとめて提出する。	事前学習	介護福祉士の役割、倫理観等について考える。
		事後学習	レポート作成。
第 12 回	「介護福祉士の役割、倫理観等について②」 レポートの内容について、要約して発表する。1人4分以内	事前学習	レポートの要約と発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護福祉士の役割、倫理等を整理する。
第 13 回	「資格取得時の到達目標について①」 資格取得時の到達目標について自ら評価し、課題を明確にし、克服するための方法も具体的にし、目標達成できるようにする。「介護福祉士のあるべき姿と自分の課題」についてレポートを作成し、次回授業時に提出する。	事前学習	資格取得時の到達目標について考える。
		事後学習	レポート作成。
第 14 回	「資格取得時の到達目標について②」 レポートの内容について、要約して発表する。1人8分	事前学習	発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護福祉士の資格取得時の到達目標を振り返る。
第 15 回	「資格取得時の到達目標について③」 レポートの内容について、要約して発表する。1人8分	事前学習	発表の準備。
		事後学習	自らの発表、他学生の発表から介護福祉士の資格取得時の到達目標を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	介護福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4223
2. 授業担当教員	岡田 稔、荻野 基行、山下 喜代美		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	大学卒業の介護福祉士国家資格保有者として、介護実践の現場に出ることから、介護実践の中で専門的知識・技術を深めていけるように介護の専門分野を深められるように、学生が自ら、深めたい知識・技術について教員と個別の学習内容について、相談しながら授業を展開していく。授業終了時においては、深めた知識・技術について発表の機会を設けていく。		
8. 学習目標	1.各自が目標に挙げた知識・技術の習得ができる。 2.介護福祉士として実践現場で活用できる知識・技術を身につけることができる。 3.実践現場においても、継続して実践研究を続けることができる方法を身につける。 4.実践研究をまとめら、発表できる力を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①認知症高齢者への対応と接し方について ②高齢者虐待の現状と背景について ③障害者の特性をふまえた上で対応方法について ④レクリエーションの意義と活用について		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 知識・技術の中で深めていきたい科目で使用したものを中心に使用する。 【参考書】 各自が学びたい内容に合わせて、授業の中で教員が紹介する。 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』		
11. 成績評価の方法	授業への取り組む姿勢 40% まとめの内容及び発表 60%		
12. 受講生への メッセージ	卒業年次であることから、介護の実践現場に出る前に大学卒業の介護福祉士国家資格保有者として、自らが深めたい知識・技術が習得できるように取り組んで欲しい。また、実践現場に出ても継続して、実践研究が取り組めるように研究の方法、まとめ方、発表の方法についても身につけて欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	各自が学びたい知識・技術について学習計画を教員の指導を受けながら立てる。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	学習計画に沿った準備
第 2 回	学習計画に沿った授業展開① 講義 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 3 回	学習計画に沿った授業展開② 講義 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 4 回	学習計画に沿った授業展開③ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 5 回	学習計画に沿った授業展開④ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 6 回	学習計画に沿った授業展開⑤ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 7 回	中間報告会を行い、発表する。	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表において、質疑応答の内容の整理
第 8 回	中間報告会でアドバイスを受けた事項について、教員より指導を受けて、計画に沿って学ぶ。	事前学習	発表後の学習内容の修正
		事後学習	指導を踏まえた学習内容の整理

第 9 回	学習計画に沿った授業展開⑥ 講義 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 10 回	学習計画に沿った授業展開⑦ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 11 回	学習計画に沿った授業展開⑧ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 12 回	学習計画に沿った授業展開⑨ 演習 認知症高齢者への対応と接し方について理解を深めていく。 高齢者虐待の現状と背景について理解を深めていく。 障害者の特性をふまえた上で対応方法について理解を深めていく。 レクリエーションの意義と活用について理解を深めていく。	事前学習	各自があげた学習計画に沿った授業の準備
		事後学習	授業の指導内容を踏まえて、学習内容の整理を行う
第 13 回	発表に向けて、レジメの作成を行う。	事前学習	レジメを考える
		事後学習	レジメの作成
第 14 回	発表に向けて準備を行う。	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容の修正
第 15 回	発表会にて発表を行い、評価をうける。	事前学習	発表の準備
		事後学習	各自があげた学習計画の評価

1. 科目名 (単位数)	介護リハビリテーション論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3104
2. 授業担当教員	澤口 彰子			
4. 授業形態	講義:介護実習での自体験例のロールプレイやビデオ画像に基づいた実習などを組み入れ、発表や討論などによる活気ある授業形態		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学」を履修していることが望ましい。 特に骨、筋肉・腱、神経が関係する運動生理を学んでいると勉学に役立つ。			
7. 講義概要	介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法により定められた介護・福祉分野の専門職である。「専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うこと」と定義されている。身の回りの世話をするだけの介護から、高齢者や障害者等の生き方や生活全体にかかわることで、利用者の暮らしを支え、自立に向けた介護を家族と共に実践することへと変わってきている。これからの介護福祉士は、国民の福祉サービスの充実・向上の中心的役割を担っている資格者として、(1)豊かな感性、(2)洞察力・情報分析能力、(3)介護目標・計画の立案能力等が厳しく求められる。またチームケアの一員として高い評価が得られるよう努力することが必要とされる。本科目では、事例をまじえて授業をおこない、専門的な介護福祉士を目指して、知識や技術、チームワークにおける評価等が身につくように学習する。			
8. 学習目標	1. 介護技術を行うには必須である「人体のなりたちとはたらき」を理解し、簡単に説明することができる。 2. 介護リハビリテーションの定義と種類を理解し、説明することができる。 リハビリとは?理解しなければ介護福祉士に不適切となる。 3. 介護保険と介護リハビリテーションとの関連を理解し、説明することができる。 4. 介護支援専門員(ケアマネジャー)について説明することができる。 5. ケアプランについて理解し、介護の目標および計画や他職種との連携の立案ができる。 実践において、最大の必要項目である。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	次の症例の介護について独創的な見解を述べる。(手書き 1200 字以内、イラストを入れてよい、提出日厳守) 症例として、10 題:パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、てんかん、脊髄小脳変性症、慢性閉塞性肺疾患、イレウス、糖尿病、せん妄、白癩 グループで 1 題選定			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高瀬 義昌『介護のための医学知識ハンドブック』改訂版 ナツメ社、2013 年。 【参考書】澤口彰子・他『人体のしくみとはたらき』朝倉書店、2015 年。大熊由紀子『物語介護保健』岩波書店、2014 年。			
11. 成績評価の方法	課題レポート 30% 授業態度 (机の上:食物、携帯機器、化粧品用具、カバン・衣類は不可。ノート、筆記用具、教科書・参考書、メガネ、ティッシュは可。私語、他授業のレポート作成、レポート提出及び提出日不履行は厳禁。トイレや遅刻は原則として減点) 30% 期末試験 40%			
12. 受講生へのメッセージ	授業から(1)豊かな感性、(2)洞察力・情報分析能力、(3)介護目標・計画の立案能力を学び取ろう。そのためには、真摯な態度で自ら学習し、レポート作成能力を高め、またグループ学習での討論や発表能力に磨きをかけ、自信をもって介護に取り組んでください。			
13. オフィスアワー	木曜日午後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 介護リハビリテーションのねらいと単元の解説、 グループ編成	事前学習	介護リハビリテーションの学習用マイノートを準備し、講義に臨むこと	
		事後学習	介護リハビリテーションのねらいについてノートにまとめる	
第 2 回	介護リハビリテーションとは 介護リハビリテーションの種類と他職種との連携等の解説	事前学習	リハビリテーションについて、マイノートに調べておく	
		事後学習	介護リハビリテーションを行うに当たって何故他職種との連携が必要か	
第 3 回	介護技術の施行に必須な人体の構造と機能の理解 循環器系、呼吸器系、脳神経系の構造・機能と介護技術への応用	事前学習	テキスト循環器系の解剖と機能の要点をマイノートにまとめておく。	
		事後学習	呼吸器の機能はどのように介護リハビリテーションに応用されるか	
第 4 回	バイタルサインの読み方 体温、血圧、呼吸、脈拍、意識レベル	事前学習	バイタルサインの意味?マイノートに調べておく	
		事後学習	自分のバイタルサインの測定値と異常値をマイノートにまとめる	
第 5 回	介護保険とは 介護保険と介護リハビリテーションとの関連	事前学習	介護保険について、マイノートに調べておく	
		事後学習	介護保険と介護リハビリテーションについて、400 字前後にまとめ、提出	
第 6 回	介護の現場でよくみられる疾患・病態 1. 脳・神経の疾患・病態 脳血管疾患、高次脳機能障害	事前学習	神経系の構造と機能をマイノートにまとめておく	
		事後学習	高次脳機能障害の人に対する介護リハビリテーションについてまとめておく	
第 7 回	認知症の介護から学ぶ 認知症の種類と症状	事前学習	認知症ケアに際して心がけることは?	
		事後学習	中心症状と周辺症状を理解し、転倒等の事故との関	

	転倒・転落、事故の予防と応急処置		連を述べる事が出来る
第 8 回	2. 骨折の疾患・病態 脊柱管狭窄症、関節リウマチ、変形性膝股関節症	事前学習	介護の現場では、どこを骨折した人が多いか。マイノートに調べておく
		事後学習	骨折と骨粗鬆症との関係、腰痛や膝関節痛と脊柱管狭窄症、関節リウマチ、変形性膝股関節症との関係をマイノートにまとめる
第 9 回	3. 感覚器の疾患・病態 聴覚、視力障害、嚥下障害の介護リハビリテーション	事前学習	嚥下訓練はどうして必要なのか？ マイノートにまとめておく
		事後学習	高齢者の視力障害のうち、急激な症状がみられるのは？介護現場でどうしたらよいか 400 字にまとめ、提出
第 10 回	4. 循環器リハビリテーション 高血圧、低血圧、狭心症、心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症、不整脈、心不全	事前学習	バイタルサインの異常について、第 4 回のマイノートを見直しておく
		事後学習	心筋梗塞発症時の症状とバイタルサインの異常について説明することが出来、介護上の対応をまとめておく
第 11 回	5. 便秘、失禁の介護リハビリテーション 褥瘡の介護リハビリテーション	事前学習	高齢者になると、なぜ便秘、失禁が多くなるのかマイノートにまとめておく
		事後学習	褥瘡の介護リハビリテーションはなぜ重要か、マイノートにまとめる
第 12 回	6. その他高齢者に多い神経痛、麻痺、脱水、浮腫、起立性低血圧の介護リハビリテーション	事前学習	高齢者の脱水症はなぜ医療上重要なのか、400 字ぐらいにまとめて提出
		事後学習	起立性低血圧の介護リハビリテーションの要点を、マイノートにまとめる
第 13 回	グループ課題発表会 課題：認知症のケアから パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、てんかん、脊髄小脳変性症、慢性閉塞性肺疾患、イレウス、糖尿病、せん妄、白癩	事前学習	グループメンバーで発表の準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を A4 紙 1-2 枚にまとめて提出
第 14 回	グループ課題発表会 課題：介護から学ぶ パーキンソン病、筋委縮性側索硬化症、進行性核上性麻痺、てんかん、脊髄小脳変性症、慢性閉塞性肺疾患、イレウス、糖尿病、せん妄、白癩など介護から	事前学習	グループメンバーで発表の準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を 400 にまとめて提出
第 15 回	振り返り、介護リハビリテーションに向けての課題	事前学習	マイノートを振り返り、これまでの学びと考察をまとめておく
		事後学習	事前学習を参考にして、介護リハビリテーションに向けた自己課題を述べる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学 I (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2321
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	約 60 兆個の様々なタイプの細胞から構成される人間の身体を全体からみて、その構造 (解剖) と機能 (生理) をうまく関連して考える思考過程を学び、解剖生理学の基本的知識を習得する。 具体的には、表面に現れた各種症状の背景となる、「人体の中で何が起きているのか」、「次に何が起ころのか」、「どう対処すればよいのか」、「予防するにはどうすればよいのか」と考えることができるよう、基礎知識の習得を目標とする。			
8. 学習目標	以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 人体各部の名称とその位置を表す方向用語、および人体構造の構築 (細胞→組織→器官→器官系→個体) について学ぶ。 2. 筋系、骨格系の機能と神経支配について学ぶ。 3. 皮膚と体性感覚、頭部と特殊感覚について学ぶ。 4. 循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系の機能について学ぶ。 5. 体液 (細胞内液、細胞外液、血液、リンパ液)、体温とホメオスタシスについて学ぶ。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：人体の代表的器官をスケッチして各名称を入れる。 レポート課題：熱産生と熱放散のメカニズムによる体温調節と、熱中症、低体温症・凍傷の原因および対策について (1,000~1,200 字程度)。 <ポイント> 外界の温度・湿度などが変動しても身体の内部環境が一定に維持されていること (ホメオスタシス) が、生体機能を維持するために重要であり、この破綻が高体温症 (熱中症)、低体温症を引き起こすとの観点からまとめること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】澤口彰子他 (著)『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。 東京福祉大学 (編)『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学 (編)『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 【参考書】高野廣子 (著)『解剖生理学』南山堂。 上野正彦 (著)『解剖学はおもしろい』青春出版社。			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表・討論 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医学情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	人体の基本構造と特徴およびその機能 (基本的な名称)	事前学習	「解剖生理学 I」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	動物と人体の構造の類似点・相違点をまとめる。	
第 2 回	骨格系とその機能 (支持、保護、運動、造血、電解質の貯蔵)	事前学習	pp.108-109: 骨格系の構造を把握しておく。	
		事後学習	骨の機能と加齢に伴う部位別変化をまとめる。	
第 3 回	筋系とその機能 (運動、産熱)	事前学習	pp.108-109: 骨格筋の様々な種類とそれらの構造を調べておく。	
		事後学習	骨格筋の収縮調節機構、収縮のエネルギーについてまとめる。	
第 4 回	循環器系とその機能 (心臓の自動能、血圧)、主な心臓病 (虚血性心疾患)、AED について	事前学習	pp.120-125: 心臓・血管系の構造、血流を調べておく。	
		事後学習	簡単な実験の結果を踏まえて、自律神経による心臓・血管系の調節機構、血圧の調節についてまとめる。	
第 5 回	呼吸器系とその機能、主な病態 (肺炎、喘息)、喫煙との関係 (COPD)	事前学習	呼吸器系の構造を循環器系とを関連づけて調べておく。	
		事後学習	pp.30-39: 簡単な実験 (血中酸素分圧測定) の結果を踏まえて、呼吸の生理機構とその意義をまとめる。	
第 6 回	消化器系とその機能、主な病態 (嚥下障害、消化性潰瘍)	事前学習	pp.50-68: 消化器系の構造・器官を調べておく。	
		事後学習	消化器系器官の調節機序と代表的疾患の原因についてまとめる。	
第 7 回	泌尿器系、生殖器系とその機能、主な病態 (排	事前学習	pp.70-75: 泌尿器系・生殖器系の構造と部位を調べて	

	尿障害)		おく。
		事後学習	尿形成・排尿、排卵・射精の機序をまとめる。
第 8 回	内分泌系とその機能、主な病態（エストロジェンと骨粗鬆症）	事前学習	pp.134-135: 内分泌器官の名称とその部位・構造を調べておく。
		事後学習	代表的な内分泌疾患、特に性ホルモン異常についてまとめる。
第 9 回	中枢神経系とその機能、主な病態（発達障害など）	事前学習	pp.14-17: 神経細胞の特徴について調べておく。
		事後学習	脳・脊髄の構造と機能分化、機能障害についてまとめる。
第 10 回	自律神経系とその機能、主な病態の日内変動について	事前学習	pp.126-133: 交感神経・副交感神経の解剖学的特徴を調べておく。
		事後学習	交感神経・副交感神経の機能を踏まえて、代表的な疾患の日内変動についてまとめる。
第 11 回	体液・血液とホメオスタシス	事前学習	pp.141-142: 体液・血液の成分について調べておく。
		事後学習	体液・血液の恒常性（ホメオスタシス）維持機構についてまとめる。
第 12 回	体温とその調節、主な病態（低体温症、熱中症、凍傷）	事前学習	事前配付資料を読み、加えて自分の体表面温度分布を、部位と時刻を変えて測定しておく。
		事後学習	体温調節機構、発熱・解熱の機序をまとめる。
第 13 回	体性感覚と特殊感覚、主な病態（感覚異常）	事前学習	感覚の種類を把握しておく。
		事後学習	pp.18-25, pp.116-119: 五感について、感覚受容器と感覚野の関係から、代表的な感覚異常についてまとめる。
第 14 回	課題レポート発表・討論	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題について口頭発表し、学生間でディスカッションをする。
第 15 回	まとめ	事前学習	口頭発表の内容を文章化する。
		事後学習	解剖生理学全般について質疑・応答の内容を含めてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	カウニングの基礎 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2180
2. 授業担当教員	新井 雅人		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	カウニングの土台となる人間の心のメカニズムについての考え方を理解し、実際のカウニング面接中に生起する様々な現象とカウニングのプロセスおよび展開について基礎的なことを学ぶ。また、カウニングの条件となる基本的な態度や面接技法について、討議や演習を通して実践的に理解する。		
8. 学習目標	1. カウニングの基本的な概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. カウニングの一般的なプロセスと展開について説明できる。 3. カウニングの基本的な理論と技法について理解し、説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書に沿い、理解度を確かめるためのレポートを 2 回課す予定である。 設題 1: 教科書掲載の架空のクライアントは、面接の中でどのような体験をしたのでしょうか。いくつかの節目があったと思います。あなたの言葉でまとめてください。 設題 2: 教科書掲載の架空のクライアントは、来談時と終結時をとりあげてくると、何が変わったのでしょうか。あなたの言葉でまとめてください。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】丸田俊彦『サイコセラピー練習帳 グレーテルの宝探し』岩崎学術出版社 【参考書】東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房 河合隼雄『カウニングの実践問題』誠信書房 門前進『イメージ自己体験法 心を味わい豊かにするために』誠信書房		
11. 成績評価の方法	レポート、提出課題 50% 授業への参加態度 50%		
12. 受講生への メッセージ	1. 講義中は良く聞き良く考え、そして復習すること。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚（センス）を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守る。宿題（アサイメント）は指示された期限までに必ず行うこと。レポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為（私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）を慎むこと。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション カウニングとは	事前学習	教科書 pp.1~16 を読んでおく
		事後学習	「カウニングとは」についての配付資料の理解を深める
第 2 回	カウンセラーの基本的態度 共感について	事前学習	教科書 pp.17~34 を読んでおく
		事後学習	共感についての配付資料の理解を深める
第 3 回	面接室の設定、枠 カウニングの流れ	事前学習	前回配布の配布資料を読んでおく
		事後学習	カウニングの流れについての配付資料の理解を深める
第 4 回	インテーク（初回面接）	事前学習	教科書 pp.35~49 を読んでおく
		事後学習	インテークについての配付資料の理解を深める
第 5 回	カウニング・心理療法のオリエンテーション (流派) 諸派のこころのとらえ方、治療像の違い	事前学習	前回配布の配布資料を読んでおく
		事後学習	カウニングのオリエンテーションについての配付資料の理解を深める
第 6 回	面接継続へのモチベーション（治療動機と治療契約） 見立てと方針	事前学習	教科書 pp.50~61 を読んでおく
		事後学習	見立てについての配付資料の理解を深める
第 7 回	無意識の心理	事前学習	前回配布の配布資料を読んでおく
		事後学習	無意識についての配付資料の理解を深める
第 8 回	クライアントの理解	事前学習	前回配布の配布資料を読んでおく
		事後学習	クライアントの理解についての配付資料の理解を深める
第 9 回	自我の強さと治療同盟 環境調整、自我を支えるかかわり	事前学習	教科書 pp.62~71 を読んでおく
		事後学習	自我の強さと治療同盟についての配付資料の理解を深める
第 10 回	カウンセラーとクライアントの関係Ⅰ（転移） 転移性治療	事前学習	教科書 pp.72~80 を読んでおく
		事後学習	転移性治療についての配付資料の理解を深める
第 11 回	カウンセラーとクライアントの関係Ⅱ（逆転移） スーパーヴィジョンとケース検討会	事前学習	教科書 pp.81~103 を読んでおく
		事後学習	スーパーヴィジョンとケース検討会についての配付資料の理解を深める
第 12 回	抵抗と防衛、操作 カウニングの終結	事前学習	教科書 pp.104~117 を読んでおく
		事後学習	終結についての配付資料の理解を深める
第 13 回	子どもとのカウニング プレイセラピー、並行面接	事前学習	教科書 pp.118~127 を読んでおく
		事後学習	子どもとのカウニングについての配付資料の理解を深める
第 14 回	青年期のカウニング カウニングにおける沈黙と自己開示、心理教育	事前学習	教科書 pp.128~135 を読んでおく
		事後学習	青年期のカウニングについての配付資料の理解を深める
第 15 回	病態水準によるカウニングの注意 まとめ	事前学習	教科書 pp.136~144 を読んでおく
		事後学習	病態水準についての配付資料の理解を深める

1. 科目名 (単位数)	カウンセリングの基礎 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2344 SNMP2344 SCMP2344 SBMP2344 PSMP2180
2. 授業担当教員	松坂 秀雄		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2 年次以上		
7. 講義概要	カウンセリングの土台となる人間の心のメカニズムについての考え方を理解し、実際のカウンセリング面接中に生起する様々な現象とカウンセリングのプロセスおよび展開について基礎的なことを学ぶ。また、カウンセラーの条件となる基本的な態度や面接技法について、討議や演習を通して実践的に理解する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本的な概念や用語を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. カウンセリングの一般的なプロセスと展開について説明できる。 3. カウンセリングの基本的な理論と技法について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	以下の設題のレポート課題を課する。 設題：教科書『カウンセリングの実際問題』の第5章「ひとつの事例」(113頁～148頁)を読んで、感じたこと、気づいたこと、学んだことについて1200字程度で述べなさい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 河合隼雄『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970 年。 【参考書】 渡辺三枝子『新版カウンセリング心理学』ナカニシヤ出版、2002 年。 国分康孝『カウンセリングの技術』精信書房、1979 年。 佐治守夫・岡村達也・保坂亨『カウンセリングを学ぶ』東京大学出版会、1996 年。		
11. 成績評価の方法	学習ノート 50% 課題レポート 50% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本授業の目的達成のために、受講生は以下の条件を守ることを。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 2. グループディスカッションや教員との対話を通して、カウンセリングにおける考える視点やセンスを手に入れることを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守ることを。宿題（アサイメント）は指示された期限までに必ず行うこと、及びレポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為（私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）をつつしむこと。（明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格に対処する。） 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 専門用語は分かりやすく説明し、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション カウンセリングとは何か（他の近接領域との違いを理解する。）	事前学習	自分がイメージするカウンセリングについて学習ノートに書き出す。
		事後学習	心理療法や臨床心理学との違いについて学習ノートにまとめる。
第 2 回	カウンセリングと言葉（言葉の性質について理解する。）	事前学習	言葉が持つ性質について考えたことを学習ノートにリストアップする。
		事後学習	言葉の性質について要点を学習ノートにまとめる。
第 3 回	カウンセリングの歴史的背景を理解する。	事前学習	19 世紀のヨーロッパ・アメリカの世界史の動向を調べ、学習ノートにまとめる。
		事後学習	現代におけるカウンセリングの歴史的必然性について学習ノートにまとめる。
第 4 回	聴くことに意味について学習する。対人援助の基本についても理解する。	事前学習	テキスト pp.2～12 を通読する。
		事後学習	「聴く」ことの意味について学習ノートにまとめる。
第 5 回	カウンセリングの過程Ⅰ（事例を通して、カウンセリング全体に起っていることを理解する。）	事前学習	テキスト pp.28～37 を通読する。
		事後学習	カウンセリングの意味について理解したことを学習ノートにまとめる。
第 6 回	カウンセリングの過程Ⅱ（初回面接の意義について理解を深める。）	事前学習	テキスト pp.38～47 を通読する。
		事後学習	初回面接の意義を学習ノートにまとめる。
第 7 回	こころの構造Ⅰ（自我の構造を理解する。）	事前学習	テキスト pp.52～58 を通読する。
		事後学習	自我の構造を学習ノートにまとめる。

第 8 回	こころの構造Ⅱ（自我防衛と自己実現について理解する。）	事前学習	テキスト pp.59～75 を通読する。
		事後学習	「自我防衛」と「自己実現」の意味について学習ノートにまとめる。
第 9 回	カウンセラーと態度と理論Ⅰ（カウンセリングが本来的に持つ、二律背反性について）	事前学習	テキスト pp.82～95 を通読する。
		事後学習	カウンセリングの二律背反性について学習ノートにまとめる。
第 10 回	カウンセラーと態度と理論Ⅱ（カウンセラーの基本的態度を学習する。）	事前学習	テキスト pp.5～107 を通読する。
		事後学習	カウンセラーの基本的態度の要点を学習ノートにまとめる。
第 11 回	カウンセラーとクライアントの関係（転移と逆転移について理解する。）	事前学習	テキスト pp.204～223 を通読する。
		事後学習	「転移」「逆転移」について理解したことを学習ノートにまとめる。
第 12 回	カウンセリングの中断と終結について理解する。	事前学習	テキスト pp.150～172 を通読する。
		事後学習	カウンセリングの中断の意味を学習ノートにまとめる。
第 13 回	カウンセラーの訓練について理解する。	事前学習	テキスト pp.178～195 を通読する。
		事後学習	カウンセラーの訓練について学習ノートにまとめる。
第 14 回	カウンセリングにおける並行面接のメリットと問題について理解する。	事前学習	公的な相談機関について調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	並行面接のメリットと問題について学習ノートにまとめる。
第 15 回	カウンセリングにおける沈黙と自己開示の意味について学習する。	事前学習	カウンセリングにおける沈黙の意味について考えたことを学習ノートにリストアップする。
		事後学習	カウンセリングにおける沈黙と自己開示の意味について学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3309
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義、実習など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小学校の家庭科の授業を行ううえで必要となる家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活、環境に関する基本事項について解説するとともに実習などを行い、専門的な知識および技能を身につけることを目的とした授業を展開する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の授業を担当するための必要な家政学・生活科学全般の基本的知識および技能を身に付ける。 2. 家庭科の学びの広さが具体的にわかり、自らの生活をみつめ改善を図ることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 小学校家庭科教育における基礎的知識理解の確認。 (家庭生活・衣・食・住生活に対する知識 1～4 を講義日程学習後に知識定着の確認をします。) 課題 2 「家庭科実習指導における配慮および留意点について」を論述文にする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社、平成 20 年 8 月。 古田豊子「小学校家庭科」指導法テキスト 開隆堂 2015 年 【参考書】内野紀子・藤原孝子編著『小学校新学習指導要領の展開 家庭科編』明治図書、2009 年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加 演習・実技作品	30% 20%	期末試験 (知識・理解・論述・表現) 50%
12. 受講生へのメッセージ	家庭科の授業にも自分の生活にも役立つ授業、家庭や社会的な事象に関心を持ち、自分なりの社会的価値判断力を身に付けるきっかけになる授業を行っていきたく願っています。さらに、H23 年度改訂の新学習指導要領の内容をしっかりと学習理解し、これからの小学校家庭科教育のあり方についての考察を通して、小学校家庭科指導者として基本的な生活態度を身に付けて欲しいと思います。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明(授業の進め方など) 家庭科の学習内容 学習目的、小学校において進められている教育理念の確認、実習時に対する準備の連絡。 学習指導要領変遷の概略について配布プリント	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し、臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。学習指導要領の改訂の概略と家庭科の変遷について理解しておく。
第 2 回	家庭科の教科目標・内容・学習内容区分の扱い方 H23 年改訂学習指導要領における基本方針について	事前学習	学習指導要領解説 pp.8～16 家庭科教科目標文言を中心に読んで授業に臨むこと。
		事後学習	H23 年改訂における学習内容項目について (p.6 を基に) 確認する。
第 3 回	A 領域 (家族・家庭の扱い) 家庭科における具体的な学習展開 知識確認 1 (教科目標)	事前学習	教科書 pp.4～5 「学習指導要領について」を読み、授業に臨むこと
		事後学習	学習内容項目「A 家庭生活と家族」pp.17～24 を読み、知識確認 1 「教科目標」を見直して確実な理解を図る。
第 4 回	C 領域 (衣服への関心 1) 衣服の洗濯 日常着の手入れ・洗濯 被服材料・繊維の性質について学ぶ。	事前学習	学習内容項目「C 快適な衣服と住まい」pp.37～40.15 行と教科書 pp.40～41 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	衣服扱い表示マーク、繊維の特徴について知識確認しておく。
第 5 回	C 領域 (衣服への関心 2) 衣服の役割 衣服の成り立ちについて小学生の発達段階を考え、C 領域 (1) の扱い方を構想する。 知識確認 2 (衣生活に関する基礎基本)	事前学習	衣生活に関する手入れ・繊維特徴などの理解と学習内容項目 C pp.37～40.15 行をまとめる。
		事後学習	知識確認 2 「衣生活に関する基礎基本」を見直して確実な知識定着を図る。
第 6 回	C 領域 (生活に役立つ小物の製作) 縫い方の基礎基本をつかって小物の製作に取り組む 実習	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。教科書 pp.36～39 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	自分の体験(小物製作実習)を振り返り、作品と C(3)について指導の配慮点をまとめ、提出する。
第 7 回	B 領域 (食事への関心 1) 社会変化とともに食生活の変化が見られることから食育における基礎を考えどんな学習が必要なのかを学ぶ。	事前学習	学習内容項目「B 日常の食事と調理の基礎」pp.25～36 を読み授業に臨むこと。
		事後学習	学習内容項目 B (pp.25～36) をまとめ、新しく入った内容のポイントを確認しておく。
第 8 回	B 領域 単元「米飯・みそ汁の調理」の指導の要点 子どもたちの立場にたって実習を行う	事前学習	小学校における米飯・みそ汁の調理の量・手順を確認する。実習身支度の準備をする。教科書 pp.26～31 を読み授業に臨むこと。

	実習	事後学習	実習を通して学んだことを基に米飯・みそ汁の調理の指導の要点をまとめ、提出する。
第 9 回	B 領域（食事への関心 2）簡単な調理の基礎 知識確認 3（食生活に関する知識）	事前学習	「B 日常の食事と調理の基礎」7 回授業の内容を中心に食生活に関する知識・理解を図る。教科書 pp.52～57 を読み授業に臨むこと。
		事後学習	知識確認 3「食生活」の見直し、確実な知識の定着を図る。
第 10 回	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開を題材構成や道徳との関わりから学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説第 3 章 pp.54～63 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	題材構成によって構想される単元の簡単な展開を作成する。
第 11 回	家庭科で実習指導を行う際に配慮すべき点について小物制作・調理実習の視点から安全を図る手立てにきづいていく。	事前学習	実習指導を行う際に配慮すべき点について学習指導要領解説 pp.58～60 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	課題 2「家庭科実習指導における配慮および留意点」についてまとめる。
第 12 回	D 領域（生活と環境 1）環境への配慮 快適な住まい 住まい方への関心について小学生の発達段階を考え、どんな意見が出るかなど予想し、消費教育の扱い方を学ぶ。	事前学習	学習内容項目「D 身近な消費生活と環境」pp.49～53 と教科書 pp.46～51 を読んで臨むこと。
		事後学習	学習内容項目「D 身近な消費生活と環境」の内容について消費教育の指導ポイントをまとめておく。
第 13 回	D 領域（生活と環境 2） 家庭科における環境教育の在り方と 知識確認 4（住生活に関する知識）	事前学習	12 回授業の内容を中心に消費生活環境における知識理解を図る。
		事後学習	知識確認 4「住生活」の見直し、確実な知識の定着を図る。
第 14 回	A 領域 家庭生活の工夫、家族・家庭生活・地域とのかかわりを活かすような教材工夫や内容構成について学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説 pp.60～62 を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	題材構成した単元に今回の授業内容を盛り込み、まとめておき、家庭科指導法の授業指導案作成に活かすように準備しておく。
第 15 回	ポスターセッション グループでテーマを決め、新聞の記事を基にまとめ発表する。	事前学習	H23 年改訂学習指導要領における内容区分領域・教科目標の復習をする。テーマを基に新聞資料を準備して授業に臨むこと。
		事後学習	知識確認 1～4 の復習をして定着を図る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	家庭 (2 単位)	3. 科目番号	JCEL3623	
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義、演習、実習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にす的心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることを目標としている。そこで、この授業では、今日の家庭科教育の特質と小学校家庭科が果たす役割について理解するとともに学習内容に対する知識の習得を図る。さらに、授業展開に活かすことのできる題材構成や教材選びの視点、学習指導の要点や留意点を学習していく。また、家族・家庭生活、衣生活、食生活、住生活に関する基本事項について解説するとともに簡単な演習・実習を行い、小学校家庭科が生活を総合的に捉えていることや生活を主体的に創る態度を目指していることに理解を深めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「家庭生活と家族」、「日常の食事と調理の基礎」、「快適な衣服と住まい」、「身近な消費生活と環境」に関する知識と技能を身に付ける。 2. 生活をよりよくしようとする実践的な態度とはどのようなものかを理解し、説明できる。 3. 教育課程の特徴を理解したうえで小学校家庭科の特質と役割を理解し、説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>小学校「家庭」についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを第 2 回～第 1 4 回の授業の事前学習とする。</p> <p>レポート課題については、授業内で告知・解説する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2008 ・『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版、2015 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京学芸大学附属小金井小学校『あすの授業アイデア チョイ引き活用事典』学事出版、2006 ・内野紀子『小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編』教育出版、2008 ・金子佳代子・藤原孝子『平成 20 年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり家庭』東洋館出版、2008 ・田中孝一『新評価規準を生かす授業づくり小学校編第 4 巻家庭科・体育科・特別活動』ぎょうせい、2011 ・日本家庭科教育学会『生きる力をそなえた子どもたち』学文社、2013 			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加	30%	期末試験 (知識・理解・論述・表現)	30%
	演習・実技作品	40%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>小学校で家庭科を学習する子どもはどのような実態なのか、子どもたちがどのような力を身に付けることが目標なのか、どのように題材を構成することで目標に迫ることができるのか、本科目で実感を伴って学んでほしいと考える。受講生の主体的な受講態度を期待している。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの説明(授業の進め方など) 家庭科の学習内容 学習目的、小学校において進められている教育理念の確認、実習時に対する準備の連絡	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し、臨むこと。	
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しをもつ。	
第 2 回	家庭科の目標、家庭科の内容構成	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.1-p.7 を読み、学習指導要領の改訂の概略について理解しておく。	
		事後学習	家庭科の目標について『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.8-p.13 を繰り返し読み、理解を確認する。	
第 3 回	家庭科の内容	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.53 で四角囲みになっている箇所を読み、家庭科の内容の構成について理解しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.53 を読み、家庭科の内容について理解を図る。	
第 4 回	指導計画の作成と内容の取扱い	事前学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.54-p.63 を読んでおく。	
		事後学習	学習指導要領で道徳教育について述べられている箇所を調べ、家庭科と道徳との関連についての理解を深める。	
第 5 回	A「家庭生活と家族」の学習展開 A「家庭生活と家族」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で A「家庭生活と家族」の内容を扱う題材を探しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.17-p.24 を繰り返し読み、理解を確認する。	
第 6 回	B「日常の食事と調理の基礎」の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で B「日常の食事と調理の基礎」の内容を扱う題材を探しておく。	
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.25-p.36 を読み、理解を	

			確認する。
第 7 回	B「日常の食事と調理の基礎」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で B「日常の食事と調理の基礎」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』p.25-p.36 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 8 回	実習の指導・米飯とみそ汁の調理(調理実習)	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.46-49 を読み、小学校における米飯・みそ汁の調理の量・手順を確認する。実習身支度の準備をする。
		事後学習	実習を通して学んだことを基に米飯・みそ汁の調理の指導の要点をまとめ、提出する。
第 9 回	家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.110 の図「栄養素のはたらきによる食品の分類」を確認し、栄養素の分類を理解する。
		事後学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.110 の図「栄養素のはたらきによる食品の分類」を確認し、栄養素の分類を覚える。
第 10 回	C「快適な衣服と住まい」の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で C「快適な衣服と住まい」の内容を扱う題材を探しておく。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を読み、理解を確認する。
第 11 回	C「快適な衣服と住まい」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で C「快適な衣服と住まい」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 12 回	手縫いの技能（被服製作実習）	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.18-24 を読み、小学校における手縫いの技能を確認する。裁縫用具の準備をする。
		事後学習	実習を通して学んだことを基に手縫いの技能指導の要点をまとめ、作品と合わせて提出する。
第 13 回	D「身近な消費生活と環境」の学習展開	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で D「身近な消費生活と環境」の内容を扱う題材を探しておく。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.49-p.53 を読み、理解を確認する。
第 14 回	D「身近な消費生活と環境」の要点	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』で D「身近な消費生活と環境」の内容を扱う題材の個所を読み、指導で留意すべき点を考える。
		事後学習	『小学校学習指導要領解説家庭編』 p.37-p.48 を繰り返し読み、理解を確認する。
第 15 回	家族・家庭生活・地域とのかかわりを活かす工夫	事前学習	『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 p.104-106 を読み、小学校の家庭科で学ぶ内容・教科目標の復習をする。
		事後学習	授業全体をふり返し、小学校「家庭」の内容についての理解を確認する。

1. 科目名 (単位数)	看護学 (救急処置を含む) (4 単位)	3. 科目番号	EDHE3313
2. 授業担当教員	面川 幸子		
4. 授業形態	ディスカッション・講義を中心に、グループワーク・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す学生が、本科目を学ぶことの意味を考えることから取り組んでいく。教師が、点数ではなく「その児童・生徒」をみるように、看護は病気をみるのではなく生きている「その人」をみる。また、看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、養護実践に不可欠な看護学的知識や技術を中心に学んでいく。</p> <p>養護教諭は、教諭自らの身を用いて、その児童・生徒が言葉とからだで表現しているサインを状況と共に意図的に読み取る。そして目の前にいる児童・生徒が、命の危険を伴うのか、休養を要するのか、医療を要するのかを判断しなければならない。その上で、児童・生徒が生を営んでいくための心身機能に支障を来たす危険性を最小限にするために、教諭の身を用いて必要な手当てをしなければならない。本科目では、このような判断や手当てに必要なフィジカルアセスメント、感染予防、移送、包帯法などの知識や技術と、児童・生徒によくみられる症状や状態に応じた基本的な対応について学んでいく。</p> <p>また人間は、外界から酸素や食物を取り入れ、エネルギーをつくり出し、活動し、休息し、不要物を外界へ排泄し、生きている。これらの生理的な働きが生活・人生の基盤となり、これを整えていくことが自己実現へとつながる。食事・活動・排泄等の生きるための行動に関して、生理的な働きを保つための援助としてのみではなく、よりよく生きるために、生活行動を自立し、自律的な望ましい生活習慣を確立していくための、健康教育に必要な基礎知識としても学習する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭を志す学生自らが、看護学を学ぶことの意味を見出し、記述することができるようになる。 2. フィジカルアセスメントに関する基礎的な知識と技術を学び、これに基づいた身体機能の評価方法を説明できるようになる。 3. 感染予防に関する基礎的な知識と技術を学び、「清潔」「不潔」の区別ができるようになる。 4. 食事・排泄・活動・睡眠の意義と自立、および自律的な生活習慣に向けた援助・支援に関する知識を学び、養護教諭の役割を見出して記述することができる。 5. 保健室の機能を活かす環境づくりに関する知識と技術を学び、実践することができるようになる。 6. 移動・移送・包帯法に関する知識と技術を学び、学生間で実践できるようになる。 7. 児童・生徒によくみられる症状・状態に応じた看護的対応に関して学び、代表的な症状・状態に対する対応について記述することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポート課題 1】「養護教諭として看護学を学ぶことの意味について自己の考えを述べよ」(800字程度)</p> <p>【レポート課題 2】「ヘルスアセスメントについての学びを述べよ」(800字程度)</p> <p>【レポート課題 3】「事例 2 ケースをあげ、救急処置について述べよ」(800字程度)</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。 2. 『保健室で役立つフィジカルアセスメント』監修 山内豊明 東山書房 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 2. 草川功監修・全養サ書籍編集委員会著『ここがポイント！学校救急処置 基本・実例、子どものなぜに答える』農文協。 		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極性、参加度、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極性・参加度・受講態度 30% 2. レポート提出状況 30% 3. レポートの内容 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>看護は病院で看護師によって行われるという狭義の看護ではなく、健康水準にある(健康な人をも対象とした)人々を対象に看護は行われているというように広義の看護であることを学習します。養護教諭は、学校現場において、教育的・医学的・看護学的知識・技能を有した専門職といわれています。子どもたち一人ひとりを尊重しながら、子どもたちと向き合い、総合的に対応できるアセスメント能力が求められます。みなさんの中で、看護というものがどのようなものであるかの理解を確認しつつ、双方向で授業を展開していきましょう。積極的参加度、受講態度、レポートの形で評価します。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業等)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>○オリエンテーション</p> <p>・カリキュラムにおける本科目の位置づけ</p> <p>・本科目の学習目標・学習内容の概要・学習方法</p> <p>【看護学総論】</p> <p>○非看護系大学における看護学について</p> <p>○看護学総論 ○看護職の倫理</p>	事前学習	教科書「はじめに」を読んだ上で、既習の知識と生活体験から、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味を考え、発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.2-5 を読み、授業内容の理解を深める。

第 2 回	○基礎看護論 ・看護の基礎 ○看護の機能と養護教諭 ○望ましい養護教諭とは（専門職としての資質能力）	事前学習	教科書pp.6-10 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を踏まえて、養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意義について考えを深めておく。
第 3 回	○看護行為の基本 ・コミュニケーション ・観察の目的 ・記録の重要性	事前学習	学校看護において、なぜ連携や協働が必要であるのか、自分なりの考えを発表できるようにしておく。教科書 pp.12-14
		事後学習	養護教諭を志す自分が看護学を学ぶことの意味について、自己の考えをまとめる。
第 4 回	○看護の過程 ・養護教諭の養護活動の過程 ・疾病の経過に伴う看護 ・児童生徒対象の病気の経過に対応して行われる援助	事前学習	教科書pp.16-23 の養護教諭の行う看護的対応の流れを理解しておく。
		事後学習	教科書等をみながら、特に自主的に取り組みたい学習課題について考えておく。
第 5 回	○健康診断 ・健康診断の目的 ・健康診断の法的根拠 ・健康診断の種類	事前学習	教科書pp.26-36を読み、健康診断が教育活動に関係が深いことを学ぶ。
		事後学習	健康診断の事後処置及び救急処置として頻度が高い疾病について深める。
第 6 回	○小児看護 ・小児看護の基礎知識（小児の健康と看護） ・小児各期の健康障害（幼児期・学童期）の理解 ・こころのケア（心的外傷ストレス、虐待、いじめ）	事前学習	教科書 pp.37-58 を読み、小児期の健康障害を理解し看護を学び教育活動に関係が深いことをまとめておく。
		事後学習	小児看護が養護教諭活動に関係が深いことを理解し深める。
第 7 回	○学校における感染予防に関する基礎知識 ・感染予防の3 原則 ・消毒と滅菌の種類および方法 ・学校における感染症発生時の対応	事前学習	教科書pp52-58 「学校における感染予防・対策の考え方」を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	感染症の予防や拡大防止において、学びと自己課題をまとめておく。
第 8 回	○思春期看護 ・思春期の健康障害と看護・予防	事前学習	教科書pp.59-83まで熟読し、思春期の健康にかかわる問題と解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	思春期の健康問題の看護と予防について学んだことについて自己課題をまとめておく。
第 9 回	○眼科疾患と看護 ○耳鼻咽喉科疾患と看護 ○皮膚科疾患と看護	事前学習	教科書pp85-112まで熟読し、解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	専門用語や学童期によく見られる症状や疾患、必要な看護について自己課題をまとめておく
第 10 回	○口腔歯科保健と看護 ○学校における救急看護（救急処置）	事前学習	教科書pp.114-128まで熟読し、保健室の機能と養護教諭の役割についてまとめておく
		事後学習	児童生徒の生命や安全について、体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第 11 回	○障害のある児童生徒の理解と看護 ○健康づくりと健康教育 ・ヘルスプロモーション ・日本の健康づくりの取り組み ・学校における健康教育 ・健康相談プロセス	事前学習	教科書pp.129-134/pp135-144まで目を通し、わかったこと、わからなかったところを発表できるようにしておく。
		事後学習	健康教育活動について、授業内容の理解を深めておく。また、その活動の中心となる自己の課題をまとめておく。
第 12 回	○成人看護の基礎と予防対策・老人（高齢者）看護 ○公衆衛生看護の目的、業務と地域における看護活動	事前学習	教科書pp146-160まで熟読し、系統的に健康づくりのための看護を理解し、学校保健と関係が深いことを学ぶ。
		事後学習	学校看護において、なぜ、連携や協働が必要であるか、自分なり考えを発表できるようにしておく。
第 13 回	【看護技術】 ○基礎看護 ・環境整備・安楽な体位・傷病者の移送 ・衣服の脱着・身体の清潔・排泄の援助 ・食生活の援助・薬法・薬の知識と理解	事前学習	教科書pp.162-170 搬送法に関する技術のイメージトレーニングをしておく。また、児童を保健室に搬送してくることを想定し、必要な心身の準備と環境を整えておく。
		事後学習	保健室の使用後を想定した実習室環境を整える。また、授業で学んだ体験をふり返り、自己課題をまとめておく。
第 14 回	○感染予防のテクニック ・無菌操作に関する基礎知識 ・無菌操作の技術の実際	事前学習	教科書pp.170-173 原理原則を抽出し、発表できるようにしておく。
		事後学習	身近なものを用いて、無菌操作のイメージトレーニングをしておく。
第 15 回	○バイタルサインの測定法 ・体温、脈拍、呼吸、血圧 ・包帯法 ○救急処置	事前学習	教科書pp.173-202 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.173-193 を参照しながら、脈拍触知可能な各部位を自分の身体で確認する。また、他者の脈拍と呼

	・技術の習得・体位・保温・止血法 ・症状別救急処置（創傷・捻挫・骨折・熱中症・アナフィラキシーショック）		吸数を測定する体験をしておく。
第 16 回	【救急処置】 ○フィジカルアセスメントとは何か ・基本技術と理論	事前学習	教科書 2 pp.8-19 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめる。
第 17 回	○養護教諭にとってのフィジカルアセスメントの重要性 ・養護教諭が行うフィジカルアセスメント	事前学習	教科書 2 pp.22-24 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	人間が生活を営む機能を支持する養護教諭の役割について考え、まとめる。
第 18 回	○フィジカルアセスメントに共通する基本技術 ・問診、視診、触診、聴診、打診 ・バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識障害）の測定方法と実際	事前学習	教科書 2 pp.34-67 に目を通し、呼吸・循環・体温調節に関する解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基準値を覚える。
第 19 回	○フィジカルアセスメントの実際① ・頭、眼科、耳鼻咽喉科における症状や訴えに関する技術と実際	事前学習	教科書 2 pp.74-101 目を通し、頭部、眼、耳鼻咽喉の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 20 回	○フィジカルアセスメントの実際② ・口腔、首、顔面、胸における症状や訴えに関する技術と実際	事前学習	教科書 2 pp.102-141 を参照しながら、口腔、首、顔面、胸部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 21 回	○フィジカルアセスメントの実際③ ・腹部、四肢における症状や訴えに関する技術と実際	事前学習	教科書 2 pp.142-164 を読み、腹部の循環器系・四肢の骨格系の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる技術を学び深める。
第 22 回	○フィジカルアセスメントの実際④ ・発熱、気持ち悪い、めまい、立ちくらみ、だるい、疲れの症状や訴えに関する技術と実際	事前学習	教科書 2 pp.165-190 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第 23 回	○症状フィジカルアセスメントの実際⑤ ・不眠、けいれん、ひきつけ、熱中症の症状や訴えに関する技術と実際	事前学習	教科書 2 pp.191-211 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己課題にとりくむ。
第 24 回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・顔の部位	事前学習	教科書 2 pp.214-246 を読み、顔の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる顔のアセスメントの技術を学び深める。
第 25 回	○症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・胸部の部位	事前学習	教科書 2 pp.247-254 の該当部分を読み、胸部の部位の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる胸部のアセスメントの技術を学び深める。
第 26 回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・腹部の部位	事前学習	教科書 2 pp.255-268 を読み、腹部の解剖生理学的知識を確認しておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となる腹部のアセスメントの技術を学び深める。
第 27 回	症状や状態に応じたアセスメントと応急処置・支援 ・全身	事前学習	教科書 2 pp.269-300 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を想起しながら、専門用語や基本となるアセスメントの技術を学び深める。
第 28 回	○止血法・包帯法に関する基礎的知識 ○心肺蘇生法に関する基礎的知識	事前学習	教科書 pp.191-192 及び配付資料を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書や資料を参照しながら、止血点を身体で確認し、技術を覚える。
第 29 回	○包帯法の実際 ○巻法の実際	事前学習	教科書 pp.181-187 を参照しながら、養護教諭が保健室でこれらの支援を行うこと想定し、必要な心身の準備と環境を整えておく。
		事後学習	保健室の使用後を想定した実習室環境を整える。資料を参照しながら体験をふり取り、自己課題をまとめる。
第 30 回	○本科目全体を通しての学びの想起（まとめ）	事前学習	養護教諭を志す自分が今まで学んだ看護学の意味について考えをまとめる。
		事後学習	本科目全体を通しての学びを想起し、現時点の自分が、看護臨床実習で学びたいこと、学ぶ必要性を感じることをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1315 GECM1325
2. 授業担当教員	尹 文九		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	2002 年ワールドカップ日韓共催以後、K-POP を始め、韓国ドラマやハングルに対する関心が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本学でも韓国の大学と協定を結び、また、韓国短期研修も実施している。そのため、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者(の)学生を対象に基本的なハングルの学びながら、韓国の文化や社会についても学習することを目的にする。講義内容は難しい文法よりは、分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に学習する。また、韓国の文化や社会などについても学習し、韓国社会の理解を高めることにする。			
8. 学習目標	学生には下記の目標を達成することが期待される。 1. 韓国社会や文化に対して基本的なことを理解する。 2. ハングルの文字を覚え、韓国語の読み、書きができる。 3. 簡単な日常会話ができる。 4. 韓国語で簡単な自己紹介ができる。 5. 韓国旅行のとき必要な基本的な言葉を覚える。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 : 5回の授業までにハングルの文字を覚える。 課題 2 : 最終授業の時韓国語で簡単な自己紹介をする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2006。 【参考書】 海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。 斉藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。			
11. 成績評価の方法	ミニテスト : 40% 授業態度 : 30% 課題及び学習ノート : 30% なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。			
12. 受講生への メッセージ	始まらないと結果もなし。とりあえず、やってみましょう。 本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること			
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要についてシラバスを中心に説明する	事前学習	シラバス確認および学習用ノートを準備し講義へ臨むこと	
		事後学習	韓国社会について理解したことをまとめる	
第 2 回	韓国文化の理解－ハングルの特徴と構成－	事前学習	pp.2～9 を熟読し、ハングルの特徴と構成を理解する	
		事後学習	授業で理解した内容をノートにまとめる。	
第 3 回	基本母音と子音(文字と発音)	事前学習	pp.10～17 の基本母音と子音を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	基本母音と子音の理解を確認	
第 4 回	合成母音と子音(文字と発音)	事前学習	pp.18～27 の合成母音と終声子音字を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	合成母音と終声子音の理解を確認	
第 5 回	韓国文化の理解：ビデオ	事前学習	韓国文化の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	韓国文化について理解した内容をまとめる。	
第 6 回	私は○○○です(名前と職業)	事前学習	母音と子音を覚えて授業に臨む。	
		事後学習	母音と子音の覚えを確認	
第 7 回	これは何ですか(指示代名詞、場所)	事前学習	p.40、p.48 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる。	
第 8 回	この人は誰ですか(三人称代名詞)	事前学習	p.56 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.40、p.48、p.56 の単語確認	
第 9 回	家族文化と家族の呼び方	事前学習	p.61 を参考し、自分の家族関係についてノートに記入	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第 10 回	N+ガ／はどこにありますか(位置関係の言葉)	事前学習	p.64 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.71 の活用練習をまとめる	
第 11 回	N+をしますか	事前学習	p.72 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	pp.79～80 の活用練習をまとめる	
第 12 回	N+に／へ行きますか(時間関係の言葉)	事前学習	p.82 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	p.84 の時間と曜日関係の言葉の覚えを確認	
第 13 回	漢数詞と電話番号	事前学習	p.100 の新出単語と p.102 の漢数詞を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	漢数詞の覚えを確認	
第 14 回	これはいくらですか(買い物)	事前学習	p.116 の新出単語を 10 回ずつノートに記入	
		事後学習	買い物に関する単語の覚えを確認	
第 15 回	全体まとめ	事前学習	ハングルで自己紹介をノートに書いて授業に臨むこと	
		事後学習	自己紹介を自分で話す練習をする。	

1. 科目名 (単位数)	企業統治論 (非営利企業を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3116
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義を主にしながら質問、報告、討論の時間をつくり進める。	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1) 企業の健全な経営のため最も重要な機能は企業統治だといわれている。まず企業統治 (コーポレート・ガバナンス) とは何かについて理解を深める。 2) 企業という場合、株式会社などの営利企業のほかに非営利企業(NPO 法人など)、最近では社会的企業と表現される企業があるが、株式会社を中心としつつ、各種の企業経営に共通の機能として企業統治機能の内容を説明する。 3) 企業活動のグローバル化にともない、日本をはじめアメリカ、中国、韓国、ドイツなどの企業統治の特徴を具体的にとりあげ、国際化への知的対応を準備する。			
8. 学習目標	将来、企業 (営利企業、非営利企業) へ就職したり、企業を設立、運営したり、企業と関係することが多いと思われ、そのような意味から学習の目標としては、1) 企業の立場から企業統治を考えるとともに、2) 企業の利害関係者 (ステイクホルダー) の立場から、株主、従業員、顧客、地域社会などの視点から考え、3) 数多くの具体的な事例をとりあげ、問題への認識を深めることを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	短いレポートを 3 回ほど課す。レポート課題は講義中に指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】加護野忠男、砂川伸幸、吉村典久著『コーポレート・ガバナンスの経営学—会社統治の新しいパラダイム』有斐閣、2010 年。授業用に配布資料を用意する。 【参考書】田尾雅夫、吉田忠彦著『非営利組織論』有斐閣、2009 年。			
11. 成績評価の方法	1. 期末テスト 50% 2. レポート 30% 3. 授業態度 20% (発表、質問等、参加意欲)。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	企業は、社会における価値創造主体であり、消費者 (個人) の厚生水準の大部分は企業活動の成果に拠っている。したがって、個人や社会を豊かにするためには、企業をしっかりと機能させることが欠かせない。このような認識のもとで、自分が企業とどう対面していったらよいかを意識しながら受講すること。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 講義概要の説明	事前学習	テキストを準備して序章 (pp.1~22) を読み、講義の内容を概観しておく。	
		事後学習	講義を受けるにあたって、「特に関心があるテーマ」や「問題」を整理する。	
第 2 回	株式会社と会社統治論	事前学習	テキスト(pp.23~40)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	会社統治の問題は株式会社成立以来の本質的な問題であったことを理解する。	
第 3 回	株式会社の仕組みと会社統治	事前学習	テキスト(pp.41~62)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	株式会社制度の特徴、統治の目的と機能を整理する。	
第 4 回	アングロサクソン型の会社統治—米国を中心に	事前学習	テキスト(pp.63~89)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	米国型の会社統治制度を理解する。	
第 5 回	ライン型の会社統治—日本を中心に	事前学習	テキスト(pp.91~114)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	テキスト(pp.115~140)を熟読し、まとめる。	
第 6 回	日本の会社統治の過去	事前学習	テキスト(pp.115~140)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	株式会社制度の導入と普及、そして戦前においては、株主が大きなパワーを保持していた実態を把握する。	
第 7 回	日本の会社統治の現在—日本が間違った時代(1)	事前学習	テキスト(pp.141~154)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	日本企業の統治のあり方が見直しを迫られた理由と、求められた会社統治の姿を理解する。	
第 8 回	日本の会社統治の現在—日本が間違った時代(2)	事前学習	テキスト(pp.155~173)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	日本企業の統治の実態が変化し、結果としてそれが間違っていたと指摘される理由を理解する。	
第 9 回	非営利組織の統治	事前学習	配布資料を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	非営利組織の統治が株式会社のそれとどう異なるかを整理する。	
第 10 回	コーポレート・ガバナンスと資本コスト	事前学習	テキスト(pp.175~196)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	資本市場による統治が資本コストを通じてどう働くかを理解する。	
第 11 回	コーポレート・ガバナンスと事業統治	事前学習	テキスト(pp.197~224)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	企業活動の中心である事業投資を効率的に行うための統治機能を整理する。	
第 12 回	コーポレート・ガバナンスと資本政策	事前学習	テキスト(pp.225~249)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	ペイアウトや資本構成の統治に対する役割を整理する。	
第 13 回	日本企業の会社統治のもう 1 つの姿(1)	事前学習	テキスト(pp.251~265)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	従業員 (労働組合およびミドル・マネジメント) が統治にどう関与してきたかを整理する。	
第 14 回	日本企業の会社統治のもう 1 つの姿(2)	事前学習	テキスト(pp.266~282)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	大株主である事業法人 (親会社) が統治にどう関与してきたかを整理する。	
第 15 回	内部統制と会社統治	事前学習	テキスト(pp.283~309)を熟読し、まとめる。	
		事後学習	内部統制の制度と統治への影響を整理する。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	基礎演習 I (1 単位)		3. 科目番号	GEBS1108								
2. 授業担当教員	加藤 宏一											
4. 授業形態	演習・ディスカッション・グループ発表		5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係												
7. 講義概要	心理学とはどのような学問領域なのか、また、主な研究テーマや研究方法にはどのようなものがあるのかについて体験的に理解することを目標とする。 具体的には身近なテーマについて、質問紙法、実験法、観察法、事例研究といった心理学における代表的な研究方法を用いた簡単な演習を通して、自分自身の心理的特徴について理解し、あわせて基礎的な知識や技術を習得する。											
8. 学習目標	1. 心理学という学問領域、主な研究テーマ、研究方法について説明することができる。 2. データ (事実) に基づいて、理論的・批判的に考え、意見を述べることができる。 3. 心理学的なものの方、考え方を日常生活で応用することができる。 4. 心理学を通して自己や他者、社会を理解することができる。											
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> レポート課題：授業で演習として実施する質問紙法、観察法、実験法に関して、レポートを作成する。 グループ課題：興味のあるテーマについて、質問紙調査または簡単な実験を実施する。口頭発表およびレポートにて成果発表を行ってもらおう。 											
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】【教材】指定の教科書はないが、教材として実験材料・心理検査を購入してもらう。 【参考書】必要に応じて授業で紹介する。											
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>日常の授業態度 (質問、出席状況)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>グループ課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> </tr> </table> 左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。				日常の授業態度 (質問、出席状況)	30%	グループ課題	30%	レポート	40%	合計	100%
日常の授業態度 (質問、出席状況)	30%											
グループ課題	30%											
レポート	40%											
合計	100%											
12. 受講生へのメッセージ	一口に「心理学」と言っても、その中にはいろいろな「心理学」があります。演習を通して心理学の異なる分野や研究方法について体験的理解を深め、「科学としての心理学」に興味をもって欲しいと思います。受講生の皆さんの積極的な参加を期待しています。 授業内容は受講者の皆さんの興味や理解度によって、適宜変更する可能性があります。											
13. オフィスアワー	授業時に通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	オリエンテーション・自己紹介 (連想ゲーム)	事前学習	シラバスをよく確認しておく。									
		事後学習	授業で行った演習のまとめを書く。									
第 2 回	質問紙法①：性格	事前学習	自分の性格について考えておく。									
		事後学習	講義で行った質問紙法演習の結果をまとめる。									
第 3 回	質問紙法②：ジェンダー	事前学習	ジェンダーについての考えをまとめておく。									
		事後学習	講義で行った質問紙法演習の結果をまとめる。									
第 4 回	質問紙法③：ストレス	事前学習	自分のストレッサー・ストレスについてまとめる。									
		事後学習	講義で行った質問紙法演習の結果をまとめる。									
第 5 回	実験法①：記憶	事前学習	記憶力を高める方法について考える。									
		事後学習	実験結果のまとめを書く。									
第 6 回	実験法②：結果の知識	事前学習	結果の知識 (KR) について調べておく。									
		事後学習	実験結果のまとめを書く。									
第 7 回	質問紙作成法：質問紙の作成①	事前学習	質問紙のテーマについて考えておく。									
		事後学習	テーマに関連した資料・文献を探し、読んでおく。									
第 8 回	質問紙作成法：質問紙の作成②	事前学習	テーマに関連した資料・文献を探し、読んでおく。									
		事後学習	質問紙の項目を作成する。									
第 9 回	質問紙作成法：質問紙の作成③	事前学習	質問紙の項目を作成する。									
		事後学習	質問項目を精査し、完成させる。									
第 10 回	質問紙作成法：データ収集と結果の整理	事前学習	質問項目を精査し、完成させる。									
		事後学習	質問紙調査結果を整理し、発表資料を作成する。									
第 11 回	質問紙作成法：データ収集と結果の整理	事前学習	質問紙調査結果を整理し、発表資料を作成する。									
		事後学習	質問紙調査結果を整理し、発表資料を完成させる。									
第 12 回	心理検査①：YG	事前学習	YG 性格検査について調べる。									
		事後学習	検査結果のまとめ。質問紙調査の発表資料の作成。									
第 13 回	心理検査②：クレペリン	事前学習	クレペリン検査について調べる。									
		事後学習	検査結果のまとめ。質問紙調査の発表資料の作成。									
第 14 回	質問紙作成法：グループ発表	事前学習	発表の準備。質問紙調査のレポート作成。									
		事後学習	質問紙調査のレポート作成。									
第 15 回	質問紙作成法：グループ発表	事前学習	発表の準備。質問紙調査のレポート作成。									
		事後学習	質問紙調査のレポート作成。									

1. 科目名 (単位数)	基礎演習Ⅱ (1 単位)	3. 科目番号	GEBS2108
2. 授業担当教員	新井 雅人		
4. 授業形態	演習、発表、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学は科学として在ることを示すことで生まれ、また経験と実践の学としても積みあげられてきている。学問としての心理学を学んでいくにあたり、心理学的なものの方や考え方を養うことは欠かせない。これは、先人の研究成果を正確に読み取り、自身の意見を論理的に組み立てることであったり、臨床心理学的な観点から人間理解を深めることであったりする。</p> <p>本講義においては、心理学の専門的内容を学び始める準備として、心理学の基本的なテーマを取りあげながら、基礎的な知識を身につけると同時に、学問としての心理学の視点・観点を身につけることをねらいとする。講義においては演習や議論、発表を通して、知識と同時に体験的な理解を深めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学的なものの方や考え方を体験的に身につけていく。 2 心理学の基本的なテーマについて基礎知識を学ぶ。 3 自ら学び、まとめる過程を通して、心理学的視点を身につけ、応用する力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>教科書に沿い、理解度を確かめるためのレポートを2回課す予定です。</p> <p>設題1：書式やその「作法」において誤りのある、架空のレポートが配布されます。あなたは採点者になったつもりで、その添削を行います。</p> <p>設題2：心理学に関連のある時事問題のテーマがいくつか提示されます。あなたはそこからテーマを1つ選び、文献の検索、主題の設定（切り口）からはじめて、ひとつのレポートをまとめます。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 大山 正・中島義明共著 『新心理学ライブラリ 実験心理学への招待 [改訂版] - 実験によりこころを科学する -』サイエンス社。</p> <p>【参考書】 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート、提出課題 50%</p> <p>授業への参加態度 50%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中は良く聞き良く考え、そして復習すること。 2. ディスカッションやグループワーク等において、自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 携帯電話・スマートフォンの授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為（私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）を慎むこと。 		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション	事前学習	教科書 p.1 までの文章を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第2回	I 心理学実験法 自然観察と実験 実験の展開 1 事例研究	事前学習	教科書 pp.1～21 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第3回	実験と理論 研究者・実験者・実験参加者効果 研究の倫理 実験の利点と欠点	事前学習	教科書 pp.22～40 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第4回	II 感覚と知覚 感覚・知覚とは 形とパターンの知覚	事前学習	教科書 pp.41～53 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第5回	空間の知覚 運動と事象の知覚	事前学習	教科書 pp.54～68 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第6回	III 学習 古典的条件づけにおける刺激間隔 情動反応の古典的条件づけ 味覚嫌悪条件づけ 刺激間の随伴性 何がオペラント条件付けの強化となるか 行動の漸進的形成	事前学習	教科書 pp.69～82 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第7回	般化と弁別 誤りなしの弁別学習 学習の転移 学習された無力感	事前学習	教科書 pp.83～98 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる

	反応とその結果の随伴性 観察による学習		
第 8 回	IV 注意と記憶 注意 記憶の構造：短期記憶と長期記憶	事前学習	教科書 pp.99～117 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 9 回	符号化と検索 エピソード記憶と意味記憶	事前学習	教科書 pp.118～142 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 10 回	V 思考 プロトコル分析 推理	事前学習	教科書 pp.143～161 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 11 回	概念学習 批判的思考	事前学習	教科書 pp.162～172 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 12 回	VI 動機づけ・情動 欲求 基本的欲求 社会的欲求	事前学習	教科書 pp.173～183 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 13 回	アフォーダンスと自己効力感 内発的動機づけ 情動	事前学習	教科書 pp.184～206 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 14 回	VII 実験心理学と日常生活 環境 超高齢化社会 テクノロジーの進歩	事前学習	教科書 pp.207～226 を読んでおく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる
第 15 回	これまでのまとめ	事前学習	これまでの学習ノートを見直しておく
		事後学習	学んだことを学習用ノートにまとめる

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3213
2. 授業担当教員	成田 成		GECD3214
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、キャリアアップにつながる「教養」を身に付けるための一環として、効果的な考え方や勉強法を学習参考例や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、考え方や解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取り上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導などを行い、社会現場で役立つ実践的な能力を身に付けていく。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、総合的な教養と実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：最終日の授業時間には「就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用せずに、分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題：60 点、授業態度 (宿題、質問、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業を通じて、自分の希望する就職先や資格などについて真剣に考え、それらの目標を達成させるために、自主的に教養を高めてキャリアアップを図れるようになってほしい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 研究室</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	将来、自分がやりたい職業について考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	就職活動に関する基本的な流れ	事前学習	就職活動を行うために何をすべきかを考えてくる。
		事後学習	希望する就職先について調査してみる。
第 3 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	施設・会社等の訪問の仕方 (アポイントの取り方、マナーなど)	事前学習	施設・会社等の訪問の仕方について調べてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	長期休暇期間におけるキャリアアップ法 (効果的な勉強法、有効な過ごし方など)	事前学習	夏休み期間中の有効な過ごし方について考えてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことを参考にして夏休みの計画に役立てる。
第 12 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	適性問題、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 14 回	小論文の書き方	事前学習	小論文の書き方について調べてくる。
		事後学習	小論文の書き方について復習してくる。
第 15 回	レポート (就職先では自分の経験や知識をどのように活かすか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I A (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I /キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。大学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】東京教友会編著『教職教養ランナー 2016 年度版』一ツ橋書店。</p> <p>【参考書】協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』実務教育出版。</p> <p>【配布資料】各回の演習で資料を配布する。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>出席状況及び授業態度 30%</p> <p>各回の確認テスト 50%</p> <p>習熟度確認問題演習およびレポート課題 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくること
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分を熟読しておくこと
第 2 回	教育法規① (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 1 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 3 回	教育法規② (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 2 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 4 回	教育法規③ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 3 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 5 回	教育法規④ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 4 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 6 回	生徒指導・安全指導① (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 5 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 7 回	生徒指導・安全指導② (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 6 回時に指定された範囲の予習しておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 8 回	生徒指導・安全指導③ (教科書 pp.151-188)	事前学習	第 7 回時に指定された範囲の予習しておくこと

	* 確認テストを実施	事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 9 回	生徒指導・安全指導④(教科書 pp.151-188) * 確認テストを実施	事前学習	第 8 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 10 回	教育心理①(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 9 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 11 回	教育心理②(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 10 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 12 回	教育心理③(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 11 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 13 回	教育心理④(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 12 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 14 回	現代の教育①(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 13 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 15 回	最新過去問テスト(教職教養分野)	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備えること
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにすること
第 16 回	現代の教育②(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 15 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 17 回	現代の教育③(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 16 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 18 回	西洋教育史①(教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 17 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 19 回	西洋教育史②(教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 18 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 20 回	日本教育史①(教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 19 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 21 回	日本教育史②(教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 20 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 22 回	人権尊重の教育①(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 21 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 23 回	人権尊重の教育②(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 22 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 24 回	人権尊重の教育③(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 23 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 25 回	教育課程と教授・学習① (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 24 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 26 回	教育課程と教授・学習② (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 25 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 27 回	学習指導要領①(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 26 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 28 回	学習指導要領②(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 27 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 29 回	学習指導要領③(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 28 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 30 回	習熟度確認問題演習/秋期のまとめ/ 授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること
		事後学習	習熟度確認問題演習及びレポート課題を通じて自己の成果と課題を確認すること

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I B (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3212 GECD3262
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、養護教諭教員採用試験対策を柱に据えつつ、養護教諭としての資質・能力をさらに向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、これまでに身につけてきた養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、児童生徒の複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度な専門性を習得することを目指す。また講義に取り組む中で、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認し、意欲的な自己学習を定着させていくことを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員採用試験に合格し、養護教諭として現場で活躍するための発展的知識・技術を確実に習得し、実践に活かすことが出来る。 2. 児童生徒の健康課題に対する判断力・対応力を磨き、高度な専門職としての資質をさらに向上させる。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、内容の定着を図る。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 4. 養護教諭の職務に関する小論文執筆 (夏季および冬季休業期間中) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017 年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第 3 次改訂版』第一法規、2011 年。 (2 年時購入済み) 『2016 年度版 教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版、2016 年。 (2 年時購入済み) その他 文部科学省、日本学校保健会より出版されている冊子など		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度・修正したテスト答案の提出 (30%) 2. 演習問題振り返りシートの記入および日常的な自己学習への取り組み (20%) 3. 毎回の演習問題、半期ごとのまとめ課題への取り組み (30%) 4. 採用試験対策の小論文 (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	養護教諭専門科目での既習事項とリンクさせながら、2 年次までに身につけてきた養護教諭として基礎基本をさらに発展させ、教員採用試験 1 次試験合格を目指しましょう。養護教諭としての専門性をさらに向上させ、学校現場で活躍することのできる知識・技術の習得を目標に、一つ一つクリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義にて告知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・2 年次最終課題テストの再テスト ・全国の出題傾向等 ・教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	自らの受験する自治体の受験情報を調べ、必要な準備についての見通しを持つ。
第 2 回	学校保健 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校保健に関するページ (pp.2~10) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校保健の演習問題に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 3 回	学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校安全に関するページ (pp.21~40) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校安全の演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 4 回	養護教諭の職務と保健室 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の養護教諭に関するページ (pp.56~75) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った養護教諭に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 5 回	保健教育① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp.100~124) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。(pp.125~132)
第 6 回	保健教育② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp.133~140) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 7 回	健康診断① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp.151~159) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 8 回	健康診断② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp.161~171) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 9 回	健康相談・健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康相談に関するページ (pp.194~207) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康相談に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 10 回	疾病とその予防① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp.219~237) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 11 回	疾病とその予防② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp.238~259) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 12 回	救急処置① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp.301~312) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 13 回	救急処置② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp.312~325) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 14 回	論作文：「不登校の子どもへの養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	不登校の児童生徒への対応について、既習科目での学習内容を振り返っておく。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 15 回	春期問題演習のまとめと振り返り 今後の自己学習の進め方	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	半期の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標や自己学習計画を明確化する。
第 16 回	学校環境衛生 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校環境衛生に関するページ (pp.363~372) を読んでおく。
		事後学習	本時に行った学校環境衛生に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 17 回	関係法規 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の関係法規に関するページ (pp.388~395) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った関係法規に関連する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 18 回	実践問題① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 19 回	実践問題② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 20 回	全国過去問演習① (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 21 回	全国過去問演習② (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 22 回	全国過去問演習③ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 23 回	全国過去問演習④ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 24 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 25 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 26 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 27 回	論作文：「いじめに対する養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	いじめへの対応について、既習科目での学習内容をふりかえり、自分の考えをまとめる。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 28 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。
		事後学習	先輩の合格体験談を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。
第 29 回	全国過去問演習④ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 30 回	秋期過去問演習のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (教養コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4213
2. 授業担当教員	成田 成		GECD4214
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、主に公務員や会社員を目指す学生を対象としており、就職試験や資格試験のためだけでなく、有能な社会人として必要な「教養」を身に付けるための一環として、効果的な勉強法を資料や演習問題を使用しながら実践的に理解する。具体的には、基礎力を高める SPI 適性問題、人文科学・自然科学・社会科学の公務員関連問題などを解いて、解き方のコツをマスターする。また、職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めるために、社会で問題になっている点などを取上げて、グループでのディスカッション、クラスでの発表、各人の小論文指導なども行い、現場で役立つ実践的な能力を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤上記の①～④を兼ね備えた、有能な社会人として活躍できる総合的な教養力や実践力を身に付けられる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「有能な社会人となるためにはどうすべきか」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書は使用しないが、市販の本よりも分かりやすい学習参考例を配付して授業を進めていく。</p> <p>【参考書】参考書は指定しないが、自分が受験する試験に関する参考書や問題集の中でも、解説が詳しく分かりやすいものをお薦めである。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60 点、授業態度 (提出課題、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	本授業を通じて、有能な社会人として活躍できる教養力を養っていただきたい。また、現場で起こり得る問題点については、それを発見して解決できる能力を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 号室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、効果的な勉強法	事前学習	有能な社会人とは、どんな人のことを言うのかについて考えてくる。
		事後学習	効果的な勉強法について、要点を再確認する。
第 2 回	適性問題、就職活動をするための事前の準備	事前学習	どこに就職したいのかを考えておく。
		事後学習	就職先に応じた事前の準備を行う。
第 3 回	適性問題、小論文問題、自己 PR の仕方	事前学習	小論文や自己 PR の原案を考えてくる。
		事後学習	ワークシートに記載した内容を再確認して練り直す。
第 4 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 5 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 6 回	適性問題、人文科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	人文科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 7 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 8 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 9 回	適性問題、自然科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	自然科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 10 回	適性問題、面接の受け方	事前学習	面接の受け方について練習をしてくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 11 回	模擬面接、合格点がもらえる小論文	事前学習	小論文の書き方について予習してくる。
		事後学習	合格点がもらえる小論文のポイントについて復習する。
第 12 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 13 回	模擬面接、社会科学の関連問題 (過去問題)	事前学習	社会科学関連のことについて予習してくる。
		事後学習	当日の授業で学んだことについて復習する。
第 14 回	模擬面接、時事問題	事前学習	時事問題として取り上げられそうなテーマを考えてくる。
		事後学習	当日の授業で解いた問題等について復習する。
第 15 回	レポート (有能な社会人となるためにはどうすべきか)	事前学習	レポートの下書きを作成してくる。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4211
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・課題演習 (論作文作成・模擬面接など)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ、Ⅱ」および「キャリア開発演習Ⅰ」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>本講義では、1 年次の「キャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)」、2 年次の「キャリア基礎演習Ⅱ (専門教養)」および 3 年次の「キャリア開発演習Ⅰ (教職教養)」で培われてきた各分野・領域における基礎学力を基盤とし、教員採用試験対策における最終的な総まとめとしての段階と位置づけ、より実践的かつ実務的な講義・演習を中心とした講座を展開する。</p> <p>各回の授業においては、各自自治体ごとの小論文および面接試験の傾向を踏まえながら、過去に出題された課題をもとにした個人および集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導などを行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 各自自治体による二次試験の出題傾向を自ら調べ対策をたてることができる。 個人および集団面接・集団討論形式の試験において、過去に出題されたテーマに対して積極的に自らの意見を述べることができ、教員になるための資質の向上を目指す。 模擬授業において、これまで各教科の指導法で学んできたことをもとに全体を見通した授業の一部を展開することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 論作文などの課題提出 各回における積極的な発言、態度を評価 		
10. 教科書・参考書・教材	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業の際に適宜配布 「教職教養」「全科」「一般教職」の各教科書やその他、自らが学習しやすい参考書を用意 		
11. 成績評価の方法	<p>各時間に出された課題 (論作文、レポートなど) の提出・・・40%</p> <p>授業態度・・・40%</p> <p>まとめのレポート・・・20%</p> <p style="text-align: center;">100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業においては、教員採用試験合格を目指して、二次試験合格に向けての実践力を身につけることを目的としている。目的の達成のためには、受講生は以下の事項について守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 個人および集団面接の際、予想される質問に対して端的に答えられるように十分な準備をして臨むこと。 集団面接および討論の際、積極的・意欲的に議論に参加すること。 授業中における私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁。 本授業の経験を契機として、教員採用試験合格を目指す友人と協力して集団面接、討論および模擬授業に対する個々のさらなるレベルアップを図ること。面接試験対策においては、対応力が問われるため本番の面接を想定した練習を重ねることが重要である。 		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションおよび論文の書き方について (講義) *各自自治体の採用試験の傾向および 1~3 年生までのキャリア教育・教員対策講座の振り返りをし、現時点で自分が補わなければならない部分を再確認することができる。(教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。改めて自分が受験する自治体の動向を確認する。
		事後学習	本講義の基本的な流れを理解し、受験する各自自治体の願書・資料の入手・収集に努める。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> 論文指導と実際 (講義・演習) *前時で課題として出した論文の執筆。課題 1 (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	論文を書く際に必要となる注意事項を知り、次時の課題を確認しアウトラインを練る。
		事後学習	書いた論文について自己評価を行う
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> 新任教師や臨時教員に求められる必要な教育法規 (講義) *今年度着任者、臨時教員を希望する者および来年度教員を目指す者全てにおいて重要かつ必要な教育法規の見直しをし、再認識を行うとともにしかるべき将来に備える。 	事前学習	教育現場で求められる教師像を簡潔にまとめておく。
		事後学習	今年度着任希望者、臨時教員を希望する者および来年度教員を目指す者全てにおいて重要かつ必要な教育法規を再確認する。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 面接練習オリエンテーション (講義) *各受験自治体別にグループ分け (教職課程支援室にも依頼) 	事前学習	自分が受験する自治体の面接内容における最新の動向を調べる。
		事後学習	各自でピックアップした設問を個々で練習する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 個人 (集団) 面接練習① (演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとともにその振り返りをする。 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッションを整理する。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 個人 (集団) 面接練習② (演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと 	事前学習	各自が重要と思われる教育法規について簡単に解説できるように構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ

	もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。		ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 7 回	・個人(集団)面接練習③(演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想 を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 8 回	・集団討論練習①(演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	具体的な場面指導を想定し、実演ができるよう構想 を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 9 回	・集団討論練習②(演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	教育現場で自分はどのように貢献できるか具体的に 述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 10 回	・場面指導①(演習) *最新の傾向に基づいた設問に対する対応方法 を知り、よりよい応答のしかたを練習するとと もに集団でディスカッションを行い、よりよい 応答を検討する。	事前学習	教育現場で自分はどのように貢献できるか具体的に 述べられるよう構想を練る。
		事後学習	本時の面接で指摘された注意事項やディスカッショ ンを整理し、次時に生かせるようにする。
第 11 回	・模擬テスト① 一般教養編(演習) *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。(教職課程支援室にも依頼)	事前学習	事前に一般教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 12 回	・模擬テスト② 教職教養編(演習) *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。(教職課程支援室にも依頼)	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 13 回	・直前対策 模擬テスト③ 専門教養編(演習) *採用試験で頻繁に出される設問に対して模擬 テストでの実施。(教職課程支援室にも依頼)	事前学習	事前に専門教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 14 回	・直前対策 模擬テスト④ 総合編 (教職課程支援室にも依頼)	事前学習	事前に教職教養の領域の内容を把握しておく
		事後学習	解答の解説を聞き、自己採点を行い自分が補うべき 課題を確認する。また、最新のテスト傾向を把握す る。
第 15 回	・評価とまとめ(講義およびまとめのレポート) *本講座における目的や目標が達成できたか総 合的評価を行う。	事前学習	これまでの授業の流れを振り返り、意義のあった部 分および問題点を整理しておく。
		事後学習	本授業における意義を再確認し、今後に向けての自 分の進むべき方向性を改めて明確にし、決意を新た にする。
*本講義は第 14 回までの授業を 7 月中旬までに集中講義等を実施し終了する。			

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4212
2. 授業担当教員	八重樫 節子		GECD2262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、教員採用試験対策に主眼をおきながら、養護教諭としての資質向上を目指す専門教育科目として展開する。全国の過去数年間の出題傾向の研究・分析を踏まえ、養護教諭採用試験の必須事項を精選して最終確認を行う。また、小論文、面接、集団討論に関する実技や演習を通して、児童生徒等の心身の健康実態、教育現場が養護教諭に求めているものを整理する。		
8. 学習目標	養護教諭採用試験で実際に出題された問題を解くことを通し、まずは1次試験合格を目指す。また、面接や討論などの練習を通して実践的な資質を向上させ、即戦力となるための力量を確かなものにする。 <具体的な学習目標> ①学校保健・学校安全に関する法令等に精通する。 ②養護教諭としての基礎知識・専門知識を広く習得する。 ③救急処置の理論と方法を確実にマスターする。 ④児童生徒のヘルスニーズの解決のための対応力を高める。 ⑤学習指導要領に精通し、指導案の作成と指導の実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①演習問題の予習と、解答の再確認 (書いて覚える)。 ②受験する都道府県についての情報収集。 ③毎回、次の学習事項に関する資料と課題 (試験問題、論作テーマ等) を配付するので、学生は1週間かけて準備し、講義に臨む。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第3次改訂版』第一法規 (購入済み) 【参考書】 『2016年度版教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版局 (購入済み) 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』七賢出版, 201 (購入済み) 日本学校保健会・文部科学省からの出版物等 各自治体過去問		
11. 成績評価の方法	1. 討論、面接等実技課題への積極的参加度、授業態度 (30%) 2. 講義時間内に実施する問題演習の得点 (30%) 3. 授業ごとに出題するワークシートや事後学習への取り組み状況 (20%) 4. 授業ごとのふり返り (20%)		
12. 受講生へのメッセージ	やる気のある学生には、十分応える。授業中は手 (書く)・眼 (見る)・脳 (理解し、覚える) を使って集中して学ぼう。正解だけ脳に残し、間違った情報は直ちに消去する。関連のある事項は比較し、一緒に覚え、活用しよう。3年次までの講座により、努力した分、確実にその成果が上がることを体験したと思う。さらに本講座で学ぶ内容は、採用試験の為だけでなく、就任直後から職務に活用出来る重要なものである。		
13. オフィスアワー	後日連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・3年次最終課題テストの再確認テスト ・教員採用試験に対する心構えと応募手続きについて ・養護教諭志望理由等の再整理	事前学習	受験予定自治体の試験スケジュールや、応募に必要な準備について確認する。
		事後学習	養護教諭を志望する理由や、理想とする養護教諭像を整理する。
第2回	養護教諭専門教養問題演習① 1. 学校保健・学校安全 2. 養護教諭職務・学校保健関係職員 3. 保健室・保健室経営 4. 健康観察 5. 健康診断	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りをしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第3回	養護教諭専門教養問題演習② 6. 学校環境衛生 7. 健康相談・健康相談活動 8. 疾病とその予防 9. 感染症	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りをしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第4回	養護教諭専門教養問題演習③ 10. 養護教諭の基礎・専門知識 11. 救急処置 12. 救命・応急手当 13. 保健教育	事前学習	該当分野について、3年次までのテキストや演習問題の振り返りをしておく。
		事後学習	答案を修正し、わからなかった問題の解説を再確認しておく。
第5回	小論文対策 ・書き方についての基本事項の再確認 ・課題に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	3年次までに実施した小論文課題を復習し、ポイントを整理しておく。
		事後学習	受験自治体の出題傾向に合わせ、小論文を執筆する。
第6回	個人・集団面接対策 ・面接票の書き方と自己PRの在り方 ・質問に対する答え方のアイデアについて討議する。	事前学習	自己PRや志望理由を再整理し、後日実施するロールプレイに備える。
		事後学習	面接票に記載した内容について、自分の言葉で説明できるように練習をする。
第7回	集団討論対策 ・集団討論の基本的ルールと展開のポイント	事前学習	受験自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	討論テーマについて、自分の考えを整理し、後

	・テーマに対する答え方のアイデアについて討議する。		日実施するロールプレイに備える。
第 8 回	模擬授業・救急処置実技対策 ・模擬授業、救急処置実技の留意点 ・これまでの出題テーマの分析	事前学習	自分の受験する自治体の出題傾向について調べておく。
		事後学習	後日実施するロールプレイに備え、練習をしておく。
第 9 回	面接・集団討論の実践① ・実際の面接、討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 10 回	面接・集団討論の実践② ・実際の面接、討論を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理しておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 11 回	模擬授業・救急処置の実践 ・実際の試験問題を想定したロールプレイ	事前学習	予想される出題内容について、自分の考えを整理し、練習をしておく。
		事後学習	ロールプレイにおける指摘内容を整理し、改善につとめ練習をする。
第 12 回	教員採用試験の振り返り ・今年度の出題傾向の分析 ・今後の課題の整理	事前学習	受験した試験の自己採点を実施し、難しかった問題について整理しておく。
		事後学習	養護教諭として教育現場に出るまでに、自らが取り組むべきことについて整理する。
第 13 回	保健室経営① ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ、養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 14 回	保健室経営② ・最新の学校保健の動向に関する討議	事前学習	事前に提示されたテーマについて、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	討議によって得られた新たな視点を踏まえ、養護教諭として取り組むべきことをまとめる。
第 15 回	まとめ ・養護教諭としての資質向上における課題の整理 ・卒業後の進路決定における課題の整理	事前学習	本講義における半年間の取り組みについて、振り返りをする。
		事後学習	整理した課題に基づき、具体的な行動につなげる。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 A コース) (2 単位)		3. 科目番号	GECD4214
2. 授業担当教員	チームティーチング			
4. 授業形態	演習、ディスカッション、実技		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講座では、キャリア開発演習Ⅰ(保育コース)で学習した内容を踏まえて、保育の専門職としての基礎知識の定着を図り、保育現場で活用できる力を養成する。主として文章表現・レポート作成、面談、実技を中心に進める。また、外部講師により現場に求められる保育者像や現場で当面する課題に関する留意点等をご講話いただく。さらに、多くの保育関連諸施設での課題についての理解も深めるため、現場の具体的問題事例の解決の仕方など、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決する方法を考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職として働く意義ややりがい等を確認し、それを他者に明瞭に表現することができる。 2. 保育職としての自らの教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。 3. 保育従事者としての心得と常識とを備えることができる。 4. 現代の社会状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望を描ける。 			
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の予習・復習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 業者の保育士就職模擬試験を行うので、「保育士試験問題集」「群馬県保育士適性検査」「群馬県私立幼稚園適性検査」などを事前に復習しておくこと。 2) 実施した模擬試験問題を中心に授業を進めるので、できなかったところを見直しておくこと。 2. レポート <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育実践の場と大学での学びを総合してこれからの保育者に求められることを考察する(800字程度)。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 論作文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>【参考書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。</p> <p>その他、授業で紹介する</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業時の評価(参加、実践、態度)を総合して 80% 2. まとめのレポート 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>広い視野で命について考えてください。一人ひとりの命の大切さ。生きることの意味。現代社会の子どものとりまくさまざまな問題。そのような環境の中で、子どもの育ちに何が重要なのか、保育者は何ができるのか、どう向き合っていけばよいのか。「人間の尊厳」を支える専門家養成としての本学の建学の精神を念頭に置いて、学生と教員と一緒に学び、成長していきたいと思っています。</p> <p>なお実務教育出版による『保育士就職模擬試験(教養・専門)』1,500 円、『保育士就職模擬試験(作文)』1,200 円を実施します。全国での順位や希望地域での合格可能性がわかります。</p>			
13. オフィスアワー	各教員のオフィスアワーは、別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス、採用試験について、就職支援室からのアドバイス、履歴書の書き方、質疑応答	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』のガイダンス編を読んでくる。	
		事後学習	自分の就職先について考える。	
第 2 回	実技試験対策「パペットセラピー」①外部講師	事前学習	自分の就職先について考える。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 3 回	実技試験対策「パペットセラピー」②外部講師	事前学習	自分の就職先について考える。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 4 回	採用試験の準備、適性検査の練習	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』を学習してくる。	
		事後学習	できなかった問題をやり直す。	
第 5 回	作文の書き方 (作文の練習→回収→各教員による添削)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を読んでくる。	
		事後学習	書けなかったところを見直す	
第 6 回	保育士試験模擬試験(実務教育出版) (作文 800 字 60 分)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を復習しておく。	
		事後学習	書けなかったところを見直す。	
第 7 回	作文(第 5 回に書いたもの)の返却、講評	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』作文対策編を復習しておく。	
		事後学習	書けなかったところを見直す。	
第 8 回	専門試験対策①「保育原理・保育内容」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。	
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。	
第 9 回	専門試験対策②「児童福祉」「社会福祉」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。	
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。	
第 10 回	専門試験対策③「発達心理」「保健衛生」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』を復習しておく。	
		事後学習	出来なかった問題をやり直す。	
第 11 回	実技試験対策①「音楽」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』実技試験編を読んでくる。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 12 回	実技試験対策②「読み聞かせ」	事前学習	『保育士試験問題集 2014 年度版』実技試験編を読んでくる。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 13 回	面接試験対策(心構え)	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』面接対策編を読んでくる。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 14 回	模擬面接	事前学習	『保育士・幼稚園教諭 作文・面接対策ブック 2015 年度版』面接対策編を復習しておく。	
		事後学習	学習したことを振り返る。	
第 15 回	まとめ	事前学習	この科目で学習したことを振り返る。	
		事後学習	就職試験合格に向かう。	

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習Ⅱ (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD4214 GECD4266
2. 授業担当教員	チームティーチング	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、3 年次に「キャリア開発演習Ⅰ (保育 B コース)」での学習の連続として、専門的知識、技能の実践への応用力を図り、学生個々が自ら学び続ける保育者を目指して主体的に専門的実力を深化する方法を考える。また、外部講師により、現場に求められる保育者像や、現在当面している保育の課題や留意点などをご講話いただく。現状を踏まえて各自が自己分析をし、これまでの知識を整理するとともに、課題を見出し解決の方法を考える。		
8. 学習目標	1. 保育職を志す意義ややりがいを確認し、それを他者に明確に表現することができる。 2. 保育者としての教育理念・保育理念を形成し、社会的ニーズに対応できる。 3. 保育者としての心得と常識を備えることができる。 4. 現代社会の状況と保育を取り巻く環境を理解した上で、将来の展望が描ける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業時の予習復習 2. 最近の保育問題に関する新聞記事を読みレポートにまとめる。 3. この科目で学習したことを振り返って、どのような保育者になりたいかをまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭論文作文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。 【参考書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。 保育士採用試験情報研究会『すいすいわかる保育士採用試験』一ツ橋書店。		
11. 成績評価の方法	1. 日常の授業態度 (参加、実践、態度) 50% 2. 授業後の提出物、レポート課題など 50%		
12. 受講生へのメッセージ	自分の希望する職場への就職に結び付けられるように、目標を持って日々の学習に励んでほしい。実務教育出版による「保育士就職模擬試験 (教養・専門)」1,500 円、「保育士就職模擬試験 (作文)」1,200 円を実施する。この模擬試験によって全国での順位や希望地域での合格の可能性がわかる程度わかる。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、就職支援室からのアドバイス	事前学習	「保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2015 年度版」pp.414～572 を読んで、公務員保育士採用試験の実施状況と合格するための勉強方法について確認する。
		事後学習	公務員採用試験の学習計画を立てる。保育問題に関する新聞記事を探してくる。
第 2 回	実技試験対策「パペットセラピー」① (外部講師)	事前学習	実技試験で求められることを考える。
		事後学習	本日学習した実技を復習し、宿題を行う。
第 3 回	実技試験対策「パペットセラピー」② (外部講師)	事前学習	前回学習したことを振り返り、発表の準備をする。
		事後学習	本日学習した実技を復習する。
第 4 回	論文の書き方 (自分で探してきた新聞記事をもとに論作文を作成する)	事前学習	教科書 pp.28～102 を読んでくる。
		事後学習	論文の書き方を復習し、もう一度書いてみる。
第 5 回	保育士就職模擬試験 (教養)	事前学習	保育士就職試験で出題される教養試験の問題について総復習する。
		事後学習	本日の模擬試験で出来なかったところをやり直す。
第 6 回	保育士就職模擬試験 (専門)	事前学習	保育士就職試験で出題される専門試験の問題について総復習する。
		事後学習	本日の模擬試験で出来なかったところをやり直す。
第 7 回	保育士就職模擬試験 (作文)	事前学習	論文の書き方について復習してくる。
		事後学習	うまく書けなかったところをもう一度書き直してみる。
第 8 回	教養科目のまとめ 「数的推理・判断推理・資料解釈」	事前学習	「数的推理・判断推理・資料解釈」で自分が苦手と思われる問題を確認する。
		事後学習	「数的推理・判断推理・資料解釈」で自分が苦手と思われる問題を再度復習する。
第 9 回	教養科目のまとめ 「社会科学・人文科学」	事前学習	「社会科学・人文科学」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「社会科学・人文科学」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 10 回	専門科目のまとめ 「保育の心理学」「子どもの保健」	事前学習	「保育の心理学」「子どもの保健」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「保育の心理学」「子どもの保健」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 11 回	専門科目のまとめ 「社会福祉・児童家庭福祉」	事前学習	「社会福祉・児童家庭福祉」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「社会福祉・児童家庭福祉」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 12 回	専門科目のまとめ 「保育原理・保育内容・教育原理」	事前学習	「保育原理・保育内容・教育原理」で自分が苦手と思われる分野を確認する。
		事後学習	「保育原理・保育内容・教育原理」で自分が苦手と思われる分野を再度復習する。
第 13 回	実技試験対策「読み書かせ等」	事前学習	実技試験対策で求められることを確認する。
		事後学習	本日の実技で学習したことを振り返って、もう一度自分で試してみる。
第 14 回	面接試験対策 (外部講師)	事前学習	教科書 pp.104～130 を読み、面接試験で何が求められるかを調べてくる。
		事後学習	本日学習したことを振り返り、面接試験に備える。
第 15 回	面接試験対策、まとめ	事前学習	教科書 pp.124～168 を読み、面接や論文で問われる重要事項を確認する。
		事後学習	この科目で学習したことを振り返り、採用試験に備える。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311								
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD2211								
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年								
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい										
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 次時の学習範囲の予習 <p>*事前学習は基本的な予習内容を記載したもので、実際の内容に関しては該当教官からの指示もあるので注意すること。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動) 資格試験研究会編『小学校全科らくらくマスター』実務教育出版、2017 年度版</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>各回の小テスト</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>授業への積極性</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>まとめのレポート</td> <td>・・・20%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table>			各回の小テスト	・・・40%	授業への積極性	・・・40%	まとめのレポート	・・・20%	100%	
各回の小テスト	・・・40%										
授業への積極性	・・・40%										
まとめのレポート	・・・20%										
100%											
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。 ③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合がある。その際にはコーディネーターが事前に告知する。</p>										
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。								
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。								
第 2 回	国語科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 3 回	国語科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 4 回	国語科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅰ・Ⅱ」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅰ・Ⅱ」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 5 回	国語科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅲ～日本文学史」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅲ～日本文学史」について、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 6 回	社会科学学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 7 回	社会科学学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 8 回	社会科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「地理・歴史」の内容を把握する。								
		事後学習	「地理・歴史」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 9 回	社会科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「公民 (政治・経済等)」の内容を把握する。								
		事後学習	「公民 (政治・経済等)」において、指摘された部分および確認								

			テストの結果等の振り返りをする。
第 10 回	理科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の前半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 11 回	理科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の後半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 12 回	理科学習指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「生命・地球分野」の内容を把握する。
		事後学習	「生命・地球分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 13 回	理科学習指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「物質・エネルギー分野」の内容を把握する。
		事後学習	「物質・エネルギー分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 14 回	音楽科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 15 回	最新過去問（全科分野）	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備える。
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにする。
第 16 回	図工科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	「絵画・立体・デザイン・工具・鑑賞等」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 17 回	図工科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「共通教材および鑑賞教材」の内容を把握する。
		事後学習	「共通教材および鑑賞教材」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 18 回	家庭科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般および『衣類・食事・住まいの生活』」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般および衣類・食事・住まいの生活」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 19 回	算数科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 20 回	算数科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 21 回	算数科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「数量・グラフ領域」の内容を把握する。
		事後学習	「数量・グラフ領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 22 回	算数科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「図形・確率領域」の内容を把握する。
		事後学習	「図形・確率領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 23 回	総合的な学習の時間の学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 24 回	外国語活動の学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 25 回	外国語活動指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 26 回	体育科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 27 回	体育科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「運動全般・保健領域」の内容を把握する。
		事後学習	「運動全般・保健領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 28 回	道徳学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における道徳の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における道徳の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 29 回	特別活動学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における特別活動の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における特別活動の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 30 回	これまで学習した各教科における学習内容や構成に関する習熟度確認問題演習	事前学習	これまで学習した各教科における学習内容や構成を総合的に把握し簡潔にまとめられるようにする。
		事後学習	3 年次に向けて 一キャリア開発演習 I における学習内容（教職教養）一の内容把握と準備

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	面川 幸子		GECD2262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、学校現場で必要とされる養護教諭をめざし、その資質と力量を向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、児童生徒への対応に関するディスカッション、各種実技演習などに取り組み、基礎的な能力を確実に身につける。また養護教諭という職業、あるいは教員採用試験対策に対する意欲を向上させるとともに、自己学習の習慣を定着させる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての養護教諭の資質と力量形成に向け、他の専門科目と関連付けながら、基礎的な知識や技術を確実に習得する。 2. 児童生徒の心身の健康課題に対する判断力を向上させるとともに、養護教諭の専門性をいかした対応のあり方を習得する。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、翌週の確認問題演習に備える。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 (学校保健実務必携の該当箇所を熟読し、他の科目での既習事項を復習しておく。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『2017 年度版教員採用試験 Basic 定着シリーズ⑦よくわかる養護教諭』時事通信出版局。 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第 4 次改訂版』第一法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加態度 (30%) 2. 演習問題および振り返りシートの記入 (自己学習への取り組み) (50%) 3. まとめ (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目や教職関連科目の内容とリンクさせながら、養護教諭になるための基礎的な知識を確かなものにしていきます。また、演習やグループ討議を通して、養護教諭としての基本的態度や資質を身につけます。今のうちからこうした基盤作りに地道に取り組むことが、学校現場から必要とされる養護教諭として成長することにつながります。教員採用試験に合格に向けて、ひとつずつ、クリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・自己理解、他者理解のワーク ・これからの学びと教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	養護教諭を目指す意志を明確化し、今後の具体的な学習目標を持つ。
第 2 回	学校保健の領域・保健指導と保健学習 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.5~19
第 3 回	学校保健安全法 学校保健計画・学校安全計画・学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.20~25
第 4 回	養護教諭の職務 (養護教諭に求められる資質) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.150~160
第 5 回	健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.80~86
第 6 回	健康診断 ①健康診断の意義・種類・検査項目 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる教科書 pp.38~70。
第 7 回	②保健調査・健康診断票の記入 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはか。pp.46~54
第 8 回	③健康相談・こころのケア (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.72~78
第 9 回	④発達障害・メンタルヘルス (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.180~184,p.194
第 10 回	⑤視力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.56 p.166
第 11 回	⑥聴力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.58 p.168

第 1 2 回	⑦歯科検診・う歯・その他歯科関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.62 ,p90 ,p170
第 1 3 回	⑧身体測定：身長・体重・座高 脊柱側弯検診 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.60～
第 1 4 回	⑨事後措置・健康診断での養護教諭の役割 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.68～70
第 1 5 回	・春期演習問題のまとめと振り返り	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 1 6 回	保健室の機能・保健室経営	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.196～198
第 1 7 回	疾病予防 ①最近の疾病予防 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.88
第 1 8 回	②腎臓病・糖尿病 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.94 ,p.98
第 1 9 回	③小児生活習慣病・肥満 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.96 ,p100 ,p192
第 2 0 回	④アレルギー疾患 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携の中で、本時の授業内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度行い、内容の定着をはかる。p.102 ,p104
第 2 1 回	⑤学校感染症の種類・出席停止期間の基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携(pp.447～462)等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.106～110
第 2 2 回	⑥感染症の症状 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.112～122
第 2 3 回	⑦心臓検診・心臓疾患・その他心臓関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.66 ,pp174
第 2 4 回	⑧結核検診 (問題演習・実技演習・振り返り) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.64
第 2 5 回	学校環境衛生 ① 学校環境衛生の目的・学校環境衛生活 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携 (pp.80～166) 等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.26～29
第 2 6 回	②学校環境衛生検査項目と基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.30～36
第 2 7 回	養護教諭の専門知識 ①各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.162～178
第 2 8 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り) ②各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。 学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	先輩の合格体験を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。 本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 2 9 回	③飲酒・喫煙・薬物乱用、性教育 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.186～192
第 3 0 回	秋期演習問題のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (中等) / (保育士 : SC) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1314 EDTS1101
2. 授業担当教員	鈴木 達也		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育の基礎的概念と諸理論について概説するとともに、教育の意義と目的、教育の制度と基本的な実践原理及び指導原理について講義する。</p> <p>① 後世の教育思想に大きな影響を与えたコメニウスに始まり、世界で最初の教科書『世界図絵』での「学校」を手掛かりに、現在の学校教育との差異に幅広く気付く。</p> <p>② 子どもの存在は歴史的にどのようにみなされてきたのであろうか。「子どもの発見」の意味を探る。</p> <p>③ 新教育運動の中心概念となっている「自発性の原理」「自己活動の原理」など、基本的な実践理論、指導理論を探る。</p> <p>④ 教育は子どもの人間形成に寄与するという大テーマのもとに、人間的な子どもの特性が強調され、定型化された教育から、より人間的な教育の方法へという日本の教育の流れを先人の教育理論からたどる。</p> <p>⑤ 「教えること」と「学ぶこと」をつなぐことに腐心してきた先人の指導理論の変遷をたどり、今の指導理論の中に十分反映されていることを探る。</p> <p>などを通して、現在の学校教育がかかえている諸課題に対応していく糸口を、先人の知見から学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>①教育の考え方や在り方の多様性に触れ、今の教育事象に問いを持つ。</p> <p>②「子どもの発見」以来、子ども観の変遷を整理し、子どもの人間形成という教育の使命を柱に据えて教育を考えることができる。</p> <p>③教育はその時代とともに変遷し、教育者は社会の要請に応じて柔軟に建設的に対応することに努め、教育理論を進展させてきた上に今の教育の営みがあることを理解し、教育実践者としての自覚を深める。</p> <p>④「教えること」と「学ぶこと」をつなぐ教育者としての永遠の課題を自覚し「学生」となる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の進行に応じて、レポートを課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 高田喜久司著『学習指導の理論と実践』樹村房。 その他 (主として原典の抜粋) をその都度配布する。</p> <p>【参考書】 J. デューイ『民主主義と教育 上下』岩波文庫。 J. デューイ『学校と社会』岩波文庫。 その他、参考文献を紹介していく。</p>		
11. 成績評価の方法	・レポート	40%	
	・期末試験	30%	
	・日常の授業態度 (参加態度、発表等)	30%	
12. 受講生への メッセージ	この授業を機会に、子ども観の変遷、教育観の変遷、先人の指導理論の変遷を柱に、教育の奥深さに触れ、時代とともに変遷していくことを実感してください。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・コメニウスに学ぶ。「学校」「教科書」	事前学習	教科書を概観しコメニウスを知り講義に臨む。
		事後学習	コメニウスに学んだことをまとめ教育に問いを持つ。
第 2 回	・現在の学校教育との差異に着目した問い。	事前学習	コメニウス資料を熟読し準備する。
		事後学習	現在の学校教育について自分の気付きをまとめる。
第 3 回	・ヘルバルトに学ぶ。「教育は品性を陶冶する」	事前学習	ヘルバルト資料を熟読し準備する。
		事後学習	「道徳的品性」、「陶冶」と「教育」についてまとめる。
第 4 回	・ヘルバルトに学ぶ。「多方興味」「段階的教授法」	事前学習	ヘルバルトの教授法資料を熟読し準備する。
		事後学習	ヘルバルトの教育学の特徴についてまとめる。
第 5 回	・ルソー、ペスタロッチに学ぶ。「子どもの発見」の意味	事前学習	ルソー、ペスタロッチ資料を熟読し準備する。
		事後学習	「子どもの発見」についてまとめる。
第 6 回	・ルソー、ペスタロッチに学ぶ。「子ども観」の変遷	事前学習	「子ども観」資料を熟読し準備する。
		事後学習	ルソー、ペスタロッチの教育についてまとめる。
第 7 回	・ J. デューイに学ぶ。「定型化」への批判	事前学習	J. デューイ資料を熟読し準備する。
		事後学習	型から入って型から離れることの意味についてまとめる。
第 8 回	・ J. デューイに学ぶ。アメリカが工業化していく時代と教育	事前学習	J. デューイ資料を熟読し時代背景をまとめ準備する。
		事後学習	時代の変化に対応する教育や理論について意義をまとめる。
第 9 回	・ J. デューイに学ぶ。子どもの「主体性」と「社会性」を育てる	事前学習	J. デューイ資料を熟読し社会の一員として育てる大切さについてまとめ準備する。
		事後学習	人間形成の柱として「主体性」「社会性」の育成につい

			てまとめる。
第 10 回	・ J. デューイに学ぶ。「学校と社会」	事前学習	J. デューイ資料を熟読し教育理論の特徴をまとめ準備する。
		事後学習	「学校と社会」を窓口に、教育の在り方についてまとめる。
第 11 回	・ 明治維新と学制。学校教育の導入	事前学習	配布資料を熟読し、今の学校教育との違いをまとめ準備する。
		事後学習	学制の発布と学校教育の導入についてまとめる。
第 12 回	・ 明治後期から大正自由教育へ。「定型化」への批判	事前学習	配布資料を熟読し、大正自由教育の主張を調べ準備する。
		事後学習	定型から新しい教育を創造するムーヴメントについてまとめる。
第 13 回	・ 戦時下の教育と戦後の教育。アメリカ進歩主義教育の影響	事前学習	配布資料を熟読し戦時下と戦後の教育の違いをまとめ準備する。
		事後学習	民主主義社会における教育の希望についてまとめる。
第 14 回	・ 「生きて働く力」から「生きる力」へ。	事前学習	配布資料を熟読し学力観の変遷をまとめ準備する。
		事後学習	「生きる力」に象徴される学力観についてまとめる。
第 15 回	・ まとめ。「教えること」と「学ぶこと」を結ぶ鍵	事前学習	教えることと学ぶことを結ぶ鍵をどこに見出そうとするかを簡単にまとめ準備する。
		事後学習	教えることと学ぶことを結ぶ教育の在り方についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC3411 EDTE1103 EDTE3303
2. 授業担当教員	荻原 邦昭	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやるべきかを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育評価について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間レポート課題：望ましい教育課程の編成・実施・評価について 2 期末レポート課題：教育課程をめぐる課題について <p>※ いずれも A4 版横書き (約 1,000 字～1,200 字程度) レポート形式で記述。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社、平成 20 年 8 月。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成 20 年 10 月。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『中学校学習指導要領解説総則編』ぎょうせい、平成 20 年 9 月。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間・期末レポート：総合点の 60% 2 振り返りシート：総合点の 20% 3 発表、討論：総合点の 10% 4 日常の授業への出席、参加態度：総合点の 10% <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退それぞれ 3 回で欠席 1 回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。 		
12. 受講生への メッセージ	<p>学校教育が知・徳・体の調和のとれた子どもたちを育成し、地域社会・家庭から信頼を得るためには、適切で特色ある教育課程の編成が求められている。このため本科目では、教育課程の根拠となる幼稚園教育要領、小学校学習指導要領や教育課程の編成、実施、評価について学び、教育課程の望ましいあり方について考察する。このため、受講生は次の事柄を順守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退はしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作は慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講生の立場に立って講義する。 3 討議など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 教育課程とは何か、 今日の教育課題について グループ作り	事前学習	教育課程の意味を考える。
		事後学習	今日の教育課題と教育課程との関連をまとめることができる。
第 2 回	近現代の教育課程の歩み 1 明治期、大正期、昭和前期の教育課程	事前学習	日本の教育課程の歩みを概観する。
		事後学習	明治期、大正期、昭和前期 (国民学校) までの教育課程の歩みについて年表を通して概観し、理解することができる。
第 3 回	近現代の教育課程の歩み 2 経験主義と児童中心主義 新教育運動 コアカリキュラム	事前学習	戦後の教育課程の特色を考える。
		事後学習	戦後まもなく生まれた二つの学習指導要領の特色とその意義を理解し、まとめることができる。
第 4 回	近現代の教育課程の歩み 3 系統性の重視	事前学習	系統性カリキュラムの特色を考える。
		事後学習	経験主義から系統性重視になぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。

第 5 回	近現代の教育課程の歩み 4 教育の現代化 人間性重視への転換	事前学習	現代化、人間性重視転換の背景について考える。
		事後学習	教育の現代化から人間性重視へなぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。
第 6 回	近現代の教育課程の歩み 5 新しい学力観 生きる力と確かな学力	事前学習	現行の学習指導要領の特色について考える。
		事後学習	新学力観や生きる力など現行の学習指導要領の意義と内容について理解し、まとめることができる。
第 7 回	小学校学習指導要領の内容理解 1 総説 教育課程の基準 教育課程の編成及び実施（一般方針）	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	総説から教育課程の編成及び実施までの要点をまとめることができる。
第 8 回	小学校学習指導要領の内容理解 2 教育課程の編成及び実施（授業時数・指導計画の作成） 教育課程実施上の配慮事項 教育課程編成の手順と評価	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程の編成及び実施、実施上の配慮事項、手順と評価について、その要点をまとめることができる。 中間レポートを提出する。
第 9 回	教育課程をめぐる問題 1 学力をめぐる問題とその向上策	事前学習	学力の低下問題について調べる。
		事後学習	学力低下問題が起こった経緯とこれに対する対応について様々な角度から考えることができる。
第 10 回	教育課程をめぐる問題 2 言語活動の充実とその指導法	事前学習	言語活動の意義について考える。
		事後学習	言語活動充実の基本的考えから発達段階に応じた指導について考えることができる。
第 11 回	現代における教育課程の課題 1 道徳、特別活動 総合的な学習の時間	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑を行い、理解を深めることができる。
第 12 回	現代における教育課程の課題 2 外国語活動 国際理解教育 環境教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 13 回	現代における教育課程の課題 3 キャリア教育 特別支援教育 生活科	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 14 回	現代における教育課程の課題 4 メディアリテラシー 食育 人権教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 15 回	幼稚園における教育課程 教育課程の編成 編成の基本 編成の実際 教育課程の評価 講義のまとめ	事前学習	幼稚園教育要領を通読する。
		事後学習	幼稚園教育要領の総説、ねらい及び内容、留意事項などを踏まえ、教育課程の編成についての基本的要点を理解し、まとめることができる。 教育課程で学んだことを整理することができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3131
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義および演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から解説する学問である。教育心理学の基礎とされる発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識を深め、今日の教育の現場が必要としている問題解決のための諸要因を解説する。本講義では、以上のような基礎的知識の修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学と心理学の深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 学習の場における諸問題について指摘できるようになる。 3. 子どもの発達と学習能力を高めるさまざまな要因について理解できるようになる。 4. 教育の目的から考える学校生活のあり方：理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 5. 学習の場におけるウェルビーイングを考え、理想的な教育の姿を考察できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単元のまとめの活動 2. ビデオ解説のワークシート作成。 3. 学期末テスト 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 松原達哉編著『教育心理学』丸善出版、2013年。</p> <p>【参考書】 北尾倫彦・中島実・林龍平・広瀬雄彦・高岡昌子・伊藤美香著『コンパクト教育心理学』北王路書房、2008年。 宮川充司、大野久、大野木裕明編著『子どもの発達と学校』ナカニシヤ出版、2000年。 Richard D. Parsons, et. al. 『Educational Psychology: A Practitioner-Researcher Model of Teaching』 West Chester University, 2001。 日本教育心理学会編『教育心理学ハンドブック』有斐閣、2002年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>単元のまとめ活動 50% 学期末テスト 20% ワークシート作成 20% ディスカッション・発表 10% *評価基準は、履修要項を参照のこと。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育の目的を達成する為には、学習意欲を促す環境作りが重要です。その為にも、アカデミック・コミュニティである教室内ではマナーある行動と円滑な人間関係の形成は欠かせません。よって次のことに注意して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに示される学習範囲の事前学習は、講義内容を深く理解する意味でも重要です。また授業中は講義に集中し、携帯等は電源を切りカバンの中に入れて下さい。 2. 提出物は期限までに必ず提出して下さい。期限を過ぎたものは、原点の対象となります。 3. 近年の教育に関わる社会問題に対して関心を持ち、心理学の研究論文等に慣れる事も重要です。 		
13. オフィスアワー	第1回講義日にお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	導入：シラバスの説明と教科目標に関して 教育心理学と課題：学校の中の子どもたち	事前学習	テキスト第1章 (pp.1~8) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第2回	ビデオ：はるかに豊かな赤ちゃんの感受性 ディスカッション	事前学習	テキスト第1章 (pp.1~8) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート1の提出
第3回	発達と教育：パート1 認知の発達	事前学習	テキスト第2章 36 (pp.9~26) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第4回	ビデオ：愛着 ディスカッション/まとめ1	事前学習	テキスト第2章 (pp. 9~26) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート2の提出
第5回	子どもの発達の理解：パート2 社会性の発達	事前学習	テキスト第2章 (pp.26~36) の内容をまとめる)
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第6回	ビデオ：家庭の環境 ディスカッション	事前学習	テキスト第2章 (pp.26~36) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート3の提出
第7回	子どもの発達と教育：パート1 アイデンティティ形成	事前学習	配付資料1の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第8回	ビデオ：十代の対人関係 ディスカッション/まとめ2	事前学習	配付資料1の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート4の見直し
第9回	子どもの発達と教育：パート2 アイデンティティと諸問題	事前学習	配付資料1の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第10回	ディスカッション	事前学習	配付資料1の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート5の提出
第11回	ここまでのまとめ3	事前学習	ここまでの重要な概念をまとめる

		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 1 2 回	補足説明：新しい発見を促す	事前学習	更に関心がある概念について深く調べる
		事後学習	ワークシート 6 の提出
第 1 3 回	適応の心理と教育：不適応児の理解と指導	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.86~113) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 1 4 回	ビデオ：増加する非行とその変質 ディスカッション	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.86~113) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 7 の提出
第 1 5 回	特別支援教育と発達障害： 不適応児の理解と指導	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.37~60) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 1 6 回	ビデオ：学級崩壊 ディスカッション	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.37~60) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 8 の提出
第 1 7 回	学習理論：学習とは	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.114~133) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 1 8 回	ビデオ：子ども時代について ディスカッション／まとめ 4	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.114~133) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 9 の提出
第 1 9 回	動機づけ：不適応児の理解と指導 パート 1	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.134~156) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 2 0 回	ビデオ： ディスカッション	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.134~156) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 10 の提出
第 2 1 回	動機づけ：不適応児の理解と指導 パート 2	事前学習	配布資料 2 の内容をまとめる
		事後学習	教科第 II 部の見直し
第 2 2 回	ビデオ：発達の背景 ディスカッション	事前学習	配布資料 2 の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 11 の提出
第 2 3 回	学習指導：不適応児の理解と指導	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.61~84) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 2 4 回	ビデオ：病んでいく学校 ディスカッション／まとめ 5	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.61~84) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 12 の提出
第 2 5 回	授業法：不適応児の理解と指導	事前学習	テキスト第 8 章 (pp.159~178) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 2 6 回	ビデオ：学校教育とカウンセリング ディスカッション	事前学習	テキスト第 8 章 (pp.159~178) の内容をまとめる (アサイメント 10)
		事後学習	ワークシート 13 の提出
第 2 7 回	学級の心理：人間形成の場	事前学習	テキスト第 9 章 (pp.180~200) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 2 8 回	ビデオ：問題を抱える家族 ディスカッション／まとめ 6	事前学習	テキスト第 9 章 (pp.180~200) の内容をまとめる
		事後学習	ワークシート 14 の提出
第 2 9 回	教育評価：教育システムと評価の在り方	事前学習	テキスト第 10 章 (pp.202~224) の内容をまとめる
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める
第 3 0 回	総まとめ：補足説明と質疑応答	事前学習	テキスト第 10 章 (pp.202~224) の内容をまとめる
		事後学習	教科内容と課題の総まとめ
学期末テスト			

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE2105
2. 授業担当教員	懸川 武史			
4. 授業形態	講義、演習、グループディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育心理学は、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考える学問である。それを考える上では主に、発達、学習、人格、測定・評価の4つの領域について基礎知識が必要となってくる。本講義では、以上のような基礎的知識修得に加え、事例に則り、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討する。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用も考察する。			
8. 学習目標	1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明することができる。 2. 教育心理学の見方、考え方を習得し、活用できる。 3. 教育心理学の知識、見方、考え方を教育の場で応用できるようにする。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	専門用語の概念をキーワードとして理解する。 子どもの学びについてレポート作成をとおして理解する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『グラフィック 学校臨床心理学』サイエンス社。 【参考書】 学修において参考図書を紹介する。 配付資料 (A4版) を整理・まとめられるステーションナリーを準備する。			
11. 成績評価の方法	小テスト (キーワードの理解) 30% レポート+授業への取組 20% 期末筆記試験 50% ※ 成績達成 80/100			
12. 受講生への メッセージ	21世紀型能力の育成では、多様な指導法を柔軟にデザインする力と指導力が問われます。 教育心理学の科学性を理解し子どもの学びを保障できる能力の向上を目指しましょう。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	教育心理学に求められること	事前学習	第1回にて「ワールドカフェ」を行う。ホールシステムアプローチの1つ「ワールドカフェ」について確認する。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第2回	教育心理学の目的と領域	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第3回	学習理論	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第4回	発達 ①	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第5回	発達 ②	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第6回	メタ認知と学習方略	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第7回	動機づけ	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第8回	学習方法	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第9回	学習活動	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第10回	発達障害	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第11回	授業デザイン ①	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第12回	教育評価	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第13回	学校臨床心理学	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第14回	学びのユニバーサルデザイン (UDL)	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第15回	授業デザイン ② レポート作成	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードのまとめ	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3214
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育相談とは、小学校や中学校・高等学校など教育現場において、児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、児童・生徒をとりまく保護者やさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う学校での教育相談活動について、児童・生徒理解のために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて、知識を深め考察することを目的とする。			
8. 学習目標	①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談 (カウンセリング) を実践するための基本的に視点を身につけて実践できる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教育相談についての理解を円滑にするため、配布資料の関連部分を読むことを第2回～第14回の授業の事前学習とする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ・授業内でプリントを配布する。 【参考書】 ・春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011年。 ・水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013年。			
11. 成績評価の方法	・レポート課題・演習課題 60%、受講態度 40%とする。 ・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。 ・本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。			
12. 受講生への メッセージ	教育現場では、いじめ、不登校、非行、発達障がい、その他様々な教育上の課題がある。本科目では、教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実践するための基本的な視点を学んでほしい。ロールプレイなど演習を多く行い、援助者と被援助者の思いや願いを感じられるように授業を進める。ディスカッションで受講者同士の考えを交流する機会を設定し、教育相談的援助の対応策を具体的に考えられるような授業を構成していきたい。そのために、受講生の主体的な受講態度を期待している。			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 教師に求められる臨床的視点、カウンセリングマインド	事前学習	シラバスを読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 2 回	受容と指導、生徒指導と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 3 回	子どもの発達課題と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 4 回	教育現場における教育相談、学校心理学とは何か	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 5 回	援助者の活動	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 6 回	予防・開発的取り組みと教育相談 (1 次的援助サービス)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 7 回	特別支援教育と教育相談 (2 次的援助サービス)	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 8 回	教育現場における教育相談 (3 次的援助サービス) ①	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 9 回	教育現場における教育相談 (3 次的援助サービス) ②	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 10 回	保護者への支援と教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 11 回	組織内の相談システムと教育相談 (チーム援助) ①	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 12 回	組織内の相談システムと教育相談 (チーム援助) ②	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 13 回	スクールカウンセラー・スクールソーシャル ワーカーと教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 14 回	専門機関との支援ネットワークと教育相談	事前学習	配布資料の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理しておく。	
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認する。	

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3314
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄		
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、小学校や中学校・高等学校など教育現場において、児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、児童・生徒をとりまく保護者やさまざまな環境なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本講義では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う学校での教育相談活動について、児童・生徒理解のために必要な知識・方法および実際の介入方法などについて、知識を深め考察することを目的とする。		
8. 学習目標	①教育現場の実際の問題を知り教育相談の意義を理解し、説明できる。 ②教育相談の基礎となるカウンセリングについて理解し、対処できるようになる。 ③教育相談 (カウンセリング) を実践するための基本的に視点を身につけ実践できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・レポート課題 教育相談 (カウンセリングを含む) の講義や外部講師の講話を通して、自分の関心のある課題 (テーマ) を設定し、自分の考えも述べながらレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ・春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011 年。 【参考書】 ・水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013 年。 ・石隈利紀・藤井英行・田中輝美『生涯発達の中のカウンセリングⅡ』サイエンス社、2013 年。 *必要に応じてプリント資料を配付する。		
11. 成績評価の方法	成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。 1. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・確認テスト・私語・発表) 総合点の 80 % 2. レポート 総合点の 20 %		
12. 受講生への メッセージ	教育現場では、いじめ、不登校、非行、発達障がい、その他様々な教育上の課題がある。本科目では、教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実践するための基本的な視点を学んでほしい。ロールプレイなど演習を多く行い、援助者と被援助者の思いや願いを感じられるように授業を進める。ディスカッションで受講者同士の考えを交流する機会を設定し、教育相談的援助の対応策を具体的に考えられるような授業を構成していきたい。そのために、受講生の主体的な受講態度を期待している。		
13. オフィスアワー	第 1 回の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教師に求められる カウンセリングマインドについて	事前学習	シラバスを読む。
		事後学習	授業内容について理解したことをまとめる。
第 2 回	受容 (共感) と指導 (要求)、生徒指導と教育相談など	事前学習	教科書の pp.10～19 を熟読し、授業に生かす臨床的視点 p18 の事例について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの心を聴くことの意味と意義を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 3 回	子どもの発達課題と教育相談	事前学習	教科書の pp.22～33 子どもの発達と教育相談を熟読し、学童期の発達と教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの発達に合わせた教育相談について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 4 回	学校現場における「問題行動」と教育相談①	事前学習	教科書の pp.42～47 学校現場における「問題行動」と教育相談を熟読し、不登校問題と指導・支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、不登校、いじめなどの問題行動のとらえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 5 回	学校現場における「問題行動」と教育相談②	事前学習	教科書の pp.48～59 学校における「問題行動」を熟読し、意欲の乏しい子どもの指導・支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、万引き、意欲低下などの問題行動のとらえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 6 回	特別支援教育と教育相談①	事前学習	教科書の pp.62～69 特別支援教育と教育相談を熟読し、発達障害のとらえ方と対応について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育の基本的な考え方や発達障害を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 7 回	特別支援教育と教育相談②	事前学習	教科書の pp.70～81 特別支援教育と教育相談を熟読し、気になる子どもへのかかわりと学級の取り組みについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育コーディネーターの意義と役割、及びその実際について理解したことをワークシートにまと

			めファイリングする。
第 8 回	予防・開発的取り組みと教育相談①	事前学習	教科書の pp.82～89 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、問題解決から予防・開発的な教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、さまざまな教育相談にかかわる技法を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 9 回	予防・開発的取り組みと教育相談②	事前学習	教科書の pp.90～97 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、アサーション・トレーニングについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、交流分析、ピアサポートなどを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 10 回	教師への支援と教育相談	事前学習	教科書の pp.102～121 教師への支援と教育相談を熟読し、教師支援の必要性について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教師へのメンタルヘルスを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 11 回	保護者への支援と教育相談	事前学習	教科書の pp.122～141 保護者の支援と教育相談を熟読し、若い保護者の子育て不安と虐待問題への支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、親が抱えている問題への対応を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 12 回	校内の相談システムと教育相談(チーム支援)	事前学習	教科書の pp.142～159 校内の相談システムと教育相談を熟読し、相談室、部室の取り組みとネットワークについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、チーム援助のシステムを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 13 回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談	事前学習	教科書の pp.162～181 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談を熟読し、学校で役立つスクールカウンセラー(SC)の条件について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割と活用の実際を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 14 回	専門機関との支援ネットワークと教育相談	事前学習	教科書の pp.182～204 専門機関とのネットワークと教育相談について熟読し、医療機関との連携について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教育福祉医療及びそのたの機関との連携を理解しワークシートにまとめファイリングする。
第 15 回	授業のまとめ 学校現場の現状～外部講師を招いて～	事前学習	第 14 回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理し、講師への質問をまとめておく。
		事後学習	講師への感想を記述し、これまでの講義や講師の話を受けて、レポート課題を提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3440 SNMP3440 SCMP3440 SBMP3440 EDTS3106 EDTS3306
2. 授業担当教員	大澤 靖彦		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	なし		
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちをとりまく多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含む広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教師だからこそできる教育相談について述べよ。 *カウンセラーとは異なり、子どもの身近にいるからこそできる教育相談と教師の強みについて考究する。 2. 教育相談で望ましい教師の態度について述べよ。 *ロジャーズのいう受容・共感・自己一致について考究する 3. 指定した教材を基にして、レポート 2 で理解した 3 つの態度について具体的に述べよ。 *レポート 2 について理解を深め、具体的に望ましい態度とはどのようなものなのかを考究する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 石井正一郎編著『エッセンス 学校教育相談心理学』北大路書房。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲および態度 30%、レポートの提出・評価 30%、期末試験 40% ・本学規定により、3/4 以上の出席を求めます。 ・遅延の場合は証明書を提出すること。 ・実習や就職活動で欠席する場合には、事前に報告すること。 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に 1 つの原因があるから問題が起こるという見方ではなく、子どもを多面的に理解してほしい。 ・教師だからこそできる援助と限界を理解した上で、さまざまなアプローチを考えてほしい。 ・授業に関連する教員採用試験の過去問を配布するので、授業内でできない時には、次の授業までに回答してください。 ・積極的態で参加していただきたい。 ・不明な点は、授業時間のうちに質問していただきたい。 ・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>－教育相談とは何か－ 日本における教育相談の歴史を踏まえながら、カウンセリングや生徒指導との異同について理解する。さらに、教育相談の意義と役割について理解するとともに教師だからこそできることについて考究する。</p>	事前学習	教科書を準備し、授業に備える。
		事後学習	教科書 pp.2～7 と配布資料を熟読し、教育相談の意義と役割についてノートに整理する。
第 2 回	<p>－教育相談とは何か－ 日本における教育相談の歴史を踏まえながら、カウンセリングや生徒指導との異同について理解する。さらに、教育相談の意義と役割について理解するとともに教師だからこそできることについて考究する。</p>	事前学習	教科書 pp.176～185 を読み、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所をノートに整理するとともにレポートに着手する。
第 3 回	<p>－現代の子ども理解 (一部演習) － 現代の子どもの育ちやすさ・育ちにくさについて考究し、子どもの発達を促すグループワークについて体験する。</p>	事前学習	現代の子どもは育ちやすくなったか、育ちにくくなったかについて考え、ノートにまとめる。
		事後学習	資料を基にして、現代の子どもについて考察し、ノートにまとめるとともに学校教育では何をすべきかについて考究する。
第 4 回	<p>－教育相談における受容・共感・自己一致の大切さとカウンセリングマインド－</p>	事前学習	教科書 pp.13～21 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。

	教育相談における受容と共感がなぜ大切なのか、叱ることの意味について考究し、カウンセリングマインドとは何かについて理解する。	事後学習	学校カウンセリングのベースとなるロジャーズの考え方をおさえたうえで、カウンセリングマインドについて理解する。
第 5 回	一人にかかわるということー 子どもの話を一生懸命に聞いていることをどうやって子どもに伝えるのかについて考え、実践できるようにする。	事前学習	一生懸命に話を聞いているということを相手にどう伝えるのかについて考え、ノートにメモ書きしておく。
		事後学習	面接の基本姿勢について、日常生活で練習して、改善点や感想をノートに書き出す。
第 6 回	ー面接の基本ー 面接における基本的な技法を習得することを目指す、日常の会話や授業でも使えるようにする。	事前学習	自分にとって、安心して話ができる場面とはどのような場面か考え、ノートにまとめてくる。
		事後学習	面接の基本的技法を日常生活で使用して、改善点や感想を書き出す。
第 7 回	ー面接のまとめ (演習) ー 基本的な応答を使ったロールプレイを行い、面接の基本を習得する。	事前学習	4・5回の授業のプリントを参考に面接のロールプレイができるように準備しておく。
		事後学習	日常生活で学んだことを試してみ、自分の応答のクセや改善点について考える。
第 8 回	ー行動カウンセリングの知恵ー 学習理論に基づく人間の行動の理解と行動変容の考え方を理解する。	事前学習	教科書 pp.36～38 (行動療法～自立訓練法) を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	日常生活の中にある学習した困ったことについてどのようなものがあるか考え、ノートに書き出す。
第 9 回	ー認知行動カウンセリングの知恵ー 行動カウンセリングと認知行動カウンセリングの理論と進め方について理解する。	事前学習	教科書 pp.38～40 (認知療法) を熟読し、重要箇所をノートにまとめる。
		事後学習	日常生活を不自由に行っているイラショナル・ベリフについてどのようなものがあるか考え、ノートに書き出す。
第 10 回	ーブリーフセラピーと精神分析の知恵ー 学校で活用できるブリーフセラピーや精神分析の考え方や技法について理解する。	事前学習	教科書 pp.32～33 (精神分析)、pp.40～42 (家族療法、ブリーフセラピー) を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	日常生活で体験する防衛機制についてノートに書き出す。
第 11 回	ー教育アセスメントと心理テストー 子どもの援助のためにはアセスメントは重要である。アセスメントの一部である心理テストについても理解する。	事前学習	教科書 pp.90～100 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	さまざまなテストの特徴について覚え、過去問を解く。
第 12 回	ー勉強についていけない子、友だちとうまくやれない子の理解ー 勉強についていけない子、友だちとうまくやれない子の背景について考えるとともに、その顕著な例としての発達障害について理解を深める。	事前学習	教科書 pp.69～78 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	プリント (教採過去問) を行う。
第 13 回	ー学校へ行かない子の理解ー 学校へ行けない子の背景について考えるとともに、不登校への対応について考える。	事前学習	教科書 pp.112～124 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	授業を踏まえて、プリント (教採過去問) を行う。
第 14 回	ー非行にはしる子と学級崩壊の理解ー 非行にはしる子の背景について理解を深め、学校としてどのようなことができるかについて考える。さらに学級崩壊の背景を知ることで子ども理解を深める。	事前学習	教科書 pp.126～148 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	新聞等で少年犯罪についてのトピックスを拾い出し、考究し、ノートにまとめる。
第 15 回	ーいじめー 学級崩壊の背景やいじめのメカニズムを理解することで現代の子どもの理解を深めるとともにその対応について考究する。	事前学習	教科書 pp.149～162 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	授業を踏まえて、プリント (教採過去問) を行う。
期末試験 (授業で学んだことについて出題する)			

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE2102 EDTE2302
2. 授業担当教員	山本 豊		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本来は、法学や教育課程論などを履修していることが望ましい。したがって、それらの内容で教育法規に関する個所については、講義中に適宜説明する。		
7. 講義概要	<p>本科目は、小学校や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小学校や特別支援学校の小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠のある教育活動ができる教員となること。</p> <p>教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎知識について知り、説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(主に小学校及び特別支援学校の小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 ・ シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 ・ 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する)</p> <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発表 (事前学習の発表も含む) ・ 態度 総合点の 30% ・ 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% ・ 理解度テスト ・ 事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 3. 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに入室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、国の主な法令、地方の主な法規、法令間の矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。

		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法—② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育—① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育—② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育—③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒—① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒—② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食—① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員—① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員—② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員—③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員—④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政— 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規— 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2208
2. 授業担当教員	富永 弥生			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育方法とは、一般的に、教授・学習の方法を意味しており、幼稚園を含む学校で行うすべての教育指導が含まれる。本科目では、教育方法の変遷、教育課程、授業の構造、教育の技術、教育評価などの基礎的事項について理解する。それらを踏まえて、幼児・児童の側に立った指導方法、教材の検討、地域の人材活用、コンピュータなどの情報機器を利用した教育方法等について学習する。さらに、今日的課題である幼・保・小の校種間の連携や、家庭との連携のあり方について考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法の歴史的変遷を理解する。 2. 教育方法の理論と考え方を理解する。 3. 授業の概念や様式についての理解を深める。 4. 幼・保・小の連携や地域社会との連携のあり方について考え、自分の意見を言うことができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・学習指導案作成に向けた教材研究 ・学習指導案の作成、提出 課題 (指導案作成、レポート) については、授業内で告知・解説する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版、2008 年。 文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍、2008 年。 (文部科学省ホームページから PDF ファイルデータでダウンロード可能) 【教材】 模擬保育等の教材に使用する文具等 必要に応じて授業内でプリントを配布する。			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題・演習課題 60%、受講態度 40% とする。 ・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。 ・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。 			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園や学校の現場で、幼児・児童への教育を行うにあたり、教育のねらいを理解していることや幼児・児童の側に立った教育の方法を考えることが欠かせない。教育方法を学び、それを活かした指導の計画を立てることから、教育のやりがいや楽しさを本講義で感じてほしい。			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 幼稚園教育・学校教育の基本	事前学習	シラバスを読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 2 回	小学校の教育課程編成、内容等の取扱い	事前学習	教科書の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 3 回	小学校の授業づくりの基本	事前学習	教科書の指定箇所を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 4 回	小学校における学習活動、指導上の留意点・工夫点	事前学習	教科書の指定箇所、前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 5 回	幼稚園の教育課程編成、ねらい及び内容	事前学習	教科書の指定箇所、前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 6 回	幼稚園教育の実態 (参考指導案から学ぶ)	事前学習	前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 7 回	幼稚園教育の具体 (主活動、子どもへの配慮を考える)	事前学習	前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 8 回	保育の計画 (活動の準備と配慮の視点)	事前学習	前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 9 回	模擬保育の計画	事前学習	前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	演習課題の内容をふり返り、必要に応じて改善点を考える。教材づくり等必要な準備をする。	
第 10 回	模擬保育の準備・検討	事前学習	教科書の指定箇所、前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	検討した内容をふり返る。模擬保育の発表に向けて準備が不足している点があれば補う。	
第 11 回	模擬保育の発表・協議－基礎編－	事前学習	模擬保育の準備に向けた個別の準備・イメージトレーニングをする。	
		事後学習	協議した内容をふり返る。模擬保育の発表に向けて準備が不足している点があれば補う。	
第 12 回	模擬保育の発表・協議－応用編－	事前学習	模擬保育の準備に向けた個別の準備・イメージトレーニングをする。	
		事後学習	協議した内容をふり返る。模擬保育の発表に向けて準備が不足している点があれば補う。	
第 13 回	模擬保育の発表・協議－発展編－	事前学習	模擬保育の準備に向けた個別の準備・イメージトレーニングをする。	
		事後学習	協議した内容をふり返る。授業内容を復習し、前授業までで理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。	
第 14 回	多様な幼児・児童に対応した援助・支援・教育の方法	事前学習	前授業までに配布されたプリント等を読む。	
		事後学習	授業内容を復習する。	
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で、教育方法について自分が身に付けた力が何かを考えておく。	
		事後学習	授業全体をふり返り、よりよい教育を行うための工夫や教育実習等の機会での生かし方を考える。	

1. 科目名 (単位数)	教育方法論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2447 SCMP2447 SBMP2447 SNMP2447 EDTS2104 EDTS2304
2. 授業担当教員	鈴木 達也		
4. 授業形態	講義、演習 (視聴覚教材の鑑賞、問題解決のためのグループワーク・ロールプレイングなどを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	「学習指導要領」の改訂により、各教科、総合的な学習の時間等の授業改善が求められている今日、教師は「よりよい授業づくり」のために、さまざまな教育方法を学ぶことが求められています。この授業では、基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、教育実習時の授業場面に役立つ教育の(方法)を身につけることを目的とします。具体的には、授業場面の事例をもとに、(方法)への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討します。その上で、グループワークによる「模擬授業」を実施し、「授業づくり」の過程における PDCA サイクル (Plan [企画]・Do [実行]・Check [評価]・Action [改善]) を体験的に学びます。		
8. 学習目標	この授業では、PDCA サイクルにもとづいた循環的な「授業づくり」を行うことができる教師の育成が目標となる。そこに至るために次の3つの到達目標を設定する。 1) 中学校・高等学校教諭等を目指す学生に求められる基本的な教授学習理論を理解し、重要な用語について説明することができる。 2) 基本的な指導方法・学習方法を理解した上で、「模擬授業」において実際にその方法論にもとづいた指導案を作成し、授業を展開することができる。 3) 自ら実施した (あるいは他の受講生が実施した) 「模擬授業」の問題点を検討し、次の授業に生かすことができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	テーマごとに理解度・習熟度を確認する課題レポートを提出すること 模擬授業における「学習指導案」の作成すること		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 高田喜久司『学習指導の理論と実践』樹村房 2014 年。(教育学概論中等で使用) 文部科学省『中学校 学習指導要領』東山書房、2008 年。 文部科学省『高等学校 学習指導要領』東山書房、2011 年。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 *その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30%、テスト 30%、レポート課題 40%		
12. 受講生へのメッセージ	受講生の皆さんは幼稚園・小学校・中学校・高等学校と各学校段階において、さまざまな「授業体験」を積み重ねてきていると思います。まずは、自分が体験したことのある「授業」をふりかえり、自分が目指す「よりよい授業」について考えてみてください。その上で、この授業をとおしてさまざまな教育の方法を学び、その方法を試してみるなかで、近い将来に出会うであろう生徒たちにとっての「よりよい授業とは何か」を考え、実践できる教師になるための準備をすすめてください。 【学生に期待される学習態度】 受講生の皆さんは、上記のような目的を達成するために下記の内容に留意してください。 ①教師と受講生、受講生同士のコミュニケーションが学びの質を高めます。グループワークには積極的に取り組み、課題意識をもって臨んでください。 ②授業に臨むにあたって無断欠席、遅刻、早退、無断退出をしないでください。(欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面にて報告してください。正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は不合格となります。) ③明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られないと判断された場合、試験の答案内容如何にかかわらず、不合格となります。 ④授業中、私語、居眠りはしないでください。 ⑤授業中は携帯電話等の携帯端末の電源は切ってください。 【教員の心がまえ】 ①一方通行の講義だけを行うのではなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れながら受講生全員が意見を出しあえるような双方向対話型の学習環境をつくります。 ②遅刻・早退・授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出、その他、授業に臨むうえで不適切と思われ態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション [授業の進め方、「教育方法 (論)」を学ぶ上での心得の説明]	事前学習	シラバスで授業内容を確認する
		事後学習	本時の授業のポイントをノートに整理する
第 2 回	人間性重視の学習指導 ～学問中心から人間中心へ～	事前学習	教科書 pp.61～68 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや重要人物についてノートに整理する
第 3 回	個性重視の原則	事前学習	教科書 pp.68～76、91～94 を読みキーワードにあたっ

	～新しい学力観に立つ学習指導の構想、		ておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや教育課題についてノートに整理する
第 4 回	学習指導の一般的過程 ～教材の特質を生かす	事前学習	教科書 pp.77～82 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや学習過程についてノートに整理する
第 5 回	学びとる子どもと学習指導過程、考える子ども と学習指導過程	事前学習	教科書 pp.82～91 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや重要人物の諸説についてノートに整理する
第 6 回	授業を設計する技術 ～学習指導案の作成 (Plan)	事前学習	配布資料を読んでくること
		事後学習	指定された教科・単元に関する学習指導案 (略案) を各自作成する
第 7 回	基本形態としての一斉学習と問題点 ～小集団学習の指導	事前学習	教科書 pp.96～104 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや指導法についてノートに整理する
第 8 回	個別学習の理論～ドルトン・プランなど	事前学習	教科書 pp.140～146 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや指導理論についてノートに整理する
第 9 回	学級集団の組織・運営	事前学習	教科書 pp.114～130 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや学級経営にポイントをノートに整理する
第 10 回	学習指導の活性化～授業展開と教育的タクト	事前学習	教科書 pp.140～151 を読みキーワードにあたっておく
		事後学習	本時で学んだキーワードや改善の視点についてノートに整理する
第 11 回	「模擬授業」に向けての準備 学習指導案作成と効果的な授業方法の検討 [Plan] 第 2 段階 【キーワード】教育メディア/インターネット	事前学習	指定された教科・単元に関する学習指導案をグループごとに作成する
		事後学習	本時で学習した内容をもとにグループで学習指導案を作成すること
第 12 回	グループワーク「模擬授業」① [Do] [Action] 第 2 段階	事前学習	グループで作成した学習指導案をもとにした模擬授業を実施できる準備をしていくこと
		事後学習	自ら実施した模擬授業の問題点を検討し、他の受講生の模擬授業から得たことを含め、自らの授業実践の改善に向けた方法を文章化すること
第 13 回	グループワーク「模擬授業」② [Do] [Action] 第 2 段階	事前学習	各自の学習指導案をもとにした模擬授業を実施できる準備をしていくこと
		事後学習	自ら実施した模擬授業の問題点を検討し、他の受講生の模擬授業から得たことを含め、自らの授業実践の改善に向けた方法を文章化すること
第 14 回	授業研究の課題と展望 ー「よりよい授業」とは何か [Action] 第 3 段階	事前学習	これまでに作成した各自の学習指導案を見直してこること
		事後学習	期末レポート課題に向けた調査・資料収集をすること
第 15 回	授業のふり返りとまとめ/授業評価	事前学習	配布資料や各自のノート等で本授業の学習内容をふり返り、自己の成果と課題を報告できるようにしてこること
		事後学習	シラバスに記載された本科目の学習目標を達成するための 3 つの到達目標を確認し、その到達度を自己評価する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教師論 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE1102 EDTE1302						
2. 授業担当教員	鈴木 達也									
4. 授業形態	講義、事例研究 (グループワーク)、演習 (論作文)、発表		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>今日の学校教育が抱える様々な課題を解決する上で、その主たる担い手である教員の役割や責任は極めて大きい。これからの教員は、教科・科目に関する知識を教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められている。</p> <p>本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務 (服務・研修・身分保障など) は法律上どのように規定されているかなど、教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。</p> <p>学習するに当たっては、今日、教員に対する信頼が厳しく問われている点を踏まえておく必要がある。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職の意義や教員に求められる資質・能力について理解し、説明が出来るようになる。 2 教員の任用や身分・服務について理解し、説明が出来るようになる。 3 教員の役割と職務内容について理解し、説明が出来るようになる。 4 教員の専門性と研修について理解し、説明が出来るようになる。 5 教職への進路選択と教員採用選考試験の実際 (面接・集団討論・論作文等) について学ぶ。 6 学習全体を通じて、自身が目指す教師像について具体的に説明することが出来るようになる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ I 「目指す教師像について、自身の体験を踏まえ、具体的な場面・事例を取り上げながら論述する。」 ・テーマ II 「これからの教員に求められる資質・能力について、具体的な場面・事例を取り上げながら論述する。」 <p>* レポートについては、テーマ I・II のそれぞれについて 2000 文字程度でまとめ、決められた期限 (春期 6 月末、秋期 12 月末) までに提出すること。アサイメントについては、各自が今日の学校教育の動きの中で興味・関心をもった話題を調べ、適宜発表する。</p>									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 佐藤晴雄著『教職概論-教職を目指す人のために- (第 4 次改訂版)』学陽書房。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 * 必要に応じてプリント資料を配付する。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>・レポート、論作文</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>・期末試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・日常の授業態度 (参加態度、発表等)</td> <td>30%</td> </tr> </table>				・レポート、論作文	40%	・期末試験	30%	・日常の授業態度 (参加態度、発表等)	30%
・レポート、論作文	40%									
・期末試験	30%									
・日常の授業態度 (参加態度、発表等)	30%									
12. 受講生への メッセージ	<p>この「教師論」は教職を目指す人たちのための科目である。したがって、授業内容の理解はもちろんのこと、教員として身に付けるべき資質・能力を磨くことができるよう、あくまでも真摯な授業態度で臨むことを強く求める。また、遅刻、無断欠席、私語、携帯電話の使用等は厳に慎むこと。</p> <p>今日の教育問題にも注目し、常に学校教育に対する課題意識をもって授業に取り組むとともに、教員採用選考試験においては人物評価が厳しく問われている点を踏まえ、自身の人間的な成長を図るための取り組みを惜しまず努力することを期待するものである。</p>									
13. オフィスアワー	後日通知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	科目のガイダンス、「教職の魅力・やりがい」について (ディスカッション)	事前学習	序章「なぜ教師をめざすのか」を読み、講義に臨む。							
		事後学習	自分がイメージする {教師像} についてまとめる。							
第 2 回	教職につく期待を「自分がイメージする教師像」としてまとめる。(論作文)	事前学習	自分がイメージする教師像のポイントを簡潔にまとめ準備する。							
		事後学習	教職の意義についてまとめる。							
第 3 回	教職観の変遷、教員養成及び教員免許制度改革について	事前学習	テキスト pp.36~71 を熟読し準備する。							
		事後学習	教職観の変遷、教員養成制度についてまとめる。							
第 4 回	教職員の配置 (学校教育法第 37 条を参考とする)、教職員の資格、教員の身分と任用について	事前学習	テキスト pp.72~79 を熟読し準備する。							
		事後学習	教員の配置と任用についてまとめる。							
第 5 回	教員の服務と身分保障、勤務条件について	事前学習	テキスト pp.79~89 を熟読し準備する。							
		事後学習	教員の服務と身分保障についてまとめる。							
第 6 回	教員の職務内容 (教育課程の編成、指導と評価、生徒指導等) について	事前学習	テキスト pp.90~100 を熟読し準備する。							
		事後学習	教員の職務内容についてまとめる。							
第 7 回	学級経営と学級担任の仕事、不登校・いじめへの対応について (事例研究 I)	事前学習	テキスト pp.101~111 を熟読し準備する。							
		事後学習	学級経営と学級担任の仕事についてまとめる。							
第 8 回	学校組織 (管理職・主幹・主任等の役割、校務分掌	事前学習	テキスト pp.112~128 を熟読し準備する。							

	等) について	事後学習	学校組織、校務分掌などについてまとめる。
第 9 回	教員の職場環境とメンタルヘルス、学級崩壊への対応について (事例研究Ⅱ)	事前学習	テキスト pp.129～149 を熟読し準備する。
		事後学習	教員の職場環境と人間関係についてまとめる。
第 10 回	教員の資質・能力の向上と研修について (参考:「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」)	事前学習	テキスト pp.150～168 を熟読し準備する。
		事後学習	教員の資質・能力の向上と研修制度についてまとめる。
第 11 回	「分かる授業」の条件 (事例研究Ⅲ)、教育実習の意義と心得について	事前学習	テキスト pp.169～181 を熟読し準備する。
		事後学習	教育実習の意義・心得をまとめる。
第 12 回	学習指導案の作成 (題材:学級活動、総合的な学習の時間での取扱い内容) について (演習)	事前学習	テキスト pp.181～187 を熟読し指導案作成の準備をする。
		事後学習	学習指導案を作成する。
第 13 回	教職への道と教員採用選考試験の志願理由等について	事前学習	テキスト pp.190～203 を熟読し準備する。
		事後学習	教員採用の情報を整理する。
第 14 回	教員採用選考試験の実際 (教科・面接・小論文・集団討論等) について	事前学習	テキスト pp.203～206 を熟読し準備する。
		事後学習	面接試験、集団討論などの傾向についてまとめる。
第 15 回	「教えるということ」(ディスカッション)、まとめ	事前学習	テキスト pp.212～224 を熟読し準備する。
		事後学習	教師としての適性や在り方、自分が目指す教師像についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GELA1104 GELA1131
2. 授業担当教員	アカデミック・アドバイザー			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	大学は専門的職業への学習・準備期間である。この 4 年間でうまくデザインして、自分の夢を実現することは、学生に課せられた課題である。それを援助するのが、この講座の目的である。そこで本講座は、この 4 年間の生活の仕方から始まり、授業の受け方や行事の意義並びに学ぶ仲間との交流の仕方を体得していく。最終的には、卒業時の就職や進学に関する内容を学び、日々の勉学への意欲を高めていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で共に学びあう仲間をつくる。 2. 時間の流れから将来計画をどのように考えていくべきかを理解し、将来の目標を明確に持つことができるようになる。 3. より現実的な将来を切り開くため、自分の特性や家庭事情も含めて考えることができる。 4. 就職や進学のためにこの 4 年間にどのような準備が必要か理解でき、行動に移すことができる。 5. キャリアを人生プロセスの中で考えられ、修正できる柔軟性を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生としての学びは高等学校とは何が違うのか。一本学の授業に期待すること 2. 赤城山宿泊研修から学ばされたことー学びの友と心の友との関係ー 3. 親にしてもらったこと、迷惑をかけたこと、して返したことー親からの自立とは何かー 4. 自分が将来就きたい職業を考える。ーその職業に就いた時、どんな人物像でありたいかー 5. この半年間での私の進歩 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『学生生活の手引き』			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平常点(授業態度・発表・発言など) 50% 2. レポート 5 本 (9. で示したもの) 50% 			
12. 受講生への メッセージ	他の大学と異なり、本学の学生生活にはかなり厳しいものがある。例えば、授業への出席やレポートや発表は義務づけられ、かつディスカッションがふんだんに課せられるからである。そこで、入学後には、早速、高等学校時代とは異なる大きな段差があることになる。そこで、それにつまずかないよう、かつ将来を見据えた生活設計ができるよう本講座は設けられているので、必ず出席し、課題に取り組んでいただきたい。			
13. オフィスアワー	各アカデミック・アドバイザーの指示に従ってください。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(教員の自己紹介/大学における履修方法および成績評価について学ぶ)	事前学習	春期オリエンテーションで分からなかったところを整理しておく。	
		事後学習	履修方法や成績評価について分からなかったことを質問する。	
第 2 回	仲間作り (これまでの友人関係や部活での活動等について語り合う)	事前学習	これまでの友人関係や部活での活動等について思い出し、整理しておく。	
		事後学習	同級生の話を聞き、自分との共通点や相違点についてまとめる。	
第 3 回	海外にも視野を広げてみよう	事前学習	海外留学でどのような能力を身に付けることができるのかについて事前に考えておく。	
		事後学習	海外留学で学べることについてまとめる。	
第 4 回	野外活動を通じての仲間作り	事前学習	小・中・高校時代に体験した野外活動について思い出しておく。	
		事後学習	赤城山宿泊研修での心構えなどについて再度、確認しておく。	
第 5 回	コミュニケーション・スキル学習	事前学習	自分が周りの友人や家族にどのようなコミュニケーションをしているのかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことをまとめ、今後のコミュニケーションに活用する。	
第 6 回	将来計画と今すべきこと・したいことを考える	事前学習	大学に入学してからどのようなことをしてきたかについて振り返り、整理しておく。	
		事後学習	授業で学んだことを活用し、今すべきことを計画通り実行していく。	
第 7 回	親との関係を見直す。心の自立をすとは何か。	事前学習	親からの影響を考えてみる。	
		事後学習	親にしてもらったこと、返したことについて箇条書きにする。	
第 8 回	職業について考える	事前学習	自分が将来就きたい職業について考えを整理しておく。	
		事後学習	自分が将来就きたい職業に就くにはどうしたらよいかについて自ら調べる。	
第 9 回	各学部における専門教育への導入 ①	事前学習	自分が所属している学部学科ではどのような専門性を身に付けることができるのかについてシラバスや大学のホームページを見て、確認しておく。	
		事後学習	授業中に示された各学部学科の専門教育に必要な基礎知識について復習する。	
第 10 回	各学部における専門教育への導入 ②	事前学習	各学部における専門教育への導入①での学習内容を復習しておく。	
		事後学習	各学部における専門教育への導入②での学習内容を復習する。	
第 11 回	本学の試験に備えてすべきこと	事前学習	自分が受講している授業のシラバスを確認し、各授業の成績評価の方法を確認しておく。	
		事後学習	授業で学んだことを活用し、テストやレポートに向けて学習する。	
第 12 回	体を鍛えて明日の自分を考える	事前学習	大学に入り、どのような運動をしてきたかについて思い出しておく。	
		事後学習	合同スポーツデイに向けて体力作りに励む。	
第 13 回	卒業生・先輩から学生生活、就職について話をきく	事前学習	卒業生や先輩に質問したいことを事前にまとめておく。	
		事後学習	卒業生や先輩から聞いた話をまとめ、今後の学生生活の中で活用していく。	
第 14 回	各学部における専門教育への導入 ③	事前学習	各学部における専門教育への導入①②での学習内容を復習しておく。	
		事後学習	各学部における専門教育への導入③での学習内容を復習する。	
第 15 回	この半年間で学んできたもの	事前学習	これまでの学習内容について整理しておく。	
		事後学習	今後の学生生活を有意義に過ごすために教養基礎演習 I の中で学んだものを活用していく。	

1. 科目名 (単位数)	暮らしと経済 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1118
2. 授業担当教員	保原 伸弘		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	日常、テレビや新聞で見聞きする、我々の身近な生活を取り巻く経済問題を、経済学的な観点から考察する。またそれらの経済問題を題材にして、経済学的なものの考え方を身につける。経済問題や経済学というと何かとつつきにくく、縁遠い感覚を覚えるかもしれないが、実際には、意外とシンプルで、いったん身につけてしまうと、今後の社会生活を営んで行く中でも非常に便利なツールとなることがわかる。この講義を通じて、その生きていく上で有効なツールとしての経済学的な考え方が自然と身につくことを目指す。また、これまでなんとなく気になっていたにも関わらず未理解だった経済問題に整理をつけていくことを目指す。今回は日本経済を中心に学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、日本経済でどのようなことが起こり、問題になっているかを認識する。 2. 現在の日本を取り巻く経済問題を経済学の枠組みでとらえ直す。 3. 経済学 (ミクロ経済学、マクロ経済学) の基本的な考え方を身につける。 4. 数式やグラフを通じて物事を整理するという習慣を身につける。 5. 今後、日本や世界で展開する経済問題に関心がもてるようにする。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	15 回の講義のうち、数回、暮らしと経済 (日本経済) にかかわる課題を課す。また、最終的にレポート課題も課す。 最終レポート課題例 (他にも設問を設定し、課題選択の幅を広げる可能性がある) 東日本大震災の前と後では日本経済は変化しただろうか。また、その変化に即応してどのような対策を講じていかなければならないか。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小峰隆夫・村田啓子著『最新日本経済入門 第4版』日本評論社。 【参考書】 岩田規久男、ちくま新書『経済学を学ぶ』筑摩書房。 小峰隆夫、日経文庫ビジュアル『ビジュアル 日本経済の基本 第4版』日本経済新聞出版社。			
11. 成績評価の方法	期末試験、レポート、アサインメント、日常の授業態度 (質問、議論への参加等) で評価する。 期末試験 30% レポート・アサインメント 40% 日常の授業態度 (質問、議論への参加等) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。 2. 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 3. 現実の経済に比して、仮定が多い、経済学の議論の進め方に最初は違和感を覚えるかもしれないが、学習を進めると案外シンプルで有効なツールであることを実感して欲しい。 4. これまで数式やグラフにアレルギーを持っていた人もいるかもしれないが、この講義をきっかけにしてそのアレルギーを克服して欲しい。 			
13. オフィスアワー	別途、通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス、日本経済と経済の基本	事前学習	日本経済で気になる点を考えてくる。	
		事後学習	日本経済の概況は把握できたか確認する。	
第2回	日本経済の全体像	事前学習	日本経済の規模を調べてくる。	
		事後学習	GDP 等はどのように計算するか確認する。	
第3回	戦後日本の経済成長	事前学習	戦後日本の経済状況を調べてくる。	
		事後学習	日本の高度成長の特徴を整理する。	
第4回	景気循環の姿とそのとらえ方	事前学習	景気の循環はどのようなプロセスをたどるか確認する。	
		事後学習	景気の変動を表す諸指標を整理する。	
第5回	ストックから見た日本経済	事前学習	平成期の日本の経済状況を調べる。	
		事後学習	バブル発生と崩壊のプロセスを把握する。	
第6回	雇用の変動と日本型雇用慣行の行方	事前学習	日本の伝統的雇用慣行の特色を調べる。	
		事後学習	今後雇用制度はどのように変化するか考えてくる。	
第7回	産業構造の変化と日本型企业経営の行方	事前学習	40年前と今で先行する産業はどのように違うか確認する。	
		事後学習	今後日本の産業や経営はどのように変化するか考えをまとめる。	
第8回	物価の変動とデフレ問題	事前学習	日本のデフレの現状を把握する。	
		事後学習	デフレの背景と克服の重要性を理解する。	
第9回	貿易と国際収支の姿	事前学習	貿易はなぜ行われるようになるか考える。	
		事後学習	経常収支とは何か、どう変動するか調べてくる。	
第10回	円レートの変動と日本経済	事前学習	円レートの変動の影響を考えてくる。	
		事後学習	円レート変動のプロセスを理解する。	
第11回	直接投資と空洞化をめぐる議論	事前学習	ユニクロの隆盛は何を意味するか考えてくる。	
		事後学習	所得税より法人税引上げの議論は正しいか考える。	
第12回	財政をめぐる諸問題	事前学習	日本の国債・地方債の累積残高を調べてくる。	
		事後学習	財政の役割と再建への方策をまとめる。	
第13回	経済の鍵を握る金融	事前学習	昨今の日本銀行の方針転換は何か調べる。	
		事後学習	現在の金融政策の課題を整理する。	
第14回	少子高齢化と社会保障	事前学習	日本の少子高齢化の現状を調べる。	
		事後学習	少子高齢化が与える影響をまとめる。	
第15回	最後のまとめ	事前学習	ここまで未消化であった事項を整理する。	
		事後学習	日本経済に関し自分なりの知見がもてたか振り返る。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	経済学 (国際経済を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA2318
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、学生による発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、経済が動く仕組みがよく理解できるように、必要とされる経済学 (国際経済を含む) の基礎知識を体系的に得ることを目的のひとつとする。</p> <p>さらに、そうした基礎知識を「生きた知識」として活用させ、世界や日本国内で起こっている各種の経済問題やそこで活躍する企業や政府などについて理解することによって、分析するツールとして利用できるようになることが最終的な目的となる。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 経済現象の背後に貫徹する法則を説明できるようになる。</p> <p>2. 財政金融関係の基礎知識、企業経済・労働経済について学び、説明できるようになる。</p> <p>3. 国際経済・日本経済の歴史について、自らの意見をレポートにまとめ発表することができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>経済学の基礎知識を教科書から学ぶ方法として、受講者には個人又はグループ単位で教科書の担当部分をまとめて、授業中に発表することを求めるので、その準備が必要となる。また、授業参加のためには発表者以外の者についてもテキストを予め熟読しておくことが求められる。</p> <p>小テストはそれまでに学んだ知識について、言葉とその意味をどれだけ理解しているかという観点から出題する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 井堀利宏(2015)『大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる』KADOKAWA 授業開始までに用意すること。</p> <p>【参考書】 井堀利宏(2009)『コンパクト経済学』新世社。 井堀利宏(2007)『入門経済学 第 2 版』新世社。 早稲田大学商学部ビジネス・エコノミクス研究会(2006)『入門ビジネス・エコノミクス』中央経済社。 中谷 武・中村 保編著 (2010)『1 からの経済学』中央経済社。 その他、経済学の入門書は数多く出版されている。書店等で実際に手に取り、自分に合うものを選んで欲しい。</p>		
11. 成績評価の方法	授業での発表と参加	50%	
	小テスト (2 回)	50%	
12. 受講生へのメッセージ	<p>経済は常に動いている。受講者は、日ごろから経済関係の新聞記事や雑誌に目を通し、関心のある経済ニュースなどについて、その意味を自分でよく考えておくこと。ただ話を聞くだけでなく、自ら問いかける姿勢が必要である。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション 経済学とは何か (第 1 部)	事前学習	テキストを一通り読み、どのようなことを学ぶのかを理解しておくこと。
		事後学習	何のために経済学を学ぶのかを考えておくこと。
第 2 回	第 2 部 ミクロ経済学 2 ミクロ経済学の基本	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	需要曲線・供給曲線について理解しておくこと。
第 3 回	第 2 部 ミクロ経済学 3 消費者はどう行動するのか 4 企業はどう行動するのか	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	限界効用や企業の利潤最大化について理解しておくこと。
第 4 回	第 2 部 ミクロ経済学 5 市場の機能と価格メカニズム	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	完全競争市場の条件、生産者・消費者余剰について理解しておくこと。
第 5 回	第 2 部 ミクロ経済学 6 所得分配の決まり方	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	再分配政策について理解しておくこと。
第 6 回	第 2 部 ミクロ経済学 7 独占と規制 8 寡占市場	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	独占・寡占について理解しておくこと。
第 7 回	第 2 部 ミクロ経済学 9 外部性と市場の失敗 10 不完全情報の世界	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	外部不経済・逆選択について理解しておくこと。
第 8 回	小テスト 第 3 部 マクロ経済学 11 マクロ経済学の基本	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	GDP と三面等価の原則について理解しておくこと。
第 9 回	第 3 部 マクロ経済学 12 GDP はどう決まるのか 13 マクロ経済主体の行動	事前学習	これまでの配布資料を熟読しておくこと
		事後学習	IS-LM モデルについて理解しておくこと。
第 10 回	第 3 部 マクロ経済学 14 財政政策	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	財政政策の役割について理解しておくこと。
第 11 回	第 3 部 マクロ経済学 15 金融政策	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	金融政策の役割について理解しておくこと。
第 12 回	第 3 部 マクロ経済学 16 景気と失業	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	雇用と経済の関連について理解しておくこと。
第 13 回	第 3 部 マクロ経済学 17 インフレとデフレ 18 経済成長	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	物価や経済成長について理解しておくこと。
第 14 回	第 3 部 マクロ経済学 19 国際経済	事前学習	テキストの該当部分について熟読しておくこと。
		事後学習	貿易のメリットについて理解しておくこと。
第 15 回	最終まとめ・小テスト 第 3 部 マクロ経済学 20 マクロ経済政策	事前学習	これまでの配布資料を熟読しておくこと
		事後学習	政治と経済の関係について理解しておくこと

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1301 GEHL1101
2. 授業担当教員	飯田 昌男		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1,現代社会におけるスポーツの必要性について私見をまとめる。 2,これからの私と運動 (スポーツ) (1,2,のどちらかを800字以内で、書式及び提出については授業内にて説明する)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 60% 授業中のテスト (体育概論) 30% 課題 10% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技中心の授業のため、それにふさわしい服装 (髪型、靴、爪等も含む) で参加してください。体育館シューズも用意してください。 2. 欠席は学則に則り 3 回までです。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は、時間を守ることはとても重要であると考えています、また、ケガ防止のため準備運動をしていただくためです。 3. 自ら進んで授業に取り組み、スポーツの楽しさを大いに味わってください。 4. わからないことや疑問に思ったことは、その場で質問・意見をしてください。 		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、体育概論① (運動の勧め)	事前学習	軽く運動をしておく。
		事後学習	配布した資料に振り返りを記録する。
第 2 回	ジョギング、ストレッチ実践論、フライングディスク	事前学習	実技に入るので軽く運動しておく。
		事後学習	ストレッチを復習する。
第 3 回	ニュースポーツ (フライングディスク)	事前学習	「アルティメット」のルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 4 回	団体競技 (ユニホック)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 5 回	団体競技 (ユニホック)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 6 回	団体競技 (ソフトバレーボール)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 7 回	団体競技 (ソフトバレーボール)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 8 回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 9 回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 10 回	団体競技 (バスケットボール)	事前学習	ルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 11 回	団体競技 (バスケットボール)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 12 回	体育概論② (体力について)	事前学習	「体力の分類」を調べてくる。
		事後学習	「体力の分類」をまとめる。
第 13 回	体育概論③ (身体の骨格や筋肉について)	事前学習	骨格や筋肉の名前を調べてくる。
		事後学習	骨格や筋肉の名前を覚える。
第 14 回	体育概論④ (各種トレーニングについて)	事前学習	トレーニングの種類や内容を調べてくる。
		事後学習	トレーニングの種類をまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	今までの種目や振り返りを読んでくる。
		事後学習	今後の自分への課題を見つけ、健康な生活を送れるように考えをまとめ実践すること。
6 月	赤城山宿泊研修		
10 月	合同スポーツディ		

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1101								
2. 授業担当教員	上村 孝司										
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。										
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 										
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1. 各運動領域の基礎的な運動をゲーム形式で実践する(実技) 課題2. スポーツテストの結果から、体力レベルの分析および考察を行う 課題3. 健康に関するトピックスから、自身の健康と照らし合わせテーマを決め、グループでの発表を行う 課題4. スポーツ大会の考案と運営を行い、課題点、問題点等を抽出する</p>										
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 必要に応じて資料を配布する。										
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への参加態度	45%	実技	25%	課題	30%	計	100%
授業への参加態度	45%										
実技	25%										
課題	30%										
計	100%										
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型, 靴, 爪なども含む)で参加してください。 2. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 3. わからないこと, 疑問に思うことは, 質問・意見をして解決していきましょう。 4. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。 										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 現代日本の現状と健康スポーツについて 幼児から高齢者までの健康のあり方 グループの作成	事前学習	健康とはなにか考える。								
		事後学習	健康についての日本の現状を復習する。								
第2回	身体の動かし方 走る 跳ぶ ストレッチ	事前学習	体の動かし方について予習する。								
		事後学習	様々な動きを理解する。								
第3回	スポーツテスト1 各項目の測定	事前学習	各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	測定数値の記録および分析を行う。								
第4回	スポーツテスト2 各項目の測定	事前学習	各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	測定数値の記録および分析を行う。								
第5回	スポーツテストの分析および考察	事前学習	全測定項目の数値の分析と個人的解釈を行う。								
		事後学習	分析結果から個人の体力の特性と体力レベル向上のための方策を検討する。								
第6回	フライングディスク 投げ方 取り方	事前学習	フライングディスクを知る。投げ方の種類を調べる。								
		事後学習	投げ方を復習し、理解する。								
第7回	フライングディスク アルティメット	事前学習	フライングディスクのアルティメットのルールを知る。								
		事後学習	ゲーム方法を理解し、実践する。								
第8回	バスケットボール 基本的な技能とルール ゲーム形式の練習	事前学習	バスケットボールのルールを知る。								
		事後学習	バスケットボールを実践し、理解する。								

第 9 回	バスケットボール 試合の運営と実践	事前学習	試合運営の方法を予習する。効率のよいゲーム運営を考える。
		事後学習	バスケットボールを実践し、理解する。 ゲーム運営についての反省を行う。
第 10 回	なわとび（長縄跳び、ダブルダッチ）	事前学習	ダブルダッチの方法を調べる。
		事後学習	ダブルダッチをグループで実践してみる。
第 11 回	健康に関するトピックスと疑問点の解明 (生活習慣病, ダイエット, トレーニング, 食事)	事前学習	健康に関する疑問点を挙げる。
		事後学習	健康に関する疑問点を調べるとともに, 発表の準備をする。
第 12 回	スポーツ大会の考案 運営方法と役割 大会役員やメンバーの役割, 競技種目の選定	事前学習	様々なスポーツを調べる。行いたいスポーツをどうすれば運営できるようになるかを検討しておく。
		事後学習	大会運営の必要事項を確認する。
第 13 回	健康に関するグループ発表と反省 グループ発表と評価	事前学習	発表の準備を行う。
		事後学習	発表の反省と今後への課題を抽出する。
第 14 回	スポーツ大会 運営と実践	事前学習	試合運営の方法を予習する。
		事後学習	団体のコントロールについて考える。
第 15 回	スポーツ大会 運営と実践	事前学習	試合運営の方法を予習する。
		事後学習	団体のコントロールについて考える。
6 月	赤城山宿泊研修		
10 月	合同スポーツデイ		

1. 科目名 (単位数)	健康相談活動の理論と方法 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE3304
2. 授業担当教員	八重樫 節子			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>児童生徒の心身の健康問題の複雑化、多様化に伴い、学校におけるカウンセリングの機能の充実が急務となっている。その中でも養護教諭は、児童生徒の身体的不調の背景に、いじめ等の心の健康に係わっていること等のサインにいち早く気づく立場にあるとされ、その専門性をいかした心と体、両面への対応に対する期待は年々高まっている。</p> <p>本講義では、養護教諭の専門性を最大限に発揮した統合的アプローチとも言える「健康相談活動」の基本的理論について習得する。また、保健室入室場面を想定した事例検討やロール・プレイを通して、児童生徒が抱える様々な問題に対応するための実践力を向上させる。</p>			
8. 学習目標	<p>1) 保健室における健康相談活動のプロセスを理解し、説明できるようになる。</p> <p>2) 健康相談活動の遂行に必要な基本的知識と技術を身につけ、応用することができるようになる。</p> <p>3) 保護者・学級担任・専門機関の専門職との連携の方法を理解し、説明できるようになる。</p> <p>4) 集団を対象にした心の健康教育について実践することができるようになる。</p> <p>5) 専門職としての研修の在り方を習得できるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容に考えをまとめ、ファイリングしていく。 ・最終課題レポート：「健康相談活動の進め方」について、自らの考えを記述する。(800字程度) 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 森田光子『養護教諭の行う健康相談』第 11 版 東山書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間提出の授業ふり返り (30%) ・授業のワークシートのファイリングの提出 2 回 (20%) ・授業中のグループ活動等における積極的な発言 (30%) ・最終課題レポート (20%) 			
12. 受講生への メッセージ	<p>健康相談活動は学際的な分野であるため、広く高度な専門的力が求められています。難しい側面もありますが、養護教諭だからこそできる独自性の強い活動でもあります。様々な訴えを持って保健室を訪れる子どもたちに対して、養護教諭としてどのような支援が可能であるのか、そのためにはどのような知識や技術が必要なのか、具体的なイメージを持ちながら受講してほしいと思います。子どもたちのもつ健康課題の解決に向けて、その力を発揮できる養護教諭を目指して、一緒に学んでいきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオについて <p>I 養護教諭と健康相談</p> <p>① 養護教諭の職務における健康相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭に期待されていることとは？ 	事前学習	学校保健実務必携 pp393～404 の健康相談についての事項に目を通し、健康相談の概要を復習しておく。	
		事後学習	健康相談についての概念を整理し、考えをワークシートにまとめファイリングしておく。	
第 2 回	<p>② 健康相談の概念と特質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康相談の定義 ・児童生徒のメンタルヘルスの現状と課題 <p>・保健室利用状況に関する調査から</p>	事前学習	教科書 pp23～41 を熟読し予習しておく。事前に配布する保健室利用状況調査の結果を熟読し、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	児童生徒の保健室利用状況に関するディスカッションを総括し、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしておく。	
第 3 回	<p>③ 健康相談活動の基礎と背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものヘルスニーズの理解 ・健康相談の基礎 (1) 対象理解 (2) 問題理解 (3) 支援の目標と方法の理解 <p>・養護教諭の職務の特質、保健室の機能と健康相談</p>	事前学習	教科書 pp42～65 を熟読し予習しておく。子どもの発達段階に起こる精神保健上の問題や・疾病等についてまとめ予習しておく。養護教諭の職務の特質と保健室の機能について、復習しておく	
		事後学習	子どもの発達段階に起こる精神保健上の問題や・疾病等についてワークシートに考えをまとめファイリングしておく。養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動の進め方についてまとめる。	
第 4 回	<p>① ・相談活動のすすめ方 (事例) を通し相談健康のプロセス (ロール・プレイ)</p> <p>(1) 応急手当の中で話を聴き終了する相談活動</p> <p>(2) 頻回入室する場合の相談活動</p> <p>活動に必要な知識や技術。</p>	事前学習	教科書 pp66～76 の事例から健康相談活動のプロセスに関する事項を熟読し理解を深めておく。	
		事後学習	養護教諭の行う健康相談のプロセスにおいて健康相談活動の実践に必要な知識や技術について整理し、ワークシートに考えをまとめファイリングしておく。今後の自己研鑽の見通しをたてる。	
第 5 回	<p>② 相談活動のすすめ方 (事例) を通し相談健康のプロセス (ロール・プレイ)</p> <p>(3) 一度に多数の入室者がある場合の相談活動</p> <p>(4) 長期にかかわる相談活動</p>	事前学習	教科書 pp76～81 の事例から健康相談活動のプロセスに関する事項を熟読し理解を深めておく。	
		事後学習	養護教諭の行う健康相談のプロセスにおいて健康相談活動の実践に必要な知識や技術について整理し、ワークシートに考えをまとめファイリングしておく。健康相談活動において、どのような視点から情報収集を行う必要があるのかを整理する。	
第 6 回	養護教諭の役割と連携	事前学習	教科書 pp82～91 を熟読し理解を深めておく。事前	

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスに応じて変化する役割（事例を通して） ・基本的な相談技術と留意点 ・傾聴的応答のロール・プレイ 		<p>配布のカウンセリングの技法に関する資料を熟読し、予習を行う。</p> <p>事後学習 傾聴的応答の練習を行う。 演習で学んだものをワークシートにまとめファイリングしておく。</p>
第 7 回	<p>II 健康相談活動を想定したロール・プレイ</p> <p>①心理的ストレスから体調不良を訴える生徒の事例（受験ストレスの事例）</p>	<p>事前学習 これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。</p> <p>事後学習 養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等についてワークシートにまとめファイリングしておく。</p>	
第 8 回	<p>②身体的課題から、学校不適應に至った事例（肥満児童が保健室に頻回入室する事例）</p>	<p>事前学習 これまでの学習内容を振り返り、健康相談活動のプロセスを確認しておく。</p> <p>事後学習 養護教諭役の対応について評価し、その対応のポイントや改善点等について学んだものをまとめファイリングしておく</p>	
第 9 回	<p>III 健康相談活動の事例検討</p> <p>①身体的課題が心理的不調としてあらわれた事例（小学生の心臓疾患の事例）</p>	<p>事前学習 慢性疾患をもつ児童生徒への対応のあり方について調べ、自分の考えをまとめておく。</p> <p>事後学習 事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめてファイリングしておく。</p>	
第 10 回	<p>②心理的ストレスが、身体症状に発展した事例（過呼吸発作の事例）</p>	<p>事前学習 過呼吸発作の救急処置について調べ、その対応のあり方について自分の考えをまとめておく。</p> <p>事後学習 事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめてファイリングしておく。</p>	
第 11 回	<p>③精神疾患が疑われる生徒の事例（自傷行為の事例）</p>	<p>事前学習 自傷行為の医学的背景について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめておく</p> <p>事後学習 事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしておく。</p>	
第 12 回	<p>④発達障害に起因する学校不適應の事例（アスペルガー障害の事例）</p>	<p>事前学習 各種発達障害の症状の特徴について調べ、その対応のあり方について、考えをまとめてファイリングしておく。</p> <p>事後学習 事例に関するディスカッションを総括し、その対応の在り方について、自分の考えをまとめてファイリングしておく。</p>	
第 13 回	<p>IV チーム支援の必要性と連携の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的対応の進め方と各教職員の役割 ・地域専門機関との連携のあり方 	<p>事前学習 児童生徒を支援する際に連携可能な専門機関の種類を調べておく。</p> <p>事後学習 校内外の連携について復習し、養護教諭としてのコーディネートについて考えを整理しファイリングしておく。</p>	
第 14 回	<p>V 集団を対象とした心の健康教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメント教育の体験 	<p>事前学習 保健学習、保健指導の位置づけや、養護教諭が実践する際の留意点について調べておく。</p> <p>事後学習 講義時間内の心の健康教育の体験を総括し、自分の考えをまとめてファイリングしておく。</p>	
第 15 回	<p>まとめ：「健康相談活動の進め方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終課題レポートに記載した内容に基づき、グループディスカッションを行う。 ・「健康相談活動の進め方」のポイントを共有する。 	<p>事前学習 最終課題レポートを作成し、これまでの講義内容をまとめておく。</p> <p>事後学習 グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえて、全講義内容を振り返る。</p>	

1. 科目名 (単位数)	現代社会と社会教育 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3445 SNMP3445 SCMP3445 SBMP3445 SSMP3345
2. 授業担当教員	志村 隆雄		
4. 授業形態	講義と討議、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	3 年次以上、2 年次に「生涯学習概論」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	現代社会は変化の激しい時代である。国内だけでなく国際社会の変動が人々の生活や価値観に大きな影響を与えている。そのため、今までになかった新たな課題が生じている。このような現状において、社会教育は「人々の多様な学習要望を踏まえた生涯学習の振興」に努めるとともに、「地域の活性化や家庭の教育力の向上」等の社会の要請に適切かつ迅速に対応する支援の遂行が求められている。そこで、本科目では社会教育についての理解を深めるとともに、身近にある様々な現代的課題解決のための具体的な支援方策について、事例研究やグループ討議を通して追究し、個別事業計画を立案する。		
8. 学習目標	次の目標を達成することを目的とする。 ①現代社会が抱える様々な課題、地域特有の課題の背景や特徴を理解することができるようになる。 ②社会教育とは何かを理解するとともに、現代社会の課題解決に向けた社会教育の役割について理解することができるようになる。 ③社会教育の当面する課題と課題解決に向けた諸施策について理解し、説明できるようになる。 ④社会教育の推進者の役割や社会教育施設の現状と目的について理解することができるようになる。 ⑤身近な現代的課題に対応した具体的方策 (個別事業計画) を立案することができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①教科書以外の参考文献等で調べる必要がある事項や地方公共団体 (県や市町村) が発行する資料収集等について、アサイメントを課すことがある。 ②公民館等身近な社会教育施設等で実施されている、住民を対象とした事業や地域課題を取り上げた講座等の資料収集についてアサイメントを課す。 ③授業終了時に提出する個人レポートの課題は、地方自治体 (市町村) が抱える課題解決を目的とする個別事業計画とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』ミネルヴァ書房。 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携 平成 22 年度版』第一法規。 【教材】 課題プリント、社会教育施設が作成した課題別個別事業計画の広報紙等。		
11. 成績評価の方法	・授業出席と参画態度 総合点の 30% (グループ討議での司会・記録や積極的発言等) ・各課題の理解目標到達度 総合点の 30% ・個人作成レポート 総合点の 40% レポートの採点にあたっては、 ①具体的なデータに基づき、立案の趣旨を的確に述べていること。 ②論旨にあたっては、収集した資料からの引用だけでなく自分の考えが述べてあること。 ③内容構成等に学習者の意欲・関心を高める工夫があること。 ④学習者への配慮が具体的に述べられていること。 ⑤文章の小見出し・段落・句読点等が適切なこと。また、誤字・脱字がなく、正確なこと。 等を評価の視点とする。 また、理解度と合わせ、協働性、創造性、コミュニケーション能力等についても評価する。 ・無断欠席者には、小レポートを課す。(課題は出席時に指示する)		
12. 受講生へのメッセージ	受講生へ期待する学習態度 ①授業中は緊張感と集中力を保って受講すること。私語を慎み、居眠りなどをしないこと。 ②わからないことをそのままにしないこと。 ③グループ討議においては自らの意見を積極的に述べること。 ④レポート、アサイメント等は、期日までに提出すること。 ⑤正当な理由なしに欠席等はしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面で教員に提出する) ⑥携帯電話 (スマートフォン) 等の授業中の作動は厳禁である。(飲食も厳禁) ⑦地域や社会教育施設 (公民館、青少年施設等) で実施する主催事業への参加やボランティア活動体験を期待する。		
13. オフィスアワー	授業時間前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義計画、教材、評価方法等) ・概要の詳細資料をもとに、授業のねらいと到達目標の説明 ・今日的課題の事例から課題と自らの関わりを考える	事前学習	シラバスで授業目標を確認すること。
		事後学習	報道記事から現代社会の課題を考えること。
第 2 回	現代社会における社会教育 ・グループの編成 ・提示資料をもとに「社会とは何か」について学ぶ ・社会を構成する要素からそれぞれの課題を考える	事前学習	出身地市町村の特徴的な課題を考えること。
		事後学習	社会の様々な課題が、自らの課題とも関連していることを確認しておくこと。
第 3 回	国や地方公共団体における今日的課題 ・資料をもとに「社会教育とは何か」について学ぶ ・社会教育を推進する「社会教育行政」について学ぶ	事前学習	資料をもとに、社会教育と社会教育行政について予備知識を持つこと。
		事後学習	社会教育と社会教育行政の役割についてまとめられること。

第 4 回	現代社会の課題解決に向けた支援方策の理解 ・対象者に、適切に対応した支援のあり方について学ぶ ・高齢者が抱える様々な課題に対応した支援について事例を参考にグループで討議し、支援のあり方について学ぶ	事前学習	現代社会の課題について情報収集しておくこと。
		事後学習	高齢者も様々で、個々の実態に合わせた支援の必要性について確認しておくこと。
第 5 回	現代社会の課題を解決する社会教育の役割Ⅰ ～課題解決支援に向けた、教育の果たす役割～ ・学校教育と家庭教育の基本を学び、社会教育の今日的役割について考える	事前学習	社会教育の基本は、自主的学習・活動であることを資料で確認しておくこと。
		事後学習	社会教育は学校や家庭教育と異なり、支援であることを確認しておくこと。
第 6 回	現代社会の課題を解決する社会教育の役割Ⅱ ～法令等に定めてある社会教育の目的、役割～ ・社会教育の対象者、実施場所や支援の対象地域について学ぶ	事前学習	身近な場所で行われている社会教育事業を調べておくこと。
		事後学習	社会教育の役割について根拠法令をもとに整理しておくこと。
第 7 回	社会教育の推進者Ⅰ～社会教育主事等社会教育行政職員～ ・学習者を直接指導する専門分野の指導者について学ぶ ・社会教育事業を立案する社会教育主事や社会教育行政職員の役割について学ぶ	事前学習	配付資料をもとに、社会教育活動の推進者について知識を得ておくこと。
		事後学習	社会教育主事は社会教育を推進する中心的な行政職員であることを確認しておくこと。
第 8 回	社会教育の推進者Ⅱ～社会教育委員等～ ・教育委員会に置かれている指導的推進者（社会教育委員）や社会教育施設（公民館）に置かれている指導的推進者（公民館運営審議会委員）について、法令等から意義と役割について学ぶ	事前学習	配付資料をもとに、社会教育委員等の知識を得ておくこと。
		事後学習	社会教育委員等の意義とその役割について整理しておくこと。
第 9 回	社会教育施設Ⅰ～施設の対象及び役割～ ・社会教育施設の現状と果たしている役割を学ぶ ・社会教育施設と同様に学習活動を支援している施設を知る ・社会教育施設の新たな動向について学ぶ	事前学習	身近にある社会教育施設を調べておくこと。
		事後学習	近くの社会教育施設への訪問計画を考えること。
第 10 回	社会教育施設Ⅱ～公民館の役割～ ・公民館の現状や動向、公民館に今後も期待されていること、事業の対象地域や対象者について、法令、資料を基に学ぶ	事前学習	近くの公民館で配布されている事業広報紙を収集しておくこと。
		事後学習	公民館が実施している地域住民への支援事業を整理しておくこと。
第 11 回	課題解決に向けた個別事業計画の立案Ⅰ (1)家庭の教育力向上に資する個別事業計画 (2)高齢者の社会活動支援のための個別事業計画 ・家庭教育や高齢者支援のための事業計画立案について学ぶ	事前学習	出身地市町村の家庭教育や高齢者の課題を調べておくこと。
		事後学習	提示された事業計画様式に基づく個別事業計画を考えること。
第 12 回	課題解決のための個別事業計画の立案Ⅱ (1)社会教育の視点から“まち・むらづくり”を支援する個別事業計画＝地域の活性化への対応＝ (2)青少年の自然体験活動（子ども育成）を支援する個別事業計画 ・地域づくりや青少年の体験活動支援のための事業計画立案について学ぶ	事前学習	地域の子どもの様子や地域（まち・むら）の現状を調べておくこと。
		事後学習	個別事業計画立案の課題（支援事業のテーマ）を考えること。
第 13 回	個人作成レポート（個別事業計画）の発表と討議Ⅰ ・課題別に、個人作成レポートを発表し、指示された評価ポイントを基に全体で討議する＜家庭教育・高齢者支援＞ ・発表の仕方や聞き取りのポイントについて学ぶ	事前学習	レポート提出（全員）と発表者は発表の準備をすること。
		事後学習	発表者は発表評価をもとに、他は聞き取りのポイントから、次への自らの課題を考えること。
第 14 回	個人作成レポート（個別事業計画）の発表と討議Ⅱ ・課題別に作成した個人レポートを発表し、指示された評価ポイントを基に全体で討議する＜地域づくり・子ども育成支援＞ ・発表の仕方や聞き取りのポイントについて学ぶ	事前学習	発表と聞き取りのポイントを再確認すること。
		事後学習	発表評価や聞き取り評価をもとに理解の程度を確認しておくこと。
第 15 回	評価とまとめ ・レポート発表に基づいて討議を行い、現代社会の課題や支援事業を推進する社会教育についてのまとめをする ・授業後の自らが取り組む課題について考える	事前学習	授業目標の達成に当たって、残された課題がないか確認すること。
		事後学習	授業後の自らの課題を考えること。

1. 科目名 (単位数)	公衆衛生 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3314
2. 授業担当教員	小此木 久美子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公衆衛生は、健康上の問題を集団で捉えることにより、疾病の予防や健康増進のための組織的な対策や制度を考える学問である。福祉や医療に携わる専門職には、必須の分野である。</p> <p>本科目では公衆衛生の概念や基本的な考え方、我が国が直面しているさまざまな健康問題の現状と課題を学び、疾病予防や健康増進のための公衆衛生活動について考察する。さらにこれからの保健・医療・福祉の方向性と互いの連携の在り方について、学生自身が考察できる力を身につけることができるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と概念について説明できるようになる。 2. 保健統計の各指標について説明できるようになる。 3. 疫学の考え方について説明できるようになる。 4. 各健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状と課題、それに対する我が国の施策を理解し、説明できるようになる。 5. 専門職として理解しておくべき公衆衛生に関する知識や考え方を習得し応用できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。</p> <p>レポート課題：わが国で社会問題となった健康上の問題について、その概要、どのような社会問題となったかなどをまとめなさい (1600～2000 字程度)。なおレポートは添削して返却するので必ず書き直して再提出する。</p> <p><課題例> インフルエンザ、エイズ、ハンセン病、腸管出血性大腸菌感染症、水俣病、イタイイタイ病、ヒ素ミルク事件、原発事故、花粉症、喫煙の害、生活習慣病対策、自殺対策、東日本大震災など</p> <p>研究発表：レポート課題で調べた内容について、わかりやすく発表しなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】鈴木庄亮・久道 茂監修『シンプル衛生公衆衛生学 2015』南江堂、2015。</p> <p>【参考書】厚生労働統計協会編集・発行『国民衛生の動向 2015/2016 年』。 原田 正純著『水俣病』岩波新書。 清水忠彦・南波正宗『わかりやすい公衆衛生学』ヌーベルヒロカワ。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>毎回の提出物 20%、レポート 20%、研究発表 10%、期末試験 40%、授業態度 10%</p> <p>本学規程により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>少子高齢化が世界で最も進んでいる日本において福祉や保健を志す人は社会の健康問題に常に敏感になることが必要である。新聞などのメディアが報じるニュースをよくチェックし解決策を考えてみよう。あなたが考える対策がこれからの日本の将来を決めるかもしれない。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間帯		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	公衆衛生の概念および歴史 (古代ローマの環境保健対策、中世ヨーロッパの港で行われた感染症予防対策、ジョン・スノウの功績、高木兼寛の業績、チャドウィックの主張、ウィンスロウの公衆衛生の定義、WHO の健康の定義、疾病構造の変化)	事前学習	教科書 pp.1～11 を読んでおく
		事後学習	公衆衛生の概念及び歴史について復習し、ワークシートを提出する
第 2 回	保健統計 (世界の人口とその推移、何が人口の増加をもたらしたか、人口転換、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査)	事前学習	教科書 pp.17～27 を読んでおく
		事後学習	保健統計について復習し、ワークシートを提出する
第 3 回	疫学 (疫学とは何か、疫学調査の手順と留意事項、選択バイアス・情報バイアス・交絡バイアス、無作為化比較試験 (RCT))	事前学習	教科書 pp.29～47 を読んでおく
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する
第 4 回	疫学続き (年齢調整死亡率の求め方、相対危険度・寄与危険度の求め方)	事前学習	教科書 pp.29～47 を読んでおく
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する
第 5 回	感染症とその予防 (感染症の成立要因、感染症予防対策)	事前学習	教科書 pp.73～89 を読んでおく
		事後学習	感染症について復習しワークシートを提出する

			る
第 6 回	食品と健康（食中毒の原因（病原微生物・自然毒・化学物質）と発生状況、予防対策について、食品の安全性を確保するための法律について）	事前学習	教科書 pp.176～181 を読んでおく
		事後学習	食品と健康について復習しワークシートを提出する
第 7 回	環境保健の概要（環境の諸要因と評価、量-反応曲線、環境要因による健康被害、放射線による健康被害、公害の概念と歴史、環境対策）	事前学習	教科書 pp.135～140 を読んでおく
		事後学習	環境保健の概要について復習しワークシートを提出する
第 8 回	生活習慣病対策（生活習慣病とは何か、生活習慣病による死亡率、一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本 2 1、ヘルスプロモーションの考え方）	事前学習	教科書 pp.49～53、pp.68～70 を読んでおく
		事後学習	生活習慣病対策について復習しワークシートを提出する
第 9 回	母子保健（日本の母子保健の水準、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率、母子保健対策、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向）	事前学習	教科書 pp.223～236 を読んでおく
		事後学習	母子保健対策について復習しワークシートを提出する
第 1 0 回	歯科保健（乳歯と永久歯の萌出時期と歯の構造、むし歯と歯周病、歯周病と全身疾患、咀嚼の重要性、小児における歯科保健、老人における歯科保健） レポート返却	事前学習	教科書 pp.250～252、pp.295～296 を読んでおく
		事後学習	歯科保健対策について復習しワークシートを提出する。返却されたレポートを書き直す
第 1 1 回	医療の制度（わが国の医療保障の制度、公費負担医療、医療保険制度のしくみ、国民皆保険制度、診療報酬制度、国民医療費の現状、介護保険制度）、難病対策（難病の概念）	事前学習	教科書 pp.339～359 を読んでおく
		事後学習	医療の制度と現在の問題点について復習しワークシートを提出する
第 1 2 回	学生発表（感染症関連の諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.73～89 を再度読み、感染症に関する健康問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	感染症に関する健康問題についてまとめる
第 1 3 回	学生発表（環境保健関連諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.135～140 を再度読み、環境保健に関する問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	環境保健に関する問題についてまとめる
第 1 4 回	学生発表（生活習慣病関連諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.49～53、pp.68～70 を再度読み、生活習慣病に関する問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	生活習慣病に関する問題についてまとめる
第 1 5 回	学生発表（医療制度その他諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）、まとめ	事前学習	教科書 pp.339～359 を再度読み、医療制度にはどのような問題があるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	医療制度の問題・公衆衛生全体について学習したことをまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	更生保護 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4101 PSMP4401 SCMP4301 SBMP4301 PSMP4401
2. 授業担当教員	梶原 洋生		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、途中確認テスト・小テストの併用、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	犯罪や非行をした人の立ち直りを図り、再び犯罪や非行を起こさせないようにするには、その素質、環境を考慮しつつ、その人に必要な各種の支援、福祉という自立支援が必要である。これらの支援は、警察、検察、裁判、矯正の各段階で行われているが、本科目では、この内の社会の中での働きかけ (処遇) を中心とする更生保護制度について、その概要、担い手、関係機関・団体との連携、また、心神喪失等の状態で重大な犯罪を行った人の社会復帰の促進を目的とする医療観察制度の概要、さらには、更生保護制度の運用の実際と今後の展望等について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉との関連において必要とされる更生保護制度の基礎的知識について理解し、説明することができるようになる。 2 更生保護の組織を中心に、刑事司法・少年司法分野で犯罪前歴者等の支援活動に関与する組織、団体及び専門職について理解し、説明することができるようになる。 3 更生保護制度における関係機関・団体との連携のあり方について理解し、説明することができるようになる。 4 保護観察所が担う新たな役割として、福祉機関・団体などとの密接な連携の下に実施される被害者支援や医療観察制度について理解し、説明することができるようになる。 5 更生保護の運用の実際と今後の展望について考察し、自分の言葉で表明することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポートは「現在の保護観察が抱えている課題について」というテーマを予定している。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第 20 巻 更生保護制度』中央法規出版。 【参考書】 松本勝編『更生保護入門』成文堂。 伊藤富士江『司法福祉入門(第 2 版)―非行・犯罪への対応と被害者支援―』上智大学出版。		
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。		
12. 受講生へのメッセージ	分からないことについては、積極的に調べ、考えて、授業の内容を習得できるよう努めて欲しい。更生保護の大切さが理解できるように、日頃のニュースなどにも注目してほしい。		
13. オフィスアワー	授業の前後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	はじめに	事前学習	テキストの「はじめに」を読んでくる。
		事後学習	更生保護制度の概要について 200 字以内でまとめる。
第 2 回	刑事司法、仮釈放、保護観察の概要	事前学習	第 1 章第 1 節―第 3 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	刑事司法、保護観察について 200 字以内でまとめる。
第 3 回	生活環境の調整、更生緊急保護について	事前学習	第 1 章第 4 節―第 5 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	授業内の事例について 200 字以内でまとめる。
第 4 回	犯罪被害者等施策、恩赦、犯罪予防活動について	事前学習	第 1 章第 6 節―第 8 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	被害者支援について 200 字以内でまとめる。
第 5 回	保護観察官、保護司について	事前学習	第 2 章第 1 節―第 2 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	保護観察官と保護司の業務内容について 200 字以内でまとめる。
第 6 回	更生保護施設、民間協力者について	事前学習	第 2 章第 3 節―第 4 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	更生保護施設の実態について配布資料を読み直し、民間協力の現状について 200 字以内でまとめる。
第 7 回	裁判所・検察庁との関わり	事前学習	第 3 章第 1 節―第 2 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	授業内の事例について 200 字以内でまとめる。 司法制度の改革について図書館で参考文献を探し、内容を再確認しておく。
第 8 回	矯正施設について	事前学習	第 3 章第 3 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	少年院・刑務所について 200 字以内でまとめる。
第 9 回	公共職業安定所・福祉事務所との関わり	事前学習	第 3 章第 4 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	「社会的排除」について 200 字以内でまとめる。
第 10 回	医療観察法と処遇制度の概要	事前学習	第 4 章第 1 節―第 3 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	医療観察法について 200 字以内でまとめる。
第 11 回	地域社会における処遇の実施と機関連携	事前学習	第 4 章第 4 節―第 5 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	授業内で扱った実施計画について 200 字以内でまとめる。
第 12 回	保護観察官の具体的な業務例	事前学習	第 5 章第 1 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	授業内の事例についてポイントを 1000 字以内でまとめる。
第 13 回	社会復帰調整官の具体的な業務例	事前学習	第 5 章第 2 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	授業内の事例についてポイントを 1000 字以内でまとめる。
第 14 回	更生保護の課題と展望	事前学習	第 5 章第 3 節について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	特に今後の課題について 200 字以上でまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの授業内容を 8000 字以上でまとめる。
		事後学習	配布資料の内容を整理してノートに 8000 字以上でまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3442 SNMP3442 SCMP3442 SBMP3442 SSMP3342
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	同一年度に公民科指導法 II (科目「倫理」「政治経済」を取り扱う) を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心をもち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき(学習指導要領に示される)教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法 I では、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、現代社会に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び「現代社会」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2) 「現代社会」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができるようになる。</p> <p>3) 作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、その実践と評価を通して相互に学び合いができるようになる。</p>		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>講義内で模擬授業を発表します。その過程で学習指導案、教材等の作成に取り組むこととなりますが、これらをレポートとして評価します。</p> <p>第1-8回はリーディング・アサインメント(RA)を事前事後学習課題として配付します。授業内で解説することとなりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。</p> <p>模擬授業については、発表後検討会を行い、その後、振り返りレポートを提出することとなります。</p> <p>テーマ: 「現代社会」の領域より、一つトピックを選定し、指導案を作成しなさい。</p> <p>※なお、トピックの重複を避けるため、講義内にて担当の振り分けを行います。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版。(以下、シラバス内ではテキストと呼称する。) 『高等学校公民科用教科書 現代社会』東京書籍。(2 東書 現社017)</p> <p>【参考書】 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 「NIE」や「ロールプレイング」など公民科授業を創る上でのキーワードや理論について事典様式で解説がなされています。アカデミックの色彩が強い書籍ですので発展的学習のための材料としてここに紹介します。書籍名は社会科とありますが、公民科教育についての事項も収録されています。</p> <p>2) 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009年。 「情報社会」「グローバル社会」をどのように学ばせたらよいか等、各分野の専門家がトピック別に見開き 2 ページで解説している事典です。参考文献も学術論文に偏らず、授業教材として使用できる一般書を多く紹介しているところも本書の特徴です。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・受講者数にもよるが、グループまたは個人で模擬授業を実施する。これを授業のプレゼンテーションとして講義の終盤に実施を予定している。</p> <p>配分は以下の通りである。</p> <p>・授業のプレゼンテーション (40%)、講義内に設定される課題 (20%)、レポート (40%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察します。免許の取得には、実習が伴います。短期間の実習ですが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めましょう。たとえ短期であっても教師に変わりはありません。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなります。本講義を通して、「学習者」としてだけでなく、「指導者」としての意識を併せ持つよう努力してください。「現代社会」は、この科目をもって、教科全体の目標を達成する教育内容として位置づけられています。「現代社会」についての理解が、公民科の他の科目である、政治経済・倫理の基礎となります。取り扱う教育内容領域は広いですが、興味や関心あるテーマからでかまいませんので学び続ける努力をしてください。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <p>①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁)</p> <p>②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</p> <p>③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</p> <p>④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</p> <p>また、教員は次のことを実行します</p> <p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を妨害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	<p>講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション(シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。) ②公民科教育の意義を考える 課題:「現代社会」に期待されていることは何だろうか。	事前学習	教育実習を实践した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 2 回	公民科指導の性質①(歴史的経緯について) 課題:第二次世界大戦後の学習指導要領における公民科の位置づけについて理解する。	事前学習	課題①:教育基本法より、公民科に係る箇所・条文を見つけよう。課題②:戦後に登場した高校社会科はどのような内容であったのかまとめてみよう。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 3 回	公民科指導の性質②-1(新学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解①学習指導要領・教科の位置付け・現代社会の目標・内容について理解する。	事前学習	教科の目標、科目現代社会の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 4 回	1)公民科指導の性質②-2(新学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解②指導計画の作成と指導上の配慮事項について整理する。 2)模擬授業の構想①担当分野を選定する。	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を考え、どのような授業をしてみたいか、グループ検討会で意見交換できるよう下調べしておくこと。その際、説明資料が充実していれば、自身の提案する授業案が採択されやすくなることもある。
		事後学習	各グループで作業スケジュールを策定し、各々の担当の業務について取り組みを始める。
第 5 回	1)公民科における学習指導案と授業計画 課題:策定の実際について事例指導案を手がかりにポイントを確認する。 2)模擬授業の構想②授業教材の開発	事前学習	第 4 回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるよう準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第 6 回	現代社会の取り扱う「私たちの生きる社会」 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 7 回	現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 8 回	現代社会の取り扱う「共に生きる社会を目指して」 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 9 回	1)公民科の「接続」について(生活科から社会科へ、社会科から公民科へ、カリキュラムの考え方) 教育内容についての理解③ 2)模擬授業の構想③授業教材の開発	事前学習	第 5 回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるよう準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第 10 回	1)公民科における評価の手法(「評価」の考え方、方法論) 教育内容についての理解④ 2)模擬授業の構想④テーマ指導案構想発表	事前学習	自グループの授業構想について見直し、改善の余地はないか検討しておく。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第 11 回	授業プレゼンテーション(学生発表①)・検討会 「青年期と自己の形成」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 12 回	授業プレゼンテーション(学生発表②)・検討会 「現代の民主政治と政治参加の意義」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 13 回	授業プレゼンテーション(学生発表③)・検討会 「個人の尊重と法の支配」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 14 回	授業プレゼンテーション(学生発表④)・検討会 「現代の経済社会と経済活動の在り方」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第 15 回	授業プレゼンテーション(学生発表⑤)・検討会 「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3443 SNMP3443
2. 授業担当教員	小野 智一		SCMP3443 SBMP3443 SSMP3343
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	同一年度に公民科指導法Ⅰ(科目「現代社会」を取り扱う)を履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>様々な社会的事象について関心を持ち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることは、学校教育段階の教科である、社会科、地理歴史科、公民科の目的である。</p> <p>本科目では、公民科において指導すべき(学習指導要領に示される)教育内容についての概説にとどまらず、授業実践をふまえて、公民科指導の性質を理解することを目指す。</p> <p>公民科指導法Ⅱでは、現代社会・倫理・政治経済の科目のうち、倫理・政治経済に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<p>1) 教科「公民科」のうち、科目「倫理」「政治経済」の意義と役割について説明することができる。</p> <p>2) 科目「倫理」「政治経済」の学習内容について説明することができる。</p> <p>3) 「公民科」授業の実践に必要な知識、技能について見通しを持ち、教員を目指すに当たっての学習課題を設定することができる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>講義内で模擬授業を発表します。その過程で学習指導案、教材等の作成に取り組むこととなりますが、これらをレポートとして評価します。</p> <p>第1-8回はリーディング・アサインメント(RA)を事前事後学習課題として配付します。授業内で解説することとなりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習ののちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。</p> <p>模擬授業については、発表後検討会を行い、その後、振り返りレポートを提出することとなります。</p> <p>テーマ: 「倫理」「政治経済」の領域より、一つトピックを選定し、指導案を作成しなさい。</p> <p>※なお、重複を避けるため、講義内にて担当科目の振り分けを行います。</p> <p>また、本講座では、経済教育実践教材である日本証券業協会「株式学習ゲーム」の実践にも参加します。本活動は成績評価の対象ではないが、公民科学習内容の理解を手助けする材料になるため授業内で指示する課題には積極的に取り組んでください。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版(以下、シラバス内ではテキストと呼称する)。 『高等学校公民科用教科書 倫理』東京書籍(2 東書 倫理017)。 『高等学校公民科用教科書 政治・経済』東京書籍(2 東書 政経022)。</p> <p>【参考書】 1) 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012年。 「NIE」や「ロールプレイング」など公民科授業を創る上でのキーワードや理論について事典様式で解説がなされています。アカデミックの色彩が強い書籍ですので発展的学習のための材料としてここに紹介します。書籍名は社会科とありますが、公民科教育についての事項も収録されています。</p> <p>2) 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009年。 「先哲の基本的な考え方」をどのように学ばせたらいいのか等、各分野の専門家がトピック別に見開き2ページで解説している事典です。参考文献も学術論文に偏らず、授業教材として使用できる一般書を多く紹介しているところも本書の特徴です。</p> <p>3) 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・受講者数にもよるが、個人で模擬授業(政経・倫理からテーマを自由選択)を実施する。これを授業のプレゼンテーションとして講義の終盤に実施します。</p> <p>配分は以下の通りです。</p> <p>・授業のプレゼンテーション(40%)、講義内に設定される課題(20%)、レポート(40%)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>受講生の多くは将来、高等学校教諭を志すと推察します。免許の取得には、実習が伴います。短期間の実習ですが、その間に実習先の生徒に有益な授業実践ができるように努めましょう。たとえ短期であっても教師に変わりはありません。免許を取得し、実際に教育機関へ勤務することになればそれ以上の責務を負うこととなります。本講義を通して、「学習者」としてだけでなく、「指導者」としての意識を併せ持つよう努力してください。また、政治経済・倫理は専門知識を要求される科目でもあり、指導法以外の講義で学んだ事項についてはよく復習しましょう。</p> <p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <p>①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁)</p> <p>②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</p> <p>③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</p> <p>④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</p> <p>また、教員は次のことを実行します</p> <p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	<p>講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 時間割判明後、講義内にて案内します。</p>		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	①オリエンテーション (本科目の目的、学習の進め方、評価についての説明) ②公民科教育の意義を考える 課題: 「倫理」「政治経済」に期待されていることは何だろう。	事前学習	教育実習を实践した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 2 回	「倫理」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 教科書分析①倫理	事前学習	科目倫理の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 3 回	「倫理」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について 指導案について①事例検討	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 4 回	「政治経済 (政治)」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 教科書分析②政治経済 (政治分野)	事前学習	科目政治経済 (特に政治に関する分野) の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 5 回	「政治経済 (政治)」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について 指導案について②指導計画について	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 6 回	公民科における倫理指導の実際・授業事例の検討・学生授業発表についての構想①テーマ設定	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を考え、どのような授業を試みたいか、意見発表できるように下調べしておくこと。講義内で発表するために必要な企画書を作成する。
		事後学習	寄せられた意見、指導事項をもとに、第 9 回に設定される 2 回目の発表に向けた準備に取り組む。
第 7 回	「政治経済 (経済)」・学習指導要領解説 科目の性格と目標 内容とその取り扱い 教科書分析②政治経済 (経済分野)	事前学習	科目政治経済 (特に経済に関する分野) の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 8 回	「政治経済 (経済)」・学習指導要領解説 指導計画の作成と指導上の配慮事項について 指導案について	事前学習	テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント (RA) に取り組む。
第 9 回	③公民科における政治指導の実際・授業事例の検討・学生授業発表についての構想②教材の選定	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を決定し、どのような授業を試みたいか、教材を使用するのか、意見発表できるように下調べしておくこと。講義内で発表するために必要な企画書を作成する。
		事後学習	寄せられた意見、指導事項をもとに、第 10 回に設定される指導案作成に向けた個別指導の時に使用する指導案作成に取り組む。
第 10 回	公民科における経済指導の実際・授業事例の検討・学生授業発表についての構想③指導案作り ※本時は発表後個別面談で助言指導するため、待機中には授業教材の作成などに取り組むこと。	事前学習	現時点までの進捗状況報告を全体発表する。そのための企画書 (完成しているならば指導案) を準備する。個別指導待機の時間に取り組む模擬授業発表に向けた作業を用意する。
		事後学習	助言をもとに次回に設定される指導案発表に備える。
第 11 回	授業発表についての構想④指導案発表	事前学習	前回までの助言をもとに次回に指導案を作成する。指導細案 (詳細は前時までに説明) の形式とする。
		事後学習	意見、指導助言をもとに次回以降に設定される授業発表に備える。
第 12 回	授業プレゼンテーション (学生発表①倫理)・検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直ししておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ (生徒役に記録をとらせるもの) を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。
第 13 回	授業プレゼンテーション (学生発表②政治)・検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直ししておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ (生徒役に記録をとらせるもの) を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。
第 14 回	授業プレゼンテーション (学生発表③経済)・検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直ししておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ (生徒役に記録をとらせるもの) を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。
第 15 回	授業プレゼンテーション (学生発表④倫理・政治・経済)・検討会	事前学習	発表学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞く学生は講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直ししておく。
		事後学習	発表学生は意見メモ (生徒役に記録をとらせるもの) を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞く学生は意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自らの授業案への改善点として検討してみる。

1. 科目名 (単位数)	高齢者支援展開論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3319 SNMP3319 SCMP3319 SBMP3319
2. 授業担当教員	金 貞任			
4. 授業形態	講義、高齢者に対する面接調査、高齢者支援プラン作成、発表、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>少子・高齢化の急速な進行に伴い、医療ニーズの高い高齢者と介護を必要とする高齢者の増加、単身世帯と高齢者のみ世帯の増加が今後も予想されている。高齢者が介護や支援を必要とする状態になっても、住み慣れた地域の中で生きがいと尊厳を保ちながら安心して暮らし続けるためには、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供できる地域に密着した包括ケアが必要である。それを実現するためには、高齢者個々人のニーズに基づいたケアプランと支援が非常に重要である。</p> <p>加齢に伴う慢性疾患や ADL・IADL の低下、認知症等、リスクの高低にかかわらず高齢者が住み慣れたコミュニティで生活するために、高齢者の身体的・精神的状態の改善や維持、家族介護者の負担の軽減が必要である。</p> <p>本講義では、高齢者が住み慣れた地域で住み続けることを支援するために、コミュニティ独自のサービスと介護サービスを組み合わせたきめ細かいケアプラン作成など多方面の角度から高齢者支援プランを作成する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者支援計画の背景と目的、意義を理解する。 2. 在宅サービスの種類と要介護度に応じた支援プランを作成するために、必要な情報とは何かを把握する。 3. 市町村独自の高齢者支援政策について調査し、長所と短所を理解する。 4. 介護と医療の連携が必要な理由について調査する。 5. 支援が必要な高齢者が地域で生活するために、どのような支援プランが必要であるか調べる。 6. 介護支援専門員と同じレベルの高齢者支援プランの作成を目指す。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う高齢者の身体的・精神的状況と経済的状況の把握のために在宅で居住している高齢者に対する現地調査を行う。 2. 要介護高齢者が在宅で生活が維持できるような高齢者支援計画を作成する。 (家族介護者の負担感の軽減を目指す) 3. ディスカッションとコメントを参考に高齢者に最も適切な支援プランを作成する。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 NPO 法人千葉県介護支援専門員協議会『三訂 介護支援専門員のためのケアプラン作成事例集』中央法規。 東京福祉大学『新・社会福祉要説』中央法規。 *適宜授業中にプリントなどを配布する</p> <p>【参考書】 ケアプラン点検支援マニュアル活用の手引編集委員会『介護保険ケアプラン点検支援マニュアル活用の手引』白澤政和編・著『介護支援専門員のためのケアプラン作成講座』シルバー新報/環境新聞社。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度 (ディスカッション、質問など) 総合点の 30% 2. グループレポート (アサイメント (宿題) 含む) 40% 3. 個人レポート 30% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に適切な支援とは何かについて、常に考え実践することを望みます。 2. 宿題と発表は、義務として必ず完成させる必要があります。 3. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 4. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 5. 授業中に他人が発表や質問している時は、静かに傾聴してください。 6. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 7. 発表とレポート等の提出期限を厳守してください。発表とレポート提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点になります。 8. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要についてシラバスを中心に説明	事前学習	高齢者支援展開論の学習ノートを準備し、講義に臨む。	
		事後学習	要介護高齢者に必要なサポートについて図書館で調べる	
第 2 回	介護保険制度の現状と問題点 (DVD、1 章)	事前学習	介護サービスの種類、介護支援専門員の義務とケアマネジメントを調べ、ノートにまとめる。(pp.2-8)	
		事後学習	介護サービスの現状と問題点、ケアマネジメントの現状と改善策を考える	
第 3 回	高齢者に対するケアプランの記載内容の検討: ADL, IADI, 認知症のチェック項目を理解、ケアプランの標本様式と記載内容の把握 (1 章)	事前学習	高齢者を支援するためにチェックすべき項目とは何かについて調べてノートにまとめる。(pp.9-12)	
		事後学習	居宅サービス計画書と施設サービス計画書が違う理由について考える。	
第 4 回	配偶者を亡くした独居高齢者への支援の検討、ディスカッション・発表 (グループ作業) (2 章 1.5)	事前学習	配偶者を亡くした独居高齢者に対する支援時に必要な支援策をノートにまとめる(pp.77-90)	
		事後学習	居宅支援計画書の短所と長所を把握し、サービス計画書の短所の改善策を作成する。(グループ作業)	
第 5 回	配偶者を亡くした独居高齢者の支援計画書の発表 (グループ)	事前学習	子ども家族と同居する ALS 女性の事例をノートにまとめる。(pp.22-34)	

	子ども家族と同居する ALS 女性事例の検討、ディスカッション・発表 (2 章 2_1)	事後学習	ALS 症状を理解し、サービス計画書の短所の改善策を作成する。(グループ作業)
第 6 回	介護支援専門員による授業	事前学習	介護支援専門員の義務、ケアマネジメントの定義、介護支援専門員の問題点とは何かについてノートに整理する。(pp.2-8)
		事後学習	介護支援専門員は、どのような観点から計画書を書く必要があるかを吟味する サービス計画書の課題を完成する(グループ作業)
第 7 回	サービス計画書の発表(グループ作業) 老人保健施設退所の男性事例の検討、ディスカッション(2 章 1_3)	事前学習	老人保健施設退所の男性事例を調べノートにまとめる。(pp.47-63)
		事後学習	老人保健施設退所の男性事例のサービス計画書の完成(グループ作業)
第 8 回	退院直後の ADL 低下の女性のサービス計画書の発表(グループ) 医療との連携により生活機能の早期改善を目指した事例の検討、ディスカッション(DVD,2 章 1_3)	事前学習	多職種との連携により早期改善を目指した事例を調べノートにまとめる。(pp.35-46)
		事後学習	どのような連携が望ましいかなどを考える
第 9 回	支援が必要な高齢者に対するインタビュー調査のための質問項目の作成と完成:グループ作業	事前学習	インタビュー調査の質問項目の内容をノートにまとめる。(P.12)
		事後学習	インタビュー調査の項目の完成
第 10 回	支援が必要な高齢者へのインタビュー調査; 現地調査(個人作業)	事前学習	インタビュー調査の練習(グループ作業)
		事後学習	インタビュー調査の結果をまとめる(個人作業) 発表レジюмеをコピーする
第 11 回	支援が必要な高齢者の支援計画書の発表:個人発表	事前学習	インタビュー調査の発表の練習をする(個人作業) 配布コピーを用意する。
		事後学習	発表内容の長所・短所を把握し、短所を改善する
第 12 回	支援が必要な高齢者の支援計画書の発表:個人発表	事前学習	インタビュー調査の発表の練習をする(個人作業) 配布コピーを用意する。
		事後学習	発表内容の長所・短所を把握し、短所を改善する
第 13 回	ターミナル事例の検討、ディスカッション(DVD)、ケアプラン作成:グループワーク	事前学習	ターミナルケアとは何か、どのような支援が必要であるかを調べ、ノートにまとめる。(pp.138-152)
		事後学習	ターミナル状態の高齢者の支援計画書を完成する。 選択した事例の発表準備をする。
第 14 回	虐待事例の検討・ディスカッション(配布資料)	事前学習	新聞やメディアを利用し、虐待事例を調べノートにまとめる
		事後学習	虐待事例の支援計画書を完成する。 発表レジюмеをコピーする。(個人発表)
第 15 回	虐待事例の支援計画書の発表、ディスカッション、まとめ、レポート提出	事前学習	支援が必要な事例を対象とした支援計画書を完成する。発表練習をする。(個人発表)
		事後学習	高齢者を支援するためには、どのような方法で支援計画書を書く必要があるかを吟味する

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1101 SNMP1301
2. 授業担当教員	金 貞任		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会的な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第 1 に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第 2 に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第 3 に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第 4 に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状況について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループごとに介護サービス事業所の現状と問題点、今後解決すべき課題とは何かについて、介護事業所のキーパーソンを対象に現場でインタビュー調査の実施、インタビューレジユメの作成、発表。 2. レポートの提出期限を厳守すること。 3. 事前学習・事後学習を徹底的にすること。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>杉本敏夫・橋本有里子編、『学びを迫る高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『新版老人福祉論』中央法規。</p> <p>*授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループレポート、授業中の態度 (ディスカッション・発表) 総合点の 20% 2. 小テスト 80% 		
12. 受講生への メッセージ	<p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者福祉論を学ばなければならない理由について、常に考え答えを導き出すことを望みます。 2. 宿題と発表は、義務として必ず完成させる必要があります。 3. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 4. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 5. 授業中に他人が発表や質問している時は、静かに傾聴してください。 6. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 7. 発表とレポート等の提出期限を厳守してください。発表とレポート提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点になります。 8. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義概要についてシラバスを中心に説明 高齢者の特性についてディスカッション	事前学習	高齢者福祉論のノートを準備し、講義に臨むこと
		事後学習	高齢者の身体的特性について、教科書とインターネットを利用して具体的に調べる。
第 2 回	高齢者の生活の現状と課題 (2 章)	事前学習	高齢者の生活の現状について、重要な部分をノートに整理する (pp.21-30)。
		事後学習	高齢者の生活の問題とは何かを自分の言葉でまとめる
第 3 回	高齢者福祉の発展過程 (3 章)	事前学習	高齢者福祉の発展過程について、重要な部分をノートに要約する (pp.31-36)。

		事後学習	高齢者福祉の発展過程において、法律の改正が必要な理由について吟味する
第 4 回	高齢者の特性及び症状 (4 章)	事前学習	高齢者の特性及び症状についてノートに要約する (pp.37-48)。
		事後学習	高齢者の特性と症状について、重要な部分をノートに要約する (pp.37-48)。
第 5 回	介護保険制度とは何か (8 章)	事前学習	介護保険制度の創設の理由と仕組みなどについてノートに整理する (pp.96-104)。
		事後学習	介護保険制度が必要な理由と問題点は何かについて整理する。
第 6 回	介護支援専門員とケアプラン作成：外部講師	事前学習	居宅介護支援事業所と介護支援専門員の仕事の内容、問題点は何かについて、新聞記事やインターネットを使い調べ、ノートに整理する(pp.100-101 参照)。
		事後学習	居宅介護支援者は、どのような方法でプランを設定する必要があるか考える。
第 7 回	介護の現状と家族支援 (5 章)	事前学習	介護の現状と家族支援のありかたについて、重要な部分をノートに要約する (pp.50-64)。
		事後学習	高齢者に対する家族支援が必要な理由について吟味する。
第 8 回	認知症ケアと終末期ケア：(DVD 感想) (6 章)	事前学習	認知症ケア、終末期ケアの現状と問題点についてノートに整理する(pp.70-74)。
		事後学習	ビデオ感想文を作成する (1,000 字程度)。
第 9 回	高齢者福祉に関する法制度 (7 章)	事前学習	老人福祉法、高齢者の虐待、高齢者の雇用などに関する法律について、重要な部分をノートに整理する (pp.75-94)。
		事後学習	新聞やニュースで報じられている高齢者の虐待について、最近の事件を調べ、解決策とは何かを考える
第 10 回	介護保険制度の現状と問題点：VTR 施設サービスと居宅サービスの事業所に対するインタビュー調査内容の作成 (グループ作業)	事前学習	介護保険制度の施設サービスと居宅サービスの種類について、サービス内容をノートに整理する (pp.105-132)。
		事後学習	インタビュー調査の内容を完成する。インタビュー先事業所に連絡し、訪問調査の日程の調整などをする。(グループ作用)。
第 11 回	介護保険サービス事業所のキーパーソンに対するインタビュー調査：現地調査 (グループ作業)	事前学習	介護事業所のキーパーソンへのインタビュー調査の依頼、インタビュー調査の内容のチェック (pp.105-132)。
		事後学習	インタビュー調査に対するテープお越しと内容の整理、発表資料作成 (教科書とインターネットで調べた内容も引用する) (グループ作業)。
第 12 回	介護保険者 (市町村)、介護老人福祉施設 (短期入所も含む)、老人保健施設、介護療養型医療施設、地域包括支援センター、軽費老人ホームについて発表 (グループ発表)	事前学習	インタビュー調査の発表内容の最終チェック (教科書とインターネットで調べた内容も含む) と発表練習、配布資料のコピー (グループ作業) (pp.130-132, 108-109, 136-137, 162-163)。
		事後学習	介護入所施設の長所を生かし、短所を改善するためには何が必要であるかを考える。反省会 (発表グループ)。
第 13 回	居宅サービス事業所：訪問看護事業所、訪問介護事業所、認知症対応型共同生活介護、地域密着型サービス、社会福祉協議会について発表 (グループ発表)	事前学習	インタビュー調査の発表内容の最終チェック (教科書とインターネットで調べた内容も含む) と発表練習、配布資料のコピー (グループ作業) (pp.121-127, 108-109)。
		事後学習	在宅サービス事業所の問題とは何か、その問題を解決するためには、何が必要であるか、新聞記事や IT を使い調べ、整理する。反省会 (発表グループ)。
第 14 回	福祉用具事業所、有料老人ホームについて発表 (グループ発表)。高齢者の生きがい：VTR	事前学習	インタビュー調査の発表内容の最終チェック (教科書とインターネットで調べた内容も含む) と発表練習、配布資料のコピー (グループ作業)。生きがいが必要な理由、生きがいの種類について、新聞記事や IT を使い調べ、ノートに整理する (pp.168-176,152-153)。
		事後学習	反省会 (発表グループ)。生きがいが見つからない高齢者への援助方法について調べる (pp.142-147)。
第 15 回	授業のまとめ、ディスカッション	事前学習	高齢者福祉を勉強する必要性と授業で発見したことをノートに整理する。
		事後学習	高齢者が生きやすい社会を目指すために、ソーシャルサポートとソーシャルネットワークがどうあるべきかについて IT などで調べ、まとめる。

1. 科目名 (単位数)	高齢者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SCMP1301 SBMP1301 SSMP1101 PSMP1401
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義、グループレポート作成と発表、ディスカッション、小テスト	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人類の長年の願望だった長寿化社会の実現が先進国のみならず開発途上国でも見られる現象となった。現在日本は、少子高齢化の影響で人口の減少と介護人材の不足が社会問題となっており、社会が健全に発展するためには、少子・高齢社会的な現状の把握と問題の本質を理解し、ニーズに基づいた積極的な対応が必要である。</p> <p>本講義では、第 1 に、人口構造と世帯構成、高齢者の精神的・身体的状態、経済的状态など高齢者を取り巻く環境について理解を深める。第 2 に、高齢者福祉の発展過程として高齢者福祉制度の萌芽から老人福祉法、現在に至るまでの変化について検討する。第 3 に、支援が必要な虚弱高齢者、予防高齢者と要介護高齢者の現状、公的サービスの現状と問題点などについて把握する。第 4 に、介護保険法に規定されている介護に関連する介護予防と各種サービス、ケアマネジメント、終末期ケアなど諸事項に関する法律について、現状と問題点を検討する。最後に、要介護状態になっても住み慣れた地域や選好する場所で生活し続けるためには、どのような政策や実践が必要であるかを地域で調査を実施し、社会に貢献できることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口学的特徴とライフサイクルの観点から高齢者の生活実態や世帯構成、経済的状況について理解を深める。 2. 高齢者福祉制度の仕組み、発展過程と課題について理解を深め、今後実現可能な政策とは何かを調査する。 3. 公的介護保険制度の現状と問題点について把握し、要介護高齢者の介護ニーズに適切に対応するために解決すべき課題を把握する。 4. 高齢者ニーズを満たす方法として、血縁関係のみならず地域ネットワークの在り方についても理解を深め、高齢者が社会参加を積極的にするためには、どのような環境づくりが必要であるか、調べる。 5. 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解し、高齢者が望む場所で最期を迎えるために、必要な政策と地域ネットワークのありがたを理解する。 6. 介護保険制度の仕組みについて理解を深め、介護サービス事業所の現状と問題点を調査し、改善策を把握する。 7. 相談援助活動において、要介護高齢者の人権を守るための成年後見制度など法制度の内容を理解し、成年後見制度が普及しない理由や問題点を把握する。 8. 本科目は、国家試験科目であり、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート:施設見学や高齢者へのインタビューした内容を2000字程度にまとめて提出する		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>杉本敏夫・橋本有里子編、『学びを迫る高齢者福祉』保育出版社。</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『新版老人福祉論』中央法規。</p> <p>*授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートと課題 20% 2) 授業への参加度 30% 3) ミニテスト及び学習用ノート 50% 計 100% <p>なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。</p> <p>まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。</p> <p>受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠りまた途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 高齢者のイメージについて	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、授業に臨むこと
		事後学習	高齢者のイメージについて理解した内容をまとめる
第 2 回	少子高齢化の現状と動向	事前学習	pp.14-20 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容についてまとめる
第 3 回	高齢者の心身の特徴	事前学習	pp.27-33 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容をまとめる
第 4 回	高齢者を取り巻く諸問題 健康、介護、経済的問題、生活意識、生きがい	事前学習	高齢者を取り巻く様々な問題の中一つを選んでその内容についてまとめる

	問題など	事後学習	授業で理解された内容についてまとめる
第 5 回	高齢者保健福祉制度の歩み 戦後以来日本政府が高齢者のため行なった政策 をマクロレベルで検討	事前学習	pp.58-70 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解された内容をまとめる
第 6 回	高齢者支援関連法(これ囲社会対策基本法)	事前学習	pp.82-86 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 7 回	高齢者支援関連法 (老人福祉法)	事前学習	pp.86-92 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	老人福祉法について理解された内容をまとめる
第 8 回	高齢者支援関連法 (バリアフリー新法と成年後見制度など)	事前学習	pp.92-97 を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる
		事後学習	権利擁護制度について理解した内容をまとめる
第 9 回	高齢者支援関連法 (高齢者虐待防止法)	事前学習	pp.223-242 を参考し、その中で虐待の事例を調査し、 まとめる
		事後学習	虐待発見時の対応プロセスについてまとめる
第 10 回	介護保険法 介護保険制度の全体像、制度成立の背景、理念、 目的など	事前学習	pp.102-115 を参考し、その内容をまとめる
		事後学習	授業を通して理解された内容をノートにまとめる
第 11 回	施設見学あるいは高齢者へのインタビュー	事前学習	事前に見学予定の施設を調べ、施設の概要をまとめる
		事後学習	それぞれについてレポートとしてまとめて提出する
第 12 回	介護保険法 介護保険法の改正と介護給付(ビデオ)	事前学習	2005 年改正された内容について調べ、その内容を学習 用ノートにまとめる
		事後学習	ビデオを見て、改正された内容についてまとめる
第 13 回	介護保険法におけるサービス	事前学習	pp.115-127 を熟読し、サービスの内容について学習用 ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 14 回	介護保険法における専門職の役割	事前学習	pp.142-151 を熟読し、専門職にはどのような職がある のかについて学習用ノートにまとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる
第 15 回	高齢者を支援する組織・団体の役割	事前学習	pp.128-142 の中から一つの組織を選び、それについて まとめる
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2301 EDEL2301										
2. 授業担当教員	國府田 祐子												
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	春期										
6. 履修条件・ 他科目との関係	「国語科指導法」の基盤をなす科目である。												
7. 講義概要	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠である。加えて子どもたちに国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語 (日本語) に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身に付けることが大切である。指導者が言語感覚・能力を培い、思考力・判断力・表現力を育成することが、感性や情緒をはぐくみ、人間形成や社会参加につながることを理解した上で、子どもたちの発達段階に応じた国語教育のあり方について学習する。												
8. 学習目標	<p>国語に対する関心を深め、思考力や想像力、言語感覚を磨き、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者自らが、日本語についての正しい知識を身に付ける必要がある。そのために、次のことを学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本語の現状と、日本語を取り巻く課題、問題点等を理解することができる。 2 小学校の「国語科」を指導する教師として必要な「日本語」についての基礎的知識を身に付けることができる。 3 「国語科」の教材としての「日本語」を考えることができるようになる。 4 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向けて、これからの国語力や国語教育について考えることができるようになる。 												
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>国語科の主たる教材やその他の教材を選んで演習等を行うので、指定された教材を事前に読み込む等の予習を行う。</p> <p>教科書は 1 冊のみだが、課題図書を購入して読み、その都度レポートを書く。</p> <p>授業内容の理解を確認するための小テストを行う。</p>												
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社、2012 年。</p> <p>【プリント教材】講義の折に配付します。</p> <p>【参考書】三省堂編修所編『新しい国語表記ハンドブック 第六版』三省堂、2011 年。</p> <p>石井桃子『新編 子どもの図書館』岩波現代文庫</p> <p>川島隆太・川島英子『頭のいい子は音読と計算で育つ』二見レインボー文庫</p> <p>水村早苗『増補 日本語が亡びるとき ―英語の世紀の中で』ちくま文庫 等</p>												
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>小テスト</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>レポート、小論文、提出物等</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>記録シート・ノート</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </table>			小テスト	15%	レポート、小論文、提出物等	30%	授業態度	20%	記録シート・ノート	15%	期末試験	20%
小テスト	15%												
レポート、小論文、提出物等	30%												
授業態度	20%												
記録シート・ノート	15%												
期末試験	20%												
12. 受講生への メッセージ	<p>児童にとって指導者である教師は生きた教材です。児童の思考力・判断力・表現力や、児童の言語感覚を育て、言語に対する能力を高める立場です。普段から、言語がもつ役割や機能について関心を持ち、意識を高め、正しい言語を用いることに努めてください。</p> <p>テキストを読むときは音読し、演習や発表、話し合いもたくさん行います。毎回の授業内容を正しく記録してもらい、毎回、提出物があります。座席は指定です。私語はしないが静かに座っているだけでは、授業態度を達成したことにはなりません。これから出会う子どもたちにとってかけがえのない教師になるという自覚を持って、授業に臨んでください。</p>												
13. オフィスアワー	初回の授業で連絡する。												
14. 授業展開及び授業内容													
講義日程	授業内容	学習課題											
第 1 回	オリエンテーション 鉛筆の持ち方、姿勢、国語教科書の重要性	事前学習	自分が受けてきた国語の授業について、経験をまとめておく。										
		事後学習	子どもたちに指導する立場から、姿勢、鉛筆の持ち方を会得し、まとめる。										
第 2 回	言語の役割その 1 「詩の言葉と論理の言葉」 「名付け」「具体と抽象」	事前学習	自分の意図しなかった伝わり方をした経験や誤解された経験を想起し、まとめておく。										
		事後学習	言語の機能についてまとめる。										
第 3 回	言語の役割その 2 「帰納的推論」と「演繹的推論」	事前学習	論理的に思考するとは何か調べる。										
		事後学習	言語の機能についてまとめておく。										
第 4 回	文学的文章の教材化 その 1 小学校低・中学年教材	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。										
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。										
第 5 回	文学的文章の教材化 その 2 小学校高学年教材	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。										
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。										
第 6 回	文学的文章の教材化 その 3 中・高等学校教材と小学校教材の比較・関連	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。										
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。 『学習指導要領解説国語編』『C読むこと』を読み、文										

			学的文章を読むことのポイントについて整理し、まとめる。
第 7 回	論理的文章（読むこと）の教材化 その 1 小学校低・中学年教材	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。
第 8 回	論理的文章（読むこと）の教材化 その 2 小学校高学年教材	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。
第 9 回	論理的文章（読むこと）の教材化 その 3 中・高等学校教材と小学校教材の比較・関連	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。
		事後学習	使用した資料を基に学習内容を整理する。 「全国学力・学習状況調査」「P I Z A 型読解力」について調べておく。
第 1 0 回	論理的文章（読むこと）の教材化 その 4 P I S A 型読解力とは	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。
		事後学習	『学習指導要領解説国語編』『C 読むこと』を読み直して論理的文章を読むことのポイントについて整理し、まとめる。
第 1 1 回	文章構成や叙述の仕方と表現力の向上 その 1 （報告文）	事前学習	指定された教材を熟読・音読練習し、学習した観点に沿って教材研究しておく。
		事後学習	課題図書のリポート提出に向けて準備する。 『学習指導要領解説国語編』『A 書くこと』を読んで文章の構成について理解を深めまとめる。
第 1 2 回	文章構成や叙述の仕方と表現力の向上 その 2 （論説文）	事前学習	ことわざや慣用語の小テストにむけて準備する。
		事後学習	『学習指導要領解説国語編』『A 書くこと』を読んで段落やキーワード等のポイントについて整理し、まとめる。
第 1 3 回	「伝統的な言語文化」の意味と指導内容や系統性、「書写」の理解と意味	事前学習	書道半紙と筆ペンを用意する。
		事後学習	『学習指導要領解説国語編』の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「書写」に関する事項をまとめる。
第 1 4 回	読書指導の現状とその充実、図書館の活用	事前学習	読書離れについて調べ、整理しておく。
		事後学習	自分の読書生活を振り返ったり、読書指導の在り方について考えたりして、自分の考えをまとめる。
第 1 5 回	小学校国語科教育の現状と若者が抱える言葉遣いの課題、総括	事前学習	小テストに向けて準備する。
		事後学習	豊かな言語生活をおくるために必要なことや留意点を整理しまとめる。
期末試験 学習指導要領、漢字、文法、ローマ字、ことわざ、敬語等について出題する。			

1. 科目名 (単位数)	国際関係論 (国際法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA3318
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目履修にあたっては事前に以下に挙げる科目の事前・事後履修を推奨します。履修可能な範囲で意欲的に取り組んで下さい。 事前・事後履修を推奨する科目：「政治学」「経済学」「国際社会と日本」「世界史」「日本史」		
7. 講義概要	本科目は、国際政治や国際経済に関する諸問題について理解を深めることを目的とする。また、人権、国家主権や領土の問題など、国際法の考え方についても取り上げる。 本科目では、国際関係論の全体を概観し、公務員試験や教員採用試験にも関連する内容も取り上げながら展開していく。		
8. 学習目標	1) 国際関係論における基本的な考え方、重要な概念について理解し説明できる。 2) 国際社会における政治・経済動向について関心を持ち、諸問題について多面的に検討し思考することができるようになる。 3) 国際社会における行動主体とその関係について理解できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	リーディングアサインメントを課します。論述で解答する場合と確認テストにて解答を求める場合があります。基本的に、2回以降はテキスト (中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年) 持参が必須になります。前回講義時に指定された範囲のテキストの読み込みとともに、各講義回に設定された課題について自分なりの解答をもって講義に臨んでください。 講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のうちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。配付を受けるまでは上記課題を意識してテキストの各章を読んでみましょう。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介いたします。課題例はその都度補足します。 課題例：第 5 章；安全保障という考え方が定着するようになった背景はどのようなものだろうか。テキスト pp.232-252.を読みまとめてみよう。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 中西寛ほか『国際政治学』有斐閣、2013年。 (以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 1) 原康著『岩波ジュニア新書 国際関係がわかる本』岩波書店、1999年。 高橋和志ほか『岩波ジュニア新書 国際協力ってなんだろう』岩波書店、2010年。 教科書の内容に難しさを覚えた学生は参照することをお勧めします。後者は教科書の第 6 章～10 章で取り扱いのある、アジアの状況について中心的に取り上げております。 2) 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』。有斐閣ブックス、2004年。 国際政治、国際経済の分野の専門用語、トピック 163 項目を解説しています。「集団安全保障」「開発主義」といった本科目でも取り扱う概念について更に理解を深めたいときに有益です。 3) 羽場久美子・増田正人編『21 世紀国際社会への招待』有斐閣ブックス、2003年。 最新事情については参照できないが、1990 年代からの国際社会の変化について 22 のトピックで分かりやすく解説している。 4) 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 ほか、高等学校歴史地理において使用した世界史資料集などが本科目の学習の手助けになる。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (40%)、授業への取り組み (授業内発表なども含む) (20%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	国際関係論が取り扱う領域は広範にわたります。原則、テキストのトピックについて学習を進めていくことになります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言・発表等) できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話 (メール・通話) の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと) 国際関係論についての基礎知識	事前学習	テキストの目次を参考に国際関係論 (国際政治学) が議論する観点を見ておくこと。その中で関心を持ったテーマについて各章の summary を読んでおくこと。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディングアサインメント (RA) に取り組む。
第 2 回	国際政治学の見取り図① 国際政治の悲劇性とリアリズム・リア	事前学習	前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。

	リズムへの挑戦…テキスト第 1 章		課題：リアリズムとリベラリズムとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	国際政治学の見取り図② 三つの分析レベル・国際政治から世界政治へ …テキスト第 1 章	事前学習	課題：ウォルツ『戦争原因論』およびウォラーステイン『世界システム論』について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	国際政治の歴史的視角① 主権国家体制以前の「世界秩序」 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：東アジア国際体制について調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	国際政治の歴史的視角② 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（1） ドイツ三十年戦争およびウェストファリア体制の現代的評価 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ三十年戦争の経過を教科書以外の参考文献も活用して調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（2） ドイツに見る「国民国家」形成の過程 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：ドイツ国家の国民意識が形成される過程には何があったのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	国際政治の歴史的視角③ 近代ヨーロッパ主権国家体制と国際政治理解（3） ヨーロッパ外世界との関係 …テキスト第 2 章	事前学習	課題：19 世紀頃までのヨーロッパ諸国による植民地獲得とアメリカおよび日本との関わり方について（pp.76-79.）調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	対外政策の選択① 外交・国内政治と対外政策 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：アリソンは三つの政策決定モデルとは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	対外政策の選択② 国家間の戦略的相互依存 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：なぜ軍拡競争が起こるのか。囚人のジレンマの論理を手がかりに考えてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	対外政策の選択③ 認識と行動 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：シェリング『行動の自由の逆説』とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 11 回	対外政策の選択④ 威嚇と約束 …テキスト第 3 章	事前学習	課題：モーゲンソーの「威嚇や約束の説得力」とは何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 12 回	国際秩序① 領域主権国家体制 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、国内類推論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 13 回	国際秩序② 秩序の設計と生成・国際秩序の変動と国内秩序の変動 …テキスト第 4 章	事前学習	課題：国際秩序」を形作る考え方について、市場類推論、共振論とは何か調べてみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 14 回	国際政治経済 国際政治経済の過程グローバリゼーションとパワーシフト …テキスト第 6 章	事前学習	課題：自由な国際交易国家間の関係を平和にする効果があるのか？
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 15 回	越境の世界 文明論と国際政治 …テキスト第 7 章	事前学習	課題：グローバリゼーションによって異文化社会間の交流が深まることは、国際政治にどのような影響をもたらすか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。 アサインメントすべてを見直す。 課題：今、目の前にある世界はどうしてこうなったのか。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	子どもの食と栄養 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3358 SCMP3358 SBMP3358 SNMP3358 SJMP3121
2. 授業担当教員	植地 正文・坂本 めぐみ		
4. 授業形態	講義、演習 (課題作成および発表含む)、調理実習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	小児期の栄養と食生活の重要性を理解し、一生涯の食生活の意義を理解する。また保育者として、小児の発育と発達の特徴を踏まえた栄養と食のあり方を理解し、保育所における望ましい食のあり方について理解を深める。さらに最近の食にまつわる様々な問題にふれながら、保護者と子どもの総合的な食育や保育所における食の実践について理解する。		
8. 学習目標	1) 栄養、食生活の基礎知識を身につける。 2) 小児期各期の栄養と食生活について学び、説明することができる。 ①妊娠期 (胎児期) ②新生児期 ③乳児期 ④幼児期 ⑤学童期・思春期 3) 保育士としての食の援助の役割について学び、説明することができる。 4) 疾患をもつ小児の栄養・食生活について学び、説明することができる。 5) 小児の食の問題について学び、説明することができる。 6) 子どもとその家族に対する栄養教育・食教育について学び、知識を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	宿題：幼児期および学童期の食事計画のレポートを提出する。グループで話し合い計画する。①献立と栄養素、②予想献立図 ③調乳・離乳食・幼児食の作成上の注意点と子どもの食事の際に配慮すること、を指定されたA4のレポート用紙に記載する (表紙不要)。献立作成の課題、提出期限は講義内で提示する。提出期限は厳守すること。 課題：保育所の園児とその保護者を想定し、掲示を行う「食育だより」を提出すること (A4版1枚)。用紙は講義内に配布するが、それ以外の紙を用いても良い。保育園に掲示することを目的とするので、折り紙、フェルトなどの使用は可能である。課題設定や提出期限は講義内で提示する。提出期限は厳守すること。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新保育士養成講座編纂委員会/編『新 保育士養成講座第 8 巻 子どもの食と栄養』 全国社会福祉協議会 2015 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第 4 版』中央法規、2013 【参考書】 師岡章他『食を育む 食育実践ガイドブック』フレーベル館 森野恵子『食育 保育者は何をしたらいいの?』フレーベル館 食育支援ガイドブック作成員『歯科からアプローチする食育支援ガイドブック』医歯薬出版 家庭科教育研究者連盟『子どもの生活とつながる食育 小学校編』日本標準		
11. 成績評価の方法	期末試験 50% 提出課題 20% 受講態度 30%		
12. 受講生への メッセージ	保育所に通う子どもは 1 年間に約 200 回以上の食事を保育所のお友達や先生と一緒に食べる機会を持ちます。小児期の食の体験はその後の子どもの食生活と健康の基礎をなすものです。子どもの健康や成長・発達を考えると同時に、“楽しく・おいしい食の体験”を大切に出来る保育士としての実践力を養いましょう。 1) 講義中は私語、スマホや携帯電話の使用、講義とは関係ないことをしないことを守りましょう。 2) 正当な理由がない限り、欠席・遅刻・早退をしないようにしましょう。 3) 課題・レポートの提出期限は厳守しましょう。 4) 調理実習は調理家政実習室で行います。エプロン、三角巾で身支度を行います。 マニキュア、ピアスははずし、長い髪の毛は必ず後ろにゴムでまとめて下さい。 また、自分用の手拭を持参してください。		
13. オフィスアワー	講義前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	子どもの栄養の概要、グループわけ 子どもの発育・発達と栄養・食生活	事前学習	テキスト序章 (pp.2~6) を読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 2 回	健康な生活と食生活の意義、栄養・食生活の基礎知識、	事前学習	テキスト第 1 章(pp.8~23)を読み、考える
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習 テキスト第 2 章 1 節(pp.26~67)をまとめる
第 3 回	小児期各期の栄養—①胎児期、妊娠期、産褥期	事前学習	テキスト第 3 章(pp.70~85)を読み、考える
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 4 回	小児期各期の栄養の実際 小児期の栄養献立計画立案 (演習)	事前学習	テキスト第 2 章 2(pp.65~67)、参考図書を読み、考える
		事後学習	演習課題の完成
第 5 回	新生児期・乳児期の栄養と食生活 (1) 母乳栄養と母乳哺育の援助 (2) 人工栄養の栄養とその注意点	事前学習	テキスト第 3 章(pp.71~81)とワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習

第 6 回	新生児期・乳児期の栄養と食生活 (3) 離乳期の栄養と養育者への援助	事前学習	テキストと第 3 章 (pp.86~99)、参考資料を事前に配布するので読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 7 回	新生児期・乳児期・幼児期の食生活の実際 (調理実習)	事前学習	調理の資料を事前配布。自宅で調理器具の使い方を練習する
		事後学習	家庭での復習 (同じものを作成)
第 8 回	新生児期・乳児期・幼児期の食生活の実際 (調理実習)	事前学習	調理の資料を事前配布。自宅で調理器具の使い方を練習する
		事後学習	家庭での復習 (同じものを作成)
第 9 回	幼児期の栄養と食生活	事前学習	テキスト第 3 章 4 節 (pp.102~116) と参考資料を読む、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 10 回	学童期・思春期の栄養と食生活 保育施設における食育	事前学習	テキスト第 3 章 5 節 (pp.116~132) と参考資料を読む、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 11 回	児童福祉施設における食育の展開 (演習)	事前学習	テキスト第 4 章 2 節 (pp.157~168) をよみ、インターネットなどを閲覧する
		事後学習	課題作成
第 12 回	児童福祉施設における食育の展開 (演習)	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.181~206) を読み、やインターネットを閲覧する
		事後学習	課題作成
第 13 回	児童福祉施設における栄養と食生活 特別な配慮を必要とする小児の栄養と食生活 (病気時の食の対応、食物アレルギーの配慮)	事前学習	テキスト (pp.208~236) を読む
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 14 回	児童福祉施設における食育の展開	事前学習	事前配布した資料を読みまとめる、ワークブックの予習
		事後学習	ワークブック講義箇所の復習
第 15 回	「こどもの食と栄養」のまとめ	事前学習	テキストとワークブックをまとめる
		事後学習	将来、自分が保育士や養護教諭として子どもの食と栄養をどのように進めていくか、考える
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健 I (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2340 SNMP2340 SCMP2340 SBMP2340 SJMP2116
2. 授業担当教員	植地 正文・佐野 葉子		
4. 授業形態	講義、グループ学習・発表・討論、課題発表・討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	ヒトの一生のなかで、小児期は形態的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。本教科目では、成長・発達してゆく過程を学び、子どもの健康の意味を理解し、子どもの健全育成とは何かを考えてみよう。さらに、子どもの疾病とその予防対策、事故と安全教育、ハンディーキャップを持った子どもの保育などの健康課題に関する知識を学ぶと共に、日常の保育の現場で実践できる能力、問題解決能力を身につけることが求められている。		
8. 学習目標	1) 子どもの成長および発達について説明することができる。 2) 小児期の成長・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育の意義について説明することができる。 3) 子どもの生活リズムや基本的な生活習慣を説明し、実践することができる。 4) 小児期によくみられる疾病とその対処法を説明し、実践することができる。 5) 小児期の事故防止と安全教育について説明することができる。 6) 母子保健の現状と課題について説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート 課題	アサイメント (宿題) : (各々の宿題は、明朝体10.5ポイントで印字し、 <u>A4判横書き 1 枚</u> にまとめて下さい。) 1) 母乳哺育を阻害する要因について ; (第 1 2 回終了時点で提出のこと) 母乳哺育の重要性が叫ばれているが、実際に母乳栄養をしている率は生後 3 か月時点で約 3 0 % である。母乳哺育を推進するためにも、どんな阻害要因があるのかを知っておくことは必要がある。 2) 小児期の代表的な病気とその対処法について ; (第 2 1 回終了時点で提出のこと) 病児保育が制度化された今日、保育所や幼稚園などに勤務する職員にも子どもの病気の知識を習得し 実践する能力を身につけておくことは大切である。 レポート課題: 1) <u>個人別レポート課題</u> ; 『母子健康手帳から得られるもの』 ; (冬休みに入る最後の授業時に提出する) 母子健康手帳の中から得られたテーマを 1 つ選んで論文 (総説) を書いて下さい。個人の成育歴を知り、 養育者の育児に対する想いを知ることが、こどもの保健そのものなのです。 (明朝体, 10.5ポイントで印字し、 <u>A4判、横書き 2 枚</u> にまとめてください。) 2) <u>グループ別レポート課題</u> ; 『保育所、幼稚園でよくみられる発疹を伴う感染症について』 ; (冬休みに入る最後の授業時に提出する) 発疹性疾患の診断は大変難しいので、保育所、幼稚園の実習までに知識を身につけておくことが大切。 発疹性疾患のレポート課題は、グループ編成時に決める。 [明朝体, 10.5ポイントで印字し、 <u>A4判、横書き 4 枚 (1 疾患につき 2 枚)</u> にグループごとでまとめて 提出する。その後、グループごとで発表・討論し、知識を共有する。]		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 佐藤益子編著『子どもの保健 I』ななみ書房、2015 年。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 第 4 版』中央法規、2013 年。 【参考書】 巷野悟郎、岩田力、前澤真理子編著『保健一理論と実際一』同文書院、2011 年。 【教 材】 テーマごとに資料を随時配布する		
11. 成績評価の方法	期末試験 40% レポート・宿題、グループ発表 50% 受講態度 10%		
12. 受講生への メッセージ	本教科目では、将来、受講生たちが保育所・幼稚園に勤務した時や親になった時に、役立つような知識を 習得し、実践して解決する力を身につけてほしい。目的達成のために、受講生は以下のことを守ってほしい。 1) この教科内容は難解のところも多いので、常に緊張感と集中力を保って受講し、積極的な態度で授業に 参加することを希望する。授業内容の理解のために、事前学習・事後学習を必ずしてほしい。 2) 宿題やレポートの提出期限を厳守すること。 3) 正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を 必ず担当教官に書面をもって報告すること。 4) 受講中には、 <u>私語、居眠り、携帯電話・メール・スマホ等の操作は絶対にしないこと。</u>		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 保育における子どもの保健の概説、グループ編成	事前学習	「子どもの保健」の学習用ノートを準備しておこ う。
		事後学習	「子どもの保健」のねらいについて、学習用ノ ートにまとめる
第 2 回	子どもの健康と保健の意義 (健康の概念、健康指標、「健やか親子 2 1」)	事前学習	第 1 章 (pp.9~16) を熟読し、要点を学習用ノ ートにまとめる。
		事後学習	「健やか親子 2 1」について理解し、整理してお

			く。
第 3 回	子どもの発育と発達 ①子どもの身体発育 (受精と胎内発育、小児期各期の身体発育)	事前学習	第 2 章(pp.17～28)を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	成長と発育の違いを理解して、発育の評価をノートにまとめる。
第 4 回	子どもの発育と発達 ②精神運動機能の発達 (感覚機能、神経機能、精神機能)	事前学習	第 3 章 (pp.43～56) を読んで要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	感覚機能、神経機能、精神機能の発達の内容をまとめる。
第 5～6 回	子どもの発育と発達 ③生理機能の発達 (呼吸機能、循環機能、免疫機能、消化機能、尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能)	事前学習	第 3 章 (pp.29～42) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	各種臓器の生理機能を理解し、大切な事項をノートにまとめる。
第 7～8 回	子どもの精神保健 ①心の健康とその課題 ②虐待、発達障害	事前学習	第 5 章. (pp.85～102) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	心身症、虐待、発達障害について理解を深め、要点をまとめる。
第 9 回	環境と衛生管理・安全管理 ①保育現場における衛生管理 (自然環境の衛生管理、施設の衛生管理)	事前学習	第 6 章 (pp.103～118) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	自然環境の衛生管理、施設の衛生管理、滅菌・消毒法について、要点をまとめる。
第 10 回	子どもの生活と保健 ②保育現場の事故防止と安全対策	事前学習	第 6 章 (pp.119～133) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	発達段階からみた事故の特徴、乳幼児突然死症候群、安全管理について要点をまとめる。
第 11 回	子どもの食 ①子どもの栄養生理	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	三大栄養素の消化・吸収がどこの消化管内で行われているかを理解し、要点をまとめる。
第 12 回	子どもの食 ②母乳哺育の意義	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	母乳哺育の長所と短所、完全母乳栄養、「母乳育児を成功させるための十か条」についてまとめておく。
第 13～14 回	子どもの疾病と保育 ①おもな症状の見かたと対応	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	主な症状(発熱、咳、嘔吐、下痢、意識障害、けいれん、発疹など)と病気との関係をまとめておく。
第 15 回	子どもの疾病と保育 ②先天異常 (先天代謝異常、染色体異常、外表奇形)	事前学習	第 4 章 (pp.65～68) をよく読んで要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	先天異常の分類、先天異常の三大発生要因についてまとめておく。
第 16 回	子どもの疾病と保育 ②代表的な疾病 (その 1) ウイルス性、細菌性、その他の感染症	事前学習	第 4 章 (pp.57～65) を熟読して要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	感染症の種類、学校(保育所)で流行する感染症の出席停止期間について要点を整理しておく。
第 17 回	子どもの疾病と保育 ③代表的な疾病 (その 2) アレルギー疾患、神経系疾患、心身症など	事前学習	第 4 章 (pp.68～71) を熟読して、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	食物アレルギー、気管支喘息、神経系疾患、心身症などについてまとめておく。
第 18 回	子どもの疾病と保育 ④代表的な疾病 (その 3) 呼吸器、循環器、消化器、生殖・泌尿器、血液系、内分泌・代謝、皮膚、眼、耳、整形外科の疾病	事前学習	第 4 章 (pp.71～84) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	各臓器の病気について理解を深め、要点をまとめておく。
第 19～20 回	子どもの疾病と保育 ⑤子どもの疾病の予防と対応(予防接種)	事前学習	第 4 章 p.59 を読んで、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	定期予防接種と任意予防接種の違い、予防接種の種類について理解を深め、内容をまとめておく。
第 21 回	救急・応急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止、ショック、けいれん ②頭部打撲、やけど、異物誤嚥、異物誤飲	事前学習	配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	「心肺蘇生における ABC」や事故に対する応急処置をまとめて整理しておく。
第 22 回	健康及び安全の実施体制 ① 家庭・専門機関・地域との連携 (家庭との連携、生活リズム、食事、睡眠など)	事前学習	第 7 章 (pp.135～144) 及び配布したプリントを熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	家庭との連携と同時に、生活リズム、メラトニン、

			食事、睡眠の要点をまとめておく。
第 23 回	健康及び安全の実施体制 ② 主な母子保健対策と保育 (健康診査、保健指導、擁護援護、医療対策)	事前学習	第 7 章 (pp.136~141) を熟読し、要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	健康診査、保健指導、「健やか親子 21」などについて整理しておく。
第 24 回	母と子の保健 (母子保健施策、母子保健等に関連する法規)	事前学習	第 1 章 (P.12)、第 7 章 (pp.146~147) をよんで要点を学習用ノートに記入する。
		事後学習	母子保健の歴史、母子保健施策の概要をながめて、その内容をまとめておく。
第 25 回	[グループごとの課題発表、討論] 子どもにみられる発疹性疾患 ①斑丘疹性発疹(その 1)	事前学習	自分たちの発表について予行演習をしておく。また、質問に答えられるようにしておくこと。
		事後学習	答えられなかった事項について調べておく。
第 26 回	[グループごとの課題発表、討論] 子どもにみられる発疹性疾患 ②斑丘疹性発疹 (その 2)	事前学習	自分たちの発表について予行演習をしておく。また、質問に答えられるようにしておくこと。
		事後学習	答えられなかった事項について調べておく。
第 27 回	[グループごとの課題発表、討論] 子どもにみられる発疹性疾患 ③水疱性発疹	事前学習	自分たちの発表について予行演習をしておく。また、質問に答えられるようにしておくこと。
		事後学習	答えられなかった事項について調べておく。
第 28 回	[グループごとの課題発表、討論] 子どもにみられる発疹性疾患 ④しょう紅熱様発疹 ⑤じんま疹様発疹	事前学習	自分たちの発表について予行演習をしておく。また、質問に答えられるようにしておくこと。
		事後学習	答えられなかった事項について調べておく。
第 29 回	「子どもの保健」のまとめ	事前学習	教科書、プリントなどをはじめから見直し、整理しておこう。
		事後学習	大切なところをもう一度チェックし、ノートに記入しておこう。
第 30 回	子どもに見られる疾患 (スライド供覧)	事前学習	発疹を伴う病気、感染症、先天異常について、もう一度調べておく。
		事後学習	新生児マス・スクリーニングで見つかる病気、発疹性疾患を整理しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術Ⅱ (手話) (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2113
2. 授業担当教員	真下 京子		
4. 授業形態	講義、手話技術演習、聴覚障害者との対話・交流	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>手話は、聴覚障害者の生活の中で創り出され守られ、発展してきた言葉である。手話の歴史は聴覚障害者の人権復権の歴史とも言える。</p> <p>この講義では、聴覚障害についての基本的な理解をしながら、人間の生活にとって「ことばやコミュニケーション」の果たす役割を考え、話し言葉としての手話の成立や発展過程、文法的な特徴、聴覚障害者を取り巻く社会的な環境を学ぶ。また、手話技術においては、話し言葉としての手話を基本に、日常会話の基礎、自分のことを伝え合う技術を習得する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害者の運動や聴覚障害者の暮らし、聴覚障害そのものについて学び、知識を身につける。 2. 人間の生活にとって「ことばやコミュニケーション」がいかに大切かを学び、説明することができる。 3. 介護施設を利用する聴覚障害者が使う簡単な手話が理解でき、手話での挨拶や自己紹介程度の会話が可能レベルの手話技術を習得することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：バリアフリーを考える 「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」のビデオ鑑賞をし、同じ学生の立場から感じ取ったことを記述する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】※プリントを配布 【参考書】一番ヶ瀬康子監修『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』一橋出版株式会社。 ビデオ：聞こえないことってどんなこと『わたしの大切な家族』(全国手話通訳問題研究会)。 ビデオ：医療現場における手話通訳『京都ろうあ老人ホーム』(日本手話通訳士協会)。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>実技確認 (期末試験) 60% (①手話表現確認 ②読み取り確認) レポート 30% 日常の授業態度 (質問、出席状況) 10%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>聴覚障害者が安心して介護を受けるために、手話通訳者が果たす役割は大きいものがありますが、もしも介護現場の人が少しでも手を動かしてくれれば、より安心し深い信頼関係を築くことができます。</p> <p>人は一人で生きるのではなく、多くの人と助け合いながら生きていくものです。そのためにはコミュニケーションが必要不可欠なものであり、聴覚障害者へのコミュニケーション保障は憲法にある基本的人権を保障することにつながります。したがって手話を学ぶ学生にも聴覚障害者のことを理解してほしいという願いがあるのです。こうした理由によって手話は技術以外のことも学ぶ必要があります。この点が手話の特徴のひとつであり、魅力でもあるのです。</p> <p>表情や体全部を使って相手と語り合う手話は、コミュニケーションの大切さを改めて実感できます。それは人と人との関わりの原点と言えるでしょう。そういった魅力を学生たちにも感じて欲しいと思います。</p> <p>①授業に際しての約束事項 (受講生への要望)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話は目と目を合わせなければ語り合えません。しっかり相手と向き合って手を動かしましょう。 2. 手話は頭だけで理解し覚えることはできません。手と体を使って手話表現を覚えましょう。 3. 授業中に私語や居眠りはしないようにしましょう。後でやろうと思ってもわからなくなってしまいます。 <p>②勉強の仕方についてのアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指文字・数詞は早く全部覚えるようにしましょう。試験には必要不可欠です。 2. 学習した内容は、一人で復習するよりも友達と一緒にやる方が覚えられます。 習った手話表現を実際に使ってみることが一番の手話技術習得につながると思います。 <p>③教師が実行すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の準備を事前にする。 2. 授業開始時間と終了時間を厳守する。 3. 「手話の授業は楽しい。もっと勉強したい。」と思えるような授業にする。 		
13. オフィスアワー	授業の前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	手話を学ぶにあたって 指文字学習 自分の名前・指文字を覚えよう	事前学習	もしも自分が、突然耳が聞こえなくなったら・・・と考えてみる
		事後学習	習った手話指文字を日常生活の中で使ってみよう
第 2 回	指文字学習 伝え合う工夫を：挨拶・会話例文 (一日の始まりはまず元気なあいさつで) 第 1 講座	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	習った手話・指文字を日常生活の中で使ってみよう
第 3 回	指文字学習 聴覚障害者とバリアフリー「聞こえないって、どんなこと？」聴覚障害者の暮らしを描いたビデオから学ぶ 自分達の暮らしと比べながら生活や様子を知り、不便さを取り除くバリアフリーの設備や方法を考える	事前学習	テレビで聴覚障害者の番組を見る
		事後学習	自分の一日の暮らしを、聞こえなかったらどうなるか、自分の事に置き換えて、考えてみよう
第 4 回	指文字学習	事前学習	これまで習った指文字の復習

	手話歌「この手で歌おう指文字の歌」	事後学習	目に入ってきた日本語の単語を指文字でやってみよう
第 5 回	伝え合う工夫を：日常的な動作、動きの活用・会話例文（食事の時間です）第 2 講座 手話歌から学ぶ：コブクロ「永遠とともに」	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第 6 回	ろう講師をお招きして（ミニ講演と交流） （生い立ち・ろう教育・職場・結婚・子育て等々の体験談）	事前学習	ろう者の方に聞きたい質問を考えておく
		事後学習	聴覚障害者にとっての「社会参加」を考えてみよう
第 7 回	伝え合う工夫を：数詞・会話例文 （今日はお誕生会があります）第 3 講座 伝え合う工夫を：疑問詞・自己紹介（今日は実習生の鈴木さんがきました）第 4 講座 都道府県名の手話	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話を友人や家族とのとの会話の中で使ってみよう
第 8 回	バリアフリーを考える 「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」 ビデオから学ぶ（ディスカッションとレポート提出課題）	事前学習	もし、同級生にろう・難聴学生がいたら、自分はどう対応するか考えてみる
		事後学習	ビデオを見て改めて、ろう・難聴学生にとっての情報バリアフリーについて考えてみよう
第 9 回	伝え合う工夫を：疑問詞・身近な話題で会話（仕事や趣味について）第 5 講座 聴覚障害について DVD から学ぶ（聞こえのしくみ・ろう者・中途失聴・難聴者のコミュニケーション）	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話を友人や家族との会話の中で使ってみよう
第 10 回	伝え合う工夫を：時制・会話例文（明日は山本さんが楽しみにしている外出日です）第 6 講座	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話を友人や家族とのとの会話の中で使ってみよう
第 11 回	伝え合う工夫を：時制・会話例文（土井さんがクリスマスの計画を相談しています）第 7 講座 手話歌から学ぶ：クリスマスソング	事前学習	新たに学習する箇所をテキストで確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話を友人や家族とのとの会話の中で使ってみよう
第 12 回	ろう講師をお招きして（対話・交流） 趣味・家族の事・最近の出来事等々を学生と手話で語り合う	事前学習	ろう講師と 1 対 1 会話できるように復習しておく
		事後学習	聴覚障害者とコミュニケーションについて考えてみよう
第 13 回	ろう者の社会参加と平等のあゆみ ろうあ老人についてビデオから学ぶ（聴覚障害者特別養護老人ホーム「いこいの村」〔京都〕）	事前学習	自分の働く施設の入所者にろうあ老人がいたらどうするか考える
		事後学習	ビデオを見て、改めて自分の職場を想定して考えてみる
第 14 回	未就学ろうあ老人についてビデオから学ぶ 伝え合う工夫を：総復習	事前学習	テキストの「言葉を持たないお年寄りと共に」を読んでおく
		事後学習	ビデオを見た感想を書きとめておこう
第 15 回	伝え合う工夫を：総復習 手話歌から学ぶ：EXILE「道」	事前学習	前回の復習
		事後学習	手話の習得と活用

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術Ⅱ (点字) (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2113
2. 授業担当教員	木村 仁美			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	視覚障害者が使用する代表的文字である「点字」の基礎を学ぶ。読み書きの手段としてだけでなく、印つけなどの応用的活用も目指す。また、視覚障害者が抱える諸問題にも触れ、視覚障害者の情報保障に幅広く対応できる力をつける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 点字の基本的な文字構成を理解し、一覧表を使いこなすことができるようになる。 2. 一覧表を参考にしながら、点字の基本的な読み書きができるようになる。 3. 点字表記法に従い、基本的な分かち書きができるようになる。 4. 点字以外の視覚障害者の文字処理手段を体験し、人に説明できるようになる。 5. 視覚障害者の抱える諸問題についても類推し、自分の言葉で説明できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業進度に合わせ、点字の読み書き課題を毎回課す。 点字は「習うより慣れる」と言われ、授業前後に自主的に読み書きを練習することが上達のカギを握る。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 授業内でプリントを配布する</p> <p>【参考書】 社会福祉法人 日本点字図書館 点字製作課編『点訳のしおり』、2015 年。 米谷忠男著『初級練習帳 THE 点字習得テキスト』ジアース教育新社、2006 年。 など、点字学習の入門書は数多く出版されている。自分で使いやすいものを選ぶと良い。</p> <p>【教材】 点字器・点筆 ※初回から使用するので、開講前に各自準備しておくこと。 期末試験でも使用するため、1 人 1 セットの用意が必要である。(クラス内での貸し借りは不可) 学校からの貸し出しの用意はない。 購入する場合は、安価で求めやすい以下の用具を推奨する。 プラスチック製 6 行 30 マス(点筆 No.1 付属)：日本盲人会連合販売 http://www.normanet.ne.jp/~nichimo/yogu/product/category/c14/c14-2_pla630912.html 他の型番でも構わないが 1 行 30 マス程度のものを選ぶこと。また、すでに持っている場合は型番の異なる物でも構わない。</p>			
11. 成績評価の方法	試験 40% 授業態度 (課題提出状況、課題への取り組み姿勢) 30% 課題達成度 30%			
12. 受講生への メッセージ	視覚障害者の立場をイメージできるようになると、自然と点字のスキルも向上します。 また是非この機会に、点字の触読にもチャレンジしてみてください。			
13. オフィスアワー	授業前後の時間にて対応。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス・視覚障害者の文字処理	事前学習	点字学習の目標を立てておく	
		事後学習	点字と墨字の違いを整理する	
第 2 回	点字の基礎知識	事前学習	点字の歴史や構成を知る	
		事後学習	紙のセットと「め書き」が 1 人でできるように練習	
第 3 回	点字の読み書き 1 (50 音清音)	事前学習	あ行の点構成を覚える	
		事後学習	清音を使った単語をなるべくたくさん書いてみる	
第 4 回	点字の読み書き 2 (濁音・半濁音・拗音)	事前学習	濁音符・半濁音符・拗音符を覚える	
		事後学習	学習した文字を用いた単語書き練習	
第 5 回	点字の読み書き 3 (長音・促音・数字)	事前学習	数字 10 文字の点構成を覚える	
		事後学習	単語を数多く書き、点字表記に慣れる	
第 6 回	点字の読み書き 4 (点字表記法の基礎)	事前学習	文節とは何か、判断方法を調べてみる	
		事後学習	身近にある文章を文節で区切ってみる	
第 7 回	点字の読み書き 5 (短文の読み書き)	事前学習	文節で区切った文を点字で書いてみる	
		事後学習	点字学習の感想を点字で書いてみる	
第 8 回	まとめ	事前学習	学習した内容を振り返り、疑問点を洗い出す	
		事後学習	点字の長所と短所をまとめる	
期末試験を実施する				

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP1106
2. 授業担当教員	荻野 基行			
4. 授業形態	講義 演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「介護実習 I」の配属要件となる科目である。			
7. 講義概要	<p>介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。</p> <p>人間は、誰もが他者との関係性の中で生きており、お互いに影響し合っている。介護福祉士と利用者の関係も同様であり、介護実践は、利用者との信頼関係がなければ成立しない。</p> <p>本講義では、関係的存在としての人間を理解し、人間関係を構築するために必要な知識や技術を講義と演習で学んでいく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実践におけるコミュニケーションの重要性を理解し、説明することができる。 2. 関係的存在としての人間を理解することができる。 3. 人間関係を形成する過程を理解し、説明することができる。 4. コミュニケーションの意義・目的、種類、機能を理解し、説明することができる。 5. コミュニケーションの基本的な技法を身につけられる。 6. チームケアや他職種との連携・協働に必要なコミュニケーションを理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関係づくりのための人間の理解について 2. 人間関係の形成について 3. コミュニケーションの基礎について 4. コミュニケーションの技法と実際について 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>介護福祉士養成講座編集委員会『人間の理解』中央法規出版。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 20%</p> <p>レポート 80%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業中の私語や居眠り、携帯電話の使用は禁止します。授業には積極的に参加し、理解を深めてください。わからないことはそのままにせず、質問をしてください。</p>			
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	個々人の認知理解	事前学習	テキスト pp.86～90 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 86～90 の重要語句をおぼえ、「個々人の認知理解」についてまとめる。	
第 2 回	人生というドラマの主人公	事前学習	テキスト pp.90～95 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 90～95 の重要語句をおぼえ、「人生というドラマの主人公」についてまとめる。	
第 3 回	ストレスを考える	事前学習	テキスト pp.95～98 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 95～98 の重要語句をおぼえ、「ストレスを考える」についてまとめる。	
第 4 回	利用者のとらえ方 (課題 1)	事前学習	テキスト pp.98～102 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 98～102 の重要語句をおぼえ、「利用者のとらえ方」についてまとめる。第 1 回～第 4 回をまとめ「関係づくりのための人間の理解」というテーマでレポートを提出する。	
第 5 回	人間関係のさまざまな広がり	事前学習	テキスト pp.104～106 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 104～106 の重要語句をおぼえ、「人間関係のさまざまな広がり」についてまとめる。	
第 6 回	発達と人間理解	事前学習	テキスト pp.106～111 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 106～111 の重要語句をおぼえ、「発達と人間理解」についてまとめる。	
第 7 回	エコロジカルな視点からみた人間関係	事前学習	テキスト pp.111～112 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 111～112 の重要語句をおぼえ、「エコロジカルな視点からみた人間関係」についてまとめる。	
第 8 回	集団力学からみた人間関係	事前学習	テキスト pp.112～113 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp. 112～113 の重要語句をおぼえ、「集団力学からみた人間関係」についてまとめる。	
第 9 回	介護職支援と対人関係 (課題 2)	事前学習	テキスト pp.113～116 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	テキスト pp.113～116 の重要語句をおぼえ、「介護職支援と対人関係」についてまとめる。第 5 回～第 9 回をまとめ「人間関係の形成」とい	

			うテーマでレポートを提出する。
第 10 回	コミュニケーションとは	事前学習	テキスト pp.122～126 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.122～126 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーションとは」についてまとめる。
第 11 回	コミュニケーションの目的と方	事前学習	テキスト pp.126～135 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.126～135 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーションの目的と方法」についてまとめる。
第 12 回	コミュニケーションを促す環境 (課題 3)	事前学習	テキスト pp.135～143 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 135～143 重要語句をおぼえ、「コミュニケーションを促す環境」についてまとめる。第 10 回～第 12 回をまとめ「コミュニケーションの基礎」というテーマでレポートを提出する。
第 13 回	コミュニケーション技法を知る	事前学習	テキスト pp.145～146 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 145～146 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーション技法を知る」についてまとめる。
第 14 回	各種コミュニケーション技法と	事前学習	テキスト pp.146～182 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 146～182 の重要語句をおぼえ、「各種コミュニケーション技法と実際」についてまとめる。
第 15 回	コミュニケーション技法を活かす まとめ (課題 4)	事前学習	テキスト pp.182～191 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 182～191 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーション技法を活かす」についてまとめる。第 13 回～第 15 回をまとめ「コミュニケーションの技法と実際」というテーマでレポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	コンピュータサイエンス I (2 単位)	3. 科目番号	EDIT1311
2. 授業担当教員	小川 英光・森 正人		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	この講義は「コンピュータサイエンス II」へつながっていく。		
7. 講義概要	<p>素晴らしい機能を発揮しているコンピュータは、実は、基本的には単純な処理しか行っていない。しかし、その単純な処理を巧妙に組み合わせることによって、素晴らしい機能を発揮しているのである。</p> <p>本講義では、コンピュータの基本的な働きを理解し効果的に活用していくために、また、将来、高等学校の教科「情報」の講義が担当できるように、教員採用試験に出題された問題や日常生活に現れる具体的な問題を例に取りながら、次の考え方・方法論を学ぶ。すなわち、コンピュータ内部におけるデータの表し方、論理演算とブール代数、論理回路、論理関数や論理回路の単純化の方法について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習し、教科「情報」の授業を教えることができるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ内部におけるデータの表し方、特に、2進表現、8進表現、負の数や実数の表し方と、相互変換法について学ぶ。 2. コンピュータの中では、あらゆる処理が1と0の組み合わせ、すなわち、論理演算で行われている。同じ論理演算でも、様々な表し方があるので、より簡単な論理関数を求める方法について学ぶ。 3. 論理演算は、論理回路によって具体的に実現される。加算回路や誤り検出回路・誤り訂正回路のような論理回路の構成法について学ぶ。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回の講義は独立ではなく、すべて、その後続く講義内容を理解するために必要になってくる。そこで、毎回の講義や、夏休みまでに習った講義内容を整理し、習熟度を確認できるように、次の課題を課す。 ・毎回、講義の後半で行う演習が時間内に出来ない場合は、宿題として次回の講義までに提出してもらう。 ・夏休み前に、それまでの講義内容に関する問題集(数十問)を渡し、夏休み明けに解説する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】青木征男『情報の表現とコンピュータの仕組み』ムイスリ出版。</p> <p>【参考書】小林一夫『基礎シリーズ 最新ハードウェア技術入門』実教出版。</p>		
11. 成績評価の方法	試験：50% レポート：30% 出席点(遅刻は減点)：20%		
12. 受講生へのメッセージ	この講義を通じて、一見異なる問題が、理論的には全く同じ原理で動いていることを発見してもらいます。このような経験を通じて、学問の深さ、偉大さを味わってください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義の概要、身の回りの 2 進表現	事前学習	コンピュータと人間の情報処理の違い・特徴について考えておくこと。
		事後学習	コンピュータがすべての情報を 2 進数で表現する理由を整理する。
第 2 回	2 進表現、8 進表現、16 進表現	事前学習	教科書の 2~3 章をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 1.1 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 3 回	負の数の表現法 (補数表現)、引き算	事前学習	配付資料 1.2 節、1.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 1.2 節、1.3 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 4 回	シフト演算と乗除算	事前学習	配付資料 1.4 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 1.4 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 5 回	小数の表現法	事前学習	配付資料 1.5 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 1.5 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 6 回	実数の表現法 (浮動小数点法 1)	事前学習	配付資料 1.6 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	正の実数と負の実数の表現形式の関係など、浮動小数点法の性質を整理すること。
第 7 回	実数の表現法 (浮動小数点法 2)	事前学習	配付資料 1.6 節を再度読みなおしておくこと。
		事後学習	配付資料 1.6 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 8 回	基本論理演算とその性質	事前学習	配付資料 2.1 節、2.2 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.1 節、2.2 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 9 回	AND、OR、NOT の一般性 (多数決論理) と NAND、NOR、XOR	事前学習	配付資料 2.3 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.3 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 10 回	論理式の単純化 (ブール代数による単純化)	事前学習	配付資料 2.4 節、2.5 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.5 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 11 回	論理式の単純化 (カルノー図による単純化)	事前学習	配付資料 2.6 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.6 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 12 回	不完全定義論理関数	事前学習	配付資料 2.7 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 2.7 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 13 回	論理回路、加算器	事前学習	配付資料 3.1 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 3.1 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 14 回	一致回路、閾値回路	事前学習	配付資料 3.3 節、3.4 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 3.3 節、3.4 節の問題を完全に解けるようにすること。
第 15 回	誤り検出回路、誤り訂正回路	事前学習	配付資料 3.5 節をよく読んでおくこと。
		事後学習	配付資料 3.5 節の問題を完全に解けるようにすること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワーク I (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2321
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンス I」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	インターネットをはじめとしたコンピュータネットワークの仕組みを理解することは、情報化社会をリードする人材にとって必要不可欠の事柄である。本科目では、演習を通してコンピュータネットワークの基礎を学び、現在の情報通信を担っている仕組みを理解する。具体的には OSI モデル、特に物理層とデータリンク層を学ぶ。		
8. 学習目標	次の概念を理解することを目標とする。 1. 情報ネットワークプロトコルの仕組み (特に物理層とデータリンク層) 2. データ通信を可能にした基本的なハードウェア装置の仕組み、およびデータ転送の仕組み 3. データ通信に関する国際規格 (OSI、IEEE802.x、ITU-T系プロトコルなど)		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、2回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解きます (例: 物理層のプロトコル: RS232・ITU-TのVシリーズ、物理層の符号化: NRZI・AMI・HDB3、第2層のプロトコル: HDLC・IEEE802シリーズ)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 針生時夫・佐藤健『わかりやすい通信ネットワーク』日本理工出版会、2005年。 【参考書】 A.S. タネンバウム (著)『コンピュータネットワーク第4版』日経BP社。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は専門用語が多く、また数学的概念が多い科目であるが、ゆっくり説明していくので、出された演習問題を一つ一つ丁寧に解いてください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	符号化と規格・アナログとデジタル (1)	事前学習	教科書 pp.1~3 を読む
		事後学習	教科書 p.14 の内容を覚える
第 2 回	アナログとデジタル (2)・デジタル化の仕組み → 電話、ファックス等の仕組み	事前学習	教科書 pp.1~13 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 3 回	データ通信を可能にしたハードウェア	事前学習	教科書 pp.30~33 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 4 回	データ通信における基本的な課題・プロトコルの話 RS232 の例 (演習)	事前学習	インターネットで、RS232 に該当する日本の JIS 規格を検索する
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 5 回	OSI、その原則と考え方・OSI の 7 層	事前学習	教科書 pp.61~62 を読む
		事後学習	教科書 p.64 の図を理解し覚える
第 6 回	OSI の 7 層	事前学習	OSI の歴史を調べる
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 7 回	各層の役割・物理層	事前学習	教科書 p.65 の表を理解し覚える
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 8 回	各層の役割・データリンク層 (1)	事前学習	教科書 pp.34~35 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 9 回	各層の役割・データリンク層 (2) (演習)	事前学習	教科書 pp.61~62 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 10 回	各層の役割・ネットワーク層 電気通信サービス	事前学習	教科書 pp.52~54 を読む
		事後学習	教科書 p.75 の表を理解し覚える
第 11 回	LAN の仕組み (1)・Ethernet と IEEE 802.3 (演習)	事前学習	教科書 pp.88~90 を読む
		事後学習	教科書 p.91 の図を理解し覚える
第 12 回	LAN の仕組み (2)・IEEE 802.3 の発展・IEEE 802.2	事前学習	教科書 pp.92~93 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 13 回	LAN の仕組み (3)・IEEE 802.4、その他の LAN・無線 LAN の仕組み、IEEE 802.11x	事前学習	教科書 p.101 を読む
		事後学習	次回までに演習問題を再度解く
第 14 回	復習・まとめ	事前学習	今までの演習問題を復習する
		事後学習	今回の演習問題の答え合わせをよく復習する
第 15 回	総合演習	事前学習	前回の演習問題の答え合わせをよく復習する
		事後学習	配布資料「携帯電話の仕組み」を熟読し、説明できるようにする

1. 科目名 (単位数)	算数 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2302
2. 授業担当教員	池野 正晴		
4. 授業形態	講義と演習, 実習 (ディスカッション・グループ学習, 製作活動)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「算数科指導法」(後期)に直結する科目である。		
7. 講義概要	この科目を履修することによって, 学ぶ立場での算数への苦手意識を払拭するだけでなく, 更に, 算数を教える立場での算数科特有の論理的思考力を習得することができる。 本科目では, 算数科の 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を一段深め, 再学習する。日常の様々な事象に問題を発見し, 整理して見通しを立てて解決する能力を高め, 算数的な感覚を豊かにし, 算数を生活に生かそうとする態度を育成する教員となるための素養を身につける。本講義での算数的活動や様々な体験を通し, より高い数学的見地に立った教材分析や指導・評価方法等の日頃の教育実践に生かせる教材研究力を習得することができる。		
8. 学習目標	1. 「算数的活動」を通して 4 領域「数と計算」・「量と測定」・「図形」・「数量関係」の内容を再学習し, 数学教育の意義を感じ, 算数的な事象について進んで考えようとするようになる。 2. 算数の領域の関連に基づいて, より高度な数学的思考ができるようになる。 3. 算数・数学に関する問題解決の技能を復習し, 習得することができるようになる。 4. 数学教育史を基に数学教育の今日的課題を知り, 教育内容の学年・領域の関連はもとより, 算数・数学の教材研究・教材開発に耐える広範な知識やと数学に関する学力を習得することができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【中間レポートの課題】(各班でまとめる) ○ レポート・プレゼン担当箇所のまとめを作成し, パワーポイント等でプレゼンをする。 ※ 4~5 人 1 組のグループを編成し, 協力してレポート箇所についてまとめ, プレゼンする。 ※ 発表資料については, 各班で印刷することが望ましいが, 印刷事情により困難な場合には, 講義担当者への印刷依頼も可能。その場合は, 事前提出 (事前送付) のこと。(メールアドレスは, 下記13を参照) (印刷, ホチキスとめ, 穴あけ等可能)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ① 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社, 2008 年。(「算数科指導法」でも継続使用する) ② 池野正晴『自ら考えみんなで創り上げる算数学習ー新しい時代の授業づくりと授業研究ー』東洋館出版社, 2013 年 (改訂第 2 版) (「算数科指導法」でも継続使用する) ③ 『算数』(印刷冊子, 授業用プリント資料) (全員に配付) ④ パワーポイント・スライド資料 【参考書】 ○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』東洋館出版社, 2015 年 (第 4 版)。 ○ 古藤・池野他『豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習ーDo Math の指導ー』東洋館出版社, 2010 年。 ○ 坪田耕三『算数的思考法』岩波書店 (岩波新書), 2014 年。		
11. 成績評価の方法	1 日常の授業態度 (貢献度, 積極性, 発表, コメント等) 2 発表用資料のまとめ 3 プレゼンの内容 4 期末試験	総合点の 20 % 総合点の 15 % 総合点の 15 % 総合点の 50 %	
12. 受講生へのメッセージ	*受講生に期待すること 1 履修者名簿が確定した段階で, 座席指定をする。 2 4~5 人で班を編成し, 担当箇所について協力して研究を深め, 発表用資料を作成し, プレゼンする。 3 授業は, 前向きに積極的に受講すること。(教師になるという当事者意識をもって参加・参画し, 各班の発表に対して積極的に質問やコメントを行うこと。) 4 社会人及び学生としてのマナーは守ること。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	プロローグ (「小学校算数〇×チェック」を解きながら, 本授業の概要を把握する, 小学校教育と算数科が担う役割, 算数科の学習指導要領, 解説書の見方など) 座席指定, 班編成, 分担箇所の決定	事前学習	テキスト①pp.1-17 を読み, 自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業で実施した「〇×チェック」の内容をまとめておく。
第 2 回	学習指導要領改訂の要点と算数科の目標 (目標の構造, 観点別学習状況評価とのつながり) 及び算数的活動	事前学習	テキスト①pp.18-27 を読み, まとめておく。
		事後学習	算数科の目標を記憶する。自分なりに理想と考える授業イメージについてまとめておく。
第 3 回	算数科における内容構成と 4 領域 「数と計算」領域と「量と測定」領域 ※計算の意味, 計算原理, 計算のさまり, 習熟 ※「量と測定」の 4 段階指導	事前学習	テキスト①pp.28-40) を読み, 自分なりにまとめておく。 担当班は, まとめの資料を作成し, プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り, 理解を深める。
第 4 回	「図形」領域と「数量関係」領域	事前学習	テキスト①pp.40-53 を読み, 自分

	※帰納的な考え、演繹的な考え ※正三角形をつくる		なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 5 回	第 1 学年の目標と指導内容 (数の意味と数の表し方、加法・減法、量と測定についての理解の基礎、時刻の読み方、図形についての理解の基礎、加法・減法の式、絵や図を用いた数量の表現) ※減加法と減々法、15 番目の数 (加法、減法)	事前学習	テキスト①pp.54-68 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 6 回	第 2 学年の目標と指導内容 (数の意味や表し方、加法・減法、乗法、長さの単位と測定、体積の単位と測定、時間の単位、三角形や四角形などの図形、加法と減法の相互関係、乗法の式、簡単な表やグラフ) ※十進位取り記数法、数の相対的な大きさ、同数累加と倍概念、かけ算の意味指導、九九表の不思議・秘密	事前学習	テキスト①pp.69-87 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 7 回	第 3 学年の目標と指導内容 (数の表し方、加法・減法、乗法、除法、小数の意味や表し方、分数の意味や表し方、そろばん、長さ・重さの単位と測定、目的に応じての単位や計器の選択、時刻と時間、二等辺三角形・正三角形などの図形、除法の式、数量の関係を表す式、表と棒グラフ)	事前学習	テキスト①pp.88-113 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 8 回	第 4 学年の目標と指導内容 (整数の表し方、概数と四捨五入、整数の除法、整数の計算の能力の定着、小数の仕組みとその計算、同分母の分数の加法・減法、そろばん、面積の単位と測定、角の大きさ、平行四辺形・ひし形・台形、立方体・直方体などの立体図形、ものの位置の表し方、伴って変わる二つの数量、数量の関係を表す式、四則に関して成り立つ性質、資料の分類整理、折れ線グラフ)	事前学習	テキスト①pp.114-140 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 9 回	第 5 学年の目標と指導内容 (整数の性質、整数・小数の記数法、小数の乗法・除法、分数、図形の面積、体積の単位と測定、量の大きさの測定値、異種の二つの量の割合、平面図形の性質、立体図形の性質、伴って変わる二つの数量の関係、数量の関係を表す式、百分率、円グラフや帯グラフ)	事前学習	テキスト①pp.141-164 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 10 回	第 6 学年の目標と指導内容 (分数の乗法・除法、小数・分数の計算の能力の定着、概形とおよその面積、円の面積、角柱及び円柱の体積、速さ、メートル法の単位の仕組み、縮図や拡大図、対称な図形、比、比例、文字を用いた式、資料の考察、起こり得る場合)	事前学習	テキスト①pp.165-182 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 11 回	問題解決的な学習と問いへの気づかせ方	事前学習	テキスト②pp.13-31 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 12 回	見通しづけ、自力解決及び発表・検討段階の組み方	事前学習	テキスト②pp.32-49 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 13 回	考えの多様性とその生かし方・まとめ方	事前学習	テキスト②pp.50-68 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 14 回	練り合い・練り上げ指導の改善とコミュニケーション活動への支援のあり方	事前学習	テキスト②pp.69-85 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 15 回	まとめ・振り返りの段階における工夫、考える力をつけるノート指導、「自ら学ぶ力」が育つ追究のさせ方 エピソード (指導計画の作成と内容の取り扱い、算数指導のまとめと今後の課題)	事前学習	テキスト②pp.86-105 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、 プレゼンの準備をする。
		事後学習	学習内容を振り返り、整理しておく。合わせて、期末テストに備える。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	システム設計 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3315
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンスⅡ」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	システムを構築あるいは分析するためには、対象とするシステムの分析と業務分析が必要になる。これらの分析を基に、システムを UML など記述することで明確な設計を行える。具体的には、この一連の手続きについて演習を通して学ぶ。また、例題研究によって、各種のシステムがどのようにになっているかの分析や設計記述を行う。			
8. 学習目標	目標は、①情報システムの構築を行うための分析・設計技術の基本知識を習得し、②簡単な情報システムを、主として構造化設計技法に基づき、自ら設計できるスキルを獲得することである。本科目では、顧客によるシステム化要求に基づき、情報システムを構築することを想定する。構築にあたってはウォータフォールモデルをベースにしたシステム開発技法をもとに、DFD(データフロー図)やER (Entity Relationship) など、関連する技法も学ぶ。これにより広く普及している構造化設計技法を習得する。オブジェクト指向技法(具体的にUMLを通して)を本格的に学習する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	IT系の科目は、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解きます(例: ソフトウェアの定義、以前の設計ツール: データフロー図で実際設計を行う、オブジェクト指向モデリング: UMLで実際設計を行う)。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 河村一樹『改訂新版 ソフトウェア工学入門』近代科学社、2003 年。			
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%			
12. 受講生へのメッセージ	演習問題に真剣に取り組むこと。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ソフトウェアとは何か・コンピュータプログラムの基本構造 演習	事前学習	教科書 pp.1~3 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 2 回	ソフトウェアのモデリング (1)	事前学習	教科書 pp.53~54 を読む	
		事後学習	ウォータフォール、成長、らせんモデルの仕組みを覚える	
第 3 回	ソフトウェアの開発技術・構造化分析: データフローモデル 演習	事前学習	教科書 p.101 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を完成させる	
第 4 回	ソフトウェアのモデリング (2)	事前学習	教科書 pp.67 を読む	
		事後学習	データフロー図をよく理解する	
第 5 回	ソフトウェア工学とは何か	事前学習	前回配布したプリントを読む	
		事後学習	教科書 pp.80~83 の内容を覚える	
第 6 回	ソフトウェアの開発技術・構造化分析: データフローモデル 演習	事前学習	教科書 pp.102~104 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を完成させる	
第 7 回	ソフトウェアの開発技術・構造化プログラミング (1)	事前学習	教科書 p.120 と 122 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 8 回	ソフトウェアの開発技術・構造化プログラミング (2)	事前学習	教科書 pp.123~124 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 9 回	オブジェクト指向モデリング (1)・UML 演習	事前学習	教科書 pp.129~131 を読む	
		事後学習	オブジェクト指向の様々な概念をよく理解する	
第 10 回	オブジェクト指向モデリング (2)・UML 演習	事前学習	教科書 pp.143~146 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 11 回	オブジェクト指向モデリング (3)・UML 演習	事前学習	クラス図の概念をよく理解する (教科書 p.150 と前回配布のプリント)	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 12 回	オブジェクト指向モデリング (4)・UML 演習	事前学習	その他の図の概念をよく理解する (教科書 pp.151~156 と前回配布のプリント)	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 13 回	ソフトウェアの品質	事前学習	教科書 pp.157~158 を読む	
		事後学習	教科書 pp.46~47 の図を理解する	
第 14 回	まとめ・総合演習 1	事前学習	DFD 図と UML を復習する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 15 回	総合演習 2	事前学習	UML を復習する	
		事後学習	「システム設計演習」の第 1 回までに UML と Java の関係について学ぶ (必要な資料は授業で配布)	

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3453 SNMP3453
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄			SCMP3453 SBMP3453 SSMP3353
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、肢体不自由教育Ⅰで学習した知識を基礎に、医療・福祉など近接分野の最新の動向に触れながら、より実践的な内容を学習する。具体的には学習指導案の作成・模擬授業を通して、実態評価の基礎、教材・教具の意義理解など、肢体不自由特別支援学校で必要な実践力を、グループ討議や双方向対話形式で培っていく。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由の主な起因疾患について確実に理解し説明できる。 2 身体障害者福祉施策の概要が説明できる。 3 実態把握・アセスメントの基礎知識が身に付く。 4 グループを編成し、学習指導案の作成と模擬授業を通して、主体的に自己の役割を見出し取り組む態度が身に付く。 5 他のグループが行った模擬授業に対し、適切な視点で評価し、討議できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・グループ課題 肢体不自由児の支援を想定した運動指導プログラム(授業指導略案)を考え、模擬授業を行う。 ・レポート課題 模擬授業の感想をまじえ、ムーブメント教育についてのあなたの考えを論述する。2400字程度 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小林芳文編『ムーブメントプログラム 177』学研、2011 年。 【参考書】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説』海文堂出版。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説―自立活動編―』海文堂出版。 配付資料等を用いて授業を進めていく。			
11. 成績評価の方法	成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。 2. 授業態度(教科書ワークシートの準備・私語・発表) 総合点の 80% 2. レポート 総合点の 20%			
12. 受講生への メッセージ	模擬授業等は、児童生徒の視点、教師の視点の両方からしっかりと取り組む必要がある。またグループで協力しながら取り組む模擬授業は、チームティーチングの原点になる。これまで学んできた知識を踏まえ、授業には、真剣に取り組む。			
13. オフィスアワー	別途通知			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：肢体不自由教育Ⅰの振り返り	事前学習	肢体不自由教育Ⅰで学んだ肢体不自由教育の現状と課題を見直しておく。	
		事後学習	各自が捉えた肢体不自由教育の現状と課題を全体につなげ、肢体不自由Ⅱでの学びを見通す。	
第 2 回	肢体不自由児を対象とした特別支援学校での授業づくり	事前学習	肢体不自由教育Ⅰで学んだ自立活動についてノートにまとめる。	
		事後学習	授業のあるべき姿についてレジメを見ながら箇条書きでまとめる。	
第 3 回	肢体不自由児を対象とした地域での支援(余暇活動の実際)	事前学習	余暇活動とは何か、自身の考えをノートにまとめる。	
		事後学習	余暇活動の実態を踏まえ、期待される活動の例を考えてくる。	
第 4 回	運動障害のある子の体育指導の実際	事前学習	小学校の体育のねらいと内容をノートに示してくる。	
第 5 回	感覚を育てる支援の実際①(ユランコ、シートブランコなどの感覚運動遊具の活用法)	事前学習	教科書第 1 節についてノートにまとめる。	
		事後学習	教科書 pp.36～41 のポイントをノートにまとめる。	
第 6 回	感覚を育てる支援の実際②(セラピーボール、スクーターボードなどの感覚運動遊具の活用法)	事前学習	教科書 p.116 のポイントをノートにまとめる。	
		事後学習	遊具を使った遊びを 1 つ作りまとめる。	
第 7 回	知覚を育てる支援の実際①(ロープ、フラフープなどの知覚運動遊具の活用法)	事前学習	教科書 p.116 のポイントをノートにまとめる。	
		事後学習	遊具を使った遊びを 1 つ作りまとめる。	
第 8 回	知覚を育てる支援の実際②(ソフトfrisbee、ビーンズバックなどの知覚運動遊具の活用法)	事前学習	教科書 p.116 及び p.136 のポイントをノートにまとめる。	
		事後学習	遊具を使った遊びを 1 つ作りまとめる。	
第 9 回	社会性を育てる支援の実際(スカーフ、パラシュートなどの精神運動遊具の活用法)	事前学習	教科書 p.164 及び p.170 のポイントをノートにまとめる。	
		事後学習	遊具を使った遊びを 1 つ作りまとめる。	
第 10 回	模擬授業の実施に向けて	事前学習	各自作った遊びを持ち寄る。	
第 11 回	模擬授業と指導案検討会(反省会)①	事前学習	グループでの役割分担にそって準備を進める。	
		事後学習	各グループの指導案を予習し、観察ポイントをまとめる。	
第 12 回	模擬授業と指導案検討会(反省会)②	事前学習	各グループの指導案を予習し、観察ポイントをまとめる。	
		事後学習	発表と反省点をワークシートにまとめる。	
第 13 回	模擬授業と指導案検討会(反省会)③	事前学習	各グループの指導案を予習し、観察ポイントをまとめる。	
		事後学習	発表と反省点をワークシートにまとめる。	
第 14 回	模擬授業と指導案検討会(反省会)④	事前学習	各グループの指導案を予習し、観察ポイントをまとめる。	
		事後学習	発表と反省点をワークシートにまとめる。	
第 15 回	肢体不自由教育まとめ	事前学習	それぞれの振り返りをグループごとにまとめ発表の準備をしてくる。	
		事後学習	実習に向けた資料づくりを行う。	

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2454 SNMP2454 SCMP2454 SBMP2454
2. 授業担当教員	須藤 典征			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	肢体不自由教育の基礎科目であることから、履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>近年、肢体不自由特別支援学校では重複障害や合併症を伴う児童・生徒が増える一方、知的障害を主たる対象とする特別支援学校や視覚障害や聴覚障害を専門とする特別支援学校、病弱特別支援学校においても、肢体不自由を合併する児童生徒が増えている。また、医療的ケアを必要とする重症心身障害児が学校に通ってくるケースも増加するなど、肢体不自由教育の教育課程編成はより一層複雑かつ創意工夫が必要になっている。さらに、インクルーシブ教育の理念の広がりにより、地域の小中学校に肢体不自由のある子どもが入学するケースも増加するなど、その必要性は、様々な場所に広がっている。</p> <p>このような現状をふまえながら、家庭・地域ならびに医療や福祉の関係機関と連携した教育的支援のあり方について、実際の講義を進めていきたい。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由児教育についての概要を理解し、説明できるようになる。 2. 肢体不自由教育の現状と課題について理解し、説明できるようになる。 3. 肢体不自由教育の場、教育課程についての知識を身に付ける。 4. 日常生活における家族や医療機関等との連携の実際がわかる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	特別支援学校で行われる「医療的ケア」についてのレポート (1000～1200字)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】川間健之介・西川公司『肢体不自由児の教育』一般財団法人 放送大学教育振興会、2014。			
11. 成績評価の方法	・講義中の態度 50% 試験 30%、レポート 20%			
12. 受講生へのメッセージ	<p>肢体不自由教育においては特に身体のケアが重視されています。身体のケアを進める「自立活動」のあり方を知ることはこの世界においては必要不可欠であり、数多くの「訓練法」に関する知識や考え方の良し悪しを学ぶことも重要です。また最近では医療的ケア (学校内で行われる簡単な医療的行為) も法的な位置づけが明確になり、数多くの都道府県で実施が進められています。この点においてもこれからの特別支援学校教員には知識や技能が必要とされてくるでしょう。特別支援学校教員を目指すみなさんにわかりやすく幅広い内容で講義を進めていきます。</p>			
13. オフィスアワー	講義開始時間の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション&肢体不自由教育について—肢体不自由教育の現状—		事前学習	教科書「第 1 章 肢体不自由教育の基礎的理解を読み「肢体不自由」の概念等について理解する。
			事後学習	肢体不自由児教育に関して再確認する。
第 2 回	肢体不自由児が学ぶ場について—特別支援学校を中心に—		事前学習	肢体不自由特別支援学校について理解できるようにする
			事後学習	肢体不自由児の教育支援システムを再確認する。
第 3 回	肢体不自由児の療育・福祉・相談事業—療育の場・相談の場・福祉制度など—		事前学習	肢体不自由児の学校外の支援の場を理解し、覚える。
			事後学習	学校外の支援の場に関し再確認し、その種類等を確実に覚える。
第 4 回	肢体不自由児の生理・病理 1—運動発達の仕組み—		事前学習	教科書「3 肢体不自由児の生理・病理 1」を読み、医学的な観点から理解できるようになる。
			事後学習	筋肉・骨の働きとしくみについて理解できる。
第 5 回	肢体不自由児の生理・病理 2—脳性まひ・二分脊椎を中心に—		事前学習	教科書「4 肢体不自由児の生理・病理 2」を読み、脳性まひと二分脊椎について理解できるようになる。
			事後学習	脳性まひと二分脊椎について確実に説明・理解できる。
第 6 回	肢体不自由児の心理 1—発達を中心に—		事前学習	教科書「5 肢体不自由児の心理 1」を読み、認知・思考の発達について理解できるようになる。
			事後学習	肢体不自由児の認知・思考の発達について理解を定着できる。
第 7 回	肢体不自由児の心理 2—障害特性を中心に—		事前学習	教科書「6 肢体不自由児の心理 2」を読み、視覚や行動特性について、理解できるようになる。
			事後学習	知覚や行動特性について、確実に理解できる。
第 8 回	肢体不自由教育の教育課程—教育課程編成の基本—		事前学習	教科書「7 肢体不自由教育の教育課程」を読み、教育課程の概念を把握できるようになる。
			事後学習	肢体不自由教育の教育課程について、確実に理解できる。
第 9 回	肢体不自由教育の実際 1—自立活動の指導 I—		事前学習	教科書「8 肢体不自由教育の実際 1」を読み、自立活動の概要について把握できるようにしておく。
			事後学習	自立活動の概要について、確実に理解できるようになる。
第 10 回	肢体不自由教育の実際 2—自立活動の指導 II—		事前学習	教科書「9 肢体不自由教育の実際 2」を読み、自立活動の指導における「身体の動き」について把握できるようになる。
			事後学習	ポジショニングについて理解できる。

第 1 1 回	肢体不自由教育の実際 3 —重複障害児の理解—	事前学習	教科書「12 肢体不自由教育の実際 5」を読み、重複障害児について理解できるようになる。
		事後学習	医療的ケアについて確実に理解できる。
第 1 2 回	肢体不自由教育の実際 4 —重度・重複障害児の指導—	事前学習	教科書「13 肢体不自由教育の実際 6」を読み、重度・重複障害児の指導の概要について把握できる。
		事後学習	個別の指導計画の作成と指導の評価について理解できる。
第 1 3 回	肢体不自由教育の実際 5 —キャリア教育と進路指導—	事前学習	教科書「14 肢体不自由教育の実際 7」を読み、肢体不自由児の進路指導とは、どういうものか考えておく。
		事後学習	「個別の教育支援計画」について理解できる。
第 1 4 回	肢体不自由教育の新たな取り組み —肢体不自由特別支援学校のホームページから看取る—	事前学習	肢体不自由特別支援学校のホームページをダウンロードして、各校の取り組みを調べておく。現状の課題について自分の意見を言えるようにする。
		事後学習	肢体不自由教育の課題と改善策について授業を振り返りながら確認することができる。
第 1 5 回	肢体不自由児教育の今後の課題 —現状の課題から未来を考える—	事前学習	教科書「15 新たな取組と今後の課題」を読み、肢体不自由教育の課題を考えておく。
		事後学習	肢体不自由教育の課題について、まとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由者の心理・生理・病理 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2451 SNMP2451
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄			SCMP2451 SBMP2451 SSMP2351
4. 授業形態	講義、演習 (グループディスカッション)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>肢体不自由の原因は、脳中枢の損傷に起因するものと他の末梢性の運動器障害群とに分けられるが、脳性まひに代表される脳性疾患と、進行性筋ジストロフィー症に代表される神経・筋疾患や骨・関節疾患、形態異常や外傷性後遺症に関する心理・病理・生理を学ぶ。医療面での規制が長期化することもあり、日常生活でも、家族や医療機関との連携を図り、まず、身体上・健康上の環境要因を整える知識・技術について学ぶ。また、一人ひとりに合わせて支援器具をうまく活用し、住環境や教育環境の改善をはかる点についても理解する。</p> <p>このことにより、肢体に障害のある人の「生活の質の向上」や効果的な支援に結びつける。</p>			
8. 学習目標	<p>①肢体不自由の生じる原因について理解し、説明することができる。 ②肢体不自由児者の病理について学び、説明することができる。 ③肢体不自由児者の心理について学び、説明することができる。 ④肢体不自由児者の生理について学び、説明することができる。 ⑤肢体不自由児者への支援を行ううえでのニーズについて学び、説明することができる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・レポート課題 肢体不自由の障害を一つとりあげ、その障害についての心理・生理・病理の視点から1800字でまとめる。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 篠田達明監修『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』金芳堂、2015年</p> <p>【参考書】 安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』ミネルバア書房、2015年</p>			
11. 成績評価の方法	<p>成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。</p> <p>3. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・確認テスト・私語・発表) 総合点の80% 2. レポート 総合点の20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・医療に関する専門用語が多く、覚えなければならない知識も多いため復習を心がける。 ・積極的で意欲的な授業への参加を期待する。 			
13. オフィスアワー	別途通知			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション：肢体不自由とは	事前学習	教科書第1章1～5を読み、確認をしておく。	
		事後学習	障害とは何か重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第2回	肢体不自由の理解：障害の概念と病理	事前学習	前回のレジュメのポイントを理解しておく。	
		事後学習	障害の概念について重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第3回	肢体不自由者の理解：障害があるということ、障害の受容	事前学習	教科書第1章6を読み、確認をしておく。	
		事後学習	ディスカッションで学んだことをノートにまとめる。	
第4回	脳性マヒについて	事前学習	教科書第2章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	脳性麻痺の定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第5回	二分脊椎について	事前学習	教科書第3章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	二分脊椎の定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第6回	筋ジストロフィーについて	事前学習	教科書第4章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	筋ジストロフィーの定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第7回	ペルテス病	事前学習	教科書第5章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	ペルテス病の定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第8回	骨系統疾患	事前学習	教科書第6章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	骨系統疾患の内容と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第9回	手足の先天奇形	事前学習	教科書第7章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	手足の先天奇形の内容と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第10回	先天性多発性関節拘縮症	事前学習	教科書第8章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	先天性多発性関節拘縮症の定義と原因などについてレジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第11回	ダウン症の整形外科的合併症	事前学習	教科書第9章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	ダウン症の整形外科的合併症の定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第12回	先天性股関節脱臼	事前学習	教科書第10章を読み、確認をしておく。	
		事後学習	先天性股関節脱臼の定義と原因などについて重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第13回	肢体不自由児者の生理・心理：思春期の理解	事前学習	思春期とは何か、自身の経験から振り返り、その意味を考えておく。	
		事後学習	ディスカッションから学んだことをノートにまとめる。	
第14回	肢体不自由児者の生活・家族生活	事前学習	自分自身の子どもの頃の家族生活を振り返ってみる。	
		事後学習	レジュメのポイントを確認しておく。	
第15回	まとめ：肢体不自由児教育に向けて	事前学習	第14回までの授業を踏まえ、教育の目的について考え、まとめる。	
		事後学習	心理・生理・病理を学ぶ意義や肢体不自由の具体的な障害についてまとめ、レポート課題を提出する。	

1. 科目名 (単位数)	視聴覚障害者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3447 SNMP3447 SCMP3447 SBMP3447 SSMP3347
2. 授業担当教員	上田 征三		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	視覚障害は「盲」と「弱視」に、聴覚障害は聴力の損失によって「軽度、中等度、高度、重度」に大別されるが、その心理・病理・生理について理解する。視覚障害の発達に関しては、体格・平衡感覚・運動能力の遅れや、知的・認知発達が困難になる反面、聴覚や触覚の能力が高くなること、言語発達の遅れについても理解する。聴覚障害は、特に言語能力が、聴力の程度、知能、聴覚活用の程度、失聴の時期、家庭環境や早期療育によって大きく差が出てくることを学ぶ。また、関連分野として言語障害に関する心理・生理・病理についても学ぶ。以上のことから、視覚障害・聴覚障害、そして、言語障害について学ぶことが、ひとの言語獲得の過程を明らかにし、そのことが教育の原点に関わることを理解する。		
8. 学習目標	以下に関して理解を深め学習し、説明することができる。 1. 視覚障害の生理・病理・心理について 2. 聴覚障害の生理・病理・心理について 3. 視覚障害がある子どもの発達特性について 4. 聴覚障害がある子どもの発達特性について 5. 視覚障害及び聴覚障害がある子どもの適切な教育について		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容に沿った小テストを5回実施 (到達度評価)。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート (手書き) を課す。 3. 教科書、小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 石部元雄、柳本雄次編著『特別支援教育－理解と推進のために－』(改訂版) 福村出版、2011 年。 【参考書】 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第 3 版) ミネルヴァ書房、2013 年。 鼻地勝人『障害特性の理解と発達援助』(第 2 版) ナカニシヤ出版、2006 年。 東京福祉大学編 『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2015 年。		
11. 成績評価の方法	受講態度 (総合点の 30%) レポート・小テストなど (総合点の 30%) 期末試験 (総合点の 40%)		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体体制を確立すること。		
13. オフィスアワー	授業以外の時間 (予約をお願いすることもある)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	視覚障害と聴覚障害及び関連する障害について 視覚障害、聴覚障害及び言語障害等の分類と発生状況	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 2 回	視覚障害の生理・病理について (1) 目の構造と視覚障害の原因、分類と発生状況	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 3 回	視覚障害の生理・病理について (2) 目の構造と視覚障害の原因、分類と発生状況	事前学習	教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 4 回	視覚障害がある子どもの発達特性と心理について (1) 運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 5 回	視覚障害がある子どもの発達特性と心理について (2) 運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達	事前学習	教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。小テスト①「視覚障害」の準備をする。
第 6 回	聴覚障害の生理・病理について (1) 耳の構造と聴覚障害の原因、分類と発生状況	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	小テスト①の復習をし、重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができ

			るようにする。
第 7 回	聴覚障害の生理・病理について (2) 耳の構造と聴覚障害の原因、分類と発生状況	事前学習	教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 8 回	聴覚障害がある子どもの発達特性と心理について (1) 運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 9 回	聴覚障害がある子どもの発達特性と心理について (2) 運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達	事前学習	教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。小テスト②「聴覚障害」の準備をする。
第 10 回	言語障害等の生理・病理について 発声発語器官の構造と言語障害の原因、分類と発生状況	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	小テスト②の復習をし、重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 11 回	言語障害等がある子どもの発達特性と心理について 運動、知的・認知、言語、心理、社会的発達	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。小テスト③「言語障害」の準備をする。
第 12 回	視覚障害と聴覚障害及び関連する障害がある子どもの適切な療育について (1) 盲児、弱視児の指導と一般的配慮、事例	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書、配付資料で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	小テスト③の復習をし、重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
第 13 回	視覚障害及び聴覚障害及び関連する障害がある子どもの適切な療育について (2) ろう児、難聴児、言語障害児の指導と一般的配慮、事例	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書、配付資料で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。小テスト④「まとめ」の準備をする。
第 14 回	視覚障害及び聴覚障害及び関連する障害がある子どもの「言語」についてーコミュニケーション言語と文字言語の獲得 (1) 「盲ろう」及び重度・重複障害について	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書、配付資料で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	小テスト④の復習をし、重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。小テスト⑤「まとめ」の準備をする。
第 15 回	視覚障害及び聴覚障害及び関連する障害がある子どもの「言語」についてーコミュニケーション言語と文字言語の獲得 (2) 点字、手話、コミュニケーション機器など ※1回から 14 回目までに教材用ビデオを 3 回使用予定	事前学習	既習の「よくわかる障害児教育」及び、教科書、配付資料で該当箇所を確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑤の復習をし、重要な専門用語などに関してノートにまとめ簡単に説明ができるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2102 SNMP2302 SCMP2302 SBMP2302 PSMP2402
2. 授業担当教員	鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	1年以上		
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容ごとの感想・意見の提出、授業講義要約トレーニング 2. グループでの討議・調査・発表 3. レポートの課題は「少子高齢社会における子ども家庭福祉のあり方について」とする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第6版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート、提出物 60%</p> <p>授業参加度 20% (発表等)</p> <p>授業態度 20%</p> <p>授業での積極的な発言や提案、発表が加味される。他学部の学生とのグループでの協力を重視する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>平成 12 年に「児童虐待の防止等に関する法律」が制定されて以来、児童虐待への社会的関心が高まりました。しかし、一方では、依然として親からの虐待によって子どもの命が失われる事態が続いています。子どもの幸せを実現する児童・家庭福祉とはいかにあるべきか、学生の皆さんの歩んできた人生も踏まえて、一緒に考えていきたいと思えます。</p> <p>この科目は、保育士の資格を修得する上で必修ですが、社会福祉士国家試験専門科目としても重要です。授業の中で、しっかり学んでいきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	◎オリエンテーション、授業の進め方についての説明、グループ分け	事前学習	児童・家庭福祉論講義用のノートと資料を綴じるファイル、シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通して置く。
		事後学習	児童・家庭福祉論の授業についてオリエンテーションの内容をノートにまとめ、配布された資料をファイルに綴じる。
第 2 回	第 1 章 現代社会と子ども家庭	事前学習	教科書の第 1 章「現代社会と子ども家庭」を事前に読んで理解しておくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。身近に生活する子どもを観察する。
第 3 回	第 2 章 子ども家庭福祉とは何か	事前学習	第 2 章の「子ども家庭福祉とは何か」子どものための福祉の原理、理念、権利保障、歴史について教科書を読み理解を深めておくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。子どもの権利について自分の生活に当てはめて考えてみる。
第 4 回	第 3 章 子ども家庭福祉にかかわる法制度 ①	事前学習	第 3 章の「子ども家庭福祉にかかわる法制度」について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。グループで事前に児童福祉関連の法律を調べておく。
		事後学習	講義内容、配布した資料をノートにまとめる。実際に児童福祉法を手にとってみる。
第 5 回	第 3 章 子ども家庭福祉にかかわる法制度	事前学習	子ども家庭福祉にかかわる法制度について、身近にある

	②		例を調べておくこと。グループで事前に国・県・市町村の役割について調べておく。
		事後学習	講義内容、グループで討議した内容をノートにまとめる。児童福祉に関する行政機関を調べてみる。
第 6 回	グループでの交流及び討議	事前学習	これまで学習したことをレジュメやノートを基に復習してグループの討議に備えること。
		事後学習	グループ及び全体で討論した内容をノートにまとめる。また、図解して整理しておく。
第 7 回	第 4 章 子ども家庭にかかわる福祉・保健 ①母子保健 グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の「母子保健」を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。保健所・保健センターを訪ねてみる。
第 8 回	②障害・難病のある子どもと家庭への支援 ③児童健全育成 グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の 2 節、3 節を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。児童館を訪ねてみる。
第 9 回	④保育 ⑤子育て支援 グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の 4 節、5 節を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。伊勢崎市の保育所を調べてみる。
第 10 回	⑥ひとり親家庭の福祉 ⑦児童の社会的養護サービス グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の 6 節、7 節を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。ひとり親家庭等について学友と話し合ってみる。
第 11 回	⑧非行・情緒障害児への支援 ⑨児童虐待対策 グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の 8 節、9 節を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。伊勢崎市の児童虐待について調べてみる。
第 12 回	⑩子どもと家庭にかかわる女性福祉 グループによる学習・調査・発表	事前学習	グループごとに担当の章を学習、調査し、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章の 10 節を読み理解しておくこと。プレゼンテーションについては、わかりやすさ、丁寧、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。戦後の女性福祉の歴史を振り返る。
第 13 回	第 5 章 子どもと家庭への援助活動	事前学習	教科書第 5 章の「子ども家庭への援助活動」について事前に読んでおくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。ソーシャルワーク理論から相談援助活動を考えてみる。
第 14 回	現場等からの報告（予定）	事前学習	事前に配布した外部講師の勤務する施設について概要を学習しておくこと。同時に質問も考えておく。
		事後学習	現場の報告を聞き、ノートにその要旨をまとめる。翌週に感想文を提出すること。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまで学習してきたことを振り返り、最後のまとめの討議に備える。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、ノートにまとめ、資料はファイリングしておく。今後、社会福祉士国家試験に向けた学習資料として活用する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童環境保健論 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3307
2. 授業担当教員	鈴木 路子		
4. 授業形態	講義と演習を併用した双方向型学習形態	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>少子高齢社会のなかで、児童を取り巻く自然環境、社会文化的環境を改めて見つめ、人類の生活生存を生態系としてとらえることは重要な教育的意義を有する。成長期にある児童が、それぞれの発達段階を健康に生きていくためには、自然環境からの刺激が必要である。人類の進化の過程で獲得された環境適応能力は、個体発生を繰り返していることを認識することから出発する。人が健康生活を営む能力は、児童の成長を軸とした各種環境要因との相互作用を理解することが重要である。日光、空気、気象、日内リズム、食品など、各種環境要因を自然科学的、人間生物学的に理解するとともに、人間社会の歴史的・文化的適応能力の発達について考える。この過程を通して、参加学生それぞれの専攻、学部、学科を基盤にして、ある生活環境下での児童の生命の営みについて課題を見つけ、研究を深め、意見交換を行い、他分野理解を深めたい。</p>		
8. 学習目標	<p>人間は自然の一部であることを生態学的に捉えると共に、子育ての社会化（社会的養護含）の視点を導入し、少子高齢化社会のなかでの児童の生活生存権を護るための教師力（養護力）を理論と実践両側面から修得することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>1 児童の発育発達の法則性について、生きる力の育成の視点から論述せよ。 2 都市化・人工化が、児童の心身発達及び人格形成に及ぼす影響について論述せよ。 3 児童の人権と子育ての社会化を児童福祉の視点で考察し、行政施策について、論述せよ。 4 児童期の理解は、生涯保健の立場から、考えることの意義について論ぜよ。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】鈴木路子・関口恵美ほか『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』新聞社、2014年。 鈴木路子編『人間環境・教育福祉論』光生館、2007年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業時間中のディスカッション 30% 期末試験 30% レポート 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>これからの人類の生活生存にとって、最も重要な課題は何であろう。人間・環境・社会を包括した「児童環境保健論」を学生の皆様と3名の教員が相互に学びあい、討論する過程を通して、少子高齢化社会における人間の命の尊厳に焦点を当てた学びを警鐘してゆきたい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業内で周知する。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	自然の一部としての人間 その成長過程を探る －自然環境と人の適応－	事前学習	適応とは？各自今まで学んできた適応及び適応能力の発達について調べ、適応の概念形成する
		事後学習	各自の生育環境と疾病り患傾向の自分史を記述する
第2回	乳幼児期（学齢期・思春期・壮老年期を見通して） の発達と環境－五感の発達と環境刺激－	事前学習	皮膚粘膜・視覚・聴覚・平衡感覚・臭覚の発達過程を生理学的に調べる
		事後学習	皮膚粘膜から開始される人間の五感の発達を基盤にした臨床保育の実践事例を連動させる
第3回	乳幼児の発達と環境刺激 －皮膚粘膜による生体防御機能の発達－	事前学習	疾病予防のための免疫（生体防御機能）概要を予習しておく
		事後学習	環境微生物との触れ合いが少なくなった現代にあって、増加していく疾病り患傾向を理解する
第4回	乳幼児、思春期の成長過程と環境刺激 －自律神経系の発達と生体リズム－	事前学習	自律神経について調べる
		事後学習	一日の生活リズムの確立と自律神経系の発達が連動していることを改めて認識する
第5回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 －中枢神経系・内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向－	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を調べる
		事後学習	生涯保健・生涯発達の立場を理解し、生活環境との関わりから、疾病や障害を位置づけ、対策を考える
第6回	乳幼児・思春期及び老年期と環境刺激 －内分泌系・免疫系の発達と疾病り患傾向	事前学習	脳・内分泌・免疫の相互関連性を各種文献から、再評価する
		事後学習	引き続き、生涯保健・生涯発達の立場を理解し、生活環境との関わりから、疾病や障害を位置づけ、対策を考える
第7回	環境と乳幼児の疾病－感染症とアレルギー	事前学習	感染とアレルギーの起こり方の基本を復習する
		事後学習	乳幼児期の疾病を、学齢期、思春期以降へつないで学ぶ。生涯保健の意義を考える
第8回	環境と乳幼児、学齢期、思春期、青壮年・老年期の疾病 －生体リズムの脱同調と生活習慣病－	事前学習	生体リズムの同調・脱同調について復習する
		事後学習	生活習慣病について、その連続性について、充分理解し、保健指導案を作成し、実践してみる
第9回	いじめ、虐待、各種ストレスと児童の発達 －社会的養護と児童家庭福祉－	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」第Ⅱ部 熟読
		事後学習	各種事例を通して、社会的養護に必要性を学ぶ、と

			くに発達、人格形成への影響を習得する
第 10 回	子ども家庭福祉にかかわる法体系 外部講師：関口恵美先生	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」pp.111-122 熟読
		事後学習	執筆者関口先生の家庭裁判所調停員としてのご経歴を背景にした専門領域を質問、習得する
第 11 回	子ども家庭福祉にかかわる 専門職 外部講師	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」pp.123-133 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(教科書演習課題 p133)を行う
第 12 回	児童の社会的養護サービスへの支援 外部講師	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」pp134-140 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(教科書演習課題 p140)を行う
第 13 回	ひとり親家庭への支援 外部講師	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」pp141-147 熟読
		事後学習	授業後の指導課題(演習課題 p146)を行う
第 14 回	子ども家庭福祉とネットワーク ー虐待をうけた夏子さんへの支援ー 学内講師	事前学習	教科書「公衆衛生看護ノート」pp148-171
		事後学習	授業後の指導課題(演習課題 p.151、p.155、p.157、p.159、p.161、p.163、p.166、p.168、p.170)
第 15 回	児童をめぐる自然科学的アプローチと社会福祉学的アプローチー児童環境保健論の究極的な目標と今後の課題ー 学生とのディスカッション	事前学習	関口先生の教育福祉学的接近を考える
		事後学習	改めて、「児童環境保健論」とは何だったのか？各自、どう捉え、今後の教育課程にどう生かしていくかについて、討論結果をまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3215
2. 授業担当教員	金子 康一		
4. 授業形態	講義、グループ討議、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	生徒指導が重要性を増す原因の一つである、いじめや不登校、学習障害児などの諸問題への具体的な対応について理解を深めるとともに、小学校での進路指導や教育相談、学級経営について考察する。 また、生徒指導が初等教育の教育現場で具体的にどう行われているかについて知るとともに、学生自身が体験してきた生徒指導の状況と対比しながら、正しい児童理解の上に立った生徒指導の在り方を議論する。		
8. 学習目標	1 生徒指導の意義と役割について「ガイダンスの機能の充実」の視点を踏まえて理解する。 2 生徒指導の基本的な進め方と生徒指導上の諸問題への対応について理解する。 3 小学校での進路指導の意義と役割について「ガイダンスの機能の充実」の視点を踏まえて理解する。 4 教育相談、学級経営の役割と具体的な進め方について理解する。 以上の点について、理解を深めて説明ができるようにする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	・中間レポート：いじめや不登校を減少させるための対応策を、予防と指導の観点から、自分の体験を踏まえて論述する。 ・期末テスト：現在の学校教育が抱える生徒指導上の今日的課題を取り上げ、その対応策について、キャリア教育の視点や学級経営の視点から論述する。 ・各講義のレジュメのまとめをする。 ・レポートの詳細 (内容、形式、分量、提出締め切り等) は、授業中に説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】代表高橋哲夫編『生徒指導の研究 第三版』教育出版。 【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 (総則編)』。 文部科学省『小学校・中学校学習指導要領解説 (特別活動編)』。 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2010 年。		
11. 成績評価の方法	・授業のまとめ、レポート 総合点の 40% ・期末試験 総合点の 30% ・日常の授業態度 (出席状況、質疑応答、発表等) 総合点の 30% ○遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回扱いとする。		
12. 受講生への メッセージ	児童・生徒の「生きる力」を育成するための学校教育において、教科等による「学習指導」と、全教育活動を通じての「生徒指導」は車の両輪であると言えます。後者の「生徒指導」は、社会情勢や家庭環境の変化に伴い児童・生徒の変容と課題が山積しています。教師を目指す皆さんにとって、生徒指導の理論と方法の理解と習得は欠くことの出来ない内容です。常に課題意識を持ち、積極的・意欲的に授業に臨むよう期待します。		
13. オフィスアワー	第 1 回授業時に周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	本科目のガイダンス 生徒指導の理論と方法① ・直面する学校不適應及び問題行動	事前学習	シラバス及び教科書 pp.1~6 を通読し、問題行動の状況をつかみ講義に臨む。
		事後学習	講義内容を基に、直面する学校不適應問題や問題行動についてまとめる。
第 2 回	生徒指導の理論と方法② ・生徒指導の意義・ねらいと性格 ・ガイダンス機能の充実と生徒指導	事前学習	教科書 pp.7~18 を通読してくる。
		事後学習	学習指導要領における生徒指導の位置付けをまとめる。
第 3 回	生徒指導の理論と方法③ ・生徒指導の歴史と理論、 ・生徒指導と法制	事前学習	教科書 pp.19~25 を通読してくる。
		事後学習	生徒指導と法制の関連をまとめる。
第 4 回	生徒指導の理論と方法④ 生徒指導の方法 (進め方) ・人間関係づくり、自己指導能力の育成、児童・生徒理解	事前学習	教科書 pp.25~41 を通読してくる。
		事後学習	教師と児童の関係づくりや児童理解についての自己課題をまとめる。
第 5 回	生徒指導の理論と方法⑤ 生徒指導の方法 (進め方) ・生徒指導の進め方や生かし方、問題行動の理解と指導	事前学習	教科書 pp.42~66 を通読してくる。
		事後学習	生徒指導の進め方や生かし方についての自己課題をまとめる。
第 6 回	生徒指導の理論と方法⑥ ・いじめ問題の DVD 視聴とグループワーク ・いじめや不登校への対応策と中間レポートのまとめ方	事前学習	新聞等からいじめの記事を切り抜く。
		事後学習	いじめ脱却対応策から自己課題をまとめる。 いじめ、不登校を中間レポートにまとめる。
第 7 回	教育相談の理論と方法① ・教育相談の意義とねらい ・教育相談の進め方	事前学習	教科書 pp.75~89 を通読してくる。
		事後学習	教育相談の意義とねらいの内容をまとめ、自己課題を明確にする。
第 8 回	教育相談の理論と方法② ・教育相談の技法と実際～DVD 視聴とグループワーク ・教育相談を進める上での配慮事項	事前学習	教科書 pp.90~126 を通読してくる。
		事後学習	教育相談の働きの授業への生かし方についてまとめ、自己課題を明確にする。
第 9 回	進路指導の理論と方法①	事前学習	教科書 pp.127~143 を通読してくる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の意義と性格 ・進路指導の歴史と理論 	事後学習	進路指導の意義と性格の内容をまとめ、自己課題を明確にする。
第 1 0 回	進路指導の理論と方法② <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の概要 ・キャリア教育の実際～DVD 視聴とグループワーク 	事前学習	教科書 pp.143～147 を通読してくる。
		事後学習	キャリア教育の概要をまとめる。
第 1 1 回	進路指導の理論と方法③ <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の組織と計画 ・進路指導の課題と展望 	事前学習	教科書 pp.148～177 を通読する。
		事後学習	進路指導の課題と展望をまとめ、自己課題を明確にする。
第 1 2 回	学級経営の理論と方法① <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の基本課題、 ・意義、ねらい、役割 	事前学習	教科書 pp.178～191 を通読してくる。
		事後学習	学級経営は管理ではなく理解であり、教師の人間性が基本であることをまとめる。
第 1 3 回	学級経営の理論と方法② <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の方法、進め方 ・学級経営の組織と計画 ・ビデオ視聴「学級崩壊」 	事前学習	教科書 pp.192～215 を通読してくる。
		事後学習	学級崩壊の実態から、今後身につけるべき自己課題を明確にする。
第 1 4 回	学級経営の理論と方法③ <ul style="list-style-type: none"> ・ADHD/LD 指導の基礎・基本 ・ビデオ視聴「特別支援教育の実践」 	事前学習	学習指導要領総則 pp.63～66 を通読する。
		事後学習	通常学級における特別支援教育の重要性を理解し、自己課題を明確にする。
第 1 5 回	児童生徒指導論のまとめと発表 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、発表～生徒指導論から学んだこと ・授業評価 	事前学習	児童生徒指導論を振り返り概要を整理する。
		事後学習	児童生徒指導論を今後どう生かすか、成果と課題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	児童生徒指導論 (進路指導を含む) (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2448 SCMP2448 SBMP2448 SNMP2448 EDTS2106 EDTS2306
2. 授業担当教員	金子 康一		
4. 授業形態	講義、グループワーク、事例研究、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校における生徒指導の意義及び生徒指導の基礎を理解し、特に学校不適応、不登校、非行、校内暴力、生徒懲戒、学校事故等の今日的な問題について理解を図る。また、生徒指導の観点から進路指導と学級経営の問題を取り上げるとともに、進路指導の進め方や学級経営の意義・在り方等について理解を図る。</p> <p>適宜、学校における生徒指導や進路指導にかかわる実践事例を組み入れて理解を深め、現場で役立つ理論的・実践的なセンスや能力を養うことを目標とする。</p> <p>新学習指導要領に示す教育の方向として、今までになく生徒指導の充実が求められている点を踏まえ、自己教育力の育成のための生徒指導の内容・方法を具体的に学ぶこととする。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義・役割について理解する。 2 生徒指導 (教育相談を含む) の進め方や生徒指導の方法を理解する。 3 進路指導の意義・方法及びキャリア教育のねらい・進め方について理解する。 4 生徒指導に基づく学級 (ホームルーム) 経営の方法及び配慮事項等について理解する。 5 事例研究を通じて、生徒指導上の諸問題への対応策・改善策について学ぶ。 		
9. アサignment (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中間レポート 生徒指導上の課題を取り上げ、それらの対応策・改善策について、予防と指導の観点から論述する。 ・期末テスト 進路指導上の課題を取り上げ、自らの体験を踏まえつつ、それらの対応策・改善策について、キャリア教育の観点から論述する。 <p>○中間レポートは、2000字程度でまとめ、春期6月末までに提出する。書式等は授業中に通知する。 ○期末テストは、知識・理解問題と論述設題のレポート問題で実施する。書式等は授業中に通知する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】代表 高橋哲夫著『生徒指導の研究 第三版』教育出版。 【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』及び (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『小学校及び中学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省『小学校及び中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省『生徒指導提要』明治図書 2010年</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめ、レポート 総合点の40% ・期末試験 総合点の30% ・日常の授業態度 (出席状況、質疑応答、発表等) 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>児童生徒に対する生徒指導 (進路指導を含む) の理論と方法を具体的に学ぶ科目である。本科目を学ぶに当たっては、今日の教育問題に注目し、常に授業には課題意識をもって臨み、緊張感と集中力のある態度で積極的に取り組むことを求める。</p> <p>また、科目の性格を的確に認識し、遅刻、無断欠席、私語、携帯電話の授業中の使用は厳に慎み、レポートの提出期限や学生としてのマナーを遵守すること。</p> <p>生徒指導の実際を行うには、指導する側のバランスのとれた厳正かつ公正な姿勢と児童生徒に対する鋭い観察力・理解力がと必要とされるが、根底には教育的な愛情が不可欠であることを忘れてはならない。</p>		
13. オフィスアワー	第1回授業時に周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	本科目のガイダンス 生徒指導の理論と方法① ・直面する学校不適応及び問題行動	事前学習	シラバス及び教科書 pp.1~6 を通読し、問題行動の状況をつかみ講義に臨む。
		事後学習	講義内容を基に、直面する学校不適応問題や問題行動についてまとめる。
第2回	生徒指導の理論と方法② ・生徒指導の意義・ねらいと性格 ・ガイダンス機能の充実と生徒指導	事前学習	教科書 pp.7~18 を通読してくる。
		事後学習	生徒指導の位置付け及び生徒指導の意義・ねらいをまとめる。
第3回	生徒指導の理論と方法③ ・生徒指導の歴史と理論、 ・生徒指導と法制	事前学習	教科書 pp.19~25 を通読してくる。
		事後学習	生徒指導と法制の関連をまとめる。
第4回	生徒指導の理論と方法④ 生徒指導の方法 (進め方) ・人間関係づくり、自己指導能力の育成、生徒理解	事前学習	教科書 pp.25~41 を通読してくる。
		事後学習	教師と生徒との関係づくりや生徒理解についての自己課題をまとめる。
第5回	生徒指導の理論と方法⑤ ・生徒指導の進め方や生かし方、 ・学校不適応の理解と指導	事前学習	教科書 pp.42~59 を通読してくる。
		事後学習	生徒指導の進め方や生かし方についての自己課題をまとめる。
第6回	生徒指導の理論と方法⑥ ・「許さないじめ」～DVD視聴とグループワーク	事前学習	教科書 pp.60~74 を通読してくる。
		事後学習	いじめを始めとする問題行動の実態と自己

	・飲酒・喫煙・薬物、高校中退、 ・学級経営や部活動と生徒指導		課題をまとめる。
第 7 回	教育相談の理論と方法① ・教育相談の意義とねらい ・教育相談の進め方	事前学習	教科書 pp.75~89 を通読してくる。
		事後学習	教育相談の意義とねらいの内容をまとめ、自己課題を明確にする。
第 8 回	教育相談の理論と方法② ・教育相談の技法と実際～DVD 視聴とグループワーク ・教育相談を進める上での配慮事項	事前学習	教科書 pp.90~126 を通読してくる。
		事後学習	教育相談の働きの授業への生かし方についてまとめ、自己課題を明確にする。
第 9 回	進路指導の理論と方法① ・進路指導の意義と性格 ・進路指導の歴史と理論	事前学習	教科書 pp.127~143 を通読してくる。
		事後学習	進路指導の意義と性格の内容をまとめ、自己課題を明確にする。
第 10 回	進路指導の理論と方法② ・キャリア教育の概要 ・キャリア教育の実際～DVD 視聴とグループワーク・	事前学習	教科書 pp.143~147 を通読してくる。
		事後学習	キャリア教育の概要をまとめる。
第 11 回	進路指導の理論と方法③ 進路指導の組織と計画 ・進路指導の課題と展望	事前学習	教科書 pp.148~177 を通読する。
		事後学習	進路指導の課題と展望をまとめ、自己課題を明確にする。
第 12 回	学級経営の理論と方法① ・学級経営の基本課題、 ・意義、ねらい、役割	事前学習	教科書 pp.178~191 を通読してくる。
		事後学習	学級経営は管理ではなく理解であり、教師の人間性が基本であることをまとめる。
第 13 回	学級経営の理論と方法② ・学級経営の方法、進め方 ・ビデオ視聴「学級崩壊」	事前学習	教科書 pp.192~208 を通読してくる。
		事後学習	学級崩壊の実態から、今後身につけるべき自己課題を明確にする。
第 14 回	学級経営の理論と方法③ ・学級経営の組織と計画 ・学級経営を効果的に進める上での配慮事項	事前学習	教科書 pp.208~223 を通読してくる。
		事後学習	学級経営を効果的に進める上での自己課題を明確にする。
第 15 回	生徒指導論のまとめと発表 ・グループワーク、発表～生徒指導論から学んだこと ・授業評価	事前学習	生徒指導論を振り返り概要を整理する。
		事後学習	生徒指導論を今後はどう生かすか、成果と課題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3421 EDEL3306 EDEL2306
2. 授業担当教員	荻原 邦昭	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、実習等を織り交ぜる。		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会科の目標は、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」である。学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が一層重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について学修する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する中で、習得型の知識と探究による知識活用について学び、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。さらに、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科の意義、目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 社会生活の内容について、地理(自然・国土・産業)、歴史、公民の各分野の特徴を述べる事が出来る。 3. 小学校社会科の指導計画作成・学習方法や小学校社会科の評価規準について理解し、説明できる。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間レポート課題：小学校社会科に身に付けたい力とは何か。 ※上記1について、A4版横書き 1,000字～1,200字程度 レポート形式で記述。 2 期末レポート課題：小学校社会科における実践課題について(選択したキーワードのレポートとする) ※上記2について、指定の用紙にて作成 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008年。 教科書『新しい社会 3/4年上・下 5年上・下 6年上・下』東京書籍。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社、2008年。 地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳』帝国書院。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間・期末レポート(キーワード)：総合点の60% 2 振り返りシート：総合点の20% 3 日常の授業への出席、参加態度：総合点の20% <p>・遅刻、早退それぞれ3回で欠席1回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>小学校社会科の目標である「公民的資質の基礎」を養うためには、地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに対する理解と愛情を育て、社会的な見方や考え方を養うとともに、問題解決的な学習を一層充実させ、子どもたちが社会との望ましいかわり方や社会のなかでどう生きるのかを学ぶことが重要である。このため、本科目では小学校社会科の学習指導要領の内容を踏まえつつ、今日の社会科の課題や授業のあり方を学ぶこととする。</p> <p>そこで本科目では次のことを遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表を積極的にを行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退をしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などを慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。 3 討議や発表など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 小学校学習指導要領改訂の基本方針、要点 社会科改訂の趣旨、要点及び目標 グループ作り	事前学習	学習指導要領改訂の経緯を調べる。
		事後学習	学習指導要領改訂の基本方針、要点、社会科の改訂の趣旨、要点などについてまとめることができる。
第2回	第3/4学年の目標と内容 第3/4学年の目標と内容構成 (1)(2)(3)(4)(5)(6)	事前学習	第3/4学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第3/4学年の目標(理解・態度・能力・技能)と6つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。
第3回	第5学年の目標と内容 第5学年の目標と内容構成 (1)(2)(3)(4)	事前学習	第5学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第5学年の目標(理解・態度・能力・技能)と4つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。

第 4 回	第 6 学年の目標と内容 第 6 学年の目標と内容 (1) (2) (3)	事前学習	第 6 学年の学習内容を調べる。
		事後学習	第 6 学年の目標 (理解・態度・能力・技能) と 3 つの内容を理解し、その内容構成をまとめることができる。
第 5 回	DVD の視聴 1 第 5 学年の内容について 視聴後：教材化についての意見交換	事前学習	第 5 学年の内容構成を復習しておく。
		事後学習	DVD 視聴後、各学習内容をどのように教材化したらいいかまとめることができる。
第 6 回	DVD の視聴 2 第 6 学年の内容について 視聴後：教材化についての意見交換	事前学習	第 6 学年の内容構成を復習しておく。
		事後学習	DVD 視聴後、各学習内容をどのように教材化したらいいかまとめることができる。
第 7 回	指導計画の作成と内容の取扱い 観察・調査・見学 博学連携 地図・統計資料	事前学習	該当の頁を通読する。
		事後学習	社会科の指導計画の作成と内容の取扱いについての要点をまとめることができる。また、地図の効果的活用について考えることができる。中間レポートを提出する。
第 8 回	社会科授業改善のキーワード 1 キーワードに基づいた指導事例の選択と作成 キーワード①社会の形成に参画する資質や能力の育成 キーワード②思考力・判断力・表現力を育む言語活動の充実 キーワード③知識・技能の確実な習得と活用 キーワード④作業的、体験的学習の充実 キーワード⑤伝統や文化の継承と発展 キーワード⑥問題解決的学習の充実 キーワード⑦地域資源の保護と活用	事前学習	キーワードの意味を考えておく。
		事後学習	授業改善の観点から提示されたキーワードの意味をつかみ、興味あるキーワードを選択することができる。また、これをもとにグループを編成する。
第 9 回	社会科授業改善のキーワード 2 キーワードに基づいた指導事例の作成 1	事前学習	キーワードに基づいた指導事例を考えておく。
		事後学習	指導事例をグループで作成することができる。
第 10 回	社会科授業改善のキーワード 3 キーワードに基づいた指導事例の作成 2	事前学習	キーワードに基づいた指導事例に必要な資料を収集する。
		事後学習	指導事例をグループで作成することができる。
第 11 回	社会科授業改善のキーワード 4 キーワード①②③④の指導事例の発表と相互評価 1	事前学習	グループにて発表準備を行う。
		事後学習	グループにて発表を行い、評価表で評価を行うことができる。
第 12 回	社会科授業改善のキーワード 5 キーワード⑤⑥⑦の指導事例の発表と相互評価 2	事前学習	グループにて発表準備を行う。
		事後学習	グループにて発表を行い、評価表で評価を行うことができる。期末レポートを提出する。
第 13 回	社会科における評価 評価の機能と形態 評価の観点と方法	事前学習	評価とは何か考えておく。
		事後学習	評価の機能や社会科における評価の方法などをまとめることができる。
第 14 回	社会科の学習方法 ディベート、ロール・プレイング 問答・討議法 探求学習・発見学習	事前学習	社会科で行う学習方法のいくつかを考えておく。
		事後学習	さまざまな学習方法が実践されていることをまとめ、考えることができる。
第 15 回	社会科指導法のまとめ 新学習指導要領への展望 講義のまとめ	事前学習	中教審の動向を調べておく。
		事後学習	審議中の新学習指導要領の動向を知ることができる。講義で学んだことをまとめることができる。

1. 科目名 (単位数)	社会 (2 単位)	3. 科目番号	JEEL1419						
2. 授業担当教員	福島 裕								
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議・発表学習	5. 開講学期	春期・秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育実習前に履修を終えていることが望ましい。								
7. 講義概要	学習指導要領の改訂において、「生きる力」の育成が重視されている。そこで、小学校社会科においても、今回の改訂のねらいと目標、小学校社会科の目標と内容について検討する。特に、各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する。そして、社会科学習に必要な学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方についても学習する。また、社会科と総合的な学習の時間との関連について学習する。								
8. 学習目標	<p>「社会」の学習が終了した時点で、学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校社会科の目標、及び各学年の目標・内容を理解し、説明できるようになる。 2. 教科書を活用し、調査・体験・作業的な活動を導入した教材研究の在り方について理解を深める。 3. 小学校社会科の評価規準について理解する。 4. 授業においては、班活動の重要性を理解し、役割を分担し協力態勢のもとで、調査・体験・作業的な学習や話し合い・発表学習ができる。 								
9. アサignment (宿題) 及びレポ ート課題	<p>○全員が小学校学習指導要領社会及び教科書の該当箇所（事前に計画表を配布）をよく読んでおくこと。 ○担当班は、事前にグループ提案用紙に担当内容についての要点や重要箇所、疑問点を話し合いまとめ、教員へ提出する。 ○各班は、調査・体験や作業的な活動に取り組む際には、役割分担や協力的な活動についての事前の話し合いを行い、教材の作成・まとめ・発表等を実施できるようにすること。 ○レポート課題「社会科の目標と内容の具現化を図るために具体的な単元を取り上げ、教材研究の在り方と効果的な指導方法（学習活動）について述べなさい。」</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 ○文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2008。 ○帝国書院編集部『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』帝国書院、2014。 ※授業で 5・6 年の教科書も使用するが、購入しなくてよい。</p> <p>【参考書】 ○東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>○受講態度、作成した教材・作品の充実度、班のディスカッションの様子、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 作成した教材・作品の充実度</td> <td>総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3 レポート、提出物</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table> <p>なお、ア、履修要項「授業について」の「7 単位の認定」により、授業時数の 4 分の 3 以上(15 回中 12 回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。 イ、授業態度の悪い学生は減点します。また、指導後の改善が見られない場合は F 評価になることもある。</p>			1 作成した教材・作品の充実度	総合点の 40%	2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度	総合点の 30%	3 レポート、提出物	総合点の 30%
1 作成した教材・作品の充実度	総合点の 40%								
2 調査・体験、作業的な班活動の様子と発表の内容・態度	総合点の 30%								
3 レポート、提出物	総合点の 30%								
12. 受講生への メッセージ	戦後、花形教科としてスタートした社会科の歴史を学び、社会科の目標や内容について理解するとともに、社会科学習の今日的な課題を明らかにします。さらに、指導計画、授業実践、評価等について検討し、学び方や調べ方を身に付ける学習、体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習の在り方について、児童の視点も交えながら理解を深めます。								
13. オフィスアワー	授業内（初回授業）で周知する。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	オリエンテーション、社会科教育の目標からこれからの学習について理解する。	事前学習	社会科で学んだことを思い出しておく。						
		事後学習	社会生活についてマインドマップを作る。						
第 2 回	社会科教育の意義・特質 社会の考え方を知り、どのような指導が望ましいのかを考える。	事前学習	教科書「社会科編」を読んでおく。						
		事後学習	社会科教育の意義・特質を整理する。						
第 3 回	社会科の目標の構造 社会科の目標を調べ、自分にわかりやすい目標の構造を作る。	事前学習	社会科の歴史を読んでくる。						
		事後学習	社会科教育の考え方をまとめる。						
第 4 回	社会科学習指導要領の目標の特徴 社会科学習の目標の特徴について話し合う。	事前学習	社会科の各学年目標を調べてくる。						
		事後学習	目標の構造を整理してくる。						
第 5 回	公民的資質の形成と社会科教育の方法 社会科教育の歴史と教育の内容の系統について調べ、公民的資質の基礎作りについて理解を深める。	事前学習	社会科の試案を読んで、理念を調べておく。						
		事後学習	現行の指導要領と比較してまとめる。						
第 6 回	地理的分野の目標と内容 学習指導要領から、地理的分野の学習を取り出すことができる。	事前学習	系統的にした内容を学年ごとにわける。						
		事後学習	小学校における地理的な学習についてまとめる。						
第 7 回	地図の読み方 地図の学習の基礎基本を知り、活用できるようにする。	事前学習	2 万 5 千分の 1 の地図を読んで、まとめる。						
		事後学習	小学校における地図の読み方の要点をまとめる。						
第 8 回	地域学習での観察と観察の視点	事前学習	3 年生の学習内容を調べる。						

	小学校 3/4 年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区の観察を行う。	事後学習	地域観察したことで分かったことをまとめる。
第 9 回	地域学習の観察結果のまとめ方 小学校 3/4 年生の学習に合わせ、学区の観察、行政区の観察を行い、その結果をレポートにまとめる。	事前学習	4 年生の学習について調べる。
		事後学習	健康で安全な暮らしについて、分かったことをまとめる。
第 10 回	人物中心の歴史学習を進めるために I (人物の資料収集) 学習指導要領に示された人物について業績を調べ、時代の特徴を知る。	事前学習	日本史年表を作成する。
		事後学習	人物と歴史的な事柄との関連をまとめる。
第 11 回	人物中心の歴史学習を進めるために II (人物の業績調査) 自分で選択した人物を中心に、業績を発表しあい、深く業績を理解する。	事前学習	自分の選んだ人物を調べる。
		事後学習	人物と歴史事象との関連から、学びの中心概念をまとめる。
第 12 回	公民的分野の目標と内容 学習指導要領から、公民的分野の学習を取り出すことができる。	事前学習	日本国憲法について調べる
		事後学習	小学校で取り扱う内容をまとめる。
第 13 回	資料活用の在り方 教科書に示されている代表的な資料の分析と活用の仕方を学ぶ。	事前学習	印象に残っている資料を探してくる。
		事後学習	資料と思考との関連についてまとめる。
第 14 回	社会科の評価 社会科の評価方法を学ぶ。	事前学習	評価の在り方についての答申を読んてくる。
		事後学習	新しい評価方法をまとめる。
第 15 回	社会科教育の構造をまとめる 義務教育における社会科教育の構造を学び、小学校社会科の特徴をまとめる。	事前学習	社会科学習の構造を考える。
		事後学習	社会科教育の改定点についてレポートをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1113
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄		
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、国が定める社会福祉士および精神保健福祉士の養成カリキュラムにおける「社会理論と社会システム」に対応するものである。対人援助職に就く者には、被援助者とそのニーズを、社会的な関係性の中で把握することが求められる。人間は社会的な関係の中で生まれ育つものであるし、援助を必要とするような問題（ニーズ）も社会的関係の中から生ずるものだからである。こうしたことから、援助職に就こうとする者には、人間を取り巻く「社会」のなりたちや変化について観察・分析する学問である社会学の学習が必要となるのである。</p> <p>この講義では、社会学の基本的な考えかたと対象について幅広く取り上げる。また、国家試験などで求められる社会学の基本的な用語や知識についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会についての基礎知識を身につけて、物事をその社会的背景から考えられるようになる。 2. 人間と社会の関係について学び、人間を社会的関係の中で捉えられるようになる。 3. 社会問題について深く考察できるようになる。 4. 人々の生活について多角的に考えられるようになる。 5. さまざまな社会理論について学び、社会的な考え方ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートは 2 本出題する予定である。テーマや書き方等については、授業で説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム (第 3 版)』中央法規出版、2014 年		
11. 成績評価の方法	授業参加姿勢等 : 20% レポート 2 本 : 50% 小テスト : 30%		
12. 受講生への メッセージ	社会学が扱う「社会」は、常に変化している。授業の中でも最新の動向を紹介するが、ぜひ日頃から新聞や雑誌を読む習慣をつけてほしい。また、授業中は私語をしない、携帯電話を鳴らさないなどの基本的なマナーを守るように努めてもらいたい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション： 社会とは何か、社会学とは何か	事前学習	社会の変化について考える
		事後学習	社会学を学ぶ意義について、講義を踏まえてまとめる。
第 2 回	社会システム (社会システムとは、法と社会システム、 経済と社会システム)	事前学習	テキスト第 1 章 3 節までを読んでおく。
		事後学習	社会にある格差について整理する。
第 3 回	社会変動 ～近代化、情報化、グローバリゼーション	事前学習	テキスト第 1 章 4 節を読んでおく。
		事後学習	グローバリゼーションの実例を考える。
第 4 回	人口変動とその影響 ～少子化、高齢化、人口移動	事前学習	テキスト第 1 章 5 節を読んでおく。
		事後学習	人口減少の影響について考える。
第 5 回	生活の捉え方 ～ライフスタイルの変化、ライフコース の多様化	事前学習	テキスト第 2 章 1 節を読んでおく。
		事後学習	ライフコース多様化の背景を考える。
第 6 回	家族 ～家族と世帯、家族の機能、家族の変容	事前学習	テキスト第 2 章 2 節を読んでおく。
		事後学習	現代の「家族」の範囲について考える。
第 7 回	地域 ～都市化、過疎化、外国人の増加	事前学習	テキスト第 2 章 3 節を読んでおく。
		事後学習	大学のある地域の特徴について考える。
第 8 回	社会関係 ～社会的行為・社会的役割・社会的ジレンマ	事前学習	テキスト第 3 章 1,2,4 節を読んでおく。
		事後学習	「囚人のジレンマ」について、実例を考える。
第 9 回	社会集団と組織 ～集団の変化、組織の機能	事前学習	テキスト第 3 章 3 節を読んでおく。
		事後学習	集団形成の変化について考える。
第 10 回	社会関係資本と社会的連帯 ～中間集団の解体、社会 関係資本の構成要素、社会的排除	事前学習	テキスト第 3 章 5 節を読んでおく。
		事後学習	社会関係資本の具体例を考える。
第 11 回	社会病理と逸脱 ～文化学習理論、社会緊張理論	事前学習	テキスト第 4 章 1 節を読んでおく。
		事後学習	我々が貼っている「ラベル」について考える。
第 12 回	社会問題① ～貧困、ワーキングプア	事前学習	テキスト第 4 章 2 節を読んでおく。
		事後学習	ビデオの事例について、問題点をまとめる。
第 13 回	社会問題② ～ハラスメント、DV、児童虐待	事前学習	テキスト第 4 章 2 節を読んでおく。
		事後学習	ビデオの事例について、問題点をまとめる。
第 14 回	社会問題③ ～共生社会、多文化主義	事前学習	テキスト第 4 章 3 節を読んでおく。
		事後学習	ビデオの事例について、問題点をまとめる。
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	授業で何を学んだかを振り返る。
		事後学習	学んだ社会学をどう今後の学習に生かすか考える。

1. 科目名 (単位数)	社会情報学 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1301
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	情報化によって仕事や生活の様式が大きく変化している現代において、メディアや IT に関する知識は不可欠なものである。本講義では、携帯電話、電子メール、インターネットなどといった情報化社会のキーワードの理解をもとに、ワークスタイルやライフスタイルの変化を具体的な事例から学ぶ。また、社会におけるメディアのあり方や、メディアを使う人間 (ユーザー) にも着目する。			
8. 学習目標	情報化社会が現代にもたらした影響や人間の心理や生理へ与える問題などについて理解し、情報化社会におけるメディアの在り方を理解することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに課題を出し、調べたことと自分で考えたことをまとめて提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末レポートにより総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	この講義では、メディアと情報化社会に関する最近のトピックを扱います。おそらく、みなさんにとって身近な話題もたくさんあると思います。普段からニュースを見たり、積極的に新しいメディアや機器を利用したりすることを心がけて下さい。それにより、講義内容の理解をより一層深めることができます。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：講義内容の確認、事例紹介、履修者の知識確認、質問・相談	事前学習	情報社会について何か自分の考えをまとめておくこと。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第 2 回	メディアと社会	事前学習	メディアが社会に与える影響について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 3 回	コンピュータネットワークとオンラインコミュニティ	事前学習	インターネット上でのコミュニケーションについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 4 回	ネット社会の問題	事前学習	ネット社会における問題について調べ、その中の一つについて自分の意見をまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 5 回	子どもとメディア	事前学習	子どものメディアへの関わり方について自由に考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 6 回	ソーシャルネットワーク	事前学習	Social Networking Service (SNS) について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 7 回	シリアスゲーム	事前学習	シリアスゲームをキーワードに、どんなものがあるのかを調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 8 回	映像メディアの社会への影響	事前学習	映像メディアと社会との関係性について自由に考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 9 回	マルチメディアと次世代メディア	事前学習	Head Mounted Display (HMD) について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 10 回	立体映像メディアと奥行き知覚	事前学習	なぜ奥行きを感じるのか、ということについて自由に考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 11 回	人間の視聴覚特性	事前学習	眼球運動について調べ、日常生活との関わりについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 12 回	テクノストレスと VDT 症候群	事前学習	VDT とは何かについて調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 13 回	コンピュータ利用におけるユーザインタフェース	事前学習	GUI とは何かについて調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 14 回	ユニバーサルデザイン	事前学習	ユニバーサルデザインについて調べ、具体例をいくつかまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 15 回	学習内容のまとめと確認	事前学習	これまでに取り上げたトピックを振り返り、内容の確認をする。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2128
2. 授業担当教員	岡本 香		
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。 2. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。 3. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようにになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>教科書の該当箇所を事前に読んでおくことをアサインメントとします。また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題をアサインメントとします。</p> <p>レポート課題については、まとめ1、2、3のために提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 安藤香織・杉浦淳吉 (編著) 『暮らしの中の社会心理学』 ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】 山岸俊男(編) 『社会心理学キーワード』 有斐閣。 池上知子・遠藤由美 (共著) 『グラフィック社会心理学 第2版』 サイエンス社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度点30%、授業内に実施する小テストおよび課題レポート点70%を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。小テストの不参加、課題レポート提出の遅れは、小テストおよび課題レポート点において減点します。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>社会心理学は、私たちの日常生活と密接した、とても身近な学問です。内容についてよく考えて理解できると、おもしろく学べるとお思いますので、「やる気」を持って臨むことを期待します。また授業内において、ワークに取り組むために必要な作業を説明しますので、必要に応じて、各自で「自分が何をなすべきか」を考えて行動してください。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	導入：社会心理学とは	事前学習	社会心理学のイメージを考える
		事後学習	社会心理学の特徴をまとめる
第2回	社会心理学の研究手法	事前学習	社会心理学の研究手法についての配付資料を読むこと
		事後学習	事前学習時の配付資料を読んで復習すること
第3回	社会的認知：推論	事前学習	社会的認知についての配付資料を読むこと
		事後学習	事前学習時の配布資料を読んで復習すること
第4回	社会的認知：感情と認知	事前学習	社会的認知についての配付資料を読むこと
		事後学習	事前学習時の配付資料を読んで復習すること
第5回	好き・嫌いの心理	事前学習	教科書の第1章 pp.3~14 を読むこと
		事後学習	教科書の第1章 pp.3~14 を読んで復習すること
第6回	ワーク①：自己開示ゲーム	事前学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読むこと
		事後学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読んで復習すること
第7回	集団関係の心理	事前学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読むこと
		事後学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読んで復習すること
第8回	ワーク②：集団マップ	事前学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読むこと
		事後学習	教科書の第2章 pp.15~24 を読んで復習すること
第9回	「自分一人くらい」の心理	事前学習	教科書の第3章 pp.25~36 を読むこと
		事後学習	教科書の第3章 pp.25~36 を読んで復習すること
第10回	ワーク③：ジレンマゲーム	事前学習	教科書の第3章 pp.25~36 を読むこと
		事後学習	教科書の第3章 pp.25~36 を読んで復習すること
第11回	文化の心理	事前学習	教科書の第4章 pp.37~50 を読むこと
		事後学習	教科書の第4章 pp.37~50 を読んで復習すること
第12回	ワーク④：移民シミュレーション	事前学習	教科書の第4章 pp.37~50 を読むこと
		事後学習	教科書の第4章 pp.37~50 を読んで復習すること
第13回	コミュニケーションの心理	事前学習	教科書の第5章 pp.51~66 を読むこと
		事後学習	教科書の第5章 pp.51~66 を読んで復習すること
第14回	ワーク⑤：視線と発話の連動	事前学習	教科書の第5章 pp.51~66 を読むこと
		事後学習	教科書の第5章 pp.51~66 を読んで復習すること
第15回	まとめ1：人間関係の心理について (1)	事前学習	レポートを作成していただくこと

		事後学習	まとめ 1 についての配付資料を読んで復習すること
第 16 回	まとめ 1 : 人間関係の心理について (2)	事前学習	これまでの学びを復習すること
		事後学習	これまでの学びを復習すること
第 17 回	意思決定と合意形成の心理	事前学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読むこと
		事後学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読んで復習すること
第 18 回	ワーク⑥ : ディベート	事前学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読むこと
		事後学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読んで復習すること
第 19 回	リスクに関する心理	事前学習	教科書の第 7 章 pp.79~92 を読むこと
		事後学習	教科書の第 7 章 pp.79~92 を読んで復習すること
第 20 回	消費者行動の心理	事前学習	教科書の第 8 章 pp.93~104 を読むこと
		事後学習	教科書の第 8 章 pp.93~104 を読んで復習すること
第 21 回	環境問題に関する心理	事前学習	教科書の第 9 章 pp.105~120 を読むこと
		事後学習	教科書の第 9 章 pp.105~120 を読んで復習すること
第 22 回	ワーク⑦ : 説得納得ゲーム	事前学習	教科書の第 9 章 pp.105~120 を読むこと
		事後学習	教科書の第 9 章 pp.105~120 を読んで復習すること
第 23 回	まとめ 2 : 選択の心理について (1)	事前学習	レポートを作成してくること
		事後学習	まとめ 2 についての配付資料を読んで復習すること
第 24 回	まとめ 2 : 選択の心理について (2)	事前学習	これまでの学びを復習すること
		事後学習	これまでの学びを復習すること
第 25 回	リーダーシップの心理	事前学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読むこと
		事後学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読んで復習すること
第 26 回	ワーク⑧ : ほめて育てる	事前学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読むこと
		事後学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読んで復習すること
第 27 回	キャリアの心理	事前学習	教科書の第 11 章 pp.135~146 を読むこと
		事後学習	教科書の第 11 章 pp.135~146 を読んで復習すること
第 28 回	インターネットの心理	事前学習	教科書の第 12 章 pp.147~158 を読むこと
		事後学習	教科書の第 12 章 pp.147~158 を読んで復習すること
第 29 回	まとめ 3 : 社会の中で生きるための心理学について (1)	事前学習	レポートを作成してくること
		事後学習	まとめ 3 についての配付資料を読んで復習すること
第 30 回	まとめ 3 : 社会の中で生きるための心理学について (2)	事前学習	これまでの学びを復習すること
		事後学習	これまでの学びを復習すること

1. 科目名 (単位数)	社会心理学 / 社会心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2343 SNMP2343
2. 授業担当教員	岡本 香			SCMP2343 SBMP2343 EDPS2303
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッション・フィールドワークを含む)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「心理学入門」、「心理学概論」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	<p>人は他者と関わり、集団に所属しながら生活している。そして人は、他者や集団や社会から様々な影響を受けると同時に、自らも対人関係や集団に影響を及ぼしている。社会心理学は、社会学と心理学の境界領域にあたる学問領域であり、人と他者・集団との関係の中で、人の態度や認知に表れるさまざまな変化を明らかにすることを主なねらいとしている。</p> <p>本科目では、社会心理学の主要な研究分野である自己、対人認知、対人関係、集団等の心理について、基礎的な知見を学習するとともに、現代社会における諸現象について、社会心理学的視点から読み解いていく。</p>			
8. 学習目標	<p>4. 心理学における社会心理学の位置づけについて理解し、説明することができるようになる。</p> <p>5. 社会心理学における主要トピックスの要点を理解し、説明することができるようになる。</p> <p>6. 日常生活や社会現象について、社会心理学で提唱されている理論を用いて考察できるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>教科書の該当箇所を事前に読んでくることをアサイメントとします。</p> <p>また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題を宿題とします。</p> <p>レポート課題については、第 8 回および第 1 4 回の授業時に提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】安藤香織・杉浦淳吉(編著)『暮らしの中の社会心理学』ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】山岸俊男(編)『社会心理学キーワード』有斐閣。</p> <p>池上知子・遠藤由美(共著)『グラフィック社会心理学 第 2 版』サイエンス社。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業態度点 30%、授業内に実施する小テストおよび課題レポート点 70% を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。小テストの不参加、課題レポート提出の遅れは、小テストおよび課題レポート点において減点します。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>社会心理学は、私たちの日常生活と密接した、とても身近な学問です。内容を理解するとおもしろく学べると思っていますので、「やる気!」を持って臨むことを期待します。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	導入：社会心理学とは	事前学習	社会心理学のイメージを考える	
		事後学習	社会心理学の特徴をまとめる	
第 2 回	社会心理学の研究手法	事前学習	社会心理学の研究手法についての配付資料を読むこと	
		事後学習	事前学習時の配付資料を読んで復習すること	
第 3 回	好き・嫌いの心理 1	事前学習	教科書の第 1 章 pp.3~14 を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 4 回	好き・嫌いの心理 2	事前学習	教科書の第 1 章 pp.3~14 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 1 章 pp.3~14 を読んで復習すること	
第 5 回	集団関係の心理 1	事前学習	教科書の第 2 章 pp.15~24 を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 6 回	集団関係の心理 2	事前学習	教科書の第 2 章 pp.15~24 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 2 章 pp.15~24 を読んで復習すること	
第 7 回	コミュニケーションの心理 1	事前学習	教科書の第 5 章 pp.51~66 を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 8 回	コミュニケーションの心理 2	事前学習	教科書の第 5 章 pp.51~66 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 5 章 pp.51~66 を読んで復習すること	
第 9 回	まとめ 1：人間関係の心理について	事前学習	レポート作成の準備をしてくる	
		事後学習	まとめ 1 についての配付資料を読んで復習すること	
第 1 0 回	意思決定と合意形成の心理 1	事前学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 1 1 回	意思決定と合意形成の心理 2	事前学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 6 章 pp.67~78 を読んで復習すること	
第 1 2 回	リーダーシップの心理 1	事前学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読むこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 1 3 回	リーダーシップの心理 2	事前学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 10 章 pp.121~134 を読んで復習すること	
第 1 4 回	インターネットの心理	事前学習	教科書の第 12 章 pp.147~158 を読むこと	
		事後学習	教科書の第 12 章 pp.147~158 を読んで復習すること	
第 1 5 回	まとめ 2：社会の中で生きるための心理学 について	事前学習	レポート作成の準備をしてくる	
		事後学習	まとめ 2 についての配付資料を読んで復習すること	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会的養護 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2339 SNMP2339 SCMP2339 SBMP2339 SJMP2104
2. 授業担当教員	中嶋 一郎		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、社会的養護の意義、制度や実施体系及び児童の権利擁護について理解する。また、平成 24 年公布の関係法制度や最新の統計データを参考にしつつ、児童福祉施設の今日的動向と各サービスの特徴を理解する。		
8. 学習目標	1.社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 2.児童の権利、児童養護の理念を理解し、保育士として実践で使用出来る知識を身につける。 3.施設養護における自立支援等の具体的な支援について理解し、保育士としての実践力を身につける。 4.社会的養護の抱える今後の課題について理解し、保育士としての考察力、対応力を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習が出来るように予習を兼ねたアサイメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第1回の授業開始までに「社会的養護の理念と概念」について調べてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。(字数は任意)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 なし		
11. 成績評価の方法	成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。 日常の授業態度（発表、質問は加点、欠席、私語等は減点）45%、レポート 55%。		
12. 受講生への メッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷① 社会的養護の理念と概念	事前学習	社会的養護の理念と概念について調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護の理念と概念を理解し、保育士として実践を行う際の規範との関連を説明出来るようにする。
第2回	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷② 社会的養護の歴史的変遷	事前学習	社会的養護の歴史上で起きた出来事の一つまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護の歴史について理解し、説明出来るようにする。
第3回	社会的養護と児童家庭福祉① 児童家庭福祉と社会的養護の関係性	事前学習	児童家庭福祉の支援における重要なポイントをまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護における児童家庭福祉の在り方を理解し、説明出来るようにする。
第4回	社会的養護と児童家庭福祉② 児童の権利擁護と社会的養護	事前学習	児童の有する権利についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護における児童の権利の位置付けを理解し、説明出来るようにする。
第5回	社会的養護の制度と実施体系① 社会的養護の制度と法体系	事前学習	社会的養護に関する法制度の一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護を実施するための法体系と具体的な制度を理解し、説明出来るようにする。
第6回	社会的養護の制度と実施体系② 社会的養護の仕組みと実施体制	事前学習	社会的養護に係る施設の一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護の実施体制を理解し、実際の仕組みを説明出来るようにする。
第7回	社会的養護の制度と実施体系③ 家庭養護と施設養護	事前学習	家庭養護と施設養護の特徴について調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	家庭養護と施設養護の特徴を理解し、それぞれのメリット・デメリットを説明出来るようにする。
第8回	社会的養護の制度と実施体系④	事前学習	社会的養護に係る専門職を保育士以外で一つ調べてまとめ

	社会的養護の専門職		たレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護に係る専門職の特徴と業務内容を理解し、保育士との連携について説明出来るようにする。
第 9 回	施設養護の実際① 施設養護の基本原理 施設養護の実際/養護系施設	事前学習	施設養護での基本原理をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	養護系施設で行われる業務内容と支援の実際を理解し、実践で活かせる知識を身に付ける。
第 10 回	施設養護の実際② 施設養護の実際/非行系施設・障害系施設	事前学習	障害系施設の種別を整理してまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	非行系施設、障害系施設で行われる業務内容と支援の実際を理解し、実践で活かせる知識を身に付ける。
第 11 回	施設養護の実際③ 施設養護とソーシャルワーク 施設等の 運営管理 記録の作成の留意点と自己評価 の視点	事前学習	ソーシャルワークという言葉の意味を調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	施設養護にかかる支援方法、及び記録の仕方等の具体的業務を理解する。
第 12 回	社会的養護の課題と展望① 生活単位の小規模化とケア体制	事前学習	社会的養護におけるケア体制の具体例を調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護の支援において子どもの権利を保障するために必要なケア体制を理解し、説明出来るようにする。
第 13 回	社会的養護の課題と展望② 社会的養護の担い手のケアの必要性	事前学習	社会的養護の施設に従事する職員が抱える問題についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護に従事する職員の実際を理解し、そのような状態に自身が置かれた時の対処方法を考察する。
第 14 回	社会的養護の課題と展望③ 社会的養護の展望	事前学習	社会的養護に今後求められる課題の一つ調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	社会的養護が今後抱える課題を整理し、その対応策を考察する。
第 15 回	まとめ 保育士として社会的養護にどのように関わ りたいのか	事前学習	保育士として社会的養護に係る施設で働くとしたら自身はどのような施設で働いてみたいのか、具体的な施設の種別とその理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育士として働いてみたい施設に関する知識とその理由を説明出来るようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉運営管理論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP4102 SNMP4302 SCMP4302 PSMP4402
2. 授業担当教員	上野 義光			
4. 授業形態	講義、グループ討議		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスに係る組織や団体 (社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など) について理解する。 ・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスにおける組織と経営の概要について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスに係る組織や団体の役割や税制等について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの組織、経営、集団の力学、リーダーシップ等に関する基礎理論について理解し、説明することができる。 ・福祉サービスの管理運営の方法 (サービス管理、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理) について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「福祉サービスにおける組織と経営について」 2,000字程度にまとめて提出する。提出期限については追って知らせる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 第 11 巻 福祉サービスの組織と経営』、中央法規。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポート等を総合して行う。 1. レポート 総合点の 30% 2. 期末試験 総合点の 30% 3. 授業出席 総合点の 30% 4. 日常の学習状況 総合点の 10%			
12. 受講生へのメッセージ	1. 自分なりの将来設計をもって、積極的な態度で授業に出席する。 2. 授業のための予習を必ずしておくこと。 3. 携帯電話は電源を切り、机の上に置かないこと。			
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる (4 号館 2 階非常勤講師室)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの説明・講義の進め方)、経営学とは、マネジメントとはについて	事前学習	社会福祉運営管理論の学習用ノートを準備し講義に臨むこと。	
		事後学習	経営学とは、マネジメントとはについて、その内容をまとめる。	
第 2 回	福祉サービスにおける組織と経営 (福祉サービスにおける組織と経営、福祉サービスと制度) について	事前学習	教科書第 1 章 (pp.2~16) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	福祉サービスとは何か及びこれからの福祉経営に求められるものは何かについてまとめる。	
第 3 回	福祉サービスにかかわる組織や団体 (法人とは、社会福祉法人) について	事前学習	教科書第 2 章 (pp.18~43) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	法人とは何か及びこれからの社会福祉法人のあり方について、その内容をまとめる。	
第 4 回	福祉サービスに係る組織や団体 (特定非営利活動法人、その他の組織や団体) について	事前学習	教科書第 2 章 (pp.44~66) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	特定非営利活動法人の現状と課題について、その内容をまとめる。	
第 5 回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (戦略、事業計画) について	事前学習	教科書第 3 章 (pp.68~82) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	経営戦略とは何か並びに事業計画のプロセスとその必要性について、その内容をまとめる。	
第 6 回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (組織、管理運営の基礎理論) について	事前学習	教科書第 3 章 (pp.83~96) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	組織形態について及び管理の手法について整理する。	
第 7 回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 (集団の力学に関する基礎理論、リーダーシップに関する基礎理論) について	事前学習	教科書第 3 章 (pp.97~109) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	公式組織と非公式組織及びリーダーシップに関する基礎理論について整理する。	
第 8 回	福祉サービスの管理運営の方法 (サービスマネジメント、サービスの質の評価) について	事前学習	教科書第 4 章 (pp.112~142) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	サービスマネジメントの対象領域及び福祉サービスの質の評価について、その内容をまとめる。	
第 9 回	福祉サービスの管理運営の方法 (苦情対応とリスクマネジメント、サービスの提供のあり方の方向性) について	事前学習	教科書第 4 章 (pp.143~164) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	リスクマネジメントの考え方及び福祉サービスのあり方について整理する。	
第 10 回	福祉サービスの管理運営の方法 (人事・労務管理) について	事前学習	教科書第 5 章 (pp.166~192) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	今後の福祉サービスの人事・労務管理についてどのように進めるべきかについて検討する。	
第 11 回	福祉サービスの管理運営の方法 (人材育成) について	事前学習	教科書第 5 章 (pp.193~211) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	福祉サービスにおける人材育成の必要性に検討する。	
第 12 回	福祉サービスの管理運営の方法 (会計管理・財務管理) について	事前学習	教科書第 6 章 (pp.214~224) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	社会福祉法人の財務管理の考え方について検討する。	
第 13 回	福祉サービスの管理運営の方法 (会計管理・財務管理) について	事前学習	教科書第 6 章 (pp.225~243) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	財務諸表の概要とその見方・使い方について、実例を基に習得する。	
第 14 回	福祉サービスの管理運営の方法 (情報管理・戦略的広報) について	事前学習	教科書第 7 章 (pp.246~262) を熟読し、要点をまとめる。	
		事後学習	福祉サービス事業経営における情報管理のあり方について検討する。	
第 15 回	今後の福祉サービス提供組織の経営と運営のあり方について	事前学習	今後の福祉サービス提供組織の経営と運営のあり方について考察する。	
		事後学習	これまで学習したことを 2000 字程度にまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。		
8. 学習目標	社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。 (I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。 (II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる) これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようにすることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・毎回の授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験 (共通科目・専門科目) では、本番の試験の合格基準に従って、 ① 全体の60%以上の得点がある。 ② 全ての科目で得点がある (0点科目がない)。ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます。)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。		
12. 受講生への メッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題集」をどれだけ暗記できるかによって決まるので、本講義を受講する学生は、1 問 1 問真剣に取り組んでください。 授業の内容や進行順は変更することがあります。		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第 2 回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「 疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法 と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 4 回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の 理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 5 回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政 策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 6 回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」 について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 7 回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 8 回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉 の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 9 回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体 と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 10 回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象 及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年 金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 11 回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障 害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障 害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援 法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

	福祉法（障害児支援関係）「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」について		
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【社会調査の基礎①】 （「統計法」「社会調査における倫理」「量的調査の方法①」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【社会調査の基礎②】 （「量的調査の方法②」「質的調査の方法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【相談援助の基盤と専門職】 （「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の理念」「相談援助に係る専門職の概念と範囲」「専門職倫理と倫理的ジレンマ」「総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 9 回	【相談援助の理論と方法①】 （「様々な実践モデルとアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 0 回	【相談援助の理論と方法②】 （「相談援助の過程」「ケースマネジメントとケアマネジメント」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【相談援助の理論と方法③】 （「スーパービジョン」「記録」「相談援助と個人情報の保護の意義と留意点」「相談援助における情報通信技術（IT）の活用」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 2 回	【福祉サービスの組織と経営①】 （「福祉サービスに係る組織や団体」「福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 3 回	【福祉サービスの組織と経営②】 （「福祉サービス提供組織の経営と実際」「福祉サービスの管理運営の方法と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】 （「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）」「介護過程」「介護と住環境」「介護保険法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度②】 （「介護保険法における組織及び団体の役割と実際」「地域包括支援センターの役割と実際」「高齢者の虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 6 回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】（「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「児童・家庭福祉制度の発展過程」「児童福祉法」「DV防止法」「母子保健法」「児童手当法」「次世代育成支援対策推進法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【就労支援サービス】 （「雇用・就労の動向と労働施策の概要」「就労支援に係る専門職の役割と実際」「就労支援分野との連携と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 8 回	【更生保護制度】 （「更生保護制度の概要」「更生保護制度の担い手」「医療観察制度の概要」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 9 回	専門事例問題	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 0 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECD4221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等			
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身につけた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。</p>			
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・ 予め配布する「一問一答」の中から、毎回授業の最後に確認テストを行うので、満点が取れるまで予習復習を繰り返してください。</p> <p>・ 期間の途中で行う「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>③ 全体の60%以上の得点がある</p> <p>④ 全ての科目で得点がある (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます)</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>『2016 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 (3 年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3 年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと。)</p> <p>『大学作成の授業内配布テキスト』</p> <p>『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』、中央法規 (秋期の開始時に購入します)</p> <p>【参考文献】</p> <p>『2017 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規</p> <p>『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規</p> <p>『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士の合格教科書 2017』医学評論社</p>			
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」と 12 月に実施する校内模試の結果 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する (春学期のみ)。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかにかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという決意をもって、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>			
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 2 回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 3 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 4 回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 5 回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までに授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し	
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習	

第 6 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【地域福祉の理論と方法】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 16 回	ガイダンス（秋期） 共通科目基礎徹底理解①（共通科目ランダム問題） （制度を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解②（共通科目ランダム問題） （人物・年代を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解 （医学・心理学・介護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解① （社会学・法学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解② （法人）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解① （社会保障・低所得者・高齢者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解② （障害者・権利擁護・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③ （行財政・保健医療・児童・更生保護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解① （基盤と専門職・社会調査）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解② （理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	事例問題の演習①（理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 28 回	事例問題の演習②（高齢者・児童・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	事例問題の演習③（共通科目編）	事前学習	指定された科目の過去問演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで合格を信じること）

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1101 GELA1301						
2. 授業担当教員	生沼 礼一									
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。									
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。									
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題、レポート課題は授業の中で指示する。									
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】東京福祉大学編『レポート・試験はこう書く 保育児童福祉要説』(第四版) 中央法規 【参考書】必要な参考書は、授業の中で指示する。									
11. 成績評価の方法	<p>評成績評価の方法と配点は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>期末試験 (1 回実施)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート (1 回実施)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>日常の授業態度</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>※東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない学生の評価は行わない。</p>				期末試験 (1 回実施)	30%	レポート (1 回実施)	20%	日常の授業態度	50%
期末試験 (1 回実施)	30%									
レポート (1 回実施)	20%									
日常の授業態度	50%									
12. 受講生への メッセージ	授業に出席し、一回一回の授業の中で能力を身につけ伸ばして欲しい。									
13. オフィスアワー	初回授業の中で提示します。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	・授業オリエンテーション (グループ作りを含む) ・「わが国の高齢者福祉の現状について」(その 1)	事前学習	教科書 p.542 を読んでおく。							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 2 回	「わが国の高齢者福祉の現状について」(その 2)	事前学習	教科書 p.542 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 3 回	ノーマライゼーションの理念について	事前学習	教科書 p.562 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 4 回	介護の意義について DVD 鑑賞	事前学習	教科書 p.602 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 5 回	社会福祉士・介護福祉士の職場について	事前学習	教科書 p.543 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 6 回	社会福祉士・介護福祉士が誕生した社会的背景と福祉専門職に求められる資質について①	事前学習	教科書 pp.545～547 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 7 回	社会福祉士・介護福祉士が誕生した社会的背景と福祉専門職に求められる資質について② レポート課題発表	事前学習	授業でおさえた用語を調べておく。							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 8 回	グループ研究「社会福祉施設について」 DVD 鑑賞	事前学習	前回配布の資料について読んでおく							
		事後学習	どのようにグループで学習していくか、話し合ったことをまとめておく。							
第 9 回	障害者への援助で留意すべき点について 車いす体験、障害を体験する	事前学習	教科書 p.43 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 10 回	わが国の社会福祉行政について	事前学習	教科書 p.541 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 11 回	保険者と被保険者について	事前学習	教科書 p.612 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 12 回	年金制度の現状と問題点について	事前学習	教科書 p.575 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる							
第 13 回	これからの社会福祉と福祉教育について	事前学習	教科書 p.554 を読んでおく							
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。							
第 14 回	・レポート発表 ・グループ発表①	事前学習	グループ発表の準備をする							
		事後学習	ほかの学生の発表のなかで参考になったことを整理しておく。							
第 15 回	・グループ発表② ・期末試験について	事前学習	各グループの資料などを読んでおく。							
		事後学習	ほかの学生の発表のなかで参考になったことを整理しておく。							
期末試験										

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1101
2. 授業担当教員	田中 利光		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。		
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>本科目の授業を通じて次のアサイメント及びレポート課題を課す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習として、講義内容に関する抄録 (全 10 回) を提出してもらおう。 事後学習として、授業の中で視聴した DVD の内容をノートにまとめる。 レポート課題 (1 回) を提出してもらおう。 <p>抄録の作成規程：事前学習として教科書を読み、該当する章の内容の抄録を、教員が配布する指定用紙に作成する (全 10 回、1 回につき 400 文字の抄録を作成し、次回の授業の中で提出する)。</p> <p>レポート課題：「ソーシャルワーカーに求められるもの」</p> <p>レポート作成規程：①A4 用紙を使用。余白は上下左右 20 ミリに設定。ページの文字数は 40 文字、行数は 30 行に設定すること (1200 文字)。</p> <p>②表紙は不要。用紙の上部に、提出月日、科目名、テーマ、学籍番号、氏名を明記し、必ず左上端をホッチキスで止めること。</p> <p>③レポートの枚数は 1 枚とする。</p> <p>④提出日は、授業の中で別途指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 秋山智久著『社会福祉の思想 入門—なぜ「人」を助けるのか』ミネルヴァ書房、2016。</p> <p>【参考書】 秋山智久著『社会福祉専門職の研究』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績評価の方法と配点は次のとおりである。</p> <p>抄録 (10 回実施) 50% (1 回 5%×10 回)</p> <p>レポート課題 (1 回実施) 50%</p> <p>※東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針である、学生の思考力・創造力・問題解決能力の育成の目的を達成するため、授業においては、受講生に次の諸点を順守することを求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は常に集中力を保って、積極的な態度で受講する。 事前学習を必ず行うこと。 授業中の携帯電話 (スマホ) の操作や私語・居眠り等による授業妨害は厳禁。 遅刻をしないこと。欠席は大学の学則に則り対応するので、やむを得ずの欠席の場合は、理由を記した書面を担当教員に提出すること。 本科目のノートを準備し、授業に持参すること。 <p>※毎回の授業の中で、中心となる教科書による授業内容とは別に、15 分から 20 分程度の DVD 視聴による福祉現場の紹介を行う。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・講義概要説明 福祉の現場 1 (知的障害児のための学校 DVD)	事前学習	知的障害児のための学校 (特別支援学校) について調べておく。
		事後学習	知的障害児学校について、DVD 視聴で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 2 回	なぜ「人」を助けるのか 教科書 第 1 章 助ける必要はないという思想 福祉の現場 2 (聴覚障害児のための学校 DVD) ※抄録提出	事前学習	教科書を以下【教】と表示する。指定する章を事前に読んで抄録を作成しておくこと。 【教】第 1 章 アサイメント作成。
		事後学習	聴覚障害児学校について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 3 回	なぜ「人」を助けるのか 教科書 第 2 章 人間の本性 福祉の現場 3 (肢体不自由児のための学校 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 2 章 アサイメント作成。
		事後学習	肢体不自由児学校について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。

第 4 回	なぜ「人」を助けるのか 教科書 第 3 章 助けることの意味と制度化(1) 福祉の現場 4 (重症心身障害児・者施設 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 3 章 アサイメント作成。
		事後学習	重症心身障害児施設について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 5 回	なぜ「人」を助けるのか 教科書 第 3 章 助けることの意味と制度化(2) 福祉の現場 5 (知的障害児施設 DVD)	事前学習	【教】第 3 章を再度精読しておくこと。
		事後学習	知的障害児施設について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 6 回	援助するために必要なもの 教科書 第 4 章 ソーシャルワーカーに求められるもの(1) 福祉の現場 6 (特別養護老人ホーム DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 4 章 アサイメント作成。
		事後学習	特別養護老人ホームについて、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 7 回	援助するために必要なもの 教科書 第 4 章 ソーシャルワーカーに求められるもの(2) 福祉の現場 7 (認知症高齢者グループホーム DVD)	事前学習	【教】第 4 章を再度精読しておくこと
		事後学習	認知症高齢者グループホームについて、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 8 回	援助するために必要なもの 教科書 第 5 章 社会福祉と宗教 福祉の実践現場 8 (特例子会社 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 5 章 アサイメント作成。
		事後学習	特例子会社について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 9 回	社会福祉とは何か 教科書 第 6 章 社会福祉の目的 福祉の現場 9 (精神障害者の日中活動の場とグループホーム DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 6 章 アサイメント作成
		事後学習	精神障害者の日中活動の場とグループホームについて、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 10 回	社会福祉とは何か 教科書 第 7 章 社会福祉実践の原理と原則(1) 福祉の現場 10 (学童保育 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 7 章 アサイメント作成。
		事後学習	学童保育について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 11 回	社会福祉とは何か 教科書 第 7 章 社会福祉実践の原理と原則(2) 福祉の現場 11 (認定こども園 DVD)	事前学習	【教】第 7 章を再度精読しておくこと。
		事後学習	認定こども園について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 12 回	社会福祉とは何か 教科書 第 8 章 人間の苦悩と人生の意味 福祉の現場 12 (理学療法士の仕事 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 8 章 アサイメント作成。
		事後学習	理学療法士の仕事について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 13 回	社会福祉とは何か 教科書 第 9 章 社会福祉哲学の必要性和独自性 福祉の現場 13 (作業療法士の仕事 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 9 章 アサイメント作成。
		事後学習	作業療法士の仕事について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 14 回	社会福祉とは何か 教科書 第 10 章 望ましい社会福祉実践を目指して (1) 福祉の現場 14 (言語聴覚士の仕事 DVD) ※抄録提出	事前学習	【教】第 10 章 アサイメント作成。
		事後学習	言語聴覚士の仕事について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。
第 15 回	社会福祉とは何か 教科書 第 10 章 望ましい社会福祉実践を目指して (2) 福祉の現場 15 (音楽療法士の仕事 DVD)	事前学習	【教】第 10 章を再度精読しておくこと。
		事後学習	音楽療法士の仕事について、DVD 授業で知り得た新たな知識を含めノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	社会保障制度Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2108
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	社会保障制度Ⅰを基本にして本講義では、制度の内容、すなわち、公的扶助、社会福祉、年金制度、医療保険制度、介護保険制度などを取り上げ、それぞれの内容について具体的に検討する。特に、これからさらに重要なテーマになる人権問題と関連した、成年後見制度や高齢者虐待防止法についても学習する。また、国際比較を通して日本の社会保障制度の位置付けについて理解を図る。そして介護保険制度については、社会保障という観点から他の制度と比較しながら詳しく検討する。		
8. 学習目標	1. 社会保障制度に関する基本的な知識を身につける。 2. さまざまな日本の社会保障制度の内容(生活保護制度、年金制度、医療保険制度、社会福祉制度など)について理解し、説明することができる。 3. 介護保険制度について詳しく理解し、説明することができる。 4. 国際比較を通して日本の社会保障制度の位置付けについて理解し、説明することができる。 5. 日本の社会保障制度の課題について理解し、説明することができる。 6. 発表授業を通して発表能力を高められる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題1：自分が発表したテーマ(内容)を中心にレポートを提出する(2000字以内)。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障7版』有斐閣、2009年。 【参考書】 坂口正之 岡田忠克編『よくわかる社会保障, 第3版』ミネルヴァ書房、2009年。 社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規、2009年。		
11. 成績評価の方法	1) レポートと学習ノート 50% 2) 授業への参加度 30% 3) 発表及びミニテスト 20% 計 100% なお、本学規定により、単位取得のためには3/4以上の出席を必要とする。		
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ発表には参加者全員が積極的に参加することと他のグループが発表するときはきちんと傾聴すること。		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション シラバス説明とグループ分け	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと
		事後学習	授業中に理解されたことについてまとめる
第2回	社会保障に関する基礎理論 社会保障制度Ⅰで学んだ基本的なことについて(全体の仕組みや機能など)	事前学習	社会保障の全体の仕組みと機能について、ノートにまとめる
		事後学習	社会保障の全体の仕組みについてまとめる
第3回	社会保障制度の国際比較 ILOの社会保障給付費などを基準にして社会保障制度の国際比較をする	事前学習	日本の社会保障給付費について調べて、ノートにまとめる
		事後学習	国際比較から理解されたことについてまとめる
第4回	公的扶助 生活保護制度について	事前学習	生活保護制度について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第5回	社会福祉 高齢者福祉制度について	事前学習	高齢者のための福祉サービスについて、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第6回	社会福祉 成年後見制度と権利擁護制度について	事前学習	成年後見制度について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第7回	社会福祉 高齢者虐待防止法について	事前学習	高齢者虐待の種類について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第8回	社会保険 医療保険制度について	事前学習	医療保険制度の種類と内容について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第9回	社会保険 年金制度について	事前学習	年金制度の種類と内容について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第10回	介護保険制度 介護保険制度とは何か (全体像や仕組み等について)	事前学習	介護保険制度の仕組みと内容について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第11回	介護保険制度 介護保険制度の改正の背景や内容について	事前学習	介護保険制度の改正された内容について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第12回	介護保険制度 認定のプロセスについて	事前学習	介護保険制度の認定のプロセスについて、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第13回	介護保険制度 介護給付について	事前学習	介護保険制度の介護給付について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第14回	介護保険制度 地域包括支援センターと専門職について	事前学習	地域包括支援センターの役割について、ノートにまとめる
		事後学習	グループで話し合った内容をまとめる
第15回	社会保障の課題と今後の展望	事前学習	pp.279~285を熟読し、その要点をまとめる
		事後学習	講義で理解された内容をまとめる

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2105
2. 授業担当教員	喜多村 悦史		SCMP2105
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめたの一括つめこみは難しい。</p> <p>事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 本科目は二コマ連続授業 (4単位) であり、授業内容が盛りだくさんになる。入念な予習と適格な復習が必要である。 2 学期を通じて使用する「学習カード」を配布するので、必要事項を記載の上で毎週の授業終了時に提出しなければならない。次週の授業開始時に返却するが、この時点で出席確認を行う。 3 各週の授業終了時に、「自宅学習確認票」を配布する。教科書記載のキーワードについて所要字数で調査記入したうえで、次週の授業開始時に、「学習カード」の受け取りと交換で提出しなければならない。 4 学期内に3回、学習内容に即した「ミニレポート」(800字程度)の作成を求める。 5 上記3および4に関して、授業時間内にグループ討議の時間を設けるので、その時点で記載内容のイメージ作りをすることが望まれる。また、提出後にクラス全員の前で発表する機会を設けることがある。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】</p> <p>『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 各週授業理解度等 60% (4%×15 回) 「学習カード」および「自宅学習確認票」記載内容を重視 2 「ミニレポート」の提出時期と記載内容 15% 3 授業参加の積極性 (質問を含む) 5% 4 期末試験 20% <p>なお、本学規定により、4分の3以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 わが国の社会保障は社会保険中心で運営されており、社会保障 (社会保険) の理解は社会福祉の必須知識であるから、投げ出さずに最後まで学習努力を継続すること。 2 いくつもの社会保険制度が出てくるが、基本的部分での共通性があるので、それを早期に会得すること。 3 制度変更が間断なく行われているので、細部よりも制度の根幹部分に力点を置いて学習すること。 4 授業終了後にも質問 (国家試験の出題傾向等を含む) を受けつける。躊躇してはならない。 5 授業中には勝手に入退室しないこと。生理的必要性に基づく入退室は許容するので、許可を得ること。 6 授業はシラバスに即して行うので、必読、必携。 		
13. オフィスアワー	木曜日 9時-12時		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1週 (第1・2回)	【社会保障制度の概要、社会手当制度】 社会保障の体系、機能、方法 公的扶助と社会手当 学習の確認	事前学習	教科書第1週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第2週 (第3・4回)	【社会保障制度の運営と財源】 社会保障の実施体制 社会保障の財政 学習の確認	事前学習	教科書第2週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第3週 (第5・6回)	【少子高齢社会と社会保障】 人口問題 労働環境の変化 学習の確認	事前学習	教科書第3週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第4週	【社会保障制度の発達】	事前学習	教科書第4週部分を精読し、重要箇所をマーク

(第 7・8 回)	国際的な社会保障の流れ 日本の社会保障の発展 学習の確認	事後学習	して授業に臨むこと。 授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 5 週 (第 9・10 回)	【年金保険制度の概要と沿革】 年金保険制度の概要 年金保険制度の沿革 学習の確認	事前学習	教科書第 5 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 6 週 (第 11・12 回)	【国民年金(基礎年金)制度】 国民年金制度 国民年金基金 学習の確認	事前学習	教科書第 6 週該当部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 7 週 (第 13・14 回)	【厚生年金保険制度】 厚生年金保険 共済年金 学習の確認	事前学習	教科書第 7 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 8 週 (第 15・16 回)	【医療保険制度の概要と沿革】 医療保険制度の概要 医療保険制度の沿革 学習の確認	事前学習	教科書第 8 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 9 週 (第 17・18 回)	【健康保険制度】 健康保険の概要 健康保険の給付 学習の確認	事前学習	教科書第 9 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 10 週 (第 19・20 回)	【国民健康保険制度・高齢者医療制度】 国民健康保険の概要 高齢者医療制度 その他の公的医療保険制度 学習の確認	事前学習	教科書第 10 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 11 週 (第 21・22 回)	【介護保険制度】 介護保険制度の概要 介護保険の改正 学習の確認	事前学習	教科書第 11 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 12 週 (第 23・24 回)	【雇用保険】 雇用保険の沿革 雇用保険の仕組み 失業等給付 雇用保険 2 事業 求職者支援制度 学習の確認	事前学習	教科書第 12 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 13 週 (第 25・26 回)	【労災保険】 労災保険の沿革 労災保険の仕組み 労災の認定 保険給付 社会復帰促進等事業 学習の確認	事前学習	教科書第 13 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 14 週 (第 27・28 回)	【諸外国の社会保障制度】 社会保障の類型 主要国の年金制度 主要国の医療保障 社会保障の国際化 学習の確認	事前学習	教科書第 14 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
第 15 週 (第 29・30 回)	【保険の意義、企業年金と社会保障の直近の動き】 民間保険と社会保障 企業年金 社会保障をめぐる直近のトピックス 学習の確認	事前学習	教科書第 15 週部分を精読し、重要箇所をマークして授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容を理解できるまで教科書を精読すること。「自宅学習確認票」への記載・提出は必須。
【授業評価】			
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP4302 SCMP3302 PSMP3402
2. 授業担当教員	梶原 洋生		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・ディスカッション等			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート1) 障害者への就労支援の事例を選びつつ、専門機関が行う就労支援サービスの実際について2500字程度で述べなさい。</p> <p>ポイント：制度・サービスを知るだけでなく、クライアントのニーズに対して社会資源を使った支援方法を理解し説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】朝日雅也・布川日佐史編著『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。</p> <p>この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生へのメッセージ	<p>クライアントを支援する専門家の活動として、この科目の理解は必須になる。クライアントの就労ニーズを把握し、エンパワーしながら社会資源を利用することが求められると言える。もちろん、社会の経済情勢や動向に合わせて就労環境は常に変化し、就労のありかたも変化すると考える必要がある。現実の就労環境を関連づけながら理解できるように、努力してほしい。</p>			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業全体の流れについて 働く意味と社会福祉	事前学習	「働くこと」からイメージすることを考える	
		事後学習	就労の意味についてまとめる	
第 2 回	障害者の就労支援 (1) 障害者の就労とその現状 障害者自立支援法や障害者雇用促進法による支援の現状	事前学習	障害者雇用促進法についてまとめておく	
		事後学習	障害者の就労状況についてまとめる	
第 3 回	障害者の就労支援 (2) 就労支援機関と制度 (障害者雇用施策) 障害者就労支援におけるサービス体系	事前学習	障害者自立支援法におけるサービスを調べる	
		事後学習	障害者就労支援の概要についてまとめる	
第 4 回	障害者の就労支援 (3) 就労支援機関と制度 障害者自立支援法における障害者の就労支援制度	事前学習	就労移行支援、就労継続支援について調べる	
		事後学習	就労移行支援、就労継続支援についてまとめる	
第 5 回	障害者の就労支援 (4) 障害者雇用政策における就労支援 専門職の役割	事前学習	機関・施設に配置されている専門職について調べる	
		事後学習	専門職の役割についてまとめる	
第 6 回	障害者の就労支援 (5) 民間の取り組み 差別禁止法と雇用率制度	事前学習	差別禁止法について調べる	
		事後学習	差別禁止法と雇用率制度の長所と短所についてまとめる	
第 7 回	障害者の就労支援についてまとめ、説明する 障害者の就労支援の実際 (事例を基に理解する)	事前学習	障害者の就労支援についてまとめ、説明できるようにする	
		事後学習	事例から気づいたことをまとめる	
第 8 回	労働を取り巻く状況 労働市場の変化 今日の情勢	事前学習	大学新卒の就職率を調べる	
		事後学習	ワーク・ライフ・バランスについてまとめる	
第 9 回	労働政策の概要 労働に関する法規の動向、労働に関する公的保険	事前学習	労働法規に関する法律を調べる	
		事後学習	労働法規の内容をまとめる	
第 10 回	労働市場の変化、ワーク・ライフ・バランス、労働法規・労働に関する公的保険についてまとめ、説明する 事例を基に労働紛争の実際を考える	事前学習	労働法規についてまとめ、説明できるようにする	
		事後学習	労働者を守るための制度についてまとめる	
第 11 回	生活保護制度における就労支援 (1) 低所得者への就労支援の現状・就労支援機関と制度	事前学習	生活保護受給者、母子家庭の現状について調べる	
		事後学習	低所得者の就労支援制度についてまとめる	
第 12 回	生活保護制度における就労支援 (2) 専門職・団体の役割とその連携、今後の展望	事前学習	福祉事務所・ハローワークの役割について調べる	
		事後学習	低所得者の就労支援の課題についてまとめる	
第 13 回	低所得者に対する就労支援の制度についてまとめ、説明する 低所得者に対する就労支援を事例を使い考察する	事前学習	低所得者に対する就労支援制度についてまとめ、説明できるようにする	
		事後学習	考察についてまとめる	
第 14 回	就労支援におけるケアマネジメント、ネットワークの有用性と社会資源としての活用	事前学習	ケアマネジメントの理論についてまとめる	
		事後学習	就労支援におけるケアマネジメントをまとめる	
第 15 回	連携・ネットワークキングの実際、ジョブコーチ	事前学習	ジョブコーチについて調べる	
		事後学習	ジョブコーチモデルについてまとめる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	就労支援 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3102 SBMP3302
2. 授業担当教員	小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義・ディスカッション等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会福祉士が行う相談援助業務の一部として位置づけられる就労支援は、福祉サービスの利用者として位置づけられてきた人々が広い意味での「就労」を通して自立や社会参加を実現していくための支援として重要性を増している。</p> <p>この授業では、テキストを使用して就労支援に係る関係法規や制度、就労支援に関わる組織・団体や専門職についての知識を習得する。</p> <p>就労支援に関する基本的な内容を理解したうえで、就労支援が実際にどのように行われているのかを具体的な事例をもとに学習し、応用力を養っていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労支援が求められる背景について理解し、説明することができる。 2. 労働施策の概要について理解し、説明することができる。 3. 就労支援制度について理解し、説明することができる。 4. 就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解し、説明することができる。 5. 就労支援における支援のプロセスについて理解し、説明することができる。 6. 就労支援を行ううえで社会福祉専門職に求められる価値観、視点、態度について理解し、自分の言葉でまとめることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート1) 障害者への就労支援の事例の一つを選び、専門機関が行う就労支援サービスの実際を2500字程度で述べなさい。</p> <p>ポイント：制度・サービスを覚えるだけでなく、クライアントのニーズに対して社会資源を使った支援方法を理解し説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 朝日雅也・布川日佐編著 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック第 16 巻 就労支援 (第 2 版)』ミネルヴァ書房、2013 年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座第 18 巻 就労支援サービス (第 3 版)』中央法規、2013 年。 この他、必要に応じて参考資料等を使用する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 50%、試験 50%</p> <p>遅刻・早退は 30 分までとし、出席が 3/4 に満たない場合は単位を行わない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>クライアントを支援する上で社会資源の理解は必須になります。その上で、クライアントの就労ニーズを把握し、エンパワーしながら社会資源を利用することが求められます。「知っている」だけでなく「使える」までイメージ出来るようになります。</p> <p>また、社会情勢に合わせて就労環境は変化し、就労ニーズも変化します。現在の就労環境を関連づけながら理解しましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	授業全体の流れ 就労をどう考えるか 働く事の意味と社会福祉士の役割	事前学習	「働くこと」からイメージすることを考える
		事後学習	就労の意味についてまとめる
第 2 回	障害者の就労支援 (1) 障害者の就労とその現状 障害者自立支援法や障害者雇用促進法による支援の現状	事前学習	障害者雇用促進法についてまとめておく
		事後学習	障害者の就労状況についてまとめる
第 3 回	障害者の就労支援 (2) 就労支援機関と制度 (障害者雇用施策)、障害者就労支援におけるサービス体系	事前学習	障害者自立支援法におけるサービスを調べる
		事後学習	障害者就労支援の概要についてまとめる
第 4 回	障害者の就労支援 (3) 就労支援機関と制度 障害者自立支援法における障害者の就労支援制度	事前学習	就労移行支援、就労継続支援について調べる
		事後学習	就労移行支援、就労継続支援についてまとめる
第 5 回	障害者の就労支援 (4) 障害者雇用政策における就労支援、専門職の役割	事前学習	機関・施設に配置されている専門職について調べる
		事後学習	専門職の役割についてまとめる
第 6 回	障害者の就労支援 (5) 民間の取り組み 差別禁止法と雇用率制度	事前学習	差別禁止法について調べる
		事後学習	差別禁止法と雇用率制度の長所と短所についてまとめる
第 7 回	障害者の就労支援についてまとめ、説明する 障害者の就労支援の実際 (事例を基に理解する)	事前学習	障害者の就労支援についてまとめ、説明できるようにする
		事後学習	事例から気づいたことをまとめる
第 8 回	労働を取り巻く状況 労働市場の変化	事前学習	大学新卒の就職率を調べる
		事後学習	ワーク・ライフ・バランスについてまとめる
第 9 回	労働政策の概要 労働に関する法規の動向、労働に関する公的保険	事前学習	労働法規に関する法律を調べる
		事後学習	労働法規の内容をまとめる
第 10 回	労働市場の変化、ワーク・ライフ・バランス、労働法規・労働に関する公的保険についてまとめ、説明する、事例を基に労働紛争の実際を考える	事前学習	労働法規についてまとめ、説明できるようにする
		事後学習	労働者を守るための制度についてまとめる
第 11 回	生活保護制度における就労支援 (1) 低所得者への就労支援の現状・就労支援機関と制度	事前学習	生活保護受給者、母子家庭の現状について調べる
		事後学習	低所得者の就労支援制度についてまとめる
第 12 回	生活保護制度における就労支援 (2) 専門職・団体の役割とその連携、今後の展望	事前学習	福祉事務所・ハローワークの役割について調べる
		事後学習	低所得者の就労支援の課題についてまとめる
第 13 回	低所得者に対する就労支援の制度についてまとめ、説明する、低所得者に対する就労支援を事例を使い考察する	事前学習	低所得者に対する就労支援制度についてまとめ、説明できるようにする
		事後学習	考察についてまとめる
第 14 回	就労支援におけるケアマネジメント、ネットワークの有用性と社会資源としての活用	事前学習	ケアマネジメントの理論についてまとめる
		事後学習	就労支援におけるケアマネジメントをまとめる
第 15 回	連携・ネットワーキングの実際、ジョブコーチ	事前学習	ジョブコーチについて調べる
		事後学習	ジョブコーチモデルについてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害児・者の心理 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3332 SNMP3332 SCMP3332 SBMP3332 EDPS3304 PSMP3124
2. 授業担当教員	松坂 秀雄			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	3 年次以上			
7. 講義概要	様々な障害の特性によってもたらされる様々な心理的影響を知り、併せて、それぞれの障害を持つことでの発達段階に応じた心理的影響も理解する。また、障害を持つ当事者だけでなく、その人を取り巻く家族の心理を理解する。そして、障害の特性に応じた心理的援助のあり方について学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障害の種類について理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害に種別に応じた援助のあり方を理解し、自分の考えを述べるができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	以下の設題のレポート課題を課する。 設題：様々な障害種別の中から、一つの障害を取り上げ、その障害に由来する固有の心理的特性とそれに対する心理的援助について1000字～1200字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池田勝昭・目黒達哉共編著『障害者の心理「こころ」・育ち、成長、かかわり-』学術図書出版社、2007 年。 【参考書】 昇地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子編『障害特性の理解と発達援助第 2 班』ナカニシヤ出版、2001 年。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005 年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007 年。			
11. 成績評価の方法	学習ノート 30% 課題レポート 30% 期末試験 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	本授業の目的達成のために、受講生は以下の条件を守ること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚 (センス) を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守る。宿題 (アサイメント) は指示された期限までに必ず行うこと、及びレポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をつしむこと。(明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格に対処する。) 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 専門用語は分かりやすく説明し、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加できるよう双方対話型の学習環境を作る。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 「障害をもつこと」に対するとらえ方の変遷を知る。	事前学習	「障害者」という言葉から、自分が連想することを 3 つ箇条書きにする。	
		事後学習	障害に対するとらえ方を学習ノートにまとめる。	
第 2 回	様々な「障害をもつこと」に共通する心理を理解する。	事前学習	テキスト pp.1～6 を通読する。	
		事後学習	「障害を持つこと」の一般的な心理を学習ノートにまとめる。	
第 3 回	肢体不自由の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.56～62 を通読する。	
		事後学習	肢体不自由児・者の基礎的理解を学習ノートにまとめる。	
第 4 回	内部障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	内部障害の種類を調べて、学習ノートにまとめる。	
		事後学習	慢性疾患による心理的問題を学習ノートにまとめる。	
第 5 回	視覚障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.20～29 を通読する。	
		事後学習	先天盲児の特性について学習ノートにまとめる。	
第 6 回	聴覚障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.30～36 を通読する。	
		事後学習	聴覚障害児・者のコミュニケーションについて学習ノートにまとめる。	
第 7 回	知的障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.66～78 を通読する。	
		事後学習	知的障害児・者の問題行動が持つ意味を学習ノ	

			トにまとめる。
第 8 回	自閉症スペクトラム障害（自閉症の心理を中心として）の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.80～88 を通読する。
		事後学習	発達障害を背景とする二次障害を学習ノートにまとめる。
第 9 回	発達障害（注意欠陥多動性障害等）の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.90～97 を通読する。
		事後学習	発達障害を背景とする二次障害を学習ノートにまとめる。
第 10 回	精神障害の心理的特性と援助について理解する（統合失調症を中心に）。	事前学習	統合失調症について調べ、学習ノートにまとめる。
		事後学習	心理教育の意味について学習ノートにまとめる。
第 11 回	様々な障害に伴う精神疾患（うつ病等）に対する心理的援助について理解する。	事前学習	うつ病について調べ学習ノートにまとめる。
		事後学習	うつ病の心理的支援の要点について学習ノートにまとめる。
第 12 回	障害児・者の心理的問題を理解する技法について学習する。	事前学習	発達検査について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	心理検査の種類について学習ノートにまとめる。
第 13 回	障害児・者の心理的問題への援助の技法について学習する。	事前学習	テキスト pp.167～170 を通読する。
		事後学習	行動療法と動作法の要点を学習ノートにまとめる。
第 14 回	障害の「受容」というプロセスについて理解する。	事前学習	テキスト pp.112～117 を通読する。
		事後学習	障害受容の発達段階について学習ノートにまとめる。
第 15 回	家族の心理と支援について理解する。	事前学習	テキスト pp.215～222 を通読する。
		事後学習	家族に対する心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害児教育課程論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3452 SNMP3452
2. 授業担当教員	須藤 典征			SCMP3452 SBMP3452 SSMP3352
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学び合いを重視します。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育課程とは、学校の教育目標の具現化をめざし、指導内容を総合的に組織した学校の教育計画であり、指導計画を具体化したものである。特別支援学校においてはその教育目的が学校教育法第 72 条において「障害による学習上または生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けること」となっている。特別支援学校、特別支援学級における教育課程の構成、具体的な指導内容について検討し、学習指導要領に基づいた教育実践について理解し、指導実践力を高める。			
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 障害に応じた特別支援学校の教育課程について理解し、説明できる。 2. 教科別の指導、領域別の指導内容について理解し、説明できる。 3. 「領域・教科を合わせた指導」の種類や特徴、具体的な指導内容について理解し、説明できる。 4. 「自立活動」の目標及び内容について理解し、個に応じた授業内容等を計画できる。 5. 個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成及び活用について理解し、作成する事ができる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	障害者の権利に関する条約第24条の「合理的配慮」についてのレポート (1000~1200字)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 1 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』 2 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説総則等編 (高等部)』 3 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』 【参考書】 ※適宜資料を配布する。			
11. 成績評価の方法	・講義中の態度 40%、レポート課題提出 30%、期末試験 30%で総合評価を行う。			
12. 受講生へのメッセージ	「教育課程」という言葉そのものが誤解されていることが多いようです。「教育課程」とは年間の授業計画のみを指し示すものではなく、学校経営に係るすべての教育活動を組み合わせた全体計画のことを指します。すなわち教育課程を編成するためには学校目標とは何か、学校経営とは何か、また校長の権限とはなど、単に指導・支援に係るノウハウだけに留まらない幅広い知識が要求されることとなります。自らが教師になった時、教育者として誰からも信頼され、愛されるような人間形成を目指し、ともに歩んでいきましょう。			
13. オフィスアワー	講義開始前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション&「教育課程」とは？ —学校目標、経営計画、重点課題など—	事前学習	「教育課程」という言葉を説明できるよう文献、インターネットなどで情報を集め、簡単にノートにまとめておく。	
		事後学習	「教育課程とは何か」について再確認する。	
第 2 回	特別支援学校の教育課程① —学級編制、指導形態、指導内容など—	事前学習	学習指導要領をよく読み、予習しておく。	
		事後学習	小中学校等と特別支援学校の学級編制の違いについて再確認する。	
第 3 回	特別支援学校の教育課程② —学習指導要領について—	事前学習	学習指導要領に関する基本的な知識について、よく読んで予習しておく。	
		事後学習	特別支援学校の学習指導要領の特徴について再確認する。	
第 4 回	特別支援学校の教育課程③ —各障害別特別支援学校の教育課程—	事前学習	5 障害種の特別支援学校それぞれの教育課程の特徴に関する資料をよく読み、予習しておく。	
		事後学習	それぞれの障害種別特別支援学校の教育課程の違いについて、再確認する。	
第 5 回	特別支援学校の教育課程④ —年間指導計画、シラバスなど—	事前学習	特別支援学校の年間指導計画編成についてよく読み、予習しておく。	
		事後学習	年間指導計画の作成において配慮すべき点について再確認する。	
第 6 回	領域・教科を合わせた指導① —自立活動—	事前学習	特別支援学校の年間指導計画編成についてよく読み、予習しておく。	
		事後学習	年間指導計画の作成において配慮すべき点について再確認する。	
第 7 回	領域・教科を合わせた指導② —日常生活の指導、「遊び」—	事前学習	教科書「学習指導要領自立活動編」を読み、自立活動の六つの内容について文言を暗記し発表できるようにする。	
		事後学習	「六つの内容」について授業中に実施した小テストをやり直しながら確実に覚えるよう再確認する。	
第 8 回	領域・教科を合わせた指導③ —生活単元学習—	事前学習	教科書「小中学校編」の知的障害特別支援学校の教育課程に関するページを読み「日常生活の指導」とは何か、を説明できるようにする。	
		事後学習	「日常生活指導の指導」について再確認する。また「教育課	

			程」に関する課題に沿ったレポート（400 字）を作成し提出する。
第 9 回	領域・教科を合わせた指導④ —作業学習—	事前学習	教科書「小中学校編」の知的障害特別支援学校の教育課程に関するページを読み「生活単元学習」とは何か、を説明できるようにする。
		事後学習	「生活単元学習」について確実に説明できるよう再確認する。
第 10 回	教科の指導 —国語、算数、技能教科ほか—	事前学習	教科書「高等学校編」の知的障害特別支援学校の教育課程に関するページを読み「作業学習」とは何か、を説明できるようにする。
		事後学習	特別支援学校における教科指導の意義、目的等について再確認する。また特別支援学校の授業に関する課題に沿ったレポート（400 字）を作成し提出する。
第 11 回	道徳、特別活動と学校行事 —年間計画の中の学校行事—	事前学習	特別支援学校における道徳の指導とは何かイメージし、特に知的障害がある児童生徒への道徳教育とは何か、を説明できるようにする。
		事後学習	特別支援学校における道徳教育の難しい面を再確認する。
第 12 回	個別の指導計画、教育支援計画について① —目的、位置づけ、関連性、内容—	事前学習	個別の指導計画、教育支援計画を作成する目的が何なのか、を説明できるよう読んでおく。
		事後学習	これらの計画をどう活用していくのか、という課題を考える。
第 13 回	個別の指導計画、教育支援計画について②	事前学習	指導計画は現在、単に教師の思いだけで作成するものではないことを理解し、作成のプロセスについて説明できるようにしておく。
		事後学習	提示されたモデルケースに沿って自分なりに個別の指導計画を作成し提出する。
第 14 回	特別支援学級の教育課程 —特別支援学級の種類、編成、指導内容—	事前学習	小中学校の特別支援学級における教育課程と特別支援学校の教育課程の違いを説明できるようにする。
		事後学習	特別支援学級の教育課程について再確認する。
第 15 回	まとめ —教職員として必要な知識ほか—	事前学習	全講義を通じて関心が高かったテーマを選び、それになぜ関心を持ったのか、を説明できるよう準備する。
		事後学習	特別支援教育の教育課程の種類について、確実に覚える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害児教育論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2449 SNMP2449 SCMP2449 SBMP2449 SSMP2349
2. 授業担当教員	上田 征三		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>リハビリテーションとノーマライゼーションの国際的進展を背景とするインクルーシブ教育に関しては、わが国でも課題となり、教育制度の大幅な見直しとしてなされようとしている。これをふまえ、以下に関して理解を深め学習する。</p> <p>①障害児教育のあゆみ ②障害児・者の状況と我が国の教育制度 ③知的障害者の理解と指導 ④肢体不自由者の理解と指導 ⑤病弱者の理解と指導 ⑥視覚・聴覚障害者の理解と指導 ⑦重度重複障害・LD等の理解と指導 ⑧教育課程について</p> <p>さらに、就学前や就学期はもとより将来の本人の自立・社会参加を念頭に置いた新たな教師の役割を理解する。</p>		
8. 学習目標	<p>以下に関して学習し理解を深め、説明することができる。</p> <p>1. 特別支援教育の基本ー障害とはーについて 2. 特別支援教育の歴史について 3. 障害児の発達特性と教育方法について 4. 発達障害のある子どもの理解と教育支援について 5. 特別支援教育における教育課程について 6. 障害児の発達のアセスメントと支援について 7. 特別支援教育に関わる教師や療育の専門家について 8. 特別支援教育の課題について</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 授業内容に沿った小テストを13回実施 (到達度評価) する。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート (手書き) を課す。 3. 小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備する。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第3版) ミネルヴァ書房、2013。</p> <p>【参考書】 石部元雄・柳本雄次共編『特別支援教育ー理解と推進のためにー』(改訂版) 福村出版、2011。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚園・小学部・中学部)』教育出版、2009。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部・高等部)』海文堂、2009。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2015。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>受講態度 (総合点の 30%) レポート・小テストなど (総合点の 30%) 期末試験 (総合点の 40%)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。</p>		
13. オフィスアワー	授業以外の時間 (予約をお願いすることもある)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	特別支援教育の基本 ①「障害」とは ②障害の構造的理解「よくわかる障害児教育」 (p.2~)	事前学習	pp.2-9 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト①の準備をする。
第 2 回	特別支援教育の基本 ③インクルージョンに向けて ④障害の受容 (p.10~)	事前学習	pp.10-17 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト①の準備をする。
第 3 回	特別支援教育の基本 ⑤「自分らしく生きる」ということの支援 ⑥障害者の権利擁護の現状と課題 (p.18~)	事前学習	pp.18-25 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト②の準備をする。
第 4 回	特別支援教育の歴史と課題 ①障害児教育の始まりと公教育 ②わが国の特別支援教育の現状 (p.26~)	事前学習	pp.26-35 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト①の復習しノートにまとめる。小テスト③の準備をする。
第 5 回	障害児教育から特別支援教育へ ①日本の特別支援教育 ②諸外国の特別支援教育	事前学習	pp.36-53 で熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。

	(p.36～)	事後学習	小テスト②復習しノートにまとめる。小テスト④の準備をする。
第 6 回	障害児の発達特性と教育方法 ①障害発生とライフコース、視覚障害 ②聴覚障害 (p.54～)	事前学習	pp.54-65 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト③の復習しノートにまとめる。小テスト⑤の準備をする。
第 7 回	障害児の発達特性と教育方法 ③知的障害 ④自閉症 (p.66～)	事前学習	pp.66-75 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト④の復習しノートにまとめる。小テスト⑥の準備をする。
第 8 回	障害児の発達特性と教育方法 ⑤肢体不自由 ⑥病弱 (p.76～)	事前学習	pp.76-85 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑤の復習しノートにまとめる。小テスト⑦の準備をする。
第 9 回	障害児の発達特性と教育方法 ⑦言語障害 ⑧情緒障害 ⑨重度・重複障害、「自立活動」 (p.86～)	事前学習	pp.86-101 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑥の復習しノートにまとめる。小テスト⑧の準備をする。
第 10 回	発達障害のある子どもの理解と教育支援 ①学習障害、ADHD、高機能自閉症 (p.102～)	事前学習	pp.102-113 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑦の復習しノートにまとめる。小テスト⑨の準備をする。
第 11 回	特別支援教育における教育課程、指導要録の改善と教育評価 (p.114～)	事前学習	pp.114-131 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑧の復習しノートにまとめる。小テスト⑩の準備をする。
第 12 回	障害児の教育のアセスメントと支援、特別支援教育・療育の専門職の資格と養成 (p.132～)	事前学習	pp.132-153 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑨の復習しノートにまとめる。小テスト⑪の準備をする。
第 13 回	特別支援教育の課題 ①就学前、統合保育、交流教育、教育相談 (p.154～)	事前学習	pp.154-165 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑩の復習しノートにまとめる。小テスト⑫の準備をする。
第 14 回	特別支援教育の課題 ②学習障害、コミュニケーション、「気になる子」、医療、福祉、親のあり方 ※1 回から 14 回目までに教材用ビデオを 3 回使用予定 (p.166～)	事前学習	pp.166-187 の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートにまとめる。
		事後学習	小テスト⑪の復習しノートにまとめる。小テスト⑬の準備をする。
第 15 回	まとめ	事前学習	小テスト⑫の復習しノートにまとめる。テキスト、ノート、閉じた小テストやプリントのまとめをする。
		事後学習	期末試験準備をする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2301 SSMP2101
2. 授業担当教員	斎藤 和男			
4. 授業形態	講義・ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>			
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具体的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーキング ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・障害者総合支援法・国際障害分類 (ICIDH) 及び国際生活機能分類 (ICF) ・障害者雇用に関する課題レポート3題 (字数1600程度) を提出する。 執筆内容の詳細については本講義中に指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第5版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>試験・レポート課題 60% 授業参加度 30% 授業態度 10% 授業での積極的な発言や発表を評価します。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>障害者の支援は、措置制度から支援費制度、さらには障害者自立法から障害者総合支援法へと大きな変動を経てきている。このような制度の変遷を理解するとともに、障害者への支援が法律に基づく制度支援としての福祉サービスにとどまるだけではなく、福祉現場での相談業務や作業支援・介護支援、さらにはグループ活動への具体的な支援を通して、障害当事者や家族に直接関わる福祉専門職員の役割や専門職倫理が求められている。単なる社会的弱者としてではなく、障害者の可能性に着目し、人間的・人格を尊重した支援であることを自覚しつつ学習に取り組むんでほしい。</p> <p>①授業中に私語、居眠り、飲食をしないこと ②教室を散らかしたり、机を汚したりしないこと ③マナーを守り、大学生としてまた社会人としての自発的な学習態度を維持すること ④教科書及び「社会福祉六法」は必ず今年度のものを購入すること</p>			
13. オフィスアワー	授業日を原則とする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 ・障害の概念 ・障害者の実態 (障害種類、原因、疾患別生活実態等) ・障害者の地域移行や就労の実態	事前学習	教科書第1章「障害者を取り巻く社会情勢と生活実態」を通読しておくこと。	
		事後学習	障害とは何かを国際障害分類を中心にまとめ、身近な障害者の事例を学習ノートで考察して理解を深める。	
第2回	2 障害者福祉制度の発展過程 ・障害者福祉とは ・国際的動向 (ノーマライゼーションなど) ・日本の障害者福祉の動向	事前学習	教科書の第1章第1節「障害者を取り巻く社会情勢」を熟読しておくこと。	
		事後学習	授業で討論した知見や気づきを学習ノートにまとめ理解を深める。	
第3回	3 障害者総合支援法 ・障害者総合支援法の目的と手続 ・障害者福祉の種類と内容 ・権利擁護と苦情解決	事前学習	教科書第3章第1節「障害者総合支援法の理念・考え方」を通読しておくこと。	
		事後学習	障害者支援法について授業で気づいた大切な点について学習ノートにまとめる。	
第4回	4 組織及び団体の役割と実際 ・国や地方公共団体の役割 ・民間非営利団体及び民間営利団体の役割	事前学習	教科書第5章「組織・機関の役割」を熟読しておくこと。	
		事後学習	気づいた点や気になる点を学習ノートにまと	

	・労働関係機関及び教育機関の役割		める。
第 5 回	5 専門職の役割と実際 ・相談支援専門職の役割 ・サービス管理責任者の役割 ・居宅介護従事者の役割	事前学習	教科書第 6 章「専門職の役割と実際」を通読しておくこと。
		事後学習	基本相談支援、地域相談支援、計画相談支援について十分理解し学習ノートにまとめる。
第 6 回	6 他職種連携、ネットワークと実態 ・医療関係者との連携 ・労働関係者との連携 ・教育関係者との連携 ・連携の方法と実際	事前学習	教科書第 7 章「他職種・ネットワーク」を通読すること（福祉観の変化に注目）。
		事後学習	当事者の主体的な生活とは何かを考察しながら生活者支援の連携について学習ノートにまとめる。
第 7 回	7 相談支援事業所の役割と実際 ・相談支援事業所の組織体系 ・相談支援事業所の活動の実際	事前学習	教科書第 3 章第 6 節「地域生活支援事業」を熟読しておくこと
		事後学習	事業所の見学やボランティア体験も考える。
第 8 回	8 身体障害者福祉法 ・身体障害者福祉法の概要 ・身体障害者手帳と関連制度	事前学習	身体障害者福祉法を小六法で通読しておく。
		事後学習	法の制定経緯と法の目的についてポイントを整理する。
第 9 回	9 知的障害者福祉法 ・知的障害者福祉法の概要 ・療育手帳と関連制度	事前学習	知的障害者福祉法を小六法で通読しておく。
		事後学習	法の制定経緯と法の目的についてポイントを整理する。
第 10 回	10 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要 ・精神保健福祉手帳と関連制度	事前学習	精神保健福祉法を小六法で通読しておく。
		事後学習	法の制定経緯と法の目的についてポイントを整理する。
第 11 回	11 発達障害者支援法 ・発達障害者支援法の概要 ・発達障害者支援センターの役割	事前学習	発達障害者支援法を小六法で通読しておく。
		事後学習	法の制定経緯と法の目的についてポイントを整理する。
第 12 回	12 障害者基本法 ・障害者基本法の概要 ・2004 年 6 月の改正とその経緯 ・その他の障害や難病について（国会付帯決議など	事前学習	発達障害者支援法を小六法で通読しておく。
		事後学習	法の制定経緯と法の目的についてポイントを整理する。
第 13 回	13 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の概要と課題	事前学習	教科書第 2 章第 7 節「医療観察法」を通読しておく
		事後学習	法の目的、対象、手続きについて整理する。
第 14 回	14 高齢者障害者の移動等の円滑化促進に関する法律 ・上記法律の概要 ・バリアフリー社会の実現と課題	事前学習	小六法の「バリアフリー新法」を通読しておく。
		事後学習	法の目的、基本方針を理解し整理する。
第 15 回	15 障害者の雇用の促進に関する法律 ・障害者の雇用の促進に関する法律の概要 ・障害者の雇用・就労に関する課題	事前学習	障害者雇用促進法を通読しておく。
		事後学習	法の目的、主な内容等を理解し要点を整理する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害の理解Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3115
2. 授業担当教員	山下 喜代美			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	医学的側面からの基礎知識として、身体、精神、知的・発達障害、難病などについて学び、その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得することをねらいとする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各機能障害の原因を学び、症状や特性を理解することができる。 2. 各種障害による身体的・心理的影響について考えることができる。 3. 各機能障害がある場合の生活への影響について正しく認識することができる。 4. 症状や合併症に応じた介護の留意点について考えることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	事前事後学習用のノートを準備し、毎回必ず実施しておいてください。 ノートは適宜提出を求め、学習状況を確認します。 それぞれの障害に関連する身体構造と機能について理解しておいてください。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 最新介護福祉全書 11 こころとからだのしくみ 『障害の理解』メジカルフレンド社。			
11. 成績評価の方法	授業態度 10% 事前事後学習ノート 20% 期末試験 70%			
12. 受講生への メッセージ	介護福祉士として生活支援を展開する上で障害を理解することはとても重要なことです。 医学的知識、用語について確実に理解してください。 この科目は、生活支援技術形態Ⅱと同時進行していきます。ここでは障害の知識を身に付け、根拠ある介護技術を実践できるようにしてください。			
13. オフィスアワー	時間割決定後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 本講義について説明 視覚障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響) 聴覚障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響) 重複障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	シラバスを読んでおく 視覚、聴覚に関する身体構造と機能を復習しておく	
		事後学習	それぞれの障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 2 回	言語障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	言語に関する身体構造と機能を復習しておく	
		事後学習	言語障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 3 回	心臓機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	心臓の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	心臓機能障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 4 回	呼吸器機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	呼吸器の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	呼吸器機能障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 5 回	腎臓機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	腎臓の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	腎臓機能障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 6 回	膀胱・直腸の機能障害を理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	膀胱、直腸の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	膀胱・直腸の機能障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 7 回	小腸の機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響) 肝臓機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響) ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	小腸の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	小腸、肝臓の機能障害による日常生活の不自由さを整理する	
第 8 回	肢体不自由 (運動機能障害) の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	運動に関する身体構造と機能を復習しておく	
		事後学習	肢体不自由による日常生活の不自由さを整理する	
第 9 回	高次脳機能障害の理解① 定義 原因となる疾患、 認知系の症状	事前学習	脳の構造と機能を復習しておく	
		事後学習	認知系の症状を整理しておく	
第 10 回	高次脳機能障害の理解② 認知系の障害による日常生活への影響	事前学習	記憶障害による日常生活への影響を考慮しておく	
		事後学習	半側空間無視の方の生活状態を整理する	
第 11 回	高次脳機能障害の理解③ 行為系の症状 日常生活への影響	事前学習	失行と定義される条件をまとめる	
		事後学習	着衣失行の生活状態を整理する	
第 12 回	難病の理解 (疾患の特徴、症状、心理的影響)	事前学習	難病の定義を確認する	
		事後学習	ALS の経過を整理する	
第 13 回	精神障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	精神障害の特性を読んでおく	
		事後学習	精神障害による生活への影響を整理する	
第 14 回	発達障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	発達のしくみを読んでおく	
		事後学習	発達障害の特徴を整理する	
第 15 回	知的障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響) 重症心身障害の理解 (原因となる疾患、症状、心理的影響)	事前学習	重症心身障害児の定義を確認する	
		事後学習	重症心身障害児の自立支援の考え方をまとめる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1353 GELA1333
2. 授業担当教員	高木 俊彦	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>		
8. 学習目標	<p>1 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</p> <p>4 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	非行事例に関するアセスメントや処遇方針の作成等を中心とするレポートの作成・提出。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 伊藤富士江編著『司法福祉入門』第2版増補 上智大学出版発行、(株)ぎょうせい製作・発売。 講師作成の資料</p> <p>【参考書】 小林寿一編著『少年非行の行動科学』北大路書房。 松本勝編著『更生保護入門』成文堂。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・日常の授業態度(授業への積極的参加度、私語の有無、グループ討議への参加度)・・・40%</p> <p>・研究課題への回答・レポート・小テスト等(受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う)・・・60%</p> <p>を評価配分の基準とするが、以上を総合して行う。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>1 常に新聞・テレビ・雑誌・インターネットなどマスメディアに関心を寄せ、社会事象である少年非行の問題について考える習慣を身に付けること。</p> <p>2 全員が授業に集中すること。私語、携帯電話・スマホ等ON、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時(初回授業)に担当教員からお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション及び少年非行・犯罪に対する基礎知識の確認(刑罰や犯罪・非行対策の歴史を含む)	事前学習	犯罪や非行に関する自分自身の知識を想起し、整理しておく。
		事後学習	オリエンテーション及び少年非行・犯罪に対する基礎知識について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第2回	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向	事前学習	テキスト pp.3~36 を精読のこと。
		事後学習	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第3回	少年非行の原因と説明理論(非行原因論等)	事前学習	犯罪や非行の原因について文献等を調べるとともに、自分自身の考えを整理しておくこと。
		事後学習	非行原因論等について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第4回	少年非行の諸相① 凶悪・粗暴な非行	事前学習	凶悪・粗暴な非行の例を各自1例調べ、整理しておくこと。
		事後学習	凶悪・粗暴な非行について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第5回	少年非行の諸相② 暴走族など非行集団	事前学習	暴走族や地域不良集団などの非行集団の現状について調べ、整理しておくこと。
		事後学習	暴走族や地域不良集団などについて、学んだことを学習ノートにまとめる。
第6回	少年非行の諸相③ 女子非行、性非行、ネット犯罪	事前学習	女子非行、性非行、ネット犯罪についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	女子非行、性非行、ネット犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。

第 7 回	少年非行の諸相④ いじめ、学校内暴力、家庭内暴力（ストローク理論）	事前学習	いじめ、学校内暴力、家庭内暴力についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	いじめ、学校内暴力、家庭内暴力、ストローク理論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 8 回	少年非行の諸相⑤ 万引き、薬物非行、交通非行	事前学習	万引き、薬物非行、交通非行についての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	万引き、薬物非行、交通非行について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 9 回	虐待や暴力にみる被害から加害への転化と暴力の連鎖 一事例研究	事前学習	虐待、DVについての最近の例を調べ、整理しておくこと。
		事後学習	虐待、DV、暴力の連鎖について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 10 回	非行を未然に防止する活動（地域の非行防止活動と警察における少年相談）	事前学習	テキスト pp.103～125 を精読のこと。
		事後学習	警察などにおける非行を未然に防止する活動について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 11 回	少年事件の法的手続き—家庭裁判所	事前学習	テキスト pp.3～99 を精読のこと。
		事後学習	家庭裁判所について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 12 回	非行少年の処遇① 児童相談所と少年鑑別所	事前学習	テキスト pp.128～155 を精読のこと
		事後学習	児童相談所と少年鑑別所について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 13 回	非行少年の処遇② 少年院	事前学習	テキスト pp.159～182 を精読のこと。
		事後学習	少年院について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 14 回	非行少年の処遇③ 保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等）—ビデオ視聴—	事前学習	テキスト pp.202～278 を精読のこと。
		事後学習	保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等）について学んだこと、及びビデオ視聴の感想を学習ノートにまとめる。
第 15 回	犯罪・非行の被害者支援	事前学習	テキスト pp.281～312 を精読のこと。
		事後学習	犯罪・非行の被害者支援について、学んだことを学習ノートにまとめる。
期末試験（受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う）			

1. 科目名 (単位数)	情報科指導法 I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3344
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学習する。「情報科指導法 I」では、教科「情報」の設定の趣旨や、科目のねらいを理解するとともに、情報教育の3つの目標である、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」を育成するための具体的な授業展開のしかたについて、実習を通して具体的に学習する。			
8. 学習目標	教科「情報」の成り立ちや意義、教科編成などに関して理解すると共に、情報科教員として必要な知識、技能を身につけることができる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	データ処理実習における、処理結果等のファイルの提出を求める。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 久野靖/辰巳丈夫『情報科教育法 改訂2版』オーム社。 『高等学校学習指導要領解説情報編』文部科学省。			
11. 成績評価の方法	試験 50% 課題提出 30% 受講姿勢 20% ※講義中の質問・発言・発表等に関して、状況に応じて点数を与える場合があります。たとえ、発言内容に間違いがあったとしても、それによって減点することはありませんので恐れずに発言してください。			
12. 受講生への メッセージ	教科「情報」は、新しく導入された教科であるため、学校教育現場への専門の教員の配置が不十分な教科です。そのため、学生諸君も、きちんとした授業を受けてこなかった可能性の高い教科でもあります。また、「情報」という学問分野は、非常に守備範囲が広く、個々の分野に関して場当たりの学習を行っても、全体像は見えてきません。このような状況では、やはり基礎理論をきちんと理解して、それを元に体系的に理解していくのが一番です。内容的には、理論的学習が大きなウェイトを占めますが、頑張ってください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	教科「情報」の概要、 情報教育の歴史的経緯	事前学習	教科書の序章と1章を読んでおく	
		事後学習	教科書第1章の演習問題	
第2回	学習指導要領における情報教育	事前学習	教科書の序章と2章を読んでおく	
		事後学習	教科書第1章の演習問題	
第3回	情報活用の実践力の指導法 (1)	事前学習	教科書の序章と3・1～3・3項を読んでおく	
		事後学習	初等教育における情報教育と中等教育におけるものを比較考察する	
第4回	情報活用の実践力の指導法 (2)	事前学習	教科書の序章と3・4～3・5項を読んでおく	
		事後学習	教科書第3章の演習問題	
第5回	情報の科学的理解の指導法 (1)	事前学習	教科書の序章と4・1～4・2項を読んでおく	
		事後学習	情報の科学的理解の学習と計算機科学の関係について考察	
第6回	情報の科学的理解の指導法 (2)	事前学習	教科書の序章と4・3項を読んでおく	
		事後学習	教科書第4章の演習問題	
第7回	情報社会に参画する態度の指導法 (1)	事前学習	教科書の序章と5・1項を読んでおく	
		事後学習	小学校段階からの情報モラル教育の必要性に関する考察	
第8回	情報社会に参画する態度の指導法 (2)	事前学習	教科書の序章と5・2項を読んでおく	
		事後学習	教科書第5章の演習問題	
第9回	情報理論の基礎 (1)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	情報理論の概要や情報教育との関係を理解する	
第10回	情報理論の基礎 (2)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	情報量等の基本概念に関しての理解を確認する	
第11回	アナログとデジタル (演習1)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	アナログとデジタルの概念を確認する	
第12回	アナログとデジタル (演習2)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	アナログデジタル変換技術に関して理解を深める	
第13回	学校と著作権問題	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	著作権問題における学校の特殊性を理解する	
第14回	学校と個人情報	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	学校における個人情報保護の重要性を理解する	
第15回	学校のセキュリティと情報モラル	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	セキュリティを確保するための基本操作を実際に試してみる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに課題を出し、指定する期日までに提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末レポートにより総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	この講義では、大学生として最低限身につけるべき事柄を扱います。最終的には本講義で扱う各学習テーマの全てを習得して、その後の勉強や活動に役立たせてほしいと思っています。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：コンピュータ利用に関する確認、 情報処理学習室の使い方、質問・相談	事前学習	これまでに学んだ情報処理やコンピュータ操作の内容について各自で確認しておくこと。	
		事後学習	コンピュータの使い方について、個人での利用と大学や社会での利用の違いについて考える。	
第 2 回	コンピュータの基礎知識 ：PCの使い方、OSの基本操作、	事前学習	Operating System (OS)について調べる。	
		事後学習	パソコンの基本操作を確認して、使い方に慣れる。	
第 3 回	ファイル操作、ドライブとメディア	事前学習	インターネットについて、これまでどのような利用をしたことがあるのかをまとめる。	
		事後学習	インターネットを活用して情報検索を行う。	
第 4 回	インターネット ：ブラウザの利用、web 紹介、情報検索など	事前学習	ネットワークにおけるプロトコルについて調べる。	
		事後学習	URL について、その意味や日常での使われ方をまとめる。	
第 5 回	インターネット ：しくみに関する基礎知識 (プロトコル、ドメインなど)	事前学習	パソコンで利用する電子メールについて調べる。	
		事後学習	携帯電話やスマートフォンのメールと、パソコンのメールとの違いをまとめる。	
第 6 回	電子メール ：メール管理方法、アドレス帳、ファイル添付、 ネチケット	事前学習	電子メール利用のマナーについて調べたうえで自分の考えをまとめる。	
		事後学習	メールを実際に使って、その使い方に慣れる。	
第 7 回	情報セキュリティ ：コンピュータウイルス、脆弱性、暗号化、 スパムメールなど	事前学習	コンピュータウイルスについて調べる。	
		事後学習	情報セキュリティの観点から、日常で気をつけるべきことをまとめる。	
第 8 回	Microsoft Word (1) ：基本操作、ファイルの作成・保存、文書の作成	事前学習	ワープロソフトについて、これまでどのような利用をしたことがあるのかをまとめる。	
		事後学習	Word の基本操作を確認して、その使い方に慣れる。	
第 9 回	Microsoft Word (2) ：ページ設定、文字の編集 (書体、大きさ、 装飾)	事前学習	書体について、どんな種類があり、どのように分類されているのかを調べる。	
		事後学習	文字の編集について、操作方法を確認する。	
第 10 回	Microsoft Word (3) ：行揃え、インデント	事前学習	インデントはどんな場合に使うのかを調べる。	
		事後学習	インデントの使い方を確認して、その操作に慣れる。	
第 11 回	Microsoft Word (4) ：罫線 (表の作成)	事前学習	Word における表の活用事例を調べる。	
		事後学習	表の作成の仕方を確認して、その操作に慣れる。	
第 12 回	Microsoft Word (5) ：図形描画、クリップアート	事前学習	Word における図形描画について調べて、どんなことができるのかを確認する。	
		事後学習	図形描画機能を使って、自由に図を描く練習をする。	
第 13 回	Microsoft Word (6)	事前学習	これまでに学習した機能や操作の確認をする。	

	: 基本機能を使った応用演習	事後学習	応用演習の課題に取り組み、理解が不十分な部分を復習する。
第 14 回	Microsoft Word (7) : 課題演習	事前学習	応用演習の課題に取り組み、理解が不十分な部分を予習する。
		事後学習	Word を使った操作について、理解が不十分な部分を確認する。
第 15 回	春期の学習内容のまとめと確認	事前学習	春期に扱った内容に関して、プリントやノートなどを確認する。
		事後学習	春期に扱った内容に関して復習をして、重要な部分をまとめる。
第 16 回	秋期イントロダクション : 春期内容の確認と秋期に扱うテーマの説明と事例紹介	事前学習	インターネットや電子メール、Word の使い方の確認をする。
		事後学習	プレゼンテーションや表計算の活用方法について考える。
第 17 回	プレゼンテーション技法 (1) : Microsoft PowerPoint の基本操作	事前学習	これまでにどんなプレゼンテーションを行ったことがあるのかをまとめる。
		事後学習	PowerPoint の基本操作について確認する。
第 18 回	プレゼンテーション技法 (2) : Microsoft PowerPoint を使ったビジュアル表現	事前学習	見やすいスライドを作るために気をつけることについて考える。
		事後学習	PowerPoint での図や画像の扱い方について確認する。
第 19 回	プレゼンテーション技法 (3) : 自己紹介をするスライドの作成	事前学習	プレゼン課題の内容について考える。
		事後学習	プレゼン課題に取り組み、操作方法などを確認する。
第 20 回	プレゼンテーション技法 (4) : 自己紹介をするスライドの作成	事前学習	プレゼン課題に取り組み、課題の完成を目指す。
		事後学習	周りの人のスライドについて、良い点と悪い点を考える。
第 21 回	Microsoft Excel (1) : 表計算ソフトの活用例の紹介、基本操作、データの入力	事前学習	これまでに Excel を使ってどんなことを行ったことがあるのかをまとめる。
		事後学習	Excel の基本操作について確認する。
第 22 回	Microsoft Excel (2) : 四則演算、数式	事前学習	Excel における数値計算について、基本操作を確認する。
		事後学習	日常において、Excel を使った数値計算をどんなことに活用できるのかを考える。
第 23 回	Microsoft Excel (3) : 基本的な関数 (合計、平均、最大値、最小値など)	事前学習	Excel における関数とは何かを調べる。
		事後学習	基本的な関数について、その使い方を確認する。
第 24 回	Microsoft Excel (4) : グラフの作成、グラフの特徴と利用	事前学習	グラフの種類と特徴について調べてまとめる。
		事後学習	グラフの作成方法を確認する。
第 25 回	Microsoft Excel (5) : 関数の利用 (if、count、rank など)	事前学習	If 関数について調べ、どのような場合に使われるのかを考える。
		事後学習	授業で取り上げた関数の使い方を確認する。
第 26 回	Microsoft Excel (6) : 基本機能を使った応用課題	事前学習	これまでに学習したことを確認する。
		事後学習	応用課題に取り組み、操作と内容を理解する。
第 27 回	Microsoft Excel (7) : 数値データの処理、並べ替え、フィルタリング	事前学習	数値データの並べ替えについて調べて、どんな利点があるのかを考える。
		事後学習	数値データの扱い方について確認して理解を深める。
第 28 回	Microsoft Excel (8) : 数値データ処理に関する応用課題	事前学習	学習した数値データ処理を今後どんなことに活用できるのかを考える。
		事後学習	応用課題を進め、Excel 操作と数値データについて理解を深める。
第 29 回	Microsoft Excel (9) : PowerPoint での表やグラフの利用	事前学習	PowerPoint での図表の使い方を復習しておく。
		事後学習	秋期の前半で取り組んだプレゼン課題のスライドを確認して、表やグラフの改善点を検討する。
第 30 回	秋期の学習内容のまとめと確認	事前学習	これまでの学習を振り返り、理解が不十分なところがないか確認する。
		事後学習	本授業で学んだことを、今後役に立てるために、これまでに取り組んだことを確認する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104
2. 授業担当教員	三好 一英		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上		
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義の中で、テーマごとに課題演習を行う。 適宜、小テストを行うことがある。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 久野靖(他)監修『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2016』日経 BP 社。 杉本くみ子・大澤栄子『30 時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』実教出版。 【参考書】 きたみ りゅうじ『キタミ式イラスト IT 塾 平成 28 年度「IT パスポート」』技術評論社。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他、講義中に適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	課題の提出回数と実技試験の結果により成績評価を行う。 なお、出席回数が満たない場合、単位は認められない。 すべての課題を提出かつ、実技試験に合格・・・A 1つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・B+ 2つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・B 3つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・C 4つの課題を未提出または、実技試験に不合格・・・F		
12. 受講生への メッセージ	・コンピュータ、インターネットに関する知識・操作技能は、現代社会を生きる上で、必須のスキルです。 ・大学でのレポート、プレゼン、実験結果の分析などで必要とされるスキルをまずは身につけましょう。 ・大学卒業後も社会人として活躍できるだけの知識、技能の習得に努めましょう。 ・コンピュータの操作技術の習得は一朝一夕には身につけません。 ・講義時間以外にも自主的に操作方法の習得に努めてください。		
13. オフィスアワー	授業前後の時間に非常勤講師室で質問等を受け付けます。気軽に来て下さい。 e-mail でも質問を受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：自己紹介、簡単なアンケート、情報処理実習室の使い方、	事前学習	教科書を入手し、一通り確認しておく
		事後学習	教科書 p2・p11 を読んでおく
第 2 回	情報とは何か：コンピュータの内部 Windows の基本操作 OS のはたらき	事前学習	「パソコンの内部、オペレーティングシステム、ユーザーインターフェイス」を読んでおく
		事後学習	コンピュータの内部、OS のはたらき、ユーザーインターフェイスについて具体的に復習して理解しておく
第 3 回	コンピュータの基本要素 インターネットの利用(1)：インターネットの仕組み	事前学習	「コンピュータの基本要素、インターネットの仕組み」を読んでおく
		事後学習	コンピュータの基本要素、インターネットの仕組みについて具体的に復習して理解しておく
第 4 回	情報の単位、演算方法 インターネットの利用(2)： Web ページと HTML	事前学習	「2 進法、ビットとバイト、Web ページと HTML」を読んでおく
		事後学習	情報の単位・演算方法、Web ページと HTML について具体的に復習して理解しておく
第 5 回	インターネットの利用(3)：Web ブラウザ	事前学習	「Web ブラウザ」を読んでおく
		事後学習	Web ブラウザについて具体的に復習して理解しておく
第 6 回	インターネットの利用(4)：電子メール	事前学習	「電子メール、メールコミュニケーション」を読んでおく
		事後学習	電子メール、メールコミュニケーションについて具体的に復習して理解しておく
第 7 回	ワープロソフト Microsoft Word (1) 基本操作	事前学習	「ワープロソフト」を読んでおく
		事後学習	アプリケーション、ワープロソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 8 回	コンピュータウイルス	事前学習	「コンピュータウイルス」を読んでおく

	Microsoft Word (2) 表の作成	事後学習	コンピュータウイルスについて具体的に復習して理解しておく
第 9 回	暗号化 Microsoft Word (3) 文書の編集	事前学習	「暗号化」を読んでおく
		事後学習	暗号化について具体的に復習して理解しておく
第 10 回	ネットショッピング Microsoft Word (4) 画像の貼り付け	事前学習	「ネットショッピング」を読んでおく
		事後学習	ネットショッピングについて具体的に復習して理解しておく
第 11 回	文字コード Microsoft Word (5) アウトライン	事前学習	「文字コード」を読んでおく
		事後学習	文字コードについて具体的に復習して理解しておく
第 12 回	フォント Microsoft Word (6) 課題演習	事前学習	「フォント」を読んでおく
		事後学習	フォントについて具体的に復習して理解しておく
第 13 回	表計算ソフト Microsoft Excel(1) 基本操作・データの入力	事前学習	「表計算ソフト」を読んでおく
		事後学習	表計算ソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 14 回	LINE Microsoft Excel(2) 表の作成	事前学習	「LINE」を読んでおく
		事後学習	LINE について具体的に復習して理解しておく
第 15 回	Facebook と SNS Microsoft Excel(3) 印刷	事前学習	「Facebook と SNS」を読んでおく
		事後学習	Facebook と SNS について具体的に復習して理解しておく
第 16 回	クックパッドと価格.com Microsoft Excel(4) 絶対参照・相対参照	事前学習	「クックパッドと価格.com」を読んでおく
		事後学習	クックパッドと価格.com について具体的に復習して理解しておく
第 17 回	ファイル圧縮の仕組み：音声圧縮の仕組み Microsoft Excel(5) 基本的な関数	事前学習	「オーディオファイル」を読んでおく
		事後学習	ファイル圧縮の仕組み：音声圧縮の仕組みについて具体的に復習して理解しておく
第 18 回	ファイル圧縮の仕組み：画像圧縮の仕組み Microsoft Excel(6) if 関数	事前学習	「画像ファイル」を読んでおく
		事後学習	画像ファイルについて具体的に復習して理解しておく
第 19 回	ファイル圧縮の仕組み：動画圧縮の仕組み Microsoft Excel(7) vlookup 関数	事前学習	「動画ファイル」を読んでおく
		事後学習	動画ファイルについて具体的に復習して理解しておく
第 20 回	LAN と Wi-Fi Microsoft Excel(8) 文字列操作	事前学習	「LAN と Wi-Fi」を読んでおく
		事後学習	LAN と Wi-Fi について具体的に復習して理解しておく
第 21 回	データベース Microsoft Excel(9) グラフの作成	事前学習	「データベース」を読んでおく
		事後学習	データベースについて具体的に復習して理解しておく
第 22 回	情報システム Microsoft Excel(10) データベース	事前学習	「情報システム」を読んでおく
		事後学習	情報システムについて具体的に復習して理解しておく
第 23 回	電子マネー Microsoft Excel(11) Word との連携	事前学習	「電子マネー」を読んでおく
		事後学習	電子マネーについて具体的に復習して理解しておく
第 24 回	プレゼンテーションソフト Microsoft Excel(12) 課題演習	事前学習	「プレゼンテーションソフト」を読んでおく
		事後学習	プレゼンテーションソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 25 回	ユニバーサルデザイン Microsoft PowerPoint(1) 基本操作, ファイルの作成・保存, 編集	事前学習	「ユニバーサルデザイン」を読んでおく
		事後学習	ユニバーサルデザインについて具体的に復習して理解しておく
第 26 回	メディアリテラシー Microsoft PowerPoint(2) 図表の貼りつけ, アニメーション	事前学習	「メディアリテラシー」を読んでおく
		事後学習	メディアリテラシーについて具体的に復習して理解しておく
第 27 回	情報倫理とルール(1) Microsoft PowerPoint(3) 課題演習	事前学習	「個人情報と社会の法」を読んでおく
		事後学習	個人情報と社会の法について具体的に復習して理解しておく
第 28 回	情報倫理とルール(2) Microsoft PowerPoint(4) 課題演習	事前学習	「ネットワーク利用の際のリスク」を読んでおく
		事後学習	ネットワーク利用の際のリスクについて具体的に復習して理解しておく
第 29 回	情報倫理とルール(3) Microsoft PowerPoint(5) 発表準備	事前学習	「ネット詐欺」を読んでおく
		事後学習	ネット詐欺について具体的に復習して理解しておく
第 30 回	情報倫理とルール(4) Microsoft PowerPoint(6) 発表準備	事前学習	「著作権」を読んでおく
		事後学習	著作権について具体的に復習して理解しておく
期末試験 (実技試験)			

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104								
2. 授業担当教員	森 正人											
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。											
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ワードプロセッサおよび表計算ソフトウェアを用いた課題を課し、その成果物データの提出を求める。 ・プレゼンテーションソフトを使った、演習を行い、その成果の発表を求める。 											
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2013 を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。											
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>受講姿勢</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>演習・課題提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>春期末試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>秋期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </table>				受講姿勢	40%	演習・課題提出	20%	春期末試験	20%	秋期末試験	20%
受講姿勢	40%											
演習・課題提出	20%											
春期末試験	20%											
秋期末試験	20%											
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会生活においてコンピュータを避けて通るのは難しいのが現状です。どうせ付き合わざるを得ないのであれば、むしろ便利に使いこなしてみよう。 ・私が提供する話題以外でも、普段、皆さんがコンピュータに関して疑問に思っていることがあれば、どんどん質問してください。 											
13. オフィスアワー	別途通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	春期講義概要、コンピュータ操作習熟度アンケート、基本的な用語等の解説	事前学習	教科書の第 1 章 (1.2 項以外) を読んでおく									
		事後学習	基本的な語句等を確認し、覚える									
第 2 回	OS (Windows) の基本、操作法	事前学習	教科書の第 2 章を読んでおく									
		事後学習	基本的な語句等を確認し、基本操作を練習しておく									
第 3 回	コンピュータネットワークとインターネット	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	基本的な語句と概念を確認しておく									
第 4 回	WWW と Web 検索	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	基本的な操作を練習しておく									
第 5 回	電子メール (1) メールクライアントソフトの基本操作	事前学習	教科書の 1.2.3 項を読んでおく									
		事後学習	操作法を復習しておく									
第 6 回	電子メール (2) メールクライアントソフトの設定など	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	操作法を復習しておく									
第 7 回	インターネットを取り巻く諸問題	事前学習	教科書の 1.2.1 および 1.2.2 項を読んでおく									
		事後学習	自宅のコンピュータの環境を確認してみる									
第 8 回	ワードプロセッサ (1) 基本操作	事前学習	教科書 3.1 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習									
第 9 回	ワードプロセッサ (2) 文書スタイルなど	事前学習	教科書 3.2 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく									
第 10 回	ワードプロセッサ (3) 画像等の文書中への挿入など	事前学習	教科書 3.5 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく									
第 11 回	ワードプロセッサ (4) 作表など様々な機能	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める									
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する									
第 12 回	ワードプロセッサ (5) 総合演習	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める									
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する									
第 13 回	画像処理 (1) 描画ソフトの活用	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	各画像形式の性質、使い分け等を復習する									
第 14 回	画像処理 (1) 描画ソフトの活用	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	課題を提出する									
第 15 回	画像処理 (2) 画像処理ソフトの活用 (写真など)	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	課題を提出する									
期末試験												

第 16 回	秋期講義の概要、春期のおさらい	事前学習	春期の内容を復習しておく
		事後学習	あやふやだった部分を再確認する
第 17 回	表計算ソフト (1) 基本操作	事前学習	教科書 4.2～4.3 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 18 回	表計算ソフト (2) 書式設定等	事前学習	教科書 4.4～4.5 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 19 回	表計算ソフト (3) 関数の利用	事前学習	教科書 4.6 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 20 回	表計算ソフト (4) グラフ描画	事前学習	教科書 4.7 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 21 回	表計算ソフト (5) データ処理 (ソートやフィルタリングなど)	事前学習	教科書 4.9 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 22 回	表計算ソフト (6) 総合演習	事前学習	作業の遅れている者は、追いつくように作業を進めておく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 23 回	プレゼンテーションソフト (1) 基本操作	事前学習	教科書 5.1～5.4 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 24 回	プレゼンテーションソフト (2) 画像・音声・アニメーションなどの貼り付け	事前学習	教科書 5.5 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 25 回	プレゼンテーションソフト (3) 効果的なプレゼンテーションの基礎知識	事前学習	教科書 5.6～5.8 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 26 回	総合演習 (1) 自己プレゼンテーションファイル作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する
第 27 回	総合演習 (2) 自己プレゼンテーションファイル作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する
第 28 回	著作権問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく
第 29 回	個人情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う
第 30 回	ネットワークの諸問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	自身のネットワーク利用に関して、考察してみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業で提示された演習問題を解く。 回答は、授業終了時に回収し、「12. 成績評価の方法」にあるように成績に反映する。演習に関しては各学期別に総合評価するが、15回目と30回目の演習は別枠で評価する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名 健『MicrosoftOffice2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2014年。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 また、準備したプリントを随時配布する。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (授業での発表の評価を含める) 40% 2. 通常演習 40% 3. 春期総合演習 (15 回目) 10% 4. 秋期総合演習 (30 回目) 10%		
12. 受講生へのメッセージ	コンピュータを効果的に使用できるようになるのは、練習を重ねる以外にない。運転免許取得と同様に、免許の交付後は一人で操作することになるので、確実に技術を身につけることがとても大切である。最初から正しい習慣をつけましょう。情報処理演習室は解放する時間帯もあるので、本授業外でも、コンピュータを操作することを強くすすめる。本科目終了後も、コンピュータに関する質問があれば気軽に研究室へ来てください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方 (コンピュータの起動と終了など)	事前学習	教科書の「まえがき」を読む
		事後学習	配布プリントを再度よく読む
第 2 回	コンピュータの 5 大装置と機能 (マウス、キーボード等)、 符号化、OS の基本。インターネットの仕組み	事前学習	教科書 pp. 2~4 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.28~31 を読んでおく
第 3 回	WWW : ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索 (1)	事前学習	タイピングソフトで練習すること
		事後学習	教科書 p.21 を読んでおく
第 4 回	WWW : ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索 (2)	事前学習	前回指定した、インターネットに関する専門用語覚える
		事後学習	今回習った、CPU の概念を正確に説明できるようにする
第 5 回	電子メール : 電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法。電子メールの仕組み。(ただし、メールアドレスの作成状況によりこの授業は 5 回目以降に移動することもある)	事前学習	教科書 pp. 13~18 を読んでおく
		事後学習	今回配布したユーザ名とパスワードを利用して、次回まで私宛に指定された内容のメールを送る
第 6 回	Microsoft Word (1) : 文字の編集 (書体、大きさの変更および装飾など)	事前学習	教科書 pp.76~78 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 7 回	Microsoft Word (2) : ページレイアウト : 余白、ページの設定等	事前学習	教科書 pp.100~101 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 8 回	インターネットの光と影 : ウイルスチェック、著作権、インターネット中毒など・発表	事前学習	教科書 pp. 4~7 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 9 回	インターネットの光と影 : ウイルスチェック、著作権、インターネット中毒など・情報収集	事前学習	教科書 pp. 7~13 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 10 回	Microsoft Word (3) : インデント、間隔などの使い方	事前学習	教科書 pp.110~111 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 11 回	Microsoft Word (4) : クリップアート、図形描画など	事前学習	教科書 pp.146~150 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 12 回	Microsoft Word (5) : さまざまな機能を用いたレポート文書の作成 : 表と罫線	事前学習	教科書 pp.125~126 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 13 回	Microsoft Word (6) : さまざまな機能を用いたレポート文書	事前学習	教科書 p.154 を読んでおく

	の作成：ヘッダーとフッター	事後学習	課題を次回までに完成させる
第 1 4 回	Web 検索と Microsoft Word の総合演習・まとめ (1)	事前学習	教科書 pp.88~91 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 1 5 回	Web 検索と Microsoft Word の総合復習・まとめ (2)	事前学習	3 回からの課題を復習する
		事後学習	次回まで、教科書のコラム「「コピー」って楽？」(p.166) 熟読する
第 1 6 回	秋期講義の概要・Microsoft PowerPoint (1)：箇条書き、インデント、図表の作成など	事前学習	教科書 pp.248~249 を読んでおく
		事後学習	次回まで使いたい画像を用意する
第 1 7 回	Microsoft PowerPoint (2)：箇条書き、インデント、図表の作成など・プレゼンテーション作成を始める (自己紹介)	事前学習	教科書 pp.250~255 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.254~256 を参考に、となり同志の課題の中間評価を実施し、次回までに必要な修正を行う
第 1 8 回	Microsoft PowerPoint (3)：プレゼンテーション作成の完成 (自己紹介) (発表)	事前学習	教科書 pp.257~260 を読んでおく
		事後学習	課題を完成させ次回までに提出
第 1 9 回	Microsoft Excel (1)：データの入力 (数値データと文字データ)、セルの操作	事前学習	教科書 pp.168~170 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 0 回	Microsoft Excel (2)：数式の利用、グラフの挿入	事前学習	教科書 pp.168~170 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.204~208 を読んでおく
第 2 1 回	Microsoft Excel (3)：基本的な関数の利用 (合計、平均など)	事前学習	教科書 pp.193~197 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 2 回	Microsoft Excel (4)：関数の利用、IF 関数の入れ子など	事前学習	教科書 pp.198~199 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 3 回	Microsoft Excel (5)：さまざまな関数の応用セルの相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 p189 を読んで、定義と指定の仕方をよく理解する
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 4 回	Microsoft Excel (6)：データの処理、並べ替え、オートフィルター等	事前学習	教科書 pp.229~230 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.233~235 を読んでおく
第 2 5 回	Microsoft Excel (7)：進んだ使い方 (VLOOKUP 関数入門)	事前学習	教科書 pp.242~243 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 6 回	Microsoft Excel (8)：進んだ使い方 (VLOOKUP 関数入門)	事前学習	再度 pp.242~243 を読む
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 7 回	Microsoft Excel (9)：進んだ使い方 (ISNA 関数等)	事前学習	前回習った「関数のネスト」を復習すること
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 8 回	Microsoft Excel (10)：進んだ使い方 (フィルタリング)	事前学習	教科書 pp.226~227 を読む
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 9 回	Microsoft Excel の総合復習・まとめ (1)	事前学習	19 回からの課題を復習する
		事後学習	再度答え合わせを確認する
第 3 0 回	Microsoft Excel の総合復習・まとめ (2)	事前学習	前回の課題をよく復習する
		事後学習	全課題 (12 回分) の Excel ファイルを再確認する (シート名の有無、すべての表が完成か非か、グラフの有無など)。完成したファイルの提出締め切りは授業で伝える

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2304 GECM2104
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業中に学習テーマに沿った課題を出し、指定する期日までに提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資料を適宜配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 20%、課題(春期末) 20%、課題(秋期末) 30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>この講義では、映像メディアを自分で使いこなしていくための知識や技術を学びます。また、立体映像(3D)など新しい映像メディアに関しても言及します。自由な発想で積極的に演習に取り組んでほしいと思っています。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション : 講義内容の確認、使用するソフトウェアの 紹介、質問・相談	事前学習	パソコンやスマートフォン、デジカメなどの利用において、これまでに静止画像をどのように使ったことがあるのかを確認する。	
		事後学習	パソコンにおけるマルチメディアの利用について考える。	
第 2 回	静止画像の基礎: ラスタ画像とベクタ画像	事前学習	ラスタ画像とベクタ画像について調べる。	
		事後学習	ラスタ画像とベクタ画像の特徴の違いをまとめる。	
第 3 回	静止画像の基礎: ファイル形式、画像圧縮	事前学習	jpeg (JPEG) 画像について調べる。	
		事後学習	画像圧縮の種類と効果について確認する。	
第 4 回	Adobe Photoshop (1) : 基本操作、フォトレタッチ事例紹介	事前学習	フォトレタッチをキーワードとして、その意味することや事例について調べる。	
		事後学習	デジタルデータを扱うフォトレタッチの利点について考える。	
第 5 回	Adobe Photoshop (2) : デジタル画像編集の演習	事前学習	画像におけるコントラストについて調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 6 回	Adobe Photoshop (3) : デジタル画像編集の演習	事前学習	画像における色調補正について調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 7 回	Adobe Photoshop (4) : デジタル画像編集の演習	事前学習	レイヤーをキーワードとして、画像処理においてどのように使われるかを調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 8 回	Adobe Photoshop (5) : デジタル画像編集の演習	事前学習	書体について、種類とその特徴について調べる。	
		事後学習	演習における課題で扱った内容の理解を深める。	
第 9 回	デジタル画像を扱うための基礎知識 : 解像度、色、印刷	事前学習	デジタル画像の解像度について調べる。	
		事後学習	授業で用いた静止画像の解像度を確認して、特徴を理解する。	
第 10 回	デジタル画像を扱うための基礎知識 : プリンター、スキャナー、デジタルカメラ	事前学習	デジタル画像を扱うときによく使われる周辺機器について調べる。	
		事後学習	自分が使っているデジカメやスマートフォン、携帯電話などで撮影できる写真の解像度を調べる。	
第 11 回	Web デザイン: HTML の基礎 (1)	事前学習	Web と HTML について、その関係性を調べる。	
		事後学習	課題を進めることで、HTML について理解を深める。	
第 12 回	Web デザイン: HTML の基礎 (2)	事前学習	自分がよく見る web site の HTML を見て、分かったことをまとめる。	
		事後学習	課題の内容を通して、HTML について理解を深める。	

第 1 3 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	Web site でどんな形式の静止画像が使われているのかを調べる。
		事後学習	課題を進めることで web における画像表示について理解を深める。
第 1 4 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	静止画像の種類や特徴について、再度確認して、理解を深める。
		事後学習	課題を進めることで web における画像表示について理解を深める。
第 1 5 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	いくつかの web を見て、そこで使われている静止画像の解像度やファイル容量を調べる。
		事後学習	課題の内容を通して web における画像表示について理解を深める。
第 1 6 回	秋期イントロダクション : 春期内容の確認と秋期に扱うテーマの説明と事例紹介	事前学習	これまでに動画像をどのように使ったことがあるのかを確認する。
		事後学習	インターネットにおける動画像視聴の利点と欠点を考える。
第 1 7 回	動画像の基礎 : 動画像データ、圧縮技術、ディスクメディア	事前学習	mpeg (エムペグ) 動画について調べる。
		事後学習	DVD と Blu-ray Disc の違いを、そこに記録される映像という観点から考える。
第 1 8 回	動画像の基礎 : ノンリニアビデオ編集、用語の確認	事前学習	ノンリニア編集でどんなことができるのかを調べる。
		事後学習	リニア編集とノンリニア編集の違いを確認する。
第 1 9 回	Adobe Premiere (1) : 基本操作の確認	事前学習	ビデオ編集ソフトにはどんなものがあるのかを調べる。
		事後学習	編集時におけるファイル (プロジェクトファイルやムービーファイル) の扱いについて確認する。
第 2 0 回	Adobe Premiere (2) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	動画像ファイルの種類について復習と確認をする。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 1 回	Adobe Premiere (3) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	ビデオ編集において、文字をどのように使えば良いのかを調べる。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 2 回	Adobe Premiere (4) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	ビデオの書き出しをキーワードとして、どんなことを考慮すれば良いのかを考える。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 3 回	新しい映像メディア表現と高臨場感ディスプレイ	事前学習	画像を表示するディスプレイに注目して、どんな種類があるのかを調べる。
		事後学習	今後の映像表現の可能性について考える。
第 2 4 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 5 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 6 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 7 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 8 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 9 回	課題発表	事前学習	課題発表の準備を行う。
		事後学習	周りの人の課題発表について、良い点を考える。
第 3 0 回	課題発表	事前学習	課題発表の準備を行う。
		事後学習	周りの人の課題発表について、良い点を考える。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2304 GECM2104
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 自分のホームページの作成を行い、講義用サーバにアップロードする。これを、提出物として扱う。 上記のホームページに、スクリプトプログラムの組み込みを行う。この成果を提出物として扱う。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 (株)アंक『ホームページ辞典 HTML CSS JavaScript』翔泳社</p>			
11. 成績評価の方法	<p>受講姿勢 40%</p> <p>演習・課題提出 20%</p> <p>春期末試験 20%</p> <p>秋期末試験 20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>情報処理演習Ⅰでは、どちらかという、「情報の受け手」としての内容が主でしたが、この講義では「情報の送り手」としての能力の涵養を目指します。単にアプリケーションソフトの利用方法を学ぶのとは違い、論理的な思考や、多少面倒な文法を覚えなければならないので大変です。しかし、その分、コンピュータが自分の考え通りに動作してくれた時の喜びもひとしおです。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	春期講義概要	事前学習	教科書のイントロダクションを読んでおく	
		事後学習	基本的語句を確認して覚える	
第 2 回	ネットワークの基礎と World Wide Web の概要	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	インターネットの基本概念を復習しておく	
第 3 回	情報表現形式 (文字コード、2 進数、16 進数の基礎)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	基本的な変換操作等を復習する	
第 4 回	HTML の基礎 (1) マークアップランゲージの概念、HTML の記述方法 など	事前学習	教科書 pp.2~16 を読んでおく	
		事後学習	HTML の基本的な記述方をマスターしておく	
第 5 回	HTML の基礎 (2) 文字情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	EZ-HTML の操作を練習する	
第 6 回	HTML の基礎 (3) ページ修飾	事前学習	教科書 pp.244~259 を読んでおく	
		事後学習	演習ファイルを作成する	
第 7 回	HTML の基礎 (4) 少し高度な記述	事前学習	教科書 pp.262~284 を読んでおく	
		事後学習	演習ファイルを作成する	
第 8 回	HTML による Web ページの記述 (1) リンクの概念など	事前学習	教科書 pp.86~93 を読んでおく	
		事後学習	演習ファイルを作成する	
第 9 回	HTML による Web ページの記述 (2) 画像などのオブジェクトの取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	演習ファイルを作成する	
第 10 回	HTML による Web ページの記述 (3) 画像などのオブジェクトの挿入	事前学習	教科書 pp.78~82 を読んでおく	
		事後学習	演習ファイルを作成する	
第 11 回	ホームページ作成演習 (1) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	ホームページの構想を考えておく	
		事後学習	自分の作業を継続する	
第 12 回	ホームページ作成演習 (2) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する	
		事後学習	自分の作業を継続する	
第 13 回	ホームページ作成演習 (3) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する	
		事後学習	自分の作業を継続する	
第 14 回	ホームページ作成演習 (4) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する	
		事後学習	自分の作業を継続する	
第 15 回	ホームページ作成演習 (5) ホームページ公開方法	事前学習	サーバアップロードのための準備	
		事後学習	自分の作業を継続する	
期末試験				
第 16 回	秋期講義概要	事前学習	春期の内容を復習しておく	

		事後学習	あやふやだったところを再確認する
第 17 回	スタイルシート (1) スタイルシートの基本的な考え方	事前学習	教科書 pp.152~184 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 18 回	スタイルシート (2) スタイルシートの利用	事前学習	前回の内容を詳細に確認しておく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 19 回	対話的な Web ページの記述 (1) フォームの基本	事前学習	教科書 pp.118~140 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 20 回	対話的な Web ページの記述 (2) フォームを使った Web ページの記述	事前学習	前時で作成したファイルをサーバにアップロードし、動作を確認しておく。
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 21 回	JavaScript の基礎 (1) Web ページとスクリプト言語の概要など	事前学習	教科書 pp.382~388 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 22 回	JavaScript の基礎 (2) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.391~394 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 23 回	JavaScript の基礎 (3) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.395~399 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 24 回	JavaScript の基礎 (4) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.403~406 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 25 回	総合演習 (1: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	前時までの内容を再度復習しておく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 26 回	総合演習 (2: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	自分の作業を継続する
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 27 回	総合演習 (3: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	自分の作業を継続する
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 28 回	著作権問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく
第 29 回	個人情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う
第 30 回	インターネットにおける情報発信者としての心構え、セキュリティなど	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	自身のネットワーク利用に関して、考察してみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅲ (4 単位)		3. 科目番号	GECM3304
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	この講義では、「情報処理演習Ⅰ」や「情報処理演習Ⅱ」で学んだ基礎知識や技術を基にして、さらに発展的な内容を具体的な事例を用いて学習する。事例と演習により、これまでに学んだ情報処理をどのような場面で活用できるのかを学ぶ。そのため、コンピュータを使った数値計算にとどまらず、さらに大きな枠組みで情報処理について考えていく。具体的には、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。また、データ分析に関しても扱い、調査や実験の結果を導くために必要な技法を学ぶ。			
8. 学習目標	情報処理において、コンピュータを使うための知識や技術は重要である。しかし、コンピュータは何かの目的を達成するための道具であるという一面もある。そこで本講義では、履修者自らがコンピュータを使いこなすための具体的な方法を調べて、どのようにしたらその目的を達成できるのかを考える。そのような考え方や姿勢を習得し、操作できるようになることが本講義の目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対するディスカッションなどを経て、最終的にプレゼンテーションあるいはレポート作成をする。調査や検討などを授業時間外に行うこともある。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 (春期末) 30%、課題 (秋期末) 40%			
12. 受講生への メッセージ	本講義では、教員や研究者として仕事をするときに役立つ考え方や技術を扱います。論文を調べたり、数値を検証したり、分析をしたりと、若干高度な内容を含みますが、熱意があつて積極的な履修者の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	コンピュータによる数値処理やマルチメディア活用、プログラミングについて、これまでどんなことを行ったことがあるか確認する。	
		事後学習	自分の興味や関心、将来の希望などを考えたときに、統計解析やプログラミングがどのように活用できるのかを考える。	
第 2 回	コンピュータの基礎知識と活用	事前学習	近年におけるコンピュータ利用について幅広く調べる。	
		事後学習	学校におけるコンピュータ利用について考える。	
第 3 回	調査・実験研究とデータ分析	事前学習	これまでの学校生活や日常における統計について考える。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 4 回	統計学の基礎 (1)	事前学習	標準偏差をキーワードとして、その意味や使われ方を調べる。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 5 回	統計学の基礎 (2)	事前学習	T 検定をキーワードとして、その意味や使われ方を調べる。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 6 回	統計ソフトによる統計解析演習 (1)	事前学習	統計ソフトにはどんなものがあり、どんなことができるのかを調べる。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 7 回	統計ソフトによる統計解析演習 (2)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 8 回	統計ソフトによる統計解析演習 (3)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 9 回	統計ソフトによる統計解析演習 (4)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 10 回	統計ソフトによる統計解析演習 (5)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 11 回	調査研究の方法と分析	事前学習	教育関係の研究事例について調べる。	
		事後学習	研究の方法やデータ分析について考える。	
第 12 回	調査研究事例のリサーチとグループディスカッション	事前学習	調べた事例について自分の考えをまとめる。	
		事後学習	グループで議論したことについてまとめ、さらにそれに対する自分の考えをまとめる。	
第 13 回	調査研究事例のリサーチとグループディ	事前学習	調べた事例について自分の考えをまとめる。	

	スカッション	事後学習	グループで議論したことについてまとめ、さらにそれに対する自分の考えをまとめる。
第 14 回	調査研究事例に関するまとめ：目的、調査方法についてまとめる	事前学習	調べた事例と内容をまとめる。
		事後学習	必要なことをさらに調べて、考えをまとめる。
第 15 回	調査研究事例に関するまとめ：分析方法、結果についてまとめる	事前学習	調べた事例と内容をまとめる。
		事後学習	春期に扱った内容に関して復習をして、重要な部分をまとめる。
第 16 回	イントロダクション：春期に行った内容の確認と復習、秋期の講義内容の確認	事前学習	これまでに取り組んだ内容を確認する。
		事後学習	理解が不十分なところを復習する。
第 17 回	実験計画法、実験の進め方とまとめ方	事前学習	実験計画法をキーワードとして、どんなことなのかを調べる。
		事後学習	実験の行い方についてまとめる。
第 18 回	Microsoft Excel の確認と応用、関数を用いた統計処理	事前学習	これまで使ったことがある Excel の関数を確認する。
		事後学習	取り組んだ内容に関して確認して習得する。
第 19 回	Excel VBA (1)：基礎知識、基本操作	事前学習	VBA をキーワードとして、どんなことなのかを調べる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 20 回	Excel VBA (2)：関数、演算子、変数	事前学習	Excel におけるマクロについて調べる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 21 回	Excel VBA (3)：制御構造	事前学習	制御構造について調べ、その一例をあげる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 22 回	プログラムや映像の作成 (1)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 23 回	プログラムや映像の作成 (2)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 24 回	プログラムや映像の作成 (3)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 25 回	プログラムや映像の作成 (4)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 26 回	プログラムや映像の作成 (5)	事前学習	動作や表示を確認して、実験とまとめの準備をする。
		事後学習	取得したデータの確認と整理をする。
第 27 回	プログラムや映像の作成 (6)	事前学習	動作や表示を確認して、実験とまとめの準備をする。
		事後学習	取得したデータの確認と整理をする。
第 28 回	課題のまとめ	事前学習	データに対する分析の方法を考える。
		事後学習	分析した結果に対して自分の考えをまとめる。
第 29 回	課題のレポート作成およびプレゼン	事前学習	レポート作成とプレゼンに必要な準備をする。
		事後学習	レポート作成を進め、関連事項を調べる。
第 30 回	課題のレポート作成およびプレゼン	事前学習	レポート作成とプレゼンに必要な準備をする。
		事後学習	本授業で学んだことを、今後に役立てるために、これまでに取り組んだ内容を確認する。

1. 科目名 (単位数)	情報セキュリティ (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3323
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータネットワークⅠ」と「Ⅱ」、「コンピュータサイエンスⅠ」と「Ⅱ」を履修済みであることが非常に望ましい。特に「コンピュータネットワークⅡ」で学ぶ概念は多く使われる。		
7. 講義概要	本科目では、コンピュータシステムおよびデータのセキュリティとプライバシー保護について学ぶ。具体的には、システム保護、システムの信頼性、システムの欠陥への対処、データ保護と暗号、ハッキングとソーシャルエンジニアリングについて演習を通じて、かなり高度な内容にまで踏み込み、情報セキュリティに関する深い理解を図る。		
8. 学習目標	技術の面、国際および国内規程の面からみた情報セキュリティの基礎を学ぶ。 IT に関しては、抽象的なことだけではなく、ハッカーの基本的技術を学び、また、今までの様々な事例を見ながら、情報システムの欠陥をどう探すか、どう防ぐかを考えることができる。 情報資産への脅威は、最近、ITが大部分を占めているが、IT以外にも多くのリスクが存在する。それらのリスクの分析、評価の方法についても考えることが出来るようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解きます (例: セキュリティの基礎概念、攻撃について・盗聴技術、攻撃について・身分の隠し方、攻撃からLANを守る・DMZの構造と役割)。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 編集『情報セキュリティ読本 改訂版—IT 時代の危機管理入門—』実教出版株式会社、2012 年。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含めて) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%		
12. 受講生へのメッセージ	演習問題に真剣に取り組んでください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	話題になった最近の情報セキュリティの課題、個人情報保護法、情報漏洩、フィッシングの事件などとその対策の困難さ	事前学習	ネットで情報漏洩事件を検索する
		事後学習	教科書 pp.2~8 を読む
第 2 回	IT に関する基礎知識 (復習) (1)	事前学習	「コンピュータネットワークⅡ」のプリント 1 を読む
		事後学習	今回出た専門用語を復習する
第 3 回	IT に関する基礎知識 (復習) (2)	事前学習	「コンピュータネットワークⅡ」のプリント 3 を読む
		事後学習	今回出た専門用語を復習する
第 4 回	ファイアウォールの仕組み	事前学習	「コンピュータネットワークⅡ」のプリント 6 を読む
		事後学習	次回まで、問「IP アドレスから住所が特定できるのですか？」に答えよ (インターネットで調べる)
第 5 回	IT システムに侵略するために必要な準備と知識・身分の隠し方・証拠隠蔽の技術 (演習)	事前学習	教科書 pp.15~18、pp.84~85 を読む
		事後学習	次回までに課題を完成させる
第 6 回	暗号化と電子認証 (1)	事前学習	教科書 p.95 を読む
		事後学習	今回の課題演習を復習する
第 7 回	暗号化と電子認証 (2)	事前学習	AES の仕組みを調べておく
		事後学習	今回の課題演習を復習する
第 8 回	脅威とリスクについて (1)	事前学習	教科書 pp.10~12 を読む
		事後学習	今回の課題演習を復習する
第 9 回	脅威とリスクについて (2)	事前学習	教科書 pp.13~14 を読む
		事後学習	今回の課題演習を復習する
第 10 回	ウイルスについて	事前学習	教科書の最終ページの表を読む
		事後学習	教科書 pp.36~37 の用語を覚える
第 11 回	電子情報セキュリティに関する基準・法制度について・演習	事前学習	教科書 pp.106、109 と 111 を読む
		事後学習	ネットで最近の著作権違反の事例を調べる
第 12 回	現代社会における情報セキュリティの問題・演習	事前学習	教科書 pp.122~125 の頭文字の意味を復習する
		事後学習	無償ソフトによる情報漏洩の事例を調べる (インターネット検索)
第 13 回	まとめ・演習 (1)	事前学習	教科書 pp.126~129 の頭文字の意味を復習する
		事後学習	今回の演習問題を復習する
第 14 回	まとめ・演習 (2)	事前学習	教科書 pp.130~133 の頭文字の意味を復習する
		事後学習	今回の演習問題を復習する
第 15 回	総合演習	事前学習	前回の演習問題を復習する
		事後学習	今後、授業で習ったインターネットサイトを時々閲覧して情報セキュリティの最新情報を収集する

1. 科目名 (単位数)	情報倫理 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT2305
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、情報機器およびインターネットを活用するときの基本的倫理を学習する。また、情報社会における多様な情報倫理に関する諸問題を把握するとともに、その理論的根拠について考察する。具体的には、知的所有権、プライバシー、ネチケット、セキュリティなどの情報倫理について解説し、適切な行動様式を体得することを目標とする。			
8. 学習目標	情報技術を利用する上での安全性やモラル等の諸問題に関して、技術的側面のみでなく、倫理や社会的側面にも焦点を当てて論ずる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	直近に起きた情報関連の問題に関して調査した結果をレポートとして提出を求める。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山住富也『モバイルネットワーク時代の情報倫理 加害者被害者にならないためのメディアリテラシー』 近代科学社。			
11. 成績評価の方法	受講姿勢 20% 演習・課題提出 20% 期末試験 60%			
12. 受講生への メッセージ	情報技術を考えるとき、その技術的側面に目を奪われがちですが、これでは問題の本質を見誤ります。倫理や法律なども含めて総合的に考える事ができるように頑張りましょう。			
13. オフィスアワー	別途連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	情報科社会とは何か	事前学習	教科書第 1 章を読んでおく	
		事後学習	教科書第 1 章末問題	
第 2 回	「倫理」と「情報倫理」	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	配布資料の演習問題	
第 3 回	コンピュータネットワークと犯罪 1 (不正アクセスや情報漏えい)	事前学習	教科書 pp.25~35 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 2 章末問題 2.1~2.3	
第 4 回	コンピュータネットワークと犯罪 2 (ネット詐欺等)	事前学習	教科書 pp.36~47 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 2 章末問題 2.4	
第 5 回	コンピュータネットワークと犯罪 3 (ネットコミュニケーション上のハザード)	事前学習	教科書 pp.47~59 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 2 章末問題 2.5~2.6	
第 6 回	マルウェアに関する基礎知識 1 (ウィルス、ワーム等)	事前学習	教科書 pp.61~70 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 3 章末問題 3.1~3.3	
第 7 回	マルウェアに関する基礎知識 2 (スパイウェア、アドウェア等)	事前学習	教科書 pp.71~85 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 3 章末問題 3.4~3.6	
第 8 回	情報セキュリティ 1 (基本概念と心構え)	事前学習	教科書 pp.87~105 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 4 章末問題 4.1~4.3	
第 9 回	情報セキュリティ 2 (セキュリティの技術的側面)	事前学習	教科書 pp.106~115 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 4 章末問題 4.4~4.5	
第 10 回	情報セキュリティ 3 (セキュリティポリシー)	事前学習	教科書 pp.116~118 を読んでおく	
		事後学習	教科書第 4 章末問題 4.6	
第 11 回	情報技術と法令 (基本的な考え方、倫理と法の関係)	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	「違法行為」と「モラルハザード」について考察し、まとめる	
第 12 回	ネットワークに関する法規制	事前学習	教科書 pp.121~164 を読んでおく	
		事後学習	最近のネット上の違法行為を調べる	
第 13 回	情報技術と知的財産権	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	提示された侵害事例についてまとめる	
第 14 回	ネットワークトラブルの実例 (1)	事前学習	12~13 回で調べたものを提示できるように準備する	
		事後学習	実際の案件に関して調査する	
第 15 回	ネットワークトラブルの実例 (2)	事前学習	調査を継続する	
		事後学習	調査結果をまとめてレポート提出する	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1305
2. 授業担当教員	福島 裕			
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童学科は 1 年次、こども教育保育専攻は 3 年次に履修する。			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第 2 条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第 6 条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>○担当グループは、該当箇所(計画表に沿って事前に指示)の重要点や課題をまとめた提案用紙を事前に提出し検討してもらうこと。</p> <p>○毎時間、グループ討議後、「ディスカッションカード」を整理・まとめをしてリーダーが提出すること。</p> <p>○レポート課題「学習した人権課題のうち、自分が最も重要と考えた人権課題を一つ取り上げ、その課題の問題点と解決についての考えを述べなさい。」</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○中野光・小笠毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店、2014 年。</p> <p>○中野睦夫編著『早わかり人権教育小事典』明治図書、2003 年。</p> <p>【参考書】</p> <p>○法務省・文部科学省編 平成 27 年版『人権教育・啓発白書』勝美印刷株式会社。</p>			
11. 成績評価の方法	1. グループ提案用紙の内容・発表態度	総合点の 30%		
	2. グループ討議・発表の様子	総合点の 20%		
	3. ディスカッションカードの内容	総合点の 30%		
	4. 課題レポート等	総合点の 20%		
	5 履修要項「授業について」の「7.単位の認定」により、授業時間数の 4 分の 3 以上(15 回中 12 回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。			
12. 受講生へのメッセージ	本科目で目指す人間尊重の精神の涵養は、人間育成の根幹に関わるものである。人間尊重の理念は国民の中で共有され、さらに基本的人権を尊重する社会の構築が望まれている。しかし、急速に進む情報化や国際化の中で、新たな人権問題も生起している。ここでは「女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々」等の人権問題を具体的に取り上げ、理解を深め課題を明らかにするとともに「互いを理解して尊重する社会」を築く能力を高めるようにする。			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 「人権教育」のねらい・学習内容、学習予定表・授業形態の説明	事前学習	教科書、参考書を確認し、目次等に目を通し、これから学ぶ内容の全体像を把握しておく。	
		事後学習	オリエンテーションの内容を振り返り、人権教育のねらいや学習する内容、学習の仕方を理解する。	
第 2 回	「人権教育及び人権啓発に関する法律」及び「人権教育・啓発に関する基本計画」の理解	事前学習	内閣府がまとめた国の人権啓発の現状等を諸資料で調べておく。	
		事後学習	人権教育及び人権啓発に関する法律や基本計画の内容を理解する。	
第 3 回	グループ編成・グループ学習の方法、わが国の人権問題の現状と課題、導入ビデオの視聴	事前学習	特に、日本の人権問題の現状と課題について整理しておく。	
		事後学習	我が国の人権問題の課題及びグループ学習の仕方について理解しておく。	
第 4 回	主として女性に関する課題① (男女差別、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント)、	事前学習	女性の人権に関する課題について、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	セクハラや男女差別の問題点や解決に向けての課題等を整理する。	
第 5 回	主として女性に関する課題② (ドメスティックバイオレンス等)	事前学習	DV に関する現状について教科書を読み、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	DV の課題と解決の方向性について復習し、理解を深めてお	

			く。
第 6 回	主として子どもに関する課題① (児童の最善の利益と体罰、いじめ、暴力行為、不登校)	事前学習	体罰、いじめ、暴力行為、不登校について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	いじめ問題の本質と、その解決に向けての取り組みや、今後の課題について理解を深めておく。
第 7 回	主として子どもに関する課題② (児童の最善の利益と児童虐待、児童買春・児童ポルノ等について)	事前学習	児童虐待の問題について教科書や関連する資料を調べ実態を把握しておく。
		事後学習	児童虐待、児童買春・児童ポルノの問題点とその解決への取り組みについて理解を深めておく。
第 8 回	主として高齢者に関する課題 (家庭・施設における身体的・心理的虐待等)	事前学習	高齢者に関する課題について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	高齢者虐待の問題点とその解決に向けての取り組みや課題について理解を深めておく。
第 9 回	主として障害児・障害者に関する問題 (障害児保育・教育、障害者の人権)	事前学習	障害者に関する人権上の課題について教科書や関連資料から調べておく。
		事後学習	障害児・障害者の問題点と、解決に向けての課題について理解を深めておく。
第 10 回	主として同和問題に関する課題① (差別問題、差別発言等の実態等)	事前学習	同和問題の現状と課題について教科書及び関連資料をもとに把握しておく。
		事後学習	同和問題の現状と課題について理解を深めるとともに解消に向けての取り組みを知る。
第 11 回	主として同和問題に関する課題② (同和問題のまとめ等)	事前学習	同和問題を解消するための様々な取り組みについて関連資料を調べ把握しておく。
		事後学習	同和問題を解決するための取り組みについての成果と、これからの課題について考えをまとめ理解を深める。
第 12 回	主としてアイヌの人々、外国人に関する課題	事前学習	アイヌの人々や外国人に関する人権上の課題について、関連資料をもとに調べておく。
		事後学習	アイヌの人々、外国人に関する課題と解決に向けての問題点について理解を深める。
第 13 回	主として刑を終えて出所した人、犯罪被害者等、インターネットによる人権侵害、北朝鮮によって拉致された被害者等に関する課題	事前学習	刑を終えて出所した人、犯罪被害者、インターネットによる人権侵害、北朝鮮による拉致被害者等に関する人権上の課題について、教科書や関連する資料を調べ、整理しておく。
		事後学習	それぞれの人権問題の現状と課題を理解し、さらに解決に向けての取り組みと問題点について理解を深める。
第 14 回	学校における人権教育の実際 (同和問題、いじめ問題等への対応)	事前学習	小中高等学校で受けてきた人権教育の概要を想起し、整理しておく。
		事後学習	学校教育における人権教育の推進状況と課題について理解を深める。
第 15 回	他の人権課題に関する啓発ビデオの視聴、まとめとしてのレポート作成・提出	事前学習	教科書の内容や配布された資料、グループ討議の内容等から、人権課題について整理しておく。
		事後学習	自己の人権課題は何かを考え、今後人権上の課題にどのように向き合っていくかについて、読み手に伝わるようにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	身体構造と機能 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2316 SNMP2116 SCMP2316 SBMP2316
2. 授業担当教員	山下 喜代美	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 演習		
6. 履修条件・他科目との関係	「医学概論」の単位を修得していること。また本科目は介護福祉士養成と教員養成(福祉科)の必修科目となっている。この科目を履修した後に障害の理解 I 認知症の理解 I 発達と老化の理解 II を履修すること		
7. 講義概要	介護実践に必要な知識という観点から、こころとからだのしくみについての知識を養う。日常生活行動の意義を再確認し、そのそれぞれの場面で機能するこころとからだのしくみを理解する。(身支度、活動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠、コミュニケーション) この科目を履修することで、利用者の状態を正しく理解し、提供する介護の根拠を説明できるようになる。		
8. 学習目標	1. 身支度に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 2. 日常生活の活動に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 3. 食事に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 4. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 5. 排泄に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 6. 睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。 7. コミュニケーションに関連したこころとからだのしくみを理解し、説明することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	レポート課題 1. 運動に対する体の適応についてまとめる 2. 食べるプロセスについてまとめる 毎回の授業をしっかりと復習し、筆記試験に臨んで下さい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『こころとからだのしくみ』メヂカルフレンド社。 【参考書】『生理学の基本がわかる事典』西東社。		
11. 成績評価の方法	授業態度 10% 筆記試験 10% 期末試験 80%		
12. 受講生へのメッセージ	授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。 わからないところは、積極的に質問してください。 授業内容を理解し、復習をして筆記試験や期末試験に臨んでください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義概要の説明 身体構造と機能について 日常生活動作について	事前学習	テキスト pp.2~10 を読み、身体の概要をつかんでおく
		事後学習	テキスト p.7 の全身の骨格を覚える
第 2 回	生命活動を調節する仕組み 恒常性の維持 呼吸器	事前学習	テキスト pp.20~22 を読み、呼吸のしくみを理解しておく
		事後学習	恒常性の維持についてまとめておく
第 3 回	循環器 血液 内分泌 免疫	事前学習	テキスト p.24 図 1-14 をみて全身の血液の流れを理解しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 4 回	身支度(洗顔、整髪、眼・耳・鼻・口の清潔、爪きり、更衣)に関連する身体の基本知識 顔面、眼、鼻、口、指、爪の構造と機能	事前学習	テキスト p.97 図 3-3 を理解しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 5 回	身支度の意義 身支度の動作に必要なこころとからだの機能 筆記試験①	事前学習	身支度の意義を考える
		事後学習	身支度の動作と身体構造・機能をまとめる
第 6 回	日常生活の活動(姿勢保持、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行)に関連する身体の基本知識 骨、関節、筋、神経の構造と機能	事前学習	心・肺機能を復習しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 7 回	日常生活の活動の意義 活動に必要なこころとからだの機能 筆記試験②	事前学習	活動の意義を考える
		事後学習	活動動作と身体構造と機能をまとめる
第 8 回	食事に関連する身体の基本知識 消化器管の構造と機能、必要な栄養素・水分量	事前学習	テキスト p.171 図 5-7 をみて、消化と吸収の過程を理解しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 9 回	食事の意義 食事動作に必要なこころとからだの機能 食べるプロセス 筆記試験③	事前学習	食事の意義を考える
		事後学習	食事動作と身体構造・機能をまとめる
第 10 回	入浴・清潔保持に関連する身体の基本知識 皮膚、頭髪、陰部の構造と機能	事前学習	テキスト pp.188~191 を読み、皮膚の働きを理解しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 11 回	入浴・清潔保持の意義 入浴・清潔動作に必要なこころとからだの機能 筆記試験④	事前学習	入浴の意義を考える
		事後学習	入浴の動作と身体構造と機能をまとめる
第 12 回	排泄に関連する身体の基本知識 泌尿器管の構造と機能、便、尿の生成のしくみ	事前学習	大腸の働きを復習しておく
		事後学習	プリントを見直し、覚える
第 13 回	排泄の意義 排泄動作に必要なこころとからだの機能 筆記試験⑤	事前学習	排泄の意義を考える
		事後学習	排泄動作と身体構造・機能をまとめる
第 14 回	睡眠に関連する身体の基本知識 睡眠の生理、睡眠パターン 睡眠の意義 睡眠に必要なこころとからだの機能 筆記試験⑥	事前学習	睡眠の意義を考える
		事後学習	睡眠と身体構造と機能をまとめる
第 15 回	コミュニケーションに関連する身体の基本知識 視覚、聴覚、発声に関する器官、言語中枢の構造と機能 コミュニケーションの意義 コミュニケーションに必要なこころとからだのしくみ	事前学習	コミュニケーションの意義を考える
		事後学習	コミュニケーションと身体構造と機能をまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1332 GELA1311								
2. 授業担当教員	加藤 宏一										
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育学部生は、先に「心理学入門」を履修することが望ましい。										
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	テーマごとに、随時、講義のまとめ、演習課題、小レポートを提出してもらう。										
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】手島茂樹 渡辺映子 (編著)『スタンダード心理学』おうふう出版。 【参考書】必要に応じて、適宜紹介する。										
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>受講態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業のまとめ</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> </tr> </table> 左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。 なお、遅刻、早退は、受講態度点より減点します。			受講態度	30%	授業のまとめ	10%	小テスト	60%	合計	100%
受講態度	30%										
授業のまとめ	10%										
小テスト	60%										
合計	100%										
12. 受講生への メッセージ	以下のことを期待します。(禁止事項については授業にて) <ol style="list-style-type: none"> 1. 「予習→授業→復習」サイクルの学び 2. 積極的な授業参加 (発言、質問、ディスカッション) 3. 「授業のまとめ」、その他の提出物の期限の厳守 										
13. オフィスアワー	授業時に通知する。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	心理学とは? : 概要/諸領域/研究法	事前学習	テキストの準備								
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する								
第 2 回	心理学史	事前学習	テキスト第 1 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する								
第 3 回	感覚と知覚①: 基本的メカニズム	事前学習	テキスト第 2 章 1 節を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する								
第 4 回	感覚と知覚②: 日常生活と応用	事前学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 5 回	認知心理学: 記憶	事前学習	テキスト第 2 章 2 節を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 6 回	認知心理学: 思考と注意	事前学習	テキスト第 2 章 3-4 節を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 7 回	発達心理学	事前学習	テキスト第 3 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 8 回	ここまでの学習内容のまとめ	事前学習	テキストの学習範囲を再読する								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 9 回	社会心理学	事前学習	テキスト 4 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 10 回	学習心理学①	事前学習	テキスト第 6 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 11 回	学習心理学②	事前学習	テキスト第 6 章を再読する								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 12 回	人格心理学	事前学習	テキスト第 5 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 13 回	臨床心理学	事前学習	テキスト第 11 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 14 回	健康心理学	事前学習	テキスト第 12 章を読む								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								
第 15 回	ここまでの学習内容のまとめ	事前学習	テキストの学習範囲を再読する								
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める								

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3143
2. 授業担当教員	太田 信夫		
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。</p> <p>2. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。</p> <p>3. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の各章についてその内容をまとめる。これは、学習の再確認をし、学習の定着をはかるために行う。同時に、内容についての感想もまとめる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 高野陽太郎・岡 隆(編)『心理学研究法一心を見つめる科学のまなざし』有斐閣。		
11. 成績評価の方法	試験 70% レポート 20% 授業中の態度 10%		
12. 受講生への メッセージ	自分の頭を使って考えましょう。積極的に発言をしましょう。		
13. オフィスアワー	授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	調査法 (概観)	事前学習	第 10 章の前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 2 回	調査法 (質問紙の作成)	事前学習	第 10 章の前半を再度よく読んでくること
		事後学習	質問紙の作成の修正を行うこと
第 3 回	調査法 (作成の検討、発表)	事前学習	第 10 章の後半を読んでくること
		事後学習	質問紙の修正を行うこと
第 4 回	調査法 (講義)	事前学習	第 10 章後半を再度読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 5 回	調査法 (まとめ)	事前学習	第 10 章のまとめを自分なりにすること
		事後学習	質問紙を完成させ、提出の準備をすること
第 6 回	調査法 (質問紙の完成)	事前学習	第 10 章を通読する
		事後学習	質問紙作成の反省点をノートにまとめる
第 7 回	観察法 (概観)	事前学習	第 11 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 8 回	観察法 (観察用紙の作成)	事前学習	第 11 章を再度読んでくること
		事後学習	観察用紙の作成のさらなる修正をすること
第 9 回	観察法 (結果の発表と検討、講義)	事前学習	観察用紙を完成させてくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 10 回	観察法 (まとめ)	事前学習	第 11 章を通読すること
		事後学習	第 11 章をまとめること
第 11 回	面接法 (概観)	事前学習	第 13 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 12 回	面接法 (面接の実施練習)	事前学習	第 13 章を再度読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 13 回	面接法 (まとめ)	事前学習	第 13 章を通読すること
		事後学習	第 13 章をノートにまとめる
第 14 回	検査法 (信頼性・妥当性)	事前学習	第 12 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 15 回	検査法 (標準化)、	事前学習	第 12 章を再度読んでくること
		事後学習	第 12 章をノートにまとめる
第 16 回	中間テスト	事前学習	これまでの学習の復習をすること
		事前学習	テスト結果の自己評価をすること
第 17 回	科学と実証	事前学習	第 1 章を読んでくること

		事後学習	第 1 章をノートにまとめる
第 18 回	実験と観察	事前学習	第 2 章を読んでくること
		事後学習	第 2 章をノートにまとめる
第 19 回	実験的実証の手続き (概観)	事前学習	第 3 章を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 20 回	実験的実証の手続き (実習)	事前学習	いくつかの実験計画を考える
		事後学習	いくつかの実験計画の再検討をすること
第 21 回	実験計画の立案、実施、結果、考察	事前学習	一つの実験計画 (案) を持参すること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 22 回	実験のデータをとる	事前学習	実験計画を完成させること
		事後学習	収集したデータの分析をすること
第 23 回	実験法 (グループ発表)	事前学習	発表原稿を作成すること
		事後学習	実験報告を作成し、提出の準備をすること
第 24 回	実験法 (実習のまとめ)	事前学習	第 3 章を再度読んでくること
		事後学習	第 3 章をノートにまとめる
第 25 回	実験法 (独立変数)	事前学習	第 4 章前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 26 回	実験法 (独立変数の操作)	事前学習	第 4 章後半を読んでくること
		事後学習	第 4 章をノートにまとめる
第 27 回	実験法 (従属変数)	事前学習	第 5 章前半を読んでくること
		事後学習	本時の学習をノートにまとめる
第 28 回	実験法 (従属変数の操作)	事前学習	第 5 章後半を読んでくること
		事後学習	第 5 章をノートにまとめる
第 29 回	実験法 (剰余変数)	事前学習	第 6 章を読んでくること
		事後学習	第 6 章をノートにまとめる
第 30 回	実験法 (全体のまとめ)	事前学習	テキスト pp.114-118 を読んでくること
		事後学習	実験法についての学習をノートにまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3301 PSMP3143
2. 授業担当教員	岡本 香		
4. 授業形態	講義・実習・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	心理学入門、心理学概論、統計学、心理統計法、心理学基礎実験の全てを履修済みであること。		
7. 講義概要	<p>心理学は、具体的に見ることのできない人の心を対象としていることから、一般の人にも興味を持たれやすい学問であり、身近なもののように思われる。しかし学問としての心理学は実証科学としての性格を持っており、具体的に見ることのできる対象を扱う自然科学の方法論と共通するところが多い。そのため、心理学を研究する際、具体的に見ることのできない心を見えるようにするための工夫が求められることから、人の心という対象を実証科学的に扱う方法は、本質的な難点を伴っている。</p> <p>そこで、本科目では、心理学を科学として研究するための代表的な方法である実験法、調査法、観察法、検査法、面接法等について、それぞれの長所短所の両面を学び、実践するために必要な知識を身につけることを目指す。</p>		
8. 学習目標	<p>4. 科学としての心理学であることの認識を持ち、実証科学的方法の手順を理解する。</p> <p>5. 心理学の代表的な研究方法について理解し、自らの言葉で説明できるようになる。</p> <p>6. 心理的な問題をいかに研究に乗せていくかについて、自ら考え、実践できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントは、授業時間内でできなかった作業とします。またレポート課題は、各研究法の報告レポートとします。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特になし。適宜資料を配付する。</p> <p>【参考書】 高野陽太郎・岡隆(編)『心理学研究法-心を見つめる科学のまなざし-』有斐閣アルマ。</p>		
11. 成績評価の方法	授業態度点30%、課題レポート点70%、を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退、授業中の内職等は、授業態度点において減点します。課題レポートの提出の遅れは、課題レポート点において減点します。		
12. 受講生への メッセージ	本科目は、認定心理士資格取得のために履修が必要となる科目です。したがって、心理学を専門的に勉強したいという学生が受講しているという前提のもとに、心理学の専門的な内容に踏み込んで講義を行います。授業中に私語や居眠りをしていると、授業の内容の理解が困難になりますので、「やる気」を持って臨みましょう。また授業内において、課題に取り組むために必要な作業を説明しますので、必要に応じて、各自で「自分が何をなすべきか」を考えて行動してください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション・実証とは1：科学と実証	事前学習	心理学基礎実験の配布資料を再読して、復習すること。
		事後学習	配付資料を読み直して、復習すること。
第2回	実証とは2：実証の手続き	事前学習	配付資料を読み、意味の分からない用語について調べる。
		事後学習	配付資料を読み直して、復習すること。
第3回	実験法1：実験法とは、実験課題の説明	事前学習	「独立変数」、「従属変数」、「剰余変数」、「条件統制」の言葉の意味を確認すること。
		事後学習	実験法の考え方について復習すること。
第4回	実験法2：実験の計画	事前学習	実験計画を立てるための準備をすること。
		事後学習	実験計画に不備がないかを確認すること。
第5回	実験法3：実験の実施	事前学習	実験実施のための準備をすること。
		事後学習	実験データを整理すること
第6回	実験法4：データの整理と分析	事前学習	分析方法の確認をすること。
		事後学習	分析結果の解釈をすること。
第7回	実験法5：結果の報告（発表）	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第8回	実験法6：結果の報告（発表）	事前学習	結果報告の準備をすること
		事後学習	学んだことをまとめること。
第9回	調査法1：調査法とは、調査課題の説明	事前学習	「質問紙調査の長所短所」を確認すること。
		事後学習	質問紙調査の特徴について復習すること。
第10回	調査法2：調査の計画、質問紙の作成	事前学習	「リサーチクエスション」、「仮説」の言葉の意味を調べる。
		事後学習	質問紙を完成させること。
第11回	調査法3：データの整理と分析	事前学習	調査を実施し、データ収集をすること。
		事後学習	調査データを整理し、分析できるように準備すること。
第12回	調査法4：データの整理と分析、結果報告の準備	事前学習	分析方法の確認をすること。
		事後学習	分析結果の解釈をすること。
第13回	調査法5：結果の報告（発表）	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。

第 1 4 回	調査法 6 : 結果の報告 (発表)	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 1 5 回	観察法 1 : 観察法とは、観察課題の説明	事前学習	「観察法の長所短所」を確認すること。
		事後学習	観察調査の特徴について復習すること。
第 1 6 回	観察法 2 : 観察の実施	事前学習	観察調査の手順を確認し、実施の準備をすること。
		事後学習	観察調査を実施した際の手順を文章化すること。
第 1 7 回	観察法 3 : データの整理	事前学習	調査データを整理すること。
		事後学習	調査データを整理し、わかったことをまとめること。
第 1 8 回	観察法 4 : データの整理と結果報告の準備	事前学習	調査データからわかったことを整理すること。
		事後学習	調査データからわかったことを解釈すること。
第 1 9 回	観察法 5 : 結果の報告 (発表)	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 2 0 回	観察法 6 : 結果の報告 (発表)	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 2 1 回	面接法 1 : 面接法とは、面接課題の説明	事前学習	「面接法の長所短所」を確認すること。
		事後学習	面接調査の特徴について復習すること。
第 2 2 回	面接法 2 : 面接調査の計画	事前学習	面接調査の計画に必要な準備をすること。
		事後学習	面接調査の計画に不備がないか確認すること。
第 2 3 回	面接法 3 : データの整理	事前学習	面接調査を実施してくること。
		事後学習	調査データを整理し、わかったことをまとめること。
第 2 4 回	面接法 4 : データの整理と結果報告の準備	事前学習	調査データからわかったことを整理すること。
		事後学習	調査データからわかったことを解釈すること。
第 2 5 回	面接法 5 : 結果の報告 (発表)	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 2 6 回	面接法 6 : 結果の報告 (発表)	事前学習	結果報告の準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 2 7 回	研究法のまとめ 1 : 心理学レポートの書き方	事前学習	心理学基礎実験の配布資料を再読して、復習すること。
		事後学習	配付資料を読み直して、復習すること。
第 2 8 回	研究法のまとめ 2 : レポート作成	事前学習	レポート作成の際に引用できそうな論文を探して手元に準備すること。
		事後学習	レポートを完成させること。
第 2 9 回	研究法のまとめ 3 : レポート発表	事前学習	レポートの発表準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。
第 3 0 回	研究法のまとめ 4 : レポート発表、総括	事前学習	レポートの発表準備をすること。
		事後学習	学んだことをまとめること。

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習Ⅱ (2 単位)										
2. 授業担当教員	手島 茂樹、中里 克治、石川 清子、大澤 靖彦、加藤 宏一、齋藤 瞳、松坂 秀雄、岡本 香、新井 雅人 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です。	3. 科目番号	PSMP4371								
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学研究法演習Ⅰ」の単位取得後に受講可能です。										
7. 講義概要	心理学関連分野における近年の課題を探し出し、その課題達成に結びつくような研究テーマの設定を試みる。さらに、演習形式により調査法・実験法・介入法・質的研究法などを選択してデータの収集を行い、データの分析および得られた分析結果の考察までを行う。学生自身が心理学における知見と自らの興味関心とを結びつけながら研究テーマの設定を行い、研究計画から研究実施や考察までを行うことにより、心理学的研究を行うための基礎力を身につける。										
8. 学習目標	心理学研究法演習Ⅰの研究計画に基づいて、データの収集、分析、考察を行う。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。										
10. 教科書・参考書・教材	担当教員が授業の中で提示する。										
11. 成績評価の方法	担当教員が授業の中で提示する。										
12. 受講生へのメッセージ	担当教員が授業の中で提示する。										
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。										
14. 授業展開及び授業内容											
担当教員	授業内容										
手島 茂樹	<p>【授業概要】ここでは、研究の仕方について、自分のテーマをベースに学んでいきます。</p> <p>【研究領域】臨床心理学 人格心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】少し英文に慣れてきたと思います。少し内容がここから本格化していきますが、楽しく読めるものからやってみましょう。一週間にほんの少しずつですが、読み終わった達成感は、素晴らしいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知します。</p>										
中里 克治	<p>【授業概要】調査を行う場合の研究計画の立て方、調査票の作成、データ分析とレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>【研究領域】パーソナリティと適応を中心に。対象が大学生になると思う。自分でフィールドを見つけられれば、卒業論文のことも考えて、高齢者とするとも考えられる。</p> <p>【受講者へのメッセージ】研究の出発は自分の興味のある領域の先行研究のレビューから始まる。それを元に妄想を広げてゆくのも楽しいものである。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知する。</p>										
石川 清子	<p>【授業概要】人間科学における近年の問題・課題を探し出し、その問題・課題の解明に向けた研究テーマの設定を試みる。学生自身が心理学における知見と自らの興味関心とを結びつけながら研究テーマの設定を行い、研究計画から研究実施や考察までを行うことにより、心理学的研究を行うための基礎力を身に着ける。</p> <p>【研究領域】教育臨床心理学・自己価値・本来性・動機づけ・家族心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】日常生活の環境の中から、当たり前前に疑問を持てるような感覚を大切にしていきたいと思います。自己や他者の内面的な心の動きに耳を傾け、見つめる研究に興味のある人、量的研究のみならず質的研究に強い関心がある人に、参加していただきたいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】第一回講義にてお知らせします。</p>										
大澤 靖彦	<p>【授業概要】</p> <table border="1"> <tr> <td>第 1 ～ 4 回</td> <td>研究デザインの検討</td> </tr> <tr> <td>第 5 ～ 10 回</td> <td>データの収集・分析</td> </tr> <tr> <td>第 11 ～ 13 回</td> <td>論文作成と課題</td> </tr> <tr> <td>第 14 ～ 15 回</td> <td>プレゼン資料作成・プレゼンリハーサル</td> </tr> </table> <p>【研究領域】学校臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】精力的に研究しましょう。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知します。</p>			第 1 ～ 4 回	研究デザインの検討	第 5 ～ 10 回	データの収集・分析	第 11 ～ 13 回	論文作成と課題	第 14 ～ 15 回	プレゼン資料作成・プレゼンリハーサル
第 1 ～ 4 回	研究デザインの検討										
第 5 ～ 10 回	データの収集・分析										
第 11 ～ 13 回	論文作成と課題										
第 14 ～ 15 回	プレゼン資料作成・プレゼンリハーサル										
加藤 宏一	<p>【授業概要】心理学研究法演習Ⅰで作成した研究計画書に基づいて、研究を実施します。実際にデータを収集し、結果を分析することによって、設定した仮説を検証し、研究の成果や限界などについて具体的に考察します。また、今後の研究の方向性や検証すべき課題についても明らかにしていきます。</p> <p>【研究領域】認知心理学または学習心理学の領域における実験的手法を用いた研究。</p> <p>【受講者へのメッセージ】皆さんが心理学関連の授業で学んでいる心理学の理論や知見は、すべてこうした地道な研究の積み重ねから得られたものです。心理学研究法演習Ⅰと同様に、授業外でも自ら積極的に学習し、研究の楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思います。また、常に、自らの研究の発展や社会的意義を</p>										

	<p>意識して、研究に取り組んでもらいたいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知する。</p>
齋藤 瞳	<p>【授業概要】自身で立案した研究計画に基づき、データの収集・解析を行い、卒業論文の執筆を行う。そして、研究成果に関するプレゼンテーションを行うことにより、第三者に知見を伝えるスキルを身につけることを目指す。</p> <p>【研究領域】心身医学、臨床心理学</p> <p>【受講生へのメッセージ】卒業論文を完成させるためには、大きな努力、途中で投げ出さない強い気持ちが必要となります。最後までやり遂げられた時には、一回り成長した自分に出会えるかもしれませんね。</p> <p>【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします。</p>
松坂 秀雄	<p>【授業概要】心理臨床領域における課題を探し出し、そのテーマに対して質的研究法により、質的データを収集し、そのデータの分析および分析結果の考察を行う。</p> <p>【研究領域】エンカウンター・グループ、カウンセリング、不登校問題</p> <p>【受講者へのメッセージ】心理臨床を目指す人にとって、質的研究法を知り、それを身につけようとする姿勢は、心理学における量的な実証研究を学ぶことと同様に必要なことだと思います。</p> <p>【オフィスアワー】 別途通知します。</p>
岡本 香	<p>【授業目的】心理学研究法演習 I で作成した研究計画書に基づいて研究を実施し、その成果をまとめることを目的とします。</p> <p>【研究領域】社会心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】研究を進めるのは受講生自身です。受講生自身が、自ら学び、自ら考え、積極的に研究に取り組むことを求めます。</p> <p>【オフィスアワー】 第 1 回の授業内にて通知します。</p>
新井 雅人	<p>【授業概要】心理学研究法 I に続き、自身の卒業研究の計画を練っていく。データを集め、結果について検討して論文にまとめていく。</p> <p>【研究領域】臨床心理学（実験研究）</p> <p>【受講者へのメッセージ】卒業研究は、どれだけ主体的に取り組むエネルギーをさけるかによって、出来が大きく変わると思います。頑張ってください。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS1110
2. 授業担当教員	岡本 香		
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	心理学系科目の中で最初に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目では、心理学という学問の入門的な学習として、歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における最も基礎的な概念と理論に幅広くふれながら、理解する。		
8. 学習目標	1. 心理学への興味を高め、後の心理学系専門科目の学習につなげることができる。 2. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 3. 心理学的な思考方法を身につけ、心理学系専門科目を学ぶための基礎を身につける。 4. 世間一般の心理学のイメージと、学問としての心理学との違いを理解し、説明することができる。		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	教科書の該当箇所を事前に読んでくることをアサインメントとします。また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題をアサインメントとします。レポート課題については、第 1 回以降にテーマを提示します。そのテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子・橋本尚子・東正訓 (著)『ワークショップ心理学』ナカニシヤ出版。 【参考書】 松原達哉 (編)『臨床心理学シリーズ①心理学概論』培風館。		
11. 成績評価の方法	授業態度点 30%、授業内に実施する小テストおよび課題レポート点 70%を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。小テストの不参加、課題レポート提出の遅れは、小テストおよび課題レポート点において減点します。		
12. 受講生へのメッセージ	15 回という限られた講義期間の中で、幅広い領域について触れることから、毎回の講義は、密度の濃いものになります。したがって、不用意な欠席、遅刻、早退、私語、居眠り等があると、授業内容の理解が困難になることが予想されます。そのような態度の学生については、授業態度点において減点します。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 心理学とはなんだろう	事前学習	教科書第 1 章第 1 節を読み、心理学とは何かを考えること
		事後学習	オリエンテーションの配付資料を再読すること
第 2 回	心理学の歴史 1 : ヴント以前	事前学習	教科書第 1 章第 2 節を読むこと
		事後学習	心理学の歴史 1 の配付資料を読んで復習すること
第 3 回	心理学の歴史 2 : ヴント以降	事前学習	教科書第 1 章第 2 節を読むこと
		事後学習	心理学の歴史 2 の配付資料を読んで復習すること
第 4 回	知覚心理学 : 見えの不思議	事前学習	教科書第 2 章第 1 節を読むこと
		事後学習	知覚心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 5 回	学習心理学 : 学習の不思議	事前学習	教科書第 2 章第 2 節を読むこと
		事後学習	学習心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 6 回	認知心理学 : 記憶の不思議	事前学習	教科書第 2 章第 3 節を読むこと
		事後学習	認知心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 7 回	知覚心理学・学習心理学・認知心理学のまとめ	事前学習	知覚心理学、学習心理学、認知心理学についての配付資料を読んで復習をすること
		事後学習	これまでの復習をすること
第 8 回	発達心理学 : 発達を心理学しよう	事前学習	教科書第 4 章を読むこと
		事後学習	発達心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 9 回	社会心理学 : 対人関係を心理学しよう	事前学習	教科書第 5 章を読むこと
		事後学習	社会心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 10 回	社会心理学 : 人を動かす心理学をしよう	事前学習	教科書第 6 章を読むこと
		事後学習	社会心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 11 回	発達心理学・社会心理学のまとめ	事前学習	発達心理学および社会心理学についての配付資料を読んで復習すること
		事後学習	これまでの復習をすること
第 12 回	臨床心理学 : こころの健康を心理学しよう 1	事前学習	教科書第 8 章第 1 節を読むこと
		事後学習	臨床心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 13 回	臨床心理学 : こころの健康を心理学しよう 2	事前学習	教科書第 8 章第 2 節を読むこと
		事後学習	臨床心理学についての配付資料を読んで復習すること
第 14 回	臨床心理学のまとめ	事前学習	臨床心理学についての配付資料を読んで復習をすること
		事後学習	これまでの復習をすること
第 15 回	総括 心理学を役立てる	事前学習	教科書第 10 章を読むこと
		事後学習	総括の配付資料を読んで復習すること

1. 科目名 (単位数)	心理学入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1310												
2. 授業担当教員	加藤 宏一														
4. 授業形態	講義・演習(ディスカッションを含む)	5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・他科目との関係	心理学系科目の中で最初に履修することが望ましい。														
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目では、心理学という学問の入門的な学習として、歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における最も基礎的な概念と理論に幅広くふれながら、理解する。														
8. 学習目標	5. 心理学への興味を高め、後の心理学系専門科目の学習につなげることができる。 6. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 7. 心理学的な思考方法を身につけ、心理学系専門科目を学ぶための基礎を身につける。 8. 世間一般の心理学のイメージと、学問としての心理学との違いを理解し、説明することができる。														
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	テーマごとに、随時、講義のまとめ、演習課題、小レポートを提出してもらう。														
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】手島茂樹 渡辺映子(編著)『スタンダード心理学』おうふう出版。 【参考書】必要に応じて、適宜紹介する。														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講態度</td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>60%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。</td> </tr> </table> <p>なお、遅刻、早退は、受講態度点より減点します。</p>			受講態度	30%		レポート	10%		小テスト	60%		合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。
受講態度	30%														
レポート	10%														
小テスト	60%														
合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。													
12. 受講生へのメッセージ	<p>以下のことを期待します。(禁止事項については授業にて)</p> <p>4. 「予習→授業→復習」サイクルの学び</p> <p>5. 積極的な授業参加(発言、質問、ディスカッション)</p> <p>6. 「授業のまとめ」、その他の提出物の期限の厳守</p>														
13. オフィスアワー	授業時に通知する。														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	心理学とは? : 概要/諸領域/研究法	事前学習	テキストの準備												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 2 回	心理学史	事前学習	テキスト第 1 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 3 回	感覚と知覚①: 基本的メカニズム	事前学習	テキスト第 2 章 1 節を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 4 回	感覚と知覚②: 日常生活と応用	事前学習	講義内容を振り返り、理解を深める												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 5 回	認知心理学: 記憶	事前学習	テキスト第 2 章 2 節を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 6 回	認知心理学: 思考と注意	事前学習	テキスト第 2 章 3-4 節を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 7 回	発達心理学	事前学習	テキスト第 3 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 8 回	ここまでの学習内容のまとめ	事前学習	テキストの学習範囲を再読する												
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める												
第 9 回	社会心理学	事前学習	テキスト 4 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 10 回	学習心理学①	事前学習	テキスト第 6 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 11 回	学習心理学②	事前学習	テキスト第 6 章を再読する												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 12 回	人格心理学	事前学習	テキスト第 5 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 13 回	臨床心理学	事前学習	テキスト第 11 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 14 回	健康心理学	事前学習	テキスト第 12 章を読む												
		事後学習	講義内容を振り返り、「まとめ」を作成する												
第 15 回	ここまでの学習内容のまとめ	事前学習	テキストの学習範囲を再読する												
		事後学習	講義内容を振り返り、理解を深める												

1. 科目名 (単位数)	心理検査法 (4 単位)	3. 科目番号	EDPS3302 PSMP1110
2. 授業担当教員	齋藤 瞳	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>臨床心理学において、必須の知識である必要な心理査定技術の基礎を習得する。担当教員が選定した代表的な心理検査について、1.理論的背景、2.実施方法、3.結果の整理方法、4.解釈方法、5.利用上の注意点、6.適応範囲と限界などを理解することを目的とする。心理検査法の基礎的な事項(理論や施行法)を身に付けるために、演習を重視する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.担当箇所の心理検査をレジュメにまとめて、プレゼンテーションを行う。 2.検査者・被検者体験、心理検査の事例等に関してグループディスカッションを行う。 3.実施した心理検査に関して、レポートを提出する。 <p>といった方法で、各検査法の特徴と臨床現場での使用の仕方を体験的に学ぶ。</p> <p>また、時間がゆるせば、1.査定法の選び方、2.環境の整え方、3.結果の報告やフィードバックの仕方 などについても検討する。</p>		
8. 学習目標	心理査定法の中でも、特に心理検査法に焦点をあてる。演習を行うことによって心理査定技術の基礎的な技術を身につけ、活用できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・心理検査を実施し、その結果について整理・解釈し心理検査報告書としてまとめることをレポート課題とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【心理検査】 授業で取り上げる心理検査の質問紙および記録用紙 (YG 性格検査, ジョインズ人格適応型心理検査 NEO-PI-R プロフィール用紙, 内田クレペリン精神検査, 厚生労働省編一般職業適性検査)</p> <p>【教科書】 松原達哉 編著『臨床心理アセスメント新訂版』丸善出版</p> <p>【参考書】 松原達哉 榎木満生編『臨床心理アセスメント演習』培風館</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み姿勢 (受講態度・討論参加など) : 30%</p> <p>発表 : 30%</p> <p>レポート課題 : 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>人に迷惑をかける行為を慎むことは受講する上での基本事項ですが、実習が基本となるため、欠席・遅刻・早退はしないように、またレポートの提出期限の厳守も心がけてください。</p> <p>心理検査を通して自己理解・他者理解を深め、日常生活・現場で生かす力をつけることができるよう、理解できないことは積極的に質問し、主体的に学ぼうとする姿勢で授業参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	初回授業時にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 心理検査法とは?	事前学習	関心のある心理検査に関して、概要を調べる
		事後学習	授業で取り上げる心理検査の概要を確認
第 2 回	心理検査における留意点	事前学習	関心のある心理検査を 1 つ選択し、概要を理解する
		事後学習	自身の発表担当心理検査に関して調べ、発表までの見通しをたてる
第 3 回	検査者・被検者関係の体験的理解 (心理検査施行・ロールプレイ)	事前学習	心理検査実施時の留意点についての確認
		事後学習	ロールプレイを通して、気づいたこと・考えたことを整理
第 4 回	検査者・被検者関係の体験的理解 (心理検査結果整理)	事前学習	心理検査の結果算出方法の理解
		事後学習	実施した心理検査についての結果整理
第 5 回	検査者・被検者関係の体験的理解 (心理検査フィードバック)	事前学習	心理検査フィードバック時の留意点について確認
		事後学習	ロールプレイを通して、気づいたこと・考えたことを整理
第 6 回	検査者・被検者関係の体験的理解 (報告書作成)	事前学習	心理検査報告書作成時の留意点について確認
		事後学習	心理検査報告書の完成
第 7 回	類型論と特性論	事前学習	類型論と特性論について調べる
		事後学習	類型論と特性論の各特徴を理解する
第 8 回	YG 性格検査の実施	事前学習	YG 性格検査の概要を調べる
		事後学習	YG 性格検査について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 9 回	質問紙法とは	事前学習	質問紙法について調べる
		事後学習	質問紙法の有用性と限界について理解する
第 10 回	NEO-PI-R の実施	事前学習	NEO-PI-R の概要を調べる
		事後学習	NEO-PI-R について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 11 回	ジョインズ人格適応型心理検査とは	事前学習	ジョインズ人格適応型心理検査について調べる
		事後学習	ジョインズ人格適応型心理検査の有用性と限界について理解する
第 12 回	ジョインズ人格適応型心理検査の実施	事前学習	ジョインズ人格適応型心理検査の背景となる理論について

			調べる
		事後学習	ジョインズ人格適応型心理検査について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 13 回	描画法とは	事前学習	描画法の概要を調べる
		事後学習	描画法の有用性と限界について理解する
第 14 回	バウムテスト・HTPP の実施	事前学習	HTPP の概要を調べる
		事後学習	HTPP について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 15 回	作業検査とは	事前学習	作業検査について調べる
		事後学習	作業検査の有用性と限界について理解する
第 16 回	内田クレペリン検査の実施	事前学習	内田クレペリン検査の概要を調べる
		事後学習	内田クレペリン検査について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 17 回	職業適性検査とは	事前学習	職業適性検査について調べる
		事後学習	職業適性検査の有用性と限界について理解する
第 18 回	厚生労働省編一般職業適性検査の実施	事前学習	厚生労働省編一般職業適性検査について調べる
		事後学習	厚生労働省編一般職業適性検査について、自身の結果をまとめ自己理解を深める
第 19 回	知能検査とは	事前学習	知能検査について調べる
		事後学習	知能検査の有用性と限界について理解する
第 20 回	田中ビネー知能検査の実施 ウェクスラー知能検査の実施	事前学習	田中ビネー知能検査とウェクスラー知能検査の概要を調べる
		事後学習	各知能検査の有用性と限界について、理解を深める
第 21 回	個別式知能検査とは	事前学習	個別式知能検査の概要を調べる
		事後学習	個別式知能検査の有用性と限界について理解する
第 22 回	田中ビネー知能検査の実施 ウェクスラー知能検査の実施	事前学習	知能検査の実施方法を理解する
		事後学習	知能検査実施時の留意点について理解を深める
第 23 回	知能検査の結果整理	事前学習	知能検査の結果整理方法について調べる
		事後学習	知能検査を実施した結果を整理する
第 24 回	田中ビネー知能検査の実施 ウェクスラー知能検査の実施	事前学習	知能検査結果のフィードバック時の留意点について調べる
		事後学習	知能検査結果のフィードバック時の留意点について整理する
第 25 回	TAT とは	事前学習	TAT の理論的背景について概要を調べる
		事後学習	TAT の有用性と限界について理解する
第 26 回	TAT 体験	事前学習	TAT の実施方法と結果のまとめ方に関して概要を調べる
		事後学習	TAT を実施する際の留意点について理解する
第 27 回	ロールシャッハテストとは	事前学習	ロールシャッハテストの理論的背景について概要を調べる
		事後学習	ロールシャッハテストの有用性と限界について理解する
第 28 回	ロールシャッハテスト体験	事前学習	ロールシャッハテストの実施方法と結果のまとめ方に関して概要を調べる
		事後学習	ロールシャッハテストを実施する際の留意点について理解する
第 29 回	コラージュ療法	事前学習	コラージュ療法について調べる
		事後学習	コラージュ療法の自身の作品に関して振り返りを行う
第 30 回	まとめ	事前学習	学習した各心理検査について特徴を整理する
		事後学習	心理検査を通じた自己理解と他者理解に関して自身の考えを整理する

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (小) (2 単位)		3. 科目番号	SJOT1141 EDEL1304
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I → II の順で履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題①】美術館鑑賞レポート：美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、自身の鑑賞体験をレポートにまとめる。...1500 字程度。 【レポート課題②】「(1) 子どもにとっての造形活動とはどのような意義があるか。(2) また、教師にはどのような役割があるのか。(1)(2)について授業での体験やそれを通して気づいたことを例示しながらまとめなさい」...1500 字程度 ※いずれも詳細は授業中に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み (課題の提出)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み (課題の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を 100%引き出す指導を目指します。実際の現場でも活用できるような図画工作科の授業内容を体験することを通して、小学校における図画工作科の意義を考えていくとともに、多様な価値観に触れることで、指導者としてのより実践的な視点を獲得していきます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 一幼・小の連続的な造形教育と学びの特質、図画工作科の教科内容と授業計画 (題材設定・展開) について	事前学習	・教科書を一通り確認しておく。	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。	
第 2 回	身近な素材から「自然素材を探して」	事前学習	・教科書 p.90 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 3 回	身近な素材から「自然素材であらわす」	事前学習	・事前配布資料を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 4 回	鑑賞「アートカードを使った鑑賞活動」	事前学習	・ pp.138-139、pp.150-151 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 5 回	絵であらわす 1 「〇〇で描く」	事前学習	・教科書 pp.69-70 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 6 回	絵であらわす 2 「多様な水彩技法の実験」	事前学習	・教科書 p.71 を読む。 ・水彩絵の具を用意する。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 7 回	絵であらわす 3 「モダンテクニックの実験」	事前学習	・事前配布資料を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 8 回	絵であらわす 4 「テーマ制作」	事前学習	・教科書 p.75 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 9 回	粘土であらわす 1 「油粘土による造形」	事前学習	・教科書 p.88 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 10 回	粘土であらわす 2 「紙粘土による造形」	事前学習	・教科書 p.89 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 11 回	木工であらわす「くぎうちトントン」	事前学習	・事前配布資料を読む。	
第 12 回	造形遊び 1 「おけ屋敷をつくろう-計画-」	事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
		事前学習	・事前配布資料を読む。	
第 13 回	造形遊び 2 「おけ屋敷をつくろう-制作-」	事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
		事前学習	・制作に必要な資料、材料を集める。	
第 14 回	造形遊び 3 「おけ屋敷をつくろう-実践と振り返り-」	事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
		事前学習	・作品を完成させる。	
第 15 回	授業のまとめと振り返り	事後学習	・ポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点や理解が不十分であった点などを見つける。	
		事前学習	・【レポート課題②】...1500 字程度	

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ / 図画工作Ⅱ (保育士) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141 SSOT2522 SCOT2522
2. 授業担当教員	手塚 千尋		5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	実技、講義			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回ガイダンスで説明する。 2. 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解したことを具体的に示しながらまとめる (テーマは自由)」 1000 字 【レポート課題②】 「授業を通して何を学んだのか具体例を挙げながら感想を交えてまとめる」 1500 字 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 谷田貝公昭監修、おかもとみわこほか編著『新・保育内容シリーズ 6 造形表現』一藝社。 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。</p> <p>【参考書】 横 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 茂木一司・手塚千尋編集『色の学び辞典 全3巻』星の環会。</p> <p>【教材・道具など】 各自で準備が必要なものは事前に通知する</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み (課題物の提出、グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。</p> <p>授業への取り組み (課題物の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>幼児は目の前のモノやヒトに対し、からだ全体ではたらきかけることを通して自分が存在する「世界」について知覚し、認知していきます。つまり、幼児にとって造形活動は「探求」であり、学びの過程そのものを意味します。そのため保育者には、より創造的な想像力、学びを支援するための実践力が求められます。この授業では幼児の造形教育に関する基礎・基本について学びますが、造形表現活動に関する多くのヒントは日常生活に隠されています。自身の興味・関心の向上が造形教育や学習への大きな動機づけになることを理解して授業に臨むことを期待しています。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①必ず汚れてもよい服装で出席すること。 ②この授業では、ポートフォリオ＝自分の学習の過程の記録が評価の大半を占めます。制作過程や学習の記録 (記述、写真など) を忘れずにしましょう。 			
13. オフィスアワー	その都度お知らせします			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形表現の内容と表現活動を促す環境デザインについて	事前学習	・テキストを一通り確認しておく。	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 2 回	ひかり 1 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想① (実習)	事前学習	・「光」の特性についてまとめてくる	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 3 回	ひかり 2 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想② (実演+相互評価)	事前学習	・具体的な造形活動への展開を考えてくる	
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 4 回	かぜ 子どもの興味から出発する造形活動と遊びの構想	事前学習	・テキスト第 9 章を読む	
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 5 回	紙の可能性 1 「おしゃれな〇〇に大変身」 —制作	事前学習	・「紙」の特性と行為性を 5 つ以上挙げてくる (キーワードで可)	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 6 回	紙の可能性 2 「おしゃれな〇〇に大変身」 —制作・ファッションショー	事前学習	・課題を完成させる	
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 7 回	アール・ブリュットの世界Ⅱ アート×福祉	事前学習	・事前配布資料を読んでまとめてくる	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	

	(講義+ディスカッション)		
第 8 回	幼児とアートプログラム 美術館、芸術士など幼児を取り巻くアート環境の最新動向について (講義+ディスカッション)	事前学習	・事前配布資料を読む
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 9 回	「保育指導案」の作成	事前学習	・テキスト第 5 章を読む
		事後学習	・指導案を完成させる (後日提出)
第 10 回	人形劇の学習環境デザインと実践 1 グループワークによる企画・実施に向けての構想	事前学習	・テキスト第 10 章を読む。
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 11 回	人形劇の学習環境デザインと実践 2 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 12 回	人形劇の学習環境デザインと実践 4 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 13 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 4 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 14 回	人形劇の発表と相互評価	事前学習	・発表の準備、練習
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解したことを具体的に示しながらまとめる」 1500 字
第 15 回	授業のまとめとふりかえり	事前学習	・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。
		事後学習	【レポート課題②】 ・ 9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141 EDEL2304
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	図画工作Ⅰ→図画工作Ⅱの履修が望ましい			
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題①】美術館鑑賞レポート：美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、自身の鑑賞体験をレポートにまとめる。...1500 字程度。 【レポート課題②】図画工作科題材の提案についてまとめる。 ※いずれも詳細は授業中に説明する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み (課題の提出)、ポートフォリオ、レポート・授業内の課題より総合判定をする。 授業への取り組み (課題の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート・授業内の課題 30%			
12. 受講生への メッセージ	小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を 100%引き出す指導を目指します。実際の授業として取り上げられることを意識して授業内容を体験することで、指導者としてのより実践的な視点を獲得していきます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 図画工作科の教科特性を考える	事前学習	・教科書を一通り確認しておく。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 2 回	造形遊び「カラフルスティック」	事前学習	・教科書 pp.58-59 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 3 回	身近な素材から 1 「ふわふわモコモコ雲の世界」 -発想から制作へ	事前学習	・教科書 P.60-61 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 4 回	身近な素材から 2 「ふわふわモコモコ雲の世界」 -プレゼンテーションとふり返り	事前学習	・教科書 P.62-63 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 5 回	木工であらわす 1 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -アイデア出しと制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 6 回	木工であらわす 2 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 7 回	木工であらわす 3 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -作品鑑賞会とまとめ、ふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 8 回	光のアート 1 「Pikapika-光の軌跡で描こう-」 -Pikapika 体験、アイデア出し	事前学習	・制作を完成させる ・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 9 回	光のアート 2 「Pikapika-光の軌跡で描こう-」 -制作、まとめとふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 10 回	アニメの原理と手づくりアニメ	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 11 回	映像メディアによる表現「ストップモーションムービー」	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 12 回	造形遊び 1 「ファッションショー-de アート」 -計画	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 13 回	造形遊び 2 「ファッションショー-de アート」 -制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 14 回	造形遊び 3 「ファッションショー-de アート」 -ショーの実施とふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 15 回	授業のまとめとふり返り	事前学習	・これまでの授業についてふりかえる	
		事後学習	・【レポート課題②】...1500 字程度	

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2304
2. 授業担当教員	服部 鋼資		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技、講義		6. 履修条件・他科目との関係	「図画工作Ⅰ」を修得した後に履修することを条件とする。
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通用する幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的な造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業出席カード」により毎回の授業における感想、意見等を記述する。 ・課題ごとに作品及びその製作過程や反省等を記録し、ノートとしてまとめる。ワークシートを記録する。 ・レポート提出。課題「題材製作から何を学んだか・・・図画工作科の目標と関連させて」を提出。 ・題材分析表提出。課題「題材についての題材分析」 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要に応じて印刷資料を配布する。 【参考書】 藤江充他『形、色、イメージ+これからの図画工作』日本文教出版。			
11. 成績評価の方法	作品、レポート、題材分析表、受講態度等により総合判定をする。 作品 50%、レポート 20%、題材分析表 10%、ノート作成 10%、受講態度 10% 本学規定により、授業時数の 4 分の 3 以上 (15 回中 12 回以上) の出席を確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	図画工作科教育の内容の理解は、映像や写真、あるいは、実体験等を通して理解を図る必要がある。そのため、極力、欠席を避け、授業に積極的に参加して理解を図ることを基本とする。また、以下のことに留意して授業に参加してほしい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現活動には、材料と用具が必須のものとなる。準備すべきものを忘れないように対応することが大切である。材料集めも学習の大切な要件となる。 2. 授業の内容や感想、あるいは、授業の中で学び取ったことをノートに記録する習慣を身につける。 3. 授業中の私語を慎み、表現活動等に集中して取り組むようにする。 4. 作品などの提出物は、決められた日時に提出する。厳守。 5. 欠席をした場合は、授業の課題及び次回の準備等を友人等から必ず確認する。 			
13. オフィスアワー	授業の前後で対応する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション ・授業計画と評価 ・授業の取り組みへの心構え、 ・造形表現と教育の関係について	事前学習	ノート、資料用ファイルを用意し、シラバスを読み、授業に臨む心構えをつくる。	
		事後学習	授業計画を理解し、授業のルール等をノートに纏める。	
第 2 回	表現 1 (絵×工作) 題材研究「ドキドキわくわく動く顔」(1)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	授業を振り返り次回の課題を整理し、準備をする。	
第 3 回	表現 2 (絵×工作) 題材研究「ドキドキわくわく動く顔」(2)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 4 回	表現 3 (絵に表す) 題材研究「切り取り紙版画」(1)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	授業を振り返り次回の課題を整理し、準備をする。	
第 5 回	表現 4 (絵に表す) 題材研究「切り取り紙版画」(2)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 6 回	表現 5 (立体に表す) 題材研究「へんてこ人間誕生」	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 7 回	講義・演習 子どもの絵の発達過程を巡って	事前学習	事前に配布された資料を読み、子どもの絵の発達過程に興味と関心を持つ。	
		事後学習	子どもの絵の発達過程の特徴を理解し、ノートに整理する。	
第 8 回	鑑賞 1 講義・演習 子どもの絵の魅力と見方 (グループ活動)	事前学習	事前に配布された資料を基に子どもの絵の魅力と意味について関心を持つ。	
		事後学習	子どもの絵の読み取りについて自他の捉え方の違いなどをノートに整理する。	
第 9 回	表現 6 (造形遊び) 題材研究「新聞紙で何ができるかな」 (グループ活動)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 10 回	表現 7 (絵×工作) 題材研究「ふしぎ島・ふしぎ山 1」	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	授業を振り返り次回の課題を整理し、準備をする。	
第 11 回	表現 8 (絵×工作) 題材研究「ふしぎ島・ふしぎ山 2」	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 12 回	表現 9 (絵×工作) 題材分析「ふしぎ島・ふしぎ山 3」 (グループ学習を含む)	事前学習	題材分析に関する資料を予習し授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 13 回	表現 10 (立体に表す) 題材研究「粘土でスタンプ」	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 14 回	表現 11 (立体に表す) 題材研究「虫さんの家をつくろう」 (グループ活動)	事前学習	必要な用具や材料を確認し、準備をして授業に臨む。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	
第 15 回	講義・演習 授業における教師の役割 (ディスカッション)	事前学習	事前の配布資料を通読し、教師の役割について考える。	
		事後学習	ワークシートに授業の振り返りを記録し自己評価をする。	

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP4488 SCMP4488
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	(1) スクールソーシャルワーク実習の意義について理解する。(2) 学校現場を知り、学校組織について体験的に学ぶ。(3) スクールソーシャルワーク実習に関わる個別指導や集団指導を通して、学校におけるソーシャルワーク実践に必要な知識と技術について具体的に理解し、実践的な技術を身につける。(4) 教育現場でのソーシャルワーク実践を行う社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、教育課題に総合的に対応できる能力を身につける。(5) 具体的体験や援助活動を専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができる能力を身につける。(6) 既存の実践現場ではなく、新たな実践現場に入っていき意義を十分に理解し、開拓的視点を身につける。		
8. 学習目標	スクールソーシャルワーク教育課程で学んだ内容をもとに、学校現場等での実習を通して、学校現場が抱える多くの課題にソーシャルワークの視点から対応できるようになる。特に、新たな実践現場である学校組織をよく知り、教員との連携はもとより、保護者や関係機関、地域との連携まで視野に入れた実践が展開できる能力も身につけることを目指す。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(1) 授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果についてレポートにまとめる。(2) 実習校への事前訪問を行い、その内容について報告する。(3) それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 門田光司・鈴木庸裕『ハンドブック・学校ソーシャルワーク演習～実践のための手引～』 ミネルヴァ書房、2010。 【参考書】 米川和雄編著『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房、2010。 門田光司・奥村賢『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』 中央法規、2009。 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008。		
11. 成績評価の方法	レポート	50%	
	学校または子ども支援に関するフィールド体験とそのレポート	15%	
	実習校への事前訪問及びその内容報告	15%	
	授業態度、発表、授業への積極的参加度	20%	
12. 受講生への メッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F 評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前に出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (内容・進め方・評価方法・スクールソーシャルワーク実習について)	事前学習	スクールソーシャルワーク実習のイメージをした上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習についてわかったことをまとめる。
第 2 回	実習の心構えと準備①	事前学習	「なぜ実習に行くのか」について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーク実習の特性についてまとめる。
第 3 回	実習の心構えと準備②	事前学習	実習の流れについて理解した上で授業に臨む。
		事後学習	実習前に身に付けておくべき事項をチェックした上で、どのようにして身に付けるか考える。
第 4 回	実習課題の設定	事前学習	自分の実習課題について考えた上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーの配置形態別内容についてまとめる。
第 5 回	実習記録と記録方法、スクールソーシャルワーカーとしての資質	事前学習	実習記録と記録方法について理解した上で授業に臨む。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーとしての資質について確認し、どのようにしてそうした資質を身に付けるか考える。
第 6 回	スクールソーシャルワークの支援方法 1 (スクールソーシャルワークの目的、支援方法、アセスメント)	事前学習	テキスト第 2 章の pp.18～42 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	アセスメントシートの記入方法を理解する。
第 7 回	スクールソーシャルワークの支援方法 2 (ジェノグラム・エコマップ・子どもの支援計画)	事前学習	テキスト第 2 章の pp.42～53 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	ジェノグラム・エコマップを描いてみる。

第 8 回	実習校への事前訪問	事前学習	実習校の概要を調べ、まとめる。
		事後学習	事前訪問でわかったことをまとめる。
第 9 回	不登校の子どもたちへの支援 1	事前学習	テキスト第 3 章の pp.54～65 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	不登校の子どもたちの支援についてまとめる。
第 10 回	不登校の子どもたちへの支援 2	事前学習	テキスト第 3 章の pp.65～71 の事例をよく読み、アセスメントシートを作成してみる。
		事後学習	p.70 の「支援の振り返り」を考える。
第 11 回	ゲストスピーカーを迎えて	事前学習	ゲストスピーカーに質問したいことを考える。
		事後学習	ゲストスピーカーの話から得たことをまとめる。
第 12 回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援 1	事前学習	テキスト第 3 章の pp.71～79 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	児童虐待を受けている子どもたちへの支援についてまとめる。
第 13 回	児童虐待を受けている子どもたちへの支援 2	事前学習	テキスト第 3 章の pp.79～89 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	p.89 の「支援の振り返り」を考える。
第 14 回	実習校への事前訪問	事前学習	実習校の概要を調べ、まとめる。
		事後学習	事前訪問でわかったことをまとめる。
第 15 回	まとめ（スクールソーシャルワークによる子どもたちへの支援について総合的に考える）	事前学習	テキストの事例を一つ取り上げ、熟読する。
		事後学習	選んだ事例の「支援の振り返り」を考える。

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4306 SCMP4306
2. 授業担当教員	洪 金子		
4. 授業形態	講義・ゼミ方式、学生個人・グループ研究発表、事例分析	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	資格関連教育学科目と同時履修が求められる。		
7. 講義概要	スクールソーシャルワーク論はスクールソーシャルワーカーを養成し、学校教育現場の状況と問題を理解し、その問題の解決を支援できる人材を育成することに目的をおく科目である。これらの目的を達成するための講義内容としては、児童生徒の発達権、学習権を保障し、貧困の連鎖、社会的排除への認識を高め、一人一人の発達の可能性を信頼し、多様な社会生活の場において、とりわけ学校生活に充実し、児童生徒とその家庭の自己実現を図るために、人と環境のかかわりに介入して支援できるように授業内容を構成する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 今日の学校教育現場の現況と問題を理解し、学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義と必要性を説明することができる。 スクールソーシャルワークの概念とその発展過程について理解し、説明することができる。 海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について学んだうえ、日本の特性を反映できるスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解し、説明することができる。 スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解し、学校教育現場で実践するときに、多様な視点を持つようになる。 スクールソーシャルワークの内容とその必要性について理解し、説明することができる。 学校文化・教員文化や教育行政を含む教育行政システムについて理解し、説明することができる。 子ども自身だけでなく、子どもを取り巻く環境の家庭・学校・地域社会等へのアプローチ方法を身につけられる。 他の対人関係専門職とのチームワークやネットワークキングの意義とその必要性について理解し、説明することができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	事例研究、グループ研究・発表及びレポート 児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域との関係で学校教育現場が抱えている問題(不登校、非行、学齢期の児童虐待、特別支援教育、貧困・離婚など家族問題、外国児童の就学問題、学習遅滞・学習障害・教育・福祉、その他)の中で、一つ以上の問題を持っている事例について、授業時間で学んだ介入モデルや技術を適用し、介入プロセスに従って分析する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】・山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よく分かるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2014(主)。</p> <p>・門田光司・鈴木庸裕編著『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2010(副)。</p> <p>【参考書】・日本学校ソーシャルワーク学会編集『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規、2008。</p> <p>・日本スクールソーシャルワーク協会編『スクールソーシャルワーク論』学苑社、2008。</p> <p>・門田光司『学校ソーシャルワーク入門』中央法規、2002。</p> <p>・半羽利美佳『アメリカにおけるスクールソーシャルワークの現状と課題』『ソーシャルワーク研究』Vol.32 No.2、2006。</p> <p>・山下英三郎『スクールソーシャルワーク』『ソーシャルワーク研究』Vol.32 No.2、2006。</p> <p>・Allen-Meaers P, Robert O.W.& Betty L.W.W.『Social Work Services in School.』Prentice-Hall, Inc, Englewood Cliffs, New Jersey.1986。</p> <p>・Costin, L. B.『School Social Work as Specialized Practice』『Social Work』、1981。</p> <p>・成ミンソン・洪金子外『学校社会福祉の理論と実際』学志社、2009。</p> <p>・洪金子『スクールソーシャルワークの機能と介入方法』『社会福祉』第 43 号、2002。</p>		
11. 成績評価の方法	授業参加	30%	
	グループ研究・発表・ミニテスト	50%	
	レポート	20%	
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 必ず出席し、討論や発表に参加すること。 卒業後も、互いに連携を取り合い、ピア・コンサルテーションができるよう、現在、対面している問題や課題についてこの授業の場を使って話し合い、解決に向ける援助の方法を習得するようにすること。 		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢とこれらとの関係で学校教育現場が抱えている問題 (不登校、非行、学齢期の児童虐待、特別支援教育、貧困・離婚など家族問題、外国児童の就学問題、学習遅滞・学習障害教育福祉、その他)	事前学習	当該科目に関する今までの理解・考え方をまとめておく
		事後学習	学校現場で起きる児童生徒の問題に関して説明できる。
第 2 回	スクールソーシャルワークの理解 (概念・価値・倫理・視点、人権と社会正義、児童の権利に関する条約、その他)とその対象に関する理解(青少年の概念と学生数の推移、青少年期の発達の特性、青少年の発達理論)	事前学習	スクールソーシャルワークの概念・価値・倫理・視点について調べる。
		事後学習	青少年の発達とかかわる多様な問題について理解する。
第 3 回	学校組織に対する理解 (学校教育の目的、学校組織の特性、日本の学校組織、日本の学校文化・教員文化、校長会・教育委員会)と教育及び青少年	事前学習	学校を取り囲んでいる組織的システムについて調べる。
		事後学習	学校の環境を System Theory に沿っ

	関連政策と法の理解(教育政策に対する理解、教育政策の法的基盤、青少年関連政策、青少年政策の法的基盤、日本の教育福祉)		て体系化してみる。
第 4 回	海外のスクールソーシャルワークの発展過程 (アメリカとイギリスと韓国のスクールソーシャルワーク発達史、アメリカの教育福祉)とスクールソーシャルワーカーの役割と活動	事前学習	外国のスクールソーシャルワークについて調べる。
		事後学習	韓国と韓国のスクールソーシャルワークの比較を通してそれぞれの特徴が分かる。
第 5 回	日本のスクールソーシャルワークの発展過程 (日本のスクールソーシャルワーク発達史、日本の教育福祉)と日本のスクールソーシャルワーカーの役割と活動	事前学習	日本のスクールソーシャルワークについて調べる。
		事後学習	各国のスクールソーシャルワークが国の時代的背景と環境によって異なることを理解する。
第 6 回	スクールソーシャルワークの実践モデル(システムモデル、生態学モデル、エンパワーメントモデル、ストレングスモデル)	事前学習	スクールソーシャルワークの理論的背景について調べる。
		事後学習	スクールソーシャルワーク理論をケースに適用してみる。
第 7 回	スクールソーシャルワークの実践モデル(社会的構成主義モデル、パワー交互作用モデル)と適用事例	事前学習	スクールソーシャルワークの理論的背景について調べる。
		事後学習	スクールソーシャルワーク理論をケースに適用して見る。
第 8 回	中間のまとめ スクールソーシャルワークの実践の方法(アセスメントと評価)	事前学習	ソーシャルワークのプロセスを復習する。
		事後学習	ソーシャルワークとスクールソーシャルワークプロセスの類似性に気付く。
第 9 回	スクールソーシャルワークの介入技術 (インテーク、関係形成、契約、情報提供、アドバイス、直面と挑戦、反映技術、傾聴技術、グループの段階別介入技術、家族介入技術)	事前学習	ソーシャルワークの介入技術を復習する。
		事後学習	ソーシャルワークとスクールソーシャルワークプロセスの類似性と相違性を明確にする。
第 10 回	スクールソーシャルワークの個別支援と事例 (不登校、非行、学齢期の児童虐待、特別支援教育、貧困・離婚など家族問題、外国児童の就学問題、学習遅滞・学習障害教育福祉、その他)	事前学習	ソーシャルワークの問題別介入方法を復習する。
		事後学習	スクールソーシャルワークの問題別介入方法を明確にする。
第 11 回	スクールソーシャルワークの個別支援の実践 (不登校、非行、学齢期の児童虐待、特別支援教育)とスクールソーシャルワークの集団支援と事例	事前学習	ソーシャルワークの問題別介入方法を復習する。
		事後学習	スクールソーシャルワークの問題別介入方法を明確にする。
第 12 回	スクールソーシャルワークの集団支援の実践やスクールソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援と事例(メゾレベル)	事前学習	ソーシャルワークのシステム別介入方法を復習する。
		事後学習	スクールソーシャルワークのシステム別介入方法を明確にする。
第 13 回	スクールソーシャルワークの教育行政への支援 (マクロレベル)&日本各地の教育委員会が実施するスクールソーシャルワークに関する事業と事例	事前学習	ソーシャルワークの行政への介入を復習する。
		事後学習	スクールソーシャルワークの行政への介入方法を明確にする。
第 14 回	スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョン (スーパービジョンの体制と方法)とスーパービジョン事例	事前学習	ソーシャルワークワーカーへのスーパービジョンを復習する。
		事後学習	スクールソーシャルワークワーカーへのスーパービジョンのやり方を明確にする。
第 15 回	まとめ	事前学習	スクールソーシャルワークについて学んだことを振り返る。
		事後学習	スクールソーシャルワークについて学んだことを総合的にまとめてみる。

1. 科目名 (単位数)	生活 / 生活 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3383 SJMP3283
2. 授業担当教員	杉山 憲江		
4. 授業形態	講義、実習、グループ学習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	教科「生活」がなぜ新設・改訂されたのか、小学校学習指導要領の変遷を通して目標や内容、基本的方針など理解を深め、幼児期から児童期へのスムーズな移行を意図していることに気付き、「遊び」「基本的生活習慣」を基にその連関について考察する。そして、生活科学習内容項目について理解したうえで具体的な教育課程や指導案展開の活動事例を構想する。さらに、グループワークやディスカッションの学習や実践の体験活動を通して子どもの気づきを大切にされた教師側の声の掛け方や支援・地域環境や幼児・児童等の発達段階に応じた生活科教育のあり方を考え、それらの学習を基にして、教科「生活」を横断的・系統的視点から他教科等との関連・総合学習との関連・幼児教育との関連について学んでいく。		
8. 学習目標	1.教育課程における生活科の位置、子ども観、生活科の目標、学習内容について理解し、説明することができる。 2.具体的な体験学習を通した生活科学習のあり方について理解し、説明できる。 3.生活科の指導計画や活動展開について構想し、表現することができる。 4.生活科と幼児教育の連続や関連性について具体的に考えることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 「幼児教育と生活科の関連性について」の論述文を作成。 課題 2 植物・動物を教材として扱う場合の基礎的・基本的知識の定着を確認する。(飼育・栽培・遊び・情報) 課題 3 体験授業をもとに活動展開事例 (A・B) を構想し、発表する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省編『小学校指導要領解説 生活科編』日本文教出版。 国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』ひかりのくに。 【参考書】 教科書『あたらしいせいかつ 上下』東京書籍。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 嶋野道弘・寺尾慎一『生活科の授業方法』ぎょうせい。 文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性 30% 期末試験 (知識・理解、論述) 50% レポート (活動展開事例の構想) 20%		
12. 受講生への メッセージ	この授業の目標である幼児教育と生活科の関連性について体験・視覚・ディスカッション・グループワーク・フィールドワークなどを通して興味・関心を持って取り組めるよう楽しい授業を創意工夫します。学習を通して人間性・専門的技術を備えた教師を目指し日々自己研鑽に励んでください。さらに、演習・実習における準備などをしっかり行い、授業課題に対する積極的な取り組みを期待します。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション(シラバス説明・課題説明など) ・生活科新設 (H1 年改訂小学校学習指導要領) の背景生活科変遷について (H11 年・H23 年改訂小学校学習指導要領) の概略を理解する。	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。
第 2 回	生活科の教科目標及び学年目標を学習し、生活科教育のねらいを把握する。	事前学習	「学習指導要領解説」 pp.2～7 を読み、生活科の変遷についての概略を理解しておく。
		事後学習	生活科の教科としての意義をまとめ、自分の言葉で文章化しておく。 1
第 3 回	目標や学習内容の三層の内容構成から生活科の学習特性について理解する。	事前学習	「学習指導要領解説」 教科目標 pp.9～23 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	教科目標要素を基に生活科教科目標の理解を図る。
第 4 回	生活科における学習の内容項目 1 (学校と生活) 内容項目 2 (家庭と生活) 内容項目 3 (地域と生活) の学習内容を理解してどんな学習展開が考えられるか構想する。	事前学習	「学習指導要領解説」 学習内容項目 pp.24～40 「幼児期から児童期への教育」 pp.40～60 を読み授業に臨む。
		事後学習	学習内容項目 1～3 についてのポイントや授業を通して構想した活動展開事例をまとめておく。
第 5 回	生活科における学習の内容項目 4 (公共物・公共施設) 内容項目 5 (四季の変化 春) ・直接体験から生まれる子どもの気づき 1 ・市民の森公園で生活科学習体験 1 フィールドワークを通して安全に楽しい活動をさせるにはどう指導支援の計画を立てたらよいか構想する。	事前学習	「学習指導要領解説」 pp.29～33 内容項目 4.5.6 を読み、体験活動ができる服装や持ち物などの準備をして授業に臨むこと。
		事後学習	体験授業を基にねらいを明確にした活動指導計画案 A を作成し提出する。
第 6 回	生活科における学習の内容項目 7 (栽培・飼育) について ・飼育、栽培 (小動物・魚・虫・水生生物・花や野菜の栽培) 知識と指導支援方法の理解①	事前学習	「学習指導要領解説」 pp.34～36 を読み、内容項目 7 の活動内容を確認して授業に臨む。
		事後学習	資料を基に飼育・栽培活動の学習に対する知識を確認しておく。

第 7 回	生活科における学習の内容項目 7 (飼育) ・直接体験から生まれる子どもの気付き 2 ウサギ・ヤギの飼育学習体験 校内で飼育されている動物とのかかわりを通して子供たちにどんな支援指導が必要なのか体験から考察していく。	事前学習	ウサギ・やぎの生態について調べ授業に臨むこと。自然や生き物とかかわる体験活動ができる服装や持ち物などを準備する。
		事後学習	飼育学習体験における学習活動について指導支援の留意点をまとめておく。
第 8 回	学校教育の基盤としての幼児期の生活経験のあり方や必要性について学ぶ。 ・幼児教育における探検遊び ・基本的生活習慣の支援 ・生活科の評価の仕方 に視点を当て幼児教育との関連性を学ぶ。	事前学習	「幼稚園教育要領解説」p.88、p.220、「幼児期から児童期への教育」pp.8～30 を読み、授業に臨むこと。幼稚園教育要領解説を準備しておく。
		事後学習	基本的生活習慣を身につけることに視点をあて、幼児教育と生活科学習の関連性を自分の言葉で文章化しまとめておく。2 生活科学習の評価の方法についてポイントをつかんでおく。
第 9 回	生活科における学習の内容項目 6 について ・遊び (植物で遊ぶ・自然で遊ぶ・動くおもちゃ・昔の遊び) 知識と指導支援方法の理解②	事前学習	「幼稚園教育要領解説」pp.30～48「幼児期から児童期への教育」pp.32～47 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	資料を基に遊びの学習に対する知識を確認しておく。
第 10 回	生活科における学習の内容項目 6 について ・直接体験から生まれる子どもの気付き 2 (子どもの興味や意欲を育てる教師側の関わりや支援) ・遊び体験 遊び環境や教材としての遊びの扱い方などグループで体験し合い深めていく。	事前学習	「学習指導要領解説」pp.32～33、内容項目 6 を読み、活動内容を確認して興味や意欲を持たせる工夫をした遊びの準備をして授業に臨むこと。
		事後学習	遊び体験における学習活動について指導支援の留意点をまとめておく。
第 11 回	生活科における学習の内容項目 8 (人との交流) 9 (自分の成長) ・情報(収集の方法・伝えあいの方法) 知識と指導支援方法の理解③	事前学習	「幼児期から児童期への教育」pp.48～60 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	授業内容と資料を基に活動の発表や表現について整理しておく。
第 12 回	生活科における学習の内容項目 4 (公共物・公共施設) 内容項目 5 (四季の変化 秋) ・直接体験から生まれる子どもの気付き 3 ・市民の森公園で生活科学習体験 2	事前学習	「学習指導要領解説」pp.29～32 内容項目 4.5 を読み、体験活動ができる服装や持ち物などの準備に配慮して授業に臨むこと。
		事後学習	体験授業を基に季節感をもたせる体験活動の活動指導計画案 B を作成し提出する。
第 13 回	生活科、他教科との関わり、総合的な学習の時間とのつながり ・系統的視点(幼児保育→生活科→総合学習・社会・理科) ・横断的視点(国語・音楽・体育・道徳・図画工作⇔生活科)	事前学習	「小学校指導要領解説」pp.43～46 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	他教科との系統性・横断的な関わりについて自分の言葉で文章化しまとめておく。3
第 14 回	幼児教育と生活科学習の連続性と教科「生活」の展望 1 ・幼児教育における基本的生活習慣の確立が基盤となっていることについて動機づけの観点から考える。 ・幼児期の基本的生活習慣についての必要性和方法を考え生活科の中でどう生かしていくのか連続性を考察する。	事前学習	「幼児期から児童期への教育」pp.61～70 「幼稚園教育要領解説」pp.230～232 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	幼児教育と生活科学習の連続性について自分の言葉で文章化しまとめておく。4
第 15 回	幼児教育と生活科学習の連続性と教科「生活」の展望 2 ・幼児期の遊び体験が生活科の学びの基盤になっていることについて ・「遊び」を中心とした幼児期の学びを生活科学習の中でどう活かしていくのかその関連性を考察する。	事前学習	「幼児期から児童期への教育」pp.98～102 pp.162～166 自分のまとめた文 1～4 を読み直して授業に臨むこと。
		事後学習	課題 1「幼児教育の保育内容と生活科学習内容との関連性」についてまとめておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生活 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3308
2. 授業担当教員	徳江 裕		
4. 授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション、グループ学習、フィールドワーク、講義等	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	身近な人や社会、自然と直接かかわる具体的な活動や体験の中で、幼児・児童等に生まれる気づきの重要性を理解する。日常生活の中で感じる興味、関心から、自分自身や自分の生活について考えさせ、その過程を通して、基本的な生活習慣、思考力、理解力、社会性を育成する。また、地域の環境や幼児・児童等の発達段階に応じた生活教育のあり方について学ぶ。これらを通じて、児童の自立の基礎作りを行うための指導について、求められる生活科の授業実践の力量(授業力)を身に付けることができるようにする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活科の活動の構成原理を学び、生活科の趣旨や目標、内容に関するポイントが説明できるようになる。 子どもは、普段どんな人々と関わり、何に興味を持っているか、普段の生活の様子を観察することを通して知り、発表できるようになる。 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びや遊びに使う物を作ることができるようになる。 グループで協力して地域調査を行い、地域素材を収集してマップを作成することができるようになる。 子どもの生活に関係した、効果的な教材を作ることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) 及びレポート課題は、授業後次回のテーマ (教科書該当部分) を確認するので、それを熟読して次回の授業にそなえること。最終レポート課題は、フィールドワークとポスターセッションのポートフォリオづくり。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省編『小学校指導要領解説 生活科編』日本文教出版、2008 年。 加藤明他『新しい生活 上』東京書籍、2015 年。 【参考書】 嶋野道弘・寺尾慎一『生活科の授業方法』ぎょうせい、2009 年。 高浦勝義、佐々井利夫書『生活科の理論』黎明書房、2006 年。		
11. 成績評価の方法	授業時の発言・態度・出席率 (50%) と中間・期末レポート (40%) を基本とし、グループワーク・ディスカッションにおける積極性を加味する (10%)。		
12. 受講生へのメッセージ	毎回の授業は、グループワークとディスカッションを中心に進めていく。具体的な授業は以下の手順に沿って進めていく。 ①教科書の該当部分をテーマに、割り当てられた担当の班が「教師役」となって全員が理解できるように工夫して授業する (レジュメ・パワーポイント等活用)。授業にあたっては学習指導計画と板書計画を作成し、発問も工夫して授業実践をつむ機会とする。 ②各班・各自から質問事項を中心にその日のテーマについて補足・説明を行う。 ③その日のテーマに関して、各班でディスカッションする。具体的な課題は授業内で示す。ディスカッションの進行は「司会」が行い、「書記」が議論の内容を記録する。この他、各自の見解を「ショートレポート」として提出してもら場合もある。		
13. オフィスアワー	第 1 回の授業の際に指示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション (授業の進め方・シラバスの説明) 班づくり (班長・副班長)・発表分担の決定 ・ポートフォリオについて	事前学習	生活科学習ノートを準備し授業に臨む。
		事後学習	シラバスについて確認し、学習へのモチベーションを高める。
第 2 回	・フィールドワーク I、いせさき市民の森公園で「春を探そう」フィールドノートを作成し、ポートフォリオの資料とする。	事前学習	フィールドワークの準備をする (カメラ、収集袋等)
		事後学習	フィールドワークの資料整理をして、フィールドノートにまとめる。
第 3 回	・ポートフォリオづくり A (具体的な体験や活動を通して)	事前学習	ポートフォリオづくりの資料を準備する。
		事後学習	ポートフォリオ作品の修正・加筆・完成をして提出する。
第 4 回	・『生活科指導ハンドブック』づくり 内容と分担の決定	事前学習	教科書 (小学校指導要領解説生活科編を読んで生活科の概要を把握しておく。
		事後学習	ハンドブックづくりの分担箇所をグループで相談し資料収集をする。
第 5 回	・ハンドブックづくり① (調査・検討)	事前学習	グループで資料収集したものを確認する。
		事後学習	分かり易いハンドブックにするためにグループでさらに検討
第 6 回	・ハンドブックづくり② (作業)	事前学習	グループメンバーがレイアウト案を持ち寄る。
		事後学習	グループでハンドブックの大綱を修正加筆する。
第 7 回	・ハンドブックづくり③ (修正・製本)	事前学習	グループで最終案直前まで修正作業を行う。
		事後学習	製本されたハンドブックを確認する。
第 8 回	・『生活科指導ハンドブック』を活用した プレゼンテーション①	事前学習	グループでハンドブックの発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに作成したハンドブックをもとに、学

			習ノートにまとめる。
第 9 回	・『生活科指導ハンドブック』を活用したプレゼンテーション②	事前学習	グループでハンドブックの発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに作成したハンドブックをもとに、学習ノートにまとめる。
第 10 回	・『生活科指導ハンドブック』を活用したプレゼンテーション③	事前学習	グループでハンドブックの発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに作成したハンドブックをもとに、学習ノートにまとめる。
第 11 回	・フィールドワークⅡ、いせさき市民の森公園で「夏を探そう」フィールドノートを作成し、ポートフォリオの資料とする。	事前学習	フィールドワークの準備をする(カメラ、収集袋等)
		事後学習	フィールドワークの資料整理をして、フィールドノートにまとめる。
第 12 回	・ポートフォリオづくり B (具体的な体験や活動を通して)	事前学習	ポートフォリオづくりの資料を準備する。
		事後学習	ポートフォリオ作品の修正・加筆・完成をして提出する。
第 13 回	・『生活科指導ハンドブック』を活用したプレゼンテーション①	事前学習	グループでハンドブックの発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに作成したハンドブックをもとに、学習ノートにまとめる。
第 14 回	・『生活科指導ハンドブック』を活用したプレゼンテーション②	事前学習	グループでハンドブックの発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに作成したハンドブックをもとに、学習ノートにまとめる。
第 15 回	・まとめと評価(自己評価)	事前学習	生活指導ハンドブックをもとに春季学習を振り返る。
		事後学習	ポートフォリオやハンドブック等の成果をもとに春季の自己評価をする。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・基本Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SNMP2115
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義及び演習、グループディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>介護を要する人たちに対し、尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重していくことが必要である。潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、日常生活動作を安全に援助でき、根拠ある科学的な知識や技術を習得することを目的とする。</p> <p>生活支援技術に必要な人体の構造や機能について、「こころとからだのしくみ」での学びから、現場に出ても応用できるよう根拠に基づいた介護の知識と技術に重点を置き、授業を展開していく。</p>		
8. 学習目標	<p>生活支援技術・基本Ⅱが終了した時点で、下記について根拠に基づいた基本的介護の知識と技術が習得でき、心身の状況に応じた介護を実践できることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自立に向けた身じたくの介護 2.自立に向けた移動の介護 3.自立に向けた食事の介護 4.自立に向けた入浴・清潔保持の介護 5.自立に向けた排泄の介護 6.自立に向けた睡眠の介護 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>要介護者の状況に応じた自立に向けた生活支援技術の各目的、手順、留意点、その根拠を所定の用紙にまとめて提出。提出期限厳守。</p> <p>レポート課題 学習の目標にあげられているそれぞれの介護技術について、授業をふまえたうえでレポートを作成し、提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】「生活支援技術・基本Ⅰ」と同じ教科書を使用するため、新たに購入する必要無し。</p> <p>【参考書】前川美智子著『根拠からわかる介護技術の基本』中央法規出版。</p> <p>介護実技研究会編集『実技試験のチェックポイント 2014』中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1.到達度確認試験（実技試験） 30% 2.レポート 40% 3.授業態度(服装・身だしなみも含まれる) 30% <p>尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ただ単にテクニックを覚えるのではなく、「こころとからだのしくみ」「介護概論」「生活支援技術・基本Ⅰ」と関連付けながら、根拠に基づいた科学的な生活支援技術の習得を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護しやすい指定の服装、身だしなみで授業に臨むこと。 ・支援技術に必要な物品は忘れないように持参すること。 ・理解できないことをそのまま放っておかないこと。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション</p> <p>「生活支援技術Ⅱ」のねらいと、単元の解説。グループ編成</p> <p>テーマ「自立に向けた身じたくの介護Ⅰー衣服の着脱Ⅰー」</p> <p>自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。</p> <p>課題：左片麻痺のある要介護者の前開きパジャマの着脱介助(椅座位)</p> <p>課題：左片麻痺のある要介護者のかぶり式パジャマの着脱介助(椅座位)</p>	事前学習	シラバスを読み、本教科の内容を理解する。学習用ノート、資料等を整理するファイルを用意する。左手足が不自由になった場合を想定し、前開きの洋服の着脱の体験をする。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の衣服の着脱介助を根拠に基づいて整理し、レポートに活かす。
第 2 回	<p>テーマ「自立に向けた身じたくの介護ー衣服の着脱Ⅰー」</p> <p>自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。</p> <p>課題：和式寝間着の着脱介助(ベッド上)</p>	事前学習	生活支援技術Ⅱ p.80 を読み、和式寝間着の衿の合わせ方(左前にしない)の理由を考える。
		事後学習	和式寝間着の着脱介助を根拠に基づき、整理する。
第 3 回	<p>テーマ「自立に向けた身じたくの介護ー身だしなみⅠー」</p> <p>自己表現の視点から、身じたくについて学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。</p> <p>課題：爪切り、ひげそり、口腔ケア</p>	事前学習	普段行っている足と手の爪の切り方の違いを考える。T字型カミソリ、タオル、シェービングクリーム、歯磨剤、歯ブラシ、コップ、曲がりストロー 持参のこと
		事後学習	糖尿病のある要介護者の爪を介護福祉士が切ってはいけない理由を根拠に基づき、整理する。
第 4 回	<p>テーマ「自立に向けた移動の介護ーボディメカニクスⅠー」</p> <p>生活支援を行っていく中で、介護を必要とする人と介護者の安全と安楽の視点から、腰痛予防、ボディメカニクスを理解し、その技術を習得する。</p> <p>課題：左片麻痺のある要介護者の上方移動の介助</p> <p>課題：左片麻痺のある要介護者の水平移動の介助</p>	事前学習	生活支援技術Ⅱ pp.106～108 を読み、人間の重心の位置を確認する。
		事後学習	上方移動において、ベクトルの法則を活用した介助を根拠に基づき、整理する。
第 5 回	テーマ「自立に向けた移動の介護ー体位変換Ⅰー」	事前学習	生活支援技術Ⅱ pp.122～124 を読

	人間らしく生活するために、移動の意義を学習し、「こころとからだのしくみ」で学んだからだの自然の動きによる寝返りなど、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から側臥位への介助（背面法、対面法）		み、背面法、対面法の違いを考える。
		事後学習	トルクの原理を活用した仰臥位から側臥位への介助について、根拠に基づき、整理する。
第 6 回	テーマ「自立に向けた移動の介護－体位変換」 人間らしく生活するために、移動の意義を学習し、「こころとからだのしくみ」で学んだからだの自然の動きによる寝返りなど、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から端座位への介助	事前学習	仰臥位から端座位になるまでの体の動きを意識しながら体験し、考える。
		事後学習	仰臥位から端座位への介助を根拠に基づいて整理、第 7 回のレポートに活かす。
第 7 回	テーマ「自立に向けた移動の介護－歩行」 人間らしく活動するために、立って歩くことの意義を理解し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の端座位から立位への介助 課題：左片麻痺のある要介護者の仰臥位から端座位、立位への介助	事前学習	端座位から立位になるまでの体の動きを意識しながら体験し、考える。
		事後学習	仰臥位から立位への介助を根拠に基づいて整理し、レポートに活かす。
第 8 回	テーマ「自立に向けた移動の介護－歩行」 人間らしく活動するために、立って歩くことの意義を理解し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者の歩行介助 ・3 動作歩行、2 動作歩行 ・階段の上り下り ・障害物を越える	事前学習	左手足が不自由になった場合を想定し、階段の上り下りを体験し、左右の足の動きを考える。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の歩行介助を根拠に基づいて整理する。
第 9 回	テーマ「自立に向けた移乗の介護－車椅子への移乗」 介護を必要とする人がどのような状態であっても、社会活動の拡大、余暇活動を目的とした移動ができるよう学習し、福祉用具などの活用による利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する 課題：左片麻痺のある要介護者の車いすへの移乗介助	事前学習	左手足が不自由になった場合を想定し、車いすを自走し、姿勢を考える。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者の車いすへの移乗介助を根拠に基づいて整理する。
第 10 回	テーマ「自立に向けた移乗の介護－ポータブルトイレへの移乗」 介護を必要とする人がどのような状態であっても、社会活動の拡大、余暇活動を目的とした移動ができるよう学習し、福祉用具などの活用による利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する 課題：左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレへの移乗介助	事前学習	左手足が不自由になった場合を想定し、ポータブルトイレの望ましい設置場所を考える。
		事後学習	尊厳の保持を考え、左片麻痺のある要介護者のポータブルトイレへの移乗介助を根拠に基づいて整理する。
第 11 回	テーマ「自立に向けた食事の介護－誤嚥、脱水」 食べることの意義や目的、「こころとからだのしくみ」で学んだ口腔や咽頭部などの構造、嚥下のしくみから、咀嚼、誤嚥などを学習し、安全で安心できる食事の方法を理解する。	事前学習	「こころとからだのしくみ」で学習した、食事の過程を考える。
		事後学習	安全で安心できる食事の姿勢を根拠に基づいて整理する。
第 12 回	テーマ「自立に向けた食事の介護－誤嚥、脱水」 食べることの意義や目的、「こころとからだのしくみ」で学んだ心身の老化を理解した上で脱水の防止を学習する。	事前学習	「こころとからだのしくみ」で学んだ水分の出納量を考える。
		事後学習	高齢者の水分補給の必要性を根拠に基づいて整理する。
第 13 回	テーマ「自立に向けた食事の介護－食事介助」 介護を必要とする人がどのような状態であっても安全でおいしく、楽しく食事ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：食事介助の準備	事前学習	仰臥位の状態で水を飲んでみる。 弁当（パン、おにぎり不可）、はし（割り箸不可）、汁物、スプーン、水分、タオル持参のこと
		事後学習	安全でおいしく、楽しく食事ができるような姿勢、介護者の位置を確認する。
第 14 回	テーマ「自立に向けた食事の介護－食事介助」 介護を必要とする人がどのような状態であっても安全でおいしく、楽しく食事ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：左片麻痺のある要介護者、視覚障害のある要介護者の食事介助	事前学習	食事の環境を整える。
		事後学習	左片麻痺のある要介護者、視覚障害のある要介護者の食事介助を根拠に基づいて整理する。
第 15 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護－入浴」 清潔の意義を学習し、安全に安楽に入浴できるよう利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：機械浴の準備	事前学習	生活支援技術Ⅱ p.232 を読み、機械浴に必要な物品を考える。 Tシャツ、短パン、タオル、バスタオル、ビーチサンダル 水分持参のこと
		事後学習	機械浴で注意すべきことを考える。
第 16 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護－入浴」 清潔の意義を学習し、安全に安楽に入浴できるよう利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：寝たきり状態の要介護者の機械浴介助	事前学習	機械浴の環境を整える。
		事後学習	機械浴の介助を根拠に基づき整理し、レポートに活かす。
第 17 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅱ－洗髪」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が	事前学習	生活支援技術Ⅱ pp.239～240 を読み、洗髪時の注意点を考える。

	保持できるよう、ベッド上での洗髪を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：洗髪器の作り方	事後学習	タオル、バスタオル持参のこと 安全で安楽な洗髪器の工夫をする。
第 18 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅱ－洗髪」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、ベッド上での洗髪を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での洗髪の介助	事前学習	ベッド上で洗髪を行う際の安楽な姿勢を考える。
		事後学習	ベッド上での洗髪介助を根拠に基づいて整理する。
第 19 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅱ－洗髪」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、手浴や足浴などの部分浴を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での足浴の準備	事前学習	生活支援技術Ⅱ pp.237～238 を読み、足浴に必要な物品を考える。 タオル、バスタオル持参のこと
		事後学習	ベッド上での足浴の注意点を考える。
第 20 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅲ－部分浴」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、手浴や足浴などの部分浴を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での足浴の介助	事前学習	ベッド上で足浴を行う際の安楽な姿勢を考える。
		事後学習	ベッド上での足浴介助を根拠に基づいて整理する。
第 21 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅳ－清拭」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、清拭を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での背部清拭の準備	事前学習	生活支援技術Ⅱ p.248 を読み、背部清拭に必要な物品を考える。 タオル 2、バスタオル ハンドタオル持参のこと
		事後学習	ベッド上で背部清拭を行う際の注意点を考える。
第 22 回	テーマ「自立に向けた入浴・清潔保持の介護Ⅳ－清拭」 介護を必要とする人がどのような状態であっても清潔が保持できるよう、清拭を学習し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での背部清拭の介助	事前学習	ベッド上での洗髪を行う際の安楽な姿勢を考える。
		事後学習	背部清拭の介助を根拠に基づいて整理する。
第 23 回	テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄障害①」 排泄の意義や「こころとからだ」のしくみで学んだ排泄のしくみ、老化による排泄の変化から、排泄介護を学習する。	事前学習	「こころとからだ」のしくみで学んだ骨盤底筋群の位置を確認する。
		事後学習	高齢者に多い失禁に対する援助を根拠に基づいて整理する。
第 24 回	テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄障害②」 排泄の意義や「こころとからだ」のしくみで学んだ排泄のしくみ、老化による排泄の変化から、排泄介護を学習する。	事前学習	排泄の仕組みを理解する
		事後学習	排せつ介助の考え方を整理する
第 25 回	テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄介助」 排泄の意義や「こころとからだ」のしくみで学んだ排泄のしくみ、老化による排泄の変化から、排泄介護を学習する。 課題：ポータブルトイレによる排泄介助	事前学習	「こころとからだのしくみ」で学んだ排泄の望ましい姿勢を考える。
		事後学習	ポータブルトイレ使用時の注意点を根拠に基づいて整理する。
第 26 回	テーマ「自立に向けた排泄の介護－排泄介助」 介護を必要とする人がどのような状態であっても気持ちよい排泄ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：尿器、差し込み便器による排泄介助	事前学習	要介護者の立場から、排泄介護で注意すべきことを考える。
		事後学習	尿器、差し込み便器の介助を根拠に基づいて整理する。
第 27 回	テーマ「自立に向けた排泄の介護Ⅱ－排泄介助」 介護を必要とする人がどのような状態であっても気持ちよい排泄ができるよう工夫し、利用者の状態・状況に応じた自立に向けた支援技術を習得する。 課題：ベッド上での布おむつの交換の介助 課題：ベッド上での紙おむつの交換の介助	事前学習	要介護者の立場から、おむつの介助の注意点を考える。
		事後学習	ベッド上での紙おむつの交換の介助を根拠に基づき整理し、レポートに活かす。
第 28 回	テーマ「自立に向けた睡眠の介護」 睡眠の意義、目的を理解し、利用者の状態、状況に応じた自立に向けた安眠を促す介護を習得する。	事前学習	自分の不眠状態の場合の原因を考える。
		事後学習	安眠への支援を根拠に基づいて整理する。
第 29 回	事例を通して生活支援技術の試験を行う。	事前学習	事例に基づいた技術の練習をする。
		事後学習	試験を振り返り、間違ったところを正しくまとめる。
第 30 回	生活支援技術の試験を振り返り、的確な技術を習得する。	事前学習	事例の手順、留意点、その根拠を整理する。
		事後学習	事例の要介護者の状態を把握し、介護のポイントを整理する。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・形態Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SNMP3120
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義 演習 実技	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「生活支援技術・形態Ⅰ」を履修していること		
7. 講義概要	内部障害者、視覚・聴覚障害者、肢体不自由者、知的障害者、精神障害者、重複障害者、高次脳機能障害者の生活への影響を理解し、自立した生活を送るための生活支援のあり方について考える。 また、生活支援上の留意点を理解し、具体的な生活支援の方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> それぞれの障害による日常生活への影響を説明できる それぞれの障害に応じた生活支援の具体的な方法を説明できる 2 の生活支援技術を実践できる 生活支援に必要な福祉用具の活用目的、方法、注意点を説明できる 障害がある方への自立支援の考え方を説明できる 他職種との連携・協働における介護福祉士の役割を理解する 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 障害に応じた介護技術の展開のまとめ (授業内で指示する) 中間発表用の資料 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規。		
11. 成績評価の方法	課題の提出状況と内容 30% 中間発表 30% 介護技術修得状況 20% 授業態度 20%		
12. 受講生への メッセージ	生活支援技術を実践的に理解し、技術を習得する科目です。 授業には積極的に参加し、演習は繰り返し行って技術を習得してください。 グループでお互いに協力して演習し、個々の技術の向上を目指してください。		
13. オフィスアワー	時間割決定後		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	本講義についての説明 「利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは」 「視覚、聴覚、重複障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	シバスを読んでおく 視覚、聴覚障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 回	「視覚、聴覚、重複障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 3 回	「言語障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	言語障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 4 回	「言語障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 5 回	「心臓機能障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	心臓機能障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 6 回	「心臓機能障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 7 回	「呼吸機能障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	呼吸機能障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 8 回	「呼吸機能障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 9 回	「腎臓機能障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	腎臓障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 10 回	「腎臓機能障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 11 回	「膀胱・直腸の機能障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性と介護方法を	事前学習	膀胱・直腸の機能障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく

	を考慮する 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事後学習	介護の必要性をまとめる
第 1 2 回	「膀胱・直腸の機能障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 1 3 回	「小腸の機能障害、肝臓機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	小腸の機能障害、肝臓機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 1 4 回	「小腸の機能障害、肝臓機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 1 5 回	「肢体不自由（運動機能障害）に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	肢体不自由（運動機能障害）が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 1 6 回	「肢体不自由（運動機能障害）に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 1 7 回	中間発表 障害に応じた介護技術の展開 グループごとにまとめ、発表し検討する	事前学習	高次脳機能障害（認知系）が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 1 8 回	中間発表 障害に応じた介護技術の展開 グループごとにまとめ、発表し検討する	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 1 9 回	「高次脳機能障害（認知系）に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	高次脳機能障害（行為系）が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 0 回	「高次脳機能障害（認知系）に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 2 1 回	「高次脳機能障害（行為系）に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 2 回	「高次脳機能障害（行為系）に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 2 3 回	「難病に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	難病が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 4 回	「難病に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 2 5 回	「精神障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	精神障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 6 回	「精神障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 2 7 回	「発達障害、重症心身障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	発達障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 2 8 回	「発達障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
第 2 9 回	「知的、重症心身障害に応じた介護」 日常生活への影響を整理し介護の必要性和介護方法を考える 他職種との連携・協働における介護の役割を理解する	事前学習	知的、重症心身障害が及ぼす日常生活への影響を整理しておく
		事後学習	介護の必要性をまとめる
第 3 0 回	「知的、重症心身障害に応じた介護」 障害に応じた介護技術の演習と発表	事前学習	介護の手順を考える
		事後学習	介護手順の留意点を整理する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・余暇 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3106
2. 授業担当教員	飯田 昌男			
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜、講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワーク実習関係、レクリエーション関係の科目を履修すると理解が深まる。			
7. 講義概要	福祉施設におけるレクリエーションを学ぶ。レクリエーションは、生きる喜びである。休養、気晴らし、気分転換、さらに生活意欲の向上、人間関係の円滑化、自己実現等、すべての人が共有することで生活の快を向上させる。そのための基礎知識の理解、技術を体験し身に付け、活用できる福祉社会の支援者として誇りと自信を持てるようにしたい。			
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションの本質を理解し支援の方法を体験する。 2. 介護現場におけるレクリエーション活動の支援の在り方を探求する。 3. 施設、用具、組織等を活用して、場に応じた援助が図れる技術を身につける。 4. 自身のレクリエーションに対する理念を確立して誇りと自信を持てるようになる。 5. 日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションサービスの運営Ⅰ 展開案の提出と発表 現場での余暇支援の企画案を作成し、学生を施設利用者に見立てて発表する。 2. レクリエーションサービスの運営Ⅱ 展開案の提出と発表 チームに分かれて企画案を作成し、デイサービスセンターに出向き、利用者に向けて発表する。 3. 「自己課題」レポート提出。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する。</p> <p>【参考書】日本レクリエーション協会著『レクリエーション支援の基礎』。※購入してほしい。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 『新版介護福祉士選書6 レクリエーション活動援助法』中央法規出版。 その他『高齢者のスポーツレクリエーション』『遊び集』『ゲーム集』など。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レクリエーションサービスの運営Ⅰ 20% 2. レクリエーションサービスの運営Ⅱ 30% 3. 「自己課題」 10% 4. 日常の授業への参加態度 40% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席は学則に則り 3 回までです。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は、時間を守ることはとても重要であると考えています。 2. 福祉の現場でプロとしての自覚が持てるように、常に相手の期待に応えられる心構えで授業の中で自分を磨いてほしい。特に表現力、説明力を磨いてほしい。 3. 授業を楽しく運営したい。それにはお互いの信頼が必要。迷惑行為はほしくないこと。 4. 自身の得意なレク技術を磨いてほしい。 			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (授業の内容、約束説明) Ⅰ 基礎理論の第 1 章レクリエーションの意義について (グループにてディスカッション、発表)	事前学習	「レクリエーション支援の基礎」を準備し概観しておく	
		事後学習	本時の学習をまとめる。	
第 2 回	Ⅰ 基礎理論の第 2 章高齢社会の課題とレクリエーションについて (グループにてディスカッション、発表)	事前学習	テキスト第 2 章を熟読し、要点をまとめてくる。	
		事後学習	本時の学習をまとめる。	
第 3 回	レクリエーションサービスの体験① (スポーツレクリエーション、ゲーム)	事前学習	Ⅳ コミュニケーション・ワークの第 3 章を熟読し、まとめておく。	
		事後学習	本時の学習をまとめる。	
第 4 回	レクリエーションサービスの体験② (文学的なあそび、むかしからのあそび)	事前学習	Ⅱ レクリエーション支援論第 1 章、第 2 章を熟読し、まとめておく。	
		事後学習	本時の学習をまとめる。	
第 5 回	レクリエーションサービスの企画Ⅰ (施設でのゲームを中心にプランニング)	事前学習	各自のレクリエーション支援の種目を検討する。	
		事後学習	発表の練習をする。	
第 6 回	レクリエーションサービスの企画Ⅰ (施設でのゲームを中心にプランニング)	事前学習	各自のレクリエーション支援の種目を検討する。	
		事後学習	発表の練習をする。	
第 7 回	レクリエーションサービスの運営Ⅰ①	事前学習	展開案集を熟読する。発表者は練習をする。	
		事後学習	展開案集に良かった点や課題をまとめる。	
第 8 回	レクリエーションサービスの運営Ⅰ②	事前学習	展開案集を熟読する。発表者は練習をする。	
		事後学習	展開案集に良かった点や課題をまとめる。	
第 9 回	レクリエーションサービスの運営Ⅰ③	事前学習	展開案集を熟読する。発表者は練習をする。	

		事後学習	展開案集に良かった点や課題をまとめる。
第 10 回	レクリエーションサービスの企画Ⅱ (施設での実践のためのプランニング、グループ分け)	事前学習	V 目的にあわせたレクリエーション・ワークと VI 対象にあわせたレクリエーション・ワークを熟読し、まとめる。
		事後学習	グループにてディスカッションし、レクリエーション支援の種目の案を検討する。
第 11 回	レクリエーションサービスの企画Ⅱ (施設との打合せ)	事前学習	施設の下見をする。
		事後学習	グループにてディスカッションし、レクリエーション支援の種目を決める。
第 12 回	レクリエーションサービスの運営Ⅱ (施設での実践のためのプランニング、グループ別練習)	事前学習	グループにてディスカッションし、練習する。
		事後学習	グループにてディスカッションし、練習する。
第 13 回	レクリエーションサービスの運営Ⅱ (発表の練習)	事前学習	グループにてディスカッションし、練習する。
		事後学習	グループにてディスカッションし、練習する。
第 14 回	レクリエーションサービスの運営Ⅱ (現場での発表)	事前学習	グループにてディスカッションし、練習する。
		事後学習	グループにてディスカッションし、評価をまとめる。
第 15 回	福祉レクの振り返りとまとめ	事前学習	今までの授業を振り返り、これまでの学びをまとめる。
		事後学習	レクリエーション指導者として、自己課題をまとめ、提出する。

1. 科目名 (単位数)	精神医学 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3324 SNMP3324 SCMP2124 SBMP3324 PSMP2315 EDHE2306												
2. 授業担当教員	花村 誠一														
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・他科目との関係															
7. 講義概要	精神保健福祉士 (および他の援助専門職) としての実務に役立つ精神医学の基本知識を身につける。統合失調症 (精神分裂病)、躁うつ病など、主要な疾患の学習を通して、精神障害者の心理社会的側面についての理解を深める。脳および神経の生理・解剖、臨床および分子遺伝学の概要を把握し、その生物学的側面についても留意する。代表的な精神疾患の従来診断、DSM 診断、ICD 診断を学習する。薬物療法はもとより、さまざまな精神療法的アプローチについても学習する。また、精神障害者を地域社会のなかで治療するための地域精神医療について学習する。														
8. 学習目標	以下の項目について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3. 精神医学の概念について理解する。 4. 精神疾患の従来診断および操作診断について理解する。 5. 代表的な精神疾患の病因・症状・経過について理解する。 6. 薬物療法およびその副作用について理解する。 7. 精神療法、家族療法など心理社会的アプローチの概要について理解する。 8. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	南カリフォルニア大学 (USC) 編「シミュレーションによる精神科患者インタビュー」(日本語吹きかえビデオ) 各巻を使用し、グループ発表および全員に対するレポートを課す。 各巻の内容は以下の通りである。①双極感情障害 躁病性、②神経性無食欲症、③大うつ病 単一エピソード、④反社会的人格障害、⑤アルコール乱用、⑥精神分裂病性障害 解体型、⑦双極感情障害 うつ病性、⑧気分変調性障害 抑うつ神経症、⑨依存性人格障害、⑩恐慌発作を伴う空間恐怖症、⑪アルコールおよび薬剤性痴呆、⑫精神分裂病性障害 妄想型。														
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第 1 巻『精神医学—精神疾患とその治療』へるす出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 【参考書】 北村俊則著『精神・心理症状学ハンドブック』日本評論社。 笠原嘉著『精神病』岩波新書。 ヘル、フィッシャー・フェルテン著 (植木・曾根監訳)『みんなで学ぶ精神分裂病 —正しい理解とオリエンテーション』星和書店。 【教材】 南カリフォルニア大学 (USC) 編『シミュレーションによる精神科患者インタビュー』(日本語吹きかえビデオ)														
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>随時行われるミニテストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニテストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%	計	100%
随時行われるミニテストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
計	100%														
12. 受講生へのメッセージ	毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。ビデオ教材にもとづく症状の評価をはじめ、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士 (および他の援助専門職) として実務をこなすための基本的な記述能力を身につけよう。 本科目における学習目標は先に掲げた通りであるが、付加価値として次の項目を補足しておく。パトグラフィ (病跡学) やアートセラピー (芸術療法) から適宜素材を選び、スライドにて提示する。精神疾患は単に障害としてだけでなく、創造と紙一重の危機としても理解できる。こういう側面についての知見を補うことは、精神疾患に対する感受性トレーニングになるはずである。														
13. オフィスアワー	授業中に通知する。 研究室 26 (1 号館 4 階)														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	精神医学・精神医療の歴史 (欧米): 古代、中世、近世、近代、第 2 次世界大戦後、現代 (DSM による操作主義の採用)、正統精神医学と力動精神医学	事前学習	精神科の病気について、まずイメージを思い浮かべてみよう。												
		事後学習	DSM と ICD の両方に目が配れるようにしておく。												
第 2 回	精神医学・精神医療の歴史 (日本): わが国における精神医療の変遷 (古代から近世まで、明治、大正、昭和 [敗	事前学習	狐憑きなど、昔の日本によくみられた迷信について考えてみよう。												

	戦まで]、昭和 [戦後]・平成)	事後学習	欧米と日本の精神医療史を比べて、どういう違いがあるだろうか。
第 3 回	脳および神経の生理・解剖 1：脳と心の関係、神経系の発生と構成、ニューロンおよびシナプスの構成 (神経伝達物質についての知識)	事前学習	脳と心の関係について、常識的な考え方を整理してみよう。
		事後学習	脳を肉眼で側面から見た図を描き、言語中枢を指し示してみよう。
第 4 回	脳および神経の生理・解剖 2：中枢神経系 (脊髄、延髄、橋、中脳、小脳、間脳、大脳：前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、大脳辺縁系、大脳基底核)、末梢神経系	事前学習	知・情・意の脳におけるおおまかな局在を思い浮かべてみる。
		事後学習	神経伝達物質を少なくとも 4 つは列挙できるようになっているか。
第 5 回	精神医学にとって鍵となる概念：正常と異常の問題、精神病理学 (了解と説明)、精神分析学 (葛藤、防衛機制)、操作的診断基準	事前学習	精神の健康とはなにか、改めて自分の考えを文章に書いてみよう。
		事後学習	ヤスバースの「了解 (理解) の概念について、よく復習しておこう。
第 6 回	精神障害の成因、用語、分類：外因・内因・心因、病態・挿話、治癒・緩解、再燃・再発・増悪、ICD の診断ガイドライン、DSM の操作的診断基準	事前学習	外因・内因・心因という用語の意味について少し予習しておこう。
		事後学習	ある病態を心因によると判定するための基準について述べよ。
第 7 回	精神科における面接の仕方：問診表、面接を進めるときの注意、問診の順序、カルテ記載の仕方、精神的現在症、さまざまな状態像	事前学習	「話す能力」と「聞く能力」のうちで、どちらが大切だと思うか。
		事後学習	精神科で扱われるさまざまな状態像について、解説できるだろうか。
第 8 回	身体検査と心理検査：一般身体検査 (神経学的所見)、一般臨床検査、神経学的補助診断法 (頭部 X 線、CT、MRI、PET、EEG)、遺伝子診断、心理検査、症状評価尺度	事前学習	精神科で身体検査が重要なのはなぜだろうか、考えてみよう。
		事後学習	ニューロイメージングのうちで「無侵襲」といえるのはどれか。
第 9 回	症状性を含む器質性精神障害：意識障害、健忘症状群、認知症 (アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、びまん性レビー小体病、ピック病など)、軽度認知機能障害 (MCI)、AChE 阻害剤	事前学習	意識障害と認知症との違いについて、理解しているだろうか。
		事後学習	三大認知症を列挙し、それぞれの臨床経過をまとめておくこと。
第 10 回	精神作用物質使用による精神および行動の障害：急性中毒、依存、離脱状態、フラッシュバック、アルコール関連障害 (振戦せん妄を含む)	事前学習	精神依存と身体依存の 2 つについて、少し予習しておこう。
		事後学習	覚醒剤精神病のフラッシュバックについて、説明できるだろうか。
第 11 回	統合失調症 (精神分裂病) 1：概念の歴史、診断・徴候・症状 (プロイラーの症状基準、シュナイダーの一級症状、DSM-IV の診断基準)、病型、経過と予後	事前学習	幻覚と妄想について、これまで習ったことをもう一度復習しよう。
		事後学習	DSM-IV の診断基準のポイントをしっかりと整理しておくこと。
第 12 回	統合失調症 (精神分裂病) 2：疫学、病因 (遺伝学的、生物学的、心理社会的)、治療 (薬物療法、ECT、その他)、妄想性障害および他の精神障害	事前学習	遺伝因と環境因のどちらが重要か、自分なりに考えてみる。
		事後学習	脆弱性 - ストレスモデルについて、明解に説明できるだろうか。
第 13 回	気分 [感情] 障害 (躁うつ病) 1：概念と歴史、抑うつと躁状態、うつ病性障害、双極性障害、気分変調性障害	事前学習	統合失調症との一番の違いはどこに求めることができるだろうか。
		事後学習	双極 I 型と双極 II 型それぞれの臨床経過像を図示してみる。
第 14 回	気分 [感情] 障害 (躁うつ病) 2：病前性格と発病状況、疫学、縦断的経過のシェーマ、患者に接する際の注意点、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、SSRI (選択的セロトニン再取り込み阻害剤)	事前学習	うつ病になりやすい人のパーソナリティ特徴について考えよう。
		事後学習	代表的な気分安定薬を 3 種類列挙して試してみることができるだろうか。
第 15 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 1：恐怖症不安障害、パニック発作、全般性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害	事前学習	これが「了解可能」な精神疾患であることを銘記してほしい。
		事後学習	PTSD について、症状と経過の概要をまとめておくこと。
第 16 回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 2：解離性 (転換性) 障害、身体表現性障害、離人・現実感喪失症候群、神経衰弱	事前学習	フロイトの精神分析はどのような臨床経験に基づくものであったか。
		事後学習	転換ヒステリーと解離ヒステリーという分け方も理解しておく。
第 17 回	摂食障害：神経性無食欲症 (anorexia nervosa)、神経症性大食症 (bulimia nervosa)、社会文化的背景、行動療法・家族療法	事前学習	拒食症よりも過食症のほうが増えているのはなぜだろうか。
		事後学習	過食症に制限型と排出型の 2 種があることを銘記しよう。
第 18 回	睡眠障害：不眠、過眠、ナルコレプシー、睡眠・覚醒サイクル障害、パラソムニア、睡眠時無呼吸症候群、睡眠による脳波の変化	事前学習	一口に「不眠」と言っても、いろいろなタイプがありそうである。
		事後学習	ナルコレプシーの睡眠脳波にはどのような特徴があるだろうか。
第 19 回	精神の人格および行動の障害 1：人格障害とは、奇妙で風変わりな群、演技的・感情的でうつろいやすい群、不安や恐怖を感じやすい群	事前学習	最近では「人格」よりも「パーソナリティ」のほうがいられる。
		事後学習	境界性パーソナリティ障害の臨床症状を整理し

			ておくこと。
第 20 回	精神の人格および行動の障害 2: 脳損傷および脳疾患によらない持続的人格変化、習慣および衝動の障害、性同一性障害、性嗜好障害、虚偽性障害 (ミュンヒハウゼン症候群)	事前学習	欧米に比べ、日本では、性に関する臨床研究が立ち遅れている。
		事後学習	虚偽性障害、とくに「ミュンヒハウゼン症候群」を覚えておこう。
第 21 回	精神遅滞および発達障害: 精神遅滞とは、精神遅滞の病因、自閉性障害 (高機能、中機能および低機能自閉症)、アスペルガー障害	事前学習	最近では「精神遅滞」よりも「知的障害」のほうが用いられる。
		事後学習	DSM-V の「自閉症スペクトラム障害」についても学習してみよう。
第 22 回	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害: 多動性障害、行為障害、情緒障害、その他 (選択的緘黙、チック障害など)	事前学習	児童精神医学という領域は、昨今ますます重要視されつつある。
		事後学習	ADHD の治療薬として処方される薬剤の一般名を覚えておこう。
第 23 回	てんかん: 定義、疫学、病因、発作閾値、分類、発作のタイプ、診断、治療、脳波検査法と脳波周波数の分類	事前学習	てんかんが精神科の病気でもあることを銘記してほしい。
		事後学習	正常脳波と比べながら、異常脳波の特徴について理解する。
第 24 回	その他の神経系の疾患: 感染性疾患、脱髄性疾患、代謝疾患・栄養障害、変性疾患、プリオン病、磁気共鳴映像法 (MRI)	事前学習	精神症状が身体疾患にもよくあらわれることを忘れないように。
		事後学習	CT および MRI の所見に即して、いくつかの脳疾患を復習する。
第 25 回	薬物療法とその副作用: 向精神薬の歴史、薬物療法における注意事項、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、電気ショック療法	事前学習	脳内の神経伝達物質について、これまで習ったことを整理しよう。
		事後学習	新世代型抗精神病薬の最大の利点について述べられるだろうか。
第 26 回	精神療法および環境・社会療法: 一般精神科医の精神療法、精神分析、森田療法、認知・行動療法、集団精神療法、家族療法	事前学習	正統精神医学と力動精神医学の対比のことを思い起こそう。
		事後学習	精神分析でいう「転移」および「逆転移」について説明できるか。
第 27 回	精神科リハビリテーション: 蜂矢による ICIDH による障害構造論、院内および院外リハビリテーション、精神科クリニック、精神科デイケア	事前学習	「精神疾患」と「精神障害」のニュアンスの違いはどこにあるか。
		事後学習	ICIDH の改訂版 ICF についても少し予習しておくことが望ましい。
第 28 回	病院精神医療から地域精神医療: 日本における精神病院の概要、精神保健福祉法と精神病院、精神科救急医療、地域精神医療	事前学習	精神科での「保健」「医療」「福祉」をイメージアップしてみよう。
		事後学習	日本の精神科医療に「脱施設化」が生じないのはなぜだろうか。
第 29 回	授業の総括と補足 (病跡学、表現精神病理学からの話題; 認知神経科学、分子精神医学の展望など)	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	現代精神医学のいくつかのトピックについて、自分で調べてみよう。
第 30 回	まとめ	事前学習	返却されたミニレポートの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2127 PSMP2427
2. 授業担当教員	長谷川 行雄			
4. 授業形態	講義、集団討議、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	相談援助を実施するにあたって、基礎となるべき事柄を学ぶ。特に本授業では総合低包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含めた精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。さらに同じ相談援助の専門職である社会福祉士の役割と意義について学ぶとともに、人権尊重、社会正義、利用者主体などの相談援助の理念について理解を深め対人援助の専門職としての基盤を養うことを目的とする。			
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士の役割と意義 ②社会福祉士の役割と意義 ③相談援助の概念と範囲 ④相談援助の理念			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題レポート① 「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 (2014)」を熟読し、「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」から一つを選択し、その解説と、自分が精神保健福祉士になった時にどのように実践に活かすかについて論述しなさい 課題レポート② 「精神障害者のリカバリーを支えるとはどういうことかについて論述しなさい」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2014。			
11. 成績評価の方法	評価方法 試験及びレポート：80% 授業態度：20%			
12. 受講生への メッセージ	精神科ソーシャルワーク論 I・II は精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目が理解できることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	近年の精神保健福祉の動向 精神科ソーシャルワーク論を学ぶ意義 精神科ソーシャルワーク論 I の授業概要	事前学習	「刊行にあたって」を読み近年の精神保健福祉の動向をまとめること。	
		事後学習	「入院から地域へ」に至る背景と、精神障害者の地域生活支援の重要性についてまとめること。	
第 2 回	精神保健福祉士の役割と意義① 精神保健福祉士成立に至る歴史的経緯	事前学習	テキスト 1～12 ページ、71～75 ページを読んでくること。	
		事後学習	精神保健福祉士が国家資格として成立するに至る経緯をまとめること。	
第 3 回	精神保健福祉士の役割と意義② 精神保健福祉士の専門性と社会福祉士の専門性	事前学習	テキスト 13～17 ページを読んでくること。	
		事後学習	法律で規定されたそれぞれの役割と機能をまとめること。	
第 4 回	精神保健福祉士の専門職倫理① 日本精神保健福祉士協会倫理綱領	事前学習	日本精神保健福祉士協会の倫理綱領を読んでくること。	
		事後学習	現行の倫理綱領に至る背景についてまとめること。	
第 5 回	精神保健福祉士の専門職倫理② 専門職倫理とジレンマ 事例によるディスカッション	事前学習	想定される専門職倫理とジレンマについて考えてくること。	
		事後学習	事例におけるジレンマ分析をふり返し、倫理綱領がどのように機能するのか考察すること。	
第 6 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士① ソーシャルワークの発展過程	事前学習	テキスト 29～35 ページを読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの発展過程を時系列で整理すること。	
第 7 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士② イギリスにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 59～64 ページを読んでくること。	
		事後学習	イギリスにおけるソーシャルワークの歴史とわが国への影響についてまとめること。	
第 8 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士③ アメリカにおける精神保健福祉の歴史	事前学習	テキスト 64～71 ページを読んでくること。	
		事後学習	アメリカの精神保健福祉発展の理解とわが国への影響をまとめること。	

第 9 回	ソーシャルワークの形成課程と精神保健福祉士④ イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史	事前学習	イタリアの脱施設化について、文献などを探して調べてくること。
		事後学習	イタリア、北欧における精神保健福祉の歴史と新しい取り組みについてまとめること。
第 10 回	相談援助の範囲と概念① ソーシャルワーク専門職のグローバル定義「定義」、「中核となる任務」、「原則」、「知」、「実践」	事前学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関する課題レポートを作成すること。
第 11 回	相談援助の範囲と概念② ソーシャルワーク実践の総合的理解	事前学習	これまでの学習を通して、ソーシャルワークとは何かについて考察をしてくる。
		事後学習	ソーシャルワーク実践の価値、目的、領域、対象、方法などの概要を体系的にまとめること
第 12 回	相談援助の価値と理念① ソーシャルワークの支援関係における価値と理念 利用者主体と自立支援、協働による支援関係とは ディスカッション	事前学習	テキスト 40～46、69～71 ページを読み、支援関係の転換についてまとめてくること
		事後学習	ディスカッションを通して考えた協働による支援関係についてまとめること
第 13 回	相談援助の価値と理念② 人権尊重、社会正義、社会的包摂、ノーマライゼーション、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、人権の尊重、社会正義などについて考えてくること
		事後学習	授業で学んだ価値と倫理のキーワードについてまとめること
第 14 回	相談援助の価値と理念③ 尊厳の保持、権利擁護、エンパワメント、リカバリー、キーワードに基づくディスカッション	事前学習	テキスト 46～68 ページを読み、尊厳の保持、権利擁護、エンパワメントなどについて考えてくること
		事後学習	精神障害者のリカバリーについて考察し、課題レポート②を作成すること
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論 I のまとめ 授業内で指定したテーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2358 SCMP1158 SBMP2358 PSMP2133
2. 授業担当教員	長谷川 行雄	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、グループ討論		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健法制・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1、精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3、精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポートが必要な間々場合には授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『改訂・新版 精神保健福祉士養成セミナー 2 精神保健学－精神保健の課題と支援』、へるす出版。 【参考書】 精神保健医療福祉白書 2016年版 精神保健医療福祉白書編集委員会=編集 中央法規出版。		
11. 成績評価の方法	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ); 45% 精神保健学のまとめ: 45% 授業態度: 10% (遅刻・早退は減点する)		
12. 受講生への メッセージ	この科目は精神保健福祉士国家試験を受験する学生にとって必修科目であり、かつ出題科目です。国家試験の際には、この科目で0点を取ると合計点に保わらず不合格となりますので、しっかりと勉強してください。		
13. オフィシアワー	授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉学とは何かについて調べる。
第2回	精神保健学の概要	事前学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について復習する。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期)	事前学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) に関するキーワードについて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (学童期)	事前学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) に関するキーワードについて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期)	事前学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) に関するキーワードについて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 (青年期)	事前学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	事前学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) に関するキーワードについて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期)	事前学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第9回	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ)	事前学習	乳幼児から老年期に至るライフサイクルにおける精神保健の特徴をまとめること。
		事後学習	授業で行ったまとめを振り返りポイントを覚えること。
第10回	まとめの解説 精神保健における個別課題への取組み (精神障害対策)	事前学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策に関するキーワードについて理解を深める。
第11回	精神保健における個別課題への取組み (認知症対策)	事前学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策に関するキーワードについて理解を深める。
第12回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策1)	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める。
第13回	精神保健における個別課題への取組み	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策について調べる。

	(アルコール関連問題対策 2)		て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107～123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める
第 1 4 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 1)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 5 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 2)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 6 回	精神保健における個別課題への取組み (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書 pp.142～154 を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～156 を読み、思春期精神保健対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 7 回	精神保健における個別課題への取組み (「こころの健康づくり」の動向)	事前学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 8 回	精神保健における個別課題への取組み (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 1 9 回	精神保健における個別課題への取組み (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 0 回	精神保健活動の実際 (家庭における精神保健)	事前学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 1 回	精神保健活動の実際 (学校における精神保健)	事前学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 2 回	精神保健活動の実際 (職場における精神保健)	事前学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 3 回	精神保健活動の実際 (地域における精神保健)	事前学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 4 回	地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策)	事前学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 5 回	自殺対策の現状と課題	事前学習	教科書の自殺に関する各項目を読み、現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書やノートを読み、理解不足な点がないか確認する。
第 2 6 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 1)	事前学習	教科書 pp.257～272 を読み、調査研究の現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書 pp.257～272 を読み、地域精神保健の現状と課題(調査研究)に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 7 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 2)	事前学習	教科書やノート等を見直し、第 25 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	量的研究・質的研究、研究の倫理等について理解不足な点がないか確認する。
第 2 8 回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。
		事後学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割に関するキーワードについて理解を深める。
第 2 9 回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健	事前学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 3 0 回	授業評価・精神保健学のみとめ	事前学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる
		事後学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3168 PSMP3468
2. 授業担当教員	小金澤 嘉、長谷川 行雄、星野 弘美、三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日経研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (p.3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 I (p.71) を熟読する
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (2) <ul style="list-style-type: none"> － ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる － 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 II (pp.72～78) を熟読する
		事後学習	授業での実践を通して自分について考え

	関係性のあり方を考える －自己理解を深めたうえで、他者理解について考える		たことをまとめる 課題 1 を作成する
第 4 回	・コミュニケーションの理解 －コミュニケーションの過程を理解する －言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ －ロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 (pp.28～30) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 5 回	・クライアントに対する姿勢 －人と人とが話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する －バイステックの 7 原則について実際の援助場面を想定して理解を深める	事前学習	バイステックの 7 原則について復習する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	・面接における技術：基本的応答技法 －単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する －感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅱ (pp.31～34) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 7 回	・面接における技術：応用 －基本的応答技法を用いて、事例に基づくアセスメント面接を実践する	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 8 回	・情報の収集・整理・伝達の意義と方法を学ぶ －情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する －ロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅳ (pp.38～43) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 9 回	・課題の発見・分析・解決の技術の習得 －課題の発見・分析・解決方法を学ぶ －ロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅴ (pp.44～47) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 10 回	・グループダイナミクス活用技術を習得する －グループダイナミクス理論を学ぶ －ロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅲ (pp.35～37) を熟読する ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだことを振り返る
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 11 回	・ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する －記録の目的を理解する －記録の方法を理解する －事例を用いて記録法を実践する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅵ (pp.48～52) を熟読する
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う
第 12 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (1) －アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメントを理解する －事例を活用して上記項目を実践的に理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅰ～Ⅱ (pp.149～159) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 13 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (2) －地域福祉計画づくりを理解する －事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅴ－2 (pp.173～178) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 14 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (3) －ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価について理解する －事例を活用して上記項目に関する技術を習得する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅲ～Ⅴ－1 (pp.160～172) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 15 回	・まとめ －精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士援助演習Ⅲ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP4170 PSMP4470
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅲでは、実習体験をソーシャルワーク概念に結びつけながら振り返るとともに、実践モデル。アプローチを実践的に学び、終了した時点で、実習での体験を踏まえ精神保健福祉相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目的とする</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <p>①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>実習での振り返りを理論的に行っていくため、その都度実習の振り返りを事前にしてくることを課題とする。課題は後日提出し、評価の対象となる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日総研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>精神保健福祉士を目指して学んできた講義科目、演習科目、実習での体験の総まとめとなる授業です。学んできたことを結びつけて理解を深められるよう、また就職して働くに際して即戦力となるよう、積極的な態度で授業に参加することが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことの振り返りと演習Ⅲのねらいの解説	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅱで学んだことを振り返る
		事後学習	演習Ⅲで学びたいことを書きだす
第2回	・自己覚知、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティ ー当事者との関わり等を通して気付いた自分自身と実習を通して身に着けたソーシャルワーカーとしてのアイデンティティを振り返る。	事前学習	実習体験を通して気づいた自分自身についてまとめる テキスト〔基礎編〕第2章Ⅰ(p17~19)を熟読する
		事後学習	授業でのディスカッション等を通しての考察をまとめる
第3回	・クライアントに対する姿勢：バイステックの7原則 ー実際の援助場面で学んだバイステックの7原則について振り返る	事前学習	テキスト〔基礎編〕第2章Ⅱ~Ⅳ(p20~26)を熟読する
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる
第4回	・社会資源とその活用・調整・開発 ー当事者を支援するうえで、活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表する。関わった当事者の方たちに必要な資源について考えるとともに、資源の調整・開発の方法を考察する	事前学習	実習中活用した社会資源とその活用方法についてまとめ、発表の準備をする
		事後学習	発表を通して学んだことをまとめる
第5回	・チームアプローチ(ネットワークング、アウトリーチ) ーチームアプローチを用いて支援した事例を振り返る ーチームアプローチを行う上で、精神保健福祉士がどのような役割を担っていたかまとめる ー自分自身が担った役割を振り返り、自己の課題を認識	事前学習	実習中のチームアプローチの事例を記入する
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる

	する		
第 6 回	ケースワーク（1）：ケースの振り返り － 自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	実習中記入したソーシャルワークケース記録を見返す
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる
第 7 回	ケースワーク（2）：ケースの振り返り、発表、考察 － 自分がかかわったケースを振り返る 出会いの場面、情報収集の方法、アセスメント、プランニング、支援の実施等ソーシャルワークの展開過程に沿って当事者の方との関わりを振り返る。	事前学習	発表の準備をする
		事後学習	自身の関わりについてよかった点、課題点をまとめる。
第 8 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（1） －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (エコロジカル、システムなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる
第 9 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（2） －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (ストレングス/エンパワメント/ナラティブなど)	事前学習	どのようにして情報を収集したか記入する
		事後学習	授業を通しての考察をまとめる
第 10 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（3） －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (危機介入/行動変容/問題解決など)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる
第 11 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（4） －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (リカバリーなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる
第 12 回	ソーシャルワークモデル、アプローチと実践の統合（5） －モデル、アプローチを実習体験と結びつけながら体験的に学ぶ (SST/心理教育/セルフヘルプグループなど)	事前学習	指定されたモデル、アプローチについて現時点で知っていることをまとめる
		事後学習	授業を通して学んだことをまとめる
第 13 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（1） － 演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（認知症、発達障害、高次脳機能障害等）についての知識を深めながら、支援について考える。	事前学習	設定された課題について調べる
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第 14 回	課題別、対象者別の支援を学ぶ（2） － 演習の中で学んだモデル・アプローチを用い、設定された課題（自殺予防、権利擁護等）についての知識を深めながら、支援について考える	事前学習	設定された課題について調べる
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第 15 回	・まとめ － 精神保健福祉援助演習Ⅲで学んだことをふりかえる	事前学習	授業で学んだことを振り返る
		事後学習	精神保健福祉援助演習Ⅲで身に付けたことをまとめる ワーカーとしての自身のストレングス・課題をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助技術論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3111 PSMP3411
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱを受けて、精神障害者に対する援助方法や実践の基本を学ぶ。また、精神医学や精神科リハビリテーションの概念を踏まえて、精神障害者への相談援助に対する基本的な考え方や相談援助技術の展開を学ぶ。さらに、社会資源の活用方法、ケアマネジメント、コミュニティワークの実際と、保健・医療・福祉等にわたる包括的な支援の意義と展開を学ぶ。</p> <p>本授業の終了後には以下を理解していることが期待される。</p> <p>①精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的考え方について ②精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について ③精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術及び活用の方法について ④精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について ⑤精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について ⑥地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワークの実際について ⑦地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について</p>		
8. 学習目標	<p>以下の点を学習の目標とする。</p> <p>①精神保健医療福祉の歴史と動向について説明できる ②精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を身に付ける ③精神科リハビリテーションの概念と構成、精神科リハビリテーションのプロセスについて説明できる ④医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割を学ぶ ⑤相談援助の過程及び対象者との援助関係、面接技術を理解し、援助活動の展開を身に付ける ⑥家族調整・支援の実際を学ぶ ⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する ⑧地域移行について理解する ⑨地域を基盤にした相談援助、リハビリテーションの基本的考え方、ネットワークングについて理解する ⑩精神障害者のケアマネジメントを学ぶ</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内で課題を課すことがある。 * 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 第4巻「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」』へるす出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>試験及びレポート 90% 授業態度 10% (遅刻・早退は減点する)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>精神科ソーシャルワーク論Ⅰ, Ⅱで学んだ知識と技術の概要をさらに深く学び、実践に結びつけることができる内容とします。グループワークや、ロールプレイなど積極的な授業への参加を求めます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途連絡する</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について、 第1章 障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（ノーマライゼーション）	事前学習	障害者とはどのような人をいうのか、障害者福祉とはどのようなことをいうのかについて、自分の考えをまとめる
		事後学習	ディスカッションの振り返り、障害者と障害者福祉、ノーマライゼーション、の関係を整理すること
第2回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：障害者福祉の理念と精神障害（リハビリテーション）	事前学習	障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること
		事後学習	ディスカッションを振り返り、障害者と障害者福祉、リハビリテーションの関係を整理すること
第3回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉理念と精神障害（生活の質、自立支援）	事前学習	障害者にとっての自立とは何かを考え、生活の質、地域社会とのつながりを踏まえて自己の意見をまとめること
		事後学習	精神障害者の生活の質とは何か、自立とは何か、社会で生活することの困難さと社会的サポートの必要性についてまとめること
第4回	障害者福祉の理念と精神障害者の人権：：障害者福祉と精神障害（ソーシャルインクルージョン）	事前学習	ソーシャルインクルージョンとは何かを理解しておくこと
		事後学習	社会で生活することの困難さとソーシャルインクルージョンについてまとめること
第5回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何	事前学習	我が国の精神障害者の人権について文献等を使い調べる

	か 障害者権利条約の理念	事後学習	我が国の精神障害者の人権が障害者の権利条約によってどのように守られているのかをまとめること
第 6 回	精神障害者の人権：精神障害者の人権とは何か 精神障害及び精神障害者	事前学習	精神障害と精神障害者の関係をよく調べて理解すること
		事後学習	授業で学んだ精神障害者の人権侵害について、事例を含めて考察すること
第 7 回	第 2 章 精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉と精神障害者	事前学習	精神医学、精神科リハビリテーション学、精神科ソーシャルワーク論 I で学んだ歴史を整理しておくこと
		事後学習	今日の我が国の精神保健福祉施策への影響を考察するとともに、今日求められている精神障害者の地域支援の意義についてまとめること
第 8 回	精神保健福祉の歴史と理念：精神保健福祉の歴史と理念、精神保健福祉の現状と展望	事前学習	我が国の入院者数、入院日数、精神科病床数等精神障害者のおかれている現状を調べること
		事後学習	授業を振り返り、我が国の精神障害者施策に対する諸外国の批判をまとめること
第 9 回	第 3 章 精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：導入期、	事前学習	精神科ソーシャルワーク論で学んだ、宇都宮事件と Y 問題について教科書を振り返り、まとめること
		事後学習	我が国における精神科ソーシャルワーカー導入のきっかけとなった諸問題をまとめること
第 10 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：混乱期	事前学習	混乱期とはどのような状態であったのかを教科書からまとめること
		事後学習	混乱がどのようにして生じ、問題点は何かをまとめること
第 11 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：展開期	事前学習	精神保健福祉士が国家資格となった経過と当時の精神保健福祉の動向を、精神科ソーシャルワーク論で学んだ知識をもとにまとめること
		事後学習	我が国における精神保健福祉士の黎明期から現在に至るまでをまとめるとともに、実習や見学等を通して、実際の業務を考察すること
第 12 回	精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向：拡大期	事前学習	精神保健福祉の新たな動向を理解すること
		事後学習	拡大期にどのような領域に拡大されたのかをまとめること
第 13 回	第 4 章 精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（1）	事前学習	教科書 pp.99～108 を読み、精神保健福祉士が持つべき理念や存在する意義についてまとめること
		事後学習	精神保健福祉士の持つべき理念と存在意義について自己の考えをまとめ、合わせて精神保健福祉士の専門性について考察すること。
第 14 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の意義（2）	事前学習	前回の授業を振り返り、精神保健福祉士の意義をまとめること
		事後学習	前回の授業に加えて、精神保健福祉士の果たしてきた意義や今後果たすべき役割について考えること
第 15 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理	事前学習	教科書 pp.108～126 を読み、精神保健福祉士倫理綱領作成のきっかけとなった Y 問題について整理すること。
		事後学習	精神保健福祉士倫理綱領のポイントをつかみ、繰り返し読み、全文を暗記すること。
第 16 回	精神保健福祉士の理念と意義：国家としての精神保健福祉士の専門性と倫理（倫理綱領）	事前学習	倫理綱領を読んでくこと
		事後学習	倫理綱領に意味する内容を考え、理解すること
第 17 回	中間のまとめ	事前学習	今までの授業のポイントを整理すること
		事後学習	まとめて出された問題について教科書等で調べて、理解すること
第 18 回	第 5 章 精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	精神科ソーシャルワーク論 I・II で学んだソーシャルワークの展開過程を、もう一度見直し整理すること
		事後学習	インターク（受理面接）の仕方をイメージし、教科書等の事例をもとに、くり返しトレーニングをすること
第 19 回	中間のまとめの解答と解説。精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（受理面接と契約）	事前学習	ソーシャルワークの展開過程のうちアセスメントの内容と方法について、精神科ソーシャルワーク論の教科書を読み、理解しておくこと
		事後学習	教科書にあるインタークに係る事例を読み、事例のインタークを試みること
第 20 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程： ソーシャルワークの展開過程（アセスメント）	事前学習	受理面接とアセスメントの関係を教科書で調べておくこと
		事後学習	アセスメントとはどのようなことかをまとめること
第 21 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支援計画、支援の実際）	事前学習	支援に係る様々なアプローチについて、精神科リハビリテーション学の教科書を読み、理解するとともに、他の授業で学んだ社会資源についてまとめること
		事後学習	支援計画のポイント、使用されているアプローチ方法を理解すること。また、事例に即した社会資源の利用方法、支援技術、支援の評価方法、最終の仕方を検討すること。
第 22 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク展開過程：ソーシャルワークの展開過程（支	事前学習	支援計画、支援の評価がどのような段階で行われるか教科書を使い調べておくこと

	援計画、支援の支援の評価、終結)	事後学習	受理面接から終結までの過程をまとめること
第 23 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：個別支援、グループを活用した支 援	事前学習	個別支援技術、集団支援技術についてまとめること
		事後学習	授業で学んだ個別支援技術と理論、集団支援技術の対 象と基礎理論及び技術に関する事例についてまとめる こと
第 24 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：地域を対象とした支援	事前学習	地域を対象とする支援とは何かを教科書を使い理解す ること
		事後学習	直接援助と間接援助の違いを理解し、具体的な例を考 えてみること
第 25 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：災害時における精神保健福祉士の 役割、スーパービジョンとコンサルテーショ ン、	事前学習	災害時における援助のポイントをまとめること。また、 教科書 pp.193～203 を読み、スーパービジョンとコン サルテーションの概念を理解し、実習で受けたスーパ ービジョンを思い出し、スーパービジョンが自己に与 えた影響を考察すること
		事後学習	スーパービジョンとコンサルテーションの違いを明確 にすること。ケアマネジメントに関する配布資料を見 直し、手順を確認すること
第 26 回	精神保健福祉士の支援とソーシャルワーク 展開過程：ケアマネジメント	事前学習	教科書を使い、ケアマネジメントの歴史を調べておく こと
		事後学習	授業を振り返り、ケアマネジメントの流れ、有効性を 理解すること
第 27 回	第 6 章 精神障害者のソーシャルワークと関 連専門種との連携：チーム医療における精神 保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.235～244 を読み、チーム医療の概念を整理 すること
		事後学習	チーム医療を実施する際のポイントをまとめること
第 28 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：専門職の役割と機能	事前学習	精神保健福祉士がどのような職種とチームを組む必要 性があるか想定すること
		事後学習	実習先で実施されていたチーム医療（チームアプロ ーチ）に関わっている職員の職種と役割、連携について 整理すること
第 29 回	精神障害者のソーシャルワークと関連専門種 との連携：チームアプローチ及び生活支援の理 念と精神保健福祉士の役割	事前学習	地域における支援チームの要素とチームの中で精神保 健福祉士が果たす役割について自己の意見をまとめる こと
		事後学習	地域支援チームと医療機関でのチームの違いについて 整理すること。また、地域での生活支援にかかわる職 種、機関を上げ、それぞれの役割と連携のポイントを 整理すること。
第 30 回	授業評価・精神保健福祉援助技術論のまとめ (事例を総合的に検討する)	事前学習	ソーシャルワークの展開過程をもう一度調べておくこ と（参考：精神科ソーシャルワーク論教科書 P 105）
		事後学習	授業で検討された内容を吟味すること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (編) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2183
2. 授業担当教員	長谷川 行雄、三野 宏治			
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、III は 2 年時～3 年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の意義について理解する。 2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 2) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。 4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。 5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。 6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。 			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認) 2 自己の実習に対する動機、目標 <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 (改定) 版 精神保健福祉士養成セミナー 第 8 巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版 (この教科書は「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」共通)、2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <p>精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016 年版』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。			
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。			
13. オフィスアワー	後日通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導 I の学習用ノートを準備し講義に臨むこと。	
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。実習の手引きの実習の流れを再確認する	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職養成における実習の意義を理解する ：精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める。 	事前学習	テキスト第 1 章・第 2 章 (pp.3～26) を熟読する	
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる	
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める ：実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する	
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる	
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の意義について理解する ：事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する 精神保健福祉に関する基礎知識の確認① ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する 	事前学習	テキスト第 3 章 III (pp.46～65) を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる	
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考え	

	：日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える		たことをまとめる
第 5 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認② ・精神疾患の理解 ：主な精神疾患についての基礎知識を確認する	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
	精神保健福祉に関する基礎知識の確認③ ・精神保健福祉に関する制度の理解 ：精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する	事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第 6 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認④ ・精神保健福祉に関する技術の理解 ：面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして 必要になる基礎的技術について確認	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第 7 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤ ・精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 ：精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解 ・実習先を理解する ：実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） ：事前学習として実習先を理解する意義と、どのような点について理解することが必要か説明	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる テキスト第 7 章（p 127～137）を熟読する
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる 実習可能な施設について確認する
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関① 〈精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟〉	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 I、II（pp.139～150）を熟読する テキスト第 8 章 IV（pp.162～164）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 医療機関② 〈精神科病院／総合病院精神科／精神科診療所／精神科デイケア施設／アルコール専門病棟／認知症病棟〉	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 I、II（pp.139～150）を熟読する テキスト第 8 章 IV（pp.162～164）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 10 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：障害者総合支援法について ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設① 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	障害者総合支援法についてまとめる
		事後学習	授業を受けて、自分でまとめたものの中で足りない部分を補足する
第 11 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設② 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI（pp.168～169）を熟読する テキスト第 4 章 VII（pp.87～95）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 12 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設③ 〈共同生活援助／共同生活介護／相談支援事業・地域活動支援センター／就労継続支援 A 型／就労継続支援 B 型／就労移行支援事業所〉	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI（pp.168～169）を熟読する テキスト第 4 章 VII（pp.87～95）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 13 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政① 〈精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター〉	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI（pp.168～169）を熟読する テキスト第 4 章 VII（pp.87～95）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 14 回	・実習施設・機関の基本的理解 ：グループによる発表 行政② 〈精神保健福祉センター／保健所／市町村保健センター〉 ：実習施設・機関の理解に対するまとめ	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI（pp.168～169）を熟読する テキスト第 4 章 VII（pp.87～95）を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 15 回	・学習のまとめ ・実習に向けて自己覚知を深める ：セルフアセスメントシートの実施 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことをまとめる
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱにおける課題を書きだす

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(精保専攻) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3184
2. 授業担当教員	長谷川 行雄	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンステストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習コンピテンス確認テスト(1)及び(2)の実施(合格点に達するまで再テストを行う) 2 実習施設の概要、実習計画書の作成 3 ソーシャルワーク基礎実習振り返り 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー第8巻『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。</p> <p>尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。</p>		
13. オフィスアワー	<p>後日通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る 実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す。 実習コンピテンス確認テストのための学習を行う。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習コンピテンス確認テストⅠの実施 ・ソーシャルワーク基礎実習、実習プログラム(案)の作成 ：ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認(「実習の手引き」使用) ：実習計画の意義と目的について説明 	事前学習	「実習の手引き」ソーシャルワーク実習についての項目に目を通す テキスト第3章V、3(pp.63～65)を熟読する
		事後学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)を作成する
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習、実習計画の作成 ：自己の実習の意義、目的を再確認する ：実習計画書の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設・機関の概要、ソーシャルワーク基礎実習プログラム(案)を作成する
		事後学習	実習プログラム(案)について、添削された箇所を再度修正する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ・ソーシャルワーク基礎実習 実習施設・機関の概要、実習プログラムの完成 ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第4章VI(pp.85～86)Ⅷ(pp.89～95)を熟読する
		事後学習	実習施設・機関の概要及び実習プログラム(案) 持参のうえ、実習施設訪問について実習指導者に相談する

第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：個人情報保護の理解 ：実習中の記録等の取り扱いに関する具体的な注意事項 	事前学習	テキスト第 8 章 V (pp.165～167)、第 4 章 VII (pp.87～95) を熟読する 「実習の手引き」資料：学生が行う現場実習における個人情報保護の手引きに目を通す
		事後学習	個人のプライバシー保護と守秘義務について、実習生、利用者それぞれの視点から重要な点をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の書き方演習 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する 	事前学習	テキスト第 8 章 V (p 165～167)、
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する 自己評価表の各項目の意味を再度確認する (不明点があれば、翌週確認する)
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ：実習記録の取り扱い等に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する
		事後学習	テキスト、実習の手引きを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：グループにおけるディスカッション (実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する) ：実習後の必要事項の確認 (記録の提出、お礼状の郵送等) ：実習成果発表会について説明 	事前学習	ソーシャルワーク基礎実習のまとめを記入 実習先にお礼状を出す
		事後学習	実習中に学んだこと、課題を学習ノートに書きだす
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ：ソーシャルワーク基礎実習に関する実習総括レポートを作成 ・実習後の自身の成長を把握する 	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.97～109) を熟読する
		事後学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
第 10 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ①	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる
第 11 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ②	事前学習	実習総括レポートの作成
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク基礎実習の振り返りを援助実習につなげる ：基礎実習の課題を明確にし、援助実習における自己の実習目標を明確にする ・実習コンピテンス確認テスト II の実施 	事前学習	援助実習における実習目標を書きだす 実習コンピテンス確認テストのための自己学習を行う
		事後学習	実習の手引き、実習プログラムシートについて学んだことを振り返る
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習に関する理解 ：実習実施時期の確認 ：「実習プログラムシート」の理解 (援助実習の目標の理解と目標を達成するための展開方法について) ・援助実習、実習プログラム(案)の作成 ：援助実習の課題を理解したうえで、実習計画を作成する 	事前学習	実習の手引き、精神保健福祉援助実習の項目を熟読する
		事後学習	実習プログラム (案) を作成する
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・援助実習、実習プログラム (案) の作成 ：実習プログラム (案) の作成、添削 	事前学習	実習計画を作成する
		事後学習	添削を受けて実習プログラム (案) を再度作成する 実習プログラム (案) を持って実習先を訪問する
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ：援助実習に向けて、基礎実習での課題、その後の振り返りをまとめる 	事前学習	実習先訪問の報告書を作成する
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 II で学んだことと今後の課題をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(心理学部) (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3484
2. 授業担当教員	三野 宏治			
4. 授業形態	講義、演習、討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、医療機関実習に向けての具体的な準備、事後学習を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>1) 実習コンピテンス確認テストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照らし自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。</p>			
8. 学習目標	<p>① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について具体的な提出物等の指示を出す。</p> <p>1. 実習コンピテンス確認テスト(1)(2)の実施(合格点に達するまで実施) 2. 実習施設の概要、実習計画書の作成 3. 医療機関実習振り返り、実習総括レポート(実習報告書)の作成</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、実習の振り返りの内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。			
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結している。この授業期間中に、初めて実習に行き、次の段階の実習に備えます。実習及び資格取得に対する動機を高め、より充実した実習体験を持てるよう、積極的な授業参加態度を期待する。			
13. オフィスアワー	後日通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 :実習までの流れの確認	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る 実習コンピテンス確認テストに向けて自己学習を行う	
		事後学習	実習に向けての自己の課題を書き出す	
第2回	・実習コンピテンス確認テストⅠの実施 ・配属先医療機関に対する理解を深める :配属先医療機関に関する情報収集 :実習施設の概要をまとめる	事前学習	配属先についてホームページ等を用いて情報収集する	
		事後学習	実習施設の概要を作成する	
第3回	・医療機関における精神保健福祉士の役割 ・医療機関実習プログラム(案)の作成 :医療機関実習の目的と実習の全体像について内容を確認(「実習の手引き」使用) :実習計画の意義と目的について説明	事前学習	「実習の手引き」医療機関実習についての項目に目を通す テキスト第3章、3(pp.63～65)を熟読する	
		事後学習	医療機関実習プログラム(案)を作成する	
第4回	・医療機関実習、実習計画の作成 :自己の実習の意義、目的を再確認する :実習(プログラム案)の記入と添削・確認 ・実習コンピテンス確認テストⅡの実施	事前学習	医療機関実習計画を作成する	
		事後学習	実習プログラム(案)について、添削された箇所を再度修正する	

第 5 回 *巡回担 当教員発 表	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ：スーパービジョンについて理解する ：巡回指導の目的と内容を理解する ・医療機関実習 実習計画の完成 ：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第 4 章VI (pp.85～86)、VIII (pp.89～95) を熟読する
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入する 見学実習の日程調整を各自行う
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認 ：実習プログラム (案) においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 ：個人情報保護の理解 ：実習中の記録等の取り扱いに関する具体的注意事項 	事前学習	テキスト第 3 章 V (pp.61～65) を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる
第 7 回 *事前訪 問実施	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ：基本的態度と訪問時の注意事項の確認 ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する 	事前学習	テキスト第 4 章VII (pp.87～95) を熟読する
		事後学習	見学実習においてスーパーバイザーと協議したい点を書きだす 実習施設の概要及び実習プログラム (案) を 実習施設に持参し、指導者と協議する
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：事前訪問を終えて、再度実習プログラムを見直す ：実習までの課題を確認する ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	見学実習報告書の作成 実習プログラムの見直し
		事後学習	実習までの課題を書きだす 実習記録の書き方における留意点をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ・精神疾患に関する理解 ：精神疾患に関する理解を深め、疾患によって異なる関わり方を考える 	事前学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する 精神医学のテキストを復習する
		事後学習	精神疾患によって異なる関わり方について 学んだポイントをまとめる
第 1 0 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の書き方演習 ・精神科医療機関のワーカーとして必要となる諸制度の知識を確認する ：入院制度、保険制度 	事前学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する 精神保健福祉法に目を通す
		事後学習	入院形態、保険制度、診療報酬等学んだことをまとめる
第 1 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習に向けての最終確認 ：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・自己評価表の理解 ：自己評価を行う意義と活用方法を理解する ：自己評価表の記入方法を理解する ・実習後の実習成果発表会、実習総括レポート (実習報告書) について説明 	事前学習	医療機関実習までに確認したいことを書きだす
		事後学習	テキスト、実習の手引き、学習ノートを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う
第 1 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り ：事後学習の意義を理解する ：グループにおけるディスカッション (実習中に感じたこと、困難だったこと、自己の課題等共有する) ：実習後の必要事項の確認 (記録の提出、お礼状の郵送等) ：医療機関実習に関する実習総括レポート (実習報告書) を作成 	事前学習	医療機関実習のまとめを記入 実習先にお礼状を出す テキスト第 5 章 (pp.97～109) を熟読する
		事後学習	実習中に学んだこと、課題を書きだす
第 1 3 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ①	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察を学習まとめる
第 1 4 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ②	事前学習	実習総括レポートを作成し、実習成果発表会への準備をする
		事後学習	発表を聞いての感想、考察をまとめる
第 1 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ：医療機関実習における自己の課題を施設実習につなげる ・自己の成長を振り返る 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅱで学んだことと今後の課題をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等	5. 開講学期	通年
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。この講義では、過去問題の演習を繰り返して行います。その中で、試験に合格するための知識を記憶に定着させて下さい。		
8. 学習目標	精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。 (I)問題の総得点の6割程度以上の点数の得点があること。 (II)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる) これらの基準を満たすために、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストはあなた方の学習の形成的評価となるものですから、確実に得点ができるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを2度と繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 定期試験(共通科目・専門科目)では、実際の本番の試験の合格基準に従って、 <ul style="list-style-type: none"> ①全体の60%以上の得点がある ②全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内配布テキスト、『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業の最後に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」をどれだけ自分のものとして理解し暗記できているかによって決まります。本講義を受講する学生は、本番の試験と同様に1問1問真剣に取り組んで下さい。(授業進行は変更することがあります)		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第2回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第3回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第4回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第5回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第6回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第7回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第8回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第9回	【福祉行財政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第10回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第11回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法(障害児支援関係)」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【精神疾患とその治療①】 （「精神疾患総論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【精神疾患とその治療②】 （「精神疾患の治療」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【精神保健の課題と支援①】 （「精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 9 回	【精神保健の課題と支援②】 （「精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割」「精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題」「精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 0 回	【精神保健福祉相談援助の基盤①】 （「精神保健福祉士の役割と意義」「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【精神保健福祉相談援助の基盤②】 （「相談援助の理念」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「相談援助に係わる専門職の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 2 回	【精神保健福祉相談援助の基盤③】 （精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲」「精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 3 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開①】 （「精神保健医療福祉の歴史と動向」「精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 4 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開②】 （「医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割」「相談援助の過程及び対象者との援助関係」「相談援助のための面接技術」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開③】 （「相談援助活動の展開」「家族調整・支援の実際と事例分析」「地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制」「地域を基盤にした相談援助の主体と対象」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 6 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開④】 （「地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方」「精神障害者のケアマネジメント」「地域を基盤にした支援とネットワーク」「地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス①】 （「精神保健福祉法の意義と内容」「精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス」「精神障害者に関連する社会保障制度の概要」「相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協議」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 8 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス②】 （「更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係」「更生保護制度における関係機関や団体との連携」「医療観察法の概要」「医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割」「社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 9 回	【精神障害者の生活支援システム】 （「精神障害者の生活の実際」「精神障害者の生活と人権」「精神障害者の居住支援」「精神障害者の就労支援」「市町村における相談援助」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 0 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し、精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。すでに履修している精神保健福祉士養成演習Ⅰにおける学習を基盤として、この講義ではより実践的な演習を行っていきます。今まで学んできた学習内容を、出題が多く見られる分野を中心に徹底した問題演習を行っていきます。試験に合格するために必要となる知識を確実に記憶に定着させるとともに、近年の出題傾向を把握した上で、新しい問題にも対応できる実力を身につけられる講義を行います。</p> <p>また、全国統一模擬試験を受験することで試験の雰囲気になれるとともに、解答した問題については、その後の授業の中でも振り返りをしていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ)問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ)受験で課されるすべての科目において得点があること(一科目でも0点を取ると不合格となる)。</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を満遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。特にこの養成演習Ⅱの授業では、実際の出題実績の多い最頻出分野の問題から繰り返し解いていく作業を中心とします。各授業の最後に行う確認テストは、皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に全問が正解できることを目標とするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直すことで、同じ間違いを二度と繰り返さないことが重要です。</p>		
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>・各授業の最後には、予め配付する「一問一答」の中から関連する項目の確認テストを行います。満点が取れるまで予習復習を繰り返して下さい。</p> <p>・期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>① 全体の60%以上の得点が見られる。</p> <p>② 全ての科目で得点が見られる(0点科目がない)ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】(3年の養成演習Ⅰの時に購入した問題集を使用します。3年次に養成演習Ⅰを履修していなかった者は、事前に購入して授業に臨むこと。『2016 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規))</p> <p>「大学作成の授業内配付テキスト」</p> <p>『見て覚える! 社会福祉士国試ナビ 2017』(中央法規)</p> <p>【参考書】『精神保健福祉士受験ワークブック 専門科目編 2017』(中央法規)</p> <p>『2017 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規)</p> <p>『精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2017』(中央法規)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」と12月に実施する校内模試 50%</p> <p>60コマ中、16コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する(春学期のみ)。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家試験へ合格するためには、徹底した「過去問題」の理解・暗記が欠かせません。試験本番まで1年を切った本年度は、より実践的な演習を行っていきます。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという強い決意をもって、一問一問真剣に取り組むようにして下さい。</p> <p>授業内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス(春期)(試験の概要・傾向等) 【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく。
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習

第 4 回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 5 回	実力確認テスト I (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までの授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第 6 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行財政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【地域福祉の理論と方法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験 (実力確認テスト II) (専門科目)			
第 16 回	ガイダンス (秋期) 事例問題の演習① (相談援助関連)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解 (共通科目ランダム問題)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解 (専門科目ランダム問題)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解① (共通科目) (人体・心理学)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解①(共通科目) (社会理論・現代社会)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解②(共通科目) (地域福祉)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解①(共通科目) (社会保障・低所得者)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解②(共通科目) (障害者・権利擁護)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③(共通科目) (行財政・保健医療)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	利用者を理解する科目の徹底理解② (専門科目) (精神疾患・精神保健)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	精神保健福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解 (専門科目) (基盤・理論と展開)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	社会保障を理解する科目の徹底理解④ (専門科目) (制度とサービス・生活支援)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 28 回	事例問題の演習② (基盤・制度とサービス・生活支援)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	精神保健医療福祉の最近の動向の理解 (時事問題)	事前学習	配付資料を事前によく読んでくる
		事後学習	福祉に関する時事問題をしっかりと把握する
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	(国家試験の問題冊子を持参する)
		事後学習	(最後まで、合格を信じること！)

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論Ⅱ (4 単位)	3. 科目番号	SCMP3129 PSMP3429
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、課題の発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。		
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1.障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2.精神障害者の人権について理解する。 3.精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4.精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5.精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第6巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。		
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第1回の授業に出席すること。 精神保健福祉論Ⅰに続く講義であり、受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」という課題について考察を深めることを期待する。		
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1・2回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉士の倫理について求める。
第3・4回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第5・6回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第7・8回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第9・10回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第11・12回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景 医療観察法の概要および目的 精神保健福祉士と医療観察制度 医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第13・14回	更生保護制度の概要 司法・医療・福祉の連携 司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～96 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第15・16回	医療保険制度・健康保険の概要と医療保険給付の状況	事前学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度の概要について調べる。

	介護保険制度・給付の概要	事後学習	教科書 pp.97～112 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 17・18 回	労働者災害補償制度・障害年金制度・公的扶助について 経済負担の軽減と精神障害者、経済負担の軽減措置	事前学習	教科書 pp.113～133 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97～133 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 19・20 回	精神障害者の生活実態 ・障害の捉え方—医学モデルから社会モデルへ ・障害者の実態把握の難しさ ・自治体のアンケート調査から	事前学習	教科書 pp.113～142 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 113～142 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 21・22 回	精神障害者の生活実態 ・家族の調査から見えてくること ・精神障害者自身の経験から ・実態から政策提言へ	事前学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～148 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 23・24 回	精神障害者の居住支援	事前学習	教科書 pp.148～153 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 148～153 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 25・26 回	精神障害者と雇用・就労	事前学習	教科書 pp.153～166 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 153～166 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 27・28 回	精神障害者の生活支援システム	事前学習	教科書 pp.166～175 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp. 166～175 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 29・30 回	まとめ	事前学習	テキスト・配布資料等を見直し、理解不足な点を明らかにしておく。
		事後学習	これまでの学習内容における不明点が克服されたか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生物学 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1322
2. 授業担当教員	成田 成	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本授業では、①地球上に初めて誕生した生物はどのような生命体であったのか、②生物はどのように進化してきたのか、③現存する生物は環境に対してどのように適応しているのか、④生物の構成単位である細胞の核には、どのようなものがあるのか、⑤染色体や遺伝子の働きは何か、⑥ホメオスタシス (恒常性) を維持するために、神経やホルモンはどのように働いているのか、⑦発生はどのように進んでいくのか、⑧炭酸同化作用の意義はどのようなところにあるのか、⑨細胞の老化は何故起こるのか、⑩老化を抑制して健康的に長生きするためにはどうすればよいのかなどについて、資料やワークシートを用い、ディスカッションや発表などを取り入れながら、双方向対話型の授業を行っていく。		
8. 学習目標	本講義では、①生物の体内の仕組みや働きに興味や関心を持つこと、②生物学的な知識を幅広く持てるようになること、③命の大切さを十分に理解できるようになること、を学習目標としている。また、これらの学習目標の達成が、保育、教育、福祉、心理などの専門科目への橋渡しにすることを達成目標とし、本講義で学んだことを社会へ出てからも様々な分野で応用できるようになることを究極の目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて、1,000字程度で論述してもらう。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	レポート課題：60点、授業態度：40点、総合点：100点 4分の3以上の出席がない場合には、単位を与えないこととする。		
12. 受講生への メッセージ	本授業を通じて、生物に関心を持っていただきたい。また、地球上に誕生した緑色植物の存在意義が大きいことや、我々が引き起こした人工的な環境破壊によって、地球の環境が多くの生物にとって危機的状況になっていることを理解してほしい。さらには、細胞の老化に関する知識を超高齢社会で応用できるようになっていただければ幸いである。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス 4 号館 1 階 120 研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方、心得など) 生命の誕生 (地球上に誕生した最初の生命体)	事前学習	生命の誕生について予習してくる。
		事後学習	生命がどのように誕生したのかについてまとめる。
第 2 回	生物の進化 (生物はどのように進化してきたのか)	事前学習	生物の進化について、自分なりの考えを持って参加すること。
		事後学習	学習参考例やワークシートをもとに、要点を復習する。
第 3 回	生物の環境への適応 (環境へ適応できた生物とできなかった生物)	事前学習	生物の適応とは何かについて調べてくる。
		事後学習	生物の適応が進化とどのように関係があるのかをまとめてみる。
第 4 回	細胞の核 (さまざまな細胞の核とその役割)	事前学習	細胞の核とは何かを予習してくる。
		事後学習	細胞の種類によって、核の数や形に違いがあることを確認する。
第 5 回	染色体と遺伝子 (両者の違いと働き)	事前学習	細胞の染色体および遺伝子について調べてくる。
		事後学習	細胞の核、染色体、遺伝子の関係について再確認する。
第 6 回	神経の働き (交感神経と副交感神経)	事前学習	交感神経と副交感神経について調べてくる。
		事後学習	両者がどのような時に働くのかについて、まとめてみる。
第 7 回	ホルモンの働き (体温調節や血糖値の調節)	事前学習	ホルモンとは何かについて調べてくる。
		事後学習	ホルモンが体温や血糖値を調節する具体例をまとめてみる。
第 8 回	発生 (受精から個体が完成するまで)	事前学習	発生とは何かについて調べてくる。
		事後学習	発生について、学習参考例をもとにまとめてみる。
第 9 回	再生 (従来からの再生から再生医療まで)	事前学習	再生とは何かについて調べてくる。
		事後学習	再生について、学習参考例をもとにまとめてみる。
第 10 回	炭酸同化作用 (光合成と化学合成)	事前学習	炭酸同化とは何かについて調べてくる。
		事後学習	炭酸同化作用の重要性について再確認する。
第 11 回	光合成が生物界にもたらす影響	事前学習	光合成とは何かについて調べてくる。
		事後学習	光合成が生物界にもたらす影響についてまとめてみる。
第 12 回	顕微鏡観察 (顕微鏡の使い方と標本の観察)	事前学習	顕微鏡の使い方と標本の観察の仕方について調べてくる。
		事後学習	重要なポイントについてまとめておく。
第 13 回	卵子の老化 (卵子も年をとる話) 生物学の応用 (超高齢社会を乗り切るには)	事前学習	老化とは何かについて調べてくる。
		事後学習	卵子の老化現象その原因や、老化予防する方法について理解する。
第 14 回	生命の誕生から死に至るまで	事前学習	生命の誕生から老化について勉強してくる。
		事後学習	生命の誕生や死にも遺伝子が関係していることを理解する。
第 15 回	レポート (本授業に参加して興味を持ったことについて)	事前学習	授業で興味を持ったことについてレポートの原案を考えておく。
		事後学習	作成したレポートについて、要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	生理学 (4 単位)		3. 科目番号	GELA2322
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表。生理学に関する簡単な実験。		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	医療分野の多極化がすすみ、数多くの co-medical の新しい職種が誕生している。人体に関係のある仕事に携わる人々にとって人体生理学は大変大切である。職場の労働者の健康管理や快適な職場環境づくりを行うための衛生管理者にとって、この生理学は欠かすことのできない科目であるが、難解な科目でもある。しかし、まず、人体の全般にわたって理解を深め、その上で、専門的な知識を習得していくことが大切である。本科目では、人体各部の組織、器官・器官系それぞれの生理機能を理解し、それらが統合された個体としての人体活動について、疾病とも関連させて学ぶ。			
8. 学習目標	<p>学生には下記について学び、説明できるようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を確認する。 2. 生体内の諸組織・器官の機能について学ぶ。 3. 生体内の諸組織・器官の神経系による調節について学ぶ。 4. 生体内の諸組織・器官の内分泌系による調節について学ぶ。 5. 神経系・免疫系・自律神経系を介する生体防御について学ぶ。 6. 生体機能を健康的に維持する方法について学ぶ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始前に配布するワークシートに授業で学んだ内容をまとめ、終了時に提出する。 2. レポート課題：もっとも関心を持った器官系につき、生理機能をまとめる。(A4版、横書き、1,200～1,500字) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岡田隆夫・松村幹郎『人体生理学ノート 改訂7版』金芳堂。 【参考書】澤口彰子他(著)『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。 高田明和(監修)『からだのしくみと病気がわかる事典』日本文芸社。 ニュートン編集委員会(編)『人体を支配するしくみ』ニュートンムック。</p>			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください(研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医学情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション (生理学とは)	事前学習	「生理学」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	生理学の概要をまとめる。	
第2回	細胞 (構造、機能)	事前学習	pp.5～13: 細胞の大きさ、細胞内小器官について覚えておく。	
		事後学習	細胞内小器官の機能についてまとめる。	
第3回	体液 (組成、恒常性の調節)	事前学習	pp.15～19: 体液量の割合について調べておく。	
		事後学習	細胞内液、細胞外液の組成、水分調節、脱水症状についてまとめる。	
第4回	血液 (役割、組成、血液凝固と線溶)	事前学習	pp.31～44: 血液の成分 (血球成分・血漿成分) について調べておく。	
		事後学習	血液の機能、代表的な血液疾患についてまとめる。	
第5回	循環① (心臓の機能調節、心臓の異常)	事前学習	pp.57～67: 心臓の位置、構造について調べておく。	
		事後学習	心臓機能の調節機序と代表的な心機能障害についてまとめる。	
第6回	循環② (血管系と機能調節、血管系の異常、リンパ系)	事前学習	pp.68～85: 血管系・リンパ系の構造について覚えておく。	
		事後学習	血圧の測定結果を踏まえて、血圧調節の機序、高血圧症の主要原因についてまとめる。	
第7回	呼吸① (呼吸器の構造と機能調節)	事前学習	pp.45～49: 気道・肺の構造について調べておく。	
		事後学習	呼吸の調節機構についてまとめる。	
第8回	呼吸② (ガス交換、呼吸器系の異常)	事前学習	pp.49～56: 吸気・呼気中のガス成分について調べておく。	
		事後学習	血中酸素分圧の測定結果を踏まえて、呼吸器系機能についてまとめる。	
第9回	消化① (消化器系の構造と機能調節)	事前学習	pp.99～102: 消化器系の位置・構造を調べておく。	

		事後学習	呼吸器系運動の調節についてまとめる。
第 10 回	消化② (消化、吸収、消化管ホルモン)	事前学習	pp.102~109: 消化・吸収の意味、消化酵素の機能について調べておく。
		事後学習	消化運動に関与するホルモンについてまとめる。
第 11 回	栄養と代謝 (栄養素、中間代謝、エネルギー所要量)	事前学習	pp.111~118: 5 大栄養素と機能について調べておく。
		事後学習	空腹時・満腹時のエネルギー代謝についてまとめる。
第 12 回	まとめとディスカッション 第 1 回ミニテスト	事前学習	第 5 回~第 11 回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第 13 回	体温 (体温の生理的変動、熱産生、熱放射、気候順化)	事前学習	pp.119~120: 前日に、体温を様々な部位、時刻で測定しておく。
		事後学習	体温の調節機構、発熱・解熱の機序をまとめる。
第 14 回	排尿 (腎臓の機能、糸球体ろ過、尿細管再吸収、体内の水分平衡)	事前学習	pp.87~98: 腎臓の構造を調べておく。
		事後学習	尿形成の機序と腎臓障害についてまとめる。
第 15 回	骨とカルシウム代謝 (構造、骨吸収・再形成、骨代謝とホルモン、骨粗鬆症)	事前学習	pp.132~133: 骨の構造を調べておく。
		事後学習	骨形成・骨吸収の機序と、関連する器官・ホルモンについてまとめる。
第 16 回	内分泌系① (内分泌腺とホルモン、ホルモン分泌調節機序)	事前学習	pp.125~129: 内分泌器官について調べておく。
		事後学習	内分泌の刺激機構、フィードバックによる抑制機構についてまとめる。
第 17 回	内分泌系② (成長ホルモン、甲状腺ホルモン、下垂体後葉ホルモン)	事前学習	pp.130~136: 視床下部-下垂体系のホルモン分泌過程を調べておく。
		事後学習	ホルモンの生理的効果についてまとめる。
第 18 回	内分泌系③ (副腎皮質ホルモン、性ホルモン、睪腺ホルモン)	事前学習	pp.136~142: ステロイドホルモンの合成過程を調べておく。
		事後学習	ホルモン分泌の過剰・過小の影響をまとめる。
第 19 回	内分泌系④ (ストレスと内分泌系の変化)	事前学習	事前配布資料を読んで、ストレスの生理機能への影響について調べておく。
		事後学習	ストレスに起因する各種疾患について、内分泌と免疫機構との関連を含めてまとめる。
第 20 回	まとめとディスカッション 第 2 回ミニテスト	事前学習	第 13 回~第 19 回で学んだことについて学生間でディスカッションし、簡単なテストを行う。
		事後学習	テスト結果について、誤っていた項目を再学習。
第 21 回	生殖 (性分化、二次性徴、性周期、受精・分娩)	事前学習	pp.143~149: 受精、胎児の成長、分娩の過程を調べておく。
		事後学習	性分化、二次性徴と性ホルモンとの関連をまとめる。
第 22 回	神経系① (神経細胞の形態、活動電位、神経伝導・伝達)	事前学習	事前配布資料を読んで、神経細胞の特徴を把握しておく。
		事後学習	簡単な実験結果を踏まえ、神経伝導・神経伝達の機序、その速度についてまとめる。
第 23 回	神経② (自律神経系、運動神経系、感覚神経系)	事前学習	p.153: 末梢神経系 (遠心性、救心性) の特徴を調べておく。
		事後学習	末梢神経系の障害に伴う各種症状をまとめる。
第 24 回	神経③ (中枢神経系: 大脳新皮質、辺縁系)	事前学習	pp.151~161: 脳・脊髄の構造を調べておく。
		事後学習	大脳の機能分化から、それらの障害に伴う症状をまとめる。
第 25 回	筋肉① (骨格筋: 筋収縮の機序、運動の神経支配)	事前学習	pp.183~191: 横紋筋 (骨格筋) と平滑筋 (内臓筋) の特徴を把握しておく。
		事後学習	骨格筋の収縮機序と筋肉疲労についてまとめる。
第 26 回	筋肉② (平滑筋、心筋)	事前学習	pp.183~185: 平滑筋と心筋の特徴を調べておく。
		事後学習	平滑筋・心筋の収縮と自律神経機構についてまとめる。
第 27 回	感覚① (感覚の種類、感覚受容器と伝導、体性感覚)	事前学習	pp.163~167: 五感とは何か、感覚刺激の感受、伝導・伝達と脳機能について調べておく。
		事後学習	体性感覚の種類と感度についてまとめる。
第 28 回	感覚② (特殊感覚)	事前学習	pp.168~182: 特殊感覚の感覚受容部位を把握しておく。
		事後学習	特殊感覚 (視覚、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚) の特徴とそれらの障害についてまとめる。
第 29 回	まとめと総括。課題発表	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題の発表内容について総括する。
第 30 回	まとめ	事前学習	課題に対するレポートの作成。
		事後学習	生理学全般について質疑・応答、ディスカッションを取り入れてまとめたレポートを作成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生理心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3336
2. 授業担当教員	末永 叔子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	生理心理学とは、生体の生理的反応と心的過程との対応関係について研究する分野である。心的反応によって生じる生理的变化は、脳内活動によって制御されている。本講義では脳の構造と働きについて体系的な知識を身につけるとともに、知覚、記憶、感情といった心的過程と脳の生理的反応の関係について学ぶ。さらに、精神疾患との関連についても学び、「心」の問題と脳の活動について理解を深める。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と働きについて基本的な知識を身につける。 ・心的過程や精神疾患に脳がどのように関わっているのか学ぶ。 ・上記の応用として、臨床事例と脳の活動について説明出来るようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	理解度確認のため、小テストを課します。 事後学習を忘れずに行ってください。 まとめとして、授業で学んだテーマのうち、一つを選んでレポートを作成します。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】特に指定しない。 【参考書】ピネル『バイオサイコロジー』西村書店。			
11. 成績評価の方法	授業態度、授業への貢献 10% 小テスト 70% レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	本授業では、こころの働きを脳の神経活動の側面から理解することを目的としています。少し視点を変えて心理現象を見ることで自己理解、他者理解を深めることを期待します。なじみの無い専門用語がたくさん紹介されますが、ひとつひとつを確実に理解するよう努力しましょう。 学生の理解度、興味によってシラバスを変更することがあります。疑問点やわからないことがあれば、積極的に質問してください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス：心理学の成立と生理心理学との関係	事前学習	シラバスをよく読み、これから学習する内容を把握する。	
		事後学習	配布資料を再読みし、心理学の成立の過程を再確認する。	
第 2 回	脳、神経系のなりたち	事前学習	配布資料を読み、講義に備える。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳の全体的な構造を理解する。	
第 3 回	神経細胞の情報伝達 (1) ：神経細胞の構造	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、神経細胞の各場所の名前と働きを理解する。	
第 4 回	神経細胞の情報伝達 (2) ：情報伝達メカニズム	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、脳内の情報の流れを理解する。	
第 5 回	ここまでのまとめ：小テスト 1	事前学習	これまでの授業を振り返り、脳の構造と脳内の情報伝達の仕組みをまとめ、小テストに備える。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第 6 回	生理心理学研究法	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、さまざまな脳の研究法の特徴と、それぞれの方法の違いを理解する。	
第 7 回	神経障害と生理心理学 ：統合失調症・感情障害・不安障害	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、精神障害の症状と脳内での生理的現象との関連を理解する。	
第 8 回	ここまでのまとめ：小テスト 2	事前学習	これまでの授業を振り返り、内容をまとめる。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第 9 回	認知・意識・注意の機構 (1) ：脳が世界をつくる	事前学習	事前に配布した資料に目を通し、講義に備える。	
		事後学習	配布資料を復習し、私たちの感覚器官(目や耳など)が知覚した世界を脳がどのように処理しているのかを理解する。	
第 10 回	認知・意識・注意の機構 (2) ：妻を帽子と間違えた男	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ妻を帽子と間違えたのかを理解することを通して、私たちの世界の認識の仕方を学ぶ。	
第 11 回	学習・記憶・健忘 (1) ：様々な原因で生じる健忘	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、健忘が生じる原因を理解する。	
第 12 回	学習・記憶・健忘 (2) ：脳はどのようにして情報を蓄積するのか	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、学習や記憶の脳内メカニズムを理解する。	
第 13 回	感情・ストレスの生理心理学 ：感情の暗部である恐怖	事前学習	前回の授業で不明点があれば質問内容を整理する。	
		事後学習	授業で配布した資料を復習し、なぜ私たちが恐怖を抱くのかを考察することを通じ、感情やストレスについての理解を深める。	
第 14 回	総括：小テスト 3	事前学習	これまでの授業を振り返り、神経活動の仕組みと、心理現象との関連をまとめる。	
		事後学習	理解不足な点を再度復習する。	
第 15 回	まとめ：脳の可能性	事前学習	これまでの授業で学んだことをふまえ、第 7 回から第 13 回の授業で学んだ心理現象のうち、自分が最も興味を持ったテーマについて本や論文を探して、その内容をレポートにまとめる。	
		事後学習	授業を振り返り、脳と心理現象の関わりについて考察を深める。	

1. 科目名 (単位数)	専門演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDOT4198
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	3 年間履修してきたことを基礎として、選択することが望ましい。		
7. 講義概要	授業の概要は、各教員がすでに示している内容による。		
8. 学習目標	最終学年としてこれまでの授業や実習等で学んだことをもとに、各自が理論的あるいは実践的な課題を設定して担当教員の指導も受けながら自主的、主体的に取り組みその成果をまとめる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各担当教員による。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 各担当教員の指示による。 【参考書】 各担当教員の指示による。		
11. 成績評価の方法	各担当教員が示す。		
12. 受講生へのメッセージ	最終学年として大学生活を締めくくることが自覚して授業に取り組むこと。		
13. オフィスアワー	各担当教員が設定する。		
14. 授業展開及び授業内容			
0 1	面川 幸子		
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育 (保健指導、保健教育、TT 授業) 実践 (養護教諭が中心に行う実践) ・授業の組み立てや教材、資料等について 		
0 2	加藤 敏明		
	<p>「理科の教材研究」と「調査研究」</p> <p>現在、環境問題・温暖化対策・原子力発電等の問題が地球規模で騒がれています。このことについて、身近なところから課題を見つけ、理科の教材研究の仕方を追求していきます。また、教職に就いたときに役立つ指導法の研究を行い、理科教育の指導技術の向上を図ります。</p> <p>本ゼミは、年間を通して調査研究を行い、科学的なデータを蓄積し課題解決を行っていきます。最後に、1 年間の活動の成果を冊子にまとめます。</p>		
0 3	古俣 龍一		
	<p>一般に体育の授業という体を動かすことが中心になりますが、時には身体運動学や運動生理学あるいは発育発達学的視点などから「体育」という正体を追求していくことも重要なことです。本演習は、そのような分野にも目を向けながら授業を進めていきます。なお、本演習は、上記の授業内容から基本的に通年でを行います。受講を希望する人はそのつもりでお願いします。備考 (開講曜日は金曜日以外を予定しています。授業内容に関して質問のある人は面談に応じます。)</p>		
0 4	志手 和行		
	<p>この授業のテーマは、「英語コミュニケーション能力」である。当能力は小・中・高の 8 年間 (小学校は 5, 6 学年の 2 年間) を通して学校教育で養成することが期待される。2020 年度からは、更に小学校中学年 (3, 4 学年) でも必須化されることになっており、当能力の重要性が益々高まっていくのは間違いない。この現状を踏まえた上で、本授業では実際に英語によるコミュニケーションの場を設けて実践しながら、当能力の理論的な基礎事項を取り扱う。また、その養成のための教材作成も一緒に考えていく。英語を「学ぶ」、「教える」の双方の立場でこの能力を捉えられるようにし、小・中・高の英語教育現場で実践的に活用できるよう目指していく。</p>		
0 5	柴田 隆史		
	<p>本演習では、ICT (Information and Communication Technology) やマルチメディアを活用した新しい教育方法や教材について考え、実際に教育コンテンツを制作したり、教育システムを試作したりします。情報処理やコンピュータ、先進的なディスプレイや映像メディアなどに強い興味を持っていることが望ましいですが、自分が得意とする教科の教育にデジタル教材を活用したい、新しい教育方法について考えたい、などという積極的な意志を持っている学生を歓迎します。また、受け身の姿勢ではなく、考えることを重視して主体的に課題テーマに取り組んでもらいます。履修を希望する学生は、本演習に関わる自分の興味や考えを、事前に柴田までメールしてください。(tashibat@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)。</p>		
0 6	下出 美智子		
	<p>この授業では、「音楽教育」や「音楽」について、受講者各自で研究テーマを決め、調べ、発表し、最終的にはレポートにまとめる、という内容になります。研究テーマは各自の興味に基づいて選んでください。例えば「障害児・健常児の音楽教育」「地域の祭り」「ミュージカルについて」等です。</p> <p>その一方で、「音楽アンサンブル」や「音楽と動き」のパフォーマンスを全員で行い、表現力のアップに繋がっていきます。</p> <p>開講日・時間については相談して決める。</p>		
0 7	鈴木 達也		
	<p>テーマ『民主主義と教育 (教育哲学概論)』を読み解く。</p> <p>「教育論多くして教育そのものが忘れられている」。アメリカ進歩主義教育の父、ジョン・デューイの言葉である。急激な変動期にある今日の教育改革の最中であって、デューイが指摘するように教育論が盛んである割に、実際の教室における教育そのものが忘れられている心配がある。変化していく現実を直視しつつ、教室からの地道な教育改革や多様な教育実践を試みていく教師に育って</p>		

<p>いく力を身に付ける基礎になる学習となることを期待している。教育的識見を高め、論述形式の試験対策にもつながる。</p> <p>特に、本演習内容では、次の3点を重視したい。</p> <p>① 学習指導と人間関係の意義を問う。</p> <p>② 学習指導の今日的課題を探り、授業の活性化につなげる。</p> <p>③ 春期における文献精読を通して、自分のテーマを決め、秋期「論文作成」に向けた自主ゼミに参加可能であること。</p>	
08	八重樫 節子
<p>近年、少子化に伴い社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもの心身の健康にも大きな影響を与えている。そのため、専門職としての確かな知識とスキルを身に付けた養護教諭が求められている。判断力、対応力、問題解決力の向上と児童生徒を心身両面から支援できる知識技術が高めることが必要である。</p> <p>本授業は養護教諭の特性と保健室の機能を生かし養護教諭のできる教育ニーズを必要としている子どもたちへの支援手立てを深める授業である。</p>	
09	ロペス ルイス ミゲル
<p>次の A か B のどちらかを選択してもらおう。授業形態はセミナーである。</p> <p>A) ネット上は、ネットワーク技術とデータベース技術を組み合わせて構成されたサービスが多く存在している。その例は、BBS、チャット、ミニブログ（例：Twitter）、動画共有（例：Youtube）、IP 電話、ゲーム等である。上記のようなサービスの仕組、または利用状況、またはその利用による社会的影響について等、興味あるテーマを選択して、調査して、調査結果を発表する。</p> <p>B) Java 等の言語プログラムを使って、通常 PC や Android に対して簡単なアプリケーションの開発プロジェクトを完了させて、デモンストレーションを含めて、発表する（ただし、選択 B は事実上、十分なプログラミングの知識が必要なので、プロジェクトは相談の上、決定したい）。</p>	

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2155 SBMP2155 SNMP2355 PSMP2455
2. 授業担当教員	田代 幹康、鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>レポート課題 「社会福祉士の倫理綱領および行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なかを考察せよ」。レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。 また、各章・節終了時に授業の内容に関する確認テストを行う。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①受講態度・参加姿勢等 40%(全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻(10 分程度迄)は 3 回で 1 回休みとなる。 ②筆記試験とレポート試験を行う。 60%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。 2.授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3.授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4.レポートの提出日を厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明、グループ分け等)	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク I のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第 2 回	グループにて割り振られた部分についての話し合い・発表準備	事前学習	発表日や打ち合わせ日についてのスケジュールを調整しておく。
		事後学習	講義、試験日、レポート提出日等について各自のスケジュール帳につける。発表レジメを教員に提出する日を確認する。
第 3 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」① (ソーシャルワーカーの仕事、法律、社会福祉士の専門性、精神保健福祉士の専門性)	事前学習	社会福祉士、精神保健福祉士とは何か、その実践内容について調べておくこと。教科書 pp.2～6 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけについてノートにまとめる。
第 4 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」② (現代社会とは、地域での生活、地域や家庭内で起きていること)	事前学習	最近の地域社会の問題について考え、その内容についてノートに書き留めておくこと。教科書 pp.7～12 を読んでくること。
		事後学習	講義の要旨をノートにまとめる。
第 5 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」③ (人々の人生とソーシャルワーカー、チームアプローチの必要性、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.11～17 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第 6 回	「相談援助の定義と構成要素」① (国際ソーシャルワーカー連盟の定義とその他の主だ	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生に

	った定義)		については教科書 pp.20～28 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 7 回	「相談援助の定義と構成要素」② (クライアントシステムとニーズ)	事前学習	IFSW の定義を復習しておく。教科書 pp.29～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 8 回	「相談援助の定義と構成要素」③ (ソーシャルワーカーの知識・性質・スキル、社会資源)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.33～41 を読んでくること。
		事後学習	相談援助の定義と構成要素についての小レポートを作成する。
第 9 回	「相談援助の形成過程」① (ソーシャルワークの源流、基礎確立期～1930 年代)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.44～59 を読んでくること。
		事後学習	COS, セツルメント、YMCA の実践についてノートにまとめる。
第 10 回	「相談援助の形成過程」② (ソーシャルワークの発展期、1940 年代～1950 年代半ば)	事前学習	ソーシャルワークの前史について復習しておくこと。教科書 pp.62～68 を読んでくること。
		事後学習	リッチモンドのケースワーク、社会診断の考え方について復習し、ノートにまとめる。
第 11 回	「相談援助の形成過程」③ (ソーシャルワークの展開期、1950 年代半ば～1960 年代以降)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.69～76 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 12 回	「相談援助の形成過程」④ (ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.77～82 を読んでくること。
		事後学習	ジェネラリストソーシャルワークとは何かについてノートにまとめる。
第 13 回	「相談援助の理念」① (ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.84～95 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカー専門職として身につける価値についてまとめる。
第 14 回	「相談援助の理念」② (ソーシャルワーク実践と権利擁護)	事前学習	教科書 pp.96～103 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 15 回	「相談援助の理念」③ (自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.106～118 を読んでくること。
		事後学習	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第 16 回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」① (専門職倫理の概念、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.120～131 を読んでくること。
		事後学習	提示される日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範に関する事例の課題を行う。
第 17 回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」② (ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ、倫理的ジレンマにおける倫理的判断過程)	事前学習	教科書 pp.132～140 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 18 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」① (総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.142～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉基礎構造改革がもたらした新たな援助状況と求められる専門的援助について

			ノートにまとめる。
第 19 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」② (地域を基盤にしたソーシャルワークの基本的視座)	事前学習	社会福祉入門や社会福祉原論で学んだ地域福祉の部分をよく復習しておくこと。教科書 pp.148～152 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 20 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」③ (地域を基盤にしたソーシャルワークの八つの機能と事例)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.153～154 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 21 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」① (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、3 方法の融合とジェネラリストソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.156～159 を読んでくること。
		事後学習	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークとジェネラリストソーシャルワークとの関係性についてノートにまとめる。
第 22 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」② (システム思考とエコシステム)	事前学習	事前にシステム理論、エコロジカル理論について調べておくこと。教科書 pp.160～163 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 23 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」③ (ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.163～167 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 24 回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」① (相談援助専門職の概念)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.170～177 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークになぜ専門性が必要なのかをノートにまとめる。
第 25 回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」② (相談援助専門職の範囲、諸外国の動向)	事前学習	自分の興味があるソーシャルワークの専門職について調べておくこと。教科書 pp.178～188 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 26 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」① (予防機能 事例検討 地域包括支援センターにおける実践)	事前学習	孤独死とは何かについて調べておくこと。教科書 pp.190～200 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 27 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」② (新しいニーズへの対応 事例検討 独立型社会福祉士の実践、スクールソーシャルワーカーによる総合支援)	事前学習	最近の新しいソーシャルワークの事例について新聞記事等の資料を探しもってくること。教科書 pp.201～221 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 28 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」③ (権利擁護機能 事例検討 知的障害者施設における権利擁護の実践)	事前学習	知的障害者の権利侵害に関する事例の資料を探しもってくること。教科書 pp.222～231 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 29 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」④ (社会資源開発機能 事例検討 社会福祉協議会による社会資源開発)	事前学習	市町村社会福祉協議会の機能と業務について調べておくこと。教科書 pp.232～237 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 30 回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)	3. 科目番号	SNMP3356 SSMP2156
2. 授業担当教員	田中 利光		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>全授業の中間地点で1回のレポートを課す。</p> <p>レポートの執筆規定は次のとおり。：A4用紙（40字×30行）2枚。 レポート本文の文字の大きさは10.5ポイントに設定すること。表紙は不要。1枚目の先頭に科目名、学籍番号、氏名、提出月日、テーマを明記し、左上端をホッチキスで止めること。参考文献・引用文献を明示すること。提出日については授業中に教員が指示する。テーマは次のとおりである。</p> <p>テーマ：「<u>エコロジカル・ソーシャルワークの特徴について</u>」</p> <p>※キーワードは、人、環境、相互作用、生活者。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座 7）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績評価の方法と配点は次のとおりである。</p> <p>レポート（前半期に1回） 50% 期末試験（後半期に1回） 50%</p> <p>※授業中の発表など、積極的に取り組んだ受講生に対しては、プラス評価の点数として加算する。 ※東京福祉大学の学則（第36条）に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はできる限り無いようにしてもらいたい。やむを得ず欠席する（した）場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートは提出期限を厳守すること。レポートは前半期の試験に代わるものとして厳密に評価するので、次の諸点に十分注意を払い作成すること。 <ol style="list-style-type: none"> ①文章表現の科目授業で学習する基本的な体裁・構成・作成方法に則っているかどうかを重視する。 ②レポート内容に関しては、自分の考察がきちんと述べられているかどうかをみる。その際、文章表現力があり内容に深みのあるものは高評価につながる。引用文の切り貼り・あるいは引用文が多くを占めるレポートは低い評価につながる。他人のレポートの写し（コピー）は両人とも評価しない。 3. 私語やスマホ（携帯電話）の操作等、授業を妨害する行為を禁止する。 4. 正当な理由のない授業中の一時退室を禁止する。 		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、ソーシャルワークの概念：国際ソーシャルワーカー連盟のソーシャルワークの定義から	事前学習	授業にシラバスを持参すること
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第2回	ソーシャルワークの理念：人権尊重、社会正義、利用者本位、自立支援、エンパワメント等	事前学習	教科書 pp.5-19 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第3回	相談援助実践における価値と倫理（1） （バイステックの原則等）	事前学習	教科書 pp.185-186 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第4回	相談援助実践における価値と倫理（2） （ソーシャルワーカーの倫理綱領等）	事前学習	教科書 pp.5-19 再復習（重要）
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第5回	エコロジカル・システム・モデル以前に登場した実践モデルとアプローチ（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ等）	事前学習	ふたつのアプローチの事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる

第 6 回	社会福祉援助技術理論の最近の動向 (1) (エコロジカル・ソーシャルワークと生活モデル等)	事前学習	教科書 pp.54-67 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 7 回	社会福祉援助技術理論の最近の動向 (2) (ストレングスマodelとエンパワーメントアプローチ等)	事前学習	第 6 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 8 回	直接援助技術の展開過程：総論	事前学習	教科書 pp.96-148 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 9 回	人と環境の交互作用 (1) システムとは (社会システムの概念)	事前学習	教科書 pp.56-67 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 10 回	人と環境の交互作用 (2) エコロジカル・モデルとは (概論)	事前学習	第 9 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 11 回	人と環境の交互作用 (3) エコロジカル・モデル (事例学習)	事前学習	第 10 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 12 回	人と環境の交互作用 (4) エコロジカル・モデル (事例学習)	事前学習	第 11 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 13 回	個別援助の展開過程：各論 (1) (ケース発見、受理面接、問題把握、ニーズ確定)	事前学習	教科書 pp.102-115 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 14 回	個別援助の展開過程：各論 (2) (アセスメント)	事前学習	教科書 pp.122-126 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 15 回	個別援助の展開過程：各論 (3) (プランニング、介入)	事前学習	教科書 pp.127-136 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 16 回	個別援助の展開過程：各論 (4) (モニタリング、再アセスメント、終結)	事前学習	教科書 pp.138-153 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 17 回	マッピング技法 (1) (ジェノグラム、ファミリーマップ、エコマップ等の概要)	事前学習	教科書 pp.189-200 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 18 回	マッピング技法 (2) (マッピング作業を含む)	事前学習	第 17 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 19 回	面接の諸場面 (1) 面接室での面接、家庭訪問による面接、生活場面面接等 (概論)	事前学習	教科書 pp.182-188 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 20 回	面接の諸場面 (2) 効果的な面接 (視聴覚級材等使用)	事前学習	第 19 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 21 回	コミュニケーション技法 (1) マイクロカウンセリング技法 (概論)	事前学習	教科書 pp.250-268 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 22 回	コミュニケーション技法 (2) マイクロカウンセリング技法 (視聴覚教材等使用)	事前学習	第 21 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 23 回	援助実践の効果測定と評価：集団比較実験計画法、単一事例実験計画法、プロセス評価、アウトカム評価	事前学習	教科書 pp.146-148 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 24 回	記録の意義と方法 (1) 記録の意義・目的、記録の種類	事前学習	教科書 pp.270-293 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 25 回	記録の意義と方法 (2) 記録の方法 (記録作業を含む)、記録と倫理的配慮等	事前学習	第 24 回講義を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 26 回	事例分析・発表の方法と留意点(1) 事例分析の着目点、発表・報告の方法や留意点等	事前学習	教科書 pp.313-315 事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 27 回	事例分析・発表の方法と留意点(2) 事例分析の着目点、発表・報告の方法や留意点等	事前学習	第 26 回授業を復習しておく
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 28 回	事例学習 (1) 家族システムに関する事例を基にした総合学習	事前学習	配布事例資料より事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 29 回	事例学習 (2) 困難事例を基にした総合学習 (ディスカッション等を含む)	事前学習	配布事例資料より事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
第 30 回	ソーシャルワーク専門職の今後の展望 (認定社会福祉士制度等)	事前学習	認定社会福祉士制度の事前学習
		事後学習	授業内容をノートにまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3157 SNMP3357 SCMP3357 SBMP3157
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題1: グループを用いた援助実践に関して、その展開過程とそこでのソーシャルワーカーの果たすべき役割について説明せよ。</p> <p>レポート課題2: 心理社会的アプローチについて事例をもとにその支援展開を解説せよ。</p> <p>※その他「事後学習」に示されている各課題を実施。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第 3 版、中央法規、2015 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題: 全体の 30% 事後学習課題: 全体の 20% 試験: 全体の 50%</p> <p>出席状況: 成績に影響を与えない欠席回数は 2 回までとします。その後欠席 1 回ごとに評価が一段階ずつ下がります。最低出席回数の基準は東京福祉大学学則第 36 条に則り、最低出席回数を満たしていない学生の評価は行いません。</p> <p>(授業開始後 15 分の遅刻は欠席とみなします。遅刻 2 回で 1 回の欠席とします。授業中の居眠りや私語、他の授業の準備等、携帯電話の操作等の行為を発見した場合、その授業を欠席扱いとします。)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ソーシャルワークⅢでは主にソーシャルワーク実践に不可欠な実践モデルについての学びを深めます。また、ソーシャルワーク論の総括を行います。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日 13:00~16:00 (仮) ※他の曜日・時間帯でも、教員が研究室に在室している時は可</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション: ソーシャルワークⅢを学習するにあたっての 説明と確認 ソーシャルワークⅠ・Ⅱの振り返り	事前学習	テキストの「はじめに」を熟読し、その内容を要約しまとめる。
		事後学習	IFSW によるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第 2 回	ソーシャルワークの概念: IFSW のソーシャルワークの定義から	事前学習	「社会福祉とは」の問いに対する自身の考えをこれまでの講義等を参考にまとめる。
		事後学習	IFSW によるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第 3 回	ソーシャルワークの理念: 人権と社会正義、自立支援とエンパワメント等について理解を深める	事前学習	テキスト pp.2~25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 5 回の講義時に提出する。
第 4 回	ソーシャルワークの対象者を理解する: パーソナリティとシステム理解 個人、家族、グループ、地域をどうとらえるかについて理解する	事前学習	テキスト pp.2~25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 5 回の講義時に提出する。
第 5 回	ケースマネジメントとは?: ケースマネジメントについてその基本と過程	事前学習	テキスト pp.27~58 (第 2 章ケースマネジメント) を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノート

	を学ぶ		にまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 6 回	ケースマネジメントに必要な技術とは？： アセスメントに関する講義と演習 ケースマネジメントとソーシャルワークの関係を理解する	事前学習	テキスト pp.27～58（第 2 章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 7 回	グループ（集団）とソーシャルワーク： ソーシャルワークにおけるグループワークの意義について理解を深める	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp.59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 8 回	グループワークを用いた援助実践：人間にとってグループ（集団）が意味するものとは？グループ（集団）の特性とそれを活用するために必要な専門技術を学ぶ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp.59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 9 回	グループワークを用いた援助実践： （7 回・8 回をもとに）グループワーク演習	事前学習	7・8 回で学んだグループを用いた支援に関する理論について内容をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 10 回	グループワークに関するまとめ：演習のフィードバック	事前学習	テキスト pp.59～80 を熟読し、グループに関する理論をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 11 回	実践モデルとその意味： ソーシャルワーク実践理論が必要である意味を学ぶ	事前学習	テキスト pp.128～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 12 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークと実践モデルの関係： 事例を通じて実践モデルに関する理解を深める 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルについての学習	事前学習	テキスト pp.137～148 を熟読し、「3 つの実践モデル」についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 13 回	心理社会的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 14 回	事例考察による心理社会的アプローチの理解：グループ検討を通じて心理社会的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 15 回	行動変容アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 16 回	事例考察による行動変容アプローチの理解：グループ検討を通じて行動変容アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 17 回	課題中心アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 18 回	事例考察による課題中心アプローチの理解：グループ検討を通じて課題中心アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 19 回	機能的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 20 回	事例考察による機能的アプローチの理解：グループ検討を通じて機能的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 21 回	危機介入アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 23 回

			の講義時に提出する。
第 2 2 回	事例考察による危機介入アプローチの理解:グループ検討を通じて危機介入アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.162~164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 23 回の講義時に提出する。
第 2 3 回	エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.174~181 を熟読し、エンパワメントアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	第 24 回の講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 24 回の講義時に提出する。
第 2 4 回	事例考察によるエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの理解:グループ検討を通じてエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.174~181 を熟読し、ナラティブアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 25 回の講義時に提出する。
第 2 5 回	認知アプローチの基盤を理解する その他アプローチについてその内容を確認する	事前学習	テキスト pp.182~185 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 27 回の講義時に提出する。
第 2 6 回	実践モデルについてのまとめ	事前学習	テキスト pp.192~197 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 27 回の講義時に提出する。
第 2 7 回	スーパービジョンの意義と目的:スーパービジョンを理解するうえで必要な知識を学習する スーパービジョンの実際:模擬的なスーパービジョンを体験する(ロールプレイの実施)	事前学習	テキスト pp.199~213 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	ロールプレイを通じて学んだ事柄をレポートにまとめる。
第 2 8 回	コーディネーションとネットワーキングの目的と意義について理解する:事例を通じて目的、意義、必要とされる技術について理解を深める	事前学習	テキスト pp.81~104 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	スーパービジョン、コーディネーションとネットワーキングに関する「確認テスト」を記入し、第 29 回の講義時に提出する。
第 2 9 回	これからのソーシャルワークの課題と展望	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
第 3 0 回	まとめ:これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
期末試験			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実践アプローチに関する理解を問う。 ・ 講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 <p>※その他、試験の詳細は講義内で提示する。</p>			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	上野 義光、金子 勇、北爪 克洋、小金澤 嘉、児島 佳史、 関口 恵美、田中 利光、田中 良幸、星野 弘美			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚) 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。 まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30% 個人レポート (課題 1) 30% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成		事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る		事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用

			ノートの確認)。
第 3 回	社会福祉の働き “ニーズ”とは何か？ 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い（もしくは同じ点）を知る 課題 1：マズローのニーズ体系に関するレポート（A4/2 枚）	事前学習	テキスト第 2 章（pp.28～51）のうち、「福祉ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 4 回	地域（コミュニティ）について知る コミュニティとは何か？ コミュニティを知るための手段とは？ グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集	事前学習	テキスト第 3 章（pp.54～65）を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる 課題 2：グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する（これを用いてグループレポートを作成）。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成 課題 3：グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。	事前学習	テキスト第 4 章（pp.68～76）を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報（制度や関連データ）を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	聞き取り調査の計画（1） 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成	事前学習	テキスト第 4 章（pp.76～86）を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する（学習用ノートの確認）。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	聞き取り調査の計画（2） 聞き取り調査の依頼（協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について） 聞き取り調査のロールプレイ（実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる）	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	聞き取り調査の実施 課題 4：コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ（回答）を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表（1）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表（2）	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う（資料の精査及び発表手順の確認）。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる（まとめレポート）。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	北爪 克洋、児島 佳史、関口 恵美、田中 利光、 田中 良幸、中里 哲也、星野 弘美		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <p>「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」</p> <p>より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関する基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: 自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例: 仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2: グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3: リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。</p> <p>まとめレポート: グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。</p> <p>詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川眞旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。</p> <p>【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。</p> <p>野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 9. 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにか体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71~98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集（高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど）。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術（メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術）の習得。 グループのルール（規範）について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53~56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56~59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動（ゲーム、遊戯、図工など）を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62~68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動（ゲーム、遊戯、図工など）を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術（例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ）。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68~72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備（終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い）。	事前学習	テキスト pp.59~61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73~81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する（まとめレポート）。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82~88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160 SNMP3460 SCMP3460 SBMP3460 PSMP3460
2. 授業担当教員	金子 勇、北爪 克洋、小金澤 嘉、関口 恵美、田中 良幸、星野 弘美、洪 金子			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライアントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライアントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: 個人 (人) を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい (第9・10回の学習をまとめる) 課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行う まとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 11. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 12. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 13. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章 (pp.10~33) を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する (1) 精神分析理論について学習する: 精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する: 行動理論と学習理論の主要概念について理解を深める 学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1 (pp.35~38) を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成 (授業内で示された提出期限厳守)	
第3回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する: 心理社会理論の主要概念について理解を深める	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第4章 (pp.64~88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。	
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その	

	人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する		内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、 面接の形態（構造化面接と生活場面面接）、面接 実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100～111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できる よう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレ イを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離 について考え、どのような距離感をもっているかをノ ートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を 通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイステイックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について 再確認する	事前学習	バイステイックの 7 つの原則について、その内容を調 べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイ ステイックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーション について理解する 基本的コミュニケーション技法について、その 原則について理解を深め、ロールプレイを用い て習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特 質（癖や傾向）について気づいたことをノートにまと める。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレ イを通じて自覚した自身の課題についてレポートにま とめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと 非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理 解し、その活用方法についてロールプレイを用い て実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーシ ョンについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーシ ョンについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の 課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理 解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化について ロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自 己評価（できた点と課題点）をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理 解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、 技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、 状況に即した質問についてロールプレイを用い て技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112～116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開か れた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価（でき た点と課題点）をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーシ ョンと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身 の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニ ングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、そ れに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の 課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニ ングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、そ れに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身 の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで 学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題と なったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践 を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートに まとめ提出する（まとめレポート）。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3161 SNMP4461 SCMP4461 PSMP3461
2. 授業担当教員	荻野 基行、金子 勇、関口 恵美、田代 幹康			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2：課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3：システム(家族療法)理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート：ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>14. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>15. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>16. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>17. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します) 認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.76~83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。	
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。	
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83~86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。	
第3回	認知理論・アプローチ③	事前学習	テキスト pp.86~87 を熟読し、不明な点は箇条書	

	(事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事後学習	きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC 理論についてノートにまとめる。
第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅴ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4162 SNMP4462 SCMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	荻野 基行、金子 勇、関口 恵美、田代 幹康		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8) 終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1: 授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2: 授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3: 自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1: 前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題 2: 後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート: 事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】 平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題 1～2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>18. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>19. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>20. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p> <p>21. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション(授業の進め方等)</p> <p>障害者の就労支援に関する相談援助 ①</p> <p>※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要があることを学習する。</p> <p>※ 教科書の第 5 章、事例問題 25 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。</p>	事前学習	テキスト pp.268～271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 2 回	<p>障害者の就労支援に関する相談援助 ②</p> <p>※ 前回宿題の発表とディスカッション</p>	事前学習	第 1 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。

		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 3 回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 4 回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	虐待虐待への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習Ⅴでの学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (C/N/J) (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3480 SCMP3480 SSMP2180
2. 授業担当教員	荻野 基行、鈴木 雄司、田中 良幸			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) の法的な位置づけとその内容について明確に説明できる。 3) 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性について口頭、もしくは文書で説明ができる。 4) 相談援助実習 (ソーシャルワーク実習) 施設・機関における相談援助業務について説明できる。 5) 実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 6) スーパービジョンの意味と機能について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容についてまとめなさい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未修得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 23. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 24. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制について理解する (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	実習における実習生の役割についてノートにまとめ提出する。

第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）の理解（テキスト pp.19～34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用）： 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める	事前学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.19～34 を参照のうえ、実習の中で行うべき事項についてノートにまとめる。
第 5 回	・ソーシャルワーカーとしての社会福祉士について理解（テキスト pp.36～54）： 社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係、社会福祉士の役割を理解する。	事前学習	テキスト pp.36～54 を熟読し、特に社会福祉士とソーシャルワーカーとの関係性についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト pp.36～54 を参照のうえ、実習の中で価値・倫理、知識、技術をいかに形成すべきかノートにまとめる。
第 6 回	・「相談援助実習」（ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習）が可能な施設・機関の紹介と説明（テキスト pp.55～59 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用）：法定施設・機関の紹介と希望種別の選択	事前学習	テキスト pp.55～59 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
		事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。
第 7 回	・実習の場と相談援助の内容（テキスト pp.60～68）： フィールド・ソーシャルワークとレジデンシャル・ソーシャルワークについて理解し、そのソーシャルワーク機能についての理解を深める。 ・実習形態に関する理解（テキスト pp.65～68）： 各種実習形態のメリットとデメリットを理解する。	事前学習	テキスト pp.60～68 を熟読し、フィールド・ソーシャルワーク、レジデンシャル・ソーシャルワークのメリット、デメリットを箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	実習先施設・機関におけるリスクマネジメントについて学びをノートにまとめる。
第 8 回	・契約関係のなかにある実習（テキスト pp.70～88）： 実習契約関係と実習におけるリスクマネジメントについて学ぶ	事前学習	テキスト pp.70～88 を熟読し、実習における 4 者関係についてノートにまとめる。
		事後学習	実習における 4 者関係において実習生の果たすべき役割についてノートにまとめる。
第 9 回	・スーパービジョンの理解（テキスト pp.90～102）： 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める	事前学習	テキスト pp.90～102 を熟読し、スーパービジョンの機能についてノートにまとめる。
		事後学習	スーパーバイザーのあるべき姿勢についてノートにまとめる。
第 10 回	・事前学習として実習先を理解する意義について（テキスト p.103）： 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる（課題 1） ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 11 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 13 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	・実習施設・機関の基本的理解： 個人レポート（課題 1）の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 9 回	・スーパービジョンの理解（テキスト pp.90～102）： 「スーパービジョン」の意味と機能について理解を深める	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンส์問題パート I
第 10 回	・事前学習として実習先を理解する意義について（テキスト p.103）： 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる（課題 1） ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	
		事後学習	実習コンピテンส์問題パート I テスト
		配布物	実習コンピテンส์問題パート I 及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180 PSMP2480
2. 授業担当教員	金子 勇、小金澤 嘉、佐々木 貴雄、鈴木 雄司、 田中 利光、田中 良幸、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未収得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 26. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 27. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の理解 (テキスト pp.19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) : 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める		事前学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
			事後学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の目標についてノートにまとめる。
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) が可能な施設・機関の紹介と説明 (テキスト pp.55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) : 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択		事前学習	テキスト pp.62~69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
			事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。

	・実習形態に関する理解 (テキスト pp.65~68)		
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義 (テキスト p103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる (課題 1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成 (講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書 (実習先提出用) 実習記録必要書式のコピー (施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 (テキスト p.123~139) ・個人調書等書類の作成 (社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.142~146 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案)」とする) の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性と重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習 (事前訪問) の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導 II に向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導 II に向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	
		事後学習	セルフアセスメントシートの作成 (1 回目)
		配布物	セルフアセスメントシート
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性と重要性において理解を深める	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンズ確認テスト I 問題

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P/B) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3181 PSMP3481
2. 授業担当教員	金子 勇、北爪 克洋、佐々木 貴雄、田中 利光	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習プログラム (案) の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習プログラム (案) の作成 課題 2: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』(第 2 版)、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 28. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 29. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 30. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 31. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明： シラバスを用いて今後の講義の進め方、また実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) との関連について理解を深める ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎 (またソーシャルワーク実習) 実施上の課題についてノートにまとめる。
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録及び下書き用紙、健康診断・細菌検査について
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト) 	事前学習	テキスト pp.160～181 を読み、実習活動につ

	pp.160～181) : 第 1 節～第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認	事後学習	いて理解を深める。 実習プログラム (案) を作成し、教員の添削を受ける。
第 3 回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.182～202) : 第 4 節～第 6 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: 実習計画書の記入と添削	事前学習	テキスト pp.182～202 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム (案) を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。
		配布物	実習開始に関する諸注意、細菌検査容器、福祉実習に伴う欠席届について、巡回教員への挨拶用紙
第 4 回	・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.203～223) : 第 7 節～第 9 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成: 施設概要作成に関する説明 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成 (課題 1) : スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <u>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習プログラム (案) を実習指導者へ提出、協議を行う。</u>	事前学習	テキスト pp.203～223 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム (案) を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。 確認を受けた実習プログラム (案) を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 5 回	・実習記録の理解: 実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明と書き方演習 (テキスト pp.226～238) ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: スーパーバイザーとの協議の結果、実習プログラム (案) をまとめる	事前学習	テキスト pp.226～238 を読み、記録の意義、内容について理解を深める。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習プログラム (案) をまとめる。
第 6 回	・実習スーパービジョン・巡回指導の理解 (テキスト pp.239～252) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する <u>※ここまで巡回担当教員との面接を終えていること。</u> ・ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成: 作成された施設概要の確認	事前学習	テキスト pp.239～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習巡回指導教員への挨拶用紙を作成し、実習巡回教員への挨拶と打合せを行う。
第 7 回	・ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認: 事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
		配布物	細菌検査結果 (該当者のみ)、ソーシャルワーク基礎実習終了後の諸注意、実習記録提出証明書、実習誓約書
第 8 回	・ソーシャルワーク基礎実習の振り返り: ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ・ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成 (課題 2) ※確認事項: 実習記録の提出、お礼状の送付	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で提示される提出期限厳守)。
第 9 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	・ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解: ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきことがらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	・ソーシャルワーク基礎実習の評価:	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引

	返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事後学習	き」 pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所を目を通す。
		配布物	ソーシャルワーク実習記録（実習評価）返却、ソーシャルワーク実習記録、ソーシャルワーク実習プログラム（案）下書き用紙
第 13 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		事後学習	事例をもとに「ソーシャルワークケース記録」の記入を行い提出する。
第 14 回	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。
		配布物	ソーシャルワーク実習開始にあたっての諸注意
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 2 回	・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.160～181）：第 1 節～第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンส์問題パートⅠ及び解答用紙
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンส์問題パートⅡ
第 12 回	・ソーシャルワーク基礎実習の評価： 返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	実習コンピテンส์問題パートⅡ テスト
		配布物	
第 13 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	
		配布物	セルフアセスメントシート
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	セルフアセスメントシート作成
		事後学習	
		配布物	

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (C/N) (2 単位)		3. 科目番号	SNMP4482 SCMP4482
2. 授業担当教員	荻野 基行、金子 勇			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲでは、社会福祉実践に必要な知識と技術習得のための実習計画の作成、記録の技法等、実習実施のための学習とともに、実習後指導を通じて実践評価を行い、実践上の課題を明確にする。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職実習、つまりソーシャルワーク実習 (相談援助実習) で求められ、確認すべき専門技術について明確に説明することができる。 2) 実習計画の必要性を理解し、具体的な実習計画を立案できる。 3) 記録の意義と技術について理解し、適切な記録を作成できる。 4) 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等について、その意味を適切に説明できる。 5) 実習実施後の総括を踏まえ、実践に向けた自己の課題を明確に文書化できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習配属施設・機関の施設概要について規定の書式にまとめなさい。</p> <p>課題 2: ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成</p> <p>課題 3: 実習報告書の作成</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 20%</p> <p>課題 2 20%</p> <p>課題 3 30%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 30%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 41. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 42. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 43. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 44. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 32. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 33. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 34. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・実習先配属発表 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成した課題 1 を読み返し、修正箇所等を改善し講義に持参する。	
		事後学習	ソーシャルワーク実習の実施に至るまでに取り組むべき自己課題についてノートにまとめる。	
		配布物	実習配属通知、(集中型) ソーシャルワーク実習記録及び必要な書式のコピー、個人調書	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.56~68 及び 141~158) 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク実習にて学ぶべき内容につ 	事前学習	テキスト pp.167~175 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。	
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。	

	いて理解する ・実習生 個人調書の記入		
第 3 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 (課題 1) : 施設概要作成に関する説明	事前学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		事後学習	施設概要について必要な資料をそろえ、作成する。
第 4 回	・ソーシャルワーク実習 施設概要の作成 (課題 1) : 施設概要作成 ・実習計画 (本学では「実習プログラム (案) とする」) の作成 (テキスト pp.182~186) : 実習プログラム (案) の意義と作成についての理解を深める	事前学習	テキスト pp.182~186 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。必要に応じ、施設概要について添削を受ける。
第 5 回	・ソーシャルワーク実習 実習プログラム (案) の作成 (課題 2) : 実習プログラム (案) の記入と添削・確認 ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	実習プログラム (案) の作成に必要な情報を収集する。
		事後学習	実習プログラム (案) に不足な点を補足し、教員から添削を受ける。
		配布物	事前訪問について
第 6 回	・実習記録の理解 (テキスト pp.226~238) : ・実習記録の理解 : 実習記録の書き方演習 実習記録の意義、書き方、取り扱い等に関する説明 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	テキスト pp.226~238 を熟読し、記録の意義と記入の際の留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	第 6 回で配布された実習日誌 (コピー・練習用) に記録を記入し、添削を受ける。
第 7 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解	事前学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		事後学習	事例をもとに「ソーシャルケースワーク記録」の記入を行い提出する。
		配布物	実習巡回指導教員への挨拶用紙、細菌検査・健康診断について
第 8 回	・巡回指導の理解 (テキスト pp.239~260) : 巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する	事前学習	テキスト pp.239~260 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	巡回教員への自己紹介書を記入する。
第 9 回	・実習スーパービジョン、訪問指導・帰校指導についての理解 実習指導教員 (非常勤) からの指導及び打ち合わせ	事前学習	実習プログラム (案) 内容を再確認し、口頭で説明できるように準備する。
		事後学習	実習巡回教員との打ち合わせを踏まえて、事前訪問予定を立てる。
第 10 回	・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp.74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性和重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	実習に向けた準備を行う。
		配布物	実習の開始、終了に関する諸注意、実習誓約書
第 11 回	・ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認 : 事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について ・実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.38~42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習に向けた準備を行う。
第 12 回	・ソーシャルワーク実習の振り返り : ソーシャルワーク実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。
第 13 回	・ソーシャルワーク実習の学習効果と課題の整理 : ソーシャルワーク実習の実施を踏まえて実習報告書を作成 (課題 3)	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。
第 14 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ①	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 15 回	実習の評価・総括 (実習成果発表会) ②	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (J) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3182
2. 授業担当教員	鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。		
8. 学習目標	ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う各種手続きについて明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉専門職が行う相談援助業務について明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、専門職間の連携について明確に説明できる。 5) 実習先での実践を振り返り、社会資源、関係機関との連携について明確に説明できる。 6) 倫理綱領の重要性について、実践(実習)をもとに理解を深め、実践に基づく説明ができる。 7) 自己の価値観念についてめとめ、それが援助にどのように反映するか考えをまとめられる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	課題 1～7: 講義日程に示す通り 課題 8: 実習報告書の作成		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。		
11. 成績評価の方法	課題 1～7 40% 課題 8 30% 講義参加度(事前事後学習、提出物等状況を含む) 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 45. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 46. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 47. 授業中は欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 48. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 49. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 35. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 36. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 37. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱでの事前事後学習ノートを振り返る。
		事後学習	実習で用いた資料等を整理し、今後の学習へ活かす。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例(事業)についての報告と意見交換 ・社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる(課題 1) 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討： 担当した事例(事業)についての報告と意見交換 ・社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関における相談援助業務についてまとめる(課題 2) 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 2 の作成。

第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 社会福祉専門職についての理解： 実習施設・機関で行われている行事等の実施過程についてまとめる（課題 3） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 3 の作成。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 職種間連携についての理解： 実習施設・機関における各部門職種とその機能・関係についてまとめる（課題 4） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 4 の作成。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 機関の社会的連携についての理解： 実習施設・機関と社会資源・関係機関との連携についてまとめる（課題 5） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 5 の作成。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 専門職の倫理綱領と実践についての理解： 実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 6） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 6 の作成。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> 実践事例の報告と検討： 担当した事例（事業）についての報告と意見交換 ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める： 自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題 7） 	事前学習	実習記録を整理し、課題に該当する項目を抽出する。
		事後学習	課題 7 の作成。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習の全体総括（テキスト pp.324～328）： 実習報告会の意義と方法について理解し、報告を行う ソーシャルワーク実習の学習効果と課題の整理： ソーシャルワーク実習の実施を踏まえて実習報告書を作成 	事前学習	テキスト pp.324～328 を熟読し、実習報告会の意義について理解を深める。
		事後学習	実習報告書の作成
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）③	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 13 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）④	事前学習	実習の評価・総括に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）： 実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う 	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	実習自己評価を行う担当教員へ提出する。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習後の学習課題（テキスト pp.310～321）： 目標と結果の照合、今後の課題について明確化する 	事前学習	実習及び報告によって明確化した今後の課題を事後学習の報告とともにまとめる。
		事後学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。

1. 科目名 (単位数)	組織心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3352
2. 授業担当教員	大澤 靖彦		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。		
7. 講義概要	<p>組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定の功罪について学ぶ。</p> <p>こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動と組織の中の人間関係について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて考究することができる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の部下のやる気を起こすために何が必要か。 *組織活動においてモチベーションは重要である。後で学ぶ職場の人間関係やリーダーシップが、従業員のモチベーションを引き出すためになぜ大切なのかを理解するためにも、そのベースとなるモチベーションについて理解する。 2. 職場で成果をあげるためにはどのような人間関係が重要か。 *組織活動において、仲良し集団ではなく成果をあげるための人間関係が重要であることを理解する。 3. 指定した教材を基に、組織活動で重要なことを1点上げ、自分の体験談も含めて考察しなさい。 *心理学に加えマネジメントの視点も取り入れ、組織活動についての理解を深める。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山口弘幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2010年。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2013年。 P.F.ドラッカー『非営利組織の成果重視マネジメント』ダイヤモンド社、2000年。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲および態度 30%、レポートの提出・評価 30%、期末試験 40% ・本学規定により、3/4以上の出席を求めます。 ・遅延の場合は証明書を提出すること。 ・実習や就活等で欠席する場合は、事前に報告すること。 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトやボランティア、サークル活動など自分が所属している集団に照らし合わせながら勉強してほしい。 ・企業の合同説明会等へ参加し、一般企業について理解を深めてください（教員・公務員・福祉職を目指す人も一度は説明会に参加してください）。 ・大学・アルバイトなど自分が所属している集団をイメージしながら授業に臨んでほしい。 ・積極的態度で参加していただきたい。 ・不明な点は、授業時間のうちに質問していただきたい。 ・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	一産業・組織心理学の意義とテーマ1ー産業領域で心理学がどのように役立ってきたのかについて理解する。	事前学習	組織心理学のノートを準備し授業に臨む。
		事後学習	教科書 pp2~13 を読み、組織についてこれまでどのような研究がされてきたのかについて理解する。
第2回	一産業・組織心理学の意義とテーマ2ー本授業で学んでいく産業領域についてのテーマの概要を把握する。	事前学習	教科書 pp.14~23 を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。
		事後学習	学習した内容と教科書の目次を照らし合わせ、これから勉強していく概要を把握する。
第3回	一ワーク・モチベーションー動機づけの基本的な理論と組織活動において従業員のやる気を引き出すための理論について理解する。	事前学習	教科書 pp.24~41 を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、仕事へのやる気とはどのように醸成されるのかについて考え、レポートに着手する。
第4回	一人事評価ー人的資源としての従業員のやる気と組織活動の成果を上げるためにどのような人事評価が行われているのかについて理解する。	事前学習	教科書 pp.60~75 を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、企業の中で評価がどのように行われているのかについて理解し、どのような評価がやる気を起こすのかについてノートにまとめる。
第5回	一職場集団ー職場という集団は人が発達するように変化し、そ	事前学習	教科書 pp.98~109 を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。

	こで働く従業員もまた変化することを理解する。	事後学習	教科書を読み、職場のコミュニケーションについての理解を深め、自分が所属する組織の特徴と照らし合わせてノートにまとめる。
第 6 回	ー職場の人間関係ー 職場において成果を上げる人間関係やその中で起こる葛藤について理解する。	事前学習	教科書 pp.112~119 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、職場における意思決定の功罪について考究し、レポートに着手する。
第 7 回	ーリーダーシップ 1ー リーダーシップに関する基本的な理論について理解する。	事前学習	教科書 pp.120~127 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、自分はどのような上司を望み、どのようなリーダーになりたいかについて考えノートにまとめる。
第 8 回	ーリーダーシップ 2ー リーダーシップは固定的なものではなく、組織がおかれている状況によってリーダーシップのスタイルが変化することを理解する。	事前学習	教科書 pp.128~137 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、さまざまなリーダーシップのスタイルがあることを理解し、自分はどのようなリーダーシップのもとで働きたいか、自分はどのようなリーダーシップをとっているのかについてノートにまとめる。
第 9 回	ー組織の目的・使命ー マネジメントの視点から、組織の目的・使命の重要性について理解する。	事前学習	自分が所属しているバイト先や学校などの理念について調べ印刷してくる。
		事後学習	組織にはなぜ使命が必要なのかについて考究し、レポート課題に着手する。
第 10 回	ー仕事の能率と安全ー リスク管理の視点から、事故の予防等についてどのような組織活動が行われているのか理解する。	事前学習	教科書 pp.156~167 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、組織活動における安全管理も従業員の健康には重要であることを考究し、現在自分が所属している組織での不安全状況についてノートに書き出す。
第 11 回	ー職場のストレスとメンタルヘルスー (1) ストレスに関する基本的な理論について理解し、企業におけるストレスに関する問題とその対処について理解する。	事前学習	教科書 pp.172~181 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	教科書を読み、ストレスとメンタルヘルスについて考究する。
第 12 回	ー職場のストレスとメンタルヘルスー (2) ストレスに関する基本的な理論について理解し、企業におけるストレスに関する問題とその対処について理解する。	事前学習	教科書 pp.182~187 を熟読し、重要箇所をアンダーラインを引く。
		事後学習	ストレスとメンタルヘルスについて考究し、心理学を学ぶ人間として、メンタルヘルスにどのように取り組めるのかについてノートにまとめる。
第 13 回	ーキャリア発達 1ー 組織のためだけでなく、個人の豊かな人生を設計するために、キャリア発達について理解する。	事前学習	教科書 pp.76~85 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 リクナビ等で、やってみたいインターンシップについて調べ、印刷してくる。
		事後学習	教科書を読み、キャリア発達の概要について理解し、今後の就職活動に、何が必要なのかを書き出す。
第 14 回	ーキャリア発達 2ー キャリア発達のための組織からの支援、メンターの影響について理解する。	事前学習	教科書 pp.86~93 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	社会人になって自分のキャリアをどのように開発していくかについて考究し、ノートにまとめる。
第 15 回	キャリア・カウンセリングと自己理解	事前学習	自分の強み・弱みとは何か、それを自己アピールとしてどのように伝えるかを考えメモ書きしてくる。
		事後学習	授業全体を通して、自分はどのような組織に所属したいかについてあらためて考え、今後の就職活動の計画を立てる。
期末試験 (授業で提示した問題について出題する)			

1. 科目名 (単位数)	体育 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2280 SJMP2380								
2. 授業担当教員	上村 孝司										
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。	5. 開講学期	春期・秋期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要となる最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>										
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする 4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1.各運動の指導のポイントと工夫について解説をする(口頭発表やディスカッション)</p> <p>課題2.各運動領域の基礎的な運動を実践する(実技)</p> <p>課題3.各運動領域での発表や課題レポートの作成および提出</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する</p> <p>【参考書】『小学校学習指導要領解説(体育編)』</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題, 提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への参加態度	45%	実技	25%	課題, 提出物	30%	計	100%
授業への参加態度	45%										
実技	25%										
課題, 提出物	30%										
計	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員をめざす学生としての心構えで受講してください。 2. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型, 靴, 爪なども含む)で参加してください。 3. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 4. わからないこと, 疑問に思うことは, 質問・意見をして解決していきましょう。 5. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。 										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 小学校学習指導要領の体育領域について 幼稚園教育要領の確認 グループ作成	事前学習	小学校学習指導要領について予習する。								
		事後学習	体育領域の復習をする。								
第2回	体づくり運動 体ほぐし運動 多様な動きをつくる運動遊び 集団行動・体操(ラジオ体操)	事前学習	体の動かし方について予習する。 集団行動の動きについて予習する。 ラジオ体操の動作を実践できるようにする。								
		事後学習	様々な動きを復習する。 集団行動と体操の仕方を復習する。								
第3回	体力テスト 1	事前学習	各種測定項目の実施方法を把握する。 体力テストの実施方法を理解する。								
		事後学習	測定数値の記録および分析を行う。								
第4回	陸上運動系 走・跳の運動/体力テスト 2	事前学習	走り方・跳び方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	速く走る方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第5回	陸上運動系 投の運動/体力テスト 3	事前学習	投げ方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	投げる方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第6回	陸上運動系/体力テストのまとめと発表 陸上競技の能力向上についてグループで発表	事前学習	走る, 跳ぶ, 投げる方法について振り返る。 記録向上のための方法を検討する。								

	する 体力テストの結果と考察をグループで発表する		グループ発表の準備を行う。
		事後学習	陸上競技についてのレポートを作成する。
第 7 回	器械運動系 マット運動 跳び箱運動 鉄棒	事前学習	器械運動の種類について予習する。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。 グループ発表の準備を行う。
第 8 回	器械運動系 器械運動の問題点抽出と解決 器械運動の技能向上についてグループで発表する	事前学習	器械運動の上達方法について考察したものを実践できるようにする。 グループ発表の準備を行う。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。
第 9 回	ボール運動系 様々なボール遊び	事前学習	ボール遊びの種類について予習する。 幼稚園、小学校でどのようなボール遊びが行われているかを調べる。
		事後学習	様々なボール遊びの方法を復習する。
第 10 回	ボール運動系 ゴール型ゲーム「バスケットボール」	事前学習	バスケットボールのルールを予習する。
		事後学習	バスケットボールの指導について復習する。
第 11 回	ボール運動系 まとめ 発表 ボールゲームの運営の実践および発表	事前学習	ボールゲームの運営を予習する。
		事後学習	ボールゲームの指導について復習する。
第 12 回	表現運動系 創作表現の考案およびリズム体操の発表	事前学習	身体を使った表現の方法についてどのようなものがあるか調べる。
		事後学習	表現の指導について復習する。
第 13 回	指導案作成とその実践 1 指導計画の考案と指導案作成	事前学習	指導案のあり方や作成方法について学習する。
		事後学習	指導案の作成について復習する。
第 14 回	指導案作成とその実践 2 グループでの模擬授業とその評価	事前学習	指導計画および指導内容について学習する。
		事後学習	指導方法や計画の建て方など、参考となる部分を記録しておくとともに、各自の指導案に反映させる。
第 15 回	水泳運動系 保健領域 まとめ	事前学習	水泳の種類について予習する。 保健領域について調べる。 体育の指導法について改めて考える。
		事後学習	体育指導について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	体育 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2280 SJMP2380
2. 授業担当教員	斉藤 雅記		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要なとなる最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようにする 4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 各運動領域の基礎的な運動の指導を実践する (実技試験)</p> <p>課題 2 各運動領域の指導のポイントと教材について解説する (レポート課題)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 必要に応じて適宜資料を配布する</p> <p>【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 (体育編)』。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>課題 2 50%</p> <p>計 100%</p> <p>なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教員をめざす学生としての心構えで受講してください。</p> <p>実技や演習の時間では適切な運動着、ジャージなど運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション (本講義の意義と授業の展開について)</p> <p>○本講義の意義と授業の展開についての説明 講義：幼稚園共育要領・小学校学習指導要領の体育領域</p> <p>○幼稚園共育要領・小学校学習指導要領に示された各領域について理解する</p>	事前学習	幼稚園共育要領・小学校学習指導要領に目を通して内容の把握をする。
		事後学習	幼稚園共育要領・小学校学習指導要領の各領域についてまとめる。
第 2 回	<p>体づくり運動 ○体ほぐしの運動・多様な動きを作る運動遊び</p>	事前学習	体づくり運動について予習しまとめる。
		事後学習	体づくり運動の指導のポイントをまとめる。
第 3 回	<p>集団行動・体操</p>	事前学習	集団行動・体操について予習しまとめる。
		事後学習	集団行動・体操の指導のポイントをまとめる。
第 4 回	<p>陸上運動系 ○走・跳の運動</p>	事前学習	陸上運動の走・跳の運動について予習しまとめる。
		事後学習	陸上運動の走・跳の運動の指導のポイントをまとめる。
第 5 回	<p>陸上運動系 ○投の運動</p>	事前学習	陸上運動の投の運動について予習しまとめる。
		事後学習	陸上運動の投の運動の指導のポイントをまとめる。
第 6 回	<p>陸上運動系 ○まとめ</p>	事前学習	今まで学習した陸上運動に関する指導のポイントをまとめる。
		事後学習	学習した指導のポイントをもとに指導のプログラムを作成する。
第 7 回	<p>器械運動系 ○マット運動</p>	事前学習	器械運動系のマット運動について予習しまとめる。
		事後学習	器械運動系のマット運動の指導のポイントをまとめる。
第 8 回	器械運動系	事前学習	器械運動系の跳び箱運動について予習しまとめる。

	○跳び箱運動	事後学習	器械運動系の跳び箱運動の指導のポイントをまとめる。
第 9 回	器械運動系 ○まとめ	事前学習	今まで学習した器械運動系に関する指導のポイントをまとめる。
		事後学習	学習した指導のポイントをもとに指導のプログラムを作成する。
第 10 回	ボール運動系 ○様々なボールゲーム	事前学習	ボール運動系の様々なボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系の様々なボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 11 回	ボール運動系 ○ゴール型ゲーム	事前学習	ボール運動系のゴール型ボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系のゴール型ボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 12 回	ボール運動系 ○ネット型ボールゲーム	事前学習	ボール運動系のネット型ボールゲームについて予習しまとめる。
		事後学習	ボール運動系のネット型ボールゲームの指導のポイントをまとめる。
第 13 回	表現運動系 ○表現リズム遊び、表現遊び	事前学習	表現運動系について予習しまとめる。
		事後学習	表現運動系の指導のポイントをまとめる。
第 14 回	講義：水泳運動系・野外活動系・保健領域	事前学習	水泳運動・野外活動について予習しまとめる。
		事後学習	水泳運動・野外活動の指導のポイントをまとめる。
第 15 回	講義：水泳運動系・野外活動系・保健領域 まとめ	事前学習	保健領域について予習しまとめる。
		事後学習	本講義で学習した各領域の指導のポイントについて振り返る。

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2303
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	・実技 (小学校体育における各領域から抜粋した運動) ・講義 (実技で取り扱えない領域および保健領域に関わるもの) ・ディスカッション (適宜グループで話し合いをし、より質の高い運動や演技を考える)	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	2年次秋期の「体育科指導法」と密接な関連性をもつ授業であることを理解し修得することが望ましい。		
7. 講義概要	○本授業では、以下に提示された小学校体育に関わるおもな学習内容を知るとともに、教育現場において本講義で身に付けた知識・技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。 ・小学校学習指導要領における体育の目標、内容をおおまかに捉え、小学校における体育の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、体育指導に必要となる必要最低限の技能を身につけることができるようにする。 ・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。 1. 今日までの小学校体育科授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育科指導に際して各運動領域における必要最低限の基本的運動技能を身につけることができる。 3. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1. 各領域の運動特性が子どもたちの成長にどのように関わっているのか簡潔に解説をする (ディスカッション)。 課題2. 各運動領域の基礎的な運動を実践する。(実技試験)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】・必要に応じて適宜資料を配布する。		
11. 成績評価の方法	授業態度・・・・・・・・・・60% 実技に際してのディスカッション・・・・・・・・10% 実技の積極性・・・・・・・・・・20% 振り返りとまとめ・・・・・・・・・・10% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	体育における各領域の中でのさまざまな遊びや運動はどれをとっても子どもたちにとって重要な意味をもっています。 子どもたちは校庭や体育館のような広いところを見ると早速、走り、遊び始めます。じつは、これは子どもたちがもっている本来の自然の姿であり、生理学的にも説明が可能です。そんな子どもたちの特性をしっかり把握し、各種運動の特性も捉えつつ、子どもたちが楽しく安全に運動できるような基礎的スキルを実技を通して学んでいきます。 本講座はほとんどが実技です。実技の際には、必ず体育着で臨んでください。ジーパンは禁止です。また、体育館での運動は体育館シューズが必要です。これは運動をするに当たっての最も基本的な事項であり、将来、教育現場に携わる皆さんにとっては極めて常識的な指示であることをおさえてください。 なお、本講座がある日の前日は睡眠を十分に確保し、また、当日の朝は食事をしっかりととり、体調を整えて臨んでください。毎時間、準備運動の一環として必ず持久走をします。		
13. オフィスアワー	春期、秋期とも別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (本講義の必要性や意義、今後の授業の流れ、授業の約束 等)	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	本講義の意義や種々の約束ごとを理解する。体調管理に十分留意。
第2回	「集団行動」 <実技> *集合、整列など学級経営上、体育の果たす役割の重要性を理解する。中でも、早期における基本的な集団行動の必要性を知る。また、準備・整理運動における役割にも注目させ、必要となるスキルを習得することができる。	事前学習	集団行動の必要性・重要性について考える
		事後学習	集団行動と学級指導は密接にかかわる部分があることを理解し、その指導の重要性を知る。
第3回	「鬼遊び」 <実技・ディスカッション> *低学年でよく取り扱われる「鬼遊び」を実際に行い、その特性を知り、質、量ともに、より、高度かつ楽しい鬼遊びを考えることができる。	事前学習	各種鬼遊びをいくつか考え、用意する。
		事後学習	低学年で頻繁に取り扱われる鬼遊びの必要性について理解する。
第4回	「器械運動」① <実技・ディスカッション> *マット遊び・運動における数種の技の必要最低限のスキルを身につけ、お互いに教え合えることができる。(実技試験あり)	事前学習	各種器械運動の種類を挙げられるようにする。①
		事後学習	用具の取り扱いについてしっかり指導できるようにする。
第5回	「陸上運動」① <実技・ディスカッション> *障害走の特徴を知り、高学年のハードル走における跳び方の工夫について考え、より理想的な跳び方を習得することができる。	事前学習	障害走の系統性を理解する。
		事後学習	高学年におけるハードル走の特性をしっかり押さえる。
第6回	「表現運動」 <実技・ディスカッション>	事前学習	体育の学習指導要領における表現運動

	*ある事象を表現することは体育の運動領域にとって重要な部分であり、これをグループで協力し合って発表する意義もまた子どもたちにとって必要であることを知ることができる。(実技試験あり)	事後学習	の歴史を調べる。 体育における表現運動の位置づけとその意義を理解する。
第7回	「ゲーム」① <実技・ディスカッション> *ゴール型ゲームのひとつであるバスケットボールの特性を知り、ドリブル、シュート(ランニングシュート、ジャンプシュート)などの最低限のスキルを習得できるようにする。また、チームで作戦を立て、簡単なゲームをすることができる。(実技試験あり)	事前学習	発達段階に応じたゲームを自分なりに列挙できるようにする。①
		事後学習	ゲーム領域ではタイプの異なるゲームがあることを知る。
第8回	「器械運動」② <実技・ディスカッション> *跳び箱の特性を知り、低学年から高学年で必要となる各種の技におけるスキルを身に付け、お互いに見合いながら演技することができる。(実技試験あり)	事前学習	各種器械運動の種類を挙げられるようにする。②
		事後学習	躓く児童に対してのサポートの実際を理解する。
第9回	「陸上運動」② <実技・ディスカッション> *リレーにおける理想的なバトンの受け渡しの仕組みを理解し、チームで協力し合ってより質の高いレース展開をすることができる。	事前学習	走・跳の運動の系統性を理解する。
		事後学習	リレーに際しての指導の実際を理解する。
第10回	「水遊び・水泳」 <講義・ディスカッション> *水泳指導に際してのおもな注意事項および教師が把握しておかなければならないスキルを理解し、事故のない指導を心がけるよう確認する。(後日、実技指導も計画することも伝える)	事前学習	児童における水遊び・水泳の利点について調べる。
		事後学習	水泳指導の基本的な順序を理解する。
第11回	「ゲーム」② <実技・ディスカッション> *ベースボール型ゲームであるソフトボールを実際に体験し、チームで協力し合って、よりよいゲームにするための工夫することができる。	事前学習	発達段階に応じたゲームを自分なりに列挙できるようにする。②
		事後学習	ベースボール型ゲームの利点と問題点について理解する。
第12回	「保健学習」 <講義・ディスカッション> *保健学習の新たな考え方や授業の進め方について理解し、現在現場で問題になっている事項を把握し、その解決に迫るための手立てを話し合うことができる。	事前学習	体育における保健学習の歴史を調べる。
		事後学習	小学校段階での保健学習の必要性・重要性を理解する。
第13回	「器械運動」③ <実技> *鉄棒の各種の技を紹介、各自自治体で出された過去問などにも挑戦して「逆上がり」「前方支持回転」などの必要最低限の技ができる。(実技試験あり)	事前学習	各種器械運動の種類を挙げられるようにする。③
		事後学習	鉄棒のおもな技を系統的に理解する。
第14回	「スポーツ大会」 <実技> *スポーツ大会をみんなで計画し運営できる能力を養う。	事前学習	スポーツ大会の運営方法を考える
		事後学習	ひとつの大会を協力して行なうことの大切さを理解する。
第15回	まとめと評価 *本講義で既習した各領域における運動の特性や実施に当たった注意事項が習得されているかに関する評価を行う。	事前学習	これまで学習してきた各領域における指導のポイントをまとめておく。
		事後学習	実際の現場でも応用できるよう指導のポイントをしっかり抑える。

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2104
2. 授業担当教員	田代 幹康		SCMP2104
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題「あなたの住む市区町村の地域福祉計画について調べ、その概要をまとめ、その特徴について考察せよ」レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。また、各章又は節終了時に授業の内容に関する確認テストを行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	①受講態度・参加姿勢等 40%(全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻(10 分程度迄)は 3 回で 1 回休みとなる。 ②筆記試験とレポート試験を行う。 60%		
12. 受講生へのメッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。 1.授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。 2.授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3.授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4.レポートの提出日を厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験についての説明等、グループ分け、その他)	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	地域福祉論のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第 2 回	地域福祉の発展過程① (欧米における地域福祉の源流、日本における地域福祉の源流、戦後復興期における地域福祉、コミュニティケアの移入と地域福祉の展開)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.2～6 を読んでくること。
		事後学習	日本の戦前・戦後復興期における地域福祉についてノートにまとめる。
第 3 回	地域福祉の発展過程② (地域福祉の実態化と発展、社会福祉基礎構造改革と地域福祉の推進、超少子高齢社会の到来と地域福祉のあり方)	事前学習	社会福祉基礎構造改革について調べておくこと。教科書 pp.6～8 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 4 回	行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉 (地域福祉の新しい役割と位置づけ)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.9～13 を読んでくること。
		事後学習	講義をうけてあらためて共助・協働の意味についてノートにまとめる。
第 5 回	新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉 (地域福祉の構成要素、福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成)	事前学習	岡村重夫の地域福祉の理論について調べておくこと。教科書 pp.14～25 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 6 回	地域福祉の基本的な考え方① (地域福祉理論の発展と広がり、地域自立生活支援と地域福祉の理念)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.28～38 を読んでくること。
		事後学習	わが国における地域福祉の理論の類型についてノートにまとめる。

第 7 回	地域福祉の基本的な考え方② (地域のとらえ方と福祉圏域、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携)	事前学習	社会学におけるアソシエーションとコミュニティについて調べておくこと。教科書 pp.39～47 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 8 回	地域福祉の主体と福祉教育 (福祉教育の歩み、福祉教育の概念と内容)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.50～70 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 9 回	行政組織と民間組織の役割と実際① (社会福祉における地方分権化と地域福祉計画)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.72～81 を読んでくること。
		事後学習	出身市町村における地域福祉計画についての資料を集める。
第 10 回	行政組織と民間組織の役割と実際② (社会福祉協議会の役割と実際、社会福祉法人の役割と実際、特定非営利法人の役割とボランティア活動)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.82～103 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 11 回	行政組織と民間組織の役割と実際③ (民生委員・児童委員・保護司、福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.104～116 を読んでくること。
		事後学習	自分の住む区域の民生委員を確認する。
第 12 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割① (コミュニティソーシャルワークの考え方・展開とシステム、方法)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.118～135 を読んでくること。
		事後学習	自分の住む地域の地域アセスメントを行ってみる。
第 13 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割② (専門他職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、専門職と住民の関係)	事前学習	コミュニティワークについて復習しておくこと。教科書 pp.136～148 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 14 回	住民の参加と方法 (地域福祉推進における住民参加の意義、市町村福祉行政における住民参加、住民の代表性と参加方法)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.150～171 を読んでくること。
		事後学習	各自で調べる地域福祉計画における住民参加の方法について考えてみる。
第 15 回	ソーシャルサポートネットワーク① (ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、 ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.174～184 を読んでくること。
		事後学習	身近なフォーマルサポートとインフォーマルサポートの例について調べノートにまとめる。
第 16 回	ソーシャルサポートネットワーク② (ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワーク)	事前学習	ライフモデルにおけるソーシャルワークについて調べておくこと。教科書 pp.185～190 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 17 回	地域における社会資源活用・調整・開発① (社会資源の概要、社会資源の活用法とコーディネーター)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.192～200 を読んでくること。
		事後学習	自分の住む地域の身近な社会資源について確認し、ノートに図で示してみる。
第 18 回	地域における社会資源活用・調整・開発 ② (福祉サービスの開発、税制優遇と助成金の活用)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.201～209 を読んでくること。
		事後学習	福祉施設が助成金を得ることができた事例について調べる。
第 19 回	地域における社会資源活用・調整・開発 ③ (福祉でまちづくりとソーシャルアクション)	事前学習	ソーシャルアクションの考え方、展開方法について調べておくこと。教科書 pp.210～214 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 20 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際① (地域福祉におけるアウトリーチの意義)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.216～219 を読んでくること。
		事後学習	学んだ福祉ニーズの種類についてノートにまと

			める。
第 2 1 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際② (質的な福祉ニーズの把握方法と実際、量的な福祉ニーズの把握方法と実際)	事前学習	福祉関係の調査報告書を探し目を通しておくこと。教科書 pp.220～232 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 2 2 回	地域トータルケアシステムの構築と実際① (地域トータルケアシステムの必要性と考え方、地域トータルケアシステムの展開方法)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.234～245 を読んでくること。
		事後学習	地域トータルケアシステムの展開方法についてノートにまとめる。
第 2 3 回	地域トータルケアシステムの構築と実際② (地域トータルケアシステムの事例、ソーシャルケア従事者の研修と組織化)	事前学習	教科書の事例遠野市の概要について調べておくこと。教科書 pp.246～255 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 2 4 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際① (福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の考え方)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.258～264 を読んでくること。
		事後学習	福祉サービスの評価の仕組みについてノートにまとめる。
第 2 5 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際② (福祉サービスの評価方法と実際)	事前学習	自分の住む地域で福祉サービスの評価を行う組織について調べておくこと。教科書 pp.265～269 を読んでくること。
		事後学習	福祉サービスの第三者評価業務の過程についてノートにまとめる。
第 2 6 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際③ (福祉サービスのプログラム評価とその展開)	事前学習	福祉サービスのプログラム評価の課題についてまとめてくること。教科書 pp.270～274 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 2 7 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方① (イギリス:シーボーム改革とコミュニティケア、新保守主義の台頭とコミュニティケア改革)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.276～282 を読んでくること。
		事後学習	シーボーム改革とコミュニティケア改革の関係についてノートにまとめる。
第 2 8 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方② (イギリス:第三の道、日本の地域福祉との関連)	事前学習	新保守主義とは何かを調べておくこと。教科書 pp.282～285 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 2 9 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方③ (アメリカ: アメリカのソーシャルワークの特徴、コミュニティにおけるソーシャルワークの展開)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.286～293 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 3 0 回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもつてくること。
		事後学習	これまで行われた講義と確認テストと教科書を通じて、理解が不十分な部分についてチェックし、ノートにまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3448 SNMP3448 SCMP3448 SBMP3448 SSMP3348
2. 授業担当教員	立松 英子		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、知的障害のある児童生徒の教育に関する理念に触れながら、わが国の知的障害教育の基礎について学んでいく。関連法令や学習指導要領に根拠を置いた教育課程、すなわち、各教科、領域、各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）の内容について理解を深めていく。また、知的障害にしばしば合併する、自閉症スペクトラム、肢体不自由や感覚障害(視覚・聴覚など)、病弱虚弱(腎臓疾患、喘息等)にも触れながら、その幅広い実態について理解を図る。その上で、各種アセスメントや専門的な療育技法、専門家との連携の実態についても紹介し、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成に役立てていく。		
8. 学習目標	①特別支援教育の概要と知的障害教育の特徴がわかる。 ②知的障害、発達障害の定義や特性がわかる。 ③知的障害教育の教育課程編成上の留意点 ④各教科等を合わせた指導の内容・方法の概要がわかる。 ⑤個別の教育支援計画・個別の指導計画等各種教育計画がわかる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	①教科書から関心のあるテーマを選び、書式にしたがってまとめ、発表してください。 ②時間内に特別支援教育における教育課題をテーマとした論文課題を実施します。 テーマの例：発達障害や自閉症への対応、親への説明責任、個別の指導計画、専門機関との連携、交流及び共同学習、副籍（支援籍）など 教員採用試験の論文課題を想定し、800～1000字程度で時間内にまとめるトレーニングとします。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ①玉村公二彦・清水貞夫ほか編著『キーワードブック 特別支援教育』クリエイツかもがわ ②文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』 教育出版 【参考文献】①文部科学省『特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領』海文堂出版 ②文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部・高等部)』 海文堂出版 *教科書①、②は必須、特別支援学校教員採用試験を受ける人は参考文献①②も購入してください。		
11. 成績評価の方法	授業での態度 30% 事前学習、論文課題、小テスト 70%		
12. 受講生への メッセージ	①障害児を取り巻く教育環境の大きな変化の背景に何があるのか。課題意識をもって情報を収集し、授業に臨んで下さい。質問は歓迎します。 ②知的障害教育の教師には、人を大切に作る姿勢、相手を主役として活躍させる姿勢、不測の事態に柔軟に対応する知識と技能が必要です。授業だけでなく人と関わるさまざまな体験を積み、人間性豊かな教師をめざしてください。 ③授業では、保護者が障害のある子どもを安心して託せるかどうかという視点で皆さんを見ています。教師になった自分をイメージしながら発表や演習を行って下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション／障害児教育の動向と改革	事前学習	「ノーマライゼーション」「ICF」について調べておく。
		事後学習	「ICF」以降の障害概念の変化について、確認しておく。
第 2 回	特別支援教育への改革	事前学習	「特殊教育」と「特別支援教育」の違いを調べておく。
		事後学習	「特別支援教育学習指導要領」の改訂ポイントをまとめておく。
第 3 回	知的障害児の教育課程	事前学習	「特別支援教育」だけにある「領域」とは何か調べておく。
		事後学習	p.78 の図（知的障害教育の教育課程）をもう一度確認しておく。
第 4 回	知的障害児の教育活動	事前学習	「知的障害教育」だけにある「各教科等を合わせた指導」とは何か調べておく。
		事後学習	「各教科等を合わせた指導」の指導内容例を考えておく。
第 5 回	各種教育計画の概要	事前学習	特別支援学校で作成する指導計画にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」との違いを整理しておく。
第 6 回	発達の概念と発達評価	事前学習	「発達」の定義を調べておく。
		事後学習	「発達評価」を実際に友達同士でやってみる。
第 7 回	各種障害の特徴と対応	事前学習	「ダウン症」「自閉症」等関心のある障害について調べておく。
		事後学習	それぞれの障害に伴いやすい「合併症」についてまとめておく。
第 8 回	論文課題	事前学習	特別支援学校教員採用試験の論文課題と類似の課題を出題します。時間内に 1200 字程度の論文が書けることを目標に「書く」スキルを磨いておいてください。
		事後学習	答えられなかった部分、気づかなかった部分を確認しておく。

第 9 回	知的障害に合併する自閉症と行動障害	事前学習	自閉症の行動障害にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	行動障害への対応のコツについてまとめておく。
第 10 回	各種指導方法、教材・教具	事前学習	障害児の療育技法にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	興味をもった療育技法についてより詳しく調べておく。
第 11 回	保護者や他機関との連携	事前学習	障害のある子どものための専門機関にはどんなものがあるか調べておく。
		事後学習	医療機関との連携において特に注意すべきことは何か考えておく。
第 12 回	行事の立案と留意点	事前学習	特別支援学校の学校行事にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	事故対応についての基本を確認しておく。
第 13 回	キャリア教育の動向	事前学習	「キャリア教育」とは何か。「職業教育」とどう違うのか調べておく。
		事後学習	小学部低学年で必要なキャリア教育の例を考えておく。
第 14 回	知的障害児とライフステージ	事前学習	「ライフステージ」とは何か調べておく。
		事後学習	各ステージにおける教育の重要ポイントをまとめておく。
第 15 回	知的障害教育の現状と課題 (まとめ)	事前学習	授業で使った専門用語を洗い出し、知識を確かなものにしておく。
		事後学習	答えられなかった部分、気づかなかった部分を確認しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	知的障害者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2450 SNMP2450 SCMP2450 SBMP2450 SSMP2350
2. 授業担当教員	上田 征三		
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば補講期間などに関連施設の見学を入れる。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	知的障害特別支援学校の在籍児童生徒はいま、その大半が自閉症である。特別支援教育に関わる教員を目指すのであれば自閉症に関する知識、理解を深めることは必須の条件であり、本講座では主に自閉症児者の心理や病理にスポットを当てて講義を進めていく。また昨今では特別支援学校高等部に在籍する軽度知的障害がある生徒が起す問題行動がクローズアップされている。ダウン症などその他の知的障害も含め、特別支援学校児童生徒の理解に必要な基礎的、基本的知識をベースにしながら彼らの生活全般に係る指導・支援の方法についてともに考えていく。講義ではスライドや画像、動画、独自の資料を多用し、積極的なグループディスカッションを取り入れ、より実践的に学ぶ。		
8. 学習目標	以下に関して学習し理解を深め、指導実践力を高める。 1. 知的障害に関する基礎的、基本的な知識を理解し、説明することができる。 2. 特に自閉症についてはその発生原因から発達過程、行動特性などについて知り、学校現場での支援方法について考えを述べることができる。 3. 各種発達検査の目的、種類、方法、アセスメントについて理解し、説明することができる。 4. ダウン症やその他の知的障害についても理解を深め、説明することができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容に沿った小テストを13回実施 (到達度評価) する。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート (手書き) を課す。 3. 小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備する。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 杉山登志朗『基礎講座・自閉症児への教育』日本評論社、2011年。 【参考書】 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第3版) ミネルヴァ書房、2013年。		
11. 成績評価の方法	受講態度 (総合点の 30%) レポート・小テストなど (総合点の 30%) 期末試験 (総合点の 40%)		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。		
13. オフィスアワー	授業以外の時間 (予約をお願いすることもある) ※月曜日は都合が付きやすい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション&知的障害について —知的障害の概念ほか—	事前学習	知的障害者と触れ合った経験について説明できるようノートにまとめる。
		事後学習	知的障害の概念について授業時間に配布した穴埋め問題の間違った部分をやり直ししながらノートにまとめ再確認する。
第2回	知的障害の発生要因・種類 —医学的見地から—	事前学習	知的障害の基本的な知識について事前に配布した予習プリントを解く。
		事後学習	知的障害をもたらす様々な病因などについて授業中に実施した小テストをやり直ししながらノートにまとめ再確認する。
第3回	自閉症について① —定義、発生要因、発達過程ほか—	事前学習	教科書の pp.67~80 を読み自閉症の基礎知識について理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	自閉症に関する定義や発生要因について授業中に実施した小テストをやり直ししながらノートにまとめ再確認する。
第4回	自閉症について② —心理特性、行動特性ほか (その1) —	事前学習	教科書の pp.55~P.66 を読み自閉症の認知特性について理解する。
		事後学習	自閉症のパニックやこだわりがなぜ起こるのか、について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認する。
第5回	自閉症について③ —心理特性、行動特性ほか (その2) —	事前学習	教科書の pp.93~118 を読み自閉症の行動特性について理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	パニックや郷土のこだわりの原因について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。
第6回	自閉症について④ —学校における指導・支援の手立て—	事前学習	教科書の pp.41~54 を読み自閉症児への指導・支援について理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	構造化、コミュニケーションツールといった専門用語に関する小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。
第7回	自閉症について⑤ —医療、福祉、就労、社会生活の現状—	事前学習	教科書の pp.81~92 を読み自閉症児の社会生活等について理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	授業中に実施した自閉症の医学的知識に関する小テストをやり直ししながら再確認する。また、自閉症関連の課題に沿ったレポートをまとめる。
第8回	自閉症について⑥	事前学習	前時に配布した自閉症のまとめの穴埋め問題に回答してお

	—具体的なケース紹介—		く。
		事後学習	様々な自閉症の問題行動がなぜ起きるのか、授業中に実施した小テストをやり直し、ノートにまとめ確実に理解できるようにする。
第 9 回	その他の自閉症スペクトラム障害 —アスペルガー、高機能自閉症など—	事前学習	教科書の pp.119～130 を読みその他の自閉症スペクトラム障害について理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	自閉症スペクトラム障害の定義や種類について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
第 10 回	その他の知的障害について① —ダウン症、結節性硬化症など—	事前学習	ダウン症、結節性硬化症など自閉症以外の知的障害を伴う症例に関する資料を事前に配布するので読んで理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	知的障害を伴う病種について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
第 11 回	その他の知的障害について② —脳性まひ、てんかん、重複障害など—	事前学習	脳性まひその他の重複障害等について資料を事前に配布するので読んで理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	特に重複障害児への支援のあり方などについて授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認する。また、知的障害全般に関する課題に沿ったレポートを作成する。
第 12 回	実態把握（アセスメント）について —発達検査、行動観察ほか—	事前学習	WISC、K-ABC 等の発達検査について資料を事前に配布するので読んで理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	発達検査の目的、種類等について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
第 13 回	知的障害児者の支援システムについて —早期発見、早期療育から—	事前学習	就学前の支援システム等について資料を事前に配布するので読んで理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	各々が在住する地域の支援システムについて調べ時に発表できるようにする。また、授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
第 14 回	知的障害・自閉症児者を取り巻く最新事情 —教育課題、最新支援ツールの紹介ほか—	事前学習	新聞記事等から抜粋した知的障害にかかる現代の課題に関する資料を読み、自分の意見を持つことができるよう準備し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	最新の社会事情の中で障害にまつわる出来事について最も関心のあるものを調べ、ノートにまとめ発表できるよう準備する。
第 15 回	全体のまとめと質疑応答	事前学習	全講義を通じて関心が高かったテーマを選び、それになぜ関心を持ったのかノートにまとめ説明できるよう準備する。
		事後学習	自閉症を含む知的障害児者の心理や病理に関する課題に沿ったレポートを作成する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語 I (2 単位)	3. 科目番号	GECM1313						
2. 授業担当教員	秋谷 幸治								
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>初心者を対象に、中国語の基礎訓練を行う。やさしく、正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話の訓練から始める。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学習していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴(リズムカルな美しい音調等)を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることを目指し、学習を進めていく。また、今、経済成長を遂げ、国際的にも発言力を増してきた中国について、言語と文化、そして人びとの暮らしを通して理解し、これからの交流の機会に役立てていく授業である。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語の発音と文法の概略を知り、自ら学習を進展させることができるようになるための基礎を身につける。 2. ピンイン(ローマ字による中国語発音表記システム)の読み方と綴り方、常用の単語、日常の挨拶語、単文の基本文型などを学ぶことで、中国語の各音節が声調を伴って正確に発音でき、基本的な表現構造を理解できるようになる。 3. 授業では簡単な受け答えや聞き取り・書き取りなどの練習を通して、簡単な会話が聞き取れ、話せるようになる。 								
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>【宿題】 毎次、テキストの各課の例文を、5回以上音読して授業にのぞんでください。</p> <p>【レポート課題】 第15回で、中国語作文(自己紹介)を作成し、発表をしてもらいます。</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。 ※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、小テスト、レポートの総合点によって評価します。</p> <table border="0"> <tr> <td>授業への積極的参加</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト(2回行います)</td> <td>総合点の 50%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題(中国語作文)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> </table>			授業への積極的参加	総合点の 20%	小テスト(2回行います)	総合点の 50%	レポート課題(中国語作文)	総合点の 30%
授業への積極的参加	総合点の 20%								
小テスト(2回行います)	総合点の 50%								
レポート課題(中国語作文)	総合点の 30%								
12. 受講生への メッセージ	<p>中国の文化や言語は、日本のそれと似ているようで、実は全く異なります。授業を通して、中国の文化や言語の魅力をじっくり味わいましょう。</p>								
13. オフィスアワー	<p>授業終了後、教員控え室に来て下さい。</p>								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	中国語とは何か? 中国語の特徴(簡体字と繁体字)、発音表記の仕方(ピンイン)などについて説明します。	事前学習	テキストを用意し、全体に目を通しておく。						
		事後学習	自分の名前を簡体字で書き、中国語で発音できるようにしておく。						
第2回	中国語の発音の仕方① 単母音、声調、子音、複母音について練習します。 【中国の文化①】中国に住む諸民族	事前学習	テキスト pp.6~7 をしっかり読んでおく。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第3回	中国語の発音の仕方② 鼻母音、軽声、声調の変化について練習します。	事前学習	テキスト pp.8~9 をしっかり読んでおく。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第4回	中国語の発音の仕方③ 中国語の発音の仕方を総復習します。短い挨拶文を読む練習をします。 【中国の文化②】中国の地理	事前学習	テキスト pp.10~11 に載っている短文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。						
第5回	自己紹介 人称代名詞、動詞“是”、助詞“呢”、副詞“也”、“請”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.12~13 頁に載っている例文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第6回	自己紹介 会話練習(グループ学習) 【中国の文化③】中国の歳時行事(春)	事前学習	テキスト p.14 頁の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第7回	これは何ですか 指示代名詞、疑問をあらわす“吗”、否定をあらわす“不”、疑問詞“什么”、“的”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.16~17 に載っている例文を 5 回以上音読する。						
		事後学習	新出単語(生詞)を覚える。						
第8回	これは何ですか 会話練習(グループ学習) 小テスト。	事前学習	テキスト p.18 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.6~17 を読み直す。						
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。						
第9回	中国映画を見よう。	事前学習	付属 CD を使ってリスニングの練習をしておく。						
		事後学習	聞き取れたスキットをまとめてみる。						
第10回	これはいかがですか	事前学習	テキスト pp.20~21 頁に載っている例文を 5 回以						

	指示代名詞、形容詞述語文、疑問詞“怎么样”数詞の使い方について練習します。		上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。
第 1 1 回	これはいかがですか 会話練習（グループ学習） 【中国の文化③】中国の歳時行事（夏）	事前学習	テキスト p.22 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 2 回	買い物 数詞、助詞“吧”、数量を表わす語について練習します。	事前学習	テキスト pp.24～25 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 3 回	買い物 会話練習（グループ学習） 【中国の文化④】中国の歳時行事（秋・冬）	事前学習	テキスト p.26 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 4 回	どこにありますか 場所指示代名詞、動詞“在”、助動詞“想”について練習します。小テスト。	事前学習	テキスト pp.28～29 に載っている例文を 5 回以上音読する。テキストの pp.20～27 を読み直す。
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。
第 1 5 回	中国語作文発表会（グループ学習）	事前学習	中国語作文を完成させ、数回音読練習をしておく。
		事後学習	友達と中国語を使って会話をしてみよう。

1. 科目名 (単位数)	聴覚障害者の言語障害指導 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3458 SNMP3458 SCMP3458 SBMP3458
2. 授業担当教員	須藤 典征			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>言語の獲得には聴覚の機能が大きく作用する。聴覚の障害があると言語能力の獲得に問題が生ずるのである。言語習得の過程では、聴覚障害を補う補助手段を導入して言語理解・言語表出を支援していくことが必要である。言語理解のためには補聴器などによる聴覚補償のほか、他の感覚経路を利用した口話や手話などの手段を用いる。言語表出のためには発話練習や機器を利用した発話訓練などが行われている。音声言語を媒体にしたコミュニケーションだけではなく、文字など視覚的な情報を有効に利用してコミュニケーション能力を高めていく指導が必要である。生活年齢や発達段階に応じたコミュニケーション支援に向けた取り組み（同時法、口話法、聴覚口話法、キュードスピーチ、トータルコミュニケーション、パイリンガルアプローチ、指文字、手話の使用など）についても検討していく。語彙の獲得・文能力の増進・他者との交流能力の促進も視野に入れるとともに、家庭・学校における対応にも配慮が必要である。このような観点について、乳幼児期・学齢期・青年期/成人期・熟年期それぞれの時期の言語指導について学ぶ。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 聴覚の機能および聴覚の発達に伴う言語発達について知る。 2) 聴覚の障害に伴って生じる言語の障害について学習する。 3) 聴覚障害の補償について学ぶ。 4) 聴覚障害児、幼児、学童、青年、成人に対する支援の実情を学ぶ。 5) コミュニケーションが重要となる聴覚障害者の社会生活について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	聴覚障害の検査法についてのレポート (1000~1200字)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】使用しない。講義中適切な資料を配布する。受講生はファイリングを確実にすること。			
11. 成績評価の方法	受講態度 50%、・試験 30%・レポート 20%			
12. 受講生への メッセージ	<p>聴覚は言語獲得、周囲の状況判断にとって非常に重要な機能を担っています。聴覚障害という問題がある場合、どのような困難に出会うのかをリアリティを持って、洞察・理解をしてほしいと考えています。また、年配者の聴力障害者は増えているので、聴力障害についての知識は実生活上役立つと思います。加えて、聴覚障害を補償するための方策についても広く理解すれば、様々な障害の克服の方策についても理解が深まるでしょう。</p>			
13. オフィスアワー	講義開始前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	聴覚の機能 (聴器の構造、聴くということはどういうことか) 1	事前学習	耳の構造をネットや書籍で調べておく。	
		事後学習	耳の構造を確実に覚える。	
第 2 回	聴覚の機能 (聴器の構造、聴くということはどういうことか) 2	事前学習	難聴の種類について調べておく。	
		事後学習	難聴の種類を確実に覚える。	
第 3 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 1	事前学習	チームを結成してラポールを作っておく。	
		事後学習	疑似体験の感想をまとめる。	
第 4 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 2	事前学習	チーム内で会話をする内容を決めておく。	
		事後学習	どの会話が聞き取りにくいのかまとめる。	
第 5 回	聴覚障害の疑似体験、聴覚の障害 (その種類、 障害の程度) 3	事前学習	聞き取りにくい内容を確認しておく。	
		事後学習	疑似体験の総合的感想をまとめる。	
第 6 回	聴覚障害の補償 (補聴器、視覚的情報の利用)	事前学習	補聴器や人工内耳について調べておく。	
		事後学習	補聴器や人工内耳について覚える。	
第 7 回	聴覚障害とコミュニケーション 1	事前学習	どんなコミュニケーションがあるか調べておく。	
		事後学習	多様なコミュニケーションを確認する。	
第 8 回	聴覚障害とコミュニケーション 2	事前学習	口話法について調べておく。	
		事後学習	口話法について確認しておく。	
第 9 回	聴覚障害とコミュニケーション 3	事前学習	手話について調べておく。	
		事後学習	手話について確認しておく。	
第 10 回	聴覚障害とコミュニケーション 4	事前学習	トータルコミュニケーションについて調べる。	
		事後学習	トータルコミュニケーションについて確認する。	
第 11 回	聴覚特別支援学校の教育課程	事前学習	聴覚特別支援学校の教育課程について調べておく。	
		事後学習	聴覚特別支援学校の教育課程について確認しておく。	
第 12 回	聴覚特別支援学校における教育	事前学習	教育相談について調べておく。	
		事後学習	教育相談について確認しておく。	
第 13 回	日本の聴覚障害児に対する保育・教育	事前学習	幼稚園設立の経緯について調べておく。	
		事後学習	幼稚園教育要領と留意点	
第 14 回	聴覚障害者の社会生活上の問題	事前学習	聴覚障害者の裁判事例を調べる。	
		事後学習	裁判事例をまとめる。	
第 15 回	聴覚障害児の学力と授業	事前学習	どのような教科指導が難しいか考えておく。	
		事後学習	全般的な留意点についてまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	データベース演習 I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3313
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータサイエンス I」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	本科目では、リレーショナルデータベースに関する基礎知識を、演習を通して考える。データベース、データモデルなどの概念を理解するとともに、データベースの効率的な検索技法を身につけることを目標とする。また、関係データベースを利用するための言語である、SQL 言語の基礎を解説し、SQL 言語を用いた基礎的な演習を行う。			
8. 学習目標	現在、主流であるリレーショナルデータベースの仕組みについて学ぶだけではなく、データベース管理システムの歴史と、それらの管理システムを可能にしたハードウェアの仕組み、数学の概念、ソフトウェアの基本も学ぶことを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解く (例: ER図を使って、実際データベースを設計する、演算のコスト見積り、データベースを組み込みそれにSQLクエリを実行する)。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本森樹『体系的に学ぶデータベースの仕組み』日系 BP ソフトプレス、2009 年。			
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%			
12. 受講生へのメッセージ	演習問題に真剣に取り組んでください。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	データベースとは、データベースの歴史・データベースの種類	事前学習	コンピュータの仕組みを復習する (「コンピュータサイエンス I」参照)	
		事後学習	3 世代のデータベースを覚える	
第 2 回	リレーショナルモデル	事前学習	教科書 p.23 を読む	
		事後学習	3 層スキーマ構造をよく理解する	
第 3 回	データベースの設計 ER 図・演習	事前学習	教科書 p.42 を読む	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 4 回	データベースの設計 ER 図・演習 (続)	事前学習	教科書 p.51 「ひし形表記法」をよく理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 5 回	内部スキーマ (1) ファイル構造とインデックス	事前学習	教科書 pp.160~161 の内容を理解する (専門用語)	
		事後学習	教科書 p.165 の表を理解する	
第 6 回	指数関数と対数関数 確率 検索コスト・演習	事前学習	前回配布した数学の復習のプリントを熟読する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 7 回	検索コスト・演習 (続)	事前学習	教科書 pp.173~175 を読む 特に「最適化」をよく理解しておく	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 8 回	内部スキーマ (2) B 木、B+ 木・演習	事前学習	教科書 p.168 B 木と B+ 木の違いをよく理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 9 回	B 木の事例・演習	事前学習	前回の配布プリントを再度熟読	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 10 回	クエリ言語 SQL	事前学習	教科書 p.118 を読む	
		事後学習	教科書 p.30 の「リレーショナル代数の演算」と SQL の関係をよく理解する	
第 11 回	SQL・演習	事前学習	教科書 pp.120~121 の表を理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題の解答例を再度熟読する	
第 12 回	SQL・演習 (続)	事前学習	教科書 pp.128~131 を読む (「結合」、特に p.129 の「自己結合」を理解する)	
		事後学習	今回提示した演習問題の解答例を再度熟読する	
第 13 回	トランザクション	事前学習	教科書 pp.192~193 を読む	
		事後学習	トランザクションの概念をよく理解する (特に ACID の概念)	
第 14 回	まとめ・演習	事前学習	教科書 pp.2~7 を再度熟読	
		事後学習	今回提示した演習問題を復習	
第 15 回	総合演習	事前学習	前回提示した演習問題を復習	
		事後学習	「データベース演習 II」の第 1 回までは教科書 pp.38~39 の確認問題を全部解く (合計 10 問)	

1. 科目名 (単位数)	統計学 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1121
2. 授業担当教員	三好 一英			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「統計学」履修後、「社会調査法」、「心理統計法」も履修するとさらに理解が深まります。			
7. 講義概要	我々の身の回りには実に多くの統計的データが存在する。しかし、それらについての正しい見方を知らないと、日常生活において重大な間違いを犯してしまうことにもなりかねない。理系・文系の枠に関係なく、統計学の知識は、データを正しく読み取り、正しく理解するために必要な教養のひとつである。この統計学のクラスでは、統計に対する正しい知識を身につけることと、将来自分でデータを集め分析できるようになることを目標に、統計学の基本的な概念の紹介から始まり、記述統計、推測統計まで幅広く学習していく予定である。			
8. 学習目標	日常生活における統計学的なものの見方・考え方を身につけるとともに、レポート・論文の中に記載された統計に関する記述箇所を正しく読み取れるようになることが、本講義の主たる学習目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	予習も重要ではあるが、毎回の授業内容の復習は必ず行うこと。 毎回の授業内容の復習なしに講義に臨むことは非常に挑戦的(無謀)である。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 別途、講義資料として印刷教材を配布する。 【参考書】 南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ。			
11. 成績評価の方法	期末試験 100% + 授業への積極的参加 (最大 10 点)			
12. 受講生への メッセージ	1. 数字や数式が出てくるからと身構える必要はありませんが、気を抜くと分からなくなります。毎回高い緊張感と積極的な態度で授業に臨んでください (経験上、前の方の席に座る学生は好成绩です)。 2. 講義は毎回の積み重ねです。前回の内容理解を前提に講義は進められます。 3. 講義内容はすべて教科書の内容に基づいています。講義中によく分からなかったところについては、次回までに教科書を何度もよく読みこんでおいてください。復習が何より大切です。 4. 遅刻や欠席は減点の対象となります。 5. 授業中に無断で途中退出することは禁止します。 6. 授業中に電卓を使用しますので、√(ルート)の計算ができるものを毎回忘れず持参してください。 ※携帯電話、スマートホン不可。 統計で困ったことになった 2 年生以上の上級生の聴講も歓迎します。			
13. オフィスアワー	授業前後の時間に非常勤講師室で質問等を受け付けます。気軽に来て下さい。 e-mail でも質問を受け付けます。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション：心理統計とは何か	事前学習	教科書を手し、一通り確認しておく	
		事後学習	統計学の全体像をつかむ	
第 2 回	データと尺度、代表値のいろいろ	事前学習	pp.18-33 を読んでおく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 3 回	散布度：分散、標準偏差	事前学習	pp.34-37 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 4 回	散布図と共分散、	事前学習	pp.44-51 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 5 回	因果関係と相関関係、相関係数	事前学習	pp.52-59 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 6 回	標準化と偏差値の求め方	事前学習	pp.38-41 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 7 回	正規分布の特徴とその利用	事前学習	pp.80-89 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 8 回	記述統計から推測統計へ	事前学習	pp.18-55, pp.80-89 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 9 回	実験計画法	事前学習	pp.68-79 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 10 回	統計的仮説検定 1：帰無仮説・対立仮説・有意水準	事前学習	pp.174-207 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 11 回	統計的仮説検定 3：タイプ I のエラー (α)、タイプ II のエラー (β)	事前学習	pp.108-117 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 12 回	1 つの平均値の検定 (母分散が既知の場合)	事前学習	pp.118-121 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 13 回	1 つの平均値の検定 (母分散が未知の場合)	事前学習	pp.126-127 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 14 回	2 つの平均値の検定 (対応のない t 検定)	事前学習	pp.128-131 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
第 15 回	2 つの平均値の検定 (対応のある t 検定)	事前学習	pp.144-149 を理解しておく	
		事後学習	練習問題を解き、本時の学習事項について再確認しておく	
期末試験 (持ち込み可)				

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTS3307
2. 授業担当教員	富岡 栄		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔でする説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、xxすべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていったらよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化し、道徳教育がどのように変遷してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分も持っている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけ、道徳教育を実践する上で基礎となる資質・能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の課題と展望について学び、道徳教育に対する自らの考えを深め、説明することができること。 2. 道徳教育の授業理論を理解し、実践的な指導力を身につけること。 3. さまざまなかたちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 4. 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおしてみること、そして自分が関わっていると感じられる社会の外延を広げられるようになること。 5. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメントは毎週課す。基本的には、次回の講義内容にかかわるテキストを精読し概要を把握すること。そして、授業内容について自分の考えや意見をまとめること。加えて、4回のレポートを課す。学級における道徳の指導計画(1回)と道徳科学習指導案(3回)を完成すること。		
10. 教科書・参考書・教材	『道徳科で育む 21 世紀型道徳力』 田沼茂紀 北樹出版		
11. 成績評価の方法	小テスト 3 回 60% 学校における道徳教育の意義や目標、その指導内容や方法について理解できている。 レポート 20% 道徳教育に関する基本的事項を理解し、学習指導案を作成することができる。 授業参画度 20% 授業に毎回出席し、発言等も積極的にを行い、意欲的に取り組んでいる。 尚、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	教職として必須な科目であり、道徳教育の実際について具体的に踏み込んでいく授業となる。道徳教育は全教育活動を通じて行うものであり、教科教育を基底で支える教育活動でもあるので、積極的な授業参加を心がけてほしいと期待している。また、平成 31 年度から道徳が特別の教科(中学校 小学校 30 年度より)となり、ますます注目を集めている。教育の目的が「人格の完成」ならば、まさに、道徳は教育の中心的な存在である。本講座は道徳教育について学ぶとともに、自分の生き方についても、しっかりと考える時間にして欲しい。		
13. オフィスアワー	初回講義の際に連絡先・連絡方法を伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	道徳教育の本質 「道徳とは何か」「倫理と道徳」「法と道徳」「道徳教育とは何か」などに関する概要理解について(本講義での学びを深めるためのオリエンテーションも含む)	事前学習	道徳とは何か、何故学校において道徳教育を行うのかのイメージを持つ
		事後学習	アサイメント+道徳とは何かを理解し、学校教育における道徳教育の意義や目的を理解する。
第 2 回	道徳教育 I 道徳教育の目標、学校における道徳教育の目標と方法、道徳科の位置付けについて。	事前学習	テキストの第 4 章 1 pp.106~123 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+道徳教育の目標と方法、教育課程での道徳科の位置づけについて整理する。
第 3 回	道徳教育 II 学習指導要領と道徳教育、道徳教育における系統性・発展	事前学習	テキストの第 1 章 pp.10~28 を読み、概要を把握しておく。

	性、学習指導要領に示された道徳教育の意義とその内容構成について。	事後学習	アサイメント+道徳科の特質についてまとめる。
第 4 回	道徳教育史 I 第二次世界大戦前における修身の軌跡(学制発布、教学聖旨、教育勅語、大正デモクラシーファシズム等)について。	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.123~132 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+戦前の道徳教育史の流れを確認、把握する。
第 5 回	道徳教育史 II 第二次世界大戦後の道徳教育の軌跡(修身の停止、公民科構想、全面主義道徳教育、道徳の時間の特設等)について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.132~140 と第 2 章 4 pp.44~49 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+戦後の道徳教育史の実態を確認、把握する。
第 6 回	道徳性の発達理論 道徳性と社会性、道徳性の発達理解(フロイト、ピアジェ、コールバーグ、ブル等の道徳性発達理論)について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.141~152 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+各研究者の論についてまとめる。
第 7 回	道徳教育の方法理論 I インカレケーションの道徳教育(価値の内面化による道徳授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.152~155 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+インカレケーションの方法論による授業のイメージを掴む。
第 8 回	道徳教育の方法理論 II 自己発見の道徳教育(価値の明確化による道徳科の授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.155~159 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+価値の明確化の方法論による授業のイメージを掴む。
第 9 回	道徳教育の方法理論 III 判断力を高める道徳教育(コールバーグ理論による道徳科の授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.160~163 を読み、概要を把握しておくこととテキスト p150 の道徳教材ハインツのジレンマを精読しておくこと。
		事後学習	アサイメント+モラルジレンマを理解し、授業展開のイメージを掴む。
第 10 回	学校における道徳教育の実際 学校における道徳教育の構造、道徳科の特質、道徳科と各教科との関連、道徳教育の全体計画、学級における指導計画、家庭や地域との連携などについて。小テスト実施	事前学習	テキストの第 2 章 pp.33~44 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+学級における道徳の指導計画の完成
第 11 回	中学校における道徳科の授業の実際 I 中学校における道徳教育や道徳科の授業の進め方の実際(年間指導計画、道徳科学習指導案を通して)について。	事前学習	テキストの第 3 章 pp.54~70 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+年間指導計画の作成手順や学習指導案の項目の理解をする。加えて、学習指導案のイメージを掴む。
第 12 回	中学校における道徳科の授業の実際 II 中学校における道徳科の授業の進め方の実際(道徳科学習指導案の構成項目やその作成手順など)について。	事前学習	道徳教材「ネット将棋」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.87~103 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「ネット将棋」の指導案を完成する。
第 13 回	中学校における道徳科の授業の実際 III 中学校における道徳教育や道徳科の授業の進め方の実際(教材分析の方法と道徳科学習指導案作成、道徳の評価方法)について。	事前学習	道徳教材「二通の手紙」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.71~80 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「二通の手紙」の指導案を完成する。
第 14 回	中学校における道徳科の授業の実際 IV 中学校における道徳教育や道徳科の授業の進め方の実際(道徳科学習指導案、道徳教育・道徳科の評価、模擬授業)について。	事前学習	テキストの第 3 章 pp.81~87 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「心の中の忘れ物」の指導案を完成する。
第 15 回	本講義のまとめと評価 道徳教育を取り巻く現代課題(児童生徒の問題行動と道徳教育、価値相対主義や文化的相対主義の克服等、道徳教育と生命倫理・環境倫理等)について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 6 章 1pp.174~179 と第 6 章 1pp.186~191 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	全 15 回の授業を通じて、学んだこと、学びきれなかったことを振り返り今後の勉学に生かす。

1. 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC3412 EDTE2307
2. 授業担当教員	井田 延夫		
4. 授業形態	◇講義、演習、模擬実習、グループワーク、ディスカッションなど 例：導入：講義によって課題の把握→展開（演習）：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議内容を含め講義のまとめ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	◇ 特別活動は、児童の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築き、いじめ問題などに対する予防的な役割を果たすなど、児童の成長に欠かせない教育活動である。そこで、特別活動の意義や目標を確認し、その背景となる理論を理解するとともに、実践的な指導の在り方を身につけさせる。 ◇ 特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び（概念受容型の学び）と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。 ◇ 演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからである。また、教科書もなく学級担任としての力量が学級担任になると即刻問われるからである。		
8. 学習目標	◇ 特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 ◇ 特別活動が重視する「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」を具体的な活動例『よりよい人間関係づくりを目指した体験活動、生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動』などを通して理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになる。 ◇ 小学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案（展開案）を作成し、班内及び全員の前で発表できるようにする。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	◇ アサイメントは、毎時間課します。 ◇ レポート課題は、「特別活動の特質」「小学校特別活動の歴史と挑戦したい学級活動」「私が挑戦する学級活動展開案」などとする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ◇『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版、平成 20 年 8 月。 ◇高橋哲夫、原口盛次、井田延夫編『特別活動研究 第三版』教育出版。 【教材】 ◇ プリント教材は、毎時の授業時に配布します。		
11. 成績評価の方法	◇ 日常の授業の取組・・・・・・・・総合点の 30% ※ 授業は全部出席すること。 (15 回中、4 回以上の欠席は単位不認定となります。なお、遅刻は 1 回につき 2 点、欠席は 1 回につき 5 点の減点とします。) ◇ アサイメント、レポート・指導案の作成度など・・・・・・・・総合点の 50% ◇ 復習度・資料整理活用度点検・・・・・・・・総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育や特別活動に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (学習目標等) 特別活動の特質と方法原理 特別活動の構成と基本的な用語の理解	事前学習	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』を概観してくる
		事後学習	教科書 pp.1～2 で、特別活動の構成と基本的な用語等を整理する
第 2 回	特別活動の目標 特別活動の歴史からみた特質 教育内容としての特別活動の特質 レポート課題 1 の理解とその構想開始 ＜課題 1 「特別活動の特質について、このように考えます!」＞ ＜第 4 回の授業時に提出＞	事前学習	解説書 pp.8～13 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.3～35 で復習し、レポート課題 1 「特別活動の特質」についての考えを整理し始める
第 3 回	特別活動の教育的意義、 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連 他の教育内容・方法との関連 1 (各教科の学習、外国語活動、道徳教育)	事前学習	解説書 pp.15～27 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.36～42 で、特別活動の教育的意義について、復習する
第 4 回	他の教育内容・方法との関連 2 (総合的な学習の時間、生徒指導) レポート課題 2 の理解とその構想開始 ＜課題 2 「小学校特別活動の歴史と私が挑戦したい学級活動 (2) の共通事項とその理由をこのように考え	事前学習	解説書 pp.2～7、pp.27～31 を熟読してくる レポート 1 を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.42～45 で復習する レポート課題 2 の構想を練る

	ています!」> <第6回の授業時に提出>		
第5回	学級活動の指導(目標、学年ごとの内容、共通事項の理解、展開の基盤となる考え方、指導実践例)	事前学習	解説書 pp.32~40 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.56~64 で復習をする
第6回	学級活動の指導計画(学校としての年間指導計画、学級ごとの年間指導計画、一単位時間の指導計画) レポート課題3の理解とその構想開始 <課題3 「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」> <第8回の授業時に提出>	事前学習	解説書 pp.40~49 を熟読してくる レポート2を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.90~91, pp.124~125, pp.136~146 で復習し、レポート課題3の構想を練る
第7回	学級活動の活動形態(話し合い活動、係活動、集会活動) 計画委員会の在り方とその指導、係活動と当番活動の違い、集会活動の指導	事前学習	解説書 pp.48~56 を熟読してくる
		事後学習	「私がつくるベンチャー企業」の構想を練る
第8回	「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」の班内発表、班代表の選出	事前学習	解説書 pp.32~47 を改めて熟読してくる レポート3「私が挑戦する学級活動の展開案」を作成してくる
		事後学習	レポート課題3の修正・完成作業をする
第9回	「私たちがつくるベンチャー企業」設立会議、会社説明会 学級生活を豊かにする係活動の運営(実践例から学ぶ)	事前学習	解説書 p.55 の「発達の段階に即した指導の目安」を熟読してくる 「私を作るベンチャー企業」を考えてくる
		事後学習	係活動の在り方を再確認し、当番活動との違いを整理する
第10回	「私が挑戦する学級活動(2)の展開案」の班代表発表会 自己決定したものが「画餅」とならないための指導 目標達成への意欲を高める事後指導	事前学習	教科書 pp.124~140 で予習してくる
		事後学習	学級活動に関する学びの整理とまとめをする
第11回	児童会活動の指導(目標、内容、形態、指導計画・活動計画など)、 児童会活動担当として、子どもへ「仕掛けたい企画」発表 児童会本部が行う「いじめ防止活動」の実践例 七夕集会における短冊作成に関する指導(生き方教育)	事前学習	解説書 pp.64~75 を熟読してくる 「児童会担当として仕掛けたい企画」を考えてくる 七夕飾りの短冊を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.64~69, pp.105~111 で復習をする
第12回	クラブ活動の指導(目標、内容、組織、指導計画・活動計画など)、 クラブ活動の指導時数、 「料理クラブ」担当教師としての指導上の留意事項	事前学習	解説書 pp.76~87 を熟読してくる 「料理クラブ顧問へのアドバイス」を考えて来る
		事後学習	教科書 pp.69~71 で復習をする
第13回	学校行事の指導(目標、内容など)、学校行事の事前指導、 学校行事の授業計画 「こんな学校行事を提案します」の発表	事前学習	解説書 pp.88~103 を熟読してくる 「こんな学校行事提案します」を考えて来る
		事後学習	教科書 pp.71~78 で復習をする
第14回	特別活動の授業時数 特別活動の指導計画(全体計画、年間指導計画) まとめ(復習度、資料整理活用度点検)	事前学習	教科書 pp.50~55 の熟読と、それまでの学習を復習し資料を整理してくる
		事後学習	解説書 pp.104~109 で復習をする
第15回	特別活動の評価、全体の振り返り、卒業式に関わる主な指導内容、模擬卒業式の実践	事前学習	解説書 pp.122~123 を熟読してくる
		事後学習	解説書 p.121 で復習をする 特別活動を重視する教師となるべく決意と覚悟をする

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語 / 日本の文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1717 GECM1727
2. 授業担当教員	内田 力			
4. 授業形態	講義、ペアワーク、グループディスカッション	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この授業は、本学で学ぼうとする留学生の日本語運用能力のレベルアップと日本文化についての理解をより一層深めることを目的としています。特に中・上級学習者の知的好奇心に答えるため、女性、子ども、若者、働く人々の実態に関する資料と読み物を教材として用い、日本経済の変遷、教育制度、ファッション、「携帯」文化、就業実態といった現代日本社会の多様な側面について学んでいきます。毎回の授業は、これらのトピックについての資料の読解、ディスカッション、作文、そして語彙・語法に関する小テストで構成されます。また学期中を通して、各自で興味のあるテーマについての研究を進め、その成果を口頭で発表し、最終レポートにまとめます。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の運用能力を一段階上へあげ、日本文化・社会に関する理解を深める。 2. 日本語で書かれた説明文や資料を正確に理解し、自分の言葉で要約できるようになる。 3. 議論を進めるために適切な質問ができるようになる。 4. 日本語での口頭発表を行う能力を養う。 5. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働して作業が出来るようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①日本語能力向上のために、テキストの語彙・表現について小テストを毎回実施する。 ②教科書の担当部分の読解資料を読んで、授業中に内容の要旨や自分の意見を発表する。 ③授業中に配布するワークシートを用いて、事前学習・事後学習を行なう。 ④テキストで学んだテーマのなかから興味をもった事柄について、資料を調べたうえで、口頭発表を行い、レポートにまとめる。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 東京大学 A I K O M 日本語プログラム、近藤安月子・丸山千歌編『中・上級日本語教科書 日本への招待』(第2版) 東京大学出版会。 同『中・上級日本語教科書 日本への招待【予習シート・語彙・文型】』(第2版) 東京大学出版会。 *その他授業中にプリント資料を配布します。</p> <p>【参考書】 西口光一『新装版 基礎日本語文法教本』(英語版・中国語版・ポルトガル語版)、アルク。</p>			
11. 成績評価の方法	毎回の小テスト 30% 毎回の議論での発言・受講態度 20% レポート 30% 口頭発表会での発表 20% *本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。			
12. 受講生へのメッセージ	日本語を身につけるためには日々の努力が必要です。事前学習と事後学習は欠かさず取り組んで、毎回の授業、とくにディスカッションには積極的に参加してください。そうすれば、かならず日本語の能力は向上して、大学での授業がもっと楽しいものになります。 また、本授業では意見を発言する機会が多くありますが、意見の内容だけでなく、日本語で考えて伝えようとする態度や、他人の意見を真剣に理解しようとする姿勢を重視します。ぜひ楽しんでディスカッションに参加してください。 *授業中の携帯電話(メールなど)や私語(とくに日本語以外での会話)、飲食はしないように。			
13. オフィスアワー	授業時間内に説明します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1・2 回	イントロダクション・自己紹介 日本語能力の確認	事前学習	現在の日本語能力についての自己分析。	
		事後学習	日本語能力の得意・不得意を特定し、半年間の学習目標を立てる。	
第 3・4 回	はじめに イメージの日本・日本人—ステレオタイプへの挑戦	事前学習	日本文化・社会、日本人のイメージを表現していると思う写真や絵、イラストを用意する(自作しても可)。	
		事後学習	日本社会や日本人に関する疑問点と今後理解を深めたい側面をリストアップする。	
第 5・6 回	女性の生き方① (資料 1・2)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	日本の働く女性について自国と比較して分析する。	
第 7・8 回	女性の生き方② (資料 3・4・5、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	女性の生き方・働き方と社会との関係について自国と比較しながら分析する(ミニレポート①: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート①or②を提出	
第 9・10 回	子どもと教育① (資料 1・2)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	生徒指導や不登校について日本と自国とを比較して分析する。	
第 11・12 回	子どもと教育② (資料 5・6、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	生徒指導や不登校など、教育現場の課題について、自国と比較しながら分析する(ミニレポート②: 800 字程度)。 ⇒ミニレポート①or②を提出	
第 13・14 回	若者の感性① (資料 1・2・3)	事前学習	予習シート。	
		事後学習	現代の若者の言動やマナーについて自国と比較して分析す	

			る。
第 15・16 回	若者の感性② (資料 4・5、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。
		事後学習	現代の若者について自国と比較して分析する(ミニレポート③:800字程度)。 ⇒ミニレポート③or④を提出
第 17・18 回	仕事への意識① (資料 1・2・3)	事前学習	予習シート。
		事後学習	就業・企業活動の実態について自国と比較して分析する。
第 19・20 回	仕事への意識② (資料 4・5・6、話そう・書こう)	事前学習	予習シート。
		事後学習	職業の考え方や企業文化について自国と比較しながら分析する(ミニレポート④:800字程度)。 ⇒ミニレポート③or④を提出
第 21・22 回	レポートの書き方、 研究プロジェクトの進め方	事前学習	レポートのテーマを考える。
		事後学習	レポートのドラフトを作成する。
第 23・24 回	レポートの内容発表、 質疑応答、コメント、内容修正	事前学習	レポートの内容について紹介できるように準備する。追加の課題と疑問点をまとめておく。
		事後学習	授業中のディスカッションとコメントをもとにして、口頭発表会にむけて準備を進める。
第 25・26 回	口頭発表会にむけた方向づけ、役割分担	事前学習	これまでに取り扱ったテーマから興味をもったものを選んで、さらに調査したい項目をまとめる。
		事後学習	口頭発表にむけて、資料を調べてスライドを作成する。
第 27・28 回	口頭発表会、質疑応答、コメント	事前学習	口頭発表の準備・リハーサルをする。
		事後学習	口頭発表へのコメントをもとに、プレゼンテーションの改善点をあきらかにする。
第 29・30 回	レポートの提出、 これまでの内容の振り返り	事前学習	これまで学習した教科書の内容を復習する。最終レポートを作成する。
		事後学習	まとめのテストでできなかったところを復習し、日本語能力の向上のために今後できることを把握する。

1. 科目名 (単位数)	乳児保育Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3136
2. 授業担当教員	浅野 菜津子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「乳児保育」で学習したことを基礎とし、保育所及び乳児院、児童養護施設等における、乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について実践的な視点から具体的・総合的に理解する。			
8. 学習目標	1. 乳児保育の経緯と現状について理解し、その役割について説明することができる。 2. 3 歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える生活や遊び・援助の仕方について計画し、実践することができる。 3. 乳児が健康で楽しく、安心して生活できる環境について保育施設および家庭のあり方について考察することができる。 4. 職員や保護者との連携の重要性を理解し、育児相談への対応の仕方について実践することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・授業内容に関する振り返りの課題を出すので、期限を守って提出すること。 ・乳児期に多い育児相談の内容について調べ、その相談にどう応じたらよいかをまとめる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】乳児保育研究会編著『乳児の保育新時代 (資料でわかる)』ひとなる書房。 【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーバル館 その他、授業の中で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	授業態度 (発言等) 20% 提出物 (課題等) 20% 発表 20% 期末試験 40%			
12. 受講生への メッセージ	乳児保育Ⅱでは乳児保育で学習したことを基礎に、より実践的な内容について学びます。普段から、赤ちゃん連れの親子の様子など気にかけて見ておいてください。子どもや保育に関するニュースや社会の動向に興味関心を持ち、また自分の住む地域の子育て・保育環境についてもアンテナをはって情報を集め、積極的に学ぶように心がけてください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 「乳児保育」の振り返り	事前学習	「乳児保育」で学んだことの復習をしておく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 2 回	乳児の発達と保育	事前学習	テキスト pp10~30 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 3 回	乳児保育の内容と方法 基本的な生活習慣を中心に	事前学習	テキスト pp34~56 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 4 回	乳児保育の内容と方法 遊びを中心に	事前学習	テキスト pp58~77 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 5 回	保育の記録と計画 子どもを理解する	事前学習	テキスト pp80~87 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 6 回	保育の記録と計画 保育課程と指導計画	事前学習	テキスト pp88~94 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 7 回	指導計画と実践 あそびの援助と環境	事前学習	小麦粉粘土の材料等の準備をする	
		事後学習	振り返りの課題	
第 8 回	指導計画と実践 生活の援助と環境	事前学習	おむつ替え、着脱の援助について調べておく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 9 回	乳児保育と子どもの発達・親としての発達	事前学習	テキスト pp100~119 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 10 回	育児相談と子育て支援の実践	事前学習	乳児期に多い育児相談の内容について調べる	
		事後学習	振り返りの課題	
第 11 回	保育現場での育児相談 連絡ノートの活用	事前学習	保育所保育指針解説書第 6 章を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 12 回	保護者との連携 グループごとの(または個人による)課題発表	事前学習	発表に向けて準備をしておく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 13 回	保護者との連携 グループごとの(または個人による)課題発表	事前学習	発表に向けて準備をしておく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 14 回	保育者のあり方	事前学習	テキスト pp120~131 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 15 回	乳児保育の役割と課題、まとめ	事前学習	テキスト pp132~162 を読んでおく	
		事後学習	今まで学習したことを復習する	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	認知症の理解Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3113
2. 授業担当教員	先崎 章			
4. 授業形態	講義、質疑応答形式を併用		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>認知症の理解Ⅰをふまえ、認知症の医学的、行動的、心理的、社会福祉的概要の理解をさらに深めていきます。将来社会人となってから、他の職員に引けをとらないだけの知識の習得を目指します。老人医療、地域社会、精神保健および精神保健福祉制度についても関心がいくように、話題を展開します。すなわち、精神疾患(含、認知症)の増加、障害者概念の広がりにより、平成 25 年度から施行された新たな医療計画に 5 疾病 5 事業の一つとして精神疾患(含、認知症)が加わり、また同時に(介護保険法に準ずる形で)地域障害者総合支援法がスタートしました。最近の福祉・医療の概要、動向についても理解を深めていきます。</p> <p>原則として教科書『認知症ケア標準テキスト 改訂・認知症ケアの実際Ⅱ：各論』日本認知症ケア学会編(株)ワールドプランニングの内容に沿って学習を進めていきます。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士として必要な認知症の知識を身につける。 2. 脳の機能や老人の心理や精神疾患についての理解を深め、説明することができる。 3. 認知症に付随する身体症状や介護についての視点も身につける。 4. 家族の力や地域資源を活かす視点を身につける。 5. 認知症や高齢者に関する制度の理解を深め、説明することができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポートを作成し提出する。詳細は授業の中で説明します。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】日本認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト 改訂 4 版・認知症ケアの実際Ⅱ：各論』(株)ワールドプランニング。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】山口晴保編『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第 2 版』協同医書出版社。</p> <p>『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規。</p> <p>東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>毎回の提出物、授業態度 50% (おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)</p> <p>課題レポート、プレゼンテーション 10% (詳細は講義の中で説明します)</p> <p>復習テスト(随時実施)の総計点数 40% (事前に範囲・形式を予告します。)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>基本的な知識を習得するためには、地道な学習活動と基本事項を記憶することが必要です。認知症ケア専門士認定試験は実務経験 3 年以上必要な民間資格で、卒業後 3 年経過しないと受験できません。しかしその認定試験問題を意識することによって、具体的な学習到達レベルを、各自が把握することができます。この試験の「認知症ケアの基本」および「認知症のケアの実際Ⅱ：各論」分野の合格レベルを目指します。この認知症ケア専門士認定試験用の教科書を使用します。</p>			
13. オフィスアワー	木曜日(授業、会議のない時間帯)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、認知症Ⅰの復習	事前学習	「認知症Ⅰ」配布プリントの復習	
		事後学習	復習配布プリントの復習	
第 2 回	行動・心理症状(BPSD)とその対応(その 1)	事前学習	教科書 pp.109~145 を読んでくる	
		事後学習	BPSD についての配布プリントの復習	
第 3 回	行動・心理症状(BPSD)とその対応(その 2)	事前学習	教科書 pp.145~172 を読んでくる	
		事後学習	BPSD についての配布プリントの復習	
第 4 回	リハビリテーション(その 1)	事前学習	教科書 pp.201~241 の興味ある箇所を読んでくる	
		事後学習	リハビリについての配布プリントの復習	
第 5 回	リハビリテーション(その 2)	事前学習	教科書 pp.201~241 を読んでくる	
		事後学習	リハビリについての配布プリントの復習	
第 6 回	前半までのまとめ	事前学習	第 1~5 回の配布プリントの復習	
		事後学習	BPSD・リハビリについてまとめる	
第 7 回	薬物療法の知識	事前学習	教科書 pp.177~196 を読んでくる	
		事後学習	薬物療法についての配布プリントの復習	
第 8 回	非薬物療法の知識	事前学習	教科書 pp.247~261 を読んでくる	
		事後学習	非薬物療法についての配布プリントの復習	
第 9 回	施設・在宅における環境支援	事前学習	教科書 pp.265~286 を読んでくる	
		事後学習	環境支援についての配布プリントの復習	
第 10 回	身体的兆候の理解と対応	事前学習	教科書 pp.3~104 を読んでくる	
		事後学習	身体的兆候についての配布プリントの復習	
第 11 回	中間までのまとめ	事前学習	第 6~10 回の配布プリントの復習	
		事後学習	薬物/非薬物療法・環境支援・身体的兆候についてまとめる	
第 12 回	認知症疾患治療ガイドライン 2010 ケアの実践的プロセス・アセスメント方法	事前学習	認知症疾患治療ガイドラインを調べる	
		事後学習	実践的プロセス・アセスメント方法についての配布プリントの復習	
第 13 回	家族への支援・チームアプローチ、介護と ICF の視点	事前学習	ICF について調べる	
		事後学習	チームアプローチについての配布プリントの復習	
第 14 回	全体のまとめ	事前学習	第 1~13 回の配布プリントの復習	
		事後学習	認知症理解について学んだことを一つずつ確認する	
第 15 回	認知症ケアにおける倫理、ターミナルケア	事前学習	ターミナルケアについて考えてみる	
		事後学習	教科書を再度、総復習する	

1. 科目名 (単位数)	認知心理学 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3309 PSMP2318												
2. 授業担当教員	加藤 宏一														
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション	5. 開講学期	春期												
6. 履修条件・ 他科目との関係															
7. 講義概要	認知心理学は、“知”の働きを中心にして、人間の心のしくみを、情報処理という枠組みにもとづいて明らかにしていこうとする心理学の一分野である。本講義では、特に知覚、注意、記憶、言語、思考などの領域を概観する。また、心の働きを科学的に解明しようとする手法や考え方について学習するとともに、上記領域における最新の知識を習得する。														
8. 学習目標	1. 認知心理学における基礎的な知識を習得する。 2. 認知心理学の研究の方法を理解し、説明することができる。 3. 日常生活の身近な問題に、習得した認知心理学的手法を適用することができる。														
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	学習内容や演習課題のまとめとして、随時、小レポートを書いてもらう。														
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】仲 真紀子 (編著)『認知心理学 心のメカニズムを解き明かす』ミネルヴァ書房、2010 年。 【参考書】必要に応じて他のテキストや論文を授業で紹介する。														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>受講態度</td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループ課題</td> <td>20%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達度確認試験・課題</td> <td>50%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。</td> </tr> </table> <p>なお、遅刻、欠席、早退は、授業態度点において減点します。</p>			受講態度	30%		グループ課題	20%		到達度確認試験・課題	50%		合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。
受講態度	30%														
グループ課題	20%														
到達度確認試験・課題	50%														
合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。													
12. 受講生への メッセージ	人間の「知」を研究対象とする認知心理学は、皆さんが心理学に対して抱いているイメージ(「心」を対象とした学問)とは随分と違うかも知れません。内容的にも、やさしい領域ではありません。記憶、思考、言語といった「知」のメカニズムについて学びたい、という意欲的な受講生をお待ちしています。														
13. オフィスアワー	授業時に通知する。														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	イントロダクション: 認知心理学とは何をどのように研究する学問か	事前学習	テキストの準備												
		事後学習	第 1 回の講義内容をまとめる。												
第 2 回	感覚と知覚のメカニズム①: 視覚	事前学習	テキスト 1 章を読む。												
		事後学習	第 2 回の講義内容をまとめる。												
第 3 回	感覚と知覚のメカニズム②: 基本的な法則と理論	事前学習	テキスト 3 章を読む。												
		事後学習	第 3 回の講義内容をまとめる。												
第 4 回	記憶の分類とモデル	事前学習	テキスト 4 章を読む。												
		事後学習	第 4 回の講義内容をまとめる。												
第 5 回	短期記憶とワーキングメモリ	事前学習	テキスト 4 章の再読												
		事後学習	第 5 回の講義内容をまとめる。												
第 6 回	長期記憶: 長期記憶の分類・特徴	事前学習	テキスト 5 章を読む。												
		事後学習	第 6 回の講義内容をまとめる。												
第 7 回	学習と記憶、日常場面の記憶など	事前学習	テキスト 5 章の再読												
		事後学習	第 7 回の講義内容をまとめる。												
第 8 回	中間まとめ: 感覚、知覚、意識、記憶	事前学習	テキスト 1-5 章の再読												
		事後学習	第 8 回の講義内容をまとめる。												
第 9 回	会話、発話、面接法	事前学習	テキスト 6 章 (pp.1-21)を読む。												
		事後学習	第 9 回の講義内容をまとめる。												
第 10 回	文章の理解: 書くこと・考えること	事前学習	テキスト 7 章 (pp.1-21)を読む。												
		事後学習	第 10 回の講義内容をまとめる。												
第 11 回	思考と問題解決	事前学習	テキスト 8 章を読む。												
		事後学習	第 11 回の講義内容をまとめる。												
第 12 回	モノのデザインと認知心理学: アフォーダンスとユーザビリティ	事前学習	テキスト 9 章を読む。												
		事後学習	第 12 回の講義内容をまとめる。												
第 13 回	メタ認知: モニタリングとコントロール	事前学習	テキスト 10 章を読む。												
		事後学習	第 13 回の講義内容をまとめる。												
第 14 回	感情と認知	事前学習	テキスト 11 章を読む。												
		事後学習	第 14 回の講義内容をまとめる。												
第 15 回	半期の講義の振り返りと到達度の確認	事前学習	半期の講義内容の要点をまとめておく。												
		事後学習	理解が不十分な事柄の復習												

1. 科目名 (単位数)	発達と老化の理解 I (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2110
2. 授業担当教員	中里 克治			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	介護福祉士は、あらゆる年齢の障害者の介護を行う。したがって、生涯発達について、胎児期から老年期にいたるまでのすべての過程を学ぶ必要がある。正常な発達の学びの上に障害児の心理を学ぶことが大切である。そこで、本講義では、胎児期・乳児期から中年期までの発達について学ぶ。			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から青年期に至るまでの過程を中心に学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解し、説明できるようになる。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学んでゆく。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	随時、課題を出す。最終のレポートを書いてもらう。 最終レポート課題：青年期の特長について、青年期前期と青年期後期を区別し、アイデンティティの獲得とモラトリアムの意味についての考察をふくめながら、2000字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 無藤ほか編『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	評価方法は、レポート 50%、日常の授業態度 (質問の受け答えなど) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	前半で学ぶことは皆さんがすでに経験したことであるが、後半で学ぶ事はこれから体験することである。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。家族など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	発達とは。胎児期と乳児期	事前学習	受精・出産から歩くまでの成長について調べてまとめる。pp.2-39	
		事後学習	基本的信頼はどのように獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 2 回	幼児期初期 (よちよち歩き期)	事前学習	歩行と移動能力、トイレトレーニングについて調べてまとめる。pp.38-39	
		事後学習	自律はどのように獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 3 回	幼児期	事前学習	遊びの発達について調べてまとめる。pp.72-75	
		事後学習	自主性はどのように獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 4 回	児童期	事前学習	小学校入学とはどういうことか調べてまとめる。pp.86-87	
		事後学習	勤勉性はどのように獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 5 回	こども期の発達 (まとめ)	事前学習	子どもと大人はどう違うか考えてまとめる。子ども特徴を考え、それを大人であることの定義と比べてみる。大人の定義は自分で考えてみる。	
		事後学習	大人になるとはどういうことかもう一度考え直してまとめる。	
第 6 回	青年期前期	事前学習	第 2 次性徴の発現とそれに伴う心の変化について調べてまとめる。pp.105-107	
		事後学習	大人の体と大人と子どもの両方の心を持つことのアンバランスについて調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 7 回	青年期後期	事前学習	仲間と自分、自分の世界について考えてまとめる。前回のプリントを参考にして	
		事後学習	アイデンティティの獲得はできるか、自分はどの常態化について考えてまとめる。	
第 8 回	成人初期	事前学習	大人になるとはどういうことか考えてまとめる。社会の中での役割と責任を中心に。	
		事後学習	親密性はどうか獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 9 回	中年期 1	事前学習	親になるということについて考えてまとめる。pp.128-131	
		事後学習	生殖性はどうか獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 10 回	中年期 2	事前学習	中年期の危機について調べてまとめる。pp.142-143	
		事後学習	中年期の危機、停滞について調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 11 回	成人期 (まとめ)	事前学習	pp.168-169	
		事後学習	中年期役割と発達課題「生殖性」について調べてまとめる。生殖性に含まれる狭い意味での生殖性、生産性、創造性にかけて考えてみる。危機である停滞とはどう言うものか。	
第 12 回	発達障害：自閉症スペクトラム	事前学習	自閉症について調べてまとめる。p.168	
		事後学習	高機能自閉症について調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 13 回	発達障害：ADHD と学習障害	事前学習	自閉症以外の発達障害について調べてまとめる。pp.168-169	
		事後学習	ADHD と学習障害の生きにくさについて考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 14 回	知的障害と知能の問題	事前学習	知的障害の原因について調べてまとめる。p.168	
		事後学習	知的障害と正常知能は連続しているか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第 15 回	まとめ	事前学習	発達障害はどんな障害か、これまでの授業を振り返り、まとめる。主にプリントを参考にして	
		事後学習	発達障害を持って生きることについて考えてまとめる。主にプリントを参考にして	

1. 科目名 (単位数)	犯罪心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3359
2. 授業担当教員	高木 俊彦		
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、パーソナリティ要因としては行為障害や人格 (パーソナリティ) 障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、パーソナリティ要因、社会的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通じ、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各自又はグループごとに犯罪事例のレポートを作成し、授業中に発表する。 グループ研究と演習 (ケーススタディ等) を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 越智啓太著『犯罪心理学』サイエンス社。講師作成の資料		
11. 成績評価の方法	授業中の態度・授業 (グループ研究も含む) への参加度、研究課題への回答など (40%) レポート提出・小テスト (受講生が多い場合は授業期間終了後に期末試験を行う) (60%) 必要に応じ各自が作成した学習ノート提出させ、評価する。 以上を総合して行う。		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・ネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会事象である非行や犯罪問題について、その心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたい。 2 授業に集中すること。私語、携帯・スマホの ON、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 		
13. オフィスアワー	初回の授業開始時 (初回授業) に担当教員からお知らせする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーションー犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか	事前学習	各受講生 1 例ずつ最近印象に残った犯罪について調べる。
		事後学習	個人又はグループで発表する犯罪事例について調査・研究・取りまとめの計画を立てる。
第 2 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の生物学的原因論	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.1~22) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の生物学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 3 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の心理学的原因論	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.23~44) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の心理学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 4 回	人はなぜ犯罪者になるのかー犯罪の社会学的原因論	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.45~62) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪の社会学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 5 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (1) 暴力犯罪	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.63~84) を精読して講義に臨む。
		事後学習	暴力犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 6 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (2) 性犯罪	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.85~102) を精読して講義に臨む。
		事後学習	性犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 7 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (3) DV、ストーキング、虐待	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.103~126) を精読して講義に臨む。
		事後学習	DV、ストーキング、虐待について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 8 回	犯罪の種類と犯罪の心理 (4) 窃盗、強盗、放火	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.127~148) を精読して講義に臨む。
		事後学習	窃盗、強盗、放火について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 9 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループデ	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。

	ディスカッション、講師によるコメント等)	事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 10 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 11 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 12 回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 13 回	犯罪捜査	事前学習	テキスト第 8 章 (pp.149~170) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪捜査について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 14 回	防犯	事前学習	テキスト第 9 章 (pp.173~192) を精読して講義に臨む。
		事後学習	防犯について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第 15 回	犯罪者の処遇・社会復帰 (矯正・保護)	事前学習	テキスト第 10 章 (pp.193~214) を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪者の処遇・社会復帰 (矯正・保護) について、学んだことを学習ノートにまとめる。
期末試験 (受講生多数の場合等に実施)			

1. 科目名 (単位数)	ヒューマンメディア (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3334
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	人間は感覚器官を通じて外界から情報を入力し、知覚・認識をすることで外界の現象を捉え、それに対する出力を行っている。本講義では、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚と、身体の制御に関わる平衡感覚について、そのしくみや特性について言及し、その理解を通して人間の生体情報がどのようにメディア技術に活用されているのかを考える。また、ヒューマンインタフェースの観点から、人が使いやすいデザインやその評価についても言及する。			
8. 学習目標	人間の生体特性とそれに関わる事象や応用事例を理解し、それらがどのように日常生活や情報社会に活用されているのかを理解することが、本講義の目標である。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	学習テーマごとの課題に対して、調べたり考えたりして内容をまとめる。また、プレゼンテーションの準備あるいはレポートの作成を行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末課題 30%			
12. 受講生への メッセージ	我々が日常的に使っているパソコンやスマートフォン、携帯電話、テレビ、車、自動販売機など、多くのものは、それらを使う人間の特性を考慮して作られています。そうした観点で身の回りのものを見てみると新しい発見があるかもしれません。講義でもいくつかの例を紹介したいと思っています。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：講義内容の確認、 履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	「人とメディア」という観点から、自分とメディアとの係わり について考える。	
		事後学習	興味を持ったことについて調べる。	
第 2 回	人体の構造：人体寸法とパーセンタイル	事前学習	自分の身の回りのもので、人体の大きさを考慮して作られてい るものを探して考察をする。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 3 回	人間の情報処理：感覚、知覚、認識	事前学習	感覚、知覚、認識の違いについて調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 4 回	視覚：眼光学系、視覚情報処理	事前学習	水晶体調節について調べ、物を明瞭に見る仕組みについて考え る。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 5 回	視覚：視野、眼球運動	事前学習	視野をキーワードとして、その特徴をまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 6 回	視覚：空間周波数特性、時間周波数特性	事前学習	周波数について調べて理解する。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 7 回	視覚：空間知覚、両眼立体視	事前学習	なぜ奥行きを感じるのかを考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 8 回	視覚：図形知覚、錯視	事前学習	ミュラー・リヤー錯視について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 9 回	視覚特性とディスプレイ技術	事前学習	ハイビジョン映像の解像度と臨場感について考察する。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 10 回	聴覚：構造と機能	事前学習	可聴域について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 11 回	聴覚特性とマルチメディアへの応用	事前学習	音を活用した製品について、聴覚特性の観点から考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 12 回	嗅覚と味覚：構造と機能、マルチメ ディア応用	事前学習	味覚について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 13 回	触覚と平衡感覚：構造と機能、マルチメ ディア応用	事前学習	日常生活において平衡感覚が関係している例や状況を考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 14 回	ヒューマンインタフェース	事前学習	パソコンのキーボードの使いやすさについて、人体寸法の観点 から考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 15 回	生体信号による評価法	事前学習	人間工学やヒューマンインタフェースの分野において、評価す るとはどのようなことなのかを考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1326
2. 授業担当教員	二宮 紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	日常生活において、人間は何かの方法で他者に表現し、メッセージを発している。その表現は、視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚等の感覚器官を通じて受け取られ、再び表現として表出される。 本講義では、人間にとって表現とはどのような意味をもつのか、様々な表現方法に触れながら考察し、体験や演習を通して、人間の表現活動を総合的に理解していく。		
8. 学習目標	1.自ら表現することにより、自己発見、自己認識をめざし、自己表現力を高める。 2.他者の表現に対して共感し受容する能力、相手の表現に対し応答する能力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 授業内容に即して活動の準備 2. 発表の準備と内容に関するレポートの提出		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】特になし。必要な資料は配布する。 【参考書】佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	1. 出席を含む授業への取り組み。特に授業内での発表にむけての取り組みと発表内容の評価。60% 2. グループ活動の発表にむけての取り組みと発表内容、及び発表内容に関する提出物の評価。40%		
12. 受講生への メッセージ	動きやすい服装で参加して下さい。 学習目標が達成できるよう努力しましょう。 自然の美しさや日々の変化に気づく感受性を育て、自らの表現力をみがきましょう。 色々な文化的経験を積みましょう。		
13. オフィスアワー	研究室扉に掲示。時間的に空いている場合はいつでも可。ただしメールにて事前連絡のこと。 アドレスは研究室扉に記載。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要) 身体を開放し五感をとぎすます。はじめましての表現	事前学習	自分の表現力について考えてくる
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 2 回	身体と音による表現① (身体を意識する。音楽の要素を身体で感じて表現する)	事前学習	音楽の要素の予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 3 回	身体と音による表現② (身体遊びと音楽～わらべうた遊び、お手合わせ、ボディ・パーカッション、鏡に映る動作等) 身体に着目した表現発表	事前学習	わらべうた遊びの調査
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 4 回	ことばによる表現 (詩の朗読とうた。絵、写真を見て語る)	事前学習	絵、写真等の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 5 回	ことばと音による表現 (オノマトペを含むことばのアンサンブルから楽器のアンサンブルへ)	事前学習	提示された場面を表す音を考えてくる
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 6 回	ことばと身体による表現 (うたを演じる)	事前学習	うたの予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 7 回	素材との出会い① (素材～水、紙、石、ひも、葉等を使つての色、形、動きの表現探索)	事前学習	素材の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 8 回	素材との出会い② (色、形、動きの表現発表)	事前学習	発表の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 9 回	素材との出会い③ (素材～水、紙、石、ひも等を使つての音、形、動きの表現探索)	事前学習	素材の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 10 回	素材との出会い④ (音、形、動きの発表)	事前学習	発表の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 11 回	中間のまとめ (表現のコアとなる体験の振り返り、コミュニケーションと表現活動)	事前学習	振り返りをする
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 12 回	表現をつくり出すことを楽しむ① グループ活動：表現する題材の選定と表現手段の選定	事前学習	グループ活動の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 13 回	表現をつくり出すことを楽しむ② グループ活動：物語、登場人物、動き、音等の設定	事前学習	活動内容の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 14 回	表現をつくり出すことを楽しむ③ グループ活動発表：実演と意見交換	事前学習	活動内容発表の準備
		事後学習	活動内容に関するまとめの作成
第 15 回	まとめ (様々な表現活動の理解と援助)	事前学習	授業で学んだことのまとめ
		事後学習	授業で学んだことの復習

1. 科目名 (単位数)	病弱者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3446 SNMP3446
2. 授業担当教員	立松 英子		SCMP3446 SBMP3446 SSMP3346
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	小児慢性特定疾患 (悪性新生物、喘息など難治性の呼吸器系疾患、ネフローゼ症候群などの内臓系疾患、血友病などの血液・リンパ系疾患、筋ジストロフィーなどの神経疾患) を中心に、各疾患の生理・病理、心理的特性、家族の生活や心情、医療チームとの連携、学校生活での配慮事項など、医療側から期待されるスキルを中心に、院内学級や訪問教育に携わる教師に必要な基礎的知識について学ぶ。		
8. 学習目標	【期待される効果】 長期の療養を伴い完治の難しい慢性疾患とともに生きる子どもや家族の心情に共感できるようになるとともに、病院等で医療チームと連携する際の基礎知識及び、倫理・態度が身につく。また、それらの疾患の基礎知識をふまえ、病院内の教育のみならず、地域の学校に帰った場合に学校側が配慮すべき点が理解できるようになる。 ① 子どもの発達や子育てについての基礎知識を得る。 ② 病気の子どもや病気の子どもを育てる家族への心理的支援の実際を知る。 ③ 病気の子どもに関わる専門職の役割を知り、適切な協働のための知識を得る。 ④ 病気の子どもが地域の学校に戻った時に必要な学校側の配慮点を知る。 ⑤ 病気の子どもをとりまく地域行政や制度について知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	「小児慢性特定疾患」から一つを選び、以下の内容でレポートし、発表してください。 レポートの内容：①疾患の原因・症状 ②治療法 ③予後 ④学校生活で必要な配慮事項 ⑤参考文献 *評価は、①書式や期日を守ったか ②簡潔に書けたか (簡潔でわかりやすい文章を書くことは教員に必要なスキル)、③積極的に他の文献を参考にして学んだかを基準とし、量ではなく質で評価します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』東京書籍。 【参考書】谷川弘治・駒松仁子・松浦和代・夏路瑞徳編『病気の子どもの心理社会的支援入門』ナカニシヤ出版。		
11. 成績評価の方法	発表とレポートの提出 30% (期限内提出重視) 授業態度 20% 事前・事後学習・試験 50% (随時 確認テストを行います)		
12. 受講生へのメッセージ	①病虚弱児の心理とチーム医療の実際を中心に講義します。生理・病理は皆さんが調べて発表してください。 ②病気の子どもには病気の症状に加え、年齢や発達段階、家庭や学校の生活を背景としたニーズがあります。病気に関する知識だけでなく、病児がどんな生活を送るのかを生涯にわたる視点で考えてください。 ③皆さんが現場に出たときにすぐに生きる知識をお伝えしたいと思います。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション/小児医療における心理社会的支援サービスの理念	事前学習	「心理社会的支援サービス」とは何か調べておく。
		事後学習	小児医療で期待される「心理社会的支援サービス」とは何か調べておく。
第 2 回	子どもの発育と子育て	事前学習	病気の有無にかかわらず、乳幼児期に育てておきたいスキルとは何か考えておく。
		事後学習	上記について説明できるようにしておく。
第 3 回	病気の子どもの理解	事前学習	「病弱・病虚弱」の定義を調べておく。
		事後学習	病気について説明する場合、各年齢段階でどのような配慮が必要か説明できるようにしておく。
第 4 回	病気の子どものトータルケア	事前学習	長期入院児に特に不足しがちな環境とは何か考えておく。
		事後学習	上記について教師の立場で何ができるかまとめておく。
第 5 回	病気の子どもの心理社会的支援サービス	事前学習	医療が教師に求めるものとは何か考えておく。
		事後学習	上記について教師の立場で何ができるかまとめておく。
第 6 回	主な病気の病理と心理 (1)	事前学習	「白血病」の症状、治療法、学校教育での配慮事項とは何か調べておく。
		事後学習	入院中と地域の学校に戻ったときとに分けて、配慮事項を整理しておく。
第 7 回	主な病気の病理と心理 (2)	事前学習	「子どもの糖尿病」の症状、治療法、学校教育での配慮事項とは何か調べておく。
		事後学習	入院中と地域の学校に戻ったときとに分けて、配慮事項を整理しておく。
第 8 回	専門職の役割	事前学習	病気の子どもに関わる専門職の仕事とは何か調べておく。
		事後学習	医療現場における教師の専門性とは何か調べておく。
第 9 回	医療現場で働くための共通の基礎知識と技術	事前学習	インフォームドコンセントとは何か調べておく。
		事後学習	ヒヤリ・ハットとは何か調べておく。
第 10 回	医療と教育の連携	事前学習	医療現場で行う学校行事にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	医療現場で学校行事を行う際の配慮事項についてまとめておく。
第 11 回	事例に基づいて (チームワーク)	事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
第 12 回	病気の子どもがいる家庭と暮らし	事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
		事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
第 13 回	事例に基づいて (家族支援)	事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
		事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
第 14 回	事例に基づいて (ターミナルケア)	事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
		事前学習	各種疾患の病理、治療法、学校での配慮事項を整理しておく。
第 15 回	病院内で教育活動を行う際の配慮事項 (まとめ)	事後学習	わからなかった部分を確認しておく。
		事前学習	医療現場で教育活動を行う際の配慮事項についてまとめておく。
		事後学習	個人情報の保護について再度確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3303 SSMP3103 PSMP3403
2. 授業担当教員	斎藤 和男		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、グループ討議等			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック（行政）が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 福祉計画の策定するとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題 1 福祉計画にはどのようなものがあるのか (A 4 サイズ2枚)			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> レポートと課題 20% 授業参加度 30% ミニテスト及び学習ノート 50% <p>授業への出席は 3/4 以上が必要で理由のない欠席・遅刻は減点対象となります。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>福祉行財政と福祉計画を学習することは、個人としての思考力・創造力・問題解決能力を育成することにつながるものである。</p> <p>下記のことを守って、積極的な知識の修得や授業参加に取り組んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 授業中は、常に集中力を保ち、積極的な態度で臨むこと 授業中に理解できなかったことは、必ず質問をすること 宿題及びレポートの提出期限は厳守すること グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加し、他者の発表はしっかり傾聴すること。 席は前から男女混合で座ること 			
13. オフィスアワー	授業日を原則とする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	1 第 1 セクター(民間)と第 2 セクター (行政) の相違点と共通点	事前学習	シラバス、教科書に眼を通し、学習ノートを用意する。	
		事後学習	行政と民間の相違点をまとめる	
第 2 回	2 福祉と制度 ・福祉を実施する主体と機能、社会福祉の捉え方、社会福祉と社会保障の違いについて	事前学習	pp.2～10 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	社会福祉の概念の変遷についてまとめる。	
第 3 回	3 福祉の法制度の展開 ・時代によってどのような制度ができ、どんな特徴を持っていたのか ・社会福祉における市場と行政の機能変化について	事前学習	pp.11～23 熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	社会福祉における市場と行政の機能変化についてまとめる。	
第 4 回	4 福祉計画の概要 ・社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画	事前学習	pp.24～31 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	福祉行政と福祉計画についてまとめる。	
第 5 回	5 行政の骨格と社会福祉の法制度 ・政府の役割と地方自治体の関係、社会福祉の法令を読むポイント	事前学習	pp.34～43 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	社会福祉関連法令で使用されている専門用語をまとめる。	
第 6 回	6 福祉行政の組織 (国と地方自治体)	事前学習	pp.44～51 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	厚生労働省の機能についてまとめる。	
第 7 回	7 社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分化について	事前学習	pp.54～60 を熟読し要点をまとめる。	
		事後学習	福祉サービスの利用方式などについて理解を深め要点をまとめる。	

第 8 回	8 財政と社会福祉 ・社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障関係費の動向について、	事前学習	pp.62～68 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	日本の社会保障給付費の動向と特徴についてまとめる。
第 9 回	9 地方自治体の財政と民生費の動向、利用者負担	事前学習	pp.69～75 を参考に自分が居住する地方自治体の民生費について調べてまとめる。
		事後学習	日本の民生費の動向等をまとめる。
第 10 回	10 福祉行政の専門機関と専門職 ・福祉関連専門機関と専門職とは	事前学習	pp.86～100 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	講義で理解した要点をまとめる。
第 11 回	11 福祉計画の基本的視点 ・計画と計画化、目標と目的の違いやP D C Aサイクル、福祉計画の概念や主体、その類型について	事前学習	pp.116～133 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	福祉計画のプロセスについてまとめる。
第 12 回	12 福祉計画におけるニーズ把握について	事前学習	pp.134～141 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	客観的ニーズと主観的ニーズについてまとめる。
第 13 回	13 福祉計画における評価について	事前学習	pp.142～148 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	評価技法についてまとめる。
第 14 回	14 福祉計画の事例研究の視点と種類について	事前学習	pp.158～163 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる。
第 15 回	15 福祉計画における住民参加とその重要性について	事前学習	pp.149～155 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	住民参加の方法と重要性を考察しまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	新井 美也子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1, レポート課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 説明授業型 (テキストをまとめる) レポート (2) 要約型 (文学作品の要約) レポート (3) 報告学習型 (地球の温暖化を防ぐことはできるか等) レポート (4) 口頭発表会の資料 (パワーポイント) <p>* それぞれのレポート作成に関する本や資料などの収集</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大島弥生共著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 (第2版)』ひつじ書房</p> <p>【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック第6版』三省堂</p> <p>*必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業で課せられるレポート 50%</p> <p>レポートの口頭発表会 20%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>期末テストは実施しない。合格に達しないレポートの場合は再提出。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>国語や作文は苦手と考える人も大丈夫。大学生として必要な、レポート作成を初めて体験する大学生を対象にした授業です。「レポートの書き方・発表の仕方」を習得してもらいます。</p> <p>学習方法は、仲間同士がお互いの文章をよりよくするために話し合い、そこで議論されたことを参考に、書き手が文章の構想を練り直し、推敲を重ねていくピア・レスポンス活動で進めます。こうした共同学習から、内容を深め、文章表現を洗練し、レポートの質を高めていきます。ピア・レスポンス活動の成否は、個々の努力にかかっています。協力し合い、クラス全体で、社会が必要としているコミュニケーション能力のレベルアップを図りましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	30秒スピーチ「自己紹介 (私の愛読書を入れて)」 科目のガイダンス (授業の進め方・グループ編成等)	事前学習	愛読書 (文学作品) に触れた自己紹介を30秒程度でスピーチできるように準備しておく。
		事後学習	自他の愛読書から第5回講義、「要約型レポート作成」で使用する文学作品を決定し、再読する。
第2回	レポート作成の基礎・基本 ・作文・レポート・小論文の違い ・レポートの種類 ・レポート作成のプロセス	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、主題に関連する文章を記録しておく。
		事後学習	レポートの種類・作成のプロセスについてまとめる。
第3回	レポート作成1 ・説明授業型 (テキストをまとめる) レポートの作成	事前学習	教科書P5からP22まで熟読しておく。
		事後学習	テキストをまとめるレポートを完成する。
第4回	レポート作成1 ・説明授業型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	「要約型レポート作成」で使用する文学作品を再読し、要約に必要な文章を決定しておく。
		事後学習	説明授業型レポートを完成し提出する。
第5回	レポート作成2 ・要約型 (文学作品) レポートの作成	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	文学作品を要約するレポートを完成する。
第6回	レポート作成2 ・要約型レポートの完成 (話し合い・推敲・清書)	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	要約型レポートを完成し提出する。

第 7 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 構想を練り、情報を調べる。 ② テーマを絞り込み目標を規定する。	事前学習	地球温暖化による現象・地球温暖化対策等に関する本や資料を収集しておく。
		事後学習	テーマに関する本を補足する。
第 8 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章を組み立てる ② 組み立てを再検討する ③ 中心部を書く。	事前学習	テーマに関する本や資料を補足しておく。
		事後学習	レポートの組み立てを完成させる。 序論を完成させる。
第 9 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 本文を書きこんでいく。 ② 数値データと図表を根拠部分に使う。	事前学習	組み立てと序論の見直しをしておく。
		事後学習	本論を完成させる
第 10 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 引用しながら書く。	事前学習	本論の見直しをしておく。
		事後学習	結論と引用を完成させる。
第 11 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 文章・表現・形式を点検する。	事前学習	レポートを見直しておく。
		事後学習	話し合いを活かして加筆・削除など修正する。
第 12 回	レポート作成 3 ・報告学習型レポートの作成 ① 口頭発表の準備 (発表資料作成)	事前学習	レポート全体を見直しておく。
		事後学習	パワーポイントなどで発表資料を完成する。
第 13 回	論証型レポートの概要 レポート発表会のリハーサル・最終確認	事前学習	パワーポイントなど発表資料を修正しておく。
		事後学習	口頭発表会の確認をする。
第 14 回	レポートの口頭発表会 1・評価・交流	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	相互評価を見直す。
第 15 回	レポートの口頭発表会 2・評価・交流 文章表現の成果と課題	事前学習	口頭発表練習をしておく。
		事後学習	これまでの学習を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	安藤 哲也		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>・レポート</p> <p>身の回りで起きている問題や関心のある社会問題について、自分で課題 (テーマ) を設定し、講義の内容を踏まえてレポートを作成する。</p> <p>※レポートは2000字程度とし、第14回の授業で発表し、第15回の授業で提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>河野哲也『レポート・論文の書き方入門 (第3版)』慶應義塾大学出版会、2002</p> <p>【参考書】</p> <p>戸田山和久『新版 論文の教室・レポートから卒論まで-』NHK 出版、2012</p> <p>東方出版社編『公用文の表記 改定新版』東方出版社、2014</p> <p>※必要に応じて、授業内でプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	レポート 40%、授業への取り組み姿勢 30%、課題提出 30%		
12. 受講生への メッセージ	<p>この科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進めます。自分とは違う考えに出会うことで、一人一人がより思考を深めたり広げたりしていくことを期待しています。</p> <p>授業に有意義に楽しく参加するためにも、事前学習での課題の取り組みが重要です。たくさん書いて、たくさん読んで、自分の考えを書き言葉で効果的に表すトレーニングをしていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目のガイダンス (シラバス、授業の進め方)、本授業に期待することを文章化する。	事前学習	本授業に期待することについて、考えをまとめておく。
		事後学習	教科書 pp.5~9 を読み、レポート・論文の基礎事項をまとめる。
第2回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文・レポートの要件と書き進める上での注意点について理解する。	事前学習	教科書 pp.32~39 を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	論文・レポートの要件と書く上での注意点を整理しておく。
第3回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章を基に、論文の構成部分と順序、各部分で書く内容について理解する。	事前学習	教科書 pp.40~53 を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	論文の構成 (内容を含む) ・順序について整理しておく。
第4回	パラグラフやトピック・センテンスに関する配布資料を基に、パラグラフの構造について理解する。	事前学習	パラグラフに関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	パラグラフの構造、トピック・センテンスについて、整理しておく。
第5回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第2章を基に、テキスト批評の仕方を理解する。また、前回の授業内容を踏まえ、テキストの要約をする。	事前学習	教科書 pp.14~29 を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	テキスト批評の仕方について、整理しておく。
第6回	前回の授業で要約したテキストに対する批評を発表し、検討する。	事前学習	前回の授業で要約したテキストについて、自身の批評を行う。
		事後学習	検討の結果、文章構成において不十分であった部分を確認し、修正する。
第7回	教科書『レポート・論文の書き方入門』の第3章及び論証に関する配布資料を基に、論証の仕方について理解する。	事前学習	論証に関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	説得力のある論述の仕方について、整理する。
第8回	アウトラインに関する配布資料を基に、文章を構造化するためのアウトライン作成について理解する。	事前学習	アウトラインに関する配布資料を読み、重要事項をまとめておく。
		事後学習	文章構成の骨組となるアウトライン作成の意義につ

			いて整理する。
第 9 回	表記方法に関する配付資料を基に、分かりやすい文章を書くための表記の仕方について理解する。	事前学習	分かりやすい文章にするための表記の仕方について、考えておく。
		事後学習	読み手に分かりやすい表記の仕方について、整理しておく。
第 10 回	与えられた課題について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 11 回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	より説得力をもつ文章の書き方について、整理しておく。
第 12 回	前回とは異なる課題について、肯定派と否定派に分かれ、自己の立場を主張するための文章をグループ単位で作成する。	事前学習	一人一人がディベート用の文章を作成しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 13 回	肯定派、否定派双方の文章を読み、どちらに説得力があるか、根拠を伴って審査する。	事前学習	ディベート用の文章を推敲しておく。
		事後学習	グループで検討した最終の文章と自身の文章を比較し、不足部分を確認する。
第 14 回	自分でテーマ設定した課題レポートの発表とグループによる検討。	事前学習	文章の推敲、話し方の工夫など、発表の準備をする。
		事後学習	レポートの検討課題を基に、これまでの学習内容を振り返り、修正する。
第 15 回	まとめ (本授業で期待していたこととその成果について文章化し、第 1 回の授業で書いた文章と比較してみる。)	事前学習	本授業の成果について、考えをまとめておく。
		事後学習	自作の文章の比較を基に、これまでの学習内容を振り返り、文章表現の方法を確認する。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	加藤 敏明		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	1 年次以上		
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確かさ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p><レポート></p> <p>課題 1: 『教職科目要説 (初等教育編)』の学習参考例をもとにテキスト批評を行い、そのテキスト批評の方法で自分の考えを1,000字以内で記述せよ。</p> <p>課題 2: 『教職科目要説 (初等教育編)』の学習参考例をもとに、課題を提示する。その課題について自分の考えを1,000字以内にまとめる。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 (第3版)』慶応義塾大学出版会、2012年。</p> <p>三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック (第6版)』三省堂、2012年。</p> <p>【参考書】</p> <p>石井秀明著『必ず受かる小論文・作文の書き方』新星出版社、2009年。</p> <p>大隈秀夫著『実例 文章教室 (新訂版)』日本エディタースクール出版社、2005年。</p> <p>中島恒雄編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表) 総合点の60% 2. レポート 総合点の40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないように、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得し文章を書くことになれること。 4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。 		
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方の説明。自己紹介文の作成と提出。	事前学習	自己紹介文を考えてくること。
		事後学習	教科書の第1章 pp.2~11 を読み、作文・レポート・論文の基礎事項を調べておくこと。
第2回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、レポート・論文の必要性和その書き方の基礎事項を学ぶ。また、原稿用紙の使い方を理解する。	事前学習	原稿用紙の使い方を調べておくこと。
		事後学習	レポートや論文の基礎事項を覚えること。
第3回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、感想文やエッセイとレポート・論文の違いを理解する。	事前学習	教科書の第1章 pp.2~11 を読んで、感想文・エッセイ・レポート・論文の違いを調べておくこと。
		事後学習	感想文・エッセイ・レポート・論文の違いを覚えること。
第4回	教科書『レポート・論文の書き方』の第2章をもとに、テキスト批評による論文の読み方・書き方の方法を理解する。ここでは、特に問題意識やテーマの設定の方法を理解する。	事前学習	教科書の第2章 pp.14~29 を読んでテキスト批評の仕方を調べておくこと。
		事後学習	テキスト批評の仕方を覚えること。
第5回	教科書『レポート・論文の書き方』の第3章をもとに、論文・レポートの必要要件と構成について理解する。	事前学習	教科書の第3章 pp.32~54 を読んで論文やレポートの必要要件を調べておくこと。
		事後学習	論文・レポートの必要要件を覚えること。
第6回	教科書『レポート・論文の書き方』の第4章をもとに、論文・レポートのテーマや課題の設定、本文の組み立て方を理解する。	事前学習	教科書の第4章 pp.56~68 を読んで論文やレポートの本文の組み立てを調べておくこと。
		事後学習	レポートや論文の組み立てを覚えること。

第 7 回	教科書『レポート・論文の書き方』の第 5 章をもとに、資料の探し方、注や引用・文献の付け方を理解する。	事前学習	教科書の第 5 章 pp.70～91 を読んで資料の探し方を調べておくこと。
		事後学習	注・引用・文献のつけ方を覚えること。
第 8 回	文章作成に必要な国語辞典・漢和辞典等の活用と取り扱いについて理解する。レポートの構成やまとめ方について、分かりやすい表現・正しい表現・適切な語彙・文法表現等を理解する。	事前学習	正しい表現・適切な語彙・文法表現等を調べておくこと。
		事後学習	国語辞典・漢和辞典の活用方法と取り扱いを覚えること。
第 9 回	『教職科目要説（初等教育編）』の学習参考例を使い、テキスト批評の方法で小論文の書き方を練習する。 課題 1：『教職科目要説（初等教育編）』の学習参考例をもとにテキスト批評を行い、そのテキスト批評の方法で自分の考えを 1,000 字以内で記述せよ。（第 12 回るとき提出）	事前学習	事前に与えられた学習参考例を読んで、テキスト批評を自分で実施してみる。
		事後学習	課題 1 のレポートを作成すること。
第 10 回	『教職科目要説（初等教育編）』の学習参考例を使い、テキスト批評の方法で小論文を練習する。	事前学習	事前に与えられた学習参考例を読んで、小論文を書いてみる。
		事後学習	授業で実施したテキスト批評の小論文を推敲すること。
第 11 回	『教科科目要説（初等教育編）』の学習参考例を使い、テキスト批評の方法で小論文を作成する。	事前学習	テキスト批評の小論文を校正しておく。
		事後学習	テキスト批評の小論文を仕上げる。
第 12 回	課題 1 のレポートをもとに、レポートの書き方について、形式や適切な文章表現について確認する。グループで自分の考えを発表したり討議したりしてレポートを推敲・修正する。（課題 1 を持ち寄る）	事前学習	課題 1 のレポートについて、推敲しておく。
		事後学習	課題 1 のレポートを仕上げ提出する。
第 13 回	レポート・論文の書き方についてまとめる。推敲し修正したレポートを提出し、自分の考えを発表する。	事前学習	今まで学習してきたレポートや論文の書き方について、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	学習してきたことについて、自分の考えをまとめたものを振り返り、反省文を書いておく。
第 14 回	課題 2：『教職科目要説（初等教育編）』の学習参考例をもとに、課題を提示する。その課題について自分の考えを 1,000 字以内にまとめる。このとき、資料の内容を分析し・考察し、自分の考えをまとめる。	事前学習	テキスト批評の考えをもう一度振り返り、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	課題 2 のレポートを作成すること。
第 15 回	課題 2 を返却し解説する。今後の課題について考え、これまでの授業について、自分の意見を 1,000 字以内にまとめる。	事前学習	課題 2 のレポートを仕上げ提出すること。
		事後学習	教科書をもう一度熟読し、論文の書き方を覚えること。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	國府田 祐子		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>(1) アサインメント 適宜指示する。 持ち物として、原稿用紙 横書き用 A4 判 400 字 1 冊</p> <p>(2) レポート課題 各授業における「基礎シート」を毎回提出する。小論文 (6 回) を提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に指示する。 ② 志賀直哉『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』集英社文庫 ③ 夏目漱石『坊っちゃん』新潮文庫 <p>【参考書】 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック 第6版』三省堂</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業参加 50%</p> <p>各授業における「基礎シート」、提出物、態度、遅刻・早退、私語など</p> <p>小論文 50%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>社会人になったら、その日から、自分の考えを的確に表現する場に立たされます。どのような職業に就こうとも、まず論理的に考える力を身に付ける必要があります。論理的思考力は、論理的に書くことができ初めて身に付けることができます。</p> <p>言語とは、自分の思った通りには操れない特性も有しています。文章表現の奥に隠された本当の意味を読み取る訓練を、小説の描写や新聞記事を読むことによって行います。</p> <p>授業では音読をたくさんします。小論文もたくさん書きます。座席は指定です。自分自身が専門家になるという自覚をもって、授業に臨んでください。</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業にて通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション・自己紹介・小論文とは	事前学習	自らの鉛筆の持ち方を見直し、正しく持てるようにしておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習する。
第 2 回	社会人の論理的思考力・表現力 小論文 —1 次清書—	事前学習	「坊っちゃん」を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、情景描写について理解する。
第 3 回	会議等の記録の原則 小論文 —2 次清書—	事前学習	「坊っちゃん」の中盤を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、「自然描」が現す効果について理解しておく。
第 4 回	電話の応対 小論文 —評価・返却—	事前学習	「坊っちゃん」の後半を読み進めておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、「会話」が現す効果についてまとめておく。
第 5 回	連絡・報告・相談 小論文第 2 課題 —1 次清書—	事前学習	新聞を読み、興味のある新聞記事の切り抜きを持参し、自らの考えをまとめておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読し、連絡・報告・相談の具体例をまとめておく。
第 6 回	論理的思考とは何か 小論文第 2 課題 —2 次清書—	事前学習	選んだ切り抜きのコピーを取り、事実と意見に分け、自らの考えをまとめておく。
		事後学習	「坊っちゃん」の印象に残った描写を選び、自らの考えを発表できるようにまとめておく。
第 7 回	論理的思考に見られる 2 つの型 —帰納と演繹—	事前学習	「坊っちゃん」を最後まで読み通しておく。
		事後学習	「坊っちゃん」の描写を、原稿用紙に視写する。

	小論文第 2 課題 ー評価・返却ー 小論文第 3 課題		
第 8 回	演繹論理とは何かその 1 小論文第 3 課題 ー 2 次清書ー	事前学習	「坊っちゃん」の描写を抜き出し、それに対する考察・感想を原稿用紙に書く。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読練習し、演繹論理について理解を深める。
第 9 回	演繹論理とは何かその 2 小論文第 3 課題 ー評価・返却ー 小論文第 4 課題	事前学習	小論文第 2 課題までの自らの到達度についてまとめておく。
		事後学習	学んだ箇所のテキストを音読し、演繹論理の練習問題をもう一度自力で解く。
第 10 回	帰納論理とは何かその 1 小論文第 4 課題 ー 2 次清書ー	事前学習	「清兵衛と瓢箪」を読む。
		事後学習	帰納論理の特徴について、小論文の文章構成を統合してまとめておく。
第 11 回	帰納論理とは何かその 2 小論文第 4 課題 ー評価・返却ー 小論文第 5 課題	事前学習	「清兵衛と瓢箪」を交流した結果を踏まえ、印象に残った描写を囲んでおき、口頭発表できるようにしておく。
		事後学習	「清兵衛と瓢箪」の描写を視写し、引用した描写に対する自らの考えを原稿用紙に記述する。
第 12 回	論理的文章の 4 つの種類 小論文第 5 課題 ー 2 次清書ー	事前学習	(夏休み)『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』全短編を読み進めておく。
		事後学習	論理的文章の 4 つの種類について、小論文第 4 課題までの「報告・論説」と照らし合わせまとめておく。
第 13 回	論理的思考の内容 ー字数に対応する方法ー 小論文第 5 課題 ー評価・返却ー 小論文最終課題	事前学習	『清兵衛と瓢箪 小僧の神様』の中から、印象に残った小説を読み直す。大学に入学してから他の講義において出されたレポート課題の文字数について調べ、まとめておく。
		事後学習	指定された小説の描写を引用して視写し、感想・考察を記述する。
第 14 回	論理的文章に必要な 3 つの条件 小論文最終課題 ー 2 次清書ー	事前学習	これまで大学で出されたレポートから、自分が書き上げたものの写しを持参する。
		事後学習	今まで学んできたテキストやノートを概観し、整理しておく。
第 15 回	実習時・卒業時に生かせる論理的文章の形式 小論文最終課題 ー評価・返却ー 総括	事前学習	自らの書く字について、第 1 回目の字と比較して考察する。
		事後学習	テキスト・ノートを通読し、まとめる。小論文 6 本をすべて読み、自分の変容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アサインメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・レポート課題 身の回りで起きている問題や関心のある社会問題を参考にして自らの課題 (テーマ) を設定し、論文形式を踏まえてレポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 (第3版)』慶応義塾大学出版会、2012年。 三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック (第6版)』三省堂、2012年。</p> <p>【参考書】 小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説 (第4版)』中央法規、2013年。</p> <p>*必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。</p> <p>3. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・私語・発表) 総合点の 80%</p> <p>2. レポート 総合点の 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組む、分からないところは質問すること。 7. 授業中は他人に迷惑をかけないように、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 8. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得し文章を書くことになれること。 9. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 <p>欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。</p>		
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方の説明。自己紹介文の作成と提出。	事前学習	自己紹介文を考えてくること。
		事後学習	教科書の第1章 pp.2~11を読み、作文・レポート・論文の基礎事項を調べておくこと。
第2回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、レポート・論文の必要性とその書き方の基礎事項を学ぶ。また、原稿用紙の使い方を理解する。	事前学習	原稿用紙の使い方を調べておくこと。
		事後学習	レポートや論文の基礎事項を覚えること。
第3回	教科書『レポート・論文の書き方』の第1章をもとに、感想文やエッセイとレポート・論文の違いを理解する。	事前学習	教科書の第1章 pp.2~11を読んで、感想文・エッセイ・レポート・論文の違いを調べておくこと。
		事後学習	感想文・エッセイ・レポート・論文の違いを覚えること。
第4回	教科書『レポート・論文の書き方』の第2章をもとに、テキスト批評による論文の読み方・書き方の方法を理解する。ここでは、特に問題意識やテーマの設定の方法を理解する。	事前学習	教科書の第2章 pp.14~29を読んでテキスト批評の仕方を調べておくこと。
		事後学習	テキスト批評の仕方を覚えること。
第5回	教科書『レポート・論文の書き方』の第3章をもとに、論文・レポートの必要要件と構成について理解する。	事前学習	教科書の第3章 pp.32~54を読んで論文やレポートの必要要件を調べておくこと。
		事後学習	論文・レポートの必要要件を覚えること。
第6回	教科書『レポート・論文の書き方』の第4章をもとに、論文・レポートのテーマや課題の設定、本文の組み立て方を理解する。	事前学習	教科書の第4章 pp.56~68を読んで論文やレポートの本文の組み立てを調べておくこと。
		事後学習	レポートや論文の組み立てを覚えること。

第 7 回	教科書『レポート・論文の書き方』の第 5 章をもとに、資料の探し方、注や引用・文献の付け方を理解する。	事前学習	教科書の第 5 章 pp.70～91 を読んで資料の探し方を調べておくこと。
		事後学習	注・引用・文献のつけ方を覚えること。
第 8 回	文章作成に必要な国語辞典・漢和辞典等の活用と取り扱いについて理解する。レポートの構成やまとめ方について、分かりやすい表現・正しい表現・適切な語彙・文法表現等を理解する。	事前学習	正しい表現・適切な語彙・文法表現等を調べておくこと。
		事後学習	国語辞典・漢和辞典の活用方法と取り扱いを覚えること。
第 9 回	文章を読む・書く①（用語の選択、主語・述語の呼応、書き出しと文末の呼応）	事前学習	テキスト pp.94～99 を読んで、書き出しと文末の呼応などを調べておく。
		事後学習	表現の簡潔さや文末表現の工夫を覚えること。
第 10 回	文章を読む・書く②（段落）	事前学習	段落の工夫に気を付けて読んで要点をまとめる。
		事後学習	小論文の段落、構成の工夫を覚える。
第 11 回	文章全体をつかむ①（要約文）	事前学習	文章全体を読んで要点を 3 つ以上簡条書きにしてまとめる。
		事後学習	要約文の工夫を覚える。
第 12 回	文章全体をつかむ②（「マッピング」による情報整理）	事前学習	文章全体を読んでキーワードを 3 つ見つけてまとめる。
		事後学習	「マッピング」による情報整理についてまとめる。
第 13 回	自分の考えや感想を書く①（意見文・感想文）	事前学習	自分の考えを小論文にするための資料を集め、意見文・感想文を書けるよう準備する。
		事後学習	自分の意見文・感想文をまとめる。
第 14 回	自分の考えや感想を書く②（演習問題）	事前学習	演習問題に備え準備する。
		事後学習	課題にそって自分の考えや感想を小論文としてまとめる。
第 15 回	まとめ（文章表現の成果発表）	事前学習	成果発表の準備をする。具体的に声に出してプレゼンしてみる。
		事後学習	文章表現の成果と課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育・教育課程論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3109
2. 授業担当教員	関口 はつ江	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	保育所保育、幼稚園教育の目的と方法の基本を確認し、保育課程・教育課程の意義を示し、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解できるようにする。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、保育・教育課程と指導計画との質的差異を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的な分るように、事例によって示す。さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いながら、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解できるようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に示されている保育課程・教育課程、指導計画の考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。		
8. 学習目標	1 カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。 2 保育における計画—実践—評価 (反省) の関係を理解できるようになる。 3 保育課程、教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることができるようになる。 4 長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。 5 保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。 6 子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業内容に関して、ほぼ毎回簡単な課題がでます。 レポート課題 1. 期指導計画モデルから短期指導計画の作成 2. 実践例についての考察と次の計画への活かし方についてのレポート 3. 指導計画の形式について調べ、長所短所を考察		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】後日指定する 【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 『保育の基本を培う保育原理』萌文書林。		
11. 成績評価の方法	小課題 30% 最終レポート40% 授業参加度 (質問、発表) 30%		
12. 受講生への メッセージ	保育士必修科目であり、授業中のマナー、意欲、教育者 (保育者) としての考え方などを大切にしたいと思います。保育の計画は子どもの生活に根ざしています。自然環境、伝統行事などへの関心も深めましょう。		
13. オフィスアワー	後日提示します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	保育・教育におけるカリキュラムの必要性	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における教育課程の考え方復習
		事後学習	子どもの生活とカリキュラムの関係の確認
第 2 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領に示されている保育・教育課程と指導計画	事前学習	多様なカリキュラムの考え方があることについて教科書で予習
		事後学習	保育・教育課程と指導計画の関連の整理
第 3 回	子どもの発達過程、興味関心や経験、家庭環境等と教育的系統性の総合的把握	事前学習	学校教育と幼児期の保育との異同の理解
		事後学習	教育の系統性と生活性の確認
第 4 回	保育内容と保育・教育課程、保育・教育課程の編成の仕方	事前学習	「保育内容」と教科の違いについての予習
		事後学習	保育・教育課程の作成形式と内容の復習 (事例の考察)
第 5 回	保育・教育課程から長期指導計画の作成 (年間計画と月案)	事前学習	事例から長期指導計画例の目的内容の予習
		事後学習	保育・教育課程と長期指導計画との違い、計画の実行性を確認
第 6 回	長期指導計画から短期指導計画の作成 (週案)	事前学習	事例から短期指導計画の目的内容を確認する
		事後学習	長期と短期の指導計画の違いの復習。短期計画の具体性を理解
第 7 回	短期指導計画の展開 (週案から日案へ)	事前学習	週案の例から週案の目的内容の予習
		事後学習	週案から日案作成法の復習。子どもの実態に即することを確認
第 8 回	計画と実践との関係 (月の保育の例を通して)	事前学習	行事を例にして長期計画と実践の関係について予習
		事後学習	計画の修正の仕方を確認
第 9 回	計画と実践との関係 (1 日の保育を通して)	事前学習	短期計画と実践の関係を遊びの事例で予習
		事後学習	週案から日案作成 (課題)
第 10 回	保育の評価・反省の仕方 (子どもの経験から、保育の目標から、保育者の指導法等から)	事前学習	保育の評価・反省のしかたについて教科書で予習
		事後学習	事例からの反省 (課題)
第 11 回	計画—実践—反省—計画 のサイクル (反省の活かし方)	事前学習	記録、反省、計画の関連を教科書で予習
		事後学習	事例からの演習
第 12 回	幼児指導要録、保育所児童保育要録の意義と書き方	事前学習	指導要録、児童保育要録の目的内容形式の確認
		事後学習	指導要領の書き方の事例評価
第 13 回	事例または課題による指導案作成例の発表・討論	事前学習	指導案作成
		事後学習	指導案修正
第 14 回	教材別保育展開事例研究	事前学習	同一教材の年齢別活動例の学習
		事後学習	活動事例についての評価
第 15 回	まとめ (保育における計画と実践、幼小連携)	事前学習	保育の独自性確認
		事後学習	保育者の専門能力の確認

1. 科目名 (単位数)	保育・教育課程論 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3109
2. 授業担当教員	田中 卓也			
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育所保育、幼稚園教育の目的と方法の基本を確認し、保育課程・教育課程の意義を示し、その編成の仕方を実際の子どもの発達、生活に照らしながら理解できるようにする。保育は子どもの自発的な興味関心や個人差に応じて実践することを踏まえ、保育・教育課程と指導計画との質的差異を理解し、保育者の教育的意図を子どもの主体的な生活の中にどう反映したらよいか具体的に分るように、実例によって示す。さらに、実践においては子どもの実態に対応しながら計画の修正をどのようにするか、一日の保育の評価反省をどうするかを扱いながら、保育における計画性と偶発性の双方の意味の理解を深める。ボトムアップによる計画作成の方法を長期指導計画と短期指導計画との関連から理解できるようにする。以上を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領等に表示されている保育課程・教育課程、指導計画の考え方を正しく理解し、実践に結びつける力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>1カリキュラムについての基礎的理解ができるようになる。 2保育における計画—実践—評価(反省)の関係を理解できるようになる。 3保育課程、教育課程と指導計画との関係、および長期指導計画と短期指導計画の関係を理解し、実践に結びつけることが出来るようになる。 4長期指導計画、短期指導計画の立て方が分かり、一日の指導計画を作成する。 5保育実践の反省の仕方がわかり、計画の修正への過程を理解できるようになる。 6子どもの発達の把握と指導要録、保育児童要録の意義と書き方を理解できるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 幼児指導要録、保育所児童保育要録について意義・特徴についてまとめなさい 2. わが国における代表的な年中行事をとりあげ、指導計画・立案しなさい(たとえば2歳児、4歳児)</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 林邦雄・谷田貝公昭監修、高橋弥生編『保育・教育課程論』一藝社。 【参考書】 『保育所保育指針解説』フレーベル館。 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 『保育に役立つ!子どもの発達がわかる本』ナツメ社。 『乳幼児の保育教育課程論』建帛社。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>試験 30% レポート課題(2回) 40% 講義参加への意欲度(発表・質問) 20% 毎回の講義における「ふりかえりシート」の提出 10%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>この科目は、保育士必修科目となります。将来保育者・教員をめざす方が多く受講されると思います。講義中のマナー(私語、スマートフォンの操作は厳禁)の遵守は当然ですが、参加態度・意欲をもって講義に望むようお願いいたします。</p>			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション —なぜ、保育・教育課程論を学ばなければならないのか? 本講義の進め方など—	事前学習	保育所保育指針・幼稚園教育要領についての内容理解の確認	
		事後学習	保育・教育課程論の内容把握	
第2回	保育所における保育課程	事前学習	養護と教育について、保育課程編成上の基本的知識、留意点など(予習)	
		事後学習	保育課程と指導計画の繋がり習得・マスター(復習)	
第3回	幼稚園における教育課程	事前学習	幼稚園教育課程の基盤、教育課程編成にむけての内容習得(予習)	
		事後学習	幼稚園教育課程と指導計画の繋がり習得・マスター(復習)	
第4回	指導計画の基本と作成	事前学習	長期指導計画、短期指導計画とはどのようなものか(予習)	
		事後学習	指導計画の作成、手順・留意点の確認。書式の存在認識、事例にて実践(復習)	
第5回	指導計画と記録	事前学習	保育方法・指導計画の関係性の認識。記録することの意義(予習)	
		事後学習	さまざまな記録の存在認識。指導要録をふくめた記録の実践(復習)	
第6回	0歳児の指導計画の実際	事前学習	赤ちゃんの特長、0歳児の特長を把握(予習)	
		事後学習	0歳児の生活安全面の留意点、個別配慮の指導計画の立案の実践(復習)	
第7回	1・2歳児の指導計画の実際	事前学習	1～2歳児の発達段階の理解、視点をもつ(予習)	

		事後学習	1～2 歳児の発達に応じた指導計画の立案の実践（復習）
第 8 回	幼児の指導計画の実際（保育所）	事前学習	保育所の役割、保育士の役割。保育の基本について確認（予習）
		事後学習	幼児期の保育と小学校教育への接続・連携の視野をもつ、保育指導計画の立案実践（復習）
第 9 回	幼児の指導計画の実際（幼稚園）	事前学習	幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割。教育について確認（予習）
		事後学習	幼児期の保育と小学校教育への接続・連携の視野をもつ、指導計画の立案実践（復習）
第 10 回	異年齢保育の指導計画の実際	事前学習	異年齢保育の意義、指導上の留意点などについて確認（予習）
		事後学習	異年齢保育の指導計画の立案および実践（復習）
第 11 回	さまざまな保育形態における指導計画の実際	事前学習	保育形態にはどのようなものが存在するのか、統合保育とは何かを確認（予習）
		事後学習	気になる子どもの指導計画、立案の実践（復習）
第 12 回	行事をいかす保育の実際	事前学習	年中行事の意義、内容、どのようなものがあるのかを再確認。（予習）
		事後学習	行事の捉えかた、計画立案の実践（復習）
第 13 回	保育の計画と評価	事前学習	保育の評価とは何か、目的と対象について考える（予習）
		事後学習	保育の質の向上、保育計画と評価をめぐる課題の検討、評価の仕方を学び、実践（復習）
第 14 回	指導案作成事例の発表・討論（1）	事前学習	指導案の作成
		事後学習	指導案の修正
第 15 回	指導案作成事例の発表・討論（2） 講義のまとめ	事前学習	指導案の作成・保育のオリジナリティの習得
		事後学習	指導案の修正・保育者の専門性の確認
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育原理 (2 単位)		3. 科目番号	JCGM1103
2. 授業担当教員	岡野 雅子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	乳幼児期における保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うきわめて重要なものである。そのことを踏まえて本科目では、なぜ重要な意味をもつのかについて、様々な観点から理解できるようにする。保育の意義とその思想、保育の歴史の変遷、子どもの発達特性、保育理論と実践との関連などについて概説し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基本的資料として、保育の原理、目的、目標、内容、方法、計画、評価について理解する。さらに、現代的保育ニーズや子育て支援に関する基本を習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の目的、目標、内容、方法を理解し、説明することができる。 2. 保育の歴史の変遷、その思想についての知識を身に付ける。 3. 保育実践の土台となる子ども観、保育観、発達観について理解し、説明することができる。 4. 子ども理解の重要性、個の特性に応じた望ましい援助について習得する。 5. 環境を通して行う保育について理解し、具体的な実践方法を習得する。 6. 保育の現状を知り、現代社会における保育ニーズや子育て支援について理解し、説明することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	学習状況に応じて、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の内容に関する課題を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 関口はつ江編『保育原理』萌文書林、2012 年 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30% レポート 20% 期末試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	人格形成の基礎となる乳幼児期の子どもに専門家としてかかわる保育者は、子どもに対して多大な影響を及ぼす存在であることをしっかりと自覚して下さい。自分の将来像と関わらせて、授業に真剣に臨んで下さい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のルールは守る (欠席・遅刻をしない)。 2. 私語はしない。 			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保育とは何か、養護と教育の一体化	事前学習	「保育所」と「幼稚園」の社会的役割の違いについて調べておく。	
		事後学習	授業内容を復習し、「養護と教育の一体化」の意味を理解する。	
第 2 回	諸外国の保育の歴史の変遷	事前学習	ヨーロッパの保育の歴史について調べておく。	
		事後学習	コメニウスからフレーベルの思想について、要点をまとめる。	
第 3 回	日本の保育の歴史の変遷	事前学習	日本の保育の歴史について調べておく。	
		事後学習	倉橋総三の思想について、要点をまとめる。	
第 4 回	保育の目的・目標、ねらい	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」のそれぞれの第 1 章を読み、理解する。	
		事後学習	保育の目的・目標・ねらいの関係を復習する。	
第 5 回	保育の内容、方法	事前学習	「幼稚園教育要領」第 2 章、「保育所保育指針」第 3 章を読み、理解する。	
		事後学習	保育の内容と方法の密接な関係を復習する。	
第 6 回	子ども観、保育観	事前学習	子ども観、保育観の意味を調べておく。	
		事後学習	自分の子ども観や保育観について考えをまとめる。	
第 7 回	発達の捉え方	事前学習	「発達」の定義について調べておく。	
		事後学習	自分の発達観について考えをまとめる。	
第 8 回	5 領域の意味	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の 5 領域の箇所を読み、「ねらい」と「内容」の関連について考える。	
		事後学習	5 領域をふまえたうえで、総合的な指導・援助の意味を理解する。	
第 9 回	遊びの意味	事前学習	身近な幼児の遊びを観察し、気づいた点や特徴を文章化する。	
		事後学習	遊びと学びの関係を理解する。	
第 10 回	保育の環境	事前学習	保育の環境の諸側面について調べておく。	
		事後学習	「保育は環境を通して行うものである」について理解する。	
第 11 回	保育課程、教育課程	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の教育課程、保育課程についての記述を読み、その意味を理解する。	
		事後学習	保育に計画が必要な理由を理解する。	
第 12 回	指導計画	事前学習	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「指導計画」についての記述を読み、その意味を理解する。	
		事後学習	指導計画の具体例を読み、発達段階による違いを理解する。	
第 13 回	現代の子どもをとりまく状況と保育の現状	事前学習	現代の子どもをとりまく状況について考え、気づいた点をまとめる。	
		事後学習	現代の子どもをとりまく状況について整理し、保育者としての課題について自分の考えをまとめる。	
第 14 回	現代的保育ニーズと子育て支援	事前学習	政府が発表している子育て支援策について調べておく。	
		事後学習	子育て支援策の移り変わりのポイントについて整理する。	
第 15 回	全体の振り返りとまとめ	事前学習	本授業における要点や課題を整理しておく。	
		事後学習	本授業を通して学んだことを振り返り、各課題に関するポイントを整理してノートを作成する。	

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSOT4483 SCOT4483 SJMP4253
2. 授業担当教員	中嶋 一郎		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習Ⅲの意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。			
8. 学習目標	1.児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を明確にする。 2.実習に臨む際の目標を明確化し、それを達成するための具体的方策を考えることができる。 3.実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 4.演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5.保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1.実習先の施設と利用者に対する知識を理解し、実践に活かす。 2.実習日誌の作成方法を理解し、実践する。 3.施設実習における今日的課題を調べて発表する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】なし			
11. 成績評価の方法	1.授業への参加度(態度、小レポート数回、提出物、発表)を総合して評価する。100% 2.原則として授業は全て出席すること。止むを得ない事情で欠席した場合も、3回の欠席で「保育実習Ⅲ」(施設)は中止となる。ただし欠席は除く。欠席した日の補習は必ず受けること。 3.正当な理由がなく、提出物の期限を守らなかった場合は、当該実習を中止することがある。			
12. 受講生への メッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の概要と学習態度について・保育実習の 時期及び準備等〔実習の手引き〕	事前学習	シラバスを確認して授業の準備をする。	
		事後学習	保育実習Ⅲ(施設)授業の目的の確認・整理をノートにする。	
第2回	保育実習Ⅲの目的 福祉施設実習の意義について	事前学習	施設実習の目的を再確認しておく。	
		事後学習	施設実習の目的・意義の確認・整理をノートにまとめる。	
第3回	福祉施設実習の保育士の役割・福祉施設の 専門職について	事前学習	福祉施設実習の専門職についてテキストを参考に読解しておく。	
		事後学習	福祉施設における保育士の役割について確認整理しておく。	
第4回	福祉施設実習の実習生の立場と心構えに ついて	事前学習	福祉施設実習生の立場についてテキストを読解しておく。	
		事後学習	福祉施設実習の心構えをテキストで学んでおく。	
第5回	事前の施設訪問・施設見学について	事前学習	福祉施設実習事前の確認を詳細に読解しておく。	
		事後学習	施設見学についての計画を立ててみる。	
第6回	実習期間中の施設実習の流れについて	事前学習	福祉施設実習の流れを確認・整理する。	
		事後学習	第1回～第6回までの授業内容をまとめて、確認してみる。	
第7回	参加実習の内容と記録の意味	事前学習	福祉施設実習の形態とは何かテキスト読解しておく。	
		事後学習	福祉施設実習日誌について確認し、実際に書いてみる。	
第8回	実習日誌の書き方について	事前学習	福祉実習日誌の書き方について確認しておく。	
		事後学習	福祉施設実習日誌記録のポイントをノートにまとめておく。	
第9回	施設種別ごとの実習の内容と問題点(各自 発表)①	事前学習	各自実習場所の確認をする。	
		事後学習	福祉実習施設の種別と特徴を文献から確認する。	
第10回	施設種別ごとの実習の内容と問題点(各自 発表)②	事前学習	福祉施設の今日的な問題点についてテキスト・雑誌・新聞等 で調べる。	
		事後学習	福祉施設の今日的な課題をまとめて整理する。	
第11回	施設種別ごとの実習の内容と問題点(各自 発表)③	事前学習	福祉施設の問題点・課題の発表資料作成準備を行う。	
		事後学習	福祉施設の問題点・課題について再度チェックしてみる。	
第12回	各福祉施設実習での指導計画①(グループ 学習)	事前学習	福祉施設実習の企画案作成・テキストを参考文献にしながら 実施する。①	
		事後学習	福祉施設実習の企画案作成・テキストを参考文献にしながら 実施する。②	
第13回	各福祉施設実習の振り返り	事前学習	福祉施設実習での実習を振り返り、反省点を考えておく	
		事後学習	福祉施設実習振り返りシートを作成し、各自発表の準備を進 める	
第14回	施設別の実習の内容と今日的課題(各自・ 発表)まとめ①	事前学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。	
		事後学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表の反省と課題をまとめ る。	
第15回	施設別の実習の内容と今日的課題(各自・ 発表)まとめ②	事前学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表準備をする。	
		事後学習	福祉施設の問題点と課題の各自発表の反省と課題をまとめ る。	

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育児童学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1106
2. 授業担当教員	岡野 雅子			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、人間の生涯発達の中の初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめ様々な環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自立」の観点から考える。また、子どもは生活の中で育つことから、今日の生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のかたの实情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の子どもの生物学的な特徴を理解し、乳幼児期の愛着の重要性と自立への道筋を理解する。 2. 子どもの育ちの過程を成熟と保育的かかわりの相互作用として捉えることができる。 3. 子どもの内面とその表現の特徴を理解し、子どもの個性や主体性を育てる保育について考えることができる。 4. 子どもが育つ場（家庭、保育施設、地域社会など）の役割と連携や今日的課題について考えることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業内容の理解を確かなものにするために振り返りの小課題を課すので、それに解答する。 自分の幼児期の体験について、および、その体験の意味を今どのように考えるかについて等に関するレポートを提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岡野雅子編著『新保育学 改訂 5 版』南山堂 【参考書】東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規 【参考資料】「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (出席、発言、討論) 20% レポート・小課題 20% 期末試験 60%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>自分の幼児期の体験や、子どもや保育についてのこれまでの知識、体験を掘り起こしてください。子どもの行動をよく観察し、小さなことでもさまざまな見方ができ、より専門的な見方に近づけるよう努力して下さい。また、保育の専門家となる責任を自覚し、子どものモデルとなる大人としてのより良い行動形成に向けて努めて下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のルールを守る (欠席、遅刻をしない)。 2. 私語はしない。 			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	教科書第 1 章を読んでおく	
		事後学習	(振り返り課題を課す)	
第 2 回	保育とは何か	事前学習	「子どもは“丸ごと”の存在である」について考えておく	
		事後学習	(振り返り課題を課す)	
第 3 回	子どもという存在 わが国の子ども観	事前学習	教科書第 2 章を読んでおく	
		事後学習	(振り返り課題を課す)	
第 4 回	生涯発達の中の乳幼児期 ヒトの発達の特殊性、乳幼児期の重要性	事前学習	ヒトの発達の特殊性について調べておく	
		事後学習	4 回分の振り返り小テストで出来なかった所を見直す	
第 5 回	愛着① 愛着とは何か	事前学習	教科書第 3 章を読んでおく	
		事後学習	(振り返り課題を課す)	
第 6 回	愛着② 愛着から自律へ	事前学習	愛着と基本的信頼感の形成の関連について調べておく	
		事後学習	(振り返り課題を課す)	
第 7 回	発達の個性性と共通性	事前学習	教科書第 2 章を読んでおく	
		事後学習	教科書第 2 章の内容に関する振り返り課題を行う。	
第 8 回	子どもが育つ環境の整備	事前学習	教科書第 4 章を読んでおく	
		事後学習	4 回分の振り返り小テストで出来なかった所を見直す	
第 9 回	子どもの育ちの姿① 0 歳児	事前学習	0 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	0 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 10 回	子どもの育ちの姿② 1 歳児	事前学習	1 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	1 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 11 回	子どもの育ちの姿③ 2 歳児	事前学習	2 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	2 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 12 回	子どもの育ちの姿④ 3 歳児	事前学習	3 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	3 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 13 回	子どもの育ちの姿⑤ 4 歳児	事前学習	4 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	4 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 14 回	子どもの育ちの姿⑥ 5 歳児	事前学習	5 歳児の特徴をまとめておく	
		事後学習	5 歳児の特徴に関する振り返り課題を行う。	
第 15 回	まとめ	事前学習	全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく	
		事後学習	全体をよく振り返る	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保育児童基礎演習 (2 単位)		3. 科目番号	GEBS2106
2. 授業担当教員	幸喜 健			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育士資格取得に際して必修となる保育実習を見据え、保育実習 I 直前に開講される「保育実習指導 I」に先立っておこなわれる実習事前基礎学習を目的とする。実習生としての基本的な心構えやマナー、基礎知識、および実習先開拓に関する手順などについて具体的に学べるようにする。</p> <p>2 年次秋学期実施の保育所実習、3 年次春学期実施の施設実習に備え、実習概要の理解、実習日誌記録上の注意点や保育実技の習得ができるよう講義と演習を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての心構えを体得する。 2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができる。 3. 実習先開拓に関する手順および留意点を理解し、説明することができる。 4. 保育実習 I に備え、保育所実習、施設実習の意義や実習園の概要などを調べ学習し説明することができる。 5. 実習記録に関する基本を学び、習得することができる。 6. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び、実践することができる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業で配布するワークシートを仕上げ提出する。</p> <p>グループ毎に手遊びと絵本を選択して練習し、発表する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【参考書】東京福祉大学社会福祉学部「保育実習の手引き」(授業中に配布)</p> <p>厚生労働省編『保育所保育指針解説書』</p> <p>※その他、必要に応じてプリント教材を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の授業態度及びグループ活動への取り組み (ディスカッション・発表等) 60% 2. 宿題の提出と内容 20% 3. まとめレポート評価 20% <p>※本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>「保育実習はまだまだ先」と思っていたら間違いです。手続きや準備は 2 年次春期から始まります。また、実践的な保育技術や言葉遣い、実習記録作成のための専門用語などの学習は長期にかけて着実に培っておかないと間に合いません。保育実習生としての自分磨きを今から心がけましょう。4 年次に笑顔で実習が終えられるよう、自主的・主体的に学習を進めることを望みます。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業概要 保育実習ガイダンス (保育実習開始にあたり)	事前学習	「保育所保育指針」第 1 章をよく読み保育所の役割と保育士の仕事について理解しておく。	
		事後学習	「保育士倫理綱領」中のプライバシーの保護について考えをまとめる。	
第 2 回	保育所実習の基礎知識 ビデオで学ぶ保育所実習の一日	事前学習	「保育所保育指針」第 1 章 3 保育の原理をよく読み理解しておく。	
		事後学習	実習生としてのマナーや態度について、考えをまとめる。	
第 3 回	施設実習の基礎知識 ビデオで学ぶ施設実習の一日	事前学習	「実習の手引き」から、実習先施設について理解する。	
		事後学習	実習生として利用者とのようにかかわればよいか、考えをまとめる。	
第 4 回	保育所実習自己開拓について (自己開拓説明、手紙の書き方、個人調書の書き方)	事前学習	「保育実習学習の手引き」2. 自己開拓実習依頼の進め方、を熟読しておく。	
		事後学習	手紙の下書きを書いて提出する。	
第 5 回	得意な保育技術を身につける グループ別学習計画作成 (ペーパーサート、パネルシアター等教材作成と演じ方の研究・実践)	事前学習	教材作りのための資料 (絵本、雑誌等) を持ち寄る。	
		事後学習	絵人形等の制作を行う。	
第 6 回	保育教材作成と演じ方の研究 グループ学習	事前学習	脚本や演じ方を考える。	
		事後学習	絵人形等の制作を行う。	
第 7 回	作成した保育教材を使つてのグループ発表 ①	事前学習	グループで発表練習を十分におこなっておく。	
		事後学習	グループ発表評価を評価表により、提出する。	
第 8 回	作成した保育教材を使つてのグループ発表 ②	事前学習	グループで発表練習を十分におこなっておく。	
		事後学習	グループ発表評価を評価表により、提出する。	
第 9 回	保育実習 I (保育所) 自己開拓予定表返却と今後の	事前学習	「保育実習学習の手引き」2. 自己開拓実習依頼の	

	流れ 保育実習事前訪問のためのマナーについて		進め方、を熟読しておく。
		事後学習	自己の今後の自己開拓の予定表を作成する。
第 10 回	子どもの活動の様子の DVD を視聴し、体験の意味と保育者の関わり方についてグループ討議を行い、発表して考察を深める①	事前学習	「保育所保育指針」第 3 章保育の内容を読み、5 領域のねらいと内容を確認しておく。
		事後学習	発表内容と考察について、整理しまとめる。
第 11 回	子どもの活動の様子の DVD を視聴し、体験の意味と保育者の関わり方についてグループ討議を行い、発表して考察を深める②	事前学習	「保育所保育指針」第 3 章保育の内容を読み、5 領域のねらいと内容を確認しておく。
		事後学習	発表内容と考察について、整理しまとめる。
第 12 回	実習記録について ・実習記録を書くポイントを理解する	事前学習	「保育実習学習の手引き」Ⅱ保育実習に関する留意点 1. 実習記録について、を熟読しておく。
		事後学習	実習記録に使われない表現について整理する。
第 13 回	実習記録について ・児童養護施設の DVD を視聴し、記録を書いてみる（保育者の援助と実習生の関わりの記入の仕方を学ぶ）	事前学習	施設実習と保育所実習の記録の違いについて予習しておく。
		事後学習	DVD の視聴からの記録を清書し、読み直しておく。
第 14 回	施設実習への準備 ・実習先の施設の概要や特徴などを理解する。 ・自己の実習課題を考える 内諾書の提出	事前学習	施設実習における必要な準備について考えておく
		事後学習	自己の実習施設について調査し、レポートを作成して提出する。
第 15 回	まとめ 保育実習に臨む心構え	事前学習	1 ～ 14 回の授業を通しての学びを踏まえ、保育実習に関する自己の心構えを整理する。
		事後学習	保育実習において、今行すべき準備について考え、実行計画を立て保育実習に備える。

1. 科目名 (単位数)	保育児童専門演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP4173
2. 授業担当教員	保育児童学科教員		
4. 授業形態	演習 原則として保育児童学科教員全員が分担して、ゼミ形式の授業を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育の専門性を深めるため、自己課題を見つけ、グループまたは個人でテーマ、学習目的を設定して指導教員のもとで主体的に学習する。</p> <p>保育にかかわる理論的、実践的研究(文献購読、調査、討論等)、実践活動、実技研修をゼミ形式で行う。実技の分野においては、研鑽を積んで実践における得意分野を作る一助とする。また、保育所・幼稚園・福祉施設などにおける実践への参加、保育補助活動を通して実践力高める、新しい保育実践法(音楽、造形、体育、児童文化等)の開拓、研究を行う、などがある。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2 保育に関する現代的課題について、資料収集、現状分析、検討を行えるようになる。 3 乳幼児の発達、保育実践法等に関する研究テーマ設定、研究法の学習、個人またはグループで研究課題に即した研究活動、研究レポート作成を通して、研究の基礎を習得する。 4 保育に関わる問題解決のための、総合的考察、判断方法等について学び、問題解決をすることができる。 5 これまでの自分の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の確認、定着を図り、応用力を身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>グループによって活動目的、経過が異なるので、担当教員に任される。</p> <p>調査研究結果報告、実践報告、実技習得成果発表等、多様な形式による課題やレポートが課せられる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】各担当者によって提示されます。		
11. 成績評価の方法	各担当者が示します。		
12. 受講生への メッセージ	<p>大学生生活最後の仕上げの学習として、これまで得た専門的知識や身に付けた実践力をさらに深めましょう。自ら学ぶ気持ちを持って、個性を生かした活動を目指して、研究へも実践へも一歩踏み込む意欲をもって参加して下さい。一人ひとりが大切にされ、生かされる関係を作りながら、教員も学生も一緒に学びたいと考えます。</p>		
13. オフィスアワー	各担当者によって提示されます。		
14. 授業展開及び授業内容			
01	幼児体育関連分野 現場での体育指導の在り方についての調査、観察研究、実践を通しての指導法の学習をする。		
02	造形、表現関連分野 造形活動表現をグループで体験しながら保育現場での活用方法を考え、また、子どもを囲むより良い環境の構成についても造形表現の立場から考える。		
03	音楽、表現分野 音楽表現活動をグループで体験しながら、子どもの発達、保育現場での活用について考えていく。創作オペレッタ、ペープサートによる音楽劇、創作手遊び曲集作りなどを行う。		
04	保育理論分野 保育思想、保育制度、海外の保育等に関する文献研究や、現在の保育理論に基づく多様な保育実践法についてフィールドワークを行う。		
05	保育実践分野 保育の「目的」(保育方針)、「保育内容」、「方法」、「教材研究」等保育実践に関する具体的学習活動をする。		
06	児童福祉分野 児童福祉関係機関への訪問、現場職員との交流、社会地域調査等を通して、福祉の実態に関する学習をする。		
07	保育心理分野 幼児の発達に即した保育実践法や保育のあり方等、現場体験を加えて発達と保育の理解を深める。		
08	障害児保育、特別支援分野 障害のある子どもや「気になる子ども」。統合保育のみならず、病院内保育、施設内保育など障害児療育のさまざまな形態に触れながら、実践的なスキルを学習する。		
09	小児保健分野 小児保健、小児保健実習で学んだことの総復習、子どもたちの健康を守り、健全な発育を促す対策(感染症、事故防止、救急看護、咀嚼力向上、歯科保健など)として、保育所、幼稚園、地方自治体などの取り組み等文献調査や実態調査を行う。		
10	保育にかかわる関連分野 幼小連携、学童保育、子育て支援などの諸問題に関する文献及び現場での体験的学習		

1. 科目名 (単位数)	保育者論 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT1401 SCOT1401 SJMP1106
2. 授業担当教員	鈴木 美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方角を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。		
8. 学習目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育者の制度的な位置づけを理解する。 ③保育者の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の協働について理解する。 ⑤保育者の専門的成長について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート 保育とは保育者とは幼児とはについて理解し、保育の専門性と幼児の育ちを支える保育者の在り方について述べる。レポートをまとめることによって自分が保育をどのようにとらえていたかを自覚し、この科目の学びを深める契機とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】プリントを配付します。 【参考書】小田豊他編著『保育者論』北大路書房、2012。 秋民言編『改定 保育者論 第2版』建帛社、2010。 大場幸男企画『保育者論』萌文書林、2012。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (出席、発言、討論) 25% 小テスト・小課題 25% レポート・期末試験 50%		
12. 受講生への メッセージ	子どもをよく観察することにより、子どもは周囲の人とのかかわりの中で育つことを感じ取る力を身につけてください。将来の保育者としての自分の姿を想像して、目標を設け努力してください。 1 授業のルールを守る。(遅刻、欠席をしない) 2 私語はしない。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、保育者の資質とは	事前学習	自分の幼児期の体験を資料として保育者の資質について考えておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第2回	保育者の在り方① (家庭保育と集団保育)	事前学習	家庭保育と集団保育の自分の経験をまとめておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第3回	保育者の在り方② (保育者の心構え)	事前学習	保育者としての心構えについてポイントをまとめておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第4回	現代における保育者の使命と役割	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第5回	保育の制度 (学校教育法、幼稚園教育要領、幼稚園設置基準)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振プリントを読んでおくり返りの課題を課す
第6回	保育の制度 (児童福祉法、保育所保育指針)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第7回	保育の制度 (認定こども園、その他の施設)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返り小テストで出来なかった所を見直す
第8回	保育実践法 (子どもへのかかわり)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第9回	保育実践法 (環境の考え方)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第10回	保育実践法 (保護者支援)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第11回	保育の歴史と代表的な人物 世界	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第12回	保育の歴史と代表的な人物 世界	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第13回	保育の歴史と代表的な人物 日本	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第14回	現代社会の生活と専門性の向上	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	レポートを提出する
第15回	まとめ	事前学習	全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく。
		事後学習	全体をよく振り返ること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育相談支援演習 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT3419 SCOT3419 SJMP3138
2. 授業担当教員	岡野 雅子			
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、現代の生活環境の変化の中で子育て環境も変化しているという背景を踏まえて、保護者に対する相談支援がなぜ必要であるかについて理解し、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り保護者の問題解決を図る支援の実践について習得する。保育士は保護者との信頼関係を築くことが重要であることを理解し、ともに育てる関係づくりや地域の関係諸機関との連携のあり方などについて学習し、児童福祉施設全般の保育相談支援への応用、展開ができるようにする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育相談支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保育相談支援の実践について学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実践について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の社会状況の中で子どもを育てている保護者の立場に立った時様々な課題があるが、その中から任意の課題を選んでレポートにまとめる。 ・小課題として、授業中に事例についてグループ討論を行い、考察したことについて提出する。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 大嶋恭二他著『保育相談支援』建帛社、2011 年 【参考書】 岡野雅子他著『新保育学 改訂 5 版』南山堂、2011 年			
11. 成績評価の方法	授業態度 (出席、発言、討論) 20% レポート・小課題 30% 期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	日常生活の中で親と子どもがかかわる場面に出会う機会をもつように努め、親子の相互作用についてよく観察して、学ぶ姿勢をもってください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のルールを守ること (欠席、遅刻をしない)。 2. 私語は慎むこと。 			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、保育相談支援とは	事前学習	教科書 pp.1~8 を読み、支援の必要性について考えておく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 2 回	保育相談支援の意義	事前学習	教科書 pp.9~16 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 3 回	保育相談支援の基本① 子どもの最善の利益	事前学習	子どもの人権と権利についてまとめておく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 4 回	保育相談支援の基本② 保護者との共感	事前学習	教科書 pp.25~32 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 5 回	保育相談支援の基本③ 信頼関係の形成	事前学習	信頼関係形成のための姿勢と技術について考えておく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 6 回	保育相談支援の基本④ 関係機関との連携・協力	事前学習	教科書 pp.41~48 を読んでおく。	
		事後学習	6 回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。	
第 7 回	保育相談支援の実践① 保育に関する保護者に対する支援	事前学習	教科書 pp.49~56 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 8 回	保育相談支援の実践② 保護者支援の内容	事前学習	教科書 pp.57~64 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 9 回	保育相談支援の実践③ 保護者支援の方法と技術	事前学習	教科書 pp.65~72 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 10 回	保育相談支援の実践④ 保護者支援の計画、記録、評価、ケースカンファレンス	事前学習	教科書 pp.73~80 を読んでおく。	
		事後学習	4 回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。	
第 11 回	児童福祉施設における保育相談支援① 保育所における保育相談支援の実践	事前学習	教科書 pp.81~88 を読んでおく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 12 回	児童福祉施設における保育相談支援② 保育所における特別な対応を要する家庭への支援	事前学習	特別な支援を要する家庭について調べておく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 13 回	児童福祉施設における保育相談支援③ 児童養護施設等における要保護児童の家庭に対する支援	事前学習	施設における保育相談支援の目標について考えておく。	
		事後学習	(ふり返りの課題を課す)	
第 14 回	児童福祉施設における保育相談支援④ 障害児施設・母子生活支援施設における支援	事前学習	教科書 pp.105~112 を読んでおく。	
		事後学習	4 回分のふり返り小テストで出来なかった所を見直す。	
第 15 回	保育士に求められる保育相談支援	事前学習	全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく。	
		事後学習	全体をよく振り返ること。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2131
2. 授業担当教員	中村 裕	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。		
6. 履修条件・他科目との関係	子どもの保健との関連性も理解が深まる。		
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。		
8. 学習目標	1. 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことが出来るようになる。 2. 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。 3. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。 4. 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	子どもの健康に関する資料 (各テーマごと：発達、外遊び、健康増進、安全指導等) を配布し、保育者としての立場から自分の考えについて述べる (発表およびレポート) 発表後、またはレポート提出後、「課題」とし、グループごとにディスカッションをする。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】『幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本)』チャイルド社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 (原本) チャイルド社 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 【教材】テーマごとに資料配布		
11. 成績評価の方法	課題レポート・・・・・・ 30% テーマ発表・・・・・・ 20% スモールテスト (毎時間) 20% 期末試験・・・・・・ 30% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	健康は生活、活動の基本である。幼児期に健康的な生活習慣を身につけることは、将来の幸福生活に向けての基礎づくりともいえる。それにはまず、からだに対する興味や関心を持たせ、健康の意義を指導することが大切である。また、乳幼児期は自分のからだを管理することは不可能に近いため、保育者の指導・援助方法を学ぶことも不可欠である。本講義は子どもが健康な生活を送るために、必要なものは何か。何を身につけておくべきか。を学ぶことはもとより、保育者にとっての健康にも着目し、自らの生活習慣も振り返り、保育者自身も健康であってほしいと願っている。 本講義は主にディスカッション形式で進める為、意見や考えを積極的に述べる授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (領域健康のねらいと内容の解説)	事前学習	領域健康の学習ノートを準備し講義に臨むこと 領域内容のねらいと内容を確認する
		事後学習	領域健康のねらいと内容をまとめる
第 2 回	幼児の健康 (健康の定義、健康状態の把握) と発育発達の理解 (発育発達の概念・理解・影響を与える要因)	事前学習	「幼児にとって健康とは何か」についてまとめる
		事後学習	幼児の健康と発育発達について復習する
第 3 回	形態面の発育 (乳幼児の形態面の発育) と生理機能の発達 (乳幼児の体温・呼吸・脈拍など)	事前学習	参考書から発育発達生理機能についてまとめる
		事後学習	形態面の発育、生理機能の発達について復習する
第 4 回	運動機能の発達 (運動の発達、運動能力の発達) と幼児の体格・運動能力の測定法 (体格運動能力の測定)	事前学習	資料から乳幼児の形態面の発育についてまとめる
		事後学習	幼児の体格・運動能力の測定方法について実践してみる
第 5 回	幼児の遊びの発達と健康、遊びの意義と遊びの発達過程、人間関係・社会性の発達との関連	事前学習	乳幼児の遊びの重要性を、活動の総合性、自発性との関連でまとめる。自分の遊び体験を記録する
		事後学習	乳幼児にとっての遊びの重要性についての考え方をまとめる
第 6 回	乳幼児に遊びの指導における「保育内容健康」のねらいと指導上の留意点。運動遊びの種類と主なねらい	事前学習	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育指針の健康にかかわる内容を予習する
		事後学習	さまざまな運動遊びの方法とそこに含まれる多様なねらいをまとめる
第 7 回	運動遊び、戸外遊びの子どもの発達段階による展開の	事前学習	発達段階別に運動遊び、戸外遊びの例を調べる

	違い、配慮の仕方（教材研究） 運動遊びを主活動とした指導案の作成	事後学習	授業における例とは別の活動を、例にした運動遊びの指導案を作成する
第 8 回	集団遊び、園外保育指導の子どもの発達段階による配慮の仕方（教材研究） 集団遊びを主活動とした指導案の作成	事前学習	発達段階別に集団遊び、園外保育の方法の例を調べる
		事後学習	授業における例とは別の活動を例にした集団遊びの指導案を作成する
第 9 回	模擬保育 1 固定遊具を用いた活動 代表グループによる模擬保育（全体参加）	事前学習	事前に配られた固定遊具を用いた活動の指導案について検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 10 回	模擬保育 2 集団遊びを中心とした活動 代表グループによる模擬保育（全体参加）	事前学習	事前に配られた集団遊び活動の指導案について検討する
		事後学習	当日の反省と次への発展のしかたをまとめる
第 11 回	幼児の生活習慣の指導（基本的な生活習慣の形成と指導）	事前学習	資料から幼児期の基本的な生活習慣についてまとめる
		事後学習	現在の幼児の生活リズムの問題点等について復習する
第 12 回	食事と健康（食生活の指導、食事の生活習慣の指導）	事前学習	乳幼児にとって食育の重要性を保育指針によって確認する
		事後学習	保育中の食事の指導、家庭との連携について復習する
第 13 回	安全な生活（乳幼児に対する安全管理と安全教育、乳幼児の事故災害の予防）	事前学習	乳幼児の事故、災害の事例を調べる
		事後学習	事故、災害の防止方法について復習する
第 14 回	応急処置（乳幼児に多い怪我の応急処置、事故への対応、保育者としての配慮）	事前学習	乳幼児に多い怪我を調べまとめる
		事後学習	緊急時の対処、乳幼児に多い怪我の応急処置の方法、家庭連絡等についてまとめる
第 15 回	乳幼児の健康な育ちと社会環境（地域や家庭との連携、保育者の役割）	事前学習	子どもの健康な育ちに対する現代の環境問題を考える
		事後学習	子どもの健康な発達を守るための保育の専門家としての役割、責務をまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2415 SCOT2415 SJMP2134
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、保育内容を構成する 5 領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。</p>		
8. 学習目標	<p>1.領域「言葉」の内容と意味を理解する 2.乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する 3.乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解する。 4.領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5.言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6.児童文化財（絵本や紙芝居、パネルシアターなど）の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>アサイメント (宿題) は、保育者としての基礎的知識教養及び保育計画を表現する表現方法を身に付けるために以下の課題を実践演習し提出する。 <提出課題> 1. 幼児向けの絵本を20冊以上読み、指導上必要な内容を書式に従って整理して提出する。 2. 幼児及び小学校低学年向けの絵本を1冊選び、その教材研究、指導計画、展開の方法等を書式に従って書いて提出する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 村石昭三・関口準編著『領域 言葉』同文書院。 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>2. 授業態度、宿題の取り組み 40% (私語、居眠り、宿題未提出・遅れ マイナス点) (質問、発表、積極的参加貢献、宿題の誠実な取り組み 授業後の誠実なコメント記述 プラス点) 3. 提出課題 30% 4. 期末試験 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>受講生の皆さんは、まだ実習体験をしている人は少なく、大部分の人は、乳幼児の言葉やコミュニケーションのイメージがなく、保育指導における言葉の指導の大切さや具体的方法や技術が意識されていないであろう。そこで、できるだけ、身近にいる乳幼児との接触をベビーシッターや幼稚園、保育所でのボランティアやアルバイト等を通して積極的にしてほしい。また、これからの保育所や幼稚園で実習している自分を想定しその時の責任観と実践的技術や喜びを感じながら積極的に学んでほしい。 そのために、次のことを、お互いに努力しよう。 1. 事前事後学習及び提出課題に誠実に取り組み、授業に積極的に参加すること。 2. 将来保育や教育等の仕事を志す者として、私語や不適切な眼差し等によって他の学習者の邪魔をしたり、人権や人格を傷つけたりすることのないように努めること。 3. 質問、話し合い、感想・作品・宿題等の発表、実演ロールプレー練習等に照れたりふざけたりすることなく誠実に積極的に参加し、自分を発揮すると共に他の人に役立つ役割を果たすこと。 4. 指導者の私は、授業の準備に努め、授業の開始終了時刻を厳守し、皆さんの質問や考えを誠実に受け止め応えるよう努力するので、皆さんは積極的に話しかけてください。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業時に連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバス確認。特に、受講生のメッセージと授業の展開及び期末提出課題を確認する。 幼稚園と保育所の違いを示したビデオを見てそれぞれの特徴を理解すると共に、領域言葉の取り扱いや今日的な課題、問題点を考える。	事前学習	乳幼児の言葉指導に対する関心を持ち希望が言えるようにする。
		事後学習	ビデオを見て幼稚園と保育所との違いについてまとめ、感想や疑問、意見をまとめて用紙に書いて提出する。
第 2 回	テキスト序章「幼児にとっての言葉とは」、第 1 章「言葉の教育の歴史」の理解、検討を通して、言葉指導のねらい等の基本的考え方を確かにする。	事前学習	教科書の 1. 乳幼児と言葉 2. 歴史の区分 3. 変遷の背景の要点をまとめ、意見、感想を書いておく。
		事後学習	乳幼児にとっての言葉の役割や指導支援の重要性をまとめ、意見、感想を文章化する。
第 3 回	テキスト第 2 章「乳幼児の言葉の発達と学習」を基にして、各発達段階の言葉の特徴を調べ、実際の乳幼児と大人の会話をロールプレーしながら理解を深めると共に保育者の役割を理解し実践力を身に付ける。	事前学習	1. 言葉以前の段階 2. 一語文期 3. 一語文から文への展開 の内容をまとめ感想を書く。
		事後学習	各発達段階の言葉の特徴を整理するとともに、泣き、指示行動、コミュニケーション行動の状況について感想や意見を文章化する。

第 4 回	前の授業に引き続いて、各発達段階の言葉の特徴を調べ、理解を深める。 言葉を育てる 3 つの要素についてグループで仮説を提出し全体で検討しまとめる。	事前学習	4 - 6 歳の文の自覚化と思考の手段となる言葉の姿、事例を集め記録するとともに「発達としての言葉」の要点をまとめる。
		事後学習	言葉と自我の発達、言葉を育てる 3 つの要素、言葉が育つ言葉のやり取り等の重要性をまとめ、意見感想を文章化する。
第 5 回	テキスト第 3 章「乳幼児の言葉の指導」の保育所保育指針の言葉に関する内容を中心に、各発達段階での言葉の指導のねらいと指導の実際と目標の理解を深める。	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領を領域言葉の目標を暗唱しておく。
		事後学習	言葉の指導支援の内容の意義価値を解説書の内容を参考にしてまとめ意見感想を文章化する。
第 6 回	言葉指導の実際をテキストの指導事例を基にしてグループごとに指導内容を分担して具体的な方法を考えロールプレー等の工夫をしてプレゼンテーションをし、実践力を育てる。 *提出課題 1 - ①提出	事前学習	分担した言葉の内容の実際の指導支援の場や方法を、教科書を参照しながら文章化しておく。
		事後学習	他のグループの発表、ロールプレーに対する感想や意見をまとめ文章化する。
第 7 回	前の授業に引き続いて、言葉指導の実際をテキストを基にしてグループでロールプレーやプレゼンテーションをして検討する。 発達に即した特徴的な問題状況に対する対応、支援の具体についてグループで考えロールプレーで発表しあい対応力を育てる。	事前学習	絵本の教材研究の①が提出できるようにする。
		事後学習	言葉指導の内容と発達段階に即した支援、言葉かけの実際について学んだことをまとめ文章化する。
第 8 回	乳幼児に対する言葉かけのコツや基本的な考え方について、多様な場面の事例を通して考え、練習して、実践力をつける。	事前学習	配布された乳幼児の問題状況場面における保育士の対応を自分なりの考えをまとめ文章化しておく。
		事後学習	発達に応じた問題状況に対する適切な対応とその背景の基本的な考え方を整理し感想や意見を文章化する。
第 9 回	年齢、時期等に応じた絵本の選択とその読み聞かせの方法について検討し、演習、実演を通して絵本の価値の理解と実践力を育てる。	事前学習	乳児に与えたい絵本を調べ持参する。
		事後学習	絵本を、言葉を育てる観点からその価値をまとめるとともに本の持ち方めぐり方、読み聞かせ方等の基本的な技術をまとめるとともに練習する。
第 10 回	紙芝居の特性や見せ方、演じ方の基礎的な知識、技術を理解し、実演を通して、紙芝居の価値の理解と実践力を育てる。 *期末課題 1 - ②提出	事前学習	絵本の教材研究②が提出できるように準備する。
		事後学習	紙芝居の歴史、保育所や幼稚園における活用の仕方や言葉指導との関係をとらえるとともに紙芝居の演じ方の基本技術をまとめ文章化する。
第 11 回	基礎的な言葉遊びの具体例をまとめ、実際に遊び、その価値と活用について理解を深めると共に言葉遊びのレパートリーを広げ実践力を確かにする。	事前学習	言葉遊びの経験や現在行われている言葉遊びの具体例を記録する。
		事後学習	伝統的な言葉遊び、早口言葉、発音練習歌、ことばあそびうた、いろはかるた、なぞなぞ等を身につけるように練習をする。
第 12 回	言語障害児の理解と子どもへの接し方と保護者への対応の基本を学ぶと共に関係機関に関する知識を広げる。 *期末課題 2 を提出する。	事前学習	障害と病気との違いを自分なりの考えを文章化したり、身近に見られる言語障害児の姿を文章化する。
		事後学習	言語障害の種類をまとめ、保育士としての対応の仕方の基本と留意すべき内容をまとめ文章化する。
第 13 回	文字指導における幼稚園と小学校との違いと連携の仕方についての理解を図ると共に幼児期における文字指導の方法の基本の理解と実践力を育てる。	事前学習	文字習得の自分の思い出や幼児期の文字指導に関する自分なりの考えをまとめ文章化してみる。
		事後学習	今日の保育所、幼稚園における文字の扱い方の具体例を求めるとともにその課題、問題点をまとめ自分の考えを文章化する。
第 14 回	文字の系統的指導の基本を知り、実際の指導活動を体験する。 言葉に関するお楽しみ会の出し物の種類や意義を考えグループの出し物を決めて練習する。	事前学習	小学校との連携における文字の系統的な指導の具体的方法を自分なりに文章化する。 お楽しみ会の具体例を収集する。
		事後学習	系統的な文字指導の大切さを体験し感想や意見を文章化する。 言葉に関するお楽しみ会の出し物をグループで練習する。
第 15 回	「楽しい、言葉遊びとお話の会」の開催 授業評価	事前学習	言葉に関する出し物の準備、練習をしておく。
		事後学習	実習や実際に現場に立つ前に習得しておくことよい、乳幼児向けの言葉遊びや言葉に関する児童文化の技術を練習しておく。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (人間関係) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3413 SCOT3413 SJMP3132
2. 授業担当教員	池田 琴恵		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「保育内容人間関係」について、子どもの活動とねらいと内容との関連を具体的に扱う。子どもの発達と共に人間関係がどのように広がり、深まっていくのか、子ども、保育者、家庭、地域等を含めた人との関わりについて理解する、保育の全体構造のなかで、子どもの人間関係および社会性を育てることができるよう、社会性の発達とその援助についての基礎的理論や知識を習得し、それを子どもの実際に即して指導・援助が行えるよう、多様な事例について考察する。具体的に考え、行動に結び付ける力をつけることを目指し、映像の活用、事例報告、ロールプレイなどを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の人間関係、特に愛着形成の重要性がわかる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達過程を理解し、説明することができる。 3. 遊びの中での子どものさまざまな社会的体験を理解し、多様な状況における望ましい援助を考察することができる。 4. 子ども同士の人間関係を育てる活動や環境構成の仕方がわかり、実践できる。 5. 好ましい社会的生活習慣を身につけるための保育方法、かかわり方がわかる。 6. 就学を迎える子どもの集団行動、社会的環境への興味関心を育てる方法がわかる 7. 保護者と保育者との望ましい関係について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	各回の授業で次週の授業の予習となる課題シートを配布しますので、事前学習として課題を行ってください。さらに、授業内、事前学習で分からなかった部分や授業内に考えたことなどを課題シートのレポート枠に書き込み、授業の次の週の授業前に提出してください。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】森上史郎,小林紀子,渡辺英則編『最新保育講座 8 保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房、2009 年。 【教材】 授業では A4 サイズの資料や課題を配布します。 各自 A4 の 2 つ穴式のリングファイルを準備してください。		
11. 成績評価の方法	以下の加点配分で成績評価を行います。 課題シートへの取り組み 40%、課題シートのレポート枠 40% 小テスト 20%		
12. 受講生への メッセージ	子どもの人間関係の発達に保育者は大きな役割を負っています。保育の専門家となる皆さんは、この講義で子どもたちの人間関係が豊かなものとなるような十分な関わり方の知識と技術を身につけていただきたいと思います。そのためには日常の自分がとっている行動や考え方の特徴(クセ)に意識的になることも重要です。みなさん自身が子どもや保護者、同僚など豊かな人間関係が築けるようになることも目指してください。		
13. オフィスアワー	初回授業でアナウンスします。 E-mail : koikedata@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを読み、講義内容と日程を確認しておくこと。
		事後学習	授業に必要な教科書や教材を準備すること。
第 2 回	幼児教育の目的と基本	事前学習	第 1 章(pp.1~17) : 課題シート 1 に取り組む
		事後学習	レポート作成準備
第 3 回	各発達時期における人間関係の特徴	事前学習	第 2 章(pp.19~36) : 課題シート 2 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 4 回	遊びと人間関係の発達①理論編	事前学習	第 3 章(pp.37~64) : 課題シート 3 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 5 回	遊びと人間関係の発達②実践編	事前学習	課題シート 3 を見直す
		事後学習	レポート作成準備
第 6 回	子どもの人との関わりをみとる	事前学習	第 4 章(pp.65~74, pp.80~88) : 課題シート 4 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 7 回	人との関わりを育てる保育者の役割	事前学習	第 5 章(pp.89~101) : 課題シート 5 に取り組む。
		事後学習	レポート提出準備
第 8 回	※ 小テスト レポート提出 園での人間関係を育む「遊び」を考える① 理論編	事前学習	課題シート 1~5 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	授業内容をもとにグループワークにとりくむ。
第 9 回	人間関係の記録	事前学習	第 5 章(pp.101~104) : 課題シート 6 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 10 回	人との関わりが難しい子どもへの支援	事前学習	第 6 章(pp.107~120) : 課題シート 7 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 11 回	家庭生活の中の人間関係	事前学習	第 7 章(pp.141~147) : 課題シート 8 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 12 回	親を支援する	事前学習	第 7 章(pp.121~124)、第 4 章(pp.75~80) : 課題シート 9 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 13 回	園での人間関係を育む「遊び」を考える② グループワーク編	事前学習	指導案の作成、発表準備
		事後学習	発表準備
第 14 回	園での人間関係を育む「遊び」を考える② 発表編	事前学習	第 13 回のグループワークを発表できるように仕上げる。
		事後学習	発表したレポートを提出できるようにまとめる。
第 15 回	※ 小テスト レポート提出 まとめ	事前学習	課題シート 6~9 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	これまでの授業を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (表現) / 表現 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1326 SJMP1135
2. 授業担当教員	二宮 紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、「表し」に気づき、「表し」の内側にある心を感じ取る力が必要である。</p> <p>本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。 3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。 4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。 5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に即して活動の準備 2. 教科書の読みとりとまとめ 3. 発表の準備と内容に関するレポートの提出 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】無藤隆 監修『事例で学ぶ保育内容 領域表現』萌文書林。</p> <p>【参考書】佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席を含む授業への取り組み。特に授業内での発表にむけての取り組みと発表内容の評価。40% 2. グループ活動(保育教材を使って)の発表にむけての取り組みと発表内容、及び発表内容に関する提出物の評価。30% 3. まとめ筆記試験。30% 		
12. 受講生への メッセージ	<p>学習目標が達成できるよう努力しましょう。</p> <p>幼児理解を深め、未分化な幼児の表現活動を捉え、的確に援助できるようになりましょう。</p> <p>自らの表現力をみがきましょう。自然の美しさや日々の変化に気づく感受性を育てましょう。</p> <p>色々な文化的経験を積みましょう。</p>		
13. オフィスアワー	<p>研究室扉に掲示。時間的に空いている場合はいつでも可。ただしメールにて事前連絡のこと。</p> <p>アドレスは研究室扉に記載。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要) 表現とは何か。保育内容「表現」について	事前学習	教科書を眺めてくる。
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 2 回	身体と音による表現① (身体を意識する。音楽の要素を身体で感じて表現する)	事前学習	音楽の要素の予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 3 回	身体と音による表現② (身体遊びと音楽～わらべうた遊び、お手合わせ、ボディ・パーカッション、鏡に映る動作等) 身体に着目した表現発表	事前学習	わらべうた遊びの調査
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 4 回	ことばによる表現 (詩の朗読とうた。絵、写真を見て語る)	事前学習	絵、写真等の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 5 回	ことばと音による表現 (オノマトペを含むことばのアンサンブルから楽器のアンサンブルへ)	事前学習	提示された場面を表す音を考えてくる
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 6 回	ことばと身体による表現 (うたを演じる)	事前学習	うたの予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 7 回	素材との出会い① (素材～水、紙、石、ひも、葉等を使っての色、形、動きの表現探索)	事前学習	教科書第 4 章の予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 8 回	素材との出会い② (色、形、動きの表現発表) (素材～水、紙、石、ひも等を使っての音、形、動きの表現探索)	事前学習	発表の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 9 回	素材との出会い③ (音、形、動きの発表)	事前学習	発表の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 10 回	中間のまとめ (表現のコアとなる体験の振り返り、表現活動と人間関係及び環境設定との関わり)	事前学習	教科書第 3 章の予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 11 回	保育教材の持つ意義 (ベープサート、パネルシアター、指人形、大型絵本、紙芝居等)	事前学習	保育教材についての予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 12 回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ① グループ活動：表現する題材の選定と表現手段の作成	事前学習	教科書第 8 章の予習
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 13 回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ② グループ活動：物語、登場人物、動き、音等の設定	事前学習	活動内容の準備
		事後学習	授業で学んだことの復習
第 14 回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ③ グループ活動発表：実演と意見交換	事前学習	活動内容発表の準備
		事後学習	活動内容に関するまとめの作成
第 15 回	まとめ (子どもの表現をどう捉えるのか。様々な表現活動の理解と援助)	事前学習	授業で学んだことのまとめ
		事後学習	授業で学んだことの復習

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2411 SCOT2411 SJMP2130
2. 授業担当教員	瑞穂 優			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育者として保育内容を考える際、保育内容の5領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づく保育の基本及び保育内容を理解し、保育の全体的な構造を把握するとともに、その歴史の変遷について学び、保育内容について説明できる。 ・ 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することについて理解を深め、具体的な保育実践につなげる。 ・ 子どもや子ども集団の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深めたいうで具体的な保育内容を考察し、実践できる。 ・ 多様な保育展開について具体的に学び、保育者の専門性について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 入江 礼子・榎沢良彦 編著 『シードブック 保育内容総論』 建帛社 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p>			
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 課題レポート (ワークシート) の提出状況と内容 50%			
12. 受講生への メッセージ	乳幼児期をどのように過ごすかということは、とても大切なことです。保育者はその責任を負う仕事です。自分はどうな保育者になりたいか、どのような保育をしたいのか、しっかり考えて、しっかり学んでほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	家庭での保育と保育所・幼稚園・認定こども園での保育	事前学習	自分の過ごした乳幼児期を思い出しておく。	
		事後学習	保育所または幼稚園の1日をまとめる。	
第2回	小学校との連携と保育	事前学習	保育所・幼稚園と小学校の違いを考えてくる。	
		事後学習	乳幼児期にはどのような生活がふさわしいかまとめる。	
第3回	子どもの発達と生活	事前学習	保育所保育指針 第2章を読んでくる。	
		事後学習	保育所保育指針の発達についてまとめる。	
第4回	保育所で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第3章-1を読んでくる。	
		事後学習	保育所での生活をまとめる。	
第5回	保育所における0・1歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-2・3を読んでくる。	
		事後学習	0・1歳児の生活をまとめる。	
第6回	保育所における2・3歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-4・5を読んでくる。	
		事後学習	2・3歳児の生活をまとめる。	
第7回	幼稚園で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第2章-1を読んでくる。	
		事後学習	幼稚園での生活をまとめる。	
第8回	保育所・幼稚園における3・4・5歳児の生活	事前学習	教科書 第2章-2・3・4を読んでくる。	
		事後学習	3・4・5歳児の生活をまとめる。	
第9回	保育内容の歴史の変遷と社会状況の関連	事前学習	教科書 第4章を読んでくる。	
		事後学習	保育内容の変遷についてまとめる。	
第10回	幼稚園教育要領・保育所保育指針について	事前学習	教科書 第5章を読んでくる。	
		事後学習	「5領域」についてまとめる。	
第11回	遊びの特質	事前学習	子どもにとって「遊び」とは何か、考えてくる。	
		事後学習	「遊び」を分類する。	
第12回	遊びと学び	事前学習	教科書 第6章を読んでくる。	
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意義をについてまとめる。	
第13回	主体性を大切にする保育所・幼稚園における保育	事前学習	「主体性」とは何か、自分にあてはめて考えてくる。	
		事後学習	どのような保育が望ましいか、自分の考えをまとめる。	
第14回	保育所・幼稚園における実習	事前学習	教科書 第8章を読み、自分がこれから何を学ばなければならないか考える。	
		事後学習	実習に向けての準備を考える。	
第15回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る。	
		事後学習	授業をもう一度振り返る。	

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	鈴木 美子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児から5歳児の発達の特徴をまとめます。 ・保育の内容の教材研究の提出物と保育体験を通しての学びについての発表も課題とします。 幼児の主体性を育む保育の在り方を、幼児が自ら遊びを進めたり生活を営んでいこうとする幼児の視点から考えられる眼を培って下さい。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 幼稚園教育指導資料 1 文部省『指導計画の作成と保育展開』 4 文部省『一人ひとりに応じる指導』			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (質問等) 30% 各種発表 30% 試験 40%			
12. 受講生への メッセージ	幼稚園教職科目ですので、授業中のマナー、意欲、教育 (保育者) としての考えなどを大切にしたいと思います。知識や技術だけではない教育者としての人格、資質を養うよう日常行動に気をつけましょう。自分から考え、他の人のよいところを学び、自己を向上させる積極的な姿勢を期待します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバスの確認 グループ分け (保育の一日、模擬保育と発達の発表)	事前学習	部分保育の指導計画を振り返り、保育の計画を立てる際の留意事項を整理しておく	
		事後学習	各自まとめた発達の概要を読み返して分かるようにしておく。保育の一日の流れを整理し、子どもの一日の動きを具体的に書き出す	
第2回	「登園時、昼食時、降園時」の留意点と主活動との関係	事前学習	一日の保育のそれぞれの時間における留意点を書いてくる	
		事後学習	主活動はその前後を含め、連続した中で行うことを踏まえ、具体的な方法を考えて必要なものを準備する	
第3回	主活動の検討	事前学習	主活動の子どもの活動と留意点を文章化して持参する	
		事後学習	主活動の指導案を完成させる	
第4回	一日の指導案作成	事前学習	一日の中で主活動に関わる留意点をあげ、文章化して持参する	
		事後学習	一日の指導案を完成させる	
第5回	模擬保育 3歳	事前学習	指導案に目を通しておき、視点をもって臨む	
		事後学習	発表グループから学んだことをまとめる	
第6回	模擬保育 4歳	事前学習	指導案に目を通しておき、視点をもって臨む	
		事後学習	発表グループから学んだことをまとめる	
第7回	模擬保育 5歳	事前学習	指導案に目を通しておき、視点をもって臨む	
		事後学習	発表グループから学んだことをまとめる	
第8回	発達の発表についての準備	事前学習	グループごとに模擬保育の練習をして検討事項を明らかにしておく	
		事後学習	グループごとに完成させる	
第9回	発達についての発表 (3歳児)	事前学習	発表の準備	
		事後学習	模擬保育と関連させての学びをまとめる	
第10回	発達についての発表 (4歳児)	事前学習	発表の準備	
		事後学習	模擬保育と関連させての学びをまとめる	
第11回	発達についての発表 (5歳児)	事前学習	発表の準備	
		事後学習	模擬保育と関連させての学びをまとめる	
第12回	子どもの発達に応じるとは 模擬保育と子どもの発達 実習の経験と併せて	事前学習	自分の教育実習から洗い出しておく	
		事後学習	学んだことを具体的にまとめる	
第13回	保育の専門性 (3~5歳児を見通した保育 その1)	事前学習	関係プリントを見て課題を行う	
		事後学習	学んだことをまとめる	
第14回	保育の専門性 (3~5歳児を見通した保育 その2)	事前学習	関係プリントを見て課題を行う	
		事後学習	学んだことをまとめる	
第15回	まとめ	事前学習	関係プリントを見て課題を行う	
		事後学習	保育内容総論Ⅱの学びをまとめて提出	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3405 SCOT3405 SJMP2110
2. 授業担当教員	池田 琴恵		
4. 授業形態	演習 (ディスカッション, グループワーク), 講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	保育の心理学Ⅰを既習していることが望ましい		
7. 講義概要	<p>子どもを取り巻く社会は、家族の形態や就労、価値観や知識などの家族環境、子育てを支援する地域や福祉という社会環境、さらには社会全体にある子育て観や遊び道具の変化など様々な側面で大きく変化してきました。</p> <p>保育の心理学Ⅱでは、保育場面での生活や遊びを通じて得られる様々な経験がどのように子どもの発達に関わっているかを理解し、子どもの心身の発達を促進する保育における発達援助について学びます。この講義では学習心理学や教育心理学と呼ばれる心理学の知識についての理解を深めながら、保育の心理学Ⅰで学習した子どもが本来持っている発達の素質を引き出すために、保育者はどのような関わりをしていけばよいのかを実践的に考えていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>①子どもの経験に基づく学習の過程を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②保育実践の場で養われる子どもの心身の発達について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③子どもの発達・教育に関する心理学の知見をもとに、発達に応じた保育場面での支援について実践的に考えることができるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	各回の授業で次週の授業の予習となる課題シートを配布しますので、事前学習として課題を行ってください。さらに、事後学習として2回のレポートの準備および作成を行ってください。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 林邦雄・谷田貝公昭(監修)、西方毅・谷口明子(編集)『保育者養成シリーズ 保育の心理学Ⅱ』一藝社、2012年。</p> <p>【参考書】 林邦雄・谷田貝公昭(監修)、谷口明子・西方毅(編集)『保育者養成シリーズ 保育の心理学Ⅰ』一藝社、2012年。</p> <p>【教材】 授業では A4 サイズの資料や課題を配布します。 各自 A4 の 2 つ穴式のリングファイルを準備してください。</p>		
11. 成績評価の方法	以下の加点配分で成績評価を行います。 課題シートへの取り組み 20%、グループワーク 20%、レポート (2 回) 40%、 小テスト (2 回) 20%		
12. 受講生への メッセージ	保育の心理学Ⅱでは、子どもたちの発達や学習に関する知識をおぼえるだけでなく演習やディスカッションを行い、子どもを取り巻く実際の生活や問題について考えていきます。演習やディスカッションで実際の場面がイメージしやすくなるよう、日ごろから子どもと関わったり観察したりする機会を見つけるように心がけてみてください。		
13. オフィスアワー	初回の講義でアナウンスします。 E-mail : koikeda@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義内容、講義の進め方) 保育の心理学Ⅱで学ぶこと	事前学習	シラバスを読み、どのような講義内容、日程かを確認しておくこと。
		事後学習	今後の授業内容と進め方について理解し、教科書や必要な教材を準備すること。
第 2 回	子どもを取り巻く社会的環境 子どもの生活・学びと地域社会	事前学習	第 1 章(pp.9~22)、第 8 章(pp.101~112)を読んで、課題シート 1 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 3 回	人的環境をめぐる問題	事前学習	第 4 章(pp.49~62)を読んで、課題シート 2 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 4 回	発達の個人差、知能	事前学習	第 2 章(pp.23~36)、配布資料を読んで、課題シート 3 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 5 回	自己意識の発達	事前学習	第 6 章(pp.75~88)を読んで、課題シート 4 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 6 回	仲間関係の発達	事前学習	第 7 章(pp.89~100)を読んで、課題シート 5 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 7 回	遊びと発達	事前学習	第 5 章(pp.63~74)、第 9 章(pp.113~124)を読んで、課題シート 6 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 8 回	主体性・自主性の形成	事前学習	第 12 章(pp.149~160)を読んで、課題シート 7 に取り組む
		事後学習	レポート提出準備
第 9 回	※ 小テスト レポート提出 発表のためのグループワーク	事前学習	課題シート 1~7 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	グループ発表の準備をする
第 10 回	基本的生活習慣の獲得	事前学習	第 11 章(pp.137~148)を読んで、課題シート 8 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 11 回	生涯発達と生きる力の養成	事前学習	第 10 章(pp.125~136)を読んで、課題シート 9 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 12 回	発達の連続性と発達課題	事前学習	第 13 章(pp.161~172)、第 14 章(pp.173~186)を読んで、課題シート 10 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 13 回	保育上の問題と支援・援助①: 心理的問題・発達障害の理解と対応	事前学習	課題シート 11 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 14 回	保育上の問題と支援・援助②: 保護者の支援	事前学習	課題シート 12 に取り組む。
		事後学習	レポート提出準備
第 15 回	※ 小テスト レポート提出 まとめ	事前学習	課題シート 8~12 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	授業全体を振り返り、理解を深める。

1. 科目名 (単位数)	法学 (憲法) (2 単位)		3. 科目番号	GELA1317 GELA1138 GELA1117
2. 授業担当教員	梶原 洋生		5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義 (質疑応答を含む) を主とするが、事例問題ではグループ討議、発表、検討を行う。講義はレジュメに沿って行うが、理解を助ける上で教科書を使用したり、必要な最新情報等を提供したりする。各自が要点を把握し、配布されたレジュメに筆記することが必要である。毎回の授業時間の末尾においてその日の授業内容に関する内容を記入し、提出する。			
6. 履修条件・他科目との関係	今後学ぶことが考えられる法律に係る科目の基礎となるものである。 この科目は、民法、行政法、教育法規等を学習するときの基礎知識となるものである。			
7. 講義概要	<p>本科目は、教育職員免許状を取得する際の基礎資格として必須科目である。また、公務員試験を受験する際の必要な科目ともなっている。</p> <p>公務員や教員だけに限らず社会人にとって、法について基礎知識を学び、身に付けることは仕事を進める上で大切なことである。また、一般の公務員や教員及び企業人の実践力は法に裏付けられたものでなければ、その役割を全うすることは困難である。</p> <p>そこで、本講義では法の作用や役割を学び、社会人として必要とされる法律の基礎知識を習得する。なお、習得の際には多くの具体的事例を通して学び、時にはグループディスカッションをしたりして理解を深めることにする。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学 (憲法) の基礎知識を理解する。 2. 法学を学ぶには、条文や判例などを読むことは欠かせないものであるとの学習態度を身に付ける。 3. 法律的なものの考え方を理解し、仕事に就いたときに活かせるようにする。 4. 教員採用試験や公務員試験に出題される法規一般の問題に対応しうる法律知識を身に付ける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマ: 「日本国憲法における人権の享有主体性について」 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門 (最新版)』有斐閣アルマ。</p> <p>【参考書】 渋谷秀樹『憲法への招待』岩波新書。 石本伸晃『世の中が分かる憲法ドリル』平凡社新書。 野口寛編『改定 現代法学—法学・憲法—』建帛社。 江頭・小早川・西田・高橋・能見編『ポケット 六法 最新版』有斐閣。</p>			
11. 成績評価の方法	平常点 30 パーセント、試験点 70 パーセントを基準割合とする。			
12. 受講生へのメッセージ	分からないことについては、積極的に調べ、考えて、授業の内容を習得できるよう努めて欲しい。 法学、憲法の大切さが理解できるように、人権感覚を大切に努力してほしい。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに	事前学習	教科 pp.1~14 の通読。	
		事後学習	教科書 pp.1~14 を読み返す。	
第 2 回	憲法と人権理論—人権の歴史と現代性—	事前学習	「人権の歴史」について図書館で調べる。	
		事後学習	「人権の歴史」について 200 字以内でまとめる。	
第 3 回	基本的人権の尊重—人権の享有主体性—	事前学習	第 1-2 章内の享有主体性について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1-2 章について 200 字以内でまとめ直す。	
第 4 回	基本的人権の尊重—人権の体系—	事前学習	第 3-4 章内の体系論について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 3-4 章について 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	基本的人権の尊重—平等原則—	事前学習	第 6-7 章について平等原則を中心に 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 6-7 章について 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	基本的人権の尊重—教育権と教育保障—	事前学習	第 9-10 章について保障の考え方を中心に 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 9-10 章について 200 字以内でまとめる。	
第 7 回	基本的人権の尊重—生命を考える憲法—	事前学習	第 11,13 章について生命に関する裁判例を 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 11,13 章について 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	平和主義	事前学習	第 14 章について平和主義に関する裁判例を 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 14 章について 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	人権保障と統治の意義	事前学習	第 1-14 章について統治の考え方を 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 14-15 章について 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	権力分立—裁判所—	事前学習	第 16 章について分立を中心に 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 16 章について 200 字以内でまとめる。	
第 11 回	権力分立—国会—	事前学習	第 17,18 章について国会を中心に 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 17,18 章について 200 字以内でまとめる。	
第 12 回	権力分立 内閣	事前学習	第 19 章について内閣を中心に 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 19 章について裁判例を 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	地方自治	事前学習	第 20 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 20 章について事例を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	憲法の今後	事前学習	第 21 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 21 章について事例を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書全般の熟読。	
		事後学習	今までの資料を整理してまとめなおす。	

期末試験

1. 科目名 (単位数)	簿記 (4 単位)	3. 科目番号	SBMP2132
2. 授業担当教員	平 仁		
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答、問題演習などを併用し、期末に試験を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「簿記」履修後、「会計学」を履修すると理解力は増大する。		
7. 講義概要	<p>簿記は、事業経営における日々の取引を記録し、経営成績や財政状態を把握するための財務諸表にまとめるための基礎部分を構成する、実務的には非常に重要な部分を占めるものです。簿記を学ぶ上では、机上で学ぶことに加え、実際に手を動かし、電卓を叩いて、実践することが大切です。</p> <p>この講座では、1 コマ目の前半 30 分間を用いて、毎回確認テストを行い、確認テストを解説した上で、2 コマ目で新たな分野を学習します。</p> <p>この講座を受講する学生は、毎回電卓 (できれば 10 ケタ以上の電卓を用意して欲しい) を持参して下さい。</p>		
8. 学習目標	<p>1、簿記の仕組みを理解し、簡単な仕訳を正確にできるようになる。</p> <p>2、財務諸表の仕組みを理解し、自分で作成できるようになる。</p> <p>3、日商簿記 3 級程度の内容を理解できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント及びレポートを課すことはないが、毎回の確認テストの内容は前回の復習なので、しっかり復習することが大切です。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】滝沢ななみ『スッキリわかる日商簿記 3 級【第 7 版】』TAC 出版、2016。</p> <p>【参考書】授業内で適宜指示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1、授業態度 (質問、出席状況など) 10%</p> <p>2、確認テスト 30%</p> <p>3、期末テスト 60%</p> <p>遅刻、欠席等には所定の減点をする。</p> <p>なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>簿記を理解し、仕訳を正確に切れるようになることは、事業経営を数値化して把握する上で、必要不可欠なことです。簿記を学ぶことは事業経営を学ぶ第一歩とも言えるでしょう。</p> <p>簿記は「習うより慣れよ」を地で行く世界でもありますので、事前学習よりも事後学習が大切ですから、しっかり復習して下さい。特に第 17 回以降は、第 16 回までの講義内容を踏まえた応用問題になりますので、復習していないとついていけなくなる可能性が高いので、必ず復習して下さい。</p> <p>また、留学生にとっては、日本語による検定試験に合格することが日本の勉強の成果を客観的に示す証拠として活用することができますので、就職活動を成功させるためにもこの講義の授業範囲と一致する日商簿記 3 級にチャレンジすることを勧めます。</p> <p>なお、事前学習で指示したページはシラバス作成時には第 7 版発行前であるため、第 6 版の頁で記載していることに注意すること。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、商品売買 (1)	事前学習	テキスト pp.2~10 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 2 回	商品売買 (2)	事前学習	テキスト pp.12~28 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 3 回	確認テスト (商品売買)、現金 (1)	事前学習	テキスト pp.30~38 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 4 回	現金 (2)、預金	事前学習	テキスト pp.40~56 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 5 回	確認テスト (現金・預金)、手形 (1)	事前学習	テキスト pp.58~70 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 6 回	手形 (2)、貸付金・借入金	事前学習	テキスト pp.71~84 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 7 回	確認テスト (手形・貸付金・借入金)、消耗品、租税公課と資本金	事前学習	テキスト pp.128~132、pp.160~168 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 8 回	有価証券	事前学習	テキスト pp.86~98 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 9 回	確認テスト (消耗品・租税公課と資本金・有価証券)、その他の債権債務 (1)	事前学習	テキスト pp.100~107 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 10 回	その他の債権債務 (2)	事前学習	テキスト pp.108~126 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 11 回	確認テスト (その他の債権債務)、貸倒れと貸倒引当金 (1)	事前学習	テキスト pp.134~142 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 12 回	貸倒れと貸倒引当金 (2)、見越し繰延べ	事前学習	テキスト pp.170~187 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 13 回	確認テスト (貸倒れと貸倒引当金、見越し繰延べ)、固定資産と減価償却 (1)	事前学習	テキスト pp.144~151 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 14 回	固定資産と減価償却 (2)	事前学習	テキスト pp.152~158 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること

第 15 回	確認テスト（固定資産と減価償却）、帳簿への記入（1）	事前学習	テキスト pp.190～197 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 16 回	帳簿への記入（2）	事前学習	テキスト pp.198～208 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 17 回	確認テスト（帳簿への記入）、試算表（1）	事前学習	テキスト pp.210～214 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 18 回	試算表（2）	事前学習	テキスト pp.215～221 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 19 回	確認テスト（試算表）、伝票制度（1）	事前学習	テキスト pp.224～231 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 20 回	伝票制度（2）	事前学習	テキスト pp.232～235 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 21 回	確認テスト（伝票制度）、精算表の作成（1）	事前学習	テキスト pp.238～239 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 22 回	精算表の作成（2）	事前学習	テキスト pp.240～257 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 23 回	確認テスト（精算表の作成）、財務諸表の作成（1）	事前学習	テキスト pp.238～257 を再度よく読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 24 回	財務諸表の作成（2）	事前学習	テキスト pp.258～259 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 25 回	確認テスト（財務諸表の作成）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとやること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 26 回	帳簿の締切り	事前学習	テキスト pp.262～271 を読んでくること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 27 回	確認テスト（帳簿の締切り→財務諸表の作成）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとやること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 28 回	問題演習（精算表の作成＜類推問題＞）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとやること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 29 回	問題演習（総合問題）	事前学習	ここまでの復習をしっかりとやること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
第 30 回	総合問題の解説	事前学習	ここまでの復習をしっかりとやること
		事後学習	講義中に解いた問題をマスターすること
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法 I (4 単位)		3. 科目番号	EDHE2347
2. 授業担当教員	井田 延夫			
4. 授業形態	◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など <例 1> 導入：講義から課題の把握→展開 (演習)：自分の考えをまとめる →グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議 →まとめ：協議と講義のまとめ <例 2>演習 (課題学習を生かした授業の在り方) 導入：指導法を形にする講義→展開 (演習)：課題の調査による解 明→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：模擬授業の成果 とまとめ		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 保健科教員を目指す者にとって必要な授業力の基礎を身に付ける内容とする。 (2) 生徒に分かる保健授業の展開を目指し、「教育内容の教材化、指導法、指導案作成」の基礎を身につける。 (3) 保健学習に関する主要な指導法を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描ける ようにする。 (4) 生徒を取り巻く生活環境やライフスタイルの変化による新たな健康課題を学ぶとともに、保健科指導法 II の授業で本格的な指導案が作成できるための基礎的・基本的な資質・力量を養う。			
8. 学習目標	(1) 生徒にとって楽しく分かりやすく学べる保健授業の展開を目指した「教育内容の教材化、指導法、指導 案の作成」など、保健科教員を目指す者にとって必要不可欠な基礎・基本となる学力を、試行錯誤しなが ら実践的に身に付けることができるようにする。 (2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体 育編」の保健分野・保健科の内容について理解し、説明することができるようにする。 (3) 課題学習の進め方 (課題設定の在り方、類型、ディベートの手法を生かした課題学習など) を理解でき るようにする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	◇ 次時の学習内容について、教科書で予習してくることをアサイメントとする。 ◇ レポート課題は、「性に関する教育」「学校教育が担うべき保健的教養」「新聞記事を活用した保健の授業 構想」「これからの保健教育」「保健科教論と養護教論」などとする。詳細は授業の中で指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 森昭三、和唐正勝編著『新版 保健の授業づくり入門』大修館書店。 文部科学省刊『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房、平成 20 年 9 月。 文部科学省刊『高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編』東山書房、平成 21 年 12 月。 【参考書】 森昭三ほか著『中学 保健体育』学研。 高石昌弘ほか著『現代保健体育 改訂版』大修館書店。 ※ プリント教材等は、毎時の授業時に配布しそれを使用する。			
11. 成績評価の方法	◇ レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 40% ◇ 日常の授業態度 (質問)・・・・・・・・・・総合点の 30% (30 回中、8 回以上の欠席は単位不認定とします。なお、遅刻は 1 回につき 2 点、欠席は 1 回につき 5 点の減点とします。) ◇ 小論文・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合点の 30%			
12. 受講生への メッセージ	1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。 5 予習・復習をするとともに、保健学習に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保健学習と保健指導との違いと特質 小学校・中学校・高等学校における保健学習	事前学習	教科書 (保健の授業づくりに入門) を概観してくる	
		事後学習	学校保健の領域について復習する	
第 2 回	保健科の目標 現代社会における保健科教育への期待	事前学習	保健科の目標について考えてくる	
		事後学習	保健科教育への期待について整理する	
第 3 回	教育課程内における保健教育、 青少年の健康問題への対応	事前学習	赤ちゃんポストに関する自分の考えを整理してくる	
		事後学習	青少年の健康問題について復習する	
第 4 回	保健の授業をつくる 1 (授業の成立、授業が授業となるとき)	事前学習	教科書 pp.34~49 を塾読する	
		事後学習	授業が成立することについて整理する。 「45 歳までの私」を作成する	
第 5 回	保健の授業をつくる 2 (授業の 4 要素、授業の三角錐、教材・教材 研究とは)	事前学習	教材研究について考えてくる	
		事後学習	教材研究の在り方や保健のよい授業について整理する	
第 6 回	保健の授業をつくる 3 (子どもの性に向き合う、女性のからだ、男 子生徒の性的な悩み、保護者が行う性教育)	事前学習	子どもの性に関する問題について考えてくる	
		事後学習	性に関する家庭教育について復習する	
第 7 回	感染症に関する授業 1	事前学習	感染症と伝染病の違いについて考えてくる	

	(感染症と伝染病との違い)	事後学習	感染症に関する法律を整理する
第 8 回	感染症に関する授業 2 (新型インフルエンザへの対応)	事前学習	クロスロードゲームの問題を作成してくる
		事後学習	性教育に関するレポートを作成する
第 9 回	保健の学力と教育内容 1 (健康にかかわる“実践力”を育てる、意志決定と行動選択能力の育成)	事前学習	教科書 pp.9~18 の熟読をしてくる
		事後学習	保健的教養の形成と 学校教育について整理する
第 10 回	保健の学力と教育内容 2 (学校教育が行うべき保健的教養)	事前学習	教科書 pp.19~31 の熟読をしてくる
		事後学習	我が国の保健科教育の歩みについて整理する
第 11 回	保健の教材づくりとその在り方 1 (我が国の保健科教育の歩み、保健の教材づくりに込めるもの、分かる授業の追究)	事前学習	教科書 pp.138~156 の熟読をしてくる
		事後学習	新旧学習指導要領について比較対照し理解する
第 12 回	保健の教材づくりとその在り方 2 (虫歯予防に関する授業、新しい健康問題への対応)	事前学習	小学校における虫歯予防指導について考えてくる
		事後学習	「授業書」の指導事例を復習する
第 13 回	保健の教材づくりとその在り方 3 (交通安全に関する授業)	事前学習	交通安全に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較してくる
		事後学習	中・高の交通事故防止授業について整理する
第 14 回	保健の教材づくりとその在り方 4 (自転車の安全に関する授業)	事前学習	自転車の安全指導について考えてくる
		事後学習	交通事故の要因とその防止について整理する
第 15 回	保健の教材づくりとその在り方 5 (感染症に関する授業 1)	事前学習	「学校における麻疹対策ガイドライン」を熟読してくる
		事後学習	中・高の感染症に関する指導内容について整理する
第 16 回	保健の教材づくりとその在り方 6 (感染症に関する授業 2)	事前学習	感染症に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較してくる
		事後学習	感染症の予防に関する授業について復習する
第 17 回	保健の教材づくりとその在り方 7 (性感染症に関する授業、エイズに関する中学校・高等学校の指導内容比較)	事前学習	「エイズ患者の両親からの言葉」について考えてくる
		事後学習	中・高のエイズに関する指導内容について整理する
第 18 回	保健の教材づくりとその在り方 8 (エイズ及び性感染症の予防、ハイリスク行動に関する授業)	事前学習	性感染症の予防について考えてくる
		事後学習	ハイリスク行動について理解を深める
第 19 回	応急手当に関する授業の在り方 1 (病気の応急手当に関する中学校と高等学校の授業)	事前学習	応急手当に関する中学校と高等学校の指導内容について、比較してくる
		事後学習	中・高の応急手当に関する指導内容について整理する
第 20 回	応急手当に関する授業の在り方 2 (熱中症に関する授業)	事前学習	熱中症の分類を理解してくる
		事後学習	熱中症から「病気の応急手当」について考える
第 21 回	心肺蘇生法 (AEDを含む) の実技演習 1	事前学習	心肺蘇生法と AED 使用上のポイントを理解してくる
		事後学習	AED の意義と手順を理解する
第 22 回	心肺蘇生法 (AEDを含む) の実技演習 2	事前学習	心肺蘇生法の手順を理解してくる
		事後学習	AED の使用技術を習得する 「新聞記事を活用した保健の授業構想」についてまとめる
第 23 回	保健の指導案づくりの基礎理解 (学習指導案作成の 9 ポイント)	事前学習	教科書 pp.158~165 を熟読してくる
		事後学習	「指導案作成の 9 ポイント」をより具体的に理解する
第 24 回	授業展開の技術 (うまい授業、思考を促す発問)	事前学習	教科書 pp.174~183 を熟読してくる
		事後学習	思考を促す発問について、復習する
第 25 回	保健の課題学習 (課題設定の在り方、類型、ディベートの手法を生かした課題学習)	事前学習	教科書 pp.277~298 を通読してくる
		事後学習	保健の課題学習について復習する
第 26 回	保健の指導案づくりとその展開 (学習指導案作成の意義、よい指導案)	事前学習	指導案の作成意義について考えてくる
		事後学習	指導案事例を参考にして、よりよい指導案についてイメージを膨らませる
第 27 回	養護教諭の行う保健授業	事前学習	養護教諭が保健授業を担当することの利点と課題を考えてくる
		事後学習	養護教諭が保健授業を行う場合の留意点等を整理する
第 28 回	保健科教諭と養護教諭 まとめ (「私としての保健の授業への思い」)	事前学習	養護教諭の職務領域の変化について考えてくる 「私としての保健の授業への思い」について、構想を練ってくる
		事後学習	養護教諭が保健授業を担当することへの期待について確認する
第 29 回	保健学習と保健指導 保健科授業における資料の在り方とその工夫	事前学習	学級活動における保健指導の内容について調べてくる
		事後学習	学級活動の指導の原理・原則を理解する
第 30 回	全体の振り返りとまとめ	事前学習	「振り返りカード」から、それまでの学びを整理してくる
		事後学習	保健管理も保健教育もできる学校保健の専門家を目指すための決意と覚悟を決める

1. 科目名 (単位数)	マルチメディア表現 I (2 単位)		3. 科目番号	EDIT2331
2. 授業担当教員	小川 英光・森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	この講義は「マルチメディア表現 II」へつながっていく。			
7. 講義概要	マルチメディアデータの表現と操作に関する基礎知識を整理する。具体的には、音声信号や 2 次元静止画像の標本化・量子化など、アナログ信号のデジタル化方法、表現方法、操作方法、圧縮方法に関する理解を深める。			
8. 学習目標	以下について学習し、教科「情報」の授業を教えることが出来るようになることを学習目標とする。 1. 音声信号のとらえ方、特に周波数スペクトルの概念を身につけ、それを基にした標本化や圧縮法を学ぶ。 2. 2次元静止画像の表現法を学ぶ。 3. カラー画像の表現法を学ぶ。 4. 2次元静止画像の変換・合成法を学ぶ。 5. 画像の圧縮法(可逆圧縮、非可逆圧縮)の方法を学ぶ。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	・毎回、講義の後半で行う演習が時間内に出来ない場合は、宿題として次回の講義までに提出してもらう。 ・MIDIという演奏符号化用ソフトを使い、楽曲をコンピュータで演奏できるようにする。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田上博司『阪南大学叢書 76 マルチメディア情報学概論』二瓶社。			
11. 成績評価の方法	試験：50%、レポート：30%、出席点(遅刻は減点)：20%			
12. 受講生へのメッセージ	この授業で述べることはすべて、皆さんと同じ人間が考え出したことです。先輩に敬意を表しながらも、「自分ならどうするか」と、常に自分自身で考える習慣をつけてください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義の概要、マルチメディアとは	事前学習	教科書の第 1 章、第 2 章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	音声や画像のように性質が異なる情報、すなわち、マルチメディアを扱えるようになったもっとも大きな要因を整理すること。	
第 2 回	音声信号の基礎	事前学習	教科書の 3.8 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	マイクに向かって発生した音声波形に現れる特徴と音声の物理的性質の関係を整理すること。	
第 3 回	フーリエ級数の基礎 (純音の表現：三角関数)	事前学習	配付資料 1.1 節、1.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 1.1 節、1.2 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 4 回	フーリエ級数の基礎 (複合音の表現：フーリエ級数)	事前学習	配付資料 1.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 1.3 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 5 回	音声信号のデジタル化、標本化定理	事前学習	配付資料 1.4 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 1.4 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 6 回	オーディオデータの符号化	事前学習	教科書の 3.9 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	オーディオデータ符号化の原理をよく理解すること。	
第 7 回	オーディオデータの符号化 (MP3)	事前学習	教科書の 3.9 節を再度よく読んでおくこと。	
		事後学習	実習で行った操作を復習しておくこと。	
第 8 回	MIDI (演奏の符号化)	事前学習	教科書の 3.10 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	MIDI を使って課題曲の作曲を完成させること。	
第 9 回	画像のデータ形式 (1: ラスタ画像とベクタ画像、ベジェ曲線)	事前学習	配付資料の第 2 章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	ベジェ曲線の描き方によく慣れておくこと。	
第 10 回	画像のデータ形式 (2: ベジェ曲線の性質)	事前学習	ベジェ曲線で様々な曲線を描き、ベジェ曲線がどのような性質をもっているか予測しておくこと。	
		事後学習	配付資料の第 2 章の問題を完全に解けるようにすること。	
第 11 回	カラー画像、画像の強調・平滑化	事前学習	配付資料の第 3 章および 4.1 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	シフト演算によく慣れること。	
第 12 回	画像の平滑化・エッジ抽出・強調	事前学習	配付資料 4.2 節、4.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	さまざまなアルゴリズムの特徴を整理すること。	
第 13 回	ハフ変換(1)	事前学習	配付資料 4.4 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	パラメータ空間の考え方に慣れること。	
第 14 回	ハフ変換(2)	事前学習	配付資料 4.4 節を再度よく読んでおくこと。	
		事後学習	「直線の角度」の考え方をよく理解すること。	
第 15 回	画像の符号化	事前学習	教科書の 3.5.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	ハフマン符号化法によく慣れること。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	免疫学概論 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2318
2. 授業担当教員	栗原 久	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>免疫系は、いろいろな細胞がさまざまな手段を駆使して働いている生体防御のための複雑なシステムである。微生物や寄生虫などの感染に対して、抵抗力と防御力を与えるのが免疫系である。感染性の病原体に対する免疫系の対応は、生存のために必須のものであり、生得的なシステムと、後天的に獲得されるものがある。</p> <p>本授業では、免疫系の基本的システム、免疫系と健康、免疫異常と病気について学び、生体防御システムの知識を深める。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学び、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫とは何かについて学ぶ。 2. 免疫系がどのようにはたらくのか学ぶ。 3. 免疫系の反応について学ぶ。 4. 免疫系の異常と疾病について学ぶ。 5. 免疫系に影響を及ぼす因子について学ぶ。 6. 正常な免疫系を維持する要素について学ぶ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫関連の最新情報 (疾病、治療法など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 齋藤紀先著『休み時間の免疫学』講談社。 『東京福祉大学編教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 【参考書】 多田富雄 (監訳)『免疫学への招待』南江堂。</p>		
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション (免疫とは何か)	事前学習	「免疫学概論」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。
		事後学習	人はなぜ、感染症になりにくいのか、免疫の観点から考えてみる。
第 2 回	免疫細胞群の種類と機能の概略	事前学習	pp.6-14: 骨髄における免疫細胞の形成・分化を理解する。
		事後学習	骨髄球系、リンパ球系の細胞分化についてまとめる。
第 3 回	自然免疫系と獲得免疫	事前学習	pp.18-21: 抗体とは何か理解する。
		事後学習	自然免疫 (非特異的な防御反応) と獲得免疫 (特異的な免疫反応) の違いを、抗体産生からまとめる。
第 4 回	獲得免疫 ①液性免疫の仕組み	事前学習	pp.22-37: B 細胞による抗体形成の機序を理解する。
		事後学習	抗体の種類とそれらの機能についてまとめる。
第 5 回	獲得免疫 ②細胞性免疫	事前学習	pp.86-93: 骨髄性細胞の種類について理解する。
		事後学習	細胞性免疫の機能の特徴について、液性免疫との相互作用を考慮してまとめる。
第 6 回	獲得免疫 ③T 細胞	事前学習	pp.100-113: 胸腺の役割について理解する。
		事後学習	T 細胞の分化と、それぞれの機能についてまとめる。
第 7 回	ワクチン	事前学習	pp.60-72: 代表的なワクチン接種を調べる。
		事後学習	ワクチン接種と抗体産生、その有効性について、細菌とウイルスそれぞれについて考察する。
第 8 回	ウイルスと免疫応答	事前学習	pp.39-59: 細菌とウイルスの相違点を理解する。
		事後学習	ウイルス感染と免疫による防御機構をまとめる。
第 9 回	細菌感染と免疫応答	事前学習	pp.40-41: 細菌とウイルスの体内における増殖場所を理解する。
		事後学習	細菌感染、特に結核菌感染と免疫による防御機構をまとめる。
第 10 回	I 型アレルギー反応・アナフィラキシー	事前学習	pp.126-141: I 型アレルギー反応の症状を理解する。
		事後学習	アレルギーの定義、アナフィラキシーの発現機序をまとめる。
第 11 回	II 型アレルギー反応	事前学習	pp.142-155: 血液型 (ABO, Rh,) について理解する。
		事後学習	ABO および Rh 型血液不適合についてまとめる。
第 12 回	先天性免疫不全	事前学習	pp.148-163: HLA 抗原、血清病、膠原病、拒絶反応について理解する。
		事後学習	免疫機能と免疫抑制薬の作用機序をまとめる。
第 13 回	後天性免疫不全	事前学習	pp.160-165: 免疫不全の発現機序を理解する。
		事後学習	各種の先天性免疫不全に伴う疾患について、発現の時系列変化をまとめる。
第 14 回	ガン・敗血症と免疫	事前学習	pp.168-175: ガン細胞に対する免疫機構について理解する。
		事後学習	ガン細胞増殖の促進・抑制因子、および免疫機構の過剰状態による各種症状をまとめる。
第 15 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題について口頭発表し、学生間でディスカッションした内容を含めたレポートを作成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	養護教育学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2301
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>児童生徒の健康課題が多様化する中、平成 20 年中央教育審議会答申における養護教諭に関する記述からは、その専門性に対する期待の大きさを読み取ることができる。養護教諭の職務は、学校教育法 37 条 12 項において「養護教諭は児童の養護をつかさどる」と記されており、他の教職員にはない独自の活動を理解し、これを展開することのできる力量を形成することは、養護教諭を目指す者にとって大変重要である。本講義では、養護教諭の歴史の変遷や、その固有の職務内容を概観することにより、「養護とは何か」を、明らかにしていく。また、学校保健領域における養護教諭の具体的実践について学び、取り組みの基本的スタンスを身につける。</p>		
8. 学習目標	<p>① 養護教諭の歴史の変遷を理解し、学校教育に果たす養護教諭の役割について説明することができる。 ② 養護の概念を体得するとともに、養護教諭独自の活動の展開について、具体的に考えることができる。 ③ 子どもが主体の学校教育を基本として、効果的な保健教育活動のあり方について説明することができる。 ④ 保健室の機能と養護教諭の活動過程を理解し、これから時代に必要とされる養護教諭の基本的スタンスを身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・授業毎に、講義内容のワークシートに考えをまとめ、ファイリングしていく。 ・中間課題レポート：講義内容に基づき、養護教諭の専門性について自分の考えを記述する。第12回 (800字程度) ・最終課題レポート：講義内容に基づき、「養護とは何か」について自らの考えを記述する。(800字程度)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】大谷尚子・中桐佐智子編著『新養護学概論』東山書房、2014 年。 【参考書】日本学校保健会等から出版されている養護教諭関連冊子等。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・授業のワークシートのファイリングの提出 2 回 (20%) ・授業中の発言の積極的な活動・態度 (30%)・毎時間提出の授業振り返り (20%) ・中間課題レポート (15%) ・最終課題レポート (15%)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では養護教諭の全般的な活動を概観し、その出発点となる「養護」の概念についての理解を深めていきます。講義を通して、他の教職員にはない養護教諭独自の専門性や、「養護」という視点からの教育活動あるいは支援活動のあり方を見出すとともに、受講生の皆さんが「自分だったらどうするか」ということを積極的に考える姿勢を重視していきます。時代背景とともに変遷してきた養護教諭の職務についても振り返りながら、現在あるいは未来の養護教諭像について、一緒に考えていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 養護教育学で目指すもの、授業の目的を理解する。	事前学習	現段階での「養護」や「保健室」のイメージについて、自分なりの考えを持って講義に望む。
		事後学習	授業の目的について理解したことをワークシートにまとめファイリングしておく。
第 2 回	I 養護の概念と養護教諭 ①「養護」とは何か ・養護教諭の職務の法的位置づけ ・ヘルスプロモーションと養護教諭	事前学習	ヘルスプロモーションについて調べる (学校保健実務必携第 3 次改訂版) pp.554~558 参照)、養護教諭の職務との関連性について、自分の考えをまとめておく。 教科書 pp.15~18 を熟読し、予習しておく
		事後学習	養護教諭の職務の法的位置づけやヘルスプロモーションの観点から、「養護とは何か」についてワークシートにまとめファイリングしておく。
第 3 回	②養護教諭の活動過程 ・養護の基本原則 ・養護の機能 ・基本的かかわり	事前学習	教科書の養護の基本原則に関する事項について (pp.22~28) を熟読し、予習をする。
		事後学習	養護教諭の活動過程について、本時の講義を通して、感じたことやわかったことをワークシートまとめファイリングしておく。
第 4 回	③養護教諭の専門性 ・養護教諭の歴史の変遷 ・各種答申における養護教諭の役割	事前学習	教科書の養護教諭の歴史に関する事項 (pp.29~41) を熟読し、予習をする。
		事後学習	養護教諭の専門性に関し、本時の講義を通して、感じたことやわかったことをワークシートまとめファイリングしておく。
第 5 回	④保健室経営方針と保健室の設営 ・養護教諭の職務の特質と保健室の機能 ・保健室経営計画の立て方 ・保健室レイアウトのポイント	事前学習	教科書 pp.42~53 を熟読し、保健室という場の持つ特徴について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	保健室の機能をふまえ、保健室のレイアウト案を考える。
第 6 回	II 養護教諭の職務の実践 ①保健管理 ・定期健康診断の進め方	事前学習	教科書 pp.84~88 を熟読し、健康診断の運営のあり方について自分の考えをまとめておく。
		事後学習	健康診断を行う際に養護教諭として留意すべき点について

	実施および事後措置上の留意点		て、感じたことやわかったことをワークシートまとめファイリングしておく。
第 7 回	・救急処置の進め方 養護教諭の役割と救急処置の範囲 アセスメントや対応の留意点	事前学習	教科書 pp.90~95/ pp.130~137 を熟読し、救急処置活動の基本事項について予習する。
		事後学習	これまでの講義をふまえ、養護教諭の専門性の確立について自分の考えをレポートする。 学校救急処置において、養護教諭が果たすべき役割についてワークシートまとめファイリングしておく。
第 8 回	・健康相談、健康相談活動の進め方 心身の健康問題についての事例検討	事前学習	教科書の pp.152~161 を熟読し、養護教諭の行事前配付資料を熟読し、事例から見える子どもの健康課題等をまとめておく
		事後学習	心身の健康に課題を持つ児童生徒への対応に関し、事例検討を通して感じたことやわかったことをワークシートまとめファイリングしておく。
第 9 回	②保健教育 ・養護教諭の行う保健学習 教育課程内での位置づけ 実践上のメリットデメリット	事前学習	教科書の健康生活を営む能力育成の方法 pp.105~112 を熟読し、養護教諭の行う健康教育の留意点について予習をする。
		事後学習	養護教諭が教室に向いて授業を実践することのメリット・デメリットについて、感じたことやわかったことをワークシートにまとめファイリングしておく。
第 10 回	・養護教諭の行う保健指導 法的小および教育課程内での位置づけ 個別保健指導の実践事例	事前学習	教科書 pp.121~129 を熟読し、養護教諭の行う健康教育の留意点について予習をする。
		事後学習	個別の保健指導を進める際の留意点に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをワークシートまとめファイリングしておく。
第 11 回	③保健組織活動 ・各種委員会活動における養護教諭の役割	事前学習	教科書 pp.113~120 を熟読し、保健組織活動に関する自分の考えをまとめておく。
		事後学習	保健組織活動に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをワークシートにまとめファイリングしておく。
第 12 回	Ⅲ 児童生徒の健康課題と養護活動の展開 ①感染症の予防と集団の健康管理 ・インフルエンザ・ノロウイルス等 ・中間課題レポート①	事前学習	教科書 p94 感染症発生時における支援に関する内容と学校保健実務必携 pp.447~474 を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	感染症の予防や拡大防止において養護教諭が果たすべき役割に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをワークシートにまとめファイリングしておく。 (学校保健安全法必携 pp.447~473 感染症参照)
第 13 回	②慢性疾患を持つ児童生徒への対応 ・心臓疾患・糖尿病、アレルギー疾患等	事前学習	教科書の慢性疾患を持つ子どもへの養護に関する事項 (pp.139~144) を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	慢性疾患を持つ児童生徒への支援に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをワークシートにまとめファイリングしておく。
第 14 回	③心の健康問題を持つ児童生徒への対応 ・保健室登校・保健室頻回来室・不登校等	事前学習	教科書の心の問題を抱えた子どもへの養護に関する事項 (pp.147~151/ pp.163~169) を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	心の健康に課題を持つ児童生徒への支援に関し、本時の講義を通して感じたことやわかったことをまとめワークシートにファイリングしておく。
第 15 回	まとめ：「養護」とは何か。 ・最終課題レポートに記載した内容に基づいて、グループディスカッションを行いグループでまとめたものを発表する。 ・受講者各自が習得した「養護」についての概念を共有し、養護教諭の職務のあり方に総括する。	事前学習	教科書の養護学の展望 pp.200~207 を熟読しこれまでの講義を総括し、「養護とは何か」をレポート課題としてまとめる。
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえて、全講義内容の振り返りをおこなう。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1142
2. 授業担当教員	飯田 昌男		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容 (健康)、レクリエーションワーク、レクリエーション理論の履修を勧める。		
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2,子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3,リズム体操、身体表現の教材がつくれる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 実技試験 (5種目: 子供たちの見本となるレベルです) 鉄棒、跳び箱、マット、竹馬、縄跳び 課題 2 使用した教具の特性を生かし、対象年齢にあったリズム体操を創作し、発表・レポートにまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】必要に応じて資料を配布する。 【参考書】河田 隆編『幼児体育教本』同文書院。 日本幼児体育学会編『幼児体育』大学教育出版。 山口智之著『幼児体育-応用編-』タイケン出版。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他授業の中で紹介していく。		
11. 成績評価の方法	1,授業への参加態度 20%、 2,課題 1 (実技試験) 60%、 3,課題 2 (創作発表・レポート) 20% 4,本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	子どもの生活の中心は「あそび」であり、そのほとんどが「運動あそび」である。毎日元気いっぱい体を動かすことによって、心身の発達を向上させる大切な時期でもある。この大切なときの指導援助は、家族をはじめ幼稚園教諭や保育士である。この授業では、自らの健康の向上を図りながら運動あそび、リズム、身体表現を楽しみ、次第に指導援助する視点に向かい、補助の仕方・声かけを学んでほしい。学習ノートを自ら作成し、授業内容・留意点や気づいた点などを記録し、自分流声掛けを研究してほしい。きっと現場で役に立つと思います。 授業においては以下のような基本的ルールを守ってください。 1. 授業中の活発な意見、質問等を期待します。 2. 欠席は学則に則り 3 回までとします。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は時間を守ることはとても重要であると考えているからです。 3. 実技中心の授業なので運動にふさわしい服装、髪型をしてきてください。ふさわしくない服装、髪型の場合は授業参加をお断りする場合があります。 4. 実技が出来なくてもあきらめないでください。努力と工夫を忘れずに前向きに考えましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の約束、内容等の説明)、 幼児体育の目標とねらい	事前学習	幼稚園や保育所での運動遊びについて調べておく。 どのような保育者になりたいかまとめておく。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 2 回	集団あそび (ジャンケンゲーム、その他) の指導と声掛けを学習する	事前学習	ジャンケンゲームを調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 3 回	集団あそび (伝承あそび、竹馬) の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	伝承遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 4 回	器械運動あそび (マット) の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	マット遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 5 回	器械運動あそび (跳び箱) の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	跳び箱遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 6 回	器械運動あそび (鉄棒) の指導・補助と声掛けを学習する	事前学習	鉄棒遊びについて調べてくる。

	実技評価	事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 7 回	リズム体操（ジャズ体操、その他）	事前学習	子ども向け TV 番組（特にリズム体操）などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第 8 回	リズム体操（パラバルーン、その他）	事前学習	子ども向け TV 番組（特にリズム体操）などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第 9 回	創作リズム体操 （グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループの発表曲の候補を挙げておく。
		事後学習	グループにて練習。
第 10 回	創作リズム体操 （グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第 11 回	創作リズム体操 （発表会のリハーサル、グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第 12 回	創作リズム体操発表会 レポート提出	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	自分たちの発表や他のグループの発表の振り返りを学習ノートにまとめる。
第 13 回	縄跳び（短縄）の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 14 回	縄跳び（長縄）の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 15 回	縄跳び（いろいろな跳び方）の指導と声掛けを学習する 実技評価 まとめと今後の課題	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	理科 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3307
2. 授業担当教員	加藤 敏明・栗原 久		
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、討議・発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	小中学校教育実習指導の単位を取得する前に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	私たちを取り巻く身近な自然を対象として、小学生が興味関心を持てるような自然現象、生命誕生、発生、生物の進化、大気形成、宇宙、地震、地球温暖化等について学習し、科学的な物の見方・考え方の基礎を身に付けることを目指す。		
8. 学習目標	理科の授業では、私たちの身の回りで起きている自然現象に興味関心を持ち、その神秘のベールを解き明かすことを第一の条件にする必要がある。そのためには、子ども達が探求する喜びを味わえるような実験・観察方法を習得する。また、理科離れを防ぐために、教師は子ども達に実感を持った体験ができるような教材を見つけ、自然の原理・原則をしっかり理解できるようになることを学習目標とする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 資源としての化石燃料が枯渇しようとしています。資源の枯渇問題に対しどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。 課題 2: 生態系が崩壊しつつある。その原因と改善策について、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。 課題 3: 温暖化が問題になっている。そこで、温暖化を防止するためにはどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 左巻 健男『新しい科学の教科書 III 第3版』文一総合出版、2012年。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書、2008年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2015年。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表) 総合点の50% 2. レポート 総合点の50%		
12. 受講生へのメッセージ	○受講生に期待すること 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかり行い、学習内容を確実に習得すること。 4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは理由を書面にて提出すること。		
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。力と運動について実験を通して学習する。バネばかりを利用して、力の測定と力の分散の実験	事前学習	教科書の第I章 pp.10~40 を読んで運動の第1~第3法則を覚えておくこと。
		事後学習	授業で行った計算問題を解いてみること。
第2回	エネルギーの変換と保存について実験を通して学習する。ジェットコースターの実験	事前学習	教科書の第II章 pp.42~75 を読んで科学で使用する仕事について調べておくこと。
		事後学習	新エネルギーの開発が進まない理由を考えること。
第3回	生活に欠かせない物質資源とエネルギー資源の利用について、教科書を使用して学習する。(課題1提示)	事前学習	新エネルギーの開発が進まない理由をまとめてくること。
		事後学習	課題1のレポートを仕上げること。
第4回	原子の構造について、教科書を使用して学習する。(課題1提出)	事前学習	教科書の第III章 pp.78~111 を読んで原子構造を調べておくこと。
		事後学習	原子の構造について調べ、イオン・酸やアルカリの性質を覚えること。
第5回	電気を帯びた原子としてのイオンを理解するための実験や化学式を学習する。電気を通す水溶液と電気を通さない水の実験	事前学習	イオンの働きについて、自分の考えをまとめておくこと。
		事後学習	教科書の第III章 pp.78~111 をもう一度読み直し、電気を帯びた原子の仕組みを覚えること。
第6回	生物を構成している細胞の役割、受精、細胞分裂、再生などについて問題を解きながら理解する。	事前学習	教科書の第IV章 pp.114~127 を読んで、受精、減数分裂、再生などについて調べておくこと。
		事後学習	細胞、受精、細胞分裂などについて復習すること。
第7回	遺伝の仕組みや進化について、基本的事項を押さえながら理解する。	事前学習	教科書の第IVp.127~p.137 を読んで、遺伝、減数分裂などについて調べておくこと。
		事後学習	遺伝の仕組みについて復習する。
第8回	生物界のつながりについて、食物連鎖などを考えながら理解する。(課題2提出)	事前学習	教科書の第V章 p.140~159 を読んで、生物界のつながりについて調べておくこと。

		事後学習	課題 2 のレポートを仕上げる。
第 9 回	副教材（器官の働き、血液循環など）をもとに、基本的な知識を学んで、体内に取り込まれた物質の流れと器官の働きを理解する。	事前学習	心臓や肺などの器官の働きや、血液の流れについて調べておくこと。
		事後学習	副教材を中心に復習すること。
第 10 回	天体（星座、恒星、惑星、衛星）の動きと地球の運動について、教科書等で要点を学習しながら理解する。	事前学習	教科書の第 VI p.162～196 を読んで、天体の動きと地球の運動について調べておくこと。
		事後学習	副教材を読み、大切なところを記録しておくこと。
第 11 回	副教材（天気図の見方）をもとに、基本的な知識を学ぶ。内容の理解については、複数の事例問題で確認する。	事前学習	天気図の見方について調べておくこと。
		事後学習	副教材と間違った問題を中心に復習すること。
第 12 回	副教材（地震のメカニズム）を読んで要点を学習し、問題を解きながら出題パターンを理解する。	事前学習	地震のメカニズムについて調べておくこと。
		事後学習	震源地の求め方を覚えること。
第 13 回	教科書と映像を見て、科学技術の進歩とその陰で進行している環境破壊について、グループで討議し発表する。（課題 3 提示）	事前学習	教科書の第 IX 章 pp.236～294 を読んで、環境破壊の例を調べておくこと。
		事後学習	課題 3 のレポートを仕上げること。
第 14 回	教科書と映像を見て、地球の温暖化問題について、グループで討議し発表する。（課題 3 提出）	事前学習	温暖化の原因について考えておくこと。
		事後学習	温暖化防止について、自分でできることをまとめておくこと。
第 15 回	まとめ（身近な自然現象の学習を終えて、自然界の原理・原則を理解し、科学的な物の見方・考え方を身に付ける）	事前学習	理科の科学的なものの見方・考え方を調べておくこと。
		事後学習	身の回りの自然について、疑問を持って見つめ直してみる。

1. 科目名 (単位数)	理科 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3422
2. 授業担当教員	加藤 敏明・成田 成		
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、討議・発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	小中学校教育実習指導の単位を取得する前に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	私たちを取り巻く身近な自然を対象として、小学生が興味関心を持てるような自然現象、生命誕生、発生、生物の進化、大気形成、宇宙、地震、地球温暖化等について学習し、科学的な物の見方・考え方の基礎を身に付けることを目指す。		
8. 学習目標	理科の授業では、私たちの身の回りで起きている自然現象に興味関心を持ち、その神秘のベールを解き明かすことを第一の条件にする必要がある。そのためには、子ども達が探求する喜びを味わえるような実験・観察方法を習得する。また、理科離れを防ぐために、教師は子ども達に実感を伴った体験ができるような教材を見つけ、自然の原理・原則をしっかり理解できるようになることを学習目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 資源としての化石燃料が枯渇しようとしています。資源の枯渇問題に対しどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。 課題 2: 生態系が崩壊しつつある。その原因と改善策について、あなたの考えを1,000字以内で論述せよ。 課題 3: 温暖化が問題になっている。そこで、温暖化を防止するためにはどのような対処の仕方があるか、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 左巻 健男『新しい科学の教科書 III 第3版』文一総合出版、2012年。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書、2008年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2015年。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表) 2. レポート	総合点の50% 総合点の50%	
12. 受講生へのメッセージ	○受講生に期待すること 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないように、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかり行い、学習内容を確実に習得すること。 4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは理由を書面にて提出すること。		
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。力と運動について実験を通して学習する。バネばかりを利用して、力の測定と力の分散の実験	事前学習	教科書の第I章 pp.10~40 を読んで運動の第1~第3法則を覚えておくこと。
		事後学習	授業で行った計算問題を解いてみること。
第2回	エネルギーの変換と保存について実験を通して学習する。ジェットコースターの実験	事前学習	教科書の第II章 pp.42~75 を読んで科学で使用する仕事について調べておくこと。
		事後学習	新エネルギーの開発が進まない理由を考えること。
第3回	生活に欠かせない物質資源とエネルギー資源の利用について、教科書を使用して学習する。(課題1提示)	事前学習	新エネルギーの開発が進まない理由をまとめてくること。
		事後学習	課題1のレポートを仕上げること。
第4回	原子の構造について、教科書を使用して学習する。(課題1提出)	事前学習	教科書の第III章 pp.78~111 を読んで原子構造を調べておくこと。
		事後学習	原子の構造について調べ、イオン・酸やアルカリの性質を覚えること。
第5回	電気を帯びた原子としてのイオンを理解するための実験や化学式を学習する。電気を通す水溶液と電気を通さない水の実験	事前学習	イオンの働きについて、自分の考えをまとめておくこと。
		事後学習	教科書の第III章 pp.78~111 をもう一度読み直し、電気を帯びた原子の仕組みを覚えること。
第6回	生物を構成している細胞の役割、受精、細胞分裂、再生などについて問題を解きながら理解する。	事前学習	教科書の第IV章 pp.114~127 を読んで、受精、減数分裂、再生などについて調べておくこと。
		事後学習	細胞、受精、細胞分裂などについて復習すること。
第7回	遺伝の仕組みや進化について、基本的事項を押さえながら理解する。	事前学習	教科書の第IV章 pp.127~137 を読んで、遺伝、減数分裂などについて調べておくこと。
		事後学習	遺伝の仕組みについて復習する。
第8回	生物界のつながりについて、食物連鎖などを考えながら理解する。(課題2提示)	事前学習	教科書の第V章 pp.140~159 を読んで、生物界のつながりについて調べておくこと。

		事後学習	課題 2 のレポートを仕上げる。
第 9 回	副教材（器官の働き、血液循環など）をもとに、基本的な知識を学んで、体内に取り込まれた物質の流れと各器官の働きを理解する。	事前学習	心臓や肺などの器官の働きや、血液の流れについて調べておくこと。
		事後学習	副教材を中心に復習すること。
第 10 回	天体（星座、恒星、惑星、衛星）の動きと地球の運動について、教科書等で要点を学習しながら理解する。	事前学習	教科書の第 VI pp.162～196 を読んで、天体の動きと地球の運動について調べておくこと。
		事後学習	副教材を読み、大切なところを記録しておくこと。
第 11 回	副教材（天気図の見方）をもとに、基本的な知識を学ぶ。内容の理解については、複数の事例問題で確認する。	事前学習	天気図の見方について調べておくこと。
		事後学習	副教材と間違った問題を中心に復習すること。
第 12 回	副教材（地震のメカニズム）を読んで要点を学習し、問題を解きながら出題パターンを理解する。	事前学習	地震のメカニズムについて調べておくこと。
		事後学習	震源地の求め方を覚えること。
第 13 回	教科書と映像を見て、科学技術の進歩とその陰で進行している環境破壊について、グループで討議し発表する。（課題 3 提示）	事前学習	教科書の第 IX 章 pp.236～294 を読んで、環境破壊の例を調べておくこと。
		事後学習	課題 3 のレポートを仕上げること。
第 14 回	教科書と映像を見て、地球の温暖化問題について、グループで討議し発表する。（課題 3 提出）	事前学習	温暖化の原因について考えておくこと。
		事後学習	温暖化防止について、自分でできることをまとめておくこと。
第 15 回	まとめ（身近な自然現象の学習を終えて、自然界の原理・原則を理解し、科学的な物の見方・考え方を身に付ける）	事前学習	理科の科学的なものの見方・考え方を調べておくこと。
		事後学習	身の回りの自然について、疑問を持って見つめ直してみること。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3134
2. 授業担当教員	松坂 秀雄		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	3 年次以上		
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>グループ毎に与えられる以下のテーマについての発表に向けて、グループ内で役割分担して準備し発表する。</p> <p>グループ課題テーマ：「不安障害の理解と援助」「気分障害の理解と援助」「乳幼児の健康な発達像と心理的問題」「思春期の健康な発達像と心理的問題」「老年期の発達課題と心理的問題」「精神分析学の考え方」「行動療法の前提となる学習理論」「不登校問題」「虐待問題」「医療での心理臨床」「自殺問題」「非行問題」</p> <p>個人課題：臨床心理学実践の対象となる代表的な諸問題について、授業中に小論文を作成する。</p> <p>また、以下の設題のレポート課題を課する（夏期休校中に作成し、休み明けの初回授業で提出）。</p> <p>設題：様々な臨床心理学的諸問題（不登校、いじめ、虐待、自殺、非行、緊急支援、被害者支援、子育て支援等）の中から一つのテーマを選び、問題解決に向けて、臨床心理学が、その問題をどのようにとらえ、どのように貢献できるのかを1200字程度で論じなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>高塚雄介・石井雄吉・野口節子編著『臨床心理学～やさしく学ぶ～』医学出版社、2009 年。</p> <p>【参考書】</p> <p>野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995 年。</p> <p>鏑幹一郎・川畑直人共著『心理学の世界 基礎編 8 臨床心理学』培風館、2009 年。</p> <p>上里一郎監修『新版これから始める臨床心理学』昭和堂、2002 年。</p> <p>下山晴彦・村瀬嘉代子編著『今、心理職に求められていること 医療と福祉の現場から』誠信書房、2010 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題レポート 50%</p> <p>授業内でのグループ発表 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業の目的達成のために、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚（センス）を磨き、臨床心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守ること。宿題（アサイメント）は指示された期限までに必ず行うこと、及びレポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為（私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）をつつしむこと。（明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格に対処する。） <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 専門用語は分かりやすく説明し、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループ分け 臨床心理学は、何を目標しているのか（科学と実践、精神医学と臨床心理学、理解と援助）	事前学習	臨床心理学から、自分が学びたいことを学習ノートに書き出す。
		事後学習	グループ発表の準備に向けた今後の打ち合わせを行う。
第 2 回	臨床心理学はどのように生まれ、展開してきているか（アメリカでの展開と日本での経過）	事前学習	テキスト第 1 章（pp.1～13）を通読し、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	臨床心理学とは何かを自分の言葉にして学習ノートにまとめる。
第 3 回	正常と病理の概念について理解する。	事前学習	正常と異常について考えたことをノートにまとめる。
		事後学習	正常と異常の判断基準を学習ノートにまとめる。
第 4 回	発達障害（知的障害を含む）の全体を理解する。	事前学習	テキスト第 3 章（pp.29～47）を通読しておく。
		事後学習	知的障害・発達障害のそれぞれの特性を学習ノートにまとめる。
第 5 回	不安障害について理解する。現代人が持つ神経症的傾向についても自分に当てはめて学習する。	事前学習	テキストの「4.神経症（pp.62～63）」について読んでおく。
		事後学習	ホーナイの神経症的悪循環を学習ノートにまとめる。
第 6 回	ストレスのメカニズムについて臨床心理学	事前学習	テキスト pp.52～59 を通読する。

	的に理解する。	事後学習	ストレスについての理解を学習ノートにまとめる。
第 7 回	気分障害の理解と援助の基礎を学ぶ。 (BDI の実施により、自分自身の心身の疲労度を知る。)	事前学習	BDI の実施と、うつ病について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	気分障害に対しての心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
第 8 回	統合失調症の理解と援助の基礎を学ぶ。	事前学習	統合失調症について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	統合失調症に対しての心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
第 9 回	乳幼児期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	乳幼児期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	乳幼児期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 10 回	学童期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	学童期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	学童期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 11 回	思春期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	思春期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	思春期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 12 回	青年期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	青年期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	青年期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 13 回	成人期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	成人期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	成人期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 14 回	老年期の発達課題と心理的な問題を理解する。	事前学習	老年期の健康な発達像について調べて、学習ノートにまとめる。
		事後学習	老年期の発達課題と心理的問題について学習ノートにまとめる。
第 15 回	心理アセスメントの理解(見立てと診断の違い)とその多様性を知る。	事前学習	テキスト pp.65~71 を熟読する。
		事後学習	心理アセスメントと医学的診断の違いについて、学習ノートにまとめる。
第 16 回	知能検査・パーソナリティ検査について理解する。	事前学習	テキスト pp.72~85 を通読する。
		事後学習	心理テスト実施をめぐる諸問題について学習ノートにまとめる。
第 17 回	精神分析学について理解する(自我構造論・防衛機制の考え方を学ぶ。)。また、分析心理学の考え方を理解する。	事前学習	テキスト pp.87~97 を通読する。
		事後学習	自我構造論・防衛機制および分析心理学の考え方を学習ノートにまとめる。
第 18 回	来談者中心療法について理解する(自己理論の考え方およびカウンセラーの 3 条件を学ぶ。)	事前学習	テキスト pp.97~101 を通読する。
		事後学習	自己理論の考え方とカウンセラーの 3 条件について学習ノートにまとめる。
第 19 回	行動療法について理解する(系統的脱感作法を中心に学習する。)	事前学習	行動療法の考え方について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	系統的脱感作法のやり方について学習ノートにまとめる。
第 20 回	認知行動療法の理解(エリスの論理療法とベックの認知療法の違いについて理解する。)	事前学習	認知行動療法の考え方について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	エリスとベックの療法の違いについて学習ノートにまとめる。
第 21 回	教育領域における心理臨床について理解する。	事前学習	テキスト pp.157~173 を通読しておく。
		事後学習	教育領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第 22 回	不登校・いじめ問題を理解し、その心理的援助について学ぶ。	事前学習	不登校問題について調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	不登校・いじめ問題の要点を学習ノートにまとめる。
第 23 回	福祉領域の心理臨床について理解する。	事前学習	テキスト pp.175~193 を通読しておく。
		事後学習	福祉領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第 24 回	虐待問題、障害を持つ人、高齢者への心理的支援を学ぶ。	事前学習	虐待問題について調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	虐待問題の要点を学習ノートにまとめる。
第 25 回	医療領域の心理臨床について理解する。	事前学習	テキスト pp.195~213 を通読しておく。
		事後学習	医療領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第 26 回	がん医療およびリエゾン医療における心理臨床を学ぶ。	事前学習	医療領域の心理臨床的問題を調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	リエゾン医療における心理臨床について学習ノートにまとめる。
第 27 回	産業領域の心理臨床を理解する。	事前学習	テキスト pp.215~227 を通読しておく。
		事後学習	産業領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第 28 回	自殺問題を理解し、その予防策について学ぶ。	事前学習	自殺問題について調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	自殺問題の予防策について要点を学習ノートにまとめる。
第 29 回	司法・矯正領域の心理臨床を理解する。	事前学習	テキスト pp.229~241 を通読しておく。
		事後学習	司法領域における心理臨床について要点を学習ノートにまとめる。
第 30 回	非行問題を理解し、その心理的援助について学ぶ。	事前学習	非行問題について調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	非行問題の心理的援助について学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3305 EDPS2305
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学とは、人間がより健康的に生きるために心理学な知見を大いに活用する学問のことである。心理学の分野のなかでも、特に実践的かつ応用的なものであり、そのため、学問の全体を学ぶことはなかなか大変な事柄である。そこで本講義では、臨床心理学を支える専門知識として、①面接、②査定、③地域援助、④研究の 4 点を取り上げ、その理解を主な目的とする。そして時間の許す限り、教育、福祉、医療、社会における臨床心理学の役割、たとえば健康の維持や予防について言及する予定である。 ※養護教諭、高校教諭 (公民) を希望する学生等が履修します。		
8. 学習目標	臨床心理学とはどのような学問体系かわかるようになる。 1 臨床心理学の構造を理解し、説明することができる。 2 面接、査定、地域援助、研究のそれぞれについて理解し、説明することができる。 3 面接と査定については、理論とあわせて実践に役立つ技術についても理解し、説明することができる。 4 地域援助は、教育、福祉、医療、社会の領域における臨床心理学の役割について理解し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートの課題は以下の通りである。 1. 傾聴がなぜ心を癒し、人格変容までもたらすのか、来談者中心療法の立場から考察せよ。 2. 新聞の記事から思春期の心理的問題から生じているものを挙げ、その解決への糸口について考察せよ。 3. ウツには認知行動療法に効果があると言われていた。その理由について考察せよ。 4. 自分が現在学んでいる分野にとって臨床心理学の知見はどのように役立つか、自分の考えを述べよ。 5. 面接法・検査法・観察法の特徴を長所と短所を含め述べ、次にどのように組み合わせるべきか考察せよ。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下山春彦編『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房。 【参考書】 松原達哉編著『臨床心理学』ナツメ社。 下山春彦著『臨床心理学』西東社。		
11. 成績評価の方法	・授業参加への積極的態度 (質問や発表) 30% ・レポート 35% ・テーマ毎の理解度 35% *出席が 4 分の 3 満ちてはじめて評価の対象となる。(レポートをまじめに提出しただけでは評価対象にならない。注意。)		
12. 受講生へのメッセージ	臨床心理学は対人援助を目指している学生達にとって人気のある学問である。しかし、実践から生まれた学問から学生には理解が蒸すかしいものとなっている。そこで、ここではわかりやすく編集されている教科書を選ばせていただいた。これによりかなり理解しやすいものとなったと思う。その上、参考書はさらに図や写真が豊富にあるものを使い、一人でも学べる工夫をさせていただいた。 臨床心理学に少しでも興味と関心のある学生とぜひ一緒に学びたいと思う。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	1. 臨床心理学とは何か 理念、全体構造、実践活動、研究活動、専門活動、歴史 (世界・日本)	事前学習	教科書：pp.2～23 を読みまとめておく。
		事後学習	臨床心理学の今日に至る歴史についてまとめておく。
第 2 回	2. アセスメント (1) 方法 アセスメントとは何か、面接法、検査法、観察法、	事前学習	教科書：pp.34～43 を読みまとめておく。
		事後学習	質問紙法の一つを選び、実施できるようにしておく。
第 3 回	観察法、行動 (機能) 分析、生態学的アセスメント、初回面接	事前学習	教科書：pp.44～55 を読みまとめておく。
		事後学習	面接法、検査法、観察法の長短について考察しておく。
第 4 回	3. アセスメント (2) 異常心理学 異常心理学とは何か、DSM の分類、薬物療法、陶業失調症、気分障害	事前学習	教科書：pp.56～69 を読みまとめておく。
		事後学習	DSM による気分障害の内容について調べておく。
第 5 回	不安障害、身体表現性障害と解離性障害、性障害・性同一性障害、接触障害、人格障害	事前学習	教科書：pp.70～83 を読みまとめておく。
		事後学習	人格障害についてまとめておく。
第 6 回	4. アセスメント (3) 発達臨床心理学 生涯発達、乳幼児期の心理的問題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待	事前学習	教科書：pp.84～101 を読みまとめておく。
		事後学習	虐待の種類について復習しておく。
第 7 回	児童期・思春期、青年期、中年期、老年期の心理的問題、不登校、いじめ、	事前学習	教科書：pp.102～125 を読みまとめておく。
		事後学習	青年期の心理的問題について身近な例を挙げて考えておく。
第 8 回	5. 介入 (1) 理論モデル 統合的視点、精神分析、分析心理学、行動療法	事前学習	教科書：pp.126～139 を読みまとめておく。
		事後学習	精神分析と行動療法の考え方の違いについて

			まとめておく。
第 9 回	来談者中心療法、認知行動療法、家族療法、コミュニティ心理学	事前学習	教科書：pp.140～155 を読みまとめておく。
		事後学習	認知行動療法による面接の逐語記録を読み、効果を確認しておく。
第 10 回	ブリーフセラピー、ナラティブセラピー、森田療法、内観療法	事前学習	教科書：pp.156～163 を読みまとめておく。
		事後学習	日本生まれの療法の特徴を考察しておく。
第 11 回	6. 介入（2）技法モデル 遊戯療法、箱庭療法、夢分析、フォーカシング、自律訓練法	事前学習	教科書：pp.164～173 を読みまとめておく。
		事後学習	自律訓練法を練習しておく。
第 12 回	動作療法、催眠療法、親子のカウンセリング、集団療法	事前学習	教科書：pp.174～181 を読みまとめておく。
		事後学習	集団療法と個人療法の長短についてまとめておく。
第 13 回	7. 介入（3）コミュニティモデル 危機介入とコンサルテーション、スクールカウンセリング、学生相談、デイケア、心理教育、アサーション教育、HIV カウンセリング、被害者相談、異文化間カウンセリング、リハビリテーション	事前学習	教科書：pp.182～205 を読みまとめておく。
		事後学習	アサーション権と歌え方三つの種類について身近な例を挙げて考察しておく。
第 14 回	8. 臨床心理学研究 課題、質的研究、事例研究、フィールドワーク、アナログ研究、効果研究。認知・神経・社会心理学的研究	事前学習	教科書：pp.206～227 を読みまとめておく。
		事後学習	効果研究のやり方について深めておく。
第 15 回	9. 社会的専門性 社会的専門性、倫理、関連法規、臨床心理学関連の組織、教育と訓練、活躍を期待できる領域	事前学習	教科書：pp.228～273 を読みまとめておく。
		事後学習	専門分野の中でどのように臨床心理学を活かしていけるか考察しておく。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2302
2. 授業担当教員	飯田 昌男		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	健康スポーツやレクリエーション理論の履修を勧めます。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【課題】 日本レクリエーション協会による、各種レクリエーションのルールや特徴を体験します。この体験を基にグループもしくは個人にて、対象者に合わせたルールや援助を企画し、実践します。 1,事業企画書の提出 2,実践発表		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】 日本レクリエーション協会著『レクリエーション支援の基礎』。購入してほしい。 日本レクリエーション協会ホームページ。 日本レクリエーション協会編『やさしいレクリエーション実践』。		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 50% 事業企画案 20% 実践 (発表) 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業はレクリエーションの意義や特性を理解し、対象者に合わせたレクリエーション・ワークについて知ることをねらいとしています。まずは、レクリエーションを自分や友だちとて楽しんでください。楽しむことからルールや指導について考えてください。そして、計画や援助についての視点を持ち実際に支援できる実技を身に付けてほしいと考えています。有意義で楽しい授業にしていきたいと思います。 授業においては以下のような基本的ルールを守ってください。 1,事前学習の相談や授業中の活発な意見、質問を期待します。 2,欠席は学則に則り 3 回までです。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は時間を守ることはとても重要であると考えているからです。 3,実技中心の授業なので運動にふさわしい服装、髪型をしてきてください。ふさわしくない服装、髪型の場合は授業参加をお断りする場合があります。		
13. オフィスアワー	別途連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *授業の内容や約束等確認し、全体像をつかむ。 *アイスブレイキングを体験する。	事前学習	テキスト内のゲーム一覧を熟読し、自分の興味のあるゲームを練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 2 回	ジャンケン・ゲーム *対象は幼児から高齢者までを体験する。	事前学習	配布された資料を熟読する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 3 回	チャレンジ・ザ・ゲーム *日本レクリエーション協会推奨のゲームを体験する。	事前学習	配布された資料を熟読する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 4 回	グラウンド・ゴルフ *地域のお年寄りから幼児まで楽しめるゴルフを体験する。	事前学習	配布された資料を熟読する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 5 回	フライング・ディスク *11 種目の競技があるが基本的な技術や注意点を学ぶ。	事前学習	配布された資料を熟読する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 6 回	身近なものを利用したゲーム *園児から大人まで使えるゲームを体験する。	事前学習	ゲームをひとつ考えてくる。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 7 回	レクリエーション事業計画① *対象、時間、種目、ルール、注意点や工夫することなどをディスカッションし、計画案を作成する。	事前学習	II レクリエーション支援論第 1 章 III レクリエーション事業論第 1 章 IV コミュニケーションワーク第 4 章、VII 巻末資料を熟読する。
		事後学習	事業計画を確認し、練習する。
第 8 回	レクリエーション事業計画② *計画案の見直しや発表の練習を行う。計画案の提出。	事前学習	II レクリエーション支援論第 1 章 III レクリエーション事業論第 1 章 IV コミュニケーションワーク第 4 章、VII 巻末資料を熟読する。
		事後学習	事業計画を練習する。

第 9 回	レクリエーション大会① *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 10 回	レクリエーション大会② *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 11 回	レクリエーション大会③ *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 12 回	レクリエーション大会④ *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 13 回	レクリエーション大会⑤ *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 14 回	レクリエーション大会⑥ *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 15 回	レクリエーション大会⑦ *グループにて実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションする。 まとめと評価	事前学習	事業計画を練習する。
		事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。 今後の課題を整理する。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	上村 孝司		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 様々な対象を想定したレクリエーションの事業計画案を企画し、発表(実践)する。 2. 対象に応じた援助の方法やルールなどを企画内容に盛り込むこととする。 3. 各対象にあったレクリエーションを調べ発表する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし(必要に応じて資料を配布する)。 【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 30% 課題 70% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業はレクリエーションの意義や特性を理解し、対象者に合わせたレクリエーションワークについて学習していくことを目的としています。授業の中でレクリエーションを楽しんでください。そこからルールや指導法について考えて行ってください。 授業においては以下のルールを守るようにお願いします。 1. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型, 靴, 爪なども含む)で参加してください。 2. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 3. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション レクリエーションワークの学習にあたって アイスブレイキングの考え方や方法 グループの作成	事前学習	レクリエーションとは何かについて考える。
		事後学習	レクリエーションの理論と実際を復習する。 アイスブレイクについて調べる。
第 2 回	様々な対象にあったレクリエーション 1 (アイスブレイキング, 具体的な方法等の提示) 調べたものをグループで発表	事前学習	様々な対象とは何かについて考える。 アイスブレイキングの方法について調べる。
		事後学習	アイスブレイキング方法を復習する。
第 3 回	様々な対象にあったレクリエーション 2 (様々なレクリエーションの実践 幼児期) 調べたものをグループで発表	事前学習	幼児期の特徴について考える。 幼児期のレクリエーションを調べる。
		事後学習	幼児へのレクリエーションを復習する。
第 4 回	様々な対象にあったレクリエーション 3 (様々なレクリエーションの実践 児童期) 調べたものをグループで発表	事前学習	児童期の特徴について考える。 児童期のレクリエーションを調べる。
		事後学習	児童へのレクリエーションを復習する。
第 5 回	様々な対象にあったレクリエーション 4 (様々なレクリエーションの実践 青年期・壮年期) 調べたものをグループで発表	事前学習	成年期の特徴について考える。 成年期のレクリエーションを調べる。
		事後学習	成年へのレクリエーションを復習する。
第 6 回	様々な対象にあったレクリエーション 5 (様々なレクリエーションの実践 老年期) 調べたものをグループで発表	事前学習	老年期の特徴について考える。 老年期のレクリエーションを調べる。
		事後学習	高齢者へのレクリエーションを復習する。
第 7 回	様々な対象にあったレクリエーション 6 (様々なレクリエーションの実践 障害者) 調べたものをグループで発表	事前学習	障害者の特徴について考える。 障害者のレクリエーションを調べる。
		事後学習	障害者へのレクリエーションを復習する。
第 8 回	レクリエーション事業計画 1 (グループにて企画) 指導案の作成	事前学習	レクリエーション支援の方法について考える。 レクリエーション案を考える。
		事後学習	レクリエーション運営の方法を復習する。 指導案作成の準備を行う。
第 9 回	レクリエーション事業計画 2 (グループにて企画) 指導案の完成	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。 指導案作成の準備を行う。
		事後学習	レクリエーション発表の準備を行う。
第 10 回	レクリエーション大会 1 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 11 回	レクリエーション大会 2 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 12 回	レクリエーション大会 3 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 13 回	レクリエーション大会 4 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 14 回	レクリエーション大会 5 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 15 回	まとめ・評価 グループのレクリエーションの評価から、反省点と改善点を考える	事前学習	グループのレクリエーションの評価を検討する。 レクリエーションとは何かについて考える。
		事後学習	レクリエーション支援について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1102
2. 授業担当教員	古俣 龍一	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。		
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーションインストラクター資格取得希望者 レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題1: 対象者を特定し、その対象者に対応したレクリエーションを考え、グループで指導計画を作成する。その際、①対象者の特性、②人数、③支援上の留意点、④支援計画 (タイムスケジュール)、⑤支援環境などを十分考慮して立案する。 課題2: 立てられた企画書にしたがって実際に発表を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『みんなであそぼう! かんたん・やさしい・レクリエーション・ゲーム集』日本レクリエーション協会。 【参考書】 *必要に応じて資料を配布		
11. 成績評価の方法	授業態度・・・・・・・・・・・・・50% ディスカッションにおける積極性・・・・・30% 課題・・・・・・・・・・・・・20% 計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	この授業はレクリエーションの意義や特性を把握し、発達段階や疾病段階に応じたレクリエーションワークについて学ぶことを目的としています。そのためには、まず、レクリエーションを自分で楽しむことから始めます。そして、最終的にはレクリエーションを自ら立案し、援助できる能力を培います。みなさんでお互いに協力し合いながら有意義で楽しい授業を進めていきましょう。 受講生には本授業参加にあたって下記に示す心構えを期待します。 1. 授業は集中し、発表の振り返りに際しては活発な意見、質問等を行うこと。 2. 欠席、遅刻、早退は厳禁である。やむを得ない理由の場合は、届けを提出すること。 3. 実技中心の授業なので、運動にふさわしい服装、髪型をしてください。ジーパンは禁止。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 本講義の意義 (授業の約束、概要、留意点、グループ分けなど) *教科書等を確認しながらこれから何を学習していくのかを知り、自分なりに授業の展望を掴む。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	各グループで提案するレクリエーションの内容について具体的に話し合う。
第2回	レクリエーションワーク① 体験・ディスカッション (幼児期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	幼児期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第3回	レクリエーションワーク② 体験・ディスカッション (児童期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	児童期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第4回	レクリエーションワーク③ 体験・ディスカッション (青年期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	青年期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第5回	レクリエーションワーク④ 体験・ディスカッション (壮年期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	壮年期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第6回	レクリエーションワーク⑤ 体験・ディスカッション (高齢期) *企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。<実技、ディスカッション>	事前学習	高齢期のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの

	ばよいかについて話し合う。＜実技、ディスカッション＞		良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第 7 回	レクリエーションワーク⑥-1 オリエンテーション（障害者） *特に視覚障害者に対するの援助を中心として行う。そのためのオリエンテーションを行う。レクリエーションを行うに際しての留意点を理解できるようにする。＜講義・ディスカッション＞	事前学習	障害者（本授業では視覚障害者）のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	演習を通して学んだ視覚障害者への理解と他の障害者への手助けとしてのレクリエーションのあり方についてまとめる。
第 8 回	レクリエーションワーク⑥-2 体験・ディスカッション（障害者） *提案グループは企画書に基づいてレクリエーションの提案を行う。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。＜実技、ディスカッション＞	事前学習	前時の活動を受けて、視覚障害者のレクリエーションの実際について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第 9 回	レクリエーションワーク⑦ 体験・ディスカッション（場の設定） *提案グループはまず場の設定が与えられる。その場に適したレクリエーションを企画し発表する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。＜実技、ディスカッション＞	事前学習	特異な場所や環境（未定）を設定し、そのレクリエーションのあり方や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第 10 回	レクリエーションワーク⑧ 小学生 *具体的に小学生の何学年かをはじめに設定し、それに伴うレクリエーション活動を企画する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。＜実技、ディスカッション＞	事前学習	幅の広い年齢層がある小学生のレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第 11 回	レクリエーションワーク⑨ 実施時期の設定 *はじめに実施時期を設定し、それに伴うレクリエーション活動を企画する。その後、振り返りをしてよりよいレクリエーションにするにはどのような点に気をつければよいかについて話し合う。＜実技、ディスカッション＞	事前学習	実施時期（例：春夏秋冬）を限定し、相応したレクリエーションの特性や留意点について考える。
		事後学習	本時で提案されたレクリエーションの良い点と改善点をディスカッションなどを参考に自分なりにまとめる。
第 12 回	「レクリエーション大会」のプランニング①（グループ分け） *紅白に分かれてレクリエーションの要素が入った運動会を企画する。選出された実行委員を中心としてグループ分け、大会の意図にふさわしい種目、持ち時間の設定など大会が円滑にできるように話し合いを行う。＜ディスカッション＞	事前学習	レクリエーション大会に向けてどのような運営方法が重要かつ必要であるかを考える。①
		事後学習	ディスカッションを通して参考になったことを各グループで話し合い、適切なレクリエーションを企画する準備をする。①
第 13 回	グループごとによる「レクリエーション大会」のプランニング② *実際にグループにわかれ、各グループで割り当てられた種目（出し物）について、準備する物や必要となるルール、採点方法など詳細な企画書作りを行う。＜ディスカッション＞	事前学習	レクリエーション大会に向けてどのような運営方法が重要かつ必要であるかを考える。②
		事後学習	ディスカッションを通して参考になったことを各グループで話し合い、適切なレクリエーションを企画する準備をする。②
第 14 回	「レクリエーション大会」1 日目 *実際の大会に際しては、①企画書どおりに運営されているか、②大会にふさわしい態度で臨んでいるか、③大会を盛り上げようと自分なりに工夫をしているか、④レクリエーション自体に工夫がされているか、などを中心に評価する。＜評価＞	事前学習	全員で取り組む「レクリエーション大会」の具体的な運営方法を考える。
		事後学習	「レクリエーション大会」1 日目の反省と 2 日目の準備およびその留意点をまとめる。
第 15 回	「レクリエーション大会」2 日目 まとめと評価 *実際の大会に際しては、①企画書どおりに運営されているか、②大会にふさわしい態度で臨んでいるか、③大会を盛り上げようと自分なりに工夫をしているか、④レクリエーション自体に工夫がされているか、などを中心に評価する。また、大会終了後総評を行う。＜評価＞	事前学習	全員で取り組む「レクリエーション大会」2 日目の改善点や留意点をまとめる。
		事後学習	「レクリエーション大会」の総括と実際の現場での応用にかかわる検証をする

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2302 GEHL1102
2. 授業担当教員	齊藤 雅記		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 レクリエーションの基礎的理論とレクリエーション実施案の作成 課題 2 レクリエーションの企画を作成と、その企画書に沿った運営の実施		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 必要に応じて適宜資料を配布する 【参考書】 必要に応じて適宜資料を配布する		
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生への メッセージ	本講義はレクリエーションの基礎的な知識、技術から現場で必要となる応用的な知識、技術までを知ることを行っていきます。まずはレクリエーションを体験し、楽しみ、その経験から自らの力で企画や運営をできる力を培っていきます。 実技や演習では、運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ○レクリエーションの意義について	事前学習	レクリエーションとは何か考える。
		事後学習	レクリエーションの意義と課題を考える。
第 2 回	様々な実践的レクリエーション①	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 3 回	様々な実践的レクリエーション②	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 4 回	様々な実践的レクリエーション③	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 5 回	ニュースポーツを利用したレクリエーション①	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 6 回	ニュースポーツを利用したレクリエーション②	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 7 回	様々な発達段階を踏まえたレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 8 回	レクリエーション企画①	事前学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
		事後学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
第 9 回	レクリエーション企画②	事前学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
		事後学習	グループでレクリエーションの企画を立てる。
第 10 回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 11 回	レクリエーション大会②	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 12 回	レクリエーション大会③	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 13 回	レクリエーション大会④	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 14 回	レクリエーション大会⑤	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 15 回	レクリエーション大会まとめ	事前学習	各レクリエーション大会の内容についてまとめる。
		事後学習	適切なレクリエーションの方法についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーションワーク (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2302 GEHL1102
2. 授業担当教員	中村 裕		
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	これからの社会の課題としてのレクリエーションについて学習する。まず、ライフステージ (幼児・児童・青年・老年・障がい者等) に対応したレクリエーション支援の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術 (個別・グループ・環境) を実践的に身に付け、活用できるようにすることを目的とする。		
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,日本レクリエーション協会公認指導者資格レクリエーション・インストラクターを取得する。 2,コミュニケーション・ワークの楽しみ方を体験し、知ることができる。 3,対象者に合わせたレクリエーション支援を企画し、実践することができる。 4,レクリエーション支援を実践することによって、自分自身からまわりの人へレクリエーションを発信できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1、各対象者に合った (子どもの場合は運動発達、運動能力) レクリエーション企画案の作成 2、企画案に沿った運営の実施 3、運営後の評価および今後の課題		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし (必要に応じて資料を配布) 【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度・・・50% ディスカッションにおける積極性・・・30% 課題・・・20% 計 100% 但し、本学規定による 3/4 以上の出席は単位取得の最低条件とする。		
12. 受講生へのメッセージ	レクリエーションの意義や特性を把握し基礎的な知識、応用的な知識を学習します。実際に体験をすることでレクリエーションの楽しさを理解するはずですが、最終的にはレクリエーションを自ら立案し、援助できる能力を培ってください。保育現場や様々なところできっと役に立ちます。また、一つのレクリエーションを対象者に合うようにアレンジし、オリジナルなものを生み出すことにも挑戦します。たのしい授業にしていきたいでしょう。 授業においては以下のルールを守るようにお願いします。 1、実技を行う為、運動できる服装で参加してください。(髪型、靴など：室内の場合、室内用シューズ) 2、欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむおえない理由の場合は必ず届け出てください。 3、自主的なおかつ積極的な授業参加を望みます。		
13. オフィシアワー	授業内で周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (グループ分け) 本講義の意義 (概要、留意点など、これから何を学習するか説明確認) アイスブレイキングを体験	事前学習	レクリエーションとは何かについて考える。
		事後学習	レクリエーションの理論と実際を復習する。 アイスブレイキングについて調べる。
第 2 回	アイスブレイキング具体例 (グループで発表)	事前学習	アイスブレイキングの方法を調べる。
		事後学習	発表した具体例に関しての問題点をまとめる。
第 3 回	レクリエーションワーク (幼児期 1) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	幼児期の特徴・留意点について考える。 幼児期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 4 回	レクリエーションワーク (幼児期 2) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	幼児期の特徴・留意点について考える。 幼児期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 5 回	レクリエーションワーク (児童期 1) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	児童期の特徴・留意点について考える。 児童期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 6 回	レクリエーションワーク (児童期 2) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	児童期の特徴・留意点について考える。 児童期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 7 回	レクリエーションワーク (青年期) 体験・ディスカッション (体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う)	事前学習	児童期の特徴・留意点について考える。 児童期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自

			分なりにまとめる。
第 8 回	レクリエーションワーク（高齢・老年期）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	高齢・老年期の特徴・留意点について考える。 高齢・老年期のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 9 回	レクリエーションワーク（障害者）体験・ディスカッション（体験した後、より良くする為にはどの点を改善した方が良いかを話し合う）	事前学習	障害者の特徴・留意点について考える。 障害者のレクリエーションを考える。
		事後学習	ディスカッションを参考に良い点、改善点を自分なりにまとめる。
第 10 回	レクリエーション事業計画 1（レクリエーション大会のプランニング） 対象・時間・種目・ルール注意点や工夫することなどをグループでディスカッションをして計画案を作成する。	事前学習	レクリエーション支援の方法について考える。 レクリエーション案を考える。
		事後学習	レクリエーション運営の方法を復習する。
第 11 回	レクリエーション事業計画 2（レクリエーション大会のプランニング） 計画案の見直しや発表の練習。計画案提出。	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。 計画案作成の準備を行う。
		事後学習	練習発表の振り返りを自分なりにまとめる。
第 12 回	レクリエーション大会 1 日目 グループごとに実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションをする。	事前学習	事業計画を練習する。（運営の流れ、注意点）
		事後学習	大会運営の実際を振り返る。
第 13 回	レクリエーション大会 2 日目 グループごとに実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションをする。	事前学習	事業計画を練習する。（運営の流れ、注意点）
		事後学習	大会運営の実際を振り返る。
第 14 回	レクリエーション大会 3 日目 グループごとに実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションをする。	事前学習	事業計画を練習する。（運営の流れ、注意点）
		事後学習	大会運営の実際を振り返る。
第 15 回	レクリエーション大会 4 日目 グループごとに実践発表する。その後、発表者による振り返りと参加者による評価をディスカッションをする。	事前学習	事業計画を練習する。（運営の流れ、注意点）
		事後学習	大会運営の実際を振り返る。 今後の課題を整理する。

1. 科目名 (単位数)	労働衛生学 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3336 SNMP3336 SCMP3336 SBMP3336
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>労働者が安全で衛生的かつ快適に働くには、労働者を取り巻く環境をより良い状態に維持することが重要である。そのために衛生管理者は、社会情勢の変化や技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等に柔軟に対応できなくてはならない。</p> <p>本科目では、安全衛生管理体制の確立と衛生管理者の役割、そして衛生管理の 3 本柱である「作業環境管理」、「作業管理」、「健康管理」を中心に労働衛生管理全般について学ぶ。福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても考察する。</p> <p>なお労働衛生学は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の労働衛生の現状について説明できるようになる。 2. 望ましい安全衛生管理体制について説明できるようになる。 3. 労働安全衛生マネジメントシステムやリスクアセスメントについて説明できるようになる。 4. 一般作業環境について説明できるようになる。 5. 有害作業環境 (物理的、化学的、生物学的) 要因とそれらによる健康障害について説明できるようになる。 6. 作業環境管理 (作業環境測定とその管理、換気装置等) について説明できるようになる。 7. 作業管理 (作業時間と休憩時間、労働衛生保護具等) について説明できるようになる。 8. 健康管理 (健康診断及び健康教育等) について説明できるようになる。 9. 職場におけるメンタルヘルス対策について説明できるようになる。 10. 救急蘇生法について説明できるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシート (国家試験問題も含む) を提出する。 ・レポート課題 <ol style="list-style-type: none"> ① 事務所環境調査を行い、その結果をレポートにする (図表を含み1600字程度) ② 労働衛生に関する新聞記事を取り上げ、自分の考えをレポートにする (1000 字程度) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】中央労働災害防止協会編『衛生管理 (上) <第 1 種用>』中央労働災害防止協会、2016 年。</p> <p>【参考書】鈴木庄亮・久道 茂監修『シンプル衛生公衆衛生学 2016』南江堂。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 毎回の提出物 20% ② 課題レポート 40% ③ 期末試験 30% ④ 授業態度 10% <p>本学規程により、3/4 以上 (15 回中 12 回以上) の出席が確認されない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家資格である第 1 種衛生管理者と同等以上の知識を習得することを第一目標とする授業を行うので、以下の「ルール」をしっかりと守ってください。</p> <p>【受講生に期待される学習態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>【講師は次のことを実行する】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明、働く人々の健康、労働衛生の歴史と現状	事前学習	働くことの意義について考えてくる
		事後学習	働くことの意義について復習し、ワークシートを提出する
第 2 回	衛生管理者の職務と役割 (労働衛生の目的、衛生管理とは何か、衛生管理者の種類、衛生管理者の仕事)	事前学習	教科書 pp.12~16 を読んでくる
		事後学習	衛生管理者の職務と役割について復習し、ワークシートを提出する
第 3 回	衛生管理の進め方 (労働衛生に関する法律、安全衛生に関する各職種とその役割)	事前学習	教科書 pp.30~35 を読んでくる
		事後学習	衛生管理の進め方について復習し、ワークシートを提出する
第 4 回	衛生管理の進め方 (安全衛生管理体制、ビデオ「望ましい安全衛生管理体制とは」)	事前学習	教科書 pp.36~40 を読んでくる
		事後学習	安全衛生管理体制について復習し、ワークシートを提出する
第 5 回	衛生管理の進め方 (労働災害のメカニズム、ビデオ「あなたは安全の主役です」)	事前学習	教科書 pp.41~42 を読んでくる
		事後学習	労働災害のメカニズムについて復習し、ワークシートを提出する
第 6 回	衛生管理の進め方	事前学習	教科書 pp.411~420 を読んでくる

	(リスクアセスメント、KYT の演習 1)	事後学習	リスクアセスメントについて復習し、ワークシートを提出する
第 7 回	一般作業環境について (温熱、視環境、音環境、休養施設等)	事前学習	教科書 pp.52～62 を読んでくる
		事後学習	一般作業環境について復習し、ワークシートを提出する
第 8 回	騒音障害について (ビデオ「騒音障害を防ごう～騒音防止の基礎知識」)	事前学習	教科書 p.85 を読んでくる
		事後学習	騒音障害について復習し、ワークシートを提出する
第 9 回	物理的環境要因と健康障害 (振動、超音波、異常気圧、その他)	事前学習	教科書 pp.84～86 を読んでくる
		事後学習	振動、超音波、異常気圧について復習し、ワークシートを提出する
第 10 回	物理的環境要因と健康障害 (高温、低温)、DVD「熱中症について」	事前学習	教科書 p.83、pp.335～337 を読んでくる
		事後学習	高温・低温障害について復習し、ワークシートを提出する
第 11 回	事務所環境と事務所衛生基準規則について	事前学習	教科書 pp.150～154 を読んでくる
		事後学習	事務所環境の測定方法と評価を復習する
第 12 回	事務所環境の測定と評価	事前学習	事務所環境の測定の準備をする
		事後学習	測定した結果を評価し、レポート①にまとめる
第 13 回	物理的環境要因と健康障害 (放射線について)	事前学習	教科書 pp.86～89 を読んでくる
		事後学習	放射線について復習し、ワークシートを提出する
第 14 回	化学的環境要因と健康障害 (窒息性ガスと酸欠)	事前学習	教科書 pp.74～75、p.82 を読んでくる
		事後学習	窒息性ガスと酸欠について復習し、ワークシートを提出する
第 15 回	化学的環境要因と健康障害 (有機溶剤による健康被害) ビデオ「安全な有機溶剤作業の基礎知識」	事前学習	教科書 pp.70～72 を読んでくる
		事後学習	有機溶剤について復習し、ワークシートを提出する
第 16 回	化学的環境要因と健康障害(特定化学物質による健康被害(1)、有害化学物質の作業環境中の存在形態)	事前学習	教科書 pp.66～70 を読んでくる
		事後学習	特定化学物質について復習し、ワークシートを提出する
第 17 回	化学的環境要因と健康障害(特定化学物質による健康被害(2)、SDS について)	事前学習	教科書 pp.73～81 を読んでくる
		事後学習	特定化学物質について復習し、ワークシートを提出する
第 18 回	作業環境管理(作業環境測定とその管理、 全体換気装置と局所換気装置)ビデオ「換気 の基礎知識」	事前学習	教科書 pp.124～140 を読んでくる
		事後学習	換気装置について復習し、ワークシートを提出する
第 19 回	化学的環境要因と健康障害(粉じん障害と じん肺) ビデオ「正しい粉じん作業の基礎知識」	事前学習	教科書 pp.65～66 を読んでくる
		事後学習	粉じん障害について復習し、ワークシートを提出する
第 20 回	作業管理(保護具について) ビデオ「安全衛生保護具を正しく使おう」	事前学習	教科書 pp.174～190 を読んでくる
		事後学習	保護具について復習し、ワークシートを提出する
第 21 回	生物学的環境要因と健康障害 (感染症、食中毒について)	事前学習	教科書 pp.89～95 を読んでくる
		事後学習	食中毒について復習し、ワークシートを提出する
第 22 回	作業管理(腰痛予防)、KYT の演習 2	事前学習	教科書 pp.164～170 を読んでくる
		事後学習	腰痛予防について復習し、ワークシートを提出する
第 23 回	作業管理 (作業時間と休憩時間、VDT 作業における 作業管理) DVD「VDT 作業の健康チェック」	事前学習	教科書 pp.171～173 を読んでくる
		事後学習	VDT 作業について復習し、ワークシートを提出する
第 24 回	心とからだの健康づくり (職場におけるメンタルヘルス、ストレス チェックについて)	事前学習	教科書 pp.258～272 を読んでくる
		事後学習	職場におけるメンタルヘルスについて復習し、ワークシートを提出する
第 25 回	心とからだの健康づくり、 DVD「心だつて風邪を引く」積極的傾聴法 について	事前学習	労働衛生における積極的傾聴法の意義について考えてくる
		事後学習	積極的傾聴法について復習し、ワークシートを提出する
第 26 回	心の健康づくり、 DVD「心だつて風邪を引く」自律訓練法	事前学習	労働衛生における自律訓練法の意義について考えてくる
		事後学習	自律訓練法について復習し、ワークシートを提出する
第 27 回	救急処置 心肺蘇生法 自動体外式除細 動器(AED)	事前学習	教科書 pp.312～326 を読んでくる
		事後学習	一次救命処置についてまとめる
第 28 回	救急処置 心肺蘇生法 自動体外式除細 動器(AED)	事前学習	教科書 pp.312～326 を読んでくる
		事後学習	救急処置における衛生管理者の役割についてまとめ、ワークシートを提出する。
第 29 回	職場における健康管理 (健康診断の意義と目的、方法)	事前学習	教科書 pp.197～226 を読んでくる
		事後学習	健康診断について復習し、ワークシートを提出する
第 30 回	職場における健康管理 (健康診断の事後措置)、まとめ	事前学習	教科書 pp.227～236 を読んでくる
		事後学習	労働衛生学で学んだことを振り返り、課題レポート②を提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	労働法 (労働基準法) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3338 SNMP3338 SCMP3338 SBMP3338 PSMP3309
2. 授業担当教員	喜多村 悦史		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>20 世紀末以降労働関係法令は新しいものもいくつも制定され、かつ既存法も大幅に内容が改正されてきた。そこには、社会における新しい雇用形態や労働条件の変化が大きく影響している。本科目では、労働基準法の基本構造を学ぶとともに、新たに制定された労働契約法や男女雇用機会均等法のほか、パートタイム労働法や派遣労働法も対象領域とする。ただし、学習負担の面から基本事項に限定して講義する。発展部分は実社会に出てから各自で応用学習してもらいたい。</p> <p>なお、労働組合活動の退潮もあり、労働組合活動を対象とした集団的労働関係法は扱わない。</p> <p>講義は教科書に沿って進行する。随時、テーマを設定してディスカッションを行い、自宅学習で議論の集約、文章化の訓練を行う。最終授業では、実際の試験問題を用いた基礎知識修得状況の検証を行う。</p>		
8. 学習目標	<p>就職とは基本的に勤め先との間で労働契約を交わすことである。雇用労働者は、内定、使用期間、処遇、人事異動、出向、昇格・昇進、懲戒処分、労災事故、退職（解雇）など様々な事態に遭遇することになる。本科目の履修者は、労働基準法等においてどのように規定されているか、また労働基準監督署や裁判所ではどのように判断されているかの知識を習得しているので、適切に対処することができる。</p> <p>勤務経験を積むことにより、勤務先で管理監督者（使用者）の地位を与えられることになるが、本科目内容を履修することで労働法令の基礎理論や先例を理解でき、職場内の労働紛争を回避することができる。アルバイトなどの学生生活においても、労働基準法等がどのように適用されるかを検証し、労働法を身近なものとして生かすことができる。</p> <p>いわゆるブラック企業のやり口を見極める基礎能力を身につける。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>1.各回の授業に際しては、下記の論点事項について教科書の十分な読み込み学習がされていることを前提に講義を進める。（1回の授業に関して4時間の事前または事後学習が必要とされている。）なお、事前学習に際しては、マスコミ報道のうち労働問題に関連するものに注目し、現実社会で労働法がどのように作用しているかを検証する点検しておくことを求める。</p> <p>2.毎回の授業の中でディスカッションを組み込む。積極的な発言、討論を必須とする。無言者、無反応者は早退したものとみなすことがある。</p> <p>3. 学期を通じて使用する学習カード（初回に配布）に、毎回の授業で学んだことなどを記述して提出しなければならない（最終週を除く）。学習カードは次回授業時に返却する。</p> <p>4. 学期内に1回、テーマを指定してのレポート作成提出（自筆1800字程度）を求める。</p> <p>5. 適宜、希望学生による研究成果発表を予定する。この場合、学生は発表用資料を事前準備する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】原昌登『コンパクト労働法』新生社。 【参考書】今野晴樹『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文春新書。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。 六法書 労働基準法、労働契約法等労働法令を含むもの（各自インターネットで抽出）</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1.演習等授業参加態度（9.のアサインメントの1.から3.）60% 4%×15回 2.レポート（9.のアサインメントの4.）10% 3.期末試験 30% 4.研究発表（9.のアサインメントの5.）10%（該当者のみ） なお、本学規定により、4分の3以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>1.労働法（労働基準法）は範囲が広く、制度改正も頻繁であるため、細かな制度内容よりも、全体を貫く理念は何かを常に念頭において講義に参加すること。 2.授業中の質問は歓迎。各自相談することを指示した場合以外の私語は厳禁。</p>		
13. オフィスアワー	木曜日 9:00 から 12:00		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	労働法とは何か 労働法の存在理由 労働法により介入の仕組み 法学の基礎知識 労働法のルール	事前学習	教科書第1章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第2回	雇用関係における様々な法ルール 労働基準法 労使協定 労働契約法 労働協約 就業規則 労働契約	事前学習	教科書第2章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第3回	労働法の当事者 労働者とは 労基法、労契法、労組法 使用者 労働組合	事前学習	教科書第3章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第4回	労働者の採用について 使用者の採用自由の原則とは 採用内定の法的性質 使用期間とは	事前学習	教科書第4章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第5回	企業の人事権と権利濫用法理の適用 昇進・昇格・降格について	事前学習	教科書第5章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考

	配転とは何か 出向（在籍） 転籍 休職		えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 6 回	使用者の懲戒権 懲戒処分とは 懲戒処分の法規制 懲戒処分のポイント	事前学習	教科書第 6 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 7 回	労使関係の終了 解雇の法的問題 労働契約終了事由 解雇に関する法規制 手続・理由 解雇権濫用法理 整理解雇のルール 解雇紛争の解決 定年制 高齢者雇用確保措置	事前学習	教科書第 7 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 8 回	賃金について 賃金とは何か 賞与・退職金の法律問題 賃金支払いの 4 原則 休業手当とは 最低賃金	事前学習	教科書第 8 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 9 回	労働時間の基本 労働時間規制の基本的枠組み 法定労働時間 休憩時間 休日 時間外・休日労働 三六協定 割増賃金	事前学習	教科書第 9 章（9.1 から 9.3 まででよい）を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 10 回	休憩・休業 年次有給休暇 年休権の法的性質 休業制度 労基法、育児・介護休業法	事前学習	教科書第 10 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 11 回	労働条件の変更 就業規則の不利益変更の法ルール 労働協約による労働条件不利益変更	事前学習	教科書第 11 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 12 回	非正規労働者と労働法 非正規雇用とは 有期契約と雇い止め 無期契約への転換制度導入 パートタイム労働者（短時間労働者）と労働法 派遣労働の法ルール 偽装請負とは	事前学習	教科書第 12 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 13 回	労働者の健康・労働災害 職場における安全衛生 労安法 労働災害補償 労災保険 民事上の損害賠償 労働時間規制の例外措置 法規制の適用除外 変形労働時間制とフレックスタイム制 みなし労働時間制	事前学習	教科書第 13 章を熟読。疑問点を整理しておく。 教科書第 9 章のうち 9.4 と 9.5 を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 14 回	労基法の総則部分 労働者の人権保障・雇用差別禁止 労働者の人権保障規定 平等原則 男女雇用機会均等法 各種ハラスメントの法的責任	事前学習	教科書第 14 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	授業中に指定されたテーマについて自身の考えを他人に説明し、かつ文章化できるかを点検する。
第 15 回	企業組織の変動と労働関係 企業合併の場合 事業譲渡の場合 会社分割の場合 社福士（精神保健福祉士）試験と労働法 過去の出題事例の検討	事前学習	教科書第 15 章を熟読。疑問点を整理しておく。
		事後学習	15 回の授業で学んだことの総復習をする。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	老年心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP3357
2. 授業担当教員	中里 克治			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	生涯発達の中での老年期の発達について学ぶ。老年期では、正常な発達過程である正常老化だけではなく、病的な老化についても同時に学ぶ必要がある。それは、中年期までの発達では、病的な発達の影響を受ける人が少ないが、老年期、特に老年期後期では多くの人が病的な過程の影響を受けるからである。また、高齢者は乳児期から中年期までの発達の歴史を基礎として、生活している高齢者の理解には、生涯発達の視点が欠かせない。			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、老年期の発達を正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	随時、課題を出す。最終のレポートを書いてもらう。 最終レポート課題：前期高齢期と後期高齢期それぞれの特徴と問題点について、それぞれの発達課題と危機である「統合と絶望」、「不死と消滅」および獲得される力などに触れながら、2000字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下仲順子編『老年心理学 (改訂版)』培風館。			
11. 成績評価の方法	評価方法は、レポート 50%、日常の授業態度 50%			
12. 受講生へのメッセージ	ここで学ぶ事はこれから体験することであるが、皆さんの祖父あるいはご両親がすでに体験し始めていることかもしれない。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。家族など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	高齢者心理学研究の歴史	事前学習	高齢者心理学研究はいつ始まったか、老化の概念にはどのようなものがあるかを調べてまとめる。pp.1-12	
		事後学習	高齢者心理学研究でどのような研究方法が使われているか調べてまとめる。pp.9-11	
第 2 回	高齢社会の到来	事前学習	日本での高齢化の進行状況を調べてまとめる。pp.13-18	
		事後学習	人口の高齢化がもたらす社会の状況の変化をまとめる。pp.19-22	
第 3 回	高齢期の健康、身体疾患	事前学習	年を取るとはどのようなことか考察する。pp.24-32	
		事後学習	体と心の老化 pp.24-36	
第 4 回	高齢期の精神疾患	事前学習	高齢期特有の精神疾患には何があるか調べる。pp.38-44	
		事後学習	高齢期特有の疾患と疾患もつての老化をまとめる。pp.38-44, pp.48-50	
第 5 回	高齢期の感覚、知覚機能の加齢変化	事前学習	「年を取るとはどのようなことか」について、自分の考えをまとめる。pp.52-55	
		事後学習	体と心の老化 pp.52-62	
第 6 回	高齢者の記憶	事前学習	「年を取ると物忘れするようになるのか」について自分の考えをまとめる。pp.64-67	
		事後学習	記憶の種類と加齢の関係性についてまとめる。pp.64-71 プリントの参照のこと	
第 7 回	知能と加齢	事前学習	「年を取ると“ぼける”のか」について自分の考えをまとめる。pp.38-43 第 3 回のプリントも参照	
		事後学習	知能の加齢と関係する要因を調べてまとめる。pp.79-81	
第 8 回	人格と加齢	事前学習	パーソナリティの老化について調べる。pp.89-106	
		事後学習	「パーソナリティは老化で変わるのか」について自分の考えをまとめる。pp.98-106	
第 9 回	高齢期の適応	事前学習	高齢期の適応の問題点を調べる。pp.109-112	
		事後学習	ライフスタイルとパーソナリティについて調べる。pp.109-116 プリントも参照	
第 10 回	高齢期の家族	事前学習	少子高齢化と家族の関係について調べる。pp.122-129	
		事後学習	「高齢者にとって家族の持つ意味」について自分の考えをまとめる。pp.16-132	
第 11 回	高齢期の対人関係と社会生活	事前学習	高齢者の人間関係はどのようなものかについて調べる。pp.134-145	
		事後学習	高齢者の社会参加とソーシャルサポートの重要性をまとめる。pp.134-145	
第 12 回	死と死にゆく過程	事前学習	「自分の死に対する考え方」を確かめ、まとめてみる。pp.147-149	
		事後学習	「死に向かう人に何ができるか」について自分の考えをまとめる。pp.149-158	
第 13 回	高齢者の認知、知能・記憶機能の測定	事前学習	知能・記憶機能の測定方法について調べる。pp.160-170	
		事後学習	神経心理学的検査について調べる。pp.168-170	
第 14 回	高齢者の格、精神健康の測定、心理療法	事前学習	高齢者の心理療法について調べる。pp.185-198	
		事後学習	対象別の心理査定と心理療法について調べてみる。pp.172-198	
第 15 回	まとめ	事前学習	「人生の意味」について自分の考えをまとめる。第 8 回、第 9 回を参考に	
		事後学習	「死の意味」について自分の考えをまとめる。死によって人生が完結する。死に積極的な意味付けができるでしょうか。	

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語 I (2 単位)		3. 科目番号	GECM1121
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	これからの国際社会に対応していくためには英語でのコミュニケーション能力が必要となってくる。高校までの暗記を中心とした詰め込みの受験英語とは違った、表現力を重視した形で、四技能(聞く・話す・読む・書く)を養うことを目的とする。英語を使いこなせるようになるためには、日本語とは異なった英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解しておくことが大切である。また、英語という言語の背景にある、アメリカ文化への理解にも重点を置く。			
8. 学習目標	1. 表現力を重視した形で、英語の4技能(聞く、話す、読む、書く)をバランス良く向上させること 2. 1)を達成するために、英語の言語学的特徴(発音、文法、語法等)を理解すること 3. 多文化としてのアメリカ文化について知的好奇心を高め理解すること			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 長期休暇における課題として映画「ローマの休日」を用いたリスニング養成課題を課すので計画立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ジョージ トラスコット 他『Eye on America and Japan そのまま日米比較』南雲堂。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	期末考査(試験またはレポート) 30% 小テスト・課題など 40% 授業中の態度・参加状況 30%			
12. 受講生への メッセージ	学生の皆さんがこの授業を通じて、楽しく積極的に学習経験を積むことができるよう願っている。この機会を活用してアメリカの文化についてできるだけたくさん学ぶことができるよう頑張ってもらいたい。それと同時に英語力も向上させていこう。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	Physical education	事前学習	体育の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.8-9)の練習問題を実施する。	
第2回	Sports Clubs	事前学習	スポーツクラブの日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(p.10)の文章を2回リライトする。	
第3回	Cultural Differences	事前学習	異文化についてどのくらい興味があるかについて考える。	
		事後学習	テキスト(p.14)の練習問題を実施する。	
第4回	Continue with the topic on Culture Differences	事前学習	テキスト(p.15)の練習問題を実施する。	
		事後学習	異文化についての意見を短い文章にして表現する。	
第5回	Haircuts	事前学習	ヘアカットの日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.17-18)の練習問題の答をもう一度確認する。	
第6回	Music	事前学習	音楽の日米比較について説明できるようにする。	
		事後学習	テキスト(p.20)の練習問題を実施する。	
第7回	Music	事前学習	好きな音楽について短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(pp.20-21)の練習問題を全て繰り返す。	
第8回	Money	事前学習	お金の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.23-24)の練習問題を確認する。	
第9回	Safety	事前学習	安全を確保できる手段について考える。	
		事後学習	テキスト(p.26)の練習問題を全て繰り返す。	
第10回	Safety	事前学習	安全についての意見を短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(p.27)の練習問題を実施する。	
第11回	Life Expectancy	事前学習	寿命の日米比較について考える。	
		事後学習	テキスト(pp.29-30)の練習問題を実施する。	
第12回	The metric system	事前学習	メートル法について知っていることを整理する。	
		事後学習	テキスト(pp.32-33)を読んで練習問題を実施する。	
第13回	Police	事前学習	警察の日米比較について何を学習するのか考える。	
		事後学習	テキスト(pp.35-36)の練習問題をもう一度実施する。	
第14回	Seasons	事前学習	季節の日米比較について知っていることを、短い文章にして表現する。	
		事後学習	テキスト(pp.38-39)の練習問題を実施する。	
第15回	総括(学期中に扱った内容を全て復習する)	事前学習	既習の全ての文章を読んでおく。	
		事後学習	既習の全ての練習問題をもう一度する。	
期末試験(Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	アメリカの文化と言語Ⅱ (外国語活動) (2 単位)		3. 科目番号	GECM1302
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「アメリカの文化と言語Ⅰ」の単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	アメリカの文化と言語Ⅰのクラスで学んだアメリカの文化と言語に関する知識の幅を広げ、アクティブラーニングを取り入れ、楽しく外国語活動を行い使える力へと高める。まず、活動型の授業形態をとり、活動に伴う会話力の技能を、様々な日常生活の場面に応じて基本的なレベルから、より高いレベルへと向上させる。また、コミュニケーション力や人間関係能力を高めるための基本的な表現力を身につける。アメリカの文化を学びながら自国の文化と比較することで、様々な文化を尊重できる素地を養う。			
8. 学習目標	1) 様々な日常生活に必要な活動に応じた教材を適宜使用しながら、英語(表現力)の技能を高め、実生活で外国語を使える力を育成する。 2) 1) を達成するため、英語の言語としての特徴(発音、文法、語法等)を理解する。 3) アメリカの文化事情について多角的に考察を深める。 4) アメリカの文化を学ぶことで、自国を含む多様な文化を尊重する態度を育成する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 主体的に学修を行う上での基礎となるので、各自十分に事前学習・事後学習をしておくこと。事前学習・事後学習の仕方は授業中説明する。 2. 音声教材を利用しての音読とシャドーイングを習慣付けて実施すること。 3. 長期休暇における課題としてアメリカ文化に関する文章の要約を課すので計画立てて実施すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 森田和子・高橋順子・北本洋子著『メイク・イット・シンプルー基礎からの実践英語』三修社、2015。 その他、アメリカ文化についての教材プリントを別に配付する。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度・積極性	40%		
	小テスト	40%		
	期末考査	20%		
12. 受講生へのメッセージ	社会のグローバル化に伴い英語コミュニケーション能力が益々求められている。当授業では日常生活の様々な場面の中で実践的に使用できる英語表現を主に扱う。実際に使ってみることで自分の伝えたいことが伝わるという体験をどんどん積み上げていこう。小さな成功体験の積み重ねが大きな目標へと到達できるようになる。「継続は力なり」では是非頑張ってもらいたい。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	アメリカの文化と言語Ⅰの学びを振り返る。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第2回	Lesson 1 家族 [be 動詞①]	事前学習	テキスト Lesson 1 (p.9) 文法問題に取り組み、家族について話せる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第3回	Lesson 2 キャンパス案内 [be 動詞②]	事前学習	テキスト Lesson 2 (p.15) 文法問題に取り組み、ある特定の場所について話せる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第4回	Lesson 3 就職・職場 [一般動詞①]	事前学習	テキスト Lesson 3 (p.21) 文法問題に取り組み、日常生活について話せる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第5回	Lesson 4 日課 [一般動詞②]	事前学習	テキスト Lesson 4 (p.27) 文法問題に取り組み、日常生活について尋ねる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第6回	Lesson 5 交通 [命令文]	事前学習	テキスト Lesson 5 (p.33) 文法問題に取り組み、道案内ができる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第7回	Lesson 6 アルバイト [名詞を詳しく]	事前学習	テキスト Lesson 6 (p.39) 文法問題に取り組み、人や物を詳しく描写できる準備をする。	
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。	
第8回	Lesson 7 健康 [Wh 疑問文①]	事前学習	テキスト Lesson 7 (p.45) 文法問題に取り組み、5W1H の質問ができる準備をする。	

		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 9 回	Lesson 8 ショッピング [Wh 疑問文]	事前学習	テキスト Lesson 8 (p.51) 文法問題に取り組み、より詳しい質問ができる準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 10 回	Lesson 9 休日 [時の表現]	事前学習	テキスト Lesson 9 (p.57) 文法問題に取り組み、予定について話せる準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 11 回	Lesson 10 大学生活 [助動詞]	事前学習	テキスト Lesson 10 (p.63) 文法問題に取り組み、助言や交渉ができる準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 12 回	Lesson 11 世界の国々 [比較級と最上級]	事前学習	テキスト Lesson 11 (p.69) 文法問題に取り組み、ある事象について比較ができる準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 13 回	Lesson 12 海外旅行 (1)	事前学習	テキスト Lesson 12 (p.73) 演習問題に取り組み、海外について話せる準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 14 回	Lesson 13 海外旅行 (2)	事前学習	テキスト Lesson 13 (p.82) 演習問題に取り組み、海外旅行の旅程表が書ける準備をする。
		事後学習	同 Lesson 内の演習問題とシャドーイングに取り組み、既習事項を定着させる。
第 15 回	総括	事前学習	既習事項を整理し、疑問点が出てきたら質問する準備をしておく。
		事後学習	総復習を行い、試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112
2. 授業担当教員	栗原 久		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. マスメディア (テレビ、新聞、雑誌等) で頻繁に登場する疾患およびその治療方法の中から興味を持ったものを取り上げ、福祉の立場から関わりについて考察する (レポート)。 2. 様々な健康情報について、その是非・真偽について考察する (口頭発表)。 3. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業開始時に配布)。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病・医学一般 第 3 版』中央法規出版。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：命と医学・医療	事前学習	「医学概論」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。
		事後学習	医学・医療の目的についてまとめる。
第 2 回	心身機能と身体構造①：人体各部の名称と機能の概要、体液・血液、呼吸器系、循環器系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.26-34: 人体各部位の名称 (体幹・四肢) を覚えておく。
		事後学習	身体構造、血液、呼吸・循環器系の機能と代表的な疾患をまとめる。
第 3 回	心身機能と身体構造②：消化器系、泌尿器系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.34-37: 消化器・泌尿器系の部位と構造を覚えておく。
		事後学習	消化器・泌尿器系の機能と代表的な疾患をまとめる。
第 4 回	心身機能と身体構造③：骨格系、筋系。代表的な関連疾患	事前学習	pp.46-47: 運動系 (骨格系・筋系) の構造と機能の概略を覚えておく。
		事後学習	骨格系・筋系の代表的な疾患をまとめる。
第 5 回	心身機能と身体構造④：神経系、内分泌系、生殖器系、皮膚と感覚器。代表的な関連疾患	事前学習	pp.40-45: 神経系・内分泌系・生殖器系の諸器官を覚える。
		事後学習	身体機能の調節機構、感覚機能と脳機能についてまとめる。
第 6 回	疾病と障害①：生活習慣病 (がん、虚血性心疾患、脳卒中、メタボリックシンドローム)	事前学習	pp.54-60: 生活習慣病の定義を理解しておく。
		事後学習	生活習慣病の原因と予防策をまとめる。
第 7 回	疾病と障害②：先天性疾患、周産期障害、乳幼児のリスク因子、心身の機能障害、発達障害	事前学習	pp.110-113: 遺伝子、染色体と人体の形成・成長について理解しておく。
		事後学習	奇形のリスク因子、奇形予防の可否についてまとめ

			る。
第 8 回	疾病と障害③：感染症	事前学習	pp.101-104: 過去の感染症蔓延の歴史を調べておく。
		事後学習	感染症流行の 3 原則と予防策についてまとめる。
第 9 回	疾病と障害④：精神障害、高次脳機能障害	事前学習	pp.158-162: 精神障害、高次脳機能障害の分類について調べておく。
		事後学習	精神障害の原因、精神障害者に対する対応をまとめる。
第 10 回	疾病と障害⑤：加齢と老化（老化性疾患、認知症、廃用症候群）	事前学習	pp.148-157: 加齢の生理的機序、機能変化を調べておく。
		事後学習	加齢に起因する代表的な疾患、特に認知症について、その対策をまとめる。
第 11 回	疾病と障害⑥：老化性疾患（骨粗鬆症、視聴覚障害、嚥下障害、内部障害など）	事前学習	pp.124-141: 代表的な老化性疾患、内部障害について覚えておく。
		事後学習	人の機能と老化性疾患として起こりやすい症状との関係をまとめる。
第 12 回	疾病と障害⑦：ストレス性疾患、免疫異常、難病	事前学習	事前配布の資料：ストレスとは何なのか理解する。
		事後学習	ストレス刺激とストレス性疾患についてまとめる。
第 13 回	健康の定義、国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、各種障害・生活機能と環境因子	事前学習	pp.184-197: 健康、障害の定義を調べておく。
		事後学習	障害とノーマライゼーションの方策についてまとめる。
第 14 回	リハビリテーションの概要・目的と実践	事前学習	pp.164-184: リハビリテーションに関わるチームについて調べておく。
		事後学習	リハビリテーションの実践と有効性についてまとめる。
第 15 回	最新の医学情報 まとめ	事前学習	マスメディアで紹介された最新の医学情報を調べる。
		事後学習	医学全般について、福祉と関連づけて総合的に理解する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医学概論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1112
2. 授業担当教員	澤口 彰子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	原則として、「解剖生理学」履修後、または履修中であること。		
7. 講義概要	<p>この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質 (QOL) を豊かにする保健・医療・福祉のあり方についても学び、福祉専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の機能と身体構造、および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化と日常生活との関係を踏まえて理解できるようになる。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的考え方と概要について理解できるようになる。 3. リハビリテーションの概要について理解し、説明できるようになる。 4. 生活習慣病とその予防につき、健康増進の正しい方策について考察できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>新聞等のマスメディアに出てきた疾患に関するニュースの中からグループで興味を持ったものをひとつ選び、福祉、養護、保健、保育、心理などのそれぞれの立場から、支援をどう構築すればよいか検討を加える (発表およびレポート)。</p> <p>レポートは全て手書き、原稿用紙(20×20字用紙)5枚に記載。イラスト、図、表、文献を含む。提出日厳守</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 第 1 巻 人体の構造と機能及び疾病-医学一般』中央法規。</p> <p>【参考書】澤口彰子・他『人体のしくみとはたらき』朝倉書店、2015 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題レポート-----30%</p> <p>学習態度-----40%。</p> <p>(身だしなみ、内職、携帯機器使用、居眠り、私語、机上の整理・整頓、摂食、トイレ回数などのコントロール、討論、発表は活発に) なお本学は学内全て禁煙。</p> <p>期末試験-----30%</p> <p>計 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護、保健、福祉専門職者は無論のこと、また保育や臨床心理専門職者においても、保健・医療専門職者等と連携して地域社会の人々が健康で質の高い豊かな生活を送れるように支援することが求められます。そのためには、健康をむしばみ、生活の質を低下させる病気、特に生活習慣病・メタボリックシンドローム、高齢者特有の疾患及び精神疾患などの知識を自ら学び取る必要があります。メディアが報じるニュースの中でも日常的に取り上げられているので、将来の福祉、養護、保健専門職者の立場からの問題を自ら発見し、自ら解決する目で見ようようにしましょう。</p> <p>現場にあっては、ヘルスケアプロフェッショナルチームの一員としての能力を開発する練習を授業でのグループディスカッション及びレポート作成・発表を通して出来る様にしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 人の身体と精神の成長・発達及び老化	事前学習	学習ノートを準備し、シラバスを熟読してくる。グループ分け。
		事後学習	人の身体と精神の成長・発達をノートにまとめる。
第 2 回	人体部位の名称と各臓器の構造及び機能	事前学習	人体部位と骨の名称をノートに記載しておく。
		事後学習	心臓、腎臓、呼吸器、大脳をノートに図示し、それぞれの機能を理解する。
第 3 回	疾病の概要 脳血管循環器系統	事前学習	生活習慣病をノートにまとめておく。
		事後学習	悪性腫瘍、脳血管障害、心疾患、高血圧の要点をノートにまとめておく。
第 4 回	内分泌系、呼吸器系統	事前学習	内分泌とは？ノートに調べておく。
		事後学習	糖尿病と慢性閉塞性肺疾患との類似点について、800 字にまとめて提出。
第 5 回	消化器系統、腎・尿路系統	事前学習	肝炎と肝硬変の違い及び膠原病を調べて、ノートに記載しておく。
		事後学習	急性腎不全と慢性腎不全の違い、排尿障害、尿路感染症、前立腺障害の要点をノートにまとめる。
第 6 回	骨、関節及び感覚器の疾患系統	事前学習	易骨折性について調べノートに記載しておく。
		事後学習	関節リウマチと変形性膝関節症の違いを、関節のイラストを加えて 1200 字にまとめて提出。

第 7 回	感染症、神経疾患と難病	事前学習	感染症とは、ノートにまとめておく。
		事後学習	介護保険の特定疾病について、難病との関係についても言及して、まとめる。
第 8 回	先天性疾患、高齢者に多い疾患	事前学習	先天性疾患をノートにまとめておく。
		事後学習	高齢者に多い疾患の特徴を発表できる
第 9 回	障害概要 1. 視覚・聴覚・平衡機能障害、肢体不自由障害 2. 内部・知的・発達障害	事前学習	障害と疾病の違いはあるか？ ノートに要点を書いておく。
		事後学習	知的障害と発達障害について、800 字にまとめて提出。
第 10 回	認知症、高次機能障害、精神障害	事前学習	認知症の人にあったことはありますか。症状をノートにまとめておきましょう。
		事後学習	高次脳機能障害について、まとめておく
第 11 回	リハビリテーションとは、対象の疾病と障害、担当専門職種	事前学習	リハビリテーションにおける障害評価をノートにまとめておく。
		事後学習	リハビリテーションにおける専門職やチームアプローチをノートにまとめる。
第 12 回	国際生活機能分類の考え方；環境因子と個人因子、健康とは？日本人の健康、職業との関係	事前学習	国際生活機能分類の考え方をノートにまとめておく。
		事後学習	あなたにとっての健康の概念を 800 字にまとめて提出。
第 13 回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を 400 字にまとめて提出。
第 14 回	課題調査の発表会	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う。資料の精査及び発表手順の確認。
		事後学習	グループで発表したレポートについて、個人の考察を 400 字にまとめて提出。
第 15 回	総合まとめ	事前学習	学習用ノートを振り返りこれまでの学びと考察をノートにまとめておく。
		事後学習	これまでの学びと考察をまとめる。イラスト可。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療的ケア実践論 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP3110
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義 演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「医療的ケア論」と同時に履修すること		
7. 講義概要	医療的ケアを実施するための基本研修となる科目である。 喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な、呼吸器の構造と機能、小児と成人の違い、人工呼吸器、吸引の危険性と事後の安全確認、吸引に必要な器具、痰の喀出に伴うケアについて学ぶ。 経管栄養を安全・適切に実施するために必要な、消化器の構造と機能、小児と成人の違い、人工呼吸器、経管栄養の危険性と事後の安全確認、経管栄養に必要な器具、経管栄養にケアについて学ぶ。 また医療的ケアが必要な人や家族の気持ちとそのケアについても学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸のしくみとはたらきが説明できる 2. 喀痰吸引が必要な状態を説明できる 3. 人工呼吸器装着者の吸引の必要性和留意点が説明できる 4. 消化器のしくみとはたらきが説明できる 5. 経管栄養法が必要な状態を説明できる 6. 経管栄養法の種類を説明できる 7. 医療的ケアが必要な人とその家族の気持ちを理解できる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題 課題 1. 喀痰吸引が必要な状態について 課題 2. 経管栄養法が必要な状態について 課題 3. 生活支援の延長としての医療的ケアの実践について		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】武宮敏子監修『医療的ケア』ミネルヴァ書房、2013 年。 【参考書】久良木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』		
11. 成績評価の方法	レポート課題 20% 期末試験 80%		
12. 受講生へのメッセージ	介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。 医療的ケアは、生命に直接関わるケアです。授業には真剣に取り組んでください。 授業への取り組む姿勢によっては、単位の習得を認めないこともあります。 実技を行うときは、取得できるまで何度も繰り返し行ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 授業概要の説明 喀痰の吸引 経管栄養に必要な知識について	事前学習	シラバスを読み、授業の概要をつかんでおく
		事後学習	必要な知識について整理しておく
第 2 回	呼吸器の構造と機能	事前学習	呼吸器の構造を復習しておく
		事後学習	呼吸器の構造と機能を整理しておく
第 3 回	呼吸状態の観察 正常な呼吸と異常な呼吸、呼吸苦がもたらす苦痛と障害、喀痰吸引が必要な状態、成人と小児の吸引の違い	事前学習	呼吸の観察方法を復習しておく
		事後学習	異常な呼吸の特徴をまとめる 成人と小児の吸引の違いをまとめる
第 4 回	人工呼吸器と吸引 人工呼吸器が必要な状態 課題 1	事前学習	テキスト p.101 図 2-1-5 人工呼吸器の構造をみておく
		事後学習	課題 1
第 5 回	喀痰吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、喀痰吸引によって生じる危険と事後の安全確認	事前学習	テキスト pp.109～111 を読み、喀痰吸引を受ける家族の気持ちを考えておく
		事後学習	喀痰吸引によって生じる危険についてまとめておく
第 6 回	喀痰吸引で用いる器具・器材の取り扱い	事前学習	テキスト p.122 図 2-2-5 吸引に必要な物品を理解しておく
		事後学習	器具の名称を覚える
第 7 回	喀痰吸引で用いる器具・器材の取り扱い	事前学習	器具の取り扱いのポイントを復習しておく
		事後学習	器具の取り扱いをまとめる
第 8 回	消化器の構造と機能	事前学習	消化器の構造と機能を復習しておく
		事後学習	消化器の構造を整理しておく
第 9 回	消化と吸収 消化器症状の観察 経管栄養が必要な状態 課題 2	事前学習	消化と吸収について復習しておく
		事後学習	課題 2
第 10 回	経管栄養法の種類 成人と小児の経管栄養法の違い	事前学習	テキスト pp.151～152 を読み、経管栄養法の概要を理解しておく
		事後学習	成人と小児の経管栄養法の違いをまとめる
第 11 回	経管栄養法を受ける利用者や家族の気持ちと対応、経管栄養法によって生じる危険と事後の安全確認	事前学習	テキスト pp.164～165 を読み、経管栄養法を受ける家族の気持ちを理解しておく
		事後学習	経管栄養法によって生じる危険をまとめておく
第 12 回	経管栄養剤の準備	事前学習	テキスト p.155 表 3-1-1 栄養剤の種類、形状、作用を理解しておく
		事後学習	経管栄養剤の準備の留意点をまとめる
第 13 回	経管栄養法で用いる器具・器材の取り扱い	事前学習	テキスト p.153 図 3-1-6 をみて、必要な器材を理解しておく
		事後学習	器具・器材の名称を覚える
第 14 回	経管栄養法で用いる器具・器材の取り扱い	事前学習	器具・器材の取り扱いを復習しておく
		事後学習	器具・器材の取り扱いをまとめる
第 15 回	医療的ケアについてのまとめ (介護福祉士として、医療的ケアを実践する責任と自覚) 課題 3	事前学習	医療的ケアとは何か自分の言葉で説明できるようにしておく
		事後学習	課題 3
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	医療的ケア論 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP3109
2. 授業担当教員	山下 喜代美		
4. 授業形態	講義 演習 実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「医療的ケア実践論」と同時に履修すること		
7. 講義概要	医療的ケアを実施するための基本研修となる科目である。 医療的ケアに関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防、健康状態の把握など、医療的ケアを安全に、適切に実施するための基礎を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 医療の倫理について説明できる。 2. チーム医療と介護職の連携について説明できる。 3. 感染予防について説明できる。 4. 無菌操作法での器具の取り扱いができる 5. 健康状態を把握し、急変時の状態が説明できる。 6. 救急蘇生法について説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1. チーム医療と介護職の連携について 課題 2. スタンダードプリコーションについて 課題 3. 救急蘇生法の手技をまとめる		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 武宮敏子監修『医療的ケア』ミネルヴァ書房、2013 年。 【参考書】 久良木香監修『「たんの吸引・経管栄養」がスラスラわかるイラスト学習帳』服部万里子編著『介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド』		
11. 成績評価の方法	レポート課題 20% 筆記試験 80% 救急蘇生法を授業で実施しなかったものは、この単位を修得することはできません		
12. 受講生へのメッセージ	介護福祉士に医療的ケアの実施が認められ、その基本研修となる科目です。 医療的ケアは、直接生命に関わるケアです。授業には真剣に取り組んでください。 授業への取り組む姿勢によっては、単位の習得を認めないこともあります。 実技は、修得できるまで何度も繰り返して行ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、授業概要の説明、 喀痰吸引とは何か、経管栄養とは何か 保健医療に関する制度 医行為に関する法律	事前学習	吸引、経管栄養とは何か、調べておく
		事後学習	医行為に関する法律についてまとめておく
第 2 回	個人の尊厳と自立 医療の倫理：医療の倫理、自己決定、説明と同意、個人情報保護	事前学習	テキスト pp.33~35 を読んで、医療倫理の概要をつかんでおく
		事後学習	倫理的ジレンマについてまとめておく
第 3 回	チーム医療と介護職の連携 記録と報告 (レポート課題 1)	事前学習	チームにおけるコミュニケーションについて復習しておく
		事後学習	課題 1
第 4 回	安全な喀痰吸引と経管栄養 喀痰の吸引と経管栄養を実施することに伴う危険性、安全な実施の重要性について リスクマネジメント リスクマネジメントの考え方と枠組み ヒヤリハット、アクシデント報告書について	事前学習	テキスト pp.52~53 を読み、リスクマネジメントの考え方を理解しておく
		事後学習	喀痰の吸引と経管栄養を実施することに伴う危険性をまとめる
第 5 回	感染症とは、感染の成り立ちとその予防 感染予防① スタンダードプリコーションについて、手洗い、ガウンテクニック (課題 2)	事前学習	スタンダードプリコーションを復習しておく
		事後学習	課題 2
第 6 回	感染予防② 地域集団、施設・組織としての予防策、療養環境の清潔、汚染物 医療廃棄物の処理	事前学習	テキスト p.73 表 1-4-6 を見て、施設内の環境整備を理解しておく
		事後学習	汚染物の処理方法をまとめる
第 7 回	感染予防③ 消毒法、滅菌と消毒、 無菌操作での器具の取扱い	事前学習	テキスト p.65 表 1-4-1 を読んで、用語を理解しておく
		事後学習	無菌操作方法の手順をまとめる
第 8 回	無菌操作での器具の取り扱いの実践	事前学習	無菌操作方法を復習しておく
		事後学習	無菌操作方法のポイントをまとめる
第 9 回	感染予防④ 職員の感染予防 感染の兆候	事前学習	実習の手引き pp.27~31 の感染症を復習しておく
		事後学習	感染の徴候についてまとめる
第 10 回	感染予防⑤ 喀痰の吸引 経管栄養に関係する感染症とその予防	事前学習	喀痰の吸引、経管栄養とは何か、復習しておく
		事後学習	喀痰の吸引、経管栄養に関する感染症をまとめる
第 11 回	感染予防⑥ 気管カニューレ、吸引カテーテル 経管栄養チューブ イルリガートル の清潔保持	事前学習	テキスト pp.176~177 経管栄養に必要な物品をみておく
		事後学習	物品の清潔保持についてまとめておく
第 12 回	健康状態の把握 バイタルサインと健康状態の観察	事前学習	バイタルサインの正常値を復習しておく
		事後学習	観察のポイントをまとめる
第 13 回	急変時の対応 急変状態と観察 急変時の対応 救急蘇生法について学習する	事前学習	救急蘇生法について復習しておく
		事後学習	急変状態をまとめる
第 14 回	救急蘇生法の実際	事前学習	急変時の対応を復習しておく
		事後学習	救急蘇生法のポイントをまとめる
第 15 回	救急蘇生法の実際 (課題 3)	事前学習	救急蘇生法の手順を確認しておく
		事後学習	課題 3
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語学Ⅱ (英語の発音と音声) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2307
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	英語音声学の入門書をテキストとし、英語教員を目指すものにとって必要不可欠な英語の発音や音声について基礎的な知識を身につける事を目標とする。具体的には、音声器官、母音や子音の分類と発音の仕方、音の連結、アクセント、イントネーションについて学習し、実際に英語の発音を聞き取り、自らも発音練習をする。受講生は、近い将来、教育現場で発音指導にあたる事を念頭に置き、自らの英語の発音の矯正に努め、学習した事をどのように教育現場で活かせるか、考察することになる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界には様々な英語があるが、英語教員志望の受講生にとって必要不可欠な英語の発音と音声に関する基礎的な事項を理解することができる。 2. 将来英語を教える時、児童生徒の発音指導ができるように、まず、正しい発音を聞き取る力と調音する力を向上させ、教師として相応しい手本を示せるようになることができる。 3. 学んだ英語の発音と音声の知識を活かし、教育現場で楽しくかつ効果的に英語の発音指導ができるような教え方の素地を養うことができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題を毎回課す。 2. 理論的知識を更に応用することができるよう、長期休暇中の課題として発音と音読の演習問題を課す。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 今井由美子 他著『英語音声学への扉－発音とリスニングを中心に』英宝社、2010 年。 【参考書】 各自英和辞書を必ず持参のこと。他詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度 30%、課題 20%、小テスト 25%、期末テスト 25%		
12. 受講生へのメッセージ	英語音声学の基礎知識を身につけることで、英語の「聞く」「話す」力に様々な形で良い影響を及ぼすことが可能であると言える。授業中に扱える内容は限られており全てを説明することはできないので、授業外でも積極的に学習を進めていって欲しい。自分の好きな洋画や洋楽を直接聞いて理解を試すことも良い練習になる。継続して学べるやり方を自ら見つけて取り組んでもらいたい。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	発音記号の載っている英和辞書を準備し講義へ望むこと。
		事後学習	テキストを概観して授業の流れをつかむ。
第 2 回	母音について (1)	事前学習	テキスト Unit 1 (pp.4-5) を読み、音声のしくみと母音について理解しておく。
		事後学習	Unit 1 前舌母音の聞き取り演習をする。
第 3 回	母音について (2)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Unit 1 後舌母音、中舌母音の聞き取り演習をする。
第 4 回	母音について (3)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Unit 1 二重母音の聞き取り演習をする。
第 5 回	母音について (4)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	母音全体の聞き取り演習をする。
第 6 回	子音について (1)	事前学習	Unit 1 (p.16) を読み、子音について理解しておく。
		事後学習	Unit 1 閉鎖音と鼻音の聞き取り演習をする。
第 7 回	子音について (2)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Unit 1 摩擦音と破擦音の聞き取り演習をする。
第 8 回	子音について (3)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	Unit 1 側音と半母音の聞き取り演習をする。
第 9 回	子音について (4)	事前学習	既習の発音記号を見て発音できるようにしておく。
		事後学習	子音全体の聞き取り演習をする。
第 10 回	音節と強勢	事前学習	Unit 2 (p.32&34) を読み、強勢について理解しておく。
		事後学習	Unit 2 強勢の聞き取り演習をする。
第 11 回	ポーズ、ピッチとイントネーション	事前学習	Unit 2 (p.36&38) を読み、ポーズ、ピッチとイントネーションについて理解しておく。
		事後学習	Unit 2 ピッチとイントネーションの聞き取り演習をする。
第 12 回	音のつながり (1)	事前学習	Unit 2 (p.40) を読み、連結について理解しておく。
		事後学習	Unit 2 連結の聞き取り演習をする。
第 13 回	音のつながり (2)	事前学習	Unit 2 (p.46&48) を読み、脱落について理解しておく。
		事後学習	Unit 2 脱落の聞き取り演習をする。
第 14 回	音のつながり (3)	事前学習	Unit 2 (p.50) を読み、同化について理解しておく。
		事後学習	Unit 2 同化の聞き取り演習をする。
第 15 回	総括	事前学習	既習事項を整理して、不明瞭な点があれば質問の準備しておく。
		事後学習	既習事項の総復習をして試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語学演習 I (統語論) (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3304
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義 演習 ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。			
7. 講義概要	統語論の主流といえる生成文法の入門書を読み、生成文法の基本的な考え方を学ぶ。この授業の目標は、英語という言葉の構造をどのように捉えるべきかという基本的な考え方を理解することである。従来の英文法の知識と対比させて、生成文法理論の概要を知ることによって、英語教員としての基礎的な教養を高め、学んだことをどのように英語教育に活用できるか考察する。			
8. 学習目標	1. 生成文法の基本的な考え方を学び、英語の文構造の理解を深め、基本的な文型からなる英文を分析し、図式化出来るようになる。 2. 新しい概念を積極的に学ぶ態度を養い、今後の英語教授への活用ができるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 言語構造の理解を深めるために樹形図作成の練習問題を学期中に毎回課す。 2. 言語教育への応用を実現していくために、長期休暇中の課題として統語論のレポート (生成文法の知識をどのように英語教育・学習に応用させるかについて1000~2000字以内で記述) を課す。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】阿部潤著『問題を通して学ぶ生成文法』ひつじ書房、2008年。 【参考書】各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度 20%、レポート課題 30%、小試験 25%、最終試験 25%			
12. 受講生へのメッセージ	言語を科学的に捉えていくことを学んでいく中で、自分の持つ文法知識を更に磨いてほしい。中学、高校で習ってきた文法とは異質な内容を扱うことになるので最初は戸惑うかもしれない。しかし、学習者、そして教員としても生成文法理論はとても重要である。是非その基本的概念は理解できるようになってほしい。そのためにも授業内外で遠慮なく質問をして疑問を解決してもらいたい。			
13. オフィスアワー	第1回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	文法とは何かについて考えて授業に臨むこと。	
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。	
第2回	第1章 文法とは?	事前学習	テキスト第1章を読んで、文法について概要を理解する。	
		事後学習	今までとは異なる文法観に触れることで、伝統文法を見直してみる。	
第3回	第2章 統語構造とは?	事前学習	第2章 (pp.11-19) を読んで、統語構造について概要を理解する。	
		事後学習	様々な英文を統語構造に基づき解釈し直してみる。	
第4回	句構造規則を用いたの樹形図作成演習 (1)	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第5回	句構造規則を用いたの樹形図作成演習 (2)	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第6回	句構造規則を用いたの樹形図作成演習 (3)	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第7回	発音されない代名詞 PRO (1)	事前学習	第2章 (pp.37-43) を読んで、代名詞 PRO についての概要を理解する。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第8回	発音されない代名詞 PRO (2)	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第9回	構造的同音異義	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。	
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。	
第10回	統語構造のまとめ	事前学習	統語構造化についての疑問点があれば質問を準備しておく。	
		事後学習	構造化を多角的に見る習慣を定着させる。	
第11回	第3章 変形規則とは? (1)	事前学習	構造化できる英文とできない英文とは何が違うのか考えてみる。	
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。	
第12回	変形規則とは? (2)	事前学習	第3章(pp.47-52) を読んで、変形規則についての概要を理解する。	
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。	
第13回	変形規則の説明力と順序づけ	事前学習	第3章(pp.53-64) を読んで、変形規則の説明力についての概要を理解する。	
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。	
第14回	受動変形規則と主語繰り上げ規則	事前学習	第3章(pp.65-71) を読んで、受動変形規則と主語繰り上げ規則についての概要を理解する。	
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。	
第15回	総括	事前学習	既習事項について疑問点があれば質問を準備しておく。	
		事後学習	既習事項を総復習して、試験に備える。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	英語科指導法Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	EDEN3342
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「英語科指導法Ⅰ」の単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	英語科指導法Ⅰで学んだことを踏まえ、教育実習に必要な実践的な知識を身につけることを目標とする。授業の構成は以下になる。まず、学習者及び、言語活動のポイントに応じて、授業が展開できるよう、基本的な知識や指導技術を学び、次に、学んだことや自分で行った教材研究の成果を生かして、指導案を作成する。この指導案に基づいて、模擬授業を展開し、自己及び相互評価、ディスカッションを通して、授業の改善の可能性を探る。最後に、より良い授業を目指して、教授法と教授技術の学びを深める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の目的を理解し、授業準備の手順に沿って実習校で準備できる素地を確立できる。 2. 教材研究を深めることで模擬授業の指導案作成に必要な情報を入手し、指導案全体の構成を把握することができる。 3. 文法を中心とした指導案とコミュニケーションを中心とした指導案の作成方法を学習し、実際に指導案を作成できる。 4. 模擬授業を体験し、クラスディスカッションを通して授業改善のヒントをつかむことができる。 5. 視聴覚教材の活用と教室管理により、より効果的な授業展開ができるよう、それらの知識を深めることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 文法の指導力向上のため、学期中に文法解説演習を数回課す。 3. 教育実習本番を想定した形で、冬期休暇中の課題として英語科の学習指導案を作成してもらう。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 米山朝二・杉山敏・多田茂著『新版 英語科教育実習ハンドブック』大修館書店、2013 年。 【参考書】 各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度 20%、学習指導案作成課題 30%、模擬授業 25%、最終試験 25%			
12. 受講生へのメッセージ	実際に教えてみないことには知識だけを身につけてもなかなかその応用の仕方がわからないものである。模擬授業の機会をできるだけ多く設けるが、皆さんの方でも友達同士で教え合う練習をするなど、是非積極的に教える機会を作ってみたい。また、英語で英語の授業ができるように目指すために授業外でも英語を正しく使う練習の機会を設けていく。積極的に参加して自分の英語力と授業実践力を培ってもらいたい。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	これまで英語科指導法Ⅰで扱った英語教育に関する基礎知識をまとめて整理しておく。	
		事後学習	授業の流れをつかみ、学習の準備を始める。	
第 2 回	第 1 章 教育実習に臨んで 第 2 章 観察参加	事前学習	教育実習に臨む上での重要点を英語科指導法Ⅰで学んだことを基に考えてみる。	
		事後学習	教育実習において留意すべき事項を押さえ、整理しておく。	
第 3 回	第 3 章 授業準備	事前学習	テキスト第 3 章を読んで授業準備についての概要を理解する。	
		事後学習	教材研究の方法について、実際に検定教科書を使って実践してみる。	
第 4 回	第 4 章 指導案の作成 第 5 章 指導案 (1) —中学校編 第 6 章 指導案 (2) —高等学校編	事前学習	指導案の例を数多く観察することで様々な形式に慣れる。	
		事後学習	第 5、6 章の指導案をよく見て、シナリオ形式の書き方を理解する。	
第 5 回	第 7 章 授業の工夫 (1) —Warm-up と Review	事前学習	第 7、8 章を読んで、授業の導入についての概要を理解する。	
		事後学習	教える立場で、どのように授業を導入するか考えを発展させる。	
第 6 回	第 8 章 授業の工夫 (2) —文法・文型の導入	事前学習	文法の導入について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。	
		事後学習	文法事項の種類によって効果的な導入方法があることを押さえる。	
第 7 回	第 9 章 授業の工夫 (3) —文法・文型の練習と発展活動	事前学習	第 9、10 章を読んで、文法の練習活動と語彙の導入・指導についての概要を理解する。	
		事後学習	模擬授業で自分が教える予定の文法をどのように導入し、練習していくべきかについて考えを発展させていく。	
第 8 回	第 10 章 授業の工夫 (4) —語彙の導入と指導	事前学習	語彙の導入について、中・高等学校での学習経験と比較してみる。	
		事後学習	語彙指導の重要性を再度認識して、模擬授業での指導方法について考えを発展させていく。	
第 9 回	第 11 章 授業の工夫 (5) —本文の読解指導 (1)	事前学習	第 11 章を読んで、読解指導についての概要を理解する。	
		事後学習	読解指導における段階指導を理解し、模擬授業への活用に努める。	
第 10 回	第 11 章 授業の工夫 (5) —本文の読解	事前学習	読解指導について、中・高等学校での自らの学習経験と比較	

	指導 (2)		してみる。
		事後学習	模擬授業で読解指導をどのように展開していくかについて考えを発展させていく。
第 1 1 回	第 12 章 教材・ICT の活用 第 13 章 教室管理	事前学習	第 12 章を読んで、教材・ICT の活用と教室管理の概要を理解する。
		事後学習	教育機器を自分の模擬授業でどのように活かすかについて考えを発展させていく。
第 1 2 回	第 14 章 発展	事前学習	ティームティーチングについて中・高等学校での自らの学習経験と比較してみる。
		事後学習	実習先で ALT と協働する際の留意点を整理し、実践できるよう準備しておく。
第 1 3 回 ～ 1 6 回	模擬授業第 1 回目(1) ～ (4)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞って授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 1 7 回 ～ 2 8 回	模擬授業第 2 回目(1) ～ (12)	事前学習	模擬授業者は授業準備、観察者は見るべきポイントを絞って授業に臨むようにする。
		事後学習	模擬授業者は授業の振り返りをし、観察者は授業から学んだことを整理して自分の授業に活かす。
第 2 9 回	模擬授業総括	事前学習	これまでの模擬授業を振り返る。
		事後学習	模擬授業を通じて学んだことを、実習準備に活かせるようにしていく。
第 3 0 回	全体総括	事前学習	教育実習に向けての必要事項を改めて考える。
		事後学習	実習に向けてすべきことを着実にこなせるよう計画立てた準備ができるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語基礎演習Ⅱ (文法・読解) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1302
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	演習 (ペアワーク)、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>小学校の英語の授業では、「聞く」、「話す」を中心とするコミュニケーションに重点が置かれることになった。また、今回の高等学校の指導要領の改訂では、小学校や中学校から英語を聞いて話すことに慣れる必要性がますます要求されることになった。そのため小学校などで英語を教える場合には、よく使用する英語表現 (教室英語) に習熟しておく必要があり、子どもたちがよく質問する身近な英単語を学習しておく必要がある。この授業では、このような英単語や英語表現を身につけて、小学生などに英語を楽しく学ばせるための手法を考察し、実践する。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 教室でよく使う教室英語を習熟できる。 2. 子どもたちに身近な英単語や英語表現を身につけることができるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>家庭学習：予め教科書付属のCDを聞いて、空所補充問題に解答しておくこと。 冬期休暇課題：Lesson13~15 ディクテーション</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 カレイラ松崎順子『子どもに英語を教えるための教室英語』南雲堂。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>期末テスト 50% 小テスト 25% 課題 10% 授業中の態度 15%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、教室英語の習熟を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。</p> <p>教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	はじめに	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 1 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	何度もくり返しCDを聞き英語の音声に慣れる。
第2回	Lesson 1 Warm up・Closing Remarks ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 1 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第3回	Lesson 2 Classroom Commands ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 2 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第4回	Lesson 3 Performance Activities ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 3 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第5回	Lesson 4 Interactions with ALT ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 4 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第6回	小テスト Lesson 5 Games: Sugoroku・Bingo ペアワーク	事前学習	小テストの準備。教科書付属CDを聞き、Lesson 5 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第7回	Lesson 6 Games: Cards ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 6 の空所補充問題に解答しておく。

		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 8 回	Lesson 7 Total Physical Response (TPR) ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 7 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 9 回	Lesson 8 Coloring・Drawing・Making ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 8 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 10 回	Lesson 9 Festivals and Events ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 9 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 11 回	小テスト Lesson 10 School Life ペアワーク	事前学習	小テストの準備。教科書付属CDを聞き、Lesson 10 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 12 回	Lesson 11 Play ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 11 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 13 回	Lesson 12 Sports ペアワーク	事前学習	教科書付属CDを聞き、Lesson 12 の空所補充問題に解答しておく。
		事後学習	授業で学んだ表現を自然に口から出るようになるまで練習する。
第 14 回	DVD 鑑賞 ディスカッション	事前学習	前回まで練習した表現を十分に復習しておく。
		事後学習	DVD 鑑賞、ディスカッションで学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	期末試験に備え、前回まで練習した表現の復習を行う。
		事後学習	小学生に英語を楽しく学ばせるために、どのような活動を行ったらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN1312
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、精確に英文を読む力を身につけて、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなし、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることをめざす。さらに英語圏文学と文化の基礎的な知識を習得して、英語圏文学独自の世界の魅力を味わい、文学および文化に対する関心を高めることも目的とする。この授業を履修することによって得られた文学に関する知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際、実践的に役立つ。また異文化への理解は、21 世紀の現代的問題を多角的に考察する上でも役に立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学・高校教諭一種免許が取得できるように、英語の学力を身につける。 2. 英文法を応用して構文を確認しながら、英文を読んで意味内容を把握する力を身につける。 3. 英語圏文学の基礎的な知識が習得できる。 4. 英語圏文化について理解し考察することができる 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 レポート課題：授業で扱う作品から一作品を選び、ブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 S. ゲイツ著『総合・英米児童文学への招待』英宝社。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% レポート課題 15% 授業中の態度 10%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	はじめに 実力診断テスト	事前学習	Chapter 1 について、英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	実力診断テストで理解が不十分だった箇所について再検討し、理解を深める。
第 2 回	Chapter 1 <i>Huckleberry Finn</i> , pp. 7-9. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 3 回	Chapter 1 Exercises, pp. 10-12. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 4 回	Chapter 3 <i>Anne of Green Gables</i> , pp.19-21. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 5 回	Chapter 3 Exercises, pp. 22-25. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 6 回	小テスト	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 7 回	Chapter 4 <i>Treasure Island</i> , pp. 27-29. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意

			味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 8 回	Chapter 4 Exercises, pp. 30-32. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 9 回	Chapter 6 <i>Peter pan</i> , pp. 39-41. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 10 回	Chapter 6 Exercises, pp. 42-44. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 11 回	小テスト DVD 鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 12 回	Chapter 10 <i>Paddington</i> , pp. 63-65. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 13 回	Chapter 10 Exercises, pp.66-68. 問題練習	事前学習	本文の意味内容をよく把握して、問題に解答する。
		事後学習	理解の不十分だった点について、復習し、知識の定着を図る。
第 14 回	ディスカッション	事前学習	前回まで読解練習した全体の内容を把握する。
		事後学習	ディスカッションをとおして学んだことを整理し、発表できるようにしておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	この授業で得た読書体験を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	EDEN1303
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	講義、グループ学習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	英語の文章構造を速やかに把握する方法を身に付け、英語基礎演習で習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用しながら、英文の読解力の向上をはかり、中学校または高等学校で教育実習を確実にこなして、中学・高校教諭一種免許を取得できるようにすることを目指す。			
8. 学習目標	1. 英語の文章構造を速やかに把握する方法を身につける。 2. 中学・高校教諭一種免許を取得できるように、英文読解力の向上を図る。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石谷由美子他著『構造で読む英文エッセイ (改訂版)』南雲堂。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% 授業中の態度 25%			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	授業で使用する CD を視聴してみる。	
第 2 回	1 Conclusions/Reasons 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 3 回	1 Conclusions/Reasons 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 4 回	2 Analysis 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 5 回	2 Analysis 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 6 回	小テスト 3 Theory/Proof 読解練習	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 7 回	3 Theory/Proof 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 8 回	4 Controversy 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 9 回	4 Controversy 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。	
第 10 回	5 Comparison/Contrast 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。	

			握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 1 回	小テスト 5 Comparison/Contrast 読解練習	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 2 回	6 Classification 読解練習	事前学習	小テストの準備。英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 3 回	6 Classification, 7 Instructions 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 4 回	7 Instructions 読解練習 ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 1 5 回	まとめ	事前学習	期末試験に備え、前回まで読解練習した英文の内容把握ならびに練習問題の復習を行う。
		事後学習	自己の英文読解力と文法運用能力について分析し、不十分であった点を確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読 V (2 単位)		3. 科目番号	EDEN2312
2. 授業担当教員	高橋 みどり			
4. 授業形態	演習、グループ学習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	英語圏の小説や英語のリーディングテキストを教材として使用し、習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文の英文を読む力を身につける。ストーリーの面白さを味わいながら、英語で物語を読む楽しさを体験すること、歴史上の人物のライフストーリーを追体験しながら、他者への想像力を鍛えることを目的とする。この授業を履修することによって得る読書体験は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際に必ず役立つ。また、言語の背景に潜在する歴史や文化を理解することにより、異文化圏の人々とコミュニケーションする際にも役に立つ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の基本事項を確認し、英語の読解力を身に付ける。 2. 英語圏の小説や歴史、文化に関する理解を深めることができる。 3. 多様な英語表現に親しみ、異文化コミュニケーションに活用できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	家庭学習：各自に和訳を発表してもらうので、周到に準備しておくこと。 レポート課題：『シャーロック・ホームズの冒険』に関するブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中康裕注解『シャーロック・ホームズの冒険』英光社。			
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% レポート課題 15% 授業中の態度 10%			
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	はじめに 実力診断テスト		事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	実力診断テストで不正解だった問題について再検討し、理解を深める。
第 2 回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp.1-3.	読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 3 回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp.4-6.	読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 4 回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp.7-9	読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 5 回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp.10-12.	読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
			事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 6 回	小テスト	DVD 鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
			事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。

第 7 回	<i>The Adventure of the Speckled Band</i> , pp.13-16. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 8 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.47-49. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 9 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.50-52. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 10 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.53-55. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 11 回	小テスト DVD 鑑賞	事前学習	小テストの準備を十分に行う。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 12 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.56-58. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 13 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.59-61. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 14 回	<i>The Red-Headed League</i> , pp.62-63 .読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握する。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深める。
第 15 回	ディスカッション及びまとめ	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握する。
		事後学習	この授業で得た読書体験を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語講読Ⅵ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2303
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義、演習、ペア・グループ活動	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	英語の読解力を向上させるためには、単語、熟語、文法事項などを確認しながら正確に読む精読と、スピードを意識しながら大量の文書を読み進める速読の両方の読み方を駆使する必要がある。そこで、本授業では、読む目的に応じて、英文の速読と精読を行い、英文の読解力の向上を目指す。題材は、これから教壇で英語を教える学生に役立つように配慮したので、各課のねらいに従って、タスクを行い、問題の解決力や批判的思考力も身に付けてほしい。このようにして、学生は、これまでに習得した基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、英文の読解力の向上を目指す。		
8. 学習目標	1. 英語教員として必要な語彙知識と文法知識を、英文読解を通して培うことができる。 2. 読む目的に応じて、英文を読む速度を変え、効率良く英文を読むコツを学習し、実際の英文講読で活用できるようにする。 3. 英文テキストの要点をまとめ、他文化や他言語と比較し、類似点や相違点を発見し、自分の考えを表現することができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の問題を毎回課す。 2. 読解力を更に養成するため、長期休暇中の課題として英語の文章読解の問題演習を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 Casey Malarcher・Shinichi Harada 著 『Intermediate Faster Reading – New Edition』成美堂、2016 年。 【参考書】 各自英和辞書を持参すること。詳細は授業中に指示する。		
11. 成績評価の方法	授業中の態度 20% 課題 20% 小テスト 30% 期末テスト 30%		
12. 受講生へのメッセージ	英語そのものを学習することも大事だが、愛読書を英語の読み物に対しても一冊は持ってもらいたい。英語を読むことに関しては日本語とは異なる文章構造であることを理解し、それに相応しい読み方ができるよう目指そう。予習・復習を重視すると共に、授業への積極的な参加を期待する。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	自分の「読む」能力について振り返り授業に臨むこと。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第 2 回	Unit 1 – Coffee Culture	事前学習	U1 (p.1) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.4) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 3 回	Unit 2 – Helping Others	事前学習	U2 (p.5) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.8) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 4 回	Unit 3 – Movie Directors	事前学習	U3 (p.9) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.12) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 5 回	Unit 4 – Around the World	事前学習	U4 (p.13) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.16) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 6 回	Unit 5 – Yuna Kim	事前学習	U5 (p.17) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.20) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 7 回	Unit 6 – Puffer Fish	事前学習	U6 (p.21) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.24) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 8 回	Unit 7 – Technology in the Classroom	事前学習	U7 (p.25) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.28) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 9 回	Unit 8 – Interesting Buildings	事前学習	U8 (p.29) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.32) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 10 回	Unit 9 – Bollywood	事前学習	U9 (p.33) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.36) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 11 回	Unit 10 – The Nobel Prize	事前学習	U10 (p.37) の演習から英語を英語で捉える習慣をつける。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.40) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 12 回	Unit 11 – A Funny Cure	事前学習	U11 (p.41) の演習から英語を英語で捉える。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.44) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 13 回	Unit 12 – Palm Reading	事前学習	U12 (p.45) の演習から英語を英語で捉える。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.48) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 14 回	Unit 13 – Amazing Memory	事前学習	U13 (p.49) の演習から英語を英語で捉える。
		事後学習	同 Unit で読んだ文章の復習と語彙問題 (p.52) に取り組み、既習事項を定着させる。
第 15 回	総括	事前学習	既習事項を整理し、疑問点があれば質問する準備をしておく。
		事後学習	総復習をして試験に備える。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅡ (2 単位)		3. 科目番号	EDEN1322
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。リスニングの練習活動、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力を養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらコミュニケーション能力向上を目指す。春期に開講されたコミュニケーションⅠに引き続きさらに英語で表現できるような学習を進める。文法のため適宜 TOEIC 教材を使用する。			
8. 学習目標	Students will learn how to communicate properly in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will have confidence through actual communication in English. Students will be able to gain knowledge of pragmatics.			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and lots of drills			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 田中正道『実践英語コミュニケーションの技法・Functional English for Communication』英宝社。			
11. 成績評価の方法	Short tests 30% Oral tests 30% Finals 40%			
12. 受講生へのメッセージ	This course will prepare you for international communication			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Complementing	事前学習	Read the conversations on pages 50,52	
		事後学習	Do all the exercises	
第 2 回	Expressing interest	事前学習	Read all the conversations	
		事後学習	Do the exercises	
第 3 回	Expressing surprise	事前学習	Read the conversations on pages 58,60	
		事後学習	Do all the exercises	
第 4 回	Expressing gratitude	事前学習	Read all the conversations	
		事後学習	Write new sentences using key sentences	
第 5 回	Offering and accepting apology	事前学習	Learn all the words and phrases on pages 66,68	
		事後学習	Do the exercises	
第 6 回	Expressing regret, sympathy	事前学習	Learn all the words and phrases on pages 70,72	
		事後学習	Do all the exercises	
第 7 回	Review Short test	事前学習	Review all we did in class	
		事後学習	Review all we did in class	
第 8 回	Requesting someone to do something	事前学習	Read the conversations on pages 74,76	
		事後学習	Do the exercises	
第 9 回	Advising someone to do something	事前学習	Read all the conversations	
		事後学習	Write new sentences using key sentences	
第 10 回	Accepting / declining offer or invitation	事前学習	Read all the conversations	
		事後学習	Write new sentences using key sentences	
第 11 回	Addressing a friend / customer	事前学習	Read the conversations on pages 86,88	
		事後学習	Write new dialogues	
第 12 回	Introducing someone to someone else	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Make new conversations	
第 13 回	Taking leave	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Make new conversations	
第 14 回	Review	事前学習	Review everything	
		事後学習	Listen once more to the dialogues	
第 15 回	Oral test	事前学習	Re-read all the unites	
		事後学習	Re-read all the unites	
期末試験(Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションⅣ (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2322
2. 授業担当教員	田村 エレナ		
4. 授業形態	Listening and reading practice, Building vocabulary, Presentation and Discussion.	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。春期と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながら高いレベルでのコミュニケーション能力向上を目指す。		
8. 学習目標	Students will learn how to communicate efficiently in English till the end of the semester. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading , and writing.		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and written presentations		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉富昇著『Communication Builder (改訂版)』南雲堂。		
11. 成績評価の方法	Short tests 20% Oral tests 30% Presentations 30% Finals 20%		
12. 受講生へのメッセージ	This course covers a wide range of topics. It provides a unique opportunity for discussion		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間 (本館 1 階 非常勤講師室)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Free Talk	事前学習	How to meet new people and invite them to different activities
		事後学習	How to make new friends using information you learned.
第 2 回	Giving advice	事前学習	Practice dialogues
		事後学習	Take notes. Read the conversations
第 3 回	Giving advice	事前学習	Practice dialogues
		事後学習	Write new dialogues
第 4 回	Getting Information	事前学習	Read. Take notes
		事後学習	Listen and speak
第 5 回	Getting Information	事前学習	Basic Dialogues
		事後学習	Productive dialogues
第 6 回	Comparing and Contrasting	事前学習	Read. Take notes
		事後学習	Listen and speak
第 7 回	Comparing and Contrasting	事前学習	Dialogues. Role play
		事後学習	Review Glossary
第 8 回	Review tor the short test	事前学習	Read, Write, Listen
		事後学習	Read, Write, Listen
第 9 回	Test	事前学習	Test
		事後学習	Discuss the results of the test
第 1 0 回	Talking about experiences	事前学習	Read. Take notes
		事後学習	Listen and speak
第 1 1 回	Talking about experiences	事前学習	Dialogues and Role Play
		事後学習	Review and Glossary
第 1 2 回	Interviewing	事前学習	Read and take notes
		事後学習	Listen and speak
第 1 3 回	Interviewing	事前学習	Dialogues and Role play
		事後学習	Review and Glossary
第 1 4 回	Review	事前学習	Read and write
		事後学習	Listen and speak
第 1 5 回	Oral test	事前学習	Oral test
		事後学習	Oral test
期末試験(Final exam)			

1. 科目名 (単位数)	英語コミュニケーションVI (2 単位)		3. 科目番号	EDEN3322
2. 授業担当教員	田村 エレナ			
4. 授業形態	Listening practice, English conversation, Building vocabulary, Presentation and Discussions		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	英語聴解力の増強を目指すための訓練と同時に、発話力の定着訓練も行い、実践的英語聴解・会話力の修得を目指す。基本はすべて英語での授業である。1・2 年次と同様リスニングの練習活動を中心とし、実践的な英語でのコミュニケーション活動を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」力をさらに養う。母語は言語習得において助けになり邪魔とはならないため補足的に日本語での指示、解説がなされる。英語を話すということは、その言語の話されている文化的背景、どのようなシチュエーションでどの表現方法が正しいのかなどの社会言語学的知識を伴い始めて成立することから、それらも考慮しながらさらに高いレベルで英語コミュニケーション能力向上を目指す。			
8. 学習目標	Students will communicate efficiently and fluently in English. Students will foster their listening comprehension skills. Students will increase their communication competence Students will be able to gain knowledge of pragmatics. Students will further develop their skills of listening, speaking, reading, and writing. Students will be able to express their opinions clearly in English.			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	Homework and drills			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 八木克正/Richard Hodson/井上亜依/Sebastian Fuller 著 『Express Yourself in English : A Fresh Start to Your College Life -英語で自己表現-大学英語のフレッシュスタート TOEIC 予想問題付き-』英宝社。			
11. 成績評価の方法	Class activities 30% Oral test 30% Finals 40%			
12. 受講生への メッセージ	This course will help you understand and talk freely in English			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間 (本館 1 階 非常勤講師室)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	Practicing of short conversations	事前学習	Think of the importance of learning English	
		事後学習	Think of the importance of speaking in English	
第 2 回	Talking about your future	事前学習	Read and practice the conversations	
		事後学習	Role play	
第 3 回	Talking about your future	事前学習	Presentations	
		事後学習	Do all the exercises	
第 4 回	A summer trip to London: Plans and departures	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Do all the exercises	
第 5 回	A summer trip to London Shopping with friends	事前学習	Read and practice the conversations	
		事後学習	Free talk about London and shopping	
第 6 回	A summer trip to London : Eating out	事前学習	Read and practice the conversations	
		事後学習	Do the exercises	
第 7 回	Watch a video on London	事前学習	Watch the video twice and answer questions	
		事後学習	Talk about the content pf the video	
第 8 回	Summary Short test	事前学習	Repeat all we did in class	
		事後学習	Read the conversations	
第 9 回	Introduction Japan to overseas friends : Food	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Role pay and do the exercises	
第 1 0 回	Introduction Japan to overseas friends : Culture and customs	事前学習	Read and practice the conversations	
		事後学習	Do all the exercises	
第 1 1 回	Introduction Japan to overseas friends : Visiting historic sights	事前学習	Read the conversations	
		事後学習	Do the exercises	
第 1 2 回	Presentations about Japan	事前学習	Write your presentation	
		事後学習	Do the presentation in class	
第 1 3 回	Review about Japan	事前学習	Write about what movie you like	
		事後学習	Read all the conversations	
第 1 4 回	Review of all the units	事前学習	We do all the review in class	
		事後学習	Review	
第 1 5 回	Oral test	事前学習	test	
		事後学習	test	
期末試験(Final exam)				

1. 科目名 (単位数)	英米児童文学 (作品論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN2317
2. 授業担当教員	高橋 みどり		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーション、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この授業では、英米児童文学の歴史を概観し、英米児童文学の主要作家と作品を考察するとともに、その時代的・文化的背景をも明らかにする。知識の習得に加え、作品に描かれた子ども像の変遷を辿る作業が、「子ども」という概念に対するこれまでの認識を改める契機をもたらし、新たな視点の獲得へとつながるようになることを目的としている。また、作品の名場面を原文で鑑賞することも、貴重な読書体験となるにちがいない。この授業を履修することによって得られた英米児童文学に関する様々な知識は、将来教育現場で児童・生徒に読書指導を行う際にも必ず役立つ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英米の児童文学の古典と新しい児童文学の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 2. 英米以外の英語圏の児童文学の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 3. 英米の絵本の主要作家とその主要作品を学習し、説明できるようになる。 4. 英米の児童文学の時代的・文化的な背景を学習し、説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に授業に取り組む姿勢を促し、リサーチや分析を通して論理的思考力や創造力を養い、さらに情報伝達力を高めるために、プレゼンテーションを取り入れるので、周到に準備しておくこと。 2. 学習したことを教育現場で活かすことのできる実践力とスキルが求められているので、指定された図書 (翻訳) リストより選んだ一作品に関するブックトークの原稿・読書感想画・マップ等を作成し、冬期休暇明けに提出すること。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを使用する 【参考書】 本多英明・桂有子・小峰和子編著『たのしく読める 英米児童文学』ミネルヴァ書房。 定松正編『イギリス・アメリカ児童文学ガイド』荒地出版社。		
11. 成績評価の方法	レポート課題 25% 小テスト 25% プレゼンテーション 25% 受講態度・参加姿勢 25%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成に重点を置いて、英米児童文学についての知識を深めることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。 		
13. オフィシアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション 英米児童文学の概観 プレゼンテーションの方法と準備 「ブックトーク」の手法と準備	事前学習	英米児童文学に関して知っていることを発表できるようにまとめておく。
		事後学習	プレゼンテーションやブックトークの方法や準備等を確認し、計画を立てる。
第 2 回	第 1 章 英米児童文学の誕生 『ロビンソン・クルーソー』 『ガリバー旅行記』	事前学習	『ロビンソン』、『ガリバー』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 3 回	第 1 章 英米児童文学の誕生 『クリスマス・キャロル』 『オックスフォード版ナーサリー・ライム集』	事前学習	『クリスマス』、『ナーサリー・ライム』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 4 回	第 2 章 イギリス児童文学の古典 『不思議の国のアリス』、『宝島』	事前学習	『不思議の国のアリス』、『宝島』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 5 回	第 2 章 イギリス児童文学の古典 『ピーター・パン』 『クマのプーさん』	事前学習	『ピーター・パン』、『クマのプーさん』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 6 回	第 3 章 アメリカ児童文学の古典	事前学習	『若草物語』、『小公子』についてのプリントを熟読し、

	『若草物語』 『小公子』	事後学習	原作の意味を調べておく。 プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 7 回	第 3 章 アメリカ児童文学の古典 『トム・ソーヤーの冒険』 『ハックルベリー・フィンの冒険』	事前学習	『トム・ソーヤー』、『ハックルベリー・フィン』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 8 回	第 4 章 イギリス児童文学の発展 『ナルニア国ものがたり』 『ムギと王さま』	事前学習	『ナルニア国ものがたり』、『ムギと王さま』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 9 回	第 4 章 イギリス児童文学の発展 『くまのパディントン』 『チョコレート工場の秘密』	事前学習	『パディントン』、『チョコレート工場』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 10 回	第 5 章 アメリカ児童文学の発展 『大草原の小さな家』 『エルマーとりゅう』	事前学習	大草原の小さな家』、『エルマーとりゅう』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 11 回	第 5 章 アメリカ児童文学の発展 『からすが池の魔女』 『はるかなるわがラスカル』	事前学習	『からすが池の魔女』、『ラスカル』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 12 回	第 6 章 英米以外の英語圏の児童文学 『赤毛のアン』 第 7 章 新しい児童文学 『ゲド戦記』	事前学習	『赤毛のアン』、『ゲド戦記』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 13 回	第 8 章 英米絵本の収穫 『ピーターラビットのおはなし』 『ちいさいおうち』 『あおくとときいろちゃん』	事前学習	『ピーターラビット』、『ちいさいおうち』、『あおくん』についてのプリントを熟読し、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し、原作の読み違いを確認する。
第 14 回	小テスト DVD 鑑賞 ディスカッション	事前学習	小テストの準備を十分に行う。鑑賞する映像作品についての章を復習し、内容を把握する。
		事後学習	鑑賞した映像作品について自分の考えをまとめておく。
第 15 回	ブック・トークのデモンストレーション	事前学習	ブック・トークの練習を行う。
		事後学習	この授業で得た知識を、教育現場での読書指導に、どのように活かしたらよいか考えてみる。

1. 科目名 (単位数)	英米文学演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3313
2. 授業担当教員	日下 洋右		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「英語講読Ⅰ」から「英語講読Ⅵ」までを履修しておくこと。		
7. 講義概要	本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、文学的英語テキストを精確に読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、文学作品が何らかの形で言及するところの西洋的な価値基準について検討し、日本と対照的な英米の諸相を概観すると同時に、両文化に共通する生命への価値観を考察する。		
8. 学習目標	1: 英米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 英語の読解力がどの程度向上したか確認するために、英語の実力テストを実施する。 2. 英語の長文を理解するために習熟していなければならない特殊構文 (倒置構文、強調構文、省略構文など) の練習問題を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 吉田一彦、稲積包昭編注『味のある物語』南雲堂。		
11. 成績評価の方法	期末テスト 50% 小テスト 25% 受講態度・参加姿勢 25%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、英語の読解力の養成を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのまましておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	“A Small, Good Thing,” pp. 1-3. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 2 回	“A Small, Good Thing,” pp. 4-6. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 3 回	“A Small, Good Thing,” pp. 7-9. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 4 回	“A Small, Good Thing,” pp. 10-12. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 5 回	“A Small, Good Thing,” pp. 13-15. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 6 回	“A Small, Good Thing,” pp. 16-18. 読解練習、小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 7 回	“A Small, Good Thing,” pp. 19-21. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意

			味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 8 回	“A Small, Good Thing,” pp. 22-24. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 9 回	“A Small, Good Thing,” pp. 25-27. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 10 回	“A Small, Good Thing,” pp. 28-30. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 11 回	“A Small, Good Thing,” pp. 31-33. 読解練習、 小テスト、ディスカッション	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 12 回	“A Small, Good Thing,” pp. 34-36. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 13 回	“A Small, Good Thing,” pp. 37-39. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 14 回	“A Small, Good Thing,” pp. 40-42. 読解練習	事前学習	英文法を応用しながら予習をして英文の構文と意味内容を把握すること。
		事後学習	読解練習した英文の構文と意味内容を復習して理解を深めること。
第 15 回	ディスカッション及びまとめ	事前学習	前回まで読解練習した物語全体の内容を把握すること。
		事後学習	各自物語の人物像から自己の生き方を考えてみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	音楽 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	保育における音楽活動の指導で求められる知識、技術を身につけ、理解を深める。具体的には子どもの歌を歌うのに必要な発声法、ピアノ演奏技術とピアノ伴奏によって歌唱指導する能力、簡易楽器などの扱いや奏法に関する知識と技術を身につけることを目指す。読譜や音楽のしくみに関する基礎的な知識や理論についても、実践を通して学ぶ。		
8. 学習目標	①歌うための声の出し方を学習し、指導できるようになる。 ②音楽の基礎的な知識・理論を理解し、読譜の能力を身につける。 ③ピアノ及び歌の基礎的な演奏技能を習得する。 ④子どもの歌の「弾き歌い」を実践できる。 ⑤簡易楽器などの扱いや奏法を知る。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。 2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】・小林美実・井戸秀和著『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 【参考書】・深見友紀子・小林田鶴子・坂本暁美共著『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』音楽之友社。 ・全国大学音楽教育学会、中・四国地区学会編著『歌う、弾く、表現する保育者になろう 保育士・幼稚園教諭養成テキスト』音楽之友社。 ・小林美実・井戸秀和『いろんな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』チャイルド本社。 ・小林美実監修『こどものうた 200』チャイルド本社。 ・小林美実監修『続こどものうた 200』チャイルド本社。 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	実技 70%、楽典 30%		
12. 受講生へのメッセージ	ピアノ演奏や歌唱のような実技は、一夜漬けで習得できるようなものではなく毎日地道に練習を積み重ねていくことが重要です。必ず、短時間でも構わないので毎日ピアノに触れるよう心がけて下さい。短期間で基礎的な技術を身につけるためには、単調な指の訓練も必要となりますが、そうした練習は退屈なものに思われてしまいます。しかし、そうした練習も楽しんで弾くのが「音楽」であり、それを乗り越えた先に真に演奏することの楽しさがあると考えて下さい。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 楽典① (音符と休符①)	事前学習	音符と休符について事前学習しておくこと。
		事後学習	授業内容を復習し、学習した音符と休符を第 2 回までに暗記して
第 2 回	ピアノ演奏および弾き歌い① 楽典② (音符と休符②)	事前学習	音符の名称・記号を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	授業内容を復習し、新たに学習した音符と休符を第 3 回までに暗
第 3 回	ピアノ演奏および弾き歌い② 楽典③ (拍子①) 発声の基礎③	事前学習	音符と休符の名称・記号・拍を暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解すること。課題曲の練習。
第 4 回	ピアノ演奏および弾き歌い③ 楽典④ (拍子②) 発声の基礎④	事前学習	2/4、3/4、4/4 の拍子を理解してくること。課題曲の練習。
		事後学習	3/8、6/8 の拍子を理解すること。課題曲の練習。
第 5 回	ピアノ演奏および弾き歌い④ 楽典⑤ (音符と休符、拍子の復習)	事前学習	音符と休符、拍子を完全に理解してくること。課題曲の練習。
		事後学習	音符・休符・拍子の復習。課題曲の練習。
第 6 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑤ 楽典⑥ (音の幅)	事前学習	音の幅について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	音の幅について理解しておくこと。課題曲の練習。
第 7 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑥ 楽典⑦ (反復記号①)	事前学習	反復記号について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 8 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑦ 楽典⑧ (反復記号②)	事前学習	反復記号の復習をし、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	反復記号について理解する。課題曲の練習。
第 9 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑧ 楽典⑨ (さまざまな記号)	事前学習	さまざまな記号や楽語について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	記号や楽語を暗記すること。課題曲の練習。
第 10 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑨ 楽典⑩ (音階)	事前学習	音階について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	長音階について理解すること。課題曲の練習。
第 11 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑩ 楽典⑪ (調号)	事前学習	調号について予習しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	調号について理解すること。課題曲の練習。
第 12 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑪ 楽典⑫ (これまでの復習①)	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 13 回	ピアノ演奏および弾き歌い⑫ 楽典⑬ (これまでの復習②)	事前学習	これまでの楽典をすべて復習し、暗記しておくこと。課題曲の練習。
		事後学習	楽典で理解していないところを復習すること。課題曲の練習。
第 14 回	ピアノ実技の発表	事前学習	バイエルの課題曲を発表できるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。
第 15 回	弾き歌い実技の発表	事前学習	弾き歌いの課題曲を発表出来るよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1325
2. 授業担当教員	高木 麻衣子	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	①ピアノ実技：毎回レベル毎に課題曲を提示するので、次週までに弾けるように練習をしていくこと。 ②音楽理論：ほぼ毎回単元別の練習問題を提示するので、次週までに完成させ、疑問点や質問事項は次週に必ず聞くこと。 ③中間のまとめ (実技、筆記)、期末のまとめ (実技、筆記) を行う。 ④歌唱教材：1曲でも多くのレパートリーを持てるよう、「歌うこと」に積極的な姿勢で臨むこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 ① 全音楽譜出版部編『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社。 ② 阪井忠、有本真紀他著『2011年改訂版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社。 【参考書】川辺 真著『わかりやすい楽典』音楽之友社。		
11. 成績評価の方法	①実技発表 (ピアノ実技発表) 30% ②音楽理論 (試験) 30% ③平常点 (学習意欲・態度・学習進度・提出物) 40% ①～③を総合的に評価する		
12. 受講生への メッセージ	「ピアノが弾けるようになる」ことは技術の習得です。したがって、日々の鍛錬を忘れずに積み重ね、努力すると必ず弾けるようになります。自分を信じて取り組み、出来る喜びを分かち合しましょう。保育・教育に携わる皆さんが音楽の楽しさ、素晴らしさを次世代に伝えていける伝達者になって欲しいと思っています。熱心に取り組まれることを期待しています！ 弾き歌いでは、小学校共通教材の中より個々の技量にあった、より多くの曲に触れてほしいと思います。		
13. オフィスアワー	最初の授業時に提示		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業ガイダンス (シラバス説明・授業概要)、アンケート、演奏レベルチェック、課題曲提示	事前学習	鍵盤で「ド」の位置を理解しておくこと。
		事後学習	各自の目標 (初級：音符と鍵盤の一体化、中級：楽譜に忠実に、上級：表現力のある演奏を目指して) を設定し、各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第2回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論① (音部記号・楽譜について)	事前学習	各自の目標及び各自の演奏レベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音部記号・楽譜について) に取り組む。
第3回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論② (音名・変位記号)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音名・変位記号) に取り組む。
第4回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論③ (音符と休符)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (音符と休符) に取り組む。
第5回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論④ (拍子とリズム)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (拍子とリズム) に取り組む。
第6回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑤ (強弱記号、簡単な楽語)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	「止まらずに弾く」ことを目標に課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (強弱記号、簡単な楽語) に取り組む。
第7回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑥ (反復記号、装飾音符) グループアンサンブル① (グループ決め、曲決め)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。 中間のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
第8回	中間のまとめ (ピアノ弾き歌い実技発表・ 音楽理論に関する筆記試験)	事前学習	中間のまとめに向けた各自の課題曲を練習する。
		事後学習	各自、期末試験に向けての目標を設定し、それに合わせて決めた各自の課題曲を練習する。
第9回	ピアノ弾き歌いレッスン	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を

	グループアンサンブル② (合奏練習)		練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第 10 回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル③ (合奏練習)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 グループアンサンブルの個人練習をする。
第 11 回	ピアノ弾き歌いレッスン グループアンサンブル④ (合奏発表)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。
第 12 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑨ (長音階)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (長音階) に取り組む。
第 13 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑩ (短音階)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 音楽理論プリント課題 (短音階) に取り組む。
第 14 回	ピアノ弾き歌いレッスン 音楽理論⑪ (簡単なコードネーム)	事前学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
		事後学習	音楽理論の応用、自身の読譜力向上に留意しながら各自の課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
第 15 回	期末のまとめ ((ピアノ弾き歌い実技発表・音楽理論に関する筆記試験)	事前学習	期末のまとめに向けた課題曲を練習する。 期末のまとめに向けた音楽理論の学習を復習する。
		事後学習	実技の復習、これまでに学習した音楽理論について復習をする。

1. 科目名 (単位数)	音楽 (小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1140 GELA1325 GELA1324
2. 授業担当教員	二宮 紀子		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	小学校教育において必要とされる音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌い、器楽アンサンブル、音楽づくり (言葉、動き、音を媒体として) を学ぶ。特にアンサンブルはグループ・ディスカッションを重視した活動となる。		
8. 学習目標	1. ピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによるアンサンブルに関心を持ち、演奏ができる。 3. 声や楽器や身体の動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	①ピアノ実技: 「弾き歌い」の課題曲を次週までによく練習しておく。 ②グループ活動: お互いに協力し合い、練習をして合奏の発表に臨むこと。 ③第4, 8, 11, 15回に「弾き歌い」の発表、第14回にグループ発表 (合奏) を行います。 ④音楽理論のまとめのテスト (筆記) を行います。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法 改訂版—小学校教員養成課程用—』音楽之友社、2011年。 二宮紀子『歌って、弾いて、書いてわかる 子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 ※各自、五線ノートを1冊用意すること。 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	①ピアノの弾き歌い 40% ②グループ・アンサンブルの発表 20% ③音楽理論の筆記テスト 20% ④平常点 (学習意欲/態度/進捗・提出物) 20% ※①～④を総合的に評価する。 なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要です。		
12. 受講生への メッセージ	小学校での音楽教育に必要な基礎的な音楽理論やピアノ演奏技能、リコーダー、打楽器の奏法やアンサンブルの持ち方を学びましょう。演奏技能の習得には少しずつ毎日練習することが必要です。また、人と音を合わせる喜びを体験しましょう。		
13. オフィスアワー	研究室扉に掲示。時間的に空いている場合はいつでも可。ただしメールにて事前連絡のこと。アドレスは研究室扉に記載。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要)、 音楽歴調査、教科書解説、歌唱共通教材解説。 歌唱共通教材1曲を使ってドレミ唱、拍に合わせ歌詞のリズムを叩く。拍、リズム、音高の変化の理解。	事前学習	教科書を予習しておく。
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことを復習しておく。
第2回	ピアノの演奏及び弾き歌い① 音楽理論①楽譜とは何か。音楽を縦と横で捉える。ドレミ唱の意味と拍と分割。	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	拍と分割について授業で指導されたことを復習しておく。
第3回	ピアノの演奏及び弾き歌い② 音楽理論②拍と拍の分割から生まれる様々なリズムを体得する。	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	拍子とリズムについて授業で指導されたことを復習しておく。
第4回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 音楽理論③連符と付点のリズム	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	連符と付点のリズムについて授業で指導されたことを復習しておく。
第5回	ピアノの演奏及び弾き歌い③ 音楽理論④拍子の違いによるリズムの捉え方。自分で伴奏和音を考える。	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	伴奏和音の考え方について等授業で指導されたことを復習しておく。
第6回	ピアノの演奏及び弾き歌い④ 音楽理論⑤伴奏和音のつながりとその表記の仕方 (和音記号、カデンツ、コードネーム)	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	和音について授業で指導されたことを復習しておく。
第7回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑤ 音楽理論⑥音階とは何か。長音階。	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	長音階について授業で指導されたことを復習しておく。
第8回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表	事前学習	発表曲を練習しておく。

	音楽理論⑦#，b4つまでの長音階	事後学習	#，b4つまでの長音階について授業で指導されたことを復習しておく。
第9回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑥ 音楽理論⑧日本の音階	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	日本の音階について授業で指導されたことを復習しておく。
第10回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑦ 音楽理論⑨様々な音階とその表記	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	様々な音階とその表記について授業で指導されたことを復習しておく。
第11回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 わらべうたのオスティナート伴奏について	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	わらべうたについて授業で指導されたことを復習しておく。
第12回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑧ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるアンサンブル①（小学校教材1曲をアンサンブル用に編曲する）	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	グループ・アンサンブルについて授業で指導されたことを復習しておく。
第13回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑨ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるアンサンブル②（グループ毎のアンサンブルの工夫）	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	グループ・アンサンブルについて授業で指導されたことを復習しておく。
第14回	ピアノの演奏及び弾き歌い⑩ 打楽器とリコーダー、トーンチャイム等によるグループ・アンサンブルの発表（グループ別）	事前学習	課題曲を練習しておく。アンサンブル発表に向け必要な準備をする。
		事後学習	グループ・アンサンブルの発表に関して工夫点等レポート課題の作成。
第15回	ピアノの演奏及び弾き歌い発表 音楽理論のまとめ	事前学習	発表曲の練習。音楽理論について勉強したことを復習しておく。
		事後学習	授業で指導されたことを復習しておく。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ / 音楽Ⅱ (保育士) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2523		
2. 授業担当教員	岡村 弘		SCOT2523		
4. 授業形態	演習、個人レッスン (キーボード)、小集団学習 (器楽合奏)、一斉学習 (歌唱)、ロールプレイ	5. 開講学期	秋期		
6. 履修条件・他科目との関係					
7. 講義概要	保育、幼児教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏を行う。また、子どもの歌を歌うのに必要とする発声法についても学習する。それらの学習を通して、個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歌うための声の出し方を学習し、指導できる。 ともすれば「大きな口をあけて」とか「もっと元気に、大きな声で」という指導が保育・教育現場でなされてきているが、子どもたちにとって無理なく歌える声の出し方について習得する。 2. ピアノを用いた簡単な弾き歌いができる。 ピアノ演奏の得意な学生については、しっかり歌いながら演奏することを、そしてレパートリーを増やす。得意でない学生は、コードネームをつけることによって、自分に合った伴奏を作り演奏する技術を身に着けることによってレパートリーを増やす努力をする。 3. 保育現場で用いられている楽器などを用いた合奏指導の実践ができる。 簡易楽器における多彩な演奏法を知り合奏において応用する 4. トーンチャイム演奏法 2 声部や 3 声部などより複雑な曲をグループで演奏する技術を身に着ける。 5. 指揮法：保育・教育の現場で使える指揮の仕方をロールプレイによって習得し、指揮ができる。 				
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 5 回、第 10 回、第 15 回目の授業で各学生に与えられている“弾き歌い”課題を発表演奏。 人前で演奏すると、所謂“あがる”という現象が起こる。これは、慣れによってある程度克服できるので、課題を成し遂げるといふ目的とともにこれを実施する。 2. 毎回学生各個人の進度に応じた子どもの歌弾き歌い課題を出す。 3. 第 13 回に合奏発表演奏、およびトーンチャイム発表演奏。 協力して行ってきた課題を発表するという目標を持つことにより、達成感が得られるとともに、他のグループの演奏を鑑賞することができ、技術力および表現力が比較できる。 4. 各学生個人に異なる“手あそび”課題を出す。 教員の用意した手あそびのプリントを 5 分間くらいの時間を使って教えるように練習しておくこと。 5. 第 15 回目に次の実技課題テストを行う 学生は実技試験で A 群または B 群を選ぶ A 群を選択した学生は、当日 4 曲指定するのでその中から 1 曲を選択して演奏する。 B 群を選択した学生は、当日 1 曲を選択して演奏する。 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> A 群 『こどもの歌』弾き歌い ①あめふりくまのこ ②たなばたさま ③とんぼのめがね ④森のくまさん ⑤山の音楽家 ⑥ゆき ⑦あわてんぼうのサンタクロース ⑧手をたたきましょう </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> B 群 『こどもの歌』弾き歌い ①しゃぼん玉 ②Believe ③うたえバンバン ④世界中のこどもたちが ⑤さんぽ ⑥にじ </td> </tr> </table>			A 群 『こどもの歌』弾き歌い ①あめふりくまのこ ②たなばたさま ③とんぼのめがね ④森のくまさん ⑤山の音楽家 ⑥ゆき ⑦あわてんぼうのサンタクロース ⑧手をたたきましょう	B 群 『こどもの歌』弾き歌い ①しゃぼん玉 ②Believe ③うたえバンバン ④世界中のこどもたちが ⑤さんぽ ⑥にじ
A 群 『こどもの歌』弾き歌い ①あめふりくまのこ ②たなばたさま ③とんぼのめがね ④森のくまさん ⑤山の音楽家 ⑥ゆき ⑦あわてんぼうのサンタクロース ⑧手をたたきましょう	B 群 『こどもの歌』弾き歌い ①しゃぼん玉 ②Believe ③うたえバンバン ④世界中のこどもたちが ⑤さんぽ ⑥にじ				
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小林美実監修『こどものうた 100』チャイルド本社。 他に必要な資料を配布する。 【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第一集』学事出版。 二階堂邦子編『手あそびうた 50 第二集』学事出版。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mm ステレオジャック (先端が 3.5mm ジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)				
11. 成績評価の方法	“弾き歌い”課題の発表演奏 3 回、“手あそび”ロールプレイ“、 および合奏発表演奏、トーンチャイム発表演奏・・・・・・ 60% 毎回の授業への取り組み態度およびアサイメントへの取り組み・・・・・・・・・・ 40% なお、授業は演習が主体であるため、毎回の出席は重要である。従って、忌引や病気などやむを得ない事情以外の欠席は、1 欠席につき 10 点減点する。事情のある場合は必ず次週までにその旨届けること。				
12. 受講生へのメッセージ	音楽は他者とのコミュニケーションや自己表現の重要な手段であると同時に、心を癒すという大きな力を持っています。この授業を通して、音楽のこれらの働きをよく理解し、大きな感動を持って音楽に接し、こども達にその感動を伝えていけるようになってほしいと願っています。そのために、人前で演奏することに慣				

	れたり、演奏技術を磨いたり、あるいはグループ活動の中でお互いが主張したり譲り合ったりする中で自分自身の情緒や感情あるいは考えといったものを表現する力をつけていきましょう。また子どもたちそれぞれの能力を引き出すための指導法を、演習を通して楽しく実践していきましょう。		
13. オフィスアワー	月曜日および金曜日以外の授業および会議の無い時間はすべてオフィスアワーとする。 ただし、学会出張や研修会などで不在の場合があるので、研究室前の掲示板を参考にすること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	弾き歌い課題提示：学生各個人の実力に合わせて弾き歌いの課題を出す。 “子どもの歌”歌唱練習：最近よく歌われている曲を、子どもにとって正しい歌い方で歌う。その際、指揮者を順次選出して、歌っている子どもの歌の指揮をする。	事前学習	一年次から使用している、『子どもの歌 100』の中から、自分が弾ける程度の曲で、まだ練習したことのない曲を選び、練習しておく。
		事後学習	第 1 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 2 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い① キーボードにヘッドフォンをつけさせ、順次個別レッスンを 行い次回課題を課す。 “手あそび・指あそび”指導法について次回以降の進め方の説明 ロールプレイの説明を行った後、具体例を担当教員が示す。	事前学習	第 1 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 2 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 3 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い② 順次個別レッスンを 行い次回課題について練習する。 “手あそび・指あそび”指導法① 順次教師役の学生がみんなの前でロールプレイを行う。担当教員は園長として、教師役の学生の指導をする。	事前学習	第 2 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 3 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 4 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い③ 順次個別レッスンを 行い次回発表会の課題を決定し、発表に向けて練習する。 “手あそび・指あそび”指導法② 順次教師役の学生がみんなの前でロールプレイを行う。担当教員は園長として、教師役の学生の指導をする。	事前学習	第 3 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 4 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 5 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 短く全員の個人指導を行った後、学生は教壇横のキーボードで順次発表演奏を行う。 他の学生は、伴奏に合わせて歌唱する。	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
		事後学習	第 5 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 6 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い④ 順次個別レッスンを 行い指導を受けた次回課題について練習する。 “手あそび・指あそび”指導法③ 順次教師役の学生がみんなの前でロールプレイを行う。担当教員は園長として、教師役の学生の指導をする。	事前学習	第 5 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 6 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 7 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑤ 順次個別レッスンを 行い指導を受けた次回課題について練習する。 “手あそび・指あそび”指導法④ 順次教師役の学生がみんなの前でロールプレイを行う。担当教員は園長として、教師役の学生の指導をする。	事前学習	第 6 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 7 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 8 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑥ 順次個別レッスンを 行い指導を受けた次回課題について練習する。 “手あそび・指あそび”指導法⑤ 順次教師役の学生がみんなの前でロールプレイを行う。担当教員は園長として、教師役の学生の指導をする。	事前学習	第 7 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。ロールプレイの教師役にあつた学生は、練習しておく。
		事後学習	第 8 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 9 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑦ 順次個別レッスンを 行い次回発表会の課題を決定し練習する。	事前学習	第 8 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 9 回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。
第 10 回	ピアノ弾き歌い発表演奏 短く全員の個人指導を行った後、学生は教壇横のキーボードで順次発表演奏を行う。 他の学生は、伴奏に合わせて歌唱する。 グループ分け後トーンチャイムの扱い方説明および教育楽器の扱い方説明とグループによる合奏練習準備 特にトーンチャイムは、取り扱いが簡単のために、逆に粗雑に扱い、壊してしまうこともあるので、十分に注意することが	事前学習	弾き歌い発表演奏に向けて課題曲を練習する。特にピアノの演奏を中心に学習するのではなく、美しく歌うことに重点を置いて学習することが求められる。
		事後学習	第 10 回目に指導された事柄を復習して練習する。弾き歌いをしている最中に止まってしまう箇所、などには特に

	大切である。また、教育楽器についても、構造が単純であるが、場合によっては、針金が出ていたり粗雑な作りであったりするので十分な注意が必要である。		留意して、歌うことに重きを置いて練習する。
第 1 1 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑧ “キーボードにヘッドフォンをつけさせ、順次個別レッスンを 行い次回課題を課す。 楽譜を配布し、合奏練習① トーンチャイムの基礎練習①いず れかをグループごとに行う。 クラスの人数によって、合奏とトーンチャイムのグループの数 を決めることとする。トーンチャイムは最低 7 人必要なので合 奏も同人数とする。	事前学習	第 1 0 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。
		事後学習	第 1 1 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。止まらないよう、歌を中心にして、もしピアノが止まっても、歌を歌って続けて、入ってこられる部分から、ピアノ伴奏ができるよう練習する。
第 1 2 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑨ 弾き歌いが、途中で止まらないよう、ピアノ伴奏部分の音が間違 っていても、引き直さなくて、そのまま歌を歌い続けて、もし ピアノが止まっても、歌を歌い続けて、フレーズの頭など入 ってこられる部分から、ピアノ伴奏ができるよう練習する。 第 1 1 回目と逆に、合奏練習② トーンチャイムの基礎練習② をグループごとに行う。特に楽器の扱いに留意し、簡易楽器だ からといって、粗末に扱わないように、演奏の仕方によって立 派な音楽になることを認識して練習する。	事前学習	第 1 1 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。同じ曲を、完璧に弾けるようになるまですることよりも、ある程度弾ければ新しい曲に挑戦する気持ちを持つ。
		事後学習	第 1 2 回目に指導された事柄を復習して練習する。特に弾き歌いに関しては、止まらない、美しく表現することを考えて歌う。
第 1 3 回	最近のこどもの歌の歌唱。 小グループごとの合奏発表、およびトーンチャイム発表 発表に際しては、ただ演奏するだけでなく、美しく演奏する、 聴いている人が感動するような演奏を目指す。そのため、ただ 演奏をするだけでなく、始まった時のあいさつの『礼』から終 わった時の『礼』まで含めてを発表ととらえる。 発表者以外は、発表グループの演奏を鑑賞し、批評すること によって、自分たちのグループと比較し、より良い演奏法を 目指すことを話し合う。場合によっては再練習ののち再演奏を する。	事前学習	第 1 2 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏のための曲ばかりを練習しないよう、できる限り多くのレパートリーが持てるようにしておく。
		事後学習	第 1 3 回目に指導された事柄を復習して練習する。
第 1 4 回	最近のこどもの歌の歌唱。 個人指導を中心としたピアノ演奏および弾き歌い⑩ 個別レッスンの中で、今までの弾き歌いを振り返り最終発表 の曲づくりの課題を課し練習する。3 年生には音楽の授業がな いので、保育あるいは幼児教育に携わろうと考えている学生は、 15 回の授業終了後休まずに弾き歌いなど音楽の練習をする覚悟 を持つこと。	事前学習	第 1 3 回目に練習した曲、またはそれが終わった学生は新しい曲を練習しておく。第 1 5 回目の弾き歌い発表演奏の曲にむけて練習を始める。
		事後学習	第 1 4 回目に弾き歌いで指導された事柄を復習して練習する。
第 1 5 回	弾き歌い発表 『アサイメントおよび実技課題』に示されている実技テストを 行う 学生は実技試験で A 群または B 群を選ぶ ・ A 群を選択した学生は、当日 4 曲指定するのでその中から 1 曲を選択して演奏する。 ・ B 群を選択した学生は、当日 1 曲を選択して演奏する。 A 群 ①あめふりくまのこ ②たなばたさま ③とんぼのめがね ④森のくまさん ⑤山の音楽家 ⑥ゆき ⑦あわてんぼうのサンタクロース ⑧手をたたきましょう B 群 ①しゃぼん玉 ②Believe ③うたえパンパン ④世界中のこどもたちが ⑤さんぽ ⑥にじ 他の学生はその伴奏に合わせて歌唱する。 音楽の授業についての担当教員からの評価と、今後の学習のあり方、メッセージを述べる。 学生による授業評価	事前学習	実技課題に示された『弾き歌いの曲』を仕上げる。
		事後学習	第 1 5 回目に指導された事柄を復習して練習する。今後の練習について、授業がなくなっても音楽Ⅲに続けていけるような練習計画を立てる。

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2140
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	演習、個人レッスン (キーボード)、小集団学習 (器楽合奏)、一斉学習 (歌唱)、ロールプレイ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (幼) を終えていること。		
7. 講義概要	保育、幼児教育の音楽を展開する上で必要とされる、ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏を行う。また、子どもの歌を歌うのに必要とする発声法についても学習する。それらの学習を通して、個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。		
8. 学習目標	<p>1. 歌うための声の出し方を学習し、指導できる。 ともすれば「大きな口をあけて」とか「もっと元気に、大きな声で」という指導が保育・教育現場でなされてきているが、子どもたちにとって無理なく歌える声の出し方について習得する。</p> <p>2. ピアノを用いた簡単な弾き歌いができる。 ピアノ演奏の得意な学生については、しっかり歌いながら演奏することを、そしてレパートリーを増やす。得意でない学生は、コードネームをつけることによって、自分に合った伴奏を作り演奏する技術を身に着けることによってレパートリーを増やす努力をする。</p> <p>3. 保育現場で用いられている楽器などを用いた合奏指導の実践ができる。 簡易楽器における多彩な演奏法を知り合奏において応用する</p> <p>4. トーンチャイム演奏法 2 声部や 3 声部などより複雑な曲をグループで演奏する技術を身に着ける。</p> <p>5. 指揮法：保育・教育の現場で使える指揮の仕方をロールプレイによって習得し、指揮ができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 毎回楽典の練習問題とピアノの練習課題等を出します。</p> <p>2. ピアノ演奏および弾き歌いの発表を実施します。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内でプリントにして配布。 ※初回授業時に、音楽 (幼) や他の音楽科目で購入した楽典の教科書を持参すること。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田富造 著『幼児の楽器遊びと楽しい合奏 - 器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。 ・木許隆・高橋一行・三縄公一・高倉秋子 著『保育者のためのリズム遊び 幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。 <p>【教材】※各自で必ず購入しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要) 		
11. 成績評価の方法	実技 80%、楽典 20%		
12. 受講生へのメッセージ	子ども達に音楽の楽しさや美しさを伝えるには、ピアノ演奏や歌唱の技術を習得することが確かに重要ではあるが、何よりも保育者自らがそうした心情を持っていなければならない。必修科目として「やらされる」のではなく、自らが積極的に音楽美を探究していく姿勢が大切です。また、実技だけでなく、なぜ子どもに音楽教育が必要なのか、そうした音楽教育の原理もしっかりと理解し実践の場に臨んでいただきたい。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ピアノ演奏および課題説明 コードネーム① (メジャーコード)	事前学習	音楽 (幼) で学んだことを復習しておくこと。
		事後学習	課題曲の練習を始めること。メジャーコードについて復習しておくこと。
第 2 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン① コードネーム② (マイナーコード)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。マイナーコードについて復習しておくこと。
第 3 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン② コードネーム③ (dim および aug)	事前学習	課題曲を弾けるように練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (dim および aug) の復習をしておくこと。
第 4 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン③ コードネーム④ (6 および 7 th コード、sus4)	事前学習	課題曲を弾けるように練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (6 および 7 th コード、sus4) の復習をしておくこと。
第 5 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン④ コードネーム⑤ (コードの転回形)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。コードネーム (コードの転回形) の復習をしておくこと。
第 6 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑤ コードネームを用いた簡易伴奏① (年少の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。
第 7 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑥ コードネームを用いた簡易伴奏② (年中の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。
第 8 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑦ コードネームを用いた簡易伴奏③ (年長の曲から選曲)	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	作成した簡易伴奏を弾けるようにすること。

第 9 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑧ 発声の基本①（姿勢や呼吸法を中心に）	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。
第 10 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑨ 発声の基本②（プレス、高音域、音痴などについて）	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声練習をしておくこと。
第 11 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑩ 発声法および発声指導について	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。発声の指導法について復習しておくこと。
第 12 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑪ 簡易楽器の取り扱いと奏法	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器について復習しておくこと。
第 13 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑫ 簡易楽器による合奏	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。
第 14 回	ピアノ演奏および弾き歌いレッスン⑬ 簡易楽器合奏の指導法および指揮法	事前学習	課題曲を弾けるよう練習しておくこと。
		事後学習	課題曲の復習をしておくこと。簡易楽器の指導法および指揮法について復習しておくこと。
第 15 回	弾き歌い発表およびまとめ	事前学習	弾き歌いは発表の準備をしておくこと。
		事後学習	授業において学んだことを総復習すること。

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2315
2. 授業担当教員	下出 美智子		
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。		
8. 学習目標	1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べるすることができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	各回の授業に向けての資料講読や調べ学習。各回で学んだ内容をレポートとして整理する。音楽技能の習得。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 初等音楽教育研究会編『最新初等音楽教育法 改訂版 - 小学校教員養成過程用 -』音楽之友社、2009 年。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 この他に必要な資料は配付する。 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	出席すべき日数を満たしたのに対して次の方法で評価する。 日常の授業態度(20%)、学習指導案の作成及び模擬授業(60%)、レポート(20%)		
12. 受講生への メッセージ	小学校教員として音楽科の授業ができるよう、課題意識を持って講義に臨んで下さい。また、表現することに苦手意識を持っている人も、心と身体で感じたことを、媒体 (言葉、動き、楽器) を使って外に表せるようになってほしい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義概要、学習目標、授業の進め方、成績評価についての説明) 『音楽教育の哲学』の文献購読と内容についてディスカッション。	事前学習	音楽科指導法用のファイルとノートを準備し講義に臨むこと。
		事後学習	『音楽教育の哲学』を熟読する。
第 2 回	小学校音楽の指導目標と指導内容① 学習指導要領の解説とその内容についてのディスカッション。	事前学習	小学校学習指導要領「音楽」と教科書 (pp.8-25) を読む。
		事後学習	学習指導要領「音楽」の要点についてノートにまとめる。
第 3 回	小学校音楽の指導目標と指導内容② 学習指導要領の解説とその内容についてのディスカッション。	事前学習	小学校学習指導要領「音楽」と教科書 (pp.8-25) を読む。
		事後学習	学習指導要領「音楽」の要点についてノートにまとめる。
第 4 回	小学校音楽の教科書分析 東京書籍、教育出版社、教育芸術社の教科書を使用して。	事前学習	小学校音楽の教科書に関する情報を収集する。
		事後学習	分析したことをノートにまとめる。
第 5 回	諸外国の音楽教育① カール・オルフ、エミール・ジャック＝ダルクローズ等	事前学習	諸外国の音楽教育について情報を収集する。
		事後学習	ダルクローズ等の音楽教育の特徴をノートにまとめる。
第 6 回	諸外国の音楽教育② カール・オルフの音楽教育 (ビデオ鑑賞と実演)。	事前学習	カール・オルフの音楽教育について情報を収集する。
		事後学習	カール・オルフの音楽教育の特徴をノートにまとめる。
第 7 回	諸外国の音楽教育③ カール・オルフの音楽教育の実演。	事前学習	カール・オルフの音楽教育の教材を探す。
		事後学習	実演したことをノートにまとめる。
第 8 回	子どもの音楽表現の実際① 小学校・特別支援学校の音楽授業のビデオ視聴と授業分析。	事前学習	音楽科の指導にあたり、教科書 (pp.26-48、pp.132-133) を熟読する。
		事後学習	ビデオ視聴と授業分析についての考察をノートにまとめる。
第 9 回	子どもの音楽表現の実際② 小学校・特別支援学校の音楽授業のビデオ視聴と授業分析。	事前学習	音楽科の指導にあたり、教科書 (pp.26-48、pp.132-133) を熟読する。
		事後学習	ビデオ視聴と授業分析についての考察をノートにまとめる。

第 10 回	音楽科学習指導案の作成① 学習指導案の作成方法を学ぶ。	事前学習	学習指導案について教科書(pp.227-241)を読む。
		事後学習	小学校音楽プログラム案(プリント)を熟読する。
第 11 回	音楽科学習指導案の作成② グループで学習指導案を作成する。	事前学習	模擬授業のための教材を探し、指導案作成に向けて準備する。
		事後学習	グループで授業案を作成する。
第 12 回	模擬授業(グループ)① 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、その後全員でディスカッション。	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 13 回	模擬授業(グループ)②	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 14 回	模擬授業(グループ)③	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。
第 15 回	模擬授業(グループ)④ これまでのまとめ	事前学習	模擬授業に向けてグループで教材研究を行い、役割分担等を決めて、発表の準備を整える。
		事後学習	模擬授業の反省、指導案の修正を行い提出する。 「小学校音楽教育のあり方」についてのレポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	音楽科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2294
2. 授業担当教員	松本 岳志		
4. 授業形態	講義、演習 (全員、個人、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (初等・小) 及びⅡを終えていること。		
7. 講義概要	本講義では、「音楽 (初等・小) 及びⅡ」で学んだ基本的な内容を踏まえて、小学校音楽科の授業ができるようになることを目指す。実際には、小学校の授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について話し合ったり、音楽科で扱う教材研究を行ったりし、教育方法や教材開発について考える。その上で、音楽科学習指導案を作成して、グループによる模擬授業を行い、全員でディスカッションする。		
8. 学習目標	1. 小学校音楽科の目標と内容を理解し、説明することができる。 2. 授業記録を見て、子どもの表現や教師の指導の工夫について、根拠を示して意見を述べるすることができる。 3. 小学校音楽科学習指導案を作成して模擬授業ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	1. 学習指導案を作成し提出する。これを元にして、模擬授業も行う。 2. 音楽教育に関する試験を課す。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ・初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用』音楽之友社。 【参考書】 ・河口道朗 編著『音楽教育入門 ― 基本理念の構築』音楽之友社。 ・東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 ・東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 【教材】 ※各自で必ず購入しておくこと。 ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック (先端が 3.5mm ジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要)		
11. 成績評価の方法	学習指導案 20%、模擬授業 40%、期末試験 40%		
12. 受講生へのメッセージ	音楽科教育は、ただ単に子ども達と楽しく歌を歌っていれば済まされるような教科ではありません。その役割や意義、子どもの発達など教育の専門家として必要な知識を得よう努めて下さい。また、豊かな音楽経験を子ども達と共有しながら指導していくためには、音楽的知識や高い演奏技術も要求されます。これらを身に付けることは容易ではありませんが、日々地道な教材研究と練習を重ねていってください。そして、自らが音楽を愛好する心情を持って授業に臨むようにしましょう。		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	音楽科の目標 各学年の目標 歌唱教材①	事前学習	教科書 pp.10～13 まで読んでおくこと。
		事後学習	音楽科の目標について理解する。1 年生歌唱共通教材を復習する。
第 2 回	「歌唱」の意義と留意点 発声とその指導 歌唱教材②	事前学習	教科書 pp.14～17、pp.50～55 まで読んでおくこと。
		事後学習	歌唱指導の技術および留意点についてまとめる。2 年生歌唱共通教材を復習する。
第 3 回	児童期の音楽的発達について 歌唱教材③	事前学習	教科書 pp.46～49 まで読んでおくこと。
		事後学習	音楽的発達について理解すること。3 年生歌唱共通教材を復習する。
第 4 回	共通事項について 移動ドと固定ドについて 歌唱教材④	事前学習	教科書 pp.22～25 まで読んでおくこと。
		事後学習	共通事項について理解すること。4 年生歌唱共通教材を復習する。
第 5 回	「器楽」の意義と留意点 歌唱教材⑤	事前学習	教科書 pp.60～81 まで読んでおくこと。
		事後学習	器楽指導の技術および留意点についてまとめる。5 年生歌唱共通教材を復習する。
第 6 回	リコーダー① 歌唱教材⑥	事前学習	リコーダーの運指を確認しておく。
		事後学習	リコーダーの奏法について復習する。6 年生歌唱共通教材を復習する。
第 7 回	リコーダー② 「鑑賞」の意義と留意点	事前学習	教科書 pp.92～96 を読んでおく。
		事後学習	鑑賞教育の知識と留意点について理解する。リコーダーの指導法についてまとめる。
第 8 回	鑑賞教材① 音楽作り①	事前学習	教科書 pp.82～91 まで読んでおくこと。
		事後学習	鑑賞曲の教材研究をする。音楽作りの意義と留意点についてまとめる。
第 9 回	鑑賞教材② 音楽作り②	事前学習	第 8 回の内容を復習しておく。
		事後学習	鑑賞曲の教材研究をする。
第 10 回	学習指導計画 (年間指導計画・学習指導案) について	事前学習	教科書 pp.26～29 まで読んでおくこと。
		事後学習	学習指導計画について理解する。
第 11 回	学習指導案について 学習指導案作成①	事前学習	教科書 pp.30～35 まで読んでおくこと。
		事後学習	学習指導案について理解すること。学習指導案の作成。
第 12 回	音楽科の評価について 学習指導案作成②	事前学習	教科書 pp.36～45 まで読んでおくこと。
		事後学習	音楽科の評価について理解すること。学習指導案を完成させること。
第 13 回	模擬授業①	事前学習	模擬授業の準備、教材研究など。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次に活かせるようにする。
第 14 回	模擬授業②	事前学習	模擬授業の準備、教材研究など。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次に活かせるようにする。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容を復習しておく。
		事後学習	期末試験に向けた学習を行うこと。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	会計学 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2131						
2. 授業担当教員	平 仁									
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	近年の会計制度の状況を踏まえ、会計学の基礎的な理論を把握するのがこの授業の目的である。財務会計の目的は、会計の財務状況を投資家などの利害関係者に知らせるものであり、そのために、会計の基礎概念、財務諸表の作成ルール、現金、手形、商品取引、資金調達、収益と費用、決算手続等についても解説を加える。財務諸表の利用者 (債権者や株主などの利害関係者)、経営者の会計に関する行動などについても解説を加える。将来、就職した先や自分で立ち上げる事業所等の経営に役立てるようにする。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人商店や会社について、その財政状態や経営成績を表す財務諸表の読み方を知り、説明できる。 2. 収益と費用と測定して利益を計上するという過程の基礎にある会計理論を学び、説明できる。 3. 資産項目、負債項目、資本項目の課題と評価について理解し、説明できる。 4. 会計情報を活用した経営改善について理解し、説明できる。 									
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメントを課すことはないが、事後学習で指示する巻末の確認問題は解いておくこと。年末年始休暇中の課題レポートは授業内で指示する。									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 榎岡源一郎編『図解でナットク！会計入門』中央経済社 2015 年。</p> <p>【参考書】 林總著『餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか？』 PHP 文庫、林總著・武井宏文画『マンガ餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか？』ダイヤモンド社、山田真哉著『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』光文社新書、山田真哉原案・マエダマキコ作画『コミック版さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』KADOKAWA、山田真哉著『女子大生会計士の事件簿 1~5』角川文庫、など様々な会計本がビジネス書の形式で出版されている。会計をリアルなものとして捉えられるようになるためにも、興味を持ってそうなものを実際に書店等で手に取ってもらいたい。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1、授業態度 (質問、出席状況など)</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>2、レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>3、期末試験 (論述式・持込有)</td> <td>60%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、4 分の 3 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>				1、授業態度 (質問、出席状況など)	10%	2、レポート	30%	3、期末試験 (論述式・持込有)	60%
1、授業態度 (質問、出席状況など)	10%									
2、レポート	30%									
3、期末試験 (論述式・持込有)	60%									
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計情報は、会社経営の成績表とも言えます。会計情報を読みこなすことは、会社の強みと弱みを把握し、今後の経営改善に役立てる指標を明らかにして、事業経営を成功に導くための道しるべを作ることなのです。 2. 本学における双方向対話型授業の効果を最大限生かすためには、積極的に質問することが大切ですが、事前に予習を行わなければ双方向対話型授業が成立しませんので、予習をしていることを前提に授業を行います。予習してもわからないこともあるかと思いますが、分からないのは自分だけ、と思いつまずに、積極的に質問し、復習することにより、理解を深めて下さい。 									
13. オフィスアワー	別途通知する									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	参考文献等を読み、会計についてイメージを持ってこくること							
		事後学習	これから講義を受けるにあたり、会計について問題意識を高める。							
第 2 回	会計はどこで必要とされるの？	事前学習	テキスト第一部Ⅰを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 3 回	会社の健康診断書と成績表を知ろう！	事前学習	テキスト第一部Ⅱを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 4 回	100 円ハンバーガーは儲かるの？	事前学習	テキスト第一部Ⅲを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 5 回	値引きセールをしてもお店は儲かるのか？ (課題レポートのテーマを発表 (予定))	事前学習	テキスト第一部Ⅳを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 6 回	決算書に間違いはありませんか？	事前学習	テキスト第一部Ⅴを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 7 回	会計と仕事 ～公認会計士・税理士・国税専門官～	事前学習	テキスト第一部Ⅵを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 8 回	税金の計算には会計が必要？	事前学習	テキスト第一部Ⅶを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 9 回	会計のグローバル化を知ろう！	事前学習	テキスト第一部Ⅷを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 10 回	会計の目的を理解しよう！	事前学習	テキスト第二部Ⅰを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 11 回	会計のルールを知ろう！ (課題レポートの提出〆切 (予定))	事前学習	テキスト第二部Ⅱを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 12 回	会社の健康診断表を理解しよう！ - 貸借対照表	事前学習	テキスト第二部Ⅲを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 13 回	会社の成績表を理解しよう！ - 損益計算書	事前学習	テキスト第二部Ⅳを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 14 回	会計情報を分析してみよう！ (第 15 回に使う資料を配布)	事前学習	テキスト第二部Ⅴを読んでこくること							
		事後学習	テキストの確認問題を解く							
第 15 回	社会福祉法人に関する会計のしくみを知る	事前学習	第 14 回に配布した資料を読んでこくる。							
		事後学習	一般企業の会計と非営利の社会福祉法人の会計の違いを理解し、施設長等になった際に備える。							
期末試験 (論述式・持込可)										

1. 科目名 (単位数)	介護家政・環境論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3105
2. 授業担当教員	杉山 憲江			
4. 授業形態	講義、聞き取り調査の発表、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>介護の現場においては、介護技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。</p> <p>そこで本授業では生活支援の意義や目的の理解に重点を置き、家庭生活の意義・生活経営・家庭管理・家庭経済について知識を深めていく。</p> <p>さらに、介護の専門家の基礎として、食生活における課題として生活と食事・身体機能と栄養・食品の成分管理・安全性、衣生活における課題として被服の役割と機能・素材と品質表示・洗濯と管理・高齢者や障害者に適した被服、住生活では住居の役割と機能・生活空間・住居の安全・快適な室内環境などについて基本事項を習得し、要介護者とその家族にとって具体的にどんな支援が必要なのか考察しながら、具体的に身に付けていく。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 要介護者とその家族の家庭生活、要介護者と地域・社会のあり方、消費生活についての知識を獲得する。</p> <p>2. 高齢者・要介護者の栄養摂取など食生活における支援を理解し説明できる。</p> <p>3. 衣生活における被服の役割・管理方法、要介護者に必要とされる被服の機能・被服環境についての知識を獲得し、説明できる。</p> <p>4. 要介護者の住生活について必要とされる住環境の要件について習得できる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1 「高齢者の人生や生活について (衣生活・食生活・住まいの視点から) 昔の生活・今の生活」 高齢者理解を目的として、身近な高齢者の聞き取りを行いまとめ、レポートを作成し、考察し、発表する。</p> <p>課題2 各項 (家庭生活・食生活・衣生活・住生活) の学習後、知識確認を行うので、各自復習をしておく。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』第 3 版 中央法規、2014 年。</p> <p>【参考書】 佐々井啓編著『家政学ノート ー社会福祉専門職ライブラリー』誠信書房。 東京商工会議所編『福祉授環境コーディネーター検定試験 3 級公式テキスト』2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加	30%		
	聞き取りレポート・発表内容	20%		
	期末試験(知識確認まとめテスト)	50%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>要介護者とその家族の生活を支援する上で必要とされる専門的知識や技術の獲得をめざす授業をともに創り上げたいと願っています。介護の専門家として人間性や自己研鑽に励み、積極的な態度での授業参加を期待します。さらに疑問点は随時質問し、出席面での自己管理、授業課題に対して積極的に取り組んでください。聞き取り学習ではテーマを明確にし、聞き取ったことから時代背景などを調べ考察して自分の言葉で原稿を作成し、発表することを期待します。</p>			
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	シラバスの説明 (学習の目的・内容・評価など) 高齢者の生活理解と学びに対する思いを話し合う。 課題提示(課題目的・聞き取り方・テーマの決め方・発表法などの説明)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。	
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見直しを持つ。	
第 2 回	生活支援とは何かディスカッションを通してアプローチの仕方を考えていく。	事前学習	教科書第 1 章第 1 節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント(生活の構成要素)について知識理解を図っておく。	
第 3 回	生活支援の基本的な考え方について ICF の視点などから ディスカッションを通して学びあう。	事前学習	教科書第 1 章第 2 節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント(プロとしての生活支援)を掴み、知識理解を図っておく。	
第 4 回	生活支援と介護予防、(高齢者・障害者の生活)	事前学習	教科書第 1 章第 3 節を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	授業を通してポイント(支援における予防)を掴み、知識理解を図っておく。	
第 5 回	家庭生活の理解 (高齢者・要介護者のくらしの実際 1) 高齢者の家庭生活・家庭経済の理解と必要な知識を学ぶ。 「確認テスト 1」生活支援	事前学習	教科書第 3 章第 1 節 pp.182 ~202 を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	確認テスト「生活支援」を見直し間違っていたところ再確認し、知識理解を図っておく。	
第 6 回	家庭生活の営み (高齢者・要介護者のくらしの実際 2) 食生活の基本知識の獲得 1 栄養素と効果と高齢との関わりについての理解	事前学習	教科書第 3 章第 2 節 pp.203 ~208 を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	家庭生活にかかわる基本知識を「生活支援技術・家政」の授業実習とあわせ、理解の確認を図る。	
第 7 回	食生活の基本知識 2 食品の保存・規格表示・安全性 家庭生活と食事 「確認テスト 2」食生活	事前学習	教科書第 3 章第 2 節 pp.209 ~232 を読んで 授業に臨むこと。	
		事後学習	確認テスト「食生活」を見直し間違っていたところを再確認し、知識理解を図っておく。	

第 8 回	衣生活の基本知識 被服の役割と機能 被服の素材、繊維製品の取り扱い、表示記号の理解、 高齢者・障害者の被服の特徴について学ぶ。 「確認テスト 3」衣生活	事前学習	教科書第 3 章 pp.233～272 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	高齢者の被服にかかわる基本知識の理解の確認とポイント(繊維製品の取り扱いや表示記号)の知識理解を図っておく。
第 9 回	家事支援における介護技術 1 家事支援の意義と目的についての理解を深める。	事前学習	教科書第 4 章第 1 節 pp.274～282 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通して家事支援のあり方を考え、まとめることができる。
第 10 回	家事支援における介護技術 2 家事の介護 一般的な家事と介護職が行う家事の違いを考え、家事支援のあり方を学ぶ。	事前学習	教科書第 4 章第 2 節 pp.283～333 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	学習したことを踏まえ、介護職としての家事支援をまとめておく。
第 11 回	家事支援における介護技術 3 調理・洗濯・掃除・ゴミ捨て・買い物における支援技術について学ぶ。 「確認テスト 4」家事支援	事前学習	前時の授業内容を基に家事支援における具体的な介護技術をワークシートにまとめ提出できる準備をする。
		事後学習	家事支援技術を具体的に理解し、自分の日常生活において習熟を図る。
第 12 回	居住環境の整備 1 (住まいの整備のための基本技術) 段差・スペースなどの確保について	事前学習	教科書第 2 章第 1 節居住環境の整備の意義と目的 pp.90～118 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント(ユニバーサルデザインの原則)を掴み知識理解を図る。
第 13 回	居住環境の整備 2 (住居の役割と機能) 生活に即した安全快適な住まいについて	事前学習	教科書第 2 章第 2 節安心で快適な生活の場づくり pp.119～168 を読んで 授業に臨むこと。
		事後学習	授業を通してポイント(住居の役割)を掴み知識理解を図る。
第 14 回	居住環境の整備 3 (福祉住環境について) 「確認テスト 5」住生活	事前学習	参考資料・教科書第 2 章居住環境の整備 を読み、授業に臨むこと。
		事後学習	福祉住環境について基本知識の理解の確認と確認テストの復習をする。
第 15 回	高齢者・要介護者のくらしの実際 3 (衣・食・住生活環境の現状と課題)聞き取り・調べから発表	事前学習	課題 1 についてそれぞれの計画に基づいて聞き取りを実施しておく。
		事後学習	誤字脱字などがなく推敲して提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	介護過程 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2121
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>介護過程の意義と目的を理解し、ICF の概念をふまえて生活支援活動における介護過程の展開が行えるように進めていく。さらに人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた展開が行えるようにその重要性を学ぶ。また、廃用症候群とリハビリテーションの考え方についてもふれて学習していく。</p> <p>介護過程において最も重要であるアセスメントについても概略的にふれる。その際に守らなくてはならない対象者の権利擁護についてもふれていく。介護過程の展開においては、他職種との連携が重要であることもふれながら進めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程の意義と目的を理解し、説明することができる。 2. ICF の概念を理解し、介護過程の展開に活かすことができる。 3. 生活支援技術及びコミュニケーション技術における介護過程を理解し、説明することができる。 4. 人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた介護過程を理解し、説明することができる。 5. 介護過程におけるチームアプローチの重要性を理解し、説明することができる。 6. 介護過程におけるアセスメントの重要性を理解し、説明することができる。 7. 廃用症候群について理解し、説明することができる。 8. 介護過程におけるリハビリテーションの重要性について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の中でまとめて発表またはレポート提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座『介護過程』中央法規。 *介護過程Ⅱ・Ⅲでも使用するので必ず購入すること。</p> <p>【参考書】 黒澤貞夫『ICF を取り入れた介護過程の展開』建帛社。 *適宜資料を提示しながら進めていく。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への出席・積極性 40%</p> <p>レポート提出 30% 課題提出 30%</p> <p>*欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	領域「介護」、「こころとからだのしくみ」、「人間と社会」で学習してきたこと、学習していることを用いながら、介護実践を根拠に基づいて行えるよう、本科目での内容を十分理解して欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>テーマ「介護過程の意義と目的」</p> <p>介護過程とは何か、介護過程の必要性を明確にし、具体的に介護過程が介護福祉士によって、展開され、活用されていくかを学習する。介護過程とはなにかグループで話し合い定義してもらい発表する。</p>	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。介護過程 I の振り返りを行なう。
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を説明できるようにする
第 2 回	<p>テーマ「ICF の概念とは」</p> <p>ICF とは何か、自らの生活に視点をおいて、ICF との関連を具体的にしながら、ICF の概念を学習する。ICF の概念図に各人の生活の具体的な内容を当てはめて書いて整理してもらい、理解の内容を確認する。</p>	事前学習	ICF の概念を説明できる。
		事後学習	授業の内容を基に ICF の概念を具体的に説明できるように整理する
第 3 回	<p>テーマ「ICF の概念と介護過程の展開①」</p> <p>介護実践を行う上で、介護過程の展開をどのように ICF の概念を用いて展開していくか具体的に学習する。</p>	事前学習	ICF と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上での ICF の整理を行う
第 4 回	<p>テーマ「ICF の概念と介護過程の展開②」</p> <p>具体的な事例を用いて、ICF の概念を用いて介護過程の展開を行い学習する。介護が必要な人に対して、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子の視点で整理してもらう。</p>	事前学習	介護過程を展開する上での ICF の具体的な活用を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上での ICF の具体的な活用を整理する
第 5 回	<p>テーマ「生活支援技術と介護過程」</p> <p>排泄・入浴・食事・着脱等の生活行為と移動・移乗・起居動作の基本動作との関連を含めて、生活支援技術における介護過程の考え方を学習する。</p>	事前学習	生活支援技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に生活支援技術の実践と介護過程の関連を整理する
第 6 回	<p>テーマ「コミュニケーション技術と介護過程」</p> <p>生活支援技術の提供において、介護過程の展開時のコミュニケーションは基本となることである。そのことから、介護過程の展開におけるコミュニケーション技術の活用を具体的に学習する。</p>	事前学習	コミュニケーション技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるコミュニケーション技術の重要性を整理する
第 7 回	<p>テーマ「人間の尊厳、自立支援と介護過程」</p> <p>介護過程を展開する上で、人間の尊厳の理解、自立支援の</p>	事前学習	人間の尊厳、自立支援を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における人間の

	理解を行い重要な視点である。介護過程を展開していく上でどのように取り入れていくか、考え方について具体的に学習する。		尊厳、自立支援を整理する
第 8 回	テーマ「心身機能・構造と介護過程」 生活支援活動時には、こころとからだのしくみの理解が重要であることを認識して、介護過程の展開が行えるよう学習する。	事前学習	心身機能・構造と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における心身機能・構造を整理する
第 9 回	テーマ「廃用症候群について理解」 廃用症候群を理解し、廃用症候群の悪循環とその原因とメカニズムを学び、悪循環から良循環に変えていく支援について学ぶ。その中で生活における介護の視点を理解していく。	事前学習	廃用症候群について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における廃用症候群を整理する
第 10 回	テーマ「介護過程とリハビリテーション」 リハビリテーションに繋がる生活における介護福祉士が担う役割を理解し、介護過程におけるリハビリテーションの重要性を学習する。	事前学習	介護過程とリハビリテーションを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるリハビリテーションを整理する
第 11 回	テーマ「介護過程とアセスメント①」 介護過程に必要なアセスメントは何かを理解し、アセスメントの視点、必要な情報とは何か、情報収集の方法、収集した情報の整理の方法を学習する。	事前学習	アセスメントとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるアセスメントについて整理する
第 12 回	テーマ「介護過程とアセスメント②」 情報の収集と整理された中で、対象者が自分らしく生活するための課題・ニーズは何か、分析することが必要であり、その方法を概略的に学習する。	事前学習	課題・ニーズとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における課題・ニーズについて整理する
第 13 回	テーマ「介護過程における記録」 介護過程における記録は、展開を行う上でのアセスメント、課題分析、計画書であり、実施後には実施経過記録、評価等が全て重要であることを学習する。	事前学習	介護過程における記録について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における記録について整理する
第 14 回	テーマ「介護過程の展開とチームアプローチ」 介護過程を行うにあたり、アセスメント及びカンファレンス等において、他職種との情報の共有や連携が必要であり、実施においても同様であることを学習する。	事前学習	介護過程の展開とチームアプローチについて考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるチームアプローチについて整理する
第 15 回	テーマ「介護過程と権利擁護、法令順守」 介護過程を行うにあたり、個人情報収集することから、対象者の人権を守り、適正な方法で実施していくことを学習する。	事前学習	介護過程と権利擁護、法令順守について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における権利擁護・法令遵守について整理する

1. 科目名 (単位数)	介護過程Ⅲ (4 単位)	3. 科目番号	SNMP3123
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習・実技	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目においては、介護実習で行ってきた利用者に対してのアセスメントをもとに計画書を作成し、カンファレンスにおいて検討を行い、よりよい計画書の作成を行えるようにする。さらに、障害に応じた介護過程の展開が行うことができるように学習する。また、終末期や居宅における介護過程の展開が行えるように学習する。</p> <p>実技・演習を通して、障害に応じた介護過程の視点を学んでいく。また、介護実習Ⅱで行ってきた利用者について、再度、介護過程の展開(課題分析、計画の作成、カンファレンス、実施)を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.障害に応じた介護過程の展開について理解する。 2.実習の事例を通して、計画書の作成が行える。 3.計画書について、カンファレンスを行うことができる。 4.終末期における介護過程を理解できる。 5.居宅における介護過程が理解できる。 6.介護過程の展開が行える。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	各回とも授業の中でまとめて発表・レポート提出をする。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座『介護過程』中央法規 *介護過程Ⅰで既に購入している学生は引き続き使用する。 「障害の理解Ⅰ」「身体機能と構造Ⅰ」で使用しているテキストを使用する。</p> <p>【参考書】『ICFを取り入れた介護過程の展開』建帛社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への出席・積極性 40%</p> <p>レポート・課題の提出 60%</p> <p>*欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>介護実習Ⅲに向けて、実践力が身につけられるように一回一回の授業を大切に授業に臨んで欲しい。また、授業ごとに展開が進んでいくために、一回の授業で学んだことを確実に身につけて欲しい。</p> <p>介護総合演習Ⅲの授業で行なわれる内容(すなわち実践)につなげていけるように学んで欲しい。</p> <p>グループワークの実践がスムーズに行えるようにして欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「虚弱高齢者の介護過程」① 虚弱高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。虚弱高齢者の特性を理解する。
		事後学習	虚弱高齢者に対する介護過程を整理する。
第 2 回	テーマ「虚弱高齢者の介護過程」② 虚弱高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	虚弱高齢者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 3 回	テーマ「寝たきり高齢者の介護過程」① 寝たきり高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	寝たきり高齢者の特性を理解する。
		事後学習	寝たきり高齢者に対する介護過程を整理する。
第 4 回	テーマ「寝たきり高齢者の介護過程」② 寝たきり高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	寝たきり高齢者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 5 回	テーマ「認知症高齢者の介護過程」① 認知症高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	認知症高齢者の特性を理解する。
		事後学習	認知症高齢者に対する介護過程を整理する。
第 6 回	テーマ「認知症高齢者の介護過程」② 認知症高齢者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	認知症高齢者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 7 回	テーマ「視覚・聴覚障害者の介護過程」① 視覚・聴覚障害者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	視覚・聴覚障害者の特性を理解する。
		事後学習	視覚・聴覚障害者に対する介護過程を整理する。

	程の展開の視点についてグループで検討する。		理する。
第 8 回	テーマ「視覚・聴覚障害者の介護過程」② 視覚・聴覚障害者の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	視覚・聴覚障害者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 9 回	テーマ「身体障害者(児)の介護過程」① 身体障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	身体障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	身体障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第 10 回	テーマ「身体障害者(児)の介護過程」② 身体障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	身体障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 11 回	テーマ「肢体不自由者(児)の介護過程」① 肢体不自由者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	肢体不自由者(児)の特性を理解する。
		事後学習	肢体不自由者(児)に対する介護過程を整理する。
第 12 回	テーマ「肢体不自由者(児)の介護過程」② 肢体不自由者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	肢体不自由者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 13 回	テーマ「知的障害者(児)の介護過程」① 知的障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	知的障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	知的障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第 14 回	テーマ「知的障害者(児)の介護過程」② 知的障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	知的障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 15 回	テーマ「精神障害者(児)の介護過程」① 精神障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	精神障害者(児)の特性を理解する。
		事後学習	精神障害者(児)に対する介護過程を整理する。
第 16 回	テーマ「精神障害者(児)の介護過程」② 精神障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる。	事前学習	精神障害者(児)の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 17 回	テーマ「内部障害者・重複障害者の介護過程」① 内部障害者、重複障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点を演習・実技を通して学習する。	事前学習	内部障害者・重複障害者の特性を理解する。
		事後学習	内部障害者・重複障害者に対する介護過程を整理する。
第 18 回	テーマ「内部障害者・重複障害者の介護過程」② 内部障害者、重複障害者(児)の特性を理解し、生活支援における介護過程の展開の視点を演習・実技を通して学習する。学習したことをシートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	内部障害者・重複障害者の生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 19 回	テーマ「終末期の介護過程」 終末期における本人・家族の心理を含め、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	終末期における本人・家族の心理を理解する。
		事後学習	終末期における本人・家族に対する介護過程を整理する。
第 20 回	テーマ「終末期の介護過程」 終末期における本人・家族の心理を含め、生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	終末期における本人・家族に対する生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 21 回	テーマ「居宅における介護過程」 居宅という環境面、家族等の違いの中での生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討する。	事前学習	居宅における介護支援を理解する。
		事後学習	居宅における介護支援の介護過程を考える。
第 22 回	テーマ「居宅における介護過程」 居宅という環境面、家族等の違いの中での生活支援における介護過程の展開の視点についてグループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。それに対して、質疑応答や助言を行い完成させる	事前学習	居宅における生活支援を考える。
		事後学習	活動展開計画を作成して提出する。
第 23 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」① 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズ	事前学習	介護実習Ⅱで行ったアセスメントの整理の見直しを行う。

	の抽出・整理の見直しをグループで行う。	事後学習	授業内で検討されたものを整理する。
第 24 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」② 介護実習Ⅱで行ったアセスメント、課題分析、課題・ニーズの抽出・整理の見直しを行う。グループで検討したことを、シートにまとめ発表を行う。	事前学習	介護実習Ⅱで行った課題分析、課題・ニーズの抽出・整理の見直しを行う。
		事後学習	授業内で検討されたものを整理する。
第 25 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」③ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を立案する。	事前学習	介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を考える。
		事後学習	授業内で検討されたものを修正する。
第 26 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」④ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画を立案する。立案したものを発表する。	事前学習	介護計画の発表の準備。
		事後学習	発表されたものを修正する。
第 27 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑤ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画についてカンファレンスを行う。	事前学習	カンファレンスのレジメ準備。
		事後学習	授業内でカンファレンスを行なったものを整理する。
第 28 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑥ 介護実習Ⅱで行った対象者について介護計画についてカンファレンスを行う。カンファレンスのまとめを行なう。	事前学習	介護計画の修正。
		事後学習	カンファレンスを行なったまとめ提出。
第 29 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑦ 介護計画を実践してもらい、介護過程の展開における実施時の記録と評価について学ぶ。	事前学習	実践記録と評価を考える。
		事後学習	実践記録を書いてみる。
第 30 回	テーマ「介護実習Ⅱを通して介護過程の展開を行う」⑧ 介護過程の展開について全過程について振り返りを行う。介護過程の展開についてレポートにまとめて提出する	事前学習	介護過程の全過程を考える。
		事後学習	介護過程の展開を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2164
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義、演習(カンファレンス グループワーク ロールプレイング)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「介護実習Ⅰ」を終えていること		
7. 講義概要	カンファレンスやグループ活動を通し、実習Ⅰの振り返りを行い、学生個々の学びや経験を共有化する。身近な高齢者の事例を通し、地域で生活する高齢者の生活や楽しみ、生きがい、地域とのかかわり、家族関係、その人らしさについて学び、さらにカンファレンスを行うことで、幅広い視点から理解を深めていく。その上で、それらを支える介護とは何かについて考えていく。カンファレンスでは、自分の役割を認識し、意見を発言し、有意義なカンファレンスが実践できるようにする。		
8. 学習目標	1. 実習Ⅰの学びと経験を共有する。 2. 高齢者の生活、楽しみ、生きがい、地域との関わり、家族関係、その人らしさを理解することができる。 3. カンファレンスの事前準備ができる。 4. カンファレンスでテーマに沿った意見が言える。 5. 「その人らしさ」を支える介護について、自分の考えをまとめられる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート課題 1. 実習施設の機能、役割、課題について 2. 実習施設での利用者の生活について 3. その人らしい生活を支える介護福祉士の役割について		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『介護総合演習・介護実習』中央法規出版 「介護実習の手引き」		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 40% 提出物・レポート 60%		
12. 受講生への メッセージ	効果的な実習を行うために重要な科目である。授業には真剣にとりくむこと。授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止。わからないことはそのままにせず、必ず質問をして、理解してすること。授業の理解度、参加態度、出席状況によっては、実習Ⅱの配属を見合わせることもある。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	実習Ⅰの振り返り① 実習Ⅰで感じたこと・考えたこと・学んだことを各自書き出し、グループでまとめ、発表する	事前学習	実習Ⅰの課題を整理し、提出
		事後学習	発表を聞いて感じたことを整理する
第 2 回	実習Ⅰの振り返り② グループで実習施設の機能、役割、課題、についてまとめる(グループホーム、通所介護、通所リハビリ、訪問介護、ケアハウス、老健、特養)	事前学習	実習施設の法的根拠を確認する
		事後学習	次回発表の準備
第 3 回	実習施設の機能、役割、課題、について発表①	事前学習	発表の準備、役割分担
		事後学習	追加された情報を整理する
第 4 回	実習施設の機能、役割、課題、について発表②	事前学習	発表の準備
		事後学習	レポート課題 1
第 5 回	実習Ⅰの振り返り③ カンファレンス 「実習先で気になったこと」 発表	事前学習	実習の手引き pp.32～33 及びテキスト pp.214～215 を読み、カンファレンスの概要を理解しておく
		事後学習	発表を聞いて感じ考え・学んだことを整理する
第 6 回	実習Ⅰの振り返り④ 利用者とのコミュニケーションについて 自分のプロセスレコードを振り返り、考察する グループで検討	事前学習	実習での自分のコミュニケーションについて振り返っておく
		事後学習	プロセスレコードを整理する
第 7 回	実習Ⅰの振り返り⑤ 利用者とのコミュニケーションについて 会話記録をもとに、グループでコミュニケーション場面の事例を作成する	事前学習	コミュニケーションの技法を復習しておく
		事後学習	発表の準備
第 8 回	利用者とのコミュニケーションについて ロールプレイング 発表	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表を聞いて感じ・考え・学んだことを整理する
第 9 回	実習Ⅰの振り返り⑥ 施設での利用者の生活の理解 在宅生活者の生活も踏まえ、施設の課題を明確にする	事前学習	食事・排泄・入浴の意義を復習しておく
		事後学習	発表の準備
第 10 回	施設での利用者の生活について 発表①	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容の整理
第 11 回	施設での利用者の生活について 発表②	事前学習	発表の準備
		事後学習	レポート課題 2
第 12 回	他職種の役割と協働	事前学習	実習先の他職種がどのような役割を担い協働していたか整理しておく
		事後学習	発表の準備
第 13 回	他職種の役割と協働 (発表)	事前学習	発表の準備
		事後学習	発表内容の整理
第 14 回	介護福祉士の役割	事前学習	実習先の介護職員がどのような役割を担っていたか整理しておく
		事後学習	授業内容の整理
第 15 回	カンファレンス テーマ：“その人らしい生活” とは何か	事前学習	カンファレンスでの自分の役割を確認する
		事後学習	レポート課題 3

1. 科目名 (単位数)	介護総合演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3166
2. 授業担当教員	山下 喜代美			
4. 授業形態	講義 演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「介護実習Ⅱ」を終えていること			
7. 講義概要	介護実習Ⅱでの学びと経験をもとに、カンファレンスを行い、利用者の思いやニーズ、介護の役割についての理解を深める。また、介護技術については、ロールプレイングを行い、利用者にあった手順を確認し、原理原則と個別性について考察する。介護過程の展開については、介護実習Ⅲの記録用紙に沿って、記入方法を具体的に学ぶ。実習中の登校日は、実習経過、実習内容についての確認と指導を行う。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習Ⅲの目的（介護家庭の展開能力を育成する）を理解し、説明することができる。 2. 介護実習Ⅲの実習目標、実習内容、実習計画が作成できる。 3. 利用者の思いやニーズを理解することができる。 4. 介護の役割を理解し、説明することができる。 5. 介護技術の原理原則と個別性について理解し、説明することができる。 6. 介護過程の展開についての記録用紙の書き方を理解し身につける。 7. カンファレンスでは、テーマについて、根拠ある意見が言える。 8. 事例レポートの書き方を理解し身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事、排泄、入浴、移動 の意義、原則、介護の原則についてまとめる 2. 実習施設について調べ、「実習施設の概要」を記入する 3. 介護過程の展開①②③では、適宜提出を求める 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】介護実習の手引き 【参考書】『介護支援技術Ⅱ』中央法規出版。 『介護過程』メヂカルフレンド社。			
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50%、提出物 50%、			
12. 受講生へのメッセージ	効果的な実習を行うために重要な科目です。授業には真剣に取り組んでください。 授業中の私語、スマートフォン等の使用は禁止します。 わからないことはそのままにせず、必ず質問をして、理解してください。 授業の理解度、参加態度、出席状況によっては、実習Ⅲの配属を見合わせる場合があります。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 授業概要説明 介護実習Ⅲの概要 実習Ⅱ 他職種の理解についてのまとめ	事前学習	実習の手引き pp.10~11 を読み、 実習の概要をつかんでおく	
		事後学習	アサイメント1	
第 2 回	カンファレンスの資料準備 カンファレンスの進行計画書の作成と必要な資料の準備	事前学習	テーマの選定理由を考えておく	
		事後学習	カンファレンスの役割を確認する	
第 3 回	カンファレンス① テーマ：施設での生活における利用者の思いと介護の役割について アサイメント1	事前学習	テーマについての自分の考えを整理しておく	
		事後学習	カンファレンスで感じ・考え・学んだことを整理する	
第 4 回	介護技術（食事、排泄） 介護実習Ⅱでの事例をもとに、状況設定をした上で、介護技術の手順をまとめる。原則がどう具体化されているのかを確認する	事前学習	アサイメント1提出	
		事後学習	次回発表の準備	
第 5 回	ロールプレイで発表 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備	
		事後学習	指摘箇所の整理	
第 6 回	ロールプレイで発表 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備	
		事後学習	指摘箇所の整理	
第 7 回	介護技術（入浴、移動・移乗） 介護実習Ⅱでの事例をもとに状況設定をして上で、介護技術の手順をまとめる。原則がどう具体化されているのかを確認する	事前学習	入浴、移動・移乗の意義を確認しておく	
		事後学習	発表の準備	
第 8 回	ロールプレイで発表 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備	
		事後学習	指摘箇所の整理	
第 9 回	ロールプレイで発表 介護技術の原則と個別性について考察する	事前学習	発表の準備	
		事後学習	介護技術の原則と個別性についてまとめる	
第 10 回	実習目標、実習内容、実習計画の作成 介護実習Ⅲの目的、目標、を詳しく解説し、各自の実習目標、実習内容、実習計画を作成する アサイメント2	事前学習	実習の手引き pp.10~11 を読み、 実習内容を確認しておく	
		事後学習	アサイメント2	
第 11 回	介護過程の展開① 実習で使用する記録用紙（計画書）の書き方を学ぶ 計画書の立案と作成の説明、目標、計画内容、留意点、観察評価項目	事前学習	介護過程の展開を復習しておく	
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる	
第 12 回	介護過程の展開② 実習で使用する記録用紙（経過記録）の書き方を学ぶ。POS と SOAP について	事前学習	前回のプリントを復習しておく	
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる	
第 13 回	介護過程の展開③ 実習で使用する記録用紙に経過記録を記入する	事前学習	前回のプリントを復習しておく	
		事後学習	記録用紙の書き方のポイントをまとめる	
第 14 回	事例報告レポートについて 受け持ち利用者の事例報告レポートの書き方を学習する 実習直前オリエンテーション 実習の留意事項 諸注意の確認	事前学習	実習の手引き p.13 を読んでおく	
		事後学習	介護過程、記録用紙の書き方を復習する	
第 15 回	登校日 実習経過、実習内容の確認と指導	事前学習	アセスメントを整理しておく	
		事後学習	指摘箇所の整理と修正	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	介護福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3223
2. 授業担当教員	岡田 稔・荻野 基行・山下 喜代美	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	領域「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」について、その関連性をふまえ、それぞれの科目についての要点の整理を行うと共に、科目ごとの要点について整理をしながら理解を深めていく。特に本科目においては、介護福祉士として必要な「人間の尊厳と自立」「こころとからだのしくみ」「認知症の理解」「介護の基本」「コミュニケーション技術」「生活支援技術」について、本学期に行なわれる介護実習Ⅲの実践に必要な知識の復習を含め授業を進めていく。		
8. 学習目標	1.領域「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」の関連性について理解し、説明することができる。 2.介護福祉士として必要な知識・技術の要点が整理できる。 3.介護実習Ⅲに向けて必要な知識・技術について理解を深められ、実践に結び付けられる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に適宜発表の機会を設けて進めていく。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】既に終了した授業において、使用した教科書の中で必要なテキストを示しながら進めていく。 必要に応じて資料を作成して配布する。 【参考書】授業の中で紹介していく。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (質問、遅刻・欠席等の出席状況) 30% レポート及び課題の提出状況、 70%		
12. 受講生への メッセージ	領域ごとの関連性と介護福祉士として必要な知識・技術の要点が整理でき、実践に向けて知識が深まるように積極的に学んで欲しい。解らないことは、そのままにせず理解できるようにして欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「介護福祉士養成演習の意義と進め方について」 介護福祉士養成演習の必要性と国家試験の動向について 理解をする。また、養成演習の進め方について理解をする。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する
		事後学習	専門科目の習熟内容を振り返る
第 2 回	テーマ「(領域)人間と社会・人間の尊厳と自立」 本学開講科目、社会福祉 I で学習した内容を中心に要点を 整理しながら進めていく。	事前学習	人間の尊厳と自立について考えてくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて人間の尊厳と自立について整理する
第 3 回	テーマ「(領域)介護・介護の基本」① 本学開講科目、介護概論で学習した内容を中心に要点を整理 しながら進めていく。	事前学習	介護の基本：介護概論を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護の基本介護概論について整理する
第 4 回	テーマ「(領域)介護・介護の基本」② 本学開講科目、高齢者介護論で学習した内容を中心に要点を 整理しながら進めていく。	事前学習	介護の基本：高齢者介護論を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護の基本高齢者介護論について整理する
第 5 回	テーマ「(領域)介護・介護の基本」③ 本学開講科目、障害者介護論で学習した内容を中心に要点を 整理しながら進めていく。	事前学習	介護の基本：障害者介護論を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護の基本障害者介護論について整理する
第 6 回	テーマ「(領域)介護・介護の基本」④ 科目「介護の基本」のまとめを行ない、小テストを行ない 理解度について各自が確認し、次の学習につなげていく。	事前学習	3 回～5 回までを見直してくる
		事後学習	理解度について整理する
第 7 回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだの しくみ」① 本学開講科目、身体構造 I で学習した内容を中心に要点を 整理しながら進めていく。	事前学習	こころとからだのしくみ：身体構造 I を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて身体構造 I の内容を整理する
第 8 回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・こころとからだの しくみ」② 本学開講科目、身体構造 II で学習した内容を中心に要点を 整理しながら進めていく。	事前学習	こころとからだのしくみ：身体構造 II を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて身体構造 I・II の内容を整理する
第 9 回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ・認知症の理解」 本学開講科目、認知症の理解 I・II で学習した内容を中心に 要点を整理しながら進めていく。	事前学習	こころとからだのしくみ：認知症の理解 I・II を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて認知症の理解 I・II の内容を整理する
第 10 回	テーマ「(領域)こころとからだのしくみ」 科目「認知症の理解、こころとからだのしくみ」の小テスト を行い、理解度を各自が確認し、次の学習につなげていく。	事前学習	7 回～9 回までを見直してくる
		事後学習	理解度について整理する
第 11 回	テーマ「(領域)介護・コミュニケーション技術」 本学開講科目、コミュニケーション技術 I・II で学習した 内容を中心に要点を整理しながら進めていく。	事前学習	コミュニケーション技術 I・II を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえてコミュニケーション技術 I・II の内容を整理する
第 12 回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」① 本学開講科目、生活支援技術・基本 I で学習した内容を中 心に要点を整理しながら進めていく。	事前学習	生活支援技術・基本 I を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活支援技術 I の内容を整理する
第 13 回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」② 本学開講科目、生活支援技術・基本 II で学習した内容を中 心に要点を整理しながら進めていく。	事前学習	生活支援技術・基本 II を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活支援技術 II の内容を整理する
第 14 回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」③ 本学開講科目、生活支援技術形態 I・II で学習した内容を中 心に要点を整理しながら進めていく。	事前学習	生活支援技術形態 I・II を見直してくる
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活支援技術・形態 I・II の内容を整理する
第 15 回	テーマ「(領域)介護・生活支援技術」④ 科目「生活支援技術」の試験の実施を行い、理解度を各自 が確認し、次の学習につなげていく。	事前学習	11 回～14 回までを見直してくる
		事後学習	生活支援技術、小試験を行ない、理解度について整理する

1. 科目名 (単位数)	開発経済論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3118
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義、集団討議、学生との応答などを併用する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	開発経済学は、一国が低開発段階から経済発展を遂げるために必要な要素・政策や成長の制約要因を、経済学的手法により探る学問である。本講義では低開発段階から経済発展を遂げるために必要な様々な経済的条件に着目して講義を進める。途上国の国々には、比較的大きな経済成長・経済発展がみられる国もあるが、発展のパスに乗れていない国も存在する。発展を遂げた国、未発展・低開発の国それぞれに共通する政策や問題点を事例を交えながら指摘し、経済発展のために今後どのような開発が必要かについて論ずる。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発経済学の観点から発展途上国が抱えている問題を理解する。 2. 途上国諸国の経済発展の歴史と発展するための条件を理解する。 3. 経済発展の進んだ国と遅れている国の違いは何かを理解する。 4. 途上国間の地域統合やサブリージョナルの経済統合の動きを理解する。 5. わが国と途上国諸国との経済的な結びつきを理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	本授業で興味を持った開発経済学の議論のうち、興味を持った事項につき、具体的な事例も上げながら、まとめなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ジェトロ・アジア経済研究所, 朽木昭文、野上裕生、山形辰史編 『テキストブック開発経済学 新版』有斐閣ブックス、2003 年。 【参考書】 『貧困の克服 - アジア発展の鍵は何か』集英社新書。			
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (質問、出席状況など)	20%		
	2. レポート	30%		
	3. 期末テスト	50%		
12. 受講生へのメッセージ	開発経済の内容を包括的かつ平易に説明するが、授業時間中に質問や意見を積極的に述べて欲しい。			
13. オフィスアワー	初回の授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義概要の説明) 経済発展とは	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	経済発展とは何かとその要件をまとめる	
第 2 回	貧困と不平等	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	途上国における貧困の実情をまとめる	
第 3 回	二重構造と失業	事前学習	二重構造とは何かをまとめる	
		事後学習	二重構造による経済発展の罨を整理する	
第 4 回	経済成長	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	経済成長とは何かをまとめる	
第 5 回	人的資源	事前学習	先進国と途上国の教育の違いを調べる	
		事後学習	経済発展における教育の効果を学ぶ	
第 6 回	都市化と集積	事前学習	都市に住むメリットについて考える	
		事後学習	経済発展とヒトの集積についてまとめる	
第 7 回	産業構造	事前学習	産業を分類する構造を確認する	
		事後学習	経済発展と産業構造の変化をまとめる	
第 8 回	農業	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	先進国と途上国の農業の役割をまとめる	
第 9 回	工業	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	先進国と途上国の工業の役割をまとめる	
第 10 回	開発戦略	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	開発戦略のポイントをまとめる	
第 11 回	国際貿易	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	貿易と経済発展の関係をまとめる	
第 12 回	技術移転	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	技術移転と経済発展の関係をまとめる	
第 13 回	資本移動	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	資本移動と経済発展の関係をまとめる	
第 14 回	金融	事前学習	新聞や雑誌などの関連記事を読んでくる	
		事後学習	金融と経済発展の関係をまとめる	
第 15 回	まとめ	事前学習	講義の要点を復習する	
		事後学習	講義全体のまとめを行う	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	解剖生理学Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2322
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、質疑応答、課題発表。簡単な実験も行う。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「解剖生理学Ⅰ」を履修しておくこと			
7. 講義概要	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰでの学習を基盤として、人体を構成している骨格系、筋系、神経系、感覚器系、内分泌系、脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の各器官系の成り立ちと生理機能について学習する。さらに各器官系を統合し、内部環境のホメオスタシスを維持している調節機構について学び、一生命体としての個体の営みはどのようになされているかについて考える。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各部の組織・器官・器官系の名称とその位置を、自分の体で確認できるようにする。 2. 人体構造の発生、成長、老化について、動物進化の過程と関連付けて理解し、説明できるようになる。 3. 生体機能の調節機構、およびホメオスタシスの維持について理解し、説明できるようになる。 4. 脳機能の分化と発達について理解し、説明できるようになる。 5. ヒトの形態・生理機能と病気・ケガとの関連を理解し、基本的対応ができるようになる。 6. 病気予防における基本的知識を深め、説明できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：発熱の機序と生理的意義、および対処について (1,000字以上、横書き)</p> <p><ポイント>：ヒトの体温 (深部体温) は、発熱と放熱のバランスがとれて約37℃に維持されている。生体に異常 (感染、炎症など) があると体温が上昇する。この体温上昇は生体の防御機構を反映しているが、体温が高すぎれば生体全体の機能に障害が起こる。体温の調節機構をふまえて、発熱時の適切な対処についてまとめること。</p> <p>授業ごとに配布するワークシートに、学んだ内容をまとめて授業終了時に提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】澤口彰子他(著)『人体のしくみとはたらき』朝倉書店。 東京福祉大学 (編)『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】高野廣子 (著)『解剖生理学』南山堂。 高田明和 (監修)『からだのしくみと病気がわかる事典』日本文芸社。 ニュートン編集部 (編)『人体を支配する仕組みー起源・遺伝子からナノ・テック医療まで』ニュートンプレス。</p>			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、口頭発表 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生へのメッセージ	<p>保健科教諭を目指す者にとって、人体の構造と生理機能を深く学び理解することは、児童・生徒に起こりうる様々な病気や怪我へ対処をしたり、健康教育・指導を行ったりする際に必須です。人体を構成する各種器官系の構造と位置は生理機能と密接に関連しており、進化の過程の中で必然的に出来上がったものです。人体に起こりうる各種疾患は、解剖学のおよび生理学的知識を深め、両者の関係を結び付けることで発生原因を理解し、適切な対処が可能となります。また、本学習を通して、生命の素晴らしさ・尊さも理解してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的な態度で授業に参加し、授業中にたくさん発言することを望みます。 2. 授業ごとにレポートの提出を求めて理解度のチェックを行い、成績に反映します。 3. マスメディアに最新の医学情報が多数紹介されるので、関心をもってチェックしてください。 4. 質問は授業時間以外でも随時受け付けます (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 授業中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション 人体の基本構造と発生・成長 (生物進化と先天奇形、行動奇形、老化との関係)	事前学習	「解剖生理学Ⅱ」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。	
		事後学習	現生人類 (ヒト) に至る進化の過程を踏まえ、成長と老化を考察する。	
第2回	体液の組成と恒常性 (体液の特徴、およびその恒常性の維持と破綻)	事前学習	pp.458-465: 体液・血液の成分比について調べておく。	
		事後学習	体液・血液の恒常性 (ホメオスタシス) 破綻に起因する代表的症状について考察する。	
第3回	皮膚の構造と機能	事前学習	pp.417-432: 皮膚の構造について調べておく。	
		事後学習	皮膚内の血管走行、感覚受容器の分布、皮膚の損傷と傷跡の特徴について考察する。	
第4回	筋系 (筋収縮の機序、筋収縮と発熱、筋肉麻痺・けいれんの原因)	事前学習	pp.117-121: 骨格筋の収縮機構を調べておく。	
		事後学習	骨格筋の収縮調節機構、筋肉麻痺、けいれんの機序と原因について考察する。	
第5回	循環器系 (循環器系の調節機構と障害、心臓奇形)、心肺停止時の救命救急法	事前学習	pp.149-170: 心臓・血管系の形成・発達について調べておく。	
		事後学習	心臓・血管系の機能異常、奇形について、原因を含めて考察する。	
第6回	造血器系 (造血機能の加齢変化、血液型、血液ガン)	事前学習	pp.191-204: 骨髄の機能について調べておく。	
		事後学習	貧血、血小板機能障害、白血病の原因について考察する。	

第 7 回	消化器系とエネルギー代謝（三大栄養素の代謝と消化器官、食欲と摂食行動の調節機構）	事前学習	pp.221-266 および事前配付資料：基礎代謝量、摂食行動について調べておく。
		事後学習	食欲の発現機序、肥満とやせの原因について考察する。
第 8 回	課題発表・討論	事前学習	第 1 回～第 7 回で学んだことについて総括しておく。
		事後学習	発表内容について学生間でディスカッションをまとめる。
第 9 回	呼吸器系（呼吸器系の調節機構と障害）	事前学習	pp.267-285: ヒトの鼻腔～喉頭、鼻腔～内耳の構造と特徴を調べておく。
		事後学習	呼吸器系の構造と疾患リスクを考察する。
第 10 回	生殖器系（生殖器系の性差、性周期の調節）	事前学習	pp.307-335: 内性器・外性器の男女差を調べておく。
		事後学習	内性器・外性器の男女差の発現機序についてまとめ、障害のリスク因子を考察する。
第 11 回	中枢神経系（神経細胞の特性、脳の機能分化と障害）	事前学習	pp.355-396: 脳・脊髄の構造と機能分化を調べておく。
		事後学習	中枢神経系の活動上昇・低下に伴う症状についてまとめる。
第 12 回	末梢神経系（末梢神経系の障害と対処）	事前学習	pp.396-416: 末梢神経系（運動神経、感覚神経、自律神経）の分布を調べておく。
		事後学習	末梢神経の障害に伴う代表的な機能異常について考察する。
第 13 回	内分泌系（ステロイドホルモン[性ホルモン、副腎皮質ホルモン]の代謝・分泌とストレス反応）	事前学習	pp.337-354: 内分泌器官の名称とその関係を調べておく。
		事後学習	視床下部－下垂体－副腎皮質・甲状腺・性腺系の調節機構と、機能異常について考察する。
第 14 回	感覚器系（受容器、伝達系、中枢神経系の役割とその障害）	事前学習	pp.433-457: 感覚の種類と受容器を把握しておく。
		事後学習	五感について、感覚受容器と脳の感覚野の関係から、代表的な感覚異常についてまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	事前提示された課題についてまとめる。
		事後学習	課題について口頭発表、ディスカッションした内容についてレポート提出をする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3181
2. 授業担当教員	新井 雅人		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修の条件として、先に「カウンセリングの基礎」を履修済みとすること。		
7. 講義概要	<p>カウンセリングとは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容(レポートが遅れがちの人なら、日時を守れるようになる。悩みがあり苦しんでいる人なら、その悩みが解消し明るくなる、など)を目的として、言語的・非言語的コミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことである。</p> <p>現代社会においては、カウンセラーの心構えは、(カウンセリング・マインドと言われる)対クライアントのみならず、大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。</p> <p>そこで、本演習では、「カウンセリングの基礎」の続きとして、より広くカウンセリングの理論と技法を学ぶと共に自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	演習内容により、プリント課題や、授業中に行うロールプレイの逐語記録等が課される。学期末にレポートが課される。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 福山清蔵著、日精研心理臨床センター編『[独習] 実践カウンセリングワークブック』株式会社 日本・精神技術研究所</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房 アレン・アイヴィー、ヨルマ・グリュックステン『マイクロカウンセリング 基本的かかわり技法』丸善 W.ドライデン、J.ミットン『カウンセリング/心理療法の4つの源流と比較』北大路書房 門前進『イメージ自己体験法 心を味わい豊かにするために』誠信書房</p>		
11. 成績評価の方法	レポート、提出課題 50%、授業への参加態度 50%		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中は良く聞き良く考え、そして復習すること。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚(センス)を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守ること。宿題(アサイメント)は指示された期限までに必ず行うこと。レポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為(私語、居眠り、グループ活動に協力しない等)を慎むこと。 		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション カウンセリングとは何か	事前学習	教科書 pp.3~9 を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第2回	I クライアント理解(講義と演習) 1. 感情と行動のプレーンストーミング	事前学習	教科書 pp.10~15 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第3回	2. 涙の「わけ」	事前学習	教科書 pp.16~20 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第4回	3. 正確な理解	事前学習	教科書 pp.21~23 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第5回	4. クライアントの問題	事前学習	教科書 pp.24~30 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第6回	5. 危機と喪失	事前学習	教科書 pp.31~42 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第7回	6. 非言語のメッセージ(座り方・視線)	事前学習	教科書 pp.43~45 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第8回	II カウンセラーからの質問(講義と演習) 1. 良い質問、良くない質問	事前学習	教科書 pp.46~47 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第9回	良い質問、良くない質問その2	事前学習	教科書 pp.48~53 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める

第 10 回	2. 質問の分類	事前学習	教科書 pp.54～56 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 11 回	質問の分類 その 2	事前学習	教科書 pp.57～61 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 12 回	3. 非言語のメッセージ (メモについて)	事前学習	教科書 p.62 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 13 回	Ⅲ クライアントからの質問 (講義と演習) 1. 質問の背景	事前学習	教科書 pp.63～69 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 14 回	2. 質問への応答	事前学習	教科書 pp.70～73 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 15 回	3. 非言語のメッセージ (本について)	事前学習	教科書 p.74 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 16 回	Ⅳ 応答の要素 (講義と演習) 1. 応答の 6 つの要素	事前学習	教科書 pp.75～77 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 17 回	応答の 6 つの要素 その 2	事前学習	教科書 pp.78～80 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 18 回	2. 要素と応答	事前学習	教科書 pp.81～87 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 19 回	3. 非言語のメッセージ (プレゼント)	事前学習	教科書 p.88 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 20 回	Ⅴ 応答のレベル 1. 応答の 3 つのレベル	事前学習	教科書 pp.89～92 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 21 回	2. レベルと応答	事前学習	教科書 pp.93～103 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 22 回	3. 非言語のメッセージ (服装)	事前学習	教科書 p.104 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 23 回	Ⅵ プロセスと応答 1. プロセスと応答	事前学習	教科書 pp.105～116 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 24 回	2. プロセスに働きかける応答	事前学習	教科書 pp.117～129 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 25 回	3. 非言語のメッセージ (時間について)	事前学習	教科書 p.130 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 26 回	Ⅶ カウンセリングの全体像の理解 1. 逐語記録による演習	事前学習	教科書 pp.131～159 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 27 回	2. 非言語のメッセージ (時間その 2)	事前学習	教科書 p.160 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 28 回	Ⅷ カウンセラーの自己点検 1. 価値観の自己点検	事前学習	教科書 pp.161～174 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 29 回	2. 人間観の自己点検	事前学習	教科書 pp.175～181 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める
第 30 回	3. 対話的關係の自己点検	事前学習	教科書 pp.182～194 を読んでおく
		事後学習	当日の演習についての配付資料の理解を深める

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3333 SNMP3333 SCMP3333 SBMP3333 EDPS3306
2. 授業担当教員	大澤 靖彦		
4. 授業形態	講義 (ディスカッション)、演習 (ロールプレイ)、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「カウンセリングの基礎」の単位を履修していることが望ましい (社会福祉学部や教育学部の学生は、ソーシャルワークや教育相談などで学習したものと関連します。)		
7. 講義概要	<p>カウンセリングの理論は、医療・教育・福祉の現場でも幅広く活用・実践されている。カウンセリングとは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、自己理解、環境理解と行動変容(レポートが遅れがちなのが日時を守る、悩みが解消する、性格が明るくなる、など)を通して人をエンパワーすることを目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする人間関係でありプロセスである。</p> <p>本講義では、カウンセリングの理論と技法の基礎を学びながら、単に頭で知識を学ぶのではなく、ロールプレイを通して、自分のコミュニケーションのあり方を振り返り、社会生活で健全な人間関係を形成するとともに問題を解決する能力を育てる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングが具体的にどのような環境・方法で、どんな人達を対象に行われ役立っているのかを理解する。 2. カウンセリングの基本的な態度・技法を習得し、実践できるようにする。 3. さまざまなケースを通してクライアント理解を深め、対応のポイントを理解し、実践できるようにする。 4. 社会生活で、人の生き方を尊重した支援ができるようになる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療的カウンセリングと育てるカウンセリングについて述べなさい。 *カウンセリングというと傷ついた心を癒したり直したりするというイメージをもちやすいが、現場では、クライアントの何を育てれば適応的な生活が送れるかという発想が大切である。そのために治療的カウンセリングと育てるカウンセリングの異同について理解する。 2. カウンセリングにおいて望ましい態度について述べなさい。 *さまざまなカウンセリングの理論と技術があるが、その基本となる態度(受容・共感・自己一致に焦点を当て)について理解する。 3. 虐待を受けた子どもの特徴について述べなさい。 *昨今の社会問題として虐待がある。これは教育と福祉の両方の領域に関わることで、その対応に専門家も苦慮している。本レポートでは、授業の中で提示した材料を基にして、被虐待児の行動の特徴について理解を深める。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 玉瀬耕治『カウンセリング技法入門』教育出版、2010年。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編・中等教育編)』ミネルヴェア書房、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲および態度 30%、レポートの提出・評価 30%、確認テスト 30%、第 23~28 回の演習における意欲・態度・スキル 10%。 ・本学規定により、3/4 以上の出席を求めます。 ・遅延の場合は証明書を提出すること。 ・実習や就活で欠席する場合には、事前に報告すること。 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだカウンセリングの技法については、実習等でどんどん使ってみてください。 ・積極的な態度で参加していただきたい。 ・不明な点は、授業時間のうちに質問していただきたい。 ・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1・2 回	オリエンテーション ・治療的カウンセリングと育てるカウンセリング カウンセリングの歴史的背景からカウンセリングとは何かについて理解し、さらに治療的なカウンセリングだけでなく、予防的に行われるカウンセリングやよりよく生きるためのカウンセリングがあることを学ぶ。	事前学習	教科書を準備し、通読してくる。
		事後学習	自分の専門領域において、治療的カウンセリング、予防的カウンセリングにはどのようなものがあるのかを整理し、レポートに着手する。
第 3・4 回	カウンセリングの基礎 1 一人にかかわること 一人にかかわる基本姿勢を理解するとともに、面接の基本的技法について理解し、実習の現場や日常生活のなかで応用できるようにする。	事前学習	教科書 pp.30~36 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	学んだことを日常会話の中で、実践してみる。学習した内容を踏まえて、教科書第 4 章の研究 1 を読み理解を深める。
第 5・6 回	カウンセリングの基礎 2 質問・反映技法 3・4 回で学んだ技法のうち、質問・反映技法について掘り下げ、ロールプレイを通して使えるようにする。	事前学習	教科書 pp.37~55 を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	学んだことを日常会話の中で、実践してみる。学習した内容を踏まえて、教科書第 4 章の研究 2 を読み理解を深める。
第 7・8 回	一人かかわるカウンセリングの流れ、来談者中心カウンセリング	事前学習	教科書 pp.15~16 を熟読し、重要箇所にアン

	<p>ゲー</p> <p>初回面接、インテーク面接、カンファレンス、契約から始まり、自己探索・自己理解・行動化、そして終結の流れを理解する。さらに、面接の基本となる来談者中心カウンセリングの考え方について理解する。</p>		<p>ダーラインを引く。</p> <p>配布資料を読み、カウンセリングの枠組みや流れ、態度について整理し、レポートに着手する。</p>
第 9・10 回	<p>－面接のまとめ－</p> <p>面接のプロセスで起こる問題とロールプレイ</p>	事前学習	面接技法に関する教科書・資料を読みロールプレイができるように準備する。
		事後学習	学んだことを日常会話の中で、実践してみ、改善点や感想をノートにまとめる。
第 11・12 回	<p>－育てるカウンセリング（講義／演習）－</p> <p>人間関係をよくすることは不適応行動の予防になるだけでなく、より健康的な発達を促すことができる。人間関係をつくる上で効果のあるソーシャル・スキル・トレーニング（SST）と対人関係ゲームを体験し、その考え方を理解する。この授業の第 23～28 回につながります。</p>	事前学習	現代の子どもは、育ちやすくなったか、育ちにくくなったかについて自分の意見をまとめておく。
		事後学習	自分たちのグループが担当するワークについて熟読し、発表に備えて準備をする。
第 13・14 回	<p>－行動療法／認知行動カウンセリング－</p> <p>学習理論について理解し、行動療法の理論や技法について理解し、学校場面ではどのように使われるのかについても理解する。さらに、我々が育ちの中で身に付けた偏ったものとの考え方について理解し、認知行動カウンセリングの考え方と進め方について理解する。</p>	事前学習	教科書 pp.17～22 を読み、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	自分の体験を基に、日常生活での学習した困ったこと、日常生活を不自由に行っているイラショナル・ベリーフについてどのようなものがあるかノートに書き出す。
第 15・16 回	<p>－精神分析的カウンセリングや家族カウンセリングの知恵－</p> <p>ここでは精神分析や家族療法の理論や技法ではなく、学校カウンセリングに取り入れられるそれぞれの知恵について理解する。</p>	事前学習	教科書 pp.12～14（精神分析）を読み、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	日常生活で体験する防衛機制について考え、ノートに書き出す。
第 17・18 回	<p>－不登校児の理解と援助、軽度発達障害児の理解と援助－</p> <p>不登校児および軽度発達障害児の理解を深めるとともにその対応のポイントについて理解する。</p>	事前学習	なぜ、学校へ行けなくなるのかについて考え、ノートにまとめる。
		事後学習	不登校や発達障害に対しての理解や支援が十分に得ることができなければ、どのような二次的な問題が発生するのか考究し、ノートにまとめる。
第 19・20 回	<p>－被虐待児の理解と対応、危機介入－</p> <p>被虐待児の行動の理解と学校でできる対応と地域において通常の問題解決方法では乗り切れない危機にあったときに何をしていかなければならないかについて理解する。</p>	事前学習	ニュース等で「こころのケア」と言われるが、どのようなものであるか調べてくる。
		事後学習	自分の専門領域での「こころのケア」とはどのようなものがあるか考える。さらに、被虐待児の特徴を整理し、レポートに着手する。
第 21・22 回	<p>－アセスメントと事例研究（インシデントプロセス法）－</p> <p>アセスメントと心理テストについて理解する。事例についてインシデントプロセス法による事例研究とその事例に対して学んだカウンセリング技法がどのように生かされるのかについて考究する。</p>	事前学習	①なぜアセスメントが必要なのか、②なぜ事例を研究するのか、その意義について考えノートにまとめる。
		事後学習	事例研究の方法について復習し、その意義についてノートにまとめる。
第 23～28 回	<p>－SST 模擬授業 1－</p> <p>育てるカウンセリングとしての SST について小学校中学年を想定した分かりやすい授業を実施する。</p>	事前学習	リハーサル等の事前準備をする。
		事後学習	グループ発表者は、うまくできたこと、今後の課題について整理し、発表していない者は、他のグループの発表から良いものを取り入れて、自分の発表に臨む。
第 29・30 回	<p>まとめ</p> <p>全体の復習（確認テスト）</p> <p>SST について（うまくできたこと、改善点、他のグループの参考にしたいところ）</p>	事前学習	授業全体の復習をするので、毎回の授業で行った小テストを覚える。
		事後学習	勉強不足の内容を確認し、再度覚える。

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP3181
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	グループ発表、ディスカッション、体験学習 (ロールプレイなど)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修の条件として、先に「カウンセリングの基礎」を履修済みとすること。		
7. 講義概要	<p>カウンセリングとは、何らかの援助を求める人(クライアント)に対して、行動変容(レポートが遅れがちの人なら、日時を守れるようになる。悩みがあり苦しんでいる人なら、その悩みが解消し明るくなる、など)を目的として、言語的・非言語的なコミュニケーションを道具として援助しようとする試みのことである。</p> <p>現代社会においては、カウンセラーの心構えは、(カウンセリング・マインドと言われる)対クライアントのみならず、大学での友人関係や部活動並びに職場や家庭においても「お互いに支えあう人間関係」を築く上で、重要な考え方とあり方を示唆している。</p> <p>そこで、本演習では、「カウンセリングの基礎」の続きとして、より広くカウンセリングの理論と技法を学ぶと共に自分の日常のコミュニケーションのあり方を振り返りながら、相手に寄り添うより適切な援助法を身に付ける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会がクライアントの悩みの解決だけでなく、なぜ多くの人々がカウンセリング学習を求めるのか、その背景や理由が理解できる。 2. カウンセリングの基礎的な理論や技法である精神分析・来談者中心療法・行動療法を復習した上に、現在の主要な理論となっている認知行動療法(論理療法)を含めたさまざまなカウンセリング理論と技法が理解できる。 3. 受講生がグループ発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高められる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>授業の内容と関係のあるレポートを書いてもらう。テーマは次の5つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会におけるカウンセリングの役割 2. ストレス対処としての私の方法 3. 教育とカウンセリングのかかわりどのように活かしていけるか 4. 産業とカウンセリングのかかわりどのように活かしていけるか 5. 今回学んだ様々なカウンセリング理論の中から最も興味あるものを一つ選び、その理論と技法の特徴を他の理論との比較を通しながら述べる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】水島恵一他編著『カウンセリングを学ぶ』有斐閣。</p> <p>【参考書】松原達哉著『生活分析的カウンセリングの理論と技法』培風館。 平木典子著『自分の気持をきちんと伝える技術』PHP。 国分康孝著『カウンセリングの理論』誠信書房。 神田橋條治著『精神療法面接のこつ』岩崎学術出版社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート；35%</p> <p>理解度；35%</p> <p>発表の内容の充実度並びに積極的な授業への参加度；30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	大学時代にカウンセリングを学ぶことは、自己理解に通じ、自己啓発につながる。各理論や技法を学び理解を深めながら、受講生一人ひとりの心の成長も目指している。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	A. 現代社会にカウンセリングが求められている理由を考える 現代社会は文化の移行期である。支え合う(絆)ことが、今の時代のテーマであり、カウンセリングがそのヒントになる。(農耕民族と狩猟民族の違いから)	事前学習	シラバスを読んでおく。
		事後学習	配られたプリントから自分の考え方をまとめてみる。
第2回	カウンセリングとは何か 特に心理療法(臨床心理学)との違いを明確にする。 逐語事例をベースとしてグループ毎に考える。どうしたらもっと通じ合えるか。	事前学習	カウンセリングとは何か、臨床心理学との違いを調べておく。
		事後学習	援助的な対話について、自分の友人関係から考えてみる。
第3回	B. カウンセリングの理論と技術(Ⅰ)→基礎編 1. 精神分析；人格構造論、リビドー発達、防衛機制、コンプレックス論を学ぶ	事前学習	教科書：pp.93～110 pp.13～28 を読みまとめておく。
		事後学習	精神分析の中心的な概念を復習しておく。
第4回	リビドーの発達の観点から子育てを考える	事前学習	精神分析の考え方から望ましい子育て法を考えてみる。
		事後学習	今時の子育ての問題点を考えてみる。
第5回	精神分析的な面接法を学ぶ(ロジャーズとの違いを事例を通して明確にする)	事前学習	事例を読み疑問点を明確にしておく。特にロジャーズのやり方との違いに留意する。
		事後学習	なぜ本事例は立ち直ったのか、その理論背景を確認する
第6回	精神分析の知識の確認(クイズ方式で行う)	事前学習	教科書：pp.93～110 pp.13～28 をもう一度読み、理解を確認する。
		事後学習	精神分析の優れていると思われるところを記述しておく。
第7回	2. 来談者中心療法；パーソナリティ理論、並びにどのようなプロセスを経てこの療法が生まれたか、またどのようなクライアントに有効かを学ぶ。	事前学習	教科書：pp.71～91 pp.28～37 を読みまとめておく。
		事後学習	ロジャーズの生い立ちと来談者中心療法の特徴との関係を考えておく。
第8回	来談者中心療法の面接法を学ぶ(なぜクライエン	事前学習	来談者中心療法の面接法を確認しておく

	トが立ち直ったのか、事例を通して考える)	事後学習	命の電話等の傾聴とロジャースの理論との関係について調べておく。
第 9 回	来談者中心療法の理論と技法がなぜ我が国の主要なものとなったのか考える	事前学習	中心理論とそれが流行した背景を考えておく
		事後学習	授業をベースとして、自分なりの考え方をまとめておく
第 10 回	来談者中心療法の知識の確認 (クイズ方式で行う)	事前学習	ロジャースのパーソナリティ理論について読んでおく。
		事後学習	理解が十分でなかったところはもう一度確認しておく。
第 11 回	3. 行動療法; 学習 (古典的条件づけ、道具的条件づけ、モデリング学習) 理論からどのように応用されてきたか、精神分析や来談者中心療法との違いを理解する。	事前学習	教科書: pp.37~39 pp.111~121 読みまとめておく。
		事後学習	学習理論を復習してみる。特に例を挙げて説明できるようにしておく。
第 12 回	行動療法的な面接技法について学ぶ 行動療法の知識の確認 (クイズ方式で行う)	事前学習	学習という立場からクライアントに向き合った場合のカウンセラーの心の内を考えておく。
		事後学習	行動療法が日常的な場面で応用されているところを探しておく。
第 13 回	C. カウンセリングの理論と技術 (II) → 応用編 1. 交流分析; 構造分析、脚本分析、交流分析、ゲーム分析、時間の構造化を学ぶ。交流分析の面接法を精神分析との違いから理解する。	事前学習	教科書: pp.149~162 を読みまとめておく。
		事後学習	心理ゲームについて、例を挙げて考えておく。
第 14 回	交流分析の知識の確認 (クイズ方式で行う)	事前学習	交流分析が生まれた経緯について調べてみる。
		事後学習	自分のエゴグラムの変化を考えておく。
第 15 回	2. ゲシュタルト療法; ゲシュタルト心理学、ホットシート、未完の行為、ドリームワーク、	事前学習	参考書: カウンセリングの理論 8 章を読みまとめておく。
		事後学習	パルズの生い立ちを調べおく。
第 16 回	ゲシュタルト療法の知識の確認 (クイズ方式で行う)	事前学習	面接の方法を精神分析との違いから考えておく。
		事後学習	知識不足は、補っておく。
第 17 回	3. 論理療法 (認知行動療法); エリス、ABC 理論、ビリーフ、論駁、理論を学ぶ。	事前学習	参考書 (カウンセリングの理論) 第 9 章を読みまとめておく。
		事後学習	エリスの生い立ちとこの療法の特徴をまとめておく。
第 18 回	面接法を逐語から学ぶ	事前学習	ABC 理論をもう一度確認しておく。
		事後学習	自分のイラショナルビリーフを論駁しておく。
第 19 回	認知行動療法; ベック、自動思考、身体・思考・感情・行動、スキーマを学ぶ。	事前学習	なぜ認知行動療法が取り入れるに至るか、その背景を調べてみる。
		事後学習	ベックとエリスの主張の違いを考えてみる。
第 20 回	認知行動療法 (論理療法) の知識の確認	事前学習	認知行動療法の理論と技法を確認しておく。
		事後学習	知識不足は補っておく。
第 21 回	4. グループアプローチ; 構成的グループエンカウンター、グループカウンセリング	事前学習	教科書: pp.123~134 を読みまとめておく
		事後学習	構成的グループエンカウンターとベーシックエンカウンターの比較をしておく。
第 22 回	ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング	事前学習	人に期待されるソーシャルスキルとは何か確認しておく。
		事後学習	アサーションの 12 の権利について自分はどうか考えておく。
第 23 回	5. 日本独特なカウンセリング理論; 森田療法、内観療法	事前学習	森田療法、内観療法についてまとめておく。
		事後学習	欧米的なカウンセリングと日本的なカウンセリングの特徴についてまとめておく。
第 24 回	LAC 法	事前学習	アパシーになぜ LAC 法が有効か、考えておく。
		事後学習	自分の LAC 図を作成しておく。
第 25 回	D. カウンセリングが求められる場所 1. ファミリーカウンセリング 2. 学園生活とカウンセリング	事前学習	教科書: pp.165~176 pp.177~191 読みまとめておく。
		事後学習	家族療法の必要性について考えておく。
第 26 回	3. 職業生活とカウンセリング 4. 病気とカウンセリング 5. クライシス・インターベンション	事前学習	教科書: pp.193~205 pp.207~220 pp.135~146 を読みまとめておく。
		事後学習	職場でのカウンセラー制度についてまとめておく。
第 27 回	E. カウンセリングの構成者 1. クライアントとは 2. カウンセラーとは	事前学習	教科書: pp.41~54 pp.55~67 を読みまとめておく。
		事後学習	患者ではなくクライアントという言葉を使った理由を考えてみる
第 28 回	カウンセリングのプロセスについて学ぶ カウンセリングプロセスについての知識の確認 (クイズ方式で行う)	事前学習	一般的なカウンセリングの進行についてまとめておく。
		事後学習	不足していた知識は確認しておく。
第 29 回	実際のカウンセリングの様子を DVD にて確認する	事前学習	DVD の逐語を読んでおく。
		事後学習	実際のカウンセリングの疑問点を挙げておく
第 30 回	グループ毎の質問事項の確認とまとめをする	事前学習	本学習を通じての疑問点をまとめておく
		事後学習	どの理論が自分として役に立ちそうかその理由も含め記述しておく。

1. 科目名 (単位数)	学習心理学 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2351												
2. 授業担当教員	加藤 宏一															
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	秋期												
6. 履修条件・ 他科目との関係																
7. 講義概要	人間は、生まれてから死ぬまでの間に、さまざまなことを学習したり、忘れたりする。さらに、過去の学習を基盤として新しい学習を行うといったように、日常生活においては常に学習をしている。本科目では、こうした学習の仕組みや働きに関する代表的な学習理論について学んでいく。															
8. 学習目標	1. 学習心理学の基礎的な理論や研究方法についての知識を習得する。 2. 学習心理学の知識が臨床、教育、福祉等の他分野でどのように生かされているのかを理解し、説明できる。 3. 身近な問題行動の理解や改善に、習得した学習心理学の知識や研究方法を活用することができる。															
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	●授業内および授業外において、学習単元に関する課題を行ってもらおう。 ●プロジェクト：行動分析学の方法論を用いて「行動変容プロジェクト」を実施し、その成果をレポートにする。また、その成果について授業時に口頭発表を行う。															
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】今本繁・島宗理(著)『対人支援の行動分析学 改訂版』ふくろう出版、2008 年 【参考書】必要に応じて授業で紹介する。															
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>受講態度</td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトレポート・発表</td> <td>40%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>到達度確認試験・課題</td> <td>30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。</td> </tr> </table> <p>なお、欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。</p>				受講態度	30%		プロジェクトレポート・発表	40%		到達度確認試験・課題	30%		合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。
受講態度	30%															
プロジェクトレポート・発表	40%															
到達度確認試験・課題	30%															
合計	100%	左記のとおり、本学規定に沿って評価を行う。														
12. 受講生への メッセージ	私たちが日々、現在のように行動しているのは何故なのでしょう。自分や他者の問題行動は、どうすれば改善するのでしょうか。こうした疑問について、学習理論や行動分析の視点から考えてみたいと思います。															
13. オフィスアワー	授業時に通知する。															
14. 授業展開及び授業内容																
講義日程	授業内容	学習課題														
第 1 回	イントロダクション：学習心理学の歴史と特徴	事前学習	テキストの準備													
		事後学習	テキスト第 1 章 (pp.7-16)を読み、練習問題に答える。													
第 2 回	行動の法則	事前学習	テキスト第 2 章を読んでくる(pp.17-33)													
		事後学習	2 章の練習問題に答える。													
第 3 回	行動のアセスメント	事前学習	テキスト第 3 章を読んでくる(pp.36-48)													
		事後学習	3 章の練習問題に答える。													
第 4 回	シングルケーススタディ	事前学習	テキスト第 2 章を読んでくる(pp.49-61)													
		事後学習	4 章の練習問題に答える。													
第 5 回	理論的分析	事前学習	テキスト第 5 章を読んでくる(pp.63-77)													
		事後学習	5 章の練習問題に答える。													
第 6 回	行動変容①	事前学習	テキスト第 6 章を読んでくる(pp.79-99)													
		事後学習	6 章の練習問題に答える。													
第 7 回	行動変容②	事前学習	テキスト第 6 章を読んでくる(pp.99-112)													
		事後学習	6 章の練習問題に答える。													
第 8 回	問題行動に対するポジティブなアプローチ	事前学習	テキスト第 7 章を読んでくる(pp.113-129)													
		事後学習	7 章の練習問題に答える。													
第 9 回	恐怖や不安へのアプローチ	事前学習	テキスト第 8 章を読んでくる(pp.131-148)													
		事後学習	8 章の練習問題に答える。													
第 10 回	セルフマネジメント	事前学習	テキスト第 9 章を読んでくる(pp.149-166)													
		事後学習	8 章の練習問題に答える。													
第 11 回	パフォーマンスマネジメント	事前学習	テキスト第 10 章を読んでくる(pp.167-180)													
		事後学習	10 章の練習問題に答える。													
第 12 回	医療・リハビリテーション分野への応用	事前学習	テキスト第 11 章を読んでくる(pp.181-197)													
		事後学習	11 章の練習問題に答える。													
第 13 回	コミュニティや社会問題へのアプローチ	事前学習	テキスト第 12 章を読んでくる(pp.199-221)													
		事後学習	12 章の練習問題に答える。													
第 14 回	プロジェクト発表①	事前学習	プロジェクト発表の準備													
		事後学習	プロジェクト発表のまとめ													
第 15 回	プロジェクト発表②	事前学習	プロジェクト発表の準備													
		事後学習	プロジェクト発表のまとめ													

1. 科目名 (単位数)	家族心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3360 EDPS3307
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義および演習・ディスカッション・グループ発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	人間は生涯を通じて他者との中で生きて行く。その最も身近な人間関係の中の一つに「家族」がある。本講義では、家族システム理論を始めとする家族を理解するための鍵概念を解説し、①家族のライフコースと発達、②家族内 (夫婦、親子、兄弟姉妹など) の心理構造、③家族療法の概要について学びます。講義による解説とディスカッション・グループ発表を通し、人が成長していくうえで重要な役割を持つ家族の心理に関して理解を深め、日常生活の場で起きている家族の諸問題を考察し、受講生にとっての家族観の再考を促すことを目的としています。		
8. 学習目標	家族心理学が終了した時点で下記の目標達成をすることが期待されます。 1. 家族の在り方と家族メンバーの心理的ウェルビーイングとの深い関係を理解し、説明できるようになる。 2. 家族の発達と共に起こりうる諸問題について指摘できるようになる。 3. 家族心理学の理論と実践の違いを理解し、説明できるようになる。 4. 家族臨床の歴史と近年の主たる理論とアプローチについて、説明できるようになる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. アサシメント: 各単元の教科書の範囲をグループでまとめ、概要を発表する。 2. レポート課題は次の 2 つのテーマについて先行研究をもとに考察する。 課題 1: 家族の発達段階には家族の成立期から老年期の発達段階までであるが、その一段階を取り上げ、家族の健康な発達を妨げる諸要因に関して、先行研究をもとに考察しなさい。 課題 2: 現代の一般的家族の各メンバーが彼らの家族はうまく機能していると感じる背景にはどのような要因があるか。また、今後の家族の価値観はどのように変化していくのか。先行研究等をもとに考えをまとめなさい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子著『家族心理学』有斐閣ブックス、2008 年。 【参考書】柏木恵子著『家族心理学』東京大学出版会、2003 年。 秋山邦久著『臨床家族心理学』福村出版、2003 年。		
11. 成績評価の方法	グループ発表 40% 授業活動 10% レポート 2 回 50% *評価基準は、履修要項を参照のこと。		
12. 受講生への メッセージ	本講義の目的を達成する為に、日常生活の中で、近年起きている家族に関係する様々な問題に目を向け、多くの疑問を講義の中で議論していただきたいと思います。また、学習意欲を高める教育環境づくりとして次のことに注意してください。 1. シラバスに示される学習範囲は、授業前に必ず予習して来てください。 2. アサシメントは期限までに必ず提出して下さい。特にレポートの提出期日は厳守してください。		
13. オフィスアワー	第一回講義にて提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション; シラバスの説明と教科目標に関して 家族とは何か; 家族システム理論	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.3~20) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成とレポート 1 の準備。
第 2 回	家族とは何か; 家族を理解するための鍵概念	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.21~38) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成とレポート 1 の準備。
第 3 回	家族の発達; 独身の若い成人期	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.41~59) の内容をまとめる
		事後学習	課題 3 の作成とレポート 1 の準備。
第 4 回	家族の発達; 結婚による家族の成立期	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.61~78) の内容をまとめる
		事後学習	課題 4 の作成と提出
第 5 回	家族の発達; 乳幼児を育てる段階	事前学習	テキスト第 5 章 (pp.79~96) の内容をまとめる
		事後学習	課題 5 の作成とレポート 1 の準備。
第 6 回	家族の発達; 小学生の子どもとその家族	事前学習	テキスト第 6 章 (pp.97~112) の内容をまとめる
		事後学習	課題 6 の作成とレポート 1 の準備。
第 7 回	家族の発達; 若者世代とその家族	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.113~130) の内容をまとめる
		事後学習	課題 7 の作成とレポート 1 の準備。
第 8 回	家族の発達; 老年期の家族: 老いを迎える家族	事前学習	テキスト第 8 章 (pp.131~153) の内容をまとめる
		事後学習	レポート 1 の作成と提出
第 9 回	家族と臨床的諸問題; 家族への臨床的アプローチ	事前学習	テキスト第 9 章 (pp.157~172) の内容をまとめる
		事後学習	課題 9 の作成とレポート 2 の準備。
第 10 回	家族と臨床的諸問題; 夫婦関係の危機と援助	事前学習	テキスト第 10 章 (pp.173~191) の内容をまとめる
		事後学習	課題 10 の作成とレポート 2 の準備。
第 11 回	家族と臨床的諸問題; 子育てをめぐる問題と援助	事前学習	テキスト第 11 章 (pp.193~214) の内容をまとめる
		事後学習	課題 11 の作成とレポート 2 の準備。
第 12 回	家族と臨床的諸問題; 家族が経験するストレスと援助	事前学習	テキスト第 12 章 (pp.215~230) の内容をまとめる
		事後学習	課題 12 の作成とレポート 2 の準備。
第 13 回	家族と臨床的諸問題; 家族の中のコミュニケーション	事前学習	テキスト第 13 章 (pp.231~249) の内容をまとめる
		事後学習	課題 13 の作成とレポート 2 の準備。
第 14 回	家族と臨床的諸問題; 女性と家族	事前学習	テキスト第 14 章 (pp.251~275) の内容をまとめる
		事後学習	課題 14 の作成とレポート 2 の準備。
第 15 回	家族と臨床的諸問題; 男性と家族	事前学習	テキスト第 15 章 (pp.277~292) の内容をまとめる
		事後学習	レポート 2 の作成と提出

1. 科目名 (単位数)	学校保健学 (学校安全を含む) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2302
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義、グループ討議、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学校保健は、児童、生徒、学生並びに幼児の健康の保持増進を図り、学校教育の円滑な実施とその成果に資するための学問である。教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の法令が、学校教育課程にある子どものよりよい成長と学校教育の円滑な実施を支援している。本講義では、学校保健の構造やその意義、法的な位置づけなど、基礎的かつ重要な事項について習得し、それぞれの領域での取り組みの実践について学ぶ。また、各自が目指す職種の立場からの参画の仕方について、主体的に考えることを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の意義、構造、内容について理解し、説明することができるようになる。 2 保健教育の中の、保健学習と保健指導について、その位置づけや実践のあり方について理解し、説明することができるようになる。 3 保健管理の心身の管理、生活の管理、学校環境の管理について理解し、その実践のポイントを習得する。 4 児童生徒の現代的健康課題と、これに応じた学校保健活動の進め方について習得する。 5 学校保健推進にかかわる教員として、健康増進にとって不可欠な内容について具体的に学び身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎に、講義内容のワークシートに考えをまとめ、ファイリングしていく。 ・中間課題レポート：保健指導案の作成 『歯についての指導案』 ・最終課題レポート：自らの目指す職種において、学校保健活動にどのように参画することが求められるのか、自らの考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】学校保健安全法に対応した改訂 学校保健 徳山美智子 中桐佐知子編著 東山書房 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第3次改訂版』第一法規。</p> <p>【教材】テーマごとに文部科学省等から発行されている資料を配布。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間提出の授業振り返り (20%) ・授業中のグループ活動等における積極的な参加と態度 (20%) ・中間課題レポート(20%) ・授業のワークシートの提出 2 回 (20%) ・最終課題レポート (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	学校保健は、児童生徒の健康や発達を支援する上で、また学習の機会を保障する上で、大変重要な領域です。それぞれの目指す職種の立場から、また学校保健という視点から、どのように児童生徒を支援することができるのか、講義の中で主体的に考える姿勢を期待します。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 学校保健の構造領域 ・学校保健とは ・ヘルスプロモーション	事前学習	これまでの学校保健の既習事項について、復習しておく。教科書 pp.10～23/pp.88～97 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校保健の構造領域について理解したことを総括し、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 2 回	学校保健の今 これからの学校保健 ・平成 20 年中央教育審議会答申を読み解く	事前学習	事前に配布する中央教育審議会答申を熟読し、記載されている内容をまとめておく。pp.24～28 pp.37～42
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、現在の学校保健活動に求められている事項について、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 3 回	健康教育 ①健学習 ・学習指導要領における保健学習 ・保健学習実施の実態調査結果から	事前学習	学校保健実務必携の保健学習に関するページ (pp.546～694) を参照。教科書 pp.156～166 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健学習実態調査に関するディスカッションを総括し、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 4 回	②集団を対象とした保健指導 ・ライフスキル教育の体験	事前学習	学校保健実務必携の保健指導に関するページ (pp.559～694) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童生徒の生活改善につながる保健指導のあり方について、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 5 回	③児童生徒の現代的健康課題と保健教育 ・食育、性教育を進める際の留意点 (中間課題の提示)	事前学習	学校保健実務必携の食育・性教育に関するページ (pp.763～793/pp.794～811) を参照。教科書 pp.228～242 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	保健指導案作成の方法について、第 3～5 回の講義内容を復習し、保健指導案の作成にあたり資料準備を始める。
第 6 回	保健管理 ①児童生徒の健康診断 ・教育的活動としての健康診断 (事前指導を中心に)	事前学習	学校保健実務必携の健康診断に関するページ (pp.167～180) を参照。教科書 pp.131～142 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康診断における事前指導に関するディスカッションを総括し、自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 7 回	②健康観察 ・健康観察の観点	事前学習	学校保健実務必携の健康観察に関するページ (pp.181～197) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康観察に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをワークシートにまとめファイ

			リングしていく。
第 8 回	③健康相談 ・健康相談の基礎と事例検討	事前学習	学校保健実務必携の健康相談に関するページ (pp.392～409) を参照。教科書 pp.144～154 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	健康相談に関するディスカッションを総括し、その留意事項について自分の考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 9 回	④学校救急処置 ・救急処置体制の重要性 ・学校事故における裁判の判例から	事前学習	学校保健実務必携の学校救急処置に関するページ (pp.1062～1082) を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	学校事故の裁判事例に関するディスカッションを総括し、その留意点について考えをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 10 回	⑤学校環境衛生 ・定期検査、日常点検、臨時検査 ・日常点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校環境衛生に関するページ (pp.80～165) を参照。教科書 pp.215～226 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の日常点検を実施して気づいたことや感じたことをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 11 回	学校安全 ・学校安全の基礎的事項 ・安全点検の実践	事前学習	学校保健実務必携の学校安全に関するページ (pp.969～1061) を参照。教科書 pp.189～214 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	教室内の安全点検を実施して気づいたことや感じたことをワークシートにまとめファイリングしていく。
第 12 回	児童生徒の健康課題 ・児童のかかりやすい疾患 ・アレルギー ・歯科疾患と学校保健 ・保健指導案の作成	事前学習	学校保健実務必携の歯・口の健康づくり (pp.712～762) (学校保健実務必携 pp.447～474/pp.475～506 参照) 教科書 pp.178～188 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	事前に作成した (歯についての指導案を再検討) 気づいた点、改善点をワークシートにまとめファイリングしていく。
第 13 回	児童生徒の発育発達と体力 ・学校保健統計調査から ・体力・運動能力調査から	事前学習	最新の学校保健統計調査、体力運動能力調査に目を通し、児童生徒の特徴をつかんでおく。
		事後学習	児童の発育発達・体力の現状から、学校が推進することのできる対策をワークシートにまとめファイリングしていく。
第 14 回	精神の健康・障害のある児童生徒への対応 ・いじめ、(不登校) の実態から	事前学習	事前に配布するいじめに関する資料を熟読し、自分の考えをまとめておく。教科書 pp.167～177 を熟読し、基礎的事項を整理しておく。
		事後学習	児童のいじめに関する現状から、学校が推進することのできる対策をワークシートにまとめファイリングしていく。
第 15 回	まとめ：「学校保健への参画のあり方」 ・最終課題レポートに記載した内容に基づいて、グループディスカッションを行う。 ・学校保健活動推進のポイントを共有する。	事前学習	最終課題レポートの作成をする。
		事後学習	グループディスカッションを通して新たに得た考え方を踏まえ、全講義内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	家庭科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL3319
2. 授業担当教員	杉山 憲江			
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容、指導方法などについて教授する。さらに実際の家庭科学習のありかたを具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。			
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 題材構成を工夫し単元学習指導計画案を個々に構想し、学習指導案を作成する。 課題 2 グループで学習指導案を基に模擬授業を行い、授業工夫について学びあう。 課題 3 「社会変化に対応した小学校家庭科授業づくりについて」論述文を作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】内野紀子・藤原孝子編著『小学校新学習指導要領の展開 家庭科編』明治図書。 古田豊子「小学校家庭科」指導法テキスト 開隆堂 2015 年 【参考書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版社。H20 年 8 月 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	積極的な授業参加	30%	模擬授業の発表	20%
	レポート(学習指導の単元構想計画案の作成)	30%	課題論述試験	20%
12. 受講生へのメッセージ	変化の激しい今日の社会において「家庭科教育」を通し、子どもたちに生きる力を育んでいくための指導法など専門的知識や技術の獲得をめざしながら、教師としての思考力・創造力・問題解決能力を高めるため、自己研鑽に励むことを望みます。模擬授業の構想・作成など授業への積極的な参加態度を期待します。特に、課題に対する意見やグループディスカッションでは意欲的な発言を心がけてください。			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)にて周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (学習日程や模擬授業の方法・評価などシラバスの説明) 社会変化に対応した小学校家庭科授業づくりについて 社会変化における子どもたちの実状や家庭生活変化について話し合いを通して把握する。	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。	
		事後学習	現在の社会変化が家庭生活にどんな影響を与えているのか授業を通して理解したポイントをまとめておく。	
第 2 回	小学校家庭科で培いたい資質・能力とは 小学校家庭科の基礎基本について現代社会の急速な変化部分に目を向けディスカッションを通して小学校家庭科教育で培いたい資質・能力を明らかにしていく。	事前学習	教科書第 1 章 pp.7～20 を読んで授業に臨む。	
		事後学習	小学校家庭科の基礎基本とは何か、どのような資質を身につけさせたいかまとめておく。	
第 3 回	小学校家庭科の教科の目標と学習内容 1 (指導計画のたて方) 小学校学習指導要領 H23 年改訂内容の理解と家庭科教育の変遷の概略を学ぶ。	事前学習	教科書第 2 章 pp.21～36 を読んで授業に臨む。	
		事後学習	H23 年改訂学習指導要領における改訂基本方針についてまとめておく。	
第 4 回	小学校家庭科の教科の目標と学習内容 2 (題材構成の工夫) 学習指導案における教材観の書き方について実践例などを基に学ぶ。	事前学習	学習指導要領解説 p.6 の学習内容区分を基に題材構成を工夫した単元を構想しておく。	
		事後学習	教科の目標や学習内容構成にあった単元を構想するところまで見直し、仕上げておく。	
第 5 回	家庭科における実践的な態度の育成について(単元指導計画・題材構成) 単元全体の計画の立て方を学び、自分なりの構想を表現する。	事前学習	単元指導計画を作成するための資料研究をする。	
		事後学習	単元指導計画を構想するところまで見直し、仕上げておく。	
第 6 回	小学校の家庭科の学習方法と指導方法 授業例を基に指導計画の見方と書き方を理解する。	事前学習	教科書 5 章 pp.86～140 の家庭科モデル案について読んでおく。	
		事後学習	単元指導計画の指導支援の留意点など推敲しておく。	
第 7 回	本時の学習の作成 「家庭科」と総合的な学習の時間・道徳・他教科の関連などが組み込まれているか指導計画における配慮事項など適切に表現されているかなど見直し、仕上げていく。	事前学習	教科書 8 章 pp.165～168 を読んで授業に臨む。本時の展開について構想しておき、授業に臨む。	
		事後学習	個別の学習による家庭科学習指導案を仕上げる。	
第 8 回	学習指導案の作成方法と評価方法	個別学習指導案を	事前学習	個で仕上げた学習指導案の発表の準

	単元の目標と評価とのかかわりについて学び、指導案の中にどう生かすのか理解する。	仕上げる。		備をする。
			事後学習	個で仕上げた学習指導案に対する題材構成・目標・指導計画・本時の学習の繋がりを見直しする。
第 9 回	個別学習により作成した指導案を発表する。1 発表しあう中で質問や気づいたことなど発言し合い、学びあう。		事前学習	個で仕上げた学習指導案の発表の準備をする。
			事後学習	個で仕上げた学習指導案を見直しし提出する。
第 10 回	個別学習により作成した指導案を発表する。2 自己評価相互評価を行い家庭科学習指導案について学びあう。		事前学習	グループの人に自分の作成した学習指導案の説明ができるよう準備する。
			事後学習	グループの中でどの題材をとりあげるかを決める。
第 11 回	学習指導案を作成 1 個別学習によって作成した指導案学習を基にグループで題材を構成し単元の学習指導案を作成する。	第 11 回～第 15 回 ・学習展開の作成 ・模擬授業準備 ・模擬授業 (グループ学習)	事前学習	グループでそれぞれの分担を決め、内容を理解しておく。
			事後学習	グループで単元構想の作成を見直ししておく。
第 12 回	学習指導案を作成 2 学習指導案を仕上げ見直し、提出するとともに発表の準備を行う。		事前学習	本時の学習展開の資料を準備する。
			事後学習	模擬授業に対するグループ内の共通理解を図る。
第 13 回	模擬授業 1 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)		事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。
			事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについて評価をする。
第 14 回	模擬授業 2 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)		事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。
			事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについての感想を伝える。
第 15 回	模擬授業 3 模擬授業を振り返って講評するなど相互評価を行い、学びあう。 授業の工夫についてグループディスカッションする。(グループ学習)	事前学習	模擬授業をする場合は授業準備。受ける側の場合は指導案の内容理解をしておく。	
		事後学習	学習指導案と模擬授業について自分の考えや課題をまとめ、他グループについての感想を伝える。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	家庭科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3433
2. 授業担当教員	富永 弥生		
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーションなど	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	家庭科の教科としての意義や、小学校家庭科の目標、内容、指導方法などについて教授する。さらに実際の家庭科学習のありかたを具体的な学習指導計画や学習指導案などの作成を通して、実践的に検討し提案する。		
8. 学習目標	1. 小学校家庭科の特質とその役割を知り、指導対象となる児童の生活実態や家庭科学習に関する背景的要因などを理解する。 2. 小学校家庭科の授業計画を構想し、具体的な学習指導計画や学習指導案、授業展開、評価などができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	小学校「家庭」についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを授業の事前学習とする。課題 (指導案作成、レポート) については、授業内で告知・解説する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版社、2008 年。 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版、2015 年。 【参考書】 東京学芸大学附属小金井小学校『あすの授業アイデア チョイ引き活用事典』学事出版、2006 年。 内野紀子『小学校学習指導要領の解説と展開 家庭編』教育出版、2008 年。 金子佳代子・藤原孝子『平成 20 年版小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり家庭』東洋館出版、2008 年。 田中孝一『新評価規準を生かす授業づくり小学校編第 4 巻家庭科・体育科・特別活動』ぎょうせい、2011 年。 日本家庭科教育学会『生きる力をそなえた子どもたち』学文社、2013 年。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題 (指導案作成、模擬授業) 40%、レポート課題・レスポンスシート 30%、受講態度 30%とする。 ・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。 ・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。 		
12. 受講生への メッセージ	小学校の家庭科で、どのように題材を構成すると目標に迫ることができるのか、本科目で行う学習指導案の作成や模擬授業の実施・参観をとおして学んでほしいと考える。教材・教具の工夫や開発など、受講生の主体的な受講態度を期待している。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 子どもの発達をささえる家庭科	事前学習	シラバスを読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 2 回	指導計画の作成	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 3 回	家庭科における題材構成の考え方 学習指導案の作成について	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 4 回	学習指導案の作成 (演習)	事前学習	模擬授業で扱う題材に応じて教材研究を行った資料を準備する。
		事後学習	作成中の学習指導案への加除修正案を考える。
第 5 回	学習指導案の作成 (演習) 教材・教具の作成 (演習)	事前学習	作成中の学習指導案で活用する予定の教材・教具の作成に必要な文具等を準備する。
		事後学習	模擬授業の学習指導案を完成させた後、教材・教具の作成を進める。
第 6 回	授業の参観する視点について	事前学習	教科書の指定箇所を読む。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をまとめる。
第 7 回	模擬授業の実施・参観と協議 (1)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 8 回授業開始時に提出)
第 8 回	模擬授業の実施・参観と協議 (2)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 9 回授業開始時に提出)
第 9 回	模擬授業の実施・参観と協議 (3)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。

		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 10 回授業開始時に提出)
第 10 回	模擬授業の実施・参観と協議 (4)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 11 回授業開始時に提出)
第 11 回	模擬授業の実施・参観と協議 (5)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 12 回授業開始時に提出)
第 12 回	模擬授業の実施・参観と協議 (6)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 13 回授業開始時に提出)
第 13 回	模擬授業の実施・参観と協議 (7)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 14 回授業開始時に提出)
第 14 回	模擬授業の実施・参観と協議 (8)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 15 回授業開始時に提出)
第 15 回	授業のまとめ	事前学習	第 14 回までの授業で自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、科目内容の理解を確認する。

1. 科目名 (単位数)	家庭支援論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3328 SNMP3328 SCMP3328 SBMP3328 SJMP3120
2. 授業担当教員	中嶋 一郎		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育実践に不可欠の知識・技能を学習するものである。 具体的な内容としては、保育士として家庭、地域などを視野に入れた子育て家庭に対する支援のあり方や支援体制等について理解をする。さらに保育相談支援の意義や内容、方法など子育てを行う保護者支援の基本を理解する。		
8. 学習目標	1.家庭支援に必要な考え方を理解し、実践で活かせるようにする。 2.子育て支援に必要な支援に関連する福祉制度に規定された支援機関・体制を理解する。 3.子育て支援に必要な支援方法、及び関連機関との連携を理解し、実践で活かせるようにする。 4.保育相談に係る考え方と具体的な方策を理解し、実践で活かせるようにする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習ができるように予習を兼ねたアサイメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第1回の授業開始までに「家庭支援の意義」について調べてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。(字数は任意)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】なし		
11. 成績評価の方法	成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。 日常の授業態度 (発表、質問は加点、欠席、私語等は減点) 45%、レポート 55%。		
12. 受講生へのメッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 家庭支援の意義と役割 家庭の意義と機能・家庭支援の必要性 保育士等が行う家庭支援の原理	事前学習	家庭支援の意義について調べてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	家庭支援の意義と役割を理解し、保育士として行う支援について説明が出来るようにする。
第2回	家庭生活を取り巻く社会的状況① 現代の家族と人間関係 地域社会の変容と子育て家庭	事前学習	「コミュニティ」と「アソシエーション」という言葉についての意味の違いをまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	地域における人のつながりが希薄になった原因を理解し、子育て家庭が抱えるニーズを説明できるようにする。
第3回	家庭生活を取り巻く社会的状況② 男女共同参画とワーク・ライフ・バランス	事前学習	ワーク・ライフ・バランスという言葉について調べたレポートを作成しておく。
		事後学習	女性の社会進出による子育て家庭が抱えるニーズの変化を理解して、説明出来るようにする。
第4回	子育て家庭の支援体制 子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源 子育て支援施策、次世代育成支援施策の推進	事前学習	子育て支援の具体的なサービスを法的根拠の関係を明らかにした上でまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	子育て支援に関する国の施策を理解し、説明できるようにする。
第5回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連携① 子育て支援サービスの体系とその内容 保育所入所児童の家庭への支援	事前学習	保育所に子どもを預ける家庭が抱える問題を整理したレポートを作成しておく。
		事後学習	子育て支援サービスの概略を理解し、説明出来るようにする。また、子育てをする家庭が抱えている問題を理解し、それに対応するサービスを説明できるようにする。
第6回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連携② 地域子育て家庭への支援 要保護児童及びその家族に対する支援	事前学習	要保護児童が抱える生活の問題点をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	地域における子育て支援の概略を理解し、それを説明できるようにする。
第7回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連	事前学習	子育て支援の課題をまとめたレポートを作成してお

	携③ 子育て家庭支援における関係機関との連携 子育て支援の福祉を図るための課題		く。
		事後学習	子育て支援が対応しなければならない子育て家庭の現状と課題を理解し、それらの対応策を考える。
第 8 回	保育相談支援の意義 保育相談支援とは何か 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援	事前学習	保育の専門性についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育相談支援の意義を理解し、専門性をどのように利用しながら支援を行うのかを説明できるようにする。
第 9 回	保育相談支援の基本① 子どもの最善の利益と福祉の重視 子どもの成長の喜びの共有 保護者の養育力の向上に資する支援	事前学習	子どもの最善の利益を具体的にまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の重要性を学び、具体的な家庭への支援の方法を学ぶ。
第 10 回	保育相談支援の基本② 信頼関係を基本とした受容的関わり、自己決定、秘密保持の尊重 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力	事前学習	バイスティックの 7 原則についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育相談支援を実施する際に必要な相談を受ける際の方法、および目的達成のための技術を理解し、説明できるようにする。
第 11 回	保育相談支援の実際① 保育所における保育相談支援 保育相談支援の方法と技術	事前学習	バイスティックの 7 原則で相談支援を実施する際、一番大事だと考える要素とその理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育所で行う保育相談支援を具体的に理解し、実際に行えるようにする。
第 12 回	保育相談支援の実際② 保育相談支援の展開場面と手段 保育相談支援の展開過程と評価	事前学習	保育所で相談支援を行う場面はどのような場面があるのかをまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育相談を展開する課程を理解し、実際に行えるようにする。
第 13 回	児童福祉施設における保育相談支援① 保育所における保育相談支援の実際・特別な対応を要する家庭への支援の実際 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する保育相談支援の実際	事前学習	保育所・児童養護施設での親との関わりにおいて気をつけなければいけない点をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育所・児童養護施設に子どもを預ける親の特徴と関わり方を理解し、実践で行えるようにする。
第 14 回	児童福祉施設における保育相談支援② 障害児施設における保育相談支援の実際 母子生活支援施設や児童館・放課後児童クラブなどでの保育相談支援	事前学習	障害児施設、母子生活支援施設、児童館・放課後児童クラブでの親との関わりにおいて気をつけなければいけない点をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	障害児施設、母子生活支援施設、児童館・放課後児童クラブに子どもを預ける親の特徴と関わり方を理解し、実践で行えるようにする。
第 15 回	まとめ 保育士としてどのような保育相談支援を実践するのか。	事前学習	保育士として保育相談支援を行う際に大事にしなければならないと思ったこととその理由をレポートにまとめる。
		事後学習	保育相談実践を行う上で保育士として支援を行う際、大事にしたいことを説明できるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	韓国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1316 GECM1326
2. 授業担当教員	尹 文九			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	韓国の文化と言語Ⅰでは言語を中心に講義を行なったが、Ⅱでは言語と文化両方を学習する。言語については基本的な挨拶から日常会話をはじめ、漢数詞、固有数詞などを応用し、会話を深める。文化については一般的な理論講義と共にビデオや現地見学(コリアタウン、高麗神社)などを併行して講義を行ない、より深い韓国文化の理解を高めることも目的とする。したがって、本授業は基本的なハングル文字を理解し、韓国の文化に興味を持っている学生が授業の対象として望ましい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの文字と単語を覚える 2. 基本的な日常会話ができるように学習する 3. 現代の韓国社会の政治・経済・社会・文化などについて理解する。 4. 韓国の伝統文化・名節について理解する。 5. 韓国の歴史や世界遺産などについて理解する。 6. 韓国の文化を直接的に体験し、より深い文化を理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人レポート：韓国の文化の中、一つを選び、日本と相違点や類似点についてまとめる 2. グループレポート：グループで発表した内容をまとめる 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 李昌圭『韓国語を学ぼう(初級)』朝日出版社、2006。 【参考書】 齊藤明美『言葉と文化の日韓比較』世界思想社、2005。 海外文化広報院『韓国のすべて』海外文化広報院、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。 金真外『韓国文化化を読む』朝日出版社、2011。			
11. 成績評価の方法	レポート及びミニテスト：40% 発表および授業態度：40% 予習ノート：20% なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。			
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加することや発音などの練習のときは大きな声を出すこと。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときはきちんと傾聴すること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	シラバス説明と現代韓国社会の理解	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと	
		事後学習	現代韓国社会について理解したことをノートにまとめる	
第2回	ハングル文字(母音と子音)について	事前学習	テキスト p.3 の文字を 10 回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えたハングル文字を確認する	
第3回	挨拶の言葉	事前学習	pp.34~35 のハングルを 10 回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた挨拶の言葉を確認する	
第4回	教室の言葉	事前学習	pp.36~38 のハングルを 10 回ずつノートに書く	
		事後学習	覚えた教室の言葉を確認する	
第5回	韓国の伝統文化について(ビデオ)	事前学習	韓国の伝統文化についてノートにまとめる	
		事後学習	ビデオを見て伝統文化について理解したことをノートにまとめる	
第6回	韓国の歴史について	事前学習	韓国の歴史について時期を区分し、ノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解されたことをノートにまとめる	
第7回	韓国の大衆文化について	事前学習	韓国の大衆文化について調べてまとめる	
		事後学習	授業で理解されたことをまとめる	
第8回	儒教と韓国について	事前学習	韓国の儒教の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	儒教が韓国社会に及ぼした影響についてノートにまとめる	
第9回	家族制度の日韓比較について	事前学習	韓国の家族制度の特徴についてまとめる	
		事後学習	韓国と日本の家族制度の違いや類似点についてまとめる	
第10回	食文化の日韓比較	事前学習	韓国の食文化の特徴についてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解したことについてノートにまとめる	
第11回	韓国の徴兵制度について	事前学習	韓国の徴兵制度についてまとめる	
		事後学習	俯仰で理解した内容をノートにまとめる	
第12回	位置関係の言葉について	事前学習	p.69 のハングルを 10 回ずつノートに書く	
		事後学習	位置関係の言葉を理解し、確認する	
第13回	韓国の社会(名節)について(ビデオ)	事前学習	韓国の社会(名節)についてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解した内容をまとめる	
第14回	韓国の世界遺産について	事前学習	韓国の世界遺産にはどのようなものがあるのかについてノートにまとめる	
		事後学習	授業で理解した内容をノートにまとめる	
第15回	韓国の伝統遊び「ユンノリ」体験	事前学習	ユンノリについて調べ、遊び方のルールをまとめる。	
		事後学習	感想をまとめる	

1. 科目名 (単位数)	看護臨床実習指導 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE3378
2. 授業担当教員	面川 幸子		
4. 授業形態	グループワーク・ディスカッションを中心に、講義・発表・実技演習などで構成する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目では、養護教諭を志す実習生が「看護学 (救急処置を含む)」を中心とした既習の知識・技術等を活用して、主体的に看護臨床実習に臨む力を培うことを目指している。なお、養護教諭としての実践力を高めるためには、学校との連携が不可欠な、地域の医療を必要とする人々の理解や、医療現場、医療に携わる人々、専門性に基づいた看護業務に関する理解等が求められる。</p> <p>そして、看護は患者ではなく「その人」をみる。看護行為は専門性に基づいた意図的な営みであり、意図していなかった意味もある。本科目では、この考え方を基盤に、看護臨床実習の場で実習生が学びを得るために必要となる、基礎的知識や技術、態度や心構えなどを学ぶ。また本科目は、学生が主体的に学習課題を見出した上で、グループでの学びを自己課題へとつなげていくことができるよう展開する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭を志す学生にとっての看護臨床実習の目的を理解し説明することができるようになる。 2 養護教諭を志す実習生の心得と学び方や態度について学び、実践することができるようになる。 3 健康障害のある人々や、検査や治療を必要とする人々が体験している生活を想定し、看護の役割に関する自己の考えを記述することができるようになる。 4 看護臨床実習におけるその場で、実習生が意図的な「観察」や「参加・実習」をし、学びを得るための準備をすることができる。 5 看護臨床実習において、安全・円滑に実習が進み、より多くの体験やできることに向けて、基礎的な看護技術を体験し、学びと課題の自覚をすることができる。 6 看護臨床実習において、場や状況の理解ができるようになるために、医療現場の組織や設備に関することを学び、医療現場にある人的・物的資源を調べる方法を見出すことができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポート課題 1】「養護教諭を志す自己が看護臨床実習において学びとりたいこと」</p> <p>【レポート課題 2】「看護臨床実習における自己目標と自己課題」</p> <p>※ 提出期限については、授業中に提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>中桐佐智子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.5 改訂 養護教諭のための保健・医療・福祉系実習ハンドブック』東山書房。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田加奈子・遠藤伸子・池添志乃編『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に—』東山書房。 ・中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著『養護教諭必携シリーズ No.3 最新看護学』東山書房。 ・藤井寿美子・山口昭子・佐藤紀久榮・采女智津江編著『養護教諭のための看護学』大修館書店。 		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的参加度、受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加度・受講態度 総合点の 30% 2 レポート提出状況 総合点の 30% 3 レポートの内容 総合点の 40% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「臨床」とは？「実習」とは？ 養護教諭を志すあなた自身の人生の中で、「看護臨床実習」は、誰に、どのような意味があるものとなるのでしょうか。「臨床」には、その時、なぜ、どのような人々がいて、なぜ、養護教諭を志すあなたと出会うのでしょうか。そして現在、あなたは誰と共に、なぜ、何を学ぼうとしているのでしょうか。行為や動作の 1 つひとつには、どのような根拠や意味があったのでしょうか。本授業では、このようなことを考えながら本授業に臨んだ人としての学びを、授業への積極的参加度や受講態度・レポートの形で評価します。</p> <p>教員は、学生自身が学習目標を達成できるよう、知識や技術の伝達のみでなく、学生に向き合い、共に考え、悩み、学ぶ喜びを共に見出せるよう努めます。そして学生の中に、向き合う力・つなげる力・考える力・発見する力・表現する力が培われていくことを期待しています。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・カリキュラムにおける本科目の位置づけ ・本科目の学習目標・学習内容・学習方法 ○「臨床」とは・「専門性」とは ○看護臨床実習の目的と意義 	事前学習	養護教諭取得を志す自分にとって、なぜ看護臨床実習に臨む必要があるのかを考え、発表できるようにしておく。(教科書 pp.8~14)
		事後学習	教科書を参考にしながら、自らが看護臨床実習に臨む目的について、まとめておく。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ○看護臨床実習の方法 ・実習機関・実習内容・実習形態 ○「実習」とは・実習生の心得・学び方・態度 ○看護臨床実習に向けた自己課題 	事前学習	教科書 pp.14-23 を読み、どのように感じたかをまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	養護教諭を志す自分が看護臨床実習において学びとりたいことについてまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ○医療系施設の種類の分類 ○病院の概要 ・病院の組織・医療従事者・看護部門の組織 ・病院内の施設・設備 ○病院において看護臨床実習に臨むことの意味 	事前学習	教科書 pp.26-32 を読み、わかったこと、わからなかったことを、発表できるようにしておく。
		事後学習	自分が病院実習で学ぶべきと考えることにつ

			いて、まとめておく。
第 4 回	○看護過程・看護記録について ○各診療科に共通して見学・参加可能な実習内容について（本学の実習日誌を含む）	事前学習	教科書 pp.36-42 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	教科書 pp.43-45 を参照し、看護臨床実習に向けての自己学習課題をまとめておく。
第 5 回	○各診療科における看護臨床実習① ・グループ学習課題の決定 ・グループワーク：第 7 回の講に向けての学習計画	事前学習	教科書 pp.44-74 に目を通し、取り組みたいグループ学習課題を 2 つ決めておく。
		事後学習	グループワークを通しての自己学習課題に関する学習をしておく。
第 6 回	○各診療科における看護臨床実習② 〈グループワーク〉 ・調べてきた知識や学びの共有 ・発表に向けた準備	事前学習	グループワークに向けて必要な資料を準備し、説明できるようにしておく。
		事後学習	グループワークを通しての、発表に向けた自己学習課題に関する学習をしておく。
第 7 回	○各診療科における看護臨床実習③ 〈グループ発表〉：「小児科」「精神科・心療内科」「内科」「整形外科」「眼科」「歯科口腔外科」「耳鼻咽喉科」「皮膚科」「産科・婦人科」「(その他)」などのグループごとに、次の学習内容を発表する。 ・当該診療科の特色・実習の目的と目標（外来と病棟） ・実習の内容（外来と病棟）・学校保健に関する症状・疾患、及び検査・治療について ・看護師が目指していると思われること ・養護教諭を目指す学生が学びとるべきと考えること ・（診療科に限定せず）第 8 回～第 13 回での学習課題	事前学習	グループ発表における質疑応答も踏まえた準備をしておく。
		事後学習	グループ発表での学びを想起しながら教科書 pp.44-74 を読み、自己学習課題を明らかにしておく。 また、健康障害のある人々や検査や治療を必要とする人々の生活体験と、看護の役割についてまとめる。
第 8 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習① （ベッドメイキング・環境整備等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。pp.145～149
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 9 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習② （着脱・清潔・排泄に関する援助等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。Pp.150～
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 10 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習③ （移動・移送・体位変換等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。pp.141～144
第 11 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習④ （身体計測・フィジカルアセスメント等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 12 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習⑤ （無菌操作・包帯法等を想定）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 13 回	○看護臨床実習に向けて見出した課題に関する学習⑥ （看護の専門性・看護業務・医療用語・医療機器・医療設備等を想定）（本学の実習日誌を含む）	事前学習	予定の学習課題に関する内容に関して、教科書等の該当部分を読んでおく。
		事後学習	教科書や既習科目の該当部分、その他の文献を参照しながら授業での学びをふり返り、自己課題をまとめておく。
第 14 回	○看護臨床実習の目標の明確化 ○看護臨床実習に向けての自己課題の明確化（本学に実習日誌を含む）	事前学習	現在の自分が考える看護臨床実習の自己目標および自己課題をまとめ、発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および課題をまとめておく。
第 15 回	○看護臨床実習記録の書き方・評価の仕方 ○看護臨床実習に臨む上での心構え ○本科目全体を通しての学びの想起（まとめ）	事前学習	教科書 pp.74-82 を読み、わかったこと、わからなかったことを発表できるようにしておく。
		事後学習	授業での学びを踏まえて、看護臨床実習の自己目標および自己課題を新たにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I A (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3211
2. 授業担当教員	チームティーチング		
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	2年次までの教職課程科目並びにキャリア基礎演習 I /キャリア基礎演習 II をすでに単位取得していることが望ましい。		
7. 講義概要	教員には、校種別の専門的知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身に付けることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習 I (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習 I A (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア開発演習 I A においては、「教職教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力を身につけることを目標とする。各回の演習においては、「教職教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身に付け、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得することができる。 2. 教職教養の各領域の出題傾向を理解したうえで、各自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 教職教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 教職教養の各領域の過去問演習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集等に取り組み、自己学習できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 習熟度確認テストおよびレポート課題 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】東京教友会編著『教職教養ランナー 2016 年度版』一ツ橋書店。</p> <p>【参考書】協同教育研究会編『教職教養の精選実施問題』協同出版。 協同教育研究会編『過去問シリーズ：〇〇県 (自治体別に出版) の教職教養』協同出版。 資格試験研究会編『教職教養らくらくマスター』実務教育出版。</p> <p>【配布資料】各回の演習で資料を配布する。 その他、自らが学習しやすい参考書を参照すること。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>出席状況及び授業態度 30%</p> <p>各回の確認テスト 50%</p> <p>習熟度確認問題演習およびレポート課題 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ② 「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ③ 遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④ わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑤ 本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワー (時間割掲載のオフィスアワー欄を参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の目標と進め方。	事前学習	シラバスで授業内容を確認してくること
		事後学習	テキストの「まえがき」の部分を熟読しておくこと
第 2 回	教育法規① (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 1 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 3 回	教育法規② (教科書 pp.7-35) *確認テストを実施	事前学習	第 2 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 4 回	教育法規③ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 3 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 5 回	教育法規④ (教科書 pp.35-56) *確認テストを実施	事前学習	第 4 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 6 回	生徒指導・安全指導① (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 5 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 7 回	生徒指導・安全指導② (教科書 pp.151-188) *確認テストを実施	事前学習	第 6 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 8 回	生徒指導・安全指導③ (教科書 pp.151-188)	事前学習	第 7 回時に指定された範囲の予習をしておくこと

	* 確認テストを実施	事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 9 回	生徒指導・安全指導④(教科書 pp.151-188) * 確認テストを実施	事前学習	第 8 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 10 回	教育心理①(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 9 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 11 回	教育心理②(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 10 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 12 回	教育心理③(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 11 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 13 回	教育心理④(教科書 pp.293-326) * 確認テストを実施	事前学習	第 12 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 14 回	現代の教育①(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 13 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 15 回	最新過去問テスト(教職教養分野)	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備えること
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにすること
第 16 回	現代の教育②(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 15 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 17 回	現代の教育③(教科書 pp.209-240) * 確認テストを実施	事前学習	第 16 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 18 回	西洋教育史①(教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 17 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 19 回	西洋教育史②(教科書 pp.241-264) * 確認テストを実施	事前学習	第 18 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 20 回	日本教育史①(教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 19 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 21 回	日本教育史②(教科書 pp.265-292) * 確認テストを実施	事前学習	第 20 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 22 回	人権尊重の教育①(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 21 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 23 回	人権尊重の教育②(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 22 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 24 回	人権尊重の教育③(教科書 pp.189-208) * 確認テストを実施	事前学習	第 23 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 25 回	教育課程と教授・学習① (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 24 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 26 回	教育課程と教授・学習② (教科書 pp.327-334) * 確認テストを実施	事前学習	第 25 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 27 回	学習指導要領①(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 26 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 28 回	学習指導要領②(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 27 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 29 回	学習指導要領③(教科書 pp.335-383) * 確認テストを実施	事前学習	第 28 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 30 回	習熟度確認問題演習/秋期のまとめ/ 授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること
		事後学習	習熟度確認問題演習及びレポート課題を通じて自己の成果と課題を確認すること

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I B (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3212 GECD3262
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、養護教諭教員採用試験対策を柱に据えつつ、養護教諭としての資質・能力をさらに向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、これまでに身につけてきた養護教諭としての基礎的な能力をさらに発展させ、児童生徒の複雑かつ多様な健康課題に対応できる高度な専門性を習得することを目指す。また講義に取り組む中で、養護教諭という職業への責任と使命感を再確認し、意欲的な自己学習を定着させていくことを目指す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員採用試験に合格し、養護教諭として現場で活躍するための発展的知識・技術を確実に習得し、実践に活かすことが出来る。 2. 児童生徒の健康課題に対する判断力・対応力を磨き、高度な専門職としての資質をさらに向上させる。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、内容の定着を図る。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 4. 養護教諭の職務に関する小論文執筆 (夏季および冬季休業期間中) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 東京アカデミー編『オープンセサミシリーズ 2017 年度教員採用試験ステップアップ問題集⑩養護教諭』 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校保健実務必携 第 3 次改訂版』第一法規、2011 年。 (2 年時購入済み) 『2016 年度版 教員採用試験よくわかるシリーズ「よくわかる養護教諭」』時事通信出版、2016 年。 (2 年時購入済み) その他 文部科学省、日本学校保健会より出版されている冊子など		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加度・修正したテスト答案の提出 (30%) 2. 演習問題振り返りシートの記入および日常的な自己学習への取り組み (20%) 3. 毎回の演習問題、半期ごとのまとめ課題への取り組み (30%) 4. 採用試験対策の小論文 (20%) 		
12. 受講生への メッセージ	養護教諭専門科目での既習事項とリンクさせながら、2 年次までに身につけてきた養護教諭として基礎基本をさらに発展させ、教員採用試験 1 次試験合格を目指しましょう。養護教諭としての専門性をさらに向上させ、学校現場で活躍することのできる知識・技術の習得を目標に、一つ一つクリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	初回講義にて告知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・2 年次最終課題テストの再テスト ・全国の出題傾向等 ・教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	自らの受験する自治体の受験情報を調べ、必要な準備についての見通しを持つ。
第 2 回	学校保健 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校保健に関するページ (pp.2~10) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校保健の演習問題に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 3 回	学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校安全に関するページ (pp.21~40) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った学校安全の演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 4 回	養護教諭の職務と保健室 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の養護教諭に関するページ (pp.56~75) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った養護教諭に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 5 回	保健教育① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp.100~124) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。(pp.125~132)
第 6 回	保健教育② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の保健教育に関するページ (pp.133~140) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った保健教育に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 7 回	健康診断① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp.151~159) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 8 回	健康診断② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康診断に関するページ (pp.161~171) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康診断に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。

第 9 回	健康相談・健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の健康相談に関するページ (pp.194~207) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った健康相談に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 10 回	疾病とその予防① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp.219~237) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 11 回	疾病とその予防② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の疾病に関するページ (pp.238~259) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った疾病に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 12 回	救急処置① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp.301~312) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 13 回	救急処置② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の救急処置に関するページ (pp.312~325) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った救急処置に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 14 回	論作文：「不登校の子どもへの養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	不登校の児童生徒への対応について、既習科目での学習内容を振り返っておく。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 15 回	春期問題演習のまとめと振り返り 今後の自己学習の進め方	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	半期の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標や自己学習計画を明確化する。
第 16 回	学校環境衛生 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の学校環境衛生に関するページ (pp.363~372) を読んでおく。
		事後学習	本時に行った学校環境衛生に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 17 回	関係法規 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	教科書の関係法規に関するページ (pp.388~395) を読み、基礎的事項を押さえておく。
		事後学習	本時に行った関係法規に関連する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 18 回	実践問題① (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 19 回	実践問題② (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでに実施した演習問題をふりかえり、苦手分野について復習する。
		事後学習	本時に行った実践問題に関する演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 20 回	全国過去問演習① (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 21 回	全国過去問演習② (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 22 回	全国過去問演習③ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 23 回	全国過去問演習④ (マークシート方式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 24 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 25 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 26 回	全国過去問演習① (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 27 回	論作文：「いじめに対する養護教諭の支援」 (グループ討議・振り返り)	事前学習	いじめへの対応について、既習科目での学習内容をふりかえり、自分の考えをまとめる。
		事後学習	グループ討議をもとにして実際に小論文を執筆する。
第 28 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。
		事後学習	先輩の合格体験談を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。
第 29 回	全国過去問演習④ (記述式) (解説・討論・実技)	事前学習	事前に配布する過去問題に関連する資料に目を通し、予習する。
		事後学習	本時に行った過去問演習に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 30 回	秋期過去問演習のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 A コース) (2 単位)		3. 科目番号	GECD3214
2. 授業担当教員	チームティーチング			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	本科目では、学生が保育の専門職の中で自分に適した職種を発見し、それに必要な知識及び技術を主体的に深めていくことを目的とする。現場で働く先輩や外部講師の講義、あるいは今まで学んだ知識を総合して、子どもを取り巻く現代社会の様々な問題を理解し、保育者としての多様な活動の場について広く深く理解する。そこから自分の適性と自分自身の課題を見極め、保育の基礎知識を再確認し、実践との結び付ける力を獲得できるようにする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の専門職の中で自分の職業適性を知ることができる。 2. 自分にとって必要な課題を発見することができる。 3. 自分のキャリア形成に必要な課題を解決する力を習得する。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・3 年次春学期 (短期大学部は 2 年次春期) までの学習を振り返り、4 年次/3 年次の就職に向けて自己課題は何かを明確にし、レポートにまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『保育士・幼稚園教諭 論作文・面接対策ブック 2016 年度版』実務教育出版。			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 30% ・授業中に行われる小テスト、レポート課題など 70% 			
12. 受講生へのメッセージ	保育士になるためには、幅広い知識や技術、そして豊かな人間性や教養が求められる。この授業では、専門科目に関する知識の習得を中心に行うが、それらの力を確実に身につけていくためには、授業での復習を兼ねて自主学習の時間を設定し、根気よく学習を積み重ねていくことが必要である。要点を繰り返し暗記することによる学習の継続が皆さんの力になるよう頑張ってもらいたい。			
13. オフィスアワー	チームティーチングであるため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の内容、望ましい学習態度について 保育士、幼稚園教諭の就職について 「教育原理」	事前学習	自身の進路について考えをまとめる。	
		事後学習	教育の基本となる法律について、知識を習得する。	
第 2 回	現場の求める保育者について (外部講師)	事前学習	現場の求める保育者について自身の考えをまとめる。	
		事後学習	現場の求める保育者像を鑑み、自身の学習課題を見いだす。	
第 3 回	「音楽」	事前学習	今まで学習した「音楽」の授業内容から、重要な点をまとめる。	
		事後学習	就職試験のなかで、筆記試験として出題される音楽の内容を復習する。	
第 4 回	「幼児体育」	事前学習	今まで学習した「幼児体育」の授業内容から、重要な点をまとめる。	
		事後学習	就職試験に向けて、幼児体育の領域のなかで苦手な分野の練習を積み重ねていくための計画をする。	
第 5 回	「図画工作」	事前学習	今まで学習した「図画工作」の授業内容から、重要な点をまとめる。	
		事後学習	就職試験に向けて、図画工作の領域のなかで苦手な分野の練習を積み重ねていくための計画をする。	
第 6 回	「保育内容」、「保育実習」	事前学習	5 領域について、これまでの授業内容を復習する。	
		事後学習	自分の苦手な領域や技術を明らかにし、補強するための計画をたてる。	
第 7 回	「発達心理」、「教育心理」	事前学習	3 年次春学期までに学習した心理学関係の授業のノートを見直す。	
		事後学習	「発達心理」「教育心理」それぞれの重要な点をまとめる。	
第 8 回	目指す保育者像：ディスカッション	事前学習	自らの目指す保育者像をイメージする。	
		事後学習	自らの進路や将来像を想像し、必要な力は何かを考える。	
第 9 回	「社会福祉」、「児童福祉」	事前学習	福祉の定義を復習する。	
		事後学習	「社会福祉」と「児童福祉」の科目内容から重要な点をまとめる。本日の授業を振り返り、保育技術面での必要な能力を磨くための今後の具体的計画を立てる。	
第 10 回	「子どもの保健」 「子どもの食と栄養」	事前学習	大学で今まで学習した「子どもの保健」と「子どもの食と栄養」の教科書のなかで、重要な箇所をピックアップして読み、理解する。	
		事後学習	本日の授業を復習し、実習現場を思い出して理論と実践の統合をはかる。	
第 11 回	「保育原理」	事前学習	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」の第 1 章を読み、復習する。	
		事後学習	「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」のなかで重視している点をまとめる。	
第 12 回	保育における論述・面接応答	事前学習	自分の関心のある保育テーマを考える。	
		事後学習	自分の保育テーマを拓げ、自分の言葉で説明できるようにする。	
第 13 回	群馬県保育協議会 保育士採用統一試験 過去問題の演習	事前学習	第 1 回目から行った授業内容を復習する。「保育所保育指針」の各章のなかで学習不足な箇所を読み、理解する。	
		事後学習	本で行った群馬県統一試験の過去問を再度解答し、復習する。	
第 14 回	群馬県私立幼稚園協会 採用統一試験 過去問題の演習	事前学習	「幼稚園教育要領」の各章のなかで学習不足な箇所を読み、理解する。	
		事後学習	本で行った群馬県統一試験の過去問を再度解答し、復習する。	
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書 (問題集) を見直し、苦手な分野を明確にし、今後の学習計画を立てる。	
		事後学習	4 年次の就職試験に向けて自身の学習計画を立てる。	

1. 科目名 (単位数)	キャリア開発演習 I (保育士 B コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD3214
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD3266
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義では、これまでの専門科目の学習成果の統合を図り、社会的、制度的に公的役割を担う施設における保育専門職(保育士、保育教諭、幼稚園教諭を含む)の使命、規律、態度等を習得する。保育者として必要な専門知識を復習するとともに、幅広い内容の教養知識を確認し、専門職としての自覚をもつ。この授業で様々な知識を総合的に学び、適性を自覚し、保育全体を俯瞰した後、「キャリア開発演習Ⅱ」において、応用力、文章表現力、具体的問題への対応力、行動力の向上を目指す。		
8. 学習目標	1. 保育者として必要とされる基礎知識、専門知識を整理し、採用試験に役立てることができる。 2. 応用問題に対応する力を身につけることができる。 3. 自分自身のキャリア形成に必要な課題を発見することができる。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 授業時の予習復習 2. 自分が受験したいと考える自治体の保育士採用試験についてレポートを作成し発表する。 例) 自治体名、その自治体の特色、なぜその自治体を受験したいか、採用試験の内容、倍率、その他 3. 授業中に行われる過去問題試験の結果から自己課題を分析し、レポートにまとめる(2回)。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭採用試験問題集 2017 年度版』実務教育出版。 【参考書】保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭論文・面接対策ブック 2017 年度版』実務教育出版。 保育士採用試験情報研究会『スイスイわかる保育士採用試験』一ツ橋書店。		
11. 成績評価の方法	1. 日常の授業態度(参加、実践、態度) 40% 2. レポート課題 3回 60%		
12. 受講生へのメッセージ	保育者は人生で最も成長が著しい乳幼児期の子ども達を支えるやりがいのある仕事である。日々の学習を着実に積み重ねて自分の理想とする保育者になってほしい。そして自分の希望する職場への就職に結びつくように、目標を持って励んでほしい。そのためには毎日の予習復習等の自主学習が欠かせないことも理解すること。		
13. オフィスアワー	チームティーチングのため、各担当科目の教員のオフィスアワーを参照のこと。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス、公務員保育士について 公務員保育士模擬試験過去問題演習① (教養試験)	事前学習	自身の進路について考えをまとめてくる。
		事後学習	本日行った模擬試験過去問題について復習し、公務員保育士採用試験について自己課題を考える。
第 2 回	現場の求める保育者について(外部講師)	事前学習	現場の求める保育者について自身の考えをまとめてくる。
		事後学習	現場の求める保育者像を鑑み、自身の学習課題を見出す。
第 3 回	「適性検査」	事前学習	公務員採用試験で行われる適性検査について調べる。
		事後学習	「適性検査」の問題を復習する。
第 4 回	公務員保育士採用試験について(学生発表)	事前学習	公務員保育士採用試験についての発表の準備をする。
		事後学習	学生発表を聞き自身が受験する自治体について考える。
第 5 回	教養科目「数的推理・判断推理・資料解釈」	事前学習	教科書 pp.144~194 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「数的推理・判断推理・資料解釈」の内容を復習する。
第 6 回	教養科目「社会・人文・芸術・文章理解」	事前学習	教科書 pp.18~74 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「社会・人文系」の内容を復習する。
第 7 回	教養科目「自然科学系」	事前学習	教科書 pp.75~109 を学習してくる。
		事後学習	教養試験で出題される問題を含めて「自然科学系」の内容を復習する。
第 8 回	公務員保育士模擬試験過去問題演習② (教養試験)	事前学習	今までの教養科目の授業内容を復習し学習不足な箇所を再度学習する。
		事後学習	模擬試験過去問題を復習し、自己課題をレポートにまとめる。
第 9 回	専門科目「社会福祉・児童家庭福祉」	事前学習	教科書 pp.198~234 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「社会福祉・児童家庭福祉」の内容を復習する。
第 10 回	専門科目「保育の心理学」	事前学習	教科書 pp.248~275 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「保育の心理学」の内容を復習する。
第 11 回	専門科目「保育原理」「保育内容」	事前学習	教科書 pp.278~326 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「保育原理・保育内容」の内容を復習する。
第 12 回	専門科目「子どもの保健」	事前学習	教科書 pp.328~374 を学習してくる。
		事後学習	専門試験で出題される問題を含めて「子どもの保健」の内容を復習する。
第 13 回	公務員保育士模擬試験過去問題演習③ (専門試験)	事前学習	今までの専門科目の学習内容を復習し学習不足な箇所を再度学習する。
		事後学習	模擬試験過去問題を復習し自己課題をレポートにまとめる。
第 14 回	群馬県私立幼稚園協会 採用統一試験 過去問題演習	事前学習	「幼稚園教育要領」の各章の中で学習不足な箇所を読み、理解する。
		事後学習	本日行った群馬県私立幼稚園協会採用統一試験過去問題を復習する。
第 15 回	先輩からの話とディスカッション、まとめ	事前学習	教科書を見直し、苦手な分野を明確にして今後の学習計画を立てる。
		事後学習	公務員試験に合格した先輩の話から、自身の学習計画を再検討する。

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習 I (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD1311
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD1111
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	キャリア基礎演習 II、キャリア開発演習 I へとつながるキャリア関連学習の基礎となる科目である		
7. 講義概要	<p>教員になるためには「一般教養」をはじめ、校種・教科別の「専門教養」、あるいは教職に関する基礎的な教養としての「教職教養」等の知識を確実に身につけることが求められる。本学の教員採用試験対策は、1 年次(秋期)のキャリア基礎演習 I (「一般教養」対策)、2 年次のキャリア基礎演習 II A (「専門教養」対策)、3 年次のキャリア開発演習 I A (「教職教養」対策) という一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習 I では、教員になるための第一歩としての幅広い一般教養を身につけるために、各分野の担当教員が指定の教科書 (=テキスト) を使用して高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容を再確認しながら、教員採用試験における「一般教養」の各分野(人文科学・自然科学・社会科学)の重要ポイントをわかりやすく解説した上で、各回、授業内で問題演習を行うことにより、学習内容の理解のみならず、知識の確実な定着を図ることを目標とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本演習をとおして、高等学校卒業までに学んでおくべき学習内容に関する自らの未習得部分を確認することができる。 2. よりよい教員になるために必要な知識を学ぶ上での基本的な「学習の仕方」「学習計画の立て方」を習得する。 3. 自らの未習得あるいは苦手部分を克服するために、本講義で学んだ「学習の仕方」にしたがって基本を見据えた自己学習に取り組むことができる。 4. 各系統・各分野の重要ポイントを理解し、問題演習時の応用問題に対しても柔軟に対応できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の問題演習 (=「確認テスト」) 2. 次時の学習範囲の予習 3. 前時の学習範囲の復習 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】資格試験研究会編『教員採用試験一般教養らくらくマスター 2017 年度版』実務教育出版。 *大学の書籍販売等を通じて、必ず授業開始までに入手しておくこと。</p> <p>【参考書】各回、担当教員が適宜資料を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>以下の 3 つの観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況及び授業態度・・・30% ・各回の「確認テスト」・・・50% ・習熟度確認問題演習・・・20% <p>*期末試験は実施しない</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教員採用試験合格に向けての第一歩では、基本的な知識習得のための暗記・反復学習が重要となる。本演習においては、その基礎力を身につけることが目標であるため、受講生は以下のことを遵守すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①指定の教科書 (=テキスト) を必ず毎回持参すること。 ②授業ごとに限られた時間の中で重要ポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ③「確認テスト」までの暗記・反復学習時間は、静粛に取り組むこと。 ④遅刻および授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ⑤わからなかった点は各担当教員に積極的に質問すること。 ⑥学習の際には、その内容を理解するにとどまらず、中学生や高校生にわかりやすく教えるための方法を考え、独自のノートづくりにも取り組むなど、各自が積極的に自己学習を進めること。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合があります。その際にはコーディネーターが事前に連絡します。</p>		
13. オフィシアワー	各担当教員のオフィシアワーを参照		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション *本演習の進め方および予習・復習の仕方、テキスト内容の確認	事前学習	シラバスを熟読し、授業内容を確認してくること
		事後学習	テキストの「本書の特長と活用法」「出題傾向と対策」の部分を熟読しておくこと
第 2 回	人文科学① (国語分野 pp.14-41) *確認テストを実施	事前学習	第 1 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 3 回	人文科学② (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第 2 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 4 回	人文科学③ (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第 3 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 5 回	人文科学④ (日本史・世界史・地理分野 pp.42-107) *確認テストを実施	事前学習	第 4 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 6 回	自然科学① (数学分野 pp.196-211) *確認テストを実施	事前学習	第 5 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわか

			らなかった点などを復習しておくこと
第 7 回	自然科学②(数学分野 pp.196-211) *確認テストを実施	事前学習	第 6 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 8 回	自然科学③(物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 7 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 9 回	自然科学④(物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 8 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 10 回	自然科学⑤(物理・化学・生物・地学分野 pp.212-260) *確認テストを実施	事前学習	第 9 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 11 回	社会科学①(政治・経済・社会・労働分野 pp.150-189) *確認テストを実施	事前学習	第 10 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 12 回	社会科学②(政治・経済・社会・労働分野 pp.150-189) *確認テストを実施	事前学習	第 11 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 13 回	人文科学⑤(倫理・芸術分野 pp.108-129) *確認テストを実施	事前学習	第 12 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 14 回	人文科学⑥(英語分野 pp.130-140) *確認テストを実施	事前学習	第 13 回時に指定された範囲の予習をしておくこと
		事後学習	確認テストで出題された部分を見直し、よくわからなかった点などを復習しておくこと
第 15 回	習熟度確認問題演習/授業評価	事前学習	これまで学習した内容を復習してくること
		事後学習	習熟度確認問題演習の結果を通じて自己の成果と課題を確認すること

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡA (教員コース) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2311								
2. 授業担当教員	チームティーチング		GECD2211								
4. 授業形態	講義・問題演習	5. 開講学期	通年								
6. 履修条件・他科目との関係	「キャリア基礎演習Ⅰ (教員コース)」を履修していることが望ましい										
7. 講義概要	<p>教員には、校種別の専門知識、教育に関する基礎的な教養、一般教養などを身につけることが求められる。したがって、教員採用試験においても、専門教養、教職教養、一般教養の記述試験が課される。</p> <p>本学の教員採用試験の記述試験対策は、1 年次のキャリア基礎演習Ⅰ (一般教養)、2 年次のキャリア基礎演習ⅡA (専門教養)、3 年次のキャリア開発演習ⅠA (教職教養) と一貫したプログラムで構成されている。キャリア基礎演習ⅡA においては、「専門教養」の重要ポイントを理解し、問題演習を行い、実践力をつけることを目標とする。</p> <p>各回の演習においては、「専門教養」の各領域の傾向と対策の説明、重要ポイントの解説、過去問演習を行う。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する基礎的な教養を身につけ、それを教育の現場で実践するための応用力を獲得する。 2. 専門教養の各領域の出題を理解したうえで、各自自治体の出題傾向を自ら調べ、対策を立てることができる。 3. 専門教養の各領域の重要ポイントを理解し、説明できる。 4. 専門教養の各領域の過去問練習により、出題方法を実践的に理解する。そのうえで、自ら問題集などに取り組み、自己学習できる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各回の確認テスト 2. 次時の学習範囲の予習 <p>*事前学習は基本的な予習内容を記載したもので、実際の内容に関しては該当教官からの指示もあるので注意すること。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】小学校各学習指導要領解説書 (各教科・道徳・特別活動・外国語活動) 資格試験研究会編『小学校全科らくらくマスター』実務教育出版、2017 年度版</p> <p>【参考書】各回の演習で担当教員から適宜資料を配布する。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>各回の小テスト</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>授業への積極性</td> <td>・・・40%</td> </tr> <tr> <td>まとめのレポート</td> <td>・・・20%</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table>			各回の小テスト	・・・40%	授業への積極性	・・・40%	まとめのレポート	・・・20%		100%
各回の小テスト	・・・40%										
授業への積極性	・・・40%										
まとめのレポート	・・・20%										
	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>本演習においては、教員採用試験合格を目指して、基礎力・実践力を身につけることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の決まりを守る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①限られた時間の中でポイントを説明するので、授業中は集中すること。 ②自己学習の際には、静粛に取り組むこと。 ③私語、居眠り、携帯電話の操作は厳禁である。 ④本演習を契機として、各自が積極的に学習を進めること。重要ポイントの暗記、問題の反復練習が重要である。 <p>*なお、本演習は各分野の専門教員による T.T. (チームティーチング) で実施されるため、教員の事情等で学習範囲が変更される場合がある。その際にはコーディネーターが事前に告知する。</p>										
13. オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを参照										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	・オリエンテーション *本演習における特性と今後の展望。教科書の確認。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。								
		事後学習	小学校全科における学習内容を大まかに理解する (各教科等における年間時数表等を参照し把握)。								
第 2 回	国語科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 3 回	国語科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 4 回	国語科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅰ・Ⅱ」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅰ・Ⅱ」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 5 回	国語科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「漢字Ⅲ～日本文学史」の内容を把握する。								
		事後学習	「漢字Ⅲ～日本文学史」について、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 6 回	社会科学学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 7 回	社会科学学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。								
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 8 回	社会科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「地理・歴史」の内容を把握する。								
		事後学習	「地理・歴史」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。								
第 9 回	社会科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「公民 (政治・経済等)」の内容を把握する。								
		事後学習	「公民 (政治・経済等)」において、指摘された部分および確認								

			テストの結果等の振り返りをする。
第 10 回	理科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の前半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の前半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 11 回	理科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領の後半」の内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領の後半において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 12 回	理科学習指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「生命・地球分野」の内容を把握する。
		事後学習	「生命・地球分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 13 回	理科学習指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「物質・エネルギー分野」の内容を把握する。
		事後学習	「物質・エネルギー分野」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 14 回	音楽科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 15 回	最新過去問（全科分野）	事前学習	春期に学習した各分野の内容を復習しテストに備える。
		事後学習	過去問テストの結果を振り返り改善点を明らかにする。
第 16 回	図工科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	「絵画・立体・デザイン・工具・鑑賞等」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 17 回	図工科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「共通教材および鑑賞教材」の内容を把握する。
		事後学習	「共通教材および鑑賞教材」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 18 回	家庭科学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般および『衣類・食事・住まいの生活』」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般および衣類・食事・住まいの生活」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 19 回	算数科学習指導要領① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 20 回	算数科学習指導要領② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 21 回	算数科指導法① *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「数量・グラフ領域」の内容を把握する。
		事後学習	「数量・グラフ領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 22 回	算数科指導法② *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「図形・確率領域」の内容を把握する。
		事後学習	「図形・確率領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 23 回	総合的な学習の時間の学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領全般」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領全般」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 24 回	外国語活動の学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領前半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領前半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 25 回	外国語活動指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領後半」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領後半」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 26 回	体育科学習指導要領 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「学習指導要領」の内容を把握する。
		事後学習	「学習指導要領」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 27 回	体育科指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	教科書「運動全般・保健領域」の内容を把握する。
		事後学習	「運動全般・保健領域」において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 28 回	道徳学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における道徳の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における道徳の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 29 回	特別活動学習指導要領および指導法 *授業の後半に確認テストを実施	事前学習	学習指導要領における特別活動の指導内容を把握する。
		事後学習	学習指導要領における特別活動の指導内容において、指摘された部分および確認テストの結果等の振り返りをする。
第 30 回	これまで学習した各教科における学習内容や構成に関する習熟度確認問題演習	事前学習	これまで学習した各教科における学習内容や構成を総合的に把握し簡潔にまとめられるようにする。
		事後学習	3 年次に向けて 一キャリア開発演習 I における学習内容（教職教養）一の内容把握と準備

1. 科目名 (単位数)	キャリア基礎演習ⅡB (教員コース) (養護) (2 単位)	3. 科目番号	GECD2312
2. 授業担当教員	面川 幸子		GECD2262
4. 授業形態	講義・問題演習・実技演習・グループ討議	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講義は、学校現場で必要とされる養護教諭をめざし、その資質と力量を向上させることを第一の目的とする。教員採用試験に向けた問題演習を入り口として、児童生徒への対応に関するディスカッション、各種実技演習などに取り組み、基礎的な能力を確実に身につける。また養護教諭という職業、あるいは教員採用試験対策に対する意欲を向上させるとともに、自己学習の習慣を定着させる。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員としての養護教諭の資質と力量形成に向け、他の専門科目と関連付けながら、基礎的な知識や技術を確実に習得する。 2. 児童生徒の心身の健康課題に対する判断力を向上させるとともに、養護教諭の専門性をいかした対応のあり方を習得する。 3. 教員採用試験の動向を知ることによって、今後の学習計画を明確化する。 4. 講義中の取り組みを通して自分なりの学習スタイルを見つけ、家庭での自己学習につなげる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内で扱った内容の復習を行い、翌週の確認問題演習に備える。 2. 毎授業後、演習問題振り返りシートへの記入を行い、今後の学習目標の整理を行う。 3. 翌週の講義内容に関連する事項について、予習を行う。 (学校保健実務必携の該当箇所を熟読し、他の科目での既習事項を復習しておく。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『2017 年度版教員採用試験 Basic 定着シリーズ⑦よくわかる養護教諭』時事通信出版局。 学校保健・安全実務研究会編著『新訂版学校保健実務必携 第4次改訂版』第一法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加態度 (30%) 2. 演習問題および振り返りシートの記入 (自己学習への取り組み) (50%) 3. まとめ (20%) 		
12. 受講生へのメッセージ	養護教諭専門科目や教職関連科目の内容とリンクさせながら、養護教諭になるための基礎的な知識を確かなものにしていきます。また、演習やグループ討議を通して、養護教諭としての基本的態度や資質を身につけます。今のうちからこうした基盤作りに地道に取り組むことが、学校現場から必要とされる養護教諭として成長することにつながります。教員採用試験に合格に向けて、ひとつずつ、クリアしていきましょう。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・自己理解、他者理解のワーク ・これからの学びと教員採用試験にむけた準備態勢を整える。	事前学習	養護教諭を目指す理由や、理想とする養護教諭像を振り返る。
		事後学習	養護教諭を目指す意志を明確化し、今後の具体的な学習目標を持つ。
第2回	学校保健の領域・保健指導と保健学習 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.5~19
第3回	学校保健安全法 学校保健計画・学校安全計画・学校安全 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.20~25
第4回	養護教諭の職務 (養護教諭に求められる資質) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.150~160
第5回	健康観察 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。教科書 pp.80~86
第6回	健康診断 ①健康診断の意義・種類・検査項目 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる教科書 pp.38~70。
第7回	②保健調査・健康診断票の記入 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはか。pp.46~54
第8回	③健康相談・こころのケア (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.72~78
第9回	④発達障害・メンタルヘルス (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.180~184,p.194
第10回	⑤視力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.56 p.166
第11回	⑥聴力検査 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.58 p.168

第 1 2 回	⑦歯科検診・う歯・その他歯科関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.62 ,p90 ,p170
第 1 3 回	⑧身体測定：身長・体重・座高 脊柱側弯検診 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.60～
第 1 4 回	⑨事後措置・健康診断での養護教諭の役割 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.68～70
第 1 5 回	・春期演習問題のまとめと振り返り	事前学習	春期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 1 6 回	保健室の機能・保健室経営	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.196～198
第 1 7 回	疾病予防 ①最近の疾病予防 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.88
第 1 8 回	②腎臓病・糖尿病 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.94 ,p.98
第 1 9 回	③小児生活習慣病・肥満 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.96 ,p100 ,p192
第 2 0 回	④アレルギー疾患 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携の中で、本時の授業内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度行い、内容の定着をはかる。p.102 ,p104
第 2 1 回	⑤学校感染症の種類・出席停止期間の基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携(pp.447～462)等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.106～110
第 2 2 回	⑥感染症の症状 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.112～122
第 2 3 回	⑦心臓検診・心臓疾患・その他心臓関連 (問題演習・実技演習・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.66 ,pp174
第 2 4 回	⑧結核検診 (問題演習・実技演習・振り返り) (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。p.64
第 2 5 回	学校環境衛生 ① 学校環境衛生の目的・学校環境衛生活 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携 (pp.80～166) 等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.26～29
第 2 6 回	②学校環境衛生検査項目と基準 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.30～36
第 2 7 回	養護教諭の専門知識 ①各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.162～178
第 2 8 回	養護教諭採用試験合格者体験談 (グループ討議・振り返り) ②各種解剖学 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	これまでの学習を振り返り、教員採用試験に関する疑問等をまとめておく。 学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	先輩の合格体験を聞いた感想をまとめ、今後自分が取り組むべき課題を明確化する。 本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。
第 2 9 回	③飲酒・喫煙・薬物乱用、性教育 (問題演習・グループ討議・振り返り)	事前学習	学校保健実務必携等の中で、本時の講義内容に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	本時に行った演習問題等に再度取り組み、内容の定着をはかる。pp.186～192
第 3 0 回	秋期演習問題のまとめと振り返り 今後の自己学習課題のまとめ	事前学習	秋期に取り組んだ演習問題の振り返りを行い、内容の定着をはかる。
		事後学習	1年間の学習を振り返り、今後の自己研鑽の目標を明確化する。

1. 科目名 (単位数)	教育学概論 (E: 初等・幼) / 教育学概論 (SCB: 初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1105
2. 授業担当教員	安藤 哲也		
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5. 開講学期	秋期
6 履修条件・ 他科目との関係			
7 講義概要	<p>本科目は教育という営みに深い関心を持ち、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することを通して、一人ひとりが、教育(学)の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい保育・教育とは何か」を考える力を養うことを目的とする。具体的には、幼児教育の意義と目的、幼児教育の歴史と制度、子どもの発達、幼稚園教諭の仕事等について学ぶ機会を提供する。</p>		
8 学習目標	<p>この授業の目的は、「教育」について学び、考える姿勢を養い、幼稚園教諭になるための土台を築くことである。そのために次の3つの到達目標を設定する。</p> <p>1) 「保育」「教育」に関する基本的な理論・方法について理解し、わかりやすく説明することができる。</p> <p>2) 授業の学びと自己の教育体験をもとに、さまざまな教育問題について自らの意見を述べるすることができる。</p> <p>3) 教育(学)の専門的知識(専門的な用語や概念等)を理解した上で、保育・教育実践に活かすことができる。</p>		
9 アサイメント (宿題) 及びレ ポート課題	<p>・レポート ①幼児教育(保育)の意義と②幼児教育(保育)の方法について、授業での学習内容を踏まえ、A4用紙1枚(両面)以内にまとめる。 ※第15回の授業で、発表、提出する。</p>		
10 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 厚生労働省、『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 ※必要に応じて、プリント資料を配付する。</p>		
11 成績評価の方法	レポート 40%、授業への取り組み姿勢 30%、課題提出 30%		
12 受講生への メッセージ	<p>この科目では、学生同士のグループ討議による学び合いを中心に授業を進めます。自分とは違う考えに出会うことで、一人一人がより思考を深めたり広げたりしていくことを期待しています。</p> <p>事前学習を入念に行い、自分の考えをしっかりと持っていることで、楽しく有意義に授業に参加することができます。事前学習の内容、グループ討議での学び、事後学習の内容を各回の授業ごとにまとめ、課題として提出します。少し大変ですが、これらの学びの記録は、皆さんの財産になるはずです。</p> <p>この授業を通して、幼児教育(保育)についての理解を深め、保育者としての基盤を固めましょう。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの確認、受講生へのメッセージと授業展開及び課題の確認	事前学習	シラバスを読み、授業の準備をする。
		事後学習	授業の流れを知り、確認する。
第 2 回	幼稚園教育の基本① (幼稚園の生活、幼稚園の役割、環境を通して行う教育)	事前学習	『幼稚園教育要領解説』 pp.15~29 を読み、重要事項をまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	特に、環境を通して行う教育について、授業内容を踏まえ、整理する。
第 3 回	幼稚園教育の基本② (幼児期にふさわしい生活、遊びを通じた指導、一人一人に応じた指導)	事前学習	『幼稚園教育要領解説』 pp.30~38 を読み、重要事項をまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	特に、遊びを通して行う教育について、授業内容を踏まえ、整理する。
第 4 回	幼稚園教育の基本③ (計画的な環境の構成、教師の役割)	事前学習	『幼稚園教育要領解説』 pp.39~48 を読み、重要事項をまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	特に、教師の役割について、授業内容を踏まえ、整理する。
第 5 回	「生きる力」と現行幼稚園教育要領との関連	事前学習	「生きる力」について、資料や文献にあたり、調べておく。
		事後学習	「生きる力」の考え方が現在の幼稚園教育とどう関連しているのかをまとめる。
第 6 回	保育のルーツを探る (保育思想の流れを概観する)	事前学習	保育思想の歴史についての配布資料を読み、先人の思想が現在の保育とどう関連しているかまとめておく。
		事後学習	先人の思想に関する文献を読み、理解を広げる。
第 7 回	保育内容・保育方法の変遷 (特に、昭和 31 年教育要領、昭和 39 年教育要領と現行教育要領との異同に着目する)	事前学習	我が国の保育の歴史についての配布資料を読み、保育内容・方法の流れをまとめておく。
		事後学習	過去と現在の保育内容・保育方法の違いをまとめる。

第 8 回	幼児教育における 5 領域と小学校における教科の違い	事前学習	領域についての配布資料を読み、幼児教育における 5 領域の考え方についてまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	幼児教育における領域と小学校の教科の違いについて、まとめておく。
第 9 回	幼児期の発達の様相	事前学習	『保育所保育指針解説書』 pp.32~54 を読み、幼児期の発達過程をまとめておく。
		事後学習	『幼稚園教育要領解説』 pp.11~14 の記述と読み比べて、整理する。
第 10 回	保育計画の立案・実施・評価	事前学習	保育計画作成についての配布資料を読み、保育計画作成上の留意点をまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	発達時期や幼児理解と保育計画の関連について、整理する。
第 11 回	具体的な保育計画の作成と検討	事前学習	具体的な保育計画(配布資料)を参考資料にして、保育計画を作成しておく。
		事後学習	検討・修正した部分を基に、保育計画の作成の仕方について整理する。
第 12 回	子ども理解① (子どもを理解することの意味、理解してどう行動するか、どのようにして理解するか)	事前学習	子ども理解についての配布資料を読み、重要事項をまとめ、疑問点を書き出しておく。
		事後学習	子ども理解の意味や、重要性、方法について整理しておく。
第 13 回	子ども理解② (視聴覚教材の事例を「子ども理解」の視点から検討する)	事前学習	前回の授業内容を基に、子ども理解の方法について考えておく。
		事後学習	子どもの行動をどのように見取ればよいか、整理しておく。
第 14 回	保育者の役割 (視聴覚教材の事例を「保育者の援助」の検討から検討する)	事前学習	これまでの授業内容を基に、保育者の役割について考えておく。
		事後学習	実際の保育における保育者のさまざまな役割について整理しておく。
第 15 回	まとめ (レポートの発表と検討)	事前学習	作成したレポートの推敲、発表の練習をする。
		事後学習	レポートで検討された箇所を確認し、該当箇所について授業内容を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC3411 EDTE1103 EDTE3303
2. 授業担当教員	荻原 邦昭	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやるべきかを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育評価について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間レポート課題：望ましい教育課程の編成・実施・評価について 2 期末レポート課題：教育課程をめぐる課題について <p>※ いずれも A4 版横書き (約 1,000 字～1,200 字程度) レポート形式で記述。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社、平成 20 年 8 月。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、平成 20 年 10 月。</p> <p>【参考書】東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。 文部科学省『中学校学習指導要領解説総則編』ぎょうせい、平成 20 年 9 月。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間・期末レポート：総合点の 60% 2 振り返りシート：総合点の 20% 3 発表、討論：総合点の 10% 4 日常の授業への出席、参加態度：総合点の 10% <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退それぞれ 3 回で欠席 1 回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。 		
12. 受講生への メッセージ	<p>学校教育が知・徳・体の調和のとれた子どもたちを育成し、地機社会・家庭から信頼を得るためには、適切で特色ある教育課程の編成が求められている。このため本科目では、教育課程の根拠となる幼稚園教育要領、小学校学習指導要領や教育課程の編成、実施、評価について学び、教育課程の望ましいあり方について考察する。このため、受講生は次の事柄を順守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退はしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作は慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講生の立場に立って講義する。 3 討議など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 教育課程とは何か、 今日の教育課題について グループ作り	事前学習	教育課程の意味を考える。
		事後学習	今日の教育課題と教育課程との関連をまとめることができる。
第 2 回	近現代の教育課程の歩み 1 明治期、大正期、昭和前期の教育課程	事前学習	日本の教育課程の歩みを概観する。
		事後学習	明治期、大正期、昭和前期 (国民学校) までの教育課程の歩みについて年表を通して概観し、理解することができる。
第 3 回	近現代の教育課程の歩み 2 経験主義と児童中心主義 新教育運動 コアカリキュラム	事前学習	戦後の教育課程の特色を考える。
		事後学習	戦後まもなく生まれた二つの学習指導要領の特色とその意義を理解し、まとめることができる。
第 4 回	近現代の教育課程の歩み 3 系統性の重視	事前学習	系統性カリキュラムの特色を考える。
		事後学習	経験主義から系統性重視になぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。

第 5 回	近現代の教育課程の歩み 4 教育の現代化 人間性重視への転換	事前学習	現代化、人間性重視転換の背景について考える。
		事後学習	教育の現代化から人間性重視へなぜ転換したのかについて理解し、まとめることができる。
第 6 回	近現代の教育課程の歩み 5 新しい学力観 生きる力と確かな学力	事前学習	現行の学習指導要領の特色について考える。
		事後学習	新学力観や生きる力など現行の学習指導要領の意義と内容について理解し、まとめることができる。
第 7 回	小学校学習指導要領の内容理解 1 総説 教育課程の基準 教育課程の編成及び実施（一般方針）	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	総説から教育課程の編成及び実施までの要点をまとめることができる。
第 8 回	小学校学習指導要領の内容理解 2 教育課程の編成及び実施（授業時数・指導計画の作成） 教育課程実施上の配慮事項 教育課程編成の手順と評価	事前学習	小学校学習指導要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程の編成及び実施、実施上の配慮事項、手順と評価について、その要点をまとめることができる。 中間レポートを提出する。
第 9 回	教育課程をめぐる問題 1 学力をめぐる問題とその向上策	事前学習	学力の低下問題について調べる。
		事後学習	学力低下問題が起こった経緯とこれに対する対応について様々な角度から考えることができる。
第 10 回	教育課程をめぐる問題 2 言語活動の充実とその指導法	事前学習	言語活動の意義について考える。
		事後学習	言語活動充実の基本的考えから発達段階に応じた指導について考えることができる。
第 11 回	現代における教育課程の課題 1 道徳、特別活動 総合的な学習の時間	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑を行い、理解を深めることができる。
第 12 回	現代における教育課程の課題 2 外国語活動 国際理解教育 環境教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 13 回	現代における教育課程の課題 3 キャリア教育 特別支援教育 生活科	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 14 回	現代における教育課程の課題 4 メディアリテラシー 食育 人権教育	事前学習	課題について調べ、まとめ、発表の準備を行う。
		事後学習	事前に編成されたグループにより、選択した課題について発表する。その後全員で質疑、話し合いを行い、理解を深めることができる。
第 15 回	幼稚園における教育課程 教育課程の編成 編成の基本 編成の実際 教育課程の評価 講義のまとめ	事前学習	幼稚園教育要領を通読する。
		事後学習	幼稚園教育要領の総説、ねらい及び内容、留意事項などを踏まえ、教育課程の編成についての基本的要点を理解し、まとめることができる。 教育課程で学んだことを整理することができる。 期末レポートを提出する。

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE1103
2. 授業担当教員	金子 康一		
4. 授業形態	講義、討議や発表学習を中心に	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>学校において編成する教育課程 (カリキュラム) とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である (『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省)。</p> <p>本講義ではまず、学校の教育活動の特色を経験から考え、学校は何をやるべきかを明らかにする。学校は決められた授業時間の中で意図的計画的に教育活動を展開し、人格の形成と社会に有用な人材育成を行っていることを理解するとともに、機会均等、教育の質の維持のために学習指導要領に定められた内容を各学校の創意に基づいて教育計画を編成・実施・評価していることを学ぶ。</p> <p>教育課程に関する基本的知識を身につけたうえで、現代日本の教育課程について、学習指導要領を通じて学ぶ。学習指導要領の性質、現行版の特徴、改訂の歴史について学習する。</p> <p>最後に、教育評価について学び、学校においてどのように教育課程を編成するかを簡単に考察する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間レポート課題: 「生きる力」と「確かな学力」の育成について、今日的教育課題と関連させた考察 2 期末試験: 新学習指導要領と教育課程の意義と役割、教育課程改革の必要性。キーワードの理解と考察 <p>○中間レポートは2000字程度でまとめ、秋期12月末迄に提出する。A4版横書き2枚、レポート形式で記述。</p> <p>○期末試験は、知識・理解問題と論述問題で実施する。書式等は授業中に通知する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著『新しい時代の教育課程』<第三版>有斐閣、2009年4月。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』平成20年8月。</p> <p>【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、平成20年10月。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>○ レポート・作成した資料・討議・期末試験 総合点の70%</p> <p>授業出席・授業参加態度 総合点の30%</p> <p>○ 遅刻・早退2回で欠席1回扱いとする。</p> <p>○ レポート等は、期日厳守で提出すること。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>○ 学校教育の再生には、教育課程の現状と課題について考察し、改善に向けての方向性を明確にすることが重要である。教育課程の理論を学ぶと同時に、児童生徒の実態から具体的に理解を深めて欲しい。</p> <p>○ 受講生の皆さんの努力を通して、知識・理解力だけでなく、思考力・判断力・表現力や探求心の育成に寄与したいと考える。</p>		
13. オフィスアワー	第1回授業時に周知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 1 教育課程とは 2 山積する教育課題、3 学力問題と教育課程	事前学習	「新しい時代の教育課程」の意味を考える。
		事後学習	山積する今日的教育課題と教育課程との関連をまとめ、科目の概要を理解する。
第2回	近代日本の教育課程の歩み 現代日本の教育課程の歩み① 1 経験主義からの影響 2 系統性重視への転換	事前学習	近代及び現代の教育課程の歩みを通読する。
		事後学習	明治、大正、昭和の教育課程の歩みを理解しまとめる。
第3回	現代日本の教育課程の歩み② 3 教育の現代化 4 人間性重視への転換	事前学習	現代の教育課程の歩の該当箇所を通読する。
		事後学習	戦後の高度経済成長から低経済成長時代における教育課程の変遷をまとめる。
第4回	現代日本の教育課程の歩み③ 5 新学力観の追求 6 生きる力と確かな学力 7 生きる力と活用能力	事前学習	現代の教育課程の歩の該当箇所を通読する。
		事後学習	新学力観や生きる力の意義と内容を理解しまとめる。
第5回	教育課程開発の新しい動き ・生活科の誕生・学力向上の試み 教育課程の思想と構造 ・学力とモラル ・履修原理	事前学習	生活科誕生の背景と意義を考える。
		事後学習	生活科と教育課程との関連、及び学力低下論争への対応策をまとめる。
第6回	教育課程をどう編成するか ・教育課程編成の構成要件 ・教育課程編成論の変遷、 ・教育課程編成の展望 中間レポートの作成と提出	事前学習	教育課程編成の構成要件の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程の構成要件と編成論の変遷、教育課程編成の展望についてまとめる。 中間レポートの提出。
第7回	幼稚園教育要領 改訂の要点 ・幼稚園と小学校との接続	事前学習	幼稚園教育要領の該当箇所を通読する。
		事後学習	幼稚園教育要領 改訂の要点をまとめる。

	・改訂の背景と改訂の内容		幼小との接続の重要性を考察しまとめる。
第 8 回	今日の教育課題への挑戦 ・いのち、生きることの教育 ・安全教育 ・情報教育 ・環境教育 ・ボランティア、福祉教育 ・キャリア教育	事前学習	今日の教育的課題と教育課程の関連を考察する。
		事後学習	今日の教育的課題に対する様々な教育課程の挑戦への感想・意見をまとめる。
第 9 回	小学校学習指導要領解説 総則編 の内容理解① 1 総説 2 教育課程の基準	事前学習	学習指導要領総則編の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程論の基本となる総説及び教育課程の基準についての要点をまとめる。
第 10 回	小学校学習指導要領解説 総則編 の内容理解② 3 教育課程の編成及び実施 ・一般方針 ・授業時数 ・指導計画	事前学習	学習指導要領総則編の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程の編成において特に配慮を要する事項についての要点をまとめる。
第 11 回	小学校学習指導要領解説 総則編 の内容理解③ 3 教育課程の編成及び実施 ・指導計画の作成 ・教育課程実施上の配慮事項	事前学習	学習指導要領総則編の該当箇所を通読する。
		事後学習	教育課程実施上の配慮事項の要点をまとめる。
第 12 回	小学校 教育課程編成の実際① 1 例示した学年における望ましい教育課程編成の実際 2 作成した校時表の発表、協議、検討	事前学習	小学校の校時表の例を参考として持参する。
		事後学習	作成した校時表を検討し修正案を作成する。年間の各教科の教育計画を時数を元に検討する。
第 13 回	小学校 教育課程編成の実際② 3 作成した年間指導計画の発表、協議、検討 期末レポートの作成と提出	事前学習	各教科の年間教育計画と行事計画を作成する。
		事後学習	年間指導計画作成後の感想・意見をまとめる。設題に基づく期末レポートを提出。
第 14 回	中学校・特別支援学校の教育課程 ・小学校と中学校、特別支援学校との接続 ・中学校・特別支援学校の教育課程の要点	事前学習	中学校・特別支援学校の教育課程の要点まとめ。
		事後学習	小学校と中学校、特別支援学校との関連について考察する。
第 15 回	教育課程論のまとめ 授業評価 ・教育課程の意義と役割、教育課程改革の必要性の再考 ・教育課程論のまとめ	事前学習	新しい時代の教育課程の必要性を再考する。
		事後学習	教育課程論を通して学んだことと、今後の課題をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育課程論 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3339 SNMP3339 SCMP3339 SBMP3339 EDTS1103 EDTS1103
2. 授業担当教員	鈴木 達也			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教育課程とは、教育機関(学校)がその教育目標(学校の教育目標)を達成するために児童・生徒に提供する教育内容と学習経験の組織である。本講義では現代日本の教育課程を多角的に展望するための基礎的な知識や概念の習得を目的としている。</p> <p>まず教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念について学習する。そして日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴について学ぶ。さらに近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題についての理解を深める。</p> <p>これらの学習を通して、現行の学習指導要領の基本的方向について理解し、教師として必要となる資質・能力の基礎を養う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の思想や教育課程編成の方法・理論、教育課程と教育評価の関係を学ぶことによって、教育課程に関する基本的な用語や概念を理解し、説明することができる。 2. 日本の教育課程の変遷について学習し、歴史的視点から教育課程を展望することができる能力を身に付け、活用することができる。 3. 諸外国の教育改革について学び、日本の教育課程を相対的に考察することができる能力を身に付け、活用することができる。 4. 近年の教育課程に関する新たな取り組みについて学習し、現代の教育が抱える課題についての理解し、その課題に対する自らの考えを深めることができる。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマⅠ 「新学習指導要領に関する改訂の背景・趣旨を踏まえ、今後の学校教育の基本的方向及び課題について自らの視点で論述する。」 ・テーマⅡ 「新学習指導要領が求める『確かな学力』について、自分自身が捉えた今日の児童生徒の現状や課題に基づき、総則の一般方針を参考にしながら具体的に論述する。」 <p>*レポートについては、テーマⅠ・Ⅱのそれぞれについて2000文字程度でまとめ、6月末までに提出すること。アサイメントは、常に今日の教育課題を調べるとともに、各自が「こんな学校をつりたい—理想の学校—」について事前にまとめておき、順次授業の中で発表する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大津尚志・伊藤一雄・伊藤良高・中谷彪編『教育課程論のフロンティア』晃洋書房。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説(初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。 *必要に応じてプリント資料を配付する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート 30% ・期末試験 30% ・日常の授業態度(授業参加態度等) 20% ・プレゼンテーション 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校教育の改革・再生においては、教育課程の現状と課題についてつぶさに把握・考察し、改善に向けた方向性を明確にすることが重要である。また、「授業改善」を積み重ねる努力のみならず、何よりも「教育課程」を改革する展望が必要とされている。この意味において、学校を基礎にして「教育課程」を編成する力量が、今ほど求められている時代はないと言える。</p> <p>この科目では、教育課程を理論的に学ぶとともに、今日の児童生徒の実態を踏まえながら具体的に理解を深めることが必要である。そのため、常に今日の教育問題にも注目し、学校教育に対する課題意識をもって授業に取り組むことが大切である。あくまでも積極的な授業態度で臨み、遅刻、無断欠席、私語、携帯電話の使用等は厳に慎むこと。</p>			
13. オフィスアワー	後日通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	科目のガイダンス、教育課程とは(教育課程の定義・意義、教育課程の類型と評価)	事前学習	1章「教育課程とは」を読み講義に臨む。	
		事後学習	教育課程の定義、類型についてまとめる。	
第2回	教育課程の今日的課題Ⅰ(キーワードの探求<ブレンストーミング>)	事前学習	学校教育をめぐる課題について3点あげ簡単にまとめ準備する。	
		事後学習	学校教育をめぐる今日的課題をまとめる。	
第3回	教育課程の今日的課題Ⅱ(キーワードの考察<グループディスカッション>)	事前学習	キーワードを絞り調べる。	
		事後学習	グループの発言から自分なりの気付きをまとめる。	

第 4 回	教育課程に関する法規	事前学習	テキスト pp.8～15 を熟読し準備する。
		事後学習	教育課程関係法規についてまとめる。
第 5 回	わが国における教育課程の歴史の変遷① (明治・大正時代～昭和前期<戦前>の教育)	事前学習	配布資料から 1 項目を選び調べ学習し準備する。
		事後学習	明治以降の教育課程の特徴についてまとめる。
第 6 回	わが国における教育課程の歴史の変遷② (現代の教育<学習指導要領改訂の経緯>)	事前学習	テキスト pp.16～21 を熟読し準備する。
		事後学習	現在の教育課程の特徴についてまとめる。
第 7 回	各学校における教育課程の概要(1) (幼稚園、小学校)	事前学習	テキスト pp.22～35 を熟読し準備する。
		事後学習	初等教育の教育課程の特徴についてまとめる。
第 8 回	各学校における教育課程の概要(2) (中学校、高等学校、特別支援学校)	事前学習	テキスト pp.35～57 を熟読し準備する。
		事後学習	中等教育、特別支援学校の教育課程の特徴についてまとめる。
第 9 回	プレゼンテーション (テーマ「こんな学校をつりたいー理想の学校像ー」)	事前学習	理想の学校像を描きカリキュラムを柱にまとめて講義に臨む。
		事後学習	学校像とカリキュラムが一致するよう修正しまとめる。
第 10 回	小学校学習指導要領解説 総則編についての内容理解 I (総説、教育課程の基準、教育課程編成の原則)	事前学習	テキスト pp.2～20 を熟読し準備する。
		事後学習	編成の原則についてまとめる。
第 11 回	小学校学習指導要領解説 総則編についての内容理解 II (教育課程実施上の配慮事項)	事前学習	テキスト pp.52～73 を熟読し準備する。
		事後学習	実施上の留意点についてまとめる。
第 12 回	小学校学習指導要領解説 総則編についての内容理解 III (授業時数、指導計画、教育課程編成の手順・評価)	事前学習	テキスト pp.37～69 を熟読し準備する。
		事後学習	実施計画、手順、評価についてまとめる。
第 13 回	小学校における教育課程編成の実際 (グループディスカッション)、 特色ある教育課程の具体例 (調査・研究)	事前学習	配布資料をもとに重点課題を具現化するための取り組みを考えて準備する。
		事後学習	特色ある教育課程についてまとめる。
第 14 回	諸外国の教育課程 (アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国、韓国)	事前学習	外国の教育課程関連記事を調べ準備する。
		事後学習	外国の教育課程や教育の特徴についてまとめる。
第 15 回	教育課程論のまとめ・講評	事前学習	テーマ「今、日本の学校教育に必要とされるものは何か？」について簡単にまとめ準備する。
		事後学習	顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムについてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育実習指導 (中等) / (保健科) (1 単位)	3. 科目番号	SSMP3486 SNMP3486 SCMP3486 SBMP3486 EDTS3373 EDTS2375
2. 授業担当教員	鈴木 達也		
4. 授業形態	講義や演習 (学習指導案の作成や模擬授業の実施など)、事例研究についてグループディスカッションによる実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えについて学習する。主な内容として、教育実習の意義や目的、実習内容の概要、教育実習生としての基本姿勢や生活態度、教科指導等にかかわる学習指導案の作成及び模擬授業の実施、教育実習日誌の作成等を取り扱い、教育実習に必要な事項のすべてについて学習する。</p> <p>教育実習を通じて、教育現場での実際を体験的に学び、教職への道をより確かなものとして邁進できるようにするとともに、教育実習生としての社会性を身に付けることをねらいとする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育実習の意義・目的及び教育実習の概要について理解し、説明できるようになる。 2 教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等を理解し、実習を行えるようになる。 3 教材研究の重要性を理解し、教材研究に裏打ちされた教科・科目の学習指導案を作成できるようにする。 4 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実施し、教師の役割について理解し、説明できるようになる。 5 教育実習日誌の作成をはじめ、教育実習に必要とされるすべての事項について学び、実習を行えるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート I 学習指導要領に基づく指導内容及び取り扱いの留意点についての研究・まとめ ・レポート II 学習指導案 (教育実習で担当する教科・科目) の作成・提出 <p>*レポート I は2000文字程度でまとめ10月末までに、レポート II は各自が教育実習で担当する教科・科目にかかわる学習指導案を2通り作成し11月末までに、それぞれ提出すること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 『教育実習の手引き』東京福祉大編 『中学校学習指導要領解説 (保健体育編、英語編)』文部科学省、2008 年。 『高等学校学習指導要領解説 (保健体育編、英語編、情報編、公民編)』文部科学省、2009 年。 *上記学習指導要領解説のうち、教育実習において各自が担当する教科・科目に該当する学習指導要領解説を用意すること。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2008 年。 *必要に応じてプリント資料を配付する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート (学習指導案を含む) 40% ・日常の授業態度 (参加態度、発表等) 30% ・模擬授業 (プレゼン) 30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育実習は、教員免許状を取得するために必要とされるものであり、教育現場の緊張感をもって着実にこなしていかなければならない。そのためには、実際に教育実習に行く前の準備として、教育実習の目的・目標を確認するとともに、教育実践の場において適切に対応しうる理論・知識・技術を身に付けておくことが大切である。</p> <p>この科目では、担当予定の教科・科目にかかわる教科書 (題材) に基づき、学習指導案の作成を通じて授業力の向上に取り組み、生徒を指導する上で必要な専門的知識や技能を養っておくことが求められる。さらに、教職と自己に対する認識を深め、教職志望者としての自覚をもてるようになることが望まれる。</p> <p>授業には集中力のある積極的な態度で臨み、基本的なマナー (遅刻、無断欠席、私語、携帯電話の使用不可等) を守り、各自がそれぞれの役割と責任を果たすことを強く求める。</p>		
13. オフィスアワー	後日通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	科目のガイダンス、教育実習にかかわる事前調査の実施、教育実習の手引き	事前学習	教育実習などの実習記録に目を通し講義に臨む。
		事後学習	教育実習に臨むアウトラインをまとめ手続きを確認する。
第 2 回	教育実習生が身に付けておくべき資質・能力、教育実習に関する Q&A (グループワーク①)	事前学習	教育実習で自分が身に付けたい力を簡潔にまとめ準備する。
		事後学習	教育実習生としての資質・能力のポイントをまとめる。
第 3 回	中学校・高等学校の教育課程 (保健体育編、英語編、公民編、情報編)	事前学習	実習教科・科目の指導要領解説を熟読し準備する。
		事後学習	教科・科目について特性をまとめレポートを作成する。
第 4 回	学習指導の方法・技術 (発問・板書・教育機器の活用など)、教育実習に関する Q&A (グループワーク②)	事前学習	指導方法、指導技術の課題について簡潔にまとめ準備する。
		事後学習	学習指導の方法・技術についてまとめ指導案作成に生かす。
第 5 回	学習指導案の作成 (1)	事前学習	指導案作成の準備をする。

	*教育実習で担当する教科・科目の学習指導案 (2種類作成)	事後学習	指導案の考察部分を作成する。
第6回	学習指導案の作成(2) 学習指導案の点検・評価(グループワーク③)	事前学習	指導内容を明確にして展開場面を準備する。
		事後学習	指導案の展開案を作成する。
第7回	模擬授業Ⅰ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第8回	模擬授業Ⅱ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第9回	模擬授業Ⅲ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第10回	模擬授業Ⅳ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第11回	模擬授業Ⅴ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第12回	模擬授業Ⅵ (各自が作成した学習指導案に基づく授業実践・相互評価の実施)	事前学習	模擬授業実践の準備をする。
		事後学習	模擬授業のよさ、改善点について授業記録にまとめる。
第13回	教育実習にかかわる事例研究(グループワーク④)	事前学習	授業実践の改善点を簡潔にまとめグループワークの準備をする。
		事後学習	教育実習で継続して取り組むテーマと記録の見直しをつくる。
第14回	教育実習に関するQ&A(グループワーク⑤)	事前学習	教育実習の事前準備や心配なことをあらかじめまとめておく。
		事後学習	教育実習に関する自分の課題をまとめる。
第15回	まとめ(総評)、教員採用選考試験に向けて	事前学習	教員になるために今できることを具体的にまとめる。
		事後学習	教育実習に関する全体的な振り返りをする。

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3110
2. 授業担当教員	太田 信夫			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、教育や保育に関わる心理学の基礎理論を学ぶとともに、保育や教育現場で生じるさまざまな問題に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。また、心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性及び学習過程について、具体的事例を通して理解できる力を身につけさせる講義を行う。			
8. 学習目標	① 教育心理学の基本的な知識を学び、説明できる。 ② 教育心理学的な視点を、教育や保育の現場に応用するための基礎力を身に付けられる。 ③ 心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性に対する理論と実際について身につけられる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	①各授業で扱う章の予習と各授業のまとめの整理をする ②各発達段階の課題について、自己の例に鑑み考察すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 太田信夫 (編著) 『教育心理学概論』 NHK出版 (放送大学教育振興会)、2013 年。			
11. 成績評価の方法	試験 70% レポート 20% 授業中の態度 10%			
12. 受講生へのメッセージ	言葉を言葉で覚えるのではなく、具体例や日常の経験に基づき理解するようにすること			
13. オフィスアワー	授業内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	第 1 章 教育心理学概観	事前学習	第 1 章を読んでくること	
		事後学習	第 1 章をノートにまとめること	
第 2 回	第 2 章 発達の諸相	事前学習	第 2 章を読んでくること	
		事後学習	第 2 章をノートにまとめること	
第 3 回	第 3 章 自己理解の発達	事前学習	第 3 章を読んでくること	
		事後学習	第 3 章をノートにまとめること	
第 4 回	第 4 章 対人関係の発達と教育	事前学習	第 4 章を読んでくること	
		事後学習	第 4 章をノートにまとめること	
第 5 回	第 5 章 学習の基礎	事前学習	第 5 章を読んでくること	
		事後学習	第 5 章をノートにまとめること	
第 6 回	第 6 章 学習意欲	事前学習	第 6 章を読んでくること	
		事後学習	第 6 章をノートにまとめること	
第 7 回	第 7 章 学習の進め方	事前学習	第 7 章を読んでくること	
		事後学習	第 7 章をノートにまとめること	
第 8 回	第 8 章 授業の方法	事前学習	第 8 章を読んでくること	
		事後学習	第 8 章をノートにまとめること	
第 9 回	中間テストとその解答の解説	事前学習	第 1-8 章の復習をすること	
		事後学習	テストの復習と今後の学習計画を立てる	
第 10 回	第 9 章 学級集団	事前学習	第 9 章を読んでくること	
		事後学習	第 9 章をノートにまとめること	
第 11 回	第 10,11 章 不適応児の理解と心理療法	事前学習	第 10,11 章を読んでくること	
		事後学習	第 10,11 章をノートにまとめること	
第 12 回	第 12 章 知能	事前学習	第 12 章を読んでくること	
		事後学習	第 12 章をノートにまとめること	
第 13 回	第 13 章 学力	事前学習	第 13 章を読んでくること	
		事後学習	第 13 章をノートにまとめること	
第 14 回	第 14 章 評価と測定	事前学習	第 14 章を読んでくること	
		事後学習	第 14 章をノートにまとめること	
第 15 回	第 15 章 学習指導とその実践	事前学習	第 15 章を読んでくること	
		事後学習	第 15 章をノートにまとめること	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3110
2. 授業担当教員	森 慶輔			
4. 授業形態	講義、演習、グループワーク		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、教育や保育に関わる心理学の基礎理論を学ぶとともに、保育や教育現場で生じるさまざまな問題に対し、その背景を正しく把握し、有効な対処法を見つけ出す力を身につけることを目的に講義を行う。また、心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性及び学習過程について、具体的事例を通して理解できる力を身につけさせる講義を行う。			
8. 学習目標	① 教育心理学の基本的な知識を学び、説明できる。 ② 教育心理学的な視点を、教育や保育の現場に応用するための基礎力を身に付けられる。 ③ 心身に障害のある幼児、児童及び生徒の心理的特性に対する理論と実際について身につけられる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	受講学生数によるが、少人数が予想されるため、受講学生のプレゼンテーションを基に講義を進める予定である。よってアサインメント (及びレポート課題) はプレゼンテーション用のレジユメの作成である。詳細は第 1 回の講義で説明する。(受講学生数が多い場合は変更の場合もあるが、事前に周知する。)			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 井上智義・山名祐子・林創『発達と教育』樹村房、2011 年。 【参考書】 適宜講義内で紹介する。			
11. 成績評価の方法	原則として、講義内のプレゼンテーションとディスカッションへの参加を 50%、期末試験を 50% で評価する。(受講学生数が多い場合は変更の場合もあるが、事前に周知する。)			
12. 受講生への メッセージ	①授業中の私語など授業の進行の妨げとなる行為や他の受講生の迷惑となる行為は厳禁です。 ②幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目です。この科目は、皆さんが将来、教育領域、保育領域で働く際に、子どもや保護者を理解するために非常に重要な領域です。随時、キーワード等を見直し、理解を深めて下さい。			
13. オフィスアワー	第 1 回講義の際に指示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	特になし	
		事後学習	アサインメントの準備を行う	
第 2 回	乳幼児・児童の平均的な発達 (復習)	事前学習	産まれてから幼稚園卒園までの発達の様子を調べておく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 3 回	発達過程の理解：遺伝と環境	事前学習	教科書 pp.6～7 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 4 回	発達過程の理解：ピアジェとヴィゴツキー	事前学習	教科書 pp.8～11 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 5 回	認知発達の理解：保存の法則	事前学習	教科書 pp.28～31 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 6 回	認知発達の理解：言葉の発達	事前学習	教科書 pp.38～43 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 7 回	社会的認識の基礎：愛着と社会性	事前学習	教科書 pp.48～51 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 8 回	社会的認識の基礎：心の理論	事前学習	教科書 pp.52～55 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 9 回	学習と記憶の基礎：条件づけと社会的学習	事前学習	教科書 pp.58～63 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 10 回	学習と記憶の基礎：記憶	事前学習	教科書 pp.68～75 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 11 回	子どもの行動と適切な援助：動機づけ	事前学習	教科書 pp.122～127 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 12 回	子どもの行動と適切な援助：大人の見方で子どもは変わる	事前学習	教科書 pp.128～129 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 13 回	特別支援と個性に応じた教育：特別支援とノーマライゼーション	事前学習	教科書 pp.134～135 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 14 回	特別支援と個性に応じた教育：発達障害	事前学習	教科書 pp.136～141 を読んでおく	
		事後学習	講義内容をまとめる	
第 15 回	子どもを理解するということ (まとめ)	事前学習	第 2 回から第 14 回までの振り返りをしておく	
		事後学習	重要な用語を覚える	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	教育心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3330 SNMP3330 SCMP3330 SBMP3330 EDTS2105 EDTS2305
2. 授業担当教員	石川 清子			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育心理学とは、子どもに関わる上で必要となる人間科学の知識を提示し、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から考察する学問である。本講義では、教育心理学の基礎とされる発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の4つの領域についての基礎知識の習得に加えて、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのかを検討し、現実の教育現場で起きている問題への対応も考察する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。 2. 教育心理学的観点から、学習・教育の場における諸問題について考えを深める。 3. より良い教育、より良い学習を提供するための理論を知り、その応用や実践ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. アサイメント：各単元の教科書の範囲を熟読し、内容をまとめてくる。 2. 各単元のワークシートの作成。 3. まとめの活動 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 北尾倫彦・中島実・林龍平・広瀬雄彦・高岡昌子・伊藤美香著『コンパクト教育心理学』北王路書房、2008年。</p> <p>【参考書】 宮川充司、大野久、大野木裕明編著『子どもの発達と学校』ナカニシヤ出版、2000年。 松原達哉編著『教育心理学』丸善出版、2013年。 Richard D. Parsons, et. al. 『Educational Psychology: A Practitioner-Researcher Model of Teaching.』 West Chester University, 2001。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>アサイメント 50%</p> <p>学期末テスト 10%</p> <p>授業内における諸活動 30%</p> <p>*評価基準は、履修要項を参照のこと。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育の目的を達成する為には、学習意欲を促す環境作りが重要です。その為にも、アカデミック・コミュニティである教室ではマナーある行動と円滑な人間関係の形成は欠かせません。よって次のことに注意して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに示される学習範囲の事前学習 (アサイメント) は、講義内容を深く理解する意味でも重要です。また授業中は講義に集中して下さい。 2. アサイメントは期限までに必ず提出して下さい。 3. 近年の教育に関わる問題に対して関心を持ち、専門分野の研究論文等に慣れておく事も重要です。 			
13. オフィスアワー	第1回講義日にお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション：シラバスの説明と教科目標に関して 教育心理学の成り立ち：学校の中の子どもたち	事前学習	テキスト第序章 (pp.1~5) を理解する	
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる	
第2回	子どもの発達の理解 ビデオ：はるかに豊かな赤ちゃんの感受性	事前学習	テキスト第1章 (pp.8~20) の内容をまとめる (アサイメント1)	
		事後学習	ワークシート1の提出	
第3回	子どもの発達の理解：言語の発達	事前学習	テキスト第2章 (pp.21~32) の内容をまとめる (アサイメント2)	
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる	
第4回	子どもの発達の理解：性格の形成 ビデオ：愛着	事前学習	テキスト第3章 (pp.33~42) の内容をまとめる (アサイメント3)	
		事後学習	ワークシート2の提出	
第5回	子どもの発達と教育：社会性の発達	事前学習	テキスト第4章 (pp.43~51) の内容をまとめる (アサイメント4)	
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる	
第6回	まとめ1	事前学習	アサイメント1~4/ワークシート1~2の見直し	
		事後学習	教科第1部の見直し	
第7回	学習のプロセスと指導：学習の動機づけ	事前学習	テキスト第5章 (pp.54~64) の内容をまとめる (アサイメント5)	
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる	
第8回	学習のプロセスと指導：学習の認知プロセス	事前学習	テキスト第6章 (pp.65~74) の内容をまとめる (アサイメント6)	
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる	
第9回	学習のプロセスと指導：個人差に応じる指導	事前学習	テキスト第7章 (pp.75~82) の内容をまとめる (アサイメント7)	

		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる
第 1 0 回	学習のプロセスと指導：授業のタイプと技術	事前学習	テキスト第 8 章 (pp.83~95) の内容をまとめる(ア サイメント 8)
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる
第 1 1 回	まとめ 2	事前学習	アサイメント 5~8 の見直し
		事後学習	教科第 II 部の見直し
第 1 2 回	生徒の理解と指導・評価：学級の理解と指導	事前学習	テキスト第 9 章 (pp.98~105) の内容をまとめる(ア サイメント 9)
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる
第 1 3 回	生徒の理解と指導・評価：不応児の理解と指導	事前学習	テキスト第 10 章 (pp.106~115) の内容をまとめる (アサイメント 10)
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる
第 1 4 回	生徒の理解と指導・評価：心理検査と心理療法 ビデオ： 問題を抱える家族	事前学習	テキスト第 11 章 (pp.116~128) の内容をまとめる (アサイメント 11)
		事後学習	本日の講義に関する教科内容をまとめる
第 1 5 回	生徒の理解と指導・評価：教育評価の考え方	事前学習	テキスト第 12 章 (pp.129~140) の内容をまとめる (アサイメント 12)
		事後学習	総まとめ
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE3106 EDTE3306
2. 授業担当教員	八重樫 節子		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義・演習			
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>生徒指導は、一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めていくことを目指して行われる教育活動であるが、教育相談はこの生徒指導の一環として位置づけられ、その中心的役割を担うものである。</p> <p>本講義は、教師が児童生徒の自発的、主体的な成長・発達の過程を援助するという教育的課題を達成するにあたり、必要な知見を獲得し、児童生徒と子どもたちを取り巻く多様な人々を共感的に理解するための資質について考察する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育相談を含め広義の生徒指導の意義と目的、内容、原理について理解し、説明することができるようになる。 2 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。 3 学校における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明することができるようになる。 4 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明することができるようになる。 5 発達支援活動としての教育相談の治療的、予防的、開発的側面について理解し、説明することができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談についての理解を円滑にするために、教科書の関連部分を読むことを第 2 回から第 1 4 回の事前学習とする。 ・レポート課題 「ある事例の解決に向けた支援の手立てについて論述する。」 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】春日井敏之・伊藤美奈子『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011 年。 ※必要に応じて授業内でプリントを配布する。</p> <p>【参考書】石隈利紀・藤井英行・田中輝美『生涯発達の中のカウンセリングⅡ』サイエンス社、2013 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間提出の授業振り返り (20%) ・授業のワークシートファイリングの提出 2 回 (20%) ・授業中のグループ活動等における積極的な参加と態度 (30%) ・レポート課題 (30%) 			
12. 受講生への メッセージ	<p>学校現場ではいじめ・不登校対策、学級の気になる子への対応策、保護者対応などにかかわって、学校における教育相談が一層重視されています。学校現場の大変さをしっかり把握し、さまざまな問題を抱えている子ども達に対して、組織的にどのような対応をしていけるのか、必要な専門的な知識や技能を実習や専門的な知識と技法を、演習やディスカッションをまじえながら、子どもたちのもつ課題解決に向けて、その力を発揮できる教諭を目指して、一緒に学んでいきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、教師に求められるカウンセリングマインドについて	事前学習	教育相談の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。	
		事後学習	授業内容について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 2 回	受容(共感)と指導(要求)、生徒指導と教育相談など	事前学習	教科書の pp.10～19 を熟読し、授業に生かす臨時的視点 pp18 の事例について予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの心を聴くことの意味と意義を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 3 回	子どもの発達課題と教育相談	事前学習	教科書の pp.22～33 子どもの発達と教育相談を熟読し、学童期の発達と教育相談について予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、子どもの発達に合わせた教育相談について理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 4 回	学校現場における「問題行動」と教育相談①	事前学習	教科書の pp.42～47 学校現場における「問題行動」と教育相談を熟読し、不登校問題と指導・支援について予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、不登校、いじめなどの問題行動のとらえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 5 回	学校現場における「問題行動」と教育相談②	事前学習	教科書の pp.48～59 学校における「問題行動」を熟読し、意欲の乏しい子どもの指導・支援について予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、万引き、意欲低下などの問題行動のとらえ方と支援の視点などを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 6 回	特別支援教育と教育相談①	事前学習	教科書の pp.62～69 特別支援教育と教育相談を熟読し、発達障害のとらえ方と対応について予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育の基本的な考え方や発達障害を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。	
第 7 回	特別支援教育と教育相談②	事前学習	教科書の pp.70～81 特別支援教育と教育相談を熟読し、気になる子どもへのかかわりと学級の取り組みについて予習をする。	
		事後学習	授業内容を復習し、特別支援教育コーディネーターの意義と役割、及びその実際について理解したことをワークシートに	

			まとめファイリングする。
第 8 回	予防・開発的取り組みと教育相談①	事前学習	教科書の pp.82～89 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、問題解決から予防・開発的な教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、さまざまな教育相談にかかわる技法を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 9 回	予防・開発的取り組みと教育相談②	事前学習	教科書の pp.90～97 予防・開発的取り組みと教育相談を熟読し、アサーション・トレーニングについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、交流分析、ピアサポートなどを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 10 回	教師への支援と教育相談	事前学習	教科書の pp.102～121 教師への支援と教育相談を熟読し、教師支援の必要性について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教師へのメンタルヘルスを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 11 回	保護者への支援と教育相談	事前学習	教科書の pp.122～141 保護者の支援と教育相談を熟読し、若い保護者の子育て不安と虐待問題への支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、親が抱えている問題への対応を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 12 回	校内の相談システムと教育相談(チーム支援)	事前学習	教科書の pp.142～159 校内の相談システムと教育相談を熟読し、相談室、部室の取り組みとネットワークについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、チーム援助のシステムを理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 13 回	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談	事前学習	教科書の pp.162～181 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教育相談を熟読し、学校で役立つスクールカウンセラー(SC)の条件について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割と活用の実際を理解したことをワークシートにまとめファイリングする。
第 14 回	専門機関との支援ネットワークと教育相談	事前学習	教科書の pp.182～204 専門機関とのネットワークと教育相談について熟読し、医療機関との連携について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、教育福祉医療及びそのたの機関との連携を理解しワークシートにまとめファイリングする。
第 15 回	授業のまとめ グループワーク(発表)	事前学習	第 14 回までの授業で、教育相談について自分が理解した内容を整理しておく。
		事後学習	授業全体をふり返り、講義内容の理解を確認したことをワークシートにまとめファイリングする。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (初等) / (初等・幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC1402
2. 授業担当教員	山本 豊			
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本来は、法学や教育課程論などを履修していることが望ましい。したがって、それらの内容で教育法規に関する個所については、講義中に適宜説明する。			
7. 講義概要	<p>本科目は、幼稚園や特別支援学校の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、幼小連携を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や幼児・児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、幼稚園・小学校や特別支援学校の幼稚園部・小学部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。 2. 教育関連法規の具体的な内容について学校(幼稚園・小学校及び特別支援学校の幼稚園部・小学部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。 3. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 ・ シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 ・ 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015。シラバスでは教科書と表示する。 ・ 山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014。シラバスではサブノートと表示する。 <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の発表 (事前学習の発表も含む) ・態度 総合点の 30% ・ 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% ・ 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 2. 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなどの予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 3. 自ら進んで発表したり、質問したりして講義内容の理解に努めること。 4. 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 5. 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 4. 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 5. 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに入室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、 国の主な法令、地方の主な法規、法令間の 矛盾抵触を解決するための諸原理などにつ いて理解する。		事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。
			事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平 等、信教の自由、学問の自由などについて 理解する。		事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
			事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 3 回	教育基本法—① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、 学校教育、教員などについて理解する。		事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
			事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、

			疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法一② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育一① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育一② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育一③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒一① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒一② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食一① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員一① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員一② 学校に配置される教職員、配置職員と職務教職員の資格などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 13 回	教職員一③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 14 回	教職員一④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政一 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 15 回	その他の教育関連法規一 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教育法規 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1321 SCMP1321 SBMP1421 EDTS2102 EDTS2302
2. 授業担当教員	山本 豊		
4. 授業形態	教育法規の基礎的な内容の把握については講義方式で進めるが、質疑応答も含んだ双方向の授業が基本である。事例・演習問題等ではグループ・ディスカッションを取り入れ、全体発表、検討などでは学生主体の授業を実施する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本科目は、中学校・高等学校や特別支援学校及び養護教諭の教育職員免許取得のためのものである。</p> <p>本講では、小中一貫連携教育を踏まえた教育法規の基礎知識を習得させながら、その上で、学校教育や児童・生徒及び教職員に関する法律上の課題について、教育関係法令等に基づきながら実践的な事例を取り上げ、小・中・高等学校や特別支援学校の小学部・中学部・高等部などで生じる基礎的な法的問題に対応できる教員となるための授業を実施する。</p> <p>教育法規に関する内容は、教員採用選考試験の教職教養科目や面接試験等の中で問われる頻度が一番高いものである。そこで、講義の中に随時、各都道府県の教員採用選考試験で出題された教育法規に関する問題を取り上げ、法規に関する具体的な運用と解釈能力を養う。</p>		
8. 学習目標	<p>教育法規を学修したことで、下記の目標を達成し、法に根拠ある教育活動ができる教員となること。</p> <p>また、教員採用選考試験の教職教養の教育法規に関する問題に対応できるようになること。</p> <p>4. 教育法規の基礎知識について知り、その内容について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>5. 教育関連法規の具体的な内容について学校(小・中・高等学校及び特別支援学校の小学部・中学部・高等部)での諸課題と照らし合わせて学び、考察することで、自らの意見をまとめ、発表することができるようになる。</p> <p>6. 今日の学校で生じている教育法規に関する諸課題を学び、グループ・ディスカッションなどを通して課題解決能力を身につけ、自分の言葉でまとめ、発表することができるようになる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 予習が欠かせない科目である。なぜならば予習することによって、課題意識をもって講義に臨むことができるからである。その結果、学習の理解度に大きな差が生じることになるからである。 シラバスに対応して、「有権解釈に重きを置いた 教育法規」を読み、「書いて理解する 教育法規」の空欄を埋めて講義に臨むこと。 講義内容に応じて、教員採用選考試験の過去問を配布するので、事前に解いて講義に臨むこと。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>山本豊著『有権解釈に重きを置いた 教育法規』学校図書、2015 年。(シラバスでは教科書と表示する)</p> <p>山本豊著『書いて理解する 教育法規』オフィス・サウス、2014 年。(シラバスではサブノートと表示する)</p> <p>*必要に応じて教材・資料等を配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発表 (事前学習の発表も含む)・態度 総合点の 30% 学習カードの記入内容、事前学習の内容 総合点の 30% 理解度テスト・事後学習の内容 総合点の 40% <p>◎ なお、本学規定により、3/4 以上の出席がない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、判断力、問題解決能力を養成し、より実践的で具体的な知識を得ることを目的としている。目的を達成するために受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中は、良き緊張感と集中力を保持して積極的な態度で授業に臨むこと。 講義内容について事前に教科書を読み、サブノートの空欄を記入するなど予習を必ず行い、課題意識をもって講義に臨むこと。 自ら進んで発表したり、質問したりし、講義内容の理解に努めること。 欠席、遅刻、早退をした場合は学習カードにその理由を記入すること。緊急事態が生じない限り、定刻に授業は開始する。 授業中の着帽、私語、飲食 (ガムを含む) 等は認めない。また、スマートフォンや携帯電話等の操作はしないこと。学生として授業を受けるに相応しい態度で講義に臨むこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる声で話しをするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を目指す。 遅刻、早退、授業中の着帽、居眠り、私語、スマートフォンや携帯電話の使用等、授業に臨む上で不適切な言動が見受けられた場合は、厳格に対処する。 授業開始前には教室にいるように心がけているので、質問がある人は早めに来室して疑問の解消に努めること。また、授業後もすぐには退室しないので (次の授業までの時間がとれる限り)、詳しく知りたいと思う内容があったら、遠慮無く尋ねること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、教育法規を学ぶ意義 教育法規の体系と構造— 教育法規、法体系と法の形式・形式的効力、 国の主な法令、地方の主な法規、法令間の 矛盾抵触を解決するための諸原理などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、それに対応するサブノートの空欄を埋める。また、教科書の質問コーナーの解答を考えることで、教育法規に興味や関心をもつ。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 2 回	日本国憲法の教育に関連する規定— 教育を受ける権利、義務教育、法の下での平等、 信教の自由、学問の自由などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心

			をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 3 回	教育基本法一① 教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、学校教育、教員などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。また、教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 4 回	教育基本法一② 家庭教育、社会教育、学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力、政治教育、宗教教育、教育行政などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。教育基本法の理解度テストに備える。
第 5 回	学校教育一① 学校教育法 1 条校、学校の設置と管理、組織編制、学校の運営などについて理解する。 理解度テスト ①	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問すること。
第 6 回	学校教育一② 学校教育の目的と目標、教育課程、学習指導要領などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。興味・関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 7 回	学校教育一③ 教科書の使用義務と補助教材、備え付け表簿の内容とその保存期間、学年・学期・授業日・休業日などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。学校教育の理解度テストに備える。
第 8 回	児童・生徒一① 義務教育、義務教育諸学校の入学・転学・退学・卒業、懲戒・体罰（その 1）などについて理解する。 理解度テスト ②	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 9 回	児童・生徒一② 懲戒・体罰（その 2）、出席停止について理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。理解度テストに備える。
第 10 回	学校保健・安全・給食一① 学校保健、学校安全、学校給食について理解する。 理解度テスト ③	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。理解度テストに備える。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 11 回	特別支援教育 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導について理解する。 教職員一① 教員、教育公務員の定義	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に興味をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 12 回	教職員一② 学校に配置される教職員、配置職員と職務	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科

	教職員の資格などについて理解する。		書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 1 3 回	教職員―③ 免許状、任用、服務、分限処分と懲戒処分などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、興味や疑問を抱いたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 1 4 回	教職員―④ 研修、給与、勤務時間その他の勤務条件などについて理解する。 教育行財政― 国と地方の役割分担、教育委員会、学校の管理及び経費の負担などについて理解する。	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	学習カードに理解した内容をまとめ、提出する。授業中に関心をもった内容について図書館やインターネット等で調べ、疑問点について次時の授業で質問する。
第 1 5 回	その他の教育関連法規― 国家賠償、社会教育、学校図書館法、児童虐待の防止等に関する法律などについて理解する。 理解度テスト ④	事前学習	授業内容に該当する範囲の教科書を熟読し、質問コーナーの解答を考えたり、興味や疑問を抱いたりしたことについて図書館やインターネット等で調べる。教科書に対応するサブノートの空欄を埋める。
		事後学習	本授業を振り返り、学習目標を達成できたかどうか自己評価する。課題が残った場合は、今後の学習や実習等で解決を図る。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	加藤 敏明		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教職に関する単位を取得してから履修することが望ましい。		
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方やや学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たった指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 : 学級経営案を作成し提出する。</p> <p>課題 2 : 学級の中に、障害 (LD, ADHD, 身体障害者等) を持った児童がいた場合の対応について、1 つ例を挙げて自分の考えを 1, 0 0 0 字以内で記述せよ。</p> <p>課題 3 : 保護者が、自分の子どもがクラスでいじめられていると訴えてきたときの対応について、自分の考えを 1, 0 0 0 字以内で記述せよ。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】教科書は使用しない。</p> <p>【参考書】『学習指導要領解説 総則編』2008 年。 梨木昭平著『教職実践演習 ロールプレイ・ロールレタリング対応』大学教育出版、2013 年。 梨木昭平著『最新教職概論 生徒指導論 教職実践演習対応』大学教育出版、2011 年。</p>		
11. 成績評価の方法	授業態度 (履修カルテの準備・私語・発表)	総合点	40 点
	レポート	総合点	30 点
	事例研究の発表	総合点	30 点
12. 受講生へのメッセージ	<p>○受講生に期待すること</p> <p>1. 授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。</p> <p>2. 授業中は、他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。</p> <p>3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得すること。</p> <p>4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。</p> <p>5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは理由を書面にて提出すること。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回目の時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。教育実習や指導法の授業を受けてきて、教師になったときの不安について発表する。	事前学習	教師になったときの不安について自分の考えを持っておく
		事後学習	学習指導要領解説総則編を読んでおく
第 2 回	新学期を迎え、クラスの座席・係・当番等の決定について留意することを学習する。 課題 1 : 学級経営案の見本を見て作成する。	事前学習	座席・係・当番等どのように決めるか自分の考えを持っておく
		事後学習	教室環境を考えた学級経営案を作る
第 3 回	学級経営案の書き方を学習する。 学級経営案の提出。(各自の経営案をグループで討論し、発表する)	事前学習	各自の学級経営案を作る
		事後学習	授業後に、学級経営案を修正しておく
第 4 回	組織の一員としての報告・連絡・相談の在り方について、事例として学習する。	事前学習	保護者との対応について自分の考えを持っておく
		事後学習	報告・連絡・相談の在り方をまとめておく
第 5 回	家庭訪問・保護者会の持ち方について学習する。 担任としての学校経営方針について、グループで討論し発表する。 課題 2 : クラスに障害者がいるときの対応について、1 つ事例を挙げて 1,000 字以内にまとめる。	事前学習	家庭訪問や保護者会の持ち方を考えておく
		事後学習	課題 2 のレポートの事例を考えておく
第 6 回	クラスに障害者がいるときの対応について学習する。 提出されたレポートの事例ごとにグループを作り、討論し発表する。(事例研究)	事前学習	自分の考えた事例のレポート作る
		事後学習	レポートを修正しておく
第 7 回	事例研究 (わがままで教師の言うことを聞かない児童の対応) を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	個々の児童の対応について考えておく
		事後学習	個に応じた指導の在り方をまとめておく

第 8 回	事例研究（不登校児童に対する対応）を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	教師や専門家との連携を考えておく
		事後学習	児童の実態や保護者の願いもまとめておく
第 9 回	ロールプレイ（いじめへの対応）を通して、グループで討論し発表をする。	事前学習	組織人としての対応を考えておく
		事後学習	各自、いじめの対応をまとめておく
第 10 回	ロールプレイ（いじめられている子の保護者の訴えに対する対応）を通して、グループで討論し発表する。 課題 3：保護者が、子どもがいじめられていると訴えてきたときの対応について、1,000 字以内に自分の考えをまとめる。	事前学習	いじめられている子の保護者への対応をまとめておく
		事後学習	課題 3 のレポートについて、自分の考えをまとめておく
第 11 回	個に応じた指導のあり方について、事例をごとにグループ討論をし発表する。 課題 3 を提出する。	事前学習	課題 3 のレポートを作る。
		事後学習	組織としての取り組みを考える
第 12 回	子どもの力を引き出す手立てと児童理解を学習する。 （学級活動の事例を通してグループで討論し発表する）	事前学習	まとまりのある学級作りを考えておく
		事後学習	色々な事例を考えておく
第 13 回	指導力を高める教材研究の仕方について学習する。 （児童の実態把握と個に応じた指導の在り方について、討論し発表する）	事前学習	児童の実態把握の仕方を考えておく
		事後学習	学習の遅れている児童の対応について考えておく
第 14 回	学年会・職員会議・校務分掌での組織人としての協力について討論し発表する。	事前学習	校務分掌での提案の仕方を考えておく
		事後学習	会議での提案の仕方をまとめておく
第 15 回	教師に求められる資質について、討論し発表する。 自己の教育指導の考え方について討論し発表する。	事前学習	教師の資質について考えてくる
		事後学習	各自で目指す教師像を考えておく

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC4576
2. 授業担当教員	國府田 祐子			
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>④ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>⑤ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>⑥ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たった指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>授業の理解度、実践力を確認するために、以下を提出する。</p> <p>1 授業内容に沿った、実践に結びつくレポート作成・提出</p> <p>2 事例・資料の読み取りと感想、意見の提出</p> <p>3 児童理解、実態に基づいた指導案の作成・提出</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】特に指定しない。 「教育実習日誌」「教職履修カルテ」を持参する。</p> <p>【参考書】授業の中で適宜提示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>1 受講態度、参加姿勢 50%</p> <p>2 レポート作成、資料等の読み取り 30%</p> <p>3 児童理解に基づいた実技の提示・授業展開力・計画案との整合性 20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>指導案作成、教材研究、児童理解を行い、その中で、実践に結びつく支援の工夫、予想する大切さを学びます。感動、探究、追及する心を持ち、子どものために共に感性・技量を磨くことが大切です。</p> <p>以下のことに気をつけて受講して下さい。</p> <p>1 体調を整え、心身ともに集中して受講してください。毎時間、すべての内容が大切です。遅刻・早退2回は欠席1とします。</p> <p>2 疑問点をはっきりさせ、自分なりの感動、感想、注意事項を記録、蓄積し、実践に活かしてください。</p> <p>3 演習が多くあります。指示をメモし、必要なものを持参してください。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション より望ましい教師像	事前学習	教師の良さを考える	
		事後学習	望ましい教師像についてまとめておく	
第2回	授業づくり、学級づくりのステップ	事前学習	学級の良さを考え文にする	
		事後学習	発表準備	
第3回	わかる授業を成立させる条件 実習のふり返り	事前学習	授業の良さを考え文にする	
		事後学習	よい授業とそうでない授業についてまとめておく	
第4回	授業を成立させる条件	事前学習	指導案の良さを考え理由をつける	
		事後学習	発表準備	
第5回	学級を成立させる条件	事前学習	発表に向けて準備を行う	
		事後学習	学級と授業の関係を文にする	
第6回	授業のルール	事前学習	グループ内発表準備	
		事後学習	レポートにまとめる	
第7回	学級のルール	事前学習	まとめと発表準備 全体	
		事後学習	担任と教師集団の関係を文にする	
第8回	指導案と授業	事前学習	ルール作りについて自分の案を立てておく。	
		事後学習	児童理解の必要を文にする	
第9回	模擬授業とその検討 気になる子への対応	事前学習	気になる子への配慮を文にする	
		事後学習	レポートにまとめる	
第10回	模擬授業とその検討 学級経営と学校経営	事前学習	改善策を入れた指導案をつくる	
		事後学習	グループ内発表準備	
第11回	模擬授業とその検討	事前学習	発表に向けて準備を行う。	
		事後学習	学校経営と授業の関係を文にする	
第12回	より良い教師像—ゲストティーチャーから学ぶ	事前学習	まとめとグループ発表準備	
		事後学習	教師の良さを改めて文にする	
第13回	模擬授業とその検討	事前学習	まとめと発表準備 全体	
		事後学習	自分の良さを文にする	
第14回	模擬授業とその検討	事前学習	自分の課題を文にする	
		事後学習	まとめと発表準備 全体	
第15回	総括	事前学習	望ましい実践を文にする	
		事後学習	実践に向け課題をさらにつかむ	

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)		3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	古俣 龍一			
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを期待して実施される科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>① 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>② 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>③ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たっての指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・教科指導等の内容、生活指導に関する諸課題、学級経営に関する留意点等にかかわる講義に関して、指示のあった課題についてレポートを提出する。締切日は厳守すること。</p> <p>・模擬授業については、指導案の作成および振り返りをし、レポートとして提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社。 ・古俣龍一『トラベジウム』佳文社。(2 年次に購入したもの) ・その他の資料は必要に応じて適宜準備する <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」は、毎回持参する ・必要に応じて適宜提示する 			
11. 成績評価の方法	<p>学習課題における積極性・意欲性 …… 60%</p> <p>課題レポート …… 20%</p> <p>まとめと修了レポート …… 20%</p> <p style="text-align: center;">100%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本授業はこれから教育現場へ赴くみなさんに対して、教員として必要となる資質を身につけるにはどのようなことが重要なのかを学習します。おもな学習目標は以下の項目に示します。みなさんはこれらの目標を達成することが目的となります。</p> <p>①職務に対して使命感や責任感をもち、児童に対する愛情が豊かにもち続けるには</p> <p>②教科や領域などの指導力に関して実践力を身につけるには</p> <p>③社会性や対人関係能力に関する資質を身につけるには</p> <p>④児童理解や学級経営などに関する基礎的な能力を身につけるには</p> <p>⑤学校組織の一員として有用な力を発揮できるような能力を身につけるには</p> <p>これらの学習目標を達成するために事例検討やディスカッション、ロールプレイなどを通してみなさんで学び合い、即戦力としての力を身につけていきましょう。</p>			
13. オフィスアワー	・オリエンテーション時に伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	○オリエンテーション (講義・ディスカッション) ・本授業の内容と流れの確認 ・「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」から各自の成果と課題を明確にし、課題解決のために何を行うかを発表する	事前学習	本授業のシラバスの確認 教職履修カルテと教育実習日誌の通読と自己課題の把握	
		事後学習	自己課題解決のための今後の取り組みのまとめ	
第 2 回	○教育実習における課題 (講義・ディスカッション) ・各自の課題についての発表とその解決に向けてのディスカッション	事前学習	教育実習における成果と課題の確認	
		事後学習	教育実習での成果と課題の再確認および今後の展望	
第 3 回	○学習指導要領の変遷および現行の学習指導要領について (講義・ディスカッション) ・「新学力観」の考え方 ディスカッション	事前学習	現行の学習指導要領のポイントの把握	
		事後学習	学習指導要領の変遷と現行の学習指導要領における重要点の理解	
第 4 回	○学級指導の実際 1 (講義・ディスカッション) ・学校、学年経営案の提示および学級経営案の書き方演習	事前学習	学級経営にかかわる留意点の把握	
		事後学習	校務分掌の理解と組織の一員としての自覚およびその中での学級経営の実際についての理解	
第 5 回	○学級指導の実際 2 (講義・ディスカッション) ・事例 1 トラベジウム ディスカッション	事前学習	pp.67-68、pp.246-248 および関連したページの講読	
		事後学習	個に応じた指導の重要性への理解	
第 6 回	○学級指導の実際 3 (講義・ディスカッション) ・事例 2 トラベジウム ディスカッション	事前学習	pp.111-112 および関連したページの講読	
		事後学習	具体的な学級経営の実際例の理解とその応用の構想	
第 7 回	○第 1 回ディベートオリエンテーション	事前学習	1 回目となるディベートのテーマを考える	

		事後学習	決定したテーマについての考えをまとめる
第 8 回	○第 1 回ディベート大会	事前学習	自分の立場と関連する意見をまとめる
		事後学習	第 1 回目のディベートを振り返り、2 回目に向けて準備する
第 9 回	○子供の力を引き出す教師 2 (講義・ディスカッション) ・現場教師もしくは指導主事等による実践報告 意見交換	事前学習	「学習指導要領解説」総則編の指導計画作成の配慮事項を読み直す
		事後学習	先輩教師の実践やアドバイスを元に自己課題をまとめる
第 10 回	○指導力を高めるための教材研究と授業のあり方 ・学習指導案の書き方の確認 演習・ディスカッション	事前学習	学習指導案の作成の再確認
		事後学習	指定された形式での学習指導案の作成、模擬授業の準備
第 11 回	○代表者による模擬授業 1 ・振り返り グループディスカッションと発表	事前学習	模擬授業に向けての諸準備
		事後学習	模擬授業における指摘箇所の確認と今後に向けてのまとめ
第 12 回	○代表者による模擬授業 2 ・振り返り グループディスカッションと発表	事前学習	模擬授業に向けての諸準備
		事後学習	模擬授業における指摘箇所の確認と今後に向けてのまとめ
第 13 回	○第 2 回ディベートオリエンテーション	事前学習	2 回目となるディベートのテーマを考える
		事後学習	決定したテーマについての考えをまとめる
第 14 回	○第 2 回ディベート大会	事前学習	自分の立場と関連する意見をまとめる
		事後学習	第 2 回目のディベートを振り返る
第 15 回	○本授業の振り返りとまとめ ・まとめのレポート 発表およびディスカッション	事前学習	「教育実践演習」を通しての成果と課題の整理
		事後学習	教員としての力量向上のための自己課題の整理と教師に向けての意志確認

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (小学校) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE4391
2. 授業担当教員	鈴木 達也		
4. 授業形態	講義、演習、実習等を適宜利用する	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>教職実践演習 (小学校) は、本学の教員養成に必要な「理論と実践」の融合を目指す科目として設定されている。これまでの学習を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する科目である。</p> <p>この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを期待して実施される科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>教員として求められる資質・能力の形成に関して、以下の目標を設定し、達成することができる。</p> <p>④ 職務遂行に必要な使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項を再確認する。</p> <p>⑤ 社会性や対人関係能力に関する事項の発揮に関しての再確認をする。</p> <p>⑥ 実習等で得られた幼児・児童・生徒理解の仕方や学級経営の在り方等に関する事項の再確認をする。</p> <p>④ 教科・領域等教育課程の実施に当たった指導力・実践力に関する事項の再確認をする。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート I 教育実習の成果と課題、1600字 A4 を 1 枚程度 ・レポート II 教育実習での指導案の改善案 (模擬授業の指導案) ・修了レポート 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省、2008 年。 ・その他、必要に応じて資料を配布する。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」 ・その他、必要に応じて紹介する。 		
11. 成績評価の方法	<p>演習への参加態度や発表内容、提出物など、実践力のある教師としての能力を身につけられたか総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート (学習指導案を含む) 40% ・日常の授業態度 (参加態度、発表等) 30% ・まとめと修了レポート 30% <p>*期末試験は実施しない</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>最終学年として大学生活を締めくくることが自覚して取り組むこと。特に、皆さんは教育現場を実習を通して体験した。その体験に磨きをかけ、体験を共有し、英知を出し合い、課題を克服することによって、一人一人の学生が教員になることの現実性・可能性が増すことを期待する。</p>		
13. オフィスアワー	第 1 回 授業時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 本演習のねらいと内容・方法。「教職履修カルテ」「教育実習日誌」を基に、各自の課題を明確にし、課題解決の見通しを立てる。	事前学習	「教職履修カルテ」「教育実習日誌」を通読し演習に臨む。
		事後学習	教育実習の課題を整理する。
第 2 回	教育実習での課題解決の方法を討議しまとめる。 ・教科指導等について ・生徒理解と学級経営について グループディスカッション	事前学習	実習経験から自らの課題をまとめ準備する。
		事後学習	教育の現場における自らの諸課題をまとめる。(レポート)
第 3 回	望ましい教師像としての授業力について ・新しい学力観とわかる授業 グループディスカッション	事前学習	教育実習の経験からわかる授業の要件を簡単にまとめ準備する。
		事後学習	新しい学力観に基づく授業像についてまとめる。
第 4 回	組織の一員としての教員の仕事について ・教職員間の協力体制づくりと報告・連絡・相談 グループディスカッション、ロールプレイ	事前学習	教員の任務を強く意識した実習の経験を簡単にまとめ準備する。
		事後学習	教員の任務について実習にそってまとめる。
第 5 回	学校と保護者・地域、教育関係機関とのかわりについて ・地域連携 ・学校の危機管理 ・教育関係機関との連携 グループディスカッション	事前学習	学校組織と保護者・地域を強く意識した体験をまとめ準備する。
		事後学習	教員間の協同と同僚性についてまとめる。
第 6 回	学級経営案の書き方について ・新任教員として学級経営の基礎・基本 ・学校行事との関連 グループディスカッション	事前学習	新任教員としてどんな学級経営がしたいかビジョンを準備する。
		事後学習	本時に作成した学級経営案を修正・改善する。
第 7 回	学級経営の方法と進め方について ・新学期の生徒への方針説明 ・保護者会の持ち方・家庭訪問 ロールプレイ、ディスカッション	事前学習	児童理解や充実した学級経営のための視点を明確にする。
		事後学習	学習集団・生活集団づくりを推進するための要点をまとめる。
第 8 回	子どもの力を引き出す教師の実践例について① [児童理解を中心に] ・実践事例を基に実践の意図や	事前学習	教育実習での児童理解の難しさについて要点をまとめる。

	方法を探る グループディスカッション	事後学習	教育実践の中でできる児童理解・生徒指導の方法をまとめる。
第 9 回	子どもの力を引き出す教師の実践例について② 【授業力を中心に】 ・実践事例を基に実践の意図や方法を探る グループディスカッション	事前学習	実習での授業づくりの難しさについて想起し準備する。
		事後学習	新しい学力観に基づく授業づくりと指導場面の対応をまとめる。
第 10 回	指導力を高める教材研究と授業の進め方について ・教科、学年、単元等を選定して、模擬授業の準備 グループで共同して模擬授業のための指導案づくり	事前学習	『学習指導要領解説』総則編の指導計画作成の配慮事項を読む。
		事後学習	指定された形式で学習指導案を作成する。
第 11 回	模擬授業の実施と改善について ・学習指導案を基に授業研究会 ・修正案の検討 グループディスカッション、発表	事前学習	模擬授業に向けて準備をする。
		事後学習	自分の授業改善のポイントをまとめる。
第 12 回	特別な支援を必要とする生徒への対応について ・事例問題を通しての課題解決・討議 グループディスカッション	事前学習	軽度発達障害のある生徒への学級での対応を簡単にまとめる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 13 回	いじめへの対応と教員間の連携の在り方について ・事例問題を通しての課題解決・討論 ・組織的対応 ロールプレイ、グループディスカッション	事前学習	様々ないじめの実態や事例・事件を調べる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 14 回	不登校生徒への対応と教員間の連携の在り方について ・事例問題を通しての課題解決・討論 ・組織的対応 グループディスカッション	事前学習	不登校の実態を調べ対応に関する自分の考えをまとめる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 15 回	授業のまとめ ・教師に求められる資質の向上 ・指導能力の向上 発表	事前学習	教員として自己実現を図る目あてを具体的にまとめ準備する。
		事後学習	教員としての力量向上のための自己課題を総まとめする。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (中学・高校) (2 単位)		3. 科目番号	EDTS4393						
2. 授業担当教員	鈴木 達也									
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、模擬授業など		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係										
7. 講義概要	<p>大学でこれまで学んできた理論や学習知と教育実習等で獲得してきた実践知との関連や統合を図る。特に、教育実習成果・課題を踏まえて、生徒の実態に即した授業設計の在り方、教材の準備など、作業や演習をする。具体的には</p> <p>①これまでの講義や実習で積み重ねた「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」、および資料等を基に、教員として必要な資質・能力に関する自己課題を明確にする。</p> <p>②教育実習の体験を基に、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。</p> <p>③教育に対する使命感、責任感、生徒・保護者とのコミュニケーションやよい授業を実施するための様々な準備について、実践的に学ぶ。</p> <p>更に、生徒への指導場面で、生徒理解や個に応じること、生徒の多様性に対応することなど実習で、実感した現場の実態と教員が配慮していること、身に付けたい能力などについて深める。</p> <p>また、学校という職場で組織の一員として働くことと、一人の教員として自己実現を図ることを仕事の仕方として掘り下げ、学校の教員として働くことの現実性を増し、実践力を高める。</p>									
8. 学習目標	<p>中学校、高等学校の教員として必要な基礎的資質・能力の形成に関して、以下の4項目をテーマおよび到達目標とする。</p> <p>① 職務に対して使命感や責任感を持ち、生徒に対する愛情が豊かであること。</p> <p>② 学校で働く組織人として、社会性や対人関係能力が適切であること。</p> <p>③ 生徒理解や学級経営等に関する基礎的な能力が身につけていること。</p> <p>④ 教科内容等の実践的な指導力が習得されていること。</p>									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートⅠ 教育実習の成果と課題、1600字A4を1枚程度 ・レポートⅡ 教育実習での指導案の改善案 (模擬授業の指導案) ・修了レポート 									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省、2008年。 ・『高等学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省、2009年。 ・その他、必要に応じて資料を配布する。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の「教職履修カルテ」と「教育実習日誌」 ・その他、必要に応じて紹介する。 									
11. 成績評価の方法	<p>演習への参加態度や発表内容、提出物など、実践力のある教師としての能力を身につけられたか総合的に評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>・課題レポート (学習指導案を含む)</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>・日常の授業態度 (参加態度、発表等)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>・まとめと修了レポート</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>*期末試験は実施しない</p>				・課題レポート (学習指導案を含む)	40%	・日常の授業態度 (参加態度、発表等)	30%	・まとめと修了レポート	30%
・課題レポート (学習指導案を含む)	40%									
・日常の授業態度 (参加態度、発表等)	30%									
・まとめと修了レポート	30%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>最終学年として大学生活を締めくくることが自覚して取り組むこと。特に、皆さんは教育現場を実習を通して体験した。その体験に磨きをかけ、体験を共有し、英知を出し合い、課題を克服することによって、一人一人の学生が教員になることの現実性・可能性が増すことを期待する。</p>									
13. オフィスアワー	第1回 授業時に知らせる。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第1回	オリエンテーション 本演習のねらいと内容・方法。「教職履修カルテ」「教育実習日誌」を基に、各自の課題を明確にし、課題解決の見通しを立てる。	事前学習	「教職履修カルテ」「教育実習日誌」を通読し演習に臨む。							
		事後学習	教育実習の課題を整理する。							
第2回	教育実習での課題解決の方法を討議しまとめる。 ・教科指導等について ・生徒理解と学級経営について グループディスカッション	事前学習	実習経験から自らの課題をまとめ準備する。							
		事後学習	教育の現場における自らの諸課題をまとめる。(レポート)							
第3回	望ましい教師像としての授業力について ・新しい学力観とわかる授業 グループディスカッション	事前学習	教育実習の経験からわかる授業の要件を簡単にまとめ準備する。							
		事後学習	新しい学力観に基づく授業像についてまとめる。							
第4回	組織の一員としての教員の仕事について ・教職員間の協力体制づくりと報告・連絡・相談 グループディスカッション、ロールプレイ	事前学習	教員の任務を強く意識した実習の経験を簡単にまとめ準備する。							
		事後学習	教員の任務について実習にそってまとめる。							
第5回	学校と保護者、地域、教育関係機関とのかかわりについて	事前学習	学校組織と保護者・地域を強く意識した体験							

	・地域連携 ・学校の危機管理 ・教育関係機関との連携 グループディスカッション		をまとめ準備する。
		事後学習	教員間の協同と同僚性についてまとめる。
第 6 回	学級経営案の書き方について ・新任教員として学級経営の基礎・基本 ・学校行事との関連 グループディスカッション	事前学習	新任教員としてどんな学級経営がしたいかビジョンを準備する。
		事後学習	本時に作成した学級経営案を修正・改善する。
第 7 回	学級経営の方法と進め方について ・新学期の生徒への方針説明 ・保護者会の持ち方・家庭訪問 ロールプレイ、ディスカッション	事前学習	生徒理解や充実した学級経営のための視点を明確にする。
		事後学習	学習集団・生活集団づくりを推進するための要点をまとめる。
第 8 回	子どもの力を引き出す教師の実践例について① [生徒理解を中心に] ・実践事例を基に実践の意図や方法を探る グループディスカッション	事前学習	教育実習での生徒理解の難しさについて要点をまとめる。
		事後学習	教育実践の中でできる生徒理解・生徒指導の方法をまとめる。
第 9 回	子どもの力を引き出す教師の実践例について② [授業力を中心に] ・実践事例を基に実践の意図や方法を探る グループディスカッション	事前学習	実習での授業づくりの難しさについて想起し準備する。
		事後学習	新しい学力観に基づく授業づくりと指導場面の対応をまとめる。
第 10 回	指導力を高める教材研究と授業の進め方について ・教科、学年、単元等を選定して、模擬授業の準備 グループで共同して模擬授業のための指導案づくり	事前学習	『学習指導要領解説』総則編の指導計画作成の配慮事項を読む。
		事後学習	指定された形式で学習指導案を作成する。
第 11 回	模擬授業の実施と改善について ・学習指導案を基に授業研究会 ・修正案の検討 グループディスカッション、発表	事前学習	模擬授業に向けて準備をする。
		事後学習	自分の授業改善のポイントをまとめる。
第 12 回	特別な支援を必要とする生徒への対応について ・事例問題を通しての課題解決・討議 グループディスカッション	事前学習	軽度発達障害のある生徒への学級での対応を簡単にまとめる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 13 回	いじめへの対応と教員間の連携の在り方について ・事例問題を通しての課題解決・討議 ・組織的対応 ロールプレイ、グループディスカッション	事前学習	様々ないじめの実態や事例・事件を調べる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 14 回	不登校生徒への対応と教員間の連携の在り方について ・事例問題を通しての課題解決・討議 ・組織的対応 グループディスカッション	事前学習	不登校の実態を調べ対応に関する自分の考えをまとめる。
		事後学習	事例から学んだポイントをまとめる。
第 15 回	授業のまとめ ・教師に求められる資質の向上 ・指導能力の向上 発表	事前学習	教員として自己実現を図る目あてを具体的にまとめ準備する。
		事後学習	教員としての力量向上のための自己課題を総まとめする。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (養護) (2 単位)	3. 科目番号	EDHE4395
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>養護実習の振り返り、実習日誌を基に自分の課題を明確にし、近年の子ども達の抱える健康課題を自主的にテーマ設定し、課題発表をする。発表から見える子どもの健康課題から実際の実習中の子どもの捉え方を検討し、養護教諭としての実践的な関わりについて理解を深める。</p> <p>この学習を通して、社会性や対人関係、コミュニケーション、コーディネート能力を培い、養護教諭としての意識や使命感を高めるとともに、保健教育教材研究において実習中実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場での指導講評を踏まえディスカッションを取り入れ、指導案改定案を作成しプレゼンテーションの力も養い、実践的な指導力や向上につながる課題解決のための能力の伸長をめざす。</p>		
8. 学習目標	<p>養護実習の振り返りを活かし、養護教育に関する自己課題を見出すことができる。</p> <p>教員に求められる資質（職務への使命感・責任感、子どもに対する愛情）を身につけることができる。</p> <p>養護活動に必要な能力や保健室経営等に関する基礎的な能力を身につけることができる。</p> <p>保健室経営におけるコミュニケーション力を高め、自らの目指す養護教諭像を明らかにできる。</p> <p>健康教育に必要な指導力の基礎を形成することができる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に、講義内容についての感想、まとめ、課題に関する振り返りを提出する。 中間課題レポート：講義内容に基づき、「子どもの抱える健康課題」について自分の考えを記述する。(800字程度) 最終課題レポート：「あなたが目指す養護教諭像」について自分の考えを記述する。(800字程度) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>学校保健・安全実務研究会編著『新訂版 学校実務必携 第2次改訂版』第一法規、2009年。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業の課題振り返り (30%) 授業のワークシートのファイリングの提出2回 (20%) 授業中の積極的な活動・発現 (20%) 中間課題レポート (15%) 最終課題レポート (15%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>養護実習の振り返りを活かし、お互いがそれぞれの現地実習で学んだことや、気づいたことをディスカッションや抱えた問題ケースを出し合い学びの幅を広げていきましょう。より子どもを理解し、より学校を理解し、より地域を理解してどのように専門性を発揮していくかを一緒に学びより高めていきましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知いたします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>「教職実践演習」の目的、意義、授業運営の説明、「履修カルテ」の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオについて 	事前学習	各自の実習後の目的や意義を振り返りまとめておく。
		事後学習	授業の目的、意義について理解したことをまとめてファイリングをする。
第2回	<p>◆養護実習の振り返りと今後の課題 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習日誌をもとに、各自の実習について振り返り、実践演習で明らかにしておきたいことを明確化する。 	事前学習	各自の実習の振り返りから自分の課題を考えまとめておく。
		事後学習	自分の振り返りから、明らかにしたいことをまとめてファイリングをする。
第3回	<p>◆養護実習体験の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習日誌をもとに各自の実習について振り返り、実習校の概要、実習中で経験したこと等をグループで話し合い発表 	事前学習	実習日誌から学校概要、経験からの学び等まとめておく。
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、自分の考えをまとめてファイリングをする
第4回	<p>◆実習校の児童生徒の健康課題①</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断や、実習中のかかわりからとらえた健康課題についての検討 	事前学習	実習中に関わった子どもの健康課題についてまとめておく。
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、自分の考えをまとめてファイリングをする。
第5回	<p>◆実習校の児童生徒の健康課題②</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康課題を理解し、養護教諭のかかわり方を検討 課題①「子どもの抱える健康課題」 	事前学習	実習日誌から見える養護教諭の子どもへのかかわり方をまとめておく
		事後学習	講義時間内のディスカッションを総括し、自分の考えをまとめてファイリングをする。
第6回	<p>◆保健室での遭遇した救急処置事例、いじめや不登校・保健室登校の問題について (事例討論)</p>	事前学習	不登校、いじめ、保健室登校についてまとめておく
		事後学習	事例に対しての討論を総括し、自分の考えをまとめてファイリングをする。
第7回	<p>◆学校保健年間計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校の年間保健計画の内容や実践状況について検討 	事前学習	自校の保健年間計画から保健行事との関係をまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考えをまとめてファイリングをする。
第8回	<p>◆保健室経営案</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校の保健室経営案内容や実践状況について検討 	事前学習	自校の保健室経営案について発表できるようにまとめておく。
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考

			えをまとめファイリングをしておく。
第 9 回	◆健康診断 ・養護実習で経験した健康診断計画立案から実施、事後措置について検討	事前学習	自校の健康診断計画を振り返り要点をまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考えをまとめファイリングをしておく。
第 10 回	◆健康教育・保健教育教材研究① ・実習中に実施した保健指導、保健学習の指導案について、現場の指導講評を踏まえたディスカッション実施	事前学習	各自の実施した保健指導案、保健学習指導案の指導講評をまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考えをまとめファイリングをしておく。
第 11 回	◆健康教育・保健教育教材研究②	事前学習	自校で実施した指導案の指導講評をまとめておく
		事後学習	指導講評を活かし、指導案の改訂案を作成する。
第 12 回	◆健康相談事例検討① ・養護実習中に経験した困難事例等に関するディスカッション	事前学習	自校で扱った困難事例についての「事例検討資料」を作成し発表できるようにまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考えをまとめファイリングをしておく。
第 13 回	◆健康相談事例② ・①の検討事例を基にしたロールプレー	事前学習	前授業で話し合われた事例についての役割分担を話し合い、事例を良く理解しておく。
		事後学習	本時のロールプレーからの学びや理解したことをまとめファイリングをしておく
第 14 回	◆保健室経営におけるコミュニケーションと連携 ・児童生徒の発達段階とコミュニケーションの取り方についてのディスカッション（親連携・担任連携含む）	事前学習	実習校の児童生徒の実態と発達段階の特徴をまとめ、担任、保護者の連携についてまとめておく
		事後学習	本時の講義やディスカッションから自分の考えをまとめファイリングをしておく。
第 15 回	◆求められる養護教諭 ・大学での学びや養護実習を総括し、自らの目指す養護教諭像を明らかにする。 ・本演習を通して明確化された、今後の研鑽を積むべき事項について整理する。 ・：最終課題レポート②「あなたが目指す養護教諭像」	事前学習	自ら目指す養護教諭をまとめておく。
		事後学習	本授業から明確化された自分自身の今後の研鑽事項についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2 単位)		3. 科目番号	SJTC4575
2. 授業担当教員	岡野 雅子・鈴木 美子			
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>教員に求められる事項として、中教審答申では次の 4 つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに、教育実習での自分自身の実践を振り返って、自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題を課します。 実習を通して、どのようなことが幼児教育を巡る課題と考えられるか、その他、具体的なテーマを設けてレポートを作成します。作成を通して自己課題を捉え、自分で考えながら進めていく力を培ってください。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>必要に応じてプリントを配布します。 参考書は、適宜授業の中で提示します。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 30%、小課題 30%、レポート 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼稚園教育実習での自分自身の実践がどうであったか、振り返りを基に自己課題を見出していきます。 実習での自分の実践を評価して、実践的指導力を身につけるための自己課題を捉えて、自分でどのような力をつけようとするかを常に意識しながら授業に臨むようにしてください。</p>			
13. オフィスアワー	<p>別途通知します。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション:本演習の目的と展開方法について	事前学習	幼児教育の専門性の内容の復習	
		事後学習	これまでの実習の反省からの自己課題を整理する。	
第 2 回	幼児教育における今日的課題	事前学習	「幼稚園教育要領」のキーワードから幼児教育が目指すものについて確認しておく。	
		事後学習	保育の理想の実現化における多様な実態について整理する。	
第 3 回	教員に求められる資質① (使命感・責任感)	事前学習	資質①の意味することについての予習	
		事後学習	自己反省と改善のための方法を文章化する。	
第 4 回	教員に求められる資質② (幼児理解 9)	事前学習	資質②の意味することについての予習	
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。	
第 5 回	学級経営① (教育力のある学級にするために)	事前学習	学級経営①の意味することについての予習	
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。	
第 6 回	学級経営② (学級集団育成の具体的な方法)	事前学習	学級経営②の意味することについての予習	
		事後学習	自己反省と改善の内容を文章化する。	
第 7 回	保育者間の人間関係	事前学習	保育において保育者間の協力の必要性について確認する。	
		事後学習	実習における職場の人間関係の体験について振り返る。	
第 8 回	保護者との望ましい関係① (保護者対応の基本)	事前学習	保護者の抱える問題を調べる。	
		事後学習	保護者対応における保育者の基本的役割について整理する。	
第 9 回	保護者との望ましい関係② (事例に学ぶ保護者支援)	事前学習	保護者対応の問題事例を調べておく。	
		事後学習	保護者対応の改善の仕方について確認する。	
第 10 回	責任実習の反省と実践課題その① (保育内容の観点から)	事前学習	自分の責任実習におけるねらいと内容の関係を実践結果から整理しておく。	
		事後学習	保育のねらいから内容を選択する過程を整理する。	
第 11 回	責任実習の反省と実践課題その② (方法の観点から)	事前学習	自分の責任実習の展開方法の問題点を整理しておく。	
		事後学習	保育展開 (一日の流れ、課題活動) のポイントについて確認する。	
第 12 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論①	事前学習	模擬保育指導案の問題点について整理しておく。	
		事後学習	当日の保育実践の改善法の整理、レポート	
第 13 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論②	事前学習	模擬保育指導案の問題点について整理しておく。	
		事後学習	当日の保育実践の改善法の整理、レポート	
第 14 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論③	事前学習	模擬保育指導案の問題点について整理しておく。	
		事後学習	当日の保育実践の改善法の整理、レポート	
第 15 回	幼稚園教諭としての成長と専門性の習得	事前学習	自分の実習カルテから、専門性修得についての自己評価をする。	
		事後学習	専門性向上のための方策をまとめ、レポートを作成する。	

1. 科目名 (単位数)	教職実践演習 (幼稚園) (2 単位)	3. 科目番号	SJTC4575
2. 授業担当教員	田中 卓也		
4. 授業形態	演習、グループ討議、ロールプレイング	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教員に求められる事項として、中教審答申では次の 4 つを挙げている。すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児理解や学級経営に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項である。本科目では、これらについて履修カルテを見直すとともに、教育実習での自分自身の実践を振り返って、自己課題を見出し、課題解決の方策を自分たちで検討する学習のプロセスを経て、実践的指導力を身に付けるようにする。		
8. 学習目標	1. 実習を通して、幼児教育に関する自己課題を見出すことができる。 2. 教員に求められる資質 (職務への使命感・責任感、幼児に対する愛情) を理解し、自ら振り返る。 3. 幼児理解や学級経営に関する基礎的な能力を身に付ける。 4. 社会性や対人関係能力を身に付ける。 5. 保育内容や指導力に関する実践力を身に付ける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題を課します。 実習を通して、どのようなことが幼児教育を巡る課題と考えられるか、その他、具体的なテーマを設けてレポートを作成します。 作成を通して自己課題を捉え、自分で考えながら進めていく力を培ってください。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】田中卓也・横井一之・小島千恵子・時田詠子編『保育・教職実践演習テキストノート』ふくろう出版、(2016 年 3 月末刊行予定)。 【参考書】増田まゆみ・矢藤誠慈郎編『保育・教育職の実践演習』建帛社、2013 年。 澤津まり子・木暮朋佳・芝崎美和・田中卓也編『保育者の扉』建帛社、2012 年。 『認定子ども園保育教育要領』チャイルド社、2014 年。 なお、必要に応じてプリントを渡します。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 30%、保育実践 20%、小課題 10%、レポート 40%		
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育実習での自分自身の実践がどうであったか、振り返りを基に自己課題を見出していきます。実習での自分の実践を評価して、実践的指導力を身につけるための自己課題を捉えて、自分でどのような力をつけようとするかを常に意識しながら授業に臨めるようにしてください。		
13. オフィスアワー	授業の前夜		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：本演習の目的と展開方法について	事前学習	幼児教育の専門性の内容の復習
		事後学習	これまでの実習の反省からの自己課題を整理
第 2 回	幼児教育における問題点「実習体験から探り出す」	事前学習	幼稚園教育要領にキーワードから幼児教育が目指すものを確認
		事後学習	保育の理想の実現化における多様な実態の整理
第 3 回	教員に求められる資質①「使命感・責任感、教育的愛情」にかかわる事例のグループディスカッション	事前学習	資質①の意味することについての予習
		事後学習	自己反省と改善のための方法を記述
第 4 回	教員に求められる資質②幼児理解、福祉及びカウンセリングマインドをもった保育者としての自己分析より	事前学習	資質②の意味することを予習
		事後学習	自己反省と改善の内容を記述
第 5 回	学級経営①教育力のある学級にするために	事前学習	学級経営①の意味することを予習
		事後学習	自己反省と改善の内容を記述
第 6 回	学級経営②学級集団育成の具体的な方法	事前学習	学級経営②の意味することを予習
		事後学習	自己反省と改善の内容を記述
第 7 回	保育者間の人間関係	事前学習	保育において保育者間の協力の必要性の確認
		事後学習	実習における職場の人間関係の体験の振り返り
第 8 回	保護者との望ましい関係①保護者対応の基本的視点	事前学習	保護者の抱える問題を調べる
		事後学習	保護者対応における保育者の基本的役割の整理
第 9 回	保護者との望ましい関係②事例に学ぶ保護者支援	事前学習	保護者対応の問題事例をあつめる。
		事後学習	保護者対応の改善の仕方の確認
第 10 回	責任実習の反省と実践課題その①保育内容の観点から	事前学習	自分の責任実習におけるねらいと内容の関係を実践結果から整理
		事後学習	保育のねらいから内容を選択する過程を整理
第 11 回	責任実習の反省と実践課題その②方法の観点から	事前学習	自分の責任実習の展開方法の問題点整理
		事後学習	保育展開 (一日の流れ、課題活動) のポイントの確認
第 12 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論	事前学習	保育展開 (一日の流れ、課題活動) のポイントの確認
		事後学習	模擬保育指導案の問題点の整理
第 13 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論	事前学習	模擬保育指導案の問題点の整理
		事後学習	当日の保育実践の改善法の整理、レポート
第 14 回	責任実習模擬保育 (モデル) による討論	事前学習	模擬保育指導案の問題点の整理
		事後学習	当日の保育実践の改善法の整理、レポート
第 15 回	幼稚園教諭としての成長と専門性の習得	事前学習	自分の実習カルテから、専門性修得の自己評価をする。
		事後学習	専門性向上のための方策をまとめ、レポート作成

1. 科目名 (単位数)	教師論 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1320 SNMP1320 SCMP1320 SBMP1320 EDTS1102 EDTS1302
2. 授業担当教員	池野 正晴		
4. 授業形態	講義・グループ討議・ワークシート・レポート・試験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「教育学概論」や「教育課程論」, 「教育法規」とも関連		
7. 講義概要	国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題など変化の激しい今日の社会において、学校教育の場においても様々な課題が生じている。この課題を解決するためには、学校教育の主たる担い手である教員の役割や責任が今まで以上に大きくなっている。これからの教員は、教科に関する知識を単に教授するだけでなく、広い視野に立ち、思いやりのある人間性豊かな子どもを育成することが求められている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質・能力とは何か、教員の仕事と役割とはどのようなものか、教員の権利や義務(服務・研修・身分保障などを含む。)は、法律上、どのように規定されているのかなど教職を志す学生があらかじめ教職について知っておく必要がある事項を考察する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職観の変遷について理解するとともに、教師に求められる資質・能力について考察することができるようになる。 2. 教員養成の歴史的変遷について理解するとともに、現在の教員養成の現状について考察することができるようになる。 3. 教員の役割と仕事について理解するとともに、現在、教員に期待されている役割について考察することができるようになる。 4. 教員の養成・採用・研修について理解し、教師のライフコースについて考察することができるようになる。 5. 自分の適性を理解し、なりたい教師像について考察することができるようになる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【アサインメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎回、テキストの指定部分については、読んでおくとともに、自分なりにノートにまとめておくようにする。(ラインマーカー、ノートまとめ等) ○ 講義用冊子(PPT用レジュメ)の空欄箇所について、自分で調べたり、考えたりしながら、事前に該当すると思われる語句を入れておく。 ○ 意味不明の言葉についても自分で調べておく。 <p>【中間レポート】(各班でまとめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ レポート・プレゼン担当箇所のまとめを作成し、パワーポイント等でプレゼンをする。 ※6~8人1組のグループを編成し、協力してレポート箇所についてまとめ、プレゼンする。 ※発表用資料については、各班で印刷することが望ましいが、印刷事情により困難な場合には、講義担当者への印刷依頼も受け付ける。その場合は、事前提出(事前送付)のこと。(メールアドレスは下記13を参照)(印刷、ホチキスとめ、穴あけ等可能) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 [改定版]』有斐閣、2015年 ② 『教師論』(講義用印刷テキスト、PPT資料等、全員に配付) <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ テキスト内で紹介のものについては、可能な範囲で読んでまとめることを勧める。 ※ その他のものについても、授業時に紹介する。 		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への積極的参加(貢献度、積極性、コメント等) 2 発表用資のまとめ 3 プレゼンの内容 4 期末試験 	<p>総合点の20%</p> <p>総合点の15%</p> <p>総合点の15%</p> <p>総合点の50%</p>	
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 履修者名簿が確定した段階で、座席指定をし、班を編成する。 2 6~8人で班を編成し、担当箇所について協力して研究を深め、発表用資を作成し、プレゼンする。 3 授業は、前向きに積極的に受講すること。(教師になるという当事者意識をもって参加・参画し、各班の発表に対して積極的に質問やコメントを行うこと) 4 社会人及び学生としてのマナーは守ること。 		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	プロローグ (「教師論〇×チェック」を解きながら、本授業の概要を把握する) 教員採用試験の状況 座席指定,班編成,分担箇所の決定	事前学習	テキスト①を早めに入手し,全体を概観しておく。
		事後学習	班としての担当箇所の全体の全体を読み,班の中での役割分担を決める。また,その他の関連・参考資料についても探してみる。 授業を振り返り,理解を深める。
第2回	教育観,子ども観について,どう考えたらよいか (教育とは何か,人間モデルにおける子ども観・教育観等)	事前学習	テキスト②を読み,空欄(穴空き)部分に入る言葉を考えておく。
		事後学習	授業を振り返り,理解を深める。
第3回	教師の日常世界へ (専門家としての教師,教職という仕事の性格,情動)	事前学習	テキスト①pp.1-20を読み,自分なりにまとめておく。

	的実践としての教職)		担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 4 回	授業をつくる (授業の構成、授業のデザイン、授業デザインを支える教師の知識と思考)	事前学習	テキスト①pp.21-47 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 5 回	授業から学ぶ (評価する主体としての教師、ともに学び続ける教師)	事前学習	テキスト①pp.50-69 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 6 回	カリキュラムをデザインする (「カリキュラム」の概念、学びのビジョンとその実践、学びのデザイン、開発と評価)	事前学習	テキスト①pp.71-83 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 7 回	子どもを育む (子どもの心に寄り添う、子どもの言葉を受け取る、教師-子ども関係が陥りやすい落とし穴、守りの器をつくる)	事前学習	テキスト①pp.85-106 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 8 回	生涯を教師として生きる (教育実習から新任の教師へ、教師としてのアイデンティティの模索、中年期の危機、ベテラン教師として)	事前学習	テキスト①pp.107-131 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 9 回	同僚とともに学校を創る (学校での授業の探究-一人の教師の事例から、学校における同僚性、教師文化を形成するもの)	事前学習	テキスト①pp.133-152 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 10 回	教職の専門性 (教職の専門性とば、教職に対する国際的認識、教師の養成・成長、日本における教職の専門性開発に見られる特徴)	事前学習	テキスト①pp.153-178 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 11 回	時代の中の教師 (近代学校成立以前の教師-寺子屋の「師匠」、日本における教育の風景の転換-「先生」の出現、定型的教師像の誕生-臣民教育の教師と国民教育の教師、植民地ならびにファシズム期の教師像-子弟同行、戦後の教師像、現在の教師像を再考する)	事前学習	テキスト①pp.179-200 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 12 回	教師の仕事とジェンダー (教職におけるジェンダー、歴史の中の女性教師、教師の仕事と母親業)	事前学習	テキスト①pp.201-226 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 13 回	教育改革と教師の未来 (転換期の学校、改革の推移、教師の使命、未来への希望)	事前学習	テキスト①pp.227-241 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 14 回	教師研究へのアプローチ (教師研究の広がり、教師についての情報を収集する、教師をめざして-教員免許状を取得する、教職の今を探る-統計資料から、教職関連法規)	事前学習	テキスト①pp.243-276 を読み、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。
第 15 回	教員の服務 (教員の身分、職務と権利、服務等) エピソード (まとめと今後の課題)	事前学習	「服務」について調べ、自分なりにまとめておく。 担当班は、まとめの資料を作成し、プレゼンの準備をする。(事前に資料提供の予定)
		事後学習	学習内容を振り返り、整理しておく。合わせて、期末テストに備える。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	教養基礎演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GELA2104 GELA2304
2. 授業担当教員	成田 成			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション、発表など		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では、「教養」を身に付けるための一環として、わかりやすい資料などを用いながら、①国語問題(間違いやすい漢字や熟語など)、②数学問題(計算、図形など)、③英語問題(長文読解、熟語など)、④理科問題(物理、生物など)、⑤社会問題(歴史、地理など)を解き、⑥小論文を作成する。また、それらの問題を解くための技法や留意点などについて理解を深め、応用力を高めていく。さらに、「教養」とは何かを再認識し、それを身に付けることの意義についても考察する。その他、問題発見・解決能力や協調性を高めるためのディスカッション、表現力を高めるための発表、人間性を高めるための教材なども授業に取り入れ、幅広い意味での教養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>本講義では、以下の目標を達成することが期待されている。</p> <p>①希望する就職先や資格などを明確にし、具体的な目標を設定することができる。</p> <p>②目標を達成するために、自主的に勉強して必要な知識を身に付けられる。</p> <p>③職場で必要とされる思考力、文章作成能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付けられる。</p> <p>④人間として必要なマナー、常識、モラルを身に付けられる。</p> <p>⑤教養を身に付けることについて、その意義を十分に理解し、自ら実践することができる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題：最終日の授業時間には「教養を身に付けることの意義について」というテーマで、1,000字程度のレポートを作成する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】教科書を使用せずに、分かりやすい学習参考例を使用する。</p> <p>【参考書】国語辞典、英和辞典、高校時代に使用した教科書や参考書など</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題：60 点、授業態度(提出課題、レポート、発表などを含む)：40 点、総合点：100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業を通じて、「基本的な勉強法」や「教養を身に付けることの意義」を学んでいただき、自分の将来の目標に向かって、自らが積極的に勉強できるようになることを願っている。</p>			
13. オフィスアワー	<p>時間：授業のある日の昼休みと放課後 場所：伊勢崎キャンパス 4 号館 1 階 120 研究室</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション(授業の進め方、マナーなど) 独創性のあるレポート等の作成法について	事前学習	自分にとって、「教養」とは何かについて、考えてくる。	
		事後学習	独創性のあるレポート作成法について、要点を再確認する。	
第 2 回	就職試験や資格試験に合格するためには(就職指導、勉強法、最近の傾向など)	事前学習	自分がなりたい職業や取得したい資格について整理しておく。	
		事後学習	自分が受ける試験に向けて計画を立てて勉強する。	
第 3 回	国語問題(間違いやすい漢字の読み書き)	事前学習	苦手な漢字を事前に確認しておく。	
		事後学習	間違った漢字については、書けるようにしておく。	
第 4 回	国語問題(四字熟語・反意語など)	事前学習	出題頻度の高い四字熟語について調べておく。	
		事後学習	間違った四字熟語については、意味も確認する。	
第 5 回	計算問題(計算問題の基本・比例)	事前学習	計算の苦手な人は簡単な計算問題を解いてくる。	
		事後学習	計算を行う上での基本的なルールについて確認する。	
第 6 回	計算問題(反比例・化学の応用問題)	事前学習	反比例計算とは何かについて調べておく。	
		事後学習	応用問題まで解けるように復習する。	
第 7 回	計算問題(計算力を高めるための基本問題)	事前学習	授業で解いた計算問題をよく復習する。	
		事後学習	間違えた箇所を確認して確実に解けるようにする。	
第 8 回	人間性を高める福祉系のビデオ① ・鑑賞、ディスカッション、レポート作成	事前学習	相手を思いやる気持ちを大切にすること。	
		事後学習	作成したレポートの内容について復習する。	
第 9 回	英語問題(解法のテクニック、)	事前学習	英語が苦手な人は 5 文型について予習する。	
		事後学習	基本的な問題の解き方について復習する。	
第 10 回	英語問題(長文読解、出題頻度の高い単語や熟語)	事前学習	前回の授業で学んだところを再確認する。	
		事後学習	問題を解いて、分からなかった箇所を理解する。	
第 11 回	社会問題(歴史・地理・政治)	事前学習	基本的な歴史・地理・政治の問題については予習をしておく。	
		事後学習	間違った問題については復習する。	
第 12 回	理科問題(生物)	事前学習	動・植物の分類について予習しておく。	
		事後学習	間違った問題については復習する。	
第 13 回	理科問題(地学)	事前学習	天気に関する常識問題を予習しておく。	
		事後学習	間違った問題については復習する。	
第 14 回	環境問題(地球温暖化の影響) ・ビデオ鑑賞、レポート作成	事前学習	地球温暖化の影響について調べてくる。	
		事後学習	学んだことについて、要点を再確認する。	
第 15 回	レポート(教養を身に付けることの意義について)	事前学習	教養を身に付けることの意義について、自分の考えをまとめておく。	
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。	

1. 科目名 (単位数)	金融論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2135
2. 授業担当教員	保原 伸弘		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>金融論の場合は、入門であっても、講師によって扱う内容が様々に異なっている。それだけ金融という現象が幅広い経済分野にまたがっているからである。本講義は、金融論の基礎について体系的・包括的に全体像を学ぶだけでなく、そうした知識・理論を用いて、基礎的な個人の金融行動選択の方法を学ぶことに特徴がある。予備知識が少ない学生でも理解できるようになるべく平易に解説する。</p> <p>前半では、金融論の基礎知識・理論として、金融の役割、金融の方法、金融取引を行う場である金融市場、貨幣、金融機関、金融政策を解説する。後半は、個々の経済主体の意思決定に必要な基礎知識として、お金を融通することの対価である利子率、家計や企業等の金融行動に関する基本的な理論や方法を解説する。</p> <p>講義の進行方法については、受講者の理解を深めるため項目ごとに問題演習を行う。また課題として提出するレポートをもとに、グループディスカッションを行い、理解を深める。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の金融経済の現状を把握し、説明できるようになる。 2. 金融の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 3. 預金や株式、社債などの金融商品の取引や、その結果である利益と損失の発生を理解し、説明できるようになる。 4. 家計や個人の金融行動の選択に関する考え方と方法を習得し、日常生活で実践できるようになる。 5. 金融の理論や方法を企業や社会福祉関連施設等の運営・管理において応用できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・次の講義までの宿題として、練習問題を解いておくこと。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】玉川和夫著 『金融経済と証券投資』入門から使える標準理論まで 中西出版 2012。</p> <p>【参考書】吉田真理子、大野早苗『はじめての金融理論』中央経済社、2011。 家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ 第4版』中央経済社、2013。 日本経済新聞社編『ベーシック 金融入門』日本経済新聞出版社、2011。</p>		
11. 成績評価の方法	1. 期末試験 60%、 2. 授業態度 (発表、質問等、参加意欲) 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	<p>経済学の重要な考え方に合理的な主体はベネフィットとコストを比較して行動する (平たく言えば人間というのは損得勘定で行動する) というものがある。世の中に絶対善の存在を信じる人にとっては受け入れがたい考え方かもしれないが、ユートピアでない限り 100%ピュアなもの、絶対的に正しいものの存在は期待できないし、誰しも清濁にまみれた現実の世の中で生きていくしかない。それを覚悟してその中を賢く泳ぎ切つてこそ、逆に自分のピュアなものを守れるというものでもあろう。また、その術を身につけていく過程が「大人になる」という過程かもしれない。高校までの教科書内容というのは世の中の「濁」の部分はタブー視し、必ずしも十分にそれとつきあうということはしていないかもしれない。本講義を通じて、経済学の考え方を身に付け、社会に出ても自信をもって泳ぎ切るすべの獲得の一助にしていってほしい。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	貨幣とは何か? なぜ金融を学ぶのか?	事前学習	貨幣と金融について予習すること
		事後学習	貨幣と金融について復習すること
第2回	信用創造 金利とは何か? 債券とは何か?	事前学習	信用創造や金利、債券について予習すること
		事後学習	信用創造や金利、債券について復習すること
第3回	株式とは何か? 為替レートと国際投資	事前学習	株式や為替レートと国際投資について予習
		事後学習	株式や為替レートと国際投資について復習
第4回	経済政策とお金 企業の数字	事前学習	経済政策と企業の数字について予習する
		事後学習	経済政策と企業の数字について復習する
第5回	株価資産倍率・配当利回り 株価収益率	事前学習	株価資産倍率や株価収益率について予習
		事後学習	株価資産倍率や株価収益率について復習
第6回	自己資本利益率 配当割引モデル	事前学習	自己資本利益率や配当割引について予習
		事後学習	自己資本利益率や配当割引について復習
第7回	資本資産評価モデル、投資のリスクとは?	事前学習	資本資産評価モデルについて予習
		事後学習	資本資産評価モデルについて復習
第8回	シャープレシオ、債券投資の心得、発行市場と流通市場	事前学習	シャープレシオについて予習
		事後学習	シャープレシオについて復習
第9回	世界の金融市場、株価評価指標で見る日米の差	事前学習	世界の金融市場について予習
		事後学習	世界の金融市場について復習
第10回	デリバティブ、産業構造と株式市場、株価変動率	事前学習	デリバティブや株価変動率について予習
		事後学習	デリバティブや株価変動率について復習
第11回	株価の長期トレンド、国際商品相場、機関投資家	事前学習	機関投資家について予習
		事後学習	機関投資家について復習
第12回	国際収支 IS 曲線、金本位制、ブレドン・ウッズ体制	事前学習	ブレドン・ウッズ体制について予習
		事後学習	ブレドン・ウッズ体制について復習
第13回	ニクソンショック、ブラザ合意	事前学習	ブラザ合意について予習
		事後学習	ブラザ合意について復習
第14回	日本の失われた 20 年、アジア通貨危機	事前学習	アジア通貨危機について予習
		事後学習	アジア通貨危機について復習
第15回	サブプライム問題、欧州通貨危機	事前学習	欧州通貨危機について予習
		事後学習	欧州通貨危機について復習
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント演習 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3325 SCMP3325 SBMP3325 SNMP3325
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「ケアマネジメント論」を併せて履修すること。		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の 1 手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されており、特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメント論で学んだ知識を活かしながら、実際にケアマネジメントの事例を通じ展開し、ケアマネジメントを理解していく。		
8. 学習目標	1) ケアマネジメントの実際を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの過程を実践し、実践現場で行えるようにする。 3) 事例検討・ロールプレイ等を通じて、様々な分野におけるケアマネジメントについて理解ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート課題 1) ケアマネジメントの展開過程について 2) 事例検討		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 【参考書】『初めて学ぶ ケアマネジメントテキスト』中央法規。 池上直己・訳『日本版 MDS-HC 2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル』医学書院。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・発表 50% レポート提出 50% ※欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。		
12. 受講生への メッセージ	受講生は以下のことを守って下さい。 1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりすること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) 4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 レポートの提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「ケアマネジメントの実際理解」 ケアマネジメントを実践する上で必要な方法を具体的に理解する。特にアセスメントの重要性と課題分析の視点、ICF の概念を踏まえての実際について演習を通じて理解できる。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	ケアマネジメントを実践する上で必要な方法を整理する。
第 2 回	テーマ「アセスメントの実際」① 紙上事例を用いてアセスメントを行う (用紙に情報を整理する)。	事前学習	紙上事例による情報を考える。
		事後学習	情報を整理してシートに記載する。
第 3 回	テーマ「アセスメントの実際」② 紙上事例を用いてアセスメントを行う (用紙に情報を整理する)。	事前学習	課題・ニーズを考える。
		事後学習	課題・ニーズを明確にする。
第 4 回	テーマ「課題分析の実際理解」 紙上事例を用いてアセスメントを行ったものを用いて課題分析を行う。	事前学習	ケアプランを考える。
		事後学習	ケアプランの有効性と根拠を明確にする。
第 5 回	テーマ「ケアプランの作成理解」 紙上事例のケアプランを作成する。	事前学習	カンファレンスの意味を考える。
		事後学習	カンファレンスを通じたケアプランの見直しと整理を行う。
第 6 回	テーマ「カンファレンスの実際理解」 各自作成したケアプランを発表し、カンファレンスを実践する。	事前学習	事例の検討と実際を踏まえてケアマネジメントを考える。
		事後学習	ケアマネジメントの実際を振り返る。
第 7 回	ケアマネジメントの展開過程のまとめ。	事前学習	ケアマネジメントの展開過程を整理しておく。
		事後学習	授業内容を振り返り、ケアマネジメントの展開過程をまとめる。【レポート 1】
第 8 回	テーマ「高齢者におけるケアマネジメントの実際理解」① 高齢者におけるケアマネジメントについて、2 事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの高齢者におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 9 回	テーマ「高齢者におけるケアマネジメントの実際理解」② 高齢者におけるケアマネジメントについて、2 事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの高齢者におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 10 回	テーマ「身体障害者におけるケアマネジメントの実際理解」 身体障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表す	事前学習	テキストの身体障害者におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。

	る。		
第 1 1 回	テーマ「知的障害者におけるケアマネジメントの実際の理解」 知的障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの知的障害者におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 1 2 回	テーマ「精神障害者におけるケアマネジメントの実際の理解」 精神障害者におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの精神障害者におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 1 3 回	テーマ「児童福祉におけるケアマネジメントの実際の理解」 児童福祉におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの児童福祉におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 1 4 回	テーマ「生活保護におけるケアマネジメントの実際の理解」 生活保護におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの生活保護におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	授業で検討した事例を振り返り、ケアマネジメントを整理する。
第 1 5 回	テーマ「施設におけるケアマネジメントの実際の理解」 施設におけるケアマネジメントについて、事例を通してケアマネジメントの実際について学び、事例におけるケアマネジメントの実際での課題についてグループで検討し、まとめて発表する。	事前学習	テキストの施設におけるケアマネジメントの事例を読む。
		事後学習	ケアマネジメントを整理する。【レポート 2】

1. 科目名 (単位数)	ケアマネジメント論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3321 SCMP3321 SBMP3321 SNMP3321
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義及び演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「ケアマネジメント演習」を併せて履修すること。		
7. 講義概要	ケアマネジメントは社会福祉援助技術の 1 手法として、わが国の社会福祉の現場で幅広く活用されている。特に、介護保険制度や自立支援法の中で位置づけられている。本講義では、ケアマネジメントの概要を理解し、実際の活用に必要な知識を学べるように講義を進めていく。		
8. 学習目標	1) ケアマネジメントの概要を理解し、説明できる。 2) ケアマネジメントの活用について理解し、説明できる。 3) ケアマネジメントの機能について理解し、説明できる。 4) 対象別ケアマネジメントの実際について理解し、説明できる。 5) 在宅・施設におけるケアマネジメントについて理解し、説明できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート (1) 自分が住んでいる地域の社会資源を調べる。 (2) ケアマネジメントの重要な視点についてまとめる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『対人援助職をめざす人のケアマネジメント Learning10』(株)みらい。 【参考書】『初めて学ぶ ケアマネジメントテキスト』中央法規。 池上直己・訳『日本版 MDS-HC 2.0 在宅ケアアセスメントマニュアル』医学書院。		
11. 成績評価の方法	授業への積極性・発表 50% レポート提出 50% 計 100% ※欠席・遅刻・早退、レポート提出の遅れは減点となる。		
12. 受講生へのメッセージ	受講生は以下のことを守って下さい。 (1) 対人援助の専門職を目指す人材として、他者理解ができる事を自ら講義中の態度で示すこと。 (2) 講義内容の事前の確認と、振り返りをしっかりすること。 (3) 欠席・遅刻・早退をしないこと。(やむを得ない場合は必ず連絡すること) (4) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 (5) レポートの提出期限は厳守すること。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	テーマ「ケアマネジメントの学習を進めるにあたって」 授業の進め方の説明を行なうので理解できる。ケアマネジメントとは何か、概要について資料をもとに説明を行なうので理解できる。専門職がケアマネジメントを行なう意義について説明し理解できる。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの意義を整理する。
第 2 回	テーマ「ケアマネジメントの目的」 ケアマネジメントの誕生の背景を理解し、ケアマネジメントの考え方と日本におけるケアマネジメントの実際を学び、ソーシャルワーク技術の手法としての目的を理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの目的」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの目的を整理する。
第 3 回	テーマ「ケアマネジメントの機能」 ケアマネジメントを活用することで、社会福祉実践を行う上で様々な効果をあらわすことができる。活用する場面において具体的な効果を理解することで、ケアマネジメントの機能について理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの機能」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの機能を整理する。
第 4 回	テーマ「ケアマネジメントの展開過程」 ケースの発見(インテーク)、アセスメント、課題分析、ケアプランの作成、カンファレンス、実践、評価・モニタリングといった展開過程を概略的に理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの展開過程」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントの展開過程について整理する。
第 5 回	テーマ「アセスメントの方法」 対象者の個別の情報を収集し、整理する方法について理解する。また、その際に必要な視点についても理解し、ケアマネジメントにおけるアセスメントの重要性について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「アセスメントの方法」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてアセスメントの方法について整理する。
第 6 回	テーマ「ニーズの把握と課題分析」 ケアマネジメントにおける支援を行う上で、ニーズの把握と課題分析は、ケアプランの作成や実践をする上で目標設定や評価につながる重要な課程であることを具体的に理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「ニーズの把握と課題分析」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてニーズの把握と課題分析について整理する。
第 7 回	テーマ「ケアプランの作成」 サービスの提供や実践を行う上で、指針となるものであり、具体的な実践につながる計画書となる。したがって、ケアプラン作成の視点と留意点について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「ケアプランの作成」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアプランの作成について整理する。

第 8 回	テーマ「カンファレンスの開催」 サービス提供や実践を行うにあたり、ケアプランの原案についても内容の確認や利用者及び家族への説明と同意が必要である。カンファレンスの意義やその方法について理解し、演習につなげていく。	事前学習	テキストの「カンファレンスの開催」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてカンファレンスについて整理する。
第 9 回	テーマ「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」 ケアマネジメントの対象者を支援する役割を担うのがケアマネジャーである。ケアマネジメントを行う際の大切な視点は、様々な課題を抱えている人である。その対象者が主体的に生活できるように支援していくことが重要となる。したがって、自立支援、エンパワメント、ストレングスといった視点が重要であることを理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントにおけるケアマネジャーの役割と視点」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジャーの役割を整理する。
第 10 回	テーマ「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」 ケアマネジメントの対象者を理解する。また、対象には様々なニーズ及び課題があることから、その支援を行うためには、様々な社会資源の活用が必要となる。多様なニーズ対象者について理解するとともに、社会資源についても理解できる。	事前学習	テキストの「ケアマネジメントの利用者と社会資源の活用」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえてケアマネジメントにおける社会資源について整理する。【レポート（1）】
第 11 回	テーマ「介護保険におけるケアマネジメント」 介護保険制度におけるケアマネジメントの導入背景と現状について理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「介護保険におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて介護保険制度におけるケアマネジメントについて整理する。
第 12 回	テーマ「障害者におけるケアマネジメント」 障害者支援におけるケアマネジメントの実際の現状について理解する。また具体的に行われている実践についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「障害者におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて障害者におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第 13 回	テーマ「児童福祉におけるケアマネジメント」 児童福祉におけるケアマネジメントの必要性を理解する。また具体的に行われている実際についてもふれて、その方法について理解できる。	事前学習	テキストの「児童福祉におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて児童福祉におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第 14 回	テーマ「その他の分野におけるケアマネジメント」 生活保護におけるケアマネジメントの必要性を理解する。介護保険施設でもケアマネジメントが行われなければならないことから、その実際にもふれて理解できる。	事前学習	テキストの「その他の分野におけるケアマネジメント」を読む。
		事後学習	授業の内容を踏まえて生活保護におけるケアマネジメントの意義を整理する。
第 15 回	テーマ「ケアマネジメントについてまとめ」 ソーシャルワークにおける 1 手法としてのケアマネジメントの重要な視点について、振り返りを行い、授業内でレポートとしてまとめる。	事前学習	1 回～14 回までの授業を振り返る。
		事後学習	ケアマネジメントの考え方と方法について整理する。【レポート（2）】

1. 科目名 (単位数)	経営組織論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP3114
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>企業・学校・病院など、多数の人間から構成される組織を運営するためには、これらの組織を合理的、効率的な「一つの組織」として運営する必要がある。経営組織論は、社会の基礎的構成要素としての組織を対象として、その行動やメカニズムの解明を基礎的課題とした学問領域である。</p> <p>私たちは常に組織との相互作用の中にあり、そして取り巻く組織は常に変化しながら、行動の制約や発展・成長を私たちに与えたり、逆に私たちがより良い組織や機能を提供したりしている。この講義では、この組織の機能に着目して、組織論的課題解決手法を探索する。そして、効率的に運営される組織とは何かという観点から課題を提起し、ディスカッションを通じて課題解決に取り組む。</p> <p>この講義は、科目の性質上、経営管理論や経営戦略論等の関連科目の基礎的知識も必要となる応用科目となるので、これまで学習してきた経営学に関する知識をしっかりと復習しておくことが必要である。また、必要に応じて、適宜解説を加える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営組織論を構成する理論の概要と具体的事例の内容を理解し、説明することができる。 2. 経営組織を取り巻く経営環境を理解し、その環境への適合方法及び戦略を考察し、立案できるようになる。 3. 経営戦略を実行するのに最適な経営組織のあり方を提起し、戦略的思考を理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	短いレポートを 3 回ほど課す。レポート課題は講義中に提示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 金井壽宏著『経営組織』日本経済新聞社、1999 年。</p> <p>【参考書】 伊丹 敬之、加護野忠男著『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 50% 2. レポート 30% 3. 授業態度 (発表、質問等、参加意欲) 20% <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	あらゆる人は何らかの組織に所属する。組織の活動は、経営戦略、経営管理の知識が必要である。また、経営組織の学習は、変化する社会のあり方を考察し、未来の自分の人生の目標を定めその生き方を方向付ける試みができ、セルフマネジメント手法を学ぶことにもつながる。学習する課題を、将来、自らが直面するものであることを常に意識しながら、受講してほしい。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 講義概要の説明	事前学習	テキストを準備して、テキスト内容を概観しておく	
		事後学習	講義を受けるにあたって、「特に関心があるテーマ」や「社会問題」を整理する	
第 2 回	いろいろな組織の捉え方 多様な組織観を探る	事前学習	テキスト(pp.11~30)を熟読する。	
		事後学習	テキストとノートを読み返し、今回の講義内容を復習し、まとめる。	
第 3 回	組織の中の個人(1)	事前学習	テキスト(pp.31~64)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 4 回	組織の中の個人(2)	事前学習	前回内容に関して課題レポートを書く。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 5 回	個人と組織のかかわり合い(1)	事前学習	テキスト(pp.65~80)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 6 回	個人と組織のかかわり合い(2)	事前学習	テキスト(pp.65~80)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 7 回	集団の機能と組織	事前学習	テキスト(pp.95~114)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 8 回	組織におけるリーダーシップ	事前学習	テキスト(pp.115~134)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 9 回	組織文化(1)	事前学習	テキスト(pp.115~134)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 10 回	組織文化(2)	事前学習	前回内容に関して課題レポートを書く。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 11 回	経営組織の設計(1)	事前学習	テキスト(pp.135~145)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 12 回	経営組織の設計(2)	事前学習	テキスト(pp.146~170)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 13 回	経営組織の設計(3)	事前学習	前回内容に関して課題レポートを書く。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 14 回	経営組織の動態化	事前学習	テキスト(pp.171~184)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
第 15 回	組織全体の方向づけと働く個人	事前学習	テキスト(pp.185~200)を熟読する。	
		事後学習	講義内容を復習し、まとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1301
2. 授業担当教員	飯田 昌男		GEHL1101
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1,現代社会におけるスポーツの必要性について私見をまとめる。 2,これからの私と運動 (スポーツ) (1,2,のどちらかを800字以内で、書式及び提出については授業内にて説明する)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 必要に応じて資料を配布する。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 60% 授業中のテスト (体育概論) 30% 課題 10% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実技中心の授業のため、それにふさわしい服装 (髪型、靴、爪等も含む) で参加してください。体育館シューズも用意してください。 2. 欠席は学則に則り 3 回までです。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は、時間を守ることはとても重要であると考えています、また、ケガ防止のため準備運動をしていただくためです。 3. 自ら進んで授業に取り組み、スポーツの楽しさを大いに味わってください。 4. わからないことや疑問に思ったことは、その場で質問・意見をしてください。 		
13. オフィシアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、体育概論① (運動の勧め)	事前学習	軽く運動をしておく。
		事後学習	配布した資料に振り返りを記録する。
第 2 回	ジョギング、ストレッチ実践論、フライングディスク	事前学習	実技に入るので軽く運動しておく。
		事後学習	ストレッチを復習する。
第 3 回	ニュースポーツ (フライングディスク)	事前学習	「アルティメット」のルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 4 回	団体競技 (ユニホック)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 5 回	団体競技 (ユニホック)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 6 回	団体競技 (ソフトバレーボール)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 7 回	団体競技 (ソフトバレーボール)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 8 回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを調べてくる。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 9 回	個人競技 (バドミントン)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 10 回	団体競技 (バスケットボール)	事前学習	ルールを調べておく。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 11 回	団体競技 (バスケットボール)	事前学習	ルールを確認する。
		事後学習	試合の振り返りをまとめる。
第 12 回	体育概論② (体力について)	事前学習	「体力の分類」を調べてくる。
		事後学習	「体力の分類」をまとめる。
第 13 回	体育概論③ (身体の骨格や筋肉について)	事前学習	骨格や筋肉の名前を調べてくる。
		事後学習	骨格や筋肉の名前を覚える。
第 14 回	体育概論④ (各種トレーニングについて)	事前学習	トレーニングの種類や内容を調べてくる。
		事後学習	トレーニングの種類をまとめる。
第 15 回	まとめ	事前学習	今までの種目や振り返りを読んでくる。
		事後学習	今後の自分への課題を見つけ、健康な生活を送れるように考えをまとめ実践すること。
6 月	赤城山宿泊研修		
10 月	合同スポーツディ		

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1101
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関連の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しみながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 		
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1 現場において他者にも説得力のある説明が出来るように、まず、体力テストで得られた自身の体力の結果を総合的に分析・考察する。(レポート)</p> <p>課題 2 現代っ子の体力面の問題点や課題を探り、将来に向けてどのような手立てを講じていけばよいのかを探る。(ディスカッション)</p> <p>課題 3 人が健康に生きることとはどのようなことなのか、その本質を追求できるようにさまざまな要素を挙げながら探る。(ディスカッションおよびレポート)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】文部省 (文部科学省) 『新体力テスト 有意義な活用のために』ぎょうせい、2000 年。 『トラペジウム』主文社、2009 年。 参考文献を適宜配布し、ディスカッションする。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度・・・・・・・・・・50% 実技の積極性・・・・・・・・30% 課題・・・・・・・・・・10% 振り返りとまとめ・・・・10% 計 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>近年、児童生徒の基礎体力の低下や基本的な生活習慣の乱れが各方面から叫ばれています。筋力、持久力、瞬発力、巧緻性などといった基礎体力は 1985 年あたりから低下の一途をたどり、現在においても依然として低下、停滞の傾向を認める項目が少なくありません。また、基本的な生活習慣においては、それを構成する要素として「適正な睡眠」、「バランスの取れた栄養」、「適度な運動」、「必要に応じた休養」および「身のまわりの環境」などを挙げることができますが、社会構造の複雑化、ライフスタイルの多様化に伴い、人々の生活の夜型現象は確実に進行し、この余波は児童生徒にも及んできていることは周知の事実です。</p> <p>このような状況下において今、将来の子どもたちの「健康」と「スポーツ」を考えていくことはとても重要な意味をもちます。そしてそのことから我々が今後においてどのように現場で「健康教育」や「スポーツ」を推進していくかが大きな課題となります。また、このことから自身への健康感の認識の構築にも重要な役目を担うことになるはずで。</p> <p>本講義 (実技や演習も含む) では、現代っ子の体力的現状をわかりやすく解説するとともに実践的な実技をおりませながら、これを発展させてこれからのあるべき自身の「健康・スポーツ」を展望し、真の健康を勝ち取るためには何が必要で何が重要なのかを探っていきます。</p> <p>本授業は実技や演習もありますので、その際には必ず体育着で臨んでください。ジーパンは禁止です。また、体育館での運動は体育館シューズが必要です。これは運動をするに当たっての最も基本的な事項であることをおさえてください。</p>		
13. オフィスアワー	春期、秋期とも授業時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の必要性と重要性) *資料や教科書を確認しながらこれから何を学習していくのかを知り、自分なりに授業の展望を掴む。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	次時から行なうスポーツテストの意義や特性を押さえる。
第 2 回	スポーツテスト① 各項目の測定 <実技> *実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。	事前学習	各測定種目の実施方法の把握。①
		事後学習	数値化した測定項目を記録し、その結果のもつ意味を理解する。①
第 3 回	スポーツテスト② 各項目の測定 <実技> *実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。	事前学習	各測定種目の実施方法の把握。①
		事後学習	数値化した測定項目を記録し、その結果のもつ意味を理解する。②
第 4 回	スポーツテスト③ 各項目の測定 シャトルランの測定方法とその実際 <実技>	事前学習	シャトルランの実施方法の把握。
		事後学習	シャトルランの特性をしっかり把握する

	*実際にスポーツテストを体験しどの年代でどのような項目が求められているのかを知る。		とともにすべてのテスト種目において自分なりの感想をもてるようにする。
第 5 回	スポーツテストの統計処理① <講義・演習・ディスカッション> *得られたテスト結果をどのようにしてまとめると分析しやすくなるのか、その方法の概要を知る。	事前学習	測定項目を統計処理する必要性を考える。①
		事後学習	T スコアのもつ意味を理解する。①
第 6 回	スポーツテストの統計処理② <演習・ディスカッション> *実際に得られた結果を分析し、それをグラフ化する技法を身に付けることができることを知る。	事前学習	測定項目を統計処理する必要性を考える。②
		事後学習	T スコアのもつ意味を理解する。②
第 7 回	スポーツテストの分析① 現代っ子の体力面における問題点 <講義・ディスカッション 課題Ⅰの提示> *スポーツテストにおける各項目の特性を理解し、基礎体力や基本的運動能力との関連性を知る。	事前学習	現代っ子の体力的特性を自分なりに理解する。
		事後学習	課題Ⅰを講義やディスカッションを参考にしながら取り組む。
第 8 回	スポーツテストの分析② 現代っ子の基本的生活習慣における問題点 <講義・ディスカッション 課題Ⅱの提示> *健康な生活を送るためには基本的な生活習慣が大きな役割を果たしていることを知る。	事前学習	基本的な生活習慣の重要性について調べる。
		事後学習	課題Ⅱを講義やディスカッションを参考にしながら取り組む。
第 9 回	ウェルネスの重要性 <講義・ディスカッション> *ウェルネスの概要を理解し、健康に生きるためにはスポーツのみならずその他さまざまな要素が絡まりあって構成されていることを知り、再度、健康観について論じることが出来るようにする。 ・グループごとのディスカッション <課題Ⅲの提示>	事前学習	健康に生きるための条件をいくつか考える。
		事後学習	ウェルネスの基本的な考え方を理解し、課題Ⅲに取り組む。
第 10 回	これまでの授業で学んだことを生かして「スポーツ大会」を計画しよう (ディスカッション) *「スポーツ大会」の計画に当たっては、これまで学んできた各事項を生かしつつ、教育現場や当該現場に即した運動内容が的確かつ明確に目的として盛り込むことが出来るようにする。	事前学習	これまで学習してきたことを生かすどのようなスポーツ大会を計画することが可能かを考える。
		事後学習	ディスカッションを通して理想的なスポーツ大会ができたか考える。
第 11 回	スポーツ大会① *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。①
		事後学習	左記の 5 項目の自己評価について個々で振り返りをする。①
第 12 回	スポーツ大会② *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。②
		事後学習	左記の 5 項目の自己評価について個々で振り返りをする。②
第 13 回	スポーツ大会③ *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。③
		事後学習	左記の 5 項目の自己評価について個々で振り返りをする。③
第 14 回	スポーツ大会④ *教師の評価の観点および学生の自己評価： ア、運動を行うのにふさわしい服装で臨んでいるか イ、大会を盛り上げようと自分なりに努力しているか ウ、運営を円滑に行えるように協力しているか エ、実際に現場に即した状況を適宜想定しているか オ、本時の大会運営が目的に即して行われたか	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。④
		事後学習	左記の 5 項目の自己評価について個々で振り返りをする。④
第 15 回	まとめ・評価 *これまで学んできた ①スポーツテストの項目とその意義 ②データを使っっての簡単な統計処理の仕方 ③得られた結果をもとにした相応な分析 ④基本的な生活習慣の重要性 ⑤ウェルネスの基本的な考え方 ⑥対象者に合ったスポーツ大会の計画 などの項目が理解できているかのまとめと評価を行う。	事前学習	スポーツ大会の運営方法と役割分担について考える。⑤
		事後学習	これまで学んできた左記の 6 項目について改めて振り返り、健康で活力のある生活を送るためにはどのようなことに留意していけばよいのかを考える。また、本授業で培った体験を今後の生活に生かせるようにすることを確認する。
6～7月	赤城山宿泊研修		
10月	合同スポーツディ		

1. 科目名 (単位数)	健康・スポーツ (2 単位)		3. 科目番号	GEHL1301						
2. 授業担当教員	山内 健次			GEHL1101						
4. 授業形態	・講義および演習 ・実技 (現場での対象者を考慮した運動の企画・運営)		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>本講義では、以下に提示された健康に関わる現代的課題を知り、教育および関連する当該の現場において本講義で身に付けた知識および技能を十分に活用できるようにすることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代っ子の体力的課題を明らかにするとともに、それを補うためにはどのような手立てや実践が必要なのかを種々のデータをもとにディスカッションするとともに今後における健康教育の展望を探る。 2. 児童の発達課題である「生きる力」の基盤となる運動機能の発達や安全能力の発達を促す各種スポーツやあそびを考える。歩く・走る・跳ぶ・握る・ぶら下がるなど、人間の基本的な生活運動機能を身に付けるため、運動欲求を促すスポーツの必要性を理解する。 3. 自分たちで実際にスポーツを楽しむながら運動することの重要性を理解する。 4. 赤城山宿泊研修および合同スポーツディは、本講義の一部となりますので、保育士資格取得希望者は必ず参加すること。 									
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の現在の体力を客観的に知る方法を理解するとともに他の対象者にも健康に関する的確なアドバイスができるようにする。 2. 人が健康に生活するためには、じつに様々な要素が関連し合って成り立っていることを理解し、自らが実践できるようにする。 3. それぞれの立場や対象者に即した運動計画を立案できるようにする。 4. いろいろな運動や遊びを通して体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたって体を動かすことの必要性や重要性を理解し、豊かなライフスタイルを形成できる資質を身につけることができるようにする。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題：健康であるために今後どのようなスポーツ、運動を実践していきたいか									
10. 教科書・参考書・ 教材	教科書：使用しません 授業内でプリントを配布する 参考書：神戸大学大学院人間発達環境学研究所健康科学研究会編「基礎としての健康科学」大修館書店									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>20%</td> </tr> </table>				授業への参加態度	60%	課題	20%	小テスト	20%
授業への参加態度	60%									
課題	20%									
小テスト	20%									
12. 受講生への メッセージ	現代社会における健康に対しての問題点をしっかり理解し、自分自身の健康増進に役立てましょう。									
13. オフィスアワー	授業内でお知らせいたします									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	ガイダンス (受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法) 現代社会と健康① (平均寿命と健康寿命 少子化 老年化指数 日本人の死亡原因 子どもの死亡原因)	事前学習	日本の国民医療費について調べてくる。							
		事後学習	他の国の老年化指数を調べてみる。							
第 2 回	現代社会と健康② (健康に対する定義 健康づくりのための身体活動基準 2013 健康づくりのための睡眠指針 2014)	事前学習	近年の日本人の死亡三大要因について調べてくる。							
		事後学習	30 代、40 代の成人の死亡原因は何か調べてみる。							
第 3 回	現代社会と健康③ (生活習慣病 生活習慣病と運動の関係 児童期から高齢期までの現代人の体力 生活変化に伴う体力の衰え)	事前学習	生活習慣病を予防するには、どのように生活を送ればよいのか考えてくる。							
		事後学習	生活習慣病を予防するために、自分で実践できることを決める。							
第 4 回	体力テストの実施①	事前学習	測定項目の正しい実施方法を確認してくる。							
第 5 回	体力テストの実施②	事後学習	測定結果を自己評価する。							
		事前学習	測定項目の正しい実施方法を確認してくる。							
第 6 回	体力測定評価 統計処理の方法 (平均値・標準偏差・T 得点・Z 得点・T 検定) 小テスト	事後学習	測定結果を自己評価する。							
		事前学習	実施した測定結果をまとめておく。							
第 7 回	ソフトバレーボール①	事後学習	評価から、今後活かせる体力の保持増進のためのスポーツを実践する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 8 回	ソフトバレーボール②	事後学習	ソフトバレーボール運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 9 回	ドッジビー	事後学習	ソフトバレーボール運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 10 回	インディアカ	事後学習	ドッジビーの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 11 回	バドミントン①	事後学習	インディアカの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 12 回	バドミントン②	事後学習	バドミントンの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 13 回	ユニホック①	事後学習	バドミントンの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 14 回	ユニホック②	事後学習	ユニホックの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	ルールを確認しておく。							
第 15 回	救急手当 (心肺蘇生法 気道内異物除去) と応急手当 (創裂刺傷 骨折・捻挫の固定法 熱傷 鼻血等)	事後学習	ユニホックの運動のポイントについて整理する。							
		事前学習	これまで習ってきた心肺蘇生法について復習してくる。							
		事後学習	傷の当てや熱傷の当てなどを復習する。							

1. 科目名 (単位数)	健康管理学 (健康相談活動を含む) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2345 SCMP2345 SBMP2345 SNMP2345
2. 授業担当教員	斉藤 雅記		
4. 授業形態	講義、演習、グループ討議等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	健康は、人がより豊かで充実した人生を過ごすという目的を達成するための手段であるという観点から、自分の視点や考え方を盛り込んだ健康観を確立することをねらい、健康とは何かを理解し、健康増進のための生活習慣の知識および実践方法を学習する。また人間の健康を保持増進するための社会や環境はどうあるべきかなど社会や環境と健康とのかかわりについて理解し習得する。 身体の構造や仕組みについても併行して理解する。		
8. 学習目標	1. 健康の捉え方、健康観を確立することができるようになる。 2. 生活習慣と健康との関係性を理解し、健康行動に結びつける意識を高めることができるようになる。 3. 健康阻害要因の排除と健康行動の実践を日常生活に導入できる動機づけとすることができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 配付資料の中から健康管理と関連のある事柄について選び、健康管理者としての立場から自分の考えについて示す。(レポート) 2. 健康管理で学習した健康阻害要因、健康増進の方法、健康管理技術など実践的な面について課題を与える。(発表およびレポート)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考書】東 あかね編『健康管理概論』講談社サイエンティフィック。 苔米地孝之助編著『健康管理論』建帛社。 【教材】テーマごとに資料配布		
11. 成績評価の方法	課題レポート……………30% テーマ発表……………20% スモールテスト (毎時間) ……20% 期末試験……………30% 計 100%		
12. 受講生への メッセージ	<p>・受講生が目的達成のために下記の条件を厳守することを期待している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業では、常に緊張感と集中力を保って受講することを期待している。 2. 積極的な態度で授業に参加することを期待している。 3. 理解できないことをそのまま放置せず、授業中、授業外に質問をするようにする。 4. アサイメントは期限までに必ずし、論文、レポートの提出日は厳守する。 5. 授業は正当な理由のない限り欠席、遅刻、早退をしないこと、欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず書面をもって報告する。 6. 授業中に私語は絶対しないようにする。 7. 授業中に居眠りをしないようにする。 8. 携帯電話の授業中の作動は厳禁とする。 <p>健康管理は、健康の維持・増進、疾病の早期発見と治療を目的として個人や集団に対して行う幅広い活動である。</p> <p>健康管理学では、学校、職場、地域の健康増進の取り組みについて学習し、WHO で掲げる健康の定義を軸として、健康管理のあり方を学ぶようにする。健康状態についての歴史的流れ及び国際的視点から、現状の日本の姿を把握するようにし、個人の健康管理の必要性から集団の健康管理の必要性を取り上げ、国の施策を織り込みながら疾病の予防、更には健康増進を取り上げて健康生活の基本を理解できるようにする。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション：健康の概念 (健康の定義、健康の尺度、ヘルスプロモーション)	事前学習	健康管理学のノートを準備し講義に臨むこと 健康の概念について確認する
		事後学習	健康とは何かについて復習する
第 2 回	健康の現状 1 (人口動態、平均寿命)	事前学習	平均寿命の推移について調べまとめる
		事後学習	平均寿命の推移について復習する
第 3 回	健康の現状 2 (年次別死因順位、年齢階級別試飲順位)	事前学習	配布資料から日本の健康の現状についてまとめる
		事後学習	日本の健康の現状について復習する
第 4 回	健康に影響する生活要因 1 (栄養・食生活)	事前学習	栄養・食生活と健康の関係についてまとめる
		事後学習	栄養・食生活と健康の関係について復習する
第 5 回	健康に影響する生活要因 2 (身体活動・運動、休養・ストレス)	事前学習	身体活動・運動、休養・ストレスと健康の関係についてまとめる
		事後学習	身体活動・運動、休養・ストレスと健康の関係について復習する
第 6 回	健康に影響する生活要因 3 (喫煙・飲酒)	事前学習	喫煙・飲酒と健康の関係についてまとめる
		事後学習	喫煙・飲酒と健康の関係について復習する
第 7 回	生活習慣病 (生活習慣病の概念・現状・予防対策)	事前学習	配布資料から生活習慣病の現状についてまとめる
		事後学習	生活習慣病の現状と予防策について復習する
第 8 回	疾病予防 1	事前学習	非感染症と健康増進のあり方についてまとめる

	(悪性新生物・心疾患・脳血管疾患などの予防)	事後学習	非感染症と健康増進のあり方について復習する
第 9 回	疾病予防 2 (結核・後天性免疫不全症候群などの予防)	事前学習	感染症の現状についてまとめる
		事後学習	感染症の予防について復習する
第 10 回	健康づくり施策 (国民健康づくり運動、健康日本 21、健康増進法)	事前学習	戦後の国民健康づくりの施策について調べる
		事後学習	健康日本 21 について復習する
第 11 回	健康管理の方法 (健康管理の体系、手段、評価)	事前学習	配布資料から健康管理の体系、手段、評価についてまとめる
		事後学習	健康管理の方法について復習する
第 12 回	健康教育 (健康教育の考え方、方法、内容)	事前学習	配布資料から健康教育の方法についてまとめる
		事後学習	健康教育の考え方について復習する
第 13 回	健康相談 (健康相談活動を含む)の考え方、方法、内容	事前学習	配布資料から健康相談の内容についてまとめる
		事後学習	健康相談の考え方について復習する
第 14 回	健康診査の考え方、方法、内容	事前学習	配布資料から健康診査の考え方についてまとめる
		事後学習	健康診査の内容について復習する
第 15 回	集団と健康管理 (地域の健康管理、職場の健康管理、学校の健康管理)	事前学習	学校の健康管理について調べてみる
		事後学習	集団の健康管理について復習する
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	健康心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3361
2. 授業担当教員	齋藤 瞳		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>健康心理学 (Health psychology) は、比較的新しい学問で、欧米では約 40~50 年、わが国では約 25 年の歴史がある。</p> <p>この学問の目的は、人間の「心と体」の健康の維持・増進、疾病の予防のために、心や体の健康を阻害する危険因子 (risk factor) を、bio-psycho-socio の 3 つの観点から発見し、それを防除することを目的とするものである。従来の心理学的研究方法を用いて様々なテーマを対象に研究を行うが、「疫学的」な研究方法も用いることもある。</p> <p>この学問は、いわゆる「研究」も行うが、最終的には、「実践」の学問であるといえる。すなわち、人間の心と体の健康のために役立つ具体的な「プログラム」を提示することが重要な課題であるといえる。</p>		
8. 学習目標	新しい学問としての、健康心理学の本質を理解し、自己の心と体の健康の維持・増進または疾病予防のために、日常生活をどのように改善すればよいか理解し、自分の考えを述べることができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康増進を目指した行動変容プログラムに取り組むことを課題とする。 ・自身の生活習慣を振り返ると同時に、プログラム実施結果についてレポートにまとめる。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】野口京子『新版健康心理学』金子書房。</p> <p>【参考書】金政祐司・大竹恵子 (編著)『健康とくらしに役立つ心理学』北樹出版。 島井哲志・長田久雄・小玉正博 (編著) 『健康心理学・入門・健康なこころ・身体・社会づくり』有斐閣アルマ。 日本健康心理学会 (編集)『健康心理学概論 (健康心理学基礎シリーズ)』実務教育出版。</p>		
11. 成績評価の方法	授業への参加態度 (討論参加など) 30% 発表点 20% 健康増進プログラム課題レポート 30% 学習到達度チェックレポート 20%		
12. 受講生へのメッセージ	健康心理学の授業で学んだことを日常生活・現場で生かすことができるよう、質疑応答・議論を積極的に行い、主体的に学ぼうとする姿勢で授業参加することを期待します。 人に迷惑をかける行為を慎むことは受講する上での基本事項ですが、実りある授業時間となるよう学生自身の積極的な協力をお願いいたします。		
13. オフィスアワー	初回授業時にお伝えします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 健康心理学とは?	事前学習	健康心理学のテキストを購入し、概要を確認
		事後学習	自身の発表担当章の確認と、発表に向けての見通しを立てる
第 2 回	健康増進プログラムとは	事前学習	生活習慣と健康について、テキスト第 6 章・第 12 章を予習
		事後学習	自身の生活習慣に関する振り返り
第 3 回	IT を用いた健康増進プログラムの施行	事前学習	健康増進プログラムへの登録
		事後学習	日常における健康増進プログラムへの取り組み
第 4 回	健康心理学の基盤となる心理学の概念	事前学習	第 2 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 2 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 5 回	健康行動の理解	事前学習	第 3 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 3 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 6 回	ストレスと健康	事前学習	第 4 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 4 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 7 回	パーソナリティと健康	事前学習	第 5 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 5 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 8 回	ソーシャルサポート	事前学習	第 7 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 7 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 9 回	健康増進プログラム実施状況の確認	事前学習	健康増進プログラムの実施状況についての振り返り
		事後学習	ディスカッションを踏まえプログラムへの取り組みを再開
第 10 回	ヘルスケアシステム	事前学習	第 8 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 8 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 11 回	健康教育	事前学習	第 9 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 9 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 12 回	健康心理学で用いるアセスメント	事前学習	第 10 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 10 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 13 回	健康心理カウンセリング	事前学習	第 11 章に関して学習促進レポートを作成
		事後学習	第 11 章の内容を踏まえて健康増進プログラムを実施
第 14 回	学習到達度チェック	事前学習	これまでの授業に関する内容全てに関する復習
		事後学習	健康増進プログラム課題レポートの作成
第 15 回	まとめ	事前学習	健康増進プログラムの振り返り
		事後学習	健康増進プログラムを通して、自身の考え方、気持ち、行動のくせに気づきを得る

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3301 SBMP3301 SSMP3101 PSMP3401
2. 授業担当教員	上野 義光			
4. 授業形態	講義・討議	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート設題：「成年後見制度と日常生活自立支援事業について 2,000字程度にまとめて提出する。提出期限については追って知らせる。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポートなどを総合して行う。 1. レポート 総合点の 30% 2. 学期末試験 総合点の 30% 3. 授業出席 総合点の 30% 4. 日常の学習態度 総合点の 10%			
12. 受講生への メッセージ	日常生活に何らかの援助を必要とする人々に接することが多い専門職として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。年々、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要が増加しており、援助の専門職として法制度と実際の知識が必要です。法律は難解な用語が多いので分りやすく説明します。 授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。学生としてのマナーを守ってください。			
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる (4 号館 2 階非常勤講師室)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション、相談援助活動において想定される法律問題	事前学習	教科書第 1 章第 1 節 (pp.2~6) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	相談援助活動における法律問題について、その内容をまとめる。	
第 2 回	日本国憲法 (近代憲法の基本原理、憲法上の権利と基本的人権、自由権と社会権) の理解	事前学習	教科書第 1 章第 2 節 (pp.7~16) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	特に基本的人権、社会権に関する理解を深め、その内容をまとめる。	
第 3 回	日本国憲法 (外国人と法人の人権、統治機構、地方自治、財政の原理等) の理解	事前学習	教科書第 1 章第 2 節 (pp.16~27) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	統治機構、地方自治、財政について、その内容をまとめる。	
第 4 回	行政法 (行政法とは何か、行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法等) の理解	事前学習	教科書第 1 章第 3 節 (pp.28~47) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	行政行為、行政事件訴訟、行政不服申立制度、国家賠償法について、その内容をまとめる。	
第 5 回	民法 (総則・自己決定と代理、物権と債権、契約と消費者保護) の理解	事前学習	教科書第 1 章第 4 節 (pp.48~62) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	民法総則、物権と債権、契約と消費者保護についての理解を深め、その内容をまとめる。	
第 6 回	民法 (不法行為と損害賠償、親族法、相続法) の理解	事前学習	教科書第 1 章 (pp.62~78) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	不法行為と損害賠償、親族法、相続法について、その内容をまとめる。	
第 7 回	成年後見制度 (成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ) について	事前学習	教科書第 2 章 (pp.82~106) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	成年後見制度について理解し、その内容をまとめる。	
第 8 回	成年後見制度 (任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向) について	事前学習	教科書第 2 章 (pp.107~127) を熟読し、その要点をまとめる。	
		事後学習	任意後見制度、成年後見人等の義務と責任について理解し、その内容をまとめる。	
第 9 回	日常生活自立支援事業 (日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携) につい	事前学習	教科書第 3 章 (pp.130~138) を熟読し、その要点をまとめる。	

	て	事後学習	日常生活自立支援事業について理解を深め、その内容をまとめる。
第 10 回	成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用）について	事前学習	教科書第 4 章（pp.140~145）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	成年後見制度利用支援事業について、その内容をまとめる。
第 11 回	権利擁護にかかわる組織・団体（家庭裁判所・法務局・市町村の役割）について	事前学習	教科書第 5 章（pp.148~161）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	特に家庭裁判所、法務局の役割について理解を深め、その内容をまとめる。
第 12 回	権利擁護にかかわる組織・団体（社会福祉協議会・児童相談所の役割）について	事前学習	教科書第 5 章（pp.162~171）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉協議会と児童相談所の役割について、その内容をまとめる。
第 13 回	権利擁護にかかわる専門職（弁護士・司法書士・公証人・医師の役割等）について	事前学習	教科書第 6 章（pp.174~196）を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	弁護士・司法書士等の役割について、その内容をまとめる。
第 14 回	成年後見活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第 7 章（pp.198~214）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
第 15 回	権利擁護活動の実際（事例検討）	事前学習	教科書第 8 章（pp.216~243）を吟味し、その要点をまとめる。
		事後学習	グループで検討したことを、もう一度振り返ってみる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	権利擁護と成年後見 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3101 SCMP3101
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義・討議		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	1 権利擁護の基本的な考え方・成年後見制度の概要・成年後見人の活動の実際について、実務の動向も含めて学ぶとともに、成年後見制度と関わりのある諸制度や専門職の役割について学ぶ。 2 権利擁護・成年後見制度の理解の前提となる憲法と民法の基本的な考え方を学ぶ。			
8. 学習目標	1 権利擁護相談援助と日本国憲法、民法、行政法とのかわりを理解、習得し、説明できる。 2 成年後見制度の概要及び成年後見人等の役割、実務について理解、習得し、説明できる。 3 日常生活自立支援事業の概要と成年後見制度との連携について理解し、説明できる。 4 成年後見活動の実際及び権利擁護活動の実際について考察し、理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマ：「成年後見制度と日常生活自立支援事業の連携について」			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第19巻 権利擁護と成年後見制度』中央法規。			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生への メッセージ	専門職を目指す者として、鋭い人権感覚を身に付けておくことは大切です。 近年、成年後見制度や日常生活自立支援事業の需要も増加しています。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに	事前学習	第 1 章について概要を 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1 章の導入について授業内の説明を整理して 200 字以内でまとめる。	
第 2 回	基礎法学の知見から考える —概念整理を用いて—	事前学習	第 1 章第 1 節から基礎法学の考え方について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1 章第 1 節の事例について 200 字以内でまとめる。	
第 3 回	憲法の世界 —権利擁護に必要な憲法原理—	事前学習	第 1 章第 2 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1 章第 2 節の参考文献について憲法原理を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 4 回	行政法の世界 —権利擁護に必要な行政法の原則—	事前学習	第 1 章第 3 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1 章第 3 節の参考文献について行政法を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	民法の世界 —権利擁護に向けた民法の運用—	事前学習	第 1 章第 3 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 1 章第 3 節の参考文献について民法の運用を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	成年後見制度 (成年後見・保佐・補助の概要、申立の流れ) について	事前学習	第 2 章第 1-5 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 2 章第 1-5 節の参考文献について 3 類型の分類を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 7 回	成年後見制度 (任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向) について	事前学習	第 2 章第 6-7 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 2 章第 6-7 節の参考文献について成年後見制度を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	日常生活自立支援事業 (日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携) について	事前学習	第 3 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 3 章の参考文献について日常生活自立支援事業を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	成年後見制度利用支援事業 (成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用) について	事前学習	第 4 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 4 章の参考文献について成年後見制度利用支援事業を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	権利擁護にかかわる組織・団体 (家庭裁判所・法務局・市町村の役割) について	事前学習	第 5 章第 1-3 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 5 章第 1-3 節の参考文献について関連組織と関連団体を整理しながら 200 字以内でまとめる。	
第 11 回	権利擁護にかかわる組織・団体 (社会福祉協議会・児童相談所の役割) について	事前学習	第 5 章第 4-5 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 5 章第 4-5 節の参考文献について事例を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 12 回	権利擁護にかかわる専門職 (弁護士・司法書士・公証人・医師等の役割と連携) について	事前学習	第 6 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 6 章の参考文献について権利擁護に関わる各種の専門職の立場を整理しながら 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	成年後見活動の実際	事前学習	第 7 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 7 章の参考文献について授業内の事例を整理しながら 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	権利擁護活動の実際	事前学習	第 8 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 8 章の参考文献について授業内の事例を整理しながら 200 字以内でまとめる。	
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書全般について 200 字以上でまとめる。	
		事後学習	参考資料全般をノートに整理してまとめなおす。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	公衆衛生 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3335 SNMP3335 SCMP3335 SBMP3335
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公衆衛生は、健康上の問題を集団で捉えることにより、疾病の予防や健康増進のための組織的な対策や制度を考える学問である。福祉や医療に携わる専門職には、必須の分野である。</p> <p>本科目では公衆衛生の概念や基本的な考え方、我が国が直面しているさまざまな健康問題の現状と課題を学び、疾病予防や健康増進のための公衆衛生活動について考察する。さらにこれからの保健・医療・福祉の方向性と互いの連携の在り方について、学生自身が考察できる力を身につけることができるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史と概念について説明できるようになる。 2. 保健統計の各指標について説明できるようになる。 3. 疫学の考え方について説明できるようになる。 4. 各健康問題（感染症、生活習慣病など）の現状と課題、それに対する我が国の施策を理解し、説明できるようになる。 5. 専門職として理解しておくべき公衆衛生に関する知識や考え方を習得し応用できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。</p> <p>レポート課題：わが国で社会問題となった健康上の問題について、その概要、どのような社会問題となったかなどをまとめなさい（1600～2000 字程度）。なおレポートは添削して返却するので必ず書き直して再提出する。</p> <p><前年（2015 年）度の課題例> インフルエンザ、エイズ、ハンセン病、腸管出血性大腸菌感染症、水俣病、イタイイタイ病、ヒ素ミルク事件、原発事故、花粉症、喫煙の害、生活習慣病対策、自殺対策、東日本大震災など</p> <p>研究発表：レポート課題で調べた内容について、わかりやすく発表しなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】鈴木庄亮・久道 茂監修『シンプル衛生公衆衛生学 2016』南江堂、2016。</p> <p>【参考書】厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向 2015/2016 年』。 原田 正純著『水俣病』岩波新書。 清水忠彦・南波正宗『わかりやすい公衆衛生学』ヌーベルヒロカワ。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>毎回の提出物 30%、レポート 30%、研究発表 30%、授業態度 10%</p> <p>本学規程により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>少子高齢化が世界で最も進んでいる日本において福祉や保健を志す人は社会の健康問題に常に敏感になることが必要である。新聞などのメディアが報じるニュースをよくチェックし解決策を考えてみよう。あなたが考える対策がこれからの日本の将来を決めるかもしれない。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	公衆衛生の概念および歴史（古代ローマの環境保健対策、中世ヨーロッパの港で行われた感染症予防対策、ジョン・スノウの功績、高木兼寛の業績、チャドウィックの主張、ウィンスロウの公衆衛生の定義、WHO の健康の定義、疾病構造の変化）	事前学習	教科書 pp.1～11 を読んでおく
		事後学習	公衆衛生の概念及び歴史について復習し、ワークシートを提出する
第 2 回	保健統計（世界の人口とその推移、何が人口の増加をもたらしたか、人口転換、日本の人口とその推移、合計特殊出生率の推移、健康指標、粗死亡率と年齢調整死亡率、平均寿命と平均余命、罹患率と有病率、患者調査）	事前学習	教科書 pp.17～27 を読んでおく
		事後学習	保健統計について復習し、ワークシートを提出する
第 3 回	疫学（疫学とは何か、疫学調査の手順と留意事項、選択バイアス・情報バイアス・交絡バイアス、無作為化比較試験（RCT））	事前学習	教科書 pp.29～47 を読んでおく
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する
第 4 回	疫学続き（年齢調整死亡率の求め方、相対危険度・寄与危険度の求め方）	事前学習	教科書 pp.29～47 を読んでおく
		事後学習	疫学について復習し、ワークシートを提出する
第 5 回	感染症とその予防（感染症の成立要因、感染症予防対策）	事前学習	教科書 pp.73～89 を読んでおく

		事後学習	感染症について復習シワークシートを提出する
第 6 回	食品と健康（食中毒の原因（病原微生物・自然毒・化学物質）と発生状況、予防対策について、食品の安全性を確保するための法律について）	事前学習	教科書 pp.176～181 を読んでおく
		事後学習	食品と健康について復習シワークシートを提出する
第 7 回	環境保健の概要（環境の諸要因と評価、量・反応曲線、環境要因による健康被害、放射線による健康被害、公害の概念と歴史、環境対策）	事前学習	教科書 pp.135～140 を読んでおく
		事後学習	環境保健の概要について復習シワークシートを提出する
第 8 回	生活習慣病対策（生活習慣病とは何か、生活習慣病による死亡率、一次予防・二次予防・三次予防の概念、健康日本 21、ヘルスプロモーションの考え方）	事前学習	教科書 pp.49～53、pp.68～70 を読んでおく
		事後学習	生活習慣病対策について復習シワークシートを提出する
第 9 回	母子保健（日本の母子保健の水準、乳児死亡率、周産期死亡率、妊産婦死亡率、幼児死亡率、母子保健対策、健康診査、母子健康手帳、保健指導と医療援護、母子保健の課題と動向）	事前学習	教科書 pp.223～236 を読んでおく
		事後学習	母子保健対策について復習シワークシートを提出する
第 10 回	歯科保健（乳歯と永久歯の萌出時期と歯の構造、むし歯と歯周病、歯周病と全身疾患、咀嚼の重要性、小児における歯科保健、老人における歯科保健） レポート返却	事前学習	教科書 pp.250～252、pp.295～296 を読んでおく
		事後学習	歯科保健対策について復習シワークシートを提出する。返却されたレポートを書き直す
第 11 回	医療の制度（わが国の医療保障の制度、公費負担医療、医療保険制度のしくみ、国民皆保険制度、診療報酬制度、国民医療費の現状、介護保険制度）、難病対策（難病の概念）	事前学習	教科書 pp.339～359 を読んでおく
		事後学習	医療の制度と現在の問題点について復習シワークシートを提出する
第 12 回	学生発表（感染症関連の諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.73～89 を再度読み、感染症に関する健康問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	感染症に関する健康問題についてまとめる
第 13 回	学生発表（環境保健関連諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.135～140 を再度読み、環境保健に関する問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	環境保健に関する問題についてまとめる
第 14 回	学生発表（生活習慣病関連諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）	事前学習	教科書 pp.49～53、pp.68～70 を再度読み、生活習慣病に関する問題にはどのようなものがあるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	生活習慣病に関する問題についてまとめる
第 15 回	学生発表（医療制度その他諸問題について学生がテーマを決めてレポートを作成し、それを既定時間内でわかりやすく発表する）、まとめ	事前学習	教科書 pp.339～359 を再度読み、医療制度にはどのような問題があるか考えてくる。当日発表を行う学生はその準備を行う。
		事後学習	医療制度の問題・公衆衛生全体について学習したことをまとめる

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2306 SSMP2106 PSMP2406
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポートは「現在の生活保護制度が抱えている課題について」というテーマを予定している。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第 16 巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 (第 4 版)』中央法規出版。			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生への メッセージ	分からないことについては、積極的に調べ、考えて、授業の内容を習得できるよう努めて欲しい。 公的扶助の大切さが理解できるように、現場意識を大切にしながら前向きに努力してほしい。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに (イントロダクション) — 貧困とは何か—	事前学習	テキスト 2 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	参考文献について貧困を整理しながら 200 字以内でまとめる。	
第 2 回	公的扶助の概念	事前学習	テキスト 1 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	参考文献について公的扶助の概念に関する諸説を 200 字以内でまとめる。	
第 3 回	公的扶助制度の歴史	事前学習	テキスト 3 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	公的扶助制度の時代性について 200 字以内でまとめる。	
第 4 回	生活保護制度の目的と原理、原則	事前学習	テキスト 4 章 1 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護制度の目的・原理・原則について 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	生活保護の種類と内容—その 1—	事前学習	テキスト 4 章 2 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	生活扶助の第 1 類費、第 2 類費について 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	生活保護の種類と内容—その 2—	事前学習	テキスト 4 章 2・3 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	各扶助について 500 字程度で説明できるようにする。	
第 7 回	被保護者の権利と義務・不服申し立て・財源	事前学習	テキスト 4 章後半について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	被保護者の権利と義務について 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	生活保護の動向	事前学習	テキスト 6 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護の動向について 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	低所得者対策の概要	事前学習	テキスト 7 章 1・4 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	低所得者対策の中で貸付が果たす役割について 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	ホームレス支援	事前学習	テキスト 7 章 3 節について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	支援の実際例について 200 字以内でまとめる。	
第 11 回	生活保護の運営実施体制	事前学習	テキスト 8 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	福祉事務所の役割について 200 字以内でまとめる。	
第 12 回	生活保護における相談援助活動	事前学習	テキスト 9 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	生活保護に係る相談援助活動について 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	生活保護における自立支援—その 1—	事前学習	テキスト 10 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	自立支援の実際について 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	生活保護における自立支援—その 2—	事前学習	テキスト全体について 200 字以上でまとめる。	
		事後学習	自立支援の実際について 200 字以上でまとめる。	
第 15 回	まとめ	事前学習	テキスト全体・配布物について 200 字以上でまとめ、定義の説明ができるようにする。	
		事後学習	テキスト全体・配布物を再読してノートにまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	公的扶助論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2106
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄		SCMP2106
4. 授業形態	講義、グループ学習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	我が国の社会保障制度の一部であり、生活を支えるうえでの「セーフティネット」ともいわれる公的扶助に関する制度の基礎知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際などに着目しながら、公的扶助の考え方やその歴史について学習する。また、我が国の公的扶助として中心的な役割を持つ生活保護制度について、その原理、原則、実施体制、制度運用の現状と問題点、被保護者の権利及び義務、相談援助活動や自立支援の取り組みを学ぶとともに、低所得層対策の考え方や具体的な制度について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代における貧困・低所得者の問題について理解し、説明することができる。 2 社会保障制度における公的扶助の役割について理解し、説明することができる。 3 公的扶助制度の歴史について理解し、説明することができる。 4 生活保護制度と低所得者支援の制度について理解し、説明することができる。 5 生活保護の動向と課題について理解し、説明することができる。 6 生活保護制度・低所得者支援における相談援助活動について理解し、説明することができる。 7 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の試験問題（低所得者支援と生活保護制度）について、解ける力を持つ。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポートの課題は以下のものを予定している。 ・現在の生活保護制度が抱えている課題について ・生活保護の現場で働くケースワーカーが抱える課題について		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第 16 巻 低所得者に対する支援と生活保護制度 (第 4 版)』中央法規出版。		
11. 成績評価の方法	小テスト 50% レポート 50% 授業内での活動については、これをベースに加減点する。出席だけで単位は得られない。		
12. 受講生へのメッセージ	近年、貧困が非常に大きな問題として取り上げられている。公的扶助はそのような貧困問題に対処するための仕組みのひとつである。制度はなかなか複雑であり、難しい分野かもしれないが、クライアントのために学ぶという高い問題意識を持って学んでほしい。授業の進行については下に示しているので、予めテキストを読んでおく程度の予習は最低限してもらいたい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション 貧困とは何か (テキスト第 2 章)	事前学習	テキスト 2 章を読んでおくこと。
		事後学習	貧困の基準について考えること。
第 2 回	公的扶助の概念と範囲 (第 1 章)	事前学習	テキスト 1 章を読んでおくこと。
		事後学習	公的扶助とは何かについて説明できるようにしておくこと。
第 3 回	公的扶助の歴史 (第 3 章)	事前学習	テキスト 3 章を読んでおくこと。
		事後学習	日本の公的扶助制度がどのように変わってきたのかを説明できるようにしておくこと。
第 4 回	生活保護制度の目的・原理・原則 (第 4 章第 1 節)	事前学習	テキスト 4 章 1 節を読んでおくこと。
		事後学習	生活保護制度の二つの目的について説明できるようにしておくこと。
第 5 回	生活保護の種類と内容①生活扶助 (第 4 章第 2 節) (第 5 章)	事前学習	テキスト 4 章 2 節を読んでおくこと。
		事後学習	生活扶助の第 1 類費、第 2 類費、加算のそれぞれの機能について説明できるようにしておくこと。
第 6 回	生活保護の種類と内容②その他の扶助 (第 4 章第 2 節) 保護施設 (第 4 章第 3 節)	事前学習	テキスト 4 章 2・3 節を読んでおくこと。
		事後学習	特に、医療扶助と介護扶助の受給プロセスについて説明できるようにしておくこと。
第 7 回	被保護者の権利と義務・不服申し立て・財源 (第 4 章第 4～6 節)	事前学習	テキスト 4 章後半を読んでおくこと。
		事後学習	被保護者の権利と義務について説明できるようにしておくこと。
第 8 回	生活保護の動向 (第 6 章)	事前学習	テキスト 6 章を読んでおくこと。
		事後学習	近年の生活保護の動向について説明できるようにしておくこと。
第 9 回	低所得者支援の制度①生活福祉資金貸付制度など (第 7 章第 1 節、第 4 節)	事前学習	テキスト 7 章 1・4 節を読んでおくこと。
		事後学習	貸付の手順について説明できるようにしておくこと。
第 10 回	低所得者支援の制度②ホームレス支援 (第 7 章第 3 節)	事前学習	テキスト 7 章 3 節を読んでおくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。
第 11 回	生活保護の運営実施体制 (第 8 章)	事前学習	テキスト 8 章を読んでおくこと。
		事後学習	福祉事務所の役割について説明できるようにしておくこと。
第 12 回	生活保護における相談援助活動 (第 9 章)	事前学習	テキスト 9 章を読んでおくこと。
		事後学習	生活保護における相談援助のプロセスについて説明できるようにしておくこと。
第 13 回	生活保護における自立支援①就労自立 (第 10 章)	事前学習	テキスト 10 章を読んでおくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。
第 14 回	生活保護における自立支援②社会生活自立 (第 10 章)	事前学習	前週のビデオの内容を振り返っておくこと。
		事後学習	ビデオを見て考えたことをまとめること。
第 15 回	まとめ+社会生活自立の続き	事前学習	前週のビデオの内容を振り返っておくこと。
		事後学習	生活保護における自立支援の意義について説明できるようにしておくこと。

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2281
2. 授業担当教員	新井 美也子			
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	国語 (日本語) 能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語 (日本語) の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。			
8. 学習目標	1, 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語 (日本語) 能力を高める。 2, 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3, 話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと的能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1, アサイメント (1) 参加型絵本読み聞かせ学習の準備 (2) 俳句づくり学習のための準備 (3) ペーパーサート劇学習のための準備 (4) 礼状作成のための準備			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 (1) 文部科学省『小学校学習指導要解説国語編』東洋館出版 (2) 内閣府文部科学省厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 【参考書】 アーノルド・ローベル作『ふたりはともだち』文化出版局 *必要に応じて、プリント資料を配付する。			
11. 成績評価の方法	授業参加	20点		
	参加型読み聞かせ発表会・ペーパーサート劇発表会	30点		
	完成した俳句・手紙	20点		
	期末試験	30点		
12. 受講生への メッセージ	児童や幼児に言語の力を育成するためには、言語環境の整備が重要です。教師や保育士は最大の言語環境ですから、教師や保育士を目指す皆さん自身が言語能力に磨きをかけねばなりません。そのための授業です。目の前にいるに児童や幼児に信頼され尊敬される指導者になるという自覚をもって、授業に臨んでください。授業は指導者・学習者に役割分担し、模擬授業形式で言語活動を展開する中で、読む力、聞く・話す力、書く力を身に付けていきます。また、グループ学習を通して、社会が新規採用者に最も要求している豊かな人間関係を醸成できるコミュニケーション能力も身に付けていきます。			
13. オフィスアワー	後日連絡します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 小学校・幼稚園・保育所の場で求められる国語の力・言葉の力とは	事前学習	将来の夢についてスピーチできるようにしておく。	
		事後学習	小学校学習指導要領「国語」・幼稚園教育要領「言葉」・保育所保育指針「言葉」について必要な事項を暗記する。	
第2回	国語科教育の歴史 体験を言葉へ・語彙の拡充	事前学習	国語辞典の使い方について確認しておく。	
		事後学習	様子を表す言葉・動きを表す言葉・感想を表す言葉についてまとめておく。	
第3回	参加型絵本の読み聞かせ学習の概要 (間の手型・歌型・クイズ型・繰り返し型・楽器リズム型・手遊び型・手振り身振り型等)	事前学習	参加型絵本読み聞かせ学習で使用する絵本を準備しておく。	
		事後学習	参加型絵本読み聞かせ学習の様々な型についてまとめる。	
第4回	参加型絵本の読み聞かせ学習 ・参加型絵本読み聞かせ発表会の準備	事前学習	参加型絵本読み聞かせでの学習の内容を考えておく。	
		事後学習	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の準備をする。	
第5回	参加型絵本の読み聞かせ学習 ・参加型絵本読み聞かせ発表会	事前学習	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の準備をしておく。	
		事後学習	学習後の評価 (学習者の知的な気づき) についてまとめる。	
第6回	俳句や詩を書く学習の概要 ・教師が提示した低学年児童詩の分析 ・詩集づくり・互選句会のプロセス	事前学習	自分の好きな詩・俳句を集めておく。	
		事後学習	詩集作りの方法や互選句会の進め方についてまとめる。	
第7回	俳句や詩を書く学習	事前学習	様々な観点から五感を使って「秋」を発見して	

	<ul style="list-style-type: none"> 言葉集めの方法（発見メモ作成） 発見メモから詩へ（詩の作成） 	事後学習	<p>おく。</p> <p>情報の収集・整理の仕方やメモから詩作成へのプロセスについてまとめる。</p>
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> 俳句や詩を書く学習 「秋」の俳句鑑賞 「秋」の俳句作り 	事前学習	俳句で描きたい風景や心情を映像に写しておく。
		事後学習	鑑賞文の書き方についてまとめる。 俳句を完成する。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> 俳句や詩を書く学習 互選句会の開催 (作品発表・感想交流・推敲・俳句完成) 	事前学習	互選句会の準備をしておく。
		事後学習	感想交流を通しての聞く・話す力の育成方法をまとめる。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の文学作品の読みの指導 こころのつながりを読みとる力育成のため「おてがみ」を教材としたペープサート劇 	事前学習	アーノルド・ローベルの作品を並行読書しておく。
		事後学習	学習の流れについてまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の文学作品の読みの指導 「おてがみ」を教材にペープサート劇の台本を作成し、実際に劇を演じる練習学習 	事前学習	「おてがみ」を読みこんでおく。 発表会で扱うアーノルド・ローベルの作品を決定しておく。
		事後学習	「おてがみ」のペープサート劇台本を完成する。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の文学作品の読みの指導 グループごとにアーノルド・ローベルの他作品ペープサート劇台本作成 	事前学習	ペープサート劇台本作成の準備をしておく。
		事後学習	ペープサート劇台本を完成する。
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の文学作品の読みの指導 アーノルド・ローベル他作品のペープサート劇練習 	事前学習	ペープサート劇発表会の準備をしておく。
		事後学習	ペープサート劇発表会の準備をする。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年の文学作品の読みの指導 アーノルド・ローベル他作品のペープサート劇発表会 	事前学習	ペープサート劇発表会の準備をしておく。
		事後学習	学習後の評価（学習者の知的な気付き）についてまとめる。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> 書写の役割（伝統的な言語文化と国語の特質） 手紙の書き方（礼状の書き方） 総括 	事前学習	鉛筆の正しい持ち方・書く姿勢・手紙の書き方について確認しておく。
		事後学習	小学校学習指導要領の伝統的な言語文化と国語の特質についてまとめる。 学習内容を振り返る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国語 (書写を含む) (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2281
2. 授業担当教員	新井 美也子・安藤 哲也		
4. 授業形態	講義 演習 討議 発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	国語 (日本語) 能力の養成・強化を主とする。発音・アクセント・方言等の日本語の特質や語法・表現技法に至るまで、日本語の基礎的知識を習得するとともに、語彙力や文章表現力の養成に努める。また幼児の発達段階を踏まえ、実際の絵本等児童文化教材の分析から、国語 (日本語) の使用方法を実感的に理解する。どのような指導を行えば言語能力を向上させていくことができるのか、具体的な教材を用いることで言語能力を高める。		
8. 学習目標	1, 国語科教育の歴史や意義を踏まえ、国語 (日本語) 能力を高める。 2, 言葉の機能や教科としての国語の特質を理解し、説明できるようになる。 3, 話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと的能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、指導者としてふさわしい言語能力を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1, アサイメント (1) 参加型絵本読み聞かせ学習の準備 (2) 随筆作成学習の準備 (3) 故事成語学習の準備 (4) 礼状作成のための準備		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要解説国語編』 東洋館出版社 *必要に応じて、プリント資料を配付する。		
11. 成績評価の方法	授業参加 20点 参加型読み聞かせ発表会・故事成語学習発表会 25点 完成した随筆・手紙 25点 期末試験 30点		
12. 受講生への メッセージ	児童に言語の力を育成するためには、言語環境の整備が重要です。教師こそ最大の言語環境ですから、教師を目指す皆さん自身が言語能力に磨きをかけねばなりません。そのための授業です。目の前にいる児童に信頼され尊敬される指導者になるという自覚をもって、授業に臨んでください。 授業は指導者・学習者と役割分担し、模擬授業形式で言語活動を展開する中で、読む力、聞く・話す力、書く力を身に付けていきます。また、グループ学習を通して、社会が新規採用者に最も要求している豊かな人間関係を醸成できるコミュニケーション能力も身に付けていきます。		
13. オフィスアワー	後日連絡します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 教育の場で求められる国語の力・言葉の力とは	事前学習	「志」についてスピーチできるようにしておく。
		事後学習	小学校学習指導要領顔説「国語」について必要な事項を暗記する。
第2回	国語科教育の歴史 語彙の拡充	事前学習	国語辞典の使い方について確認しておく。
		事後学習	様子を表す言葉・動きを表す言葉・感想を表す言葉についてまとめる。
第3回	参加型絵本の読み聞かせ学習の概要 (問の手型・歌型・クイズ型・繰り返し型・楽器リズム型・手遊び型・手振り身振り型等)	事前学習	参加型絵本読み聞かせ学習で使用する絵本を準備しておく。
		事後学習	参加型絵本読み聞かせ学習の様々な型についてまとめる。
第4回	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の準備	事前学習	参加型絵本読み聞かせでの学習内容を考えておく。
		事後学習	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の準備をする。
第5回	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の開催	事前学習	参加型絵本読み聞かせ学習発表会の準備をしておく。
		事後学習	学習後の評価 (学習者の知的な気付き) についてまとめる。
第6回	随筆を書く学習の概要 いくつかの随筆音読、随筆についての理解 ・随筆の課題設定	事前学習	好きな随筆を紹介できるようにしておく。
		事後学習	随筆について理解したことをまとめる。
第7回	随筆を書く学習 ・取材・構成に関する指導	事前学習	随筆を多読しておく。
		事後学習	構成表を完成する。
第8回	随筆を書く学習	事前学習	随筆を書く準備を整えておく。

	・記述に関する指導	事後学習	随筆を完成する。
第 9 回	随筆を書く学習 ・交流・推敲に関する指導事項	事前学習	随筆を完成しておく。
		事後学習	随筆を校正し清書する。
第 10 回	説明的文章の読み取りからのリーフレット作成 ・要約の仕方 ・小見出しの付け方	事前学習	要約の仕方や小見出しの付け方について確認しておく。
		事後学習	練習用リーフレットを完成する。
第 11 回	文学的文章の読み取りからのポップ作成 ・あらすじのまとめ方 ・主題のとらえ方	事前学習	あらすじと主題について確認しておく。
		事後学習	練習用ポップを完成する。
第 12 回	故事成語学習の概要 ・意味・由来・用例・原文・キーワード・等	事前学習	好きな故事成語について事前に調べておく。
		事後学習	故事成語学習についてまとめる。
第 13 回	故事成語学習 ・パワーポイントによる発表資料作成	事前学習	口頭発表のための資料を準備しておく。
		事後学習	口頭発表のための資料を完成する。
第 14 回	故事成語学習発表会 ・発表・感想交流	事前学習	故事成語についての発表練習をしておく。
		事後学習	故事成語についての口頭発表を相互評価・自己評価する。
第 15 回	書写の役割（伝統的な言語文化と国語の特質） 手紙や葉書の書き方・敬語の使い方についての学習 総括	事前学習	鉛筆の正しい持ち方・書く姿勢・手紙や葉書の書き方・敬語の使い方について確認しておく。
		事後学習	小学校学習指導要領の伝統的な言語文化と国語の特質についてまとめる。 学習内容を振り返る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	国語科指導法 (書写を含む) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2391 SJMP2291 EDEL2311
2. 授業担当教員	國府田 祐子			
4. 授業形態	講義 演習 グループ討議 発表 実技		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>国語科は全教科の基礎基本であり、中心的教科である。それゆえに、人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいである。そのために、学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにする。</p> <p>特に、指導法に関しては単なる理解でなく、発表や討論、模擬授業等を通して指導技術の習得を図る。また、教材や学習活動の開発創造を大切にする意欲的態度を育てる。</p>			
8. 学習目標	<p>1、日本の国語教育の全体像を理解し、その成果と課題について自分の考えをもつ。</p> <p>2、小学校学習指導要領国語について概観し、目標や内容について説明できるようになる。</p> <p>3、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標・内容について理解し、説明できるようになる。</p> <p>4、小学校の具体的な国語教材を取り上げ、教材研究、指導案の作成、模擬授業などを行い、小学校国語科の学習指導の実際を体験的に身につける。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>(1) アサインメント 適宜指示する。 書写用の筆、下敷き、墨汁、半紙を用意しておく。(小・中・高等学校で用いた筆でもよい。 講義 13 回目以降で使用する)</p> <p>(2) レポート課題 各授業における「基礎シート」を毎回提出する。 課題は締め切りを守って提出する。遅れは減点する。非常識な提出をした場合や極端に遅れた場合は受けつけず0点となる。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社。 『国語五 銀河』光村図書出版 (小学5年教科書) 『国語三下 あおぞら』光村図書出版 (小学3年教科書)</p> <p>【参考書】三省堂編集所編『新しい国語表記ハンドブック 第6版』三省堂。</p> <p>その他は、授業中に適宜指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業参加 50%</p> <p>各授業における「基礎シート」、提出物、態度、持ち物、遅刻・早退、私語など 模擬授業 (実技試験等) 15% 教材研究力、指導案の整合性、授業展開力など レポート (指導案、小論文、スピーチシート等) 20% 小テスト 15%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>指導者で教師が発信する言語は、児童・生徒にとって見本そのものです。まず教師自身が論理的な話し方ができるようになることが大切です。その上で、児童・生徒の書く力や読む力、話す力、聞く力を育てていくのです。つまり、指導者が身につけた言語能力は、そのまま児童・生徒の言語環境になるということです。小学校で身に付けさせる国語の力を実践的に講義します。音読をたくさんします。模擬授業もたくさん受けてもらいます。その上で、児童に分かりやすい授業が展開できる力をつけてもらいます。座席は指定です。自分自身が手本として児童・生徒の前に立ち、一人前の指導者になるという自覚をもって、講義に臨んでください。</p>			
13. オフィスアワー	別途指示			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 国語を教える意義 論理的に「B書くこと」の授業の実際1	事前学習	自分が受けた国語科教育についてまとめておく。	
		事後学習	シラバスを読んで授業の概要をつかみ、見通しを持つ。 「書くこと」の1次原稿に向けて構想を練る。	
第2回	これまでの国語科教育 論理的に「B書くこと」の授業の実際2	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編の目次、第1・2章を読む。	
		事後学習	使用した資料・テキストを基に学習内容を整理する。 「書くこと」の2次清書に向けて考えをまとめておく。	
第3回	これからの国語科教育 論理的に「B書くこと」の授業の実際3	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「B書くこと」を読み、 論理的に書くことと文学的文章を書くことと区別する。	
		事後学習	小学校学習指導要領解説 国語編 p132・p133 を読み、 中学校との連携についてまとめておく。	
第4回	論理的に「書くこと」の授業の実際4 「A話すこと・聞くこと」の授業の実際1 小テスト	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「A話すこと・聞くこと」 を読み、論理的に話す・聞くための重要な点についてまと めておく。	
		事後学習	小学校学習指導要領解説 国語編 p130・p131 を読み、 「A話すこと・聞くこと」における中学校との連携につい てまとめておく。	
第5回	「A話すこと・聞くこと」の授業の実際2	事前学習	実技試験「自己紹介スピーチ」の原稿を暗記し、人前で読	

	実技試験		めるよう繰り返し練習しておく。
		事後学習	実技試験の結果を踏まえ、自らのよかった点・改善点についてまとめる。
第 6 回	論理的文章を「C 読むこと」の授業の実際 1 －キーワード・段落・文章構成－	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C 読むこと」を概観しておく。
		事後学習	指定された教材文を繰り返し音読練習し、人前でもはっきりとした声で範読できるよう準備しておく。
第 7 回	論理的文章を「C 読むこと」の授業の実際 1 －文章構成－ 模擬授業実践その 1	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C 読むこと」の中から「説明的文章の系統」を学んでおく。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らのよかった点・改善点をまとめておく。
第 8 回	論理的文章を「C 読むこと」の授業の実際 1 模擬授業実践その 2	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C 読むこと」を読む。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 9 回	文学的文章を「C 読むこと」の授業の実際 －あらすじ・場面・登場人物－	事前学習	小学校学習指導要領解説 国語編「C 読むこと」の p134・p135 を読み、中学校との連携について、自らのよかった点・改善点をまとめておく。
		事後学習	指導者の示した模擬授業について、自らの指導実践に生かせることをまとめておく。
第 10 回	文学的文章を「C 読むこと」の授業の実際 －描写－ 模擬授業実践その 3	事前学習	学習指導案作成に向け、構想を考える。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 11 回	文学的文章を「C 読むこと」の授業の実際 －人物像の変容・自由な感想－ 模擬授業実践その 4	事前学習	模擬授業の練習を行う。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 12 回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」の実際	事前学習	他の授業における自らの言語技術の向上について、まとめておく。
		事後学習	自分が受けてきた国語科の授業との大きな違いについて振り返り、まとめる。
第 13 回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」の実際・書写	事前学習	小・中学校時代の書写の授業における自らの経験を想起し、まとめておく。
		事後学習	低学年の硬筆の授業について、「国語の特質に関する指導」を読み、概観しておく。
第 14 回	第 5 学年国語科学習指導案作成 模擬授業実践その 5	事前学習	作成した指導案を指定枚数用意し、授業展開ができるよう準備する。
		事後学習	自分や、友人の模擬授業実践を振り返り、自らの考えをまとめておく。
第 15 回	第 5 学年国語科学習指導案作成 模擬授業実践その 6 指導者に求められる言語技術力 総括	事前学習	授業展開ができるよう準備する。 テキスト、学習ノート及び配付された資料を読み返す。
		事後学習	自己評価し、補充的な学習・発展的な学習に取り組む。 自らの言語技術の向上について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	子どもの保健Ⅱ (1 単位)		3. 科目番号	SSOT2407 SCOT2407 SJMP2117
2. 授業担当教員	橋本 由利子・佐野 葉子			
4. 授業形態	技術演習、講義、グループワーク、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育者として子どもの健康と安全を守るために必要な基礎的知識や実践力を身に付けることをねらいとしている。「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、子どもが健康的に生活するうえで必要な生活環境要因について理解し、総合的な援助技術の習得を目指す。</p> <p>技術演習では、子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、一般的な症状に対する看護の方法、応急手当（一次救命処置を含む）など、保育現場で必要とされる技術をモデル人形を対象として実践する。</p> <p>グループワークでは、事故防止対策と安全教育、歯磨きや手洗いなどの健康教育について検討し、発表することで集団保育における事故防止や健康管理・健康教育の実践力を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。 2. 子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。 3. 子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。 4. 子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。 5. 子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。 6. 応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。 7. 集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。 8. 子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 毎回の授業で学習した内容について教科書のワークを用いて復習する。 2) 日赤幼児安全法について、学習した内容と感想を書く（1000字程度）。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】榊原洋一監修・小林美由紀著『子どもの保健演習ノート』改訂第2版、診断と治療社、2013年。</p> <p>【参考書】今井七重編『演習 子どもの保健Ⅱ』（株）みらい。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>毎週の授業開始時のミニテスト 50%、幼児安全法レポート 10%、授業態度 30%、身支度 10% (爪、髪の毛、服装等実習にふさわしい準備)</p> <p>※レポート提出の遅れは減点となる。</p> <p>本学規定により 3/4 以上 (24 回中 18 回以上) の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>子どもの保健Ⅱは保育中の乳幼児の命と健康を守るための技術を学ぶ重要な科目です。保育者は乳幼児の普段の状態をよく把握し、普段と少しでも異なる症状があった場合にはそれをいち早く察知し、適切に対処しなくてはなりません。また、乳幼児の養護や看護を行う場合には愛情を持って温かく接する事が大切です。一つ一つの実習を誠心誠意、真剣に行ってください。受講生は以下のことを必ず守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業は、常に高い緊張感と集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2) 理解できないことはそのままにしておかないで、積極的に質問すること。 3) 欠席・遅刻・早退をしないこと（やむを得ない場合は必ず文書で申し出ること）。 4) 授業中の私語、携帯電話の作動は絶対にしないこと。守れない場合は退出してもらいます。 5) 実技・演習は、事故のないように気を引き締めて行うこと。 6) 実習機材の準備・後片付けを積極的に行うこと。 <p>講師は以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生が積極的に授業に参加（発言、発表）できるように双方向対話型の学習環境を作る。 2) 明らかに授業態度が悪いと判断された場合は厳格に対処する。（その場合、たとえすべて出席していても F 評価になることもあるので注意すること。） 			
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (子どもの保健Ⅱを学ぶにあたって)	事前学習	シラバスを読んでおく。	
		事後学習	自己紹介用紙を記載する。	
第 2 回	胎児期の発育について (受精してから出生するまで)	事前学習	胎児期の発育について考えてくる。	
		事後学習	自分の母子健康手帳を見て必要事項を自己紹介用紙に記載する。	
第 3 回	第 1 章 子どもの発育を知ろう (身体発育の観察と評価)	事前学習	テキスト pp2~17 を読んでおく。	
		事後学習	第 1 章おさらいテスト問 1・問 2	
第 4 回	第 1 章 子どもの発育を知ろう (身体発育の測定方法と評価)	事前学習	テキスト pp.4~7 を読んでおく。	
		事後学習	第 1 章おさらいテスト問 3	
第 5 回	第 2 章 子どもの発達を知ろう (運動機能の発達とその評価について)	事前学習	テキスト pp.26~36 を読んでおく。	
		事後学習	第 2 章おさらいテスト問 1・問 2	
第 6 回	第 3 章 子どもの健康状態を知ろう (子どもの生理機能の発達を理解する)	事前学習	テキスト pp.40~42 を読んでおく。	
		事後学習	第 3 章おさらいテスト問 1①~⑦、⑨問 2①~⑤、問 3	
第 7 回	第 5 章 子どもの保育環境づくり	事前学習	テキスト pp.74~78 を読んでおく。	

	(屋内の衛生管理など)	事後学習	第 5 章おさらいテスト問①②⑩⑪⑫
第 8 回	第 4 章 日常における養護の方法 (抱き方・おんぶの仕方・寝かせ方・外気浴における留意点)	事前学習	テキスト pp.52～53、pp.62～64 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 1④、問 3⑩～⑮
第 9 回	第 4 章 日常における養護の方法 (母乳と人工栄養、離乳食の進め方)	事前学習	テキスト pp.53～55 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 1 ①②、問 2①～③
第 10 回	第 4 章 日常における養護の方法 (調乳の実際、手洗いの基本)	事前学習	テキスト pp.53～55、p61 を読んでおく
		事後学習	調乳の方法と留意点について復習する。
第 11 回	第 4 章 日常における養護の方法 (衣服の着せ方、排泄のさせ方)	事前学習	テキスト pp.56～59 を読んでおく。
		事後学習	衣服の着せ方について復習する。
第 12 回	第 4 章 日常における養護の方法 (沐浴・入浴のさせ方)	事前学習	テキスト pp.59～61 を読んでおく。
		事後学習	入浴のさせ方について復習する。
第 13 回	第 4 章 日常における養護の方法 (口腔内の衛生)	事前学習	テキスト pp.56～57 を読んでおく。
		事後学習	第 4 章おさらいテスト問 2④⑤
第 14 回	第 4 章 日常における養護の方法 (口腔機能の発達)	事前学習	自分の歯がいつ頃生えてきたか考える。
		事後学習	歯と口の健康の重要性について復習する。
第 15 回	第 8 章 いざというときの応急処置 (傷害時の応急処置、エビペンについて)	事前学習	テキスト pp.126～130 を読んでおく。
		事後学習	第 8 章おさらいテスト問 1、問 2
第 16 回	第 6 章 よくかかる病気について知ろう (冷却用具の種類と作り方、薬の与え方、嘔吐物の処理)	事前学習	テキスト pp.82～86 を読んでおく。
		事後学習	第 6 章おさらいテスト問 1、問 2、問 3、問 4
第 17 回	赤十字幼児安全法講習会 (乳幼児の救急救命処置、AED を用いた心肺蘇生法も含む)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	第 8 章おさらいテスト問 4
第 18 回	赤十字幼児安全法講習会 (乳幼児の救急救命処置、AED を用いた心肺蘇生法も含む)	事前学習	テキスト pp.122～128 を読んでおく。
		事後学習	アサイメント 2
第 19 回	第 7 章 よく起こる事故について知ろう (乳幼児に起こりやすい事故とその特徴)	事前学習	テキスト pp.106～109 を読んでおく。
		事後学習	第 7 章おさらいテスト問 1～問 3
第 20 回	第 7 章 よく起こる事故について知ろう (安全への配慮・安全管理・安全教育)	事前学習	テキスト pp.109～118 を読んでおく。
		事後学習	グループで製作する教材の準備をする。
第 21 回	安全衛生に関する教育と教材の作成 (グループワーク)	事前学習	グループで製作する教材の準備をする。
		事後学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
第 22 回	安全衛生に関する教育と教材の作成 (グループワーク)	事前学習	時間内で教材ができあがるように準備する。
		事後学習	来週の発表に向けて発表の準備をする。
第 23 回	安全衛生教育のプレゼンテーション	事前学習	発表ができるようにグループ内で打ち合わせをする。
		事後学習	グループワークと発表の振り返り。
第 24 回	まとめ	事前学習	授業で配付されたプリントを整理する。
		事後学習	この科目で学んだことを振り返る。

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP1112
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義 演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「コミュニケーション論」の単位を修得していること		
7. 講義概要	人間関係形成のためのコミュニケーション技術について、講義で基本的な技法を理解し、さらに演習を通し、実践できるように授業を進めていく。また利用者との援助的関係のみならず、他職種との連携や協働の場面、記録についても具体的に理解し、実践できるように授業を進めていく。演習による実践的なコミュニケーションでは、プロセスレコードを使用し、コミュニケーションを振り返ることで学びを深めていく。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者・家族の思いを引き出すコミュニケーションを実践できる。 2. コミュニケーションの基本的な技法を活用できる。 3. 利用者のこころにゆとりが生まれるコミュニケーションのための知識を身につける。 4. 利用者のコミュニケーションの障害に応じたコミュニケーションの方法を選択できる。 5. 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションを理解する。 6. 他職種との連携・協働の場面におけるコミュニケーションを実践できる。 7. プロセスレコードを記入し、自己のコミュニケーションの振り返りができる。 8. 情報を共有するための記録の書き方、管理について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>レポート課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて 2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションについて 3. 介護におけるチームのコミュニケーションについて 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『コミュニケーション技術』中央法規出版。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 25% レポート 75%</p>		
12. 受講生への メッセージ	授業中の私語や居眠り、携帯電話の使用は禁止します。授業には積極的に参加し、理解を深めてください。わからないことはそのままにせず、質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	介護におけるコミュニケーションの役割	事前学習	テキスト pp.24～32 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 24～32 の重要語句をおぼえ、「介護におけるコミュニケーションの役割」についてまとめる。
第2回	介護における生活支援とコミュニケーション	事前学習	テキスト pp.35～43 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 35～43 の重要語句をおぼえ、「介護における生活支援とコミュニケーション」についてまとめる。
第3回	話を聴く技法	事前学習	テキスト pp.46～52 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 46～52 の重要語句をおぼえ、「話を聴く技法」についてまとめる。
第4回	利用者の感情表現を察する技法	事前学習	テキスト pp.54～61 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 54～61 の重要語句をおぼえ、「利用者の感情表現を察する技法」についてまとめる。
第5回	質問の技法	事前学習	テキスト pp.69～78 を読み、納得と同意の概要をつかんでおく
		事後学習	テキスト pp. 69～78 の重要語句をおぼえ、「質問の技法」についてまとめる。
第6回	相談・助言・指導の技法	事前学習	テキスト pp.80～86 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 80～86 の重要語句をおぼえ、「相談・助言・指導の技法」についてまとめる。
第7回	利用者の意欲を引き出す技法	事前学習	テキスト pp.86～90 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 86～90 の重要語句をおぼえ、「利用者の意欲を引き出す技法」についてまとめる。
第8回	利用者と家族の意向を調整する技法	事前学習	テキスト pp.97～102 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 97～102 の重要語句をおぼえ、「利用者と家族の意向を調整する技法」についてまとめる。
第9回	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション	事前学習	テキスト pp.105～113 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 105～113 の重要語句をおぼえ、「複数の利用者がある場面でのコミュニケーション」についてまとめる。【レポート1】

第 10 回	コミュニケーション障害の理解	事前学習	テキスト pp.118～127 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 118～127 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーション障害の理解」についてまとめる。
第 11 回	コミュニケーション障害のある利用者への対応	事前学習	テキスト pp.129～140 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 129～140 の重要語句をおぼえ、「コミュニケーション障害のある利用者への対応」についてまとめる。【レポート 2】
第 12 回	チームのコミュニケーション	事前学習	テキスト pp.180～186 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 180～186 の重要語句をおぼえ、「チームのコミュニケーション」についてまとめる。
第 13 回	記録の書き方と留意点	事前学習	テキスト pp.205～210 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 205～210 の重要語句をおぼえ、「記録の書き方と留意点」についてまとめる。
第 14 回	報告・連絡・相談	事前学習	テキスト pp.220～224 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 220～224 の重要語句をおぼえ、「報告・連絡・相談」についてまとめる。
第 15 回	会議	事前学習	テキスト pp.226～233 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp. 226～233 の重要語句をおぼえ、「会議」についてまとめる。【レポート 3】

1. 科目名 (単位数)	コンピュータサイエンスⅡ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1312
2. 授業担当教員	小川 英光・森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「コンピュータサイエンスⅠ」を履修していなければ、講義内容を理解することが難しい。			
7. 講義概要	試験結果を点数順に並べ替える問題や、選挙結果の集計など、具体的な問題の処理手順をアルゴリズムという。同じコンピュータを使って同じ問題を扱っても、アルゴリズムが異なれば、問題解決に要する処理時間は大幅に異なる。本講義では、アルゴリズムの善し悪しの評価方法である「オーダ」という概念について学び、具体的な問題に対する複数のアルゴリズムを開発し、そのオーダの違いを調べる。また、これらのアルゴリズムを、C++言語を用いてコンピュータ上で実行することにより、オーダの違いと処理時間の関係を実感する。			
8. 学習目標	アルゴリズムは、ハードウェアの進歩に左右されない概念である。現在の情報化社会を支えているコンピュータの底に潜む、技術の進歩に左右されない科学としての見方・考え方・方法論を学ぶ。			
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、講義の後半に演習を行う。特に、アルゴリズムのプログラム実装の部分は宿題とし、次回の講義までに提出してもらう。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 広瀬貞樹『あるごりずむ』近代科学社。 【参考書】 藤原暁宏『情報工学レクチャーシリーズ アルゴリズムとデータ構造』森北出版。			
11. 成績評価の方法	試験：50%、レポート：30%、出席点（遅刻は減点）：20%			
12. 受講生への メッセージ	科学技術とは、物事を非常に精密にとらえ、分析していく学問という印象があります。事実、多くの場面ではそのような態度がとられてきました。しかし、アルゴリズムの善し悪しを評価するときのように、問題によっては、全体の性質を大きくとらえ、特性を理解することも大切です。この講義を通じて、そのような見方を味わってください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	講義概要 (アルゴリズムとプログラムの基本要素：最大値検索)	事前学習	クラスの生徒の成績を集計するプログラムを作成するとき、どのような手順で作業を進めればよいか、考えをまとめておくこと。	
		事後学習	フローチャートの書き方、読み方に慣れること。	
第 2 回	アルゴリズムの例 (配列、総和、文字列の接続、選挙結果の集計)	事前学習	配付資料 1.2 節、1.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 1.2 節、1.3 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 3 回	アルゴリズムの良さの評価 (1：計算量・オーダ、偽小判発見アルゴリズム)	事前学習	配付資料 2.1 節、2.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 2.1 節、2.2 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 4 回	アルゴリズムの良さの評価 (2：オーダの性質)	事前学習	配付資料 2.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 2.3 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 5 回	プログラミング言語 C++ (1：プログラミングの基礎)	事前学習	配付資料 6.1 節～6.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。	
第 6 回	プログラミング言語 C++ (2：C++の基本構文、データ型と変数)	事前学習	配付資料 6.4 節～6.8 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。	
第 7 回	プログラミング言語 C++ (3：処理の 3 構造と C++の構文 - if 文)	事前学習	配付資料 7.1 節、7.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。	
第 8 回	プログラミング言語 C++ (4：処理の 3 構造と C++の構文 - for 文)	事前学習	配付資料 7.3.1 節～7.3.4 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。	
第 9 回	プログラミング言語 C++ (5：処理の 3 構造と C++の構文 - while 文)	事前学習	配付資料 7.3.5 節、7.3.6 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	講義中に試みたプログラムを完成させること。	
第 10 回	探索問題のアルゴリズムとその計算量 (1：逐次探索)	事前学習	配付資料 3.1 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 3.1 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 11 回	探索問題のアルゴリズムとその計算量 (2：2 分探索)	事前学習	配付資料 3.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 3.2 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 12 回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (1：選択ソート)	事前学習	配付資料 4.1 節、4.2 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料 4.2 節の問題を完全に解けるようにすること。	
第 13 回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (2：マージソート)	事前学習	配付資料 4.3 節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	再帰的考え方によく慣れること。	
第 14 回	整列問題のアルゴリズムとその計算量 (3：マージソートの実装)	事前学習	配付資料 4.3 節を再度よく読んでおくこと。	
		事後学習	マージソートのプログラムを完成させること。	
第 15 回	グラフアルゴリズム	事前学習	事前に配布する資料をよく読んでおくこと。	
		事後学習	配付資料に載っている問題を完全に解けるようにすること。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	コンピュータネットワークⅡ (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2322
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「コンピュータネットワークⅠ」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	現代のインターネットの通信手段の基礎である TCP/IP の仕組みを演習を通して学ぶ。また、ネットワーク上のサービス形態として、クライアントサーバモデルと P2P モデルについて学ぶ。		
8. 学習目標	プロトコルの観点から、世界的情報ネットワークであるインターネットの仕組みを理解することを目標とする。特にIPプロトコル、ルーティングアルゴリズム、TCPプロトコルをマスターする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解きます (例: ネットの構造: IXとISP、ARPの仕組み、IPプロトコル: マスクとサブネット、アドレス取得と変換: DHCPとNAT、TCPの仕組み)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小林 活・江崎 浩 (共同著)『インターネット総論』共立出版、2001 年。 【参考書】 A.S. タネンバウム (著)『コンピュータネットワーク第 4 版』日経 BP 社。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%		
12. 受講生へのメッセージ	本科目は専門用語が多く、それを覚えることは特に大切である。また数学的概念も若干使うが、ゆっくり説明していきますので、出された演習問題を丁寧に解いてください、また、たくさん質問してください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	復習: LAN と OSI の低層 (1~4)・インターネットの歴史・インターネットの構造 (ドメインの概念、アドレス形態)	事前学習	教科書 pp.5~64 を読んでおく
		事後学習	教科書 p.2 の図を覚える
第 2 回	インターネットの歴史と運営組織	事前学習	教科書 pp.14~15 を読む
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 3 回	インターネット層 (1) IP パケットの構造	事前学習	教科書 p.27 を読む
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 4 回	インターネット層 (2) IP アドレスの仕組み、サブネット、サブネットマスク	事前学習	教科書 p.31 を読む
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 5 回	インターネット層 (3) 演習 IP アドレスとサブネットマスク	事前学習	教科書 p.32 を読む
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第 6 回	インターネット層 (4) 演習 IP アドレスとサブネットマスク	事前学習	教科書 p.33 の図をよく理解する
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第 7 回	インターネット層 (5) 公的アドレスとプライベートアドレスの仕組み・ルーティングの基礎 演習	事前学習	教科書 p.34 の表を覚える
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第 8 回	インターネット層 (6) 演習 ルーティングの基礎	事前学習	教科書 p.15 の図をよく理解する
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第 9 回	インターネット層 (7) DHCP、NAT の仕組み	事前学習	教科書 pp.46~48 を読む
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 10 回	インターネット用語・演習	事前学習	今回まで教科書に線を引いた専門用語 (pp.1~48; 六十語程度) の意味を再確認
		事後学習	演習問題の回答例を熟読する
第 11 回	現在のインターネットの構造	事前学習	教科書 p.66 の図をよく理解する
		事後学習	ICANN の最新の組織図を調べる
第 12 回	トランスポート層 (1) TCP と UDP	事前学習	教科書 p.82 の図を見ておく
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 13 回	インターネットのアプリケーション 電子メールの仕組み (MUA と MTA)、ウェブ (http)	事前学習	教科書 pp.112~113 を読む
		事後学習	配布プリントを熟読する
第 14 回	総合演習 (1)	事前学習	配布プリントを全部読んでおく
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く
第 15 回	総合演習 (2)	事前学習	前回解いた演習問題を復習
		事後学習	本学の IP アドレス範囲とプロバイダを検索する

1. 科目名 (単位数)	算数科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2312
2. 授業担当教員	池野 正晴		
4. 授業形態	講義・演習・実習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	○ 「算数 (初等・小)」の単位を修得した後に履修することが望ましい。		
7. 講義概要	小学校算数の目標を踏まえて、算数の授業づくりのための具体的な方法を学び、実際学習指導案を作成する。作成した指導案を活用し、模擬授業を行い指導の実際を体験することで、さらにより良い授業作りのための方法について学んでいくとともに、授業を見る視点や授業の改善点を明らかにする手法などを学ぶ。		
8. 学習目標	(1)今求められる算数の授業に関して、現状を踏まえ、自分の考えをまとめることができる。 (2)求められる算数の授業を踏まえ、自らが理想とする算数の授業づくりのための学習指導案を作成することができる。 (3)模擬授業等を通して、配慮の必要な児童への対処方法や授業実践上の方法について理解し、説明することができる。 (4)算数の授業の評価の方法について理解し、説明することができる。 (5)模擬授業を通して、算数の授業の実践ができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【中間レポートの課題】</p> <p>○ 1年～6年の学年・単元を選択・特定し、児童が主体的・協働的に取り組む学習指導案 (問題解決的学習) を作成する。 ※2～3人1組のグループを編成し、協力して学習指導案を作成し、模擬授業をする。 ※学習指導案及び資料等については、各班で印刷することが望ましいが、印刷事情により困難な場合には、講義担当者への印刷依頼も可能。その場合は、事前提出 (事前送付) のこと。(メールアドレスは下記13を参照) (印刷、ホチキスとめ、穴あけ等可能)</p> <p>【期末レポートの課題】 (レポート試験)</p> <p>○ 「算数科の授業づくりで自分なりにたいせつにしていきたいこと (あるいは、模擬授業を通して学んだこと、考えたこと、活かしていきたいこと等)」についてレポートにまとめる。(観点・項目ごとにまとめる一見出しの工夫・設定、A4判横書き縦使用で2枚以上、試験日にミニ発表・提出) ※各グループ実施の模擬授業ごとの振り返りについての記述も歓迎。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>① 池野正晴『自ら考えみんなで創り上げる算数学習ー新しい時代の授業づくりと授業研究ー』東洋館出版社、2013年 (改訂第2版)。(「算数」(初等・小)で使用のものの継続使用)</p> <p>② 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社、2008年(「算数」(初等・小)で使用のものの継続使用)。</p> <p>② 池野他『文部科学省検定算数教科書』(平成26年2月検定済教科書、平成27年度より使用。1年～6年計6冊のうちの1冊。場合により、班ごとに6冊セットないし1冊を無料提供の場合あり。贈呈の予定定。希望学年の教科書購入斡旋も可能。)</p> <p>④ 『算数』(印刷冊子/授業用資料)。(「算数」(初等・小)で使用のものの継続使用)</p> <p>⑤ 『算数科指導法』(印刷冊子/授業用資料)及び「授業通信」(毎回)を配付する。</p> <p>⑥ パワーポイント・スライドの使用。</p> <p>【参考書】</p> <p>○ 池野正晴『新しい時代の授業づくり』東洋館出版社、2015年(第4版)。 ○ 古藤・池野他『豊かな発想をはぐくむ新しい算数学習ーDo Mathの指導ー』東洋館出版社、2010年</p>		
11. 成績評価の方法	1 授業への積極的参加 (貢献度、積極性、コメント等)	総合点の20%	
	2 学習指導案の作成	総合点の30%	
	3 模擬授業の実施	総合点の30%	
	4 課題レポート (期末レポート試験)	総合点の20%	
	*授業には全部出席すること。		
12. 受講生へのメッセージ	<p>*受講生に期待すること</p> <p>1 授業は前向きに積極的に受講すること。(教師になるという当事者意識をもって参加・参画する)</p> <p>2 授業中、進んで質問したり、発言したりすること。(話し合いの場に参加し、ともに考え、コメントする)</p> <p>3 学習指導案などの提出期限を厳守すること。(無断欠席は厳禁)</p> <p>4 模擬授業を受ける際は、児童役での参加と教師目線での記録・検討ができるようにする。児童になりきり、発言すること。(授業記録ノートの作成・活用)</p> <p>5 小学校の教室を想定し、班毎に座席を指定し、前につめて座ること。(班ごとの座席指定)</p> <p>6 模擬授業の指導案・資料及び講義用資料、「授業通信」等は、まとめてファイリングすること。</p> <p>7 社会人及び学生としてのマナーは守ること。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	プロローグ (本授業の概要を把握する) 模擬授業の計画・立案 (班編成、指導単元の決定等) 算数の授業づくり I (授業づくりの基本的流れ、問題解決型の授業過程など)	事前学習	「算数」で使用したテキスト①の既習部分について読み直し、自分なりに復習をしておく。
		事後学習	授業を振り返り、理解を深める。 班で、模擬授業で扱う単元の教材研究をする。 (単元の価値、指導の系統、指導計画、本時の決定等)
第2回	算数の授業づくり II	事前学習	「算数」で使用したテキスト②について読み直

	(問いへの気づかせ方, 多様な考えのまとめ方・生かし方, 練り合い・練り上げ指導の改善, 言語活動の充実など)	事後学習	し, 自分なりに復習をしておく。 授業を振り返り, 理解を深める。 班で, 模擬授業で扱う単元の教材研究をする。 (指導内容の検討, 教科書比較等)
第 3 回	学習指導案の作成の仕方 (仮説としての学習指導案, 学習指導案の作成の仕方, 板書計画の立て方など) 授業観察・分析の視点 (授業の見方フォーカス術, 指名・机間指導など)	事前学習	テキストⅢ 1-3 章 (pp.215-236) を読み, 自分なりにまとめておく。
		事後学習	授業を振り返り, 理解を深める。 班で, 模擬授業で扱う単元の教材研究をする。 (本時のねらい, 展開計画, 板書計画, 資料の検討等)
第 4 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える I [小学校 1 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 5 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える II [小学校 1 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 6 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える III [小学校 2 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 7 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える IV [小学校 2 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 8 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える V [小学校 3 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 9 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える VI [小学校 3 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 10 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える VII [小学校 4 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 11 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える VIII [小学校 4 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 12 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える IX [小学校 5 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 13 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える X [小学校 5 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 14 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える X I [小学校 6 年生]	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめる。
第 15 回	模擬授業 (問題解決的な展開) を通して考える X II [小学校 6 年生], エピローグ (まとめと今後の課題)	事前学習	担当班は学習指導案を作成し, その他は該当単元の教材研究をしてくる。
		事後学習	算数科の授業づくりで自分なりにたいせつにしたいことや学んだこと, 考えたこと, 活かしたいこと等についてレポートにまとめ, 試験日にミニ発表 (主要部の発表) し, 提出する。
期末試験 (レポート試験)			

1. 科目名 (単位数)	ジェンダー論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1331
2. 授業担当教員	堀 聡子			
4. 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「女は家庭のなかで子育てをすることに向いている」とか「男は外で仕事をするものに向いている」といった「女らしさ」や「男らしさ」は、長い間、身体の仕組みや本能などの生物学的要因によって決定されるものだと考えられてきた。しかし、20 世紀の後半から、「女らしさ」「男らしさ」の区別は、社会的・文化的要因と深く関係していると考えられるようになった。「ジェンダー」とは、このような社会的・文化的に形成された性別を意味し、「女らしさ」「男らしさ」の社会的な側面に注目した概念である。本講義では、「ジェンダー」という言葉の意味を理解した上で、現代社会の様々な社会現象・社会問題に対して、「ジェンダー」の観点から関心をもち、分析・考察し、表現する力を身につけることを目指す。			
8. 学習目標	本講義の目的を達成するために、以下の3つの到達目標を設定する。 1) 「ジェンダー」の概念とその意義を理解した上で、わかりやすく説明することができる。 2) 現代社会における家族、労働、家事、育児、介護等の諸問題に内在する「ジェンダー」に関心をもち、それぞれの課題について他の受講者の意見を尊重した上で議論することができる。 3) 本授業での学びの成果をもとに、「ジェンダー」の観点から、現代社会における様々な社会現象・社会問題を分析・考察し、自らの意見を適切な表現を用いて表現することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	3回のレポートを課す予定である。レポートでは、授業内容の理解を問うとともに、具体的な事例について、ジェンダー論の観点からどのような考察が可能になるかを考えてもらう。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】小平麻衣子・氷見直子『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』新水社、2006。 【参考書】高橋準『ジェンダー学への道案内』北樹出版、2009。 加藤秀一・石田仁・海老原暁子『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社、2005。			
11. 成績評価の方法	成績評価は、コメントカード：40%、レポート：20%×3 の配分で行う。毎回、配布するコメントカードには授業内容に関して考えたことなどを書いてもらいますが、その内容をその都度評価して加点しています。なお、欠席および遅刻は減点の対象となりますので、注意してください。			
12. 受講生へのメッセージ	ジェンダーという概念は、人間の意識や行動だけではなく、社会・文化のあり方を理解する上でも、有効です。本講義をきっかけとして、自分の身近にあるジェンダーについて、理解する視点を獲得してもらえればと思います。なお、授業中の私語、居眠り、飲食、携帯電話の使用を禁じます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション:ジェンダー論をどう学ぶか	事前学習	シラバスの確認	
		事後学習	配布資料を用いてジェンダー論とは何かについて振り返る	
第2回	男と女の違いを考える:社会・文化的性差としてのジェンダー	事前学習	教科書第1章 (pp.12-22) を読んでジェンダー概念について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いてジェンダー概念について振り返る	
第3回	人生の選択枝:結婚と性別役割分業	事前学習	教科書第2章 (pp.24-37) を読んで性別役割分業について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて性別役割分業について振り返る	
第4回	主婦という生き方	事前学習	教科書第4章 (pp.50-58) を読んで主婦という生き方について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて主婦という生き方について振り返る	
第5回	現代の結婚とジェンダー	事前学習	教科書第5章 (pp.60-71) を読んで結婚とジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて結婚とジェンダーについて振り返る	
第6回	男性学とジェンダー論:ジェンダー論は女性だけのものではない	事前学習	教科書第6章 (pp.74-83) を読んで男性学について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて男性学について振り返る	
第7回	マスメディアにおけるジェンダーと子どもの社会化	事前学習	教科書第8章 (pp.100-116) を読んでマスメディアにおけるジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第8回	メディア・リテラシーとジェンダー	事前学習	教科書第7章 (pp.85-98) を読んでファッション誌とジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いてメディア・リテラシーとジェンダーについて振り返る	
第9回	ファッション誌のジェンダー分析 I	事前学習	ファッション誌のジェンダー分析を行うにあたり、メディア・リテラシーについて復習しておく	
		事後学習	自分のグループの分析結果を振り返る	
第10回	ファッション誌のジェンダー分析 II	事前学習	分析結果の発表の準備を進める	
		事後学習	自分のグループ、他のグループの分析結果を振り返る	
第11回	現代社会における子育てとジェンダー	事前学習	教科書第9章 (pp.118-127) と第10章 (pp.130-140) を読んで子育てとジェンダーについて内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて子育てとジェンダーについて復習する	
第12回	セクシュアリティと「性」の多様性	事前学習	教科書第12章 (pp.157-165) と第13章 (pp.168-177) を読んで性の多様性について内容を確認しておく	
		事後学習	配布資料を用いて性の多様性について復習する	
第13回	性的マイノリティーの事例からジェンダーを問い直す I	事前学習	教科書第11章 (pp.142-156) を読んでセクシュアリティ概念について振り返る	
		事後学習	配布資料を用いて性的マイノリティーについて振り返る	
第14回	性的マイノリティーの事例からジェンダーを問い直す II	事前学習	性的マイノリティーについて自分で調べる	
		事後学習	ミニレポートの作成	
第15回	授業のまとめ	事前学習	これまでの配布資料を読み直して学習内容を振り返る	
		事後学習	授業全体の振り返り	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	システム設計演習 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT3316
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	科目「コンピュータサイエンスⅡ」と「システム設計」を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	ソフトウェア開発において、UML 図は主流だといえるが、いかに優れた設計ツールを使っても、それを実現する方法を知らなければあまり意味を成さない。 本科目では、UML で記述された図を元に、クラスやインターフェースを JAVA プログラミング言語で記述し、実際のプログラムの実装法を行う。		
8. 学習目標	JAVA 言語を学習し、開発環境として Eclipse を使って簡単なシステムを設計する。また、JAVA 言語と UML との関係をよく理解する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	設計ツール UML と非常に関連をもった JAVA を使って少しずつプログラムを組んで行く。順番に次の技術を学習し、それを使って応用問題を解く：クラスとオブジェクト・コンストラクタ、数値の取り扱い、文字列の取り扱い、オブジェクトの配列、ジェネリックプログラミングの練習、汎化と継承、抽象クラス、インターフェース。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 加藤 暢・樋口 昌宏・高田 司郎『オブジェクト指向 JAVA プログラミング入門』近代科学社、2008 年。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%		
12. 受講生への メッセージ	プログラミングは難しいが、ほとんどの場合はチームワークなので、グループ作業という形式で授業を進めることが多いのです。グループ内はよくディスカッションし、グループのメンバーが一人ひとり内容をよく理解したことを確認し合いながらこの作業を受けて下さい。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	Eclipse の使い方 プログラム “Hello World!” 教科書第 2 章	事前学習	教科書 pp.2~4 を読んでおく
		事後学習	オブジェクトの概念を復習する
第 2 回	プロジェクト “Rectangle” (1) 教科書第 2 章	事前学習	教科書 pp.18~21 を読んで、p.21 の図をよく理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 3 回	プロジェクト “Rectangle” (2) 教科書第 2 章	事前学習	教科書 pp.33~34 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 4 回	プロジェクト “Rectangle” (3) 教科書第 3 章	事前学習	教科書 p.40 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 5 回	変数と型、IEEE754 の話 教科書第 3 章	事前学習	教科書 p.50 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 6 回	キーボード入力と出力表示 (1) 教科書第 3 章	事前学習	教科書 p.53 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 7 回	キーボード入力と出力表示 (2) 教科書第 3 章	事前学習	教科書 p.54 の表を理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 8 回	型の変換 教科書第 3 章	事前学習	教科書 pp.57~58 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 9 回	色々な演算子 教科書第 3 章	事前学習	教科書 p.61 の表を理解する
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 10 回	配列の組み込み方 (1) 教科書第 4 章と第 5 章	事前学習	教科書 p.94 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 11 回	配列の組み込み方 (2) 教科書第 4 章と第 5 章	事前学習	教科書 pp.107~108 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 12 回	パッケージ、アクセス修飾子、カプセル化 教科書第 7 章	事前学習	教科書 p.139 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 13 回	継承とポリモーフィズム プロジェクト “Rectangle” (4) 教科書第 8 章	事前学習	教科書 p.173 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 14 回	抽象化 プロジェクト “Rectangle” (5) 教科書第 8 章	事前学習	教科書 p.190 を読む
		事後学習	今回組んだプログラムで、何度か定数を変えて再実行する
第 15 回	総合演習	事前学習	前回の演習問題を復習する
		事後学習	教科書 pp.218~219 のプログラムを自分で組み実行する (指定されたフォルダに保存のこと)。提出日は授業で伝える

1. 科目名 (単位数)	死生論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1332
2. 授業担当教員	鈴木 康明	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義を中心とするが主題によっては演習を行う場合がある。		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	Death Education デス・エデュケーション (生と死から学ぶいのちの教育) を枠組みに、死、生、性の事柄について多角的に考える。また、Grief Education グリーフ・エデュケーション (悲嘆教育) も内容に含み、死別の悲しみとそこのかかわりについても学ぶ。これらの学びを通して、人間の尊厳について、存在のかけがえなさについて、異質性と普遍性についてなどを理解することで、関係存在としての自らを見つめ直す。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 死、生、性、悲嘆を学ぶことで、一人一人の存在のかけがえのなさについて理解する。 2 あわせて、人間は単独では存在できない関係存在であることについて理解する。 3 これらから、生きていくことに対する肯定的な考え方の形成を目指す。 4 さらに、対人援助を志す「福祉、教育、心理」を学ぶ受講者のかかわり技術の形成を目指す。 5 ただし、技術は人間性により支えられるものであり、深く思索するパーソナリティの形成も目指す。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題：新聞、インターネットなどから「生命の尊厳」に関する情報の収集を行う。 課題：それについての自分の意見をまとめる。 →単元終了後にレスポンスシートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 鈴木康明著『生と死から学ぶ』北大路書房。 【参考書】 鈴木康明監修『いのちの本』学研。 若林一美著『死別の悲しみを越えて』岩波書店。		
11. 成績評価の方法	レポート 60%、レスポンスシート 20%、授業への参加度 20% なお本学の規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合、単位の修得を認めない。		
12. 受講生への メッセージ	バスカルは、「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかつたので、幸福になるために、それらのことについて考えないことにした」(『パンセ』中央公論社・世界の名著) と述べておられます。至言である。しかし、だからこそそれらについて受講者と考えてみたいのである。そのためには受講者一人一人の思考力、創造力、問題解決能力が必要であり、その形成を目指すし、次の事柄を遵守することを望む。 <ol style="list-style-type: none"> 1 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。 2 質問、発表を積極的に行い、主体性の形成に勤む。 3 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。 4 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。 なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であっても F 評価になることを理解しておく。 また教員は次のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。 3 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 5 受講者が上記のメッセージ 1～4 が守られない場合、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ・講義の目的と内容、評価について ・受講態度と自己教育力について →座席、私語 etc.	事前学習	受講動機を確認しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 2 回	(1) BEING 今在ること ・胎児条項と優生思想を中心に、いのちの「優劣」とはなにかについて考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp.1～11 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 3 回	・ダウン症と中絶を中心に、存在する「価値」について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p.12、資料 2 を読みそれぞれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 4 回	(2) NOW AND HERE 今を生きる ・生涯にわたる発達と取り上げ、「関係存在」としての人間を考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp.20～28 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 5 回	・「青年期」の課題からこれからの自らのあり方を考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p.31、資料 2 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 6 回	(3) PILOT 先を生きる人々 ・「老い」を理解し、高齢者へのかかわりについて考え	事前学習	教科書 pp.40～56 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	教科書 pp.29～31 を読みそれについての意見

	る。 →グループワーク 討議		をまとめる。
第 7 回	(4) SALAD BOWL とともに生きる ・異質性の課題から対人関係構築能力と「多文化共生」について考える →グループワーク 演習 (ある物語)	事前学習	教科書 pp.59～67 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 8 回	(5) BE THERE ホスピスから学ぶ ・悪性新生物と痛み的事柄から、「かかわり」の意味について考える。 →ペアワーク 話し合い	事前学習	教科書 pp.76～84 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 9 回	・ホスピス緩和ケアの活動からかかわりの意味について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 p.86、資料 2 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 10 回	(6) LOST AND GAIN 死別の悲しみ ・「悲嘆と哀悼」から、人間存在の意義について考える。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp.104～108 を読みそれについての意見をまとめる。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 11 回	・「グリーフケア」の理論と技術から、対人援助の意義について学ぶ。 →ペアワーク 演習 (かかわり技術)	事前学習	教科書 pp.94～103 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 12 回	(※) 東日本大震災から ・自らの「これからの生き方」について考える。 →スライド	事前学習	2011 年 3 月 11 日の行動を想起しておく。
		事後学習	グループワーク わかちあいの体験
第 13 回	(7) GIFT 賜物 ・デス・エデュケーションとグリーフ・エデュケーションの現状と課題について考える。 →グループワーク 情報交換	事前学習	教科書 pp.118～127 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 14 回	(8) WILL AND WISH ・臓器移植、「長寿願望」から人間の尊厳について考える。 →グループワーク 討議	事前学習	教科書 pp.136～144 を読み要点を整理しておく。
		事後学習	レスポンスシートによる振り返り。
第 15 回	(※) ダギーセンターから ・親を亡くした子どもの悲しみとかかわりについて考える。 →DVD →グループワーク 討議	事前学習	これまでの講義を通して考えたこと、気がついたことをまとめておく。
		事後学習	小論文作成

1. 科目名 (単位数)	肢体不自由教育 I (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2452 SNMP2452
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄			SCMP2452 SBMP2452 SSMP2352
4. 授業形態	講義、グループ討議		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、肢体不自由児の特徴を理解するとともに、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた支援や教育のあり方、指導計画の立て方、指導の実際、評価など、それぞれの留意点について論じる。また、重度重複障害や医療的ケアを要する児童生徒への医療との連携による教育のあり方、肢体不自由児の自立を目指した教育を実践していくうえで、将来的展望に立って、教師に求められる役割や、指導、支援のあり方について考察する。			
8. 学習目標	①肢体不自由児の発育・発達・健康特性について理解する。 ②特別支援教育の時代における肢体不自由教育について理解する。 ③重度重複障害児のニーズに応じた教育について理解する。 ④教育における医療的ケアを要する児童生徒への取り組みについて学ぶ。 ⑤自立活動の意義・重要性を理解し、児童生徒への取り組みについて学ぶ。 ⑥保護者への心理支援も含めた肢体不自由児の指導のあり方について学ぶ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・グループ課題 自立活動の「個別の指導計画」と指導案を作成する。 ・レポート課題 特別支援教育における肢体不自由教育について論述する。2400字			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 配付資料等を用いて授業を進めていく。 【参考書】 『肢体不自由教育ハンドブック』全国心身障害児福祉財団 日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』慶應義塾大学出版会、2011 年			
11. 成績評価の方法	成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。 1. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・確認テスト・私語・発表) 総合点の 80% 2. レポート 総合点の 20%			
12. 受講生への メッセージ	・肢体不自由教育は、児童生徒の生命を輝かせる教育であり、真摯な態度で学習に臨む。 ・積極的に意欲的な授業への参加を期待する。			
13. オフィスアワー	第 1 回の時に知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	肢体不自由のある子どもの状況	事前学習	心理・生理・病理のワークシートから肢体不自由とは何かを復習しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 2 回	肢体不自由教育の現状と仕組み	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 3 回	肢体不自由教育のあゆみと「特別支援教育」 における肢体不自由教育	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 4 回	肢体不自由教育の目標・教育課程	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 5 回	「個別の指導計画」に基づく支援	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 6 回	自立活動① 自立活動とは 健康の保持及び心理的安定とその具体的指導	事前学習	自立活動とは何かについて確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 7 回	自立活動② 人間関係及び環境の把握とその具体的指導	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 8 回	自立活動③ 身体の動きとその具体的指導	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 9 回	自立活動④ コミュニケーションとその具体的指導	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 10 回	自立活動⑤ 身体の動きと具体的指導	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 11 回	個別の指導計画と指導案づくり①	事前学習	個別の指導計画や指導案の作成ができるように、児童の実態や自立活動の 6 区分のどれをするか決めてワークシートにまとめる。	
		事後学習	参考資料をもとに、個別の指導計画や指導案を作成していく。	
第 12 回	個別の指導計画と指導案づくり②	事前学習	グループ内での検討すべきところを決めてワークシートにまとめる。	
		事後学習	他のグループのものを読んで、検討すべき箇所を明確にして、ワークシートにまとめる。	
第 13 回	個別の指導計画と指導案づくり③	事前学習	グループで最終検討をして、仕上げられるようにする。	
		事後学習	グループで最終校正をして、個別の指導計画と指導案を提出する。	
第 14 回	「個別の教育支援計画」に基づく支援と地域 との連携	事前学習	配布プリントを読み内容を確認しておく。	
		事後学習	レジュメの重要箇所を確認し、ワークシートにまとめる。	
第 15 回	外部講師による講話 「肢体不自由教育の実際」	事前学習	15 回のワークシートを振り返っておく。	
		事後学習	講義全般を通じてのまとめや感想をもとに、課題レポートを提出する。	

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1101
2. 授業担当教員	田中 良幸		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>日常の学習姿勢が大切です。日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通して、今、子どもとの生活と家庭にどのようなことが起きていることに関心を持つことが期待されます。課題図書購読を学期初めから長期休みをはさんで求めます。各課題図書についてレポート提出が必要です。その他、適宜、レポートの提出を求めます。本シラバスの「学習課題」欄の内容は実施する際、必要なスタイルを習得できるようにしてください。随時、講義内容に関しての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、積極的な関わりを期待します。</p> <p>授業計画は進度等によって変更もあり得ます。レポートはこちらからの書式や指示、説明に従って作成されることが期待されます。締切を厳守して提出すれば加点され、独自性や考察の適切さ等でさらに加点されます。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第6版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への貢献度 20%、レポート 20%、小テスト 20%。また、長期休みに課題本に関するレポート提出 20% を求めます。期末に到達度試験 20% を行います。グループ活動でのディスカッションや発表への積極的な取り組み、真摯な授業態度は加点対象となり、満点を 100% として評価を付けます。居眠り、私事、私語等への改善が見られない場合は注意書、警告書を発行し、中途退出を求めることがあります。</p> <p>始業時間開始以降、社会的にやむを得ないと認められる遅延(人身事故・電車故障・災害など)の場合は遅延証を持参のうえ個別に相談すること。遅刻を合算して欠席とみなすことはないが、4 分の 3 以上の出席が必須であるという本学の規程は厳守してください。</p> <p>レポートでのコピー、試験時のカンニング等の不正行為が発覚した場合は無条件で F 評価とします。</p> <p>理解確認カードへの記入を必要に応じて適宜実施する。授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で授業内容について考察できているか、またそれをわかりやすく論理的に読み手に説明できているかで評価します。</p> <p>小テスト、期末テストは、穴埋め選択形式と記述式を組み合わせて行います。例：穴埋め 1 問 2 点×20 問 40 点、記述問題 60 点で 100 点満点です。基本的かつ重要な項目を中心に問うが、授業では教科書を読んでいくことはしないので、自主的に教科書を精読してください。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「児童福祉論」は「子ども家庭福祉論」という科目名で最近では呼ばれることがある。なぜ、「子ども」となり、そこに「家庭」が付くようになったのだろうか、また、グローバル時代の今日、どのような視点から子どもと家族を理解する必要があるのだろうか。国や家庭によって子どもの課題は変わることがある。では、何は同じ対応でよくて、どこを変える必要があるのか等を探求をし、考えてみる。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から出発します。様々な人々がそれぞれ自分たちの社会規範や価値観を抱いて同じ社会を構成する時代となった今日、正解のない事柄について授業を通して一緒に考えていきましょう。</p> <p>必要に応じて、映像を活用したり、レジュメを用意しますが、欠席した回のレジュメが欲しい場合など、気軽に研究室に来室してください。</p>		
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスを熟読しておく。
	【課題図書の提示 1】グループ活動導入	事後学習	「子育て」と「育ち」に対するイメージを言語化し、書き出す。
第 2 回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか 映画鑑賞 1	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や

			地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。
第 3 回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況（虐殺・虐待・誘拐等） 映画鑑賞 2	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子どもの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第 4 回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本 グループ活動	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第 5 回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第 6 回	現代社会と子ども・家庭	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する ⇒課題をレポートにまとめる
第 7 回	障害のある子どもと家庭支援 グループ活動	事前学習	「ヒルコ」「福助」という言葉について意味を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第 8 回	子ども福祉関連法・制度 1	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第 9 回	子ども福祉関連法・制度 2 児童虐待防止法の変遷と課題 映画鑑賞 1	事前学習	児童虐待について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第 10 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健 1 映画鑑賞 2	事前学習	児童福祉法を読んで、項目を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第 11 回	子ども福祉関連法・制度と関連機関：福祉・保健 2	事前学習	社会福祉六法体制の内訳は何か、書き出しておく。
		事後学習	課題図書の提示
第 12 回	援助活動の実際 1	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく。
		事後学習	学生前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第 13 回	援助活動の実際 2	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第 14 回	グループによる課題報告発表	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第 15 回	まとめ	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全 15 回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論Ⅱに向けて準備をする。
期末試験として期末に到達度試験 20%を実施します			

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2303 SNMP2303
2. 授業担当教員	鈴木 雄司		SCMP2303 SBMP2303 SJMP3101
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容ごとにグループでの討議内容をまとめて提出する。 2. グループごとに研究テーマを設定する。テーマに基づき調査を行い、まとめをした上で発表する。 3. レポートの課題は、グループで研究した内容に自己の見解を加え、要約したものとする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】特に必要としない。</p> <p>【参考書】</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第6版 中央法規出版。</p> <p>東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート、提出物 30%</p> <p>グループでの活動 30%</p> <p>授業参加、態度 40%</p> <p>授業での積極的な発言や提案、発表が加味される。特に、グループで協力して作業を進めることを重視する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	講義・グループ討議の形態から、グループを単位とした調査・研究・発表といった授業方式になります。各自の研究姿勢が大事です。また、全員での取り組みが求められますので、欠席、遅刻には注意してください。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◎オリエンテーション、授業の進め方についての説明、グループ分け	事前学習	シラバスに目を通し、講義概要、学習目標等について理解を深めておく。講義用のノートと資料を綴じるファイルを用意する。
		事後学習	オリエンテーションで説明された内容を確認しておく。配布された資料をファイルに綴じる。
第2回	少子高齢社会と次世代育成支援について 事例研究 グループで研究分野を検討	事前学習	教科書の第1章「現代社会と子ども家庭」で学んだところを復習し、児童家庭福祉に関連する事例について用意しておく
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで検討する研究分野を準備しておく。
第3回	現代社会と子ども家庭の問題 事例研究 グループで研究テーマを検討	事前学習	子どもをめぐる問題について、自己の体験を基に整理しておく。子どもの発達について理解を確認しておく。
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで検討するテーマを準備しておく。
第4回	子どもの育ち、子育てのニーズ 事例研究 グループで研究テーマについて決定	事前学習	子どもの発達の特徴から生まれるニーズについて理解を深めておく。児童家庭福祉論で学んだ資料を読み直しておく。
		事後学習	事例研究を復習するとともに、グループで決定したテーマについて関係する資料を集めておく。
第5回	児童の権利に関する条約 条項の検討 グループで研究テーマについて発表	事前学習	児童の権利に関する条約について事前に学習し、大学生活における“権利”の具体化について考察する。グループでの発表の準備に備える。
		事後学習	児童の権利に関する条約について、各条項の意味について確認をしておく。グループでの研究について準備を進める。
第6回	グループでの交流及び討議	事前学習	グループでの発表と意見交換に備えて、グループで資料

			を準備し、確認を取っておく。
		事後学習	各グループでの発表を整理してまとめておく。他のグループとの違いについてノートにまとめておく。他のグループから学んだこともメモしておく。
第 7 回	事例研究① 情報のまとめ方 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究と情報のまとめ方について復習をする。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 8 回	事例研究② 情報の構造化 マインドマップの学習 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究と情報の構造化、マインドマップについて復習をする。実際にマインドマップを作り、学習に生かせるようにする。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 9 回	事例研究③ プレゼンテーションの方法 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習する。実際にパワーポイントを作成して、自宅で練習をしてみる。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 10 回	事例研究④ 3 分間スピーチ グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。3 分間スピーチの原稿を作成し、練習をしておく。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習する。3 分間スピーチの内容を分析しておく。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 11 回	事例研究⑤ レポートの書き方 確認 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。レポートの書き方について 2 年生の時の復習を行う。
		事後学習	事例研究とレポートの書き方を復習する。実際に 1000 字のレポートを作成してみる。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 12 回	事例研究⑥ 授業論集の作成準備 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。授業論集の作成にむけて各グループの意見をまとめておく。
		事後学習	事例研究について復習する。授業論集の原稿作成を開始する。また各グループでの発表についてコメントをノートに記しておく。
第 13 回	事例研究⑦ 最終発表 グループによる学習・調査・発表 (児童福祉法、母子保健、保育、障害・難病、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭、児童の社会的養護サービス、非行・情緒障害、児童虐待対策、子どもへの相談援助活動)	事前学習	各グループが発表に向けて、情報収集とまとめを行い、資料作りをする。施設訪問をする場合は、事前のアポをきちんと取る。最終発表にむけて意見を準備しておく。
		事後学習	各グループが発表した内容を整理して、知識を確認しておく。翌週の授業で全体討議する内容をまとめておく。
第 14 回	グループによる研究授業論集の作成	事前学習	課題レポートとは別に授業論集の原稿を作成しておく。
		事後学習	授業論集を読み、授業全体で学んだことを確認する。特に、グループで作業した内容については、今後に生かせるように分析を加えておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまで学習してきたことを振り返り、最後のまとめの討議に備える。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、ノートにまとめ、資料はすべてファイリングしておく。

1. 科目名 (単位数)	児童心理学 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP1110
2. 授業担当教員	大澤 靖彦		
4. 授業形態	講義、討議、発表、実習等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学概説」または「心理学入門」の単位を修得した後に履修することが望ましい（児童期までの心身の発達を理解することで、次年度の発達心理学の授業につながる）。		
7. 講義概要	児童心理学の研究手法と主要な概念について紹介し、身体的発達・認知的発達・社会的発達・人格的発達などの諸機能の発達の特徴を概説する。さらに、子ども個人の発達という枠組みではなく、家族、友人、環境としての学校、文化という広い枠組みでとらえ、どのような支援が必要なのかを学ぶ。また、発達を阻害する要因についても学び、その支援についても考究していく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童期までの発達に関する基本的な概念、用語を理解し、説明することができる。 2. 各発達段階で生じる身体的、心理的变化を理解し、説明することができる。 3. 発達上の主な問題について理解し、その支援について自分なりの考えを整理する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達における遺伝と環境について述べなさい。 *これまでの研究による知見から、発達における遺伝の重要性、環境の重要性について考究する。 2. 愛着の形成について述べなさい。 *人間の発達の基礎となる愛着がどのように形成されるのかについて整理する。 3. 指定した教材を基に前思春期の友人関係について述べなさい。 *前思春期の友人関係（ギャング集団。チャムシップ）を通して、社会性を身に付けたり親の影響から少し距離を取り、自分らしさを見つけ始めることについて考究する。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 塚田紘一『子どもの発達と環境』明星大学出版、2010年。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2013年。		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加意欲および態度 30%、レポートの提出・評価 30%、第 23～28 回の演習における意欲・態度 10%、期末試験 30%。 ・本学規定により、3/4 以上の出席を求めます。 ・遅延の場合は証明書を提出すること。 		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児については、イメージしにくいところもあるが、自分自身の経験と照らし合わせたり、日常生活において子どもの観察を行って学習目標を達成してほしい。 ・積極的な態度で参加していただきたい。 ・不明な点は、授業時間のうちに質問していただきたい。 ・授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁とする。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1・2 回	心理学の系譜と発達心理学ー心理学全体の中の発達心理学の位置づけを理解するとともに、援助職や教育の中で子どもの発達を知ることがなぜ重要なのかについて考究する。	事前学習	事前に教科書を通読し、授業に臨む。
		事後学習	配布資料を読み込み、心理学の体系の中での児童心理学の位置づけについてまとめる。
第 3・4 回	一本テキストの概要と発達の基本ー発達の基本的な基本概念（生理的早産、レディネス、臨界期、発達の方向性など）について理解するとともに、発達に及ぼす遺伝と環境の要因について整理する。	事前学習	教科書 pp.4 - 22 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	レポート課題に着手する。
第 5・6 回	子どもの研究法と発達初期の基本的な能力ー子ども特に乳幼児は無力な存在として捉えられていたが、研究法が開発されると様々な能力をもっていることが明らかになった。その発達初期の能力について考究する。	事前学習	当日は、別紙での対応になるので、前回の復習をしっかりとしておく。
		事後学習	赤ちゃんは無能ではなく、さまざまな能力をもっていることについて整理しノートにまとめる。
第 7・8 回	からだと運動の発達ーからだの発達は、物理的に身長や体重の増加だけでなく、運動能力の発達と関連し、さらにこころの発達に影響することを理解するとともに、運動能力の低下や発達のピークが低年齢に変化したことによる弊害等について考究する。	事前学習	教科書 pp.48 - 65 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	運動能力の低下について、どのような要因が考えられ、低下を防ぐためにはどのような取り組みをしていけばよいのかについて考究しノートにまとめる。
第 9・10 回	ことばと知能の発達ーことばはコミュニケーションの道具だけでなく、ことばの発達により、物事を捉える力や自分の行動をコントロールする力の発達にも影響を及ぼすことを理解する。	事前学習	教科書 pp.68 - 95 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	思考の発達について、整理したうえでレポート 2 に着手する。
第 11・12 回	遊びを通して発達する (演習)ー子どもは遊びを通して発達していく。その遊びを促す上で効果のあるソーシャル・スキル・トレーニング (SST) と対人関係ゲームを体験し、その考え方を理	事前学習	現代の子どもは、育ちやすくなったか、育ちにくくなったかについて考えをまとめておく。
		事後学習	配布資料を熟読して、子どもの発達に及ぼす

	解する。この授業は第 21～28 回につながります。 －幼児期の認知発達－ 乳児期の感覚を通して世の中を理解していた段階から、幼児期の少しずつ高度な知的活動へと変化していく様子について理解する。		遊びの効能について考察する。
第 13・14 回	－創造性と知的発達－ 知的な発達が進み、子どもにとっては学力と言う課題が出てくる。そこには記憶など高度な思考の発達が関係することを理解する。	事前学習	教科書 pp.96－120 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	知的な発達と問題解決能力について考究しノートにまとめておく。
第 15・16 回	－動機づけ－ 知的発達を促進するためには「やる気」が重要になる。この「やる気」を促すもの、「やる気」を削ぐものについて理解する。	事前学習	教科書 pp.122－141 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	子どもの「やる気」を高めるために、大人はどのような原かけをすれば良いのかについて考究しノートにまとめる。
第 17・18 回	－自己概念と友人関係－ 知的発達が進むと自分自身についての認識が深まる。そして人間関係が広がるとますます自分と他者の違いがわかり自己理解が深まる。この人間関係の基本となるのが愛着であることを理解する。	事前学習	教科書 pp.144－176 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	人との関係から我々は自分自身を知る。そして、人との関係の基本になるのは愛着であり、その愛着は発達とともに対象や性質を変えていくことを考究し、ノートにまとめる。
第 19・20 回	－社会性の発達－ 前回までの人間関係から、相手のために何か行動を起こしたいという向社会的行動や道徳性の発達にその権的变化がみられる。そうした社会性の発達とそれを促す教育者の態度について理解する。	事前学習	教科書 pp.178－195 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	社会性の発達に及ぼす養育者の態度について整理し、ノートにまとめる。
第 21・22 回	－性役割－ 児童期の社会性の発達とともに、社会の中の自分の役割を意識するようになる。役割の中でも性役割の認識は、青年期の大きな課題であるアイデンティティの確立にも影響を及ぼすことを理解する。	事前学習	教科書 pp.202－213 を通読し、重要な箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	自分の子どもを性役割の面から見たとき、どのように育てたいかについて考究する。
第 23～28 回	－SST 模擬授業－ 育てるカウンセリングとしての SST（「あいさつ」「自己紹介」「上手な聴き方」「質問」）について小学校中学年を想定した分かりやすい授業を実施する。 *受講者数によってプログラムを一部変更します。	事前学習	発表の準備をする。
		事後学習	グループ発表者は、うまくできたこと、今後の課題について整理し、発表していない者は、他のグループの発表から良いものを取り入れて、自分の発表に臨む。
第 29・30 回	模擬授業の振り返り まとめ及び補足	事前学習	子どもの発達に及ぼす人間関係について整理する。 教科書 pp.218 - 234 に目を通し、重要箇所にアンダーラインを引く。
		事後学習	子どもの発達を促進する人間関係についてあらためて考察する。さらに、グループ活動を促進するためにはどのような配慮が必要なのかについて整理する。
期末試験 (授業内で提示した問題・課題等から出題する)			

1. 科目名 (単位数)	児童文化論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3239 GELA2326
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義、演習、製作、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	健全な子育て及び保育、教育に欠くことが出来ない児童文化について、歴史的変遷を整理し、子どもを取り巻く環境をメディアや遊び空間・時間・仲間などの視点から捉える視点を育て、その意義や課題を理解する。また、子どもの遊びについて伝承遊びやわらべうたなどの実際を学び、保育者が遊びの伝承者としての役割を持つことを理解するとともに、その指導力を育てる。さらに、子どもの豊かな想像性を育む児童文化財(素話、絵本、紙芝居、エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなど)について理解し、製作と発表を通して、技法の基礎を習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育、教育における児童文化の意義、価値についての認識理解を図る。 2. 児童文化の種類とそれぞれの価値及び今日的課題についての知識理解と関心を深める。 3. 伝承遊びとその意義の理解とその指導力を育てる。 4. 実技を通して、素話、ストーリーテリング、紙芝居、絵本の読み聞かせ等の共通点と相違点を考え、その価値の理解と実際の技法の基礎を習得する。 5. エプロンシアター、パネルシアター、ペープサートなどについて、製作と実技を通して、実践力を高める。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>アサイメント(宿題)は、各授業毎に提示する。</p> <p><期末課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期及び児童期に経験させたい遊び等の児童文化を具体的に示し、その理由、意義及び具体的な経験のさせ方、指導法を2000字以上の文章に書いて提出する。 2. 絵本、紙芝居、エプロンシアター・パネルシアターづくり及び遊園地の設計のうちの一つを選び、実際に制作し提出すると共に、その製作過程の簡単な説明と制作した児童文化に対するあなたの思いを1000字以上の文章に書いて提出する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 川勝泰介他編著『ことばと表現力を育む「児童文化」』萌文書林。</p> <p>【参考書】 原昌・片岡輝『児童文化 第2版』建帛社。 武田京子編著『子どもの生活と文化』樹村房。 仙田満『子どもと遊び』岩波新書。 野上暁『子ども文化の現代史—遊び・メディア・サブカルチャーの文化の奔流—』大月書店。 かこさとし『子どもと遊び』大月書店。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度点 20% (マイナス点・・・私語、居眠り、宿題未提出及び提出遅れ) (プラス点・・・質問、発表、討論実演等への積極参加、協力的なグループ活動) 2. 授業後の意欲的なコメント記述 20% 3. 期末課題 60% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>子どもの文化である児童文化は、子どもの誕生から乳幼児、児童期を通して子どもの健全な成長にとって欠くことのできない栄養源であり環境である。即ち、肉体的生理的な成長、言葉、情緒、知能および社会性や表現力を育てるのに欠くことのできない栄養源的材料なのである。また、保育者の視点からは、養護保育における素材であり管理材として機能を果たすのである。</p> <p>しかし、大人社会はその重要性を十分認識せず、軽視したりしてしまう。その結果、大切な子どもの文化体験が欠落したり貧弱になったりして、その結果が、その後の児童期や前思春期の成長に影を落としていると指摘されている。さらに、子どもの文化があまりにも、商品経済や情報メディアの対象となり、健全な子ども文化を蝕んでいる現象が問題になっている。</p> <p>それだけに、保育、教育を志す諸君には、豊かな子ども文化の理解者、提供者として、さらに、創作者としての資質、知識技能の基礎を持った人になってほしいと願っている。この授業では、単なる知識の理解にとどまることなく、喜びを感じて児童文化を体現し指導できる人になるように、実演、制作を大切に予定である。そのためにも、以下のことをお互いを守るように努力しよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前事後課題及び提出課題には誠実に取り組み、授業に積極的に参加すること。 2. 将来保育や教育に関わる仕事を志す学生として、私語や不適切な眼差し等によって他の学習者の邪魔をしたり、人権や人格を傷つけたりすることのないように努めること。 3. 質問、話し合い、共同制作、感想・作品・宿題等の発表を通して積極的に授業に参加し、自分のためだけでなく他の人に役立つ役割を果たすこと。 4. 指導者の私は、授業の準備に努め、授業の開始終了時刻を厳守し、学生の質問や考えを誠実に受け止め答えるように努力するので積極的に話しかけてください。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	シラバスの確認。特に受講生へのメッセージと成績評価の仕方及び期末提出課題を確認する。 自分の幼児、児童期の記憶に残る児童文化体験を整理しその意味価値を検討する。	事前学習	各自の持つ子ども文化のイメージ及び思い出を思い出し発表できるようにすると共に今後の学習に対する希望や夢が語れるようにする。
		事後学習	乳幼児期の児童文化の種類や体験を表に整理して価値や意義を考えておく。

第 2 回	教科書第 4 章「子どもの育ちと児童文化」の説明、論述文を通して乳幼児の成長発達過程における児童文化環境の概括的な理解を自分の体験と照らして考察する。	事前学習	教科書 pp.52～61 を読み重要な箇所や疑問箇所にアンダーライン引いておく。
		事後学習	現在の乳幼児の児童文化の具体的な活用の様子を調べたり観察したりして報告できるようにする。
第 3 回	保育所保育指針、幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領等に見られる児童文化の活用や意義に関して概観して、これからの学習課題や研究課題を考える。	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領を通読したり小学校学習指導要領や劇等の活動を思い出したりして報告できるようにしておく。
		事後学習	児童文化の乳幼児に限らず児童期における存在や価値について見通して文章化する。
第 4 回	教科書「児童文化財を保育に生かそう」の第 1 章「わらべ歌・あそびうた」を実演したり、身につけている「わらべうた」や「あそびうた」紹介したりする共に、オリジナルの「絵描き歌」や「あそびうた」を創作する。	事前学習	知っている「わらべうた」や「あそびうた」を報告、実演できるようにしておく。
		事後学習	実演した「わらべうた」「あそびうた」に習熟するように練習する。
第 5 回	第 2 章「ことばあそび」の教材を通して小学校への接続となる言葉学習の基本教材を理解し親しむようにする。色々な「いろはカルタ」作りを通してオリジナルの「いろはカルタ」作る体験をする。	事前学習	教科書 pp.93～101 を通読し感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	テーマを決めて、幼児用、又は、児童用の「いろはカルタ」を完成させて後日提出する。
第 6 回	教科書の第 5 章「紙芝居」、第 6 章「シアタースタイルの児童文化財」を参考にして、保育園及び幼稚園等でよく使用され、活用されている、用具、教材制作の目標を決定し計画書を作る。	事前学習	教科書 pp.144～181 通読してこれから制作したい児童文化用具を見通しておく。
		事後学習	制作したい用具に関する、文献、図書、情報及び材料を集め始め、制作の計画書を作る。
第 7 回	用具制作の計画の中間発表をし、励まし合う。第 3 章「おはなし」を通読して、「おはなし」の乳幼児への与え方、その意義価値を理解し、語りや「素話」の練習をする。	事前学習	制作の計画書を書いて発表できるようにしておく。教科書 pp.106～114 を通読し感想意見が言えるようにしておく。
		事後学習	作品を決めて「素話」が出来るように練習をしておく。
第 8 回	全員が練習してきた「素話」みんなの前で実演し感想を述べ合う。	事前学習	「素話」を練習して発表できるようにする。
		事後学習	「素話」の保育教育上の価値や意義に関して自分なりの考えを文章化する。
第 9 回	「ストーリーテリング」に関する説明文を読みその具体的な姿の概略を知り、保育教育上の価値意義を話し合う。事前に用意した物語の暗唱、ストーリーテリングの練習を始める。	事前学習	「ストーリーテリング」や「おはなしのローソク」等に関する知識や体験が発表できるようにしておく。
		事後学習	選んだ作品のストーリーテリングの練習をして発表できるようにしておく。
第 10 回	ストーリーテリングの発表会をする。	事前学習	ストーリーテリングの練習をしておく。
		事後学習	自分のストーリーテリングに関して反省評価すると共に今後の課題に関して文章化。
第 11 回	発達段階にあった絵本のリスト作りをグループで行う計画を立てる。	事前学習	様々な絵本のリストを収集しリスト作りの準備をする。
		事後学習	分担した発達段階の絵本のリスト作りのために出来るだけ多くの絵本を読み検討する。
第 12 回	現在の乳幼児が見ているテレビ、映画、ビデオ及び雑誌を調べてその傾向と問題点を検討する。	事前学習	乳幼児が見ているテレビ番組、雑誌等実際を見て内容や感想が発表できるようにしておく。
		事後学習	子どもたちの見ているテレビや雑誌に関して保護者や保育者及び一般社会の人たちの感想意見を調べ検討し文章化する。
第 13 回	現在乳幼児用に作られている玩具の様子を知ると共に玩具の歴史的の視点から比較して検討する。	事前学習	自分の乳幼児の頃に使った玩具を思い出したり現在の乳幼児が使っている玩具を観察したりして報告できるようにする。
		事後学習	保育所や幼稚園での玩具の実態や活用の考えを調べ文章化する。
第 14 回	子供向けの公園や保育園及び幼稚園の園庭の構成や遊具を調べ、子供たちのための園庭や公園の設計つくりをする。	事前学習	自分の経験で好きだった公園や園庭の構成や遊具を思い出して文章化しておく。
		事後学習	園庭や公園の構成や遊具の基本を知ると共に自分の考える設計図を作成する。
第 15 回	期末課題 2 の制作物の発表。 *授業評価	事前学習	期末課題 2 の制作を完成させ提出できるようにすると共に演じる練習をしておく。
		事後学習	ボランティア等で制作物を活用して児童文化(財)の意義価値を体験する。

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3431 EDEL3316
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「生きる力」の育成を主たるねらいとした学習指導要領の改訂に基づき、小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年（3 年生以上）の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして 1 単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間レポート課題：講義中に作成した「学習指導案」 ※ 指定の用紙にて作成 2 期末レポート課題：講義中に作成した「単元計画」と「知識の構造図」 ※ 指定の用紙にて作成 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008 年。 教科書『新しい社会 5 年上・下』東京書籍。 教科書『新しい社会 6 年上・下』東京書籍。</p> <p>【参考書】 教科書『新しい社会 3/4 年上・下』東京書籍。 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』帝国書院。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 レポート、模擬授業、討論：総合点の 60% 2 振り返りシート：総合点の 20% 2 日常の授業への出席・参加態度：総合点の 20% ・遅刻、早退それぞれ 3 回で欠席 1 回とする。 ・レポートは期日厳守で提出する。 		
12. 受講生への メッセージ	<p>小学校の社会科は、地域社会や我が国の国土、歴史などに対する学習を通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、社会との望ましいかかわり方、社会のなかでどう生きるのかを学ぶ教科である。しかし、いま子どもたちの「公意識」の欠如が指摘され、主体的な社会参画の必要性が大きな課題となっている。そこで教科の役割について改めて考え、社会科指導の充実を図ることができるよう本科目では、次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緊張感と集中力をもって受講する。 2 質問、発表は積極的に行い、主体的に取り組む。 3 欠席、遅刻、早退はしない。 4 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などは慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。 3 模擬授業、発表など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4 受講者の質問には誠実に対応する。 		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 講義概要の説明 社会科で求められる力とは グループづくり	事前学習	『学習指導要領解説 社会科編』の総説、改訂の要点を 通読する。
		事後学習	社会科で求められる力をまとめることができる。
第 2 回	社会科の授業づくり 1 単元の学習過程プランニング	事前学習	プランニングのための単元を考えてくる。
		事後学習	各自選択した第 5 学年と第 6 学年の単元についての学習 過程を問題解決的な授業づくりの観点で考えること ができる。
第 3 回	社会科の授業づくり 2 学習指導案のつくり方	事前学習	学習指導案について、実習等で入手したものを持参する。
		事後学習	社会科における一般的な学習指導案の形式を理解する ことができる。
第 4 回	社会科の授業づくり 3 社会科における指導技術 社会科における言語活動	事前学習	授業における指導法をまとめておく。
		事後学習	社会科における指導法、指導技術及び言語活動について まとめることができる。
第 5 回	社会科の授業づくり 4	事前学習	学習指導案の対象となる単元、項目を考える。

	学習指導案づくり 1	事後学習	導入からまとめまでの学習過程、評価、資料などを子どもの視点に立ってまとめることができる。
第 6 回	模擬授業 1 第 5 学年上「我が国の国土」 第 5 学年上「我が国の農業と水産業」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。 中間レポートを提出する。
第 7 回	模擬授業 2 第 5 学年下「我が国の工業生産」 第 5 学年下「情報化した社会」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 8 回	模擬授業 3 第 6 学年上「縄文のくらしから室町文化」 第 6 学年上「戦国の世から戦後の日本」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 9 回	模擬授業 4 第 6 学年下「我が国の政治の働き」 第 6 学年下「世界の中の日本の役割」	事前学習	模擬授業を準備する。
		事後学習	模擬授業を実践する。評価表にて評価する。
第 10 回	模擬授業の相互評価 模擬授業から生まれた課題等についての 意見交換	事前学習	模擬授業の評価をまとめておく。
		事後学習	これまで実践してきた模擬授業を振り返り、批評会を行う。また学習指導案のあり方をまとめることができる。
第 11 回	知識の構造図 1 知識の構造図とは	事前学習	知識の構造図について調べておく。
		事後学習	知識の構造図作成のねらいをまとめることができる。
第 12 回	知識の構造図 2 知識の構造図作り	事前学習	どこの単元、項目で知識の構造図を作成するのか考えておく。
		事後学習	知識の構造図を教科書等参考として作成することができる。 期末レポートを提出する。
第 13 回	問題解決的学習 1 問題の設定 予想、学習計画	事前学習	問題解決的学習の意義について調べておく。
		事後学習	問題解決的学習の導入時のあり方について考えることができる。
第 14 回	問題解決的学習 2 予想と学習計画 調べ学習とまとめ	事前学習	問題解決的学習の学習過程を調べておく。
		事後学習	問題解決的学習の展開、まとめのあり方について考えることができる。
第 15 回	社会科指導のまとめ 新学習指導要領への展望 講義のまとめ	事前学習	中教審の動向を調べておく。
		事後学習	審議中の新学習指導要領の動向を知ることができる。 講義をまとめることができる。

1. 科目名 (単位数)	社会科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL3316
2. 授業担当教員	福島 裕		
4. 授業形態	講義、討議、レポート、模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	教育実習前に履修しておくことが望ましい。		
7. 講義概要	「生きる力」の育成を主たるねらいとした学習指導要領の改訂に基づき、小学校社会科の指導法に焦点化して、実践的な指導力を身に付ける。そのために、まず小学校社会科及び各学年（3 年生以上）の目標と内容について、確実に理解する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に検討する。さらに、これらの指導計画の学習をもとにして 1 単位時間の指導案づくりと模擬授業を行う。そして、これらの学習を通して、児童が社会的事象に興味・関心をもって、主体的に社会科授業に取り組み、確かな学力を身に付ける指導法について学修する。		
8. 学習目標	1. 教育課程の基本的事項について理解し、その知識を活用できる。 2. 学習指導要領の性格、教科書について理解し、教科指導法に向けて適宜参照できる。 3. 学習指導要領の改訂の歴史について理解し、現代日本の教育課程を位置づけられる。 4. 現行の学習指導要領の特徴を理解し、発展的に考察できる。 5. 教育評価の基本的事項について理解し、各評価の意義を考察できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	○事前に、『小学校学習指導要領解説社会編』等の目標と内容に応じた教科書教材 (単元) との整合性を確かめておく。 ○模擬授業前に、学習指導案を作成し提出する。 ○協力して教材等を作成し、問題解決的な学習過程を導入し、発問・板書等を工夫した学習指導案を作成し、模擬授業を実施すること。 ○レポート課題「社会科指導の工夫・改善について—模擬授業を通して」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 ○文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社、2008 年。 【参考書】 ○東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	○受講態度、学習指導案の作成、模擬授業、レポート等を総合して評価する。 1 学習指導案の作成・提出 総合点の 30% 2 模擬授業の指導案・模擬授業 総合点の 40% 3 提出物、レポート 総合点の 30% なお、ア、履修要項「授業について」の「7 単位の認定」により、授業時数の 4 分の 3 以上 (15 回中 12 回以上) の出席を満たさない場合は単位を認定しない。 イ、授業態度の悪い学生は減点します。また、指導後の改善が見られない場合は F 評価になることもある。		
12. 受講生へのメッセージ	○本科目は、小学校教諭の資格取得のために学ぶ教科です。教師としての熱意や実践的な指導力を高めるために、以下の点に留意して授業に取り組んでほしい。 ア 事前・事後の学習は必ず行い、課題を明確にして授業に臨む。 イ それぞれの教材が、児童にとってどのような意味を持っているのか、常に考える習慣を身に付ける。 ウ 社会的事象への関心を高め、社会人として必要な知識や教養を身に付ける。 例 日本や世界の現状を理解し、豊かな知識と深い考え方ができるようにするとともに、教材を多面的にとらえ、児童の発達段階に即した教材づくりができるようにする。		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「社会科指導法」のねらい、学習内容等、授業の受け方、グループ学習指導案の作成・模擬授業の方法等 社会科の学習指導①「学習活動から見た指導論」	事前学習	教科書、ノート、資料整理用ファイル等の準備。
		事後学習	授業の受け方等の確認、 学習活動からみた指導方法の整理・まとめ。
第 2 回	社会科の学習指導「戦後の社会科学学習指導過程の概要」	事前学習	戦後の社会科の代表的な学習指導過程を調べる。
		事後学習	時代の要請と学習指導過程との関連を整理し、理解を深める。
第 3 回	問題解決的学習① 基本的なことから—学習指導過程の基本型、課題の意味、課題の設定・把握等について	事前学習	社会科の問題解決的学習を、資料等で調べておく。
		事後学習	社会科の問題解決的学習の基本型を、指導の場面を想定しながらノートに整理する。
第 4 回	問題解決的学習② 実際的な理解—6 年生の教材を例にして	事前学習	取り上げる歴史教材の内容を人物や文化遺産に重点を置き調べる。
		事後学習	単元の問題設定から予想・仮説の設定までの流れを整理し、実践を想定してまとめる。
第 5 回	問題解決的学習③ 実際的な理解—6 年生の教材を例にして	事前学習	取り上げる歴史教材を、問題解決的学習を取り入れた単元計画の中に位置づけておく。
		事後学習	実際の教材をもとに、問題解決的学習の指導計画を構想する。
第 6 回	小学校社会科学学習指導案の作成① 小学校社会科学学習指導案の特色、形式・内容を理解	事前学習	事前に配布される指導案に関する資料を読み、指導の構想を練っておく。

	し、参考例をもとに、指導案の書き方を学習する。	事後学習	指導案形式をノートにまとめ、理解を深めておく。
第 7 回	小学校社会科学習指導案の作成② 参考例をもとに、指導案の書き方に慣れる。	事前学習	参考例の指導案をもとに、各項目の重要点を整理しまとめる。
		事後学習	未完成の項目については、工夫しながら適切な用語を活用しながら完成させる。
第 8 回	小学校社会科学習指導案の作成③ 指導案を完成させる。	事前学習	参考例の後半をよく読み、各項目の重要な点を整理しまとめる。
		事後学習	作成した指導案の内容・形式を学習者の視点から見直しを行う。
第 9 回	模擬授業に向けての指導案づくり① 5・6年の教材の中から単元の一つを選択し、展開案を作成。	事前学習	選択した単元の内容を、教科書や資料等をもとに展開案に反映できるよう準備する。
		事後学習	作成途中の展開案を、班で再検討し修正して仕上げておく。
第 10 回	模擬授業に向けての指導案づくり② 展開案の作成と資料・教材づくり	事前学習	前時までの展開案の流れを確認し、指導内容の再確認をしておく。
		事後学習	展開案の学習活動が、問題解決的学習の発問や活動として適切かを見直し、適切な内容に修正する。
第 11 回	模擬授業に向けての指導案づくり③ 教材(指導資料)づくり、板書・発問計画の作成、指導案の提出	事前学習	指導資料づくりのための計画立案・各担当者の準備等についてグループで話し合う。
		事後学習	模擬授業に向けて、全体を再点検し、問題点や課題等を抽出しておく。
第 12 回	問題解決的学習を導入した模擬授業の実施①	事前学習	授業のシナリオをつくり、役割分担を確認し、担当グループとして授業実践に備える。
		事後学習	グループとしての自己評価と他者評価の整理をし、今後解決すべき課題を明確にし、次の授業実践に生かせるようにする。
第 13 回	問題解決的学習を導入した模擬授業の実施②	事前学習	授業のシナリオをつくり、役割分担を確認し、グループとして授業実践に備える。
		事後学習	グループとしての自己評価と他者評価の整理・まとめと課題解決の手立てを明らかにする。
第 14 回	問題解決的学習を導入した模擬授業の実施③	事前学習	授業のシナリオをつくり、役割分担を確認し、班として授業に備える。
		事後学習	班としての自己評価と相互評価を整理し、今後の課題を明らかにし、それらの課題を解決するための手立てを整理しまとめる。
第 15 回	問題解決的学習を導入した模擬授業の実施④ 学習のまとめ、課題レポート「社会科指導の工夫・改善について—模擬授業を通して」のレポートの作成・提出	事前学習	グループや自己の課題を明確にし、具体的な改善策を考えノートに整理する。
		事後学習	工夫・改善策を、教育実習に生かせるよう自分の考えを整理し、読み手に伝わるよう工夫して表現する。

1. 科目名 (単位数)	社会教育計画 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3444 SNMP3444 SCMP3444 SSMP3344
2. 授業担当教員	志村 隆雄		
4. 授業形態	講義と討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	3 年次以上、2 年次に「生涯学習概論」を履修し、春期に「現代社会と社会教育」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	急速な社会の変化に伴い、人々の生活や価値観も多様化し、生涯学習の振興や社会教育支援の在り方も大きく様変わりしている。地域における住民の学習や活動の拠点である社会教育施設も、指定管理者制度の導入など民間の活力を導入した施設へと移行している。社会教育を推進する中心的な役割を負っている社会教育主事は、生涯学習、社会教育に関する基礎知識を身につけるとともに、時代の変化に柔軟に対応できる問題解決能力や先見性、創造性、コミュニケーション能力等が求められるようになってきている。そこで、本科目では社会教育計画（個別事業計画）の策定を通して、社会教育主事としての資質を育成するとともに、社会教育事業の推進計画である社会教育計画及び社会教育行政の役割について理解を深める。		
8. 学習目標	次の目標を達成できることを目的とする。 ①社会教育の現状把握を通して、社会が抱える今日の課題について理解することができるようになる。 ②社会教育計画を策定する意義を理解し、策定の必要性を述べることができるようになる。 ③社会教育計画の種類、内容の学習を通して、策定に当たった手順・方法を理解することができるようになる。 ④社会教育における施設や職員の専門性、及び対象となる学習者の特性を理解することができるようになる。 ⑤今日の課題の特徴を理解し、課題解決のための社会教育計画（個別事業計画）を策定することができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①県・市町村の社会教育計画や身近な社会教育施設が作成した資料の収集。(授業において社会教育計画(個別事業計画)の立案に活用する) ②公民館等で実施されている課題支援事業についてのレポート作成をアサイメントとして課すことがある。 ③授業時において、グループごとに指定された課題を解決する支援事業案を作成する。 ④授業終了時に提出するレポート課題は、社会教育計画策定における個別事業計画とする。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』ミネルヴァ書房。 生涯学習・社会教育行政研究会編『生涯学習・社会教育行政必携』平成 22 年度版、第一法規。 【教材】 課題プリント、社会教育実践研究センター編『社会計画立案の技術』公民館作成事業広報紙 市町村教育委員会作成『社会教育計画』等。		
11. 成績評価の方法	・授業出席と授業への参画態度 総合点の 30% (グループ討議での司会・記録や積極的発言等) ・各課題の目標理解の到達度 総合点の 30% ・個人作成レポート 総合点の 40% レポート評価にあたっては ①具体的なデータに基づき、立案の趣旨を客観的に述べていること。 ②論旨に当たっては、収集した資料からの引用だけでなく、自らの考えを明確に述べていること。 ③内容構成に学習者の意欲・関心を高める工夫が述べられてあること。 ④学習対象者への配慮が具体的に述べてあること。 ⑤文字の正確さ(誤字・脱字がない)、小見出し・段落・句読点等が適切なこと。 また、理解度と合わせ、協働性、創造性、コミュニケーション能力等についても評価していく。 ・無断欠席者には、その都度課題(小レポート等)を課す。(課題は出席時に指示する)		
12. 受講生へのメッセージ	受講生へ期待する学習態度 ①授業中は緊張感と集中力を保って受講すること。私語を慎み、居眠りなどをしないこと。 ②グループ討議においては積極的に自らの意見を述べること。 ③わからないことをそのままにしないこと。 ④レポート、アサイメント等は、期日までに提出すること。 ⑤正当な理由なしに欠席等はしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面で教員に提出する) ⑥携帯電話(スマートフォン)等の授業中の作動は厳禁である。(飲食も厳禁) ⑦地域や社会教育施設(公民館、青少年施設等)で実施する事業への参加やボランティア活動への積極的参加を期待する。		
13. オフィスアワー	授業時間前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション(講義概要、教材、評価方法等) ・提示資料をもとに授業の目的及び計画等の説明 ・事例から今日の社会教育における課題について学ぶ	事前学習	シラバスで授業の目的を確認しておくこと。
		事後学習	概要の説明を基に、今後の計画を確認しておくこと。
第 2 回	社会教育計画の意味と課題 ・社会教育計画の意味について学ぶ ・社会教育計画の種類とその内容について学ぶ	事前学習	配布資料を基に社会教育計画の意味を確かめておくこと。
		事後学習	社会教育計画の二面性について整理しておくこと。
第 3 回	社会教育における地域 ・社会教育を推進するうえでの地域とは何かについて学ぶ ・地域コミュニティの視点から地域の活性化(地域づくり)を考える	事前学習	身近な地域の課題について、報道記事等で調べておくこと。
		事後学習	地域住民の主体的行動、地域コミュニティについて整理しておくこと。

第 4 回	社会教育を推進する公民館の現状と課題 ・収集した資料を基に、公民館施設・設備等の現状と課題について学ぶ ・簡易レポートを基に、公民館の実施事業について学ぶ	事前学習	地域の公民館を調査し、簡易レポートを作成しておくこと。
		事後学習	作成レポートから実施されている事業の課題を整理しておくこと。
第 5 回	社会教育における公民館以外の施設 ・公民館以外の社会教育施設にはどのような施設があるか、資料をもとに学ぶ ・社会教育施設の多様性と職員の専門性について学ぶ	事前学習	身近な地域の公民館以外の社会教育施設を調べておくこと。
		事後学習	施設には目的を達成するための専門職員がいることをまとめておくこと。
第 6 回	社会教育における学習プログラム（個別事業計画） ・社会教育計画と学習プログラムの位置づけについて学ぶ ・事例を参考に、学習プログラム立案の基本について学ぶ	事前学習	配付資料をもとに学習プログラム立案の基本について予備知識を得ておくこと。
		事後学習	学習プログラムと社会教育計画の位置づけを整理しておくこと。
第 7 回	社会教育計画と調査 ・社会教育計画策定に当たっての調査の方法について学ぶ ・学習プログラム（個別事業計画）立案のための調査について、事業終了時点に実施する調査を参考に考える	事前学習	調査に協力した経験から調査項目の内容として大事な視点を考えておくこと。
		事後学習	授業で学んだことをもとに、他事業での活用を考えること。
第 8 回	今日の社会的課題に対応する社会教育計画Ⅰ＝地域づくり＝ ・提示された資料をもとに、地域特有の課題を考え、その課題を解決するために必要な支援方策（個別事業計画）の作成について学ぶ	事前学習	地域の再生・活性化に取り組んでいる事例を収集すること。
		事後学習	地域づくりの理解をもとに、事後への活用としてまとめること。
第 9 回	今日の社会的課題に対応する社会教育計画Ⅱ＝高齢者支援＝ ・提示された資料をもとに、高齢者が置かれている現状と課題を理解し、その課題を解決するための支援方策（個別事業計画）の作成について学ぶ	事前学習	高齢者が求めている支援に関する資料を収集すること。
		事後学習	元気な高齢者、介護が必要な高齢者など支援は一律でないことを事後に生かせるまとめをすること。
第 10 回	今日の社会的課題に対応する社会教育計画Ⅲ＝子育て支援＝ ・提示された資料をもとに、子育て中の親が抱えている課題を理解し、社会教育の視点に立つての支援方策（個別事業計画）の作成について学ぶ	事前学習	子育てで親が悩むことは何か、情報を収集しておくこと。
		事後学習	福祉と連携した教育的支援の重要性についてまとめておくこと。
第 11 回	今日の社会的課題に対応する社会教育計画Ⅳ＝子ども育成支援＝ ・提示された資料をもとに、子どもがおかれている現状と課題を理解し、その課題を解決するための支援方策（個別事業計画）の作成について学ぶ	事前学習	子どもがおかれている現状を知る情報を収集しておくこと。
		事後学習	子どもへの支援の重要性についてまとめておくこと。
第 12 回	課題解決のための社会教育計画（個別事業計画）の策定Ⅰ＝グループ演習＝ ・指示された課題に対応した支援方策（個別事業計画）をグループで協議し、作成について学ぶ	事前学習	社会教育施設で実施されている事業資料を収集しておくこと。
		事後学習	学習者の意欲を高めるポイントを整理しておくこと。
第 13 回	課題解決のための社会教育計画（個別事業計画）の策定Ⅰ＝グループ演習＝ ・指示された課題に対応した支援方策（個別事業計画）をグループで協議し、作成について学ぶ	事前学習	前時の成果を基に、発表・聞き取りのポイントについて、確認しておくこと。
		事後学習	発表力と共に正確に聞き取る力を高める大事さを確認し、まとめておくこと。
第 14 回	個人作成レポート（個別事業計画）の発表と討議Ⅰ ・事前に指示された課題解決のための支援事業（個別事業計画）の個人レポートを発表し、評価項目ごとに全体での討議を通して学ぶ	事前学習	発表の準備（聞き取りのポイント）について確認しておくこと
		事後学習	レポート内容の評価について再確認しておくこと。
第 15 回	個人作成レポート（個別事業計画）の発表と討議Ⅱ ・事前に指示された課題解決のための支援事業（個別事業計画）の個人レポートを発表し、評価項目ごとに全体での討議を通して学ぶ 評価とまとめ ・授業目標への到達度を確認し、授業後の各自の課題を考える	事前学習	発表の準備（聞き取りのポイント）について確認しておくこと
		事後学習	授業目標達成の視点から残された課題について確認し、授業後の自らの課題を考えること。

1. 科目名 (単位数)	社会政策論 / 社会政策 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2134 PSMP3308
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄			
4. 授業形態	講義、学生による発表とディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	現代社会は、様々な社会問題を抱えている。その問題群に対応する政策が社会政策であり、労働・人口変動・生活保障など幅広い分野をカバーしている。一方で、社会政策が十分に機能しているかという点、不十分な点も多くあり、さらには政策自体が逆に問題を大きくしている場合もある。 この授業では、そのような社会問題や、社会政策について勉強し、少しでも良い方向に向かわせるためにはどうすればいいかを、自分の住んでいる社会のこととしてとらえ、一緒に考えてもらいたい。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の様々な社会問題について、様々な視点からとらえられるようになる。 ・社会問題に対する社会政策について調べ、その概要を説明できるようになる。 ・新聞等で取り上げられている社会問題について考え、自らの意見が発表できるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	テキストに基づき、授業での発表を分担してもらおう。詳細は、1回目の授業時に説明するので、テキストを購入の上、必ず出席されたい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 石畑良太郎・牧野富夫編『よくわかる社会政策 第2版』ミネルヴァ書房、2014年。 【参考書】 玉井金五、大森真紀編『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2007年。			
11. 成績評価の方法	①授業内における発表・討議への参加 50% ②期末試験 50% ただし、受講生の数によっては期末試験を行わないことがある。その場合は、①のみで評価を行う。			
12. 受講生への メッセージ	日頃から新聞等のマスメディアに触れ、社会の動きについて考えておいてほしい。受講生の高い問題意識と、積極的な参加を期待する。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	イントロダクション 社会政策の考え方とその課題	事前学習	テキストの全体像を理解しておくこと	
		事後学習	自分の発表の担当について確認しておくこと	
第2回	賃金 (テキストⅠ) 最低賃金、年功賃金と成果主義	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第3回	労働時間 (テキストⅡ) 生活のなかの労働、労働時間のルール	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第4回	労働時間 (テキストⅡ) 休暇と休業、時間外労働	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第5回	雇用・失業 (テキストⅢ) 失業の原因、雇用形態の多様化	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第6回	雇用・失業 (テキストⅢ) 若者の雇用、失業者への社会政策	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第7回	労使関係 (テキストⅣ) 労使関係と労働組合	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第8回	労使関係 (テキストⅣ) 労働規制と雇用問題	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第9回	高齢社会 (テキストⅤ) 人口高齢化と高齢者福祉	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第10回	高齢社会 (テキストⅤ) 高齢者雇用と社会的企業	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第11回	社会保障 (テキストⅥ) 医療・介護保障	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第12回	社会保障 (テキストⅥ) 年金と最低生活保障	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第13回	男女平等 (テキストⅦ) 男女平等政策と労働の場における男女間格差	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第14回	男女平等 (テキストⅦ) ワークライフバランスと女性のライフコース	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
第15回	外国人労働者 (テキストⅧ) 外国人労働者と外国人住民	事前学習	テキストの該当部分について読み、分からない言葉は調べておくこと。	
		事後学習	授業で議論した部分について、自らの考えをまとめておくこと。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2107 SNMP2307 SCMP2307
2. 授業担当教員	金 貞任	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとすることである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7.本講義は社会福祉士国家試験科目なので、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目標とする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1.ほぼ毎回、次回勉強する内容についてまとめるなど事前学習が必要である。 2.グループごとに先行研究を集め、仮説と質問項目を作成する。 3.グループごとに面接調査を実施する。 4.グループごとに事例分析を行う。 5.グループごとにレポートを作成し、発表・提出する。 6.小テストは、2回実施する（持ち込み禁止）。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林修一・久保田滋・西野理子等『テキスト社会調査』梓出版社。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の態度（ディスカッションなど） 総合点の 10% 2. 小テスト 70% 3. グループ作業・レポート・発表 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>公的サービスを提供する福祉施設では、長期的な計画に基づき収益の確保のために利用者に対するサービスの質を高めなければならない。そのためには、サービス利用者を対象にサービス満足度などに関する調査が必要であるが、本講義を受講することにより社会調査の方法を身につけることが可能なので、就職活動の際に有効である。</p> <p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 2. 授業のための予習は必ず行い、ノートを整理してください。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴してください。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 6. レポート等の提出期限を厳守してください。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象となります。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要についてシラバスを中心に説明	事前学習	社会調査法の学習ノートを準備し、講義に臨むこと。
		事後学習	社会調査をしなければならない理由について吟味する。
第2回	1.社会調査の定義、2.データとは、3.調査の種類 の短所と長所について	事前学習	1、2、3をノートにまとめる。(pp.7-13)
		事後学習	社会調査の種類 の短所と長所の内容を復習する。
第3回	10.社会学と調査、社会調査における倫理と個	事前学習	10の内容をノートにまとめる。(pp.22-24, 111)

	個人情報保護	事後学習	社会調査における個人情報の保護が必要な理由について考える。
第 4 回	11.仮説を作成する：グループ作業 13.誰に調査するか（社会問題の現象の原因を探る）	事前学習	11 と 13 の内容をまとめる。高齢者に関する仮説を 1 つ作成する。(pp.31-35)
		事後学習	仮説を作成しないとどのような問題が生じるかについて考える。仮説を精査する。
第 5 回	17.調査票の対裁、18.質問文の作り方、19.選択肢の作り方、20.尺度の作り方について学習	事前学習	高齢者を対象に仮説を 3 つ作成する。18、19 と 20 の内容をまとめる。(pp.41-51)
		事後学習	仮説を証明できる質問項目になっているかどうかを確認する。
第 6 回	14.標本調査とは、15.標本の選び方、16.調査方法の選び方について学習	事前学習	14、15 と 16 の内容をまとめる。(pp.36-43)
		事後学習	標本調査の必要性について考える。
第 7 回	24.エディティング、25. クリーニング、26. データ入力、27.回収率について学習：グループ作業（情報室にて授業）	事前学習	エディティング、クリーニングとは何かをノートにまとめる。(pp.57-62)
		事後学習	エディティング、クリーニング、データ、変数などの統計用語を理解する。データの入力を完成する。
第 8 回	データ分析：29.度数分布と記述統計、31.クロス集計、値の変換、32.カイ 2 乗検定、(情報室にて授業)	事前学習	記述統計とは何か、クロス集計とは何か、カイ 2 乗検定とは何かについて内容をノートにまとめる。(pp67-74)
		事後学習	クロス集計、カイ 2 乗検定について SPSS ソフトを利用し、分析の練習をする。表を作成する。(p.70,71,74)
第 9 回	データ分析：30.変数の加工、35-36.平均の比較、分散分析（情報室にて授業）	事前学習	平均値と分散分析とは何かについてノートにまとめる。(pp69-70, 79-80.)
		事後学習	平均値と分散分析について情報処理室で練習する。表を作成する。(p.79,81)
第 10 回	仮説の検証と発表：分析結果の作成・発表（情報室にて授業）	事前学習	仮説に基づき分析結果の作成 発表レジュメ作成（グループ作業）
		事後学習	量的調査の長所と短所について吟味する。
第 11 回	質的調査：質的調査の定義と種類について学習、インタビュー調査の内容作成（グループ作業）、調査対象者の選定	事前学習	質的調査とは何か、質的調査の種類についてノートに整理する。(pp95-104)
		事後学習	インタビュー調査の内容を完成する。調査対象者に調査依頼をする。(グループ作業)
第 12 回	面接調査（インタビュー調査）：現場にて調査実施	事前学習	調査対象者に調査の依頼をする。調査対象者とラポール（信頼関係）を作るための工夫をする。インタビュー調査のための筆記用具を用意する。(p.103,54-55)
		事後学習	インタビュー調査の内容を整理する。
第 13 回	インタビュー調査の分析方法について学習する（カテゴリー分析）。 インタビュー調査の分析とレジュメ作成（グループ作業）	事前学習	インタビュー調査結果の内容をノートに整理する。カテゴリー分析とは何か学習する（配布資料）。
		事後学習	グループのメンバーがテープ起こし内容を確認する。レポートを作成する。モデルレジュメより優れたレジュメを作るように工夫する。(グループ作業)
第 14 回	インタビュー調査結果の発表（グループ作業）	事前学習	発表レジュメを完成する、発表レジュメをコピーする。(グループ作業)
		事後学習	グループごとに反省会を開く。グループの長所と短所について確認し、提出レジュメを精査する。
第 15 回	調査結果の発表、レポート提出：グループ	事前学習	発表レジュメを完成する、発表レジュメをコピーする。(グループ作業)
		事後学習	社会福祉のニーズの発見とニーズを解決するために、社会調査をどのように活用すればいいか考える。

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2107 SSMP2107 PSMP2407
2. 授業担当教員	保原 伸弘	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>社会調査の目的は、社会事象について現地調査を行い（積極的に数値を利用して正しく測定する）、データを入力し、調査結果から一般的な規則性を見出し、必要に応じて取るべき行動を定めようとするものである。現在、社会福祉など専門分野では、人々のニーズの把握や解決策を量的調査や質的調査に基づいて提案するなど科学的エビデンスが求められている。本講義を受講することにより、社会調査の重要性と、世の中に氾濫する社会調査の真実や問題点を把握することが可能となる。</p> <p>本講義では、次のことを学習する。第1に、社会福祉領域における社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、社会調査の基本である質的調査法と量的調査法について学ぶ。第2に、社会調査を実施するに当たり守らなければならない個人情報の保護、得られたデータから個人情報の扱いについて理解を深める。第3に、人々のニーズや問題を発見し、それらの原因や解決策を探るために仮説を設定し、それに基づき質問項目を作成する。現地調査（面接調査）の実施によるデータの収集。量的調査と質的調査の調査の方法を学習する。その際には、社会調査が個人のプライバシーに関わるものであることを念頭におき、個人情報の保護、人権に配慮する。第4に、量的調査や質的調査のデータに基づき、現状と関連要因を分析し、発表レジュメを作成し、発表するなど、エビデンスに基づいた社会調査の必要性を理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会調査とは何か、社会調査が必要な理由(社会調査の意義と目的)について理解を深める。 2.社会調査の種類、すなわち事例調査と量的調査の意義について理解し、それぞれ長所と短所を理解する。 3.社会調査における倫理や個人情報保護が必要な理由を把握する。 4.量的調査と質的調査の母集団の標本抽出法、回収率が重要である理由について学習する。 5.グループごとに仮説を設定し、質問項目を作成し、現地調査を実施するなど調査の方法を身に付ける。 6.分析方法（仮説の検証を含む）、分析結果に基づきレジュメの作成、発表、議論の仕方などを実践する。 7.本講義は社会福祉士国家試験科目なので、国家試験に通用するレベルまで実力アップを図ることを目標とする。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1.ほぼ毎回、次回勉強する内容についてまとめるなど事前学習が必要である。 2.グループごとに先行研究を集め、仮説と質問項目を作成する。 3.グループごとに面接調査を実施する。 4.グループごとに事例分析を行う。 5.グループごとにレポートを作成し、発表・提出する。 6.小テストはほぼ毎回実施する。ただし、事前学習のノートのみ持ち込みが可能である。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林修一・久保田滋・西野理子等『テキスト社会調査』梓出版社。 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の態度（ディスカッションなど） 総合点の 10% 2. 小テスト 70% 3. グループ作業・レポート・発表 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>公的サービスを提供する福祉施設では、長期的な計画に基づき収益の確保のために利用者に対するサービスの質を高めなければならない。そのためには、サービス利用者を対象にサービス満足度などに関する調査が必要であるが、本講義を受講することにより社会調査の方法を身につけることが可能なので、就職活動の際に有効である。</p> <p><受講生に期待される学習態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業には自分なりの問題意識や課題を持って、積極的な態度で参加することを望みます。 2. 授業のための予習は必ず行い、ノートを整理してください。 3. 理解できないことや疑問点がある場合は、必ず質問してください。質問することは、学んでいる者にとって決して恥ずかしいことではありません。 4. 人が発言している時には、他の受講生は静かに傾聴してください。 5. 授業は、正当な理由がない限り欠席・遅刻・早退をしないでください。 6. レポート等の提出期限を厳守してください。提出期限を守らない場合は、正当な理由がない限り減点の対象となります。 7. 授業中の私語、居眠り、携帯電話の作動、飲食等、学習活動を妨げる行為は厳禁とします。 		
13. オフィスアワー	初回の授業で伝えます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	講義概要についてシラバスを中心に説明	事前学習	社会調査法の学習ノートを準備し、講義に臨むこと。
		事後学習	社会調査をしなければならぬ理由について吟味する。
第2回	1.社会調査って何、2.データとは、3.調査の種類	事前学習	1、2、3をノートにまとめる。
		事後学習	今回学習した内容を復習する。

第 3 回	10.社会学と調査、社会調査における倫理と個人情報保護	事前学習	10 の内容をノートにまとめる。
		事後学習	10 と社会調査における個人情報の保護が必要な理由について考える。
第 4 回	11.仮説をたてる：グループ作業 13.誰に調査するか（社会問題の現象の原因を探る）	事前学習	11 と 13 の内容をまとめる。高齢者に関する仮説を 1 つ作成する。
		事後学習	仮説を作成しないとどのような問題が生じるかについて考える。
第 5 回	18.質問文の作り方、19.選択肢の作り方、20.尺度の作り方	事前学習	高齢者を対象に仮説を 3 つ作成する。18、19 と 20 の内容をまとめる。
		事後学習	仮説を証明できる質問項目になっているか確認する。
第 6 回	14.標本調査とは、15.標本の選び方、16.調査方法の選び方	事前学習	14、15 と 16 の内容をまとめる。
		事後学習	標本調査の必要性について考える。
第 7 回	24.エディティングとは、25.クリーニングとは、26.調査票からデータへ、27.回収率とは何か、	事前学習	24、25、26 と 27 の内容をノートにまとめる。
		事後学習	用語を理解する。
第 8 回	28.離散変数と連続変数、 データ分析：29.度数分布と記述統計、31.クロス集計、32.カイ 2 乗検定、（情報室で授業）	事前学習	記述統計とは何か、クロス集計とは何か、カイ 2 乗検定とは何かについて内容をノートにまとめる。
		事後学習	クロス集計、カイ 2 乗検定について SPSS ソフトを利用し、分析の練習をする。表をまとめる。
第 9 回	データ分析：30.変数の加工、33.統計的検定、35~36.平均の比較、分散分岐）（情報室で授業）	事前学習	平均値と分散分析とは何かについてノートにまとめる。
		事後学習	平均値と分散分析について情報処理室で練習する。表を作成する。
第 10 回	43. 質的調査とは何か、45、インタビューをする、48、生活史、50、ラポールを作る、51、参与観察	事前学習	43、45、48、50 と 51 の内容をノートにまとめる。
		事後学習	インタビュー調査の内容をまとめる。（グループ作業）
第 11 回	インタビュー調査の内容作成	事前学習	調査目的をノートに整理する。質問したい内容をノートに整理する。（グループ作業）
		事後学習	インタビュー調査の内容を確認する。調査依頼をする。（グループ作業）
第 12 回	面接調査（インタビュー調査）：現場にて調査実施	事前学習	調査対象者に調査の依頼をする。質問する人、ノートに記入する人など、グループで役割を決める。（グループ作業）
		事後学習	テープ起こしをする。インタビュー内容を整理する。発表準備をする。（グループ作業）
第 13 回	インタビュー調査のまとめ	事前学習	インタビュー調査内容のテープ起こしの準備。（録音機、ノート、ペンなど）（グループ作業）
		事後学習	グループのメンバーがテープ起こし内容を確認する。レポートを作成する。（グループ作業）
第 14 回	調査結果の発表	事前学習	発表準備をする、レジユメをコピーする。（グループ作業）
		事後学習	レポートを完成する。
第 15 回	調査結果の発表、レポート提出：グループ	事前学習	発表準備をする、レジユメをコピーする。（グループ作業）
		事後学習	レポートを完成し、提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会的養護内容 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2418 SCOT2418 SJMP2137
2. 授業担当教員	中嶋 一郎		
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	この科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育士実践に必要な知識・技能を学習するものである。 具体的には、子どもと家族に対応する「専門的な支援者」である保育士として、社会的養護、施設が目指そうとしている方向性と施設における家族、子どもへの支援の在り方を「子どもの最善の利益」という視点から理解するため、保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用に関して具体的な事例を交えて学ぶ。これらを通じて実習に向けた準備等ができるようにする。		
8. 学習目標	1.児童福祉施設における養護の意義を理解し、専門的な支援者としての保育士に必要な認識を身につける。 2.子どもの成長・発達に果たす養護の意義について学習し、保育士としての役割感覚を身につける。 3.子どもの最善の利益を意識した支援の実践方法を身につける。 3.社会的養護に関わる施設の事例分析を行い、利用者理解と事例への洞察力、支援の視点を身につける。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	15回の授業内で、社会福祉への問題意識を高め、主体的な学習ができるように予習を兼ねたアサシメントと、問題へ及び考察を表現するためのレポート課題を行う。 第1回の授業開始までに「児童の有する権利」についてまとめたレポートを作成しておくことを強く望む。 (字数は任意)		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 吉田眞理(編著)『児童の福祉を支える 演習 社会的養護内容』萌文書林、2011。		
11. 成績評価の方法	成績評価については、毎回主体的に学習しているか、積極的に質問をしているか、学習の成果が出るよう努力しているかとその結果を評価します。 日常の授業態度(発表、質問は加点、欠席、私語等は減点) 45%、レポート 55%。		
12. 受講生への メッセージ	携帯電話等の使用や私語等を慎むことは、守るべきマナーです。(減点の対象) 授業等で不満があれば個人的に受け付けておりますので、いつでもご相談ください。 自分の意見を持つことは、共に学ぶ学友との相互理解を深めるための道具です。自分の意見はワークシートにまとめ、それを元に他人と議論を交わしてください。 (以下、加点の対象) 他の学生を尊重し、その意見をしっかりと受け止めてください。 発表の際には、他の学生に伝わる大きさの声で行ってください。 わからないことがあれば、授業内、外で積極的に質問をしてください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務① 児童の権利擁護(1)	事前学習	児童の有する権利についてまとめたレポートを作成しておく。テキスト p.11、p.20 の事例を熟読しておく。
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第2回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務② 児童の権利擁護(2)	事前学習	テキスト p.23、p.32、p.37、p.44 の事例を熟読しておく。
		事後学習	子どもの最善の利益を踏まえた支援の具体例を考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第3回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士の倫理及び責務③ 保育士等の倫理及び責務	事前学習	テキスト p.56「全国児童養護施設協議会倫理綱領」をまとめたレポートを作成しておく。 テキスト p.47、p.57 の事例を熟読しておく。
		事後学習	保育士としての資質と倫理について理解し、バーンアウトを起こさないための職員間の支援について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第4回	施設養護の特性及び実際① 児童養護の体系と児童福祉施設の概要	事前学習	児童養護施設の体系と概要についてまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	児童養護にかかるサービスの種類、及び連携、利用までの手続きを理解し、説明することが出来る。
第5回	施設養護の特性及び実際② 日常生活支援と諸施設の暮らし(1)	事前学習	テキスト p.67、p.72、p.75、p.81、p.84 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童養護施設、乳児院、母子支援施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第6回	施設養護の特性及び実際③ 日常生活支援と諸施設の暮らし(2)	事前学習	テキスト p.87、p.94、p.97、p.100、p.107、p.110 の事例を熟読しておく。
		事後学習	医療型障害児入所施設、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設での支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第7回	施設養護の特性及び実際④	事前学習	テキスト p.113、p.120、p.128 の事例を熟読しておく。

	日常生活支援と諸施設の暮らし(3)	事後学習	福祉型障害児入所施設、里親制度に係る支援に対する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 8 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向① 保育士の業務、虐待された子どもへの支援	事前学習	入所型社会的養護施設のうち、任意で選択した一つの施設についての業務内容をまとめたレポートを作成しておく。 テキスト p.141 の事例を熟読しておく。
		事後学習	虐待を受けてきた子どもの支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 9 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向② 虐待への対応、子どもと家族への支援	事前学習	テキスト p.151、p.154 の事例を熟読しておく。
		事後学習	施設内の体罰に係る支援、子どもと家庭への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 10 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向③ 児童相談所の連携、虐待した家族への支援	事前学習	テキスト p.164、p.167 の事例を熟読しておく。
		事後学習	児童相談所との連携に係る支援、虐待した家族への支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 11 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向④ ソーシャルワークの技術活用、アドミッションケア	事前学習	テキスト p.167、p.175 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 12 回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向⑤ リビングケア、アフターケア	事前学習	テキスト p.188、p.197 の事例を熟読しておく。
		事後学習	入所から退所後に至る支援に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 13 回	今後の課題と展望① 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.208 の事例を熟読しておく。
		事後学習	グループホームにおける個別ケアに関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 14 回	今後の課題と展望② 施設の小規模化と地域連携	事前学習	テキスト p.211、p.220 の事例を熟読しておく。
		事後学習	地域とのかかわり、地域と施設の関係に関する事例について考察し、自分の意見を説明することが出来る。
第 15 回	まとめ 社会的養護の施設で働くということ	事前学習	今までの授業で印象に残った事例の一つあげて、なぜ印象に残ったのかという理由をまとめたレポートを作成しておく。
		事後学習	保育士として働いてみたい施設に関する知識とそこの支援に関する留意点をまとめて説明出来る。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会病理 (2 単位)		3. 科目番号	PSMP2304
2. 授業担当教員	高木 俊彦			
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究、同結果プレゼンテーション、学生との応答		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会病理現象の分析を通じて、社会と私たちの関わり方を科学的に分析する視点を養うことを目的とする。</p> <p>(1) 社会病理とは何か、(2) 社会病理の発生・形成過程、(3) 社会生活に及ぼす影響等について、具体的には、犯罪や非行の問題、いじめや自殺 (自死) の問題、格差社会の進展とワーキング・プアの問題、青少年のモラトリアムや引き籠もりの問題、児童虐待や男女間のDVの問題、少子・高齢化がもたらす問題、福祉の施設化の問題、性の商品化の問題、カルト集団の問題など、新旧さまざまな「社会病理現象」を、主として社会学、さらに心理学や社会心理学の知見を踏まえて解説していく。</p> <p>これらの問題、病理の内容に応じてグループ研究などを実施し、受講生自らが主体的にそれらの社会病理現象を調査・考察、その打開策を模索していくという参加型の授業形態を採る。</p> <p>個々の病理現象の臨床的考察から、その社会的背景の分析、実践的対応の提示まで、社会病理学への要請に応える授業内容とする。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな社会病理について理解し、説明することができるようになる。 2 それぞれの社会病理の社会的背景や発生のメカニズムについて理解し、説明することができるようになる。 3 グループ討議・研究を通して社会病理学の観点を実践的に学び、その結果を説明できるようになる。 4 社会病理を打開するため実践されている対応策や、それらの対応策を実施している組織・機関の役割・機能について理解し、説明することが説明できるようになる。 5 その他社会病理学に関係する諸科学、諸理論についての知識を得ることができるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 予め個人又はグループ毎にテーマを与え、調査研究をし、発表の準備作業をする。 2 調査研究の結果をレポートにまとめ、資料として配付の上、各個人又はグループごとにプレゼンテーションをする。 3 第11回の授業終了後に各自が自らテーマを選びレポートを作成し、冬休み明けに提出する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本公平・高原正興・佐々木嬉代三 編著『社会病理のリアリティ』学文社、2006年。			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の態度・授業 (個人又はグループ研究・発表) への参加度 (40%)、 2 レポート提出・小テスト (60%) <p>を総合して行う。受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・インターネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会病理現象と思われる問題について、その社会的、心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたいこと。 2 授業に集中すること。私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜けなど授業の支障となる行為をするものは受講を遠慮願いたい。 			
13. オフィスアワー	初回の授業開始時 (初回授業) に担当教官からお知らせします。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション —社会病理とは何か (受講生の所感等も踏まえグループ討議) —	事前学習	各受講生1例ずつ現在の「社会病理」について調べる。	
		事後学習	個人又はグループごとに、担当する社会病理の各テーマにつき、調査・研究・取りまとめの計画を立てる。	
第2回	犯罪と非行、犯罪集団の社会病理 (講師によるモデル発表と講義)	事前学習	テーマ発表の仕方について、関係知識を得、その結果を学習ノートにまとめる。(テキスト第1章参照)	
		事後学習	「犯罪と非行、犯罪集団の社会病理」についての講師の発表から、学んだものを学習ノートにまとめ、各グループの準備作業に役立てる。	
第3回	自殺 (自死) の社会病理	事前学習	「自殺 (自死) の社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第2章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第4回	中高年男性をめぐる社会病理	事前学習	「中高年男性をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合はその発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第3章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループによる発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第5回	モラトリアムと引き籠もりの社会病理	事前学習	「モラトリアムと引き籠もりの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第4章、第5章参照)	
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。	
第6回	児童虐待といじめの社会病理	事前学習	「児童虐待といじめの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第6章参照)	

		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 7 回	福祉の施設化がもたらす社会病理	事前学習	「福祉の施設化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 7 章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 8 回	男女間DV、ストーカーの社会病理	事前学習	「男女間DV、ストーカーの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。(テキスト第 8 章参照)
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 9 回	性の商品化をめぐる社会病理	事前学習	「性の商品化をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 10 回	カルト集団をめぐる社会病理	事前学習	「カルト集団をめぐる社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 11 回	格差社会とワーキング・プアの社会病理	事前学習	「格差社会とワーキング・プアの社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 12 回	少子・高齢化がもたらす社会病理	事前学習	「少子高齢化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 13 回	情報化社会、IT 社会の社会病理	事前学習	「情報化社会、IT 社会の社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 14 回	都市化がもたらす社会病理	事前学習	「都市化がもたらす社会病理」の担当希望者がある場合は、その発表準備。その他のメンバーは本テーマに関係する情報の事前収集。
		事後学習	担当個人又はグループの発表がある場合はその内容と、その後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第 15 回	まとめ(社会病理の改善・解決策)	事前学習	授業を通して学んだことを各自でまとめる。
		事後学習	社会病理の改善・解決策について学んだことを、学習ノートにまとめる。
期末試験(受講生が多い場合は期末試験を行い、その結果を加味する)			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SNMP1105
2. 授業担当教員	荻野 基行		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践を展開する際、支援の対象としての人間の生活を理解することが、基本的かつ重要なことであるということを念頭においた上で、人間の生活について具体的な出来事と概念を結びつけて授業を展開する。 ・人間と社会(家族・近隣・地域・社会)の関わりが、生活の質にどのような影響を与えているか、また学生が、自身の生活と利用者の生活とを別々の次元で理解するのではなく、同じ時代の社会の中で共に生活しているという視点で授業を展開する。 ・生活の理解において、経済的困窮に伴う生活問題への対応が、社会福祉を生み出す一つの歴史的原点となっていることをふまえて授業を展開する。 		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解し、説明できるようになることを目標とする。 ・個人と家族、個人と地域、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」の内容を明らかにすることができる。 ・「公助」は、社会システムを維持するための施策によって自立を実現するものであるということを理解していく中で、人として社会的存在であり続けることの意義を理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポートテーマ 1: 第5回までの授業で学んだ家族についてレポートする。 2: 「生活の支援と福祉の体系」というテーマでレポートする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会『社会と制度の理解』中央法規出版。 【参考書】 授業中随時紹介		
11. 成績評価の方法	授業態度・確認テスト 40% レポート 40% 期末試験 20%		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に目的意識をもち、積極的に参加すること。 ・ 授業内容と関係のない私語や居眠り、携帯電話の使用などは禁止する。 ・ 新聞を読むことをすすめる。 		
13. オフィスアワー	授業の中で提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 人と生活	事前学習	テキスト pp.2-4 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.2-4 の重要語句をおぼえ、「人と生活」についてまとめる。
第2回	生活の構成要素・家庭生活の基本機能(生産・労働、教育・教養、保健・福祉、生殖、安らぎ・交流、その他)	事前学習	テキスト pp.4-8 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.4-8 の重要語句をおぼえ、「生活の構成要素・家庭生活の基本機能」についてまとめる。
第3回	家族とは・家族構造と形態	事前学習	テキスト pp.10-13 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.10-13 の重要語句をおぼえ、「家族とは・家族構造と形態」についてまとめる。
第4回	家族の機能と役割	事前学習	テキスト pp.13-16 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.13-16 の重要語句をおぼえ、「家族の機能と役割」についてまとめる。
第5回	多様化する家族と家族観 [課題 1]	事前学習	テキスト pp.16-18 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.16-18 の重要語句をおぼえ、「多様化する家族と家族観」についてまとめる。また課題 1 にとりくむ。
第6回	地域に暮らす個人と地域社会の集団・組織 (地域・コミュニティの概念)	事前学習	テキスト pp.19-22 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.19-22 の重要語句をおぼえ、「地域に暮らす個人と地域社会の集団・組織」についてまとめる。
第7回	変貌する地域社会(都市化と過疎化)	事前学習	テキスト pp.23-24 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.23-24 の重要語句をおぼえ、「変貌する地域社会」についてまとめる。
第8回	社会とは・社会構造の変容(産業化と都市化・地域社会の変化)	事前学習	テキスト pp.26-28 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.26-28 の重要語句をおぼえ、「社会とは・社会構造の変容」についてまとめる。
第9回	社会と組織(機能・役割、エンパワメント)	事前学習	テキスト pp.28-31 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.28-31 の重要語句をおぼえ、「社会と組織」についてまとめる。

第 10 回	新しい人的ネットワーク（グループ支援、組織化）	事前学習	テキスト pp.31-32 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.31-32 の重要語句をおぼえ、「新しい人的ネットワーク」についてまとめる。
第 11 回	現代におけるライフスタイルの変化① （労働環境と家庭・雇用労働の進行、女性労働・雇用形態の変化）	事前学習	テキスト pp.33-36 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.33-36 の重要語句をおぼえ、「労働環境と家庭・雇用労働の進行、女性労働・雇用形態の変化」についてまとめる。
第 12 回	現代におけるライフスタイルの変化② （少子化と高齢化・健康寿命の延長）	事前学習	テキスト pp.36-39 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.36-39 の重要語句をおぼえ、「少子化と高齢化・健康寿命の延長」についてまとめる。
第 13 回	現代におけるライフスタイルの変化③ （地域社会とライフスタイル・余暇時間、生涯学習、地域活動への参加）	事前学習	テキスト pp.40-43 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.40-43 の重要語句をおぼえ、「地域社会とライフスタイル・余暇時間、生涯学習、地域活動への参加」についてまとめる。
第 14 回	生活の支援と福祉の体系① （社会福祉と社会保障・社会福祉と福祉サービスの理念を中心に）	事前学習	テキスト pp.44-48 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.44-48 の重要語句をおぼえ、「社会福祉と社会保障・社会福祉と福祉サービスの理念」についてまとめる。
第 15 回	生活の支援と福祉の体系② （自助・共助・公助のバランスと福祉の変遷・多元化を中心に）[課題 2]	事前学習	テキスト pp.48-52 を熟読し要点をまとめる。
		事後学習	テキスト pp.48-52 の重要語句をおぼえ、「自助・共助・公助のバランスと福祉の変遷・多元化」についてまとめる。また課題 2 にとりくむ。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉経営論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP1117
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	演習形式で授業を行う。集団討議、個人発表、レポート作成。場合によっては現地視察も行う。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、非営利法人の経営について学習をする。非営利法人には財団法人、社団法人、NPO、医療法人などがあり、それぞれの特徴について理解する。非営利法人の共通する問題点としては、財源や人材の確保、社会的評価などがある。これらについて具体的な問題点を学習していき、どのように問題を解決するのが良いのかなどについて学習を進める。また、現代社会で重要視されている、コンプライアンスと非営利法人との関係についても学習をする。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉経営に関する広い知識を身につけ、理解する。 ・まず社会福祉を取り巻く経済の実情を知り将来を展望する。 ・福祉法人の目標を考え、経営の本質について考察し、就職等で実践する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメントやレポートについては、基本的には課さないが、必要に応じて課すケースもある。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座 福祉サービスの組織と経営 第4版』中央法規、2015年。</p> <p>【参考書】 授業中指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	1、授業態度 (議論に参加など)	50%		
	2、確認テスト	10%		
	3、レポート提出	40%		
12. 受講生へのメッセージ	「参加すること。」これは出席を指すのではなく、他人の意見に耳を傾ける余裕と間違えるのを恐れなくて自分の意見を持ち、議論に積極的に参加する。否定するときは、必ず代替案をだす。そしてリーダーシップ。それが「経営」において決定的に重要なためである。			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (講義概要の説明) 社会福祉と経営の概念	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉と経営の概念を確認する	
第2回	社会福祉法人の基本的知識	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉法人の基礎知識を確認する	
第3回	これまでの社会福祉経営 その1	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉経営の現状を把握する	
第4回	これまでの社会福祉経営 その2	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉経営の現状を把握する	
第5回	社会福祉経営を取り巻く環境の変化	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉経営を取り巻く環境の変化を確認	
第6回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その1	事前学習	社会福祉経営の現状を把握する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第7回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その2 財源1	事前学習	社会福祉経営の現状を把握する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第8回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その3 財源2	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第9回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その4 人的資源1	事前学習	社会福祉経営の現状を把握する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第10回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その5 人的資源2	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第11回	21世紀型社会福祉経営のあり方 その6 まとめ	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	これからの福祉経営を考える	
第12回	社会福祉経営と行政のあり方 その1 現状	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉と行政のあり方を把握する	
第13回	社会福祉経営と行政のあり方 その2 課題	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉と行政のあり方を把握する	
第14回	社会福祉経営と行政のあり方 その3 解決手法の策定	事前学習	関連する新聞や雑誌を確認する	
		事後学習	社会福祉と行政のあり方を把握する	
第15回	総括	事前学習	これまでの問題点を確認する	
		事後学習	これまでの学習事項を確認する	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	社会福祉原論 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP1103 SSMP1103 PSMP1403
2. 授業担当教員	田代 幹康		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。) について理解する。 6. 福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む。) の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 		
8. 学習目標	以下について学習、理解し、説明できるようになる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基礎理論としての概念と思想を学習する。 2. 日本と欧米の社会福祉の歴史と現代社会を理解する。 3. 社会福祉の援助体制と福祉ニーズを理解する。 4. 社会福祉の制度と行財政のあり方を学習する。 5. 現代における社会福祉政策とソーシャルワークについて理解する。 6. 社会福祉の担い手と専門職制度について学習する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート課題 「あなたの住む市区町村の福祉に関連する計画について資料を収集し、その概要と特徴について考察せよ」 レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。また、各章、節終了時に授業の内容に関する確認テストを行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小田憲三・杉本敏夫編著『社会福祉概論 第3版 ー現代社会と福祉ー』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①受講態度・参加姿勢等 40%(全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻(10 分程度迄)は 3 回で 1 回休みとなる。 ②筆記試験とレポート試験を行う 60% 		
12. 受講生への メッセージ	本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態で授業に参加することが期待されている。 2. 授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4. レポートの提出日を厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明等、グループ分け、その他) 「社会福祉とは何か」	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	社会福祉とは何かについてノートにまとめる。
第 2 回	現代社会における福祉制度と福祉政策① (福祉制度の概念と理念、福祉政策の概念と理念) 「理念としての社会福祉、社会政策としての社会福祉、その他」	事前学習	教科書 pp.1～6 を読んでくること。
		事後学習	理念としての社会福祉についてノートにまとめる。
第 3 回	現代社会における福祉制度と福祉政策② (福祉制度と福祉政策の関係、福祉政策と政治の関係) 「制度としての社会福祉、実践としての社会福祉、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.9～15 を読んでくること。
		事後学習	制度、実践としての社会福祉についてノートにまとめる。
第 4 回	現代社会における福祉制度と福祉政策③ (福祉政策の主体と対象) 「福祉サービス利用者のとらえ方、福祉ニーズと社会福祉問題、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.83～94 を読んでくること。
		事後学習	ニーズの類型についてノートにまとめる。
第 5 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学① (福祉の原理をめぐる理論) 「社会福祉の諸理論、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.69～82 を読んでくること。
		事後学習	講義で示された社会福祉の各理論についてノートにまとめる。
第 6 回	福祉の原理をめぐる理論と哲学② (福祉の原理をめぐる哲学と倫理) 「倫理綱領、その他」	事前学習	事前にソーシャルワークの倫理綱領、行動規範の資料を配るのでよく読んでくること。
		事後学習	提示された倫理綱領の事例のポイントについてノートにまとめる。
第 7 回	福祉制度の発展過程①	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備

	(前近代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他」		し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.17～23 を読んでくること。
		事後学習	前近代社会における福祉の発展過程についてノートにまとめる。
第 8 回	福祉制度の発展過程② (近代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.23～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 9 回	福祉制度の発展過程③ (現代社会と福祉) 「社会福祉の歴史－新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他」	事前学習	新自由主義、福祉多元主義、福祉ミックス、ポスト産業化社会、グローバル化、各用語について調べてくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 10 回	福祉政策におけるニーズと資源① (需要とニーズの概念) 「社会福祉問題と福祉ニーズ、その他」	事前学習	教員より資料を配布するので第 4 回に行った授業内容について復習しておくこと。
		事後学習	教員から配布された資料についてノートにまとめる。
第 11 回	福祉政策におけるニーズと資源② (資源の概念) 「資源の定義、福祉ニーズと社会福祉問題、その他」	事前学習	教員より資料を配布するので第 10 回に行った授業内容について復習しておくこと。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 12 回	福祉政策の課題① (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「所得保障、児童家庭福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.199～217 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 13 回	福祉政策の課題② (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「障害者福祉、高齢者福祉と介護保険」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.217～240 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 14 回	福祉政策の課題③ (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「母子及び寡婦福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.241～251 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 15 回	福祉政策の課題④ (社会福祉及び関連する分野の現状と課題) 「地域福祉」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.251～260 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 16 回	福祉政策の課題⑤ (福祉政策の現代的課題) 「ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、社会連帯、セーフティネット、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生についてはこれまでノーマライゼーションという用語が教科書に出てきた部分についてまとめておくこと。
		事後学習	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第 17 回	福祉政策の課題と国際比較① (イギリス)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.33～46 を読んでくること。
		事後学習	イギリスの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第 18 回	福祉政策の課題と国際比較② (アメリカ)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.46～54 を読んでくること。
		事後学習	アメリカの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第 19 回	福祉政策の課題と国際比較③ (ドイツ、スウェーデン)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.55～65 を読んでくること。
		事後学習	スウェーデン、ドイツの社会福祉の歩みについてノートにまとめる。
第 20 回	福祉政策の構成要素① (福祉政策の論点) 「効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択とパターナリズム、	事前学習	普遍主義、選別主義、パターナリズム、ジェンダー、各用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	講義をうけて福祉国家の類型についてノートにまとめる。

	参加とエンパワメント、ジェンダー、福祉政策の視座、その他」		
第 2 1 回	福祉政策の構成要素② (福祉政策における政府の役割) 「社会福祉行政、国・地方自治体の行政組織、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.127～133 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 2 2 回	福祉政策の構成要素③ (福祉政策における市場の役割) 「民間福祉活動、社会福祉法人、NPO 法人、民間営利活動、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.138～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉法人とは何か、についてノートにまとめる。
第 2 3 回	福祉政策の構成要素④ (福祉政策における国民の役割) 「社会福祉行政と費用徴収、当事者組織、ボランティアと住民参加、その他」	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.133～138、pp.142～147 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第 2 4 回	福祉政策の構成要素⑤ (福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価)	事前学習	福祉に関する政策評価について事前に調べておくこと。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第 2 5 回	福祉政策の構成要素⑥ (福祉供給部門) 「政府部門、民間営利・非営利部門、ボランティア部門、インフォーマル部門、その他」	事前学習	教員より資料を配布するのでわからない用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	第一種・第二種社会福祉事業の要点についてノートにまとめる。
第 2 6 回	福祉政策の構成要素⑦ (福祉供給過程、福祉利用過程)	事前学習	教員より資料を配布するのでわからない用語など事前に調べておくこと。
		事後学習	介護保険制度におけるサービス利用過程についてまとめる。
第 2 7 回	福祉政策と関連政策① (福祉政策と教育・住宅政策)	事前学習	自らがこれまで受けた福祉教育について考えてくること。
		事後学習	わが国の福祉住宅政策・関連する法律・制度についてノートにまとめる。
第 2 8 回	福祉政策と関連政策② (福祉政策と労働政策)	事前学習	法学、労働法関係の授業を受けていたら該当部分を復習しておくこと。
		事後学習	生活保護政策における就労促進事業についてノートにまとめる。
第 2 9 回	相談援助活動と福祉政策の関係 (福祉供給の政策過程と実施過程) 社会福祉援助の体系と担い手	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.150～185 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 3 0 回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として地域や施設で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、過去問題を使用した演習を徹底して行います。その中で、試験に合格するための知識を定着させ、合格へと導いていきます。		
8. 学習目標	社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。 (I) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。 (II) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる) これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 ・定期試験 (共通科目・専門科目) では、本番の試験の合格基準に従って、 <ul style="list-style-type: none"> ① 全体の60%以上の得点がある。 ② 全ての科目で得点がある (0点科目がない)。ことを課題とします。 (不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます。) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内配布テキスト、『社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題集」をどれだけ暗記できるかによって決まるので、本講義を受講する学生は、1 問 1 問真剣に取り組んでください。 授業の内容や進行順は変更することがあります。		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる 教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第 2 回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 4 回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 5 回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 6 回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 7 回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 8 回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 9 回	【福祉行政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 10 回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 11 回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

	福祉法（障害児支援関係）「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」について		
第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【社会調査の基礎①】 （「統計法」「社会調査における倫理」「量的調査の方法①」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【社会調査の基礎②】 （「量的調査の方法②」「質的調査の方法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【相談援助の基盤と専門職】 （「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の理念」「相談援助に係る専門職の概念と範囲」「専門職倫理と倫理的ジレンマ」「総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 9 回	【相談援助の理論と方法①】 （「様々な実践モデルとアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 0 回	【相談援助の理論と方法②】 （「相談援助の過程」「ケースマネジメントとケアマネジメント」「相談援助における社会資源の活用・調整・開発」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【相談援助の理論と方法③】 （「スーパービジョン」「記録」「相談援助と個人情報の保護の意義と留意点」「相談援助における情報通信技術（IT）の活用」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 2 回	【福祉サービスの組織と経営①】 （「福祉サービスに係る組織や団体」「福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 3 回	【福祉サービスの組織と経営②】 （「福祉サービス提供組織の経営と実際」「福祉サービスの管理運営の方法と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度①】 （「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）」「介護過程」「介護と住環境」「介護保険法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度②】 （「介護保険法における組織及び団体の役割と実際」「地域包括支援センターの役割と実際」「高齢者の虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 6 回	【児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】（「児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「児童・家庭福祉制度の発展過程」「児童福祉法」「DV防止法」「母子保健法」「児童手当法」「次世代育成支援対策推進法」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【就労支援サービス】 （「雇用・就労の動向と労働施策の概要」「就労支援に係る専門職の役割と実際」「就労支援分野との連携と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 8 回	【更生保護制度】 （「更生保護制度の概要」「更生保護制度の担い手」「医療観察制度の概要」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 9 回	専門事例問題	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 0 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	社会福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECD4221
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等			
4. 授業形態	演習 (指定座席による問題演習)		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ますます複雑、多様化する福祉ニーズに対応し、福祉の専門家として施設や地域で福祉の向上のために活躍するためには、まず社会福祉士の資格を取得することが求められます。この講義では、社会福祉士養成演習Ⅰで身につけた基本的知識の定着を図るとともに、実際の試験に対応できる応用力を身につけていきます。過去の試験において出題が多くみられる項目を中心について問題演習を行い、最新の福祉の動向も踏まえながら、社会福祉士国家試験合格に必要な力を養成していきます。</p>			
8. 学習目標	<p>社会福祉士の国家試験に合格するためには、次のような基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ) 問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ) 受験で課されるすべての科目において得点があること (1科目でも0点を取ると不合格になる)</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストは皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に得点できるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・ 予め配布する「一問一答」の中から、毎回授業の最後に確認テストを行うので、満点が取れるまで予習復習を繰り返してください。</p> <p>・ 期間の途中で行う「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>③ 全体の60%以上の得点がある</p> <p>④ 全ての科目で得点がある (0点科目がない) ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務付けます)</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>『2016 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規 (3 年生の養成演習Ⅰで購入したテキストです。3 年次に養成演習Ⅰを受講していなかった学生は、事前に購入しておくこと。)</p> <p>『大学作成の授業内配布テキスト』</p> <p>『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』、中央法規 (秋期の開始時に購入します)</p> <p>【参考文献】</p> <p>『2017 社会福祉士国家試験過去問題集』中央法規</p> <p>『社会福祉士国家試験模擬問題集 2017』中央法規</p> <p>『社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック 共通科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士受験ワークブック 専門科目編 2015』中央法規。</p> <p>『社会福祉士の合格教科書 2017』医学評論社</p>			
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ (共通科目) ・Ⅱ (専門科目)」と 12 月に実施する校内模試の結果 50%</p> <p>60 コマ中、16 コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10 分以上の遅刻、早退は 2 回で 1 回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する (春学期のみ)。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>国家試験に合格するためには、「過去問題集」にどれだけ真剣に取り組み、どれだけ暗記できたかにかかっています。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという決意をもって、1 問 1 問真剣に取り組んでください。</p> <p>授業の内容や進行順は変更することがあります。</p>			
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス (春期) (試験の概要・傾向等) 【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 2 回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 3 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 4 回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習	
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習	
第 5 回	実力確認テストⅠ (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までに授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し	
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習	

第 6 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 0 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 1 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 2 回	【地域福祉の理論と方法】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 3 回	【社会調査の基礎】【相談援助の基盤と専門職】【福祉サービスの組織と経営】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 4 回	【高齢者に対する支援と介護保険制度】【児童・家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度】【就労支援サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 5 回	【相談援助の理論と方法】【更生保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験（実力確認テストⅡ）（専門科目）			
第 1 6 回	ガイダンス（秋期） 共通科目基礎徹底理解①（共通科目ランダム問題） （制度を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 7 回	共通科目基礎徹底理解②（共通科目ランダム問題） （人物・年代を中心とした内容理解）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 8 回	専門科目基礎徹底理解（専門科目ランダム問題）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 1 9 回	利用者を理解する科目の徹底理解 （医学・心理学・介護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 0 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解① （社会学・法学）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 1 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解② （法人）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 2 回	社会保障を理解する科目の徹底理解① （社会保障・低所得者・高齢者）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 3 回	社会保障を理解する科目の徹底理解② （障害者・権利擁護・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 4 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③ （行財政・保健医療・児童・更生保護）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 5 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解① （基盤と専門職・社会調査）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 6 回	社会福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解② （理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 2 7 回	事例問題の演習①（理論と方法）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 2 8 回	事例問題の演習②（高齢者・児童・就労支援）	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 2 9 回	事例問題の演習③（共通科目編）	事前学習	指定された科目の過去問演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 3 0 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	（試験の問題冊子を持参する）
		事後学習	（最後まで合格を信じること）

1. 科目名 (単位数)	社会福祉入門 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1101 GELA1301						
2. 授業担当教員	生沼 礼一								
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期・秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。								
8. 学習目標	近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会の中で必要な社会福祉とは何か、また様々な福祉領域に必要な知識や実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。さらにこれまでの福祉理念の変遷を概観し、急速に変化していく現代社会にあって、これからの福祉のあり方についても考察する。								
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	宿題、レポート課題は授業の中で指示する。								
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】東京福祉大学編『レポート・試験はこう書く 保育児童福祉要説』（第四版）中央法規 【参考書】必要な参考書は、授業の中で指示する。								
11. 成績評価の方法	<p>評成績評価の方法と配点は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>期末試験 (1 回実施)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート (1 回実施)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>日常の授業態度</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>※東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない学生の評価は行わない。</p>			期末試験 (1 回実施)	30%	レポート (1 回実施)	20%	日常の授業態度	50%
期末試験 (1 回実施)	30%								
レポート (1 回実施)	20%								
日常の授業態度	50%								
12. 受講生への メッセージ	授業に出席し、一回一回の授業の中で能力を身につけ伸ばして欲しい。								
13. オフィスアワー	初回授業の中で提示します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第 1 回	・授業オリエンテーション (グループ作りを含む) ・「わが国の高齢者福祉の現状について」(その 1)	事前学習	教科書 p.542 を読んでおく。						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 2 回	「わが国の高齢者福祉の現状について」(その 2)	事前学習	教科書 p.542 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 3 回	ノーマライゼーションの理念について	事前学習	教科書 p.562 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 4 回	介護の意義について DVD 鑑賞	事前学習	教科書 p.602 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 5 回	社会福祉士・介護福祉士の職場について	事前学習	教科書 p.543 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 6 回	社会福祉士・介護福祉士が誕生した社会的背景と福祉専門職に求められる資質について①	事前学習	教科書 pp.545～547 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 7 回	社会福祉士・介護福祉士が誕生した社会的背景と福祉専門職に求められる資質について② レポート課題発表	事前学習	授業でおさえた用語を調べておく。						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 8 回	グループ研究「社会福祉施設について」 DVD 鑑賞	事前学習	前回配布の資料について読んでおく						
		事後学習	どのようにグループで学習していくか、話し合ったことをまとめておく。						
第 9 回	障害者への援助で留意すべき点について 車いす体験、障害を体験する	事前学習	教科書 p.43 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 10 回	わが国の社会福祉行政について	事前学習	教科書 p.541 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 11 回	保険者と被保険者について	事前学習	教科書 p.612 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 12 回	年金制度の現状と問題点について	事前学習	教科書 p.575 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる						
第 13 回	これからの社会福祉と福祉教育について	事前学習	教科書 p.554 を読んでおく						
		事後学習	授業内容をノートにまとめる。						
第 14 回	・レポート発表 ・グループ発表①	事前学習	グループ発表の準備をする						
		事後学習	ほかの学生の発表のなかで参考になったことを整理しておく。						
第 15 回	・グループ発表② ・期末試験について	事前学習	各グループの資料などを読んでおく。						
		事後学習	ほかの学生の発表のなかで参考になったことを整理しておく。						
期末試験									

1. 科目名 (単位数)	社会保障制度 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP1107
2. 授業担当教員	尹 文九		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>今日、高齢者をめぐる諸問題は社会全領域において重要なテーマのひとつである。したがって、本授業では高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護（高齢者虐待や就労の実態を含む）について理解する。また、高齢者保健福祉制度の発展過程について、特に介護保険制度の仕組みやサービスの内容などについて詳しく検討すると同時に、その制度が持つ社会的な意味や残された課題について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と関連したさまざまな専門用語についての知識を身につける。 2. 社会保障の基本理念や制度の歩みについて理解し、説明することができる。 3. 社会保障制度が国民の生活と関連し、どのような役割や機能を担当しているのかについて理解し、説明することができる。 4. 社会保障の機能及び役割について理解し、説明することができる。 5. 社会保障制度の財政状況や問題点について学び、説明することができる。 6. 社会保障制度(医療保険制度、介護保険制度、年金制度)について理解し、説明することができる。 7. 公的扶助制度について理解し、説明することができる。 8. 日本の社会保障制度が抱える基本問題について、その解決策を自分で考える能力を身につけられる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題 1：社会保障の仕組みについて(1200字) 課題 2：社会保障制度の変化について(1200字)</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障 7 版』有斐閣、2009 年。 【参考書】 坂口正之 岡田忠克編『よくわかる社会保障 第 3 版』ミネルヴァ書房、2009 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>1) レポートと課題 20% 2) 授業への参加度 30% 3) ミニテスト及び学習ノート 50% 計 100% なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション シラバス説明と社会保障を学ぶ意義について	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと
		事後学習	社会保障を学ぶ意義についてまとめる
第 2 回	社会保障の概念と理念 社会保障制度の全体的な仕組み	事前学習	pp.4～6 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障制度の全体的な仕組みについてまとめる
第 3 回	社会保障を取り巻く状況 1、人口の変化 2、家族の変化 3、地域の変化 4、国民生活構造の変化	事前学習	現在日本の社会保障を取り巻く状況についてまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 4 回	社会保障の歴史 世界と日本の社会保障制度の歩みについて	事前学習	pp.254～264 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	日本の社会保障制度の歩みの特徴についてまとめる
第 5 回	社会保障の意義や機能	事前学習	pp.264～269 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障の機能についてまとめる
第 6 回	社会保障の実施体系 措置制度、契約、公的扶助の違いについて	事前学習	pp.85～97 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	実施体系の中ひとつを選び、それについてまとめる
第 7 回	社会保障の財源 社会保障給付費の現状と今後の課題	事前学習	pp.270～278 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障財政の課題についてまとめる
第 8 回	社会保障と社会福祉 社会保障と社会福祉の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	pp.81～85 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保障と社会福祉の違いや類似点についてまとめる
第 9 回	社会保障と公的扶助(生活保護制度) 社会保障と公的扶助の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	pp.72～80 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	公的扶助と社会福祉の相違点についてまとめる
第 10 回	社会保障と社会保険 社会保障と社会保険の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	社会保険医の種類についてまとめる
		事後学習	社会保険の中ひとつを選び、それについてまとめる
第 11 回	社会保障と民間保険制度 社会保障と民間保険制度の機能や役割について違いや類似点とは	事前学習	pp.229～245 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	社会保険と民間保険の相違点についてまとめる
第 12 回	社会保障と介護保険制度(1) 介護保険制度の仕組みと社会保障制度との関係	事前学習	pp.108～121 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	介護保険制度の仕組みについてまとめる
第 13 回	社会保障と介護保険制度(2) 介護保険制度改正とサービスについて(ビデオ)	事前学習	pp.122～137 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	ビデオを見て改正された内容をまとめる
第 14 回	介護認定プロセス	事前学習	介護サービス認定のプロセスについてまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 15 回	介護提供体制と権利保護	事前学習	pp.137～142 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	成年後見制度についてまとめる

1. 科目名 (単位数)	社会保障論 (4 単位)		3. 科目番号	SSMP2105 PSMP2405
2. 授業担当教員	佐々木 貴雄			
4. 授業形態	講義、学生発表、グループディスカッション、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本科目では、社会保障を構成している年金、医療、介護保険、労働保険などを、それぞれの沿革にまでさかのぼり、理論的に解説する。そのことにより社会福祉の現場で働く場合に必要となる社会保障に関する専門的かつ正確な知識を体得する。</p> <p>社会保障の理念や範囲、期待する社会保障の機能などは国によって異なっており、その相違が主に市場経済の構造や社会的慣行にあるとすれば、今後、わが国が豊かな社会保障を構築するためにどのような条件整備を進めていくべきかを探っていく必要がある。</p> <p>教科書をベースに、下記の講義日程に沿って授業を進める。聞き漏らし部分を含め、授業中および授業終了後等に質問する習慣を身に付け、その日のうちに不明部分を解消することが必要である。本科目の学習分野は膨大であり、講義日程に沿って授業が進行するので、後日まとめた一括つめこみは難しい。事前学習が済んでいることが前提であるから、説明は要点のみとなる。黒板への原則、板書は行わない。論点のいくつかに関して、学生による事前学習成果の発表と質疑討論を授業に組み入れる。</p> <p>制度知識を確実なものとするため、社会福祉士国家試験の過去問等を活用してのグループ討議を行う。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の基本理念と役割を理解し、文章で説明できるようになる。 2 社会保障の各制度について、その適用や給付にとどまらず、運営の仕組みや財源確保の仕組みについても、わかりやすい自分の言葉で口頭説明できるようになる。 3 少子高齢化、政府財政悪化、企業福祉後といった環境変化の中で、社会保障制度の持続性を確保するには何が求められ、国民としてどう行動すべきなのかについて、自身の分析と対案を提示できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の該当範囲について、予め予習していることを前提に授業を進める。 2. 授業中に、指定したテーマについてのグループ発表を行ってもらうので、その準備が必要である。 3. 学期中に確認テストのまとめを2回行い、最後に期末試験を行う予定である。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 学内作成のオリジナル教科書</p> <p>【参考書】 『新・社会福祉要説』『保育児童福祉要説』『教職科目要説 (初等教育編・中等教育編)』。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>毎回の確認テストのまとめと期末試験、そして授業中のグループ発表を中心に行う。配分は、確認テストのまとめが 40%、期末試験を 30%、授業中のグループ発表を 30% とし、日常の授業参加姿勢 (質問の受け答え、遅刻、その他の提出物等) を基に加減点を行う。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容は一般的にレベルが高いので、常に緊張感と集中力をもって受講すること。 2 思考力、創造力、問題解決能力を高めるためにも、積極的な態度で授業に臨むこと。 3 私語は厳禁である。携帯電話の操作もしないこと。 4 授業が始まってからは、勝手に退室しないこと。退室には必ず許可をとること。 			
13. オフィスアワー	授業内で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	社会保障の体系、機能、方法的 扶助と社会手当	事前学習	テキストの該当部分 (第 1 週) を読んでおくこと。	
第 2 回		事後学習	社会保障にはどのような制度が含まれるかについて、説明できるようにしておくこと。	
第 3 回	社会保障の財政 国民負担率・政府財政	事前学習	テキストの該当部分 (第 2 週) を読んでおくこと。	
第 4 回		事後学習	社会保障給付費の内容について、説明できるようにしておくこと。	
第 5 回	人口問題 労働環境の変化	事前学習	テキストの該当部分 (第 3 週) を読んでおくこと。	
第 6 回		事後学習	社会の変化が社会保障制度に与える影響について、説明できるようにしておくこと。	
第 7 回	世界の社会保障の歴史 日本の社会保障の歴史	事前学習	テキストの該当部分 (第 4 週) を読んでおくこと。	
第 8 回		事後学習	日本の社会保障制度の形成過程について、背景も含めて説明できるようにしておくこと。	
第 9 回	年金保険の概要 年金保険の沿革	事前学習	テキストの該当部分 (第 5 週) を読んでおくこと。	
第 10 回		事後学習	2 階建ての公的年金制度について、説明できるようにしておくこと。	
第 11 回	国民年金の加入と保険料 国民年金 (基礎年金) の給付	事前学習	テキストの該当部分 (第 6 週) を読んでおくこと。	
第 12 回		事後学習	基礎年金の給付内容について、説明できるようにしておくこと。	
第 13 回	厚生年金の適用と保険料 厚生年金の給付	事前学習	テキストの該当部分 (第 7 週) を読んでおくこと。	
第 14 回		事後学習	厚生年金の給付内容について、説明できるようにしておくこと。	
第 15 回	医療保険の概要 医療保険の沿革	事前学習	テキストの該当部分 (第 8 週) を読んでおくこと。	
第 16 回		事後学習	加入する医療保険制度の違いについて、説明できるようにしておくこと。	
第 17 回	健康保険の適用と保険料 健康保険の給付	事前学習	テキストの該当部分 (第 9 週) を読んでおくこと。	
第 18 回		事後学習	健康保険の給付内容について、説明できるようにしておくこと。	
第 19 回	国民健康保険 高齢者の医療制度	事前学習	テキストの該当部分 (第 10 週) を読んでおくこと。	
第 20 回		事後学習	後期高齢者医療制度が実施された背景について、説明できるようにしておくこと。	
第 21 回	介護保険制度の概要 介護保険の制度改正	事前学習	テキストの該当部分 (第 11 週) を読んでおくこと。	
第 22 回		事後学習	「地域包括ケアシステム」について、説明できるようにしておくこと。	
第 23 回	雇用保険の適用と保険料 雇用保険の給付	事前学習	テキストの該当部分 (第 12 週) を読んでおくこと。	
第 24 回		事後学習	基本手当について、説明できるようにしておくこと。	
第 25 回	労災保険の適用と保険料 労災保険の給付	事前学習	テキストの該当部分 (第 13 週) を読んでおくこと。	
第 26 回		事後学習	労災保険の保険料の特徴について、説明できるようにしておくこと。	
第 27 回	諸外国の社会保障①年金 諸外国の社会保障②医療	事前学習	テキストの該当部分 (第 14 週) を読んでおくこと。	
第 28 回		事後学習	他国と比較した日本の社会保障制度の特徴について、説明できるようにしておくこと。	
第 29 回	民間保険と社会保険 企業年金	事前学習	テキストの該当部分 (第 15 週) を読んでおくこと。	
第 30 回		事後学習	社会保障制度がある社会における民間保険の役割について、説明できるようにしておくこと。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	障害児・者の心理 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3332 SNMP3332 SCMP3332 SBMP3332 EDPS3304 PSMP3124
2. 授業担当教員	松坂 秀雄			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	3 年次以上			
7. 講義概要	様々な障害の特性によってもたらされる様々な心理的影響を知り、併せて、それぞれの障害を持つことでの発達段階に応じた心理的影響も理解する。また、障害を持つ当事者だけでなく、その人を取り巻く家族の心理を理解する。そして、障害の特性に応じた心理的援助のあり方について学ぶ。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障害の種類について理解し、一般的な心理的傾向を把握し、説明することができる。 2. 障害児・者を持った家族の心理を理解し、説明することができる。 3. 障害受容の一般的な過程とその実態について理解し、説明することができる。 4. 障害に種別に応じた援助のあり方を理解し、自分の考えを述べるができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	以下の設題のレポート課題を課する。 設題：様々な障害種別の中から、一つの障害を取り上げ、その障害に由来する固有の心理的特性とそれに対する心理的援助について1000字～1200字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 池田勝昭・目黒達哉共編著『障害者の心理「こころ」・育ち、成長、かかわり-』学術図書出版社、2007 年。 【参考書】 昇地勝人・蘭香代子・長野恵子・吉川昌子編『障害特性の理解と発達援助第 2 班』ナカニシヤ出版、2001 年。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房、2005 年。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房、2007 年。			
11. 成績評価の方法	学習ノート 30% 課題レポート 30% 期末試験 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	本授業の目的達成のために、受講生は以下の条件を守ることを。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚 (センス) を磨き、心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守ることを。宿題 (アサイメント) は指示された期限までに必ず行うこと、及びレポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をつしむこと。(明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格に対処する。) 教員は以下のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 専門用語は分かりやすく説明し、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加できるよう双方対話型の学習環境を作る。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 「障害をもつこと」に対するとらえ方の変遷を知る。	事前学習	「障害者」という言葉から、自分が連想することを 3 つ箇条書きにする。	
		事後学習	障害に対するとらえ方を学習ノートにまとめる。	
第 2 回	様々な「障害をもつこと」に共通する心理を理解する。	事前学習	テキスト pp.1～6 を通読する。	
		事後学習	「障害を持つこと」の一般的な心理を学習ノートにまとめる。	
第 3 回	肢体不自由の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.56～62 を通読する。	
		事後学習	肢体不自由児・者の基礎的理解を学習ノートにまとめる。	
第 4 回	内部障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	内部障害の種類を調べて、学習ノートにまとめる。	
		事後学習	慢性疾患による心理的問題を学習ノートにまとめる。	
第 5 回	視覚障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.20～29 を通読する。	
		事後学習	先天盲児の特性について学習ノートにまとめる。	
第 6 回	聴覚障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.30～36 を通読する。	
		事後学習	聴覚障害児・者のコミュニケーションについて学習ノートにまとめる。	
第 7 回	知的障害の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.66～78 を通読する。	
		事後学習	知的障害児・者の問題行動が持つ意味を学習ノ	

			トにまとめる。
第 8 回	自閉症スペクトラム障害（自閉症の心理を中心として）の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.80～88 を通読する。
		事後学習	発達障害を背景とする二次障害を学習ノートにまとめる。
第 9 回	発達障害（注意欠陥多動性障害等）の心理的特性と援助について理解する。	事前学習	テキスト pp.90～97 を通読する。
		事後学習	発達障害を背景とする二次障害を学習ノートにまとめる。
第 10 回	精神障害の心理的特性と援助について理解する（統合失調症を中心に）。	事前学習	統合失調症について調べ、学習ノートにまとめる。
		事後学習	心理教育の意味について学習ノートにまとめる。
第 11 回	様々な障害に伴う精神疾患（うつ病等）に対する心理的援助について理解する。	事前学習	うつ病について調べ学習ノートにまとめる。
		事後学習	うつ病の心理的支援の要点について学習ノートにまとめる。
第 12 回	障害児・者の心理的問題を理解する技法について学習する。	事前学習	発達検査について調べて学習ノートにまとめる。
		事後学習	心理検査の種類について学習ノートにまとめる。
第 13 回	障害児・者の心理的問題への援助の技法について学習する。	事前学習	テキスト pp.167～170 を通読する。
		事後学習	行動療法と動作法の要点を学習ノートにまとめる。
第 14 回	障害の「受容」というプロセスについて理解する。	事前学習	テキスト pp.112～117 を通読する。
		事後学習	障害受容の発達段階について学習ノートにまとめる。
第 15 回	家族の心理と支援について理解する。	事前学習	テキスト pp.215～222 を通読する。
		事後学習	家族に対する心理的支援の要点を学習ノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	障害児療育 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2341 SNMP2341
2. 授業担当教員	立松 英子			SCMP2341 SBMP2341 SJMP2119
4. 授業形態	講義、DVD視聴、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>「療育」という用語は、狭義には障害の早期発見から就学までの取り組みの意味で使われ、広義には成人の生活支援も含み、医療・福祉・教育にまたがる分野で使われている。近年、明確な診断のない「気になる」子どもや被虐待児もその対象となり、ノーマライゼーションの理念の理解とともに発達や障害についての幅広い知識が必要となるばかりか、親支援や地域の子育て支援も保育士の重要な役割となっている。</p> <p>本科目では、知的障害、肢体不自由、視覚障害や聴覚障害、自閉症スペクトラムを含む発達障害、診断はないが「気になる」子どもを対象に、年齢は乳幼児から成人まで、場所は一般の保育所のみならず、病院内保育、施設内保育等、幅広い視野で「療育」を捉え、保育士としての専門性を培う。</p>			
8. 学習目標	<p>統合保育の場では、障害のある子どもやその子を支える家族の生活・心情をふまえた支援ができるとともに、障害のない子どもへの配慮や教育もできるようになる。また、専門機関においても、保育士としての専門性を発揮して、医療・福祉の専門化と連携して適切な支援ができるようになる。</p> <p>① 幅広い対象、場、形態に及ぶ「療育」の理念や概念について知る。 ② 障害に関する医療・社会福祉・教育の制度についての基礎知識を身に付ける。 ③ 障害のある子どものいる家族の生活や心情について共感できるようになる。 ④ 発達とその順序性についての基礎知識を基盤に、障害のある子どもの育ちに見通しをつけられるようになる。 ⑤ 様々な専門家の役割を知って、障害のある子どもや保護者を中心とした連携・協働ができるようになる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の演習課題から1つを選び、文献やウェブサイトを参考に与えられた書式でレポートしてください。 ・小テスト：用語の理解について随時小テストを実施します。 ・期末レポート課題：事例についての論文課題：「あなたが考えるよりよい療育実践について、事例にもとづいて論説しなさい」本課題により、障害児保育の理論と実践がどこまで身に付いたか確認します。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 小林保子・立松英子共著『保育者のための「障害児療育」-理論と実践をつなぐ-』学術出版会。 【参考書】 厚生労働省 「保育所保育指針解説書」 その他、実践場面の DVD や関連ウェブサイトを授業で紹介します。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>日常の授業態度 (ディスカッション・グループ課題等) (20%) 中間レポート課題 (期限内提出重視) (20%) 小テスト (20%) 期末レポート課題 (40%)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害がある子どもやその家族の理解は、ふれあうこと、接することから始まります。地域のボランティア活動や療育・教育活動に積極的に参加することを勧めます。 ・授業中の私語、居眠り、携帯電話の操作、飲食等は禁止します。 ・休憩時間と授業の区別をしましょう。大学生として節度ある態度で授業に臨んでください。 			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 障害の理解①	事前学習 事後学習	教科書第1章 (pp.11~22) を読み、確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第2回	障害の理解② 子どもの生活を支える福祉や医療、各種法制度	事前学習 事後学習	教科書第2章 (pp.23~32) を読み、確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第3回	障害のある子の発達	事前学習 事後学習	教科書第3章 (pp.33~42) を読み、確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第4回	療育期における家庭への子育て支援	事前学習 事後学習	教科書第4章 (pp.43~55) を読み、親の障害の受容について確認しておく。 改めて教科書第4章を復習し、ノートにまとめる。	
第5回	療育の種類、早期療育・相談事業	事前学習 事後学習	教科書第5章 (pp.56~64) を読み、親の障害の受容について確認しておく。 療育の種類、早期療育の重要性について復習しておく。	
第6回	地域における専門機関の役割とサービス	事前学習 事後学習	教科書第6章 (pp.65~72) を読み、確認しておく。 各専門機関についてその機能を理解しておく。	
第7回	発達及び障害に関する用語の理解	事前学習 事後学習	これまでの学習で分からなかった用語を確認しておく。 小テストに向けて用語の確認をする。	
第8回	小テスト	事前学習 事後学習	用語の関連事項について調べ、理解を深めておく。 解答できなかった用語について復習をする。	
第9回	グループ演習1, 2 知的障害を伴う子ども保育援助	事前学習 事後学習	教科書第9章 (pp.109~116) を確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第10回	グループ演習3, 4 自閉症スペクトラムを伴う子どもと保育援助	事前学習 事後学習	教科書第11章 (pp.133~142) を確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第11回	グループ演習5, 6 肢体不自由や重症心身障害を伴う子どもと保育援助	事前学習 事後学習	教科書第10章 (pp.117~132) を確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第12回	グループ演習7, 8 視覚障害・聴覚障害を伴う子どもと保育援助	事前学習 事後学習	視覚障害とは、聴覚障害とは何か事前に調べ、確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第13回	「気になる子」と保育援助	事前学習 事後学習	教科書第12章 (pp.143~150) を確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第14回	就学への移行と特別支援教育	事前学習 事後学習	教科書第7章 (pp.73~92) を確認しておく。 レジュメの重要箇所を確認し、ノートにまとめる。	
第15回	論文課題「あなたが考えるよりよい療育実践について、事例にもとづいて論説しなさい」	事前学習 事後学習	これまでに学んだことを振り返り、時間内に論文課題を終えられるよう考えをまとめておく。 第1回の時の理解と現在の理解度の違いを確認してみる。	

1. 科目名 (単位数)	障害者介護論 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2118
2. 授業担当教員	森 千佐子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	障害の種類や程度及び原因(医学的を含め)を理解し、それぞれの障害のある人の生活について、事例を通して理解していく。その中で生活支援を介護福祉士がどのように担っていくのかを具体的に事例を通して学んでいけるように展開していく。			
8. 学習目標	1.障害の種類や程度及び原因(医学的を含む)症状を理解し、生活への影響を考えることができる。 2.障害のある人の生活を理解し、介護の視点を考えることができる。 3.障害のある人の生活とICFの概念を理解し生活環境の改善を考えることができる。 4.介護福祉士の役割と支援の方法を理解し、幅広い連携を考えることができる。 5.障害のある人の生活を支える社会的取り組み、及び現状を理解し、自立に向けた支援の方法を考えることができる。			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	「障害のある人に対する介護福祉士の役割と他職種との連携」のテーマで、それまでの学習内容を踏まえたうえで、役割及び連携の内容と方法を具体的に記述する (A4レポート用紙2枚)。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】谷口敏代編集 『最新 介護福祉全書 11 障害の理解 第2版』 メヂカルフレンド社、2013。授業中にプリントを配布する。			
11. 成績評価の方法	受講態度と小テスト、レポートにより評価する。 受講態度 (積極的な取り組み姿勢) : 20% 小テスト (4回目、9回目、13回目の授業で実施) : 60% レポート (障害のある人に対する介護福祉士の役割と他職種との連携) : 20%			
12. 受講生へのメッセージ	授業に積極的に取り組み、提出物は必ず期限内に提出してください。 机上に携帯電話など教材以外のものを置くこと、私語や居眠り等は禁止します。 不明な点は質問し、解決できるようにしてください。 授業には、グループディスカッションを取り入れます。他者の意見をよく聴き、自分の意見をしっかりと述べてください。 やむを得ず遅刻・早退・欠席をする場合は、必ずその理由を申し出てください。			
13. オフィスアワー	第1回の講義で説明します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	ガイダンス 本講義の説明 障害の基礎的理解① 障害の概念、障害者福祉の基本理念	事前学習	シラバスを読んでおく。	
		事後学習	障害者福祉の理念について、具体的に説明できるように整理する。	
第2回	障害の基礎的理解② 障害に関する考え方: ICFの理解 障害の種類と程度	事前学習	障害の種類について調べておく。	
		事後学習	ICF、障害の種類と程度について、整理する。	
第3回	障害のある人の生活の理解① 視覚障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	視覚障害のある人の活動制限や参加制約について、考えておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第4回	障害のある人の生活の理解② 聴覚・言語障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション手段について、考えておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第5回	障害のある人の生活の理解③ 肢体不自由(運動機能障害)障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	肢体不自由の原因疾患について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第6回	障害のある人の生活の理解④ 内部障害のある人の生活と介護の視点 : 心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害	事前学習	内部障害の種類と原因疾患について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第7回	障害のある人の生活の理解⑤ 内部障害のある人の生活と介護の視点 : 膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害、肝臓機能障害	事前学習	ストマについて調べ、ストマのある人の活動制限や参加制約について考えておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第8回	障害のある人の生活の理解⑥ 知的障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	知的障害の程度について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第9回	障害のある人の生活の理解⑦ 精神障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	主な精神疾患について調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第10回	障害のある人の生活の理解⑧ 高次脳機能障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	高次脳機能障害の主な症状について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第11回	障害のある人の生活の理解⑨ 発達障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	発達障害の種類について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第12回	障害のある人の生活の理解⑩ 重症心身障害のある人の生活と介護の視点	事前学習	重症心身障害の原因疾患について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第13回	障害のある人の生活の理解⑪ 難病のある人の生活と介護の視点	事前学習	難病の定義について、調べておく。	
		事後学習	介護の視点を整理する。	
第14回	障害のある人に対する支援① 介護の視点と介護福祉士の役割	事前学習	キーワード(自己決定、エンパワメント、権利擁護)について、調べておく。	
		事後学習	障害のある人に対する介護福祉士の役割について、整理する。	
第15回	障害のある人に対する支援② 社会資源とチームアプローチ	事前学習	障害のある人が活用できる社会資源について調べておく。	
		事後学習	チームアプローチの内容と方法について、整理する。「障害のある人に対する介護福祉士の役割と他職種との連携」についてレポートを提出。	

1. 科目名 (単位数)	障害者福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2101 SCMP2101 SNMP2301 SBMP2301 PSMP2401
2. 授業担当教員	金子 勇		
4. 授業形態	講義・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>障害者を取り巻く福祉制度・政策は、日々、劇的な変化を遂げている。そして、障害者のニーズも複雑・多様化している。実践現場では、これに適切に対処することができるソーシャルワーカーが求められている。本講義においては、激しく移り変わる障害福祉制度や情勢、さらには障害者の実情について学び、ソーシャルワーカーが主体的に問題解決に取り組むことができるように知識を身につけていく。</p> <p>また、ソーシャルワーカーは多面的な視点を必要とすることから、新聞記事等、資料も用いて障害者問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ、福祉問題について共に考えていく。</p> <p>そして、障害者福祉論は、社会福祉士国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目となる。同国家試験の合格を目指すためには、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」が得点源となるような受験対策が必要となる。そのため、本講義においては、過去の国家試験を分析・検討し、それに沿った内容も講義する。</p>		
8. 学習目標	<p>障害者福祉論が終了した時点で、具的に以下の点を理解し、説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 ・障害者福祉制度の発展過程 ・障害者自立支援制度と近年における改正状況 ・障害者福祉に関連する法令の概要 ・相談支援事業所の役割と実際 ・障害者福祉の専門職の役割と実際 ・障害者福祉の他職種連携・ネットワーク ・障害者自立支援制度と介護保険制度の関係 ・障害者権利条約の批准 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>・障害者総合支援法・ 国際障害分類(ICIDH)及び国際生活機能分類(ICF)・障害者雇用に関する課題レポート3題(字数1600程度)を提出する。 執筆内容の詳細については本講義中に指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (第 5 版)』中央法規。</p> <p>参考図書等については随時提示する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 60% 授業参加度 30% 授業態度 10%</p> <p>授業での積極的な発言や提案、発表が加味される。 最低出席回数の基準は東京福祉大学学則第 36 条に則り最低出席回数を満たしていない学生の評価は行いません。授業中の私語、他の授業準備等、携帯電話の操作の行為を発見した場合、その授業を欠席扱いとします。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>行政の障害者の支援は措置制度から支援費制度、障害者自立法へと変わってきたが、さらに障害者総合支援法へと、この 10 年制度が激しく変化し障害者福祉は摸索を重ねた激動の時代でした。障害者総合支援法によって障害者支援が展開されているが、この理解を深めるとともに障害者支援は法律に基づく制度支援としての福祉サービスにとどまるだけでなく福祉現場での相談業務や作業支援や介護支援、またグループ活動への具体的支援を通して障害当事者や家族に直接関わる援助専門職員の臨床的人格及び障害者の人権や人間性を尊重できる専門職倫理が求められる。</p> <p>社会的弱者としてではなく障害(児)者の可能性に着目した存在丸ごとの人間支援であることを明確に自覚し学習に取り組まれることを望む。</p> <p>① 授業中に私語、居眠り、飲食しないこと。 ② 教室を散らかしたり、机を汚したりしないこと。 ③ マナーを守り大学生としての自覚的学習態勢を確立すること。 ④ 社会人としての必要な自立姿勢を確立すること。 ⑤ 教科書は法律の改正が行われ内容が変更されているので、今年度ものを購入すること。また「社会福祉小六法」に基づいて頻繁に授業で使用するので今年度ものを必ず購入すること。</p>		
13. オフィスアワー	木曜日を予定しているが、具体的な時間については別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 ・障害の概念 ・障害者の実態(障害種類・年齢・原因・疾患別生活実態) ・障害者の福祉・介護需要の実態(福祉・介護に関わるニーズ等 ・障害者の地域移行や就労の実態	事前学習	教科書の第 1 章「障害者を取り巻く社会情勢と生活実態」を通読しておくこと
		事後学習	障害とは何かを国際障害分類を中心にまとめる。身近な障害者を事例として学習ノートにまとめ具体的な理解とする。
第 2 回	2. 障害者福祉制度の発展過程 ・障害者福祉とは ・国際的動向(リハビリテーション、ノーマライゼー	事前学習	教科書の第 1 章第 1 節「障害者を取り巻く社会情勢」を熟読しておくこと。
		事後学習	授業で討論し得られた知見、気づきを学習ノート

	<p>ション、当事者運動や参加等)と今日における世界の到達点</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の障害者福祉の動向 		にまとめ自分の理解を深める。
第 3 回	<p>3. 障害者総合支援法</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者総合支援法の目的と手続き 障害者福祉の種類と内容 権利擁護と苦情解決 	事前学習	教科書第 3 章第 1 節「障害者総合支援法の理念・考え方」を通読しておくこと。
		事後学習	障害者総合支援法について授業で気づいた大事な点について学習ノートにまとめる。
第 4 回	<p>4 組織及び団体の役割と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 国や地方公共団体の役割 民間非営利団体や民間営利団体の役割 労働関係機関の役割 教育機関の役割 	事前学習	教科書第 5 章「組織・機関の役割」を熟読しておくこと。
		事後学習	気づいた点、気になったことを学習ノートにメモする。
第 5 回	<p>5. 専門職の役割と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門職の役割 サービス管理責任者の役割 居宅介護従事者の役割 	事前学習	教科書第 6 章「専門職の役割と実際」を通読しておくこと。
		事後学習	基本相談支援、地域相支援、計画相支援とは何かについてしっかり理解し学習ノートにまとめる。
第 6 回	<p>6 他職種連携、ネットワークと実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療関係者との連携 労働関係者との連携 教育関係者との連携 連携の方法と実際 	事前学習	教科書第 7 章「他職種・ネットワーク」の施設支援から地域生活支援への福祉観の変化に注目しながら通読すること。
		事後学習	当事者の主体的な生活とは何かについて生活者支援の連携について学習ノートにまとめる。
第 7 回	<p>7. 相談支援事業所の役割と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所の組織体系 相談支援事業所の活動の実際 	事前学習	教科書第 3 章第 6 節「地域生活支援事業熟読しておくこと。
		事後学習	障害者福祉関係で就職を考えている者は、一度事業所の見学をすること。
第 8 回	<p>8. 身体障害者福祉法</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体障害者福祉法概要 身体障害者手帳と関連制度 	事前学習	身体障害者福祉法を福祉小六法により通読しておくこと。
		事後学習	法の制定の経緯と法の目的についての指摘事項をしっかりと覚え学習ノートに記録すること。
第 9 回	<p>9. 知的障害者福祉法</p> <ul style="list-style-type: none"> 知的障害者福祉法の概要 療育手帳と関連制度 	事前学習	知的障害者福祉法を福祉小六法により通読しておくこと。
		事後学習	法の制定の経緯と法の目的についての指摘事項をしっかりと覚え学習ノートに記録すること。
第 10 回	<p>10. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要 精神保健福祉手帳と関連制度 	事前学習	精神保健福祉法を福祉小六法により通読しておくこと。
		事後学習	法の制定の経緯と法の目的についての指摘事項をしっかりと覚え学習ノートに記録すること。
第 11 回	<p>11. 発達障害者支援法</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障害者支援法の概要 発達障害者支援センターの役割 	事前学習	「発達障害者支援法」を福祉小六法により通読しておくこと。
		事後学習	法の制定の経緯と法の目的についての指摘事項をしっかりと覚え学習ノートに記録すること。
第 12 回	<p>12. 障害者基本法</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者基本法の概要 2004 年 6 月の改正とその経緯 その他の障害や難病の附帯決議(参議院内閣委員会)について 	事前学習	教科書第 2 章第 1 節「障害者基本法」を通読しておくこと。
		事後学習	法の制定の経過と法の目的についての指摘事項をしっかりと覚え学習ノートに記録すること。
第 13 回	<p>13. 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の概要と課題</p>	事前学習	教科書第 2 章第 7 節「医療観察法」を通読しておくこと。
		事後学習	法の目的、対象、手続、処遇について学習ノートに記録すること。
第 14 回	<p>14. 高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 バリアフリー社会の実現と課題 	事前学習	福祉小六法の「バリアフリー新法」を通読しておくこと。
		事後学習	法の目的、基本方針について理解し要点を学習ノートに記録すること。
第 15 回	<p>15. 障害者の雇用の促進等に関する法律</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者の雇用の促進等に関する法律の概要 障害者の雇用・就労に関する課題 	事前学習	福祉小六法の障害者雇用促進法を通読しておくこと。
		事後学習	法の目的、主な内容を理解し要点を学習ノートに記録すること。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	障害の理解 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2314 SNMP2114 SCMP2314 SBMP2314
2. 授業担当教員	岡田 稔・山下 喜代美・荻野 基行		
4. 授業形態	講義、グループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は介護福祉士養成の必修科目であることから、本科目を履修場合は「 身体構造と機能 I 」を履修していること、また、「 発達と老化の理解 II 」、「 認知症の理解 II 」を合わせて履修すること。		
7. 講義概要	障害の基礎的理解として、障害の概念や障害者福祉の基本理念を理解する。また、障害のある人の日常生活に及ぼす影響を理解した上で、障害のある人やその家族への生活支援を行うための根拠となる知識を習得することを目的とする。 事例や視聴覚教材等を通して、具体的に障害を理解できるような授業を展開する。		
8. 学習目標	障害の理解 I が終了した時点で、下記について目標達成することが期待される。 1. 障害の概念や障害の基本的理念が理解でき、その人らしい生活を考えることができる。 2. 生活モデル、ICF の概念が理解でき、環境改善のあり方を考えることができる。 3. 身体的、精神的障害について理解でき、ノーマライゼーションの考え方を明らかにすることができる。 4. 障害が及ぼす日常生活への影響やバリアが理解でき、その対応を考えることができる。 5. 障害のある人に対する介護の基本的視点が理解でき、生活ニーズを把握することができる。 6. 障害のある人だけでなく、その家族とどう関わるか理解でき、専門職としての役割を考えることができる。 7. 障害の種類や特性に応じた保健・医療・福祉との連携と地域におけるサポート体制を理解した上で、地域で普通に暮らすことのできる社会づくりを考えていくことができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に提示し、ミニレポートを作成して提出してもらう。(第2,3,11,12,13回) 課題 I : 各専門職の種類や特徴について調べる。(第14回 所定の用紙) 15回まとめをふまえてレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 谷口敏代編『最新介護福祉全書 11 障害の理解』メヂカルフレンド社。		
11. 成績評価の方法	レポート 70% 授業態度 30% 理由の申し出がない場合、欠席 10 点減点、遅刻、早退は 3 回で 10 点減点とする。 尚、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	授業中のマナー、ルールは守ること 【出欠席について】 ・やむを得ず、遅刻、早退、欠席する場合は、その理由を申し出ること。何もない場合は減点対象とする。 【マナー、ルールについて】 ・授業中、私語はしない。 ・携帯電話などは電源を切るかマナーモードにする。また、かばん等に必ずしまっておく。 ・居眠りはしない。 ・他学生の学習の妨げになるようなことはしない。 ・明らかに授業態度が不適切と判断された際は、厳格な指導を行うが、指導後も授業態度の改善が見られない場合は、たとえ全出席であっても F 評価になる。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 「障害の理解 I」のねらい、単元の解説、担当教員について テーマ「わが国の障害者の実態」 わが国における障害者の分類のもと、身体障害者、知的障害者、精神障害者の数について、数値的データを基に実態について理解していく。また、専門職として支援していく上で障害者が持つニーズの把握を概略的に理解できるように進めていく。資料配布(岡田)	事前学習	シラバスを読み、授業の内容の理解をする
		事後学習	わが国の障害者の実態を理解し、障害者支援の必要性を整理する
第 2 回	テーマ「障害の捉え方」 医学的側面から、身体、感覚、内部機能、精神、知的、高次脳機能、難病などの障害とは何かを理解する。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。(山下)	事前学習	障害の捉え方について考えておく
		事後学習	それぞれの障害の医学的側面を整理する
第 3 回	テーマ「ノーマライゼーション」 障害者とノーマライゼーションについて理解すると共に、わが国におけるノーマライゼーションの理念について、具体的にどのような形で実現されているかについて理解を深めていく。また、ノーマライゼーションの具体例についてもふれながら、専門職として実践につなげられるように進めていく。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。資料配布(荻野)	事前学習	障害者とノーマライゼーションについて考える
		事後学習	障害者支援に必要なノーマライゼーションについて整理する
第 4 回	テーマ「リハビリテーションの概念」 リハビリテーションの目標としての全人間的復権、社会的自立について理解する。(山下)	事前学習	障害者におけるリハビリテーションを考える
		事後学習	障害者におけるリハビリテー

			シヨンの必要性を整理する
第 5 回	テーマ「障害のモデル」 医学モデルと社会モデル、ICIDH と ICF を理解する。(岡田)	事前学習	テキスト pp.4～6 を読んでおく
		事後学習	ICIDH と ICF の違いをまとめる
第 6 回	テーマ「身体的障害について」 身体、感覚、内部機能、高次脳機能、難病などの障害を理解する。(山下)	事前学習	身体的障害とは何かを考える
		事後学習	身体的障害の内容及び特性について整理する
第 7 回	テーマ「精神的障害について」 精神、知的、高次脳機能などの障害を理解する。(山下)	事前学習	精神的障害とは何かを考える
		事後学習	精神的障害の内容及び特性について整理する
第 8 回	テーマ「障害が及ぼす日常生活への影響」 身体面、精神面に障害のある人に対して、日常生活における支障を理解する。(山下)	事前学習	障害者の日常生活を考える
		事後学習	障害者の日常生活の生活及び支援のあり方を整理する
第 9 回	テーマ「障害が及ぼすバリア」 障害者を取り巻く障壁について理解をしたうえで、環境(人的、物的、地域、社会)が及ぼす影響を具体的な例をあげて考えていく。多様なニーズに対応していく為に環境の重要性と多様性についても理解をしていき、障害者が生活していくうえで、適切な支援ができるように進めていく。(荻野)	事前学習	障害者の生活におけるバリアを考える
		事後学習	障害者が生活を行なう上で、バリアとなっている現状と対応について整理する
第 10 回	テーマ「障害のある人に対する介護の基本的視点」 尊厳の保持、エンパワメント、ストレングスモデルなどを介護の基本的視点とすることを理解する(荻野)	事前学習	尊厳とは何か、考えておく
		事後学習	介護の基本的な視点をまとめる
第 11 回	テーマ「障害のある人に対する介護の基本的視点」 障害のある人に対する介護の基本的視点について事例を通して深める。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。(岡田)	事前学習	前回の授業内容を復習しておく
		事後学習	事例についての介護の視点をまとめる
第 12 回	テーマ「障害のある人の家族への支援」 障害者を支援する最も身近な家族について焦点をあて、障害者を抱える家族の心理的な視点や社会における立場等について理解すると共に、家族への支援が障害者の自立支援に与える影響について具体的な例をあげながら学べるように進めていく。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。(荻野)	事前学習	障害者の家族の立場に立って考える
		事後学習	障害者の家族の理解の整理と支援について整理する
第 13 回	テーマ「連携と協働」 地域における障害者及び家族に対してのサポート体制、特に機関や職種について理解すると共に、専門職として連携をどのようにとっていくことが必要であるか、実践につなげられるように進めていく。本授業の中で学んだ内容から課題を提示し、授業内でミニレポートを作成し、提出してもらう。(荻野)	事前学習	障害者を支える機関や専門職との連携を考える
		事後学習	障害者を支える機関や専門職との連携と役割について整理する
第 14 回	テーマ「障害別における保健・医療・福祉との連携」 障害の種別における保健・医療・福祉との連携について理解する。その上で介護福祉士のそれぞれの障害別における役割について理解する。レポートでまとめる。(岡田)	事前学習	障害者に関わる保健・医療・福祉を考える
		事後学習	障害者支援における保健・医療・福祉役割を整理する
第 15 回	まとめ 障害の理解 I の概略的まとめとして事例から、「障害について」考える。(岡田)	事前学習	授業の第 1 回～14 回までに配布されたプリント等を整理し、まとめておく
		事後学習	障害を理解する視点をまとめる

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	EDTE2371								
2. 授業担当教員	加藤 敏明											
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる		5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・他科目との関係	教育学概論 (初等・小) ・教師論 (初等) ・教育課程論 (初等) の単位を取得してから履修することが望ましい。											
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	○道徳の学習指導案の作成・提出 ○模擬授業観察記録表の提出 ○教育実習で教師に求められる資質とは何か、あなたの考えを1,000字以内で記述せよ。											
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学編『教育実習の手引き 小学校教諭一種免許状』2013年。 石橋裕子・梅澤実・林幸範 編著『小学校 教育実習ガイド』萌文書林、2011年 文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』東洋出版社、2008年。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』2015年。 群馬大学教育学部附属小学校教育研究会編 『教師へのとびら (小学校教師の基礎・基本)』日本文教出版、2008年。											
11. 成績評価の方法	受講に対し、次の内容を総合して評価します。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)</td> <td style="text-align: right;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2. 学習指導案の提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 模擬授業観察記録表の提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4. 模擬授業</td> <td style="text-align: right;">総合点の20%</td> </tr> </table>				1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の30%	2. 学習指導案の提出	総合点の30%	3. 模擬授業観察記録表の提出	総合点の20%	4. 模擬授業	総合点の20%
1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の30%											
2. 学習指導案の提出	総合点の30%											
3. 模擬授業観察記録表の提出	総合点の20%											
4. 模擬授業	総合点の20%											
12. 受講生へのメッセージ	教育実習は、実習期間中実習校で指導を受ける立場と児童に対しては教師である立場という両面を学ぶ場です。そこでは、教師としての義務・責任・倫理観が求められます。そこで、次のことを守って下さい。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師を目指す大学生としての自覚と品位を身に付ける努力をすること。(服装・身だしなみ・言葉遣い等) 2. 教育実習に行く学生が授業中してはいけないこと。(教科書忘れ・私語・飲食・居眠り・携帯電話・遅刻) 											
13. オフィスアワー	第1回の時に知らせる。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第1回	シラバスの説明、班編制、授業の説明をする。(特に教育実習の意義・目的・概要について)	事前学習	教育実習の手引きを読んで要点を記録しておく。									
		事後学習	教科書 pp.8～10 を読んで、教育実習の意義や目的を理解すること。									
第2回	小学校の教育課程を理解するとともに、教師と児童との関係を理解する。(課題①教育実習で教師に求められる資質とは何か、あなたとの考えを1,000字以内で記述せよ。)	事前学習	学習指導要領を読んで、小学校の教育課程を学習しておくこと。									
		事後学習	課題①を仕上げること。									
第3回	小学校教育の概要を学習する。(小学校の教育課程、学級経営、小学校教師の一日について)	事前学習	教科書 pp.56～64 を読んで、学級経営・学級担任の役割を理解すること。									
		事後学習	小学校の学習指導の基本を身に付けること。									
第4回	小学校学習指導の基本の確認をする。(学習指導過程、学習指導形態、発問、板書、資料、教材の工夫等)	事前学習	教科書 pp.76～85 を読んで、学習指導案の形式を学習し分からないところを記録しておく。									
		事後学習	学習指導案の形式を覚えること。									
第5回	学習指導案の形式・内容・作成方法を学ぶ。	事前学習	教科書 pp.90～141 を読んで、自分なりの学習指導案を作って提出する。									
		事後学習	教材観の書き方を覚えること。									
第6回	学習指導案を作成し検討する。① (細案の学習指導案)	事前学習	道徳の学習指導案を書いてみる。									
		事後学習	道徳の学習指導案を推敲すること。									
第7回	学習指導案を作成し検討する。② (細案の学習指導案)	事前学習	道徳の学習指導案を校正すること。									
		事後学習	道徳の学習指導案を仕上げること。									
第8回	第1回模擬授業の実施(班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。)(指導案と観察記録の提出)	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。(第1回・道徳 5年生)									
		事後学習	模擬授業後の反省点をまとめて提出する。									

第 9 回	第 2 回模擬授業の実施（班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。）（指導案と観察記録の提出）	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 （第 2 回・道徳 5 年生）
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめること。
第 10 回	第 3 回模擬授業の実施（班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。）（指導案と観察記録の提出）	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 （第 3 回・道徳 5 年生）
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第 11 回	第 4 回模擬授業の実施（班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。）（指導案と観察記録の提出）	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 （第 4 回・道徳 5 年生）
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第 12 回	第 5 回模擬授業の実施（班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。）（指導案と観察記録の提出）	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 （第 5 回・道徳 5 年生）
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第 13 回	第 6 回模擬授業の実施（班ごとに前に出て模擬授業を行い、参観者は観察記録をとり、それをもとに意見交換を行う。）（指導案と観察記録の提出）	事前学習	グループごとに模擬授業の練習をしておくこと。 （第 6 回・道徳 5 年生）
		事後学習	模擬授業の反省点をまとめて提出する。
第 14 回	教育実習直前の準備 （実習日誌の書き方・実習録の書き方、準備等）	事前学習	教科書 pp.176～184 を読んで、実習日誌の書き方をまとめて提出する。
		事後学習	実習指導の準備についてまとめたものを提出する。
第 15 回	小学校教師の一日の学校での仕事について、学習のまとめをする。実習終了時の挨拶と礼状の書き方を学ぶ。	事前学習	教科書 p.40 と p.58 を読んで、教師の一日の仕事を覚えること。pp.186～194 を読んで記録しておく。
		事後学習	教師としての挨拶・礼状を書いておく。

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	EDTE2371 EDTE3371
2. 授業担当教員	富永 弥生		
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 		
9. アサシメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成に向けた教材研究 ・学習指導案の作成、提出 ・模擬授業観察記録の提出 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京福祉大学編『教育実習の手引き』。 ・宮崎猛・小泉博明『教育実習パーフェクトガイド』小学館、2015 年。 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京学芸大学附属小金井小学校『あすの授業アイデア チョイ引き活用事典』学事出版、2006 年。 ・文部科学省『小学校学習指導要領解説』国語編、算数編、他、2008 年。 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の教材に使用する文具等 		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題(学習指導案、模擬授業、模擬授業観察記録) 60%、受講態度 40%とする。 ・遅延の場合は遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出すること。 ・本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義では、教育実習に向けて指導技術を学び、演習を行うことが中心となる。教育実習生は、児童にとっては「先生」となるため、教師として児童に関わる自覚をもち、教師としての態度を養うことを意識して、演習に取り組むことを求める。教育実習に向けて不安に感じることを解消して実習に臨めることを期待している。そのため、レスポンスシートへの記述はもちろん、授業内に受講生のみなさんと対話を十分にできるよう努めるので、積極的に質疑をしてほしい。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 教育実習の意義・目的、概要	事前学習	シラバスを読み、概要を理解する。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 2 回	教科指導の基礎的な指導技術について	事前学習	教科書の指定箇所を読み、概要を理解する。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 3 回	学習指導案の作成について 教材研究の進め方について	事前学習	教科書の指定箇所を読み、概要を理解する。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 4 回	教材・教具の意義と作成について 演習①(模擬授業で扱う教科・学年等の検討)	事前学習	演習で取り組む教科等の希望を考える。
		事後学習	模擬授業で扱う教科等に応じた教材研究を行う。
第 5 回	演習② (模擬授業の学習指導案作成)	事前学習	模擬授業で扱う教科等に応じて教材研究を行った資料を持参するよう準備する。
		事後学習	作成中の学習指導案への加除修正案を考え、指定の用紙に記述する。
第 6 回	演習③ (模擬授業の学習指導案作成、教材・教具の作成)	事前学習	作成中の学習指導案で活用する予定の教材・教具の作成に必要な文具等を準備する。
		事後学習	模擬授業の学習指導案を完成させた後、教材・教具の作成を進める。
第 7 回	演習④ (授業の観察と分析の方法、参観の視点)	事前学習	教科書の指定箇所を読み、概要を理解する。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 8 回	演習⑤ (模擬授業の実施、観察・分析)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 9 回授業開始時に提出)
第 9 回	演習⑥ (模擬授業の実施、観察・分析)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 10 回授業開始時に提出)

第 10 回	演習⑦ (模擬授業の実施、観察・分析)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 11 回授業開始時に提出)
第 11 回	演習⑧ (模擬授業の実施、観察・分析)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 12 回授業開始時に提出)
第 12 回	演習⑨ (模擬授業の実施、観察・分析)	事前学習	模擬授業を実施する人は、発問、資料、板書計画等を検討し、指導案や資料を印刷する。
		事後学習	模擬授業を実施した人は、個別に修正指導案を作成する。(第 13 回授業開始時に提出)
第 13 回	教育実習の準備① (ノートやワークシート等へのコメントの書き方、評価の仕方)	事前学習	模擬授業観察記録をまとめ、指定の用紙に記述する。(第 13 回授業開始時に提出)
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 14 回	教育実習の準備② (実習日誌等の書き方、授業中の事故の防止) ※外部講師による講話含む	事前学習	教科書の指定箇所を読み、概要を理解する。
		事後学習	授業内容を復習し、理解が不十分な点があれば質問事項をノートに記述する。
第 15 回	教育実習の準備② (礼儀・マナー、服装・持ち物、他)	事前学習	教科書の指定箇所を読み、概要を理解する。
		事後学習	授業全体をふり返り、自分の課題を明確にする。教育実習開始までの取組を計画する。

1. 科目名 (単位数)	小学校教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	SJEL3456						
2. 授業担当教員	福島 裕									
4. 授業形態	基本的には講義、実習等を行い、グループ活動等を取り入れる		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	3年次に履修する。(こども学科は2年次に履修)									
7. 講義概要	教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを育成する。内容としては、教育実習の意義、目的、教育実習の概要、教育実習生としての基本姿勢・生活態度、教育実習の心構え等と、教科等の学習指導案の作成及び授業実践、教育実習日誌の作成等教育実習に必要な内容について学習する。									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人(教育公務員)としての自覚をもち、使命感をもって教育実習に臨めるようになる。 2. 教育実習での自己の課題を考え、明確にし、自信を持って教育実習ができるようになる。 3. 道徳の指導計画・学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるようになる。 4. 学校の環境や生活の流れ、学級経営の実際等、教育実習に必要な事項を理解できるようになる。 									
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>○それぞれの教科の指導法で学習した成果を生かし、さらに工夫・改善した学習指導案(国語、算数)を作成し提出すること。</p> <p>○観察評価表や自己評価表を作成・提出する。</p>									
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○東京福祉大学編「教育実習の手引き」(2015 年版)</p> <p>○文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編、国語編、算数編』東洋館出版社(平成 20 年発行)</p>									
11. 成績評価の方法	<p>○受講態度、学習指導案の作成、模擬授業、自己評価表を総合して評価する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 国語、算数の指導案作成・提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>2 模擬授業の実施</td> <td style="text-align: right;">総合点の 40%</td> </tr> <tr> <td>3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出</td> <td style="text-align: right;">総合点の 20%</td> </tr> </table> <p>なお、ア、履修要項「授業について」の「7 単位の認定」により、授業時数の 4 分の 3 以上(15 回中 12 回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。</p> <p>イ、授業態度の悪い学生は減点します。また、指導後の改善が見られない場合は F 評価になることもある。</p>				1 国語、算数の指導案作成・提出	総合点の 40%	2 模擬授業の実施	総合点の 40%	3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出	総合点の 20%
1 国語、算数の指導案作成・提出	総合点の 40%									
2 模擬授業の実施	総合点の 40%									
3 観察評価表・自己評価表等の作成・提出	総合点の 20%									
12. 受講生へのメッセージ	<p>○充実した教育実習を行うために、児童の視点を大切に多面的な教材研究と多様な学習過程を理解し、実践できるようにします。そのためにも、受講生の皆さんに以下のことを望みます。</p> <p>ア 事前学習を重視し、十分に準備して授業に臨む。</p> <p>イ 言葉を大切に、豊かな表情、明確な言葉遣いを身につける。</p> <p>ウ それぞれの教材が児童にとってどういう意味を持っているか、常に考える習慣を身につける。</p> <p>エ 教材作成、発問・板書等の指導方法や指導技術を生かし模擬授業に取り組むこと。</p> <p>オ 社会人としての教養や資質を高める努力をすること。</p> <p>例 豊かな知識と深い考え方ができるようにするとともに、教材研究を深め、児童の発達段階に即した教材づくりに心がける。</p>									
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション、教育実習の意義・目的、概要について	事前学習	教科書、ノート、資料整理用ファイル等の準備をしておく。							
		事後学習	「手引き」の実習の意義・目的、概要等の重要事項を整理しまとめる。							
第 2 回	小学校教育の概要について 小学校の教育課程の実際 学校の組織、小学校教師の 1 日	事前学習	小学校学習指導要領解説「総則編」P99～P111 を読み、内容を把握する。							
		事後学習	小学校教育に関わる法規の内容を整理して要点をまとめる。							
第 3 回	模擬授業 I (国語) 学習指導案の作成① 一般的な指導案形式 指導案「国語」参考例の分析	事前学習	参考例の本時の部分をよく読み、一般的な指導案の内容を理解しておく。							
		事後学習	分析した内容について、重要点を確認しノートに整理しておく。							
第 4 回	模擬授業 I (国語) 学習指導案の作成③ 指導案「国語」展開案の作成	事前学習	展開案作成の要点を理解し、指導案に記載する必要項目をノートに整理しておく。							
		事後学習	作成した部分の展開案をグループ毎に話し合い、改善点を修正する。							
第 5 回	模擬授業 I (国語) 学習指導案の作成④ 指導案「国語」展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完了の部分について、一人一人の考えを整理しまとめておく。							
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い、模擬授業に備える。							
第 6 回	模擬授業の実施① 観察、評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、学習資料の準備、発問、板書計画等を整理しておく。							
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や課題等をノートにまとめる。							
第 7 回	模擬授業の実施② 観察、評価	事前学習	先行実践の課題を生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。							
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。							

第 8 回	模擬授業の実施③ 観察、評価	事前学習	これまでの授業実践を生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第 9 回	模擬授業Ⅱ(算数) 学習指導案の作成① 指導案「算数」 展開案の作成	事前学習	算教科指導法で学習した指導案作成について、理解している事柄を再確認しておく
		事後学習	作成した部分の展開案について、グループで話し合ったことをもとに修正をしておく。
第 10 回	模擬授業Ⅱ(算数) 学習指導案の作成② 指導案「算数」 展開案の完成・提出	事前学習	展開案の未完成部分について、自分の考えや指導のアイデア等をノートにまとめる。
		事後学習	完成した展開案を、グループで最終チェックを行い模擬授業に備える。
第 11 回	模擬授業の実施① 観察、評価	事前学習	授業のシナリオをつくり、各種資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の改善点等をノートにまとめる。
第 12 回	模擬授業の実施② 観察、評価	事前学習	前回の実践上の課題を反映させた授業のシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題等をノートにまとめる。
第 13 回	模擬授業の実施③ 観察、評価	事前学習	これまで課題を解決するために講じた手立てを生かしたシナリオをつくり、資料の準備、発問、板書計画等の整理をしておく。
		事後学習	相互評価表、自己評価表を整理し、反省点や今後の課題解決に向けて取り組むことをノートにまとめる。
第 14 回	教育実習直前の準備① 実習日誌の書き方、実習録の書き方、 参考例をもとに作成する	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明なことや疑問点を整理しておく。
		事後学習	実習日誌を記述するうえでの重要なポイントを理解し、記録できるようにする。
第 15 回	教育実習直前の準備② 礼儀・マナー、服装・持ち物、 実習最終日のこと等 学習のまとめ	事前学習	教科書『教育実習の手引き』の該当箇所の概要を把握し、不明な点や質問事項を整理しておく。
		事後学習	教育実習の重要な点である「礼儀・マナー、服装・持ち物、実習最終日のこと」等についてその意味を理解し、確実に身に付けるようにする。

1. 科目名 (単位数)	少年と犯罪 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1353 GELA1333
2. 授業担当教員	梶原 洋生		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義を中心とするが、グループ討議やケース研究の演習などを併用する。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における処遇システムなどについて理解を深め、更には犯罪、非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また、効果的な治療、処遇の方法、犯罪被害者の支援等についても考察する。</p> <p>合わせて、近年、少年非行は凶悪化していると言われるが、本当に少年事件は凶悪化しているのか科学的、統計的に検証するとともに、少年非行に対する刑罰と保護のあり方について考察を加える。</p>			
8. 学習目標	<p>1 少年非行の実情及び時代背景を反映した非行内容等の変化について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 犯罪・非行の原因とその発生機序について、素質・環境の両面から理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2 非行少年にかかる刑事司法機関、少年保護機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。</p> <p>3 事例研究(ケーススタディ)に基づき、少年非行の原因や適切な処遇のあり方について理解し、発表することができるようになる。</p> <p>4 以上を通じて、将来、この種の専門機関(少年処遇機関)で働くことの意義を理解し、説明できるようになるとともに、就職のために必要な関連知識を修得することができる。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。</p> <p>2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマ:「少年事件における家庭裁判所の役割について」</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】藤原正範『少年事件に取り組む一家裁判官の現場から』岩波新書。</p> <p>【参考書】鮎川潤『新版 少年非行の社会学』世界思想社。</p> <p>日本弁護士連合会『子どもの権利 ガイドブック』明石書店。</p> <p>松嶋秀明『関係性のなかの非行少年』新曜社。</p>			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生へのメッセージ	社会事象である非行・犯罪問題について考える習慣を身に付けたい。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに	事前学習	教科書の第 1 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	配布資料について 200 字以内でまとめる。	
第 2 回	子ども・児童・少年の権利という考え方	事前学習	第 1 章内の事例について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	「成長権」について参考文献を図書館で調べ、200 字以内でまとめる。	
第 3 回	社会と法の視点から①—出生の権利論—	事前学習	「出生」の定義について調べる。	
		事後学習	「出生」について 200 字以内でまとめる。	
第 4 回	社会と法の視点から②—発達の権利論—	事前学習	「発達」の定義について図書館で参考文献を探してみる。	
		事後学習	「発達」について 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	社会と法の視点から③ —子どもの権利論—	事前学習	「子ども」のルールについて『権利』の視点で取り上げた文献を探してみる。	
		事後学習	「子どもと条例」について 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	少年と司法—権利に関する世界の動き—	事前学習	「権利条約」について調べる。	
		事後学習	「権利条約」について 200 字以内でまとめる。	
第 7 回	少年司法における保護と処遇	事前学習	「健全育成」について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	「健全育成」の参考文献について 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	家庭裁判所の現場と少年の司法福祉	事前学習	「家庭裁判所」について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	「司法福祉」について 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	刑事司法と少年司法	事前学習	第 2 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 2 章について、参考文献を踏まえて 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	少年事件のむずかしさ	事前学習	第 3 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 3 章内の事例を中心に 200 字以内でまとめる。	
第 11 回	修復的司法① —年齢という課題—	事前学習	第 4 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	第 4 章内の事例を中心に 200 字以内でまとめなおす。	
第 12 回	修復的司法②—少年事件のむずかしさ—	事前学習	第 5 章内の裁判例を熟読する。	
		事後学習	第 5 章について 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	「被害者」から少年の非行・犯罪を考える	事前学習	第 6 章内の事例を整理してまとめる。	
		事後学習	第 6 章について 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	非行の科学とソーシャルワーク	事前学習	第 7 章について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	配布資料の内容について 200 字以内でまとめる。	
第 15 回	まとめ	事前学習	教科書全般(第 1 章—第 7 章)の熟読。	
		事後学習	参考資料全般を再度読み直して 200 字以上でノートにまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	情報科指導法Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3345
2. 授業担当教員	森 正人			
4. 授業形態	講義、演習および実習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義は、高等学校教諭免許状「情報」を取得しようとする学生を対象とし、高等学校・教科「情報」の指導法の基本的事項について学習する。「情報科指導法Ⅱ」では、「情報科指導法Ⅰ」で学習したことを基礎として、教材作成や指導案の作成、模擬授業の実施、評価の仕方等について実習を通して実践的に学習する。			
8. 学習目標	情報科指導法Ⅰで学習したことを踏まえ、実際に授業計画立案や教材・教具開発に必要な知識・技能を身に付けられる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	データ処理演習で、指定したデータを処理した結果の提出。 授業設計演習で作成した、需要案の提出。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 松原伸一著『教科「情報」の実習事例』開隆堂。 『高等学校学習指導要領解説情報編』文部科学省。			
11. 成績評価の方法	試験 50% 課題提出 30% 受講姿勢 20% ※講義中の質問・発言・発表等に関して、状況に応じて点数を与える場合があります。たとえ、発言内容に間違いがあったとしても、それによって減点することはありませんので恐れずに発言してください。			
12. 受講生への メッセージ	これまで受講してきた、様々な専門科目で習得した知識を総動員してもらいます。データ処理、通信、コンピュータアーキテクチャに関する実習を通して、理論と実物との関係を理解してもらった上で、授業の設計と教材開発の演習を行います。相当に負荷の高い内容になると思いますので、覚悟してください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	情報とデータ処理の基礎	事前学習	教科書 pp.122～128 を読んでおく	
		事後学習	測定値のデジタル化における諸問題を理解する	
第 2 回	データ処理実習 (1) 測定誤差とデータ処理	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	実験値の処理に関する例題を解き提出する	
第 3 回	データ処理実習 (2) データベース技術の教材化	事前学習	データベース理論の復習をしておく	
		事後学習	課題を解き提出する	
第 4 回	学校とコンピュータネットワーク	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	学校のネットワークの特殊性について考察する	
第 5 回	情報技術とコンピュータの歴史	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	情報技術を、「記録」「通信」「処理」の分野に区別し、考察を行う	
第 6 回	マイクロコンピュータ実習 (1) 基本概念	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	講義で行った操作を復習しておく	
第 7 回	マイクロコンピュータ実習 (2) アセンブリの基礎	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	例題プログラムをきちんと理解する	
第 8 回	マイクロコンピュータ実習 (3) アセンブリプログラミング	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	課題のプログラムを作成する	
第 9 回	マイクロコンピュータ実習 (4) アセンブリプログラミング	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	課題のプログラムを作成する	
第 10 回	マイクロコンピュータ実習 (5) アセンブリプログラミング	事前学習	配布資料を読んでおく	
		事後学習	課題のプログラムを作成する	
第 11 回	授業設計演習 (1)	事前学習	大まかな構想を考えておく	
		事後学習	空き時間を活用し作業を進める	
第 12 回	授業設計演習 (2)	事前学習	自分の作業を継続する	
		事後学習	空き時間を活用し作業を進める	
第 13 回	授業設計演習 (3)	事前学習	自分の作業を継続する	
		事後学習	空き時間を活用し作業を進める	
第 14 回	授業設計演習 (4)	事前学習	発表準備をしておく	
		事後学習	他者の発表内容を検討しておく	
第 15 回	授業設計演習 (5)	事前学習	発表準備をしておく	
		事後学習	他者の発表内容を検討しておく	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。			
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに課題を出し、指定する期日までに提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末レポートにより総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	この講義では、大学生として最低限身につけるべき事柄を扱います。最終的には本講義で扱う各学習テーマの全てを習得して、その後の勉強や活動に役立たせてほしいと思っています。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：コンピュータ利用に関する確認、 情報処理学習室の使い方、質問・相談	事前学習	これまでに学んだ情報処理やコンピュータ操作の内容について各自で確認しておくこと。	
		事後学習	コンピュータの使い方について、個人での利用と大学や社会での利用の違いについて考える。	
第 2 回	コンピュータの基礎知識 ：PC の使い方、OS の基本操作、	事前学習	Operating System (OS) について調べる。	
		事後学習	パソコンの基本操作を確認して、使い方に慣れる。	
第 3 回	ファイル操作、ドライブとメディア	事前学習	インターネットについて、これまでどのような利用をしたことがあるのかをまとめる。	
		事後学習	インターネットを活用して情報検索を行う。	
第 4 回	インターネット ：ブラウザの利用、web 紹介、情報検索など	事前学習	ネットワークにおけるプロトコルについて調べる。	
		事後学習	URL について、その意味や日常での使われ方をまとめる。	
第 5 回	インターネット ：しくみに関する基礎知識 (プロトコル、ドメインなど)	事前学習	パソコンで利用する電子メールについて調べる。	
		事後学習	携帯電話やスマートフォンのメールと、パソコンのメールとの違いをまとめる。	
第 6 回	電子メール ：メール管理方法、アドレス帳、ファイル添付、 ネチケット	事前学習	電子メール利用のマナーについて調べたうえで自分の考えをまとめる。	
		事後学習	メールを実際に使って、その使い方に慣れる。	
第 7 回	情報セキュリティ ：コンピュータウイルス、脆弱性、暗号化、 スパムメールなど	事前学習	コンピュータウイルスについて調べる。	
		事後学習	情報セキュリティの観点から、日常で気をつけるべきことをまとめる。	
第 8 回	Microsoft Word (1) ：基本操作、ファイルの作成・保存、文書の作成	事前学習	ワープロソフトについて、これまでどのような利用をしたことがあるのかをまとめる。	
		事後学習	Word の基本操作を確認して、その使い方に慣れる。	
第 9 回	Microsoft Word (2) ：ページ設定、文字の編集 (書体、大きさ、 装飾)	事前学習	書体について、どんな種類があり、どのように分類されているのかを調べる。	
		事後学習	文字の編集について、操作方法を確認する。	
第 10 回	Microsoft Word (3) ：行揃え、インデント	事前学習	インデントはどんな場合に使うのかを調べる。	
		事後学習	インデントの使い方を確認して、その操作に慣れる。	
第 11 回	Microsoft Word (4) ：罫線 (表の作成)	事前学習	Word における表の活用事例を調べる。	
		事後学習	表の作成の仕方を確認して、その操作に慣れる。	
第 12 回	Microsoft Word (5) ：図形描画、クリップアート	事前学習	Word における図形描画について調べて、どんなことができるのかを確認する。	
		事後学習	図形描画機能を使って、自由に図を描く練習をする。	
第 13 回	Microsoft Word (6)	事前学習	これまでに学習した機能や操作の確認をする。	

	: 基本機能を使った応用演習	事後学習	応用演習の課題に取り組み、理解が不十分な部分を復習する。
第 14 回	Microsoft Word (7) : 課題演習	事前学習	応用演習の課題に取り組み、理解が不十分な部分を予習する。
		事後学習	Word を使った操作について、理解が不十分な部分を確認する。
第 15 回	春期の学習内容のまとめと確認	事前学習	春期に扱った内容に関して、プリントやノートなどを確認する。
		事後学習	春期に扱った内容に関して復習をして、重要な部分をまとめる。
第 16 回	秋期イントロダクション : 春期内容の確認と秋期に扱うテーマの説明と事例紹介	事前学習	インターネットや電子メール、Word の使い方の確認をする。
		事後学習	プレゼンテーションや表計算の活用方法について考える。
第 17 回	プレゼンテーション技法 (1) : Microsoft PowerPoint の基本操作	事前学習	これまでにどんなプレゼンテーションを行ったことがあるのかをまとめる。
		事後学習	PowerPoint の基本操作について確認する。
第 18 回	プレゼンテーション技法 (2) : Microsoft PowerPoint を使ったビジュアル表現	事前学習	見やすいスライドを作るために気をつけることについて考える。
		事後学習	PowerPoint での図や画像の扱い方について確認する。
第 19 回	プレゼンテーション技法 (3) : 自己紹介をするスライドの作成	事前学習	プレゼン課題の内容について考える。
		事後学習	プレゼン課題に取り組み、操作方法などを確認する。
第 20 回	プレゼンテーション技法 (4) : 自己紹介をするスライドの作成	事前学習	プレゼン課題に取り組み、課題の完成を目指す。
		事後学習	周りの人のスライドについて、良い点と悪い点を考える。
第 21 回	Microsoft Excel (1) : 表計算ソフトの活用例の紹介、基本操作、データの入力	事前学習	これまでに Excel を使ってどんなことを行ったことがあるのかをまとめる。
		事後学習	Excel の基本操作について確認する。
第 22 回	Microsoft Excel (2) : 四則演算、数式	事前学習	Excel における数値計算について、基本操作を確認する。
		事後学習	日常において、Excel を使った数値計算をどんなことに活用できるのかを考える。
第 23 回	Microsoft Excel (3) : 基本的な関数 (合計、平均、最大値、最小値など)	事前学習	Excel における関数とは何かを調べる。
		事後学習	基本的な関数について、その使い方を確認する。
第 24 回	Microsoft Excel (4) : グラフの作成、グラフの特徴と利用	事前学習	グラフの種類と特徴について調べてまとめる。
		事後学習	グラフの作成方法を確認する。
第 25 回	Microsoft Excel (5) : 関数の利用 (if、count、rank など)	事前学習	If 関数について調べ、どのような場合に使われるのかを考える。
		事後学習	授業で取り上げた関数の使い方を確認する。
第 26 回	Microsoft Excel (6) : 基本機能を使った応用課題	事前学習	これまでに学習したことを確認する。
		事後学習	応用課題に取り組み、操作と内容を理解する。
第 27 回	Microsoft Excel (7) : 数値データの処理、並べ替え、フィルタリング	事前学習	数値データの並べ替えについて調べて、どんな利点があるのかを考える。
		事後学習	数値データの扱い方について確認して理解を深める。
第 28 回	Microsoft Excel (8) : 数値データ処理に関する応用課題	事前学習	学習した数値データ処理を今後どんなことに活用できるのかを考える。
		事後学習	応用課題を進め、Excel 操作と数値データについて理解を深める。
第 29 回	Microsoft Excel (9) : PowerPoint での表やグラフの利用	事前学習	PowerPoint での図表の使い方を復習しておく。
		事後学習	秋期の前半で取り組んだプレゼン課題のスライドを確認して、表やグラフの改善点を検討する。
第 30 回	秋期の学習内容のまとめと確認	事前学習	これまでの学習を振り返り、理解が不十分なところがないか確認する。
		事後学習	本授業で学んだことを、今後役に立てるために、これまでに取り組んだことを確認する。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104
2. 授業担当教員	三好 一英		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上		
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義の中で、テーマごとに課題演習を行う。 適宜、小テストを行うことがある。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 久野靖(他)監修『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2016』日経 BP 社。 杉本くみ子・大澤栄子『30 時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』実教出版。 【参考書】 きたみ りゅうじ『キタミ式イラスト IT 塾 平成 28 年度「IT パスポート」』技術評論社。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他、講義中に適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	課題の提出回数と実技試験の結果により成績評価を行う。 なお、出席回数が満たない場合、単位は認められない。 すべての課題を提出かつ、実技試験に合格・・・・・・A 1つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・・・・B+ 2つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・・・・B 3つの課題を未提出かつ、実技試験に合格・・・・・・C 4つの課題を未提出または、実技試験に不合格・・・・・・F		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ、インターネットに関する知識・操作技能は、現代社会を生きる上で、必須のスキルです。 ・大学でのレポート、プレゼン、実験結果の分析などで必要とされるスキルをまずは身につけましょう。 ・大学卒業後も社会人として活躍できるだけの知識、技能の習得に努めましょう。 ・コンピュータの操作技術の習得は一朝一夕には身につけません。 ・講義時間以外にも自主的に操作方法の習得に努めてください。 		
13. オフィスアワー	授業前後の時間に非常勤講師室で質問等を受け付けます。気軽に来て下さい。 e-mail でも質問を受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション：自己紹介、簡単なアンケート、情報処理実習室の使い方、	事前学習	教科書を入手し、一通り確認しておく
		事後学習	教科書 p2・p11 を読んでおく
第 2 回	情報とは何か：コンピュータの内部 Windows の基本操作 OS のはたらき	事前学習	「パソコンの内部、オペレーティングシステム、ユーザーインターフェイス」を読んでおく
		事後学習	コンピュータの内部、OS のはたらき、ユーザーインターフェイスについて具体的に復習して理解しておく
第 3 回	コンピュータの基本要素 インターネットの利用(1)：インターネットの仕組み	事前学習	「コンピュータの基本要素、インターネットの仕組み」を読んでおく
		事後学習	コンピュータの基本要素、インターネットの仕組みについて具体的に復習して理解しておく
第 4 回	情報の単位、演算方法 インターネットの利用(2)： Web ページと HTML	事前学習	「2 進法、ビットとバイト、Web ページと HTML」を読んでおく
		事後学習	情報の単位・演算方法、Web ページと HTML について具体的に復習して理解しておく
第 5 回	インターネットの利用(3)：Web ブラウザ	事前学習	「Web ブラウザ」を読んでおく
		事後学習	Web ブラウザについて具体的に復習して理解しておく
第 6 回	インターネットの利用(4)：電子メール	事前学習	「電子メール、メールコミュニケーション」を読んでおく
		事後学習	電子メール、メールコミュニケーションについて具体的に復習して理解しておく
第 7 回	ワープロソフト Microsoft Word (1) 基本操作	事前学習	「ワープロソフト」を読んでおく
		事後学習	アプリケーション、ワープロソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 8 回	コンピュータウイルス	事前学習	「コンピュータウイルス」を読んでおく

	Microsoft Word (2) 表の作成	事後学習	コンピュータウイルスについて具体的に復習して理解しておく
第 9 回	暗号化 Microsoft Word (3) 文書の編集	事前学習	「暗号化」を読んでおく
		事後学習	暗号化について具体的に復習して理解しておく
第 10 回	ネットショッピング Microsoft Word (4) 画像の貼り付け	事前学習	「ネットショッピング」を読んでおく
		事後学習	ネットショッピングについて具体的に復習して理解しておく
第 11 回	文字コード Microsoft Word (5) アウトライン	事前学習	「文字コード」を読んでおく
		事後学習	文字コードについて具体的に復習して理解しておく
第 12 回	フォント Microsoft Word (6) 課題演習	事前学習	「フォント」を読んでおく
		事後学習	フォントについて具体的に復習して理解しておく
第 13 回	表計算ソフト Microsoft Excel(1) 基本操作・データの入力	事前学習	「表計算ソフト」を読んでおく
		事後学習	表計算ソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 14 回	LINE Microsoft Excel(2) 表の作成	事前学習	「LINE」を読んでおく
		事後学習	LINE について具体的に復習して理解しておく
第 15 回	Facebook と SNS Microsoft Excel(3) 印刷	事前学習	「Facebook と SNS」を読んでおく
		事後学習	Facebook と SNS について具体的に復習して理解しておく
第 16 回	クックパッドと価格.com Microsoft Excel(4) 絶対参照・相対参照	事前学習	「クックパッドと価格.com」を読んでおく
		事後学習	クックパッドと価格.com について具体的に復習して理解しておく
第 17 回	ファイル圧縮の仕組み：音声圧縮の仕組み Microsoft Excel(5) 基本的な関数	事前学習	「オーディオファイル」を読んでおく
		事後学習	ファイル圧縮の仕組み：音声圧縮の仕組みについて具体的に復習して理解しておく
第 18 回	ファイル圧縮の仕組み：画像圧縮の仕組み Microsoft Excel(6) if 関数	事前学習	「画像ファイル」を読んでおく
		事後学習	画像ファイルについて具体的に復習して理解しておく
第 19 回	ファイル圧縮の仕組み：動画圧縮の仕組み Microsoft Excel(7) vlookup 関数	事前学習	「動画ファイル」を読んでおく
		事後学習	動画ファイルについて具体的に復習して理解しておく
第 20 回	LAN と Wi-Fi Microsoft Excel(8) 文字列操作	事前学習	「LAN と Wi-Fi」を読んでおく
		事後学習	LAN と Wi-Fi について具体的に復習して理解しておく
第 21 回	データベース Microsoft Excel(9) グラフの作成	事前学習	「データベース」を読んでおく
		事後学習	データベースについて具体的に復習して理解しておく
第 22 回	情報システム Microsoft Excel(10) データベース	事前学習	「情報システム」を読んでおく
		事後学習	情報システムについて具体的に復習して理解しておく
第 23 回	電子マネー Microsoft Excel(11) Word との連携	事前学習	「電子マネー」を読んでおく
		事後学習	電子マネーについて具体的に復習して理解しておく
第 24 回	プレゼンテーションソフト Microsoft Excel(12) 課題演習	事前学習	「プレゼンテーションソフト」を読んでおく
		事後学習	プレゼンテーションソフトについて具体的に復習して理解しておく
第 25 回	ユニバーサルデザイン Microsoft PowerPoint(1) 基本操作, ファイルの作成・保存, 編集	事前学習	「ユニバーサルデザイン」を読んでおく
		事後学習	ユニバーサルデザインについて具体的に復習して理解しておく
第 26 回	メディアリテラシー Microsoft PowerPoint(2) 図表の貼り付け, アニメーション	事前学習	「メディアリテラシー」を読んでおく
		事後学習	メディアリテラシーについて具体的に復習して理解しておく
第 27 回	情報倫理とルール(1) Microsoft PowerPoint(3) 課題演習	事前学習	「個人情報と社会の法」を読んでおく
		事後学習	個人情報と社会の法について具体的に復習して理解しておく
第 28 回	情報倫理とルール(2) Microsoft PowerPoint(4) 課題演習	事前学習	「ネットワーク利用の際のリスク」を読んでおく
		事後学習	ネットワーク利用の際のリスクについて具体的に復習して理解しておく
第 29 回	情報倫理とルール(3) Microsoft PowerPoint(5) 発表準備	事前学習	「ネット詐欺」を読んでおく
		事後学習	ネット詐欺について具体的に復習して理解しておく
第 30 回	情報倫理とルール(4) Microsoft PowerPoint(6) 発表準備	事前学習	「著作権」を読んでおく
		事後学習	著作権について具体的に復習して理解しておく
期末試験 (実技試験)			

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)		3. 科目番号	GEBS1104 GECM1104								
2. 授業担当教員	森 正人											
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。											
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ワードプロセッサおよび表計算ソフトウェアを用いた課題を課し、その成果物データの提出を求める。 ・プレゼンテーションソフトを使った、演習を行い、その成果の発表を求める。 											
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健 共著『Microsoft Office 2013 を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社。											
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>受講姿勢</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>演習・課題提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>春期末試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>秋期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </table>				受講姿勢	40%	演習・課題提出	20%	春期末試験	20%	秋期末試験	20%
受講姿勢	40%											
演習・課題提出	20%											
春期末試験	20%											
秋期末試験	20%											
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の社会生活においてコンピュータを避けて通るのは難しいのが現状です。どうせ付き合わざるを得ないのであれば、むしろ便利に使いこなしてみよう。 ・私が提供する話題以外でも、普段、皆さんがコンピュータに関して疑問に思っていることがあれば、どんどん質問してください。 											
13. オフィスアワー	別途通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	春期講義概要、コンピュータ操作習熟度アンケート、基本的な用語等の解説	事前学習	教科書の第 1 章 (1.2 項以外) を読んでおく									
		事後学習	基本的な語句等を確認し、覚える									
第 2 回	OS (Windows) の基本、操作法	事前学習	教科書の第 2 章を読んでおく									
		事後学習	基本的な語句等を確認し、基本操作を練習しておく									
第 3 回	コンピュータネットワークとインターネット	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	基本的な語句と概念を確認しておく									
第 4 回	WWW と Web 検索	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	基本的な操作を練習しておく									
第 5 回	電子メール (1) メールクライアントソフトの基本操作	事前学習	教科書の 1.2.3 項を読んでおく									
		事後学習	操作法を復習しておく									
第 6 回	電子メール (2) メールクライアントソフトの設定など	事前学習	配布資料をよんでおく									
		事後学習	操作法を復習しておく									
第 7 回	インターネットを取り巻く諸問題	事前学習	教科書の 1.2.1 および 1.2.2 項を読んでおく									
		事後学習	自宅のコンピュータの環境を確認してみる									
第 8 回	ワードプロセッサ (1) 基本操作	事前学習	教科書 3.1 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習									
第 9 回	ワードプロセッサ (2) 文書スタイルなど	事前学習	教科書 3.2 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく									
第 10 回	ワードプロセッサ (3) 画像等の文書中への挿入など	事前学習	教科書 3.5 項を読んでおく									
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく									
第 11 回	ワードプロセッサ (4) 作表など様々な機能	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める									
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する									
第 12 回	ワードプロセッサ (5) 総合演習	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める									
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する									
第 13 回	画像処理 (1) 描画ソフトの活用	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	各画像形式の性質、使い分け等を復習する									
第 14 回	画像処理 (1) 描画ソフトの活用	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	課題を提出する									
第 15 回	画像処理 (2) 画像処理ソフトの活用 (写真など)	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	課題を提出する									
期末試験												

第 16 回	秋期講義の概要、春期のおさらい	事前学習	春期の内容を復習しておく
		事後学習	あやふやだった部分を再確認する
第 17 回	表計算ソフト (1) 基本操作	事前学習	教科書 4.2～4.3 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 18 回	表計算ソフト (2) 書式設定等	事前学習	教科書 4.4～4.5 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 19 回	表計算ソフト (3) 関数の利用	事前学習	教科書 4.6 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 20 回	表計算ソフト (4) グラフ描画	事前学習	教科書 4.7 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 21 回	表計算ソフト (5) データ処理 (ソートやフィルタリングなど)	事前学習	教科書 4.9 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 22 回	表計算ソフト (6) 総合演習	事前学習	作業の遅れている者は、追いつくように作業を進めておく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 23 回	プレゼンテーションソフト (1) 基本操作	事前学習	教科書 5.1～5.4 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 24 回	プレゼンテーションソフト (2) 画像・音声・アニメーションなどの貼り付け	事前学習	教科書 5.5 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 25 回	プレゼンテーションソフト (3) 効果的なプレゼンテーションの基礎知識	事前学習	教科書 5.6～5.8 項を読んでおく
		事後学習	習った操作を確実に実行できるように復習しておく
第 26 回	総合演習 (1) 自己プレゼンテーションファイル作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する
第 27 回	総合演習 (2) 自己プレゼンテーションファイル作成	事前学習	課題ファイル提出に向けて、作業を進める
		事後学習	教科書の章末問題に挑戦する
第 28 回	著作権問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく
第 29 回	個人情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う
第 30 回	ネットワークの諸問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	自身のネットワーク利用に関して、考察してみる

期末試験

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習 I (4 単位)	3. 科目番号	GECM1104
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル		
4. 授業形態	講義および演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。		
8. 学習目標	パーソナルコンピュータを使用した、文書作成、表計算、プレゼンテーション等の基本操作を学習すると共に、コンピュータネットワークを利用した、コミュニケーションや情報収集について学び、実践できるようになる。また、コンピュータを利用する上での技術的なトラブル解決に役立つ、OSやハードウェアに関する基礎的な知識を身につけることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業で提示された演習問題を解く。 回答は、授業終了時に回収し、「12. 成績評価の方法」にあるように成績に反映する。演習に関しては各学期別に総合評価するが、15回目と30回目の演習は別枠で評価する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名 健『MicrosoftOffice2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2014年。 【参考書】 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 また、準備したプリントを随時配布する。		
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 (授業での発表の評価を含める) 40% 2. 通常演習 40% 3. 春期総合演習 (15 回目) 10% 4. 秋期総合演習 (30 回目) 10%		
12. 受講生へのメッセージ	コンピュータを効果的に使用できるようになるのは、練習を重ねる以外にない。運転免許取得と同様に、免許の交付後は一人で操作することになるので、確実に技術を身につけることがとても大切である。最初から正しい習慣をつけましょう。情報処理演習室は解放する時間帯もあるので、本授業外でも、コンピュータを操作することを強くすすめる。本科目終了後も、コンピュータに関する質問があれば気軽に研究室へ来てください。		
13. オフィスアワー	初回授業で伝える		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	春期講義の概要、コンピュータの経験に関するアンケート 情報処理学習室の使い方 (コンピュータの起動と終了など)	事前学習	教科書の「まえがき」を読む
		事後学習	配布プリントを再度よく読む
第 2 回	コンピュータの 5 大装置と機能 (マウス、キーボード等)、 符号化、OS の基本。インターネットの仕組み	事前学習	教科書 pp. 2~4 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.28~31 を読んでおく
第 3 回	WWW : ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索 (1)	事前学習	タイピングソフトで練習すること
		事後学習	教科書 p.21 を読んでおく
第 4 回	WWW : ブラウザの使用方法、インターネットを利用した情報の検索 (2)	事前学習	前回指定した、インターネットに関する専門用語覚える
		事後学習	今回習った、CPU の概念を正確に説明できるようにする
第 5 回	電子メール : 電子メールの利用方法とメールアドレスの設定方法。電子メールの仕組み。(ただし、メールアドレスの作成状況によりこの授業は 5 回目以降に移動することもある)	事前学習	教科書 pp. 13~18 を読んでおく
		事後学習	今回配布したユーザ名とパスワードを利用して、次回まで私宛に指定された内容のメールを送る
第 6 回	Microsoft Word (1) : 文字の編集 (書体、大きさの変更および装飾など)	事前学習	教科書 pp.76~78 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 7 回	Microsoft Word (2) : ページレイアウト : 余白、ページの設定等	事前学習	教科書 pp.100~101 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 8 回	インターネットの光と影 : ウイルスチェック、著作権、インターネット中毒など・発表	事前学習	教科書 pp. 4~7 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 9 回	インターネットの光と影 : ウイルスチェック、著作権、インターネット中毒など・情報収集	事前学習	教科書 pp. 7~13 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 10 回	Microsoft Word (3) : インデント、間隔などの使い方	事前学習	教科書 pp.110~111 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 11 回	Microsoft Word (4) : クリップアート、図形描画など	事前学習	教科書 pp.146~150 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 12 回	Microsoft Word (5) : さまざまな機能を用いたレポート文書の作成 : 表と罫線	事前学習	教科書 pp.125~126 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 13 回	Microsoft Word (6) : さまざまな機能を用いたレポート文書	事前学習	教科書 p.154 を読んでおく

	の作成：ヘッダーとフッター	事後学習	課題を次回までに完成させる
第 1 4 回	Web 検索と Microsoft Word の総合演習・まとめ (1)	事前学習	教科書 pp.88~91 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 1 5 回	Web 検索と Microsoft Word の総合復習・まとめ (2)	事前学習	3 回からの課題を復習する
		事後学習	次回まで、教科書のコラム「「コピペ」って楽？」(p.166) 熟読する
第 1 6 回	秋期講義の概要・Microsoft PowerPoint (1)：箇条書き、インデント、図表の作成など	事前学習	教科書 pp.248~249 を読んでおく
		事後学習	次回まで使いたい画像を用意する
第 1 7 回	Microsoft PowerPoint (2)：箇条書き、インデント、図表の作成など・プレゼンテーション作成を始める (自己紹介)	事前学習	教科書 pp.250~255 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.254~256 を参考に、となり同志の課題の中間評価を実施し、次回までに必要な修正を行う
第 1 8 回	Microsoft PowerPoint (3)：プレゼンテーション作成の完成 (自己紹介) (発表)	事前学習	教科書 pp.257~260 を読んでおく
		事後学習	課題を完成させ次回までに提出
第 1 9 回	Microsoft Excel (1)：データの入力 (数値データと文字データ)、セルの操作	事前学習	教科書 pp.168~170 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 0 回	Microsoft Excel (2)：数式の利用、グラフの挿入	事前学習	教科書 pp.168~170 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.204~208 を読んでおく
第 2 1 回	Microsoft Excel (3)：基本的な関数の利用 (合計、平均など)	事前学習	教科書 pp.193~197 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 2 回	Microsoft Excel (4)：関数の利用、IF 関数の入れ子など	事前学習	教科書 pp.198~199 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 3 回	Microsoft Excel (5)：さまざまな関数の応用セルの相対参照と絶対参照	事前学習	教科書 p189 を読んで、定義と指定の仕方をよく理解する
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 4 回	Microsoft Excel (6)：データの処理、並べ替え、オートフィルター等	事前学習	教科書 pp.229~230 を読んでおく
		事後学習	教科書 pp.233~235 を読んでおく
第 2 5 回	Microsoft Excel (7)：進んだ使い方 (VLOOKUP 関数入門)	事前学習	教科書 pp.242~243 を読んでおく
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 6 回	Microsoft Excel (8)：進んだ使い方 (VLOOKUP 関数入門)	事前学習	再度 pp.242~243 を読む
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 7 回	Microsoft Excel (9)：進んだ使い方 (ISNA 関数等)	事前学習	前回習った「関数のネスト」を復習すること
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 8 回	Microsoft Excel (10)：進んだ使い方 (フィルタリング)	事前学習	教科書 pp.226~227 を読む
		事後学習	課題を次回までに完成させる
第 2 9 回	Microsoft Excel の総合復習・まとめ (1)	事前学習	19 回からの課題を復習する
		事後学習	再度答え合わせを確認する
第 3 0 回	Microsoft Excel の総合復習・まとめ (2)	事前学習	前回の課題をよく復習する
		事後学習	全課題 (12 回分) の Excel ファイルを再確認する (シート名の有無、すべての表が完成か非か、グラフの有無など)。完成したファイルの提出締め切りは授業で伝える

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2304 GECM2104
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>			
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>授業中に学習テーマに沿った課題を出し、指定する期日までに提出する。履修者は、その進捗状況をもとに学習内容の確認および復習を適宜行うこと。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 資料を適宜配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 20%、課題(春期末) 20%、課題(秋期末) 30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>この講義では、映像メディアを自分で使いこなしていくための知識や技術を学びます。また、立体映像(3D)など新しい映像メディアに関しても言及します。自由な発想で積極的に演習に取り組んでほしいと思っています。</p>			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション : 講義内容の確認、使用するソフトウェアの 紹介、質問・相談	事前学習	パソコンやスマートフォン、デジカメなどの利用において、これまでに静止画像をどのように使ったことがあるのかを確認する。	
		事後学習	パソコンにおけるマルチメディアの利用について考える。	
第 2 回	静止画像の基礎: ラスタ画像とベクタ画像	事前学習	ラスタ画像とベクタ画像について調べる。	
		事後学習	ラスタ画像とベクタ画像の特徴の違いをまとめる。	
第 3 回	静止画像の基礎: ファイル形式、画像圧縮	事前学習	jpeg (JPEG) 画像について調べる。	
		事後学習	画像圧縮の種類と効果について確認する。	
第 4 回	Adobe Photoshop (1) : 基本操作、フォトレタッチ事例紹介	事前学習	フォトレタッチをキーワードとして、その意味することや事例について調べる。	
		事後学習	デジタルデータを扱うフォトレタッチの利点について考える。	
第 5 回	Adobe Photoshop (2) : デジタル画像編集の演習	事前学習	画像におけるコントラストについて調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 6 回	Adobe Photoshop (3) : デジタル画像編集の演習	事前学習	画像における色調補正について調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 7 回	Adobe Photoshop (4) : デジタル画像編集の演習	事前学習	レイヤーをキーワードとして、画像処理においてどのように使われるかを調べる。	
		事後学習	演習における課題を進め、取り組んでいる内容の理解を深める。	
第 8 回	Adobe Photoshop (5) : デジタル画像編集の演習	事前学習	書体について、種類とその特徴について調べる。	
		事後学習	演習における課題で扱った内容の理解を深める。	
第 9 回	デジタル画像を扱うための基礎知識 : 解像度、色、印刷	事前学習	デジタル画像の解像度について調べる。	
		事後学習	授業で用いた静止画像の解像度を確認して、特徴を理解する。	
第 10 回	デジタル画像を扱うための基礎知識 : プリンター、スキャナー、デジタルカメラ	事前学習	デジタル画像を扱うときによく使われる周辺機器について調べる。	
		事後学習	自分が使っているデジカメやスマートフォン、携帯電話などで撮影できる写真の解像度を調べる。	
第 11 回	Web デザイン: HTML の基礎 (1)	事前学習	Web と HTML について、その関係性を調べる。	
		事後学習	課題を進めることで、HTML について理解を深める。	
第 12 回	Web デザイン: HTML の基礎 (2)	事前学習	自分がよく見る web site の HTML を見て、分かったことをまとめる。	
		事後学習	課題の内容を通して、HTML について理解を深める。	

第 1 3 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	Web site でどんな形式の静止画像が使われているのかを調べる。
		事後学習	課題を進めることで web における画像表示について理解を深める。
第 1 4 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	静止画像の種類や特徴について、再度確認して、理解を深める。
		事後学習	課題を進めることで web における画像表示について理解を深める。
第 1 5 回	演習 1 : デジタル画像編集と Web ページ作成を組み合わせた演習	事前学習	いくつかの web を見て、そこで使われている静止画像の解像度やファイル容量を調べる。
		事後学習	課題の内容を通して web における画像表示について理解を深める。
第 1 6 回	秋期イントロダクション : 春期内容の確認と秋期に扱うテーマの説明と事例紹介	事前学習	これまでに動画像をどのように使ったことがあるのかを確認する。
		事後学習	インターネットにおける動画像視聴の利点と欠点を考える。
第 1 7 回	動画像の基礎 : 動画像データ、圧縮技術、ディスクメディア	事前学習	mpeg (エムペグ) 動画について調べる。
		事後学習	DVD と Blu-ray Disc の違いを、そこに記録される映像という観点から考える。
第 1 8 回	動画像の基礎 : ノンリニアビデオ編集、用語の確認	事前学習	ノンリニア編集でどんなことができるのかを調べる。
		事後学習	リニア編集とノンリニア編集の違いを確認する。
第 1 9 回	Adobe Premiere (1) : 基本操作の確認	事前学習	ビデオ編集ソフトにはどんなものがあるのかを調べる。
		事後学習	編集時におけるファイル (プロジェクトファイルやムービーファイル) の扱いについて確認する。
第 2 0 回	Adobe Premiere (2) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	動画像ファイルの種類について復習と確認をする。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 1 回	Adobe Premiere (3) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	ビデオ編集において、文字をどのように使えば良いのかを調べる。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 2 回	Adobe Premiere (4) : サンプルムービーを用いた基本操作の確認	事前学習	ビデオの書き出しをキーワードとして、どんなことを考慮すれば良いのかを考える。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 3 回	新しい映像メディア表現と高臨場感ディスプレイ	事前学習	画像を表示するディスプレイに注目して、どんな種類があるのかを調べる。
		事後学習	今後の映像表現の可能性について考える。
第 2 4 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 5 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 6 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 7 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 8 回	演習 2 : デジタル画像編集とビデオ編集を組み合わせた演習	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を通して、動画像を扱うのに必要な知識とスキルを確認する。
第 2 9 回	課題発表	事前学習	課題発表の準備を行う。
		事後学習	周りの人の課題発表について、良い点を考える。
第 3 0 回	課題発表	事前学習	課題発表の準備を行う。
		事後学習	周りの人の課題発表について、良い点を考える。

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	GECM2304 GECM2104								
2. 授業担当教員	森 正人											
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	通年								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側(受け手)の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。</p> <p>マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身に付ける。</p>											
8. 学習目標	<p>情報の発信者、作成者として必要な基礎技能を習得すると共に、社会の情報化の進展に伴って様々な問題が顕在化している現状に鑑み、技術的側面だけでなく、情報そのものや情報機器、コンピュータネットワークを取り扱う際にどの様な姿勢で臨むべきかに関しても学習し、説明できるようになる事を目標とする。</p>											
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 自分のホームページの作成を行い、講義用サーバにアップロードする。これを、提出物として扱う。 上記のホームページに、スクリプトプログラムの組み込みを行う。この成果を提出物として扱う。 											
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 (株)アଙ୍କ『ホームページ辞典 HTML CSS JavaScript』翔泳社</p>											
11. 成績評価の方法	<table> <tr> <td>受講姿勢</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>演習・課題提出</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>春期末試験</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>秋期末試験</td> <td>20%</td> </tr> </table>				受講姿勢	40%	演習・課題提出	20%	春期末試験	20%	秋期末試験	20%
受講姿勢	40%											
演習・課題提出	20%											
春期末試験	20%											
秋期末試験	20%											
12. 受講生への メッセージ	<p>情報処理演習Ⅰでは、どちらかという、「情報の受け手」としての内容が主でしたが、この講義では「情報の送り手」としての能力の涵養を目指します。単にアプリケーションソフトの利用方法を学ぶのとは違い、論理的な思考や、多少面倒な文法を覚えなければならないので大変です。しかし、その分、コンピュータが自分の考え通りに動作してくれた時の喜びもひとしおです。</p>											
13. オフィスアワー	別途通知する。											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容	学習課題										
第 1 回	春期講義概要	事前学習	教科書のイントロダクションを読んでおく									
		事後学習	基本的語句を確認して覚える									
第 2 回	ネットワークの基礎と World Wide Web の概要	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	インターネットの基本概念を復習しておく									
第 3 回	情報表現形式 (文字コード、2 進数、16 進数の基礎)	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	基本的な変換操作等を復習する									
第 4 回	HTML の基礎 (1) マークアップランゲージの概念、HTML の記述方法 など	事前学習	教科書 pp.2~16 を読んでおく									
		事後学習	HTML の基本的な記述方をマスターしておく									
第 5 回	HTML の基礎 (2) 文字情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	EZ-HTML の操作を練習する									
第 6 回	HTML の基礎 (3) ページ修飾	事前学習	教科書 pp.244~259 を読んでおく									
		事後学習	演習ファイルを作成する									
第 7 回	HTML の基礎 (4) 少し高度な記述	事前学習	教科書 pp.262~284 を読んでおく									
		事後学習	演習ファイルを作成する									
第 8 回	HTML による Web ページの記述 (1) リンクの概念など	事前学習	教科書 pp.86~93 を読んでおく									
		事後学習	演習ファイルを作成する									
第 9 回	HTML による Web ページの記述 (2) 画像などのオブジェクトの取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく									
		事後学習	演習ファイルを作成する									
第 10 回	HTML による Web ページの記述 (3) 画像などのオブジェクトの挿入	事前学習	教科書 pp.78~82 を読んでおく									
		事後学習	演習ファイルを作成する									
第 11 回	ホームページ作成演習 (1) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	ホームページの構想を考えておく									
		事後学習	自分の作業を継続する									
第 12 回	ホームページ作成演習 (2) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する									
		事後学習	自分の作業を継続する									
第 13 回	ホームページ作成演習 (3) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する									
		事後学習	自分の作業を継続する									
第 14 回	ホームページ作成演習 (4) 実際にホームページを作ってみよう	事前学習	自分の作業を継続する									
		事後学習	自分の作業を継続する									
第 15 回	ホームページ作成演習 (5) ホームページ公開方法	事前学習	サーバアップロードのための準備									
		事後学習	自分の作業を継続する									
期末試験												
第 16 回	秋期講義概要	事前学習	春期の内容を復習しておく									

		事後学習	あやふやだったところを再確認する
第 17 回	スタイルシート (1) スタイルシートの基本的な考え方	事前学習	教科書 pp.152~184 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 18 回	スタイルシート (2) スタイルシートの利用	事前学習	前回の内容を詳細に確認しておく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 19 回	対話的な Web ページの記述 (1) フォームの基本	事前学習	教科書 pp.118~140 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 20 回	対話的な Web ページの記述 (2) フォームを使った Web ページの記述	事前学習	前時で作成したファイルをサーバにアップロードし、動作を確認しておく。
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 21 回	JavaScript の基礎 (1) Web ページとスクリプト言語の概要など	事前学習	教科書 pp.382~388 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 22 回	JavaScript の基礎 (2) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.391~394 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 23 回	JavaScript の基礎 (3) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.395~399 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 24 回	JavaScript の基礎 (4) 基本的なプログラミング	事前学習	教科書 pp.403~406 を読んでおく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 25 回	総合演習 (1: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	前時までの内容を再度復習しておく
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 26 回	総合演習 (2: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	自分の作業を継続する
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 27 回	総合演習 (3: ホームページへのスクリプトプログラムの組み込み)	事前学習	自分の作業を継続する
		事後学習	演習ファイルを作成する
第 28 回	著作権問題	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	著作権の基本的な概念と語句を確認しておく
第 29 回	個人情報の取り扱い	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	個人情報の基本概念と身近な個人情報に関して検討を行う
第 30 回	インターネットにおける情報発信者としての心構え、セキュリティなど	事前学習	配布資料を読んでおく
		事後学習	自身のネットワーク利用に関して、考察してみる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	情報処理演習Ⅲ (4 単位)		3. 科目番号	GECM3304
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	この講義では、「情報処理演習Ⅰ」や「情報処理演習Ⅱ」で学んだ基礎知識や技術を基にして、さらに発展的な内容を具体的な事例を用いて学習する。事例と演習により、これまでに学んだ情報処理をどのような場面で活用できるのかを学ぶ。そのため、コンピュータを使った数値計算にとどまらず、さらに大きな枠組みで情報処理について考えていく。具体的には、プログラミング言語として VBA 言語を取り上げ、プログラミングを構成する基本要素を、演習を行いながら学んでいく。また、データ分析に関しても扱い、調査や実験の結果を導くために必要な技法を学ぶ。			
8. 学習目標	情報処理において、コンピュータを使うための知識や技術は重要である。しかし、コンピュータは何かの目的を達成するための道具であるという一面もある。そこで本講義では、履修者自らがコンピュータを使いこなすための具体的な方法を調べて、どのようにしたらその目的を達成できるのかを考える。そのような考え方や姿勢を習得し、操作できるようになることが本講義の目標である。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対するディスカッションなどを経て、最終的にプレゼンテーションあるいはレポート作成をする。調査や検討などを授業時間外に行うこともある。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 資料を適宜配布する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 (春期末) 30%、課題 (秋期末) 40%			
12. 受講生へのメッセージ	本講義では、教員や研究者として仕事をするときに役立つ考え方や技術を扱います。論文を調べたり、数値を検証したり、分析をしたりと、若干高度な内容を含みますが、熱意があつて積極的な履修者の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	コンピュータによる数値処理やマルチメディア活用、プログラミングについて、これまでどんなことを行ったことがあるか確認する。	
		事後学習	自分の興味や関心、将来の希望などを考えたときに、統計解析やプログラミングがどのように活用できるのかを考える。	
第 2 回	コンピュータの基礎知識と活用	事前学習	近年におけるコンピュータ利用について幅広く調べる。	
		事後学習	学校におけるコンピュータ利用について考える。	
第 3 回	調査・実験研究とデータ分析	事前学習	これまでの学校生活や日常における統計について考える。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 4 回	統計学の基礎 (1)	事前学習	標準偏差をキーワードとして、その意味や使われ方を調べる。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 5 回	統計学の基礎 (2)	事前学習	T 検定をキーワードとして、その意味や使われ方を調べる。	
		事後学習	具体的な事例に対して、統計学の観点から数値データを考える。	
第 6 回	統計ソフトによる統計解析演習 (1)	事前学習	統計ソフトにはどんなものがあり、どんなことができるのかを調べる。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 7 回	統計ソフトによる統計解析演習 (2)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 8 回	統計ソフトによる統計解析演習 (3)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 9 回	統計ソフトによる統計解析演習 (4)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 10 回	統計ソフトによる統計解析演習 (5)	事前学習	課題の内容と進捗を確認する。	
		事後学習	課題を通して、統計学に関する基本的な知識を確認する。	
第 11 回	調査研究の方法と分析	事前学習	教育関係の研究事例について調べる。	
		事後学習	研究の方法やデータ分析について考える。	
第 12 回	調査研究事例のリサーチとグループディスカッション	事前学習	調べた事例について自分の考えをまとめる。	
		事後学習	グループで議論したことについてまとめ、さらにそれに対する自分の考えをまとめる。	
第 13 回	調査研究事例のリサーチとグループディ	事前学習	調べた事例について自分の考えをまとめる。	

	スカッション	事後学習	グループで議論したことについてまとめ、さらにそれに対する自分の考えをまとめる。
第 14 回	調査研究事例に関するまとめ：目的、調査方法についてまとめる	事前学習	調べた事例と内容をまとめる。
		事後学習	必要なことをさらに調べて、考えをまとめる。
第 15 回	調査研究事例に関するまとめ：分析方法、結果についてまとめる	事前学習	調べた事例と内容をまとめる。
		事後学習	春期に扱った内容に関して復習をして、重要な部分をまとめる。
第 16 回	イントロダクション：春期に行った内容の確認と復習、秋期の講義内容の確認	事前学習	これまでに取り組んだ内容を確認する。
		事後学習	理解が不十分なところを復習する。
第 17 回	実験計画法、実験の進め方とまとめ方	事前学習	実験計画法をキーワードとして、どんなことなのかを調べる。
		事後学習	実験の行い方についてまとめる。
第 18 回	Microsoft Excel の確認と応用、関数を用いた統計処理	事前学習	これまで使ったことがある Excel の関数を確認する。
		事後学習	取り組んだ内容に関して確認して習得する。
第 19 回	Excel VBA (1)：基礎知識、基本操作	事前学習	VBA をキーワードとして、どんなことなのかを調べる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 20 回	Excel VBA (2)：関数、演算子、変数	事前学習	Excel におけるマクロについて調べる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 21 回	Excel VBA (3)：制御構造	事前学習	制御構造について調べ、その一例をあげる。
		事後学習	取り組んだ内容を確認する。
第 22 回	プログラムや映像の作成 (1)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 23 回	プログラムや映像の作成 (2)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 24 回	プログラムや映像の作成 (3)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 25 回	プログラムや映像の作成 (4)	事前学習	課題の遂行に必要な準備を行う。
		事後学習	課題を進めることで、プログラムや映像制作について理解を深める。
第 26 回	プログラムや映像の作成 (5)	事前学習	動作や表示を確認して、実験とまとめの準備をする。
		事後学習	取得したデータの確認と整理をする。
第 27 回	プログラムや映像の作成 (6)	事前学習	動作や表示を確認して、実験とまとめの準備をする。
		事後学習	取得したデータの確認と整理をする。
第 28 回	課題のまとめ	事前学習	データに対する分析の方法を考える。
		事後学習	分析した結果に対して自分の考えをまとめる。
第 29 回	課題のレポート作成およびプレゼン	事前学習	レポート作成とプレゼンに必要な準備をする。
		事後学習	レポート作成を進め、関連事項を調べる。
第 30 回	課題のレポート作成およびプレゼン	事前学習	レポート作成とプレゼンに必要な準備をする。
		事後学習	本授業で学んだことを、今後に役立てるために、これまでに取り組んだ内容を確認する。

1. 科目名 (単位数)	情報と職業 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT1302
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義と演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータやインターネットの利用は、現代の生活において必要不可欠である。それは、日常生活のみならず、ビジネス環境にも大きな変化をもたらしている。情報に関する学習において、コンピュータやネットワークの仕組みや操作を理解することも重要であるが、それらが社会やビジネスでどのように使われているのかを理解することも重要である。本講義では、情報化により、私たちの生活がどう変わったのか、また、どのようにビジネスに活用されているのかを、事例を通して考えていく。			
8. 学習目標	コンピュータやインターネットを活用することで、どんなビジネスが可能になったのかを理解して、情報社会で生きるための知識と考え方を身につけることが本講義の目標である。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習テーマごとの課題に対して、調べたり考えたりして内容をまとめる。また、プレゼンテーションの準備あるいはレポートの作成を行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】廣石良雄『情報と職業』エスシーシー、2014 年。 【参考書】駒谷昇一、辰巳丈夫、楠本範明 共著『情報と職業』オーム社、2013 年。 近藤勲編著『情報と職業』丸善、2002 年。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末レポートにより総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末レポート 30%			
12. 受講生への メッセージ	普段から、積極的にコンピュータやインターネットを利用することを心がけて下さい。また、社会でのニュースにも関心を持つと良いです。それにより、講義内容の理解をより一層深めることができます。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション: 講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	ビジネスにおけるインターネット利用の利点について考える。	
		事後学習	授業の中で出てきたキーワードを理解する。	
第 2 回	コンピュータの歴史 1	事前学習	インターネットの仕組みを調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 3 回	コンピュータの歴史 2	事前学習	クラウドコンピューティングの活用について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 4 回	情報産業の現状と将来 1	事前学習	ビジネスモデルの意味を調べ、その事例を調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 5 回	情報産業の現状と将来 2	事前学習	ビッグデータとは何か調べ、その例を挙げる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 6 回	IT の業種 1	事前学習	IT 人材に求められることは何かを考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 7 回	IT の業種 2	事前学習	マルチメディア系の職種について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 8 回	情報モラル 1	事前学習	SNS の使い方について、倫理の観点から考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 9 回	情報モラル 2	事前学習	近年におけるハイテク犯罪の例を調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 10 回	情報モラル 3	事前学習	マルウェアについて調べ、普段のパソコン利用における対応策について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 11 回	情報産業における業務の把握	事前学習	あるソフトウェアを開発するために、どんな業務プロセスが必要となるのかを考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 12 回	IT 技術者の勤労観	事前学習	IT 技術者の労働環境について調べ、自分の考えをまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 13 回	総合演習 1	事前学習	教育現場における情報化について、ディスプレイなどの機器を例にあげて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 14 回	総合演習 2	事前学習	社会で話題となったインターネットに関わる事例を取り上げ、それに対する意見をまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 15 回	総合演習 3	事前学習	これからの社会における IT 活用について考え、それに対する意見をまとめる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	人格心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP2358
2. 授業担当教員	手島 茂樹		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>人格心理学とは、個人の内側から人間の行動の法則をみようとするものである。なお人格とは、性格とほぼ同じ意味で用いられるが、態度、興味、価値観並びに知的理解度などを含んだ全体的な特徴を指す。ここでは人格と性格とを分けない考え方に立ち、さまざまな観点から人格の特徴を明らかにしていく。</p> <p>次のことを理解していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格とは何か、その研究史からも理解できる。 2. 性格に関する諸理論が分かり、多面的に人の行動をみることができる。 3. 性格の診断の仕方が理解できる。 4. 性格の形成のされ方が分かる。 5. 性格の正常・異常について様々な観点から理解できる。 		
8. 学習目標	<p>人間とはなにか。人間の本質を理解し、自己理解だけでなく、他者を理解し、人を見る目を養成することがこの授業の最大の目標である。人を見るときに、様々なバイアスがかかるが、それがなぜかということを理解し、説明できるようになることも学習目標の一つである。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の人間関係から性格の形成について述べよ。 2. 類型論や特性論と比較しながら、精神分析の性格論を述べよ。 3. 性格は変化するものか、ご自身の考え方を含めて述べよ。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 詫魔武俊他共著『性格心理学への招待』サイエンス社。 【参考書】 戸田まり他共著『グラフィック性格心理学』サイエンス社。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>・授業参加への積極的態度 (質問や発表など) 30% ・レポート 35% ・テーマ毎の理解度 35% *出席が4分の3満ちてはじめて評価の対象となる。(レポートをまじめに提出しただけでは評価対象にならない。注意。)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>大学生にとって、性格の問題は、大きな課題である。そこで、心理学の観点から真正面から真面目に学んでみるのは、とてもよいと思う。いろいろと研究テーマさえ浮かんでこよう。まず読書をよくしていただくことを薦めたい。難しい本から啓蒙書的なものまでであるが、自分の興味あるところから読み進めるとおもしろさが伝わってくる。血液型による性格論も真面目に考えると心理学のおもしろいテーマとなる。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	性格の定義とその研究史	事前学習	教科書：pp.1～11を読み、まとめておく。
		事後学習	性格の定義を復習しておく。
第2回	性格の諸理論	事前学習	教科書：pp.14～32を読み、まとめておく。
		事後学習	精神分析の考え方を復習しておく。
第3回	性格の類型論	事前学習	教科書：pp.48～61を読み、まとめておく。
		事後学習	クレッチマーの考え方は今も使えるか考察する。
第4回	性格の特性論	事前学習	教科書：pp.64～79を読み、まとめておく。
		事後学習	特性の種類は研究者によって異なる理由を考えておく。
第5回	性格理解の方法	事前学習	教科書：pp.33～46を読み、まとめておく。
		事後学習	どの方法にも長所と短所がある。その内容を考えておく。
第6回	性格の発達	事前学習	教科書：pp.80～93を読み、まとめておく。
		事後学習	遺伝と環境、どのように考えるか自分の意見をまとめる。
第7回	人間のライフサイクル	事前学習	教科書：pp.96～109を読み、まとめておく。
		事後学習	青年期の発達課題について確認しておく。
第8回	家族関係と性格	事前学習	教科書：pp.115～130を読み、まとめておく。
		事後学習	養育態度と子どもの性格の関係について再度確認しておく。
第9回	人間関係と性格	事前学習	教科書：pp.132～148を読み、まとめておく。
		事後学習	対人魅力についてまとめておく。
第10回	コミュニケーションに現れる性格	事前学習	教科書：pp.149～163を読み、まとめておく。
		事後学習	自己開示しやすいものとそうでないものがある。どうしてか、考えておく。
第11回	適正とは何か	事前学習	教科書：pp.166～176を読み、まとめておく。
		事後学習	自分の性格にあう進路について考えておく。
第12回	問題行動と性格	事前学習	教科書：pp.177～194を読み、まとめておく。
		事後学習	いじめについて詳しく調べてみる。
第13回	性格の正常と異常	事前学習	教科書：pp.195～214を読み、まとめておく。
		事後学習	人格障害についてまとめておく。
第14回	性格の適応的变化	事前学習	教科書：pp.217～233を読み、まとめておく。
		事後学習	ロジャースによる性格の変化についてまとめておく。
第15回	文化とパーソナリティ	事前学習	教科書：pp.235～247を読み、まとめておく。
		事後学習	集団主義と個人主義の考え方をまとめておく。

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1305
2. 授業担当教員	福島 裕			
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育児童学科は 1 年次、こども教育保育専攻は 3 年次に履修する。			
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第 2 条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第 6 条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、わが国の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>○担当グループは、該当箇所(計画表に沿って事前に指示)の重要点や課題をまとめた提案用紙を事前に提出し検討してもらうこと。</p> <p>○毎時間、グループ討議後、「ディスカッションカード」を整理・まとめをしてリーダーが提出すること。</p> <p>○レポート課題「学習した人権課題のうち、自分が最も重要と考えた人権課題を一つ取り上げ、その課題の問題点と解決についての考えを述べなさい。」</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>○中野光・小笠毅編著『ハンドブック 子どもの権利条約』岩波書店、2014 年。</p> <p>○中野睦夫編著『早わかり人権教育小事典』明治図書、2003 年。</p> <p>【参考書】</p> <p>○法務省・文部科学省編 平成 27 年版『人権教育・啓発白書』勝美印刷株式会社。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>1. グループ提案用紙の内容・発表態度</p> <p>2. グループ討議・発表の様子</p> <p>3. ディスカッションカードの内容</p> <p>4. 課題レポート等</p> <p>5 履修要項「授業について」の「7.単位の認定」により、授業時間数の 4 分の 3 以上(15 回中 12 回以上)の出席を満たさない場合は単位を認定しない。</p>	<p>総合点の 30%</p> <p>総合点の 20%</p> <p>総合点の 30%</p> <p>総合点の 20%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目で目指す人間尊重の精神の涵養は、人間育成の根幹に関わるものである。人間尊重の理念は国民の中で共有され、さらに基本的人権を尊重する社会の構築が望まれている。しかし、急速に進む情報化や国際化の中で、新たな人権問題も生起している。ここでは「女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々」等の人権問題を具体的に取り上げ、理解を深め課題を明らかにするとともに「互いを理解して尊重する社会」を築く能力を高めるようにする。</p>			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 「人権教育」のねらい・学習内容、学習予定表・授業形態の説明	事前学習	教科書、参考書を確認し、目次等に目を通し、これから学ぶ内容の全体像を把握しておく。	
		事後学習	オリエンテーションの内容を振り返り、人権教育のねらいや学習する内容、学習の仕方を理解する。	
第 2 回	「人権教育及び人権啓発に関する法律」及び「人権教育・啓発に関する基本計画」の理解	事前学習	内閣府がまとめた国の人権啓発の現状等を諸資料で調べておく。	
		事後学習	人権教育及び人権啓発に関する法律や基本計画の内容を理解する。	
第 3 回	グループ編成・グループ学習の方法、わが国の人権問題の現状と課題、導入ビデオの視聴	事前学習	特に、日本の人権問題の現状と課題について整理しておく。	
		事後学習	我が国の人権問題の課題及びグループ学習の仕方について理解しておく。	
第 4 回	主として女性に関する課題① (男女差別、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメント)、	事前学習	女性の人権に関する課題について、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	セクハラや男女差別の問題点や解決に向けての課題等を整理する。	
第 5 回	主として女性に関する課題② (ドメスティックバイオレンス等)	事前学習	DV に関する現状について教科書を読み、関連する資料を調べておく。	
		事後学習	DV の課題と解決の方向性について復習し、理解を深めてお	

			く。
第 6 回	主として子どもに関する課題① (児童の最善の利益と体罰、いじめ、暴力行為、不登校)	事前学習	体罰、いじめ、暴力行為、不登校について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	いじめ問題の本質と、その解決に向けての取り組みや、今後の課題について理解を深めておく。
第 7 回	主として子どもに関する課題② (児童の最善の利益と児童虐待、児童買春・児童ポルノ等について)	事前学習	児童虐待の問題について教科書や関連する資料を調べ実態を把握しておく。
		事後学習	児童虐待、児童買春・児童ポルノの問題点とその解決への取り組みについて理解を深めておく。
第 8 回	主として高齢者に関する課題 (家庭・施設における身体的・心理的虐待等)	事前学習	高齢者に関する課題について教科書や関連する資料を調べておく。
		事後学習	高齢者虐待の問題点とその解決に向けての取り組みや課題について理解を深めておく。
第 9 回	主として障害児・障害者に関する問題 (障害児保育・教育、障害者の人権)	事前学習	障害者に関する人権上の課題について教科書や関連資料から調べておく。
		事後学習	障害児・障害者の問題点と、解決に向けての課題について理解を深めておく。
第 10 回	主として同和問題に関する課題① (差別問題、差別発言等の実態等)	事前学習	同和問題の現状と課題について教科書及び関連資料をもとに把握しておく。
		事後学習	同和問題の現状と課題について理解を深めるとともに解消に向けての取り組みを知る。
第 11 回	主として同和問題に関する課題② (同和問題のまとめ等)	事前学習	同和問題を解消するための様々な取り組みについて関連資料を調べ把握しておく。
		事後学習	同和問題を解決するための取り組みについての成果と、これからの課題について考えをまとめ理解を深める。
第 12 回	主としてアイヌの人々、外国人に関する課題	事前学習	アイヌの人々や外国人に関する人権上の課題について、関連資料をもとに調べておく。
		事後学習	アイヌの人々、外国人に関する課題と解決に向けての問題点について理解を深める。
第 13 回	主として刑を終えて出所した人、犯罪被害者等、インターネットによる人権侵害、北朝鮮によって拉致された被害者等に関する課題	事前学習	刑を終えて出所した人、犯罪被害者、インターネットによる人権侵害、北朝鮮による拉致被害者等に関する人権上の課題について、教科書や関連する資料を調べ、整理しておく。
		事後学習	それぞれの人権問題の現状と課題を理解し、さらに解決に向けての取り組みと問題点について理解を深める。
第 14 回	学校における人権教育の実際 (同和問題、いじめ問題等への対応)	事前学習	小中高等学校で受けてきた人権教育の概要を想起し、整理しておく。
		事後学習	学校教育における人権教育の推進状況と課題について理解を深める。
第 15 回	他の人権課題に関する啓発ビデオの視聴、まとめとしてのレポート作成・提出	事前学習	教科書の内容や配布された資料、グループ討議の内容等から、人権課題について整理しておく。
		事後学習	自己の人権課題は何かを考え、今後人権上の課題にどのように向き合っていくかについて、読み手に伝わるようにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	身体構造と機能Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2117
2. 授業担当教員	山下 喜代美			
4. 授業形態	講義 演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「身体構造と機能Ⅰ」の単位を修得していること			
7. 講義概要	<p>「身体構造と機能Ⅰ」で学んだことをもとに、授業を展開する。こころとからだの機能の低下が及ぼす日常生活行動への影響を学び、さらに日常生活行動の能力が低下した時のこころとからだへの影響について授業を展開する。また、異常の早期発見や緊急時の対処方法、医療職との連携について学んでいく。</p> <p>この科目を履修することで、利用者の現在の状態の原因がわかり、またこのままの状態が続いた時の予測される弊害等について理解することができる。利用者をアセスメントする上で、必要な知識となる。</p>			
8. 学習目標	<p>以下について理解し、援助が行えるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身支度に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 2. 日常生活の活動に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 3. 食事に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 4. 入浴・清潔保持に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 5. 排泄に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 6. 睡眠に関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 7. コミュニケーションに関連した機能の低下が及ぼす影響や変化の気づきを理解する。 8. 死にゆく人のこころとからだの変化を理解する。 9. 看取りに関する家族、医療職との連携について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1. 生活不活発病 (廃用症候群) の悪循環について 2. 清潔保持に関する観察のポイントをまとめる 3. 排泄に関する観察のポイントをまとめる</p> <p>※ 毎回しっかり復習し、筆記試験に臨んでください</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『こころとからだのしくみ』メダルフレンド社。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 10% 筆記試験 10% 期末試験 80%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>授業中の私語、携帯電話の使用は禁止します。 わからないところは、積極的に質問してください。 身体構造と機能Ⅰの関連個所を復習しながら、毎回の授業に臨んでください。 また授業内容を理解し、復習をして筆記試験や期末試験に臨んでください</p>			
13. オフィスアワー	時間割確定後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	授業概要の説明 ICF の概念図と本科目の関連について		事前学習	身体構造と機能Ⅰを復習しておく
			事後学習	身体構造 心身機能を整理する
第 2 回	こころとからだの機能低下が及ぼす身支度への影響について 身支度を阻害する因子について学習する		事前学習	身体構造と機能Ⅰ 身支度を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 3 回	身支度の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 筆記試験①		事前学習	身支度の意義を復習する
			事後学習	観察のポイントを見直す
第 4 回	こころとからだの機能低下が及ぼす日常生活の活動への影響について 活動を阻害する因子について学習する 筆記試験②		事前学習	身体構造と機能Ⅰ 活動を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 5 回	日常生活の活動の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 筆記試験③		事前学習	活動の意義を復習する
			事後学習	観察のポイントを見直す
第 6 回	こころとからだの機能低下が及ぼす食事への影響について 食事を阻害する因子について学習する。 筆記試験④		事前学習	身体構造と機能Ⅰ 食事を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 7 回	食事の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 筆記試験⑤		事前学習	食事の意義を復習する
			事後学習	観察のポイントを見直す
第 8 回	こころとからだの機能低下が及ぼす入浴・清潔保持への影響について 入浴・清潔保持を阻害する因子について学習する 筆記試験⑥		事前学習	身体構造と機能Ⅰ 入浴・清潔を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 9 回	入浴・清潔保持の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 筆記試験⑦		事前学習	入浴の意義を復習する
			事後学習	観察のポイントを見直す
第 10 回	こころとからだの機能低下が及ぼす排泄への影響について 排泄を阻害する因子について学習する 筆記試験⑧		事前学習	身体構造と機能Ⅰ 排泄を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 11 回	排泄の能力の低下が及ぼす、こころとからだへの影響について 筆記試験⑨		事前学習	排泄の意義を復習する
			事後学習	観察のポイントを見直す
第 12 回	こころとからだの機能低下が及ぼす睡眠への影響について 睡眠の低下が及ぼすこころとからだへの影響について 筆記試験⑩		事前学習	損体構造と機能Ⅰ 睡眠を復習
			事後学習	プリントを復習する
第 13 回	こころとからだの機能低下が及ぼすコミュニケーションへの影響について コミュニケーション能力の低下が及ぼすこころとからだへの影響について		事前学習	身体構造と機能Ⅰ コミュニケーションを復習
			事後学習	プリントを復習する
第 14 回	死にゆく人のこころとからだの変化について 看取りに関する家族、医療職との連携について		事前学習	テキスト pp.272~273 を読み、死のとりえ方を考えておく
			事後学習	プリントを復習する
第 15 回	食べられなくなったらどうしますか? ディスカッション		事前学習	テーマについて自分の考えをまとめておく
			事後学習	ディスカッションを踏まえ、自分の考えをまとめる
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1111 GELA1332 GELA1311
2. 授業担当教員	岡本 香			
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	教育学部生は、先に「心理学入門」を履修することが望ましい。			
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学という学問の歴史的背景や特徴を含めた基本的な考え方について、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学が生まれてきた歴史を概観し、説明することができる。 2. 心理学系専門科目を学ぶための基礎知識、心理学的視点を身につける。 3. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 4. 心理学的視点や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 5. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	教科書の該当箇所を事前に読んでくことをアサインメントとします。また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題をアサインメントとします。 小テストおよびレポート課題については、第7回、第12回、第14回の授業時に提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 手島茂樹 渡辺映子編著『スタンダード心理学』おうふう出版。 【参考書】 松原達哉 (編) 『臨床心理学シリーズ①心理学概論』培風館。			
11. 成績評価の方法	授業態度点30%、授業内に実施する小テストおよび課題レポート点70%、を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。小テストの不参加、課題レポート提出の遅れは、小テストおよび課題レポート点において減点します。			
12. 受講生への メッセージ	15回という限られた講義期間の中で、幅広い領域について触れることになるため、毎回の講義は、密度の濃いものになります。したがって、不用意な欠席、遅刻、早退、私語、居眠り等があると、授業内容の理解が困難になることが予想されます。そのような態度の学生については、授業態度点において減点します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	導入：心理学とは何か	事前学習	教科書 第1章を読み、心理学とは何かを考えること	
		事後学習	心理学とは何かの配付資料を読み復習すること	
第2回	心の仕組み1：認知心理学1知覚	事前学習	教科書、第2章第1節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み1についての配付資料を読んで復習すること	
第3回	心の仕組み2：認知心理学2記憶	事前学習	教科書、第2章第2節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み2についての配付資料を読んで復習すること	
第4回	心の仕組み3：認知心理学3思考	事前学習	教科書、第2章第3節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み3についての配付資料を読んで復習すること	
第5回	心の仕組み4：発達心理学	事前学習	教科書、第3章を読むこと	
		事後学習	心の仕組み4についての配付資料を読んで復習すること	
第6回	心の仕組み4：発達心理学	事前学習	教科書、第3章を読むこと	
		事後学習	心の仕組み4についての配付資料を読んで復習すること	
第7回	心の仕組み5：社会心理学1対人関係1	事前学習	教科書、第4章第1節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み5についての配付資料を読んで復習すること	
第8回	心の仕組み5：社会心理学2対人関係2	事前学習	教科書、第4章第1節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み5の配付資料を読んで復習すること	
第9回	心の仕組み6：社会心理学3集団	事前学習	教科書、第4章第2節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み6の配付資料を読んで復習すること	
第10回	心の問題を紐解く1：人格心理学	事前学習	教科書、第5章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く1の配付資料を読んで復習すること	
第11回	心の問題を紐解く2：教育心理学	事前学習	教科書、第6章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く2の配付資料を読んで復習すること	
第12回	心の問題を紐解く2：教育心理学	事前学習	教科書、第6章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く2の配付資料を読んで復習すること	
第13回	心のケアと支援1：臨床心理学	事前学習	教科書、第10章を読むこと	
		事後学習	心のケアと支援1の配付資料を読んで復習すること	
第14回	心のケアと支援2：健康心理学	事前学習	教科書、第11章を読むこと	
		事後学習	心のケアと支援2の配付資料を読んで復習すること	
第15回	総括	事前学習	レポートを作成してこること	
		事後学習	総括の配付資料を読んで復習すること	

1. 科目名 (単位数)	心理学概論 (P) (2 単位)		3. 科目番号	GELA1111
2. 授業担当教員	岡本 香			
4. 授業形態	講義・演習 (ディスカッション、グループ学習含む)		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」を履修済みであること。			
7. 講義概要	心理学は、人の行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。本科目は、心理学の主要な分野における代表的な研究知見や基礎理論を幅広く学び、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図るものである。また、心理学の基礎理論の理解を通して、心理学的思考方法の習得を促す。			
8. 学習目標	6. 心理学の基本的な考え方を身につける。 7. 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し、説明できるようになる。 8. 心理学の考え方や基礎理論に基づいて、身近な具体性のある人間理解ができるようになる。 9. 心理学的視点から、自己、他者、社会の問題について考え、他者に伝えられるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の該当箇所を事前に読んでくることをアサインメントとします。また授業内で行う課題について、時間内に終わらなかった場合は、その課題をアサインメントとします。 小テストおよびレポート課題については、第 7 回、第 12 回、第 14 回の授業時に提示するテーマに関して、調べ学習した成果をまとめることとします。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 手島茂樹 渡辺映子編著『スタンダード心理学』おうふう出版。 【参考書】 松原達哉 (編) 『臨床心理学シリーズ①心理学概論』培風館。			
11. 成績評価の方法	授業態度点 30%、授業内に実施する小テストおよび課題レポート点 70%、を、総合的に検討して評価します。なお、無断欠席、遅刻、早退は、授業態度点において減点します。小テストの不参加、課題レポート提出の遅れは、小テストおよび課題レポート点において減点します。			
12. 受講生へのメッセージ	15 回という限られた講義期間の中で、幅広い領域について触れることになるため、毎回の講義は、密度の濃いものになります。したがって、不用意な欠席、遅刻、早退、私語、居眠り等があると、授業内容の理解が困難になることが予想されます。そのような態度の学生については、授業態度点において減点します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	導入：心理学とは何か	事前学習	教科書 第 1 章を読み、心理学とは何かを考えること	
		事後学習	心理学とはについての配付資料を読み復習すること	
第 2 回	心の仕組み 1：認知心理学 1 知覚	事前学習	教科書、第 2 章第 1 節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 1 についての配付資料を読んで復習すること	
第 3 回	心の仕組み 2：認知心理学 2 記憶	事前学習	教科書、第 2 章第 2 節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 2 についての配付資料を読んで復習すること	
第 4 回	心の仕組み 3：認知心理学 3 思考	事前学習	教科書、第 2 章第 3 節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 3 についての配付資料を読んで復習すること	
第 5 回	心の仕組み 4：発達心理学	事前学習	教科書、第 3 章を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 4 についての配付資料を読んで復習すること	
第 6 回	心の仕組み 5：社会心理学 1 対人関係	事前学習	教科書、第 4 章第 1 節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 5 についての配付資料を読んで復習すること	
第 7 回	心の仕組み 6：社会心理学 2 集団	事前学習	教科書、第 4 章第 2 節を読むこと	
		事後学習	心の仕組み 6 についての配付資料を読んで復習すること	
第 8 回	心の仕組み 7：こころの仕組みまとめ	事前学習	教科書、第 2 章から第 5 章を読みなおすこと	
		事後学習	授業時の配付資料を読んで復習すること	
第 9 回	心の問題を紐解く 1：人格心理学	事前学習	教科書、第 5 章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く 1 の配付資料を読んで復習すること	
第 10 回	心の問題を紐解く 2：教育心理学	事前学習	教科書、第 6 章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く 2 の配付資料を読んで復習すること	
第 11 回	心の問題を紐解く 3：家族心理学	事前学習	教科書、第 7 章を読むこと	
		事後学習	心の問題を紐解く 3 の配付資料を読んで復習すること	
第 12 回	心のケアと支援 1：臨床心理学 1	事前学習	教科書、第 10 章を読むこと	
		事後学習	心のケアと支援 1 の配付資料を読んで復習すること	
第 13 回	心のケアと支援 1：臨床心理学 2	事前学習	教科書、第 10 章を読むこと	
		事後学習	心のケアと支援 1 の配付資料を読んで復習すること	
第 14 回	心のケアと支援 2：健康心理学	事前学習	教科書、第 11 章を読むこと	
		事後学習	心のケアと支援 2 の配付資料を読んで復習すること	
第 15 回	総括	事前学習	レポートを作成してこること	
		事後学習	まとめについての配付資料を読んで復習すること	

1. 科目名 (単位数)	心理学基礎実験 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP2142 EDPS2301
2. 授業担当教員	新井 雅人・岡本 香・加藤 宏一		
4. 授業形態	講義・実習(グループ活動)・演習(グループ活動)・ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>心理学を研究するための基礎となる各手法をとり上げ、生理、記憶、学習、認知、人格、社会等、心理学の主要な分野の知識を身につけながら、それらの知識や考え方に基づく科学的レポートの書き方を学ぶ。実験等の体験を通して、心理学の理論を机上に終わらせることなく、身近なものとして体得することができる。</p> <p>なお本科目は認定心理士の資格科目であり、受講生は規定数以上の実験等に参加し、レポートを提出することが義務付けられている。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 実験等の演習を通して、心理学を含む社会科学全般に必要な不可欠である各種研究法の基礎理論や技法、基本姿勢を理解し、身につける。</p> <p>2. 実験等の演習によって得られたデータについて、コンピュータを用いて統計処理することができるようになる。</p> <p>3. 目的、方法、結果、考察から成る心理学研究レポートの記述の仕方を習得し、心理学的事象について、統計処理の結果を用いて、説明、解釈できるようになる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 授業時間外に、実験テーマに関する資料を探し、データを収集するなどの活動が必要となる。</p> <p>2. 全ての実験 (含む心理検査) それぞれの終了時にレポート作成が求められる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 指定の教科書はないが、教材として実験材料の購入が求められる。授業内で指示する。</p> <p>【参考書】 B. フィンドレイ『心理学 実験・研究レポートの書き方』北大路書房。 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 石村貞夫『SPSSによる統計処理の手順』東京図書。 石村貞夫『SPSSによる分散分析と多重比較の手順』東京図書。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題達成度：70% 授業参加度：30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>「心」は誰もが持っているものですが、客観的に「心」について考えることは意外と少ないものです。本授業を通して身近な「心」を「心理学」という視点で捉え直してみましょ。また、この授業は受講者自らが主体的に考えること、さらに考えたことを適切に記述し、伝える訓練でもあります。授業中はもちろんのこと、授業外でも疑問に思ったことは進んで質問してください。</p> <p>1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、また積極的な態度で参加することが求められる。</p> <p>2. 授業中は、私語、居眠りは絶対にしないこと。</p> <p>3. 授業のための準備を欠かさずする。本授業では授業時間外の活動が必須となる。</p> <p>4. 理解できないことがあれば、授業中、授業外(オフィスアワー等)に自ら進んで教員に質問する。</p> <p>5. レポートの提出期限を厳守する。レポートの提出期限が守られない場合は、正当な理由がない限り、1日につき1点ずつ減点される。</p> <p>6. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず書面をもって教員に報告する。</p> <p>7. 授業中の携帯電話の作動は厳禁とする。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	岡本担当①：イントロダクション	事前学習	心理統計法のおさらい
		事後学習	実験法、観察法、調査法のまとめ
第2回	岡本担当②：レポートの書き方について	事前学習	基礎演習ⅠⅡのおさらいを行う
		事後学習	配付資料再読
第3回	岡本担当③：「アクションスリップ」概要説明、実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備
第4回	岡本担当④：実験結果の整理、レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成
第5回	岡本担当⑤：「フリッカー値測定器を用いた疲労度測定」概要説明、実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備
第6回	岡本担当⑥：実験結果の整理、レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成
第7回	岡本担当⑦：「SD法調査」概要説明、調査の準備	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	質問紙作成
第8回	岡本担当⑧：調査の実施、収集データの整理	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	収集データの整理
第9回	岡本担当⑨：収集データの分析、考察	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成準備

第 10 回	岡本担当⑩：レポート作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート作成
第 11 回	加藤担当①：「鏡映描写：学習の転移」概要説明、実験の実施	事前学習	実験法及びデータ解析の復習
		事後学習	「鏡映描写・学習の転移」に関する配付資料を読み、研究概要について理解を深める
第 12 回	加藤担当②：実験結果の整理、仮説・分析計画の検討	事前学習	実験法及びデータ解析の復習
		事後学習	「鏡映描写・学習の転移」に関する配付資料を読み、研究概要について理解を深める
第 13 回	加藤担当③：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（1）	事前学習	実験結果の整理とデータ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第 14 回	加藤担当④：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（2）	事前学習	実験結果の整理とデータ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第 15 回	加藤担当⑤：「パーソナル・スペース」概要説明、実験の実施	事前学習	「パーソナル・スペース」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	収集データの整理
第 16 回	加藤担当⑥：実験結果の整理、仮説・分析計画の検討	事前学習	「パーソナル・スペース」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	収集データの整理
第 17 回	加藤担当⑦：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成（1）	事前学習	配布資料の再読、データ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第 18 回	加藤担当⑧：実験データの整理・データ解析・レポートの作成（2）	事前学習	配布資料の再読、データ解析の準備
		事後学習	実験レポートの作成
第 19 回	加藤担当⑨：「ストループ効果」概要説明、実験の実施	事前学習	「ストループ効果」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	配布資料の再読、実験レポートの作成
第 20 回	加藤担当⑩：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成	事前学習	「ストループ効果」に関する配付資料を読み、研究概要について理解する
		事後学習	配布資料の再読、実験レポートの作成
第 21 回	新井担当①：「主観的確率観」概要説明、実験の実施	事前学習	実験法の復習
		事後学習	配付資料の理解を深める
第 22 回	新井担当②：実験結果の整理・データ解析	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析
第 23 回	新井担当③：データ解析・レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート提出
第 24 回	新井担当④：「概念達成」概要説明、予備実験	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第 25 回	新井担当⑤：実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第 26 回	新井担当⑥：実験結果の整理・データ解析	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析
第 27 回	新井担当⑦：データ解析・レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	レポート提出
第 28 回	新井担当⑧：「アフォーダンス」概要説明、予備実験	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第 29 回	新井担当⑨：実験の実施	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	配付資料の理解を深める
第 30 回	新井担当⑩：実験結果の整理・データ解析・レポートの作成	事前学習	配付資料を読んでおく
		事後学習	実験結果の整理・データ解析・レポート提出

1. 科目名 (単位数)	心理学研究法演習 I (2 単位)								
2. 授業担当教員	手島 茂樹、中里 克治、石川 清子、大澤 靖彦、加藤 宏一、齋藤 瞳、松坂 秀雄、岡本 香、新井 雅人 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です	3. 科目番号	PSMP3371						
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。								
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。								
10. 教科書・参考書・教材	担当教員が授業の中で提示する。								
11. 成績評価の方法	担当教員が授業の中で提示する。								
12. 受講生へのメッセージ	担当教員が授業の中で提示する。								
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。								
14. 授業展開及び授業内容									
	担当教員	授業内容							
	手島 茂樹	<p>【授業概要】自分の好みの論文を読み始めます。まず、日本語の文献から始めます。次に、英語の文献に入りますが、英文論文を読むための橋渡しとして、日本語訳のある「ヒルガードの心理学」を英文で読むことをします。中学校や高等学校で勉強した英語を思い出して欲しいと思います。たぶん内容が心理学ですので、楽しく学べると思います。教科書：第VI部 人格と個性 個人差 のところです。</p> <p>【研究領域】臨床心理学 人格心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】「ヒルガードの心理学」は日本語訳があるので、読むのも楽だと思います。但し辞書を片手に進めましょう。心理学の勉強をもう一歩前進させたいという学生の受講を望みます。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知します。</p>							
	中里 克治	<p>【授業概要】日本語の文献から始めて、英語の文献についても、検索の仕方と読み方、まとめ方、発表の仕方を学んで行く。CiNii だけでなく、APA のデータベースからもかなりの論文をダウンロードできる。</p> <p>【研究領域】中年期と高齢期のパーソナリティと知能の発達、適応を中心とするが、広い意味で考えてもらってかまわない。</p> <p>【受講者へのメッセージ】研究の出発は自分の興味のある領域の先行研究のレビューから始まる。それを元に妄想を広げてゆくのも楽しいものである。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知する。</p>							
	石川 清子	<p>【授業概要】子どもを取り巻く環境に視野を向けた研究論文を丁寧に検証していく。従い、心理学における主要文献の購読を行うとともに、文献内容における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どのような心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。基本的には演習形式により心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解することを目指し、心理学研究法の新しいかたちとは何かを学習する。</p> <p>【研究領域】学校臨床心理学・自己価値・本来性・家族心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】日常生活の環境の中から、当たり前のことに疑問を持てるような感覚を大切にしていきたいと思います。自己や他者の内面的な心の動きに耳を傾け、見つめる研究に興味のある人、量的研究のみならず質的研究に強い関心がある人に、参加していただきたいと思います。</p> <p>【オフィスアワー】第一回講義にてお知らせします。</p>							
	大澤 靖彦	<p>【授業概要】</p> <table border="1"> <tr> <td>第 1 ～ 3 回</td> <td>興味のある領域の一般論の研究</td> </tr> <tr> <td>第 4 ～ 10 回</td> <td>文献の収集、最近の研究と課題 (英語の文献も含む)</td> </tr> <tr> <td>第 11 ～ 15 回</td> <td>研究テーマの絞込みと研究計画の作成</td> </tr> </table> <p>【研究領域】学校臨床心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】精力的に研究しましょう。やりたい研究とできる研究とは異なります。</p> <p>【オフィスアワー】別途通知します。</p>		第 1 ～ 3 回	興味のある領域の一般論の研究	第 4 ～ 10 回	文献の収集、最近の研究と課題 (英語の文献も含む)	第 11 ～ 15 回	研究テーマの絞込みと研究計画の作成
第 1 ～ 3 回	興味のある領域の一般論の研究								
第 4 ～ 10 回	文献の収集、最近の研究と課題 (英語の文献も含む)								
第 11 ～ 15 回	研究テーマの絞込みと研究計画の作成								
	齋藤 瞳	<p>【授業概要】心身医学や臨床心理学に関連した学術論文を講読し討論を行うことにより、研究論文の読み方、研究デザイン、研究方法に関する基礎知識を得る。その中で、自らの関心を絞り、学術的に新しい知見をもつオリジナルな論文作成を目指し、研究計画の立案を行う。</p>							

	<p>【研究領域】心身医学、臨床心理学</p> <p>【受講生へのメッセージ】研究をする上で重要となる客観性や論理性は、日常生活における問題解決能力や自己管理能力につながります。授業で学んだことを日常生活にも応用し役立てることを目指しましょう。</p> <p>【オフィスアワー】初回授業でお知らせします。</p>
加藤 宏一	<p>【授業目的】認知心理学または学習心理学の研究領域について学習します。また、こうした領域で実際に研究を行うために必要な実験心理学的手法やデータ分析法について学びます。</p> <p>【授業方法】認知心理学または学習心理学の様々な研究領域の中から興味のある書籍や論文を読み、レジюме（要約）を作成してもらいます。また、周囲の人々を対象に簡単な実験を行い、演習を通して、研究計画の設定、データ解析、小レポート作成などを体験します。</p> <p>【授業目標】研究計画の設定。文献購読を通して発見した課題を、実験的手法を用いて検証するための研究計画書の作成を目標とします。</p> <p>【研究領域】認知心理学または学習心理学の領域における実験的手法を用いた研究。（私自身は、感情と記憶、記憶の符号化（覚えること）と検索（思い出すこと）のメカニズム、メタ認知、忘却などのテーマに特に興味をもっています。）</p> <p>【受講者へのメッセージ】まずは、いろいろな文献を読み、興味を持てるテーマを発見してください。そして、授業外でも自ら積極的に学習し、研究の楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思います。文献購読に基づいて設定した仮説を客観的データによって検証するという科学的研究の一連の流れを理解すること、卒業研究に必要なスキルを獲得することを目指します。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知する。</p>
松坂 秀雄	<p>【授業概要】質的研究法の一つとしてエピソード記述法を取り上げ、その提唱者である鯨岡の著書を購読することにより、質的研究法自体の有効性と普遍性を理解する。その上で、日常生活を含めた様々なフィールドにおけるエピソードを取り上げ、エピソード記述の実践を行う。また、半構造化面接によるインタビューのロールプレーを行い、質的データの収集と分析を演習する。</p> <p>【研究領域】エンカウンター・グループ、カウンセリング、不登校問題</p> <p>【受講者へのメッセージ】学知が生活世界を歪め、疎外してしまうことから脱却し、受講者が、本来の素朴な生活世界を『ありのまま』捉えられるような『センス』を磨いていくことを目指したいと考えています。それは、事柄の本質に目を向けようとする姿勢を身につけることにつながりますし、それが、対人援助の道に進もうと考えている人にとって、大切な訓練のひとつになると思っています。</p> <p>【オフィスアワー】 別途通知します。</p>
岡本 香	<p>【授業目的】社会心理学領域の研究について学ぶことを目的とします。具体的には、社会心理学の研究領域の中で受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文を購読することを通して、社会心理学の研究に必要な基礎知識と研究方法を学びます。</p> <p>【授業方法】毎回、受講生の興味のあるテーマに関する専門書および論文（以下、文献とする）について、受講生自ら検索した文献を熟読し、その内容をレジюмеにまとめます。また、授業時に、先にまとめたレジюмеをもとに、読んだ文献の内容について発表をし、他のゼミ生と議論することで、テーマに関する理解を深めます。</p> <p>【授業目標】受講生自身の研究テーマを決定し、研究計画書を作成することを目標とします。</p> <p>【研究領域】社会心理学</p> <p>【受講者へのメッセージ】授業に参加する前に、あらかじめ社会心理学の教科書等を読んだり、周囲の人々を観察したりして、自分の気になるテーマについて目途をつけておいてください。ここでいう“目途”とは、「この領域の研究に興味がある」、「この理論について気になった」、「日常にみられるこの行動に違和感を感じる」というようなもので構いません。なお、研究を進めるのは受講生自身です。教員に教えてもらうことを待つ姿勢ではなく、自らが積極的に学ぶ姿勢で研究に取り組むことを求めます。</p> <p>【オフィスアワー】 第1回の授業内にて通知します。</p>
新井 雅人	<p>【授業概要】臨床心理学の基礎的研究となるような実験研究を中心に、受講生が興味を持った学術論文をレジюмеにまとめ、研究の仕方を学ぶという観点から購読を行う。</p> <p>【研究領域】臨床心理学（実験研究）</p> <p>【受講者へのメッセージ】心理学基礎実験等の科目で演習をしてきた実験や調査は、学生が理解しやすいように先生方が準備したものです。卒業研究をやるという人は、徐々に実際の研究も見えていきましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>

1. 科目名 (単位数)	心理検査法演習 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3354
2. 授業担当教員	鶴 光代		
4. 授業形態	演習およびグループワーク	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理臨床の現場でよく使用されている主な質問紙法検査や投影法検査等の理論、実施方法、結果の解釈について学習する。自らが心理検査の実施者と被検者の役割をとることによって、心理検査の目的、特徴、有効性や限界について体験的に学ぶとともに、他のアセスメント方法とも合わせて総合的に事例を理解できるようになることを目指す。		
8. 学習目標	1. 心理検査の種類・特徴および長所・短所を理解し、説明できるようになる。 2. 心理検査の実際を体験的に学び、使用できるようになる。 3. 心理検査の結果からのアセスメントができるようになる。 4. 心理検査における心理臨床の倫理について理解し、説明できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各心理検査実施後、それぞれの検査法の結果と所見をまとめるが、そのままとさらに検討を加えて提出することを課題とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【参考書】沼 初枝『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版。 上里一郎『心理アセスメントハンドブック』西村書店。		
11. 成績評価の方法	受講態度・参加姿勢(欠席はマイナス要因となる) 30% 心理検査法ごとの結果と所見についてのレポート提出と内容 30% 科目終了レポート 30% アサイメントにおける内容 10%		
12. 受講生への メッセージ	自己理解に役立てて、自己成長の糧とすることを望む。		
13. オフィスアワー	初回の授業で通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	心理学における検査法とその倫理	事前学習	心理検査について調べる
		事後学習	心理検査の特徴と検査法倫理について理解を深める
第 2 回	質問紙法の実際 1 - 進路選択自己効力感尺度	事前学習	自己効力感について、その概念を調べる
		事後学習	進路選択について、自分の傾向をまとめる
第 3 回	質問紙法の実際 2 - うつ尺度、不安尺度の実施、分析	事前学習	うつ、不安の概念について調べる
		事後学習	うつ、不安と精神的健康について検討する
第 4 回	投影法の実際 1 - 文章完成法実施と分析	事前学習	文章完成法の特徴について、調べる
		事後学習	分析法についての観点を確認する
第 5 回	投影法の実際 1 - 文章完成法の分析と所見	事前学習	文章完成法の事例を読み、分析の仕方を理解する
		事後学習	自己の将来と社会的つながりの特徴についてまとめる
第 6 回	投影法の実際 2 - P F スタディ(標準法)の実施と分析	事前学習	P F スタディの概要について調べる
		事後学習	P F スタディの分析について理解を深める
第 7 回	投影法の実際 3 - P F スタディ(質疑法)の実施と分析	事前学習	P F スタディの質疑法について調べる
		事後学習	P F スタディの標準法と質疑法を比較して理解を深める
第 8 回	投影法の実際 4 - P F スタディ 結果と所見の書き方	事前学習	P F スタディの結果の読み方を調べる
		事後学習	P F スタディの留意点について理解を深める
第 9 回	知能検査の実際 1 - WAIS の実施	事前学習	WAIS の実施法の概要について調べる
		事後学習	WAIS の留意点について理解する
第 10 回	知能検査の実際 3 - 田中ビネーの分析	事前学習	ビネー式知能検査の特徴について調べる
		事後学習	WAIS とビネー式との違いについて検討する
第 11 回	認知障害に関する検査 - 長谷川式簡易知能評価スケール	事前学習	認知障害検査の種類について調べる
		事後学習	長谷川式スケールの特徴についてまとめる
第 12 回	投影法の実際 4 - 樹木画テストの実施と分析	事前学習	樹木画テストの種類を調べる
		事後学習	樹木画テストで分かったことと、他のテスト結果とを併せて、自分の傾向を検討委してみる
第 13 回	投影法の実際 4 - ロールシャッハテストの実施	事前学習	ロールシャッハテストの概要について調べる
		事後学習	ロールシャッハテストにおける実施上の留意点をまとめる
第 14 回	その他の検査	事前学習	その他の検査法について調べる
		事後学習	心理検査の意義についてまとめる
第 15 回	総合的所見をまとめる	事前学習	心理検査の結果を総合的にまとめる
		事後学習	心理検査の総合所見を自己成長に活かす

1. 科目名 (単位数)	心理統計法 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP1141
2. 授業担当教員	三好 一英		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	統計学を履修していること		
7. 講義概要	<p>心理学を修める上で、統計学の知識は、データを正しく扱い読み取るために必須の教養のひとつである。本講義では、統計学に関する正しい知識を習得するとともに、データを収集し、分析し、結果を読み取る能力を身につけることを目標とする。</p> <p>本講義は、「統計学」の講義に継続する内容として、実際にデータを収集し、統計ソフト(SPSS)を用いて、「統計学」で習得した記述統計を実施するとともに、各種の統計的仮説検定の実際について学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>代表的な統計処理について自ら統計ソフト(SPSS)を用いて実践することで、基本的なデータの扱いと読み取り方法を習得する。具体的には、以下の4点を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的に合わせたデータを収集し、統計処理を行うことができる。 2. データに合った解析法を選択できる。 3. 選択した解析法を、統計ソフト (SPSS) を使って実施し、結果を読み取ることができる。 4. 解析結果をレポートとして記述する基本的な手順を理解し、説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内および授業外に、データ解析に関する課題を、適宜行うことがある。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】岸 学『SPSS によるやさしい統計学 第2版』オーム社、2012年。</p> <p>【教科書】山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴェ書房、2004年。</p> <p>(※2冊目は、統計学と同じものを使用します。持参してください)</p>		
11. 成績評価の方法	期末試験 (100%) + 授業への積極的参加 (最大 10 点)		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学を履修していることを前提に講義は進められますので、よく復習しておいてください。 ・講義は毎回の積み重ねです。前回の内容理解を前提に講義は進められます。 ・授業中に無断で途中退出することは原則禁止します。 ・コンピュータを使用します。講義時間外にも積極的に触って操作方法の習得に努めましょう。 <p>※統計で困ったことになった2年生以上の上級生、大学院生の聴講も歓迎します。</p>		
13. オフィスアワー	授業前後の時間に非常勤講師室で質問等を受け付けます。気軽に来てください。 e-mail でも質問を受け付けます。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：春期の理解度の確認	事前学習	テキストの入手，統計学の学習内容の復習
		事後学習	授業で使用した統計学の課題の復習
第2回	記述統計：データ入力、尺度水準	事前学習	SPSS テキスト第1-3章を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(尺度水準)
第3回	記述統計：度数分布	事前学習	SPSS テキスト第4章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(度数分布)
第4回	記述統計：代表値と散布度	事前学習	SPSS テキスト第4章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(代表値，散布度)
第5回	記述統計：変数の変換（標準化など）	事前学習	SPSS テキスト第5章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(標準化)
第6回	推測統計：仮説や目的に答える	事前学習	SPSS テキスト第6章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(推測統計)
第7回	2変数の検定(1)：間隔・比尺度の関係	事前学習	SPSS テキスト第8章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(相関係数)
第8回	2変数の検定(2)：名義尺度同士の関係	事前学習	SPSS テキスト第8章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(連関計数)
第9回	対応のあるt検定	事前学習	SPSS テキスト第9章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(対応のあるt検定)
第10回	対応のないt検定とその前提となる等分散性の検定	事前学習	SPSS テキスト第9章の該当部分を読む
		事後学習	よく分かる心理統計の該当部分を読む
第11回	分散分析の基本的な考え方(1)モデル，仮説の立て方	事前学習	よく分かる心理統計の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(仮説の立て方)
第12回	分散分析の基本的な考え方(2)主効果，多重比較	事前学習	よく分かる心理統計の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(多重比較)
第13回	一要因分散分析と多重比較	事前学習	SPSS テキスト第10章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(一要因分散分析)
第14回	分散分析の基本的な考え方(3)交互作用，単純主効果	事前学習	よく分かる心理統計の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(交互作用)
第15回	二要因分散分析と交互作用	事前学習	SPSS テキスト第10章の該当部分を読む
		事後学習	講義内容の復習と練習問題(二要因分散分析)
期末試験 (持ち込み可)			

1. 科目名 (単位数)	心理療法概説 (2 単位)	3. 科目番号	EDPS3308 PSMP3382
2. 授業担当教員	松坂 秀雄		
4. 授業形態	講義、演習、討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	3 年次以上		
7. 講義概要	様々な心理療法の中から、クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法、家族療法、芸術療法等の主要な心理療法を取り上げ、その理論と技法を体験的に学習する。また、それぞれのアプローチにおける効用と限界についての理解を深めることで、クライアント自身や問題に適した心理療法を学ぶ。		
8. 学習目標	1. 心理療法の諸理論・諸技法について、その背景となる考え方を理解し、それぞれの治療・援助の方法を具体的に知ること、その考え方や方法を日常生活に応用できるようになる。 2. 対人援助の場で、利用者や抱える問題に応じた心理的側面の援助方法を選ぶことができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	以下の二設題のうち一つを選択するレポート課題を課する。 設題 1: 様々な心理療法のうち、二つの心理療法を取り上げ、それぞれの考え方と具体的な技法について、比較検討しながら2000字程度で述べなさい。 設題 2: 一つの心理療法を取り上げ、その考え方や技法を自分自身の日常生活や人間関係にどのように活かすことができるのかを2000字程度で論じなさい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 窪田節子・吉武光世共著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003 年。 【参考書】 國分康孝著『カウンセリングの理論』誠信書房、1980 年。 神田橋條治著『精神療法面接のコツ』岩崎学術出版社、1990 年。		
11. 成績評価の方法	学習ノート 50% 課題レポート 50%		
12. 受講生への メッセージ	本授業の目的達成のために、受講生は以下の条件を守ること。 1. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 2. ディスカッションやグループワーク等を通して心理学的な感覚（センス）を磨き、臨床心理学的視点を体験的に身につけていくことを目指すので、学生は自主的・主体的かつ協力的に学習を進めること。 3. 授業開始時間を守る。宿題（アサイメント）は指示された期限までに必ず行うこと、及びレポートの提出日を厳守すること。 4. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 5. 携帯電話の授業中の作動は厳禁。他の受講生の学習に迷惑をかける行為（私語、居眠り、グループ活動に協力しない等）をつつしむこと。（明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格に対処する。） 教員は以下のことを実行する。 3. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 4. 専門用語は分かりやすく説明し、一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加できるよう双方向対話型の学習環境を作る。		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション～心理療法とは何か、また、心理療法における言葉の性質を理解する。	事前学習	テキスト pp.1～4 を通読して、分からない言葉をノートに書き出す。
		事後学習	心理療法では何をしているのかについて学習ノートにまとめる。
第 2 回	心理療法の進め方を理解し、併せて、心理療法における倫理的配慮についても理解する。	事前学習	テキスト pp.4～6 を熟読する。
		事後学習	心理療法の進め方を学習ノートにまとめる。
第 3 回	クライアント中心療法の基本的な考え方を理解する。	事前学習	テキスト pp.83～88 を通読する。
		事後学習	ロジャーズのパーソナリティ理論をまとめる。
第 4 回	クライアント中心療法の考え方に基づく、心理療法に共通した留意点を学ぶ。——カウンセラーの 3 条件の理解——	事前学習	テキスト pp.89～92 を通読する。
		事後学習	カウンセラーの 3 条件について学習ノートにまとめる。
第 5 回	精神分析の基本的な考え方を学び、キー概念となる葛藤についても理解する。	事前学習	テキスト pp.20～23, pp.29～31 を通読する。
		事後学習	フロイトの局所論、構造論および、精神分析における葛藤概念をまとめる。
第 6 回	精神分析療法における洞察とは何かを知り、転移・逆転移概念について理解する。また、治療構造・治療同盟について理解し、心理療法に共通した事柄を学習する。	事前学習	テキスト pp.32～39 を通読する。
		事後学習	「転移・逆転移」「洞察」「治療構造」「治療同盟」について学習ノートにまとめる。
第 7 回	行動療法を理解し、その代表的技法のひとつとして、系統的脱感作法について学ぶ。併せて、自律訓練法も理解する。	事前学習	テキスト pp.108～110 を熟読し、3 つの学習理論について、学習ノートにまとめる。
		事後学習	系統的脱感作法の手順について学習ノートにまとめる。
第 8 回	認知行動療法について理解する。エリスの論理療法について	事前学習	テキスト pp.129～141 を通読する。

	てーイラショナル・ビリーフを知る。ベックの認知療法についてー自動思考について学ぶ。	事後学習	「イラショナル・ビリーフ」「自動思考」「スキーマ」で自分に当てはまる例をみつけて学習ノートにリストアップする。
第 9 回	交流分析の考え方と技法を理解する。	事前学習	テキスト pp.78～79 のエゴグラムを実施して、グラフ化してくる。
		事後学習	ゲーム分析について要点を学習ノートにまとめる。
第 10 回	ゲシュタルト療法の考え方と技法を理解する。	事前学習	ゲシュタルトセラピーの創始者パールズについて調べたことを学習ノートにまとめる。
		事後学習	自分の「未完了」について、思いだしたこと、気づいたことを学習ノートに書く。
第 11 回	遊戯療法の考え方とその留意点を学ぶ。	事前学習	自分が子どものころ好きだった遊びを学習ノートにリストアップする。
		事後学習	遊戯療法の留意点について学習ノートにまとめる。
第 12 回	絵画療法の理解と演習および箱庭療法・コラージュ療法の考え方と技法を理解する（箱庭療法室の見学と演習を含む。）。	事前学習	テキスト pp.171～174 を通読する。
		事後学習	コラージュ作品を作成する。
第 13 回	家族療法の考え方と技法の理解する（模擬実践場面の DVD を見ることを含む。）。	事前学習	テキスト pp.147～158 を通読する。
		事後学習	「円環的因果律」「家族構造」「リフレーミング」について要点を学習ノートにまとめる。
第 14 回	森田療法および内観療法の考え方と技法を理解する。	事前学習	テキスト pp.178～185、pp.188～192 を通読する。
		事後学習	森田療法の基礎理論の考え方を学習ノートにまとめる。内観療法の実際と効果について学習ノートにまとめる。
第 15 回	集団心理療法を理解する。	事前学習	テキスト pp.195～203 を通読する。
		事後学習	心理劇と集団精神療法の要点について学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1141
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I → II の順で履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題①】美術館鑑賞レポート：美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、自身の鑑賞体験をレポートにまとめる。...1500 字程度。 【レポート課題②】課題②についてはセメスターの中間で説明する。 ※いずれの課題も授業の中で詳細を説明する。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 文部科学省『「幼稚園教育要領解説」フレーベル館。』			
11. 成績評価の方法	授業への取り組み (課題の提出)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み (課題の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%			
12. 受講生へのメッセージ	現代の情報化が進化した社会環境において、子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促してくれます。この授業では、様々な造形体験を通して、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていきます。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形を学ぶとは、保育者の役割とは	事前学習	・テキスト第 1 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 2 回	イントロダクション 「ゆびで出会う」- 幼児の造形世界をのぞいてみる	事前学習	・テキスト第 2 章を読む	
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる	
第 3 回	点・線・面×いろ×イメージ-子どもの絵の世界 点・線・面×いろ×リズム-からだの動きを生かして	事前学習	・テキスト第 4 章を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 4 回	点・線・面×ことば-オノマトペといろ・かたち	事前学習	・テキスト pp.33-34 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 5 回	版であらわす表現の特徴の理解と演習 「プリント実験工房」	事前学習	・テキスト pp.42-44 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 6 回	版であらわす表現の演習とプレゼンテーション	事前学習	・身近な素材で版になりそうなものを 3 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる	
第 7 回	手ざわりをたのしむ造形活動-粉から oo へ (演習)	事前学習	・手ざわりが異なる物を 5 つ探して持参する	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 8 回	粘土の造形遊びと表現活動 (演習)	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 9 回	新聞紙を「つなぐ」造形遊びの体験 (演習)	事前学習	・新聞紙でどのような遊びや加工ができそうか 3 つ考えてくる	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 10 回	身近な材料 (紙箱・紙コップ・プラスチック容器など) を「ならべる」「くみだてる」遊びの体験 (演習)	事前学習	・テキスト pp.55-56	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 11 回	アールブリュットの世界 I 子ども絵をみる 対話型鑑賞による演習 (演習)	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる	
第 12 回	造形物とこどもの学び、保育空間の関係性について (講義)「遊び≒学びを引き出す造形物」の企画・構想 (グループ学習)	事前学習	・事前調査 (※テーマは第 11 回で発表)	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 13 回	画材及び素材の特徴の確認と試行、制作 (グループ学習)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 14 回	制作及びプレゼンテーションの準備 (グループ学習)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと	
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる	
第 15 回	プレゼンテーションと相互鑑賞、相互評価 授業のふりかえりとまとめ	事前学習	・発表の準備 ・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。	
		事後学習	【レポート課題】 ・9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I / 図画工作 I (幼) / (保育士) (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2421
2. 授業担当教員	手塚 千尋			SCOT2421
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 <p>5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回オリエンテーションで説明する。 2. レポート課題「①講義を通して何を学んだのか、②幼児の造形活動でどのようなことを大切にしたいか」1500字 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 槇 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。</p> <p>【参考書】「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 茂木一司・手塚千尋編集『色の学び辞典 全3巻』星の環会。</p> <p>【教材・道具など】 各自で準備が必要なものは事前に通知する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み (グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み 30%, ポートフォリオ 40%, レポート 30%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児は目の前のモノやヒトに対し、からだ全体ではたらきかけることを通じて自分が存在する「世界」について知覚し、認知していきます。つまり、幼児にとって造形活動は「探求」であり、学びの過程そのものを意味します。そのため保育者には、より創造的な想像力、学びを支援するための実践力が求められます。この授業では幼児の造形教育に関する基礎・基本について学びますが、造形表現活動に関する多くのヒントは日常生活に隠されています。自身の興味・関心の向上の大きな動機づけになることを理解して授業に臨むことを期待しています。また図画工作 I は、保育実践者として経験しておくべき最低限の内容で構成しています。併せて図画工作 II を選択することをお勧めします。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①必ず汚れてもよい服装で出席すること。 ②この授業では、ポートフォリオ＝自分の学習の過程の記録が評価の大半を占めます。制作過程や学習の記録 (記述、写真など) を忘れずにしましょう。 ③第 9 回で新聞紙を、第 10 回で空箱、プリンカップ、トイレットペーパーの芯を使うので普段の生活から収集しておいてください。 			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形を学ぶとは、保育者の役割とは	事前学習	テキスト第 1 章を読む。	
		事後学習	学習内容をポートフォリオにまとめる。	
第 2 回	イントロダクション 「ゆびで会おう」－幼児の造形世界をのぞいてみる	事前学習	テキスト第 2 章を読む。	
		事後学習	学習内容をポートフォリオにまとめる。	
第 3 回	えがく 1 【グループワーク】 点・線・面×いろ×イメージ－子どもの絵の世界 点・線・面×いろ×リズム－からだの動きを生かして	事前学習	テキスト第 4 章を読む。	
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 4 回	えがく 2 点・線・面×ことば－オノマトベという・かたち	事前学習	テキスト pp.33-34 を読む。	
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 5 回	うつつ 1 版であらわす表現の特徴の理解と実習－プリント実験工房	事前学習	テキスト pp.42-44 を読む。	
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 6 回	うつつ 2 版であらわす表現の実習とプレゼンテーション	事前学習	身近な素材で版になりそうなものを 3 つ探して持参する。	
		事後学習	学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる。	
第 7 回	さわる 1 手ざわり体験①－粉から〇〇へ	事前学習	手ざわりが異なる物を 5 つ探して持参する。	
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 8 回	さわる 2 てざわり体験②－粘土の造形遊びと表現活動	事前学習	事前配布資料を読む	
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 9 回	つける・ならべる・くみだてる 1 新聞紙を「つなぐ」造形遊びの体験	事前学習	新聞紙でどのような遊びや加工ができそうか 3 つ考えてくる。	

		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 10 回	つける・ならべる・くみだてる 2 身近な材料（紙箱・紙コップ・プラスチック容器など）を「ならべる」「くみだてる」遊びの体験	事前学習	テキスト pp.55-56
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 11 回	子どもの絵の世界 対話型鑑賞による演習	事前学習	事前配布資料を読む。
		事後学習	学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。
第 12 回	造形による保育環境のデザイン 1 造形物とこどもの学び、保育空間の関係性について（講義）「遊び≒学びを引き出す造形物」の企画・構想（グループ学習）	事前学習	事前調査（※テーマは第 11 回で発表）
		事後学習	グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる。
第 13 回	造形による保育環境のデザイン 2 画材及び素材の特徴の確認と試行、制作（グループ学習）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと。
		事後学習	グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる。
第 14 回	造形による保育環境のデザイン 3 制作及びプレゼンテーションの準備（グループ学習）	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと。
		事後学習	グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる。
第 15 回	プレゼンテーションと鑑賞、相互評価 授業のふりかえりとまとめ	事前学習	発表の準備。 全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。
		事後学習	【レポート課題】 9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2141 SSOT2522 SCOT2522
2. 授業担当教員	手塚 千尋	5. 開講学期	春期・秋期
4. 授業形態	実技、講義		
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、保育者・指導者として保育実践の場に還元することのできる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を探究するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポートフォリオの作成 (毎時間) ※詳細は第1回ガイダンスで説明する。 2. 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解したことを具体的に示しながらまとめる (テーマは自由)」 1000 字 【レポート課題②】 「授業を通して何を学んだのか具体例を挙げながら感想を交えてまとめる」 1500 字 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 谷田貝公昭監修、おかもとみわこほか編著『新・保育内容シリーズ 6 造形表現』一藝社。 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。</p> <p>【参考書】 横 英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。 「新 幼児と保育」編集部『子どもとアート』小学館。 茂木一司・手塚千尋編集『色の学び辞典 全3巻』星の環会。</p> <p>【教材・道具など】 各自で準備が必要なものは事前に通知する</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み (課題物の提出、グループワークではグループと個人の両方)、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。</p> <p>授業への取り組み (課題物の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>幼児は目の前のモノやヒトに対し、からだ全体ではたらきかけることを通して自分が存在する「世界」について知覚し、認知していきます。つまり、幼児にとって造形活動は「探求」であり、学びの過程そのものを意味します。そのため保育者には、より創造的な想像力、学びを支援するための実践力が求められます。この授業では幼児の造形教育に関する基礎・基本について学びますが、造形表現活動に関する多くのヒントは日常生活に隠されています。自身の興味・関心の向上が造形教育や学習への大きな動機づけになることを理解して授業に臨むことを期待しています。</p> <p>【注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①必ず汚れてもよい服装で出席すること。 ②この授業では、ポートフォリオ＝自分の学習の過程の記録が評価の大半を占めます。制作過程や学習の記録 (記述、写真など) を忘れずにしましょう。 		
13. オフィスアワー	その都度お知らせします		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス 幼児の造形表現の内容と表現活動を促す環境デザインについて	事前学習	・テキストを一通り確認しておく。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 2 回	ひかり 1 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想① (実習)	事前学習	・「光」の特性についてまとめてくる
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 3 回	ひかり 2 自然光・人工光による造形遊び体験と遊びの構想② (実演+相互評価)	事前学習	・具体的な造形活動への展開を考えてくる
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 4 回	かぜ 子どもの興味から出発する造形活動と遊びの構想	事前学習	・テキスト第 9 章を読む
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 5 回	紙の可能性 1 「おしゃれな〇〇に大変身」 —制作	事前学習	・「紙」の特性と行為性を 5 つ以上挙げてくる (キーワードで可)
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 6 回	紙の可能性 2 「おしゃれな〇〇に大変身」 —制作・ファッションショー	事前学習	・課題を完成させる
		事後学習	・学習過程と内容、相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる
第 7 回	アール・ブリュットの世界Ⅱ アート×福祉	事前学習	・事前配布資料を読んでまとめてくる
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる

	(講義+ディスカッション)		
第 8 回	幼児とアートプログラム 美術館、芸術士など幼児を取り巻くアート環境の最新動向について (講義+ディスカッション)	事前学習	・事前配布資料を読む
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる
第 9 回	「保育指導案」の作成	事前学習	・テキスト第 5 章を読む
		事後学習	・指導案を完成させる (後日提出)
第 10 回	人形劇の学習環境デザインと実践 1 グループワークによる企画・実施に向けての構想	事前学習	・テキスト第 10 章を読む。
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる
第 11 回	人形劇の学習環境デザインと実践 2 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 12 回	人形劇の学習環境デザインと実践 4 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 13 回	お店屋さんごっこの学習環境デザイン 4 グループワーク 準備 (制作)	事前学習	※授業時間内では終わらないので時間外にも取り組むこと
		事後学習	・グループによる制作過程をポートフォリオにまとめる
第 14 回	人形劇の発表と相互評価	事前学習	・発表の準備、練習
		事後学習	・相互評価のコメントをポートフォリオにまとめる 【レポート課題①】 「第 10 回～14 回の授業を通して気づいたこと、理解したことを具体的に示しながらまとめる」 1500 字
第 15 回	授業のまとめとふりかえり	事前学習	・全回のポートフォリオをまとめながらふりかえり、疑問点、理解が不十分な点を探してくる。
		事後学習	【レポート課題②】 ・ 9 で示したテーマに沿って 1500 字程度でまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作Ⅱ (小) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2141 EDEL2304
2. 授業担当教員	井上 昌樹			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	図画工作Ⅰ→図画工作Ⅱの履修が望ましい			
7. 講義概要	<p>図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題①】美術館鑑賞レポート：美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、自身の鑑賞体験をレポートにまとめる。...1500 字程度。 <p>【レポート課題②】図画工作科題材の提案についてまとめる。</p> <p>※いずれも詳細は授業中に説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】宮脇理 監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業への取り組み (課題の提出)、ポートフォリオ、レポート・授業内の課題より総合判定をする。</p> <p>授業への取り組み (課題の提出) 30%、ポートフォリオ 40%、レポート・授業内の課題 30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を 100%引き出す指導を目指します。実際の授業として取り上げられることを意識して授業内容を体験することで、指導者としてのより実践的な視点を獲得していきます。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス 図画工作科の教科特性を考える	事前学習	・教科書を一通り確認しておく。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 2 回	造形遊び「カラフルスティック」	事前学習	・教科書 pp.58-59 を読む。	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 3 回	身近な素材から 1 「ふわふわモコモコ雲の世界」 -発想から制作へ	事前学習	・教科書 P.60-61 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 4 回	身近な素材から 2 「ふわふわモコモコ雲の世界」 -プレゼンテーションとふり返り	事前学習	・教科書 P.62-63 を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 5 回	木工であらわす 1 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -アイデア出しと制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 6 回	木工であらわす 2 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 7 回	木工であらわす 3 「二つの顔-電動糸鋸を使って-」 -作品鑑賞会とまとめ、ふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 8 回	光のアート 1 「Pikapika-光の軌跡で描こう-」 -Pikapika 体験、アイデア出し	事前学習	・制作を完成させる ・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 9 回	光のアート 2 「Pikapika-光の軌跡で描こう-」 -制作、まとめとふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 10 回	アニメの原理と手づくりアニメ	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 11 回	映像メディアによる表現「ストップモーションムービー」	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 12 回	造形遊び 1 「ファッションショー-de アート」 -計画	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 13 回	造形遊び 2 「ファッションショー-de アート」 -制作	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 14 回	造形遊び 3 「ファッションショー-de アート」 -ショーの実施とふり返り	事前学習	・事前配布資料を読む	
		事後学習	・学習過程と内容をポートフォリオにまとめる。	
第 15 回	授業のまとめとふり返り	事前学習	・これまでの授業についてふりかえる	
		事後学習	・【レポート課題②】...1500 字程度	

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	井上 昌樹	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習		
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作 I・II (小) の履修後が望ましい。		
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方や方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ポートフォリオの作成と提出 2 【レポート課題】「伊勢崎市幼小中特別支援学校美術展」での自身の鑑賞体験をまとめる。1500 字程度 3 模擬授業の学習指導案における「題材の考察」について各自でまとめる。1500 字程度 (第 14 回提出) ※詳細については授業中に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福田隆真 他編集『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。		
11. 成績評価の方法	授業への取り組み、ポートフォリオ、レポート・授業内の課題より総合判定する。 授業への取り組み 40%，ポートフォリオ 30%，レポート・授業内の課題 30%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校の現場では、専門であろうとなかろうとほぼ全員の先生が図画工作科の指導にあたります。図画工作科では、教員の押し付けや誘導ではなく、子どもに多くの実体験の場を与え、もてる感性や能力を 100%引き出す指導を目指します。この授業では、実際に授業をつくり、実践する経験を通して、図画工作科の目的についての理解を一層深めるとともに、授業づくりをする上での基本的な知識及び能力を身につけていきます。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	ガイダンス：図画工作科の目的と内容、学習指導要領と図画工作科教科書の位置づけについて	事前学習	・教科書を一通り確認しておく。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 2 回	授業分析①「絵に表す」 【授業分析+ディスカッション】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 3 回	授業分析②「立体に表す」 【授業分析+ディスカッション】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 4 回	授業分析③「鑑賞」 【授業分析+ディスカッション】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 5 回	学習形態と学習環境デザインについて【講義+演習】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 6 回	教材研究① 参考作品の意義と活用について 【講義+ディスカッション】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 7 回	教材研究② 創造的な技能を育むことを目的とした板書計画と ICT の活用について【講義+演習】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 8 回	教材研究③ 発想・構想を広げるための発問計画 【講義+演習+ディスカッション】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 9 回	教材研究④ 評価基準の設定と学習指導案の作成方法【講義+演習】	事前学習	・教材研究を進める。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 10 回	「伊勢崎市幼小中特別支援学校美術展」鑑賞報告会 子どもの発達段階における造形の特徴	事前学習	・【レポート課題】「伊勢崎市幼小中特別支援学校美術展」に行き、児童生徒作品の鑑賞レポートを書く
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 11 回	学習指導案の作成	事前学習	・授業展開をまとめてくる。
		事後学習	・授業案の改善。
第 12 回	模擬授業①	事前学習	・模擬授業の準備。
		事後学習	・授業実践のふり返り。
第 13 回	模擬授業②	事前学習	・模擬授業の準備。
		事後学習	・授業実践のふり返り。
第 14 回	図画工作科全体計画の作成	事前学習	・模擬授業の学習指導案における「題材の考察」を各自でまとめる。
		事後学習	・学習内容をポートフォリオにまとめる。
第 15 回	まとめとふり返り	事前学習	・これまでの授業についてふり返る。
		事後学習	・授業についてのふり返りポートフォリオにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	手塚 千尋		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 ポートフォリオの作成と提出 (詳細は授業中に説明する) 2 【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。1500字 【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。500字～ 【レポート課題③】鑑賞活動についての気づき、感想をポートフォリオにまとめる。500字～ 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】福田隆真 他編集『美術科教育の基礎知識』建帛社。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省。		
11. 成績評価の方法	授業への取り組み、ポートフォリオ、レポートより総合判定をする。 授業への取り組み40%、ポートフォリオ30%、レポート 30%		
12. 受講生へのメッセージ	小学校に図画工作科専科の教員を配置している都道府県、市町村はごくわずかである。つまり、小学校教員のほとんどは図画工作科を指導することになる。図画工作 (美術) を苦手に行っている人も、そうでない人も、色やかたちによる表現と鑑賞による造形教育のよさを感じ、楽しみながら (子どもの気持ちになって!)、意味やコトを紡ぎだす教科特性を持つ図画工作科への理解を深めていきたい。併せて、実際に教育現場で指導することをイメージしながら受講することで実践者としての視点を獲得していきたい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業の目的・概要及び評価について	事前学習	教科書を購入し、内容を一通り確認する。
		事後学習	教科書と必要物品の購入をし、教科書を一通り確認する。
第2回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか① 【映像鑑賞+ディスカッション】	事前学習	「私の図画工作体験」をメモしてくること。
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる
第3回	「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか② 【映像鑑賞+ディスカッション】	事前学習	学習指導要領解説 pp.6～8を読む
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第4回	図画工作科の内容概観 目標、教科内容、構成、教育的課題	事前学習	学習指導要領解説 pp.1～5、テキスト pp.2～5を読む
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる
第5回	図画工作科の内容と教育的意義1 「造形遊び」について①—演習	事前学習	テキスト pp.58～65読む
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる。
第6回	図画工作科の内容と教育的意義2 「造形遊び」について②—演習を基にした分析とディスカッション	事前学習	ワークシートで足りなかった箇所を充実させてくる。
		事後学習	【レポート課題①】造形遊びについての気づき、感想をまとめる。1500字
第7回	図画工作科の内容と教育的意義3 「絵や立体、工作で表す」について①—美術教育のマニュアル化を考える	事前学習	テキスト pp.179～180を読む。
		事後学習	【レポート課題②】美術教育におけるマニュアル化についての考えをまとめる。500字
第8回	図画工作科の内容と教育的意義4 「絵や立体、工作で表す」について②—演習を通した授業展開の構想	事前学習	テキスト pp.59～70を読む
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる
第9回	図画工作科の内容と教育的意義5 A 表現と B 鑑賞の関連性を考える—ワークシートとメディア機器を活用した鑑賞	事前学習	テキスト p.130を読む
		事後学習	学習したことをポートフォリオにまとめる
第10回	図画工作科の内容と教育的意義6 「鑑賞」について—対話型鑑賞、アートカードによる鑑賞の体験	事前学習	テキスト pp.89～100を読む
		事後学習	【レポート課題②】鑑賞活動についての気づき、感想をまとめる。500字～
第11回	指導案作成①	事前学習	テキスト pp.171-174を読む。
		事後学習	グループごとに作成を進める。
第12回	指導案作成②	事前学習	作成に関して疑問点を挙げてくる。
		事後学習	期日までに指導案を作成・提出し、模擬授業に備える。
第13回	模擬授業と授業研究会① (前半グループ)	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。
第14回	模擬授業と授業研究会② (後半グループ)	事前学習	模擬授業の準備 (参考作品、資料、ワークシートの作成など)
		事後学習	模擬授業を実施しての気づきをポートフォリオにまとめる。
第15回	授業のまとめとふりかえり —図画工作科の目標をもう一度考える	事前学習	図画工作科の教科目標を確認し、イメージを膨らませてくる。
		事後学習	ポートフォリオの提出に向けてまとめる 第15回で出される最終課題を完成させる

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	EDEL2314
2. 授業担当教員	服部 鋼資			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「図画工作Ⅰ」及び「図画工作Ⅱ」を修得した後に履修することを条件とする。			
7. 講義概要	学習指導要領における図画工作科教育の目標、内容、指導方法、評価等について概括した上で、初等教育において造形的な創造活動による学びが持つ意義を考察し、図画工作科教育の望ましい在り方と授業像を実践的に学ぶ。併せて、子どもの発達段階における造形の特質と、その表現の多様性について理解を深め、個に応じた指導力や、題材・教材研究の能力、図画工作科の授業を組み立てる力の獲得を目指す。授業では、具体的な題材例を設定し、写真や映像などを通して実践的に学び、指導案の書き方、指導方法についても習得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校図画工作科の目標及び内容を知り、その特質と教育的意義を理解する。 2. 造形表現の発達段階を学び、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるようになる。 3. 学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。 4. 図画工作科における評価の考え方と方法について学び、理解を深める。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、指導者の立場から考察ができるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業出席カード」により毎回の授業における感想、意見等を記述する。 ・学習指導案、「トントン ギコギコ」を視聴して、ノート等提出。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 大学美術指導法研究会編著 『平成 20 年告示新学習指導要領による「図画工作科」指導法』日本文教出版 2009 年。 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版 2008 年。</p> <p>【参考書】 宮脇理監修、福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社。 東山明著『美術教育の機軸と課題』明治図書。 宮坂元裕著『造形教育の考え方』日本文教出版。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験、学習指導案、「トントン ギコギコ」を視聴して、受講態度等により総合判定する。 (期末試験30%、学習指導案40%、「トントン ギコギコ」を視聴して10%、ノート10%、受講態度10%) ・本学規定により、授業時数の4分の3以上 (15回中12回以上) の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>図画工作科の内容や指導の在り方についての理解は、映像や写真、あるいは、実体験等を通して理解を図る必要がある。そのためには、極力欠席を避け授業に積極的に参加して授業づくりの面白さ、楽しさを体験できるようにしたい。また、以下のことに留意して参加してほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもは、図画工作科の学習体験の中で、どのような資質や能力を獲得するのだろうかという問いを常に意識する。 2. 授業の内容や感想、あるいは、授業内容に対する意見などをノートに記録する習慣を身に付ける。 3. 提出物は示された期日に必ず提出する。厳守。 4. ディスカッションや教師からの発問に積極的に応答できるように努める。 			
13. オフィスアワー	授業の前後で対応する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション 授業の目的と概要及び評価内容について ・小学校時代の図画工作の授業を思い出してみよう。 ・映画「トントン ギコギコ」を視聴し、図画工作科の内容の把握と教師の役割を観察し、ワークシートにまとめる。	事前学習	授業用ファイルを用意し、シラバスを読み、授業に臨む心構えをつくる。	
		事後学習	映画を振り返り、感想をノートにまとめ次の授業への準備をする。	
第2回	・映画「トントン ギコギコ」のワークシートを基に自分が受けた図工の授業と比較しながらこの授業から感じたこと、考えたこと、学び取ったことをディスカッションを通して整理し、現代の図画工作教育の現状と課題を把握する。	事前学習	教師の指導姿勢、子どもの活動の様子を振り返っておく。	
		事後学習	授業における指導者の役割について整理しまとめる。	
第3回	図画工作科は何を求めているか ・教科目標の分析と目標の意味の理解 ・図画工作科の独自性と他教科との比較	事前学習	教科書 pp.7~16 を基に予習をし、教科目標について予め理解しておく。	
		事後学習	教科目標の意味について講義を基にノートにまとめる。	
第4回	図画工作科の内容構成とその教育的意義 1 ・表現領域と鑑賞領域の扱いー「一体的に扱う」の意味の理解 ・領域及び各分野の関係の理解	事前学習	教科書 pp.17~22 を基に予習をし、内容構成について予め知識を得ておく。	
		事後学習	図画工作科の内容構成の意味を捉えノートにまとめる。	
第5回	図画工作科の内容構成とその教育的意義 2 ・「造形遊び」ー 題材を通じた内容理解 ・「造形遊び」の表現活動の考え方の理解	事前学習	教科書 pp.23~34 を基に予習をし、「造形遊び」について予め理解しておく。	
		事後学習	「造形遊び」の意味と内容の特質について	

	—「造形遊び」とは何か		ノートにまとめる。
第 6 回	図画工作科の内容構成とその教育的意義 3 ・「絵に表す」「立体に表す」「工作」一題材を通した内容理解 ・「鑑賞」一題材を通した内容理解 対話型鑑賞体験	事前学習	教科書 pp.35~82 を基に予習をし、A (2) 及び B (1) について理解する。
		事後学習	A (2)、B (1) の意味を捉え、ノートにまとめる。
第 7 回	図画工作科の授業づくり (1) ・望ましい図画工作科の授業像 (よい授業の条件) ・授業過程の特色	事前学習	資料「図画工作科の授業の特色」を基に予習をし、授業づくりについて予め理解しておく。
		事後学習	図画工作科におけるよい授業の条件とは何かを整理する。
第 8 回	図画工作科の授業づくり (2) ・導入指導の在り方と方法 (意欲的な学習を引き出す条件)	事前学習	資料「導入指導の在り方と方法」を基に予習をし、授業づくりについて予め理解しておく。
		事後学習	導入指導の意味と方法について整理してまとめる。
第 9 回	図画工作科の授業づくり (3) ・導入過程の作成 一つの題材についてグループで導入過程を作成し発表する。	事前学習	資料「導入指導の在り方と方法」を基に予習をし、導入指導について予め理解しておく。
		事後学習	グループで作成した導入指導を振り返り問題点を改善する。
第 10 回	学習指導案の作成 (1) ・学習指導案とは何か ・学習指導案作成上の留意点 ・題材選択 ・題材理解	事前学習	教科書 pp.117~123 を基に予習をし、学習指導案について予め理解しておく。
		事後学習	学習指導案作成上の留意点について振り返り確認する。
第 11 回	学習指導案の作成 (2) ・「題材設定の理由」及び「目標」「指導計画」の作成	事前学習	「題材設定の理由」の 3 観点を確認し、予め記述内容の見通しを付けておく。
		事後学習	題材の教育的意義について再確認し「本時の目標」との整合性を確かめておく。また「展開」の凡その見通しを付けておく。
第 12 回	学習指導案の作成 (3) ・「本時の目標」及び「展開」の作成 ・指導案提出	事前学習	「本時の目標」及び「展開」についての凡その見通しを付けておく。
		事後学習	指導案の記述内容について振り返り、自己評価する。
第 13 回	模擬授業 (1) (2) ・授業分析に基づいて授業批評を行う	事前学習	模擬授業の題材について関心を持ち授業展開を予測しておく。
		事後学習	模擬授業での指導について自分なりの意見をまとめる。
第 14 回	模擬授業 (3) (4) ・授業分析に基づいて授業批評を行う	事前学習	模擬授業の題材について関心を持ち授業展開を予測しておく。
		事後学習	模擬授業での指導について自分なりの意見をまとめる。
第 15 回	模擬授業 (5) ・授業分析に基づいて授業批評を行う ・模擬授業を参考にして教師の役割を考える	事前学習	図画工作科の授業における教師の役割について予め考えておく。
		事後学習	図画工作科の指導上の留意点について自分の考えをまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	スクールソーシャルワーク演習 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP4472 SCMP4472
2. 授業担当教員	大門 俊樹		
4. 授業形態	演習、学校または子ども支援に関するフィールド体験	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	①個別事例へのアセスメントのみでなく、ソーシャルワーカーとして、教育行政や学校の動き、地域を把握し、地域アセスメント、学校（地域機関）アセスメントができる力をつける。②SSW実践、特にメゾ・マクロプラクティスについて実際に体験的に習得する。③記録化する手法を持たない学校のなかで、記録化するだけでなく、校内で記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。		
8. 学習目標	これまで社会福祉専門職が入ったことのない学校にソーシャルワークの視点を導入し、学校現場でソーシャルワーク実践をどのように進めていけばいいのか、ミクロ・メゾ・マクロの観点すべてを視野に入れるスクールソーシャルワーカーの動きを実践的に習得することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業期間中に、学校または子ども支援に関する施設へボランティアとして行き、フィールド体験を行うとともに、その内容と成果について授業内で発表し、レポートにまとめる。それ以外の課題については、授業中に指示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 門田光司・鈴木庸裕『ハンドブック・学校ソーシャルワーク演習～実践のための手引～』ミネルヴァ書房。 【参考書】 門田光司・奥村賢『スクールソーシャルワーカーのしごと 学校ソーシャルワーク実践ガイド』中央法規。 日本学校ソーシャルワーク学会『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規。		
11. 成績評価の方法	レポート	50%	
	学校または子ども支援に関するフィールド体験とその発表	30%	
	授業態度、発表、授業への参加度	20%	
12. 受講生への メッセージ	1. 本授業の受講については次の点が前提となる。 ・3年次にソーシャルワーク実習を終了していること。 ・社会福祉士または精神保健福祉士の国家資格取得に向けて十分な学習をし、基本的知識と技術を備えていること。 ・スクールソーシャルワーク実習に行く準備をしていること。 2. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 3. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 4. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F 評価とする。 5. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前へ出ること。 6. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。		
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (内容・進め方・評価方法)、貧困家庭の子どもたちへの支援 1 (貧困家庭の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.107～118 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	貧困家庭の子どもたちへの支援についてまとめる。
第 2 回	貧困家庭の子どもたちへの支援 2 (事例学習)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.119～127 を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	テキスト pp.127 の「支援の振り返り」を考え、理解を深める。
第 3 回	特別支援教育の子どもたちへの支援 1 (特別支援教育の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.127～138 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	特別支援教育の子どもたちへの支援についてまとめる。
第 4 回	特別支援教育の子どもたちへの支援 2 (事例学習)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.138～141 を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	テキスト p.141 の「支援の振り返り」を考え、理解を深める。
第 5 回	精神疾患の子どもたちへの支援 1 (精神疾患の支援機関を知る)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.145～153 を熟読し、要点をまとめる。
		事後学習	精神疾患の子どもたちへの支援についてまとめる。
第 6 回	精神疾患の子どもたちへの支援 2 (事例学習)	事前学習	テキスト第 3 章の pp.153～169 を熟読し、アセスメントシートを作成する。

		事後学習	テキスト p.169 の「事例を振り返る」を考え、理解を深める。
第 7 回	事例を使った演習 1 (知的障害のある不登校児への支援 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp.173~181 の事例 (1) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (1) のエコマップを作成する。
第 8 回	事例を使った演習 1 (知的障害のある不登校児への支援 2)	事前学習	事例 (1) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト p.181 の演習課題に取り組む。
第 9 回	事例を使った演習 2 (「不登校」の背景に存在する環境への介入事例 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp.181~190 の事例 (2) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (2) のエコマップを作成する。
第 10 回	事例を使った演習 2 (「不登校」の背景に存在する環境への介入事例 2)	事前学習	事例 (2) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp.189~190 の討議ポイントに取り組む。
第 11 回	事例を使った演習 3 (知的障害を持つ児童への就学支援 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp.190~204 の事例 (3) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (3) のエコマップを作成する。
第 12 回	事例を使った演習 3 (知的障害を持つ児童への就学支援 2)	事前学習	事例 (3) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp.204~205 の演習課題に取り組む。
第 13 回	事例を使った演習 4 (精神的に不安定な母親を持つ、長期欠席児童への対応 1)	事前学習	テキスト第 4 章の pp.205~217 の事例 (4) を熟読し、アセスメントシートを作成する。
		事後学習	事例 (4) のエコマップを作成する。
第 14 回	事例を使った演習 4 (精神的に不安定な母親を持つ、長期欠席児童への対応 2)	事前学習	事例 (4) の支援計画を作成する。
		事後学習	テキスト pp.217~218 の演習課題を作成する。
第 15 回	まとめ (事例に関する総合学習)	事前学習	テキストで取り上げた事例のうち 1 つを選び、再度熟読する。
		事後学習	スクールソーシャルワーカーとしてその事例を扱うと仮定して、どのように介入するか考察する。

1. 科目名 (単位数)	生活科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3393 SJMP3293 EDEL3318
2. 授業担当教員	徳江 裕		
4. 授業形態	プレゼンテーション、ディスカッション、グループ学習、ロールプレイ、模擬授業 (実習) 講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	生活科の特質は、直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにすることにある。本科目では、生活科の趣旨や目標・内容を理解した上で具体的な実践に即して指導法を学習する。その中で、子どもが知的好奇心・探求心をもって主体的に学ぶ学習が成立するための方策について具体的に追求する。また、2年間に亘る指導計画の作成や地域マップの作成の試みを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 身の周りの事象の不思議さや面白さを実感できるようなマップ作りができるようになる。 人や社会、自然との関わりを重視した学習指導案を作成することができるようになる。 教師と子どもの協働参加による模擬授業ができるようになる。 模擬授業の批判的検討ができるようになる。 授業記録を取ることができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	アサイメント (宿題) 及びレポート課題は、授業後次回のテーマ (教科書該当部分) を確認するので、それを熟読して次回の授業にそなえること。最終レポート課題は、フィールドワークとポスターセッションのポートフォリオづくり。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省編『小学校指導要領解説 生活科編』日本文教出版、2008。 加藤明他『新しい生活 上』東京書籍、2015。</p> <p>【参考書】 嶋野道弘・寺尾慎一『生活科の授業方法』ぎょうせい、2009。 高浦勝義、佐々井利夫書『生活科の理論』黎明書房、2006。 高浦勝義、佐々井利夫書『生活科の授業づくりと評価』黎明書房、2004。 有田和正『生活科の授業づくりの技術』教育出版、1997。 有田和正『生活科・教材開発のアイデア』明治図書、1997。</p>		
11. 成績評価の方法	授業時の発言・態度・出席率 (40%) と中間・期末レポート・指導案 (50%) を基本とし、グループワーク・ディスカッションにおける積極性等を加味する (10%)。		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業は、グループワークとディスカッションを中心に進めていく。具体的な授業は以下の手順に沿って進める予定である。</p> <p>①教科書の該当部分をテーマに、割り当てられた担当の班が「教師役」となって、全員が理解できるように工夫して授業する (レジュメ・パワーポイント活用)。授業にあたっては学習指導計画と板書計画を作成し、発問も工夫して授業実践を積み重ねていく。</p> <p>②各班・各自からの質問事項を中心に、その日のテーマについて補足・説明を行う。</p> <p>③その日のテーマに関して、各班でディスカッションする。具体的な課題は授業内で示す。ディスカッションの進行は「司会」が行い、「書記」が議論の内容を記録する。この他、各自の見解を「ショートレポート」として提出してもらおう場合もある。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション (授業の進め方・シラバスの説明) 班づくり (班長・副班長)	事前学習	生活科指導法のノートを準備し授業へ臨む。
		事後学習	シラバスについて確認し学習へのモチベーションを高める。
第 2 回	【生活科の学習をどう展開するか】 ワークショップを活用して ・通学路探検をしよう (①学校と生活)	事前学習	教科書 (小学校指導要領解説生活科編) を読んで生活科の概要を把握しておく。教科書の分担箇所をグループで相談し、生活科の授業を構成する。
		事後学習	教科書の分担箇所をグループで相談し、生活科の授業をまとめる。
第 3 回	・いせさき市民の森公園で「秋を探そう」 (⑤季節の変化と生活)	事前学習	フィールドワークの準備をする。(カメラ・収集袋等)
		事後学習	フィールドワークの資料整理をして、フィールドノートにまとめる。
第 4 回	・「地域の探検マップをつくろう」Ⅰ (③地域と生活・⑧生活や出来事の交流) 「課題の設定と計画の作成」	事前学習	『小学校指導要領解説総合的な学習の時間編』を熟読して総合学習の手法を確認しておく。
		事後学習	グループごとに「課題の設定と計画の作成」を具体的にまとめる。
第 5 回	・「地域の探検マップをつくろう」Ⅱ 「情報・資料収集」	事前学習	グループで「情報・資料収集」の発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに「情報・資料収集」を具体的にまとめる。
第 6 回	・「地域の探検マップをつくろう」Ⅲ 「整理・分析」	事前学習	グループで「整理・分析」の発表準備を行う。 (発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに「整理・分析」を具体的にまとめる。
第 7 回	・「地域の探検マップをつくろう」Ⅳ 「まとめ・表現」	事前学習	グループで「まとめ・表現」の発表準備を行う。(発表手順の確認)
		事後学習	グループごとに「まとめ・表現」を具体的にまとめる。

第 8 回	・「地域の探検マップをつくろう」 ポスターセッション 「発表・プレゼンテーション」	事前学習	グループごとにポスターセッションの準備をする。(テーマ・まとめ・表現方法・発表手順の確認)
		事後学習	グループごとにポスターセッションの反省・自己評価をする。
第 9 回	・生活科の指導案作成のポイント	事前学習	過去の生活科学習指導案を収集しておく。
		事後学習	実際の指導案の書き方を確認しておく。
第 10 回	・グループワーク 「生活科学習指導案の作成」	事前学習	教科書の分担箇所をグループで相談しておく。
		事後学習	模擬授業の準備をする。
第 11 回	・模擬授業①	事前学習	模擬授業者は役割分担等の確認。授業を受ける側は指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次の授業に生かせるようにする。模擬授業者は指導案を修正し提出する。
第 12 回	・模擬授業②	事前学習	模擬授業者は役割分担等の確認。授業を受ける側は指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次の授業に生かせるようにする。模擬授業者は指導案を修正し提出する。
第 13 回	・模擬授業③	事前学習	模擬授業者は役割分担等の確認。授業を受ける側は指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次の授業に生かせるようにする。模擬授業者は指導案を修正し提出する。
第 14 回	・模擬授業④	事前学習	模擬授業者は役割分担等の確認。授業を受ける側は指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を振り返り、反省点を次の授業に生かせるようにする。模擬授業者は指導案を修正し提出する。
第 15 回	・授業のまとめと振り返り	事前学習	授業ノート、指導案、資料等を整理しておく。
		事後学習	授業を通して学んだことなど、感想を交えてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・家政 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3107
2. 授業担当教員	杉山 憲江			
4. 授業形態	講義・調理実習・グループディスカッションなど		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	在宅介護において食生活に対する援助が必要となる。この授業では栄養・調理についての知識及び技術を身につけ、日常生活の支援方法を学習していく。献立作成や簡単な栄養計算、基本的な調理、生活習慣病の予防、高齢者や身体障害者の食事、保存食づくり、食品衛生に関する実験などを講義・実習・ディスカッションを通して行い、高齢者や身体障害者が食生活を楽しく営むことができるようにその支援能力を養う。			
8. 学習目標	日常生活における支援方法を確実に自己学習内容として実践できる。 1.食生活に関する様々な技能を身につける。 2.食生活において高齢者や身体障害者の生活支援に必要な知識を獲得できる。 3.高齢者や身体障害者の食生活支援に必要な知識・技術を習得することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1・切り方、調理の仕方について実習活動中に評価する。普段の生活のなかで包丁使いについて練習しておくこと。 課題2・実習レポート・自主献立 (栄養価、テーマ性、材料調達、レシピ)を作成して調理活動をする。その過程を含めて、レポートに表して提出すること。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】新食品成分表編集委員会編著『新食品成分表 2010』 【参考書】介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第 3 版』中央法規。			
11. 成績評価の方法	授業への積極性 30% 野菜の切り方など実習技術 20% 実習レポート(1～6回) 30% 自主献立による実習及び実習への積極性 20%			
12. 受講生へのメッセージ	生活支援における専門的知識や技術の獲得をめざす授業をともに創り上げたいと願っていますが、特に調理実習などの場合の身支度などの準備やグループワークにおける協力性を発揮してより高い学びあいを行えるよう期待しています。ですから疑問点は随時質問し積極的に取り組んでください。			
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)に周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション シラバスの説明、実習グループづくり、調理実習室の使用の仕方、調理実習の内容、準備、後片付けの仕方など	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。	
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。	
第 2 回	調理の目標、調理の基本、器具操作、計量の仕方、材料の切り方	事前学習	食品成分表 pp.1～11 を読んで授業に臨むこと。	
		事後学習	食事バランスガイドの使い方について理解し自分の生活に取り入れていく。	
第 3 回	献立、栄養計算の仕方 調理実習 1 病人食(米・粥の種類、卵豆腐の作り方、留意点)	事前学習	食品成分表 1 穀類を読んで授業に臨むこと。	
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。自分の食生活に取り入れ健康生活に役立てていく。	
第 4 回	食品群の種類と特徴についての再確認 調理器具の取り扱い、熱源・給排水の取り扱い 小麦粉・だし汁に対する知識	事前学習	食品成分表 pp.266～270 を読んで授業に臨むこと。	
		事後学習	日常の食事作りの技能として活用し、習熟していく。 食品成分表 p.282 をみなおし、知識確認をしておく。	
第 5 回	調理実習 2 群馬の食生活 (うどん作り、だし汁の取り方)	事前学習	食品成分表 pp.15～21 を読んで授業に臨んでください。	
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。	
第 6 回	食品の調理操作 高齢者の食事、介護食の進め方	事前学習	教科書 pp.223～225 を読んで高齢者の食事のポイントを読んで授業に臨むこと。	
		事後学習	高齢者の食事と調理をワークシートにまとめておく。	
第 7 回	調理実習 3 福祉調理 (葉菜調理、キザミ食、炊飯、とろみ食)	事前学習	教科書 pp.226～227 を読んで高齢者食事への配慮について読み授業に臨むこと。	
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。	
第 8 回	生活習慣病予防の食事 (生活習慣病予防の食事のポイント、献立の立て方)	事前学習	教科書 pp.228～232 を読んで疾病と食事の関係を読み授業に臨むこと。	
		事後学習	障害・疾患に対する場合の食事のポイントをまとめておくこと。	
第 9 回	調理実習 4 魚の扱い (魚のおろし方、魚料理)	事前学習	食品成分表 9 藻類・10 魚介類を読んで授業に臨むこと。	
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。鰯・鯡などで練習し習熟すること。	
第 10 回	野菜の切り方と 実技試験 (きり方・包丁の扱い)	事前学習	教科書 P217 から切り方とその名称を確認して授業に臨むこと。	

		事後学習	日常生活において包丁使用の機会を増やし、習熟を促す。
第 1 1 回	調理実習 5 行事食 1 冬至食 (カボチャ、けんちん汁) 食べ物の旬と行事食との関係性についての理解	事前学習	事前に渡した資料を基に食べ物の旬を調べて授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。
第 1 2 回	実験:食品衛生、食品の安全性について 行事にまつわる食事	事前学習	事前に渡した資料を基に行事食を調べて授業に臨むこと。
		事後学習	食品の安全・食中毒に対する対策についてまとめておく。
第 1 3 回	調理実習 6 行事食 2 正月食 (小豆粥・だて巻き)	事前学習	地域の行事食について高齢者に訊くなどしておく。事前に渡した資料を基に行事食を調べて授業に臨むこと。
		事後学習	実習を通して理解できた学びや課題をワークシートにまとめて提出する。
第 1 4 回	研究活動 1 (自主献立の作成、グループ研究)	事前学習	食品成分表・調理資料など準備して授業に臨むこと。
		事後学習	栄養価、テーマ性、材料調達、レシピについてグループの共通理解を図っておく。
第 1 5 回	調理実習 7 研究発表 (自主献立の実習)	事前学習	グループで協力して食品材料を準備しておく。
		事後学習	ポスターセッションを仕上げ、カフェテリアに展示する。

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・環境 (2 単位)		3. 科目番号	SNMP3108						
2. 授業担当教員	杉山 憲江									
4. 授業形態	講義 実習 演習 実験		5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係										
7. 講義概要	<p>介護を要する人たちが尊厳を持って、日々その人らしく暮らしていけるよう支援するための考え方や技法の習得をめざしている。そこで本講義では、介護の現場において生活支援技術とともに、人間の欲求や人間生活の仕組みを理解し、すべての人が文化的で人間らしい生活を営むことができるよう支援できる力が必要となる。生活支援演習・実習を通して具体的に学びを深め、介護現場で役立つ実践力を養うことを目的とする。</p> <p>住生活では、建物の段差の計測や家事作業計画・介護作業計画・室内環境の整備・清掃技術・住居管理・防災の実習、さらに、老人・障害者に適した住居改善の事例を紹介しあい、支援のための演習・実習を行う。</p> <p>衣生活面においては、具体的な衣服の繕い・整理・保管・素材の鑑別実験・洗濯・染み抜き・漂白・しあげ・等の実習を行う。</p>									
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家事支援における介護技術を身につけ、実践することができる。 2. 要介護者の衣生活に適切に援助するための知識と技能を身につけ、実践することができる。 3. 要介護者の居住環境に対し適切な生活支援ができる知識と技能を身につけ、実践することができる。 									
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・製作作品(清拭用ミトン・基礎縫いを基にした小物)の提出。 ・「被服管理に関する実験(繊維、洗剤)」、「ゾーイング調べ」に関するワークシート提出。 ・演習(たたみ方・アイロンがけ)の技能と記録。 									
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第 3 版』中央法規。</p> <p>【参考書】 介護福祉士養成講座編集委員会編『新版介護福祉士養成講座 8 家政学概論』中央法規、第 3 章・第 4 章。 佐々井 啓編著『家政学ノート ー社会福祉専門職ライブラリー』誠信書房。 東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験公式テキスト 3 級』2014 年。</p>									
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>授業への積極的態度</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>演習・実験のレポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>提出物作品(ミトン・小物)</td> <td>30%</td> </tr> </table>				授業への積極的態度	30%	演習・実験のレポート	40%	提出物作品(ミトン・小物)	30%
授業への積極的態度	30%									
演習・実験のレポート	40%									
提出物作品(ミトン・小物)	30%									
12. 受講生への メッセージ	<p>この教科は私たちが生きていくために行われる家事活動全般を対象としています。ですから授業は演習、実習、実験といろいろな学習形態の活動を通して思考し、考察し、専門性をもった技能を身につけて欲しいと願って授業を組み立てていきます。より質の高い介護支援技能を身につけた人間性、自己研鑽に励むことを望みます。</p>									
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。									
14. 授業展開及び授業内容										
講義日程	授業内容	学習課題								
第 1 回	オリエンテーション シラバスの説明 (学習の内容、作品製作日程や提出日の確認、材料の準備について)	事前学習	シラバス・学習準備について書き込める予定表を準備し臨むこと。							
		事後学習	学習日程・学習内容・学習準備について確認し、学習の見通しを持つ。							
第 2 回	生活支援の視点 (いろいろな生き方、暮らし方) ・イラストから受け取る家庭生活を想像していろいろな生き方、暮らし方があることを理解する。 ・日常生活における衣生活の手入れ・環境などに配慮した生活について学びあう。	事前学習	教科書第 3 章 pp.210~214 を読んで授業に臨むこと。							
		事後学習	リサイクルマークなど環境整備における知識理解を図る。							
第 3 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (1) ボタン付け、スナップ付け	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。							
		事後学習	ボタン付け、スナップ付け、など技能の基礎を体験し、日常生活の中で習熟を図る。							
第 4 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (2) 並み縫い、まつりぬい 布巾づくり	事前学習	裁縫道具の名称を理解したうえで、内容を確認し準備する。							
		事後学習	製作した布巾を仕上げ、提出する。時間内に仕上がらない場合は自己学習で仕上げ提出する。							
第 5 回	被服製作に必要な知識 裁縫の基礎 (3) 小物制作	事前学習	小物製作の製作計画を立て、裁縫道具・材料を準備する。							
		事後学習	小物製作実習を振り返り、工夫したところや日常生活における活用について考察し、作品とともに提出する。							
第 6 回	家庭用品のミシン製作 (清拭用ミトン) ミシンの使い方を学ぶ	事前学習	ミシン縫いに適する薄めタオル (フェイスタオル) 1 枚を用意する。							
		事後学習	ミシンの使い方を振り返り、出来上がった作品 (清拭用ミトン) を提出する。							
第 7 回	被服管理に関する実験 1 (着物の名称、浴衣のたたみ方、生活の中の整理整頓)	事前学習	教科書第 3 章 pp.237~246 を読んで授業に臨むこと。							
		事後学習	日常生活の中で衣服・浴衣のたたみ方についての技能の習熟を図る。							

第 8 回	被服管理に関する実験 2 (繊維の特性、しみ抜き、布の性質、アイロンがけ)	事前学習	アイロンがけ練習用に適切な素材の衣服を用意する。(綿製・ニット)
		事後学習	日常生活の中で繊維の特性を理解し、アイロンがけ、しみ抜きなど技能の習熟を図っていく。
第 9 回	高齢者の被服 サイズの測り方、体型にあわせた衣服のデザインの直し方を学ぶ。	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で、ユニバーサルデザインに対する認識を図っていく。
第 10 回	衣生活における生活支援 繊維の特性に関する実験を通して布の性質を理解する。	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	実験を通して繊維や布の働きを知り、日常生活の中で活かすことができる。
第 11 回	住生活に関する空間環境、ゾーニング調べ	事前学習	教科書第 2 章「居住環境の整備」を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	活動を通してゾーニングの必要性を理解する。
第 12 回	高齢者・障害者の住居 住まいのバリアフリー考える。	事前学習	教科書第 2 章「居住環境の整備」を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中でバリアフリーを認識し、必要性を理解していく。
第 13 回	安全快適な住まいの整備 1 住居の維持・管理	事前学習	教科書第 2 章居住環境の整備を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	安全な住まいにおけるポイントを掴み知識理解を図っておく。
第 14 回	安全快適な住まいの整備 2 住居の改造・改築	事前学習	教科書第 2 章居住環境の整備を読んで授業に臨むこと。
		事後学習	住居の改造における重要点を掴み知識理解を図っていく。
第 15 回	福祉住環境コーディネーター	事前学習	事前に渡した参考資料を読んでから授業に臨むこと。
		事後学習	日常生活の中で福祉住環境における工夫に気づき、住環境に対する理解を図っていく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	生活支援技術・形態 I (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2119
2. 授業担当教員	森 千佐子		
4. 授業形態	講義及び演習、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、「こころとからだのしくみ」の学びから根拠ある科学的な介護の知識や技術について習得する。		
8. 学習目標	1. 高齢者の特性、生活障害者と介護のあり方についての知識と技術を身につける。 2. 虚弱高齢者の定義、健康管理のポイントについて理解し、説明することができる。 3. 寝たきり高齢者の基本的理解と寝たきりにさせない介護の在り方を考え、説明することができる。 4. 認知症高齢者の基本的理解と介護（認知症高齢者の理解、介護、日常生活の支援、家族支援、事故防止、虐待、身体拘束）についての知識を身につける。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	寝たきり高齢者の介護では、授業で配布した用紙に、演習で行った支援技術の手順と留意点を整理して、提出する。 認知症高齢者の介護では、配布する事例を読み、認知症高齢者の介護と家族への支援に対する考えをまとめる。(授業で学習した内容を踏まえて、A4レポート用紙1枚程度に自分の考えをまとめること)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集 『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第3版』中央法規出版、2014。授業中にプリントを配布する。		
11. 成績評価の方法	受講態度と提出物により評価する。 受講態度 (積極的な取り組み、演習時の身だしなみなど) : 30% 提出物 (演習後の手順のまとめやミニレポート等) : 70%		
12. 受講生へのメッセージ	講義・演習とも積極的に取り組み、提出物は、必ず期限内に提出してください。 机上に携帯電話など教材以外のものを置くこと、私語や居眠り等は禁止します。 不明な点は質問し、解決できるようにしてください。 演習時は身だしなみを整えてください。 演習では、利用者役と介護者役の体験から、援助の際の留意点を考えながら技術習得を目指してほしい。 やむを得ず遅刻・早退・欠席をする場合は、必ずその理由を申し出てください。		
13. オフィスアワー	第1回の講義で説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス 本講義の説明 高齢者の健康① 虚弱高齢者の定義と生活への影響	事前学習	シラバスを読んでおく
		事後学習	虚弱高齢者の生活への影響について整理する。
第2回	高齢者の健康② 高齢者の疾病の特徴と健康管理のポイント	事前学習	高齢者の疾病の特徴について確認しておく。
		事後学習	高齢者の健康管理のポイントを整理する。
第3回	寝たきり高齢者の介護① 寝たきりの要因と課題、寝たきりの予防	事前学習	寝たきり高齢者の定義、判定基準について調べておく。
		事後学習	寝たきりの予防について、具体的に説明できるように整理する。
第4回	寝たきり高齢者の介護② 快適な空間の整備、安楽な体位・姿勢	事前学習	自分にとって安楽な体位・姿勢について、考えておく。
		事後学習	演習で体験した体位や姿勢について整理する。次回の授業で提出 (提出物①)。
第5回	寝たきり高齢者の介護③ ベッド上での移動の介助	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。
第6回	寝たきり高齢者の介護④ 起居動作の介助	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。次回の授業で提出 (提出物②)。
第7回	寝たきり高齢者の介護⑤ ベッド上での食事介助	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。次回の授業で提出 (提出物③)。
第8回	寝たきり高齢者の介護⑥ ベッド上での排泄介助	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。次回の授業で提出 (提出物④)。
第9回	寝たきり高齢者の介護⑦ ベッド上での着脱：前開きの上衣とズボン、ゆかた	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。次回の授業で提出 (提出物⑤)。
第10回	寝たきり高齢者の介護⑧ ベッドから車いすへの移乗 車いすからベッドへの移乗	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。
第11回	寝たきり高齢者の介護⑨ 杖歩行の介助：杖の使い方と歩き方	事前学習	手順をテキストで確認しておく。
		事後学習	演習で行った手順と留意点を整理する。次回の授業で提出 (提出物⑥)。
第12回	認知症高齢者の介護① 認知症高齢者の定義、認知症の原因と症状	事前学習	認知症の原因疾患について調べておく。
		事後学習	認知症の種類と症状の特徴について整理する。
第13回	認知症高齢者の介護② 認知症高齢者への対応の基本と社会資源	事前学習	配布する事例を読んでおく。
		事後学習	自分が住んでいる地域にある認知症高齢者の社会資源を確認する。
第14回	認知症高齢者の介護③ 事故防止対策、虐待や身体拘束の防止	事前学習	配布する事例を読んでおく。
		事後学習	事故防止対策について、具体的に説明できるように整理する。
第15回	認知症高齢者の介護④ 介護する家族への支援	事前学習	認知症高齢者の介護に関するこれまでの学習内容を確認しておく。
		事後学習	事例を読み、認知症高齢者の介護と家族への支援に対する考えをまとめる (提出物⑦)。

1. 科目名 (単位数)	政治学 (国際政治を含む) (2 単位)	3. 科目番号	GELA1318
2. 授業担当教員	小野 智一		
4. 授業形態	講義、グループ討議	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	景気対策、規制緩和、地域主権、社会保障、雇用問題など「政治」の場で議論される諸問題はマスメディア報道などを通して日々われわれの耳に入ってくる。わたしたちは、住みやすい社会をつくり、市民の生活水準の向上を図るための機能を「政治」と呼んでいる。本科目では政治学の基礎的な概念を理解し、歴史的事象、時事問題を事例として政治の仕組みについて考えていく。		
8. 学習目標	1) 政治学の基本概念について理解し、説明できる。 2) 現代社会を政治学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 具体的な公共政策を事例として当否の検討などをとおして政治参加に必要な意思決定ができる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のうちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。また、講義配当時間の関係上、テキスト掲載のすべての章を取り扱うことはできないので、今回対象外とする章については以下に示す課題例を参考に各自で読み進めるようにしてください。各回で関連ある内容の章を紹介し、課題例はその都度補足します。 課題例： ①官僚と政治家どちらが信用できるのか。(第9章) ②戦前と戦後。日本をめぐる国際環境はどのように変わったのか。(第10章) ③「外圧」によって国内の仕組みが変わった？(第11章) ④環境問題の解決はなぜ難しいのか。(第12章) ⑤汚職に手を染めるものの経済発展を実現できる政治家と、清廉潔白で人間的に優れているが経済運営が下手な政治家。どちらが望まれるか。 ⑥若者は政治に無関心か？		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 北山俊哉・真淵勝・久米郁男『はじめて出会う政治学 構造改革の向こうに』有斐閣アルマ、2009 年。(以下、シラバス内ではこの文献をテキストと呼称する。) 【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 1) 山口二郎『政治のしくみがわかる本』岩波ジュニア新書、2009 年。 教科書を一回りやさしくした内容で政治について解説しています。教科書にやや難しさを覚えたときには、参照することをお勧めします。巻末には、学術書以外で政治について学べるブックリストも付いています。 2) 久米郁男・川出良枝・古城佳子他『政治学』有斐閣、2011 年補訂。 政治学の全領域をカバーする教科書を目指して編集された本書は、おおよその政治的トピックについては参照することが可能です。しかも日本の政治の動きをベースとして政治学概念を説明しており、日本の読者にとって理解しやすい記述をしてあることも特色です。教科書のレベルを卒業した学生向きです。 3) 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 4) 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (30%)、授業への取り組み (発表なども含む) (30%)、試験 (40%) を評価の配分とします。 なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、こうしている間にも刻々と変化する社会を「政治」という視点から考えるものです。よって時にはテキストに書かれていないトピックが私たちの前に立ちはだかることがあります。そのため、シラバスの授業内容に無いトピックで、学生側からの希望があれば、内容を確認し、受講者とともに審議したうえで授業内容として取り上げるようにしていきます。「政治学」について関心あるテーマがあれば授業時に提案してください。 本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。 ①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁) ②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。 ③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。 ④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。 また、教員は次のことを実行します。 ①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。 ②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。 ③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言・発表等)できる双方向対話型の学習環境を作ります。 ④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話(メール・通話)の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバスの解説がありますので本講座該当ページのみ印刷するなどでもよいので必ず持参のこと。) 政治学のテーマである「権力」について考察する。権力を行使する主体は何か、誰が権力を行使すべきか、権力の行使がなぜ認められるのかを考察する。	事前学習	テキスト pp.239-246.に紹介されている用語についてよく知っているもの、聞いたことがあるが詳細を知らないもの、初見のものと分類する。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のアサインメント(課題)に取り組む。
第 2 回	組織化された集団 (鉄の三角同盟、フリーライダー) 利益集団が組織されるのはなぜか。鉄の三角同盟、多元的民主主義の観点から考える。	事前学習	(第 2 回から第 15 回の事前学習) 前時間に配付するアサインメントの各設題に自分なりの解答をする。 ①なぜ特定の業界の利益が「政治」に守られるのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	官と民の関係① (市場の失敗) 市場の失敗の観点から政府の役割について考える。	事前学習	②市場の失敗を解決するためには何が必要か?
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	官と民の関係② (政府の失敗) 政府の失敗を通して政府の限界について考察する。	事前学習	③どうすれば政府の失敗をなくすことができるのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	大企業と政治① (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 大企業の行動を事例として影響力資源について考える。	事前学習	④企業はなぜ政権与党に政治献金をするのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	大企業と政治② (規制、資本主義、経済団体、圧力団体) 政策決定に影響力を及ぼすものは何か考える。	事前学習	⑤何が影響力資源となるのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	選挙と政治① (選挙制度) 政策投票をめぐる問題を中心に選挙について考察する。	事前学習	⑥政策で投票する議員候補を選ぶのはどうして難しいのだろうか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	選挙と政治② (政党の機能) 選挙制度の違いによって実現される世論はどう異なるのかを考える。	事前学習	⑦政党の選挙での役割は何か。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	地方分権① (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 日本における地方自治のあり方を考える。	事前学習	⑧日本における中央政府と地方の関係を説明しなさい。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	地方分権② (国と地方との関係、基礎自治体と市町村合併) 革新知事、革新市長はなぜ誕生したのかについて考える。	事前学習	⑨地方政府の首長の役割とは。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 11 回	マスメディアと政治について考える① (第 4 の権力) 第 4 の権力とは何を意味するのかを考える。	事前学習	⑩テレビやラジオが法律で中立性を求められるのはなぜか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 12 回	マスメディアと政治について考える② (政治過程への影響) 政策実現過程におけるマスメディアの役割について考察する。	事前学習	⑪マスメディアの影響力は強いのか、弱いのか。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 13 回	国会① (政治過程) 議院内閣制のもとでの国会の影響力について考える。	事前学習	⑫野党の国会戦術とは。国会のルールについて知ろう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 14 回	国会② (立法) 日本を事例として国会で審議される法案を手掛かりに考察する。	事前学習	⑬日本とイギリス・アメリカの国会 (立法) の特徴を指摘してみよう。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 15 回	内閣と総理大臣 (議院内閣制、大統領制、行政 1) 日本の内閣総理大臣とアメリカの大統領。どちらがよりリーダーシップを行使できるのかを考える。リーダーシップを発揮するための条件について考える。	事前学習	⑭総理大臣が短命 (任期満了以前に早期退陣) なのはよくないことなのか。 pp.239-246.に紹介されている用語についてどれだけ理解が進んだのか確認する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2127 PSMP2427
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		
4. 授業形態	講義、集団討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。		
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職（地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携(チームアプローチを含む)の意義と内容		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 3「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]」へるす出版、2014。 【参考書】 新版 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版・精神保健福祉士養成セミナー 2「精神保健の課題と支援」へるす出版、2014。		
11. 成績評価の方法	評価方法 期末試験及び課題レポート：80% 授業態度：20%		
12. 受講生へのメッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健援助技術論、演習、実習へとつながることが出来ますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知する（時間割表掲載のオフィスアワー欄参照）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰのふり返り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してくる。
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。
第2回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト 84～97 ページを読んで、実践モデルの変遷について理解してくる。
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。
第3回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト 104～123 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してくる。
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。
第4回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてくること。
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題 ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事前学習	テキスト 21～28、158～170 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしてくること。
		事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。
第6回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。
第7回	精神保健福祉に関わる専門職②	事前学習	福祉行政・関連行政機関にはどのようなものが

	福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事後学習	あるか調べてくること。 福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第 8 回	精神保健福祉社に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	地域福祉施設にはどのようなものがあるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第 9 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト 150～158 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第 10 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第 11 回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第 12 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト 137～140 ページを読んでくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第 13 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト 140～149 ページを読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第 14 回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第 15 回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだこと確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神科リハビリテーション学 (4 単位)	3. 科目番号	SCMP2125 PSMP2425												
2. 授業担当教員	花村 誠一														
4. 授業形態	講義、グループ発表および全体討論	5. 開講学期	秋期												
6. 履修条件・他科目との関係															
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う精神科リハビリテーション業務の基本的知識を身につける。すでに学んだ精神医学の復習、これから学ぶ精神保健福祉論の予習にもなる。一般目標「障害者の全人間的復権」に、精神障害ならではの独自性を加えていく。その際の基本原則、プロセスはもとより、さまざまな技術や方法についても学ぶ。生活技能訓練については、特定のシナリオを用いてシミュレーション・トレーニングを行う。総じて、他職種と連携しながら国家資格としての専門性が発揮できる素地を造り上げる。また、総合支援法や医療観察法など、関連する新しい法律についても学習を促す。														
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科リハビリテーションの概念、原則、対象、諸相について理解する。 2. 実際のプロセスを精神障害の時間的発展、精神医療の空間的拡大に即して理解する。 3. 精神障害のストレス脆弱性-対処技能モデルについて理解する。 4. 生活技能訓練 (SST) をはじめ、さまざまなリハビリテーション技術について理解する。 5. 精神障害者ケアマネジメントの歴史、理念、類型、技法について理解する。 6. 旧精神保健福祉法の福祉的サービスから総合支援法新体系サービスへの移行について理解する。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神科リハビリテーションの主要な対象は統合失調症 (精神分裂病) の患者である。この疾患を包括的に理解するため、クリストファー S. エイメンソン (松島義博、荒井良直訳)『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材)を利用する。</p> <p>内容は、①脳の疾患、②原因、経過、予後、③治療と回復、④抗精神病薬療法、⑤心理社会的リハビリテーション、⑥回復に必要な家族の態度と技能、以上である。各グループが1テーマを担当し、スライド提示による発表を行う。テーマごとに全体討論がなされ、そのつどレポート課題を抽出していく。</p>														
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 改訂 新版 精神保健福祉士養成セミナー第5巻『精神保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版。東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 久保・長山・岩崎編『精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド』日本評論社。 東大生活技能訓練研究会編『わかりやすい生活技能訓練』金剛出版。 高橋茂樹・成田すみれ監修『障害者総合支援法がわかる本』成美堂出版。 蜂矢英彦監修『コメディカルスタッフのための精神障害 Q&A』中央法規。</p> <p>【教材】 エイメンソン (松島義博、荒井良直訳)『精神分裂病の家族心理教育カリキュラム』(パワーポイント教材)</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>随時行われるミニ・テストの総計点数</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>グループ発表の際の加点法による評価</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題に対する評価得点の総計</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>終講試験①多肢選択問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>②論述問題</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">計 100%</td> </tr> </table>			随時行われるミニ・テストの総計点数	15%	グループ発表の際の加点法による評価	10%	レポート課題に対する評価得点の総計	25%	終講試験①多肢選択問題	25%	②論述問題	25%	計 100%	
随時行われるミニ・テストの総計点数	15%														
グループ発表の際の加点法による評価	10%														
レポート課題に対する評価得点の総計	25%														
終講試験①多肢選択問題	25%														
②論述問題	25%														
計 100%															
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、授業内容の重要項目のみゴシック体でプリントアウトしたものを全員に配付する。各自、授業を聴きながら、その余白に書き込んで自前のノートをつくる。この作業には、なによりも授業の脈絡をつかむことが要求される。パワーポイント教材にもとづくプレゼンテーションなど、講義というよりは実習に近い。精神保健福祉士としての実務に役立つ基本的な表現能力を身につけよう。</p> <p>教科書には、諸外国の精神科リハビリテーションとしてイギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリアの例が挙げられている。時間にゆとりがあるとき、統合失調症概念の発祥の地スイスにおける2つのプロジェクトについて紹介したい。ベルン大学精神科の統合心理療法(ITP)およびゾテリア住居共同体である。精神保健福祉士として21世紀の精神医療を担うみなさんにとって、刺激的な話題であろう。</p>														
13. オフィスアワー	<p>授業中に通知する。 研究室 26 (1号館4階)</p>														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第1回	リハビリテーションの概念と歴史:「リハビリテーション」の語義、リハビリテーションの歴史、国際障害分類(ICIDH)、リハビリテーションの分類、ADLからQOLへ	事前学習	テーマが「精神疾患」から「精神障害」へと移ることになる。												
		事後学習	リハビリテーションという語の由来、その歴史について理解する。												
第2回	リハビリテーションの理念と原則:「全人間的復権」ということ、「障害」と「障害者」の違い、多様な専門職の連携、「障害受容」(障害者となること)	事前学習	自分がもつ「障害」および「障害者」イメージを点検してみよう												
		事後学習	「障害受容」のプロセスについては、さらに理解を深めてほしい。												
第3回	精神科リハビリテーションの概念:精神は脳の活動である、精神の障害とは何か、障害構造論(上田および蜂矢)、精神障害の側の問題、援助者について	事前学習	精神が脳の働きと不可分であることを改めて銘記しておこう。												
		事後学習	精神障害における「疾患と障害の併存」についての理解を深める。												

第 4 回	精神科リハビリテーションの理念：精神科リハビリテーションの特徴、精神科リハビリテーションの意義・目標、M.フーコーの『狂気の歴史』	事前学習	精神障害は身体障害や知的障害と比べ、どのような特徴をもつか。
		事後学習	フーコーが用いた「狂気」について、イメージを膨らましてみよう。
第 5 回	精神科リハビリテーションの基本原則：網羅的かつ統合されたアプローチ、当事者参加の原則、主体性回復の視点、個別性の重視、「リカバリー」への希望など	事前学習	バイステックのソーシャルワークの 7 原則について復習しておく。
		事後学習	精神保健福祉領域のキーワード「リカバリー」について学ぼう。
第 6 回	精神科リハビリテーションの諸相：地域での生活支援、医学モデルからリハビリテーションモデルへ、諸外国の現状（イギリス、フランス、カナダ、アメリカ、イタリア）	事前学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
		事後学習	医療とリハビリテーションでは、アプローチの仕方に違いがある。
第 7 回	精神科リハビリテーションの対象：ICIDH-2 (2001) への改訂、わが国における精神障害者の定義、ストレス - 脆弱性 - 対処技能モデル(Liberman)	事前学習	援助専門職にとつての基本ツール、ICF について予習しておこう。
		事後学習	対処技能とは何か、具体的に説明できるように学習しておこう。
第 8 回	精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割：精神保健福祉士法の目的、精神保健福祉士の概要と特徴、業務内容とその専門性	事前学習	精神保健福祉士の国家資格化がスムーズだったのはなぜだろうか。
		事後学習	精神保健福祉士の任務は精神障害者の「生活支援」である。
第 9 回	精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携：各専門職の特徴、連携のあり方、チームアプローチの形態	事前学習	精神保健福祉士は医療と福祉の両方にまたがるユニークな資格だ。
		事後学習	多職種チームが高度に機能するには、何が一番大事だと思うか。
第 10 回	精神科リハビリテーションの施設（その 1）：日本における地域精神医療の展開、社会復帰施設・福祉事業の歩み、社会復帰施設などの概要	事前学習	日本の精神医療で「脱施設化」がなかなか進まないのはなぜか。
		事後学習	精神保健福祉法から自立支援法を経て総合支援法へと至る推移を概観しよう。
第 11 回	精神科リハビリテーションの施設（その 2）：社会復帰施設の現状と課題、精神障害者居宅生活支援事業、精神保健福祉センターおよび保健所、その他の協力機関・支援団体、応益負担と応能負担	事前学習	障害者総合支援法下の精神保健福祉システムについて整理しよう。
		事後学習	現下のシステムで、リカバリー・アプローチがどこまで可能か考えてみよう。
第 12 回	精神科リハビリテーションのプロセス(その 1)：回復期（陽性症状と陰性症状）、慢性期、生活維持期におけるリハビリテーション計画と介入、日常生活能力と労働能力の評価	事前学習	統合失調症の症状および経過について、よく復習しておくこと。
		事後学習	統合失調症のリハビリテーションに ICF を具体的に適用してみる。
第 13 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 2）：病院における、社会復帰施設における、地域社会におけるリハビリテーションの展開；自立支援法新体系への移行	事前学習	障害者自立支援法は改正され「障害者総合支援法」と名を変えた。
		事後学習	病院→施設→地域という流れに即して、具体的な局面を描いてみる。
第 14 回	精神科リハビリテーションのプロセス（その 3）：ライフサイクル、疾病の側面から、生活の側面から、各年代に即して（20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代）	事前学習	統合失調症の経過をライフサイクルという視点から眺めてみる。
		事後学習	各年代に応じた生活支援・援助実践のポイントをまとめておく。
第 15 回	作業療法およびレクリエーション療法：歴史、精神療法的な側面、生産活動的な側面、作業活動の分類例、各精神状態像への対応	事前学習	人間にとって働くことがいかに重要な意義をもつか考えてみる。
		事後学習	作業療法士（OT）と精神保健福祉士の連携場面を想定してみよう。
第 16 回	認知行動療法（生活技能訓練）：ストレス - 脆弱性 - 対処技能モデル、問題解決技能訓練、基本訓練モデル（実技リハーサル）、課題別のモジュール訓練モデル	事前学習	生活技能訓練（SST）の狙いは「気持ちを変えてみる」ことである。
		事後学習	認知行動療法の基礎概念に関して、各自で学習を深めてほしい。
第 17 回	集団精神療法（グループワークを含む）：定義、歴史、分類、実際、効果、障害・専門性と集団療法との関係、日本人の集団特性	事前学習	精神保健福祉士にとってグループワークは必須の技法である。
		事後学習	力動的集団精神療法とグループワークとの違いについて認識する。
第 18 回	行動療法：定義、理論（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、認知学習理論）、技法（個々の技法のパッケージング）、適応となる疾患	事前学習	パブロフの犬を使った「条件反射」の実験のことを思い出そう。
		事後学習	バンデューラの「観察学習」の概念について調べてみてほしい。
第 19 回	家族療法プログラム：心理教育とは、時代的背景、感情表出(EE)の測定と尺度、家族を対象とする場合、患者を対象とする場合、実際の取り組み	事前学習	精神医学で習った EE の研究のことをよく復習しておくこと。
		事後学習	家族への心理教育は、再発予防に効果があることが実証された。
第 20 回	住居訓練：時代的背景、住宅確保、住居プログラム、「住居福祉」概念の導入、生活を継続するケア、住居訓練の領域	事前学習	人間にとって「住む」とはどういうことか、自分で考えてみよう。
		事後学習	いわゆる「7200 人問題」のその後について調べてみてほしい。

第 2 1 回	デイケアおよびナイトケア：歴史、デイケアのめざすもの、スタッフの基本姿勢、デイケアの実際、ナイトケア、デイナイトケア	事前学習	昨今、デイケア部門を併設するメンタル・クリニックが急増した。
		事後学習	最近の話題、うつ病者のリワーク・プログラムについても知ろう。
第 2 2 回	精神科訪問看護：日本における歴史、意義と目的、精神科訪問看護の特徴、実際の流れ、実施上の留意点	事前学習	精神科訪問看護には、すでに長い歴史があることを踏まえよう。
		事後学習	積極的地域ケア（ACT）へと発展させることは可能だろうか。
第 2 3 回	精神障害者ケアマネジメント：定義および類型（マジソンの市の PACT など）、理念および原則、実際のプロセス、いくつかの留意点	事前学習	高齢者福祉のケアマネジメントとは、実質がかなり異なっている。
		事後学習	実際のケア会議で、リーダーを務めるのは精神保健福祉士である。
第 2 4 回	地域生活支援とネットワーク；地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方、地域活動支援センターとは	事前学習	精神障害者にとって地域生活のリアリティーは重要な意義をもつ。
		事後学習	自立支援法改め総合支援法下のサービス・システムを学習する。
第 2 5 回	家族会、当事者活動（セルフヘルプ・グループ）、ボランティアの育成と活用、コミュニティワーク（地域住民への働きかけ）	事前学習	専門職を目指す自分とボランティアとの違いについて考えよう。
		事後学習	精神保健福祉士にとってもコミュニティワークは重要である。
第 2 6 回	精神障害者に対する就労援助活動：就労の意義と援助活動、職業リハビリテーションサービスの実際、障害者総合支援法による支援システムとサービスメニュー	事前学習	自立支援法以降、精神障害者の就労支援には力が注がれている。
		事後学習	就労させるさい、病気を開示するかしないかは重要な問題である。
第 2 7 回	精神科救急医療、身体合併症医療などとの関連：精神科救急医療システムの現状、地域リハビリテーションにおける望ましいあり方	事前学習	地域生活の継続性を保つには、これの充実が不可欠の要件である。
		事後学習	都市における「スーパー救急」の運営について調べてみよう。
第 2 8 回	精神保健福祉施策：日本の歩み（医療偏重と福祉の遅れ）、精神保健福祉法成立まで、改正精神保健福祉法、障害者総合支援法、今後の課題	事前学習	もう一度、日本の精神保健福祉施策について振り返ってみる。
		事後学習	障害者総合支援法下、精神障害者の「生きづらさ」は緩和されるか。
第 2 9 回	授業の総括と補足（スイス・ベルン大学のゾテリアプロジェクトと統合心理療法 IPT の紹介、統合失調症の早期発見・早期介入）	事前学習	返却されたミニ・テストの結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	最近の話題、統合失調症の早期発見・早期介入について調べよう。
第 3 0 回	まとめ	事前学習	返却されたレポート課題の結果を参照しながら、総復習する。
		事後学習	教員との質疑で浮上した疑問点について、自分で解決しておく。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2358 SCMP1158 SBMP2358 PSMP2133
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		
4. 授業形態	講義、グループ討論	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題を考える。また、乳幼児から老年期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び精神保健における個別課題、例えば精神障害者対策・アルコール・薬物乱用問題・ターミナルケア等への取り組みについても検討していく。さらに、地域精神保健対策や精神保健法制・行政についても学習する。		
8. 学習目標	1、精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2、現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際および精神保健福祉士の役割について理解する。 3、精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 4、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポートが必要な間々場合には授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 新版・精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 『改訂・新版 精神保健福祉士養成セミナー 2 精神保健学－精神保健の課題と支援』、へるす出版。 【参考書】 精神保健医療福祉白書 2016年版 精神保健医療福祉白書編集委員会=編集 中央法規出版。		
11. 成績評価の方法	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ); 45% 精神保健学のまとめ: 45% 授業態度: 10% (遅刻・早退は減点する)		
12. 受講生への メッセージ	この科目は精神保健福祉士国家試験を受験する学生にとって必修科目であり、かつ出題科目です。国家試験の際には、この科目で0点を取ると合計点に保わず不合格となりますので、しっかりと勉強してください。		
13. オフィスアワー	授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読。
		事後学習	精神保健福祉学とは何かについて調べる。
第2回	精神保健学の概要	事前学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.1~16 を読み、精神保健学の概要について復習する。
第3回	ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期)	事前学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.17~28 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (乳幼児期) に関するキーワードについて理解を深める。
第4回	ライフサイクルにおける精神保健 (学童期)	事前学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.28~41 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (学童期) に関するキーワードについて理解を深める。
第5回	ライフサイクルにおける精神保健 (思春期)	事前学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.41~53 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (思春期) に関するキーワードについて理解を深める。
第6回	ライフサイクルにおける精神保健 (青年期)	事前学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.53~61 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (青年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第7回	ライフサイクルにおける精神保健 (成人期)	事前学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.61~70 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (成人期) に関するキーワードについて理解を深める。
第8回	ライフサイクルにおける精神保健 (老年期)	事前学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) について調べる。
		事後学習	教科書 pp.70~78 を読み、ライフサイクルにおける精神保健 (老年期) に関するキーワードについて理解を深める。
第9回	ライフサイクルにおける精神保健 (まとめ)	事前学習	乳幼児から老年期に至るライフサイクルにおける精神保健 の特徴をまとめること。
		事後学習	授業で行ったまとめを振り返りポイントを覚えること。
第10回	まとめの解説 精神保健における個別課題への取組み (精神障害対策)	事前学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.80~96 を読み、精神障害対策に関するキーワード について理解を深める。
第11回	精神保健における個別課題への取組み (認知症対策)	事前学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.97~107 を読み、認知症対策に関するキーワード について理解を深める。
第12回	精神保健における個別課題への取組み (アルコール関連問題対策1)	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策につい て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策に関する キーワードについて理解を深める。
第13回	精神保健における個別課題への取組み	事前学習	教科書 pp.107~123 を読み、アルコール関連問題対策につい

	(アルコール関連問題対策 2)		て調べる。
		事後学習	教科書 pp.107～123 を読み、アルコール関連問題対策に関するキーワードについて理解を深める
第 14 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 1)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 15 回	精神保健における個別課題への取組み (薬物乱用防止対策 2)	事前学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.123～142 を読み、薬物乱用防止対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 16 回	精神保健における個別課題への取組み (思春期精神保健対策)	事前学習	教科書 pp.142～154 を読み、思春期精神保健対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.142～156 を読み、思春期精神保健対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 17 回	精神保健における個別課題への取組み (「こころの健康づくり」の動向)	事前学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」の動向について調べる。
		事後学習	教科書 pp.154～166 を読み、「こころの健康づくり」に関するキーワードについて理解を深める。
第 18 回	精神保健における個別課題への取組み (司法精神保健福祉対策)	事前学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策について調べる。
		事後学習	教科書 pp.166～178 を読み、司法精神保健福祉対策に関するキーワードについて理解を深める。
第 19 回	精神保健における個別課題への取組み (緩和ケアと精神保健)	事前学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.179～190 を読み、緩和ケアと精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 20 回	精神保健活動の実際 (家庭における精神保健)	事前学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.191～201 を読み、家庭における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 21 回	精神保健活動の実際 (学校における精神保健)	事前学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.201～211 を読み、学校における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 22 回	精神保健活動の実際 (職場における精神保健)	事前学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.211～219 を読み、職場における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 23 回	精神保健活動の実際 (地域における精神保健)	事前学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.219～228 を読み、地域における精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 24 回	地域精神保健の現状と課題 (概要・関係法規・関係施策)	事前学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)について調べる。
		事後学習	教科書 pp.228～257 を読み、地域精神保健の現状と課題(概要・関係法規・関係施策)に関するキーワードについて理解を深める。
第 25 回	自殺対策の現状と課題	事前学習	教科書の自殺に関する各項目を読み、現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書やノートを読み、理解不足な点がないか確認する。
第 26 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 1)	事前学習	教科書 pp.257～272 を読み、調査研究の現状と課題について調べる。
		事後学習	教科書 pp.257～272 を読み、地域精神保健の現状と課題(調査研究)に関するキーワードについて理解を深める。
第 27 回	地域精神保健の現状と課題 (調査研究 2)	事前学習	教科書やノート等を見直し、第 25 回の内容について理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	量的研究・質的研究、研究の倫理等について理解不足な点がないか確認する。
第 28 回	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	事前学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割について調べる。
		事後学習	教科書 pp.273～281 を読み、メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割に関するキーワードについて理解を深める。
第 29 回	精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健	事前学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健について調べる。
		事後学習	教科書 pp.281～322 を読み、精神保健にかかわる専門職種の役割と連携、世界の精神保健に関するキーワードについて理解を深める。
第 30 回	授業評価・精神保健学のみとめ	事前学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる
		事後学習	これまでの学習内容について教科書、配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。

1. 科目名 (単位数)	精神保健学 / 精神保健学 (中等) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2358 EDHE2303 SBMP2358 SNMP2358 SJMP2218
2. 授業担当教員	先崎 章		
4. 授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション、レスポンスシート	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護教諭として求められる「乳幼児から老年期までの各ライフステージにおける精神保健」、「精神保健における個別課題 (家庭・学校・地域・職場・司法精神保健など)」、「精神保健に関する法制度・行政のしくみ」「世界の精神保健事情」についての最新事情を学び、将来の自身のあり方を選択することに役立てる。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「養護教諭」として必要な精神保健学の知識を身につける。 ・精神保健の最新事情を知り、学校現場における「精神保健」の意義や課題について考える。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>精神保健学の知識を主体的に身につけ、精神保健の課題について現場で役立つ考え方を深めるために以下のアサイメントとレポートを出す。</p> <p>【発表】 教科書の担当箇所について、グループプレゼンテーションをする (20分)。 担当箇所やグループは、第 1 回のオリエンテーションで決めるので必ず出席すること。</p> <p>【課題 1】 学校現場で使える精神保健についての啓発パンフレットを A4 一枚程度で作成する。</p> <p>【課題 2 (期末レポート課題)】 あなたの考える学校現場における精神保健の課題と対策について 2000 時程度でレポートする。 詳しくは、講義で指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 十束文朗・生地新・森岡由起子著『あたらしい精神保健』医学出版社、2004</p> <p>【参考書】 小川恵著『対人サービス職のための精神保健入門』日本評論社、2013</p> <p>【教材】 授業内でプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での発表と積極的な参加度 (授業態度を含む) と毎授業のレスポンスシート…25% ・グループプレゼンテーション…25% ・課題 1 と 2…50% ・私語、携帯電話の操作、授業時間中での教室の出入り、その他周囲の学生に迷惑がかかる行為は「授業態度」として、減点の評価を行います。また、理由の申し出がない欠席、遅刻、早退も減点の対象です。なお、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校現場で役に立つ精神保健の講義をしたいと考えています。疑問や意見に限らず、講義を受けていて少しでも気になったことを講義の中で学生が発表することや、レスポンスシートに書くことを歓迎します。学生とできる限り交流しながら授業を進めていきたいと思ひます。そのため、学生の理解度・達成度・要望によって講義の進度や内容を一部調整する場合があります。</p> <p>その他、初回授業で受講ルールや成績評価の詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	決まり次第授業で告知 メールアドレス : tesawa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 精神保健学の概要	事前学習	教科書『あたらしい精神医学』の第 1 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	発表グループと発表の打ち合わせをする。
第 2 回	精神保健の歴史	事前学習	教科書の第 2 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 3 回	精神保健の身体的基礎	事前学習	教科書の第 3 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 4 回	人間発達 (ライフサイクル) と精神保健	事前学習	教科書の第 4 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 5 回	対人関係と家庭の精神保健	事前学習	教科書の第 5 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 6 回	学校における精神保健	事前学習	教科書の第 6 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 7 回	職場における精神保健	事前学習	教科書の第 7 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。

第 8 回	地域社会と精神保健・福祉	事前学習	教科書の第 8 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 9 回	現代における心の病気（1）児童・青年期	事前学習	課題 1 に取り組む（提出期限は初回に指示）。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 10 回	現代における心の病気（2）成人	事前学習	教科書の第 9 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 11 回	精神障害の予防と対策（1）児童・青年期	事前学習	教科書の第 10 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 12 回	精神障害の予防と対策（2）成人	事前学習	課題 2 に取り組む（提出期限は初回に指示）。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 13 回	精神保健とカウンセリング	事前学習	教科書の第 11 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 14 回	精神保健と福祉	事前学習	教科書の第 12 章を読み、分からない箇所にマーカーを引き、調べておく。
		事後学習	授業内で提示する設問について自分の考えを発表できるように、ノートにまとめておく。
第 15 回	まとめ	事前学習	今まで授業内で提示してきた設問について自分の考えをまとめたノートを改めて読み返し、今の考えと照らし合わせる。
		事後学習	教科書に自分で引いたマーカー部分を見返し、説明できるかチェックする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習 I (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3168 PSMP3468
2. 授業担当教員	小金澤 嘉、長谷川 行雄、星野 弘美、三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習 I、II、精神保健福祉援助演習 I、II、IIIは、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習 I では、自己覚知やコミュニケーションなど精神保健福祉士として必要な基本的技術を学習し、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己覚知 2) 基本的なコミュニケーション技術の習得 3) 基本的な面接技術の習得 4) グループダイナミクス活用技術の習得 5) 情報の収集・整理・伝達の技術の習得 6) 課題の発見・分析・解決の技術の習得 7) 記録の技術の習得 8) 地域福祉の基盤整備にかかる事例を活用し、次に掲げる事柄について実技指導を行う <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握 ②地域アセスメント ③地域福祉の計画 ④ネットワークング ⑤社会資源の活用・整備・開発 ⑥サービス評価 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助にかかる基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談援助にかかる基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己覚知について 2 面接技術について <p>その他、授業中に振り返りのレポートを課す</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日経研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習 I のねらいの解説 <ul style="list-style-type: none"> － 専門職養成における演習の位置づけと目的を理解する 	事前学習	ソーシャルワーク演習 I、II で学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (p.3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (1) <ul style="list-style-type: none"> － 自己覚知について理解する － 対人援助職における自己覚知の意義を考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 I (p.71) を熟読する
		事後学習	自己覚知はなぜ必要かまとめる
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める (2) <ul style="list-style-type: none"> － ジェノグラム、エコマップなどマッピング技法を用いて自己理解につなげる － 自分の価値観をみつめ、自分の価値観に基づく他者との 	事前学習	テキスト〔基礎編〕付章 II (pp.72～78) を熟読する
		事後学習	授業での実践を通して自分について考え

	関係性のあり方を考える －自己理解を深めたいうえで、他者理解について考える		たことをまとめる 課題 1 を作成する
第 4 回	・コミュニケーションの理解 －コミュニケーションの過程を理解する －言語・非言語コミュニケーションについて理解し、その活用方法を学ぶ －ロールプレイを用いてコミュニケーション技術を学ぶ	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章 (pp.28～30) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 5 回	・クライアントに対する姿勢 －人と人とが話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する －バイステックの 7 原則について実際の援助場面を想定して理解を深める	事前学習	バイステックの 7 原則について復習する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	・面接における技術：基本的応答技法 －単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する －感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅱ (pp.31～34) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 7 回	・面接における技術：応用 －基本的応答技法を用いて、事例に基づくアセスメント面接を実践する	事前学習	あらかじめ配布された事例に目を通し、わからない用語を調べる
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 8 回	・情報の収集・整理・伝達の意義と方法を学ぶ －情報収集・整理・伝達の目的、原則、方法を理解する －ロールプレイを用いて情報の収集・整理・伝達の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅳ (pp.38～43) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 9 回	・課題の発見・分析・解決の技術の習得 －課題の発見・分析・解決方法を学ぶ －ロールプレイを用いて課題の発見・分析・解決の技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅴ (pp.44～47) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 10 回	・グループダイナミクス活用技術を習得する －グループダイナミクス理論を学ぶ －ロールプレイを用いてグループダイナミクス活用技術を習得する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅲ (pp.35～37) を熟読する ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだことを振り返る
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 11 回	・ソーシャルワークにおける記録について理解し、技術を習得する －記録の目的を理解する －記録の方法を理解する －事例を用いて記録法を実践する	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 3 章Ⅵ (pp.48～52) を熟読する
		事後学習	事例を用いて記録する練習を行う
第 12 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (1) －アウトリーチ、ニーズ把握、地域アセスメントを理解する －事例を活用して上記項目を実践的に理解する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅰ～Ⅱ (pp.149～159) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 13 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (2) －地域福祉計画づくりを理解する －事例を活用して地域福祉計画づくりを実践する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅴ－2 (pp.173～178) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 14 回	・地域福祉の基盤整備を実践する基礎力を習得する (3) －ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価について理解する －事例を活用して上記項目に関する技術を習得する	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章Ⅲ～Ⅴ－1 (pp.160～172) を熟読する
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる 事例の中で学んだ専門用語や制度についてまとめる
第 15 回	・まとめ －精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る	事前学習	学習ノートを見返す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3169 PSMP3469
2. 授業担当教員	小金澤 嘉、三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、精神保健福祉援助演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、2 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。グループ討議、ロールプレイ、文献調査、社会調査、事例検討等の多様な方法を用いて、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れながら、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱでは、実技指導を通してソーシャルワーカーとして必要なケースワークの基本的技術を学習する。また、事例を用いて具体的な課題別の援助方法を理解し課題により異なる援助技術を学習する。</p> <p>精神保健福祉援助演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インテークからアセスメント、プランニング、介入、モニタリング、評価、終結とアフターケアのケースワークの一連の流れを理解し、それぞれの過程における必要な技術を実践することができる。 2) 他専門職の専門性を尊重したチームアプローチの意義を理解し、ネットワーキングの技術を身につける 3) 社会資源について理解し、その活用、調整、開発の技術を学ぶ 4) ケアマネジメントについて理解し、実践することができる 5) 事例検討の意義を理解し、その方法を実践する 6) 次の課題について必要な援助技術を習得する：社会的排除／退院支援・地域移行、地域生活継続／ピアサポート／地域における精神保健／教育、就労／貧困、低所得、ホームレス／精神科リハビリテーション／危機状態にある精神保健福祉 		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉の知識と技術に係る科目との関連も視野にいれつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p> <p>そのために、下記のような授業形態により行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形態により行う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第 1 回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中に行ったロールプレイの考察 2 授業で取り上げた課題の一つを選び、その課題について調べる 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集「新版精神保健福祉士養成セミナー 第 7 巻 精神保健福祉援助演習」へるす出版</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著「事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド」日経研出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 70%</p> <p>授業態度 30%</p> <p>遅刻・早退は減点する</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本授業は、精神保健福祉士として必要な知識、理論を実践的に身に付けていくものです。他の授業で学んだことを実践的、総合的に理解するためにも必要な授業となっています。精神保健福祉士を目指すためには、真剣に授業に取り組むことが期待されます。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだことの振り返りと演習Ⅱのねらいの解説 	事前学習	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ内容を振り返る テキスト〔基礎編〕序章～第 1 章 (pp.3～15) を熟読する
		事後学習	演習において身に付けたいことを書きだす
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源とその活用 <ul style="list-style-type: none"> － 社会資源とは何か理解する － クライエントと社会資源を結びつける際に必要な技術を身につける － 社会資源の開発の技術を学ぶ 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅲ (@@.62～64) を熟読する
		事後学習	精神保健福祉士としてかかわるクライアントが必要な社会資源は何があるか書き出す
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチ：他専門職の理解と実践 <ul style="list-style-type: none"> － 精神保健福祉士の専門性と比較しながら精神保健福祉士が関わる他専門職の専門性を理解する 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章Ⅳ (pp.65) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる

	<ul style="list-style-type: none"> チームアプローチにおいて必要な技術を理解する 事例を用い、ロールプレイでチームアプローチを実践する 		
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーキング ネットワーキングを理解し、必要な技術を学ぶ 事例を用いて支援に必要なネットワーキングを考える 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 V～VI (pp.66～70) を熟読する
		事後学習	ネットワーキングをつくる際に配慮すべきことをまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ケースワークの実践 (1) : ケースワークの流れの理解とインテーク～契約まで インテークからアフターケアまでの流れとそれぞれの過程において大切な要素を学ぶ 事例を用いてインテーク場面をロールプレイで実践する 自己のロールプレイを振り返りクライアントとかかわる際の特徴を知る 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 I (p.89) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ケースワークの実践 (2) : アセスメント 事例を用いてアセスメント面接をロールプレイで実践する 情報をアセスメントシートにまとめる技術を身につける 収集した情報からクライアントのニーズを見出す技術を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 II (pp.91～93) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる 授業を受けてアセスメントシートに再度情報をまとめる
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ケースワークの実践 (3) : プランニング～介入 (支援の実際)～モニタリング ニーズを基に支援計画を立案する技術を身につける モニタリングの意義とその方法を身につける 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 III (pp.94～98) を熟読する
		事後学習	自分の立てた支援計画を記録にまとめる モニタリングの際に配慮すべき点をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ケースワークの実践 (4) : 評価～終結 支援評価の意義とその方法を身につける 終結の大切さを理解し、終結の場面をロールプレイで実践する アフターケアの意義を理解し、必要なアフターケアを計画する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 1 章 IV (pp.99～101) を熟読する
		事後学習	ロールプレイの考察をまとめる アフターケアについて学んだ点をまとめる
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ケースワークの実践 (5) : まとめ ケースワークの過程を振り返り、ワーカーとしての自己の課題を見出す 	事前学習	テキスト〔基礎編〕第 4 章 I (pp.53～56) を熟読する
		事後学習	数回にわたり実施したロールプレイを振り返り、ワーカーとしての自分の課題を書き出す。
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジメント ケアマネジメントの方法を学び、精神障害者に対するケアマネジメントの意義を理解する 事例を用いてケアマネジメントを実践する 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 3 章 II (pp.155～159) を熟読する
		事後学習	ケアマネジメントとは何か自分の言葉でまとめる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討の意義と方法 事例検討とは何か理解し、事例検討の方法を学ぶ 事例検討 (1) : 社会的排除 精神障害者が抱える社会的排除の問題を理解する 事例を用いて社会的排除における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕序章 (pp.79～86) を熟読する テキスト〔実践編〕第 2 章 (pp.103～105) を読み、わからない用語等意味を調べる
		事後学習	社会的排除とは何か自己の考えをまとめる 事例を通して学んだことを書き出す
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討 (2) : 退院支援、地域移行、地域生活継続、ピアサポート 上記に掲げたそれぞれの課題を理解する 事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討 (3) : 地域における精神保健 (自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存) 地域における精神保健の課題を理解する 事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討 (4) : 教育・就労、貧困・低所得・ホームレス、精神科リハビリテーション、危機状態にある精神保健福祉 上記に掲げたそれぞれの課題を理解する 事例を用いてそれぞれの課題における支援の方法を学ぶ 	事前学習	テキスト〔実践編〕第 2 章の提示された事例を読み、分からない用語等調べる
		事後学習	事例を通して学んだことをまとめる (それぞれの課題に対する理解も含めること)
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 精神保健福祉援助演習 II で学んだこと、演習を通しての自己の変化について振り返る 	事前学習	学習ノートを見直す
		事後学習	授業で学んだこと自己の変化をまとめる

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導 I (精保専攻) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP2183
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導 I、II、IIIは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の意義について理解する。 2) 個人の資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 2) 実習施設・機関の概要及びその地域について理解し、明瞭な説明ができる。 4) 日本における精神保健福祉の現状を理解し、実習先でかかわる精神障害者への理解を深めるため、他の講義で学んだ基礎知識を総括的に確認する。 5) 精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的義務について理解し、実習においてそれらに基づく実践ができる基礎を身につける。 6) 事前訪問に向けて準備を整え、事前訪問を実施する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導および集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神保健福祉に関わる知識の確認 (実習コンピテンス確認テストに向けて基礎知識の確認) 2 自己の実習に対する動機、目標 3 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる (2000～4000字) <p>* 予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 (改定) 版 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版 (この教科書は「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」共通)、2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。 		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導 I のねらい、授業の進め方についての説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 (「実習の手引き使用」) 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導の教科書を購入する
		事後学習	実習の手引きの実習の流れを再確認し、実習の時期、日程等理解する
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職養成における実習の意義を理解する ：精神保健福祉士を目指すうえで、実習がなぜ大切なのか、また実習で何を学ぶべきなのか理解を深める。 	事前学習	テキスト第1章・第2章 (pp.3～26) を熟読する
		事後学習	授業で学んだことを受け、自己にとっての実習に行く意義について学習ノートにまとめる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉士を目指している自己の動機に対する理解を深める ：実習の意義と同時に、個人が持っている資格取得に対する動機を自己の中で明確にするとともに、他人に対して説明できるようにする 	事前学習	自分の資格取得動機を説明できるように準備する
		事後学習	授業を受け再度自己の資格取得動機について考える。自己の実習の動機を学習ノートにまとめる
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の意義について理解する ：事前学習で学ぶべきことを把握するとともに、その意義を理解する ：実習コンピテンス確認テストについての説明 精神保健福祉に関する基礎知識の確認① ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する ：日本の精神保健福祉の歴史、精神保健福祉の現状、精神障害者が抱える困難性について考える 	事前学習	テキスト第3章III (pp.46～65) を熟読する 精神保健福祉の歴史、精神科医療の現状についてレポートにまとめる
		事後学習	精神障害者のおかれている現状について考えたことをまとめる

第 5 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認② ・精神疾患の理解 : 主な精神疾患についての基礎知識を確認する 精神保健福祉に関する基礎知識の確認③ ・精神保健福祉に関する制度の理解 : 精神保健福祉士として必要となる制度についての知識を確認する	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第 6 回	精神保健福祉に関する基礎知識の確認④ ・精神保健福祉に関する技術の理解 : 面接の基本姿勢、面接技術などソーシャルワーカーとして必要になる基礎的技術について確認 精神保健福祉に関する基礎知識の確認⑤ ・精神保健福祉に関する職業倫理と法的責務の確認 : 精神保健福祉士法、倫理綱領について、実習に結びつけて理解	事前学習	与えられたテーマについてレポートにまとめる
		事後学習	授業を受けてレポートに足りなかった点をまとめる
第 7 回	・実習先を理解する : 実習が可能な施設・機関の紹介と説明（「実習の手引き」使用） : 実習先を理解する意義と理解すべき内容を把握	事前学習	テキスト第 7 章 (pp.127~137) を熟読する
		事後学習	実習可能な施設について確認する
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : グループによる発表 医療機関 (精神科病院/総合病院精神科/精神科診療所/精神科デイケア施設/アルコール専門病棟/認知症病棟)	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 I、II、(pp.139~150) を熟読する テキスト第 8 章 IV (pp.162~164) を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : グループによる発表 障害者総合支援法に規定されている施設 (共同生活援助/共同生活介護/相談支援事業・地域活動支援センター/就労継続支援 A 型/就労継続支援 B 型/就労移行支援事業所)	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 III (pp.151~161) を熟読する テキスト第 8 章 VII (pp.170~174) を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 10 回	・実習施設・機関の基本的理解 : グループによる発表 行政 (精神保健福祉センター/保健所/市町村保健センター) : 実習施設・機関の理解に対するまとめ ・実習コンピテンス (自己覚知を深める) : セルフアセスメントの実施	事前学習	グループで発表の準備をする テキスト第 8 章 VI (pp.168~169) を熟読する
		事後学習	発表の内容をまとめる
第 11 回	・実習先の配属 : 配属先実習施設・機関に関する情報収集 : 誓約書・個人調査等書類作成の意味の理解と作成 (自己の実習目標を明文化する)	事前学習	実習施設についてまとめた内容を振り返る
		事後学習	個人調査作成
第 12 回	・配属先実習施設・機関に対する理解を深める : 配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 : 配属先実習施設・機関に関する情報収集 : 誓約書・個人調査等書類作成の意味の理解と作成 (自己の実習目標を明文化する)	事前学習	配属先についてホームページ等を用いて情報を収集する
		事後学習	個人調査の書き直し、清書
第 13 回	・配属先実習施設・機関に関する理解 : 実習施設の概要をまとめる : 事前訪問に向けた準備 : 事前訪問の目的と意義の確認 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	配属先についてさらに情報を収集する テキスト第 3 章 V (pp.61~65) を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる
第 14 回	・配属先実習施設・機関に関する理解 : 実習施設の概要をまとめる : 事前訪問に向けた準備 : 事前訪問の目的と意義の確認 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	実習施設の概要をまとめる 見学実習で確認したいことを書き出す
		事後学習	見学実習の注意事項を振り返る 実習先に見学実習の確認、挨拶の連絡をする
第 15 回	・事前訪問の総括 ・学習のまとめ ・精神保健福祉援助実習指導 II に向けた課題	事前学習	見学実習報告書を作成する 見学実習に対するお礼状を書く
		事後学習	精神保健福祉援助実習指導 I で学んだことを振り返る

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり	実習コンピテンス関連
実習配属に関する個別面談実施	10 月下旬ごろから	第 2 回～第 3 回あたり	・配属先決定後：「実習施設・機関の調査」レポート提出
実習配属先決定、発表	12 月	第 8 回～第 10 回あたり	・セルフアセスメントの実施
事前訪問	2 月下旬に予定	授業終了後	・実習コンピテンス確認テスト I の問題配布 (春休み中に予習をすること)

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (編) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3184
2. 授業担当教員	長谷川 行雄、三野 宏治	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、討論		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、ソーシャルワーク基礎実習に向けての具体的な準備、事後学習、精神保健福祉援助実習第一段階の準備を行い、終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習コンピテンス確認テストを実施し、実習に必要な基礎的知識の定着を図る。 2) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 3) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 4) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 5) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 6) スーパービジョンについて理解し、適切なスーパービジョンを受ける準備をする。 7) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 8) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 9) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 2. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3. 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。 4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5. 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習コンピテンス確認テストⅠ・Ⅱ(合格点に達するまで再テストを行う) 2. 配属された実習施設・機関の概要を調べレポートにまとめる(2000～4000字) 3. 実習施設の概要、実習プログラム(案)の作成 <p>*予習課題や探求的な課題を積極的に取り組み、主体的、対話型の学習によって理解を確かにすると共に問題解決力を培うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新(改定)版 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習指導・現場実習』 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 へるす出版(この教科書は「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」共通)2014。 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 ・東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布 <p>【参考書】</p> <p>精神保健福祉白書編集委員会編集『精神保健福祉白書 2016年版』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	授業中に課されるレポート、事前学習の内容、授業参加態度を総合的に判断する。尚、実習に直結する授業であるため、無断欠席、理由の無い遅刻は厳禁とする。		
12. 受講生へのメッセージ	この授業は実習に直結しています。この授業期間中に、実習先の配属が決定し、具体的に実習に向けての学習がスタートします。積極的な授業参加を期待します。		
13. オフィスアワー	後日通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 ：実習までの流れの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習指導Ⅰで学んだことを振り返る 実習コンピテンス確認テストの実施に向けて自己学習を行う
		事後学習	実習に向けての課題を書きだし、実習までに解消する方法を考える
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の理解 ：実習記録の意義・書き方を理解する ：実習記録の取り扱い等に関する説明 	事前学習	テキスト第4章Ⅶ(pp.87～95)を熟読する
		事後学習	日々の出来事を選択し、実習記録に記入する
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 ：実習場面において必要となる精神保健福祉士としての技術を学ぶ ・実習記録の理解② ：実習記録の書き方演習 	事前学習	精神保健福祉士として必要な技術について復習する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる 実習までにやるべき自分の課題を書き出す
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する 	事前学習	『学習の手引き』のケースワーク記録見本に目を通す
		事後学習	実習において個別援助を実践する意味につ

	: ケース記録の全体を把握する		いてまとめる
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・アセスメントについて ・ジェノグラムとエコマップについて ・事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	アセスメントとは何か調べる
		事後学習	自分に対するジェノグラムとエコマップを作成する 授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・プランニング・インターベンションと評価について ・事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	プランニングとは何か調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習① 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ・事例を用いたケースワーク演習② 	事前学習	あらかじめ配布された事例を読み、わからない用語を調べる
		事後学習	授業で学んだことを活かして、ケースワーク記録に記入する
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習プログラミングシートの理解 ・個人情報の保護 ・個人情報保護法、精神保健福祉士法、倫理綱領など専門職における秘密保持義務を理解する 	事前学習	実習の手引きにある実習プログラミングシートに目を通す
		事後学習	実習において秘密を保持する必要性やそれが困難となる場面などを想定しどのように対応すべきか、考察を深める
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実習における課題を理解する ・実習の手引きに書かれた内容を理解するとともに、自己の実習課題を再確認する 	事前学習	『実習の手引き』のそれぞれの実習の目的に目を通す
		事後学習	実習で何を学びたいか学習ノートに書き出す
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習配属先について理解を深める ・配属先実習施設に関する情報収集 ・施設の概要、実習計画の作成について理解する 	事前学習	『学習の手引き』の実習施設の概要、実習プログラム（案）見本に目を通す
		事後学習	配属先実習施設についてホームページ等を利用して情報を収集する
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の作成 ・自己の実習の意義、目的を再確認する ・実習施設の概要、実習プログラム（案）の記入と添削・確認 	事前学習	実習施設の概要、実習プログラム（案）を作成する
		事後学習	施設の概要、実習計画について、添削された箇所を再度修正する
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョンと巡回指導の理解 ・スーパービジョンについて理解する ・巡回指導の目的と内容を理解する ・実習計画の完成 ・スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 	事前学習	テキスト第 4 章 VI (pp.85～86)、VIII (pp.89～95) を熟読する
		事後学習	実習巡回教員への挨拶用紙の記入をし、各自実習巡回教員に挨拶に行く
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の確認 ・実習計画においてスーパーバイザーと協議したい点の確認 	事前学習	テキスト第 3 章 V (pp.61～65) を熟読する
		事後学習	見学実習の目的と意義をまとめる 見学実習の日程調整を各自行う
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ ・実習における契約構造の説明と実習生の義務、権利について確認 ・SW 基礎実習／精神保健福祉援助実習第一段階に向けて最終確認 	事前学習	施設実習までの課題を書きだす
		事後学習	実習記録への記名等実習に向けての最終的な準備を行う

実習及び実習コンピテンス関係の流れ ※編入生の状況により異なる

実習コンピテンス確認テスト I・II の実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習	配属先決定 10～11 月頃
実習施設・機関の概要レポート作成	配属先決定後
セルフアセスメントシートの実施	授業初期～中盤
ソーシャルワーク基礎実習事前訪問	授業終盤
ソーシャルワーク基礎実習	春休み期間

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(精保専攻) (2 単位)		3. 科目番号	SCMP3185
2. 授業担当教員	長谷川 行雄			
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前の準備、実習中の指導、及び実習事後学習を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、精神保健福祉援助実習第一段階の帰校指導の役割も兼ね、実習の振り返りを行い、実習における学びを深める。また、精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けての準備、事後学習もを行い、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する 6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める 7) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目に、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習で関わった利用者についての事例 2. 第一段階実習の進捗状況(帰校指導報告書の作成2回) 3. 第一段階実習の総括レポート(実習報告書) 5. 第二段階実習の総括レポート(実習報告書) 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる！精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 60% (提出期限厳守) 授業への参加態度 30% (授業の参加態度重視、遅刻・無断欠席は減点の対象)</p>			
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。			
13. オフィスアワー	別途、連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回 *翌週より援助実習開始	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・本講義内容、進め方の説明 ・援助実習開始に向けて ：援助実習の目的、課題を再度確認する ：実習プログラムの確認 	事前学習	精神保健福祉援助実習第一段階に必要な事柄を整える	
		事後学習	実習の手引き「精神保健福祉援助実習第一段階」の項目を熟読し、理解を深める	
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす	
		事後学習	『学習の手引き』にあるソーシャルワークケース記録に目を通す	
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：アセスメントについて ：ジェノグラムとエコマップについて 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす	
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入する	
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ：帰校指導記録の作成 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：プランニング・インターベンションと評価について 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する	
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 帰校指導記録用紙のまとめを記入する	
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の理解 ：インターベンションと評価について ・社会福祉専門職についての理解 ：実習施設・機関で行われる各種手続きについてまとめる ：実習施設・機関で行われる相談援助業務についてまと 	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中必要となった制度や相談援助業務についてまとめる	
		事後学習	実習で担当しているケースについて収集した情報をケースワークシートに記入し、アセスメントのうえ、支援計画について考える 授業を通して、制度や相談援助業務について確	

	める		認した事項を追記する
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習実施上の問題点等について検討 ・帰校指導記録の作成 ・連携についての理解 実習施設・機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる	事前学習	実習において課題を抱えている点を書きだす 実習中連携をした機関やそれぞれの役割について気づいた点を書きだす 帰校指導記録用紙に実習の進捗状況を記入する
		事後学習	授業を通して学んだ点をまとめる 帰校指導記録用紙のまとめを記入する
第 7 回 *翌週で 実習終了	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討について ・事例検討の意義と方法を理解する ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 	事前学習	体験している事例について報告の準備をする
		事後学習	報告された事例について学びとなった点をまとめる
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討 ・担当している事例についての報告と意見交換 ・実習の振り返り ・実習総括レポート（実習報告書）の作成について説明 ・実習のまとめに向けて ・基礎実習から援助実習を通して、学んだことと課題を振り返る ・実習終了に向けて必要事項の確認（記録の提出等） 	事前学習	体験している事例について報告の準備をするテキスト第 5 章（pp.97～100）を熟読する
		事後学習	実習終了に向けて必要なことを確認する 実習総括レポートの準備をする
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める（自己の価値観が実習中利用者とのかかわりにおいてどのように反映したか考えをまとめる） ・第二段階実習に向けての準備 ・個人調書の準備 ・配属先に関する情報収集 	事前学習	実習テキスト第 5 章 II（pp.100～110）を熟読する
		事後学習	実習総括レポートを作成する 第二段階実習先に提出する個人調書を作成する
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・第二段階実習における実習課題の説明 ・実習施設概要の作成 ・実習プログラム（案）の作成 	事前学習	実習の手引き「第二段階実習」について目を通す 第一段階実習を振り返り、第二段階実習に向けての自己の課題を明確にする
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の作成
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段階実習に向けての準備 ・実習施設概要、実習プログラム（案）完成 ・事前訪問に向けた準備 ・事前訪問の目的と意義の再確認 ・基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ・スーパーバイザーと協議したい事柄を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム（案）の手直し
		事後学習	実習施設の概要の完成 事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄をまとめる
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ・実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・第二段階実習における最終確認 ・学習のまとめと、第二段階実習に向けての課題整理 ・第二段階に向けた事前学習まとめ ・精神科医療機関における制度（入院制度、保険制度等）及びワーカーの役割を確認する ・社会復帰施設や就労支援に関する制度（障害者総合支援法、障害者雇用促進法等）、ワーカーの役割を確認する 	事前学習	事前訪問報告書を作成する 精神保健福祉法、障害者総合支援法等必要な事柄を箇条書きにする
		事後学習	実習プログラム（案）を完成させる 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習施設に持参し、指導者と協議する。 配属先に即した実習中必要となる制度についてまとめ、実習に備える
第 13～ 15 回	※ 第二段階実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 第二段階実習事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り ・実習総括レポート（実習報告書）の作成 ・実習報告 	事前学習	第二段階実習で学んだことを振り返る 実習総括レポート及び発表の準備をする
		事後学習	実習報告を通して、再度自己の実習での学びを振り返りまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
第一段階実習開始	10 月第 1 週より	第 1 回の週に開始
帰校日指導	10 月～12 月に 2 回実施	第 4 回、第 6 回あたりに実施
第一段階実習終了	12 月中旬	第 8 回～第 9 回あたりで終了
第二段階実習先決定・発表	12 月初旬	第 6 回～第 8 回あたりで発表
★実習先「施設概要」下書き提出	1 月初め	第 10～第 12 回あたり、1 月最初の授業で持参する
第二段階実習先事前訪問	2 月初め	2 月初めの授業補講期間等を利用して学生個別に実施
第二段階実習事後指導	3 月下旬	第 13 回～第 15 回

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(心理学部) (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3485
2. 授業担当教員	三野 宏治		
4. 授業形態	講義、演習、討論	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは2年時～3年時にかけて、連続して、かつ各実習と並行して、実習事前、事後指導を行うようになっている。</p> <p>精神保健福祉援助実習指導Ⅲは、医療機関実習の振り返りを深め、施設実習に向けての事前、事後学習を行い、終了した時点で次のことを達成していることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習計画の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 事前訪問を実施し、実習生、授業担当教員、実習指導者(スーパーバイザー)との協議を踏まえた実習計画を完成させる。 3) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 4) 記録の意義について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 5) 実習中に行う事例について検討し、支援計画の立案を実践的に理解する 6) 実習中の利用者との関わりを振り返り、自己覚知を深める 7) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 8) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識および技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>第1回目において、以下の内容について、具体的な提出物等の指示を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習において関わった利用者についての事例 2. アセスメントと支援計画 3. 施設実習の実習総括レポート 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>新(改定)版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『新版精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2014。</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 実習の手引き』※講義にて配布</p> <p>東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】</p> <p>長崎和則・辻井誠人・金子勉著『事例でわかる!精神障害者支援実践ガイド』日総研出版、2006。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 60% (提出期限厳守)</p> <p>授業への参加態度 40% (授業の参加態度重視、遅刻・無断欠席は減点の対象)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	この授業では、実習と連動して精神保健福祉士としての実践力の向上に焦点を置いて授業を進める。学生の積極的な授業参加を期待する。		
13. オフィスアワー	別途、連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉援助実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・本講義内容、進め方の説明 	事前学習	実習テキスト第5章(pp.97～110)を熟読する
		事後学習	医療機関実習の評価、実習記録のコメント欄を見返し、考察をまとめる
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り : 担当した事例についての報告と意見交換 : 実習評価に対する考察を行う 	事前学習	実習テキスト第6章(pp.111～126)を熟読する
		事後学習	授業を通して考察した自己の実習の振り返りをまとめる
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り(社会福祉専門職についての理解) : 実習先医療機関で行われる各種手続きについてまとめる : 実習先医療機関で行われる相談援助業務についてまとめる 	事前学習	実習中体験した各種手続き、相談援助業務についてまとめる
		事後学習	授業を通して自分のまとめで不足していた点を追記する
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り(連携についての理解) : 実習先医療機関における各部門職種とその機能・関係についてまとめる : 実習先医療機関と社会資源、関係機関との連携についてまとめる 	事前学習	実習中体験した多職種連携について学んだ点を書き出す
		事後学習	授業を通して自分のまとめで不足していた点を追記する

第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関実習の振り返り（ソーシャルワーカーの倫理綱領と自己覚知） ：倫理綱領をもとに実習先での専門職の実践についてまとめる ：自分の価値観が実習中のクライアントとのかかわりに及ぼした影響についてまとめる 	事前学習	倫理綱領に目を通す
		事後学習	実習中体験した倫理的葛藤をまとめる
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：個別援助実践の意義を理解する ：ケース記録の意義を理解する ：ケース記録の全体を把握する 	事前学習	実習記録にあるケースワークシートに目を通す
		事後学習	『学習の手引き』ケースワークシート書き方例に目を通す
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：アセスメントについて ：ジェノグラムとエコマップについて ：事例を用いてケース記録書き方演習 	事前学習	与えられた事例を読み、わからない語句について調べる
		事後学習	自分についてジェノグラムとエコマップを作成する
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースワーク記録の理解 ：プランニング・インターベンションと評価について ：事例を用いてケース記録書き方演習 ・事例検討について ：事例検討の意義と方法を理解する 	事前学習	体験した事例について報告の準備をする
		事後学習	事例を用いてケースワークシートに書き込む
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・担当した事例についての報告と意見交換 ・施設実習に向けての準備 ：個人調書の作成 ：配属先に関する情報収集 	事前学習	報告準備
		事後学習	事例の報告、意見交換を通して気づいたことをまとめる 個人調書の作成
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習に向けての準備 ：実習施設概要の作成 ：実習プログラム（案）の作成 	事前学習	配属先に関する情報収集、実習の手引き「施設実習」について目を通す
		事後学習	実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させる
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習に向けての準備 ：実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させ教員より確認印をもらう ・事前訪問に向けた準備 ：事前訪問の目的と意義の再確認 ：基本的態度と訪問時の注意事項の再確認 ：スーパーバイザーと協議したい点を明確にする 	事前学習	実習施設概要、実習プログラム（案）を完成させる
		事後学習	事前訪問時にスーパーバイザーと協議したい事柄、質問事項等をまとめ、事前訪問に備える 実習施設概要、実習プログラム（案）を実習先へ持参し、実習指導者と協議する
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問の総括 ：実習計画に関するスーパーバイザーとの協議事項の確認とそれを踏まえての計画書の完成 ・施設実習における最終確認 	事前学習	事前訪問報告書を作成する
		事後学習	テキスト、実習の手引き、学習ノートを振り返り、実習に備える 実習記録への記名等、実習に向けての最終的な準備を行う
第 13～15 回	<ul style="list-style-type: none"> ※ 施設実習の事後学習として、実習終了後実施します。日程については後日通知します。 ・実習事後学習 ：施設実習の振り返り ：実習総括レポートの作成 ：実習報告 	事前学習	自己の実習を振り返る 実習総括レポートの作成、発表の準備をしておく。
		事後学習	事後学習を通して、再度自己の実習を振り返り実習での学びをまとめる

備考：実習に関する主な事項と授業回数との関連

実習関連事項	時期	授業回数との関連 *おおよその目安、変動あり
施設実習配属先決定・発表	11 月	第 6 回～第 7 回あたりに発表
巡回担当教員発表・挨拶	12 月	第 8 回～第 9 回あたりに発表、学生各自挨拶に行く。
実習先事前訪問	2 月初め	2 月初めの補講期間を利用して各自実施
施設実習	春季休講期間中	第 12 回終了後
施設実習事後指導	3 月下旬	第 13 回～第 15 回

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習 I (2 単位)	3. 科目番号	GECD3225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等	5. 開講学期	通年
4. 授業形態	演習		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。この講義では、過去問題の演習を繰り返して行います。その中で、試験に合格するための知識を記憶に定着させて下さい。		
8. 学習目標	精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。 (I)問題の総得点の6割程度以上の点数の得点があること。 (II)受験で課されるすべての科目において得点があること (一科目でも0点を取ると不合格となる) これらの基準を満たすために、まずは出題科目を万遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。各授業の最後で行う確認テストはあなた方の学習の形成的評価となるものですから、確実に得点ができるようになることを目標にするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直し、同じ間違いを2度と繰り返さないようにしましょう。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の最後に行う確認テストは、満点が取れるまで演習を繰り返して下さい。 定期試験(共通科目・専門科目)では、実際の本番の試験の合格基準に従って、 <ul style="list-style-type: none"> ①全体の60%以上の得点がある ②全ての科目で得点が見られる (0点科目がない) ことを課題とします。(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます) 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 授業内配布テキスト、『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規。 【参考文献】 『見て覚える！社会福祉士国試ナビ 2017』中央法規。		
11. 成績評価の方法	各授業の最後に行う確認テスト 50% 定期試験 (共通科目・専門科目) 50% 30 コマ中、8 回以上欠席した場合は、単位修得できません。 10 分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。		
12. 受講生へのメッセージ	国家試験に合格するためには、「過去問題」をどれだけ自分のものとして理解し暗記できているかによって決まります。本講義を受講する学生は、本番の試験と同様に1問1問真剣に取り組んで下さい。 (授業進行は変更することがあります)		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス (試験の概要・傾向等) (合格基準の確認、授業の進め方とその学習方法について理解する)	事前学習	シラバスを事前によく読んでくる教科書を必ず購入して、事前に目次に目を通しておく
		事後学習	学習方法の確認
第2回	【人体の構造と機能及び疾病】 (「人の成長・発達」「心身機能と身体構造の概要」「健康の捉え方」「疾病と障害の概要」「リハビリテーションの概要」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第3回	【心理学理論と心理的支援】 (「人の心理学的理解」「人の成長・発達と心理」「心理的支援と方法と実際」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第4回	【社会理論と社会システム】 (「現代社会の理解」「生活の理解」「人と社会の関係」「社会問題の理解」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第5回	【現代社会と福祉①】 (「福祉の原理をめぐる理論と哲学」「福祉制度の発達過程」「福祉政策におけるニーズと資源」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第6回	【現代社会と福祉②】 (「福祉政策の課題」「福祉政策の構成要素」「福祉政策と関連政策」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第7回	【地域福祉の理論と方法①】 (「地域福祉の基本的考え方」「地域福祉の主体と対象」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第8回	【地域福祉の理論と方法②】 (「地域福祉に係る組織、団体、及び専門職や地域住民」「地域福祉の推進方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第9回	【福祉行財政と福祉計画】 (「福祉行政の実施体制」「福祉計画の意義と目的」「福祉計画の主体と方法」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第10回	【社会保障】 (「現代社会における社会保障制度の課題」「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「社会保障制度の体系」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第11回	【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】 (「障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要」「障害者の日常生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」「障害者総合支援法における組織及び団体の役割と実際」「障害者総合支援法における専門職の役割と実際」「相談支援事業所の役割と実際」「児童福祉法(障害児支援関係)」「障害者の雇用の促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」について)	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習

第 1 2 回	【低所得者に対する支援と生活保護制度】 （「低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際」「生活保護制度」「福祉事務所の役割と実際」「自立支援プログラムの意義と実際」「低所得者対策」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 3 回	【保健医療サービス】 （「医療保険制度」「診療報酬」「保健医療サービスの概要」「保健医療サービスにおける専門職の役割と実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 4 回	【権利擁護と成年後見制度】 （「相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり」「成年後見制度」「成年後見制度利用支援事業」「権利擁護活動の実際」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 5 回	共通科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 春期（共通科目）			
第 1 6 回	【精神疾患とその治療①】 （「精神疾患総論」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 7 回	【精神疾患とその治療②】 （「精神疾患の治療」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 1 8 回	【精神保健の課題と支援①】 （「精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ」「精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 1 9 回	【精神保健の課題と支援②】 （「精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割」「精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題」「精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 0 回	【精神保健福祉相談援助の基盤①】 （「精神保健福祉士の役割と意義」「社会福祉士の役割と意義」「相談援助の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 1 回	【精神保健福祉相談援助の基盤②】 （「相談援助の理念」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方」「相談援助に係わる専門職の概念と範囲」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 2 回	【精神保健福祉相談援助の基盤③】 （精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲」「精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 3 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開①】 （「精神保健医療福祉の歴史と動向」「精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 4 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開②】 （「医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割」「相談援助の過程及び対象者との援助関係」「相談援助のための面接技術」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 5 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開③】 （「相談援助活動の展開」「家族調整・支援の実際と事例分析」「地域移行・地域定着支援の対象及び支援体制」「地域を基盤にした相談援助の主体と対象」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 6 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開④】 （「地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方」「精神障害者のケアマネジメント」「地域を基盤にした支援とネットワーク」「地域生活を支援する包括的な支援の意義と展開」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 7 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス①】 （「精神保健福祉法の意義と内容」「精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス」「精神障害者に関連する社会保障制度の概要」「相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協議」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	この授業で取り上げた問題の復習
第 2 8 回	【精神保健福祉に関する制度とサービス②】 （「更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係」「更生保護制度における関係機関や団体との連携」「医療観察法の概要」「医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割」「社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 2 9 回	【精神障害者の生活支援システム】 （「精神障害者の生活の実際」「精神障害者の生活と人権」「精神障害者の居住支援」「精神障害者の就労支援」「市町村における相談援助」について）	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	確認テストの復習
第 3 0 回	専門科目のまとめ	事前学習	これまで授業で取り上げた問題の復習
		事後学習	定期試験に向けての準備
期末試験 秋期（専門科目）			

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉士養成演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GECD4225
2. 授業担当教員	荒野 多門・堀 肇・河野 等		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉士の資格を得て、熱意をもって国民の精神保健福祉の向上及び精神障害者の福祉の増進に寄与し、精神障害者の社会的復権のために活躍するためには、まずは精神保健福祉士の国家試験に合格することが欠かせません。すでに履修している精神保健福祉士養成演習Ⅰにおける学習を基盤として、この講義ではより実践的な演習を行っていきます。今まで学んできた学習内容を、出題が多く見られる分野を中心に徹底した問題演習を行っていきます。試験に合格するために必要となる知識を確実に記憶に定着させるとともに、近年の出題傾向を把握した上で、新しい問題にも対応できる実力を身につけられる講義を行います。</p> <p>また、全国統一模擬試験を受験することで試験の雰囲気になれるとともに、解答した問題については、その後の授業の中でも振り返りをしていきます。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉士の国家試験に合格するためには、次の二つの基準を満たすことが必要になります。</p> <p>(Ⅰ)問題の総得点の6割程度以上の得点があること。</p> <p>(Ⅱ)受験で課されるすべての科目において得点があること(一科目でも0点を取ると不合格となる)。</p> <p>これらの基準を満たすためには、まずは出題科目を満遍なく得点できるように、過去問題の頻出分野の基礎的問題の演習を徹底して行います。特にこの養成演習Ⅱの授業では、実際の出題実績の多い最頻出分野の問題から繰り返し解いていく作業を中心とします。各授業の最後に行う確認テストは、皆さんの学習の形成的評価となるものですから、確実に全問が正解できることを目標とするとともに、間違えた問題は必ず徹底して見直すことで、同じ間違いを二度と繰り返さないことが重要です。</p>		
9. アサイメント (宿題)及びレポート課題	<p>・各授業の最後には、予め配付する「一問一答」の中から関連する項目の確認テストを行います。満点が取れるまで予習復習を繰り返して下さい。</p> <p>・期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」では、本番の試験の合格基準に従い、</p> <p>① 全体の60%以上の得点が見られる。</p> <p>② 全ての科目で得点が見られる(0点科目がない)ことを課題とします。</p> <p>(不合格の場合は再試験を行い、合格するまで繰り返すことを義務づけます)</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】(3年の養成演習Ⅰの時に購入した問題集を使用します。3年次に養成演習Ⅰを履修していなかった者は、事前に購入して授業に臨むこと。『2016 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規))</p> <p>「大学作成の授業内配付テキスト」</p> <p>『見て覚える! 社会福祉士国試ナビ 2017』(中央法規)</p> <p>【参考書】『精神保健福祉士受験ワークブック 専門科目編 2017』(中央法規)</p> <p>『2017 精神保健福祉士国家試験過去問題集』(中央法規)</p> <p>『精神保健福祉士国家試験模擬問題集<専門科目>2017』(中央法規)</p>		
11. 成績評価の方法	<p>月に1回行う確認テスト 50%</p> <p>期間の途中で実施する「実力確認テストⅠ(共通科目編)・Ⅱ(専門科目編)」と12月に実施する校内模試 50%</p> <p>60コマ中、16コマ以上欠席した場合は、単位修得できません。</p> <p>10分以上の遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなします。</p> <p>※期末試験は、試験期間において実施する(春学期のみ)。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家試験へ合格するためには、徹底した「過去問題」の理解・暗記が欠かせません。試験本番まで1年を切った本年度は、より実践的な演習を行っていきます。本講義を受講する学生は、試験に絶対受かるという強い決意をもって、一問一問真剣に取り組むようにして下さい。</p> <p>授業内容や進行順は変更することがあります。</p>		
13. オフィスアワー	授業開始時に提示します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス(春期)(試験の概要・傾向等) 【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】	事前学習	各自で過去問演習を行っておく。
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第2回	【地域福祉の理論と方法】【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第3回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習

第 4 回	【福祉行財政と福祉計画】【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 5 回	実力確認テスト I (共通科目) (今までの授業で取り上げた問題を中心に、過去問題全般を出題範囲とする)	事前学習	今までの授業で取り上げた問題及び関連した問題の見直し
		事後学習	不正解であった問題及びその関連問題の演習
第 6 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 7 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 8 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 9 回	【人体の構造と機能及び疾病】【心理学理論と心理的支援】【保健医療サービス】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 10 回	【保健医療サービス】【権利擁護と成年後見制度】【障害者に対する支援と障害者自立支援制度】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 11 回	【社会理論と社会システム】【現代社会と福祉】【福祉行財政と福祉計画】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 12 回	【社会保障】【低所得者に対する支援と生活保護制度】【地域福祉の理論と方法】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 13 回	【精神疾患とその治療】【精神保健の課題と支援】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 14 回	【精神保健福祉相談援助の基盤】【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 15 回	【精神保健福祉の理論と相談援助の展開】【精神保健福祉に関する制度とサービス】【精神障害者の生活支援システム】	事前学習	この授業で取り上げる問題の予習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
期末試験 (実力確認テスト II) (専門科目)			
第 16 回	ガイダンス (秋期) 事例問題の演習① (相談援助関連)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 17 回	共通科目基礎徹底理解 (共通科目ランダム問題)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 18 回	専門科目基礎徹底理解 (専門科目ランダム問題)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 19 回	利用者を理解する科目の徹底理解① (共通科目) (人体・心理学)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 20 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解①(共通科目) (社会理論・現代社会)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 21 回	社会の仕組みを理解する科目の徹底理解②(共通科目) (地域福祉)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 22 回	社会保障を理解する科目の徹底理解①(共通科目) (社会保障・低所得者)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 23 回	社会保障を理解する科目の徹底理解②(共通科目) (障害者・権利擁護)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 24 回	社会保障を理解する科目の徹底理解③(共通科目) (行財政・保健医療)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 25 回	利用者を理解する科目の徹底理解② (専門科目) (精神疾患・精神保健)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 26 回	精神保健福祉士の仕事を理解する科目の徹底理解 (専門科目) (基盤・理論と展開)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 27 回	社会保障を理解する科目の徹底理解④ (専門科目) (制度とサービス・生活支援)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	授業で取り上げた問題及び関連した問題演習
第 28 回	事例問題の演習② (基盤・制度とサービス・生活支援)	事前学習	指定された科目の問題演習
		事後学習	できるだけ多くの事例問題の演習を行うこと
第 29 回	精神保健医療福祉の最近の動向の理解 (時事問題)	事前学習	配付資料を事前によく読んでくる
		事後学習	福祉に関する時事問題をしっかりと把握する
第 30 回	自己採点・出題科目の総括的振り返り	事前学習	(国家試験の問題冊子を持参する)
		事後学習	(最後まで、合格を信じること！)

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉論 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2128 PSMP2428
2. 授業担当教員	三野 宏治			
4. 授業形態	講義、課題の発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	障害者福祉の歴史、理念と意義、障害の概念、障害福祉施策についての学習を基礎とし、精神障害者に対する処遇の歴史を踏まえ、精神保健福祉の理念と意義、精神障害者の人権、精神保健福祉法制、精神保健福祉施策の現状と課題について学習する。また、精神保健福祉業務を担う精神保健福祉士の理念と意義、対象、専門性、および精神障害者に対する相談援助について学習する。			
8. 学習目標	以下について理解し、説明できるようになることを学習目標とする。 1.障害者福祉の理念と意義、障害の概念、障害者福祉施策について理解する。 2.精神障害者の人権について理解する。 3.精神保健福祉士の理念と意義、対象について理解する。 4.精神障害者に対する相談援助活動について理解する。 5.精神保健福祉法等、精神障害者に関する法律の意義と内容について理解する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	割り当てられた範囲について調査及びディスカッションを行い、レポート等を作成・提出及び発表をする。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『新版 精神保健福祉士養成セミナー 第 6 巻 精神障害者の生活支援—制度・システムとサービス』へるす出版。 【参考書】 必要に応じて授業の中で通知する。			
11. 成績評価の方法	授業への参加度 (授業態度など) ...30% 課題提出・発表...30% テスト...40% (事前に範囲・形式を予告する。)			
12. 受講生への メッセージ	初回授業で受講ルールの詳細を説明する。したがって受講希望者は必ず第 1 回の授業に出席すること。 精神保健福祉士の倫理・技術等を含むその存在意義は、精神障害のある人たちのためにある。したがって、倫理・技術が単独で存在することはない。つまり、精神障害のある人たちの生活実態や状況を知り、その支援を如何に良いものとしていくかという志向が必要となる。本講義は精神障害のある人たちのおかれた、おかれている状況を理解することから始める。そして受講生諸君が「精神障害がある人たちへの支援が如何にあるべきか」を考える起点としていただきたい。			
13. オフィスアワー	授業の中で通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要について	事前学習	シラバス、教科書の通読	
		事後学習	精神保健福祉とは何かについて調べてくる	
第 2 回	精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷	事前学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.1～6 を読み、精神障害者をめぐる法律の歴史の変遷に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 3 回	精神保健福祉法の主な内容	事前学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法の主な内容について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.6～22 を読み、精神保健福祉法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 4 回	精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策	事前学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.23～32 を読み、精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割／障害者自立支援法までの経緯／障害者基本法と精神障害者福祉施策に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 5 回	障害者自立支援法とその動向	事前学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法とその動向について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.33～44 を読み、障害者自立支援法に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 6 回	新たな障害保健福祉施策の検討 障害者総合福祉法への道	事前学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.44～56 を読み、新たな障害保健福祉施策の検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	
第 7 回	今後の精神保健福祉医療の課題と検討	事前学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討について調べる。	
		事後学習	教科書 pp.57～60 を読み、今後の精神保健福祉医療の課題と検討に関する国試過去問を解いて理解を深める。	

第 8 回	精神保健福祉に関する行政組織	事前学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織について調べる。
		事後学習	教科書 pp.60～75 を読み、精神保健福祉に関する行政組織に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 9 回	医療観察法の意義と内容／医療観察制度創設の経緯と背景	事前学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法について調べる。
		事後学習	教科書 pp.77～79 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 10 回	医療観察法の概要および目的	事前学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法の概要および目的について調べる。
		事後学習	教科書 pp.79～85 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 11 回	精神保健福祉士と医療観察制度	事前学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度について調べる。
		事後学習	教科書 pp.85～87 を読み、精神保健福祉士と医療観察制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 12 回	医療観察法の今後の課題と期待	事前学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法の今後の課題と期待について調べる。
		事後学習	教科書 pp.87～88 を読み、医療観察法に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 13 回	更生保護制度の概要	事前学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度の概要について調べる。
		事後学習	教科書 pp.88～94 を読み、更生保護制度に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 14 回	司法・医療・福祉の連携	事前学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携について調べる。
		事後学習	教科書 pp.94～96 を読み、司法・医療・福祉の連携に関する国試過去問を解いて理解を深める。
第 15 回	まとめ	事前学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか調べる。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、理解不足な点がないか確認する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	世界史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1328						
2. 授業担当教員	田中 利光								
4. 授業形態	講義・ディスカッション・グループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係									
7. 講義概要	<p>歴史を学ぶということは過去を記憶することのみにとどまるものではない。それを踏まえ、現在をどのように生き、さらに未来をどう構築していくのかについて主体的に考えることである。つまり、現存の社会、経済、政治制度、文化、思想、技術などがどのように形成されてきたのか、それを今後どのようにしていくのかについて、総合的に捉えることが目的である。各地域の歴史、文化、民族などは共通する部分もあるが、基本的にはそれぞれが異質な存在であるにとらえた方がそれらに対し真摯である。そしてだからこそ、互いに異質性を認め共生を目指す、それが人類である。</p> <p>また、今日の社会福祉混迷の打開を思想に求め、欧米社会福祉思想史の方法、古代の慈善救済の福祉思想、中世の慈善救済事業思想、市民革命と自由・平等の人権思想、博愛事業思想と市民主導型ボランティア、社会事業思想とソーシャルワークの創出、現代社会福祉思想の登場と変貌、戦後福祉改革と福祉国家思想・運動を取り上げることもあるが、受講生の興味・関心のある課題を取り入れながら授業を進めていく。</p>								
8. 学習目標	<p>大きな目標は8点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平和を維持するため、戦争を起ささないための強い気持と行動力を形成し、実践に活かすことができる。 2 現代にいたる歴史の概要を理解し、説明することができる。 3 特に近現代史を理解し、説明することができる。 4 それぞれの地域、文化、民族の特質を理解し、説明することができる。 5 多文化が共生するためには相互理解が必要であることを理解し、説明することができる。 6 世界史における社会福祉思想史の研究方法を習得する。 7 古代から現在にいたる時間軸の中で生まれた福祉思想とそれらの特徴を知る。 8 過去の福祉思想の今日への影響及び関わりについて考察する能力を養う。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一人の受講生につき、1回発表を行ってもらう。その際、全受講生に配布するレジюме (A4用紙1枚) を各自用意すること。 2. 本科目修了までに教員に提出するレポート1本 (自分が発表した内容のもの) を用意すること。レポートの執筆規定は下記のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> ① A4用紙2枚。表紙不要。1ページ目上部に、提出日、科目名、テーマ、学籍番号、氏名を明記すること。 ② ページの文字数は40文字、行数は30行に設定すること。本文の文字の大きさは10.5ポイント。余白は上下左右20ミリで設定。枚数が複数枚ある場合は、左上端をホッチキスで止めること。 ③ 本文中で用いた引用文、参考文献には注記を付け、巻末の引用文献・参考文献一覧で明示すること。 ④ 発表とレポート提出の日程は、授業中に別途指示する。 								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 吉田久一・岡田英己子『社会福祉思想史入門』勁草書房。</p> <p>【参考書】 廣松渉ほか編『岩波・哲学思想事典』岩波書店。 京大西洋史辞典編纂会編『新編 西洋史辞典』東京創元社。 ※時代ごと及びテーマごとの参考書については、教科書の巻末「文献一覧」に挙げられている参考書等を積極的に活用されたい。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>評価は以下の基準で行う。</p> <table> <tr> <td>1. レポートの評価</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2. 発表の内容 (レジюмеを含む) 10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験の評価</td> <td>50%</td> </tr> </table> <p>※東京福祉大学の学則(第36条)に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>			1. レポートの評価	40%	2. 発表の内容 (レジюмеを含む) 10%		3. 期末試験の評価	50%
1. レポートの評価	40%								
2. 発表の内容 (レジюмеを含む) 10%									
3. 期末試験の評価	50%								
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針である、学生の思考力・創造力・問題解決能力の育成の目的を達成するため、授業においては、受講生に次の諸点を順守することを求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は常に集中力を保って、積極的な態度で受講する。 2. 事前学習を怠らない。 3. 授業中の携帯電話 (スマホ) の操作や私語・居眠り等による授業妨害は厳禁。 4. 遅刻をしないこと。欠席は大学の学則に則り対応するので、やむを得ずの欠席の場合は、理由を記した書面を担当教員に提出すること。 5. 本科目のノートを準備し、授業に持参すること。 								
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、学習目標等の説明、第3回以降の発表順番決め)	事前学習	授業にシラバスを持参すること						
		事後学習	各自、後半部に予定されている課題発表の内容を早めに選びはじめて、その準備に取り掛かってよい。						
第2回	欧米社会福祉思想史の方法	事前学習	教科書 pp.3-16 を事前学習する。						
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。						
第3回	中世以前の慈善救済の福祉思想	事前学習	教科書 pp.17-35 を事前学習する。						
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。						

第 4 回	中世の慈善救済事業思想	事前学習	教科書 pp.36-60 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 5 回	市民革命と自由・平等の人権思想	事前学習	教科書 pp.61-84 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 6 回	博愛事業思想と市民主導型ボランティア	事前学習	教科書 pp.85-111 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 7 回	社会事業思想とソーシャルワークの創出	事前学習	教科書 pp.112-138 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 8 回	現代社会福祉思想の登場と変貌	事前学習	教科書 pp.139-170 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 9 回	戦後福祉改革と福祉国家思想・運動の新たな模索	事前学習	教科書 pp.171-204 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容を含めノートにまとめる。
第 10 回	宗教と福祉思想—ユダヤ教、キリスト教	事前学習	発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 11 回	宗教と福祉思想—イスラーム、仏教	事前学習	発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 12 回	課題発表(1) 教科書をもとにして学生の興味・関心のある課題の発表	事前学習	自分の発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	他者の発表で知り得た内容をレジュメやノートにまとめる。
第 13 回	課題発表(2) 教科書をもとにして学生の興味・関心のある課題の発表	事前学習	自分の発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	他者の発表で知り得た内容をレジュメやノートにまとめる。
第 14 回	課題発表(3) 教科書をもとにして学生の興味・関心のある課題の発表	事前学習	自分の発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	他者の発表で知り得た内容をレジュメやノートにまとめる。
第 15 回	課題発表(4) 教科書をもとにして学生の興味・関心のある課題の発表	事前学習	自分の発表準備・レポート作成を行う。
		事後学習	他者の発表で知り得た内容をレジュメやノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	相談援助演習 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2103
2. 授業担当教員	鈴木 雄司			
4. 授業形態	講義、ゼミナール形式、グループ活動、ディスカッション、演習、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの基本的な考え方、理論、目的・原理・原則、構成要素と機能について講義するとともに、保育士の役割と相談援助の関係、子どもへのケア、関連する技法、相談援助の対象・過程・計画、関係機関との協働、専門職間の連携、社会資源の活用などについては、グループでの討議とまとめ、発表を経て学んでいく。身近に迫った実習も考慮して、現場に対応できるスキルも学習できるようにする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基本にゼミナール方式とグループ活動の形態を導入し、ディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴い、家族や子どもたちの育ちの状況について理解し、説明することができる。 ・ソーシャルワークの基本的な考え方、視点、体系について理解し、説明することができる。 ・相談援助の目的と原理・原則について理解し、説明することができる。 ・相談援助の構成要素、機能、実践上の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助が求められる背景と目的、家族支援と保育士の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助の視点、関連する援助技術について理解し、説明することができる。 ・相談援助の対象、援助過程、技法等について理解し、活用することができる。 ・その他、相談援助の計画、関連機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用などについて理解し、応用できるセンスを養う。 ・相談援助について基本的なことを理解するとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容ごとに課題シートの提出、授業講義要約トレーニングを行う。 2. レポートの課題は、各グループが担当した箇所の要約等、授業で活用した方法を使用してのまとめを行う。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 新・プライマーズ/保育/福祉 久保美紀編『相談援助』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。 小田兼三・宮川数君『社会福祉援助技術論第 2 版』 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート及びプレゼンテーション、提出物等 60%</p> <p>授業参加度 20%</p> <p>授業態度 20%</p> <p>授業での積極的な発言や提案、発表が加味される。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業では、演習を効果的に行うために、講義・グループ討議に加えて、教員と学生、学生同士が向き合うゼミナール方式を取り入れています。授業の運営は、必要に応じて学生と相談しながら進めています。また、学生も運営の一部を担うこととなりますので、学生自身の主体的な参加が強く求められます。同時に、大学での学びを楽しいものにするために、レクリエーション等様々な企画が教員・学生で用意されます。座って聴いていけばよいという授業ではありません。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、レポートについての説明、グループ分等)	事前学習	シラバスに目を通し、講義概要、学習目標等について理解を深めておく。講義用のノートと資料を綴じるファイルを用意する。	
		事後学習	オリエンテーションで説明された内容を確認しておく。配布された資料をファイルに綴じる。	
第 2 回	序章 家族と子どもの育ちの状況 (社会状況の変化と保育士の役割、家族状況と援助等)	事前学習	社会状況の変化と保育士の役割について、教科書の序章「家族と子どもの育ちの状況」を読んで、自分の考えをまとめておくこと。	
		事後学習	現代社会における家族の課題と子育て支援の必要性について理解し、講義の内容をノートに要約しておく。	
第 3 回	第 1 章 相談援助の理論 (ソーシャルワークとは何か、ソーシャルワークの視点、体系等)	事前学習	ソーシャルワークとは何か、第 1 章「相談援助の理論」を読んで、ソーシャルワークの概念をイメージしておくこと。	
		事後学習	保育士とソーシャルワークの関係について理解し、講義の内容をノートに要約しておく。	
第 4 回	第 2 章 相談援助の目的と原理・原則 (ソーシャルワークの目的、原理、原則等)	事前学習	ソーシャルワークの目的について、第 2 章「相談援助の目的と原理・原則」を読んで、課題を整理しておくこと。	
		事後学習	ソーシャルワークの目的・原理・原則を理解し、講義の内容をノートに要約しておく。	
第 5 回	第 3 章	事前学習	ソーシャルワークの構成要素と機能について、第 3 章「相	

	相談援助の機能（ソーシャルワークの構成要素、機能、実践上の役割等）	事後学習	談援助の機能」を読んで、内容を整理しておくこと。 ソーシャルワークの構成要素、機能、実践上の役割について理解し、講義の内容をノートに要約しておく
第 6 回	中間のまとめ	事前学習	これまで学んできたことをまとめておき、授業の討論で活用できるようにしておくこと。
		事後学習	授業で討論した内容を、学習ノートに整理し、要約した内容としてまとめる。
第 7 回	第 4 章 保育士の役割と相談援助（相談援助が求められる背景と目的、家族支援等） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 4 章「保育士の役割と相談援助」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 8 回	第 5 章 子どものケアと相談援助（相談援助の視点、関連する相談援助技術等） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 5 章「子どものケアと相談援助」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 9 回	第 6 章 相談援助の対象（相談援助の役割と対象、対象把握の原理） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 6 章「相談援助の対象」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 10 回	第 7 章 相談援助の過程（相談援助の過程、アセスメント、計画、計画の実行、評価） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 7 章「相談援助の過程」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 11 回	第 8 章 相談援助の技法（保育士と相談援助の技法、関係の技法、問題分析の技法、専門職としての技法） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 8 章「相談援助の技法」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 12 回	第 9 章 計画・発達・記録・評価の実際（事例にみる計画・記録・評価の実際等） グループによるプレゼンテーション	事前学習	担当の章をグループごとに学習し、討議を経て、発表の準備を進める。他の学生は事前に教科書第 9 章「計画・発達・記録・評価」を読み、理解しておくこと。プレゼンテーションは、丁寧にわかりやすく、問題提起を含んだ観点から行う。
		事後学習	発表内容を整理して、要約したものをノートにまとめる。翌週に、発表したグループに渡すコメント文を作成する。
第 13 回	第 10 章 関係の機関との協働（協働が求められる背景、協働とは、関係機関との協働のかたち、交流・協力を促進するために等）	事前学習	協働が求められる背景などについて、第 10 章「関係の機関との協働」を読んで、課題を整理しておくこと。
		事後学習	関係機関との協働のかたちについて理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第 14 回	第 11 章 多様な専門職との連携（専門職間の連携の必要性、チームとは、求められる能力等） 第 12 章 社会資源の活用、調整、開発（社会資源とは、社会資源の活用、方法、開発等）	事前学習	専門職間の連携の必要性などについて、第 11 章「多様な専門職との連携」と第 12 章「社会資源の活用、調整、開発」を読んで、課題を整理しておくこと。
		事後学習	専門職間の連携のあり方と地域社会にどのような社会資源があるかを理解し、講義の内容をノートに要約しておく。
第 15 回	全体のまとめ	事前学習	相談援助演習の授業において学んだ内容を振り返り、相談援助の課題について自己の見解を加えてまとめておく。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、改めてノートにまとめる。授業中に配付された資料はすべてファイリングする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	相談援助演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2103
2. 授業担当教員	田中 利光		
4. 授業形態	講義、ゼミナール形式、グループ活動、ディスカッション、演習、プレゼンテーション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークの基本的な考え方、理論、目的・原理・原則、構成要素と機能について講義するとともに、保育士の役割と相談援助の関係、子どもへのケア、関連する技法、相談援助の対象・過程・計画、関係機関との協働、専門職間の連携、社会資源の活用などについては、グループでの討議とまとめ、発表を経て学んでいく。身近に迫った実習も考慮して、現場に対応できるスキルも学習できるようにする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基本にゼミナール方式とグループ活動の形態を導入し、ディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の変化に伴い、家族や子どもたちの育ちの状況について理解し、説明することができる。 ・ソーシャルワークの基本的な考え方、視点、体系について理解し、説明することができる。 ・相談援助の目的と原理・原則について理解し、説明することができる。 ・相談援助の構成要素、機能、実践上の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助が求められる背景と目的、家族支援と保育士の役割について理解し、説明することができる。 ・相談援助の視点、関連する援助技術について理解し、説明することができる。 ・相談援助の対象、援助過程、技法等について理解し、活用することができる。 ・その他、相談援助の計画、関連機関との協働、専門職との連携、社会資源の活用などについて理解し、応用できるセンスを養う。 ・相談援助について基本的なことを理解するとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【アサイメント (宿題)】 教科書で毎回の授業範囲を事前に読みこなし、かつ演習問題を自己学習しておくこと (必須)。 ※事前学習は次回の授業において各グループで発表され、それは各人の成績評価となる。</p> <p>【レポート課題】 テーマ：「専門職の価値と倫理について」 補足説明：上記テーマについて、自分の専門職の将来像を想定しながら、他者援助における専門職の価値と倫理について論述せよ。必要であれば国際ソーシャルワーカー連盟 (IFFW) のソーシャルワークの定義を参考にしてもよい。 執筆規定：※下記の執筆規定を順守すること。 ①A4用紙2枚。表紙は不要。1枚目の上部に提出日、科目名、学籍番号、氏名、テーマを明記し、レポートの枚数が複数枚ある場合は左上端をホッチキスで止め提出すること。 ②A4用紙を使用し、余白は上下左右20ミリ、文字数は40文字、行数は30行に設定すること。 ③レポート課題の提出日は、授業の中で別途指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 秋山博介・谷川和昭・柳澤孝主編『相談援助演習[第2版]—ソーシャルワーク演習』(社会福祉士シリーズ 21) 2014、弘文堂。</p> <p>【参考書】 小田兼三・宮川教君編著『社会福祉援助技術論 第2版』勁草書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>【評価方法】 評価方法は、①アサイメント (宿題)、②グループ活動、③レポート課題、を総合してなされる。具体的な基準は下記のとおりである。 ①アサイメント 30% ②グループ活動 40% ③レポート課題 30% ※東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針である、学生の思考力・創造力・問題解決能力の育成の目的を達成するため、授業においては、受講生に次の諸点を順守することを求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は常に集中力を保って、積極的な態度で受講する。 2. 事前学習を怠らない。※事前学習を怠ってしまうと、グループの他の全員が迷惑を蒙ることになる。 3. 授業中の携帯電話 (スマホ) の操作や私語・居眠り等による授業妨害は厳禁。 4. 遅刻をしないこと。欠席は大学の学則に則り対応するので、やむを得ずの欠席の場合は、理由を記した書面を担当教員に提出すること。 5. 本科目のノートを準備し、授業に持参すること。 		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	相談援助演習の基本的な考え方 相談援助演習の内容	事前学習	教科書は以下【教】と表示する。 演習問題は以下、【演】と表示する。

	相談援助演習の方法		【教】 pp.14-18 【演】 p.18
		事後学習	ディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 2 回	自己理解と自己覚知	事前学習	【教】 pp.20-29 【演】 p.25 ①②, p.29 ①②
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 3 回	コミュニケーション（意思疎通）技法	事前学習	【教】 pp.30-36 【演】 p.36 ①②③④
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 4 回	プレゼンテーション（発表）技法	事前学習	【教】 pp.37-44 【演】 p.44 ①②③
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 5 回	ネゴシエーション（交渉）技法	事前学習	【教】 pp.45-50 【演】 p.50 ①②③
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 6 回	ディベート（討論）技法	事前学習	【教】 pp.51-64 【演】 p.55 ①②③, p.64 ①②③
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 7 回	記録技法	事前学習	【教】 pp.65-71 【演】 p.67 ①②③, p.71 ①②③
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 8 回	マッピング技法	事前学習	【教】 pp.72-75 【演】 p.72, p.73, p.74
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 9 回	価値と倫理	事前学習	【教】 pp.81-86 【演】 p.86 ①②③④
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 10 回	個別援助（ケースワーク）	事前学習	【教】 pp.88-96 【演】 p.96 ①②③④
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 11 回	集団援助（グループワーク）	事前学習	【教】 pp.97-102 【演】 p.97 ①②③, p.98 ④, p.100 ⑤
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 12 回	地域援助（コミュニティワーク）	事前学習	【教】 pp.103-109 【演】 p.13 ①, p.104 ②③, p.107 ④
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 13 回	ケアマネジメント	事前学習	【教】 pp.110-117 【演】 p.117 ①②③
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 14 回	チームアプローチ	事前学習	【教】 pp.121-123 【演】 p.123 ①②
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。
第 15 回	事例から学ぶ児童虐待	事前学習	【教】 pp.138-140 【演】 p.139 ①②③④⑤
		事後学習	グループ活動やディスカッションで学んだ内容をノートに整理してまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク I (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2155 SBMP2155 SNMP2355 PSMP2455
2. 授業担当教員	田代 幹康		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	社会福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、歴史、理念、権利擁護の実際、相談援助に係る専門職の概念と範囲及び倫理、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義について学ぶとともに、実践現場で活用するためのソーシャルワークの方法・技術を身に付ける。		
8. 学習目標	<p>学生には下記の目標を達成することが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士の役割 (総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む) と意義について理解し説明できる。 ・相談援助の概念と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助の理念について理解し、説明できる。 ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し、説明できる。 ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解し、説明できる。 ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義の内容について理解し、説明できる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題 「社会福祉士の倫理綱領および行動規範を学び、ソーシャルワーク実践においてなぜ倫理綱領を遵守することが大切なかを考察せよ」。レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。 また、各章・節終了時に授業の内容に関する確認テストを行う。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>①受講態度・参加姿勢等 40%(全授業の 3/4 以上の出席が必要) 遅刻(10 分程度迄)は 3 回で 1 回休みとなる。 ②筆記試験とレポート試験を行う。 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。受講生は上記の目的のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業中はつねに集中力を保って受講すること。積極的態度で授業に参加することが期待されている。 2.授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチを切っておくこと。 3.授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教師に書面をもって報告すること。 4.レポートの提出日を厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明、グループ分け等)	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	ソーシャルワーク I のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第 2 回	グループにて割り振られた部分についての話し合い・発表準備	事前学習	発表日や打ち合わせ日についてのスケジュールを調整しておく。
		事後学習	講義、試験日、レポート提出日等について各自のスケジュール帳につける。発表レジメを教員に提出する日を確認する。
第 3 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」① (ソーシャルワーカーの仕事、法律、社会福祉士の専門性、精神保健福祉士の専門性)	事前学習	社会福祉士、精神保健福祉士とは何か、その実践内容について調べておくこと。教科書 pp.2～6 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけについてノートにまとめる。
第 4 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」② (現代社会とは、地域での生活、地域や家庭内で起きていること)	事前学習	最近の地域社会の問題について考え、その内容についてノートに書き留めておくこと。教科書 pp.7～12 を読んでくること。
		事後学習	講義の要旨をノートにまとめる。
第 5 回	「社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義」③ (人々の人生とソーシャルワーカー、チームアプローチの必要性、ソーシャルワーク実践とその基盤となる知識)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.11～17 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べノートにまとめる。
第 6 回	「相談援助の定義と構成要素」① (国際ソーシャルワーカー連盟の定義とその他の主だ)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し事前に教員に提出する。他の学生に

	った定義)		については教科書 pp.20～28 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 7 回	「相談援助の定義と構成要素」② (クライアントシステムとニーズ)	事前学習	IFSW の定義を復習しておく。教科書 pp.29～33 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 8 回	「相談援助の定義と構成要素」③ (ソーシャルワーカーの知識・性質・スキル、社会資源)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.33～41 を読んでくること。
		事後学習	相談援助の定義と構成要素についての小レポートを作成する。
第 9 回	「相談援助の形成過程」① (ソーシャルワークの源流、基礎確立期～1930 年代)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.44～59 を読んでくること。
		事後学習	COS, セツルメント、YMCA の実践についてノートにまとめる。
第 10 回	「相談援助の形成過程」② (ソーシャルワークの発展期、1940 年代～1950 年代半ば)	事前学習	ソーシャルワークの前史について復習しておくこと。教科書 pp.62～68 を読んでくること。
		事後学習	リッチモンドのケースワーク、社会診断の考え方について復習し、ノートにまとめる。
第 11 回	「相談援助の形成過程」③ (ソーシャルワークの展開期、1950 年代半ば～1960 年代以降)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.69～76 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 12 回	「相談援助の形成過程」④ (ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.77～82 を読んでくること。
		事後学習	ジェネラリストソーシャルワークとは何かについてノートにまとめる。
第 13 回	「相談援助の理念」① (ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.84～95 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワーカー専門職として身につける価値についてまとめる。
第 14 回	「相談援助の理念」② (ソーシャルワーク実践と権利擁護)	事前学習	教科書 pp.96～103 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 15 回	「相談援助の理念」③ (自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.106～118 を読んでくること。
		事後学習	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについてノートにまとめる。
第 16 回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」① (専門職倫理の概念、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.120～131 を読んでくること。
		事後学習	提示される日本社会福祉士会の倫理綱領・行動規範に関する事例の課題を行う。
第 17 回	「専門職倫理と倫理的ジレンマ」② (ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ、倫理的ジレンマにおける倫理的判断過程)	事前学習	教科書 pp.132～140 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 18 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」① (総合的かつ包括的な相談援助の動向とその背景)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.142～147 を読んでくること。
		事後学習	社会福祉基礎構造改革がもたらした新たな援助状況と求められる専門的援助について

			ノートにまとめる。
第 19 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」② (地域を基盤にしたソーシャルワークの基本的視座)	事前学習	社会福祉入門や社会福祉原論で学んだ地域福祉の部分をよく復習しておくこと。教科書 pp.148～152 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 20 回	「総合的かつ包括的な相談援助の全体像」③ (地域を基盤にしたソーシャルワークの八つの機能と事例)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.153～154 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 21 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」① (ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、3 方法の融合とジェネラリストソーシャルワーク)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.156～159 を読んでくること。
		事後学習	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークとジェネラリストソーシャルワークとの関係性についてノートにまとめる。
第 22 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」② (システム思考とエコシステム)	事前学習	事前にシステム理論、エコロジカル理論について調べておくこと。教科書 pp.160～163 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 23 回	「総合的かつ包括的な相談援助を支える理論」③ (ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.163～167 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 24 回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」① (相談援助専門職の概念)	事前学習	発表を担当するグループについてはレジメを準備し、事前に教員に提出する。他の学生については教科書 pp.170～177 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークになぜ専門性が必要なのかをノートにまとめる。
第 25 回	「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」② (相談援助専門職の範囲、諸外国の動向)	事前学習	自分の興味があるソーシャルワークの専門職について調べておくこと。教科書 pp.178～188 を読んでくること。
		事後学習	行なわれた確認テストにおいて学習が不十分な部分について調べ、ノートにまとめる。
第 26 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」① (予防機能 事例検討 地域包括支援センターにおける実践)	事前学習	孤独死とは何かについて調べておくこと。教科書 pp.190～200 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 27 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」② (新しいニーズへの対応 事例検討 独立型社会福祉士の実践、スクールソーシャルワーカーによる総合支援)	事前学習	最近の新しいソーシャルワークの事例について新聞記事等の資料を探しもってくること。教科書 pp.201～221 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 28 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」③ (権利擁護機能 事例検討 知的障害者施設における権利擁護の実践)	事前学習	知的障害者の権利侵害に関する事例の資料を探しもってくること。教科書 pp.222～231 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 29 回	「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」④ (社会資源開発機能 事例検討 社会福祉協議会による社会資源開発)	事前学習	市町村社会福祉協議会の機能と業務について調べておくこと。教科書 pp.232～237 を読んでくること。
		事後学習	提供された事例におけるソーシャルワーク実践のポイントをノートにまとめる。
第 30 回	まとめ (これまでの講義内容のまとめを行う)	事前学習	これまで行われた確認テストのファイルをもってくること。
		事後学習	これまで行われた確認テストと教科書を通じて理解が不十分な部分についてチェックしノートにまとめること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2156 SCMP2356 SBMP2156 PSMP2456
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題1：ソーシャルワークに必要とされる視点と態度について講義をもとに解説せよ。 レポート課題2：ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性と必要な技術について説明せよ。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ（新・社会福祉士養成講座 7）』第3版、中央法規出版、2015年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題：全体の30% 事後学習課題：全体の20% 試験：全体の50%</p> <p>出席状況：成績に影響を与えない欠席回数は2回までとします。その後欠席1回ごとに評価が一段階ずつ下がります。最低出席回数の基準は東京福祉大学学則第36条に則り、最低出席回数を満たしていない学生の評価は行いません。</p> <p>（授業開始後15分の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で1回の欠席とします。授業中の居眠りや私語、他の授業の準備等、携帯電話の操作等の行為を発見した場合、その授業を欠席扱いとします。）</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>ソーシャルワークⅡでは主に相談援助についての学びを深めます。相談援助はソーシャルワーク実践の核をなす重要な援助技術でもあります。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日 13:00～16:00 (仮) ※他の曜日・時間帯でも、教員が研究室に在室している時は可</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： ソーシャルワークⅡを学習するにあたっての説明と確認 ソーシャルワークⅠの振り返り	事前学習	「社会福祉」について自分の言葉で説明できるよう、ノートにまとめておく。
		事後学習	講義を踏まえて「社会福祉」について自分の言葉でノートにまとめる。
第2回	社会福祉の概念的理解： 「社会福祉」をどのように説明するか？	事前学習	「社会福祉」について自分の言葉で説明できるよう、ノートにまとめておく。
		事後学習	講義を踏まえて「社会福祉」について自分の言葉でノートにまとめる。
第3回	ソーシャルワークの概念と範囲： 映画『ターミナル』からソーシャルワークを考える	事前学習	テキスト pp.2～18 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第4回	ソーシャルワークの概念と範囲： 国際的ソーシャルワークの定義について理解する	事前学習	テキスト pp.2～18 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第5回の講義時に提出する。
第5回	ソーシャルワークの職種と専門性： ソーシャルワークの「仕事」と「職場」	事前学習	テキスト pp.19～25 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第7回の講義時に提出する。
第6回	ソーシャルワークの理念と原則：	事前学習	「社会正義」について調べ、自分の言葉で説明で

	ソーシャルワーク実践の根底にあるものは何かを知る		きるようにする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 7 回の講義時に提出する。
第 7 回	ソーシャルワークの倫理： 倫理綱領とは何か？	事前学習	社会福祉士の倫理綱領を一読し、その内容について教員へ確認すべき事項を箇条書きする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 8 回	ソーシャルワーク実践上のディレンマ	事前学習	社会福祉士の倫理綱領を一読し、その内容について教員へ確認すべき事項を箇条書きする。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 9 回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅰ： 事例を通じてソーシャルワークの構造を知る	事前学習	第 8 回に配布されたレジュメに記載されている課題（ジェノグラムを見て考える）について自己の考えをノートにまとめる。
		事後学習	ワークシートの設問 3・4 について各自記入する。
第 10 回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅱ： 事例を通じてソーシャルワークに必要な視点と態度を学ぶ	事前学習	第 8 回に配布されたレジュメに記載されている課題（ジェノグラムを見て考える）について自己の考えをノートにまとめる。
		事後学習	ワークシートの設問 3・4 について各自記入する。
第 11 回	総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践Ⅲ： 事例を通じて「人と環境の相互作用」を理解する	事前学習	ワークシート内容に目を通し、事例の概要を明確にする。テキスト pp.53～67 を参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 12 回	ソーシャルワークにおけるニーズ： ニーズの多様性について事例を用いて理解を深める	事前学習	ワークシート内容に目を通し、事例の概要を明確にする。pp.44～51 を参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 13 回	ミクロからメゾ、マクロを包括したソーシャルワーク実践について（事例紹介）	事前学習	テキスト pp.27～43 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 15 回の講義時に提出する。
第 14 回	ソーシャルワーク実践と援助関係： ソーシャルワーカーとクライアントとの関係性について理解を深める	事前学習	テキスト pp.69～93 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 15 回	ソーシャルワークの展開過程Ⅰ： ソーシャルワークの展開過程の全体像を理解する	事前学習	テキスト pp.95～101 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 16 回	ソーシャルワークの展開過程Ⅱ： ケースの発見からアセスメント	事前学習	テキスト pp.102～126 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 17 回	ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性と技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp.182～204 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 18 回	アセスメント演習を通じて学んだことの実践を行う	事前学習	テキスト pp.182～204 を熟読し、その内容を確認する。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 19 回	ソーシャルワークの展開過程Ⅲ： アセスメントからプランニング・支援の実施	事前学習	テキスト pp.127～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 20 回	プランニング演習を通じて学んだことの実践を行う	事前学習	テキスト pp.206～222 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト（事例）」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 21 回	ソーシャルワークの展開過程Ⅳ： モニタリングと評価・効果測定	事前学習	テキスト pp.138～153 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 22 回	ソーシャルワークのモニタリングと効果測定・評価の技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp.224～248 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 23 回	面接技法Ⅰ：面接の必要性和果たす役割を理解する	事前学習	テキスト pp.250～268 を熟読し、その内容をノートにまとめる。

		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 25 回の講義時に提出する。
第 24 回	面接技法Ⅱ：面接に必要となる技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp.250~268 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 25 回の講義時に提出する。
第 25 回	面接ロールプレイ	事前学習	テキスト pp.269~293 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布される事例について、学んだ知識を用いて模擬的に記録を作成する。
第 26 回	記録の意義と方法：ソーシャルワーク技術としての記録について事例を基に技術を学ぶ	事前学習	テキスト pp.269~293 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布される事例について、学んだ知識を用いて模擬的に記録を作成する。
第 27 回	“交渉”とソーシャルワーク：ソーシャルワークにおける交渉の持つ意義と役割を学ぶ	事前学習	テキスト pp.296~315 を熟読し、その内容をノートに記入する。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 29 回の講義時に提出する。
第 28 回	これまでの学びについてのまとめ： 事例を用いてソーシャルワークの展開過程とその他技術について総合的にその内容を確認する	事前学習	これまでの資料等を整理し、学習内容を振り返る。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 29 回の講義時に提出する。
第 29 回	これからのソーシャルワークの課題と展望Ⅰ（ジェネリック）	事前学習	29 回の講義において疑問となっている点を箇条書きにする。
		事後学習	ソーシャルワーク実践上の課題について配布されたレジュメをまとめる。
第 30 回	これからのソーシャルワークの課題と展望Ⅱ（スペシフィック）	事前学習	29 回の講義において疑問となっている点を箇条書きにする。
		事後学習	ソーシャルワーク実践上の課題について配布されたレジュメをまとめる。
<p>期末試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワークの支援過程（ソーシャルワーク・プロセス）に関する理解を問う。 ・ 講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 <p>※試験の詳細については、講義の中で提示する。</p>			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4 単位)	3. 科目番号	SSMP3157 SNMP3357 SCMP3357 SBMP3157
2. 授業担当教員	北爪 克洋		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント (ケアマネジメント) についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題1: グループを用いた援助実践に関して、その展開過程とそこでのソーシャルワーカーの果たすべき役割について説明せよ。</p> <p>レポート課題2: 心理社会的アプローチについて事例をもとにその支援展開を解説せよ。</p> <p>※その他「事後学習」に示されている各課題を実施。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ (新・社会福祉士養成講座 8)』第 3 版、中央法規、2015 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題: 全体の 30% 事後学習課題: 全体の 20% 試験: 全体の 50%</p> <p>出席状況: 成績に影響を与えない欠席回数は 2 回までとします。その後欠席 1 回ごとに評価が一段階ずつ下がります。最低出席回数の基準は東京福祉大学学則第 36 条に則り、最低出席回数を満たしていない学生の評価は行いません。</p> <p>(授業開始後 15 分の遅刻は欠席とみなします。遅刻 2 回で 1 回の欠席とします。授業中の居眠りや私語、他の授業の準備等、携帯電話の操作等の行為を発見した場合、その授業を欠席扱いとします。)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>ソーシャルワークⅢでは主にソーシャルワーク実践に不可欠な実践モデルについての学びを深めます。また、ソーシャルワーク論の総括を行います。したがって学生たちは授業の復習や準備を欠かすことなく授業に臨んでください。授業では常に高い緊張度と集中力を維持する必要があります。</p>		
13. オフィスアワー	<p>月曜日 13:00~16:00 (仮) ※他の曜日・時間帯でも、教員が研究室に在室している時は可</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション: ソーシャルワークⅢを学習するにあたっての 説明と確認 ソーシャルワークⅠ・Ⅱの振り返り	事前学習	テキストの「はじめに」を熟読し、その内容を要約しまとめる。
		事後学習	IFSW によるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第 2 回	ソーシャルワークの概念: IFSW のソーシャルワークの定義から	事前学習	「社会福祉とは」の問いに対する自身の考えをこれまでの講義等を参考にまとめる。
		事後学習	IFSW によるソーシャルワークの定義をレポートにまとめる。
第 3 回	ソーシャルワークの理念: 人権と社会正義、自立支援とエンパワメント等について理解を深める	事前学習	テキスト pp.2~25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 5 回の講義時に提出する。
第 4 回	ソーシャルワークの対象者を理解する: パーソナリティとシステム理解 個人、家族、グループ、地域をどうとらえるかについて理解する	事前学習	テキスト pp.2~25 の内容を熟読しまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 5 回の講義時に提出する。
第 5 回	ケースマネジメントとは?: ケースマネジメントについてその基本と過程	事前学習	テキスト pp.27~58 (第 2 章ケースマネジメント) を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノート

	を学ぶ		にまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 6 回	ケースマネジメントに必要な技術とは？： アセスメントに関する講義と演習 ケースマネジメントとソーシャルワークの関係を理解する	事前学習	テキスト pp.27～58（第 2 章ケースマネジメント）を熟読し、ケースマネジメントの重要性についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、次回の講義時に提出する。
第 7 回	グループ（集団）とソーシャルワーク： ソーシャルワークにおけるグループワークの意義について理解を深める	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp.59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 8 回	グループワークを用いた援助実践：人間にとってグループ（集団）が意味するものとは？グループ（集団）の特性とそれを活用するために必要な専門技術を学ぶ	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱで学んだグループワークに関する理論を復習し、ノートにまとめる。テキスト pp.59～80 参照。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 9 回の講義時に提出する。
第 9 回	グループワークを用いた援助実践： （7 回・8 回をもとに）グループワーク演習	事前学習	7・8 回で学んだグループを用いた支援に関する理論について内容をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 10 回	グループワークに関するまとめ：演習のフィードバック	事前学習	テキスト pp.59～80 を熟読し、グループに関する理論をまとめる。
		事後学習	課題 1 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 11 回	実践モデルとその意味： ソーシャルワーク実践理論が必要である意味を学ぶ	事前学習	テキスト pp.128～136 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 12 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークと実践モデルの関係： 事例を通じて実践モデルに関する理解を深める 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデルについての学習	事前学習	テキスト pp.137～148 を熟読し、「3 つの実践モデル」についてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 13 回の講義時に提出する。
第 13 回	心理社会的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 14 回	事例考察による心理社会的アプローチの理解：グループ検討を通じて心理社会的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.150～152 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 を作成（講義内で示される提出期限を厳守）。
第 15 回	行動変容アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 16 回	事例考察による行動変容アプローチの理解：グループ検討を通じて行動変容アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.165～167 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 17 回の講義時に提出する。
第 17 回	課題中心アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 18 回	事例考察による課題中心アプローチの理解：グループ検討を通じて課題中心アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.159～161 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 19 回の講義時に提出する。
第 19 回	機能的アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 20 回	事例考察による機能的アプローチの理解：グループ検討を通じて機能的アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.153～155 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 21 回の講義時に提出する。
第 21 回	危機介入アプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.162～164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 23 回

			の講義時に提出する。
第 2 2 回	事例考察による危機介入アプローチの理解: グループ検討を通じて危機介入アプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.162~164 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 23 回の講義時に提出する。
第 2 3 回	エンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの基盤を理解する	事前学習	テキスト pp.174~181 を熟読し、エンパワメントアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	第 24 回の講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 24 回の講義時に提出する。
第 2 4 回	事例考察によるエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチの理解: グループ検討を通じてエンパワメントアプローチ・ナラティブアプローチを用いた支援を考察する	事前学習	テキスト pp.174~181 を熟読し、ナラティブアプローチについてノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 25 回の講義時に提出する。
第 2 5 回	認知アプローチの基盤を理解する その他アプローチについてその内容を確認する	事前学習	テキスト pp.182~185 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 27 回の講義時に提出する。
第 2 6 回	実践モデルについてのまとめ	事前学習	テキスト pp.192~197 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	講義内で配布予定の「確認テスト」を記入し、第 27 回の講義時に提出する。
第 2 7 回	スーパービジョンの意義と目的: スーパービジョンを理解するうえで必要な知識を学習する スーパービジョンの実際: 模擬的なスーパービジョンを体験する (ロールプレイの実施)	事前学習	テキスト pp.199~213 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	ロールプレイを通じて学んだ事柄をレポートにまとめる。
第 2 8 回	コーディネーションとネットワーキングの目的と意義について理解する: 事例を通じて目的、意義、必要とされる技術について理解を深める	事前学習	テキスト pp.81~104 を熟読し、その内容をノートにまとめる。
		事後学習	スーパービジョン、コーディネーションとネットワーキングに関する「確認テスト」を記入し、第 29 回の講義時に提出する。
第 2 9 回	これからのソーシャルワークの課題と展望	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
第 3 0 回	まとめ: これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
期末試験			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルワーク実践アプローチに関する理解を問う。 ・ 講義内で扱った専門用語に関する理解を問う。 ※その他、試験の詳細は講義内で提示する。			

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習 I (2 単位)		3. 科目番号	GEBS1102 GELA2302
2. 授業担当教員	上野 義光、金子 勇、北爪 克洋、小金澤 嘉、児島 佳史、 関口 恵美、田中 利光、田中 良幸、星野 弘美			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習 I、II、III、IV、V と 1 年次から 4 年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習 I では、これからの演習への導入として、社会福祉とは何か、社会福祉援助活動とは何か、どのように援助活動が展開されるのかという基本的学習を中心に、コミュニティ (地域) の社会学的定義、コミュニティの役割・機能、住民のニーズ (必要性) の発見と理解などに必要とする情報収集方法と社会調査方法を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習 I が終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) 社会福祉実践とは何か理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) コミュニティの社会学的な定義が明瞭にできる。 4) コミュニティの役割・機能と住民に対する福祉サービスがどのような形態で、どのような過程を通じて提供されるのか理解し、明瞭な説明が口頭及び文書でできる。 5) 初歩的なコミュニティ・ニーズの調査方法と情報収集方法の理解がされ、応用することができる。 6) コミュニティにおける福祉従事者の役割・機能の理解がされ、明瞭に説明できる。 7) コミュニティにおける福祉従事者の実践活動に必要とする知識について理解する。 8) 以上のことを報告書にまとめ、発表することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚) 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。 まとめレポート: 課題 4 にて作成した報告書について各自でのまとめレポートの作成を課す。 詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 『はじめての社会福祉』ミネルヴァ書房、2011 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート (課題 2・3・4) 30% 個人レポート (課題 1) 30% まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習 I のねらいと単元の解説、他己紹介、グループ編成		事前学習	ソーシャルワーク演習 I の学習用ノートを準備し講義へ臨むこと。また、これからの学習に際し、テキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	ソーシャルワーク演習 I のねらいについて学習用ノートにまとめる。
第 2 回	社会福祉とは? 社会福祉援助活動とは? 社会福祉の定義と目的、分類、活動の展開過程を知る		事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~25) を熟読し、要点を学習用ノートにまとめる。
			事後学習	「社会福祉とは何か」「社会福祉援助活動」について学習用ノートにまとめ提出する (学習用

			ノートの確認)。
第 3 回	社会福祉の働き “ニーズ”とは何か? 個人の“ニーズ”と福祉“ニーズ”の違い(もしくは同じ点)を知る 課題 1: マズローのニーズ体系に関するレポート (A4/2 枚)	事前学習	テキスト第 2 章 (pp.28~51) のうち、「福祉ニーズ」について要点を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成。
第 4 回	地域(コミュニティ)について知る コミュニティとは何か? コミュニティを知るための手段とは? グループ分けと調べるコミュニティの選別 グループ毎に選別したコミュニティを調べるのに必要な資料やデータ収集	事前学習	テキスト第 3 章 (pp.54~65) を熟読し、「コミュニティとは何か」「コミュニティの診断方法」についてその内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループメンバーで相談し、選別したコミュニティに関する資料とデータを収集する。
第 5 回	集めた資料やデータを整理、分析しグループレポートにまとめる 課題 2: グループ毎に選別したコミュニティのレポート作成	事前学習	集められたデータをもとに、グループメンバー各自が予備的なレポートを作成する(これを用いてグループレポートを作成)。
		事後学習	グループ毎に作成したレポートをもとに、各自の考察を含めて学習ノートにまとめる。
第 6 回	グループレポートの発表 1	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 7 回	グループレポートの発表 2	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	発表したレポートの課題について学習用ノートにまとめる。
第 8 回	地域社会にどのような福祉のニーズがあるのか考える 希望する対象領域を考える 領域ごとのグループ編成 課題 3: グループを構成し、各グループが選んだコミュニティについてどのような情報をどの組織、個人、団体から、どのような方法で収集するか計画の立案をする。	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.68~76) を熟読し、その内容を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループ毎に選別した領域に関する予備的情報(制度や関連データ)を各自収集し、学習用ノートにまとめる。
第 9 回	集めた資料、データの報告	事前学習	各自がまとめたものをベースに、報告用資料をグループで作成する。
		事後学習	報告した資料の課題点、不足点についてまとめ、不足点を補足する。
第 10 回	聞き取り調査の計画 (1) 聞き取り対象者の選定 質問項目の作成	事前学習	テキスト第 4 章 (pp.76~86) を熟読し、「現地調査の方法」について学習用ノートにまとめ提出する(学習用ノートの確認)。
		事後学習	「キー・インフォーマント・アプローチ」及び「フォーカス・グループ・アプローチ」について学習ノートにまとめる。
第 11 回	聞き取り調査の計画 (2) 聞き取り調査の依頼(協力依頼書の作成方法、電話での依頼方法について) 聞き取り調査のロールプレイ(実際の聞き取り調査を想定して、演習内で互いに調査を行ってみる)	事前学習	グループ毎に聞き取り調査における調査項目について素案を作成する。
		事後学習	ロールプレイの実施を受け、課題とその修正点について各自学習ノートにまとめる。 聞き取り調査の実施計画についてグループで最終確認の後実施する。
第 12 回	聞き取り調査の実施 課題 4: コミュニティより収集した情報・データを報告書にまとめ、発表する。	事前学習	聞き取り調査にて収集したデータ(回答)を学習用ノートにまとめる。
		事後学習	グループでまとめたレポートを受け、各自の考察を学習用ノートにまとめる。
第 13 回	聞き取り調査の成果発表 (1)	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 14 回	聞き取り調査の成果発表 (2)	事前学習	グループメンバーで発表準備を行う(資料の精査及び発表手順の確認)。
		事後学習	グループで発表したレポートについて個人の考察を学習用ノートにまとめ提出する。
第 15 回	振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅱに向けての課題	事前学習	学習用ノートを振り返り、これまでの学びと考察を 1 ページにまとめる(まとめレポート)。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱに向けた自己課題を学習用ノートにまとめ提出する。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2103 GELA2303
2. 授業担当教員	北爪 克洋、児島 佳史、関口 恵美、田中 利光、 田中 良幸、中里 哲也、星野 弘美		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <p>「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」</p> <p>より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明ができる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関する基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例：仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2：グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。</p> <p>①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3：リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。</p> <p>まとめレポート：グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。</p> <p>詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】保田井進・硯川眞旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。</p> <p>【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。</p> <p>野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 7. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 8. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 9. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 10. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 6. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 7. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 8. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 9. 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します。		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。(グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第 1 章 (pp.2~9) の内容をまとめる
		事後学習	課題 1 の作成と提出
第 2 回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにかに体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第 2 章 (pp.71~98) の内容をまとめる
		事後学習	課題 2 の作成と提出
第 3 回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階 (準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 4 回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集 (高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第 6 章のうち pp.52~53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第 5 回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77 「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第 6 回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術 (メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術) の習得。 グループのルール (規範) について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53~56 の内容を A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 7 回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第 6 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題 3 の作成と提出
第 8 回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56~59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について 1 つを選択し、その内容についてまとめる。
第 9 回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第 8 回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について 1 つを選びその内容を A4 用紙 1 枚にまとめる。
第 10 回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.62~68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第 11 回	作業期 活動 (ゲーム、遊戯、図工など) を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム (Sociogram) を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第 12 回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術 (例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第 7 章 pp.68~72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第 13 回	終結期 グループの終結の準備 (終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59~61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことを A4 用紙 1 枚にまとめ提出する。
第 14 回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第 8 章 pp.73~81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割について A4 用紙 3 枚にまとめて提出する (まとめレポート)。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第 9 章 pp.82~88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅲ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3160 SNMP3460
2. 授業担当教員	金子 勇、北爪 克洋、小金澤 嘉、関口 恵美、田中 良幸、星野 弘美、洪 金子			SCMP3460 SBMP3460 PSMP3460
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅲでは、ケースワークの基本技術として、他者理解と自己理解について考えることから、人間関係形成に必要な技術、また基本的な面接技術とコミュニケーションに焦点をあてて、必要な専門知識と技術を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲが終了した時点で、下記の目標達成をすることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間行動に関する心理学理論について理解を深め、その概要を説明することができる。 2) クライエントに対する姿勢について理解を深め、実践することができる。 3) 基本的コミュニケーション技法について理解し、実践することができる。 4) 基本的応答技法について理解し、実践することができる。 5) 面接技法について理解し、それを用いてクライエントの問題や課題をアセスメントすることができる。 6) 以上のことを総合的に理解し、ソーシャルワークにおける面接を展開することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: 個人(人)を理解する上で必要となる精神分析理論について、その主要概念について説明しなさい。 課題2: 面接における基本的応答技法について、技法がもたらす効果について簡潔に説明しなさい(第9・10回の学習をまとめる) 課題3: 事例を用いて面接を実施し、自らの面接技術に関し他者からの評価を受け、また自己評価を行うまとめレポート: ソーシャルワークⅢにて学習したことに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規、2015年。 【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005年。 平山尚、武田丈『人間行動と社会環境』ミネルヴァ書房、2004年。 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『相談援助の理論と方法Ⅰ(新・社会福祉士養成講座 第7巻)』中央法規、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループレポート 30% 個人レポート 40% まとめレポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 12. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 13. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 14. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 15. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 11. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 12. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 13. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション ソーシャルワーク演習Ⅱの振り返り ソーシャルワーク演習Ⅲのねらいと単元の解説	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びをレポートにまとめる。	
		事後学習	参考書『人間行動と社会環境』第2章(pp.10~33)を熟読し、その内容をまとめる。	
第2回	人を理解する(Ⅰ) 精神分析理論について学習する: 精神分析理論の主要概念について理解を深める 行動理論と学習理論について学習する: 行動理	事前学習	参考書『人間行動と社会環境』第3章1(pp.35~38)を熟読し、その内容をまとめる。	
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)	

	論と学習理論の主要概念について理解を深める 学んだ人間行動に関する心理学理論が、どのように人間行動の理解に用いられるのかを事例をもとに検証する		
第 3 回	人を理解する (2) 心理社会理論について学習する：心理社会理論の主要概念について理解を深める 人間の発達過程について理解を深める 事例を用いて人間行動に関して心理社会理論を使用して分析・検証する	事前学習	参考書『人間行動と社環境』第 4 章 (pp.64~88) を熟読し、その要点をノートにまとめる。
		事後学習	心理社会理論について口頭で説明ができるよう、その内容を確認する。
第 4 回	ソーシャルワークにおける面接の目的・特性理解 「会話」と「面接」の相違点について理解し、面接の形態 (構造化面接と生活場面面接)、面接実施の基盤となる考え方について理解を深める	事前学習	テキスト pp.100~111 を読みその内容をまとめる。
		事後学習	「会話」と「面接」の相違点について口頭で説明できるよう、学習内容をノートにまとめる。
第 5 回	クライアントに対する姿勢：距離について考える 人と人が話をする際の距離についてロールプレイを通じて学習する	事前学習	自分自身の日常生活を振り返り、人と接する際の距離について考え、どのような距離感をもっているかをノートにまとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり適切な距離とは何か演習を通じて学んだことをレポートにまとめ提出する。
第 6 回	クライアントに対する姿勢：バイスティックの 7 原則の実践 専門的対人援助関係形成のための原則について再確認する	事前学習	バイスティックの 7 つの原則について、その内容を調べ、まとめる。
		事後学習	クライアント支援にあたり、その人間関係形成とバイスティックの 7 原則との関係性をノートにまとめる。
第 7 回	面接における技術：面接におけるコミュニケーションについて理解する 基本的コミュニケーション技法について、その原則について理解を深め、ロールプレイを用いて習得する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、コミュニケーションの特質 (癖や傾向) について気づいたことをノートにまとめる。
		事後学習	基本的コミュニケーション技法について、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてレポートにまとめ提出する。
第 8 回	面接における技術：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 言語・非言語的コミュニケーションの意義を理解し、その活用方法についてロールプレイを用いて実践する	事前学習	自分自身の日常を振り返り、非言語的コミュニケーションについて気づいた事をノートにまとめる。
		事後学習	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、ロールプレイを通じて自覚した自身の課題についてノートにまとめる。
第 9 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (1) 「反射」について理解し、技術を習得する 単純な反射、言い換え、要約、明確化についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.112 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「反射」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 10 回	面接における技術：基本的応答技法について理解する (2) 「感情の反射」「適切な質問」について理解し、技術を習得する 感情の反射、開かれた質問と閉ざされた質問、状況に即した質問についてロールプレイを用いて技術を習得する	事前学習	テキスト pp.112~116 を熟読したうえで、p.92 表 2-2 の該当技術について確認する。
		事後学習	ロールプレイを通じて確認できた「感情の反射」「開かれた質問と閉ざされた質問」に関する自己評価 (できた点と課題点) をノートにまとめる。
第 11 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 10 回までに学んだことを振り返り、コミュニケーションと応答技法についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 12 回	事例に基づくアセスメント面接の実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行う	事前学習	第 9 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	面接結果をアセスメントシートにまとめる。
第 13 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (1) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	面接のロールプレイを実施し、明らかとなった自己の課題について明確にし、ノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 14 回	事例に基づくアセスメント面接及びプランニングの実施 (2) 事例を基に実際にアセスメント面接を行い、それに基づきプランニングをする	事前学習	第 13 回で行った面接を振り返り、面接を行う際の自身の課題についてノートにまとめる。
		事後学習	アセスメント面接結果をもとにプランニングを行う。
第 15 回	まとめ 評価：教員と学生がソーシャルワーク演習Ⅲで学んだこと、学習目標の達成度を評価する	事前学習	ソーシャルワーク演習Ⅲを通じて学んだこと、課題となったことをノートにまとめる。
		事後学習	コミュニケーションと面接技法に関し、実習及び実践を行う上で自身の評価できる点と改善点をレポートにまとめ提出する (まとめレポート)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3161 SNMP4461 SCMP4461 PSMP3461
2. 授業担当教員	荻野 基行、金子 勇、関口 恵美、田代 幹康			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に把握します。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1: ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2: 事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3: グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4: 社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に関する知識や理論を深める。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1: 認知理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題2: 課題中心理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>課題3: システム (家族療法) 理論・アプローチについて、特徴やポイントを中心にレポートにまとめてもらいます。 A4用紙 40文字×30行×3枚以内 (科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p> <p>まとめレポート: ソーシャルワーク実践アプローチに関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 川村隆彦著『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規出版、2011年。</p> <p>【参考書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』中央法規出版、2015年。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版、2014年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート (課題1~3) 60%</p> <p>まとめレポート 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <p>16. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。</p> <p>17. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。</p> <p>18. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。</p> <p>19. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。</p> <p>20. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。</p> <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <p>14. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>15. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>16. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>17. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します) 認知理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.76~83 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。	
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。	
第2回	認知理論・アプローチ② (事例を通してクライアントの考え方の傾向に気づかせることを学びます)	事前学習	テキスト pp.83~86 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。	
		事後学習	支援プロセスについてノートにまとめる。	
第3回	認知理論・アプローチ③	事前学習	テキスト pp.86~87 を熟読し、不明な点は箇条書	

	(事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事後学習	きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ABC 理論についてノートにまとめる。
第 4 回	認知理論・アプローチ④ (事例を通して、クライアントの非合理的な考え方を論駁することについて学びます)	事前学習	テキスト pp.87～89 を熟読し、不明な点は明らかにし、箇条書きにしてノートにまとめ、授業へ臨む。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 5 回	認知理論・アプローチ⑤ (事例を通して合理的な考え方を学び、それを訓練することについて学びます) 小まとめ *課題 1	事前学習	テキスト pp.92～94 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 6 回	課題中心理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.132～138 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 7 回	課題中心理論・アプローチ② (事例を通して、ターゲット問題を選択することを学びます)	事前学習	テキスト pp.138～141 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	ターゲット問題についてノートにまとめる。
第 8 回	課題中心理論・アプローチ③ (事例を通して、目標と課題を設定する(契約)ことを学びます)	事前学習	テキスト pp.141～143 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題中心アプローチにおける契約についてノートにまとめる。
第 9 回	課題中心理論・アプローチ④ (事例を通して、課題を遂行し、アセスメントを行うことを学びます)	事前学習	テキスト pp.143～145 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 10 回	課題中心理論・アプローチ⑤ (事例を通して、終結について学びます) 小まとめ *課題 2	事前学習	テキスト pp.145～147 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。
第 11 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ① (全体像を捉え、概念を深く学びます)	事前学習	テキスト pp.165～173 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。
第 12 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ② (事例を通して、ジョイニングにより関係を形成し、主訴を確認することを学びます)	事前学習	テキスト pp.173～178 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 13 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ③ (事例を通して、情報収集と仮説設定をすることを学びます)	事前学習	テキスト pp.178～180 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	演習のポイントをノートにまとめる。
第 14 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ④ (事例を通して、働きかけることを学びます)	事前学習	テキスト pp.180～182 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	設問に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第 15 回	システム (家族療法) 理論・アプローチ⑤ (事例を通して、再情報収集・仮説設定・働きかけの循環を行うことを学びます) まとめ *課題 3	事前学習	テキスト pp.183～186 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題 3 の作成 (授業内で示された提出期限厳守)。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅴ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP4162 SNMP4462 SCMP4462 PSMP4462
2. 授業担当教員	荻野 基行、金子 勇、関口 恵美、田代 幹康		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと、1 年次から 4 年次まで断続的に学習するように構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多彩な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅴでは、さまざまな事例を用いて、そこにみられる「人間と環境」または「環境の中の人間」への介入の視点から、エコ・システム論に準拠し、事例における(1)問題認知(問題そのものの理解)、(2)関連するデータの分析(問題背景の理解)、(3)仮説の設定(「～ならば～である」とするワーカーの仮説)、(4)実践理論及び実践モデルの検討(問題に最適だと考えられる理論及びモデルの検討)、(5)目標、目標計画及び介入計画(具体的目標や目標達成に向けた計画の策定)(6)介入(相談援助の実践)(7)評価(実践評価)(8)終結(援助終了)の援助過程から学習します。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴが終了した段階で、次の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：授業内容にある事例の相談援助を、エコ・システム論に準拠して理解することができるようになる。</p> <p>目標2：授業内容にある事例の中に含まれる、環境の調整(マネジメント)、多職種連携による介入(チームアプローチ)、利用者のもつ力(ストレングス)の視点、社会生活モデル等を、具体的に説明できるようになる。</p> <p>目標3：自らの相談援助の場面を想定して、目標1、目標2を統合した援助方法がイメージできるようになる。</p>		
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1：前半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>課題 2：後半部に学習した事例から一つの事例を選び、その「演習課題」あるいは「学習方法」の中から、レポートを作成してもらいます。事例の選択は教員より指示があります。</p> <p>A4 用紙 40 文字×25 行×3 枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名等を明記すること)</p> <p>まとめレポート：事例に対する相談援助実践に関するまとめレポートの作成を課す。詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助演習』第 2 版、中央法規、2015 年。</p> <p>【参考書】平山尚 ほか著『社会福祉実践の新潮流』ミネルヴァ書房、2005 年。 障害者相談支援従事者初任研修テキスト編集委員会編 『改訂 障害者相談支援従事者初任研修テキスト』中央法規。 恩賜財団母子愛育会子ども家庭総合研究所編『子ども虐待対応の手引き』有斐閣。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>個人レポート(課題 1～2) 50%</p> <p>まとめレポート 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。そのため受講生は次の条件を守ってください。</p> <p>21. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って積極的な態度で受講する。</p> <p>22. 自ら進んで教員に質問する。理解できないことはそのまま放っておかない。</p> <p>23. 欠席、遅刻、早退をしない。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告する。</p> <p>24. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしない。</p> <p>教員は以下の方針で授業を行います。</p> <p>18. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。</p> <p>19. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。</p> <p>20. 双方向対話型の学習によりディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう環境を作る。</p> <p>21. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー	授業中に通知します(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<p>オリエンテーション(授業の進め方等)</p> <p>障害者の就労支援に関する相談援助 ①</p> <p>※ 障害者の就労支援に関する相談援助事例をもとに、障害者の就労支援では、職場(環境や集団)や地域環境に対する調整と本人に向けられた支援とが並行してなされる必要があることを学習する。</p> <p>※ 教科書の第 5 章、事例問題 25 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。</p>	事前学習	テキスト pp.268～271 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 2 回	<p>障害者の就労支援に関する相談援助 ②</p> <p>※ 前回宿題の発表とディスカッション</p>	事前学習	第 1 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。

		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 3 回	病院からの退院に関する相談援助 ① ※ 病院からの退院に関する相談援助事例をもとに、退院計画では患者の社会環境（介護サービス、医療・保健サービス、経済状態等）の調整と、本人の身体面・心理面等への支援とが並行して、専門職がチームを組んで支援する必要があることを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 27 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.276～279 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 4 回	病院からの退院に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 3 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 5 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ① ※ DV（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談援助事例をもとに、DV とはどのようなものか、その特質を理解し、「DV 防止法」をもとに DV が被害者に及ぼす影響と、被害者が直面する生活問題について学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 28 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.280～283 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 6 回	家庭内暴力（DV）に関する相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 5 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 7 回	虐待児童への相談援助 ① ※ 発達障害児童への虐待に関する相談援助事例をもとに、発達障害とネグレクト（育児放棄）が結びついた児童に対し、児童養護施設等の受け皿（環境）と児童のもつ力（ストレングス）を調整しながら支援することを学習する。 ※ 教科書の第 5 章、事例問題 30 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.288～291 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 8 回	虐待虐待への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 7 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 9 回	低所得者への相談援助 ① ※ 低所得者への相談援助事例をもとに、低所得・貧困問題を抱えた利用者に対して、利用者自身のもつ能力を引き出すとともに、各種の社会制度・施策、社会サービスなどの社会資源（環境）を活用しながら自立に向けた支援展開を学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 34 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.312～315 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 10 回	低所得者への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 9 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 11 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ① ※ 要介護高齢者とその家族への相談援助事例をもとに、要介護高齢者の介護問題だけでなく、高齢者を抱える家族支援のあり方について学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 37 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.326～329 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 12 回	要介護高齢者とその家族への相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 11 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 13 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ① ※ 身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助事例をもとに、障害者の自立とは何を意味するのかを把握した上で、自立生活に欠かせない社会資源調整や人々の意識変革に向けての働きかけの内容を、国際生活機能分類の「社会生活モデル」に基づいて学習する。 ※ 教科書の第 6 章、事例問題 38 の「演習課題」及び「学習方法」の中より次回授業までの宿題あり。	事前学習	テキスト pp.330～335 を熟読し、事例理解に必要な用語、制度等について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	授業の中で示された宿題をノートにまとめ、次回のディスカッションに備える。
第 14 回	身体障害者の自立生活支援に向けた相談援助 ② ※ 前回宿題の発表とディスカッション	事前学習	第 13 回の宿題について内容を精査し、ディスカッションの準備を行う。
		事後学習	ディスカッションを行い得られた情報と考察をノートに記録しまとめる。
第 15 回	まとめ ※ 第 1 回～第 14 回授業を振り返り、援助の重要ポイントを押さえる。	事前学習	授業で配布されたレジュメ、事前・事後学習ノートの内容を整理し、ソーシャルワーク演習Ⅴでの学びをまとめる。
		事後学習	援助の重要ポイントについてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導 I (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2180 PSMP2480
2. 授業担当教員	金子 勇、小金澤 嘉、佐々木 貴雄、鈴木 雄司、 田中 利光、田中 良幸、星野 弘美			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導 I、II、III とソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 相談援助実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の意義について理解する。 2) 実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。 3) 資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。 4) 個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1: 実習を希望する実習種別に関して、その希望動機と関連法令、規定されたサービス内容について、まとめなさい。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※講義にて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。 また、本学規定により、本講義未収得者への実習配属は行わない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 26. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 27. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 28. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 29. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 23. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 24. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	・ソーシャルワーク実習指導 I のねらいと単元の解説、講義の進め方についての説明		事前学習	ソーシャルワーク実習指導用のノート (もしくはファイル) を準備し、併せてテキスト「はじめに」を熟読する。
			事後学習	テキスト「はじめに」を熟読し、相談援助実習の仕組みと内容についてノートにまとめる。
			配布物	『ソーシャルワーク実習の手引き』、『学習の手引き』、学生調査票
第 2 回	・実習前中後の流れ (全体像) と指導体制についての理解 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) ・実習に関する基本的ルールの確認 (東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用)		事前学習	実習で学びたいことをノートにまとめる。
			事後学習	「ソーシャルワーク実習の手引き」を参照に東京福祉大学の実習の仕組み (全体像) についてまとめる。
第 3 回	・相談援助実習の位置付けについて理解する (テキスト pp.2~18) : 専門職養成において実習を実施することの意味・意義について理解を深める		事前学習	テキスト pp.2~18 を熟読する
			事後学習	「なぜ実習が必要なのか」についてノートにまとめ提出する。
第 4 回	・「相談援助実習ガイドライン」及び東京福祉大学における実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の理解 (テキスト pp.19~34 及びソーシャルワーク実習の手引き使用) : 相談援助実習において求められる実習内容と本学の実習目標を相互に理解し、実習目標への理解を深める		事前学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、相談援助実習に求められる内容についてノートにまとめる。
			事後学習	テキスト pp.19~34 を参照のうえ、東京福祉大学の実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) の目標についてノートにまとめる。
第 5 回	・「相談援助実習」(ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) が可能な施設・機関の紹介と説明 (テキスト pp.55~64 及び東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」使用) : 法定施設・機関の紹介と希望種別の選択		事前学習	テキスト pp.62~69 を熟読し、実習先施設・機関の範囲について理解を深める。
			事後学習	実習希望種別を選別するとともにその動機についてノートにまとめる。

	・実習形態に関する理解 (テキスト pp.65~68)		
第 6 回	・事前学習として実習先を理解する意義 (テキスト p103~106) : 希望種別に関する事前学習レポートをまとめる (課題 1) ・社会福祉士資格取得に関する動機及び実習先種別に対する動機の明確化	事前学習	実習希望種別に関する情報を収集する。
		事後学習	課題 1 の作成 (講義内で示される提出期限厳守)。
第 7 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 8 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 9 回	・実習施設・機関の基本的理解 : 個人レポート (課題 1) の発表と共有	事前学習	希望種別に関するプレゼンテーションの準備。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	・実習先の配属 ・配属先実習施設・機関に関する情報収集 ・誓約書・個人調書等書類の作成 (実習への抱負の明文化)	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」を熟読し、実習配属から実習実施までの流れを再確認する。
		事後学習	実習施設に関する情報収集を行い、ノートにまとめる。
		配布物	実習配属通知、個人調査書 (実習先提出用) 実習記録必要書式のコピー (施設概要及び実習プログラム案下書き用紙)
第 11 回	・配属先実習施設・機関の利用者理解と援助方法 (テキスト p.123~139) ・個人調書等書類の作成 (社会福祉士資格取得の動機の明文化)	事前学習	「社会福祉士を目指す動機」「思い描く社会福祉士像」について言語化できるようまとめる。
		事後学習	個人調書を作成し、教員から添削を受ける。
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	テキスト pp.142~146 を熟読し、「3 段階実習プログラム」についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	事前訪問の目的と留意点についてノートにまとめる。
		配布物	「事前訪問について」
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画 (本学では「実習プログラム (案) 」とする) の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	テキスト pp.147~154 を熟読し、実習計画の意義とそのイメージについて確認する。
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性と重要性において理解を深める	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」 pp.55~ を熟読し制度としての個人情報保護と倫理上の守秘義務について理解する。
		事後学習	事前訪問に向けた準備を行う。
第 15 回	・見学実習 (事前訪問) の最終確認 ・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導 II に向けた課題	事前学習	事前訪問日時について実習指導者へ電話連絡のうえ、訪問日時を明確にする。
		事後学習	ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習指導 II に向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 12 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~146) : 望まれる相談援助実習の在り方 (3 段階実習プログラム) を踏まえてソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習における学ぶべき内容について理解する ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 見学実習 (事前訪問) の目的と意義の確認	事前学習	
		事後学習	セルフアセスメントシートの作成 (1 回目)
		配布物	セルフアセスメントシート
第 13 回	・実習計画の作成 (テキスト pp.147~154) : 実習計画の意義と作成についての理解を深める ・見学実習 (事前訪問) に向けた準備 : 基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	
		事後学習	課題 2 の作成 (講義内で示された提出期限厳守)。
第 14 回	・「契約としての実習」についての理解 (テキスト pp70~73) : 実習における契約の意義について理解を深める ・実習におけるリスクマネジメント (テキスト pp74~87) : 個人情報保護法の理解を含め、実習におけるリスクマネジメントの必要性と重要性において理解を深める	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンス確認テスト I 問題

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (C/N) (2 単位)	3. 科目番号	SCMP3481 SNMP3481
2. 授業担当教員	荻野 基行、鈴木 雄司		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク実習の実施に向けて、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習における課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルワーク実習で確認すべき各種相談援助技術について、明確に説明できる。 2) ソーシャルワーク実習配属実習施設・機関の関連法制度、規定されているサービス内容に関して、明確に説明することができる。 3) ソーシャルワーク実習に対する抱負及び動機に関して言語化できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1: 本学のソーシャルワーク実習において、その目標を達成するための具体的な実習内容について示しなさい。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 50%</p> <p>講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 30. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 31. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 32. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 33. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 34. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 25. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 26. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 27. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 28. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。
		事後学習	ソーシャルワーク実習実施上の課題についてノートにまとめる。
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (1) (テキスト pp.104~122) : 事前学習として各分野における実習の在り方について理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 7 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の理解 (2) (テキスト pp.104~122) : 第 2 回に引き続き、第 2 部第 7 章に示す、実習先理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 7 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 (1) (テキスト pp.124~140) : 施設、機関、また地域の社会福祉サービス利用者についての理解を深める。 	事前学習	テキスト第 2 部第 8 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。

第 5 回	・実習機関・施設、地域の利用者理解と援助方法 (2) (テキスト pp.124~140) : 第 4 回に引き続き、第 2 部第 8 章に示す、社会福祉サービス利用者の理解を深める。	事前学習	テキスト第 2 部第 8 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 6 回	・相談援助実習の仕組み (テキスト pp.142~157) : 相談援助実習の構成と求められる内容について理解を深める。	事前学習	テキスト第 2 部第 9 章を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 7 回	・実習経験と学習「基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係形成」(テキスト pp.166) : サービス利用者とのコミュニケーションの方法と信頼関係の形成について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 部第 2 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 8 回	・実習経験と学習「利用者理解、利用者の需要把握、支援計画の作成」(テキスト pp.174) : ニーズの把握から支援のための計画作成までの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 3 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 9 回	・実習経験と学習「利用者やその関係者との援助関係の形成」(テキスト pp.182) : 利用者支援に必要となる関係者との関わり方とその必要性について理解を深める。 ・実習経験と学習「利用者やその関係者への権利擁護及び支援」(テキスト pp.191) : 利用者及び関係者に対しての権利擁護とはどのようなものなのか理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 4 節及び第 5 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 10 回	・実習経験と学習「チームアプローチの実際」(テキスト pp.196) : ソーシャルワーク実践におけるチームアプローチの意義と方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 6 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 11 回	・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト pp.203) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 7 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 12 回	・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト pp.209) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 8 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 13 回	・実習経験と学習「地域社会の一員としての実習機関・施設の理解」(テキスト pp.216) : 社会福祉機関・施設の社会化について理解を深める。	事前学習	テキスト第 3 章第 9 節を熟読し、要点をノートにまとめる。
		事後学習	本日の学習が実習へどのように活かされるか考察しノートにまとめる。
第 14 回	東京福祉大学 ソーシャルワーク実習の目標理解 (『ソーシャルワーク実習の手引き』使用) : これまで学習してきたことと、本学の実習目標との相互関係を確認し、実習プログラムの作成方法について理解を深める。(課題 1)	事前学習	東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』を熟読し、実習目標について理解を深める。
		事後学習	実習目標に沿った実習プログラム(案)についてまとめる。
第 15 回	・学習のまとめ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた課題	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅲに向けた自己課題についてまとめる。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 11 回	・実習経験と学習「社会福祉士としての職業倫理、施設・職員などに関する規定と責任の理解」(テキスト pp.203) : 専門職倫理が実践の根底にあることの意義と、実習における専門職倫理へのアプローチの方法について理解を深める。	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンス問題パートⅡ
第 12 回	・実習経験と学習「実習機関・施設の経営やサービスの管理運営の理解」(テキスト pp.209) : ソーシャルアドミニストレーションについて理解を深める。	事前学習	
		事後学習	実習コンピテンス問題パートⅡ テスト
		配布物	実習コンピテンス問題パートⅡ及び解答用紙

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (S/P/B) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3181 PSMP3481
2. 授業担当教員	金子 勇、北爪 克洋、佐々木 貴雄、田中 利光			
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱでは、ソーシャルワーク基礎実習の実施を軸として、実習実施、また実践に必要な援助技術及び関連技術について学習するとともに、ソーシャルワーク実習の実施に向けて課題の明確化、また課題達成に必要な知識及び技術について学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習プログラム (案) の作成を通じて実習の目的を明確化、具体化できる。 2) 相談援助技術について理解を深め、実習における専門技術習得のための具体的方法について理解する。 3) 記録について理解のうえ、適切な記録の記入ができる。 4) 実習目標と実践を照合し自己評価して、自己の課題を明瞭に説明できる。 5) 実習を総合的に評価し、課題を明確化、文書化できる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 実習プログラム (案) の作成 課題 2: ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』(第 2 版)、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】 川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>課題 1 30% 課題 2 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 36. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 37. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 38. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 39. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 29. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 30. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 31. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 32. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 			
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの講義内容、進め方の説明： シラバスを用いて今後の講義の進め方、また実習 (ソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習) との関連について理解を深める ・実習に向けての不安・課題についての話し合い 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて用いたノート (ファイル) の内容を確認し、自己課題について明確化したうえで講義に臨む。	
		事後学習	講義での話し合いを踏まえ、ソーシャルワーク基礎 (またソーシャルワーク実習) 実施上の課題についてノートにまとめる。	
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録及び下書き用紙、健康診断・細菌検査について	
第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.160~181) : 第 1 節~第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認 	事前学習	テキスト pp.160~181 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	実習プログラム (案) を作成し、教員の添削を受ける。	
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助技術の理解と実習における実践 (テキスト pp.182~202) : 第 4 節~第 6 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム (案) の作成: 実習計画書の記入と添削 	事前学習	テキスト pp.182~202 を読み、実習活動について理解を深める。	
		事後学習	添削された実習プログラム (案) を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から	

			確認印を受ける。
		配布物	実習開始に関する諸注意、細菌検査容器、福祉実習に伴う欠席届について、巡回教員への挨拶用紙
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.203～223）：第 7 節～第 9 節 ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：施設概要作成に関する説明 ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成（課題 1）：スーパーバイザーとの協議に関する説明と確認 <p>※この週から第 7 回の週の期間中にソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削指導を受けた実習プログラム（案）を実習指導者へ提出、協議を行う。</p>	事前学習	テキスト pp.203～223 を読み、実習活動について理解を深める。
		事後学習	添削された実習プログラム（案）を修正し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認印を受ける。 確認を受けた実習プログラム（案）を実習先実習指導者へ訪問のうえ提出し、その内容を協議する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録の理解：実習記録の意義、記入方法、取扱い等に関する説明と書き方演習（テキスト pp.226～238） ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：スーパーバイザーとの協議の結果、実習プログラム（案）をまとめる 	事前学習	テキスト pp.226～238 を読み、記録の意義、内容について理解を深める。
		事後学習	実習先指導者との協議のうえ、確定した実習プログラム（案）をまとめる。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> 実習スーパービジョン・巡回指導の理解（テキスト pp.239～252）：巡回指導の目的と内容、スーパービジョンについて理解する ※ここまで巡回担当教員との面接を終えていること。 ソーシャルワーク基礎実習 施設概要の作成：作成された施設概要の確認 	事前学習	テキスト pp.239～252 を熟読し、実習スーパービジョンの目的と受け方についてノートに概要をまとめる。
		事後学習	実習巡回指導教員への挨拶用紙を作成し、実習巡回教員への挨拶と打合せを行う。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習に向けて最終確認：事故、緊急時対応、保険、注意事項、評価、記録の提出等について 実習における契約構造の説明と実習生の義務・権利について確認 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.38～42・p.54 を熟読し、実習中の留意事項について理解する。
		事後学習	実習生の義務と権利について学習したことをノートにまとめる。
		配布物	細菌検査結果（該当者のみ）、ソーシャルワーク基礎実習終了後の諸注意、実習記録提出証明書、実習誓約書
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の振り返り：ソーシャルワーク基礎実習の目標と実際を照合し、自己評価を行う ソーシャルワーク基礎実習の学習効果と課題の整理：ソーシャルワーク基礎実習の実施を踏まえて実習総括レポートを作成（課題 2） <p>※確認事項：実習記録の提出、お礼状の送付</p>	事前学習	実習記録の整理 自己評価の実施
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で提示される提出期限厳守）。
第 9 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）①	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	報告のための資料準備とレポート内容の確認を行う。
		事後学習	教員・クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習の目的と内容の理解：ソーシャルワーク実習の全体像と目的、課題について理解する 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」p.9 を熟読する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習においてすべきことがらについてノートにまとめ、口頭で説明できるようにする。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク基礎実習の評価：返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成 	事前学習	東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」pp.20～の実習プログラミングの実習先該当箇所を目を通す。
		事後学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。
		配布物	ソーシャルワーク基礎実習記録（実習評価）返却、ソーシャルワーク実習記録、ソーシャルワーク実習プログラム（案）下書き用紙
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び 	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から添削を受ける。

	「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事後学習	事例をもとに「ソーシャルケースワーク記録」の記入を行い提出する。
第 14 回	・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習プログラム（案）を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員から確認を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ担当教員と協議した実習計画（案）を、実習先指導者へ提出、協議を行う（ソーシャルワーク実習事前訪問の実施）。
		配布物	ソーシャルワーク実習開始にあたっての諸注意
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	ソーシャルワーク実施に向けた自己課題をノートに記載する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習に必要な資料を収集し、事前学習を進める。

【実習コンピテンスの流れ】

講義日程	授業内容	学習課題	
第 2 回	・相談援助技術の理解と実習における実践（テキスト pp.160～181）：第 1 節～第 3 節 ・ソーシャルワーク基礎実習 実習プログラム（案）の作成：ソーシャルワーク基礎実習の目的と実習の全体像について内容を確認	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンス問題パートⅠ及び解答用紙
第 10 回	実習の評価・総括（実習成果発表会）②	事前学習	
		事後学習	
		配布物	実習コンピテンス問題パートⅡ
第 12 回	・ソーシャルワーク基礎実習の評価： 返却されたソーシャルワーク基礎実習評価をもとに、自己評価を実施 ・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：実習目標と目標を達成するための展開方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	実習コンピテンス問題パートⅡ テスト
		配布物	
第 13 回	・ソーシャルワーク実習「実習プログラムシート」の理解（東京福祉大学「ソーシャルワーク実習の手引き」・「社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き」使用）：「実習記録」及び「ソーシャルワークケース記録」の記載内容及び記録方法について ・ソーシャルワーク実習プログラム（案）の作成	事前学習	
		事後学習	
		配布物	セルフアセスメントシート
第 15 回	学習のまとめ	事前学習	セルフアセスメントシート作成
		事後学習	
		配布物	

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S/P/B) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3182 PSMP3482
2. 授業担当教員	北爪 克洋、佐々木 貴雄、田中 利光		
4. 授業形態	講義、個別学習、グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて明確に説明できる。 2) 実習先での実践を振り返り、クライアントへの援助実践に必要な技術と知識、また自己課題について明確に説明できる。 3) 実習先での実践を振り返り、社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的なアプローチについて明確に説明できる。 4) 実習先での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定の理解と組織の一員としての役割と責任について明確に説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 1～5：講義日程にて示す通り ・実習報告書の作成 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 『社会福祉士 相談援助実習』第 2 版、中央法規、2014 年。 東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布</p> <p>【参考書】川村隆彦編著『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規、2014 年。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>課題 1～5 30% 実習報告書 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ることを。</p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 41. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 42. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 43. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 44. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 33. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 34. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 35. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業中に通知します (時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ソーシャルワーク実習 実習計画書の確認 	事前学習	ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成、配属施設実習指導者より確認を得た実習計画書と照らし合わせ、具体的に実習で行いたい事をノートにまとめる。
		事後学習	実習計画をもとに、30 回の実習をより具体的にマネジメントする。

第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：アセスメントについて 	事前学習	支援過程とアセスメントの方法についてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ソーシャルワークケース記録情報収集とアセスメントについて事例を用いて実際に記入し、提出する。
第 3 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：ジェノグラムとエコマップについて ・帰校指導について説明・理解 	事前学習	ジェノグラムとエコマップについてソーシャルワークⅡのテキストを用いて復習する。
		事後学習	ジェノグラムとエコマップについて事例を用いて実際に作成、提出する。
第 4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 ・ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：インターベンション・結果と評価 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第 5 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・他職種連携とチームアプローチについての理解：実習施設・機関の他職種・他職員とのチームアプローチのあり方についてまとめる（課題 1） 	事前学習	実習時に実習先で実践されている他食連携について指導者より指導を受けその内容を記録にまとめる。
		事後学習	課題 1 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 	事前学習	課題 1 についてまとめる。
		事後学習	実習時に課題 2 の作成に必要な情報について質問等を通じて収集する。
第 7 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いて検討 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	帰校指導記録を精査、実習指導者へ提出する。
第 8 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・地域社会への働きかけについての理解：実習施設・機関と関わる社会資源についてまとめたうえで、その関連性と働きかけの方法についてまとめる（課題 2） 	事前学習	実習先の社会資源について調べ、記録にまとめる。
		事後学習	課題 2 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 9 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・クライアントへの援助実践についての理解：クライアントへの支援において適用できる実践アプローチについて考察する（課題 3） 	事前学習	担当しているケースについて、情報を整理する。また、ソーシャルワークの実践アプローチについて内容を確認する。
		事後学習	課題 3 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
		配布物	実習報告書について、ソーシャルワーク実習Ⅱアンケート（Sのみ）
第 10 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・専門職の倫理綱領と実践についての理解：実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 4） 	事前学習	実習において実践活動及び職員の行動を観察のうえ、専門職倫理との関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 4 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 11 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 12 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 	事前学習	担当ケース及び事業について報告用のレジュメを作成、提出する。
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
		配布物	実習終了時の諸注意 実習記録提出証明書
第 13 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の振り返り：帰校指導記録を用いた報告 ・実践事例の報告と検討：担当している事例（事業）についての報告と意見交換 ・実習の評価について理解する（テキスト pp.290～308・及び東京福祉大学ソーシャルワーク実習生自己評価表）：実習評価の意義について理解を深め、自己評価を行う ・実習報告書の作成について（説明） 	事前学習	帰校指導記録の記入
		事後学習	担当教員、クラスメンバーからのフィードバックをまとめる。
第 14 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての自分について理解を深める：自分の家族背景、交友関係等から、どのような価値観をもつようになったか、この価値観が援助にどのように反映すると考えるかまとめる（課題 5） 	事前学習	実習活動を通じて自己について振り返り、価値観と実習行動等の関係性について考察し、記録にまとめる。
		事後学習	課題 5 の作成（講義内で示される提出期限厳守）。
第 15 回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後の学習課題（テキスト p.310）：目標と結果の照合、今後の課題について明確化する 	事前学習	実践活動に向けた自己課題について記録にまとめる。
		事後学習	実習報告書を作成し担当教員へ提出する。

1. 科目名 (単位数)	体育 (初等・幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2280 SJMP2380								
2. 授業担当教員	上村 孝司	5. 開講学期	春期・秋期								
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義(実技で扱えない領域・保健領域)やディスカッション、グループでの発表を行う。										
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>今の日本では生活習慣病の予防・改善や平均寿命の延伸などにより、運動やスポーツ、健康への関心が高まってきている。このことから、体育は生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために重要な科目となっている。また、子どもの体力は低下しており、幼児や児童の体力向上のために体育は重要な位置づけとなる科目である。</p> <p>この授業では、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領を踏まえ、教育現場で実際に指導を行える能力を学習していく。学習指導要領に応じて、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるようになるとともに、健康の保持増進、体力の向上を養うための技能や知識を身につけ、指導できるようになることを目的とする。また、幼稚園教育の現場で行われる運動を指導できるようにすることを目的とする。</p> <p>・幼稚園「健康」・小学校学習指導要領における「体育」の目標、内容の概要を捉え、「健康」および「体育」の位置づけを理解する。さらに各領域におけるおもな運動を実技を通して経験することで、その運動特性を自身の身体で捉え、健康・体育指導に必要となる最低限の技能を身につけることができるようにする。具体的には以下の①②に示す通りである。</p> <p>①正しい運動の方法を理解し、正しく運動ができるようにする。 ②ただし各種運動を指導するためのポイントを押さえ理解する。</p> <p>・さまざまな子どもたちにおける個に応じた実技指導やその評価計画について理解することができるようにする。</p>										
8. 学習目標	<p>本講義を履修することによって以下の項目を達成することを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までの幼・小の体育授業の位置づけについて理解することができる。 2. 小学校体育指導に際しては、各運動領域における必要最低限の運動技能を身につけることができる。 3. 幼稚園教育の現場で行われる運動については、正しい指導ができるとともに基本的な運動の模範を見せることができるようになる。 4. 体育指導を行う上での教師の留意事項や基本的な役割を身につけることができる。 										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1.各運動の指導のポイントと工夫について解説をする(口頭発表やディスカッション)</p> <p>課題2.各運動領域の基礎的な運動を実践する(実技)</p> <p>課題3.各運動領域での発表や課題レポートの作成および提出</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】必要に応じて資料を配布する</p> <p>【参考書】『小学校学習指導要領解説(体育編)』</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>実技</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>課題, 提出物</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>			授業への参加態度	45%	実技	25%	課題, 提出物	30%	計	100%
授業への参加態度	45%										
実技	25%										
課題, 提出物	30%										
計	100%										
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員をめざす学生としての心構えで受講してください。 2. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型, 靴, 爪なども含む)で参加してください。 3. 欠席, 遅刻, 早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 4. わからないこと, 疑問に思うことは, 質問・意見をして解決していきましょう。 5. 自主的に取り組み, 積極的な授業参加を望みます。 										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション 小学校学習指導要領の体育領域について 幼稚園教育要領の確認 グループ作成	事前学習	小学校学習指導要領について予習する。								
		事後学習	体育領域の復習をする。								
第2回	体づくり運動 体ほぐし運動 多様な動きをつくる運動遊び 集団行動・体操(ラジオ体操)	事前学習	体の動かし方について予習する。 集団行動の動きについて予習する。 ラジオ体操の動作を実践できるようにする。								
		事後学習	様々な動きを復習する。 集団行動と体操の仕方を復習する。								
第3回	体力テスト1	事前学習	各種測定項目の実施方法を把握する。 体力テストの実施方法を理解する。								
		事後学習	測定数値の記録および分析を行う。								
第4回	陸上運動系 走・跳の運動/体力テスト2	事前学習	走り方・跳び方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	速く走る方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第5回	陸上運動系 投の運動/体力テスト3	事前学習	投げ方について予習する。 各種測定項目の実施方法を把握する。								
		事後学習	投げる方法を復習する。 測定数値の記録および分析を行う。								
第6回	陸上運動系/体力テストのまとめと発表 陸上競技の能力向上についてグループで発表	事前学習	走る, 跳ぶ, 投げる方法について振り返る。 記録向上のための方法を検討する。								

	する 体力テストの結果と考察をグループで発表する		グループ発表の準備を行う。
		事後学習	陸上競技についてのレポートを作成する。
第 7 回	器械運動系 マット運動 跳び箱運動 鉄棒	事前学習	器械運動の種類について予習する。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。 グループ発表の準備を行う。
第 8 回	器械運動系 器械運動の問題点抽出と解決 器械運動の技能向上についてグループで発表する	事前学習	器械運動の上達方法について考察したものを実践できるようにする。 グループ発表の準備を行う。
		事後学習	どうすればうまくできるようになるかを他者の意見等を踏まえて考察する。
第 9 回	ボール運動系 様々なボール遊び	事前学習	ボール遊びの種類について予習する。 幼稚園、小学校でどのようなボール遊びが行われているかを調べる。
		事後学習	様々なボール遊びの方法を復習する。
第 10 回	ボール運動系 ゴール型ゲーム「バスケットボール」	事前学習	バスケットボールのルールを予習する。
		事後学習	バスケットボールの指導について復習する。
第 11 回	ボール運動系 まとめ 発表 ボールゲームの運営の実践および発表	事前学習	ボールゲームの運営を予習する。
		事後学習	ボールゲームの指導について復習する。
第 12 回	表現運動系 創作表現の考案およびリズム体操の発表	事前学習	身体を使った表現の方法についてどのようなものがあるか調べる。
		事後学習	表現の指導について復習する。
第 13 回	指導案作成とその実践 1 指導計画の考案と指導案作成	事前学習	指導案のあり方や作成方法について学習する。
		事後学習	指導案の作成について復習する。
第 14 回	指導案作成とその実践 2 グループでの模擬授業とその評価	事前学習	指導計画および指導内容について学習する。
		事後学習	指導方法や計画の建て方など、参考となる部分を記録しておくとともに、各自の指導案に反映させる。
第 15 回	水泳運動系 保健領域 まとめ	事前学習	水泳の種類について予習する。 保健領域について調べる。 体育の指導法について改めて考える。
		事後学習	体育指導について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	EDEL2313
2. 授業担当教員	古俣 龍一		
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年次春期の「体育」と密接な関連性をもつ授業であることを理解すること。		
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。		
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 教科書『トラベジウム』に書かれている中で今日的な教育的課題を選び、自分の考えや意見をまとめる。(個人) 課題 2 グループに分かれて模擬授業を行う。また、その際にその授業指導案の細案を作成する。(グループ)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】・『小学校学習指導要領 (体育編)』文部科学省。 ・立木正他『小学校体育科授業研究』教育出版、2009 年。 【参考書】・必要に応じて適宜配布する		
11. 成績評価の方法	授業への積極性 60% 課題 1 10% 課題 2 30% 100%		
12. 受講生へのメッセージ	子どもたちは潜在的に五つの欲求を抱きながら体育の授業に臨むといわれます。そしてこの五つの欲求を上手に満たしてあげる教師こそが体育指導者のスペシャリストといえるのです。さて、この五つの欲求とは何でしょう。小学校の教員を目指すみなさんに、「魅力ある体育」のたくさんのヒントを提供します。 ジャージ、運動着などは体育教師のいわば「制服」です。実技や演習では運動するためのふさわしい常識的な服装 (体育着) で参加してください。また、体育館では体育館シューズが必要です。ジーパンは禁止です。		
13. オフィスアワー	・別途通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義と今後の流れ) * 本講座で行う模擬授業の位置づけとグループ分けを行い、意識を高めさせる。	事前学習	本講義内容をシラバスにてあらかじめ把握し臨む。
		事後学習	各グループで提案授業の内容の計画を立てる。
第 2 回	講義 日本における体育科教育の変遷と今日における体育科の特性および目標 * これまで歩んできた体育科教育の流れを把握するとともに今日的課題を知る。	事前学習	これまでの学習指導要領のだいたいの流れを調べる。
		事後学習	新学習指導要領における体育の位置づけを理解する。
第 3 回	講義 体育科の領域構成 単元計画の立て方 * 各自治体における最新の体育科指導案を提示し、指導案からイメージされる授業についてディスカッションすることができる。	事前学習	過去の体育科学習指導案を見て書き方のポイントを理解しておく。
		事後学習	実際の指導案の書き方を確認する。次時の模擬授業の説明をする。
第 4 回	グループワーク② 「体育科学習指導案作成」 * 各グループにわかれて役割分担をし、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第 5 回	グループワーク② 「体育科学習指導案作成」 * 引き続き、各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案の細案作りをする。	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分やお互いのディスカッションを参考にして次時の授業に生かせるようにする。
第 6 回	模擬授業 1 (グループワーク 授業分析 授業振り返り) * 模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分

	ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか 等 *相互評価も実施		やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 7 回	模擬授業 2（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 8 回	模擬授業 3（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 9 回	模擬授業 4（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 10 回	模擬授業 5（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 11 回	模擬授業 6（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 12 回	模擬授業 7（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 13 回	模擬授業 8（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 14 回	模擬授業 9（グループワーク 授業分析 授業振り返り） *模擬授業評価の観点 ア、授業が概ね指導案どおりに進んでいるか イ、ティ ームティーチングの配置は適切か ウ、発問が適切か エ、対象者（他の学生）は担当グループに協力的か オ、振り返り時に活発な意見交換ができてきているか カ、前時の反省が生かされているか 等 *相互評価も実施	事前学習	提案グループの指導案に目を通し、授業 の流れを把握する。
		事後学習	模擬授業を振り返り、指摘を受けた部分 やお互いのディスカッションを参考にし て次時の授業に生かせるようにする。
第 15 回	まとめと評価 *体育の指導に際して対象児童における適切な指導の細 案を個々で作成することができ、学校現場における指導 案作りの重要性が理解でき、学校現場で十分に応用でき る能力を身につけることができた。	事前学習	これまでの一連の模擬授業を思い出し、 新しい指導案を考える。
		事後学習	体育科学習指導案の書き方の基本を押さ え、実際の現場で生かせることできるよ う確認する。

1. 科目名 (単位数)	体育科指導法 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2390 SJMP2290
2. 授業担当教員	斉藤 雅記			
4. 授業形態	1 理論 導入：講義から課題の把握→展開Ⅰ：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→発表→講義のまとめ 2 演習 (指導案の作成と模擬授業による確かめ) 導入：指導法を形にする方法の講義→展開Ⅱ：特性に応じた指導案の作成→グループ内での検討→模擬授業→考察→指導案のまとめ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 体育科には教科書がないため、指導方法は、教師の裁量によって行われる。そこで、本講義の学習によってどの児童にも体育科の運動の楽しさや喜びを体得させる指導法を身に付ける。具体的には、体育科の学習指導のポイントを運動特性に基づいて理解を図る。 (2) 一般的な特性と児童から見た特性の融合を図ることが、よい授業に結び付くことを映像を通して理解する。 (3) 演習として、実際の授業を通して、授業分析の方法を理解するとともに、学習評価を行い、指導と評価の一体化を図ることの重要性を学び、説明することができる。			
8. 学習目標	以下の目標とその内容は、模擬授業を通して実践的に理解することを目的とする。なお、本講義によって身につけた指導法は教育実習にて試行するなどして児童の実態に即した指導方法として改善し、教師となった際の力とする。 (1) 小学校体育科の目標とその内容を理解するとともに、指導の進め方とその際の技能的なポイント、態度や思考・判断の留意事項などは、学習指導案を教師の指導言葉によって具体的に記述するなどして、身につけることができるようになる。 (2) 学習評価の在り方を評価規準まで掘り下げて理解することを通して、指導と評価の一体化の理解を図ることができるようになる。 (3) 模擬授業を体験することにより、授業の実際を体験し、よい授業の条件を理解できるようになる。 (4) 現場の教師との対話から児童の反応と運動の技能等を身に付けさせる言葉掛けの実際を把握できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 模擬授業の実施と実施する際の指導案の作成 課題 2 模擬授業実施後に反省をふまえて修正した指導案の作成			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『小学校学習指導要領解説 (体育編)』文部科学省。 【参考書】 必要に応じて適宜資料を配布する			
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。			
12. 受講生へのメッセージ	魅力ある体育授業を行うことは、体育授業を実施する教師の責務といえます。魅力的な体育授業を行うためには、綿密な計画のもとで作成された指導案のもと、授業を行う必要があります。この授業ではその指導案の作り方と、指導案を用いた模擬授業を中心に展開し、教師力量をつけていきます。 適切な運動着、ジャージなどは体育教師の制服といえます。実技や演習では、運動するためのふさわしい常識的な服装で参加してください。ジーンズやスウェット等は禁止です。また室内では体育館シューズが必要です。			
13. オフィスアワー	授業内で周知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義と授業の展開について) ○本講義の意義と授業の展開についての説明とグループわけの実施	事前学習	本講義内容をシラバスにて把握したうえで授業に臨む。	
		事後学習	各グループで模擬授業の計画を立てる。	
第 2 回	講義：小学校学習指導要領に示される体育の目標と内容 ○小学校体育で目指す目標と各領域の内容を把握する	事前学習	学習指導要領に目を通し内容を把握したうえで授業に臨む。	
		事後学習	学習指導要領における体育の目標と各領域について復習しポイントを理解する。	
第 3 回	講義：指導案の作成方法 ○体育授業を適切に行うための指導案の作成方法と指導上の留意点を知る	事前学習	指導案について調べ、まとめてくる。	
		事後学習	指導案について学んだことを踏まえて、自分なりの指導案を作成してみる。	
第 4 回	グループワーク①「体育科指導案作成」 ○各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案を作成する。	事前学習	どのような体育授業をしてみたいかイメージし、授業の流れを考えておく。	
		事後学習	授業内で指摘を受けた部分やお互いの議論を参考に指導案を修正する。	
第 5 回	グループワーク②「体育科指導案作成」 ○各グループにわかれて、模擬授業に向けて指導案を作成する。 ○次時から行う模擬授業の行い方の諸連絡の実施。	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。	
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。	
第 6 回	模擬授業① (グループワーク・授業体験・授業分析) ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。	
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議	

	②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等		論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 7 回	模擬授業②（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 8 回	模擬授業③（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 9 回	模擬授業④（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 10 回	模擬授業⑤（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。
第 11 回	模擬授業⑥（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 12 回	模擬授業⑦（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	前回の授業の議論を踏まえて、指導案を修正しておく。
		事後学習	模擬授業を行うことができるよう指導案を修正する。
第 13 回	模擬授業⑧（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 14 回	模擬授業⑨（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。
第 15 回	模擬授業⑩（グループワーク・授業体験・授業分析） ○模擬授業を受ける際の評価の観点 ①作成した指導案の流れ通りに進んでいるか ②グループの活動は適切か ③授業の体験の姿勢は適切か ④授業分析時に積極的に参加しているか 等 ○まとめと評価	事前学習	実施予定の指導案に目を通し、授業の流れを把握しておく。
		事後学習	模擬授業を受けて指摘を受けた部分や議論を行った部分に関して検討し、指導案を修正する。 これまでの一連の指導案と模擬授業を振り返り、実際の現場で適切な授業を行うために必要な技術を確認する。

1. 科目名 (単位数)	地域看護学 (2 単位)		3. 科目番号	EDHE3315
2. 授業担当教員	小此木 久美子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、インタビュー調査、発表、グループ学習等	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を学ぶ。また、地域看護の方法の中で特に健康教育を取り上げ、活用される理論と方法の基礎を理解する。地域看護とは、生活の場としての地域社会と住民の健康を保持増進するための看護活動であり、「地域保健 (CommunityHealth)」「公衆衛生看護学 (PublicHealthNursing)」と同意語である。</p> <p>家族が生活を営む地域 (Community) の保健医療・福祉行政施策 (サービス) と保健看護諸活動の実際を体系的に学ぶ。この包括的看護活動は、地域住民のよりよい健康安全とそれを支える地域社会・環境を総合する働きかけにより実践されるものである。母子保健、成人保健、老人保健、環境保健、精神保健、地域保健行政施策、地域診断 (地域の健康評価) 等、広域的な内容が含まれる。地域医療機関で行われる「臨床看護実習」、地域福祉施設で行われる「ソーシャルワーク実習」「保育実習」等を介して、包括的看護活動を行う実践力を身につけ、養護教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などとして地域看護活動を基盤にそれぞれの専門性を発揮する能力を養う。</p>			
8. 学習目標	<p>以下について学習、理解し、説明できるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の理念・目的、対象、方法の概要を理解する。 2 地域における健康教育について理解する。 3 学校保健と地域保健の連携について理解する。 4 子どもの権利条約を通して子どもの権利をより深く理解する。 5 一人親家庭の生活実態や子どもを巡る諸問題について理解する。 6 地域ネットワークについて面接調査を計画し実践する方法を学ぶ。 7 ニーズを実現するための社会資源の活用や他職種との協働等支援の方法を理解する。 8 以上を通して、児童生徒がどのような環境で生育するのかを理解し、多様化した現代の社会にあって養護教諭に求められる役割と機能を十分に理解する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>A4/1000字程度 提出期限は次週の授業時提出</p> <p>課題1 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる</p> <p>課題2 学校における保健教育と地域における健康教育を対比しながら指導案を作成する</p> <p>課題3 地域保健法・学校保健法・母子保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する</p> <p>課題4 養護教諭をめざすために、社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する</p> <p>課題5 子供の権利条約を精読し日本に与えた影響について考察する</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・鈴木路子編著『公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社,2014 2・鈴木路子・眞野喜洋編著『教育健康学-教育と医療の接点を求めて-』ぎょうせい・平成 10 3・岩波ジュニア新書『子どもの権利条約』岩波書店、2013 年 3 月 <p>【参考書】</p> <p>東京福祉大学編 『教職科目要説』(中等教育編) ミネルヴァ書房</p> <p>鈴木庄助・久道 茂編著『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂、2012 年</p> <p>井伊久美子・平野かよ子他 『新版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2014</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業態度・振りかえりや気づき等の記録 30% 2 レポートおよび課題発表 40% 3 期末試験 30% 	計 100%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>地域看護学は、住民の健康把握・ニーズ調査、各種統計資料の収集・分析・解読を含めた攻守上雨声の一部である。この領域は精神保健学・学校保健学・環境保健論・養護教育学及び社会福祉等多くの関連領域との連携が必須である。これらを相互に学びながら。新たな視点を発見し、児童生徒の健康を把握し、問題に対応し管理実践・教育実践活動がいかに重要であるかを学び、その実践力を身につける。</p> <p>子どもを取り巻く環境は複雑多様化している。このような環境が子どもの健全な成長と発達にどのような影響を与えているか子どもの置かれている実態から理解を深めてほしい。</p>			
13. オフィスアワー	授業前後の時間帯			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	地域看護とは何かー公衆衛生における地域看護 (地域保健) 活動の役割と意義ー 課題 1 : 地域看護活動の目的・対象・方法及び必要とされる能力についてまとめる	事前学習	教科書 I 序章を読み、地域看護学 (公衆衛生看護学) の全体像を把握する	
		事後学習	学校看護と地域看護の役割、連携を認識し、具体的な目的・対象・方法を自らの言葉で表現する	
第 2 回	地域社会と地域看護の考え方ー人の暮らしと健康 課題 2 : 地域社会と地域看護について考え、地域住民の健康の把握方法についてまとめる	事前学習	教育実習先の地域社会を想定する	
		事後学習	地域保健法を基盤に行われる地域住民の健康把握の方法を整理する	
第 3 回	地域における健康教育 課題 3 : 学校における健康教育と地域における健康教育を対比しながら指導案を作成する	事前学習	教科書 II 第 3 部学校健康教育と地域における健康教育を読み、想定する	
		事後学習	具体的に指導案を作成し実践する	

第 4 回	学校保健と地域保健の連携（１）感染症対策、健康危機管理対策	事前学習	地域の保健センター・保健所等を訪問し、資料を収集する
		事後学習	各種情報を入手分析、まとめ、討論を行った結果をまとめる
第 5 回	学校保健と地域保健の連携（２）性教育、母子保健対策 課題 4：地域保健法・母子保健法・学校保健法等関連する法律を精読し重要な条文を整理する	事前学習	保健師と養護教諭の連携について支援事例を調べておく
		事後学習	思春期保健対策として課題解決策を考える
第 6 回	学校保健と子ども家庭福祉の連携 第 1 章 子ども家庭支援と社会福祉 第 2 章 子ども家庭を取り巻く社会状況 課題 5：養護教諭をめざす人が社会福祉を学ぶ意義と目的について考察する	事前学習	教科書第 1・2 章を読み、学校保健の基盤として、子ども家庭福祉の重要性を認識する
		事後学習	支援者として子どもに対峙するときの基本的姿勢について考察する
第 7 回	第 3 章 社会福祉の理念と権利保障 1. 子どもの権利保障の歩み 2. 子どもの権利の特徴 3. 子どもの権利に関する条約 課題 6：子どもの権利条約を精読し、日本に与えた影響について考察する	事前学習	子どもの権利条約を読み、子どもの権利と生命・生活・生存の重要性を認識する
		事後学習	子どもの権利条約について、その時代的背景、条約制定の意義と目的、内容についてまとめる
第 8 回	4. 子どもを養育する権利と義務 課題 7：親権とは何か、親権を巡る問題について、法律の改正も含めて動向を整理しまとめる	事前学習	教科書第 3 章を読み、子どもを養育する親の権利と義務について理解を深める
		事後学習	「ハーグ条約」とは何か、日本が加盟することの意義と問題点についてまとめる
第 9 回	第 4 章 子ども家庭福祉にかかわる法体系 児童福祉法・児童福祉を直接支える法律・関連する法律	事前学習	教科書第 4 章を読み、子ども家庭福祉の法体系の全体像を把握する
		事後学習	児童虐待対策とその課題についてまとめる
第 10 回	第 8 章 子ども家庭福祉と地域ネットワーク 1. 虐待防止ネットワークの広がり 2. 要保護児童対策地域協議会、設置の効果・課題 等 3. 出身市町村の現況調査の方法と計画を立てる	事前学習	教科書第 8 章を読み、地域ネットワークとその必要性を理解する
		事後学習	出身地市区町村の要保護児童対策地域協議会の現状と課題を情報収集する
第 11 回	第 5 章 子ども家庭福祉にかかわる専門職 1. 専門職との協働 2. 教育機関の福祉専門職 3. 児童福祉領域の福祉専門職 等	事前学習	教科書第 5 章を読み、子ども家庭福祉にかかわる専門職とその機能を理解する
		事後学習	養護教諭が連携を深めておく必要のある専門職と連携する際の留意点についてまとめる
第 12 回	第 6 章 児童の社会的養護サービス 1. 社会的養護とは何か 2. 社会的養護にかかわる機関、施設 等	事前学習	教科書第 6 章を読み、社会的養護とその今日的課題を理解する
		事後学習	里親制度の意義と現状、問題点についてまとめる
第 13 回	第 7 章 ひとり親家庭への支援 1. ひとり親家庭の概念 2. ひとり親家庭の状況 3. ひとり親家庭に対する社会的支援施策	事前学習	教科書第 7 章を読み、ひとり親家庭の現状について理解を深める
		事後学習	父母の離婚が子どもの心身に与える影響について、近年の動向も踏まえて考察する
第 14 回	要保護児童対策地域協議会についての現況調査の結果発表 1. 現況調査の結果をグループで話し合い整理する 2. グループ発表する	事前学習	地域ネットワークの現状と課題について各自実施した現況調査の結果をレポートにまとめる
		事後学習	地域協議会への養護教諭の関わり方を考察する
第 15 回	第 9 章 子ども家庭支援の実際 事例 1：虐待事例への支援 事例 2：不登校事例への支援	事前学習	教科書第 9 章を読み、子ども家庭支援の具体的実践事例を知る
		事後学習	事例 2 について、支援の長期目標と短期目標を立案する

期末試験

1. 科目名 (単位数)	地域福祉論 (4 単位)	3. 科目番号	SSMP2104 SNMP2304 PSMP2404
2. 授業担当教員	上野 義光		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	地域福祉の基本的な考え方、主体と対象、係る組織、団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法を学ぶとともに、地域援助技術としてのコミュニティワーク、コミュニティソーシャルネットワークの実践方法を身につける。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について説明できる。 ・地域福祉の主体と対象について理解し説明できる。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について把握することができる。 ・地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法について把握し、その実際について説明できる。 ・地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解し説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	市町村の地域福祉計画や社会福祉協議会が実施している地域福祉活動及びNPO法人、民間の機関等の地域福祉活動について、現地に行って調査し、レポートにまとめること（例えば、市町村地域福祉計画、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業、NPOの子育て支援など、どれか1つ）。 2000字程度にまとめて提出する。提出期限については追って知らせる。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 『新・社会福祉士養成講座 9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度とレポート等を総合して行う。 1. レポート 総合点の 30% 2. 期末試験 総合点の 30% 3. 授業出席 総合点の 30% 4. 日常の学習状況 総合点の 10%		
12. 受講生への メッセージ	1、自分なりの将来設計をもって、積極的な態度で授業に出席する。 2、授業のための予習を必ずしておくこと。 3、携帯電話は電源を切り、机の上に置かないこと。		
13. オフィスアワー	休憩時間に相談に応じる（4号館2階非常勤講師室）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(シラバス、地域福祉の概要。レポートについての説明等)、地域福祉の事例紹介	事前学習	地域福祉とは何かを考えて授業に臨む。
		事後学習	地域福祉の概要や事例から何を学んだか、その内容をまとめる。
第2回	新しい社会福祉システム 地域福祉の発展過程、行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	事前学習	教科書第1章(pp.2~13)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	わが国の地域福祉が欧米からどのような影響を受けたか、その内容をまとめる。
第3回	新しい社会福祉システム 新しい生活課題に対応する地域福祉、新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉、福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体の形成	事前学習	教科書第1章(pp.14~33)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉の新しい位置づけと福祉コミュニティの考え方について、その内容をまとめる。
第4回	地域福祉の基本的な考え方 地域福祉理論の発展と広がり、地域自立生活支援と地域福祉の理論	事前学習	教科書第2章(pp.36~46)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉理論の発展過程と地域自立生活支援のあり方について、その内容をまとめる。
第5回	地域福祉の基本的な考え方 地域のとらえ方と福祉圏域、地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携	事前学習	教科書第2章(pp.47~56)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉における地域をどのように捉えるか、その内容をまとめる。
第6回	地域福祉の主体と福祉教育 地域福祉の推進と福祉教育、地域福祉の推進と福祉教育の歩み	事前学習	教科書第3章(pp.58~67)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉における主体形成について、どのように捉えるか、その内容をまとめる。
第7回	地域福祉の主体と福祉教育 福祉教育の概念と内容	事前学習	教科書第3章(pp.68~76)を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域住民に対し、福祉教育を通して、どのような力を育むことが期待されるのか、その内容をまとめる。

第 8 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉における地方分権と地域福祉計画、社会福祉協議会の役割と実際	事前学習	教科書第 4 章 (pp.78~100) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地方分権化における地域福祉計画の策定について、その内容をまとめる。
第 9 回	行政組織と民間組織の役割と実際 社会福祉法人の役割と意義、特定非営利法人の役割とボランティア活動	事前学習	教科書第 4 章 (pp.101~115) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	社会福祉法人及び特定非営利法人の役割について整理し、その内容をまとめる。
第 10 回	行政組織と民間組織の役割と実際 民生委員・児童委員、保護司、福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献	事前学習	教科書第 4 章 (pp.116~132) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における民生委員・児童委員、保護司の役割について整理し、その内容をまとめる。
第 11 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 コミュニティソーシャルワークの考え方、コミュニティソーシャルワークの展開とシステム、	事前学習	教科書第 5 章 (pp.134~147) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	コミュニティソーシャルワークの考え方及び今後のコミュニティソーシャルワークの展開について、その内容をまとめる。
第 12 回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 コミュニティソーシャルワークの方法、専門多職種とのチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク、専門職と住民の関係	事前学習	教科書第 5 章 (pp.148~172) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス及び専門多職種とのチームアプローチについて、その内容をまとめる。
第 13 回	住民参加と方法 地域福祉推進における住民参加の意義、市町村社会福祉行政における住民参加	事前学習	教科書第 6 章 (pp.174~184) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉推進における住民参加の意義について、その内容をまとめる。
第 14 回	住民参加と方法 住民代表性と参加方法	事前学習	教科書第 6 章 (pp.185~194) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉を展開する際に求められる住民参加の方法について、その内容をまとめる。
第 15 回	ソーシャルサポートネットワーク ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置、ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ	事前学習	教科書第 7 章 (pp.196~206) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルサポートネットワークの考え方及びエコロジカルアプローチについて、その内容をまとめる。
第 16 回	ソーシャルサポートネットワーク 事例から読みとくソーシャルサポート	事前学習	教科書第 7 章 (pp.207~212) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	ソーシャルサポートとコミュニティソーシャルワークについて、その内容をまとめる。
第 17 回	地域における社会資源活用・調整・開発 社会資源の活用と開発	事前学習	教科書第 8 章 (pp.214~221) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における社会資源活用・調整・開発について整理し、その内容をまとめる。
第 18 回	地域における社会資源活用・調整・開発 ニーズ対応型福祉サービスの開発、税制優遇と助成金の活用	事前学習	教科書第 8 章 (pp.222~232) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの開発について整理し、その内容をまとめる。
第 19 回	地域における社会資源活用・調整・開発 福祉でまちづくりとソーシャルアクション	事前学習	教科書第 8 章 (pp.233~238) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	「福祉でまちづくりとソーシャルアクション」について、グループで検討したことをまとめる。
第 20 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 地域福祉におけるアウトリーチの意義、	事前学習	教科書第 9 章 (pp.240~243) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域福祉におけるアウトリーチの意義について、その内容をまとめる。
第 21 回	地域における福祉ニーズの把握方法と実際 地域における福祉ニーズの把握方法と実際	事前学習	教科書第 9 章 (pp.244~252) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域における福祉ニーズの把握方法について、その内容をまとめる。
第 22 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの必要性と考え方、地域トータルケアシステムの展開方法	事前学習	教科書第 10 章 (pp. 254~269) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	地域トータルケアシステムの考え方及び地域トータルケアシステムの展開方法について、その内容をまとめる。
第 23 回	地域トータルケアシステムの構築と実際 地域トータルケアシステムの事例、ソーシャルケア従事者の研修と組織化	事前学習	教科書第 10 章 (pp.270~279) を熟読し、その要点をまとめる。
		事後学習	「地域トータルケアシステムの事例」について、グループで検討されたことをまとめる。

第 2 4 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の 考え方	事前学習	教科書第 11 章 (pp.282~288) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの評価の考え方につい て、その内容をまとめる。
第 2 5 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスの評価の方法と実際	事前学習	教科書第 11 章 (pp.289~293) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスの評価方法について、そ の内容をまとめる。
第 2 6 回	地域における福祉サービスの評価方法と実際 福祉サービスのプログラム評価とその展開	事前学習	教科書第 11 章 (pp.294~298) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	地域における福祉サービスのプログラム評価につい て、その内容をまとめる。
第 2 7 回	災害支援と地域福祉 災害支援の考え方と方法、災害支援の実際	事前学習	教科書第 12 章 (pp.300~312) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	災害支援と地域福祉について、その内容をまとめる。
第 2 8 回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 イギリス、アメリカ	事前学習	教科書第 13 章 (pp.314~328) を熟読し、その要点 をまとめる。
		事後学習	イギリスとアメリカが日本の地域福祉に影響を与え た考え方や実践について整理し、その内容をまとめる。
第 2 9 回	地域を基盤とした相談援助事例の検討	事前学習	地域で行われている援助事例を調査する。
		事後学習	グループで検討した援助事例をまとめる。
第 3 0 回	これからの地域福祉の方向性について(グループ に分かれて討論)	事前学習	これからの地域福祉の方向性について事前に自分の 考えをまとめてくる。
		事後学習	グループで検討した地域福祉の方向性について、そ の内容をまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3449 SNMP3449
2. 授業担当教員	立松 英子			SCMP3449 SBMP3449 SSMP3349
4. 授業形態	「知的障害教育Ⅰ」をふまえた講義、演習、模擬授業		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	本科目では、知的障害教育Ⅰで学んだ知識をふまえ、医療・福祉など近接分野の最新の動向に関心を広げながら、知的障害のある子どもの生涯を見通した支援、保護者との安定した関係の構築、外部専門家との有機的な連携を実践するための力量を身につける。また、模擬授業を通して、実態評価の基礎、各種教育計画の作成手順、教材・教具の意義理解を進め、特別支援学校の教育実践に必要な基礎的スキルを培う。			
8. 学習目標	知的障害児やその保護者を取り巻く社会事象をふまえながら、個別的教育支援計画・個別の指導計画や学習指導案の作成及び授業実践ができるようになる。 ① 知的障害者を取り巻く様々な社会事情を知る。 ② 各種教育計画の書き方がわかり、書けるようになる。 ③ 実態把握・アセスメントについての基礎知識が身につく。 ④ 教材・教具の意義や工夫の観点がわかる。 ⑤ 「各教科等を合わせた指導」の法的根拠やねらい・内容がわかって授業に生かせるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題は次の2つから選んでください。 A: グループで「各教科等を合わせた指導」についての模擬授業を行う。 B: 教科書から関心のあるテーマを選び、自らの課題意識を交えて発表する。 *Aを選んだ人は指導案と教材(教材説明書)を、Bを選んだ人はレポートを提出してください。 レポートの内容: ①このテーマを選んだ動機 ②このテーマを深める過程で印象に残ったこと ③このテーマに関して、学校教育に携わる者が心に留めておく必要があること ④参考文献			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 日本発達障害福祉連盟編『発達障害白書 2017 年版』明石書店。			
11. 成績評価の方法	模擬授業・レポート(発表態度、内容) 30%、授業での態度 20%、論文課題、期末試験 50%			
12. 受講生へのメッセージ	①教科書は、障害者の生活に直接関係のあるトピックを幅広く捉えています。普段から時々開いてみることをお勧めします。 ②知的障害教育の教師には、人を大切にする姿勢、相手を主役として活躍させる姿勢、不測の事態に柔軟に対応する知識と技能が必要です。集団活動を組織・計画し創造する能力が特に必要です。授業だけでなく人と関わるさまざまな体験を積み、人間性豊かな教師をめざしてください。 ③授業では、障害のある子どもたちを託せるかどうかという視点で皆さんを見ています。現場に出たときの自分をイメージしながら発表や演習を行って下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション/知的障害者を取り巻く世界	事前学習	教科書を読み、興味のある内容に印をつけておく。	
		事後学習	レポートや模擬授業で何を取り上げるか決めておく。	
第2回	知的障害者を教育する特別支援学校の現状	事前学習	自分の出身都道府県で掲げている教育目標を調べておく。	
		事後学習	自分の出身都道府県で掲げている特別支援教育の課題と授業との関係は何か調べておく。	
第3回	知的障害教育の教育課程と実態把握	事前学習	「教育課程」とは何か調べておく。	
		事後学習	「知的障害」「自閉症」の定義や診断基準を確認しておく。	
第4回	各種教育計画の作成と評価	事前学習	自分の出身都道府県で公表している「個別の指導計画」の書式を調べておく。	
		事後学習	事例を仮定し、上記に記入してみる。	
第5回	日常生活の指導の実際と指導計画	事前学習	「日常生活の指導」とは何か調べておく。	
		事後学習	「日常生活の指導」の授業を見て気づいたことをまとめておく。	
第6回	作業学習の実際と指導計画	事前学習	「作業学習」とは何か調べておく。	
		事後学習	「作業学習」の授業を見て気づいたことをまとめておく。	
第7回	生活単元学習の実際と指導計画	事前学習	「生活単元学習」とは何か調べておく。	
		事後学習	「生活単元学習」の授業を見て気づいたことをまとめておく。	
第8回	行動障害への対応	事前学習	「自閉症スペクトラム」の診断及び特性について調べておく。	
		事後学習	授業で説明された具体的な対応についてその理由を説明できるようにしておく。	
第9回	事例検討(論文課題)	事前学習	「自閉症スペクトラム」の特性と対応について振り返っておく。	
		事後学習	事例への対応についてその理由を説明できるようにしておく。	
第10回	自立活動の位置づけと内容	事前学習	「自立活動」の6区分26項目とは何か調べておく。	
		事後学習	「自立活動」で新しく加わった内容とは何か説明できるようにしておく。	
第11回	交流及び共同学習	事前学習	「交流及び共同学習」「副籍制度」「支援籍制度」とは何か調べておく。	
		事後学習	「交流及び共同学習」について、小中学校の学習指導要領に書いてある内容をまとめておく。	
第12回	キャリア教育と就労支援	事前学習	「キャリア教育」とは何か調べておく。	
		事後学習	「キャリア教育」について、小中学校の学習指導要領に書いてある内容をまとめておく。	
第13回	学校組織における危機管理	事前学習	学校で起こる「危機」とは何か調べておく。	
		事後学習	通常の危機管理と有事の危機管理について整理しておく。	
第14回	就学相談の実際と保護者への対応	事前学習	「就学相談」とは何か調べておく。	
		事後学習	上記のしくみについて説明できるようにしておく。	
第15回	知的障害のある子どもへの教育課題	事前学習	第1回～14回までの学習内容を整理しておく。	
		事後学習	授業で問われた質問に対する答えを自分なりにまとめておく。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	知的障害教育総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3455 SNMP3455 SCMP3455 SBMP3455
2. 授業担当教員	八重樫 幸雄			
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	世界や日本における知的障害教育の歴史、教育的な位置づけ、現代の新しい流れについて総合的な学習から基本的知識についてまで幅広く学ぶ。特に今後はインクルーシブ教育が重視されていく中で、これからの知的障害教育には何が最も重要になっていくのか、議論を深めていく。また、知的障害の根本的な症状や「困り感」に関する障害理解と、学校教育や教師の役割に関して多様な知識を学んでいく。そのために、機会に応じて生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、教科別の指導、自立活動などについて実際の授業映像を見ながら理解を深めていく。さらに、その他の動画、画像、スライドや独自の資料を多用し、わかりやすい説明を心掛けていきたい。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的障害教育の歴史を理解し、説明することができる。 2. 知的障害教育に関する基本的な知識を知り、解説することができる。 3. 現代の知的障害教育を取り巻く諸課題を理解し、自分の考えを織り交ぜながらその解決策について述べるることができる。 4. 知的障害の種々の指導法について理解し、どのような指導が必要かを具体的に述べるることができる。 5. 教育だけではなく福祉や雇用など、知的障害児者を取り巻く社会的環境について知り、教育との関連性を説明することができる。 6. 個別の指導計画と個別の教育支援計画を理解し、ニーズに応じた授業作りについて説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アサイメント 事前学習、事後学習で取り組んだ内容を毎回のワークシートに記述する。 ・レポート課題 知的障害教育総論の講義や外部講師の講話を通して、自らの課題 (テーマ) を設定し、課題解決へ向けたレポートを作成する。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 太田俊己・藤原義博編著『新訂 知的障害教育総論』放送大学教育振興会、2015 年。</p> <p>【参考書】 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第 3 版) ミネルヴァ書房、2013 年。 *必要に応じてプリント資料を配付する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>成績は、授業態度・レポート等を総合して決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度 (教科書ワークシートの準備・確認テスト・私語・発表) 総合点の 80% 2. レポート 総合点の 20% 			
12. 受講生へのメッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、進んで自分の考えを発表すること。 4. ワークシートや配布資料等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 <p>欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。</p>			
13. オフィスアワー	第 1 回の時に知らせる。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 知的障害の定義と教育現状・特色、課題	事前学習	シラバスに目を通し、自分の関心のあるテーマを一つ選び、知的障害について知っている情報をまとめて、ワークシートに記述できるように準備しておく。	
		事後学習	定義、教育の課題等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)	
第 2 回	知的障害のある子どもの理解と支援 (知的障害を伴う自閉症に対する支援も含めて)	事前学習	教科書の pp.22～33 を読んで、ポイントとなる箇所をチェックしてワークシートにまとめる。	
		事後学習	心理的な特徴や理解するための基本的な視点と支援等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)	
第 3 回	知的障害特別支援学校の教育課程の特徴と指導法	事前学習	教科書の pp.48～62 を読んで、ポイントとなる箇所をチェックしてワークシートにまとめる。	
		事後学習	教育課程の特色や授業形態の工夫等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)	
第 4 回	教科・領域を合わせた指導 (生活単元学習・作業学習)	事前学習	教科書の pp.63～80、pp.81～95 に目を通し、不明な箇所をチェックして、意義と特色についてワークシートにまとめる。	
		事後学習	生活単元学習と作業学習の意義と具体的な内容等を復習し、用語の説明ができるようにワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)	
第 5 回	教科・領域を合わせた指導 (日常生活指導・遊びの指導)	事前学習	教科書の pp.96～108 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。	
		事後学習	日常生活指導や遊びの指導の意義や具体的な内容等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)	

第 6 回	教科別の指導	事前学習	教科書の pp.109～119 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	知的障害各教科の特徴、具体的な指導上のポイント等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 7 回	自立活動の指導	事前学習	教科書の pp.120～134 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	自立活動の意義や具体的な内容等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次々回確認テスト)
第 8 回	外部講師による実際の知的障害教育の指導	事前学習	これまでの授業を振り返り、レポート課題として自分の追求したいことについて外部講師に確認したり質問したりすることをワークシートにまとめる。
		事後学習	外部講師の方に講演に関する感想をまとめると同時に自分がレポート課題としたいテーマについてワークシートにまとめる。
第 9 回	知的障害教育の歴史と普及に尽力した先人たち	事前学習	知的障害教育に尽力した先人を調べ、ワークシートにまとめる。
		事後学習	人物、歴史等に関することについて復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 10 回	知的障害特別支援学級の教育課程と指導法	事前学習	教科書の pp.135～146 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	「特別な教育課程」や教育課程編成の留意事項と実際の指導等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 11 回	日本と海外の知的障害教育	事前学習	教科書の pp.147～164 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	次回確認テストをするので、インクルーシブ教育の状況や教育課程の違い等について復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。
第 12 回	個別の指導計画と個別の教育支援計画	事前学習	教科書の pp.165～182 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	個別の指導計画と個別の教育支援計画の違いや実際等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 13 回	知的障害教育とキャリア教育	事前学習	教科書の pp.183～205 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	キャリア教育の意義や進路指導の現状等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 14 回	知的障害教育と個に応じた授業づくり	事前学習	教科書の pp.218～229 を読み、ポイントをチェックしてワークシートにまとめる。
		事後学習	次回確認テストをするので、わかって動ける授業づくりのポイントや多様・多重な評価等を復習し、ワークシートにまとめ確実に覚える。(次回確認テスト)
第 15 回	まとめ	事前学習	講義全体の流れを再確認し、ノートを見直し新たな気づき等について整理してくる。
		事後学習	講義全般を通じてのまとめや感想をレポートで提出する。

1. 科目名 (単位数)	中国の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1314
2. 授業担当教員	秋谷 幸治			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ学習等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	「中国の文化と言語Ⅰ」の学習を基礎に、中国の人びとの暮らし、伝統文化、風俗習慣を盛り込んだ教材を精読する。簡単な日常会話と文型を学び、生きた中国語会話の体験学習を必要に応じ適宜おこなう場合もある。例えば、ビデオを用いて、中国の大学生活や庶民の暮らしを紹介するなどはその一例である。これらを通して、日本に身を置くわたしたちの暮らしや考え方と比べてみる。			
8. 学習目標	1.中国語の入門から初級につながる会話を聞き取ることができ、話せることができるようになる。 2.中国語で書かれた、ある程度まとまった文章を理解できる。 3.中国語の表現から、中国語話者のものの見方、考え方、価値観を読み取ることができる。 4.3を通して中国の文化、社会、歴史的背景について理解を深めることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【宿題】 毎次、テキストの各課の例文を、5 回以上音読して授業にのぞんでください。 【レポート課題】 第15回で、中国語作文 (私の夢) を作成し、発表をしてもらいます。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 最新版 塚本慶一監修 劉穎著『1 年生のコミュニケーション中国語』白水社 2015。 ※中国の文化・風俗習慣については、プリントを配付して学習します。			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加度、小テスト、レポートの総合点によって評価します。 授業への積極的参加 総合点の 20% 小テスト (2 回行います) 総合点の 50% レポート課題 (中国語作文) 総合点の 30%			
12. 受講生への メッセージ	中国の文化や言語は、日本のそれと似ているようで、実は全く異なります。授業を通して、中国の文化や言語の魅力をじっくり味わいましょう。			
13. オフィスアワー	授業終了後、教員控え室に来て下さい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	中国語の基礎についての復習 中国語の特徴 (簡体字と繁体字)、発音表記の仕方 (ピンイン)、発音などについて復習します。	事前学習	シラバスをよく読んでおく。	
		事後学習	中国語音節表を 5 回以上音読する。	
第 2 回	何がありますか 動詞“有”、“什么”+名詞、助動詞の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.32~33 に載っている例文を 5 回以上音読する。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 3 回	何がありますか 会話練習 (グループ学習) 【中国の文化①】中国の歴史	事前学習	テキスト p.34 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 4 回	ホテルにチェックイン 完了を表す“了”、選択疑問文“～還是～”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.36~37 に載っている例文を 5 回以上音読する。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 5 回	ホテルにチェックイン 会話練習 (グループ学習) 【中国の文化②】中国の詩歌	事前学習	テキスト p.38 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 6 回	何時に行きますか 経験を表わす“過”、時を表わす語 (時間詞) の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.40~41 に載っている例文を 5 回以上音読する。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 7 回	何時に行きますか 会話練習 (グループ学習) 小テスト。	事前学習	テキスト p.42 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.32~43 を読み直す。	
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。	
第 8 回	中国映画を見よう。	事前学習	付属 CD を使ってリスニングの練習をしておく。	
		事後学習	聞き取れたスキットをまとめてみる。	
第 9 回	タクシーに乗る 前置詞“從”、“到”、時間の長さを表わす語、2 つの目的語をもつ動詞“給”の使い方について練習します。	事前学習	テキスト p.44~45 に載っている例文を 5 回以上音読する。	
		事後学習	新出単語 (生詞) を覚える。新出単語 (生詞) を使った例文を作ってみる。	
第 10 回	タクシーに乗る	事前学習	テキスト p.46 の「トレーニング」の書き換え問題	

	会話練習（グループ学習） 【中国の文化③】中国の書・画		を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 1 回	試着と支払い 助動詞“可以”、“能”、“会”、前置詞“在”、動詞の重ね用法について練習します。	事前学習	テキスト pp.48～49 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 2 回	試着と支払い 会話練習（グループ学習） 【中国の文化④】中国の演劇	事前学習	テキスト p.50 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 3 回	苦情を訴える 前置詞の“給”、“是”の省略、“去”、“来”+動詞の使い方について練習します。	事前学習	テキスト pp.52～53 に載っている例文を 5 回以上音読する。
		事後学習	新出単語（生詞）を覚える。新出単語（生詞）を使った例文を作ってみる。
第 1 4 回	苦情を訴える 会話練習（グループ学習）小テスト。	事前学習	テキスト p.54 の「トレーニング」の書き換え問題を完成させ、数回音読しておく。テキストの pp.44～53 を読み直す。
		事後学習	テストで答えられなかった箇所を見直す。
第 1 5 回	中国語作文発表会（グループ学習）	事前学習	中国語作文を完成させ、数回音読練習をしておく。
		事後学習	友達と中国語を使って会話をしてみよう。

1. 科目名 (単位数)	重複障害・LD 等教育総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3454 SNMP3454 SCMP3454 SBMP3454 SSMP3354
2. 授業担当教員	上田 征三			
4. 授業形態	講義だけでなく様々な形態のグループ討議など、アクティブラーニングに基づいた履修者同士の実践的な学び合いを重視する。※可能であれば当事者または保護者による講話の機会を設ける。また重複障害については補講期間に関連施設の見学会なども予定している。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	2012 年の調査で改めて発達障害傾向の児童生徒が全体の 6.5%存在する、と明らかになった。その存在が年々クローズアップされる発達障害児だが、普通教育においては理解がなかなか進まない。また特別支援学校にもこの傾向がある児童生徒が増えつつあり、学校の枠を超えて発達障害児への対応が重視されている。発達障害に関わる基礎知識から指導技術までを網羅し、学校現場で彼らをどう支援し、その特性を伸ばしていくか、について実際のケースに触れながら具体的に指導していく。また障害の重度化・多様化が進む中で様々な障害を併せ持つ児童生徒も急増している。併せて重複障害についても説明していきたい。またスライドや画像、動画、独自の資料を多用し、グループディスカッションも活用する。本講座では、重度・重複障害、LD 等発達障害の特性を学び、個に応じた発達支援が行える指導実践力を兼ね備えた教員をめざす。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害、重複障害について理解し、簡潔に述べることができる。 2. 学習障害 (LD) の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 3. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 4. 高機能自閉症、アスペルガー障害の特徴および支援のあり方を理解し、説明することができる。 5. 発達障害のある児童生徒へのコミュニケーション支援のあり方を学ぶ。 6. 発達障害のある児童生徒に対する教育の特質について理解し、説明することができる。 7. 特別支援学校現場における重度・重複障害児への対応について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に沿った小テストを13回実施 (到達度評価) する。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート (手書き) を課す。 3. 小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備する。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 柘植雅義・木舩憲幸編著『特別支援教育総論』(改訂新版) 放送大学教育振興会、2015。 【参考書】 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第3版) ミネルヴァ書房、2013。 石部元雄・柳本雄次共編『特別支援教育－理解と推進のために－』(改訂版) 福村出版、2011。			
11. 成績評価の方法	受講態度 (総合点の 30%) レポート・小テストなど (総合点の 30%) 期末試験 (総合点の 40%)			
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。 			
13. オフィスアワー	授業以外の時間 (予約をお願いすることもある) ※月曜日は都合がしやすい。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション&発達障害について —その定義、法制度、課題等—	事前学習	当日配布する資料をよく読み、発達障害の主な種類について知り、答えることができるようにノートにまとめる。	
		事後学習	発達障害の全般的な情報について授業中に配布した穴埋め問題をやり直し再確認しノートにまとめる。	
第2回	発達障害総論 —発達障害の基本的共通事項—	事前学習	前時に配布するスライド資料を読み ICF と発達障害の関係について知り、理解し、その要約をノートにまとめる。	
		事後学習	各種の発達障害に共通する情報について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第3回	発達障害の原因、診断、治療等について —脳科学と医療的理解から—	事前学習	脳科学的見地から見る発達障害について資料を事前に配布するので、発生要因などについて読んで理解し、その要約をノートにまとめる。	
		事後学習	脳科学について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第4回	LD の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	学習障害の六つの定義について資料を事前に配布するので、よく読んで理解し、その要約をノートにまとめ口頭で言えるようにしておく。	
		事後学習	LD について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第5回	ADHD の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	ADHD の診断基準について資料を事前に配布するので、その要約をノートにまとめ口頭で簡単に説明できるようにしておく。	
		事後学習	ADHD について授業中に実施した小テストをやり直ししながら再確認しノートにまとめる。	
第6回	高機能自閉症の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	高機能自閉症について一般的に言われる「自閉症」との差異について資料を事前に配布するので、よく読んで、その要約をノートにまとめ説明できるようにする。	

		事後学習	高機能自閉症について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
第 7 回	アスペルガー障害の特徴とその支援 —障害特性と指導方法について—	事前学習	アスペルガー障害と自閉症との差異について資料を事前に配布するので、読んで、その要約をノートにまとめ説明できるようにしておく。
		事後学習	アスペルガー障害と自閉症との差異について再確認しノートにまとめる。
第 8 回	発達障害がある子どものアセスメントについて—心理検査の種類と内容—	事前学習	アスペルガー障害について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認し、その要約をノートにまとめ確実に覚えておく。
		事後学習	「グレーゾーン」とは何かについて資料を事前に配布するので、読んでノートにまとめ説明できるようにしておく。
第 9 回	発達障害がある子供のコミュニケーションについて—人間関係づくり指導の基本—	事前学習	「グレーゾーン」と呼ばれるものについて授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認しノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み、どのようなコミュニケーション方法があるか、ノートにまとめる。
第 10 回	発達障害がある子どもの保護者対応 —保護者・家庭を支える—	事前学習	様々なコミュニケーション方法について授業中に実施した小テストをやり直し次時に提出する。
		事後学習	前時に配布する資料を読み発達障害がある子どもの特性に応じた指導の仕方、また、保護者の思いなどについて知り理解しノートにまとめる。
第 11 回	学校教育現場における諸課題 —理解が進まない普通学校の課題—	事前学習	保護者の悩みについて授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み発達障害がある子どもへの理解が進まない普通学校の現状について知り、課題がどこにあるのかについて自らの考えを持つことができるようにしノートにまとめる。
第 12 回	重度・重複障害児の理解 —その定義と実態について—	事前学習	発達障害児が小中学校等で理解されづらい点について授業中に実施した小テストをやり直しながら確実に理解し、その要約をノートにまとめる。
		事後学習	前時に重複・障害児に関する資料を配布するので、定義や実態について説明できるよう熟読しノートにまとめる。
第 13 回	重度・重複障害児の学校教育 —重度・重複障害児の教育課程—	事前学習	重度・重複障害児について授業中に実施した小テストをやり直しながら再確認し、その要約をノートにまとめ。
		事後学習	前時に重複・障害児の教育課程に関する資料を配布するので、その内容や目的について説明できるよう熟読しノートにまとめる。
第 14 回	重度・重複障害に関する施設の理解	事前学習	重度・重複障害児の教育をうける意義について授業中に実施した小テストをやり直しながら確実に理解し、その要約をノートにまとめ。
		事後学習	重度・重複障害に関する施設の資料を読みノートにまとめる。
第 15 回	最新の教育事情について —合理的配慮・ユニバーサル教育等—	事前学習	これまでの内容をノートにまとめる。
		事後学習	前時に配布するスライド資料を読み、現代の特別支援教育事情について理解するとともに、これからの発達障害児教育に何が必要かをノートに整理し語れるようにする。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	データベース演習Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3314
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	科目「データベース演習Ⅰ」を履修済みでないと、本科目の内容を理解することは非常に難しいと思われる。また、科目「コンピュータサイエンスⅡ」を履修済みであることが望ましい。			
7. 講義概要	本科目では、演習を通して「データベース演習Ⅰ」で習った、リレーションのキー、データモデルなどの概念に関する理解を深める。また、データベース管理システムソフトの進んだ機能に触れる。ソフトの使用にウェイトが置かれた授業である。			
8. 学習目標	ユーザのニーズの分析から最終的にできあがったデータベースの管理まで、データベースの構築の各ステップを更によく理解する。また、リレーショナルデータベースの言語である、SQL言語の知識をさらに深める。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	IT系の科目では、スキルを身につけるのは一番大切なことですので、3回に1回程度、今まで勉強した内容について教科書や配布プリントをもって演習問題を提示し、それを授業中に解く (例: 既存DBの正規化、設計ソフトを使ってDBを設計し実装のSQLクエリを生成、ExcelのデータからDBを組む、SQLクエリを実行(復習)、DBの外部設計を行う (Access VBAを使う))			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 山本森樹『体系的に学ぶデータベースの仕組み』日系 BP ソフトプレス。			
11. 成績評価の方法	1. 授業態度 40% (授業での発表の評価を含める) 2. 通常演習 50% 3. 総合演習 (15 回目) 10%			
12. 受講生へのメッセージ	習問題に真剣に取り組んでください。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	データベースの基礎概念の復習・市販のデータベース管理システム	事前学習	教科書 pp.23~28 を読んでおく	
		事後学習	配布プリントを熟読	
第 2 回	リレーションのカーディナリティとパーティション	事前学習	教科書 pp.43~46 を読む	
		事後学習	教科書 p.49 の上部の図を理解する	
第 3 回	リレーショナルデータ正規化について (1)	事前学習	教科書 pp.69~71 を読む	
		事後学習	第 1~第 3 正規型をよく理解する	
第 4 回	リレーショナルデータ正規化について (2)・演習	事前学習	教科書 p.75 関数従属性の閉包をよく理解する	
		事後学習	今回提示した演習問題を再度解く	
第 5 回	データベースの設計・演習	事前学習	教科書 pp.57~58 を読む (IDEFIX)	
		事後学習	ソフト DBDesigner4 を使う	
第 6 回	既存データからデータベース構築の例 (1)・演習	事前学習	Excel の基礎を復習する	
		事後学習	今回提示した演習問題を解くときに使った操作を覚える	
第 7 回	既存データからデータベース構築の例 (2)・演習	事前学習	Access の基礎を学習する	
		事後学習	今回提示した演習問題を解くときに使った操作を覚える	
第 8 回	SQL の復習 (1)・演習	事前学習	教科書 pp.121~127 を読む (SQL)	
		事後学習	Access で組んだ SQL クエリを復習する	
第 9 回	SQL の復習 (2)・演習	事前学習	教科書 pp.128~132 を読む (結合)	
		事後学習	Access で組んだ SQL クエリを復習する	
第 10 回	ユーザインターフェース (外部設計)・フォームとレポート	事前学習	Access のフォームを学習する	
		事後学習	今回提示した演習問題をもとにいくつかの新しいフォームを作成	
第 11 回	データベースプログラミング (1)・演習	事前学習	Access VBA の基礎を学習する	
		事後学習	今回提示した演習問題を復習	
第 12 回	データベースプログラミング (2)・演習	事前学習	前回プリントで配布した VBA プログラムを記入し保存しておく	
		事後学習	今回提示した演習問題を復習	
第 13 回	データベースプログラミング (3)・演習	事前学習	前回プリント配布した VBA プログラムを記入し保存しておく	
		事後学習	今回提示した演習問題を復習	
第 14 回	オブジェクト指向データベース・最新のデータベース・まとめ	事前学習	ソフト DBDesigner4 の使用方法復習	
		事後学習	今回提示した演習問題を復習	
第 15 回	総合演習	事前学習	前回提示した演習問題を復習	
		事後学習	「半構造データ」について調べて (定義は教科書 pp.288~289)、その概念を説明できるようにする	

1. 科目名 (単位数)	哲学 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1319
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>「哲学とは何か？」という問いは、現在でも、世界の一線級の哲学者たちの間でさえ合意をみていない。ここに哲学の特徴、難しさ、そしておもしろさが表れている。この世界がどうなっているかについての新しい知識を求める経験科学的な探求と異なり、哲学は、(例えて言えば) この世界を見ている自分たちの目そのものを探求するような自己言及的な側面を強くもっている。しかし言うまでもなく、自分で自分の目を覗き見ることはどうやってもできない。そこに哲学のむずかしさがあり、哲学に「答えはない」と言われる所以(ゆえん)がある。それでも、普段自分たちが当たり前のものとして考えたり疑ったりすることのなかった前提を、改めて見つめなおしてみることに意義を感じられる人にとっては、哲学を学ぶこと(あるいは「哲学する」こと)は、好奇心を刺激されるものとなるだろう。</p> <p>本講義では、哲学者たちが取り組んできたテーマについて、日常生活とのつながりを意識しながら学んでいく。しかし、もっとも大切なことは、哲学者たちの考えた内容そのものを覚えることではなく、その思考の軌跡を追体験することによって、受講者自身が各自の思考力を鍛えていくことである。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 自分が今このように存在し、このように物事を認識しているその(無意識の)根拠を改めて問いなおすことによって、人間として生きているとはどのようなことなのかをよりよく考えられるようになること。</p> <p>2. 科学的な探求とは異なる知のあり方があることを理解すること。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. ミニレポート・ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。)</p> <p>2. 期末レポート</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 山竹伸二『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる哲学』日本実業出版社、2011年</p> <p>【参考書】 田中正人『哲学用語図鑑』プレジデント社、2015年 貫成人『哲学マップ』ちくま新書、2004年</p>			
11. 成績評価の方法	<p>・平常点(授業態度・発表・発言) 20%</p> <p>・課題(事前課題・ワークシート) 30%</p> <p>・期末レポート 50%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>1. 授業中は私語を慎み、携帯電話・スマートフォンの電源を切って参加してください。</p> <p>2. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。</p> <p>3. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。</p> <p>4. レポートや課題の提出期限を守ってください。</p> <p>5. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。</p>			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	はじめに - 哲学を学ぶ意義について	事前学習	教科書の「目次」を見て、興味のあるテーマをチェックしておく。	
		事後学習	哲学を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。	
第2回	哲学とはなにか? (第1章) ① - 哲学の主要な問い -	事前学習	教科書(pp.12~27)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第3回	哲学とはなにか? (第1章) ② - 哲学の思考法 -	事前学習	教科書(pp.28~36)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第4回	世界とはなにか? (第2章) - 古代ギリシア哲学 -	事前学習	教科書(pp.38~58)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第5回	世界は認識できるのか? (第3章) ① - 近代哲学とイギリス経験論 -	事前学習	教科書(pp.60~78)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第6回	世界は認識できるのか? (第3章) ② - カントの理性批判とヘーゲルの精神現象学	事前学習	教科書(pp.79~100)を読み、分からない箇所をチェックしておく。	

	-	事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 7 回	真理はあるのか？ (第 4 章) ① - 現代の哲学者たち (フッサール、デリダ) -	事前学習	教科書 (pp.102～122) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	真理はあるのか？ (第 4 章) ② - 現代の哲学者たち (ウィトゲンシュタイン) -	事前学習	教科書 (pp.123～138) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	私とはなにか？ (第 5 章) ① - キルケゴール、ニーチェ -	事前学習	教科書 (pp.140～151) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	私とはなにか？ (第 5 章) ② - ハイデガー、メルロ＝ポンティ、サルトル -	事前学習	教科書 (pp.152～166) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	私とはなにか？ (第 5 章) ③ - フロイトの精神分析 -	事前学習	教科書 (pp.167～183) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	社会とはなにか？ (第 6 章) ① - 社会契約説からポスト構造主義 -	事前学習	教科書 (pp.186～213) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	社会とはなにか？ (第 6 章) ② - 「私」と「社会」のつながり -	事前学習	教科書 (pp.214～243) を読み、分からない箇所をチェックしておく。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	これまでの議論を踏まえてレポート課題に取り組む	事前学習	これまで取り上げたテーマやディスカッションの内容を復習し、自らの意見を考えておく。
		事後学習	ディスカッションの中で明らかとなってきた自分自身の考え方・ものの見方について分析し、まとめる。
第 15 回	まとめ - これまでの議論を振り返って	事前学習	これまでの議論について振り返っておく。
		事後学習	この授業で学んだことを今後、受講する授業で活用する。

1. 科目名 (単位数)	道徳教育の研究 / 道徳教育の研究 (初等) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3396 EDTE3307
2. 授業担当教員	富岡 栄	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>道徳というのは大人がしたり顔でする説教でも教科書に羅列されている題目でもなく、私たちの身近にあるものである。たとえば、「あれかこれか」という二つ以上の選択肢にぶつかったときに、私たちはどの道を選ぶのがよいのかという価値判断に迫られる。このような、よさ・悪さ、××すべき、といった当為・価値判断に関わる問題はすべて道徳的、倫理的問題だと言える。この意味では、私たちは道徳とともに毎日の生活を送っている。</p> <p>自分の価値判断が、自分の考えや行動、自分の生き方の内部だけで完結するのであれば、それほどたくさん問題は出てこないのかもしれない。しかし自分の価値判断はほとんどの場合、他人を巻き込む。つまり、道徳の問題は個人的であると同時に社会性をもつものである。異なる道徳規範をもった人が二人以上集まる時(私たちの実際の生活のほとんどあらゆる場がそれに該当する)、そこは衝突と妥協と調整の場となる。</p> <p>このような価値判断のぶつかり合いの連続である現実をどのように生き抜いていけるのか、またそれを次の世代の子どもたちにどのように伝えていってよいかを考えるために、本講義では縦軸(日本の歴史の中で道徳規範がどのように変化してきたか)と横軸(他の社会や文化圏ではどのような道徳規範が機能しているか)の両方に目を配り、今の自分もっている道徳観念や価値基準を見つめなおしていく。さらに人類の発展とともに新たに生じてきた道徳的、倫理的課題(科学技術と自然環境との関係、医療技術と生命の意味との関係など)をも取り上げ、今後ますます変化していく社会の中で生きていく受講生が、自分の頭で価値を判断していく力をつけられるようにする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまなかたちの道徳規範や価値基準と自分たちのそれとの間の共通点と相違点に着目することで、自分が(無意識に)拠って立っている基盤を再考できるようになること。 2. 自分がどのように生きていくかという課題は、ほとんど必然的に他者を巻き込むという点ですぐれて社会的なテーマでもある。「自分を含みこむ社会の一員としての自分」という角度から自分を見つめなおして、そして自分が関わっていると感じられる社会の外延を広げられるようになること。 3. ディスカッションや発表を通して、一対多という状況の中でも物怖じしない態度を身につけられるようになること(自分の意見を他者にわかりやすい言葉で伝えること、意見を異にする者との間にもコミュニケーションを打ち立てていくこと、そのために他の人の言うことにしっかりと耳を傾けることは、教育者として(そしてこれからの社会で生きていくひとりの人間として)重要な資質であるのみならず、これこそがまさに、非常に大切な「道徳的資質」と言える)。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメントは毎週課す。基本的には、次回の講義内容にかかわるテキストを精読し概要を把握すること。そして、授業内容について自分の考えや意見をまとめること。加えて、4回のレポートを課す。学級における道徳の指導計画(1回)と道徳科学習指導案(3回)を完成すること。		
10. 教科書・参考書・教材	『道徳科で育む 21 世紀型道徳力』 田沼茂紀 北樹出版		
11. 成績評価の方法	小テスト 3 回 60% 学校における道徳教育の意義や目標、その指導内容や方法について理解できている。 小レポート 20% 道徳教育に関する基本的事項を理解し、学習指導案を作成することができる。 授業参画度 20% 授業に毎回出席し、発言等も積極的にを行い、意欲的に取り組んでいる。 尚、本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は、単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	教職として必須な科目であり、道徳教育の実際について具体的に踏み込んでいく授業となる。道徳教育は全教育活動を通じて行うものであり、教科教育を基底で支える教育活動でもあるので、積極的な授業参加を心がけてほしいと期待している。また、平成 30 年度から道徳が特別の教科(小学校 中学校 31 年度より)となり、ますます注目を集めている。教育の目的が「人格の完成」ならば、まさに、道徳は教育の中心的な存在である。本講座は道徳教育について学ぶとともに、自分の生き方についても、しっかりと考える時間にして欲しい。		
13. オフィスアワー	初回講義の際に連絡先・連絡方法を伝える。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	道徳の本質：倫理と道徳、法と道徳、教育としての道徳の在り方に関する概要理解について(本講義での学びを深めるためのオリエンテーションも含む)。	事前学習	道徳とは何か、何故学校において道徳教育を行うのかのイメージを持つ。
		事後学習	アサイメント+道徳は何かを理解し、学校教育における道徳教育の意義や目的を理解する。
第 2 回	わが国の道徳教育 I：道徳教育の目標、学校における道徳教育の目標と方法、道徳の時間の位置付けについて。	事前学習	テキストの第 4 章 1 pp.106~123 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+道徳教育の目標と方法、教育課程での道徳科の位置づけについて整理する。
第 3 回	わが国の道徳教育 II：学習指導要領と道徳教育、道徳教育における系統性・発展性、学習指導要領に示された道徳教育の意義とその内容構成について。	事前学習	テキストの第 1 章 pp.10~28 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+道徳科の特質についてまとめる。
第 4 回	わが国の道徳教育史 I：戦前における修身科の軌跡(学制頒布、教学聖旨、学校令、教育勅語、国定教科書、大	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.123~132 を読み、概要を把握しておく。

	正デモクラシー、ファシズム、国民学校令等) について。	事後学習	アサイメント+戦前の道德教育史の流れを確認、把握する。
第 5 回	わが国の道德教育史Ⅱ：戦後道德教育の軌跡(修身科停止、公民科構想、全面主義道德教育、道德教育振興に関する答申、道德の時間特設等) について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 4 章 2 pp.132~140 と第 2 章 4 pp.44~49 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+戦後の道德教育史の実態を確認、把握する。
第 6 回	道徳性発達の理論：道徳性と社会性、道徳性の発達理解(S. フロイト、J.ピアジェ、L.コールバーグ、N.J.ブル等の道徳性発達理論) について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.141~152 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+各研究者の論についてまとめをする。
第 7 回	道德教育の方法理論Ⅰ：インカレケーションの道德教育(価値の内面化による道德授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.152~155 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+インカレケーションの方法論による授業のイメージを掴む。
第 8 回	道德教育の方法理論Ⅱ：自己発見の道德教育(価値の明確化による道德授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.155~159 を読み、概要を把握しておく。
		事後学習	アサイメント+価値の明確化の方法論による授業のイメージを掴む。
第 9 回	道德教育の方法理論Ⅲ：判断力を高める道德教育(コールバーグ理論による道德授業の実際)の方法論について。	事前学習	テキスト第 5 章 2 pp.160~163 を読み、概要を把握しておくこととテキスト p150 の道德教材ハインツのジレンマを精読しておくこと。
		事後学習	アサイメント+モラルジレンマを理解し、授業展開のイメージを掴む。
第 10 回	学校における道德教育の実際Ⅰ：学校における道德教育の構造、道德科の特質、道德科と各教科等の連携、全体計画、学級における指導計画、校長・教頭・養護教諭等との連携方法、家庭および地域等との連携方法等について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 2 章 pp.33~44 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+学級における道德の指導計画を完成する。
第 11 回	小学校における道德授業の実際Ⅰ：小学校における道德教育や道德授業の進め方の実際(年間指導計画、道德学習指導案を通して)について。	事前学習	テキストの第 3 章 pp.54~70 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+年間指導計画の作成手順や学習指導案の項目の理解をする。加えて、学習指導案のイメージを掴む。
第 12 回	小学校における道德授業の実際Ⅱ：小学校における道德授業の進め方の実際(道德学習指導案の構成項目やその作成手順等)について。	事前学習	低学年用道德教材「はしのうえのおおかみ」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.87~103 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「はしのうえのおおかみ」の指導案を完成する。
第 13 回	小学校における道德授業の実際Ⅲ：小学校における道德授業の進め方の実際(教材分析の方法と学習指導案作成)について。	事前学習	中学年用道德教材「ヒキガエルとロバ」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.71~80 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「ヒキガエルとロバ」の指導案を完成する。
第 14 回	小学校における道德授業の実際Ⅳ：小学校における道德授業の進め方の実際(道德教育評価、学習指導案作成、模擬授業)について。	事前学習	高学年用道德教材「手品師」を精読しておくことと、テキストの第 3 章 pp.113~121 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	アサイメント+「手品師」の指導案を完成する。
第 15 回	本講義のまとめと評価：道德教育を取り巻く現代課題(児童生徒の問題行動と道德教育、価値相対主義や文化的相対主義の克服等、道德教育と生命倫理・環境倫理等)について。小テスト実施	事前学習	テキストの第 6 章 1pp.174~179 と第 6 章 1pp.186~191 を読み、概要を把握しておくこと。
		事後学習	全 15 回の授業を通じて、学んだこと、学びきれなかったことを振り返り今後の勉学に生かす。

1 科目名 (単位数)	特別活動の指導法 (中等) (2 単位)	3 科目番号	SSMP2346 SCMP2346 SBMP2346 SNMP2346 EDTS2307
2 授業担当教員	井田 延夫		
4 授業形態	講義、演習 (グループワーク含む)	5 開講学期	秋期
6 履修条件・他科目との関係			
7 講義概要	特別活動に関する主要な概念を講義等で受け入れて増やす学び(概念受容型の学び)と演習や協議等を通じて自力で概念を形成する「概念形成型の学習」を行うようにする。特に、特別活動の方法原理や基本的な用語などの確認をしながら、学級活動を中心とした授業力等の理解と習得を図る。演習内容は、小学校における「学級活動」を中心にその授業力・指導力を育成するものとする。学級活動を中心に演習を展開する理由は、学級活動が特別活動の中核であり、集団成員としての望ましい資質や能力・態度を育て、人間としての生き方に関する指導を行う中心的な場であるとともに、生徒指導の全機能が補充・深化・統合される場として重要であるからであり、教科書もなく学級担任としての真の力量が問われからである。		
8 学習目標	(1)特別活動に関する理論と実践について理解し、理論と実践の交流や応用が図れるようになる。 (2)改訂学習指導要領の特別活動では、「よりよい人間関係を築く力、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成」などを特に重視しており、それらに関わる力について実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢集団による活動を一層充実することが求められている。そこで、これらのニーズに応える具体的な活動例を理解し、自ら考えた新企画を発表できるようになること。 (3)中学校における特別活動の中核となる「学級活動」について、計画委員会が主体となって授業を展開する指導案(展開案)を作成し、班内及び全員の前で発表できるようになること。		
9 アサイメント(宿題)及びレポート課題	◇ アサイメントは、毎時間課します。 ◇ レポート課題は、「特別活動の教育的意義」「我がクラスの学級活動における重点的項目」「私が挑戦する学級活動(3)の展開案」などとする。		
10 教科書・参考書・教材	【教科書】 ◇ 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、平成 20 年 9 月。 ◇ 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』、平成 20 年 8 月。 ◇ 高橋哲夫、原口盛次、井田延夫編『特別活動研究 第三版』。 【教材】 ◇ プリント教材は、毎時の授業時に配布します。		
11 成績評価の方法	◇ 日常の授業の取組・・・・・・・・・・ 総合点の 30% ※ 授業は全部出席すること。 (15 回中、4 回以上の欠席は単位不認定となります。なお、遅刻は 1 回につき 2 点、欠席は 1 回につき 5 点の減点とします。) ◇ アサイメント、レポート・指導案の作成度など・・・・・・・・・・ 総合点の 50% ◇ 復習・資料整理活用度点検・・・・・・・・ 総合点の 20%		
12 受講生へのメッセージ	1 座席は指定とする。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源を切るとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。(遅れた場合は減点です) 5 予習をするとともに、教育や特別活動に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。 6 教員を目指す大学生としての自覚と覚悟をもち、その品位を保つこと。		
13 オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 特別活動の特質と方法原理 中学校・高等学校特別活動の構成と基本的な用語の理解	事前学習	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を概観してくる
		事後学習	教科書 pp.1~2 で、特別活動の構成と基本的な用語等を理解する
第 2 回	特別活動の目標 特別活動の歴史からみた特質 教育内容としての特別活動の特質 レポート課題 1 の理解とその構想開始 ＜課題 1 「中学校時代の心に残っている特別活動の経験とその活動内容の教育的意義について、このように考えます！」＞ ＜第 4 回の授業時に提出＞	事前学習	解説書 pp.7~12 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.3~35 で復習し、レポート課題 1 「特別活動の教育的意義」についての考えを整理し始める
第 3 回	特別活動の教育的意義、 特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連、 他の教育内容・方法との関連 1 (各教科の学習、道徳) 国語での話し合いと特別活動での話し合いの違いや関連 道徳的实践と道徳的实践力の違いと関連を図った指導	事前学習	解説書 pp.13~21 を熟読してくる
		事後学習	教科書 pp.36~42 で、特別活動の教育的意義について、復習する
第 4 回	他の教育内容・方法との関連 2 (総合的な学習の時間、生徒指導) 特別活動と総合的な学習の時間との違い	事前学習	解説書 pp.1~6、pp.21~24 を熟読してくる レポート 1 を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.42~45 で復習する

	特別活動と生徒指導との関連 レポート課題 2 の理解とその構想開始 ＜課題 2 「中学校の学級担任として、我がクラスで重点的に指導・援助していきたい学級活動(3)の項目を挙げたうえで、自ら挑戦してみたい題材、そしてその理由をまとめよう！」＞ ＜第 6 回の授業時に提出＞		レポート課題 2 の構想を練り始める
第 5 回	学級活動の指導（目標、活動内容、展開の基盤となる考え方、「集団決定」と「自己決定」、指導実践例）、指導案形式と指導案例	事前学習	解説書 pp.25～44 を熟読してくる。
		事後学習	教科書 pp.56～64 で復習をする。
第 6 回	学級活動の指導計画（学校としての年間指導計画、学級ごとの年間指導計画、一単位時間の指導計画） 「自己決定」に関する指導・助言の在り方 集団決定と自己決定のある学級活動の例 レポート課題 3 の理解とその構想開始 ＜課題 3 「私が挑戦する学級活動（3）の展開案」＞ ＜第 8 回の授業時に提出＞	事前学習	解説書 pp.44～51 を熟読してくる レポート 2 を作成してくる
		事後学習	教科書 pp.92～93, pp.124～125, pp.140～146 で復習し、レポート課題 3 の構想を練る。
第 7 回	学級活動の活動形態（話し合い活動、係活動、集会活動） 学級活動委員会の在り方とその指導、「集団決定」に関する指導・助言の在り方、係活動と当番活動の違い、係活動の現状とその対応	事前学習	解説書 pp.51～57 を熟読してくる。
		事後学習	小学校の解説書 p.55 「発達の段階に即した指導の目安」を熟読する。 「私がつくるベンチャー企業」の企画書について考え始める。
第 8 回	「私が挑戦する学級活動(3)の展開案」の班内発表、班代表の選出	事前学習	解説書 pp.25～44 を熟読してくる。 レポート 3 を作成してくる。
		事後学習	レポート課題 3 の修正・完成作業をする。 「私がつくるベンチャー企業」の企画書を完成する。
第 9 回	係活動の工夫例としての「私がつくるベンチャー企業」の設立会議、会社説明会、成長を促す生徒指導としての特別活動の活用・充実 模擬卒業式における「卒業生の唄」に関する協議①	事前学習	解説書 pp.39～44 を改めて熟読してくる。 「私がつくるベンチャー企業」の企画書を作成してくる。
		事後学習	係活動の在り方を再認識し、当番活動との違いを整理する。
第 10 回	「私が挑戦する学級活動(3)展開案」の班代表発表会 自己決定したものが画餅とならないための指導 模擬卒業式における「卒業生の唄」に関する協議②	事前学習	教科書 pp.140～151 で予習してくる。
		事後学習	「私が生徒へ仕掛けたい生徒会活動」の企画書を作成する。 学級活動に関する学びの整理とまとめをする。
第 11 回	児童会活動を基盤とした生徒会活動、児童会活動と生徒会活動の違い、生徒会活動の指導（目標、内容、年間指導計画） 模擬卒業式における「卒業生の唄」に関する協議③	事前学習	「私が生徒へ仕掛けたい生徒会活動」の企画書を作成する。 解説書 pp.58～73 を熟読してくる。
		事後学習	教科書 pp.64～69, pp.105～111 で復習をする。 「ボランティア・エチケット」の内容を考える。
第 12 回	生徒会活動の内容と実践例（中学校の荒れの克服を目指した特別活動、いじめ予防・根絶に向けた生徒会活動など）、生徒会活動の内容（5）「ボランティア活動などの社会参加」、ボランティア活動の指導（ボランティア・エチケットの作成）	事前学習	解説書 p.63, pp.81～83 を熟読してくる。 ボランティア・エチケットを考えてくる。
		事後学習	ボランティア活動とボランティア学習の違いを整理する。 旅行・集団宿泊的行事の実地踏査の内容を考える。
第 13 回	学校行事の指導（目標、内容など）、 学校行事の事前指導（「覚満淵・地藏岳ハイキング」実地踏査） 学校行事の授業計画	事前学習	解説書 pp.74～91 を熟読してくる。 「覚満淵・地藏岳ハイキング」実地踏査の内容を考えてくる。
		事後学習	教科書 pp.71～78 で復習をする。
第 14 回	特別活動の授業時数、 特別活動の指導計画（全体計画、年間指導計画） まとめ（復習度、資料整理活用度点検）	事前学習	教科書 pp.50～55 の熟読と、それまでの学習を復習し資料を整理してくる。
		事後学習	解説書 pp.92～99 で復習をする。
第 15 回	特別活動の評価、全体の振り返り、 卒業式に関わる主な指導内容、模擬卒業式の実践	事前学習	解説書 p.105 を熟読してくる。
		事後学習	解説書 p.102 で復習をする。 特別活動を重視する教師となるべく決意と覚悟をする。

1. 科目名 (単位数)	特別支援教育実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	SSMP3487 SNMP3487 SCMP3487 SBMP3487 SSMP3387
2. 授業担当教員	上田 征三		
4. 授業形態	講義・演習 講義による基礎理論の習得に基づき、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履習者同士の実践的な学び合いを重視します。学習指導案の作成等の講義、指導場面別の指導内容、事例研究等について、演習・グループ討議等を行う。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	本講座では、特別支援学校での教育実習を想定した実践的な内容で構成する。 1. 教師のあり方 2. 教育実習の準備・教材研究 3. 特別支援教育の児童・生徒の実態 4. 特別支援教育の現状と課題 5. 障害児の理解と接し方 6. 障害児の観察の視点 7. 人権教育について 8. 教育機器と教材の活用		
8. 学習目標	以下について学習し、教育実習に臨める力、指導実践力を高める。 ①教育実習に対する理解を深め、教育実習生としての態度や心構えを持つ。 ②教育実習での児童、生徒の実態把握ができるようになる。 ③学習指導案の作成と教材作り等について創意工夫し、臨めるようになる。 ④研究授業に基づいた、授業改善を通し、よりよい授業を考えられるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容に沿った小テストを約3回実施する。 2. マイクロ・ティーチング用の指導案提出 (グループ) とマイクロ・ティーチング発表 (グループ) する。 3. 「自立活動」指導案、教材研究を提出する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 上田征三・高橋実・今中博章編著『基礎から学ぶ特別支援教育の授業づくりと生活の指導』ミネルヴァ書房、2016。 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領・特別支援学校高等部学習指導要領』海文堂、2009。 東京福祉大学編『教育実習の手引き』 【参考書】 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編 (幼稚部・小学部・中学部)』教育出版、2009。 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部・高等部)』海文堂、2009。 石部元雄・上田征三・高橋実・柳本雄次編著『よくわかる障害児教育』(第2版) ミネルヴァ書房、2013。		
11. 成績評価の方法	授業出席と受講態度 (総合点の30%) レポート・小テスト (総合点の30%) 発表 (総合点の40%)		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。		
13. オフィスアワー	授業以外の時間 (予約をお願いすることもある)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	特別支援教育や児童・生徒の実態、特別支援教育の現状	事前学習	教科書1-3章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。
		事後学習	教科書1-3章復習しノートに整理する。
第2回	特別支援教育の専門性と教育課程	事前学習	教科書4-6章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。「学習指導要領解説」の熟読と重点項目を理解しノートに要約する。
		事後学習	教科書4-6章、「学習指導要領解説」の重点項目をノートに整理する。
第3回	領域「自立活動」と指導計画	事前学習	「学習指導要領解説」の熟読と重点項目を理解しノートに要約する。
		事後学習	「学習指導要領解説」の重点項目のまとめをノートに整理する。
第4回	障害児の理解と接し方、障害児の観察の視点	事前学習	教科書7-18章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに要約する。小テスト①の準備をする。
		事後学習	教科書7-18章の熟読と専門用語や重要語句を理解しノートに整理する。
第5回	特別支援学校 (実習先) の理解－実習日誌の記入に必要な「学校の現況」「オリエンテーションの内容」「日課」などの理解特別支援教育の児童生徒の実態・現状 ※実習予定先の情報を整理しておくこと	事前学習	実習予定先の現況などをノートにまとめる。
		事後学習	実習予定先の整理を『特別支援教育実習指導用ノート』(下書き)に清書する。
第6回	特別支援学校の現場の授業研究 (ビデオによる観察)－教師や学校のあり方、実習日誌の記入演習障害児の理解と接し方・観察の視点	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする (単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む)。

		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（指導案作成を含む）。小テスト①の復習をしノートにまとめる。
第 7 回	特別支援学校の現場の授業研究（ビデオによる観察）－児童生徒の理解、実習日誌の記入演習障害児の理解と接し方・観察の視点	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む）。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（指導案作成を含む）。
第 8 回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ①教室の構造化（ビデオによる観察）	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む）。
		事後学習	マイクロ・ティーチング準備をする（指導案作成を含む） 小テスト②の準備をする。
第 9 回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ②スケジュールの構造化（ビデオによる観察）	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む）。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（指導案作成を含む）。
第 10 回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ③教材の構造化（ビデオによる観察）	事前学習	マイクロ・ティーチング準備の準備をする（単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む）。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（指導案作成完成）小テスト②の復習をしノートにまとめる。
第 11 回	障害に応じた授業、年齢に応じた授業、「自ら学ぶ」授業－教育活動の構造化 ④授業内容の構造化（ビデオによる観察）	事前学習	マイクロ・ティーチングの準備をする（単元設定、児童生徒の設定、教材準備など指導案作成を含む）。
		事後学習	マイクロ・ティーチング準備の準備をする（リハーサル）。
第 12 回	マイクロ・ティーチング（模擬授業）（1）	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
第 13 回	マイクロ・ティーチング（模擬授業）（2）	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。 小テスト③の準備をする。
第 14 回	模擬授業発表に関する自己評価と他者評価による振り返り－単元は適切か、授業者の活動は適切か、適切な構造化はなされたか	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとそれをレポートにまとめる。
		事後学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとレポート作成を作成する。
第 15 回	人権教育について、教育実習までの準備、教育実習における今後の問題点とまとめ－指導講話（外部講師予定） ※特別支援学校の公開授業等に各自参加計画を立てて実施	事前学習	マイクロ・ティーチングの振り返りとレポート作成を作成し提出する。小テスト③の復習しノートにまとめる。
		事後学習	全体のまとめをノートに整理する。小テスト③の復習しノートにまとめる。教材研究のレポートを作成し提出する。

1. 科目名 (単位数)	日本史 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1327
2. 授業担当教員	小野 智一	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義 ディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係	「国際関係論」を履修予定の学生は本科目を選択することが望ましい。本科目の履修によって左記科目の学習を充実させることができます。		
7. 講義概要	グローバルな時代と呼ばれている現代、国と国、国民と国民とのあいだの交流がさまざまな面で深く、密接になっており、自他の歴史的な関係を理解することが求められている。わたしたちが生きている現代は、過去のできごとの積み重ねの上に成り立っている。その意味で、歴史は過去と現在との対話である。また、歴史には、未知のことも多くあり、新しい事実関係が発見されたり、時代とともに評価が変わることもある。授業では、日本の歴史のなかで興味深い事件やできごと、歴史上の人物をとりあげて、歴史上のできごとの背景や、激動の時代を生きた人びとの生き方、歴史上に果たした役割を検証していく。		
8. 学習目標	1) 日本史の基本事項 (概念) について理解し、説明できる。 2) 日本史上の出来事や時代背景について歴史学の観点から見たり考えたりすることができる。 3) 日本史上の人物の考え方や生き方を知り、自分の考え方や生き方を省みることができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義では上記をリーディングアサインメント (RA) と称して事前・事後学習課題を作成し、配付します。授業内で解説することになりますが、事前に教科書を読んで課題を解答してください。なお、解説後は事後学習のちに教員に提出することとします。提出方法については授業内で案内します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 小風秀雅編『日本近現代史』放送大学教育振興会、2009 年。 【参考書】 荒木敏夫他『日本史のエッセンス』有斐閣、1997 年。 竹内誠他編『教養の日本史』東京大学出版会、1987 年。 鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社、2013 年。		
11. 成績評価の方法	リーディングアサインメント (30%)、授業への取り組み (発表なども含む) (30%)、試験 (40%) なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めません。		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、受講生に期待される学習態度として、以下の条件を設定しています。</p> <p>①授業に集中してください。(積極的に参加、質問し、課題を残さないこと。私語・居眠りの厳禁)</p> <p>②欠席、遅刻、早退については、事由を教員に書面をもって報告してください。(事後に提出してください。事前は口頭報告するようにしてください) 正当な理由であっても、必要な時間数に不足する場合は、不合格となります。</p> <p>③明らかに受講態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も受講態度の改善が見られないと判断された場合、課題提出状況の如何に関わらず単位の修得は認めません。</p> <p>④教員による解説中は携帯電話の電源を切ってください。電子辞書等の学習支援機器は授業内容に応じて使用の許可を出すこととします。</p> <p>また、教員は次のことを実行します。</p> <p>①授業の目的・目標を明確に示し、授業の進行はシラバスに沿って行います。</p> <p>②受講生全員に聞こえる大きさの声で話をします。また、専門用語はわかりやすく説明します。</p> <p>③一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言・発表等) できる双方向対話型の学習環境を作ります。</p> <p>④遅刻・早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話 (メール・通話) の使用その他、授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。</p> <p>本科目では、基礎的な学習習慣づくりにも取り組みます。講義時間内で作業指示がなされたときなどに他者の学習を阻害する行為をした場合は減点対象とします。受講生各自が社会人として自立成長しようという自覚を持って講義に参加することを期待します。</p>		
13. オフィスアワー	講義前後の時間もしくは e-mail にて対応します。 toono@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・オリエンテーション ・開国と開港① 欧米外圧の再検討	事前学習	教科書 pp.13-17.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 2 回	開国と開港② 植民地化の危機について 近代化の構想① 大久保利通と殖産興業 殖産興業とは何か	事前学習	(第 2 回から第 15 回の事前学習) 前時間に配付するリーディングアサインメント (RA) の各設題に自分なりの解答をする。教科書 pp.17-31.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 3 回	近代化の構想② 大久保利通と殖産興業 大久保の開発構想	事前学習	教科書 pp.31-40.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事

			項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 4 回	憲法発布と条約改正① 大日本帝国憲法の発布後の国内と海外の反応	事前学習	教科書 pp.41-47.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 5 回	憲法発布と条約改正② 条約改正（領事裁判権の廃止）のための外交交渉	事前学習	教科書 pp.47-52.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 6 回	日清戦争とアジア① 東アジア国際秩序の転換	事前学習	教科書 pp.53-58.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 7 回	日清戦争とアジア② 帝国主義と中国	事前学習	教科書 pp.58-63.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 8 回	日露戦争前後の日本外交① 多角的同盟・協商網の模索と挫折	事前学習	教科書 pp.64-70.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 9 回	日露戦争前後の日本外交② 韓国併合への道	事前学習	教科書 pp.70-77.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 10 回	日清戦争と日露戦争を事例とした歴史的思考の実践	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 11 回	「帝国」日本の植民地政策① 後藤新平の台湾経営にみる日本の植民地経営	事前学習	教科書 pp. 78-83.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 12 回	「帝国」日本の植民地政策② 特別統治主義から内地延長主義へ—朝鮮の場合—	事前学習	教科書 pp.83-92.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 13 回	上昇期の政党勢力と政治① 初期議会期藩閥政府と民党	事前学習	教科書 pp.93-99.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 14 回	上昇期の政党勢力と政治② 「桂園体制」の成立	事前学習	教科書 pp.100-107.を読む。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
第 15 回	歴史学の観点から考えることの大切さ	事前学習	リーディングアサインメント (RA) の問を解答する。
		事後学習	講義内で配付される振り返り資料を基に本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。残された課題について質問事項としてまとめ次時以降に教師より指導を受ける。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	日本の文化と言語Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	GECM1718 GECM1728
2. 授業担当教員	内田 力			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション等		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>「日本の言語と文化Ⅰ」で養った日本語運用能力をさらにレベルアップする訓練を行います。毎回の授業は、学生が主体となって行う口頭発表・ディスカッションを中心に構成します。発表担当者は、事前にテキストを熟読し、テーマに関する情報収集を行い、クラスメートからの質問に答えられるよう準備をしておきます。授業では、担当者が内容導入を行い、教師役となりクラスでのディスカッションをリードします。ディスカッション後は、各自が意見をまとめる作文と語彙・語法に関する小テストの時間を設けます。これらの活動を通して、研究課題の特定、情報収集、分析、そしてディスカッション、問題解決の提案といった、日本語でリサーチプロジェクトを遂行するために必要な基礎的スキルの養成を目指します。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 大学の学びの場で日本人学生と円滑に意見交換、議論ができるレベルの日本語運用能力の習得を目指し、実践することが出来る。 2. ディスカッションリーダーとなる経験を通して、日本の文化・社会に関する問題を多角的に分析し、論点を明確にする能力を身につけることが出来る。 3. 自分とは異なる文化背景を持つ人たちと協働する力を向上させ、グローバル社会で働く基礎力を身につけることが出来る。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>①日本文化に関する基礎的な知識を習得するために小テストを毎回実施する。(なお、日本語能力向上のため、テキストの語彙・表現もテストの対象とする。) ②授業中に配布するワークシートを用いて、事前学習・事後学習を行なう。 ③事前学習・事後学習の内容に関して、授業中に作業の結果や自分の意見を発表する。 ④授業で学んだテーマのなかから興味をもった事柄について、資料を調べて、レポートにまとめる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 授業中にプリント資料を配布します。 【参考書】 西口光一『新装版 基礎日本語文法教本』(英語版・中国語版・ポルトガル語版)、アルク。 羽田正(監修)『輪切りで見える! パノラマ世界史』全5巻、大月書店。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>小テスト 30% 毎回の議論での発言・受講態度 30% レポート 40% *本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められない。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>春期の「日本の文化と言語Ⅰ」は「言語」に比重を置いた授業ですが、秋学期は“文化”が中心です。日本で生活していて興味をもったこと、気になっていたことを調べる機会にしてください。 また、本授業では調べたことを発表する機会が多くありますが、意見の内容だけでなく、日本語で考えて伝えようとする態度や、他人の意見を真剣に理解しようとする姿勢を重視します。ぜひ楽しんでディスカッションに参加してください。 *授業中の携帯電話(メールなど)や私語(とくに日本語以外での会話)、飲食はしないように。</p>			
13. オフィスアワー	授業時間内に説明します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1・2回	イントロダクション・自己紹介	事前学習	留学先として、日本を選択した理由について口頭で簡単に説明できるように準備をする。	
		事後学習	日本や母国の歴史について知っていることや学校で学んだことをまとめる。	
第3・4回	日本の歴史① : 日本史の概観	事前学習	これまでに読んだ文章(たとえば『日本への招待』)のなかから、日本の歴史に関係する記述を探す。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第5・6回	日本の歴史② : 現代経済(経済発展、豊かさとは何か)	事前学習	日本経済に対するイメージを文章にする。戦後日本の経済成長について調べる。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第7・8回	日本の歴史③ : 現代政治(日本とアメリカ)	事前学習	戦後の日米関係や、自国とアメリカとの関係について調べる。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第9・10回	日本の歴史④ : 現代文化(“クールジャパン”の源流)	事前学習	日本文化に対するイメージを表現していると感じる作品を挙げて、それらにどのような魅力があるのかを文章にまとめる。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第11・12回	地域の歴史① : 観光と史跡、世界遺産、博物館・美術館	事前学習	日本にある観光名所について調べる。(それらはなぜ人々が訪れる場所になっているのだろうか?)可能であれば自分の持っているガイドブックを用意する。自国の観光名所についても調べて説明できるようにする。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第13・14回	地域の歴史② : 日本の宗教	事前学習	日本や自国にはどのような宗教があるかを調べる。	
		事後学習	ワークシートの作業。	
第15・16回	地域の歴史③ : 京都と祇園祭	事前学習	京都や祇園祭について自国の観光ガイドではどのように紹介されているか調べる。	

		事後学習	ワークシートの作業。
第 17・18 回	地域の歴史④ ：群馬と富岡製紙場	事前学習	群馬県や埼玉県（キャンパス周辺や自宅周辺）にどのような歴史があるのかを調べる。あるいは、近所の博物館・美術館、寺社での催し物にどのようなものがあるかを調べる。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 19・20 回	地域の歴史⑤ ：北海道と沖縄	事前学習	北海道や沖縄県について歴史を調べる。いつから、どのように日本の一部分になったのだろうか。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 21・22 回	世界のなかの日本① ：日本の外国人	事前学習	ワークシートの作業。また、外国人の集まって住んでいる地域（たとえば中華街）にはどのような場所があるのか調べる。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 23・24 回	世界のなかの日本② ：日本の歴史教科書、世界史	事前学習	日本の中学歴史教科書の指定箇所を読んで感想をまとめる。担当箇所については、内容を要約して説明できるようにする。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 25・26 回	世界のなかの日本③ ：世界各地の歴史教科書	事前学習	日本の歴史教科書について、自国のものと比較したうえで分析して、その相違点を文章にまとめる。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 27・28 回	世界のなかの日本④ ：戦争の歴史を考える	事前学習	第二次世界大戦について自国では、どのように説明されているのかを調べる。かつての戦争をめぐってどのような問題が日本に存在しているのかを調べる。
		事後学習	ワークシートの作業。
第 29・30 回	レポートの提出、 これまでの内容の振り返り	事前学習	レポートを作成する。これまでの授業の内容を振り返って、その感想やこれから調べてみたいことを説明できるようにしておく。
		事後学習	日本史や日本文化についてこれから読んでみたい本を探して、読んでみる。

1. 科目名 (単位数)	乳児保育 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2417 SCOT2417 SJMP2136
2. 授業担当教員	浅野 菜津子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	わが国における乳児保育の発展と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を意識した乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を習得し、保育現場での課題解決方法を模索する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の乳児保育がたどった歩みとその意義・基本を知り、これからのあり方についても理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達とそれに沿った保育所(園)生活のあり方や保育者の援助と役割を学び、説明することができる。 3. 乳幼児保育における保健衛生及び安全についての知識を身につける。 4. 保育課程と記録について理解し、説明することができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容に関する振り返りの課題を出すので、期限を守って提出すること。 ・ 乳児保育担当者に求められることについて、自分の考えをレポートにまとめる。 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】『新訂 見る・考える・創り出す 乳児保育』萌文書林。 【参考書】厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館。 その他、授業の中で適宜紹介する。(自分が生まれた時の母子健康手帳があれば持参してください)。</p>			
11. 成績評価の方法	授業態度(発言等) 20%、提出物(課題等)30%、期末試験 50%			
12. 受講生への メッセージ	普段から、赤ちゃん連れの親子の様子など気にかけて見ておいてください。子どもや保育に関するニュースや社会の動向に興味関心を持ち、また自分が住む地域の子育て・保育環境についてもアンテナをはって情報を集め、積極的に学ぶように心がけてください。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 乳児保育とは	事前学習	テキスト pp19~46 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 2 回	乳児保育の制度と課題	事前学習	自分の母子健康手帳を見ておく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 3 回	赤ちゃんの成長の不思議な道のり	事前学習	身近な赤ちゃんに接したり、乳児研究に関する記事を調べる	
		事後学習	振り返りの課題	
第 4 回	新生児期～乳児期の発達の方向性	事前学習	テキスト pp47~90 を読んでおく	
		事後学習	振り返りの課題	
第 5 回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育① (おおむね 6 ヶ月未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね 6 か月未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 6 回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育② (おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね 6 ヶ月から 1 歳 3 か月未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 7 回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育③ (おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね 1 歳 3 ヶ月～2 歳未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 8 回	乳児保育の実際、乳児の発達と保育④ (おおむね 2 歳)	事前学習	保育所保育指針・発達過程「おおむね 1 歳 3 ヶ月～2 歳未満」を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 9 回	援助の実際① 人との関わり	事前学習	テキスト pp133~141 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 10 回	援助の実際② 健康・安全	事前学習	テキスト pp149~157 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 11 回	援助の実際③ 食事・排泄・睡眠	事前学習	テキスト pp159~173 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 12 回	援助の実際④ 環境・清潔	事前学習	テキスト pp175~186 を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 13 回	乳児保育の計画、記録と評価	事前学習	保育所保育指針第 4 章を読んでおく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 14 回	家庭との連携、保護者支援	事前学習	保護者とのコミュニケーションの取り方について考えておく。	
		事後学習	振り返りの課題	
第 15 回	乳児保育の展望と課題、まとめ	事前学習	今までの学習から学んだこと、疑問点などをまとめておく。	
		事後学習	乳児保育担当者に求められることについて、自分の考えをレポートにまとめる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	認知症の理解 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP2312 SNMP2112 SCMP2312 SBMP2312
2. 授業担当教員	先崎 章	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義、質疑応答形式を併用、ビデオ教材による知識の習得とディスカッション		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>認知症の医学的、行動的、心理的、社会福祉的概要の理解を深めるよう努力します。将来社会人となることから、老人医療、地域社会、精神保健および精神保健福祉制度についても関心がいくよう、認知症に関連する知識の習得を目指します。具体的な達成目標レベルは、認知症ケア専門士認定試験の「認知症ケアの基本」分野で合格点をとれることです。また、最新の認知症治療や認知症予防についての理解を深めるために、ビデオ教材を適時使用します。</p> <p>少子高齢化が、かつて人類が経験したことのないスピードで進行しています。精神疾患 (含、認知症) の増加、障害者概念の広がりにより、平成 25 年度から施行される新たな医療計画に 5 疾病 5 事業の一つとして精神疾患 (含、認知症) が加わり、また同時に (介護保険法に準ずる形で) 地域障害者総合支援法がスタートします。最近の福祉・医療の概要、動向についても理解を深めていきます。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士として必要な認知症の知識を身につける。 2. 脳の機能や老人の心理や精神疾患についての理解を深める。 3. 認知症に付随する身体症状や介護についての視点も身につける。 4. 家族の力や地域資源を活かす視点を身につける。 5. 認知症や高齢者に関する医療や制度の理解を深める 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義で取り上げた項目や学生の関心事項の中から、選択してレポートを作成し提出する。詳細は授業の中で説明します。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編集『新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解 第 3 版』中央法規。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 山口晴保編『認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント 第 2 版』協同医書出版社。 日本認知症ケア学会編『認知症ケア標準テキスト 改訂・認知症ケアの基礎』(株) ワールドプランニング。 『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療 第 2 版』中央法規。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>毎回の提出物、授業態度 50% (おしゃべりや携帯電話等の使用は減点します)</p> <p>課題レポート、プレゼンテーション 10% (詳細は講義の中で説明します)</p> <p>復習テスト (随時実施) の総計点数 40% (事前に範囲・形式を予告します。)</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>毎回、A4 判の資料を配布しますので、散逸しないよう、綴じていってください。認知症に対する医学的な知見や対応方法は、最近 5 年間をみてもまったく様変わりしています。最新の知見、トピック、話題を提供して、認知症や老人に対する興味や関心が持てるよう、視覚教材も交えて授業を工夫していきます。</p> <p>基本的な知識を習得するためには、地道な学習活動と基本事項を記憶していくことが必要です。医学的、科学的な知識、エビデンスに裏付けられた介護、支援、援助が将来できるように願って、授業を進行させていただきます。具体的には「医学的なこと」と「社会福祉的なこと」の二つの事柄を 1 回の中で進行させていただきます。</p>		
13. オフィスアワー	木曜日 (授業、会議のない時間帯)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション、認知症ケアの歴史 認知症の体験の理解	事前学習	認知症のケアの歴史について調べてみる
		事後学習	認知症についての配布プリントの復習
第 2 回	認知症の基礎、脳・海馬について 個室ユニットと相部屋	事前学習	認知症の記憶障害の特徴について調べてみる
		事後学習	脳についての配布プリントの復習
第 3 回	認知症とは? 認知症による脳の変化 高齢者のうつと躁、最近のトピック	事前学習	大脳の変性部位について調べてみる
		事後学習	脳の変化についての配布プリントの復習
第 4 回	軽度認知障害 (MCI) アルツハイマー病の診断、病理、治療、予防	事前学習	タウタンパク、アミロイドβタンパクを調べる
		事後学習	アルツハイマー病についての配布プリントの復習
第 5 回	脳血管性認知症、レビー小体型認知症	事前学習	様々な認知症のタイプについて調べてみる
		事後学習	認知症のタイプについての配布プリントの復習
第 6 回	若年認知症、若年者の高次脳機能障害 (認知症との対比)	事前学習	高次脳機能障害について調べてみる
		事後学習	高次脳機能障害についての配布プリントの復習
第 7 回	認知症の人の行動・心理症状 BPSD への対応について	事前学習	中核症状、周辺症状、BPSD について調べる
		事後学習	BPSD についての配布プリントの復習
第 8 回	認知症の人の生活理解、認知機能の変化が生活に及ぼす影響、治療可能な認知症	事前学習	認知症者の毎日の生活について想像してみる
		事後学習	認知症者の生活理解についての配布プリントの復習
第 9 回	認知症の人に対する介護	事前学習	BPSD 各症状に対する対応について復習する
		事後学習	認知症介護についての配布プリントの復習
第 10 回	認知症と知的障害の経過、対応の違い	事前学習	知的障害について調べてみる
		事後学習	認知症・知的障害についての配布プリントの復習
第 11 回	介護者自身の体験、家族のこころ 家族の力を活かす、こころを支える	事前学習	介護を体験したことのある人の話を聞く
		事後学習	介護家族の力についての配布プリントの復習
第 12 回	認知症の対応、環境の大切さ、家族の会の役割について	事前学習	認知症の家族会について調べてみる
		事後学習	家族会についての配布プリントの復習
第 13 回	認知症についてのまとめ 認知症を理解するための 8 大原則・1 原則	事前学習	第 1 回～12 回のプリントを復習する
		事後学習	認知症理解についての配布プリントの復習
第 14 回	全体のまとめ 認知症や高齢者に関する最近のトピックス	事前学習	認知症関連のニュースや新聞記事を調べる
		事後学習	最近のトピックスについての配布プリントの復習
第 15 回	認知症に関する制度・関係機関、最近のトピックス、介護保険の今後	事前学習	地域障害者総合支援法について調べてみる
		事後学習	まとめ配布プリントの復習

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (4 単位)		3. 科目番号	PSMP2122
2. 授業担当教員	中里 克治			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>従来発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目されはじめている。また、老人だけでなく障害児(者)の発達も考えていく必要があり、発達心理学と福祉の関係を学習することの重要性が高まっている。</p> <p>そこで、本講義では、発達心理学の方法と考え方を学び、初期経験の重要性としての知能・性格・感情の基本を形成する乳幼児期の経験について理解する。また、生涯発達の観点から、幼児・児童等の心身の発達と学習の過程について理解するとともに、胎児期から成年・老年期までの発達期の特徴を概説する。さらにそれぞれの段階においての不適応行動についても学ぶ。</p>			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解する。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学び、説明できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>随時、課題を出す。前半と後半で2つのレポートを書いてもらう。</p> <p>レポート課題1：青年期の特長について、青年期前期と青年期後期を区別し、アイデンティティの獲得とモラトリアムの意味についての考察をふくめながら、2000字程度で述べなさい。</p> <p>レポート課題2：前期高齢期と後期高齢期それぞれの特徴と問題点について、それぞれの発達課題と危機である「統合と絶望」、「不死と消滅」および獲得される力などに触れながら、2000字程度で述べなさい。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学』 ミネルヴァ書房。</p> <p>下仲順子編『老年心理学 (改訂版)』 培風館。</p>			
11. 成績評価の方法	評価方法は、レポート 50%、日常の授業態度 (質問など) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	前半で学ぶことは皆さんがすでに経験したことであるが、後半で学ぶ事はこれから体験することである。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。家族など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	発達とは：個体発生と系統発生	事前学習	生命の誕生と人類の出現について調べてまとめる。ネットで調べてみよう。	
		事後学習	哺乳類の中で人類の位置について調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第2回	胎児期	事前学習	私たちはどのように生を受けたかについて調べてまとめる。pp.2-7	
		事後学習	受精から出産までの胎児の成長について調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第3回	乳児期	事前学習	乳児が歩くまでの成長について調べてまとめる。pp.8-23	
		事後学習	基本的信頼はどのように獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第4回	幼児期初期 (よちよち歩き期)	事前学習	歩行と移動能力、トイレトレーニングについて調べてまとめる。pp.38-39	
		事後学習	自律はどのように獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第5回	幼児期	事前学習	遊びの発達について調べてまとめる。pp.72-75	
		事後学習	自主性はどのように獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第6回	児童期前期	事前学習	小学校入学とはどういうことか考えてまとめる。pp.86-87	
		事後学習	遊びと学びのバランスについて考えてまとめる。主にプリントを参考にして	
第7回	児童期後期	事前学習	集団の中の自分について調べてまとめる。pp.88-89	
		事後学習	勤勉性はどのように獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第8回	子ども時代 (まとめ)	事前学習	子どもと大人はどう違うか考えてまとめる。子ども特徴を考え、それを大人であることの定義と比べてみる。大人の定義は自分で考えてみる。	
		事後学習	大人になるとはどういうことかも一度考え直してまとめる。	
第9回	青年期前期 (思春期)	事前学習	第2次性徴の発現とそれに伴う心の変化について調べてまとめる。pp.105-107	
		事後学習	大人の体と大人と子どもの両方の心を持つことのアンバランスについて調べてまとめる。主にプリントを参考にして	
第10回	青年期後期	事前学習	仲間と自分、自分の世界について考えてまとめる。前回のプリントを参考にして	
		事後学習	アイデンティティの獲得はできるか、自分はどの常態化について考えてまとめる。	

第 1 1 回	成人初期	事前学習	大人になるとはどういうことか考えてまとめる。社会の中での役割と責任を中心に。
		事後学習	親密性はどうか獲得されるか調べてまとめる。主にプリントを参考に して
第 1 2 回	中年期 1	事前学習	親になるということについて考えてまとめる。pp.128-131
		事後学習	生殖性はどうか獲得されるか考えてまとめる。主にプリントを参考に して
第 1 3 回	中年期 2	事前学習	中年期の危機について調べてまとめる。pp.142-143
		事後学習	中年期の危機、停滞について調べてまとめる。主にプリントを参考 にして
第 1 4 回	更年期	事前学習	更年期とはいつ頃か調べてまとめる。ネットで調べてみよう。
		事後学習	男性と女性での違いについて考えてまとめる。主にプリントを参考 にして
第 1 5 回	まとめ	事前学習	社会をになう中年世代について調べてまとめる。第 11 回から第 14 回のプリントを参考に。
		事後学習	中年期役割と発達課題「生殖性」について調べてまとめる。生殖性に 含まれる狭い意味での生殖性、生産性、創造性にわけて考えてみる。 危機である停滞とはどう言うものか。
第 1 6 回	DSM-IV から DSM-5 へ: 発達にお ける正常と病理の連続性	事前学習	DSM-5 について調べてまとめる。ネットで調べてみよう。
		事後学習	DSM-IV と DSM-5 の違いについて調べてまとめる。主にプリント を参考に して
第 1 7 回	知的障害と知能の問題	事前学習	知的障害の原因について調べてまとめる。ネットで調べてみよう。
		事後学習	知的障害と正常知能は連続しているか調べてまとめる。主にプリント を参考に して
第 1 8 回	発達障害: 自閉症スペクトラム、 ADHD と学習障害	事前学習	発達障害はどんな障害か調べてまとめる。pp.168-169
		事後学習	発達障害を持って生きるにはどのようにすべきか考えてまとめる。 主にプリントを参考に して
第 1 9 回	生涯発達とは	事前学習	命の始まりから終わりまでの過程について調べてまとめる。主にプ リントを参考に して
		事後学習	エリクソンの発達段階について調べてまとめる。主にプリントを参 考に して
第 2 0 回	高齢者心理学研究の歴史	事前学習	高齢者心理学研究はいつ始まったか、老化の概念にはどのようなも のがあるかを調べてまとめる。Pp.1-12
		事後学習	高齢者心理学研究でどのような研究法が使われているか調べてま とめる。pp.9-11
第 2 1 回	高齢社会の到来	事前学習	日本での高齢化の進行状況を調べてまとめる。pp.13-18
		事後学習	人口の高齢化がもたらす社会の状況の変化をまとめる。pp.19-22
第 2 2 回	高齢期の感覚、知覚機能の加齢変 化、健康、身体疾患	事前学習	年を取るとはどのようなことか考察する。pp.24-32
		事後学習	体と心の老化 Pp.24-36
第 2 3 回	高齢期の精神疾患	事前学習	高齢期特有の精神疾患には何があるか調べる。pp.38-44
		事後学習	高齢期特有の疾患と疾患もつての老化をまとめる。pp.38-44, pp.48-50
第 2 4 回	高齢者の記憶と知能と加齢	事前学習	「年を取ると物忘れするようになるのか」について自分の考えをま とめる。pp.64-67 知能の加齢と関係する要因を調べてまとめる。 pp.79-81
		事後学習	記憶の種類と加齢の関係性についてまとめる。pp.64-71 知能の加 齢と関係する要因を調べてまとめる。pp.79-81 プリントの参照の こと
第 2 5 回	人格と加齢	事前学習	パーソナリティの老化について調べる。pp.89-106
		事後学習	「パーソナリティは老化で変わるのか」について自分の考えをまと める。pp.98-106
第 2 6 回	高齢期の適応	事前学習	高齢期の適応の問題点を調べる。pp.109-112
		事後学習	ライフスタイルとパーソナリティについて調べる。pp.109-116 プ リントも参照
第 2 7 回	死と死にゆく過程	事前学習	「自分の死に対する考え方」を確かめ、まとめてみる。pp.147-149
		事後学習	「死に向かう人に何が出来るか」について自分の考えをまとめる。 pp.149-158
第 2 8 回	高齢者を対象とした認知、知能・ 記憶機能の測定	事前学習	知能・記憶機能の測定方法について調べる。pp.160-170
		事後学習	神経心理学的検査について調べる。pp.168-170
第 2 9 回	高齢者を対象とした人格、精神健 康の測定、心理療法	事前学習	高齢者の心理療法について調べる。pp.185-198
		事後学習	対象別の心理査定と心理療法について調べてみる。pp.172-198
第 3 0 回	まとめ	事前学習	「人生の意味」について自分の考えをまとめる。第 25 回、第 26 回を参考に
		事後学習	「死の意味」について自分の考えをまとめる。死によって人生が完 結する。死に積極的な意味付けができるでしょうか。

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 / 発達心理学 (中等) (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2342 SCMP2342 SBMP2342 SNMP2342 EDPS2304
2. 授業担当教員	太田 信夫			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ討議・発表	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、パーソナリティ、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、あるいはその病理についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。			
8. 学習目標	(1) 発達のいくつかの基本的概念を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解し、身近な発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の各章についてキーワードを中心にまとめる。これは、学習の再確認をし、学習の定着をはかるために行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 川島一夫・渡辺弥生 (編著) 『図で理解する発達』 福村出版。 【参考書】 東京福祉大学 (編) 『保育児童福祉要説』 中央法規。			
11. 成績評価の方法	試験 70% レポート 20% 授業中の態度 10%			
12. 受講生への メッセージ	学習したことを自分の経験や日常例に当てはめて考え、将来の自分に関係づけて考えてみよう。			
13. オフィスアワー	授業内で周知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	発達心理学の概観、1 章 (胎内からの発達)	事前学習	本授業のシラバスを読んでくる	
		事後学習	本時の学習をまとめること	
第 2 回	2 章 (感覚・知覚の発達)	事前学習	2 章を読むこと	
		事後学習	2 章をまとめること	
第 3 回	3 章 (動物としての発達)	事前学習	3 章を読むこと	
		事後学習	3 章をまとめること	
第 4 回	4 章 (感情の発達)	事前学習	4 章を読むこと	
		事後学習	4 章をまとめること	
第 5 回	5 章 (幼児期・児童期の認知発達)	事前学習	5 章を読むこと	
		事後学習	5 章をまとめること	
第 6 回	6 章 (言葉と思考の発達)	事前学習	6 章を読むこと	
		事後学習	6 章をまとめること	
第 7 回	7 章 (親子関係の発達と向社会性)	事前学習	7 章を読むこと	
		事後学習	7 章をまとめること	
第 8 回	中間テストとその解答についての検討	事前学習	1 章から 7 章までの復習をする	
		事後学習	中間テスト結果の自己評価をする	
第 9 回	8 章 (対人関係の発達)	事前学習	8 章を読むこと	
		事後学習	8 章をまとめること	
第 10 回	9 章 (知能と社会的知能の発達)	事前学習	9 章の前半を読むこと	
		事後学習	9 章の前半をまとめること	
第 11 回	10 章 (欲求と意欲の発達)	事前学習	10 章の後半を読むこと	
		事後学習	10 章の後半をまとめること	
第 12 回	11 章 (自我の発達)	事前学習	11 章を読むこと	
		事後学習	11 章をまとめること	
第 13 回	12 章 (性役割と性行動)	事前学習	12 章を読むこと	
		事後学習	12 章をまとめること	
第 14 回	13 章 (道徳感情・判断・規範意識の発達)	事前学習	13 章を読むこと	
		事後学習	13 章をまとめること	
第 15 回	14 章 (発達障害の定義とその特性)	事前学習	14 章を読むこと	
		事後学習	14 章をまとめること	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	発達相談 (2 単位)		3. 科目番号	EDPS3311 PSMP3382
2. 授業担当教員	森 慶輔			
4. 授業形態	講義と演習、必要に応じてグループディスカッションを入れる		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「発達心理学」の単位を習得していることが望ましいが、必須ではない。単位未習得の場合は子どもの発達心理に関する書籍を事前に読んでおくこと講義理解の一助になると思われる。			
7. 講義概要	乳児期児童期における定型発達を振り返りながら、発達期にみられる種々の問題や障害（発達障害や精神疾患）の問題について考察するとともに、育児に悩む親への相談技法についてカウンセリング技法をベースに具体的事例を通して学習する。援助職としての技術を習得することもできる。			
8. 学習目標	発達相談の授業が終了した時点で以下のことが達成されていることを目標とする。 1. 乳児期児童期にみられる種々の問題や障害についてその現状を把握する。 2. 乳児期児童期の子供が抱える困難さを相談者の視点、親の視点・教師の視点から理解し、支援の方法を仮説立て、検証する見直しを持つ。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	教科書の指定された箇所をよく読んでおくと同時に、よくわからない事柄については事前に調べておく。レポート課題については第 1 回講義の際に指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】小林芳郎 編著『発達のための臨床心理学』保育出版社、2010 年。 【参考書】講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	原則として、課題レポートを 60%、期末試験を 40% として評価する。 ただし、受講生数によっては評価方法を変更する可能性もある。変更する場合は事前に告知する。			
12. 受講生への メッセージ	発達相談の授業で学んだことを日常生活・現場で生かすことができるよう、主体的に学んでください。 討論を中心に授業を進めます。積極的に発言してください。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	ガイダンス／発達における心身の発達	事前学習	テキストの第 3 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 2 回	発達期における心理臨床的な問題の原因	事前学習	テキストの第 4 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 3 回	生活習慣の形成にかかわる問題と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 7 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 4 回	生活習慣の形成にかかわる問題と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 5 回	身体的・知的な発達における問題と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 8 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 6 回	身体的・知的な発達における問題と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 7 回	社会的・人格的な発達における問題と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 9 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 8 回	社会的・人格的な発達における問題と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 9 回	身体的な障害と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 10 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 10 回	身体的な障害と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 11 回	発達の障害と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 11 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 12 回	発達の障害と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 13 回	精神障害と心理臨床：知識	事前学習	テキストの第 12 章を読んでおく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 14 回	精神障害と心理臨床：事例	事前学習	事例を読み、自分の考えをまとめておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
第 15 回	まとめ	事前学習	今までの内容を復習しておく	
		事後学習	ノートをまとめる	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	発達と老化の理解Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SSMP2311 SNMP2111 SCMP2311 SBMP2311
2. 授業担当教員	中里 克治			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	介護福祉士は、高齢者の介護を行うことが多い。老年期では、正常な発達過程である正常老化だけではなく、病的な老化についても同時に学ぶ必要がある。それは、中年期までの発達では、病的な発達の影響を受ける人が少ないが、老年期、特に老年期後期では多くの人が病的な過程の影響を受けるからである。そこで、Ⅰで学んだ乳児期から中年期までの発達を基礎として、Ⅱでは老年期について学ぶ。			
8. 学習目標	生涯発達の視点から、誕生から死に至るまでの過程を学ぶ。正常な発達と発達の障害を対比しながら理解し、説明できるようになる。その中で、どのような支援が可能であり、また、求められているかについても学んでゆく。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	随時、課題を出す。最終のレポートを書いてもらう。 最終レポート課題：高齢者の介護では、身体面の介護を中心に行う。しかし、特別養護老人ホームを見ると、認知症やうつ病などの老年期特有の精神障害を持つ高齢者が大部分を占めている。そのほかにも、青年期や中年期に発病した統合失調症などを抱えながら、高齢期に達した人々もまれではない。高齢者を介護で、心のケアのためにケアワーカーとして何ができるかについて、2000字程度で述べなさい。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 下仲順子編『老年心理学 (改訂版)』培風館。			
11. 成績評価の方法	評価方法は、レポート 50%、日常の授業態度 (質問、授業への積極的参加度) 50%			
12. 受講生へのメッセージ	前半で学ぶことは皆さんがすでに経験したことであるが、後半で学ぶ事はこれから体験することである。心理学では問題を自分のこととして考える態度が大切である。家族など身近な人々の体験からも多くを学ぶことができる。			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	高齢者心理学研究の歴史	事前学習	高齢者心理学研究はいつ始まったか、老化の概念にはどのようなものがあるかを調べてまとめる。pp.1-12	
		事後学習	高齢者心理学研究でどのような研究法が使われているか調べてまとめる。pp.9-11	
第 2 回	高齢社会の到来	事前学習	日本での高齢化の進行状況を調べてまとめる。pp.13-18	
		事後学習	人口の高齢化がもたらす社会の状況の変化をまとめる。pp.19-22	
第 3 回	高齢期の健康、身体疾患	事前学習	年を取るとはどのようなことか考察する。pp.24-32	
		事後学習	体と心の老化 pp.24-36	
第 4 回	高齢期の精神疾患	事前学習	高齢期特有の精神疾患には何があるか調べる。pp.38-44	
		事後学習	高齢期特有の疾患と疾患もつての老化をまとめる。pp.38-44, pp.48-50	
第 5 回	高齢期の感覚、知覚機能の加齢変化	事前学習	「年を取るとはどのようなことか」について、自分の考えをまとめる。pp.52-55	
		事後学習	体と心の老化 pp.52-62	
第 6 回	高齢者の記憶	事前学習	「年を取ると物忘れするようになるのか」について自分の考えをまとめる。pp.64-67	
		事後学習	記憶の種類と加齢の関係性についてまとめる。pp.64-71 プリントの参照のこと	
第 7 回	知能と加齢	事前学習	「年を取ると“ぼける”のか」について自分の考えをまとめる。pp.38-43 第 3 回のプリントも参照	
		事後学習	知能の加齢と関係する要因を調べてまとめる。pp.79-81	
第 8 回	人格と加齢	事前学習	パーソナリティの老化について調べる。pp.89-106	
		事後学習	「パーソナリティは老化で変わるのか」について自分の考えをまとめる。pp.98-106	
第 9 回	高齢期の適応	事前学習	高齢期の適応の問題点を調べる。pp.109-112	
		事後学習	ライフスタイルとパーソナリティについて調べる。pp.109-116 プリントも参照	
第 10 回	高齢期の家族	事前学習	少子高齢化と家族の関係について調べる。pp.122-129	
		事後学習	「高齢者にとって家族の持つ意味」について自分の考えをまとめる。pp.16-132	
第 11 回	高齢期の対人関係と社会生活	事前学習	高齢者の人間関係はどのようなものかについて調べる。pp.134-145	
		事後学習	高齢者の社会参加とソーシャルサポートの重要性をまとめる。pp.134-145	
第 12 回	死と死にゆく過程	事前学習	「自分の死に対する考え方」を確かめ、まとめてみる。pp.147-149	
		事後学習	「死に向かう人に何が出来るか」について自分の考えをまとめる。pp.149-158	
第 13 回	高齢者の認知、知能・記憶機能の測定	事前学習	知能・記憶機能の測定方法について調べる。pp.160-170	
		事後学習	神経心理学的検査について調べる。pp.168-170	
第 14 回	高齢者の人格、精神健康の測定、心理療法	事前学習	高齢者の心理療法について調べる。pp.185-198	
		事後学習	対象別の心理査定と心理療法について調べてみる。pp.172-198	
第 15 回	まとめ	事前学習	「人生の意味」について自分の考えをまとめる。第 8 回、第 9 回を参考に	
		事後学習	「死の意味」について自分の考えをまとめる。死によって人生が完結する。死に積極的な意味付けができるでしょうか。	

1. 科目名 (単位数)	病原微生物学 (2 単位)	3. 科目番号	EDHE2311
2. 授業担当教員	橋本 由利子		EDHE2312
4. 授業形態	講義、ワークシート提出、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>細菌やウイルスなどの微生物の中には、ヒトや動植物に病気を起こすものがある。病原微生物学はこれら病原性のある微生物を対象とする。人類はその歴史が始まって以来、数々の微生物感染症と闘ってきたが、自然科学の進歩とともに抗生物質やワクチンが開発され、公衆衛生や栄養状態の改善等とあいまって、先進諸国では感染症はほぼ制圧できたと思われた。しかし、近年の新興・再興感染症の広がりや薬剤耐性菌による院内感染、高齢者や免疫力の低下している人々の日和見感染など、病原微生物との戦いには終わりがないことが明らかとなった。また、開発途上国の人々にとっては感染症は依然として脅威である。</p> <p>本科目ではこのような状況を踏まえうえて、微生物とは何かという基礎から、ヒトにおける生体防御システム、感染症の予防対策まで幅広く理解する。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 微生物感染症の歴史と現状について説明することができるようになる。 2) 微生物の種類(細菌・ウイルス・真菌・原虫)とその基本構造について説明することができるようになる。 3) 感染症の成立要因(①感染源、②感染経路、③宿主の感受性)について説明することができるようになる。 4) 感染源・感染経路への対策について説明することができるようになる。 5) 感受性対策について説明することができるようになる。 6) 生体防御システムについてその概略を説明することができるようになる。 7) 主な微生物感染症について説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. その日に学習したことを整理するために、毎回ワークシートを提出する。 2. グループで主な微生物感染症に関してテーマを決め、発表する。 3. 常在微生物を用いた実習レポートを作成する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 田爪正氣ほか著『新・感染と微生物の教科書』研成社。</p> <p>【参考書】 吉田真一、南嶋洋一著『系統看護学講座 専門基礎分野 6 微生物学』医学書院。 福岡 伸一著『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書。 吉川 昌之介著『細菌の逆襲』中公新書。 田爪正氣・築地真美著『ウイルスの手帳』研成社。 東京福祉大学編『教職科目要説(中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>毎回の提出物 30% 課題発表 10% 実習レポート 10% 期末試験 40% 授業態度 10%</p> <p>本学規程により、3/4 以上(15 回中 12 回以上)の出席が確認されない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>日本人の死亡原因の第 1 位はがんであるが、がん患者の直接的死亡原因の約 50%は、微生物感染症によるものである。人と病気の歴史は、人と微生物の闘いで始まり、現在も続いているのである。先人たちの病気との闘いの中で生まれた知恵をしっかり学び、これからの保健・医療・福祉の中で役立てよう。</p> <p>[受講生に期待される学習態度]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 2. 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. レポートの提出期限は厳守すること。事情によって提出日に間に合わない場合は講師にそのことを文書で伝え許可をとるようにする。 4. 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>[講師は次のことを実行する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	微生物の基礎知識(微生物の地球上における役割、病原微生物とは何か、新興感染症・再興感染症、薬剤耐性菌、院内感染、日和見感染症)	事前学習	教科書 pp.15～18 を読んでくる
		事後学習	病原微生物とは何かを復習し、ワークシートを提出する
第 2 回	微生物の種類(細菌、真菌、原虫、ウイルス)とその基本的構造	事前学習	教科書 pp.18～20 を読んでくる
		事後学習	微生物の基本構造についてまとめワークシートを提出する
第 3 回	細菌の性質(構造と特徴、細菌の培養と増殖、細菌の遺伝、細菌の分類、常在細菌と常在細菌叢)	事前学習	教科書 pp.20～26 を読んでくる
		事後学習	細菌の性質についてまとめ、ワークシートを提

			出する
第 4 回	ウイルスの性質（構造と特徴、ウイルスの培養と増殖、ウイルスの分類）、真菌・原虫の特徴	事前学習	教科書 pp.20～26 を読んでくる
		事後学習	ウイルスの基本構造についてまとめ、ワークシートを提出する
第 5 回	感染症の成立要因（病原体、感染経路、感受性者の存在が同時に存在すること） 感染症の予防対策 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	事前学習	教科書 pp.27～36 を読んでくる
		事後学習	感染症の成立要因とその予防対策についてまとめワークシートを提出する
第 6 回	感染経路対策：滅菌と消毒（滅菌と消毒の違い、滅菌法、消毒法、消毒薬の種類と効果、標準予防策（スタンダードプリコーション）、手洗い方法）	事前学習	教科書 pp.75～82 を読んでくる
		事後学習	滅菌と消毒についてまとめ、ワークシートを提出する
第 7 回	病原体対策：感染症の治療（化学療法剤の作用メカニズム、抗生物質、抗菌スペクトル、薬剤感受性試験、最小発育阻止濃度（MIC）、薬剤耐性）	事前学習	教科書 pp.49～58 を読んでくる
		事後学習	感染症の治療についてまとめ、ワークシートを提出する
第 8 回	感受性者対策：免疫のしくみ（自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞、体液性免疫と細胞性免疫、抗原抗体反応）、予防接種（定期接種と任意接種、ワクチンの種類）	事前学習	教科書 pp.83～p107 を読んでくる
		事後学習	免疫の仕組みについてまとめ、ワークシートを提出する
第 9 回	主な微生物感染症①（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症法 1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第 10 回	主な微生物感染症②（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	感染症法 4 類感染症および HIV 感染症についてまとめ、ワークシートを提出する
第 11 回	主な微生物感染症③（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	性感染症、食中毒を起こす微生物についてまとめ、ワークシートを提出する
第 12 回	主な微生物感染症④（学生発表） 感染症法で規定している感染症の中からグループでテーマを選び、その原因病原体、症状、致死率、治療法、予防法などをまとめ、わかりやすく発表する	事前学習	教科書の該当ページを読んでくる
		事後学習	ウイルス性かぜ症候群やウイルス性肝炎についてまとめ、ワークシートを提出する
第 13 回	常在微生物を用いた実習（各種手洗い前後の手に存在する細菌を培養する）	事前学習	教科書 pp.61～62 を読んでくる
		事後学習	手洗い方法と細菌実習の内容をまとめてくる
第 14 回	常在微生物を用いた実習（培養結果を観察し、手洗いの効果を考察する）	事前学習	細菌実習の結果を予想する
		事後学習	細菌実習の結果を観察して考察を加えレポートを提出する
第 15 回	まとめ	事前学習	病原微生物学で作成し返却されたワークシートを見直す
		事後学習	学習したことを振り返り、養護教諭や保健科教諭としての病原微生物に対する基本的考え方や感染制御方法をまとめる。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	病弱教育Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3451 SNMP3451
2. 授業担当教員	立松 英子		SCMP3451 SBMP3451 SSMP3351
4. 授業形態	病弱教育Ⅰを踏まえた講義・演習・模擬授業	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>近年、小児医療においては 6 ヶ月以上の長期入院は少なくなり、入院と退院を繰り返しながらも家庭や地域で過ごす時間を重視した治療形態がとられるようになってきている。病弱教育の対象は、小児がんや腎疾患など小児慢性特定疾患のみならず、心因性の障害から不登校や入院加療を必要とする児童生徒にも広がり、また、重症心身障害児施設を併設する病院や特別支援学校では、呼吸障害、摂食障害等、生命にかかわる重篤な障害を合併し、医療的ケアが不可欠な児童生徒も教育が受けられるようになってきている。</p> <p>本科目では、病弱特別支援学校や院内学級及び訪問教育における実践を念頭に、個に応じた学校側の配慮事項や授業に向けての実態把握、指導計画や学習指導案の作成、教材作成などのスキルを学んでいく。</p>		
8. 学習目標	<p>病虚弱児の生涯を見通し、その心理と生活実態を踏まえた、教育的支援ができるようになる。</p> <p>① 病虚弱児の教育の現状や教育行政の新しい動きがわかる。</p> <p>② 治療が長引く疾病、発達障害や心因性の不登校、重症心身障害児などさまざまな状態の「病虚弱児」の病態の概要がわかり、適切な配慮事項を含んだ指導計画が作成できるようになる。</p> <p>③ 様々な形態での授業に向けた、実態把握、指導計画や学習指導案の作成、教材作成を行うための基礎知識が身につく。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書を参考に、グループで教材を作成し、模擬授業を行い、指導案を提出してください。随時小テストを行います。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 全国病弱教育校長会『病弱教育Q&A PartⅢ (教科指導編)』ジアース教育新社。</p> <p>【参考書】 ① 文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領」「小学校・中学校学習指導要領」「高等部学習指導要領」海文堂出版。 ② 文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)」教育出版。 ③ 文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)」海文堂出版。 ④ 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・全国特別支援学校病弱教育校長会『病気の子どもの理解のために』 http://www.nise.go.jp/portal/elearn/shiryoku/byoujyaku/supportbooklet.html ⑤ 飯野順子編著『障害の重い子どもの授業づくり PartⅠ～Ⅲ』ジアース教育新社。</p>		
11. 成績評価の方法	発表とレポートの提出 (模擬授業づくりと指導案) 30% (期限内提出重視)、 授業態度 20% 期末試験 50%		
12. 受講生へのメッセージ	<p>① 本授業では、指導案を書き、個々のニーズに合わせた模擬授業を行っていただきます。教材準備もその中で行います。授業はチームワークの勉強でもあります。実際に教師になったつもりでやりましょう。</p> <p>② 「病気の子ども」がいるのではなく、子どもや家族の人生があってそこに病気があります。このことをふまえて、普段から教師としての感性や資質を磨きましょう。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション／病虚弱児とは	事前学習	病弱教育Ⅰで学習した内容を振り返っておこう。
		事後学習	学校教育法施行令第 22 条の 3 での病弱者の定義を暗記しておこう。
第 2 回	病弱教育の場、担当する教師の役割	事前学習	病弱教育の場について、教科書の p.14 の図を見て確認しておこう。
		事後学習	通常学級の教師及び病弱特別支援学校の教師の立場で、役割について整理しておこう。
第 3 回	病虚弱児の教科指導と授業作り	事前学習	学習指導要領解説 (総則等編) で、病弱児の教科指導の配慮事項を調べておこう。
		事後学習	教科書の各指導例で「配慮事項」の部分に線を引いておこう。
第 4 回	指導案及び個別の指導計画の作成	事前学習	教科書にある「個別の指導計画」例を読んでおこう。
		事後学習	指導案がどのような組み立てになっているか確認しておこう。
第 5 回	教材・教具についての基本的概念	事前学習	教科書にある教材教具の内容とねらいについて、調べておこう。
		事後学習	教材教具の意義についてまとめておこう。
第 6 回	重症心身障害児の教育	事前学習	「重症心身障害児」とは何か、どのような場で暮らしているのか調べておこう。
		事後学習	「重症心身障害児」の学習内容について確認しておこう。
第 7 回	不登校児 (心因性障害や発達障害による) への対応	事前学習	「不登校」の定義とは何か調べておこう。
		事後学習	学校に行けなくなる要因について、まとめておこう。
第 8 回	病虚弱児の教科指導への配慮事項	事前学習	第 1 回～7 回までの学習内容を整理しておこう。

	(まとめ)	事後学習	教科書 各指導事例の「指導上の配慮事項」を読んで、模擬授業の指導案に生かそう。
第 9 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第 10 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第 11 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第 12 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	授業のテーマを選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
第 13 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第 14 回	演習 (指導案作成、教材作り、模擬授業)	事前学習	対象学年と授業科目を選び、指導案、教材、教材説明書を用意する。
		事後学習	観察メモを読んで、授業の改善点を記録しておく。
第 15 回	病弱教育の現状と課題 (まとめ)	事前学習	第 1 回～15 回までの学習内容を整理しておこう。
		事後学習	答えられなかった部分、気づかなかった部分を確認しておこう。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉科指導法 (4 単位)		3. 科目番号	SSMP3441 SCMP3441 SBMP3441
2. 授業担当教員	大門 俊樹			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	高等学校福祉科の主旨、目標、科目構成と内容についての理解を図る。また、一問一答などを通して、福祉科の授業を行う上で必要な社会福祉の基礎的・専門的知識や技術についても整理する。さらに、受講生全員が模擬授業をつくりあげることにより、福祉科教員としての基礎を確立することを目指す。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高校福祉科の設置経緯と位置づけについて理解し説明できるようになる。 2. 福祉科の教育目標と教育内容について理解し説明できるようになる。 3. 各科目 (新教育課程 7 科目) に関して理解し説明できるようになる。 4. 教材研究と指導案作成について理解し、模擬授業の計画に備え発表できるようになる。 5. 授業展開例と授業評価について理解し説明できるようになる。 6. 模擬授業を計画し、実際に全員が授業を行い、福祉科教育実習の準備の第一歩とする。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教育実習に備えるために、1時間分の学習指導案を作成し提出するとともに、全員が模擬授業を体験する。その後、一人ひとりの授業についての振り返りを行った後、添削をした学習指導案を返却し、教育実習に生かしていく。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 村川浩一他『(H25 新課程) 社会福祉基礎』実教出版。 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版。 【参考書】 東京福祉大学編『教職科目要説』ミネルヴァ書房。			
11. 成績評価の方法	学習指導案 50% 授業内で行う模擬授業準備・発表活動等 30% 授業態度・レポート等の提出物 20% 学校での授業補助・行事参加等の教育ボランティア活動を行った場合は、評価し加算する。			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席・遅刻・早退をしないこと。 2. 授業中は携帯電話や PHS 等の電源は切り、私語・居眠りは慎み、常に緊張感と集中力を保つこと。 3. 授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も改善が見られないときは、F 評価とする。 4. 授業での積極的な取り組みを評価するので、グループディスカッションや意見の発表時には間違いを恐れず、恥ずかしがらずに前へ出ること。 5. 授業中に指示された課題の提出期限は守ること。 6. この授業では、全員が福祉科の模擬授業を行う。受講生の中には福祉科で教育実習を行わない学生もいると考えられるが、福祉科指導法の履修には必須といえるため、積極的に取り組むこと。 			
13. オフィスアワー	最初の授業で発表する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業ガイダンス、高校福祉科の設置経緯のねらい 1	事前学習	自分がなぜ福祉科教員免許を取得するのか、よく考えて授業に臨む。	
		事後学習	福祉教育の類型をまとめ、理解する。	
第 2 回	高校福祉科の設置経緯のねらい 2	事前学習	高校福祉科の教育目標をチェックし、理解する。	
		事後学習	教科「福祉」が登場した時代背景について理解し、まとめる。	
第 3 回	高校福祉科の教育目標と科目編成	事前学習	一問一答に対応するため、現代社会と福祉の復習をする。	
		事後学習	高等学校の教育目標を確認し理解する。	
第 4 回	学習指導要領総説、教育評価	事前学習	学習指導要領総説を読んだうえで授業に臨む。	
		事後学習	学習指導要領と福祉科について整理するとともに、福祉科の教育目標を再確認する。	
第 5 回	福祉科の各科目 1 (社会福祉基礎)	事前学習	一問一答に対応するため、地域福祉の理論と方法の復習をする。	
		事後学習	社会福祉基礎の目標と学習内容を整理する。	
第 6 回	福祉科の各科目 2 (介護福祉基礎)	事前学習	学習指導要領における介護福祉基礎の内容を読んだうえで授業に臨む。	
		事後学習	介護福祉基礎の目標と学習内容を整理する。	
第 7 回	福祉科授業の具体的内容 1 (諸外国における社会福祉)	事前学習	一問一答に対応するため、福祉行財政と福祉計画の復習をする。	
		事後学習	「諸外国における社会福祉」に関する授業用教材を作成する。	
第 8 回	福祉科授業の具体的内容 2 (日本における社会福祉)	事前学習	「日本における社会福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。	
		事後学習	「日本における社会福祉」に関する授業用教材を作成する。	
第 9 回	福祉科授業の具体的内容 3 (社会福祉・社会保障制度の意義と役割)	事前学習	一問一答に対応するため、社会保障の復習をする。	
		事後学習	「社会福祉・社会保障制度の意義と役割」に関する授業用教材を作成する。	

第 1 0 回	福祉科授業の具体的内容 4 (子ども家庭福祉)	事前学習	「子ども家庭福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。
		事後学習	「子ども家庭福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 1 回	福祉科授業の具体的内容 5 (障害者福祉)	事前学習	一問一答に対応するため、低所得者に対する支援と生活保護制度の復習をする。
		事後学習	「障害者福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 2 回	福祉科授業の具体的内容 6 (高齢者福祉)	事前学習	「高齢者福祉」を読んだうえで、要点をまとめる。
		事後学習	「高齢者福祉」に関する授業用教材を作成する。
第 1 3 回	福祉科授業の具体的内容 7 (生活支援のための公的扶助)	事前学習	一問一答に対応するため、保健医療サービスの復習をする。
		事後学習	「生活支援のための公的扶助」に関する授業用教材を作成する。
第 1 4 回	福祉科授業の具体的内容 8 (国民生活を支える社会保障制度)	事前学習	「国民生活を支える社会保障制度」を読んだうえで、要点をまとめる。中間まとめ(基礎力診断テスト)に対応するため、福祉科の内容について、総復習をする。
		事後学習	「国民生活を支える社会保障制度」に関する教材を作成する。
第 1 5 回	福祉科授業の具体的内容 9 (地域福祉の進展と地域の将来)	事前学習	一問一答に対応するため、障害者に対する支援と障害者自立支援制度の復習をする。
		事後学習	「地域福祉の進展と地域の将来」に関する教材を作成する。
第 1 6 回	指導計画の作成	事前学習	学習指導計画とは何なのかについて理解し、授業に臨む。
		事後学習	学習指導案の項目をまとめる。
第 1 7 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、相談援助の基盤と専門職の復習をする。
		事後学習	模擬授業で扱う単元を決める。
第 1 8 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	模擬授業の指導案を作成する (1)。
		事後学習	模擬授業の指導案を作成する (2)。
第 1 9 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、相談援助の理論と方法を復習する。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する (1)。
第 2 0 回	模擬授業準備 (指導案作成)	事前学習	一問一答に対応するため、高齢者に対する支援と介護保険制度の復習をする。
		事後学習	模擬授業用の教材を作成する (2)。
第 2 1 回	模擬授業準備 (指導案作成、練習) 1	事前学習	一問一答に対応するため、児童や家庭に対する支援と児童・家庭支援制度の復習をする。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (1)。
第 2 2 回	基礎力診断テスト、模擬授業準備 (指導案作成、練習) 2	事前学習	基礎力診断テストに対応するため、福祉科の内容について、総復習をする。
		事後学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (2)。
第 2 3 回	模擬授業 (発表) 1	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (3)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 4 回	模擬授業 (発表) 2、 模擬授業 1～2 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (4)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 5 回	模擬授業 (発表) 3	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (5)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 6 回	模擬授業 (発表) 4、 模擬授業 3～4 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (6)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 7 回	模擬授業 (発表) 5	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (7)。
		事後学習	他の学生の授業を見て、良い点があったら、取り入れるようにする。
第 2 8 回	模擬授業 (発表) 6、 模擬授業 5～6 の振り返りと講評	事前学習	模擬授業の指導案に基づき練習する (8)。
		事後学習	模擬授業チェック表を見て、自分の授業の反省点を明らかにする。
第 2 9 回	まとめ 1 (全員の模擬授業に対する講評)	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする。
第 3 0 回	まとめ 2 (全員の模擬授業に対する講評)	事前学習	自分の模擬授業について、反省点を再度明らかにする。
		事後学習	模擬授業に対する講評を聞いて、自分に取り入れるべきところを明らかにする。

1. 科目名 (単位数)	福祉行財政と福祉計画 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3103 SNMP3303 SCMP3103 SBMP3103 PSMP3403												
2. 授業担当教員	尹 文九														
4. 授業形態	講義、グループ討議等	5. 開講学期	秋期												
6. 履修条件・ 他科目との関係															
7. 講義概要	<p>市場の失敗が問われている現在、これからは福祉分野においても、行政の役割が市場機能より重要になると考えられる。こうした問題意識から本講義は福祉と関連し、パブリック（行政）が行っている事について以下の点を中心に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 														
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉分野において市場の失敗と行政の機能の変化について理解し、説明することができる。 2. 福祉サービスの担い手として行政組織の役割について学習し、理解を深める。 3. 福祉予算と福祉サービスの関係について学び、説明できるようになる。 4. 福祉計画の理論と技法について、また、福祉計画がなぜ重要になってきたのかについて学び、説明できるようになる。 5. 福祉行政の過程すなわち、plan→do→see→feed back について学び、理解を深める。 6. 福祉計画の策定のとき、なぜ住民参加が重要なのかについて理解し、説明することができる。 														
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1：福祉計画にはどのようなものがあるのかについて(A4サイズ2枚)														
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『福祉行財政と福祉計画』中央法規。</p> <p>【参考書】 坂田周一『社会福祉計画』有斐閣。</p>														
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1) レポートと課題</td> <td>20%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2) 授業への参加度</td> <td>30%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3) ミニテスト</td> <td>50%</td> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>なお、本学規定により、単位取得のためには 3/4 以上の出席を必要とする。 まだ、公欠以外の欠席や遅刻は減点の対象になる。</p>			1) レポートと課題	20%			2) 授業への参加度	30%			3) ミニテスト	50%	計	100%
1) レポートと課題	20%														
2) 授業への参加度	30%														
3) ミニテスト	50%	計	100%												
12. 受講生への メッセージ	<p>本学の基本方針として学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を育成することを目的としている。 受講生は上記の目的達成のため、下記の事を守ることが期待されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中は常に緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加すること。 2) 席は前から男女混合で座ること。 3) 授業中に理解できなかったことをそのまま放っておかず、質問をすること。 4) 授業中は私語、居眠り、また途中入出をしないこと(正当な理由以外は減点の対象になる)。 5) 宿題及びレポートの提出期間を厳守すること。 6) グループ討議にはメンバー全員が積極的に参加することと他人が発表するときにはきちんと傾聴すること。 														
13. オフィスアワー	授業中に通知する(時間割表掲載のオフィスアワー欄参照)														
14. 授業展開及び授業内容															
講義日程	授業内容	学習課題													
第 1 回	オリエンテーション 第 1 セクター(民間)と第 2 セクター(行政)の相違点	事前学習	学習用ノートを準備し、シラバス・教科書に目を通し、講義に臨むこと												
		事後学習	行政と民間の相違点についてまとめる												
第 2 回	福祉と制度 福祉を実現する主体と機能、社会福祉の捉え方、 社会福祉と社会保障の違いについて	事前学習	pp.2～10 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	社会福祉の概念の変遷についてまとめる												
第 3 回	福祉の法制度の展開 時代によってどのような制度ができ、特徴があるのか、 社会福祉における市場と行政の機能変化について	事前学習	pp.11～23 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	社会福祉における市場と行政の機能変化についてまとめる												
第 4 回	福祉計画の概要 社会福祉と計画の関係、福祉行政と福祉計画について	事前学習	pp.24～31 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	福祉行政と福祉計画についてまとめる												
第 5 回	行政の骨格と社会福祉の法制度 政府の役割と地方自治体の関係、社会福祉の法令を読む ポイント	事前学習	pp.34～43 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	社会福祉関連法令の専門用語をまとめる												
第 6 回	福祉行政の組織(中央及び地方政府を中心に)	事前学習	pp.44～51 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	厚生労働省の機能についてまとめる												
第 7 回	社会福祉基礎構造改革と福祉サービスの利用方式の分 化について	事前学習	pp.54～60 を熟読し、要点をまとめる												
		事後学習	福祉サービスの利用方式についてまとめる												
第 8 回	財政と社会福祉	事前学習	pp.62～68 を熟読し、要点をまとめる												

	社会保障給付費とは、社会保障給付費の推移、社会保障関係費の動向について	事後学習	日本の社会保障給付費の動向の特徴についてまとめる
第 9 回	地方自治団体の財政と民生費の動向、民間と利用者負担	事前学習	pp.69～75 を参考に自分が住んでいる地方自治団体の民生費を調べてまとめる
		事後学習	日本の民生費の動向の特徴についてまとめる
第 10 回	福祉行政の専門機関と専門職 福祉関連専門機関と専門職にはどのようなものがあるのか	事前学習	pp.86～100 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 11 回	福祉計画の基本的視点 計画と計画化、目標と目的の違いや PDCA サイクル、福祉計画の概念や主体そして類型について	事前学習	pp.116～133 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	福祉計画のプロセスについてまとめる
第 12 回	福祉計画におけるニーズ把握について	事前学習	pp.134～141 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	客観的ニーズと主観的ニーズの関係についてまとめる
第 13 回	福祉計画における評価について	事前学習	pp.142～148 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	評価技法についてまとめる
第 14 回	福祉計画の事例研究の視点と種類について	事前学習	pp.158～163 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	講義で理解した内容をまとめる
第 15 回	福祉計画における住民参加の方法となぜそれが重要なのか	事前学習	pp.149～155 を熟読し、要点をまとめる
		事後学習	住民参加の方法及び重要性についてまとめる
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1329
2. 授業担当教員	成田 成		
4. 授業形態	講義 (学習参考例)、演習 (ワークシート)、ディスカッション、レポート課題、発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	福祉や教育の現場では、突然生じる問題を的確に発見して捉え、福祉や教育を必要とする各人のニーズに応えられるように解決していかなければならない。そのためには、これまで我が国で主流とされてきた一方的な知識注入型の授業法を改め、学生が主体となって学習に取り組めるような双方向対話型の授業法に切り替えていかなければならない。本授業では、主に「新聞記事」「視覚教材」「学習参考例」などをもとにして、日本の福祉と教育のあり方について考え、真に必要な能力は何かを分析しながら、現代社会で求められる福祉従事者や教育者のあり方について考察する。		
8. 学習目標	本講義では、①ディスカッションでは、他人の意見を受け入れつつ、柔軟な思考力や問題解決能力を養うこと、②発表では、聞き手に理解されやすい表現力を身に付けること、③レポート課題では、論理的でわかりやすく簡潔な文章が書けるような文章作成能力を身に付けること、を学習目標としている。また、①～③に記した能力を兼ね備え、福祉や教育の現場で役立つ実践力を身に付けることを究極の目標としている。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：最終日の授業時間には、「本授業に参加して興味を持ったことについて、自分でテーマを決めて1,000字程度で論述せよ。」というテーマでレポートを作成していただく。		
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の方法	レポート課題: 60 点、授業態度 (発表などを含む) : 40 点、合計 100 点 4 分の 3 以上の出席がない場合には、単位を与えないこととする。		
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、ディスカッションや発表を通じて、福祉と教育のあり方について考え、福祉や教育の現場で役立つ能力を養っていただきたい。そのためにも、本授業に参加して、①レポート課題やワークシートでは、論理的でわかりやすい簡潔な文章の作成能力、②ディスカッションでは、柔軟な思考力や問題解決能力、③発表では、発言力や表現力を身に付けてほしい。		
13. オフィスアワー	時間：授業のある日の休み時間または放課後 場所：伊勢崎キャンパス：4 号館 1 階 120 研究室		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方、心得など) なぜ「福祉と教育」という科目が開講されたのか	事前学習	「福祉」と「教育」の共通点について考えてくる。
		事後学習	「福祉と教育」を開講した理由について振り返る。
第 2 回	日本の教育の現状① (教師による児童のいじめ)	事前学習	教師による児童のいじめ問題についての具体例を考えてくる。
		事後学習	いじめ問題の解決策について、さまざまな視点から考察する。
第 3 回	日本の教育の現状② (教員の指導力不足)	事前学習	教員の指導力不足を感じた事例について考えてくる。
		事後学習	教員の指導力不足の問題の具体的な解決策について練り直す。
第 4 回	日本の教育の現状③ (小学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	小学校時代に良かった授業について振り返ってみる。
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。
第 5 回	日本の教育の現状④ (中学校教師によるモデル授業) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	中学校時代に良かった授業について振り返ってみる。
		事後学習	学んだことについて、将来、どのように活かすかを考えてみる。
第 6 回	日本の教育の現状③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	日本の教育の現状③④のビデオで学んだことを整理してくる。
		事後学習	福祉または教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第 7 回	有能な人材育成に繋がる授業法	事前学習	印象に残る素晴らしい授業について振り返る。
		事後学習	有能な人材育成に繋がる授業について考えてくる。
第 8 回	福祉の現場① (在宅介護でのターミナルケア) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	ターミナルケアについて調べてくる。
		事後学習	在宅介護で重要なことを再確認する。
第 9 回	福祉の現場② (モデルとなっているデイケアハウス) ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	デイケアハウスについて調べてくる。
		事後学習	モデルとなっているデイケアハウスの長所と短所を確認する。

第 10 回	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場①②のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第 11 回	福祉の現場③（難病患者の介護—コミュニケーションの重要性） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	難病についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第 12 回	福祉の現場④（認知症患者への対応） ・ビデオ鑑賞で学んだことについてのレポート作成	事前学習	認知症についての具体例をいくつか調べてくる。
		事後学習	ビデオで学んだことについて整理しておく。
第 13 回	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して ・福祉や教育の現場で応用すべき点についてディスカッション	事前学習	福祉の現場③④のビデオを鑑賞して学んだ点を整理してくる。
		事後学習	福祉や教育の現場で応用すべき点を自分の将来と関連させる。
第 14 回	バイステックの7つの原則（福祉と教育への応用） ・福祉従事者や教育者にとって重要なこと	事前学習	バイステックの7つの原則について調べてくる。
		事後学習	福祉従事者と教育者にとって重要なものは何かについて考える。
第 15 回	合格点がもらえるレポートの書き方 ・レポート（本授業に参加して興味を持ったこと）	事前学習	本授業に参加して興味を持ったことについて整理しておく。
		事後学習	作成したレポートについて要点を再確認する。

1. 科目名 (単位数)	米文学 (作家・作品論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3319
2. 授業担当教員	日下 洋右		
4. 授業形態	講義、発表、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「異文化理解」を履修すること。		
7. 講義概要	この授業では、アメリカ文学の歴史的な主潮を概観し、アメリカ文学の主要作家と作品を考察するとともに、各々の作家とその作品の時間的・空間的特徴および文化的背景をも明らかにして、今日の国際化社会で不可欠のグローバルな視野を広げることを目的とする。また、各主要作家の主要作品の名場面あるいは名文の一部を読んで、作品の真髄に触れ、名作や古典と呼ばれる所以を知ることができるようにする。 文学の歴史的考察は、文化史的視点とも重なり合い、密接に関連しあう側面を有している。その意味では、「米文学(作家・作品論)」は「異文化理解」を補完し、深化させる役割をも果たしているといえる。		
8. 学習目標	アメリカ文学の全体像と各作家・作品の特徴を分析し考察して、その成果をまとめて発表できるようになることに加え、自らの意見をレポートにまとめることもできるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるため、また主体的に授業に取り組む姿勢を養うため、発表形式を取り入れるので、発表の準備をすること。 2. 学習したことに対して自分の意見を持つことが大切なので、アメリカ文学から何を感じ、何を得たかについて自己の見解をレポート (2,000字程度) にまとめて提出すること。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントを使用する 【参考書】 板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶ アメリカ文学史』ミネルヴァ書房。 大橋健三郎・斉藤光・大橋吉之輔『総説アメリカ文学史 研究社』 福田昇八『イギリス・アメリカ文学史』南雲堂。 井上謙治『アメリカ小説入門』研究社。		
11. 成績評価の方法	レポート 30% 発表 30% 小テスト 20% 受講態度・参加姿勢 20%		
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、発表、ディスカッション、レポートの作成に重点を置いて、アメリカ文学の修得を目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を順守すること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で受講すること。 2. 理解できないことをそのままにしておかないで、自ら進んで質問すること。 3. 授業の欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合には、その理由を必ず教員に報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された場合には、厳格な指導を行う。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的や目標を明確にする。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに、専門用語はわかりやすく説明する。 3. 学生が積極的に授業に参加できる学習環境をつくる。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合には、厳格に対処する。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	イントロダクション アメリカ文学の概観、発表の仕方とまとめ方	事前学習	米文学に関して知っていることを発表できるようにまとめておく。
		事後学習	米文学の流れのポイント、発表の仕方とまとめ方を確認する。
第2回	初期のアメリカ文学 ピューリタニズムの文学	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第3回	国民文学の創成 アメリカ・ゴシックのはじまり、 ニッカーボッカー派の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第4回	国民文学の成熟 アメリカン・ルネッサンス期の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第5回	アメリカン・リアリズムの確立	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の

	南北戦争後のリアリズムの作家と作品		意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 6 回	自然主義の文学 自然主義の作家と作品、地方色の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 7 回	ロスト・ジェネレーションの文学 第 1 次世界大戦後の失われた世代の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 8 回	社会参加の文学 社会小説の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 9 回	第 2 次世界大戦後の文学 戦争小説の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 10 回	エスニックの文学 アフロ・アメリカンの作家と作品、 ユダヤ系の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 11 回	ニューヨーカー派の文学 週刊誌『ニューヨーカー』から生まれた作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 12 回	ビート・ジェネレーションの文学 ビート・ジェネレーションの作家と作品、 亡命・国外離脱の作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 13 回	ポストモダニズムの文学 前衛・実験的な作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 14 回	ミニマリズムの文学 ニュー・リアリズムの作家と作品	事前学習	プリントを読み込んで発表の準備をし、原作の意味を調べておく。
		事後学習	プリントを読み返し発表時の問題点と原作の読み違いを確認する。
第 15 回	まとめ、レポートを書くための要点と諸注意	事前学習	プリントと参考書の必要な箇所を読み、レポートを書く準備をする。
		事後学習	レポートを書く要点と諸注意を確認して、レポートを書き進める。

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導 I (2 単位)		3. 科目番号	SJMP3251
2. 授業担当教員	幸喜 健			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	保育実習 I の意義・目的・内容・方法を理解する。児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を理解する。さらに実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。指導計画を立案し、実践に必要な準備を行う。実習後には、実習総括・評価を行い、新たな学習目標・課題を明確化する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の種類及び機能と保育士の役割を明確にする。 2. 実習記録の意義・方法を理解し、実習から得た学習内容を具体的に記録することができる。 3. 指導案の立案とそれに基づく模擬保育演習を行い、実践力を身につける。 4. 演習と議論を繰り返すことにより、理論と実践の統合とは何かを理解し、説明することができる。 5. 保育者を目指す者として望ましい態度を身につけられるよう、自身の日常生活態度、言葉遣い、服装、実習に臨む心構え等を自己評価・点検できる力を習得する。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習部分に示した事柄に取り組んだ上で授業に臨むこと。 ・実践に役立つ教材製作の課題を提示する。(授業中に指示する) 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】『保育実習の手引き』 【参考書】小櫃智子他『幼稚園・保育所 パーフェクトガイド』わかば社、2013 年 駒井美智子編著『施設実習ガイド』萌文書林、2014 年 百瀬ユカリ『実習に役立つ保育技術』創成社、2009 年			
11. 成績評価の方法	授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) 60% 提出物とその内容 20% 授業のまとめレポート 20% ※本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	保育実習は、これまで履修した科目の学習を前提として行われます。今までの学習全てを現場でフル活用していく心構えで授業に臨んで下さい。さらに実習終了後は、実習での学びを活かして今後履修する科目の学習の糧にして欲しいと願います。実際に子どもの目の前に立つ皆さんは、子どもにとってひとりの大人のモデルとなります。保育者は全人格を問われる職業であることを自覚して、実習事前・事後それぞれに自己課題を明確にもって向上していけるよう頑張ってください。日々の弛まぬ努力を期待しています。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	保育実習 I・II・IIIそれぞれの目的と授業概要、実習の流れを理解する。施設実習の基礎知識を学習する。	事前学習	「保育実習指導 I」の学習ノートを準備して授業に臨む。実習の手引きの「保育実習の内容」部分を読む。	
		事後学習	保育実習 I の実習目標を復習する。	
第 2 回	実習におけるマナーと勤務の留意点を確認する。先輩の体験談から実習生としてのあるべき態度を理解する。	事前学習	『保育実習の手引き』の「実習に関する基本的ルール」及び「留意事項」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	ノートに記録した先輩からの体験談をまとめて、要点を整理する。	
第 3 回	施設実習オリエンテーションへの準備を通して、実習施設別の目的と内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの実習オリエンテーションへの準備、必要とする持ち物、の箇所を読み、必要なものを準備する。	
		事後学習	施設実習自己課題を明確にする。	
第 4 回	施設実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	施設実習に関する教科書の「実習日誌の書き方」の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	『保育実習 学習の手引き』のなかの「実習記録について」及び「実習記録の提出にあたって」を読み、復習する。	
第 5 回	保育実習の基礎知識を学び、保育所の一日の流れを把握する。乳幼児の発達の特徴と年齢別による保育の留意点を理解する。	事前学習	『保育所保育指針』のなかの年齢別発達の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	保育所のデイリープログラムのサンプルを読み、保育所生活の一日の流れを把握する。	
第 6 回	施設実習直前に向けて最終準備を行い、実習への心構えを再確認する。	事前学習	『保育実習の手引き』の守秘義務の箇所を読み、理解する。	
		事後学習	施設実習の実習ノートを見直し、記述もれの有無を最終チェックする。	
第 7 回	保育所実習オリエンテーションへの準備を通して、保育所実習の実習課題を明確にする。	事前学習	『保育実習の手引き』のなかの保育所実習 I の実習目標を読み、理解する。	
		事後学習	保育所実習自己課題を明確にする。	
第 8 回	保育所実習における記録の意義を理解し、実習記録の望ましい記述方法を身につける。	事前学習	保育実習に関する教科書の「実習日誌」の箇所を読み、理解する。	

		事後学習	授業で視聴したVTRのなかの「子どもの姿」について記録したエピソードを清書する。
第 9 回	部分・責任実習について理解し、指導計画の理解と立案方法を習得する。	事前学習	保育実習に関する教科書の「指導案」の箇所を読み、理解する。
		事後学習	課題とする指導案を立案し、模擬保育に備えてグループ全員で検討する。
第 10 回	保育演習（1）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 11 回	保育演習（2）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 12 回	保育演習（3）指導案作成に基づき模擬保育を実践し、省察を行い、望ましい援助とは何かを理解する。	事前学習	模擬保育に向けてグループ学習を行う。
		事後学習	模擬保育の反省を行い、実践に関する自己課題を明確にする。
第 13 回	施設実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	施設実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	施設実習の反省をふまえて、保育実習Ⅲに向けて、自己課題を明確にする。
第 14 回	保育所実習後の反省と新たな学習課題について、グループディスカッションと発表から、自己課題を明確にする。	事前学習	保育所実習を振り返り、省察の内容をまとめ、自己課題を考察する。
		事後学習	保育所実習の反省をふまえて、保育実習Ⅱに向けて、自己課題を明確にする。
第 15 回	授業のまとめをする。	事前学習	保育実習Ⅰを総合的に振り返り、保育士の専門性と自己課題について考察する。
		事後学習	保育士の専門性と自己課題について、レポートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	保育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT4497
2. 授業担当教員	チームティーチング		SCOT4497
4. 授業形態	演習 保育児童学科教員全員が分担して、ゼミ形式の授業をおこなう。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	保育児童専門演習とつなげて、通年で修得すること		
7. 講義概要	<p>保育児童専門演習に引き続き、保育の専門性を深めるため、グループまたは個人のテーマ、学習目的によって指導教員のもとで主体的に学習する。</p> <p>保育にかかわる理論的研究、実践的研究、実技研修等を、共同活動または、個人活動として行う。実技分野においては、実践における得意分野を作る一助とする。方法は、①特定の研究テーマのもとでの調査、継続観察、保育実践を行い研究結果をまとめる、②保育所・幼稚園・福祉施設などへの参加、保育補助活動を通して、実践力を高める、③新しい保育実践法（音楽、造形、体育、児童文化等）の開拓、研究を行うなどが想定される。最後に研究報告書、実践報告書の作成並びに発表会を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 4年制大学卒業生に求められる専門分野における、自己学習力、研究能力を身につける。 2 自分の得意分野、または不得意分野に対して自主的に研鑽を積み、保育者としての専門的能力を高める。 3 各指導教員のもとで、小人数による討論、共同作業、共同学習、役割行動等によって、人間関係を深めたり、自己表現をするとともに、実践現場への適応力を養う。 4 保育関連の今日的課題、新しい情報への関心を高め、研究資料の検索や文献による研究になじむ。 5 個性を十分に発揮し、創造性を養う。 6 保育現場において十分活躍できるよう、社会人、専門的職業人としての自覚を養う。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>グループによって活動目的、経過が異なるので、担当教員に任される。</p> <p>調査研究結果報告、実践報告、実技習得成果発表等、多様な形式による課題やレポートが課せられる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】各担当者によって提示されます。		
11. 成績評価の方法	各担当者によって提示されます。		
12. 受講生への メッセージ	<p>学生生活最後の学期です。存分に自己発揮して、充実した活動をしてください。</p> <p>仲間や教員とのコミュニケーションを大事にしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	各担当者によって提示されます。		
15. 授業展開及び授業内容			
01	幼児体育関連分野 現場での体育指導の在り方についての調査、観察研究、実践を通しての指導法の学習をする。		
02	造形、表現関連分野 造形活動表現をグループで体験しながら保育現場での活用方法を考え、また、子どもを囲むより良い環境の構成についても造形表現の立場から考える。		
03	音楽、表現分野 音楽表現活動をグループで体験しながら、子どもの発達、保育現場で活用について考えていく。創作オペレッタ、ペープサートによる音楽劇、創作手遊び、曲集作りなどを行う。		
04	保育理論分野 保育思想、保育制度、海外の保育等に関する文献研究や、現在の保育理論に基づく多様な保育実践法についてフィールドワークをする。		
05	保育実践分野 保育の「目的」(保育方針)、「保育内容」、「方法」、「教材研究」等保育実践に関する具体的学習活動をする。		
06	児童福祉分野 児童福祉関係機関への訪問、現場職員との交流、社会地域調査等を通して、福祉の実態に関する学習をする。		
07	保育心理分野 幼児の発達に即した保育実践法や保育のあり方等、現場体験を加えて発達と保育の理解を深める。		
08	障害児保育、特別支援分野 障害のある子どもや「気になる子ども」。統合保育のみならず、病院内保育、施設内保育など障害児療育のさまざまな形態に触れながら、実践的なスキルを学習する。		
09	小児保健分野 小児保健、小児保健実習で学んだことの総復習、子どもたちの健康を守り、健全な発育を促す対策(感染症、事故防止、救急看護、咀嚼力向上、歯科保健など)として、保育所、幼稚園、地方自治体などの取り組み等文献調査や実態調査を行う。		
10	保育にかかわる関連分野 幼小連携、学童保育、子育て支援などの諸問題に関する文献及び現場での体験的学習。		

1. 科目名 (単位数)	保育者論 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT1401 SCOT1401 SJMP1106
2. 授業担当教員	鈴木 美子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	現代の経済社会・生活環境の著しい変化の中で育つ子ども達の問題を見据えて、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、保育者の資質を身に付けられるようにする。家庭保育や集団保育の実践と関連して学び、どちらにおいても、子どもの気持ちを受容し、子どもと共に絶えず先の方角を洞察してふるまえる自分を育てることが必要になる。現代の子どもの育ちの危機を理解し、保育者の専門性について、子ども個々のかかわりから、保護者支援、専門職間・専門機関との連携など、様々な人間関係における協働を理解する。		
8. 学習目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育者の制度的な位置づけを理解する。 ③保育者の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の協働について理解する。 ⑤保育者の専門的成長について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート 保育とは保育者とは幼児とはについて理解し、保育の専門性と幼児の育ちを支える保育者の在り方について述べる。レポートをまとめることによって自分が保育をどのようにとらえていたかを自覚し、この科目の学びを深める契機とする。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】プリントを配付します。 【参考書】小田豊他編著『保育者論』北大路書房、2012。 秋民言編『改定 保育者論 第2版』建帛社、2010。 大場幸男企画『保育者論』萌文書林、2012。		
11. 成績評価の方法	授業態度 (出席、発言、討論) 25% 小テスト・小課題 25% レポート・期末試験 50%		
12. 受講生への メッセージ	子どもをよく観察することにより、子どもは周囲の人とのかかわりの中で育つことを感じ取る力を身につけてください。将来の保育者としての自分の姿を想像して、目標を設け努力してください。 1 授業のルールを守る。(遅刻、欠席をしない) 2 私語はしない。		
13. オフィスアワー	別途通知します		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、保育者の資質とは	事前学習	自分の幼児期の体験を資料として保育者の資質について考えておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第2回	保育者の在り方① (家庭保育と集団保育)	事前学習	家庭保育と集団保育の自分の経験をまとめておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第3回	保育者の在り方② (保育者の心構え)	事前学習	保育者としての心構えについてポイントをまとめておく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第4回	現代における保育者の使命と役割	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第5回	保育の制度 (学校教育法、幼稚園教育要領、幼稚園設置基準)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振プリントを読んでおくり返りの課題を課す
第6回	保育の制度 (児童福祉法、保育所保育指針)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第7回	保育の制度 (認定こども園、その他の施設)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返り小テストで出来なかった所を見直す
第8回	保育実践法 (子どもへのかかわり)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第9回	保育実践法 (環境の考え方)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第10回	保育実践法 (保護者支援)	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第11回	保育の歴史と代表的な人物 世界	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第12回	保育の歴史と代表的な人物 世界	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第13回	保育の歴史と代表的な人物 日本	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	振り返りの課題を課す
第14回	現代社会の生活と専門性の向上	事前学習	プリントを読んでおく
		事後学習	レポートを提出する
第15回	まとめ	事前学習	全体について確認事項・質問事項を拾い出しておく。
		事後学習	全体をよく振り返ること。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (健康) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2412 SCOT2412 SJMP1131
2. 授業担当教員	幸喜 健	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	配布資料による質疑応答形式およびグループディスカッションを主とした授業を行う。		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	保育内容を構成する健康について理解し、乳幼児の健康な心身の発達に及ぼす保育の可能性について学び、保育における健康な生活、健康への関心、健康増進、安全な生活、積極的な身体活動への援助について理解する。保育の全体構造における「保育内容健康」に関して総合的に指導・援助が行えるよう、具体的な実践例を通して、健康の内容、他領域の内容の総合的な展開のしかたについて習得する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うことが出来るようになる。 幼児が健康の諸問題について自ら学び、自ら考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導を学び、実践できるようになる。 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における健康領域の「ねらい」「内容」について理解し、習得して、「遊びによる総合的な」保育活動の中で実践できるようにする。 保育者として子どもの健康な心と体を育てることが出来るよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>アサイメント (宿題) :</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前学習で示された教科書部分を読み、学習ノートにまとめる。 授業内で配布するワークシートを仕上げ提出する。 <p>レポート課題:</p> <ol style="list-style-type: none"> 「乳幼児の心身の発達と遊び」について講義の内容をまとめ、具体的な事例を挙げて自身の考察を加える。(A4版、横書き、2枚に、10.5ポイント、明朝体で印字してください。) 授業で学んだ事柄のうち、自身の興味・関心のあるものを1つ取り上げてレポートを作成する。 ※詳細は授業の際に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】宮下恭子編『新版 保育内容「健康」初版』大学図書出版、2013年。</p> <p>【参考書】田中哲郎著『保育園における危険予知トレーニング』日本小児医事出版社、2006年。</p> <p>『保育所保育指針』</p> <p>『幼稚園教育要領』</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業態度 (個別学習・グループ学習における意欲的な取り組み) 50%</p> <p>課題レポート 30%</p> <p>提出物とその内容 20%</p> <p>合計 100%</p> <p>※本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合には単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>学習目標を達成するために受講生が下記の条件を厳守することを期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業では、常に緊張感と集中力を保って受講すること 積極的な態度で授業に参加すること 理解できないことをそのまま放置せず、授業中もしくはオフィスアワー等において必ず質問し、自らの疑問を解消すること アサイメントは期限までに必ずおこない、提出物やレポートの期日は厳守すること 授業は正当な理由のない限り欠席、遅刻、早退をしないこと (欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず書面をもって報告すること、理由の如何によっては減点対象とする) 授業中に私語は絶対にしない 授業中に居眠りをしない 携帯端末の授業中の作動は厳禁とする (電源を切るかマナーモードにして鞆にしまう) <p>※理由なく遅刻、早退をした場合、明らかに授業中の私語、居眠り、携帯端末の使用が見られた場合、その他授業に臨む上で不適切な態度が見受けられた場合には単位認定を行わない等厳格に対処します。</p>		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション (授業の概要と進め方、成績評価等について) 乳幼児の「健康」について	事前学習	「保育内容 (健康)」の学習ノートを準備し、講義に臨むこと。「健康」とはどのような状態を指すのか考えを学習ノートにまとめる。
		事後学習	乳幼児の健康について考えをまとめる。
第2回	領域「健康」のねらいと内容について	事前学習	教科書第1章 (pp.9-16) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	「健康」のねらいと内容についてまとめる。
第3回	乳幼児の心身の発育・発達について	事前学習	教科書第2章 (pp.17-32) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	子どもの心身の育ちを支える保育者の役割について考えをまとめる。
第4回	乳幼児の健康と遊び①	事前学習	教科書第3章 (pp.33-45) を読み、要点を学習ノートにま

	遊びの意義と遊びの発達過程 I		とめる。
		事後学習	具体的な遊びの事例を取り上げ、その意義と年齢・発達に応じた展開の仕方を学習ノートに記入する。
第 5 回	乳幼児の健康と遊び② 遊びの意義と遊びの発達過程 II	事前学習	年齢・発達に応じた遊びの展開について考えをノートにまとめる。
		事後学習	授業内で視聴した VTR をもとに乳幼児期の遊びについて考えをまとめる。
第 6 回	乳幼児の健康と遊び③ 運動遊び、戸外遊びの指導と内容について	事前学習	教科書第 4 章 (pp.46-57) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	運動遊び、戸外遊びを指導する際の留意点とその内容について考えをまとめる。
第 7 回	乳幼児の生活習慣の形成① 生活習慣の意義、生活習慣の形成について	事前学習	教科書第 5 章 (pp.58-72) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	生活習慣の意義と基本的な生活習慣の形成について考えをまとめる。
第 8 回	乳幼児の生活習慣の形成② 集団保育における指導の実際	事前学習	基本的な生活習慣の形成にあたり保育者として望まれる姿勢と子どもへの関わり方を考え、学習ノートに記入する。
		事後学習	現在の自分自身の姿を省察し、将来の保育者として今後身につけるべき考え方や姿勢を学習ノートにまとめる。
第 9 回	食育と健康について	事前学習	教科書第 6 章 (pp.73-80) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	自分自身の食生活について振り返り、健康のために実践していること、今後取り組むべき点について考えをまとめ、学習ノートに記入する。
第 10 回	安全教育① 乳幼児の発達と事故について	事前学習	教科書第 9 章 (pp.111-120) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	配布するワークシートを仕上げる。
第 11 回	安全教育② 事故防止のための取り組みの実際	事前学習	仕上げたワークシートを持参する。
		事後学習	過去に保育園で実際に起きた事故について調べ、何故そのような事故が生じたのか、どうすれば防げたのかを考察し、学習ノートに記入する。
第 12 回	子どもの健康についての課題① 多様化する保育形態と生活リズムの確立	事前学習	配布プリント (多様化する保育形態と生活リズムの確立) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	延長保育・夜間保育・休日保育など多様な保育形態を理解し、生活リズムを確立する上での問題について考察して学習ノートに記入する。
第 13 回	子どもの健康についての課題② 家庭・地域との連携、幼保小連携	事前学習	配布プリント (家庭・地域との連携、幼保小連携) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	幼保小連携の実践事例について調べ、学習ノートに記入する。
第 14 回	領域「健康」の指導計画	事前学習	教科書第 10 章 (pp.121-127) を読み、要点を学習ノートにまとめる。
		事後学習	指導計画例を参考に想定する年齢児におけるデイリープログラムを立案する。
第 15 回	乳幼児の健全な生活を育む保育者の役割と望まれる姿勢、授業総括	事前学習	第 1 回～第 14 回の授業を振り返り、保育者の役割と求められる姿勢について学習ノートにまとめる。
		事後学習	課題レポートを作成する。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2134
2. 授業担当教員	瑞穂 優		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、保育内容を構成する 5 領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。		
8. 学習目標	1.領域「言葉」の内容と意味を理解する 2.乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言語の発達の様相を理解する 3.乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解する。 4.領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5.言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6.児童文化財(絵本や紙芝居、パネルシアターなど)の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	乳幼児の発達に適した絵本を調べ、絵本ノートを作成する。 乳幼児の発達に適したわらべうたを調べ、わらべうたノートを作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】榎沢良彦・入江 礼子 編著 『シードブック 保育内容 言葉』 建帛社 【参考書】文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館		
11. 成績評価の方法	業参加態度 30% 課題レポートの提出状況と内容 30% 期末試験 40%		
12. 受講生への メッセージ	人間にとって言葉はとても大きな役割を果たしています。子どもにとってもそれは同じですが、小さな子どもは0から言葉を学習し、うまく言葉にすることができない経験をたくさん積んで発達しています。子どもの発達を支える者として、子どもの言葉についてしっかり学習してほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業の概要・子どもと「言葉」	事前学習	教科書の目次を読んでくる。
		事後学習	「言葉」のもつ意味をまとめる。
第2回	乳児期の発達と言葉	事前学習	教科書 第4章-1を読んでくる。
		事後学習	乳児期の発達についてまとめる。
第3回	乳児期の言葉の発達 DVD視聴	事前学習	教科書 pp.124・125を読んでくる。
		事後学習	DVDから学んだことをまとめる。
第4回	幼児期の言葉の発達	事前学習	教科書 第4章-2を読んでくる。
		事後学習	幼児期の言葉の発達についてまとめる。
第5回	文字への興味と保育	事前学習	教科書 第4章-3を読んでくる。
		事後学習	文字教育についてまとめる。
第6回	言葉の早期教育	事前学習	早期教育について自分の考えをまとめてくる。
		事後学習	早期教育についてまとめる。
第7回	言葉の発達が気にかかる子どもたち	事前学習	教科書 第4章-5を読んでくる。
		事後学習	言葉の遅れについてまとめる。
第8回	子どもにとっての言葉	事前学習	教科書 第3章を読んでくる。
		事後学習	子どもの世界と言葉についてまとめる。
第9回	言葉を育てる人とのかかわり	事前学習	教科書 第5章を読んでくる。
		事後学習	言葉を育てる保育者の役割についてまとめる。
第10回	言葉を育てる遊び	事前学習	教科書 第6章を読んでくる。
		事後学習	言葉を育てる遊びについてまとめる。
第11回	言葉を育てる絵本	事前学習	自分の好きな絵本を見つけてくる。
		事後学習	絵本ノートを作成する。
第12回	言葉を育てる読み聞かせ ～読み聞かせを体験をしよう～	事前学習	紹介したい絵本を探してくる。
		事後学習	読み聞かせ体験をまとめる。
第13回	言葉を育てるわらべうた	事前学習	自分の知っているわらべうたを思い出してくる。
		事後学習	わらべうたノートを作成する。
第14回	わらべうたで遊ぼう	事前学習	紹介したいわらべうたを練習してくる。
		事後学習	わらべうた体験をまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	これまでの授業をふりかえる。
		事後学習	期末試験の準備
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (言葉) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT2415 SCOT2415 SJMP2134
2. 授業担当教員	柳 辰男		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	本科目では、保育内容を構成する 5 領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。		
8. 学習目標	1.領域「言葉」の内容と意味を理解する 2.乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解する 3.乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解する。 4.領域「言葉」の指導方法を実践的活動場面から学び、子どもの言葉を育てる保育実践の力を身につける。 5.言葉をめぐる現代社会の現状と課題を理解し、保育者の役割の理解を深める。 6.児童文化財(絵本や紙芝居、パネルシアターなど)の基本的な技術を習得し、保育の展開や環境設定を考察し、実践力を高める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	アサイメント(宿題)は、保育者としての基礎的知識教養及び保育計画を表現する表現方法を身に付けるために以下の課題を実践演習し提出する。 <提出課題> 1. 幼児向けの絵本を20冊以上読み、指導上必要な内容を書式に従って整理して提出する。 2. 幼児及び小学校低学年向けの絵本を1冊選び、その教材研究、指導計画、展開の方法等を書式に従って書いて提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 村石昭三・関口準編著『領域 言葉』同文書院。 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 【参考書】 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版。		
11. 成績評価の方法	2. 授業態度、宿題の取り組み 40% (私語、居眠り、宿題未提出・遅れ マイナス点) (質問、発表、積極的参加貢献、宿題の誠実な取り組み 授業後の誠実なコメント記述 プラス点) 3. 提出課題 30% 4. 期末試験 30%		
12. 受講生への メッセージ	受講生の皆さんは、まだ実習体験をしている人は少なく、大部分の人は、乳幼児の言葉やコミュニケーションのイメージがなく、保育指導における言葉の指導の大切さや具体的方法や技術が意識されていないであろう。そこで、できるだけ、身近にいる乳幼児との接触をベビーシッターや幼稚園、保育所でのボランティアやアルバイト等を通して積極的にしてほしい。また、これからの保育所や幼稚園で実習している自分を想定しその時の責任観と実践的技術や喜びを感じながら積極的に学んでほしい。 そのために、次のことを、お互いに努力しよう。 1. 事前事後学習及び提出課題に誠実に取り組み、授業に積極的に参加すること。 2. 将来保育や教育等の仕事を志す者として、私語や不適切な眼差し等によって他の学習者の邪魔をしたり、人権や人格を傷つけたりすることのないように努めること。 3. 質問、話し合い、感想・作品・宿題等の発表、実演ロールプレー練習等に照れたりふざけたりすることなく誠実に積極的に参加し、自分を発揮すると共に他の人に役立つ役割を果たすこと。 4. 指導者の私は、授業の準備に努め、授業の開始終了時刻を厳守し、皆さんの質問や考えを誠実に受け止め応えるよう努力するので、皆さんは積極的に話しかけてください。		
13. オフィスアワー	第 1 回目の授業時に連絡する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバス確認。特に、受講生のメッセージと授業の展開及び期末提出課題を確認する。 幼稚園と保育所の違いを示したビデオを見てそれぞれの特徴を理解すると共に、領域言葉の取り扱いや今日的な課題、問題点を考える。	事前学習	乳幼児の言葉指導に対する関心を持ち希望が言えるようにする。
		事後学習	ビデオを見て幼稚園と保育所との違いについてまとめ、感想や疑問、意見をまとめて用紙に書いて提出する。
第 2 回	テキスト序章「幼児にとっての言葉とは」、第 1 章「言葉の教育の歴史」の理解、検討を通して、言葉指導のねらい等の基本的考え方を確かにする。	事前学習	教科書の 1. 乳幼児と言葉 2. 歴史の区分 3. 変遷の背景の要点をまとめ、意見、感想を書いておく。
		事後学習	乳幼児にとっての言葉の役割や指導支援の重要性をまとめ、意見、感想を文章化する。
第 3 回	テキスト第 2 章「乳幼児の言葉の発達と学習」を基にして、各発達段階の言葉の特徴を調べ、実際の乳幼児と大人の会話をロールプレーしながら理解を深めると共に保育者の役割を理解し実践力を身に付ける。	事前学習	1. 言葉以前の段階 2. 一語文期 3. 一語文から文への展開 の内容をまとめ感想を書く。
		事後学習	各発達段階の言葉の特徴を整理するとともに、泣き、指示行動、コミュニケーション行動の状況について感想や意見を文章化する。

第 4 回	前の授業に引き続いて、各発達段階の言葉の特徴を調べ、理解を深める。 言葉を育てる 3 つの要素についてグループで仮説を提出し全体で検討しまとめる。	事前学習	4 - 6 歳の文の自覚化と思考の手段となる言葉の姿、事例を集め記録するとともに「発達としての言葉」の要点をまとめる。
		事後学習	言葉と自我の発達、言葉を育てる 3 つの要素、言葉が育つ言葉のやり取り等の重要性をまとめ、意見感想を文章化する。
第 5 回	テキスト第 3 章「乳幼児の言葉の指導」の保育所保育指針の言葉に関する内容を中心に、各発達段階での言葉の指導のねらいと指導の実際と目標の理解を深める。	事前学習	保育所保育指針、幼稚園教育要領を領域言葉の目標を暗唱しておく。
		事後学習	言葉の指導支援の内容の意義価値を解説書の内容を参考にしてまとめ意見感想を文章化する。
第 6 回	言葉指導の実際をテキストの指導事例を基にしてグループごとに指導内容を分担して具体的な方法を考えロールプレー等の工夫をしてプレゼンテーションをし、実践力を育てる。 *提出課題 1 - ①提出	事前学習	分担した言葉の内容の実際の指導支援の場や方法を、教科書を参照しながら文章化しておく。
		事後学習	他のグループの発表、ロールプレーに対する感想や意見をまとめ文章化する。
第 7 回	前の授業に引き続いて、言葉指導の実際をテキストを基にしてグループでロールプレーやプレゼンテーションをして検討する。 発達に即した特徴的な問題状況に対する対応、支援の具体についてグループで考えロールプレーで発表しあい対応力を育てる。	事前学習	絵本の教材研究の①が提出できるようにする。
		事後学習	言葉指導の内容と発達段階に即した支援、言葉かけの実際について学んだことをまとめ文章化する。
第 8 回	乳幼児に対する言葉かけのコツや基本的な考え方について、多様な場面の事例を通して考え、練習して、実践力をつける。	事前学習	配布された乳幼児の問題状況場面における保育士の対応を自分なりの考えをまとめ文章化しておく。
		事後学習	発達に応じた問題状況に対する適切な対応とその背景の基本的な考え方を整理し感想や意見を文章化する。
第 9 回	年齢、時期等に応じた絵本の選択とその読み聞かせの方法について検討し、演習、実演を通して絵本の価値の理解と実践力を育てる。	事前学習	乳児に与えたい絵本を調べ持参する。
		事後学習	絵本を、言葉を育てる観点からその価値をまとめるとともに本の持ち方めぐり方、読み聞かせ方等の基本的な技術をまとめるとともに練習する。
第 10 回	紙芝居の特性や見せ方、演じ方の基礎的な知識、技術を理解し、実演を通して、紙芝居の価値の理解と実践力を育てる。 *期末課題 1 - ②提出	事前学習	絵本の教材研究②が提出できるように準備する。
		事後学習	紙芝居の歴史、保育所や幼稚園における活用の仕方や言葉指導との関係をとらえるとともに紙芝居の演じ方の基本技術をまとめ文章化する。
第 11 回	基礎的な言葉遊びの具体例をまとめ、実際に遊び、その価値と活用について理解を深めると共に言葉遊びのレパートリーを広げ実践力を確かにする。	事前学習	言葉遊びの経験や現在行われている言葉遊びの具体例を記録する。
		事後学習	伝統的な言葉遊び、早口言葉、発音練習歌、ことばあそびうた、いろはかるた、なぞなぞ等を身につけるように練習をする。
第 12 回	言語障害児の理解と子どもへの接し方と保護者への対応の基本を学ぶと共に関係機関に関する知識を広げる。 *期末課題 2 を提出する。	事前学習	障害と病気との違いを自分なりの考えを文章化したり、身近に見られる言語障害児の姿を文章化する。
		事後学習	言語障害の種類をまとめ、保育士としての対応の仕方の基本と留意すべき内容をまとめ文章化する。
第 13 回	文字指導における幼稚園と小学校との違いと連携の仕方についての理解を図ると共に幼児期における文字指導の方法の基本の理解と実践力を育てる。	事前学習	文字習得の自分の思い出や幼児期の文字指導に関する自分なりの考えをまとめ文章化してみる。
		事後学習	今日の保育所、幼稚園における文字の扱い方の具体例を求めるとともにその課題、問題点をまとめ自分の考えを文章化する。
第 14 回	文字の系統的指導の基本を知り、実際の指導活動を体験する。 言葉に関するお楽しみ会の出し物の種類や意義を考えグループの出し物を決めて練習する。	事前学習	小学校との連携における文字の系統的な指導の具体的方法を自分なりに文章化する。 お楽しみ会の具体例を収集する。
		事後学習	系統的な文字指導の大切さを体験し感想や意見を文章化する。 言葉に関するお楽しみ会の出し物をグループで練習する。
第 15 回	「楽しい、言葉遊びとお話の会」の開催 授業評価	事前学習	言葉に関する出し物の準備、練習をしておく。
		事後学習	実習や実際に現場に立つ前に習得しておくことよい、乳幼児向けの言葉遊びや言葉に関する児童文化の技術を練習しておく。

期末試験

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (人間関係) (2 単位)	3. 科目番号	SSOT3413 SCOT3413 SJMP3132
2. 授業担当教員	池田 琴恵		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	「保育内容人間関係」について、子どもの活動とねらいと内容との関連を具体的に扱う。子どもの発達と共に人間関係がどのように広がり、深まっていくのか、子ども、保育者、家庭、地域等を含めた人との関わりについて理解する、保育の全体構造のなかで、子どもの人間関係および社会性を育てることができるよう、社会性の発達とその援助についての基礎的理論や知識を習得し、それを子どもの実際に即して指導・援助が行えるよう、多様な事例について考察する。具体的に考え、行動に結び付ける力をつけることを目指し、映像の活用、事例報告、ロールプレイなどを行う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の人間関係、特に愛着形成の重要性がわかる。 2. 乳幼児期の人間関係の発達過程を理解し、説明することができる。 3. 遊びの中の子どものさまざまな社会的体験を理解し、多様な状況における望ましい援助を考察することができる。 4. 子ども同士の人間関係を育てる活動や環境構成の仕方がわかり、実践できる。 5. 好ましい社会的生活習慣を身につけるための保育方法、かかわり方がわかる。 6. 就学を迎える子どもの集団行動、社会的環境への興味関心を育てる方法がわかる 7. 保護者と保育者との望ましい関係について理解し、説明することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業で次週の授業の予習となる課題シートを配布しますので、事前学習として課題を行ってください。さらに、授業内、事前学習で分からなかった部分や授業内に考えたことなどを課題シートのレポート枠に書き込み、授業の次の週の授業前に提出してください。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 森上史郎, 小林紀子, 渡辺英則編『最新保育講座 8 保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房、2009 年。 【教材】 授業では A4 サイズの資料や課題を配布します。 各自 A4 の 2 つ穴式のリングファイルを準備してください。		
11. 成績評価の方法	以下の加点配分で成績評価を行います。 課題シートへの取り組み 40%、課題シートのレポート枠 40% 小テスト 20%		
12. 受講生への メッセージ	子どもの人間関係の発達に保育者は大きな役割を負っています。保育の専門家となる皆さんは、この講義で子どもたちの人間関係が豊かなものとなるような十分な関わりや知識と技術を身につけていただきたいと思います。そのためには日常の自分がとっている行動や考え方の特徴(クセ)に意識的になることも重要です。みなさん自身が子どもや保護者、同僚など豊かな人間関係が築けるようになることも目指してください。		
13. オフィスアワー	初回授業でアナウンスします。 E-mail : koikedata@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	シラバスを読み、講義内容と日程を確認しておくこと。
		事後学習	授業に必要な教科書や教材を準備すること。
第 2 回	幼児教育の目的と基本	事前学習	第 1 章(pp.1~17) : 課題シート 1 に取り組む
		事後学習	レポート作成準備
第 3 回	各発達時期における人間関係の特徴	事前学習	第 2 章(pp.19~36) : 課題シート 2 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 4 回	遊びと人間関係の発達①理論編	事前学習	第 3 章(pp.37~64) : 課題シート 3 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 5 回	遊びと人間関係の発達②実践編	事前学習	課題シート 3 を見直す
		事後学習	レポート作成準備
第 6 回	子どもの人との関わりをみとる	事前学習	第 4 章(pp.65~74, pp.80~88) : 課題シート 4 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 7 回	人との関わりを育てる保育者の役割	事前学習	第 5 章(pp.89~101) : 課題シート 5 に取り組む。
		事後学習	レポート提出準備
第 8 回	※ 小テスト レポート提出 園での人間関係を育む「遊び」を考える① 理論編	事前学習	課題シート 1~5 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	授業内容をもとにグループワークにとりくむ。
第 9 回	人間関係の記録	事前学習	第 5 章(pp.101~104) : 課題シート 6 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 10 回	人との関わりが難しい子どもへの支援	事前学習	第 6 章(pp.107~120) : 課題シート 7 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 11 回	家庭生活の中の人間関係	事前学習	第 7 章(pp.141~147) : 課題シート 8 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 12 回	親を支援する	事前学習	第 7 章(pp.121~124)、第 4 章(pp.75~80) : 課題シート 9 に取り組む。
		事後学習	レポート作成準備
第 13 回	園での人間関係を育む「遊び」を考える② グループワーク編	事前学習	指導案の作成、発表準備
		事後学習	発表準備
第 14 回	園での人間関係を育む「遊び」を考える② 発表編	事前学習	第 13 回のグループワークを発表できるように仕上げる。
		事後学習	発表したレポートを提出できるようにまとめる。
第 15 回	※ 小テスト レポート提出 まとめ	事前学習	課題シート 6~9 を見直し、小テストの準備をする。
		事後学習	これまでの授業を振り返る。

1. 科目名 (単位数)	保育内容 (表現) / 表現 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1326 SJMP1135
2. 授業担当教員	二宮 紀子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、「表し」に気づき、「表し」の内側にある心を感じ取る力が必要である。</p> <p>本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。 3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。 4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。 5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容に即して活動の準備 2. 教科書の読みとりとまとめ 3. 発表の準備と内容に関するレポートの提出 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】無藤隆 監修『事例で学ぶ保育内容 領域表現』萌文書林。</p> <p>【参考書】佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席を含む授業への取り組み。特に授業内での発表にむけての取り組みと発表内容の評価。40% 2. グループ活動(保育教材を使って)の発表にむけての取り組みと発表内容、及び発表内容に関する提出物の評価。30% 3. まとめ筆記試験。30% 			
12. 受講生への メッセージ	<p>学習目標が達成できるよう努力しましょう。</p> <p>幼児理解を深め、未分化な幼児の表現活動を捉え、的確に援助できるようになりましょう。</p> <p>自らの表現力をみがきましょう。自然の美しさや日々の変化に気づく感受性を育てましょう。</p> <p>色々な文化的経験を積みましょう。</p>			
13. オフィスアワー	<p>研究室扉に掲示。時間的に空いている場合はいつでも可。ただしメールにて事前連絡のこと。</p> <p>アドレスは研究室扉に記載。</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要) 表現とは何か。保育内容「表現」について	事前学習	教科書を眺めてくる。	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第2回	身体と音による表現① (身体を意識する。音楽の要素を身体で感じて表現する)	事前学習	音楽の要素の予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第3回	身体と音による表現② (身体遊びと音楽～わらべうた遊び、お手合わせ、ボディ・パーカッション、鏡に映る動作等) 身体に着目した表現発表	事前学習	わらべうた遊びの調査	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第4回	ことばによる表現 (詩の朗読とうた。絵、写真を見て語る)	事前学習	絵、写真等の準備	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第5回	ことばと音による表現 (オノマトペを含むことばのアンサンブルから楽器のアンサンブルへ)	事前学習	提示された場面を表す音を考えてくる	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第6回	ことばと身体による表現 (うたを演じる)	事前学習	うたの予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第7回	素材との出会い① (素材～水、紙、石、ひも、葉等を使っての色、形、動きの表現探索)	事前学習	教科書第4章の予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第8回	素材との出会い② (色、形、動きの表現発表) (素材～水、紙、石、ひも等を使っての音、形、動きの表現探索)	事前学習	発表の準備	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第9回	素材との出会い③ (音、形、動きの発表)	事前学習	発表の準備	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第10回	中間のまとめ (表現のコアとなる体験の振り返り、表現活動と人間関係及び環境設定との関わり)	事前学習	教科書第3章の予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第11回	保育教材の持つ意義 (ベープサート、パネルシアター、指人形、大型絵本、紙芝居等)	事前学習	保育教材についての予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第12回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ① グループ活動：表現する題材の選定と表現手段の作成	事前学習	教科書第8章の予習	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第13回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ② グループ活動：物語、登場人物、動き、音等の設定	事前学習	活動内容の準備	
		事後学習	授業で学んだことの復習	
第14回	保育教材を使って表現をつくり出すことを楽しむ③ グループ活動発表：実演と意見交換	事前学習	活動内容発表の準備	
		事後学習	活動内容に関するまとめの作成	
第15回	まとめ (子どもの表現をどう捉えるのか。様々な表現活動の理解と援助)	事前学習	授業で学んだことのまとめ	
		事後学習	授業で学んだことの復習	

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論 (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2411 SCOT2411 SJMP2130
2. 授業担当教員	瑞穂 優			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>保育者として保育内容を考える際、保育内容の5領域や子どもの活動に対する理解は重要である。しかし、子どもの実態に応じて保育を構想するためにはこれらの理解のみでは十分条件とはならない。これらに加えて、養護と教育が一体的に展開する保育、環境を通して行う保育、遊びによる総合的な保育といった一連の保育内容の展開に関する考え方への理解が深まることで、はじめて目の前の子どもの姿から具体的に保育を構想することが可能となる。本講義の目的はここにあり、子どもの姿から保育を構想していく際に必要な考え方を身につけることを目指す。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園保育・教育要領に基づく保育の基本及び保育内容を理解し、保育の全体的な構造を把握するとともに、その歴史の変遷について学び、保育内容について説明できる。 ・ 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することについて理解を深め、具体的な保育実践につなげる。 ・ 子どもや子ども集団の発達の特長や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解を深めたいうで具体的な保育内容を考察し、実践できる。 ・ 多様な保育展開について具体的に学び、保育者の専門性について説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 入江 礼子・榎沢良彦 編著 『シードブック 保育内容総論』 建帛社 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p>			
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 課題レポート (ワークシート) の提出状況と内容 50%			
12. 受講生への メッセージ	乳幼児期をどのように過ごすかということは、とても大切なことです。保育者はその責任を負う仕事です。自分はどうな保育者になりたいか、どのような保育をしたいのか、しっかり考えて、しっかり学んでほしいと思います。 1. 授業にきちんと出席する 2. 私語は慎む 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つは守ってください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	家庭での保育と保育所・幼稚園・認定こども園での保育	事前学習	自分の過ごした乳幼児期を思い出しておく。	
		事後学習	保育所または幼稚園の1日をまとめる。	
第2回	小学校との連携と保育	事前学習	保育所・幼稚園と小学校の違いを考えてくる。	
		事後学習	乳幼児期にはどのような生活がふさわしいかまとめる。	
第3回	子どもの発達と生活	事前学習	保育所保育指針 第2章を読んでくる。	
		事後学習	保育所保育指針の発達についてまとめる。	
第4回	保育所で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第3章-1を読んでくる。	
		事後学習	保育所での生活をまとめる。	
第5回	保育所における0・1歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-2・3を読んでくる。	
		事後学習	0・1歳児の生活をまとめる。	
第6回	保育所における2・3歳児の生活	事前学習	教科書 第3章-4・5を読んでくる。	
		事後学習	2・3歳児の生活をまとめる。	
第7回	幼稚園で展開される生活と保育内容	事前学習	教科書 第2章-1を読んでくる。	
		事後学習	幼稚園での生活をまとめる。	
第8回	保育所・幼稚園における3・4・5歳児の生活	事前学習	教科書 第2章-2・3・4を読んでくる。	
		事後学習	3・4・5歳児の生活をまとめる。	
第9回	保育内容の歴史の変遷と社会状況の関連	事前学習	教科書 第4章を読んでくる。	
		事後学習	保育内容の変遷についてまとめる。	
第10回	幼稚園教育要領・保育所保育指針について	事前学習	教科書 第5章を読んでくる。	
		事後学習	「5領域」についてまとめる。	
第11回	遊びの特質	事前学習	子どもにとって「遊び」とは何か、考えてくる。	
		事後学習	「遊び」を分類する。	
第12回	遊びと学び	事前学習	教科書 第6章を読んでくる。	
		事後学習	子どもにとっての「遊び」の意義をについてまとめる。	
第13回	主体性を大切にする保育所・幼稚園における保育	事前学習	「主体性」とは何か、自分にあてはめて考えてくる。	
		事後学習	どのような保育が望ましいか、自分の考えをまとめる。	
第14回	保育所・幼稚園における実習	事前学習	教科書 第8章を読み、自分がこれから何を学ばなければならないか考える。	
		事後学習	実習に向けての準備を考える。	
第15回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る。	
		事後学習	授業をもう一度振り返る。	

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SJMP4130
2. 授業担当教員	瑞穂 優			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。 ・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。 ・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。 ・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。 ・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ワークシート (授業で配布します) を仕上げ提出する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 使用しない。 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館			
11. 成績評価の方法	授業参加態度 50% 課題レポート (ワークシート) の提出状況と内容 50%			
12. 受講生へのメッセージ	この授業は、まもなく保育者になるみなさんのための授業です。実習で学んだこと、実習でうまくいかなかったことを振り返り、授業の中で考えることで、これから保育者としてやっていく力にしてほしいと思います。 1. 遅刻、欠席の際は理由を報告する 2. 聞くときはしっかり聞くとともに話すときは相手のためにしっかり話す 3. スマートフォンや携帯電話は鞆の中にしまう この3つはしっかり守ってください。			
13. オフィスアワー	別途通知する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の概要	事前学習	これまでの実習日誌を読み返す。	
		事後学習	自分の実習体験を整理する。	
第2回	保育所の1日と保育者とのかかわり	事前学習	自分の実習した保育所の1日を振り返り、子どもの園での生活を考えてくる。	
		事後学習	保育所の1日についてまとめる。	
第3回	幼稚園の1日と保育者とのかかわり	事前学習	自分の実習した幼稚園の1日を振り返り、子どもの園での生活を考えてくる。	
		事後学習	幼稚園の1日についてまとめる。	
第4回	自由保育と一斉保育	事前学習	自分の実習した園の様子を振り返り、自由保育と一斉保育について考えてくる。	
		事後学習	自由保育と一斉保育についてまとめる。	
第5回	0・1・2歳児の発達と保育	事前学習	保育所保育指針 第2章等を参考に、0・1・2歳児の発達についてこれまで学んだことを復習してくる。	
		事後学習	0・1・2歳児の発達をまとめる。	
第6回	3・4・5歳児の発達と保育	事前学習	保育所保育指針 第2章等を参考に、3・4・5歳児の発達についてこれまで学んだことを復習してくる。	
		事後学習	3・4・5歳児の発達をまとめる。	
第7回	0・1・2歳児の遊びと保育	事前学習	第5回の授業をもとに、0・1・2歳児の遊びについて考えてくる。	
		事後学習	0・1・2歳児の発達をまとめる。	
第8回	3・4・5歳児の遊びと保育	事前学習	第6回の授業をもとに、3・4・5歳児の遊びについて考えてくる。	
		事後学習	3・4・5歳児の発達をまとめる。	
第9回	0・1・2歳児の保育内容と計画	事前学習	自分の責任実習指導案を読み返し、振り返りを行う。	
		事後学習	0・1・2歳児の指導計画を作成する	
第10回	3・4・5歳児の保育内容と計画	事前学習	自分の責任実習指導案を読み返し、振り返りを行う。	
		事後学習	3・4・5歳児の指導計画を作成する	
第11回	子どもを理解する	事前学習	事例を読んでくる。	
		事後学習	子どもを理解することについてまとめる。	
第12回	支援が必要な子どもの保育	事前学習	障害児保育等で学んだ知識を復習してくる。	
		事後学習	共に育つ保育についてまとめる。	
第13回	現代社会の子育て支援	事前学習	現代社会の子育ての問題について考えてくる。	
		事後学習	保護者支援についてまとめる。	
第14回	保育者の専門性	事前学習	保護者と保育者の違いについて考えてくる。	
		事後学習	保育者の専門性についてまとめる。	
第15回	まとめ	事前学習	これまでの授業をふりかえり、整理してくる。	
		事後学習	保育者となった自分を思い描く。	

1. 科目名 (単位数)	保育の心理学 I (2 単位)		3. 科目番号	SSOT2405 SCOT2405 SJMP1110
2. 授業担当教員	池田 琴恵			
4. 授業形態	講義, ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし			
7. 講義概要	<p>保育の心理学 I では、子どもの成長を支える保育に関わる皆さんが子どもの発達を見取る上で重要な、人間の生涯にわたる発達のプロセスと発達に影響を及ぼす諸要因についての知識を学びます。人間の発達の特徴を理解することは、子どもの成長に気付き、子どもがどうしてそのような行動をとるのかを適切に理解すること、そしてそれを保護者や同僚と共有する視点を獲得するための重要な基礎となります。</p> <p>講義は発達の各時期の特徴を、身体、知覚・認知、自己意識、感情、社会性などの様々な側面から学びます。さらに、こうした知識を実践でも活かせるスキルを高めるため、子どもの行動の背景にある発達の特徴について、学んだ知識に基づいたディスカッションをしながら進めます。</p>			
8. 学習目標	<p>①人間の発達プロセスに関する基本的な知識を理解し、説明できるようになる。</p> <p>②子どもの行動や現象を、発達や教育に関わる心理学の知見を用いて説明できるようになる。</p> <p>③保育場面において子どもの発達を支える支援を、心理学の知見を用いて考えられるようになる。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各回の授業で次週の授業の予習となる課題シートを配布しますので、事前学習として課題を行ってください。さらに、授業内、事前学習で分からなかった部分や授業内に考えたことなどを課題シートのレポート枠に書き込み、授業の次の週の授業前に提出してください。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 林邦雄・谷田貝公昭(監修)、谷口明子・西方毅(編集)『保育者養成シリーズ 保育の心理学 I』一藝社、2012 年。</p> <p>【参考書】 林邦雄・谷田貝公昭(監修)、西方毅・谷口明子(編集)『保育者養成シリーズ 保育の心理学 II』一藝社、2012 年。</p> <p>【教材】 授業では A4 サイズの資料や課題を配布します。 各自 A4 の 2 つ穴式のリングファイルを準備してください。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>以下の加点配分で成績評価を行います。</p> <p>課題シートへの取り組み 30%、課題シートのレポート枠 30% 小テストおよび最終試験 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>保育の心理学 I では、人の発達に関わる多くの知識・理論を扱います。覚えることがたくさんあり少し大変かもしれませんが、将来みなさんが子どもの保育、教育に携わり子どもや保護者を理解するために役立つものです。学習の成果を高めるために事前・事後学習のための課題シートを活用するとともに、講義に集中して参加してください。</p>			
13. オフィスアワー	<p>初回の講義でアナウンスします。 E-mail : koiked@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p>			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 保育の心理学とは	事前学習	シラバスを読み、どのような講義内容、日程かを確認しておくこと	
		事後学習	今後の授業内容と進め方について理解し、教科書や必要な教材を準備すること	
第 2 回	遺伝と環境の相互作用 生涯発達の過程 (胎児期から老年期まで)	事前学習	第 2 章 (pp.23~36) : 課題シート 1	
		事後学習	授業を振り返り、用語の整理をする	
第 3 回	「赤ちゃん」その発達の不思議 (VIDEO 視聴)	事前学習	課題シート 1 を見直す	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 1 の小レポートを作成する	
第 4 回	身体・運動機能の発達	事前学習	第 3 章 (pp.37~48) : 課題シート 2	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 2 の小レポートを作成する	
第 5 回	知覚と認知の発達①	事前学習	第 4 章 (pp.49~62) : 課題シート 3	
		事後学習	ピアジェの認知発達理論について用語をまとめる	
第 6 回	知覚と認知の発達②	事前学習	課題シート 3 を見直す	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 3 の小レポートを作成する	
第 7 回	言語と思考の発達	事前学習	第 5 章 (pp.63~76) : 課題シート 4	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 4 の小レポートを作成する	
第 8 回	(小テスト) 復習とまとめ	事前学習	課題シート 1~4 を見直し、小テストの準備をする	
		事後学習	課題シート 1~4 の内容についてグループで模範回答を作成する	
第 9 回	感情の発達と自我	事前学習	第 6 章 (pp.77~90) : 課題シート 5	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 5 の小レポートを作成する	
第 10 回	基本的信頼感の獲得	事前学習	第 7 章 (pp.91~102) : 課題シート 6	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 6 の小レポートを作成する	
第 11 回	対人関係の発達	事前学習	第 8 章 (pp.103~114) : 課題シート 7	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 7 の小レポートを作成する	
第 12 回	学びのメカニズム	事前学習	第 10 章 (pp.127~140) : 課題シート 8	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 8 の小レポートを作成する	
第 13 回	動機づけ	事前学習	第 11 章 (pp.141~154) 課題シート 9	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 9 の小レポートを作成する	
第 14 回	子どもの発達をみとる方法	事前学習	第 13 章 (pp.167~180) : 課題シート 10	
		事後学習	授業を振り返り課題シート 10 の小レポートを作成する	
第 15 回	(小テスト) 復習とまとめ	事前学習	課題シート 5~10 を見直し、小テストの準備をする 課題シート 5~10 の小レポートの模範回答をグループで作成する	
		事後学習	小レポート課題をよく見直し、期末試験にむけて準備をする	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	法学Ⅱ (民法、行政法) (4 単位)		3. 科目番号	GELA2317
2. 授業担当教員	梶原 洋生			
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション (学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等) を伴ったものにする。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、民法 (総則・財産法・家族法) 及び行政法 (行政手続法、行政事件訴訟法、行政不服審査法等) に関する基礎知識を学び、その実践に求められる能力、いわゆるリーガルマインドを習得する必要がある。</p> <p>また、法律科目の特性上、まず法律の条文を読んで理解し、適切に解釈できるようになるとともに、判例を学び、各々の法律条文がどのように解釈され、適用されているのかを理解できるようにならなければならない。そのため、この講義では、条文に当たり、判例を検討しながら学習を進めていく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 条文や判例に基づいて法律を解釈できるようになる。 2. 民法、行政法の基礎的知識を習得し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の民法、行政法科目に対応できるようになる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマは「債務履行と訴訟について」を予定している。 			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】副田隆重他『ライフステージと法』最新版 有斐閣			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生へのメッセージ	社会福祉や教育に携わる者は、社会保障や教育制度に関する諸法令についての基礎知識を理解し、その具体化を図るため、いわゆるリーガルマインドを習得する努力を日常から行ってください。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション (講義の進め方、勉強の仕方等) 民法・総則	事前学習	民法の定義を 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	権利能力と行為能力のちがいについて 200 字以内でまとめる。	
第 2 回	民法・総則	事前学習	法人には、どのようなものがあるか調べ、200 字以内でまとめる。	
		事後学習	成年被後見人制度について 200 字以内でまとめる。	
第 3 回	民法・総則	事前学習	公序良俗について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	法律行為の瑕疵について 200 字以内でまとめる。	
第 4 回	民法・総則	事前学習	時効とはなにか調べ、200 字以内でまとめる。	
		事後学習	代理制度について 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	民法・物権	事前学習	物権とはなにか調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	用益物権について 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	民法・物権	事前学習	登記について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	担保物権について 200 字以内でまとめる。	
第 7 回	民法・債権	事前学習	債権とはなにか調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	債権の効力について 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	民法・債権	事前学習	契約にはどのようなものがあるか調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	典型契約について 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	民法・債権	事前学習	債務不履行について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	事務管理・不当利得について 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	まとめ①	事前学習	これまでの授業を振りかえり、400 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の財産法の総復習をおこない、400 字以内でまとめる	
第 11 回	民法・不法行為	事前学習	損害賠償について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	不法行為の成立要件についてまとめ 200 字以内でまとめる。	
第 12 回	民法・不法行為	事前学習	使用者責任について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	過失責任と無過失責任について 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	民法・親族	事前学習	親族の範囲を調べ、200 字以内でまとめる。	
		事後学習	婚姻・離婚について 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	民法・親族	事前学習	親子関係について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	養子制度について 200 字以内でまとめる。	
第 15 回	民法・親族	事前学習	親の懲戒権について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	親権について 200 字以内でまとめる。	
第 16 回	民法・相続	事前学習	相続の意義を調べ、200 字以内でまとめる。	
		事後学習	法定相続について 200 字以内でまとめる。	
第 17 回	民法・相続	事前学習	嫡出子と非嫡出子の相続分について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	単純承認と限定承認について 200 字以内でまとめる。	

第 18 回	民法・相続	事前学習	遺言について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	遺留分について 200 字以内でまとめる。
第 19 回	民法・相続	事前学習	生前贈与について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	遺産分割について 200 字以内でまとめる。
第 20 回	まとめ②	事前学習	これまでの授業を振り返り、600 字以内でまとめる。
		事後学習	民法の親族法と相続法の総復習を行い、600 字以内でまとめる。
第 21 回	行政法・行政行為	事前学習	行政の役割について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政立法と行政行為について 200 字以内でまとめる。
第 22 回	行政法・行政行為	事前学習	行政処分について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政行為の公定力について 200 字以内でまとめる。
第 23 回	行政法・行政手続法	事前学習	行政官庁について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政処分の事前救済について 200 字以内でまとめる。
第 24 回	行政法・行政不服審査法	事前学習	行政不服申立ての種類について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政庁の審査について 200 字以内でまとめる。
第 25 回	行政法・行政事件訴訟法	事前学習	行政訴訟の判決を一つ調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政訴訟の種類について 200 字以内でまとめる。
第 26 回	行政法・行政事件訴訟法	事前学習	行政争訟の意義について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	行政訴訟による救済の仕組みについて 200 字以内でまとめる。
第 27 回	行政法・国家賠償法	事前学習	行政庁の不法行為に対する賠償について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	国家賠償法について 200 字以内でまとめる。
第 28 回	行政法・情報公開法	事前学習	情報公開について調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	情報に関する法制度について 200 字以内でまとめる。
第 29 回	行政法・自治体行政の組織	事前学習	地方自治の本旨を調べ 200 字以内でまとめる。
		事後学習	地方自治法について 200 字以内でまとめる。
第 30 回	まとめ	事前学習	公法と私法の相違について 200 字以内でまとめる。
		事後学習	公・私法の比較を 800 字以内でまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	法学概論 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1316 GELA1337 GELA1116
2. 授業担当教員	梶原 洋生		5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義が中心となるが、講師からの一方通行ではなく、ディスカッション(学生からの講師への質問、学生間のディスカッション等)を伴ったものにする。			
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>この講義は、憲法、民法、労働法等、各種の法に関する一般的な約束事や社会生活を送っていくために必要な基礎的な法の概略を学ぶものである。</p> <p>この講義では、法学をはじめて学ぶ学生を主たる対象に、法と社会、法の種類、法解釈等について学習するとともに、社会生活に関連する法律として、家族、財産に関する民法等の民事法の概略、犯罪に関する刑法等の刑事法の概略、労働法などの社会法の一部について学習する。この学習を通じて、法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得する。</p> <p>この講義は、法学を専門とするわけではない法学初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いので、深く突っ込んだ議論を行うことは困難であるとともに、かなりのスピードで法律について学んで頂くことになり、また、事前・事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。また、比較的一方方向の講義になる可能性が高いことも留意して下さい。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法学的な思考法、いわゆるリーガルマインドを習得し、法学的に物事を考えることができるようになる。 2. 教科書のポイントを理解し、説明できるようになる。 3. 日々発生している日常的な法律問題について、条文や判例に基づいて問題を整理し、解決できるようになる。 4. 民法や行政法が規制する内容を理解し、法律問題が生じないように行動することができるようになる。 5. 公務員試験や各種国家試験の法律科目に対応できるようになる。 			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でリアクションペーパーの提出を義務付け、理解習熟度の確認を行う。 2 課題レポートの提出を義務付ける。テーマは「成年後見制度と日常生活自立支援事業の連携について」を予定している。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山田剛志『暮らしのトラブル法律相談 法化社会を生き抜くヒント』中央公論新社</p> <p>【参考書】 『ポケット六法 最新版』。 東京福祉大学編『社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	平常点 30%、試験点 70%を基準割合とする。			
12. 受講生へのメッセージ	この講義は、初学者を対象としています。学習範囲がかなり広いのでかなりのスピードで法律について学んで頂くこととなります。そこで、事前、事後の学習をしっかりと行って頂く必要があります。			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	法と社会生活、暮らしと法	事前学習	法の定義について調べ、200 字以内でまとめる。	
		事後学習	公法と私法と社会法について 200 字以内でまとめる。	
第 2 回	法化社会のしくみ	事前学習	憲法と条約との優位性について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	法の段階的構造について 200 字以内でまとめる。	
第 3 回	法の働き	事前学習	法の役割について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	平均的正義と配分的正義について 200 字以内でまとめる。	
第 4 回	事件の法的解決	事前学習	裁判所の種類を調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民事訴訟と刑事訴訟について 200 字以内でまとめる。	
第 5 回	法の解釈	事前学習	法と言語について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	文理解釈と論理解釈について 200 字以内でまとめる。	
第 6 回	財産と法①	事前学習	自然人と法人について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の総則について 200 字以内でまとめる。	
第 7 回	財産と法②	事前学習	所有権絶対主義について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の物権について 200 字以内でまとめる。	
第 8 回	財産と法③	事前学習	契約自由の原則について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の債権について 200 字以内でまとめる。	
第 9 回	家族と法①	事前学習	親族の範囲について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の家族法について 200 字以内でまとめる。	
第 10 回	家族と法②	事前学習	相続人の順位について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の相続法について 200 字以内でまとめる。	
第 11 回	家族と法③	事前学習	遺言について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	民法の相続法について 200 字以内でまとめる。	
第 12 回	消費者保護と法	事前学習	消費者保護のための法を調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	消費者関係法の理解について 200 字以内でまとめる。	
第 13 回	労働と法	事前学習	労働者保護のための法を調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	労働法についての理解を 200 字以内でまとめる。	
第 14 回	犯罪と法	事前学習	罪刑法定主義について調べ 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	刑法についての理解を 200 字以内でまとめる。	
第 15 回	まとめ	事前学習	法と社会の関係について 200 字以内でまとめる。	
		事後学習	法学全般の総復習を 600 字以内でまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	保健医療 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP1102 SCMP1102 SBMP1302 SNMP1302 PSMP1402
2. 授業担当教員	斎藤 和男		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ・医療ソーシャルワーカーの多くが所属する組織である「病院」についての理解を深めると同時に、組織とソーシャルワークの関連を理解する。 ・医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向、診療報酬制度の概要、保健医療サービスの各専門職の役割および連携についての、基礎的な知識を踏襲する。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度の概要と医療費に関する政策的動向を理解し、説明することができるようになる。 2. 診療報酬の概要を理解し、説明することができるようになる。 3. 保健医療サービスにおける各専門職の役割と連携について理解し、説明することができるようになる。 4. 医療を取り巻く現状について理解し、説明することができるようになる。 5. 病院のしくみについて理解し、説明することができるようになる。 6. 組織とソーシャルワークの関連について理解し、説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1 「患者の権利への支援について」 (2000字程度) ポイント; インフォームドコンセント、専門職の倫理が患者の権利支援とどのように関係しているのかを考察し説明する。</p> <p>課題 2 「医療ソーシャルワーカーの業務のうち一つを選び、どのような支援であるかを事例を用いて説明しなさい。」 (2000字程度) ポイント; 医療ソーシャルワーカーの支援の実際と留意事項を理解し、事例を用いて説明する。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス』中央法規。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート 30% 授業参加度 40% 試験 30%</p> <p>出席が 3/4 に満たない場合は単位認定はしない。(遅刻・早退は 30 分以内とする。)</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>保健・医療・福祉はそれぞれが様々な場面やケースで関係している。常にそのことを意識しながら積極的に授業に参加して知識を深め、思考力を養ってほしい。</p> <p>なお、以下のことを守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中は私語、居眠り、飲食はしないこと。 2 授業中に理解できなかったことはいつでも質問を心がけること。 3 宿題及びレポートの提出期限を守ること。 4 授業（特にグループディスカッション）には積極的に参加すること。 		
13. オフィスアワー	授業日を原則とする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	保健医療サービスの歴史と現状	事前学習	医療についての体験をまとめてみる。
		事後学習	医療法改正の経緯を社会の背景と関連付けながらまとめる。
第 2 回	医療法の改正を振り返る ・保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 ・保健医療サービスの内容とその整備・拡充の歩み	事前学習	保健医療サービスの意味について調べる
		事後学習	「保健医療」という概念がどのようなものかをまとめる。
第 3 回	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割 ・保健医療サービスの今日的課題及びチーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士の関わり	事前学習	医療法改正の視点から医療と福祉の関連を調べる。
		事後学習	社会福祉士に求められる役割をまとめる。
第 4 回	保健医療サービスを提供する施設とシステム ・医療法及び医療政策に基づく医療施設の機能と類型 ・診療報酬による医療施設の基準・類型 ・介護施設の基準・類型と在宅支援システム	事前学習	医療システムについて調べてみる。
		事後学習	機関・施設の役割や機能をまとめる。
第 5 回	保健医療サービスの概要についてのまとめと考察 医療ソーシャルワーカーの役割とその歴史、業務内容	事前学習	保健医療サービスの概要と社会福祉士の役割をまとめる。
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの背景をまとめる。
第 6 回	保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割 ・マイクロ→メゾ→マクロのソーシャルワーク	事前学習	医療ソーシャルワーカーの業務指針について理解しておく。
		事後学習	医療ソーシャルワーカーの業務についてまとめる。
第 7 回	保健医療サービスに関わる専門職の役割、基本的姿勢、各専門職の視点と実際	事前学習	保健医療に関わる専門職の役割について調べる。

		事後学習	保健医療に関わる専門職の役割についてまとめる。
第 8 回	インフォームドコンセントの意義と実際、倫理の背景 ・医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	事前学習	インフォームドコンセントの現状について調べる。
		事後学習	インフォームドコンセントの重要性についてまとめる。
第 9 回	保健医療サービスに関わる専門職のまとめと考察 医療費に関わる政策的動向、医療保険制度と診療報酬制度	事前学習	保健医療サービスに関わる専門職について理解しまとめる。
		事後学習	政策の動向についてまとめる。
第 10 回	保健医療サービスの提供と経済的保障 ・介護保険制度と高額療養費制度の概要、ターミナルケア支援の診療報酬制度、自立支援医療、公費負担医療制度の概要	事前学習	医療保険・診療報酬制度について調べる。
		事後学習	診療報酬制度の動向について調べる。
第 11 回	保健医療サービスに関わる専門職・保健医療サービスの提供と経済的保障についてまとめと考察 保健医療サービスの連携と実際（連携方法など）	事前学習	保健医療サービスに関わる社会保障制度についてまとめる。
		事後学習	連携の意義・重要性についてまとめる。
第 12 回	保健医療サービスの連携と実際（専門職との連携） ・連携方法、連携機関や団体、チームケア	事前学習	保健医療におけるチームワークの理論について調べる。
		事後学習	チームワークの理論とコンピテンシーについてまとめる。
第 13 回	保健医療サービスの連携と実際(専門職との連携) ・地域の保健医療ネットワーク構築のために	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる。
		事後学習	地域ネットワークの構築方法についてまとめる。
第 14 回	保健医療サービスの連携と実際（地域社会資源との連携） ・地域ケア、ネットワークの実際	事前学習	地域ネットワークの事例を調べる。
		事後学習	様々な社会資源を意識しながら、考察したネットワークをまとめる。
第 15 回	保健医療サービスにおける連携について（総合的考察） ・保健医療サービスの課題と展望(ディスカッションを含む)	事前学習	保健医療サービスの課題を調べる。
		事後学習	保健医療サービスの課題と展望についてまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	保健科指導法Ⅱ (4 単位)		3. 科目番号	EDHE2348
2. 授業担当教員	井田 延夫			
4. 授業形態	◇課題提示→講義→演習・協議等→講義→振り返り など <例 1> 導入：講義から自らの課題の把握→展開 (演習)：自分の考えをまとめる→グループでの話し合い→グループの考えを発表→全体での協議→まとめ：協議と講義のまとめ <例 2>演習 (保健科指導法Ⅰで学習した指導法を生かした指導案の作成と模擬授業) 導入：講義 (健康教育の指導の在り方)→展開 (演習)：保健学習の指導案の作成→実際の学校の授業の参観→中学校 3 年の『病気の予防』の指導内容から課題を把握→指導案の作成→模擬授業→全体協議→まとめ：授業実践、授業の評価とまとめ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	(1) 保健学習に関する主要な概念を講義等で理解し、演習・協議等を通じて保健学習の概念を自ら描き、保健科教諭としての専門性を生かした授業力を高める。 (2) 保健科指導法Ⅰで学んだ内容を基礎として、保健科教育内容の構成や系統性、学習指導要領の内容の示し方、教材づくりなどについて学習する。 (3) 保健科指導法Ⅰで学んだ専門的知識や実践力を踏まえ、教育実習に必要な授業力を身につける (4) 保健管理と保健教育の違いはもとより、保健学習と保健指導の違いに応じた保健教育を学習する。			
8. 学習目標	(1) 生徒にとって楽しく分かる保健授業を目指した「教育内容、教材、指導方法」などの基礎と応用について、実践的・具体的に身に付けることができる。 (2) 文部科学省刊「中学校学習指導要領解説 保健体育編」と「高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編」の保健分野・保健科の内容等について理解したうえで、示された学習指導案形式に則った学習指導案を作成し模擬授業を行うことができる。 (3) 保健学習と保健指導の違いに応じた授業の展開を理解し説明することができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	◇ 次時の学習内容について教科書で予習しておくことをアサイメントとする。 ◇ レポート課題は、「私が挑戦する模擬授業 1」「私が挑戦する模擬授業 2」「模擬授業指導案」などとする。詳細は授業の中で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省刊『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東山書房、平成 20 年 9 月。 文部科学省刊『高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編』東山書房、平成 21 年 12 月。 【参考書】 森昭三ほか著『中学 保健体育』学研。 高石昌弘ほか著『現代保健体育 改訂版』大修館書店。 ※ プリント教材等は、毎時の授業時に配布しそれを使用する。			
11. 成績評価の方法	◇ 指導案作成、模擬授業・・・・・・・・・・総合点の 50% ◇ レポート・・・・・・・・・・総合点の 20% ◇ 日常の授業態度 (質問)・・・・・・・・・・総合点の 30% (30 回中、8 回以上の欠席は単位不認定とします。なお、遅刻は 1 回につき 2 点、欠席は 1 回につき 5 点の減点とします。)			
12. 受講生へのメッセージ	1 学びとは、手間ひま (苦勞・努力・葛藤→克服・達成・感動など) のかかる行為であると自覚すること。 2 正当な理由のない遅刻、早退、欠席をしないこと。(やむを得ず欠席する場合は、書面を提出のこと。) 3 携帯電話の電源は切っておくとともに操作しないこと、及び私語は厳禁のこと。 4 レポート、アサイメントについては、指定した日までに必ず提出すること。 5 予習をするとともに、保健学習に関連する図書や新聞記事に関心をもち読むこと。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 保健学習の内容等の再確認 「模擬授業 1」の構想 (実施単元決定)	事前学習	挑戦する模擬授業 1 の単元名を考えてくる	
		事後学習	模擬授業 1 に関する内容を教科書確認する	
第 2 回	保健の教材づくりの発想 (教材づくりと教材開発の視点)	事前学習	保健の教材づくりについて、教科書で学ぶ	
		事後学習	保健の教材づくりについて整理する	
第 3 回	「模擬授業 1」の構想 (本時の目標の設定、導入場面の工夫、思考場面の工夫)	事前学習	模擬授業 1 で挑戦する単元への思いについて考えをまとめてくる	
		事後学習	本時の目標等を再検討する	
第 4 回	「模擬授業 1」の指導案 (展開部分) の作成 (指導過程の検討)	事前学習	授業の流れ(指導過程)を考えてくる	
		事後学習	学習指導要領や教科書の確認をする	
第 5 回	「模擬授業 1」の展開案作成 (学習を喚起する発問、思考を促す発問、実践を促す発問)	事前学習	導入場面の工夫や思考を促す発問などを考えてくる	
		事後学習	「思考を促す質問を必死で考える	
第 6 回	「模擬授業 1」の展開案完成 (評価項目の設定)	事前学習	評価項目を考えてくる	
		事後学習	授業の流れを工夫した展開案を完成する	
第 7 回	「模擬授業 1」の資料作成、板書計画作成 (ワークシート、提示資料、視聴覚資料)	事前学習	ワークシート、資料などを考えてくる	
		事後学習	ワークシート等の改善・修正をしてくる	

第 8 回	「模擬授業 1」の黒板掲示物の作成、リハーサル	事前学習	思考を促す場面のリハーサルをしてくる
		事後学習	ワークシート等の完成、模擬授業 1 のリハーサルをする
第 9 回	「模擬授業 1」の実践①	事前学習	模擬授業 1 の諸準備をしてくる
		事後学習	模擬授業 1 の振り返りとまとめを個別に整理する
第 10 回	「模擬授業 1」の実践②	事前学習	模擬授業 1 の諸準備をしてくる
		事後学習	模擬授業 1 の振り返りとまとめを個別に整理する
第 11 回	「模擬授業 1」の振り返り活動（授業研究会）	事前学習	模擬授業 1 指導案等の修正をしてくる
		事後学習	授業研究会の整理とまとめをしてくる
第 12 回	「模擬授業 1」指導案の改善・修正活動 「模擬授業 2」の実施単元の検討	事前学習	模擬授業 2 の実施単元を検討してくる
		事後学習	模擬授業 2 の実施単元をより深く検討する
第 13 回	「模擬授業 2」の単元決定理由と工夫点の発表	事前学習	模擬授業 2 の実施単元を決定してくる
		事後学習	実施単元の決定理由と工夫点を考えてくる
第 14 回	「模擬授業 2」の豆テスト問題作成 (保健学習の評価とその改善)	事前学習	実施授業の豆テストを考えてくる
		事後学習	模擬授業 2 の「豆テスト」を完成する
第 15 回	「模擬授業 2」の指導案作成 1 (年間指導計画における位置づけ確認、教材観)	事前学習	「学習指導案作成の 9 ポイント」の 1～4 について、理解してくる
		事後学習	実施授業の教材観を仕上げてくる
第 16 回	「模擬授業 2」の指導案作成 2 (生徒の実態把握、指導目標)	事前学習	生徒の実態把握のための調査項目を考える
		事後学習	教材観、生徒の実態、指導目標について仕上げる
第 17 回	「模擬授業 2」の指導案作成 3 (評価規準の設定)	事前学習	「学習指導案作成の 9 ポイント」の 5～7 について、理解してくる
		事後学習	評価規準を仕上げる
第 18 回	「模擬授業 2」の指導案作成 4 (指導方針、指導計画の立案)	事前学習	指導方針と学習指導計画を考えてくる
		事後学習	評価規準、指導方針、学習指導計画について仕上げる
第 19 回	「模擬授業 2」の指導案作成 5 (本時の目標、指導過程等の作成)	事前学習	「学習指導案作成の 9 ポイント」の 8～9 について、理解してくる
		事後学習	本時の目標、指導過程を仕上げる
第 20 回	「模擬授業 2」の指導案作成 6 (思考を促す発問、評価項目の設定、終末での教師の思い伝達)	事前学習	思考を促す発問などを考えてくる
		事後学習	本時の目標、展開について仕上げる
第 21 回	「模擬授業 2」の指導案作成 7 (資料、ワークシート等の作成)	事前学習	保健科指導法 I で使用した教科書 pp.183～189 を熟読してくる
		事後学習	ワークシートなどを仕上げる
第 22 回	「模擬授業 2」の指導案作成 8 (テスト問題の修正、完成)	事前学習	指導案、豆テストなどを総合的に検討する
		事後学習	指導案、ワークシート、豆テスト等を完成する
第 23 回	「模擬授業 2」の授業準備 1 (指導案の点検、板書計画の作成)	事前学習	板書計画の作成やリハーサルをしてくる
		事後学習	指導案等の最終版を仕上げる
第 24 回	模擬授業 2 の授業準備 2 (黒板掲示物の完成、視聴覚機器の調整、リハーサル)	事前学習	部分的にリハーサルを試みる
		事後学習	模擬授業 2 のリハーサルを本番通りに行う
第 25 回	「模擬授業 2」の実践①	事前学習	工夫した掲示物の作成など、模擬授業 2 の諸準備をしてくる
		事後学習	模擬授業の振り返り、意見用紙、指導案の修正・改善をする
第 26 回	「模擬授業 2」の実践②	事前学習	模擬授業 2 の諸準備をする
		事後学習	模擬授業の振り返り、意見用紙、指導案の修正・改善をする
第 27 回	「模擬授業 2」の授業研究会 1 <司会→授業者> (感想・意見用紙、再生刺激法)	事前学習	模擬授業研究会の諸準備をしてくる
		事後学習	授業研究会を踏まえ指導案等の修正をする
第 28 回	「模擬授業 2」の授業研究会 2 <司会→授業者> (感想・意見用紙、再生刺激法)	事前学習	模擬授業研究会の諸準備をしてくる
		事後学習	授業研究会を踏まえ指導案等の修正をする
第 29 回	養護教諭の保健授業担当と学校保健活性化の課題	事前学習	保健授業への思いと学校保健教育の活性化について考えてくる
		事後学習	保健指導と保健学習の異質性を整理する
第 30 回	全体の振り返り活動、教育実習前にすべきことの確認、自己課題の設定	事前学習	20 年後までの自己課題を考える
		事後学習	保健管理も保健教育もできる「学校保健のエキスパート」になる決意を固める

1. 科目名 (単位数)	ボランティア論 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1330
2. 授業担当教員	田中 利光		
4. 授業形態	講義 (ディスカッションを含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	今日、わが国においてボランティア活動は大きな注目を集めている。阪神・淡路大震災においてボランティアの貢献度が新たに目直され、以後、学問的なボランティア論としての研究も活発になされるようになった。ボランティア活動は今日、様々な内容に拡大化、多様化しているが、同時にいくつかの課題も浮き彫りにされてきている。本講義において、福祉ボランティアを中心に、活動の現状と課題を探り、今後ボランティアコーディネーターとしての活躍も期待されている福祉系の学生が、必要な知識を会得するよう、講義、視聴覚教材、受講生による発表とディスカッションを通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアの意味と特徴、活動の歴史を理解し、説明できるようになる。 2. 今日のボランティア活動の現状と、そこにおける課題を理解し、説明できるようになる。 3. 実際に行われているボランティア活動のひとつに着目し、深く掘り下げて学習し理解を深める。 4. ボランティアコーディネーターに求められるボランティア指導の方法を理解することができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	本科目の授業の中で1回レポートを課す。 【テーマ】 「ボランティアの可能性と課題について」 【執筆規定】 <ol style="list-style-type: none"> ① A4用紙 (40字×30行) 2枚。表紙は不要。1枚目の上部に提出年月日、科目名、テーマ、学籍番号、氏名を明記し、複数枚ある場合は左上端をホッチキスで止めること。 ② 参考文献・引用文献を明記すること。 ③ レポートの提出日は授業中に教員が指示する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 巡静一・早瀬昇編著 大阪ボランティア協会監修『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規、1997。 【参考書】 <ol style="list-style-type: none"> 1.三本松政之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣。 2.ストーン,J.M. 著、大利一雄・水野友美・清藤京子訳『ボランティアのグループ指導入門』勁草書房。 3.広井良典『ケアを問いなおす』ちくま新書。 【その他の参考教材】 <ol style="list-style-type: none"> 1.講義を補足するために視聴覚教材を用いる。 2.講義を補足するために必要に応じて資料を配布する。 		
11. 成績評価の方法	本科目の中で実施するレポート (1 本) 及び期末試験の成績を総合し評価を行う。 レポートの評価 50% 期末試験の評価 50% ※ 東京福祉大学の学則 (第 36 条) に則り、成績評価に必要な出席時間数を満たしていない受講生の評価は行わない。		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はできる限り無いようにしてもらいたい。理由のある欠席は書面で教員に届け出ること。 2. 授業を妨げる私語、携帯電話 (スマホ) の操作・使用を禁止する。 3. レポートの提出期限は厳守すること。正当な理由なく提出期限後に提出されたレポートは減点対象となる。 4. ボランティアは机上の知識のみではなく、実践を通して会得するものも多いので、もし可能であれば実際にボランティア活動を体験することを推奨する。 5. 受講生は、次回の授業範囲を事前学習しておくこと。 6. 授業中はやむを得ない事情でない限り退室を禁ずる。 		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。 教員の研究室メールアドレス totanaka@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス、講義概要、学習目標等の説明、) 各種ボランティア活動の実際	事前学習	授業にシラバスを持参すること。 教科書 pp.140-155 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 2 回	ボランティアコーディネーションについて ボランティアコーディネーションで重要な 4 つの視点について	事前学習	教科書 pp.156-176 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 3 回	ボランティア活動の歴史(1) マザー・テレサと福祉ボランティアボランティアリズムの根源について考える	事前学習	マザー・テレサについて事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 4 回	ボランティア活動の歴史(2) “ケア”とボランティア・ホスピスの歴史からボランティアを考える	事前学習	ホスピスとホスピスボランティアについて事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 5 回	災害とボランティア	事前学習	阪神・淡路大震災について事前学習する。

	震災から学んだことーボランティアの必要性の認識	事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 6 回	高齢者問題とボランティア(1) “老い”を支えるボランティア活動	事前学習	教科書 pp.36-58 事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 7 回	高齢者問題とボランティア(2) 高齢者による高齢者のためのボランティア活動	事前学習	教科書 pp.36-58 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 8 回	児童問題とボランティア(1) 貧困児童の生活実態ーゴミ山でゴミを拾って家族の生計を支える児童	事前学習	教科書 pp.59-79 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 9 回	児童問題とボランティア(2) 貧困児童の生活実態ーゴミ山で働く児童のその後ー	事前学習	教科書 pp.59-79 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 10 回	障害者問題とボランティア(1) 障害者・障害者観について、車いすの安全な利用方法について	事前学習	教科書 pp.80-97 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 11 回	障害者問題とボランティア(2) 精神保健福祉のボランティア活動	事前学習	教科書 pp.80-97 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 12 回	環境問題とボランティア(1) 河川の汚染とボランティア活動	事前学習	教科書 pp.98-118 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 13 回	環境問題とボランティア(2) 水俣から見えてくるもの	事前学習	水俣病について事前に調べておく。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 14 回	国際問題とボランティア(1) 戦争で親を亡くした児童たちの生活ー少年兵士の問題	事前学習	教科書 pp.119-137 を事前学習する
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
第 15 回	国際問題とボランティア(2) 今日の国際 NGO 活動の実際	事前学習	教科書 pp.119-137 を事前学習する。
		事後学習	授業で知り得た内容をノートにまとめる。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	マーケティング論 (2 単位)		3. 科目番号	SBMP2133
2. 授業担当教員	保原 伸弘			
4. 授業形態	講義・演習・ディスカッション形式の授業を行います		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「経営戦略論」および「経営組織論」の履修が望ましい			
7. 講義概要	企業は自社の標的市場を確定し、市場需要の創造・開拓・拡大を図るために製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策を展開していることを学ぶ。			
8. 学習目標	1. マーケティング戦略の体系を理解する 2. マーケティングリサーチの役割を理解する 3. 4 P (product, price, promotion, place) について理解する 4. 企業の社会的責任について理解する			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	(1) J T の喫煙マナー広告と活動内容について (2) 自社の売り上げの一部を寄付している会社、地域貢献をしている会社の活動内容について			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 宮澤・城田・江尻編『現代マーケティング—その基礎と展開』ナカニシヤ出版、2009 年。 【参考書】 西田・城田編『マーケティング戦略』学文社、2011 年。			
11. 成績評価の方法	授業中の態度・意欲など	30%		
	課題レポート	30%		
	期末試験	40%		
12. 受講生への メッセージ	①授業には原則、欠席、遅刻、早退はしないこと。 ②授業中理解できなかったことは、そのまま放っておかず質問してください。 ③授業中は私語、居眠りをしないこと。また、携帯電話のスイッチは切っておいてください ④授業中は緊張感と集中力を保ち、積極的な態度で授業に参加してください。 ⑤課題の提出期限を厳守してください。			
13. オフィスアワー	第 1 回の授業時に伝える			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	マーケティング総説:マーケティングの 概念、重要性、マーケティング・アプ ローチ、ソーシャルマーケティング	事前学習	Market、流通の用語について調べまとめる。	
		事後学習	マーケティングの概念・アプローチについて考える。	
第 2 回	マーケティング戦略の体系	事前学習	マーケティング・マネジメントの成立について調べる。	
		事後学習	マーケティング・ミックスの開発について調べる。	
第 3 回	マーケティング技法と組織	事前学習	関係性マーケティングについてまとめる。	
		事後学習	価値創造型マーケティング組織について調べる。	
第 4 回	消費者行動	事前学習	消費者情報処理の概念についてまとめる。	
		事後学習	消費者のライフスタイルと価値観についてまとめる。	
第 5 回	マーケティングリサーチ	事前学習	アンケート調査	
		事後学習	マーケティング調査の方法、標本調査について調べる。	
第 6 回	マーケティングリサーチ	事前学習	調査票の作成を行う。	
		事後学習	調査結果のまとめをする。	
第 7 回	プロダクトプランニング	事前学習	製品の分類、新製品の開発についてまとめる。	
		事後学習	製品ライフサイクルについてまとめる。	
第 8 回	ブランディング	事前学習	ブランドの意味について調べてくる。	
		事後学習	ブランド価値についてまとめる。	
第 9 回	プライシング	事前学習	プライシングの重要性についてまとめる。	
		事後学習	価格決定の方法について調べてくる。	
第 10 回	マーケティングチャネル	事前学習	なぜ流通業者を利用するか考える。	
		事後学習	チャネル構造と管理について調べる。	
第 11 回	プロモーション	事前学習	プロモーションの形態についてまとめる。	
		事後学習	マーケティングコミュニケーションミックスについて調べる。	
第 12 回	プロモーション:平成のテレビ広告	事前学習	テレビ広告について考えをまとめる。	
		事後学習	広告媒体の比較についてまとめる。	
第 13 回	グローバルマーケティング	事前学習	グローバルマーケティングの意義をまとめる。	
		事後学習	グローバル市場の参入方法について調べる。	
第 14 回	コズリレーテッドマーケティング	事前学習	C S R (企業の社会的責任) の概念についてまとめる。	
		事後学習	コズリレーテッドマーケティング (C R M) の経営的・社会的意義についてまとめる。	
第 15 回	コズリレーテッドマーケティング	事前学習	企業の事例研究を行う。	
		事後学習	企業と社会の関係についてまとめる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	マルチメディアと学習環境 (2 単位)		3. 科目番号	EDIT3335
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	マルチメディアの教育利用について、教科書に基づいて過去の実例から学ぶ。また、コンピュータを利用したデジタル教材作成の演習を通して、マルチメディアと学習環境について理解を深める。			
8. 学習目標	情報化社会における学習環境について学び、マルチメディアに関わる最新技術や学習システムなどについて深く理解し、活用することを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	学習テーマごとの課題に対して、調べたり考えたりして内容をまとめる。また、プレゼンテーションの準備あるいはレポートの作成を行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。 【参考書】 井上智義、『視聴覚メディアと教育方法』北大路書房, 2006。 日本教育メディア学会、『博物館情報・メディア論』、ぎょうせい、2013。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末課題により総合的に評価する。 授業参加 30% 課題 40% 期末課題 30%			
12. 受講生への メッセージ	理解すべき基本事項から最新の話題までを扱います。受け身の姿勢ではなく、熱意があつて積極的な履修者の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション : 講義内容の確認、履修者の知識と技術の確認、質問・相談	事前学習	マルチメディアと学習環境というテーマについて何か自分の考えをまとめておくこと。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第 2 回	マルチメディアと教育	事前学習	自分のこれまでの学校経験の中で使われていたマルチメディアについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 3 回	メディアとメッセージ	事前学習	メディアの教育利用について調べる。	
		事後学習	授業で出てきたキーワードのうち、興味を持ったことについて調べる。	
第 4 回	アナログからデジタルへ①	事前学習	写真やスライド、OHP など、授業における静止画像の使い方について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 5 回	アナログからデジタルへ②	事前学習	フィルムやテレビ、デジタルムービーなどの動画の教育活用について考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 6 回	コンピュータによる学習支援① : 情報のデジタル化	事前学習	情報のデジタル化について情報処理の基礎について復習しておく。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 7 回	コンピュータによる学習支援② : 情報処理	事前学習	CAI や CMI、e-learning などのキーワードについて調べておくこと。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 8 回	コンピュータによる学習支援③ : タブレット端末	事前学習	学校におけるタブレット端末の活用や、タブレット端末を用いた教育ソフトについて調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 9 回	コンピュータによる学習支援④ : 情報通信技術	事前学習	インターネットを利用した学習環境について調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 10 回	メディアリテラシーと教育	事前学習	特に教育に必要とされるメディアリテラシーについて考える。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 11 回	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例①	事前学習	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例についていくつか調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 12 回	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例②	事前学習	マルチメディアや ICT を活用した教育の実践例の中から興味を持ったことについて詳しく調べる。	
		事後学習	ディスカッションした内容をふまえ、自分の考えをまとめる。	
第 13 回	情報機器を使った授業と演習①	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。	
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める	
第 14 回	情報機器を使った授業と演習②	事前学習	実際の授業の中でどのように情報機器を活用すれば良いのかを考える。	
		事後学習	情報機器を使った模擬授業の準備を進める	
第 15 回	情報機器を使った授業と演習③ および総合的なまとめ	事前学習	授業で扱ったキーワードを確認してその内容を確認する。	
		事後学習	学んだことを整理して確認をする。	

1. 科目名 (単位数)	マルチメディア表現Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	EDIT2333
2. 授業担当教員	小川 英光・森 正人			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この講義を受講する場合は「マルチメディア表現Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。			
7. 講義概要	マルチメディア表現Ⅰでは、音声・楽音及び2次元静止画像について学んだが、それらの基礎技術を基にして、本講義では、動画及び3次元コンピュータグラフィックス(CG)について学ぶ。先ず動画に関しては、2次元動画の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。つづいて3次元CGに関しては、3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。そして、マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して、具体的に3次元CGを作成する。			
8. 学習目標	1. 2次元動画の表現法、圧縮法、及び編集法について学ぶ。 2. 3次元物体の表現法及び、3次元CG作成の原理について学ぶ。 3. マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して3次元CGを作成する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	マルチメディア表現Ⅰ、Ⅱで学んできた個別の要素技術を総動員して3次元CGの作品を作成してもらおうが、講義時間内にはできないので、レポートとして提出してもらおう。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 (1)田上博司『阪南大学叢書 76 マルチメディア情報学概論』二瓶社。(マルチメディア表現Ⅰと同じ教科書) (2)大川善邦『3D グラフィックスのための数学 改訂版』工学社。			
11. 成績評価の方法	試験：40%、レポート：40%、出席点(遅刻は減点)：20%			
12. 受講生へのメッセージ	この授業で述べることはすべて、皆さんと同じ人間が考え出したことです。先輩に敬意を表しながらも、「自分ならどうするか」と、常に自分自身で考える習慣をつけてください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	講義の概要、動画の原理、動画の圧縮	事前学習	教科書(1)の3.7.1節～3.7.3節をよく読んでおくこと。	
		事後学習	動画圧縮の原理をよく理解すること。	
第2回	動画の編集	事前学習	前時の内容を、しっかりと理解しておくこと。	
		事後学習	講義中に提示された演習課題を完成させること	
第3回	3次元CGレンダリング実習1(ソフトウェア基本操作、レイトレーシングの概念)	事前学習	教科書3節～6節を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第4回	3次元CGレンダリング実習2(モデル、ポリゴン等の概念)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第5回	3次元CGレンダリング実習3(ライト、テクスチャの概念)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第6回	3次元CGレンダリング実習4(シーンの概念、レンダリングの知識)	事前学習	配付資料の指定箇所を読んでおくこと。	
		事後学習	講義で習った操作の復習を行うこと。	
第7回	CGのための数学1(ベクトルと行列)	事前学習	教科書(2)の1章、2章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の1章、2章に現れる問題を自分で解いてみる	
第8回	CGのための数学2(変換)	事前学習	教科書(2)の3章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の3章に現れる問題を自分で解いてみる	
第9回	CGのための数学3(3次元空間の幾何学1)	事前学習	教科書(2)の4章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	「平面の向き」という考え方になれること。	
第10回	CGのための数学4(3次元空間の幾何学2)	事前学習	教科書(2)の4章を再度よく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の4章に現れる問題を自分で解いてみる	
第11回	CGのための数学5(3次元空間におけるオブジェクト)	事前学習	教科書(2)の5章をよく読んでおくこと。	
		事後学習	教科書(2)の5章に現れる問題を自分で解いてみる	
第12回	3次元CG作品作成演習1	事前学習	ポリゴン、レイトレーシング等の基本概念を復習しておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第13回	3次元CG作品作成演習2	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第14回	3次元CG作品作成演習3	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	実作業で使用した技術的事項の理論を確認しておく。	
第15回	3次元CG作品作成演習4	事前学習	作業計画を考えておく。	
		事後学習	提出に向けて、作品を完成させる。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	薬理学概説 (薬物乱用防止を含む) (2 単位)		3. 科目番号	EDHE2319 PSMP2305
2. 授業担当教員	栗原 久			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに課題発表		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>近年、医学の発展に伴って、多くの新しい医薬品が開発されてきた。それらの薬の効果や副作用は、人によって異なることも明らかになってきた。この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●薬の有効性と毒性の発現の関係、薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機構等について理解する。 ●薬物乱用問題は社会秩序の根幹に関わる重大な問題である。アルコール、ニコチン、カフェインを含む依存性薬物 (覚せい剤・コカイン、麻薬性鎮痛薬、有機溶剤、鎮静催眠薬、大麻、幻覚薬、危険ドラッグなど) の特徴、および薬物乱用に起因する医学的・社会的弊害について学ぶ。 ●薬物の誤用、悪用の問題、サプリメントの有効性の真偽について学ぶ。 			
8. 学習目標	<p>以下について学び、理解を深め、説明できるようになることを学習目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬の有効性と毒性 (副作用) の発現の関係を学ぶ。 2. 薬の吸収・分布・代謝・排泄の作用機序について学ぶ。 3. 薬の管理、関連法規について学ぶ。 4. 代表的な疾病と治療薬について学ぶ。 5. 薬物乱用、悪用、誤用の防止について考え、理解を深める。 6. サプリメントの使用の是非について考え、理解を深める。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物関連の最新情報 (効果、副作用、新薬情報など) を集め、レポートを提出、提出時期は授業のなかで発表。 2. 授業ごとにまとめたレポートを提出する (用紙は授業の開始前に配布) 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】大鹿英世・吉岡充弘 (著) 『疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学』医学書院。 【参考書】栗原久 (著) 『No No Drugs! 心と身体と薬物乱用』東京法令出版。 栗原久 (監修) 『Stop Drug! -薬物乱用を防止するために-』東京法令出版。 東京福祉大学 (編) 『教職科目要説 (中等教育編)』ミネルヴァ書房。</p>			
11. 成績評価の方法	授業ごとのレポート 50%、課題レポート 10%、発表とディスカッション 10%、期末試験 20%、授業中の積極的発言 10%			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一方的な講義でなく、随所で発言を求め、ディスカッションをたくさん行います。 2. レポートは、簡潔かつ要点を掘り下げたものを求めます。 3. 解りやすい口頭発表の仕方を覚えてください。 4. 疑問点は後に残さず、講義時間内および直後に質問してください (研究室への来訪は大歓迎)。 5. 予習・復習を十分行ってください。 6. 関連図書をたくさん読んでください。 7. マスメディアの医療・健康関連情報を随時紹介しますが、皆さんも関心を持ってチェックしてください。 8. 授業時間の開始は厳守します。 9. 授業時間中に携帯電話・スマートフォンを使用することは禁止します。 			
13. オフィスアワー	別途連絡する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	イントロダクション 薬の効果発現 (用量-効果相関、吸収・ 分布・代謝・排泄、効果器と受容体)	事前学習	「薬理学概説」用の学習ノートを準備し、授業に臨む意識を高める。pp.1-24 を読んでおく。	
		事後学習	薬物の使用目的、効果発現の基本原則をまとめる。	
第 2 回	感染症と化学療法薬 (抗菌薬、抗ウイル ス薬、抗真菌薬)	事前学習	pp.67-93 を読み、病原体の種類を理解する。	
		事後学習	抗生物質、合成抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の作用機序・ 範囲と副作用についてまとめる。	
第 3 回	消毒薬	事前学習	pp.286-291 を読み、消毒薬の種類を把握しておく。	
		事後学習	各種病原体に有効な消毒薬についてまとめる。	
第 4 回	呼吸器系と薬 (気管支拡張薬、鎮咳薬、 呼吸促進薬)	事前学習	pp.224-228 を読み、喘息の原因と症状を理解する。	
		事後学習	呼吸器系疾患、特に気管支喘息に有効な薬剤と、その副作用 についてまとめる。	
第 5 回	鎮痛薬 (解熱鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬)	事前学習	pp.156-185 を読み、痛みの発現機序について理解する。	
		事後学習	痛みの緩和に有効な薬剤の作用機序をまとめる。	
第 6 回	炎症とアレルギー治療薬 (ステロイド性 抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬)	事前学習	pp.118-133 を読み、アレルギー反応の発現機序を理解する。	
		事後学習	アレルギー反応の予防・緩和薬の作用機序、副作用をまとめ る。	
第 7 回	保健室にある薬 (薬理作用と使用上の注 意点)	事前学習	第 1 回～第 6 回の授業内容を復習する。	
		事後学習	保健室にある代表的な薬剤と、その使用目的について、また ディスカッションした内容についてまとめる。まとめをレポ ート提出する。	
第 8 回	薬物依存・乱用 (興奮系薬物・抑制系薬 物・幻覚系薬物、危険ドラッグ: ビデオ 学習あり)	事前学習	薬物依存・乱用に関する事前配布資料を読み、その概念を理 解しておく。	
		事後学習	薬物乱用の人体・社会に及ぼす悪影響について、自分の考え を含めてまとめたレポートを提出する。	

第 9 回	アルコール・飲酒 (アルコールパッチテストの実習あり)	事前学習	事前配布資料を読み、お酒の中のアルコール量を把握しておく。
		事後学習	脳機能に及ぼすアルコールの影響から、未成年者の飲酒の問題、成人に対する功罪をまとめる。
第 10 回	ニコチン・喫煙	事前学習	事前配布資料を読み、タバコ中やタバコ煙中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫煙の急性・慢性の影響についてまとめる。
第 11 回	薬物乱用防止教育の実践	事前学習	薬物乱用防止教材の使用法をマスターする。
		事後学習	小学生・中学生を対象とした、薬物乱用防止教育の実践企画を作成する。
第 12 回	喫茶・カフェイン	事前学習	配布資料を読んで、茶・コーヒー中の成分を把握しておく。
		事後学習	喫茶の功罪、特に幼児や妊婦における影響についてまとめる。
第 13 回	薬物中毒と解毒処置	事前学習	pp.266-276 を読んで、中毒とはどういうことか理解する。
		事後学習	中毒に対する緊急処置 (治療薬を含む) についてまとめる。
第 14 回	漢方薬・サプリメント	事前学習	pp.278-283 を読んで、病態 (証) と漢方薬の処方を理解する。
		事後学習	漢方薬を含めて、サプリメントの有効性の真偽を考察する。
第 15 回	まとめと総合討論	事前学習	事前提示された課題について考察し、まとめる。
		事後学習	課題について発表し、ディスカッションした内容についてまとめ、レポート提出する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	養護実習指導 (1 単位)	3. 科目番号	EDHE3377
2. 授業担当教員	八重樫 節子		
4. 授業形態	講義や演習 (保健室経営計画作成等)、事例検討等について、グループ討議等のアクティブラーニングにより、履修者同士の実践的な学びあいを重視します。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	養護実習は、学校での実務を体験することを習得するものである。その養護実習の目的は、これまで学んできたことを生かすこと、養護教諭が行う実務の教育活動の中で位置づいていることを知ること、そして、新たな課題を見いだすことである。そこで、本科目では、養護教諭を目指すものにとってその準備の段階と本実習後の効果を上げるために、養護実習 (本実習) に対する理解を深め、実習生としての態度や心構え・技能等を事前に育成すること、更に準備の段階と本実習後には、自己の課題を省察し、進路選択にも結びつけることを学んでいく。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健活動及び養護教諭の執務を教育活動の一環として捉え、保健室のあり方及び養護教諭の果たすべき役割が理解できるようになる。 2. 養護の対象である子どもの心身の発達特徴や生活状況および健康問題の特質を理解し、説明できる。 3. 子どもの発達において問題とされる健康課題に対して、個別的及び組織的に適切な取り組みができる。 4. 養護教諭になるための志向を高めるとともに、養護教諭になるための自らの課題について理解し、解決しようとする意欲をもてるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	【アサイメント (宿題)】 実習予定校と連絡を取りながら学校訪問を想定し、訪問時期・時間の予約、挨拶、実習校との打ち合わせ事項 (保健指導の内容や指導案) 等、養護実習の事前学習として準備実習計画を作成する。 環境衛生活動の実際 (校舎内外の環境整備、清掃の実際、環境衛生検査の実際) 検査実習について健康診断の技術演習 (2) [健康診断の実際] *目的・内容の自己評価をして課題ワークの提出①# 7 一日保健室執務計画の提出②# 8 健康相談活動の留意点について、課題ワークの提出③#13 模擬授業から学んだことをまとめ、レポートを作成する。④#15		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学編『養護実習・看護臨床実習の手引き』大谷尚子・中桐佐知子『改訂 養護実習ハンドブック』東山書房、2015 年 【参考書】 学校保健・安全実務研究会編著『学校保健実務必携』第一法規、2014 年		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (授業態度 20%、発表 20%、授業中のグループ活動等における積極的な発言 20%) レポート課題 20%、(4 回)、ポートフォリオ (授業ワークのファイリング) 20%		
12. 受講生へのメッセージ	「養護実習指導」は、養護教諭になるために必要な理論と実地体験 (実習) が欠かせません。今まで学んだことがらを、具体的な教育実践の場面において検証していくことができます。現在学校現場で抱えている問題を直に感じ取り理解することができその上で、大学に戻ってから新たな課題意識を持って、その解決学習に発展させていくことができます。子どもの心と体を大切に養護教諭にとって自己の心と体の健康管理に十分配慮し、児童生徒の範になれるような生活態度で臨んで下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ◆養護実習の意義と目標 ・臨地で実習する意義 ・養護実習の目標	事前学習	養護実習の「意義」と「目的」について、自分なりの考えを持って講義に臨む。教科書 pp12～17
		事後学習	授業の目的について理解したことを、講義時間内に配布する小レポート用ワークシートに記述し、ファイリングする。
第 2 回	◆養護実習の内容と方法 ・実習の目標と方法 ・実習の段階的方法 ・実習の評価	事前学習	養護実習の内容と方法について教科書 pp.18～26 を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	養護実習の内容と方法について、本時の授業を通して感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングする。
第 3 回	◆実習に臨む姿勢 ・事前訪問 ・実習生という立場の理解 ・実習の成果をあげるための準備	事前学習	実習生という立場を理解し、教員としての心構え等について教科書 pp.31～44 を熟読し、自分の考えをまとめておく。
		事後学習	実習を開始する前に必要な準備について、本時の講義を通して感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第 4 回	◆教育計画と学校組織についての理解 ・教育計画 ・教職のための役割 ・学校の救急体制 ・学校保健計画	事前学習	実習校の学校教育目標等を含め事前に学校概要を理解しておく (実習先の学校未定の人は、実習先の県や市の教育指針) を理解し自分の考えをまとめておく。教科書 pp.46～60 を熟読しておく。
		事後学習	実習校の教育計画や組織体制について、本時の講義を通して改めて感じたことやわかったことを小レポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第 5 回	◆子どもの過ごす学校生活と環境 (校舎内外の環境整備、清掃の実際、環境衛生検査の実際)	事前学習	教科書の学校環境衛生活動に関するページを pp.66～64 / pp.78～82 を熟読し、自分の考えをまとめておく 学校保健実務必携 pp81～pp166、学校環境衛生活動に関連する事項を熟読し、予習を行う。
		事後学習	学校環境衛生活動の内容、実施状況、振り返りを小レ

			ポート用ワークシートに記述しファイリングしておく。
第 6 回	◆健康診断の技術演習 (1) 「健康診断の実際」身長・体重・視力 ・健康診断とその事後措置	事前学習	学校保健実務必携 pp.200～226、健康診断に関連する事項を熟読し、事前配付ワークシートにポイントをまとめて予習を行う。
		事後学習	健康診断の技術演習と事後措置の進め方について、本時の授業を通して感じたことわかったことをワークシートに記述する。
第 7 回	◆健康診断の技術演習 (2) 〔健康診断の実際〕聴力 *目的・内容の自己評価をして 課題ワーク提出①	事前学習	学校保健実務必携 pp.226～231、健康診断に関連する事項を熟読し、事前配布ワークシートにポイントをまとめて予習を行う。
		事後学習	健康診断の技術演習を目的・内容の自己評価を通して、感じたことわかったことをワークシートに記述する。健康診断の技術演習 (1) (2) のワークシートを次回提出
第 8 回	◆養護教諭の執務と保健室 ・養護教諭の専門的技能と執務 ・保健室の整備 ・一日保健執務計画 課題提出②	事前学習	教科書 pp.84～93/pp.94～102 養護教諭の執務計画に関するページ学校保健実務必携 pp.520～533 を熟読し予習しておく。
		事後学習	養護教諭の執務計画について感じたことや分かったことを小レポート用ワークシートに記述する。自分の一日保健室計画を立案してみる。次回提出
第 9 回	◆集団対象の健康教育 ・保健指導の内容と機会 ・保健指導案の作成 ◆保健指導案作成、	事前学習	教科書 pp.157～192 保健指導案の作成に関するページを熟読し、指導案作成に向けた授業の構想を指導案ワークシートに記述し、予習しておく。
		事後学習	保健指導案を作成するために、子どもの健康課題から保健指導のテーマを決め、実習校の子どもを対象とした学習指導案 (保健指導案) を作成する。
第 10 回	◆保健指導案作成、 ◆ほけん便りの作成 (ほけん便りの意義や作成ポイント)	事前学習	指導案作成の続き ほけん便りに関する配付資料を熟読し、自分の考えや構想を事前に考えておく。
		事後学習	指導案の完成と模擬授業に向けての整理を行う。ほけん便りを作成する。
第 11 回	◆感染症発生予防と発生時の緊急対応 ・健康管理のためのシステムと情報管理 ・救急処置体制の整備 ◆養護実習の実際対応① ・来室者への救急処置 (一般救急処置)	事前学習	教科書の健康管理体制に関するページ pp.111～114 を熟読、学校保健実務必携 pp.447～474 感染症の予防の事項を熟読し予習しておく
		事後学習	学校における健康管理体制について、本時の講義を通して感じたことやわかったことをワークシートに記述しファイリングしておく。
第 12 回	◆養護実習の実際対応② ・来室者への救急処置 (一般救急処置) ・保健室来室者の来室理由と対応過程 ・外科的症候への対応	事前学習	教科書及び学校保健実務必携の健康相談活動や来室者への対応に関するページを熟読し、自分の考えをまとめて予習しておく。
		事後学習	健康相談活動の留意点について、講義時間内のディスカッションを総括し、自分の考えや対応の留意点ワークシートに記述しファイリングしておく。
第 13 回	◆養護実習の実際〔健康相談活動〕 相談ニーズを抱える子どもの対応 ・慢性疾患の障害を抱える子どもの継続的ケア ・様々な子ども訴えに対する対応 ・頻回来室者への対応 *相談活動についての課題レポート提出③	事前学習	教科書 pp.115～146 学校保健実務必携 pp.392～428 健康相談と保健指導を熟読し、予習しておく
		事後学習	健康相談活動の留意点について、レポートを作成する。課題レポート③
第 14 回	◆模擬授業① 発表を通し、グループワークおよび発表	事前学習	模擬授業の指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど、発表準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことをワークシートに記述しファイリングしておく。
第 15 回	◆模擬授業② 発表を通し、グループワークおよび発表 *課題レポート提出④	事前学習	模擬授業の指導案の再整理を行い、使用する教材を作成するなど、発表準備をしておく。
		事後学習	模擬授業から学んだことをまとめ、レポートを作成する。
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 / 幼児体育 (SC : 保育士) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1142
2. 授業担当教員	飯田 昌男			
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容 (健康)、レクリエーションワーク、レクリエーション理論の履修を勧める。			
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。			
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2,子ども達の運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3,リズム体操、身体表現の教材がつけれる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 実技試験 (5種目: 子供たちの見本となるレベルです) 鉄棒、跳び箱、マット、竹馬、縄跳び 課題 2 使用した教具の特性を生かし、対象年齢にあったリズム体操を創作し、発表・レポートにまとめる。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】必要に応じて資料を配布する。 【参考書】河田 隆編『幼児体育教本』同文書院。 日本幼児体育学会編『幼児体育』大学教育出版。 山口智之著『幼児体育-応用編-』タイケン出版。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 その他授業の中で紹介していく。			
11. 成績評価の方法	1,授業への参加態度 20%、 2,課題 1 (実技試験) 60%、 3,課題 2 (創作発表・レポート) 20% 4,本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。			
12. 受講生へのメッセージ	子どもの生活の中心は「あそび」であり、そのほとんどが「運動あそび」である。毎日元気いっぱい体を動かすことによって、心身の発達を向上させる大切な時期でもある。この大切なときの指導援助は、家族をはじめ幼稚園教諭や保育士である。この授業では、自らの健康の向上を図りながら運動あそび、リズム、身体表現を楽しみ、次第に指導援助する視点に向かい、補助の仕方・声かけを学んでほしい。学習ノートを自ら作成し、授業内容・留意点や気づいた点などを記録し、自分流声掛けを研究してほしい。きっと現場で役に立つと思います。 授業においては以下のような基本的ルールを守ってください。 1. 授業中の活発な意見、質問等を期待します。 2. 欠席は学則に則り 3 回までとします。出席を取っている間の入室は出席とし、それ以降の入室は欠席とします。ただし、授業は受けられます。理由は時間を守ることはとても重要であると考えているからです。 3. 実技中心の授業なので運動にふさわしい服装、髪型をしてきてください。ふさわしくない服装、髪型の場合は授業参加をお断りする場合があります。 4. 実技が出来なくてもあきらめないでください。努力と工夫を忘れずに前向きに考えましょう。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (授業の約束、内容等の説明)、 幼児体育の目標とねらい		事前学習	幼稚園や保育所での運動遊びについて調べておく。 どのような保育者になりたいかまとめておく。
			事後学習	本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 2 回	集団あそび (ジャンケンゲーム、その他) の指導と声掛けを学習する		事前学習	ジャンケンゲームを調べてくる。
			事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 3 回	集団あそび (伝承あそび、竹馬) の指導と声掛けを学習する 実技評価		事前学習	伝承遊びについて調べてくる。
			事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 4 回	器械運動あそび (マット) の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価		事前学習	マット遊びについて調べてくる。
			事後学習	現場で使えるように自分流の言葉 (声掛け) と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 5 回	器械運動あそび (跳び箱) の指導・補助と声掛けを学習する		事前学習	跳び箱遊びについて調べてくる。

	実技評価	事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 6 回	器械運動あそび（鉄棒）の指導・補助と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	鉄棒遊びについて調べてくる。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 7 回	リズム体操（ジャズ体操、その他）	事前学習	子ども向け TV 番組（特にリズム体操）などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第 8 回	リズム体操（パラバルーン、その他）	事前学習	子ども向け TV 番組（特にリズム体操）などを観てくる。
		事後学習	体操の振付を学習ノートにまとめる。
第 9 回	創作リズム体操 （グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループの発表曲の候補を挙げておく。
		事後学習	グループにて練習。
第 10 回	創作リズム体操 （グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第 11 回	創作リズム体操 （発表会のリハーサル、グループ練習、ディスカッション）	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	グループにて練習。
第 12 回	創作リズム体操発表会 レポート提出	事前学習	グループにて練習。
		事後学習	自分たちの発表や他のグループの発表の振り返りを学習ノートにまとめる。
第 13 回	縄跳び（短縄）の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 14 回	縄跳び（長縄）の指導と声掛けを学習する 実技評価	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。
第 15 回	縄跳び（いろいろな跳び方）の指導と声掛けを学習する 実技評価 まとめと今後の課題	事前学習	縄跳びの練習をしておく。
		事後学習	現場で使えるように自分流の言葉（声掛け）と本時の内容を学習ノートにまとめる。

1. 科目名 (単位数)	幼児体育 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1142										
2. 授業担当教員	幸喜 健	5. 開講学期	秋期										
4. 授業形態	実技を中心に実施し、適宜講義やディスカッションを行う。												
6. 履修条件・ 他科目との関係													
7. 講義概要	体力や運動能力の低下が報告されていることは周知の通りである。そこで、保育者として幼児や児童の発育発達に大きく関与する訳であるから、遊びや身体運動に関する基本的な知識を理解するとともに、学生自身の身体能力や運動技能を高めることが重要である。また、保育の中で取り上げる運動あそびに関する教材を作成したり、学生同士で声掛けなどを実践しながら具体的な指導法を学習する。運動あそびにおける安全管理、それらに必要な知識や技能を習得する。												
8. 学習目標	本講義を履修することによって以下の項目を達成することを目標とする。 1,自分の体を自分でコントロールする能力を養い、運動技能を高める。(具体的には、走る・スキップ・ギャロップなどやマット・跳び箱・鉄棒などが、子どもたちの見本となる様にできること。) 2,子どもの運動あそび、リズム、身体表現の楽しさを味わい、指導・援助の方法の理解を深め、指導・援助ができる。(指導方法や声掛けなどを学ぶ。) 3,リズム体操、身体表現の教材がつくれる。												
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題1. 実技試験：竹馬、マット、跳び箱、鉄棒、縄跳び(子供たちの見本となるレベル) 課題2. 各種遊びや運動の調査とレポート提出 課題3. 対象年齢に合ったリズム体操を創作し、発表・レポートにまとめる												
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】必要に応じて資料を配布する 【参考書】授業内で紹介していく												
11. 成績評価の方法	<table border="1"> <tr> <td>授業への参加態度</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>課題 1</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>課題 2</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>課題 3</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の習得を認めない。</p>			授業への参加態度	15%	課題 1	35%	課題 2	20%	課題 3	30%	計	100%
授業への参加態度	15%												
課題 1	35%												
課題 2	20%												
課題 3	30%												
計	100%												
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育士・幼稚園教諭など、「先生」をめざす学生としての心構えで受講してください。 2. 実技を行う授業のため、それにふさわしい服装(髪型、靴、爪なども含む)で参加してください。 3. 欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 4. わからないこと、疑問に思うことは、質問・意見をして解決していきましょう。 5. 自主的に取り組み、積極的な授業参加を望みます。 												
13. オフィスアワー	別途連絡する												
14. 授業展開及び授業内容													
講義日程	授業内容	学習課題											
第 1 回	オリエンテーション 幼児体育の目標とねらい 幼稚園教育要領・保育所保育指針	事前学習	幼稚園や保育園での運動あそびについて調べる。										
		事後学習	幼児体育のねらいを復習する。										
第 2 回	集団あそび(ジャンケン、鬼ごっこなど)の種類や指導の学習 自然と関わる遊び(砂・石・木・木の葉・水など)の種類や指導の学習	事前学習	鬼ごっこや集団あそびの種類を調べておく。自然と関わる遊びを調べる。										
		事後学習	集団あそびや自然と関わる遊びをできるようにする。										
第 3 回	集団あそび(ボール遊び)の種類や指導の学習	事前学習	ボール遊びの種類を調べる。										
		事後学習	ボール遊びをできるようにする。										
第 4 回	集団あそび(伝承遊び、竹馬)の種類や指導の学習 色々な素材を使った遊び(新聞紙・ペットボトル・空き缶・テープ・布など)の種類や指導の学習	事前学習	伝承遊びの種類を調べる。 様々な素材を準備する。										
		事後学習	伝承遊びをできるようにする。 様々な素材を使った遊びを実践できるようにする。										
第 5 回	器械運動(マット)の指導・補助、声掛けの学習	事前学習	マット運動の種類を調べる。										
		事後学習	マット運動をできるようにする。										
第 6 回	器械運動(跳び箱)の指導・補助、声掛けの学習	事前学習	跳び箱運動の種類を調べる。										
		事後学習	跳び箱運動をできるようにする。										
第 7 回	器械運動(鉄棒)の指導・補助、声掛けの学習	事前学習	鉄棒運動の種類を調べる。										
		事後学習	鉄棒運動をできるようにする。										
第 8 回	リズム(ケンケン、スキップなど)の種類や指導の学習 音楽に合わせて表現や身体運動を行う	事前学習	「リズム」運動の種類や使用される音楽などを調べる。										
		事後学習	「リズム」運動ができるとともに、そこで使用される音楽が弾けるようにする。										
第 9 回	リズム体操(即興での体操製作)の種類や指導の学習 音楽に合わせて表現や身体運動を行う	事前学習	リズム体操に合う音楽を調べる。										
		事後学習	リズム体操をできるようにする。										
第 10 回	創作リズム体操(グループでの創作、ディスカッション、練習)	事前学習	リズム体操に合う音楽を調べ、発表に使用する曲の候補を挙げる。										
		事後学習	グループにて練習。										
第 11 回	創作リズム体操(グループでの創作、ディスカッション、練習、発表会のリハーサル、運営体制の確認)	事前学習	グループにて練習。										
		事後学習	グループにて練習。										
第 12 回	創作リズム体操(発表会の運営と発表)	事前学習	グループにて練習。										
		事後学習	自分たちや他のグループの発表を参考にリズム体操について考察する。										
第 13 回	縄跳び(短縄)の指導、声掛けの学習	事前学習	縄跳び運動の種類を調べる。										
		事後学習	縄跳びをできるようにする。										
第 14 回	縄跳び(長縄)の指導、声掛けの学習	事前学習	縄跳び運動の種類を調べる。										
		事後学習	縄跳びをできるようにする。										
第 15 回	まとめ(様々な子どもの遊びと身体活動、自然活動)	事前学習	こどもの運動について調べる。										
		事後学習	幼児体育について考察する。										

1. 科目名 (単位数)	幼児理解 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2212
2. 授業担当教員	吉川 晴美	5. 開講学期	秋期
4. 授業形態	講義		
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	幼児期の保育は、幼児一人ひとりの発達の特徴に応じ、発達の課題に即した指導を行うことが重要です。本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、実践事例（文献、映像）等を用いて、幼児の生活の実際とその理解、具体的な指導のとりえと意味、幼児期の保育における環境のとりえ方、評価の在り方、幼小の連携、並びに行事について学びます。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育は環境を通して行うものであることが理解できるようになる。 ・保育者の役割をあげ、説明することができるようになる。 ・幼児期の保育における評価について説明することができるようになる。 ・幼小の学びの関連性が分かるようになる。 ・行事の意味が分かり、日常の保育との関係を説明することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	様々な場面における幼児の姿や行動の観察、具体的な幼児とのかかわりについて記録を行う。上記記録から事例（エピソード）を抽出し考察を行う。		
10. 教科書・参考書・教材	武藤安子・吉川晴美・松永あけみ 『家庭支援の保育学』建帛社 2010 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文科省『資料 幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』2010		
11. 成績評価の方法	試験 50%、レポート、提出物 30%、授業中の態度 20%		
12. 受講生へのメッセージ	子ども、幼児とはなにか、その内面を理解し、保育者としてどのようにかかわるか、具体的な場面を通して、共に探求し、考えていきましょう、		
13. オフィスアワー	別途連絡する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	授業概要、授業計画、保育とは	事前学習	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の第1章を読んでくる。
		事後学習	シラバス全体に目を通し、今後の進行を確認しておく
第2回	保育とは	事前学習	教科書該当箇所を読み、事前配布した資料に記入してくる。
		事後学習	保育とは何か、保育者としての子ども理解とはなにかについてまとめる。
第3回	子どもをとらえる視点と保育	事前学習	事前に配布した資料に目を通しておく
		事後学習	子どもをとらえ方について確認し、自分のとらえ方をひろげる。
第4回	子どもの発達とはなにか	事前学習	教科書、配布資料を読み、発達についてイメージしてくる。
		事後学習	保育者として、発達の過程を理解する意義をとらえなおす。
第5回	子どもの発達理解1—幼児期前半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期前半の子どもの発達の特徴をまとめてくる。
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる
第6回	子どもの発達理解2—幼児期後半の発達—	事前学習	教科書、配布資料を読み、幼児期後半の子どもの発達の特徴をまとめてくる。
		事後学習	事例検討を通して、発達をふまえた適切な援助を振り返り、自分の考えを広げる
第7回	子ども理解の方法1—観察と記録の取り方	事前学習	配布資料を読み、該当箇所に記入してくる
		事後学習	観察法についてまとめる
第8回	子ども理解の方法2—ロールプレイによる理解	事前学習	具体的な場面における子どもの姿をイメージしてくる。
		事後学習	授業で行ったロールプレイについてまとめる
第9回	子どもの立場からの理解	事前学習	保育場面における子どもの立場、気持ちをイメージしてくる。
		事後学習	ビデオ資料を通じ、子どもの側から観たその内的世界と外的世界をまとめる。
第10回	子ども同士・保育者とのかかわりからの理解	事前学習	保育場面における、子ども同士、保育者とのかかわりについてイメージしてくる。
		事後学習	ビデオ資料を通じ、子ども同士、保育者とのかかわりについてまとめる。
第11回	子ども理解と援助1—気になる子どもの事例から	事前学習	保育場面における気になる子どもと行為の意図についてイメージしてくる。
		事後学習	教科書、配布資料をもとに、幼児理解の意味と方法を深め、広げる。
第12回	子ども理解と援助2—特別に配慮が必要な子どもの事例から	事前学習	障がいや特別に配慮が必要な子ども
		事後学習	ビデオ資料の事例検討から、保育者のかかわりについてまとめる。
第13回	子ども理解と援助3—愛着・虐待と子どものサイン	事前学習	配布資料をもとに、愛着の意味、虐待についての基礎的知識を確認してくる。
		事後学習	具体的事例から、子どものサインをどう受けとめ、カウンセリングマインドで応ずるかについてまとめる。
第14回	保育の環境と援助—保護者・家族理解と連携	事前学習	配布資料、具体的事例から、親の気持ち、子どもとの関係について考えてくる。
		事後学習	家族の関係性と子どもをめぐる問題と援助、連携についてまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	今まで学習した内容を確認してくる。
		事後学習	学習内容を整理し、子ども理解の知識と方法と実践をつなげて自分のものとする。

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 (1 単位)		3. 科目番号	SJTP3555
2. 授業担当教員	関口 はつ江・松井 裕子			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力とを身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的な状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。 2. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる(子どもからの学び、保育者からの学び)。 3. 実習体験の段階(観察、参加、実習)における実習目標と実習記録の方法はわかる。 4. 指導計画の作成—実践—反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。 5. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。 6. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身に着ける。 7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	レポート <ol style="list-style-type: none"> 1. 教材研究、指導法レポート 2. 実習目的、実習園報告 3. 模擬保育指導計画作成 4. 模擬保育評価(模擬保育回数分約15グループ) 			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 島田ミチコ他編『幼稚園教育実習』建帛社、2010年。 本学教職課程支援室作成『幼稚園教育実習の手引き』 東京福祉大学編『教育実習に手引き』 【参考書】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。 その他プリントを配布。			
11. 成績評価の方法	グループ活動(指導案作成、模擬保育実践・反省) 30% 課題レポート及び最終レポート 20% 模擬保育への積極的参加、記録の作成(毎回) 40% 教科書のまとめ記録欄の評価 10%			
12. 受講生への メッセージ	保育はその都度に新しい出会いがあり、自分が試され、子どもや保育者から学ぶことが限りなくあります。これまで自分が身につけてきたことを確かめ、深め、保育力を高めるためには実習の一日一日は極めて重要です。充実した実習ができるかどうかは、事前学習を真剣に行い、しっかりと心構えを作ったかにかかっています。これまで専門科目で学んだことを総合的に捉え、疑問を解いておくこと、実践における自分の長所と短所を自覚し、短所を克服して、自信を持って前向きに実習に臨むよう日頃から備えてください。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の概要、授業計画、教育実習の目的、幼稚園の位置付け、幼稚園現場の特徴理解	事前学習	幼稚園教育要領記載の幼稚園教育の目的と方法を確認する	
		事後学習	自分の実習課題(幼児教育の基本理解と中心として)を確認する	
第2回	実習生の位置づけと園とのかかわり(園の方針理解、保育者や保護者との関係、子どもにとっての実習生)(模擬保育計画①)	事前学習	これまでの実習体験の振り返る	
		事後学習	実習生の在り方(実習生としての学び方を中心として)を確認し、記録する	
第3回	保育者の基本マナー(言葉遣い、生活習慣、社会的習慣)実習体験の反省と今後の課題(ロールプレイ等)(模擬保育計画②)	事前学習	保育者としての子どもの見方・援助、チーム行動を復習する	
		事後学習	自分の保育者としての反省点をまとめ、記録する	
第4回	具体的な保育場面における子ども理解と保育行動1(遊びを中心として)	事前学習	「遊びによる保育」の指導方法を確認する	
		事後学習	遊び場面での保育の基本を復習し記録する	
第5回	具体的な保育場面における子ども理解と保育行動2(一斉活動を中心として)	事前学習	一斉的保育の意義を予習する	
		事後学習	一斉的保育による指導法を復習し記録する	
第6回	保育日誌 (日誌の内容、文章、言葉の使い方他)	事前学習	保育における記録の意味を予習する	
		事後学習	保育記録の書き方の事例の修正とコメントを作成(小課題)する	
第7回	指導計画1 (内容と立案のポイント)(幼児の実態等と教材選択)	事前学習	指導案の内容を確認する	
		事後学習	指導案例についての考察、修正する(小課題)	
第8回	指導計画2 (保育の反省と指導計画)	事前学習	実践と計画の関係について教育要領記載事項を理解する	
		事後学習	幼児の実態に即した指導かどうか事例を考察してレポートする(小課題)	

第 9 回	模擬保育 (グループ活動、計画の作成と実践、考察)	事前学習	保育参加と評価の観点を確認する
		事後学習	当日の保育の評価(ねらい、教材、態度などの評価)をレポートする(課題)
第 10 回	模擬保育 (グループ活動、計画の作成と実践、考察)	事前学習	保育参加と評価の観点を確認する
		事後学習	当日の保育の評価(ねらい、教材、態度などの評価)をレポートする(課題)
第 11 回	模擬保育 (グループ活動、計画の作成と実践、考察)	事前学習	保育参加と評価の観点を確認する
		事後学習	当日の保育の評価(ねらい、教材、態度などの評価)をレポートする(課題)
第 12 回	模擬保育 (グループ活動、計画の作成と実践、考察)	事前学習	保育参加と評価の観点を確認する
		事後学習	当日の保育の評価(ねらい、教材、態度などの評価)をレポートする(課題)
第 13 回	模擬保育 (グループ活動、計画の作成と実践、考察)	事前学習	保育参加と評価の観点を確認する
		事後学習	当日の保育の評価(ねらい、教材、態度などの評価)をレポートする(課題)
第 14 回	模擬保育を通しての学び (環境構成、関わり、気配りなど)	事前学習	模擬保育における学習をまとめる
		事後学習	自分の模擬保育参加を振り返り記録する
第 15 回	実習園の理解とオリエンテーションの受け方、現場における学びの姿勢、実習目標の立て方、まとめ	事前学習	幼稚園教育実習の手引きにより実習手続を予習、疑問点をまとめる
		事後学習	実習のための自己課題解決の具体的方法を確認し、レポートする(課題)
期末試験			

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 (E) (1 単位)		3. 科目番号	SJTP3455
2. 授業担当教員	鈴木 美子			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実践することにより、幼稚園教育の理解を深め、教師の使命感と保育の実践力とを身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構え、実践方法を扱う。具体的には、指導計画作成、保育状況把握、教材研究、指導方法、記録の仕方などについて講義や事例検討を通して学ぶ。保育の具体的状況に応じた判断力、行動力を養うため、模擬保育や教材研究など活動を伴う授業を含める。			
8. 学習目標	<p>7. 保育の現場にかかわる人としての基本的な態度、マナー、言葉遣いを理解し、自然に振舞うことができる。</p> <p>8. 保育実習者として現場から学ぶことの意味と学び方がわかる (子どもからの学び、保育者からの学び)。</p> <p>9. 実習体験の段階 (観察、参加、実習) における実習目標と実習記録の方法はわかる。</p> <p>10. 指導計画の作成—実践—反省の過程を体験的に学習し、実践の振り返りと計画の改善の方法がわかる。</p> <p>11. 子どもの発達段階にふさわしい教材と子どもの興味関心、自発的遊びを生かした活動の展開がわかる。</p> <p>12. 子どもの活動や遊びへの関わりかた、問題状況への対応をロールプレイなどを通して身につける。</p> <p>7. 幼稚園生活の1日の流れ、保育環境の整備の仕方など、幼稚園の生活の全体について知っておく。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・演習における成果物 (記録や指導案) を提出します。</p> <p>どのような観点を捉えて記録をすることが必要かを学びます。また、模擬保育を振り返って幼児に添った保育の指導案を作る力をつけてください。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>『幼稚園教育実習指導』建帛社</p> <p>『幼稚園教育実習の手引き』本学配付のもの</p>			
11. 成績評価の方法	<p>授業参加態度 (発言、傾聴態度等) 60%</p> <p>レポート等提出物 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>就学後の学びの基盤は幼児期の保育の中で育まれます。子どもの学びが深いものになるかどうかは、保育者の資質にかかっています。幼児期は子どもが自ら直接環境にかかわりながら、試したり発見したり考えたりして心ゆくまで十分に遊ぶことによって、充実した生活を積み上げることができます。保育者は、保育者自身も幼児のモデルとなる重要な環境の構成者です。幼児教育にかかわる機関や関係者が連携し、相互理解を深めることができるよう、幼児教育の課題等にも視野を広げるよう意識しながら教育実習に向けて、しっかりと心構えができるよう願っております。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	授業の概要、授業計画、 教育実習にのぞむ姿勢について	事前学習	幼稚園教育実習の手引きに目を通し持参する	
		事後学習	プリントをまとめる (部分保育の資料集め7回まで)	
第2回	幼稚園の一日における留意事項	事前学習	プリントを読みワークシートに記入する (留意事項)	
		事後学習	実習の一日における留意事項をまとめる	
第3回	教育実習の意義と内容	事前学習	プリントを読みワークシートに記入する	
		事後学習	意義と内容についてまとめる	
第4回	記録のとりかた (ビデオを見て演習)	事前学習	プリントを読んで必要事項を記入する (記録の内容)	
		事後学習	記録を完成させる	
第5回	記録のとりかた (一日の反省のまとめ方)	事前学習	プリントを読んで必要事項を記入する (反省について)	
		事後学習	反省を完成させる	
第6回	指導案について (部分保育を中心に)	事前学習	指導案のプリントをよく見てくる (部分保育の内容を知る)	
		事後学習	指導案作成における必要事項をまとめる	
第7回	教材研究 (部分保育を中心に)	事前学習	プリントを見て必要事項を記入する	
		事後学習	本日の学びをまとめる	
第8回	教材研究 (部分保育を中心に)	事前学習	プリントを見て必要事項を記入する	
		事後学習	本日の学びをまとめる	
第9回	シュミレーションと指導案作成 (部分保育の実際と指導案の関係)	事前学習	繰り返し行い、保育案を作成	
		事後学習	細案と指導案を完成させる	
第10回	模擬保育の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備	
		事後学習	発表者についての記録とまとめ	
第11回	模擬保育の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備	
		事後学習	発表者についての記録とまとめ	
第12回	模擬保育の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備	
		事後学習	発表者についての記録とまとめ	
第13回	模擬保育反省の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備	
		事後学習	発表者についての記録とまとめ	
第14回	模擬保育反省の発表	事前学習	模擬保育の練習と準備	
		事後学習	発表者についての記録とまとめ	
第15回	まとめ (今後の学びと課題、教育実習の目標設定)	事前学習	今までの学習を整理しておく	
		事後学習	幼稚園教育実習の目標作成	

1. 科目名 (単位数)	理科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJEL3432 EDEL3317								
2. 授業担当教員	加藤 敏明										
4. 授業形態	講義、実験、グループ学習、模擬授業	5. 開講学期	秋期								
6. 履修条件・ 他科目との関係	「理科」の単位を取得した後に履修することが望ましい。										
7. 講義概要	<p>理科教育は、子ども達が興味関心を持つ「理科の授業づくり」について理論と実践に基づいた基本を習得する必要がある。そのためには、自然科学の基本的な概念や法則を体系的に学習し、自然界の全体像を構造的に捉え科学的自然観を習得しなければならない。</p> <p>以上のことを学習するためには、小学校の理科教師は自然界の現象で目に見えない物を見えるように子ども達の目の前で再現できる力量を身に付ける必要がある。</p> <p>本講義では、身の回りの自然現象について科学的な物の見方・考え方もって解決していく基本的な力量を学習する。そのために、授業に役立つ簡単な実験を行う。</p>										
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育の歴史の変遷について学習し、学習指導要領の理科教育の内容や目標が分かる。 ・理科の授業作りと指導計画の立て方を学習する。なお、事前に理科学習指導案の書き方等を学び、模擬授業を行い、理科の指導と指導技術を習得し、授業中の安全管理についても学習する。 ・理科教育を取り巻く諸問題のうち、実感を伴った体験学習のあり方や環境教育等を理解する。 ・実験を通して実践力のある理科教師を目指す。 										
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1 : 6 年の「燃焼の仕組み」の単元を指定し、指導案を作成する。</p> <p>課題 2 : 天候に左右される教材 (特に、星の観察・植物の生長等) についてどのような指導方法があるか、あなたの考えを1,000字以内で述べなさい。</p> <p>課題 3 : 年間指導計画を作成する。</p>										
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>畑中忠雄『若い先生のための理科教育概論』東洋館出版社、2015 年。</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領 理科編』大日本図書、2008 年。</p> <p>【参考書】</p> <p>角屋重樹・林四郎・石井雅幸編『理科の学ばせ方・教え方事典 改訂新装版』教育出版、2010 年。</p> <p>東京福祉大学『教職科目要説 (初等教育編)』ミネルヴァ書房、2015 年。</p>										
11. 成績評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート・指導案の作成</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 模擬授業</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 年間指導計画の作成</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>			1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の 20%	2. レポート・指導案の作成	総合点の 30%	3. 模擬授業	総合点の 30%	4. 年間指導計画の作成	総合点の 20%
1. 授業態度 (教科書の準備・私語・発表)	総合点の 20%										
2. レポート・指導案の作成	総合点の 30%										
3. 模擬授業	総合点の 30%										
4. 年間指導計画の作成	総合点の 20%										
12. 受講生への メッセージ	<p>受講生に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書は必ず準備し、授業中は真剣に取り組み、分からないところは質問すること。 2. 授業中は他人に迷惑をかけないよう、私語・携帯電話・居眠り・飲食を禁止する。 3. 予習・復習をしっかりと行い、学習内容を確実に習得する。 4. レポートや副教材のプリント等は各自整理整頓に努め、学習内容の大切な資料として活用すること。 5. 欠席・遅刻・早退をしないこと。欠席・遅刻・早退をするときは、理由を書面にて提出すること。 										
13. オフィスアワー	第 1 回の時に知らせる。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第 1 回	シラバスの説明、班編制、授業の受け方。理科教育の目標について学習する。 実験 1 : アリの巣の観察と根の観察 (3 年・4 年・5 年)	事前学習	理科の学習指導要領を読んで、科学的な考えを理解しておく。								
		事後学習	理科教育で育成する各学年の能力を覚える。								
第 2 回	日本の理科教育の歴史の変遷について学習する。 実験 2 : 空気の膨張実験 (4 年)	事前学習	教科書の第 2 章 pp.14~34 を読んで、理科の歴史の変遷を調べておくこと。								
		事後学習	戦前と戦後の理科教育の変遷がわかる。								
第 3 回	新学習指導要領の内容を中心にした現在の日本の理科教育について学習する。 実験 3 : 乾電池のつなぎ方でしてはいけない実験 (4 年)	事前学習	教科書の第 3 章 pp.35~61 を読んで、新学習指導要領の改訂部分を調べておく。								
		事後学習	理科の学習指導要領を読み直し、ノートに改訂部分をまとめておく。								
第 4 回	理科の授業と指導計画について学習する。(季節等に左右される教材の取り扱いを理解する) 実験 4 : アルコール温度計の補正の仕方 (3 年)	事前学習	教科書の第 5 章 pp.76~102 を読んで、理科の特殊性である季節に左右される教材を調べておくこと。								
		事後学習	学校の地域を調べ、季節に左右される教材を配慮した年間指導計画を作成する。								
第 5 回	理科の授業と教材研究の仕方について学習する。(目に見えない自然現象を教室で再現する) 課題 3 の年間指導計画を提出する。 実験 5 : リトマス紙の正しい使い方 (6 年)	事前学習	教科書の第 6 章 pp.103~121 を読み、理科の教材研究のあり方を調べておくこと。								
		事後学習	目に見えない自然現象には何があるか調べるておくこと。								
第 6 回	理科学習指導案の作成の仕方について学習する。 実験 6 : マッチのすり方と燃焼実験 (4 年と 6 年)	事前学習	学習指導案を考えてくること。								
		事後学習	学習指導案を作成しておくこと。								
第 7 回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(班ごとに模擬授業	事前学習	模擬授業の準備をしておくこと。								

	を行う) (課題 1 の指導案提出) 実験 7 : 空気銃砲の実験 (4 年)	事後学習	模擬授業をした後の課題を整理しておくこと。
第 8 回	学習指導案をもとに模擬授業を行う。(班ごとに模擬授業を行う) 実験 8 : 天動説の実験 (4 年)	事前学習	模擬授業の準備をしておくこと。
		事後学習	模擬授業をした後の課題を整理しておくこと。
第 9 回	理科の授業と指導技術について学習する。(発問・板書の仕方・ノートの取り方・話し合い活動) 実験 9 : 心臓の音の観察 (聴診器) (6 年)	事前学習	教科書の第 9 章 pp.153~177 を読んで、板書・発問・目標の重要性について、まとめておくこと。
		事後学習	課題 2 のレポートを作成すること。
第 10 回	理科の授業の実践について学習する。(課題 2 のレポート提出) 実験 10 : 血液の流れの観察 (6 年)	事前学習	教科書の第 10 章 pp.178~188 を読んで、授業をしているときの課題をまとめておく。
		事後学習	学習の決まりを自分なりに記録しておくこと。
第 11 回	理科の授業と安全指導について学習する。 実験 11 : 実験道具の正しい扱い方 (3 年~6 年)	事前学習	教科書の第 11 章 pp.189~197 を読んで、理科の安全指導を調べておくこと。
		事後学習	理科の安全指導をノートにまとめておくこと。
第 12 回	理科の授業と映像を見ながら野外学習について学習する。 実験 12 : 地層の堆積実験 (6 年)	事前学習	教科書の第 12 章 pp.198~209 を読んで、野外学習の問題点をまとめておくこと。
		事後学習	野外学習に必要なことをノートに整理しておくこと。
第 13 回	理科の授業と映像を見ながら環境教育について学習する。(グループ討議と発表) 実験 13 : 水溶液の薬品の処理方法 (5 年・6 年)	事前学習	教科書の第 13 章 pp.210~219 を読んで、環境教育について調べておくこと。
		事後学習	授業で扱う薬品の適切な処理の仕方を覚えること。
第 14 回	理科の授業の評価の仕方について学習する。(グループ討議と発表) 実験 14 : 水の対流実験 (4 年)	事前学習	教科書の第 14 章 pp.220~248 を読んで、評価規準について調べておくこと。
		事後学習	事例を通して評価してみること。
第 15 回	まとめ (理科の科学的な物の見方・考え方について学習する) 実験 15 : アルコールランプの使い方 (4 年)	事前学習	理科の基礎基本を調べておくこと。
		事後学習	科学的物の見方・考え方を理解すること。

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP3113
2. 授業担当教員	池田 琴恵		
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方や方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の授業で授業の事前・事後学習に使用する課題シートを配布します。 事前学習として前半の穴埋め課題を行ってください。 事後学習として2回のレポートを作成します。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】使用しない 【資料・教材】授業では A4 サイズの資料や課題を配布します。 各自 A4 の 2 つ穴式のリングファイルを準備してください。		
11. 成績評価の方法	以下の加点配分で成績評価を行います。 課題シートへの取り組み 20%、レポート枠 (2 回) 40% 小テスト (2 回) 40%		
12. 受講生へのメッセージ	臨床心理学は、その歴史の中で様々な視点から人の心理的問題の原因追及や解決方法の解明・開発に取り組んできました。現代ではその視点や活用場面も幅広くなったため、この講義でも臨床心理学の多様なアプローチについて学びます。それぞれ関心のあるアプローチについて自主的に調べたりまとめたりして、さらなる理解を深めてください。		
13. オフィシアワー	初回の講義でアナウンスします。E-mail : koikeda@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (講義内容、講義の進め方) 臨床心理学とは	事前学習	シラバスを読み、どのような講義内容、日程かを確認しておくこと
		事後学習	今後の授業内容と進め方について理解し、必要な教材を準備すること
第 2 回	臨床心理学の基本	事前学習	課題シート 1
		事後学習	レポート準備
第 3 回	ケースフォーミュレーションとアセスメント 初回面接のロールプレイ	事前学習	課題シート 2
		事後学習	レポート準備
第 4 回	アセスメントの技法	事前学習	課題シート 3
		事後学習	レポート準備
第 5 回	心理的問題と精神障害の理解	事前学習	課題シート 4
		事後学習	レポート準備
第 6 回	ライフサイクルと心理的問題の理解	事前学習	課題シート 5
		事後学習	レポート準備
第 7 回	発達過程で生じる障害や問題の理解	事前学習	課題シート 6
		事後学習	レポート提出準備
第 8 回	※ 小テスト レポート提出 精神分析、分析心理学	事前学習	課題シート 1～6 を見直し、小テストの準備をする。課題シート 7
		事後学習	レポート準備
第 9 回	クライアント中心療法	事前学習	課題シート 8
		事後学習	レポート準備
第 10 回	家族心理学、家族療法	事前学習	課題シート 9
		事後学習	レポート準備
第 11 回	認知行動療法 1 : 理論	事前学習	課題シート 10
		事後学習	ホームワークに取り組む
第 12 回	認知行動療法 2 : 実践	事前学習	ホームワークに取り組む
		事後学習	レポート準備
第 13 回	コミュニティ心理学 予防プログラムの開発	事前学習	課題シート 11
		事後学習	グループで予防プログラムを検討する
第 14 回	コミュニティ心理学 予防プログラムの発表	事前学習	グループで作成した予防プログラムを発表できるように準備する
		事後学習	レポート提出準備
第 15 回	※ 小テスト レポート提出 復習とまとめ	事前学習	課題シート 7～11 を見直し、小テストの準備をする
		事後学習	これまでの授業を振り返り、臨床心理学の理論や技法の活用を自身がどのように活用できるかについて考える

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学 (2 単位)		3. 科目番号	SSMP3331 SNMP3331 SCMP3331 SBMP3331
2. 授業担当教員	懸川 武史			
4. 授業形態	講義、討議、発表、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	臨床心理学として、不適応や障害、病、苦悩の発生原因や発生過程、回復の過程を探る科学的側面と、問題を抱える人々に寄り添いながら、適応の調整や人格的成長を促進することで問題の解消や軽減を目指す実践的側面との両面を学ぶ。そのために、心理的援助を必要とする人々の心理を理解するだけでなく、問題を理解するアセスメントの視点から各発達段階に生じやすい心理的問題や障害を理解する。また、問題の解決に向かう代表的な援助の理論や技法について理解を深める。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や発達障害を含めて、心理的問題を抱える人々の心理を理解し、説明できる。 2. 各発達段階における心理的課題や障害を理解し、説明できる。 3. 不登校・いじめ・虐待・自死・非行問題といった代表的な心理臨床の問題を理解し、説明できる。 4. 心理アセスメントの考え方と方法について理解し、説明できる。 5. 主要な心理的援助の理論と技法を理解し、説明できる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>専門用語の概念をキーワードとして理解する。</p> <p>援助モデルの検討、構築についてレポート作成をととして理解する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【参考書】 学修において参考図書を紹介する。</p> <p>配付資料 (A 4 版) を整理・まとめられるステーションナリーを準備する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>小テスト (キーワードの理解) 30%</p> <p>レポート+授業への取組 20%</p> <p>期末筆記試験 50%</p> <p>※ 成績達成 80/100</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>臨床は援助関係により、アセスメントに基づく援助モデルをデザインし、援助対象の自立・自律を目指します。理論と実践の融合、援助者間の協働による活動です。気づきに基づくスパイラルな体験過程を内在化できることがポイントです。授業において共に学び相互成長できることを期待します。</p>			
13. オフィスアワー	授業の前後			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	臨床とは?	事前学習	第 1 回にて「ワールドカフェ」を行う。ホールシステムアプローチの 1 つ「ワールドカフェ」について確認する。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 2 回	臨床心理学・カウンセリング心理学・心理療法	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 3 回	コミュニティ心理学	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 4 回	交流分析	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 5 回	精神分析	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 6 回	クライアント中心療法	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 7 回	家族療法 ①	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 8 回	家族療法 ②	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 9 回	行動療法	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 10 回	認知行動療法	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 11 回	マイクロカウンセリング	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 12 回	ケーススタディ ①	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 13 回	ケーススタディ ② レポート作成	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 14 回	援助モデルデザイン ①	事前学習	前回の授業において配付した資料に基づきキーワード等を確認。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
第 15 回	援助モデルデザイン ② レポート作成	事前学習	キーワードの整理。	
		事後学習	キーワードの理解を確認する小テストへの準備。	
期末試験				

1. 科目名 (単位数)	倫理学 (2 単位)		3. 科目番号	GELA1320
2. 授業担当教員	篠 大輔			
4. 授業形態	講義、演習、ディスカッション		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>われわれ人間は、事実的な文脈(「～である」)と価値的な文脈(「～すべき/よい/悪い」)とが交差しながら織り成す毎日の中で生きている。大雑把に言えば、「科学」を志向するさまざまな学問分野は、前者(事実)を明らかにすることを目指しており、他方、後者(価値)をその研究対象に据えているのが、哲学や本コースで学ぶ倫理学である。</p> <p>価値(判断)という捉えどころのないものに対して、人類社会は、少なくとも 2,000 年以上にわたって思索を積み重ね、叡智を積み上げてきた。本コースでは、そのような倫理学の主要な理論や学説を、日常生活につながりをもつような問いと重ね合わせながら学んでいく。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における様々な倫理的問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を発表することができる。 2 さまざまな倫理学説を学ぶことによって、日常生活の中にいろいろなかたちで姿を表す「正義」「幸福」「公正」「自由」「義務」といった概念に対して、自分なりに根拠をもって説明できるようになる。 3 倫理的問題に関する様々な議論を理解し、それを踏まえて自分の意見を聞いている人に分かりやすく述べることができる。 4 ディスカッションを通して、人の意見をよく聞き、自分の意見を人に分かりやすく伝えることができる。 			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前課題・ワークシート(各回の講義内容に沿った課題を提示する。) 2. 期末レポート 「事前課題・ワークシートに記述してきた自分の意見や授業中のディスカッションを踏まえて、自分自身の倫理観について分析しなさい。」 			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 高橋昌一郎『哲学ディベート (倫理) を (論理) する』NHK出版、2007。</p> <p>【参考書】 ジェームズ・レイチェルズ著・古牧徳生・次田憲和訳『現実をみつめる道德哲学 - 安楽死からフェミニズムまで - 』晃洋書房、2003。 アンソニー・ウエストーン著・野矢茂樹・高村夏輝・法野谷俊哉訳『ここからはじまる倫理』春秋社、2004。</p>			
11. 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業態度・発表・発言) 20% ・課題(事前課題・ワークシート) 30% ・期末レポート 50% 			
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前課題を毎回出しますので、教科書を読み、授業前に事前課題に取り組みましょう。事前課題を行っていない人の出席は認めません。 2. 授業中は私語を慎み、携帯電話の電源を切って参加してください。 3. グループワークやディスカッションには積極的に参加しましょう。 4. 授業中に分からなかったことや疑問点は後に残さずに授業後に質問してください。 5. レポートや課題の提出期限を守ってください。 6. 正当な理由のない遅刻、早退、欠席はしないように心掛けてください。 			
13. オフィスアワー	初回講義で連絡する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	はじめに - (論理) と (倫理)	事前学習	「目次」を見て、興味のあるテーマをチェックしておく。	
		事後学習	倫理学を学ぶ意義について自分なりに考えをまとめておく。	
第 2 回	功利主義と普遍的道德	事前学習	教科書「はじめに」(pp.9~24)を読み、事前課題に取り組む。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 3 回	道德 - あなたはなぜ正直なのか (序章)	事前学習	教科書 (pp.24~71) を読み、事前課題に取り組む。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 4 回	文化 - 食べるとはどのようなことか① (第 I 章) - 命の授業 -	事前学習	教科書 (pp.73~94) を読み、事前課題に取り組む。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 5 回	文化 - 食べるとはどのようなことか② (第 I 章) - 犬食問題 -	事前学習	教科書 (pp.95~114) を読み、事前課題に取り組む。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	
第 6 回	人命 - いかに産むべきか① (第 II 章) - 代理出産 -	事前学習	教科書 (pp.115~138) を読み、事前課題に取り組む。	
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。	

第 7 回	人命 - いかにな産むべきか② (第Ⅱ章) - ベビー・ビジネス -	事前学習	教科書 (pp.138~158) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 8 回	人権 - どのように罰するべきか① (第Ⅲ章) - 死刑 -	事前学習	教科書 (pp.159~185) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 9 回	人権 - どのように罰するべきか② (第Ⅲ章) - 終身刑 -	事前学習	教科書 (pp.186~201) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 10 回	自由 - 何をしても許されるのか① (第Ⅳ章) - メーガン法 -	事前学習	教科書 (pp.203~224) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 11 回	自由 - 何をしても許されるのか② (第Ⅳ章) - 売春 -	事前学習	教科書 (pp.225~245) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 12 回	尊厳 - いかにな死すべきか① (第Ⅴ章) - 安楽死 -	事前学習	教科書 (pp.247~270) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 13 回	尊厳 - いかにな死すべきか② (第Ⅴ章) - 自殺 -	事前学習	教科書 (pp.270~289) を読み、事前課題に取り組む。
		事後学習	授業内容やディスカッションで話し合ったことをワークシートにまとめ、分からなかったところがあれば教員に質問する。
第 14 回	これまでの議論を踏まえて自分自身の倫理観について分析する	事前学習	これまで取り上げたテーマやディスカッションの内容を復習し、自らの倫理観について考えておく。
		事後学習	ディスカッションの中で明らかとなってきた自分自身の倫理観について分析し、まとめる。
第 15 回	まとめ - これまでの議論を振り返って	事前学習	自分自身の倫理観の分析について振り返っておく。
		事後学習	この授業で学んだことを今後、受講する授業で活用する。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1103
2. 授業担当教員	上村 孝司		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1. グループによる企画書、運営、運営後の評価および今後の課題</p> <p>課題2. 様々な対象で実施されているレクリエーションの情報や課題の調査、およびその実践</p> <p>課題3. レクリエーション指導のポイントと工夫についての口頭発表やディスカッション</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特になし(必要に応じて資料を配布する)。</p> <p>【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度 30%</p> <p>課題 70%</p> <p>計 100%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター資格には、各種レクリエーションのルールや特徴を理解していると同時に、現場で企画・運営ができ、さらに「人と人」「人と自然」を楽しく結びつける役割も期待されています。</p> <p>この授業ではレクリエーションの理論を学ぶだけでなく、企画・運営をしっかりと行えるようにする能力を身につけて欲しいと考えています。そのために、以下のルールを守るようにお願いします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資格取得に向けて高い意識・意欲を持つこと、自主的に取り組み、積極的な授業参加を望みます。 2. 欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 3. 企画・運営の際、責任ある行動を期待します。 		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション アイスブレイキングの考え方と方法 グループの作成	事前学習	レクリエーションとは何かについて考える。 アイスブレイキングを調べる。
		事後学習	レクリエーションの理論と実際を復習する。 アイスブレイクについて調べる。
第2回	レクリエーションの基礎理論 (意義・制度・役割、地域・各種団体のレクリエーション) アイスブレイクの種類とその発表	事前学習	レクリエーションの意義について考える。 レクリエーション協会について調べる。 アイスブレイクについて調べる。
		事後学習	レクリエーションの役割を復習する。
第3回	レクリエーションの支援論 (ライフスタイルごとの課題とレクリエーション) ライフステージごとのレクの発表	事前学習	レクリエーションの支援方法について考える。 ライフスタイルごとのレクリエーションについて調べる。
		事後学習	ライフスタイルごとの課題を復習する。
第4回	レクリエーションの事業論 (事業計画・安全管理) レクリエーションの事業計画について、対象、目的・目標、方法を考える	事前学習	レクリエーション支援の方法について考える。 レクリエーション案を考える。
		事後学習	レクリエーションの計画を準備する。 レクリエーションの安全管理について復習する。
第5回	レクリエーションの事業論 (レクリエーション計画・準備) レクリエーションの事業計画について、対象、目的・目標、方法を考える	事前学習	レクリエーションを計画する。 レクリエーション指導案を作成する。
		事後学習	レクリエーションの準備をおこなう。 レクリエーション発表の準備を行う。
第6回	レクリエーション事業の実際 (グループにて運営、評価)	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。
第7回	レクリエーション事業の実際 (グループにて運営、評価)	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。
第8回	レクリエーション事業の実際 (グループにて運営、評価)	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。

第 9 回	レクリエーション事業の実際 (グループにて運営, 評価)	事前学習	レクリエーション運営の方法について考える
		事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。
第 10 回	レクリエーションの反省と考案 (グループワーク)	事前学習	レクリエーションの反省点をまとめる。
		事後学習	レクリエーションの評価を検討する。 レクリエーションの改善点をまとめる。
第 11 回	グループによる企画およびディスカッション 指導案の作成・プレゼンテーションの準備	事前学習	レクリエーションの考案をする。
		事後学習	レクリエーションの展開について復習する。 プレゼンテーションの方法を考える。
第 12 回	グループによる企画のプレゼンテーションと評価	事前学習	プレゼンテーションの準備を行う。
		事後学習	レクリエーション運営の問題点をまとめる。
第 13 回	レクリエーション大会 (個人・団体へのプランニング, 運営, 安全管理等)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 14 回	レクリエーション大会 (個人・団体へのプランニング, 運営, 安全管理等)	事前学習	レクリエーション運営の注意点について考える。
		事後学習	レクリエーション運営の実際を振り返る。
第 15 回	まとめ	事前学習	レクリエーションとは何かについて改めて考える。
		事後学習	レクリエーション支援について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEBS2303 GEHL1103
2. 授業担当教員	齊藤 雅記		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。 授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。		
8. 学習目標	1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題 1 レクリエーションの基礎的理論のレポートの作成 課題 2 レクリエーションの企画を作成と、その企画書に沿った運営の実施		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】必要に応じて適宜資料を配布する 【参考書】必要に応じて適宜資料を配布する		
11. 成績評価の方法	課題 1 50% 課題 2 50% 計 100% なお、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を取得するための最低条件となります。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義はレクリエーションの基本的な意義から、レクリエーション指導の基礎的技術から応用的技術まで幅広く実施します。 レクリエーションの知識や技術を用いて、現場で企画・運営ができ、さらに「人と人」「人と自然」を楽しく結びつける、そのような能力を習得できるよう目指していきましょう。		
13. オフィスアワー	授業内で周知する		

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション	事前学習	レクリエーションとは何か考える。
		事後学習	レクリエーションの意義と課題を考える。
第 2 回	レクリエーションの基礎理論① ○レクリエーションの意義と役割	事前学習	レクリエーションの意義と役割を考える。
		事後学習	レクリエーションの意義とその課題をまとめる。
第 3 回	レクリエーションの基礎理論② ○各発達段階のレクリエーション	事前学習	各発達段階におけるレクリエーションを考える。
		事後学習	各発達段階におけるレクリエーションの課題と対応策をまとめる。
第 4 回	レクリエーションの体験① ○様々な基礎的レクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 5 回	レクリエーションの体験② ○ニュースポーツを用いたレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 6 回	レクリエーションの体験③ ○発達段階に適したレクリエーション	事前学習	配布された資料をまとめる。
		事後学習	実施されたレクリエーションのポイントをまとめる。
第 7 回	グループワーク① ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案	事前学習	各発達段階に適したレクリエーションを考える。
		事後学習	グループで作業
第 8 回	グループワーク② ○目的・対象に応じたレクリエーションの考案	事前学習	各発達段階に適したレクリエーションを考える。
		事後学習	グループで作業
第 9 回	グループによる企画①	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第 10 回	グループによる企画①	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第 11 回	グループによる企画③	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第 12 回	グループによる企画④	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第 13 回	グループによる企画⑤	事前学習	レクリエーション大会の企画を行う。
		事後学習	実践の結果から、企画の改善を行う。
第 14 回	レクリエーション大会①	事前学習	レクリエーション大会の準備をする。
		事後学習	レクリエーション大会の内容についてまとめる。
第 15 回	レクリエーション大会② まとめ	事前学習	各レクリエーション大会の内容についてまとめる。
		事後学習	適切なレクリエーションの方法についてまとめる。

1. 科目名 (単位数)	レクリエーション理論 (2 単位)	3. 科目番号	GEHL1103
2. 授業担当教員	中村 裕		
4. 授業形態	講義・演習 (配布資料または参考書を用い、ディスカッションやワーク、実技を行う)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	レクリエーション関係の授業を履修すると理解が深まる。		
7. 講義概要	<p>健康づくり、保育、教育、地域づくりなど幅広い領域で用いられているレクリエーションについて、これからの社会の課題などと関連させながら学習する。また、様々な対象(幼児・児童・生徒・成人・高齢者など)に対応したレクリエーション援助の意義について理解するとともに、多様な場面での対象者にふさわしいレクリエーション支援の技術(個別・グループ・環境)を実践的に身に付け、活用できるようにする。</p> <p>授業では基礎理論とその実践を、対象者を挙げながら講義していく。また、レクリエーションの企画・運営の演習を交えながらレクリエーションの意義を学ぶ。特に、対象の背景や特性からレクリエーションの目的・目標や、どのようなレクリエーションプログラムが適切かを考え、それを実践し評価・反省することにより、レクリエーション支援の理論を学習していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクターの資格の取得を目指す(取得希望者)。 2. レクリエーションの基礎理論を理解し、説明できる。 3. 様々な現場での様々な対象者にあつたレクリエーションの援助技術を知り、実践できる。 4. レクリエーションの企画・運営ができる能力を身につけ、実践できる。 		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、レクリエーションの基礎的理論のレポート作成。 2、グループによる企画書作成および運営。 3、レクリエーション指導のポイントと工夫についての口頭発表。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特になし (必要に応じて適宜資料を配布する)</p> <p>【参考書】 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への参加態度・・・50%</p> <p>課題やレポート提出・・・50% 計 100%</p> <p>尚、本学規定による 3/4 以上の出席と積極的な授業態度は単位を修得するための最低条件となります。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本講義はレクリエーションの基本的な意義やレクリエーション指導の基礎から応用的技術まで幅広く実施します。理論のみならず、実際に体験し、感じた事や注意点など、全員でディスカッションを行います。後半はグループで企画案を作成し、発表の場をつくります。対象年齢に合ったレクリエーション否か。改善点はあるか。また、注意点はどこか。など話し合い、将来、実践できる指導者を目指します。</p> <p>この授業はレクリエーションの理論を学ぶだけでなく、企画・運営をしっかりと行えるような能力を身につけて欲しいと考えています。そのために、以下のルールを守るようにお願いします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、積極的な授業参加、ディスカッションや振り返りなど活発な意見を期待します。 2、欠席、遅刻、早退は原則禁止です。やむを得ない理由の場合は必ず届け出てください。 3、実技授業では、運動出来るにふさわしい服装で参加してください。(髪型、室内の場合は室内履き等) 		
13. オフィスアワー	授業内で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (本講義の意義、概要、留意点など) アイスブレイキングを体験	事前学習	レクリエーションとは何かを考える
		事後学習	レクリエーションの意義と概要を復習する。
第 2 回	レクリエーションの基礎理論 (制度、役割、地域について) レクリエーション体験・ディスカッション (幼児期のレクリエーション)	事前学習	レクリエーション制度について調べる。
		事後学習	レクリエーションの役割について自分なりにまとめる。
第 3 回	ライフスタイルとレクリエーション (レクリエーション支援論について) レクリエーション体験・ディスカッション (児童期のレクリエーション)	事前学習	レクリエーション支援法について考える。 ライフスタイルごとのレクリエーションについて調べる。
		事後学習	ライフスタイルごとの課題を復習する。
第 4 回	レクリエーションの事業論 1 (事業計画・安全管理) レクリエーション体験・ディスカッション (基礎的レクリエーション)	事前学習	事業計画とはどういうものか調べる。
		事後学習	事業計画および安全管理を復習。 (安全管理の必要性) (安全管理の方法)を自分なりにまとめる。
第 5 回	レクリエーションの事業論 2 (レクリエーション計画・準備) レクリエーション体験・ディスカッション (ボール等を使用したレクリエーション)	事前学習	レクリエーションを計画する。
		事後学習	レクリエーション企画案を個人で作成する。 (アサイメント)
第 6 回	コミュニケーション・ワーク (ホスピタリティーについて) レクリエーション体験・ディスカッション (素材・道具を使用したレクリエーション)	事前学習	ホスピタリティーを調べる。
		事後学習	レクリエーションにおけるホスピタリティーの意義を復習する。
第 7 回	アイスブレイキングの意義と基本技術	事前学習	アイスブレイキングについて調べる。

	(アイスブレイキングの役割と意義) レクリエーション体験・ディスカッション (ニュースポーツを用いたレクリエーション)	事後学習	役割と意義の復習。 次回に向けてアイスブレイキングのプログラム作成 (個人)
第 8 回	アイスブレイキングプログラム企画案作成 (グループで対象年齢に合ったアイスブレイキングの 企画案を作成) グループごとに発表	事前学習	ディスカッションできるようにアイスブレイ キングプログラムを考える。
第 9 回	レクリエーション事業の実際 1 (グループにて運営、評価)	事後学習	発表後の改善点について振り返り。
		事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
第 10 回	レクリエーション事業の実際 2 (グループにて運営、評価)	事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。
		事前学習	レクリエーション運営の方法について考える。
第 11 回	レクリエーション大会の企画 1 (グループでディスカッション・企画書作成;対象年齢、 発達段階、環境について課題を与える)	事後学習	レクリエーション運営の注意点を復習する。
		事前学習	レクリエーションの考案をする。
第 12 回	レクリエーション大会の企画 2 (運営、安全管理を中心に)	事後学習	大会の展開を考える。
		事前学習	大会の注意点を考える。
第 13 回	レクリエーション大会 1	事後学習	大会のイメージを想像する。
		事前学習	運営に関してもう一度見直す。
第 14 回	レクリエーション大会 2	事後学習	運営に関してもう一度見直す。
		事前学習	レクリエーション大会の実際を振り返る
第 15 回	まとめ・評価 グループのレクリエーションの評価から、反省点と改善 点を考える。	事後学習	運営に関してもう一度見直す。
		事前学習	レクリエーション大会の実際を振り返る
		事後学習	グループの評価を検討する。
		事後学習	レクリエーション支援について振り返る。

1. 科目名 (単位数)	労働安全衛生法 (じん肺法を含む) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3337 SNMP3337 SCMP3337 SBMP3337
2. 授業担当教員	橋本 由利子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を確保すると共に、労働者を取り巻く環境の変化に応じ、人間尊重を基盤とした「より快適な」作業環境づくりの促進を目的として、事業者のみならず国や労働者に対する責務についても規定している。</p> <p>本科目では、労働安全衛生法、じん肺法、およびそれらに基づいてより細かく具体的に規定された労働安全衛生規則や種々の有害作業別に規定された規則について学ぶ。近年、技術革新に伴う労働環境の変化、労働者の高齢化等に伴う心身の健康状態の変化等の問題が頻発しているため、これらに対応できる福祉を学んだ衛生管理者が求められていることについても学ぶ。</p> <p>なお労働安全衛生法は、本学で国家資格である第 1 種衛生管理者免許を取得するために、必ず履修しなければならない科目の一つである。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 労働安全衛生法および施行令、施行規則について説明できるようになる。 事務所衛生基準規則について説明できるようになる。 酸素欠乏症等防止規則について説明できるようになる。 有機溶剤中毒予防規則について説明できるようになる。 特定化学物質等障害予防規則について説明できるようになる。 粉じん障害防止規則について説明できるようになる。 じん肺法およびじん肺法施行規則について説明できるようになる。 石綿障害予防規則について説明できるようになる。 電離放射線障害防止規則について説明できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	課題： 毎回の授業開始時に前回の復習テストを行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】中央労働災害防止協会編『衛生管理 下<第 1 種用>』中央労働災害防止協会、2016 年。 中央労働災害防止協会編『衛生管理 上<第 1 種用>』中央労働災害防止協会、2016 年。</p> <p>【参考書】中央労働災害防止協会編『安全衛生法令要覧』中央労働災害防止協会。 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。</p>		
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 毎回の復習テスト 50% 期末試験 40% 授業態度 10% <p>本学規程により、3/4 以上 (15 回中 12 回以上) の出席が確認されない場合は単位の修得を認めない。なお、遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席とする。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>国家資格である第 1 種衛生管理者と同等以上の知識を習得することを第一目標とする授業を行うので、以下の「ルール」をしっかり守ってください。</p> <p>【受講生に期待される学習態度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業は常に高い緊張感と集中力をもって受講すること。学生の積極的な態度が望まれる。 授業中、授業外に進んで教師に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 授業中の私語、携帯電話の使用は絶対にしないこと。守れない場合は退室のこと。 <p>【講師は次のことを実行する】</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 受講生全体に聞こえる大きさの声で話をするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用については厳格に対処する。 		
13. オフィスアワー	授業開始時にお知らせします。質問はメールでも受け付けます。yuhashim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	シラバスの説明、労働安全衛生法について (1) (労働安全衛生法成立の背景、労働安全衛生法の目的、誰が守るのか、法律の読み方) ビデオ「労働安全衛生規則の手引き〜法令を正しく理解しよう」	事前学習	労働安全衛生法とはどのようなものか考えてくる
		事後学習	衛生管理 (下) pp.19~22 について復習する
第 2 回	労働安全衛生法について (2) (どのような事柄が書かれているのか) ビデオ「労働安全衛生法とは」	事前学習	衛生管理 (下) pp.19~22 について再度学習する
		事後学習	法律の読み方について復習する
第 3 回	労働安全衛生法① (衛生管理体制、衛生管理者の選任と職務、総括安全衛生管理者について) 国家試験問題の検討	事前学習	衛生管理 (下) pp.23~43 を読んでくる
		事後学習	衛生管理体制について国家試験問題を解く
第 4 回	労働安全衛生規則② (衛生委員会、産業医について) 国家試験問題の検討	事前学習	衛生管理 (下) pp.47~50 を読んでくる
		事後学習	衛生委員会について国家試験問題を解く
第 5 回	労働安全衛生規則③ (雇入れ時の安全衛生教育、健康診断について) 国家試験問題の検討	事前学習	衛生管理 (下) pp.91~110 を読んでくる
		事後学習	安全衛生教育について国家試験問題を解く

第 6 回	事務所衛生基準規則について（事務所環境の測定頻度、換気設備の点検等について） 国家試験問題の検討	事前学習	衛生管理（下） pp.284～290 を読んでくる
		事後学習	事務所環境基準規則について国家試験問題を解く
第 7 回	酸素欠乏等防止規則について（酸素欠乏危険場所について、環境測定・健康診断について） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.250～258 を読んでくる
		事後学習	酸素欠乏等防止規則について国家試験問題を解く
第 8 回	有機溶剤中毒予防規則について（有機溶剤の種類、設置すべき換気設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.166～178 を読んでくる
		事後学習	有機溶剤中毒予防規則について国家試験問題を解く
第 9 回	鉛中毒予防規則・特定化学物質等障害予防規則について（特定化学物質の種類、設置すべき設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.181～193、pp.202～226 を読んでくる
		事後学習	鉛中毒予防規則・特定化学物質等障害予防規則について国家試験問題を解く
第 10 回	粉じん障害防止規則・石綿障害予防規則について（粉じん作業・石綿作業について、設置すべき設備、環境測定） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.259～283 を読んでくる
		事後学習	粉じん障害防止規則・石綿障害予防規則について国家試験問題を解く
第 11 回	じん肺法について（健康診断、じん肺管理区分について） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.304～314 を読んでくる
		事後学習	じん肺法について国家試験問題を解く
第 12 回	電離放射線障害防止規則について（電離放射線の基準値、設置すべき設備、環境測定・健康診断について） 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.234～249 を読んでくる
		事後学習	電離放射線障害防止規則について国家試験問題を解く
第 13 回	腰痛予防指針・VDT 作業における労働衛生管理のためのガイドライン・喫煙対策のためのガイドライン・女性労働基準規則について 国家試験問題検討	事前学習	衛生管理（下） pp.352～353、pp.387～388 を読んでくる
		事後学習	腰痛予防指針・VDT 作業・喫煙対策・女性労働基準規則について国家試験問題を解く
第 14 回	ディスカッション 福祉施設で発生する可能性のある労働衛生上の問題にはどのようなものがあるか。	事前学習	福祉施設での労働衛生上の問題について考えてくる
		事後学習	福祉施設での労働衛生上の問題点についてグループで話し合った結果をレポートにまとめ提出する
第 15 回	まとめ、最近の法律改正について	事前学習	今まで学習した国家試験問題をまとめてくる
		事後学習	この科目で学習したことをまとめる
期末試験			